講 義 内 容

自 動 登 録 科 目

科目名	必修基礎演習	曜日時限	クラス１～３３ 月2 or 火3 or 木3 or 金3
コーディネーター	文化構想学部　橋本　一径		

授　業　概　要

「必修基礎演習」の目的は、これから大学で勉強をしていくために必要な、「読む」力と「書く」力を養成することです。具体的には、おおむね次の三つのステップからなります。

・一定以上の難度をもつ文章（論文・評論など）を読み、それを手がかりにして、何らかの問い（論題）を立てる。
・問いに答えていくための情報（文献など）を収集する。
・集めた情報をもとに考察を加えて、問いに対する答えを導き、それを一定以上の長さの文章（レポート）にまとめる。

「必修基礎演習」では、担当教員の指導のもとで、このような作業を進めていきますが、レポートをまとめる前に、その過程で調べたことや考えたことを教室で発表し、他の学生や教員とディスカッションを行います。自分の発表に対する質問に答えたり、他の学生の発表に対して積極的に質問を投げかけたりすることは、考えを練り上げていく上で、大きな助けとなるはずです。

授 業 の 到 達 目 標

文献を読み解き、それをもとに論理的に考え、文章化する能力を身につけることを目標とします。

教　科　書

『必修基礎演習ガイドブック』：文献を読み、レポートを書くための手引きです。授業には持参してください（科目登録関係書類に同封しています）。

参　考　文　献

「必修基礎演習テキスト100」：「必修基礎演習」で読むにふさわしい文献として論系・コースから推薦された図書の一覧です。初回授業時に持参してください（科目登録関係書類に同封しています）。

「基礎演習教材論文」：文学学術院の教員が執筆した論文で、「必修基礎演習」用にアレンジされています。「基礎演習データベース」から検索できます。

成 績 評 価 方 法

●**試験**　0%　　実施しません。
●**レポート**　50%　　自分で問いを立て、文献を調べるなどして考察を進め、結論に至る道筋を示すことが必要です。
●**平常点**　50%　　発表やディスカッションに積極的に参加してください。
●**その他**　0%　　特にありません。

備 考 ・ 関 連 Ｕ Ｒ Ｌ

・「必修基礎演習」の担当教員が、1年次のクラス担任となります。
・成績評価の目安として、「A+」は総履修者の10%以内、「A」は30%以内となります。

自動登録科目

科目名	基礎演習（JCulP）1　Kiso Enshu 1							
担当者名	アコスタ　アリエル　キャサリン							
共通	2単位	春クォーター	月3時限	木3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course is part of a sequence designed to help students develop the essential skills required to conduct research in the field of the Humanities, with an emphasis on learning how to read academic articles and think critically and logically, and to convey these thoughts in writing. Throughout the semester, students will read articles and other material on Japanese culture, and engage in various exercises, projects, and assignments to develop and enhance fundamental research skills.

授業の到達目標

By the end of the class, students will:

1. Aquire exposure to key articles in the Humanities relating to Japanese Culture
2. Develop deep, critical reading skills
3. Learn to summarize academic articles
4. Learn the basics of conducting research in the Humanities
5. Write a research paper

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　30%　Students will write a 6-7 page critical essay as a final assignment.
●**平常点**　30%　This portion of the grade reflects attendance, timeliness, preparedness, and active in-class participation.
●**その他**　40%　Assignments and Presentations: This portion of the grade reflects several homework assignments and in-class presentations throughout the class.

科目名	基礎演習（JCulP）2							
担当者名	ピタルク　パウ							
共通	2単位	秋クォーター	月3時限	木3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course is part of a sequence designed to help students develop the essential skills required to conduct research in the field of Humanities. Students will learn how to structure and write a research paper, how to find relevant secondary sources, interpret them and incorporate them in their own writing.

This is a required course for all JCulP first-year students and will automatically be registered.

授業の到達目標

By the end of the course, students will be able to:
1. Understand what an academic argument is, how to interpret it, and develop it.
2. Find and evaluate relevant secondary sources in the context of a particular research question.
3. Incorporate secondary sources in their writing, in dialogue with their own arguments.
4. Formulate and develop productive research questions of their own.

成績評価方法

40% Take-Home Written Assignments
30% In-Class Writing and Presentations
30% Attendance and Class Participation

科目名	基礎演習（JCulP）3							
担当者名	由尾　瞳							
共通	2単位	冬クォーター	月3時限	木3時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course is part of a sequence designed to help you develop the essential skills required to conduct research in the Humanities. Continuing with the theme of "Japanese Culture in a Global Context," you will write and complete your final research paper, and learn how to work in groups, to use digital technology, and to create multimodal projects.

This is a required course for all JCulP first-year students and will automatically be registered.

授業の到達目標

By the end of the course, students will be able to:

1. Write, peer-review, and polish a research paper.
2. Effectively use digital technology and resources.
3. Work collaboratively and develop group presentation skills.

成績評価方法

1. Attendance & Class Participation (20%)
2. Final Research Paper (50%)
3. Multi-Modal Project & Presentation (30%)

科目名	基礎講義	曜日時限	フルオンデマンド授業
コーディネーター	文化構想学部　橋本　一径		

授　業　概　要

2年次に進級する文化構想学部6論系各プログラムの総合案内として、フルオンデマンド授業により実施する科目です。各自が何を学びたいのかを探る助けとなるように、各論系が作成したコンテンツが用意されています。そのうち30コンテンツ以上を、所定期間内に受講してください。なお、「学部総説」コンテンツをのぞく各論系の全コンテンツには「レビューシート」（小テスト）が設定されていますので、コンテンツを視聴のうえ、コンテンツごとに150字以上300字以内の感想を書き込むことが必須となります。（150字に満たない感想は、受講とみなされませんのでご注意下さい。）

学期末にレポート課題一覧が出されますので、一つを選んでレポートを提出してください。

各コンテンツをしっかりと受講し、各論系の特徴をよく理解することが、進級先を決めるのに役立ちます。BBSを利用して、興味のあるコンテンツの担当者に質問することもできます。

授 業 の 到 達 目 標

受講者は、この基礎講義を通じて、文化構想学部で展開されるさまざまな学問領域について基礎的な知識を得て、さらに個々の講義の内容に基づいて教養を深めるとともに、2年次からの論系進級に向けて学習の指標を見出すことを目標とします。

教　　科　　書

なし

参　考　文　献

本科目についてはとくにありませんが、各論系の専門領域に関しては「基礎演習データベース」に参考となる文献が掲載されています。

成 績 評 価 方 法

●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　50%　　学期末に掲出のレポート課題一覧から1つを選び提出（1800字-2200字）

●**平常点**　50%　　30コンテンツ以上の出席（所定期間内の視聴＋レビューシートへの感想の書き込み（各150字以上300字以内））が必須です。 ※「学部総説」コンテンツには「レビューシート」の設定はありません。

●**その他**　0%　　成績評価はP（合格）、Q（不合格）の2種類です。 レポートと平常点評価の2つを併せて総合的に評価します。いずれかの条件を満たしていない場合はQ（不合格）となります。

備 考 ・ 関 連 Ｕ Ｒ Ｌ

（1）コンテンツの内容に関わる質問はBBSで受け付けます。

（2）レポート提出はWaseda Moodle上で行います。

自動登録科目

科目名	1年フランス語（Step 1）イ・ロ・ハ・ニ（春学期） 1年フランス語（Step 2）イ・ロ・ハ・ニ（秋学期）	曜日時限	各クラスの曜日・時限は、開講科目一覧で確認してください
コーディネーター	瀬戸　直彦		

授業概要

フランス語の文法事項と日常表現の習得を2本の柱として、「読む・書く・聞く・話す」の総合的な語学力を養成します。それは、2年次以降の中級・上級クラス（テクスト講読、文化紹介、会話、作文、等々）に対応できる基礎学力を身につけることでもあります。

授業の到達目標

イ〜ニのクラスの基本的な内容は次のとおりです。

イ・ハは文法の授業で、春学期・秋学期ともに同一の日本人教師が担当し、フランス語学習の骨格となる基本文法を、体系的・段階的に学んでいきます。

ロ・ニはオーラル・コミュニケーションが中心で、春学期・秋学期ともに、ロはフランス語ネイティヴの教師が、ニは日本人教師が担当します。共通教材を用い、リレー形式で授業を行います。

以上のイ〜ニを通じて、フランス語の基礎知識の習得、および「読む・書く・聞く・話す」の4能力の総合的な養成をめざします。

なお授業計画については、クラスによって進度が異なることがあり、必要に応じて学習項目の加除を行うこともあります。

教科書

春学期イ・ハおよび秋学期イ・ハは『新システマティックフランス語文法』（早美出版社）、春学期ロ・ニおよび秋学期ロ・ニは『コンヴェルサスィオン・エ・グラメール』（アルマ出版）

＊再履修クラスの教科書については、担当教員から指示があります。

参考文献

仏和辞典は必携です。『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）を推奨します。

成績評価方法

●**試験**　50%　　イ・ハは共通試験を、各学期の最後に実施するか、各学期数回に分けて行います。ロ・ニは個別の試験を、原則として各学期の最後に実施します。

●**レポート**　0%　　なし

●**平常点**　50%　　出席を重視し、授業準備や授業態度、小テストの成績等を加味して総合的に判断します。

●**その他**　0%　　成績評価の目安として、「A+」を総履修者の10%以内、「A」を30%以内とします。これは自動登録科目（必修基礎演習、基礎外国語、必修英語）共通の評価基準です。

科目名	1年ドイツ語（Step 1）イ・ロ・ハ・ニ（春学期） 1年ドイツ語（Step 2）イ・ロ・ハ・ニ（秋学期）	曜日時限	各クラスの曜日・時限は、開講科目一覧で確認してください
コーディネーター	山本　浩司		

授　業　概　要

初めて学ぶ皆さんのために，ドイツ語の基礎知識の習得を目標として，「読む・聴く・話す・書く」の4能力を総合的に養成する授業を行います。

各科目の基本的な内容は以下の通りです。

春学期イ・ハ：週2回の授業を同一の日本人教員が担当。文法項目のうち主に基礎的なものを学びます。

春学期ロ・ニ：週2回の授業をネイティヴ教員と日本人教員が連携して担当。国際標準の教科書を使って、さまざまな「場面」や「話題」に即したドイツ語の表現を学びます。

秋学期イ・ハ：春学期イ・ハと同様に週2回の授業を同一の日本人教員が担当。重要な文法項目のすべてを教えます。文法を終えた後は，ドイツ語テキストの読解に進みます。

秋学期ロ・ニ：春学期ロ・ニと同様に，ネイティヴ教員と日本人教員が連携してさまざまな「場面」や「話題」にふさわしい表現を教えます。

なお，いずれの科目も授業計画については，必要に応じて，その項目の配列変更、項目の加除を行うことがあります。

授 業 の 到 達 目 標

ドイツ語の基礎知識の習得，および「読む・聴く・話す・書く」の4能力の総合的な養成。春学期と秋学期を続けて学習すれば、欧州共通参照レベルA1に到達します。

教　　科　　書

イ・ハに関しては全クラス共通の文法教科書、ロ・ニに関しても全クラス共通の教科書（Schritte International NEU 1, 2）を使用します。

参　考　文　献

辞書・参考書に関しては，イ・ハの最初の授業時に担当教員から紹介があります。

成 績 評 価 方 法

●**試験**　50%　　イ・ハは原則として各学期末に全クラス共通の統一試験を行います。ロ・ニは個別の試験を原則として各学期の最後に実施します。

●**レポート**　0%

●**平常点**　50%　　イ・ロ・ハ・ニともに、出席状況、授業準備（予習）や授業態度のほか、クラス毎の小試験や中間試験によって平常点を評価します。

●**その他**　0%　　成績評価の目安として，「A+」を総履修者の10%以内，「A」30%以内とする。 上記は自動登録科目（必修基礎演習、基礎外国語、必修英語）共通の評価基準である。

備 考 ・ 関 連 U R L

欧州共通参照レベルについては以下を参照してください。

https://ja.wikipedia.org/wiki/ヨーロッパ言語共通参照枠

自動登録科目

科目名	1年ロシア語（Step 1）イ・ロ・ハ・ニ（春学期） 1年ロシア語（Step 2）イ・ロ・ハ・ニ（秋学期）	曜日時限	各クラスの曜日・時限は、開講科目一覧で確認してください
コーディネーター	八木　君人		

授　業　概　要

ロシア語を初めて学ぶ学生を対象にした授業です。

春学期イ・ニでは、日本人教員とともにロシア語の初級文法について学びます（教科書：『はじめてのロシア語』）。

春学期ハは、イ・ニで学んだ文法知識を確実に運用できるようにするための授業です。日本人教員から文法事項の補足説明を受けながら、復習したり、練習問題を解いたりします。あわせて、語学学習のみならず、ロシア（語）に関係する文化についても理解を深めていきます。

春学期ロでは、ロシア語ネイティブの教員のもとで正確な発音、基本的単語、構文、語順等を習得していきます（教科書：『ロシア語教程』）。

秋学期イ・ニでは、春学期イ・ニの続きを学びます。

秋学期ロでは、春学期ロの続きを学びます。

秋学期ハでは、春学期ハの続きを学びます。

授業の到達目標

ロシア語の初級レベルの文法知識、および会話力の習得を目標にします。

教　　科　　書

1）桑野隆『はじめてのロシア語』（白水社）

2）狩野亨／A.アキーシナ『ロシア語教程』（ナウカ出版）

3）『新ロシア語習字帳』（日ソ）

辞書　『博友社ロシア語辞典』（博友社）

＊持ち運びに便利な電子辞書は2冊目の辞書としてはよいのですが、中・上級者向けで、初級者がそれだけで済ませるにはやや難があります。また、もし2年生以上もロシア語学習を長く続けていくならば、初級者向けではありませんが、辞書は『研究社露和辞典』（研究社）を購入しても良いと思います。

参　考　文　献

1）城田俊『現代ロシア語文法』（東洋書店新社）：1年生で学ぶことのみならず、基本的な文法事項が網羅的に説明されています。

2）桑野隆『初級ロシア語20課』（白水社）：授業で使う上記教科書と同レベルのものです。

同じ著者のもので、練習問題なども重複していますが、万が一、授業についていけなくなったときの予習・復習には便利です。

成績評価方法

●**試験**　50%　　但し、イ・ニ、ロ、ハは、それぞれ評価方法は異なるため、この数字はあくまで目安として考えてください。

●**レポート**　0%　　なし

●**平常点**　50%　　但し、イ・ニ、ロ、ハは、それぞれ評価方法は異なるため、この数字はあくまで目安として考えてください。

●**その他**　0%　　成績評価の目安として、「A+」を総履修者の10%以内、「A」30%以内とします。 上記は自動登録科目（必修基礎演習、基礎外国語、必修英語）共通の評価基準です。

備考・関連ＵＲＬ

＊各回の内容を記した「授業計画」はあくまで目安です。実際には、授業の理解度やクラスの雰囲気に応じて各回の授業内容は柔軟にかわります。

語学の学習はきわめて地味なものですが、みなさんのこれからの勉強にとって重要な意味をもっています。ロシア語に限らず、語学学習の上で必要なのは、なんといっても地道な反復練習です。どうか授業を休まないで、遅刻もしないように心がけてください。そのためにも、何のために学ぶのかという動機づけを自分なりにはっきりさせることが、学習を長続きさせる決め手になるでしょう。

授業では、アニメ・映画を観たり、音楽を聴いたり、モスクワ、ペテルブルクやロシア文化の話もしていきます。ときにはロシア料理を食べに行くこともあるかもしれません。

ひとりでは厄介なことでも、みんなで学べば楽しくなるものです！ロシア語クラスは和やかな雰囲気の中で学ぶことができるでしょう。教員と学生の距離が近いために、学生は気軽に質問ができ、教員は一人一人の学生のキャラクターを把握できます。これも、第二外国語でロシア語を学ぶ上での利点と言えると思います。

科目名	1年中国語（Step 1）イ・ロ・ハ・ニ（春学期） 1年中国語（Step 2）イ・ロ・ハ・ニ（秋学期）	曜日時限	各クラスの曜日・時限は、開講科目一覧で確認してください
コーディネーター	楊　達		

授　業　概　要

中国語を初めて学ぶ方のために、中国語の基礎知識習得を目標とする。全クラス統一教材を用い、イ・ロ・ハ・ニをリレー式で授業を行う。週4回の授業のうち、2回はPC教室、2回は一般の教室を使う。授業方式は春学期と秋学期は同じ。

授業の到達目標

春学期は、発音の基礎を定着させ、簡単な会話ができることをめざす。秋学期は、春学期で習得した基礎を前提とし、中国語運用能力の基本となる文法の習得、リスニング、会話、作文力の向上をめざす。

成　績　評　価　方　法

●**試験**　50%　　統一試験と各クラス別の試験があり、総合的に評価する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　各クラスの担当教員が評価する。Dig学習システムの進捗、小テスト、出席、授業態度などが評価の基準になる。
●**その他**　0%　　成績評価の目安として、「A+」を総履修者の10%以内、「A」30%以内とする。 上記は自動登録科目（必修基礎演習、基礎外国語、必修英語）共通の評価基準である。

自動登録科目

科目名	1年スペイン語（Step 1）イ・ロ・ハ・ニ（春学期） 1年スペイン語（Step 2）イ・ロ・ハ・ニ（秋学期）	曜日時限	各クラスの曜日・時限は、開講科目一覧で確認してください
コーディネーター	中島　さやか		

授　業　概　要

スペイン語を初めて学ぶ学生を対象に、スペイン語文法の基礎を学び、4技能（話す、聞く、読む、書く）を通じて使えるようにするとともに、スペイン語圏諸国への理解を深め、異文化能力を高める活動を行います。

週4コマ「イ」「ロ」「ハ」「ニ」のクラスで連携されます。

「イ」と「ロ」：文法事項の説明と演習活動が中心ですが、スペイン語圏の社会文化事情を紹介し、異文化理解につなげる活動も取り入れていきます。

「ハ」：「イ」と「ロ」の学習事項をいかしながら、身近なテーマについて話したり聞いたりする活動をネイティブ教員が担当します。

「ニ」：「イ」と「ロ」で学ぶ文法の補足説明を適宜行いながら、主に簡単な文を聞いたり読んだりする活動を行います。

授 業 の 到 達 目 標

スペイン語基礎文法の全体像をとらえ、身近なテーマに関連する基本語彙と表現を使って、スペイン語を運用できるようになることを目指します。また、スペイン語圏の事情に関心を向け、異文化を理解する態度を養います。

1.「イ」と「ロ」：初級文法（直説法現在、直説法過去、未来・過去未来、接続法現在まで）を学習し、日常生活や身近な社会の問題に関連する語彙を身に付け、自己表現力を高める。

2.「ハ」：身近なテーマについて、自分の考えを述べたり相手の話を聞いたりして、簡単なやりとりができる。

3.「ニ」：基本的なスペイン語を聞き取り、大意をつかむ・訳を通さないでも理解できる。辞書を効果的に使い身近なテーマの文を理解する。

教　　科　　書

「イ」と「ロ」：四宮瑞枝他.『アクシオン！<改訂版>』白水社

「ハ」：Juan Carlos Moreno, et al.『¡Muy bien! 1・2』 朝日出版社

「ニ」：プリント配布など

参　考　文　献

辞書は以下の4点から：『西和中辞典』小学館、『現代スペイン語辞典（改訂版）』白水社、『新スペイン語辞典』研究社、『クラウン西和辞典』三省堂

成 績 評 価 方 法

●**試験**　50%　　学期末に総合的な理解を問う試験を実施します。

●**レポート**　0%

●**平常点**　50%　　中間試験や小テストなど習得過程の到達度、出席、授業参加度、課題達成度などを総合的に判断します。

●**その他**　0%　　成績評価の目安として、「A+」を総履修者の10%以内、「A」30%以内とします。上記は自動登録科目（必修基礎演習、基礎外国語、必修英語）共通の評価基準です。

備 考・関 連 U R L

学習に役立つお奨めサイト：

・セルバンテス文化センター東京 http://tokio.cervantes.es/ はスペイン語とスペイン語圏文化の普及を目的に、スペイン政府により設立された公的な文化施設です。各種イベントや検定試験などの情報も豊富です。

科目名	1年イタリア語（Step 1）イ・ロ・ハ・ニ（春学期） 1年イタリア語（Step 2）イ・ロ・ハ・ニ（秋学期）	曜日時限	各クラスの曜日・時限は、開講科目一覧で確認してください
コーディネーター	ウジッコ　フランチェスカ		

授　業　概　要

イタリア語を初めて学ぶ学生を対象に、「話す、聴く、読む、書く」の基礎的な能力が無理なく身につくよう、週4コマの授業を日本人教員とイタリア人教員が交互に担当し、同一の教科書を使用して共同で指導していきます。

必要な語彙と正確な文法に基づく会話の練習をペアあるいはグループで行い、実践的コミュニケーションを繰り返すことで、表現力の上達を図ります。

また、マルチメディアを活用して、イタリアの地理や歴史、映画や音楽、さらに多彩な食文化、各地に残る伝統的なお祭りといった、イタリアの諸事情に触れる機会も積極的に作っていきます。

授業の到達目標

基本的な文法や語彙を習得し、「旅行」、「仕事」、「家族」、「日常生活」、「レストランで」等の具体的なシチュエーションで、平易な会話が自然にできる表現能力を獲得すること、また、長い歴史の積み重ねや地域の多様性によって育まれたイタリア文化の豊かさについて理解を深めることを目指します。

「1年イタリア語」はCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）「A1～A2」（入門～初級）レベルの語学教育を実施します。

教　科　書

＜全クラス共通教科書＞

★ D. Piotti – G. De Savorgnani – E. Carrara,『UniversItalia 2.0 – A1/A2. 1 』, Alma Edizioni, 2018.

★ プリント配布など。

参　考　文　献

＜辞　書＞

郡 史郎・池田 廉（編集）『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』、小学館、2001年。

成　績　評　価　方　法

●**試験**　50%　　学習成果や理解度の確認のため、学期末試験を実施します。詳細は授業内で説明します。

●**レポート**　0%　　なし

●**平常点**　50%　　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。

●**その他**　0%　　成績評価の目安として、「A+」を総履修者の10%以内、「A」30%以内とします。上記は自動登録科目（必修基礎演習、基礎外国語、必修英語）共通の評価基準です。

備考・関連ＵＲＬ

「1年イタリア語」履修後は、実用イタリア語検定5級あるいは4級、イタリア政府認定cils 試験A1あるいはA2レベルのイタリア語能力試験を受けることができます。

学習に役立つお奨めサイト：

‣イタリア文化会館 東京　http://www.iictokyo.com/

イタリア文化会館は美術、音楽、映画、演劇、ダンス、ファッション、デザイン、写真等の多様な分野で文化催事を多数企画・開催しています（年間150以上のイベント）。また、日本の様々な大学や教育機関などとの長年にわたる協力関係のもとで、学術的な催事・講演会を共催し、日本の諸機関や企業などが主催するイタリア関連イベントの積極的な後援も行っています。

自動登録科目

科目名	1年朝鮮語（Step 1）イ・ロ・ハ・ニ（春学期） 1年朝鮮語（Step 2）イ・ロ・ハ・ニ（秋学期）	曜日時限	各クラスの曜日・時限は、開講科目一覧で確認してください
コーディネーター	印　省熙		

授　業　概　要

週4回の授業は、4人の教師が共通のテキストを用いて、リレー形式で講義を行います。また、ネイティブの先生とは適宜テキストを離れてのフリートーキングや会話テストも行われます。

春学期の中旬までは文字・発音の習得に重点をおきながら、簡単な日常会話を通して基礎的な文法事項を学びます。春学期の後半は、初級の文法・文型を習得します。

秋学期は、実質、初級後半・中級前半レベルとなりますが、秋学期の前半は、日常生活でよく用いられる表現を元にした例文を用い、基礎文法事項、および規則的な活用、語尾の習得に努めます。秋学期の後半は、より高度の文法事項、連体形、変格活用を習得します。K・POPを聞いたり、応用作文演習なども組み入れていき、表現の幅を広げます。

学習事項の定着と確認のため、適宜、小テスト・中間テストを行います。

韓国の歌、映画や文化についての映像などできるだけヴィジュアル教材も用いたいと思っています。

授業の到達目標

朝鮮語をはじめて学ぶ学生を対象に、初級文法及び中級文法前半の習得を目標とします。1年後は、ハングル能力検定試験4級レベルの実力を身につけることを目指します。

教　科　書

布袋敏博・沈元燮・李美江『学ぼう韓国・朝鮮語　入門・初級編』アルク、2310円（税込）

※早大生協ブックセンターにて1割引で購入できます。

参　考　文　献

辞書：『朝鮮語辞典』（小学館）と『日韓辞典』（小学館）がお勧めです。

電子辞書の場合、小学館の『朝鮮語辞典』『日韓辞典』の両方が収録されているものがカシオから出ています。

成績評価方法

●**試験**　50%　　春学期、秋学期の定期試験は、クラス共通の試験を行います。

●**レポート**　0%

●**平常点**　50%　　出席、授業態度や参加度、小テスト、課題などを総合的に評価します。

●**その他**　0%　　成績評価の目安として、「A+」を総履修者の10%以内、「A」を30%以内とします。 上記は自動登録科目（必修基礎演習、基礎外国語、必修英語）共通の評価基準です。

備考・関連ＵＲＬ

早稲田大学では、韓国の協定校と提携して、夏季・春季短期留学プログラムを用意しています。積極的に活用して、語学習得に役立ててください。

科目名	1年アラビア語（Step 1）イ・ロ・ハ・ニ（春学期） 1年アラビア語（Step 2）イ・ロ・ハ・ニ（秋学期）	曜日時限	各クラスの曜日・時限は、開講科目一覧で確認してください
コーディネーター	五十嵐　大介		

授　業　概　要

☆アラビア語を初めて学ぶ人を対象とした授業です。一般的な文法学習と、表現、ネイティブ教員による会話の授業から構成されています。

▪（イ・ロ）は文法の授業です。文字と基本文法を教えます。読み書きに必要な文法事項を学ぶ授業ですが、補助的にアラブ文化や口語についての説明を加えることもあります。

▪（ハ）は作文を中心とする表現の授業です。CEFRのA1～A2レベルの基本的な表現や語彙の習得を目指します。

▪（ニ）はネイティブ教員が担当するアラビア語会話の授業です。イ・ロで学習した事項を生かしながら、会話で使用される表現の学習・練習を行います。

授業の到達目標

アラビア語文法の基礎を学び、4技能（話す、聞く、読む、書く）を通じて使えるようにすることを目指します。

▪（イ・ロ）前期は、基本文法を学びつつ、文字および規則動詞の活用まで習得する。後期は、不規則動詞活用や派生形を含む基本文法を習得し、辞書を引けるレベルにまで到達する。

▪（ハ）アラビア語で以下のような表現（CEFRのA1～A2レベル）ができる。

① 自分や家族を紹介できる。
② 日常生活について述べることができる。
③ 経験や体験について述べることができる。
④ 予定や希望について述べることができる。
⑤ 好きなものや趣味について述べることができる。

▪（ニ）アラビア語の基本的な会話表現を身につけ、使えるようになる。

教　科　書

▪イ・ロは佐々木淑子『新版　アラビア語入門』（翔文社）を使用します。

▪ハ、ニは教員作成の教材を使用します。

参　考　文　献

▪（イ・ロ）新妻仁一著　『アラビア語文法ハンドブック』白水社、2009年
竹田敏之著　『アラビア語表現とことんトレーニング』白水社、2014年
Hans Wehr; J. Cowan (ed.), A dictionary of modern written Arabic (Arabic- English), 4th ed., Ithaca, NY: Spoken Language Service, 1994.

※もっと深く勉強をしたい方向けです。授業自体は教科書のみで問題ありません。これ以外の参考文献については各授業で担当教員が随時紹介します。

▪（ハ）鷲見朗子ほか著『例文で学ぶアラビア語単語集』大修館、2019年

成　績　評　価　方　法

●**試験**　50%　　但し、イ・ロ、ハ、ニは、それぞれ評価方法は異なるため、この数字はあくまで目安として考えてください。イ・ロは各期末に理解度を確認する試験を実施します。

●**レポート**　0%

●**平常点**　50%　　出欠席、授業への参加意欲などをもとに総合的に判断します。

●**その他**　0%　　成績評価の目安として、「A+」を総履修者の10%以内、「A」30%以内とします。上記は自動登録科目（必修基礎演習、基礎外国語、必修英語）共通の評価基準です。

備考・関連ＵＲＬ

▪イ・ロでは、授業内容のフォローのため、単語テストを実施します（得点は成績評価対象にしません）。

▪ハでは、授業のはじめに、前回の授業で学んだ語彙・表現の確認テストをします。確認テストの成績は平常点につながるので、しっかり復習をしてから、授業に臨んでください。

自動登録科目

科目名	Academic Skills in English 1							
担当者名	カール　スティーブン・ロドニー							
共通	2単位	春クォーター	月1時限	木1時限	1年以上	—	—	—

授業概要

The aim of this course is to acquire the skills to understand and actively discuss reading materials written in English. This course will introduce students to a variety of texts including news articles, literary essays, and short stories. Students will learn to recognize the main idea of the text and think critically through rigorous class discussion and presentations.

This course is taught entirely in English and all content will be in English. Strong class participation is essential.

This is a required course for JCuIP Japanese students and will automatically be registered in their first year.

授業の到達目標

1. Gain the tools to read effectively and critically.
2. Learn to summarize main ideas, arguments, and sub-arguments.
3. Understand audience, purpose, and genre.

成績評価方法

●**試験**　30%　　There will be quizzes throughout the term.
●**レポート**　0%　　N/A
●**平常点**　40%　　This will be evaluated by 1) attendance 2) in-class writing 3) active participation in both group and class discussions.
●**その他**　30%　　Each student will give an individual presentation.

科目名	Academic Skills in English 2　Writing Analytically About Literature							
担当者名	カール　スティーブン・ロドニー							
共通	2単位	春クォーター	月2時限	木2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course is an introduction to writing analytically about literature. Students will learn the skills of close reading and organizing evidence to develop their analysis of literary texts. The reading content will focus on literary essays, short-stories and poetry ranging from the canonical to the contemporary. Through the course, students will learn to write critical response papers and two longer analytical papers.

This course is taught entirely in English and all content will be in English. Strong class participation is essential.

This is a required course for JCuIP Japanese students and will automatically be registered in their first year.

授業の到達目標

- Become familiar with literary genres, such as poetry, drama, and short stories.
- Gain the critical tools to read, analyze, and write about literary works.
- Develop an effective thesis for analytical and research papers.
- Learn to use the MLA formatting and style.

成績評価方法

Class Participation: 25%
Response Papers: 20%
Analytical Paper #1: 25%
Analytical Paper #2: 30%

備考・関連URL

Weekly class schedules, readings, and homework assignments will be posted on Waseda Moodle.

科目名	Academic Skills in English 3							
担当者名	梅宮　悠							
共通	2単位	春クォーター	火2時限	金2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This course will provide opportunities for students to learn the skills required to give an effective academic presentation. As a start, students will consider the structure of the presentation, as well as the means to heighten its impact through various external aids.

The materials will focus on themes from English-speaking countries, but students are encouraged to take a comparative approach by analyzing these topics in the context of other countries, including Japan.

In each class, students are required to write a summary on a specific theme and give a short presentation as a group and/or as an individual, followed by a discussion.

授業の到達目標

The aim of this module is to master the skills for an effective academic presentation and to communicate through discussion.

Students will gain the following skills:

1. Develop reading, writing, speaking, and listening skills
2. Increase vocabulary
3. Understand current events

4. Discover similarities and differences between Japan and other countries

成績評価方法

●**試験** 30% This grade will be based on the quality of the final presentation.
●**レポート** 0% No report.
●**平常点** 70% This grade will be based on 1）attendance, 2）summaries, 3）positive participation in each class.
●**その他** 0%

科目名	Academic Skills in English 4 Tokyo's Linguistic Landscape (Part One)							
担当者名	由尾　瞳　他／カール　スティーブン・ロドニー							
共通	2単位	集春	無	その他	1年以上	—	—	—

授業概要

This is the first section of an intensive course that is designed to enhance the academic skills in English that students acquired during 1Q. The theme of the course is "Tokyo's Linguistic Landscape," which allows students to explore the visibility of written languages in the public sphere in several Tokyo neighborhoods. By conducting Linguistic Landscape activities over multiple excursions, students will learn to challenge the myth of Tokyo as a monolingual and homogeneous society, and discover instead a multilingual, multicultural, and multiethnic city.

授業の到達目標

- Become familiar with the concept of Linguistic Landscape.
- Gain firsthand experience of traversing through different Tokyo neighborhoods.
- Acquire the essential skills of listening, speaking, reading, and writing in English through lectures, group work, class discussions, and excursions.
- Situate Tokyo in a global context alongside other cosmopolitan cities.

成績評価方法

1. Attendance & Class Participation (30%)
2. Group Work & Presentations (50%)
3. Final Reflection Paper (20%)

備考・関連URL

Class Schedule:
6/5 (Fri) 1-4 periods
6/8 (Mon) 1-4 periods
6/9 (Tue) 1-5 periods
6/10 (Wed) 1-2 periods

科目名	Academic Skills in English 5 Tokyo's Linguistic Landscape (Part Two)							
担当者名	由尾　瞳　他／カール　スティーブン・ロドニー							
共通	2単位	集春	無	その他	1年以上	—	—	—

授業概要

This is the second section of an intensive course that is designed to enhance the academic skills in English that students acquired during 1Q. The theme of the course is "Tokyo's Linguistic Landscape," which allows students to explore the visibility of written languages in the public sphere in several Tokyo neighborhoods. By conducting Linguistic Landscape activities over multiple excursions, students will learn to challenge the myth of Tokyo as a monolingual and homogeneous society, and discover instead a multilingual, multicultural, and multiethnic city.

授業の到達目標

- Acquire understanding of Tokyo as a diverse and multilingual city.
- Gain firsthand experience of traversing through different neighborhoods.
- Effectively use digital technology and resources in conducting research.
- Work collaboratively and develop group presentation skills.

成績評価方法

1. Attendance & Class Participation (30%)
2. Group Work & Presentations (50%)
3. Final Reflection Paper (20%)

備考・関連URL

Class Schedule:
6/10 (Wed) 3-4 periods
6/11 (Thu) 1-5 periods
6/12 (Fri) 1-4 periods
6/15 (Mon) 1-4 periods

科目名	Academic Skills in English 6 Reading and Writing Through Cultural Criticism							
担当者名	カール　スティーブン・ロドニー							
共通	2単位	秋クォーター	月2時限	木2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

This class will introduce students to several key works of cultural criticism that explore the idea of "cuteness" in contemporary popular culture. We will critically examine our cultural obsession with cuteness, and how certain minor emotions (or "ugly feelings") have become the prevalent mode of discourse in art, literature, film, television,

自動登録科目

and music in contemporary society. By introducing several scholarly works of cultural criticism, the course will guide students to read and use theoretical writing as a lens to develop their own argument. Through the course, students will give individual and group presentations, write annotations on criticism, and write a research paper.

This course is taught entirely in English and all content will be in English. Strong class participation is essential.

This is a required course for JCulP Japanese students and will automatically be registered in their first year.

授業の到達目標

- Gain exposure to a variety of theoretical writing.
- Develop sophisticated methods of building an argument.
- Develop the ability to use sources analytically.
- Learn effective strategies for revision.

成績評価方法

Class Participation: 15%
Annotation #1: 15%
Annotation #2: 20%
Research Paper: 35%
Presentations: 15%

備考・関連URL

Weekly class schedules, readings, and homework assignments will be posted on Waseda Moodle.

科 目 名	Academic Skills in English 7 Introduction to Creative Non-Fiction							
担当者名	カール　スティーブン・ロドニー							
共通	2単位	冬クォーター	月2時限	木2時限	1年以上	—	—	—

授業概要

In this course, students will read, write, and investigate an array of literary works in the genre of creative non-fiction. The class introduces students to various forms of the creative essay such as memoir, profile, lyric essay, and writings on popular culture. Throughout the course, students will respond to the course readings by producing their own creative work. All student will be required to submit a revised portfolio at the end of the semester.

This course is taught entirely in English. Strong class participation is essential.

This is a required course for JCulP Japanese students and will automatically be registered in their first year.

授業の到達目標

- Learn the techniques of voice, scene, description, and structure.
- Learn meter and rhyme, and form and diction.
- Identify literary devices and utilize these techniques in your own work.
- Engage in rigorous, constructive, and encouraging peer critique.
- Learn how to assemble and revise a writing portfolio.

成績評価方法

Class Participation: 20%
Writing Assignments: 30%
Final Portfolio: 50%

備考・関連URL

Weekly class schedules, readings, and homework assignments will be posted on Waseda Moodle.

科目名	必修English for General Communicationイ・ロ	曜日時限	各クラスの曜日・時限は、開講科目一覧で確認してください
コーディネーター	ライアン　スティーブン 安藤　文人		

授　業　概　要

This course will cover four skills -- speaking, listening, reading, writing -- in English. Students will participate in class discussion, in pairs and in small groups, complete reading and writing tasks in class, and listen to audio and watch video materials. The units covered in the course textbook deal with a variety of global situations and current issues. Students are required to be active and responsive in class, and to take part fully in all tasks and activities.

授業の到達目標

Grammar and Functional English: students will learn to use a number of structures and functions in English

Listening and Speaking: realistic audio and video materials; pair/group discussion to develop fluency in communicative skills

Reading: students will improve vocabulary and fluency by reading several texts in each unit of the course

Writing: small writing tasks will be included in each class, and longer written tasks for homework will be undertaken frequently throughout the course.

Critical thinking: students will learn skills in a variety of critical thinking methods.

教　科　書

Life Student's Book 4, 2nd Edition 著者: Helen Stephenson, John Hughes, and Paul Dummet　出版社　National Geographic Learning.

生協戸山店で購入してください。

成績評価方法

●**試験**　20%　　Mid-term 10 points　Final 10 points
●**レポート**　10%　　Writing tasks will be given throughout the course.
●**平常点**　60%　　Active class participation will be assessed.
●**その他**　10%　　Online workbook

備考・関連ＵＲＬ

成績評価の目安として、「A+」を総履修者の10%以内、「A」30%以内とする。上記は自動登録科目（必修基礎演習、基礎外国語、必修英語）共通の評価基準である。

講 義 内 容

選択基礎演習

（１年次のみ）

科目名	文化構想学部　選択基礎演習　1　『吾輩は猫である』を読んでみる							
担当者名	安藤　文人							
共通	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年のみ	—	—	—

授業概要

この演習は、第一に「長い小説をともかく読むこと」、第二に「小説についてともかく『研究らしいこと』をすること」を目的としています。取り上げる作品は夏目漱石の書いた『吾輩は猫である』で、明治38年から39年にかけて雑誌「ホトトギス」に11回にわけて発表されました。授業では、おおよそ毎週1回分をとりあげ、担当者を決めて何かしらの発表をしてもらったうえで、全員で話をします。春期の必修基礎演習で学んだことを生かしながら、具体的な作品を対象にして、それを「論じる」、あるいは「研究する」ことを試みますが、むしろ、文学作品を対象とした「批評」「研究」がどれほど幅が広いものか、どれほど多様な切り口があり、それについてどれほど自由な思考や論及が可能なのか、ということを経験してもらいたいと思っています。

授業の到達目標

文学作品の探究を試み、その試みを授業内で共有することを通じて、文学の研究方法の多様性と自由度を経験的に理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　期末に提出。4000字以上
●**平常点**　40%　　出席、担当者としての発表、および授業への参加度（発言）など
●**その他**　0%

備考・関連URL

実地調査の際に入館料（300円）、交通費（340円）など実費を要する

科目名	文化構想学部　選択基礎演習　2　心理学にふれる							
担当者名	石川　遥至							
共通	2単位	秋学期	金曜日	3時限	1年のみ	—	—	—

授業概要

本基礎演習では、心理学という学問が扱う問題やそこで用いられる方法を学びます。近代心理学は「科学」として心を扱うことを目指して発展してきました。形のない心を見るためにどのような工夫がされているのか、そこにはどのような限界があるのか、実際の心理学実験やパーソナリティ検査を体験しながら考えてみてください。学習・性格・記憶・感情・精神病理等のテーマを予定しています。

また、後半ではグループに分かれて、身近な問題を心理学的な観点から考察し、発表してもらうことを考えています。

※受講人数等に応じて上記内容を変更することがありますので、ご了承ください。

授業の到達目標

現代の我々を取り巻く諸問題を考える上で、心理学的な視座を用いることができるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　授業参加、グループ発表の内容等
●**その他**　0%

科目名	文化構想学部　選択基礎演習　3　イメージ遊歩：アート×シネマ×ダンス×ミュージック							
担当者名	大石　雅彦							
共通	2単位	秋学期	金曜日	3時限	1年のみ	—	—	—

授業概要

「イメージ」という概念は映像、美術、詩的比喩、自我像、夢の形象性、印象、等々を含むとてつもなく広範なもので、それゆえにすごく曖昧です。この演習では、数々の芸術作品に具体的にふれながらイメージの生態を確認し、その曖昧さを豊かさにかえてゆきます。過去の授業では、実験映画、アートアニメーション、メディアアート、ヴィジュアル・ポエトリー、コンテンポラリーダンス、総合芸術、等々と、さまざまなものを対象としてきました。今現在、とりわけアートは、従来の枠を大きくはみ出し弾けています。われわれはそこからほとばしる大きな力を感じるでしょう。その力にふれ、再びアートとは何であるのかを考えてみるのも無駄ではありません。今年度も、できるだけいろいろなものを取り上げたいと思います。実験映画、アートアニメーション、アートアクティヴィズム、アウトサイダーアート、ネオ総合芸術の中からいくつかの分野を選ぶ予定です。具体的な作品については、授業で発表します。

どうか狭い領域に閉じこもらないで、幅広い関心を持って下さい。

授業では分野別のグループにわかれて活動します。

作品鑑賞・解説のあとに、グループで発表してもらいます。

■

毎回、その週おすすめの美術展、新作映画を紹介してゆきます。

できれば、プチフィールドワークとして、1回展覧会に出かけたいと思います。

授業の到達目標

現代芸術の基本的理解

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　出席・発表の質、討論参加の積極性を見ます
●**その他**　0%　　なし

科目名	文化構想学部　選択基礎演習　4　美と健康への人文学的アプローチ							
担当者名	草野　慶子							
共通	2単位	秋学期	月曜日	2時限	1年のみ	—	—	—

授業概要

文化構想学部の学びは、私たちが生きる毎日の細部に、いまとここの真率な思いとふるまいに、人文学の知見と成果を通じて向き合い、その結果、人文学と私たちの生の双方を豊かにする絶えざる試みであると、担当教員である私は思っています。

今年度のこの選択基礎演習では、健康志向そして美容の問題を扱います。
美と健康？　それってこの文化構想学部でまじめに学問するようなことなの？　そう思われるかもしれません。でもちょっと考えてみてください。

健康で、そしていつまでも若く美しくありたい、という私たちの願いは、死への恐怖を背景にしています。
一例ですが、度を過ぎたダイエット、痩身願望は、若さや美しさへの希求を反転させ、死の願望をそこに隠しているようにも見えないでしょうか。（だって痩せるということは自分の肉体がどんどん消滅していくことだし、事実、死を前にしたひとはみなたいがい痩せています）

あるいはもっと単純に、健康や美、そして若さは、私たちの生においてなぜ価値を持つのか、考えてみたことがありますか？
もっともっと身も蓋もなく言ってしまいましょう。なぜ美人やイケメンはトクをするんでしょうか？
こうした問題を文化研究の課題としてとらえるとき、ジェンダーをめぐる諸問題も、当然のこと浮かび上がってくるでしょうし、そしてまた、愛や死や美、私たちの生を条件づけるそうした根元的な価値と宿命への、真摯な思考がそこではすでに始まっているのです。

授業の到達目標

上記「授業概要」に記した問題意識を共有し、文化研究の手法でそれに相対することができるようになること。
「健康」「美容」という日常的主題を学問的視点でとらえ、扱い、またジェンダー研究の初歩的手法を身につけること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しません。
●**レポート**　0%　　実施しません。
●**平常点**　100%　　主体的・積極的な授業参加度　個人およびグループ発表の充実度：発表内容と提出されるパワーポイント資料　＊発表時のパワーポイント、ハンドアウト類は、コースナビまたはWaseda Moodleにアップロードしていただき、評価の対象とします。 なお、演習なので発表はしていただきますが、負担の少ないものにするつもりですから、おそれず気軽にどうぞ。発表自体よりもむしろ、クラスで積極的に話し合う姿勢が大事です。
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業計画は、受講者数によって変わるもので、上記はあくまで仮のものです。
演習なので発表はしていただきますが、負担の少ないものにするつもりですから、おそれず気軽にどうぞ。

科目名	文化構想学部　選択基礎演習　5　歴史文化の入門：東アジアの歴史書を読む							
担当者名	小二田　章							
共通	2単位	秋学期	月曜日	2時限	1年のみ	—	—	—

授業概要

本演習は、1年生が大学にて専門の内容を選ぶ際のアシストとして、また学問の基礎となる理解力・技術を取得するために、過去に編まれた「歴史書」を実際に読む。人々が「歴史」をどのような形式・言葉で書き残したかを知り、またそのありように慣れることで、歴史学志望者はもちろん、それ以外の志望者にも有用な「読む力」を育てるものである。

授業の到達目標

「歴史書」という史料（言説）に直に向き合い、それを読み解く経験を通して、書かれた言葉の「背景」を理解し、歴史的に考えるための基礎を得る。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　60%　　授業への参加度（30%）＋毎回の授業への貢献（30%）。
●**その他**　40%　　第11～14回にかけて、参加者は必ず1回、自分で「読みたい歴史書の部分」を授業に提示し、自分が担当者としてその文章の読解責任を負い、レジュメを作成するものとする。

備考・関連URL

本講義は、大学一年生に向けた「歴史」の入り口となる側面を持つ。高校までで世界史・日本史などを履修しなかった学生、さらには歴史学志望以外の学生も歓迎する。授業の講師による部分は中国を中心とした東アジアの歴史書（漢文）を対象とするが、学生が担当する内容は、「歴史書」であれば地域・言語・時期を問わない。歴史に興味のある学生の幅広い分野からの参加を心より願うものである。

科目名	文化構想学部　選択基礎演習　6　質的調査とデータ記述の技法							
担当者名	酒井　貴広							
共通	2単位	秋学期	金曜日	3時限	1年のみ	—	—	—

授業概要

本講義は基礎的な質的調査とデータ記述の技法を学ぶものである。
講義の冒頭では質的調査とデータ記述の基本を学び、こうした研究手法の持つ意義を確認する。
その後、文化人類学者や民俗学者が執筆したエスノグラフィー（民族誌）を輪読し、実践的なデータ記述の成果と限界を知る。
授業の後半では、履修生へ簡単な質的調査を課し、得られたデータに基づいたエスノグラフィーの執筆を試みる。

授業の到達目標
質的調査とデータ記述の方法の基礎を身に付け、簡易なエスノグラフィーを執筆する。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　学期末に調査に基づいたエスノグラフィーの執筆を課す。
●**平常点**　60%　　授業時に課す小課題や授業への参加度、毎回のリアクションペーパーへの記入内容、課外課題への取り組みを元に評価する。
●**その他**　0%

科目名	文化構想学部　選択基礎演習　7　日常的な営みを心理学から捉える							
担当者名	清水　由紀							
共通	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年のみ	—	—	—

授業概要
心理学は，人の心を科学的に捉えようとする学問です。私たちの毎日の様々な営みを科学的に調べてみると，普段意識していなかった様々な人間の認知や行動の「癖」や「仕組み」が見えてきます。
本授業ではまず，「覚えること」「やる気」「考えること」「関わり合うこと」「育つこと」といった人の日常的な営みが，心理学の観点からどのように研究され明らかにされているのかについて解説します。その上で，自身の学習，活動，関係性などについて心理学の観点から振り返り，その内容について毎回ディスカッションを行います。
そして最後には，グループに分かれてテーマを設定し，テーマに沿って調べたことや議論したことをまとめて発表していただきます。

授業の到達目標
日々の様々な営みをメタ認知し，科学的に捉える。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　20%　　心理学の研究法について体験し，感想をレポートにまとめる。
●**平常点**　80%　　グループ・プレゼンテーション　演習への参加
●**その他**　0%

科目名	文化構想学部　選択基礎演習　8　美術と落語の見かた・聞きかた・伝えかた							
担当者名	楢山　満照							
共通	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年のみ	—	—	—

授業概要
高度に情報化しグローバルな環境が確立された現在、世界の距離は驚くほどに縮まりました。コンピューターデバイスさえ使えば、即座に地球の裏側にいる友人とお互いの顔を見ながら会話を楽しむことだってでき、自作の動画で瞬く間に世界的な有名人なることさえできるのです。それに伴い、東洋や西洋といった既存の文化的・民族的な枠組みは曖昧になり、それを自覚しているかどうかはさておき、一昔前では考えられないほどに、皆さんは、多種多様な文化要素が複合的に重なり合い構成される社会に身を置くことになりました。ライフスタイルも然り、食文化も然り、娯楽もまた然りです。
そのようなシチュエーションにおいて、自身のアイデンティティや個性をどのように他者に伝えるべきなのか、あるいはどのように他者のそれを理解すればよいのか。例えば、スマホの画面に映し出された人種も国籍も異なる友人に、「いま日本で一番クールなカルチャーを教えてくれ」と言われたら、皆さんはどう答えますか。
皆さんは、大学に入学してしばらくが経ち、これから各論系の専門教育へといよいよ進んでいこうという段階です。無論、皆さんの興味や関心は多様でしょうが、何を探究するにせよ、複合的な構造をもつ現代社会で学ぶ以上、既成の学問ジャンルをあえて超え、文化の成り立ちを地域や時代に縛られずに学ぼうとする姿勢が今後は有効になってくるはずです。そこでこの演習では、地域も、時代も、成立背景も、表現方法も大きく異なる「美術」と「落語」をあえてピックアップし、受講生にその魅力や問題点を自分の言葉でまとめてもらいます。その内容を他者に伝えるまでの工程を一通り経験してもらい、次年度からの専門教育の導入にしたいと思います。

授業の到達目標
この授業は、各論系の専門教育へと進んでいくための準備段階と位置づけています。よって、パワーポイントのコツやレジュメの作成方法を学び、プレゼンに場慣れしておくことも目標のひとつです。授業で取りあげるトピックは、美術と落語を計画していますが、受講生の人数にもよりますので、初回の授業で受講生と相談のうえ提案する予定です。各自の興味関心を、自分の言葉で明確に他者に伝えることができるようになることを目指します。

成績評価方法
●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　40%　　ここでいうレポートとは、授業でそのつど提出してもらうミニレポート（特定の回で自身の考えをまとめた文章）のことです。
●**平常点**　60%　　ここでいう平常点とは、プレゼンの内容、出席状況、議論に主体的に加わっているかどうかを指します。
●**その他**　0%

備考・関連URL
落語に関しては、教室で映像を観るだけではなく、受講生の人数や他の授業の履修状況によっては、授業の一環として寄席に落語鑑賞に行く可能性もある。

科目名	文化構想学部　選択基礎演習　9　「近現代イギリス社会と移民」							
担当者名	日尾野　裕一							
共通	2単位	秋学期	月曜日	2時限	1年のみ	—	—	—

授業概要
本演習では、現代世界においても非常に重要なトピックとなっている移民について、歴史学の観点から考えていきます。近代・現代イギリスを中心に取り扱い、移民とそれへの対応がどのようになされていったのかを検討してきます。日本語文献と英語文

献を用いつつ、個人発表もしくはグループ発表とディスカッションを通じて、移民とそれへの対応の歴史について検討していきます。英語文献については、受講者の関心からトピックを選びつつ、読み方についても授業の中で説明していきますので、今後の英語文献利用に向けての練習にもなると思っております。授業内容については、受講生の人数・関心に応じて小幅な変更を加えることがあります。

授業の到達目標

歴史学の見地から現象としての移民について理解を深める。
日本語文献を適切に読み、それをもとに自身の考えを構築し、発表する力を養う。
英語論文の読解についての基本的な力を養う。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 50%　授業の内容を踏まえたレポートにて理解度の確認を行います。
●**平常点** 50%　授業でのプレゼンテーションおよびディスカッションへの参加度から総合的に評価いたします。
●**その他** 0%

科目名	文化構想学部　選択基礎演習　10　読んで書く、書いて読む。							
担当者名	堀江　敏幸							
共通	2単位	秋学期	金曜日	3時限	1年のみ	—	—	—

授業概要

文学作品を読み、議論する。また、取り上げた作品について、毎回400字から800字程度の文章を書き、互いに読み合う。絵画、写真、映像作品を鑑賞し、言葉にする試みも随時行う。

授業の到達目標

形式にとらわれず、自由に書いて考える習慣をつける。また、他者の作品に対する口頭でのコメント力を鍛える。

成績評価方法

通常授業内でのレポート（3回）、および最終レポートを総合的に評価する。
合評の参加度、発言内容等を総合的に評価する。

科目名	文化構想学部　選択基礎演習　11　インターネット発達史							
担当者名	和田　修							
共通	2単位	秋学期	火曜日	3時限	1年のみ	—	—	—

授業概要

わたしたちの生活とは切っても切れない関係になってしまったインターネット。その発達の歴史を振り返りながら、わたしたちのコミュニケーションがどのように変わったのか、あるいは音楽・映像の鑑賞にどのような変化が生じたのかを考えてみたいと思います。

予備知識は必要ありませんが、デジタルコンテンツに興味がない人は厳しいかもしれません。

授業の到達目標

インターネットの基本的な技術を知るとともに、そのコンテンツの変遷について、認識を深めることを目的とします。

成績評価方法

●**試験** 0%　試験は実施しません。
●**レポート** 50%　インターネットの発達と社会の変化についての理解度で評価します。
●**平常点** 50%　出席と発表で評価します。
●**その他** 0%

科目名	文化構想学部　選択基礎演習　12　ミュージカルを分析的に言語化する							
担当者名	辻　佐保子							
共通	2単位	秋学期	金曜日	3時限	1年のみ	—	—	—

授業概要

本演習では、ミュージカル作品を一つ取り上げて、分析的に言語化してくためのステップを重ね、最終的には作品分析のレポートを仕上げてもらいます。 ミュージカルは誕生から現在に至るまで隆盛を誇るエンターテインメントですが、批評的な分析・考察を経ずに好悪で判断が下される傾向にあります。しかし、形式や内容、スタイル、時代背景や文化的コンテクストなど、検討に値する切り口をミュージカルは豊富に備えています。

作品を鑑賞し、グループ発表し、ディスカッションをし、文献を調査し、課題に取り組む作業を通じて、ミュージカルを学術的に分析する方法を掴み、その中から学生生活を支えるクリティカル・シンキング&アカデミック・ライティングの作法を習得していきます。

なお、授業計画に記載されたスケジュールは予定であり、受講人数や進行具合に合わせて変更する可能性があります。

授業の到達目標

・作品を見て、聞いて、そこから調べて、考えて、発表して、書いて、直して、最終的にレポートへとまとめあげる力を身につけること。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 50%　授業内の発表や課題を踏まえたレポートの完成度を問う。
●**平常点** 50%　発表や課題、ディスカッションの質を問う。
●**その他** 0%

講 義 内 容

講　　義

科 目 名	初級ギリシャ語1　初歩から学ぶ古代ギリシャ語							
担当者名	宮城　徳也							
共通	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

古代ギリシャ語は、文学ではホメロス、ギリシャ悲劇詩人たち、哲学ではプラトン、アリストテレス、歴史ではヘロドトス、トゥキュディデス、数学ではエウクレイデス（ユークリッド）という偉大な詩人や思想家に思考と記述の手段を提供し、本来ギリシャ的伝統とは無縁であったキリスト教においても、新約聖書はギリシャ語で書かれました。有名な科学者アルキメデスが、その名にちなんだ原理を発見した時、裸で町を走りながら「ヘウレーカ（見つけた）」（英語のユリーカ）とギリシャ語で叫んだ話は良く知られています。

古代ギリシャ語を学ぶことは、オリジナルを尊重する精神を学ぶことです。ギリシャ語の修得は決して容易なことではありません。しかし、敢えて挑戦する精神こそあらゆる学問に必要なことではないでしょうか。

ギリシャ語は難しいです。教え方には一層の工夫が必要であることを痛感していますが、ともかく「名詞・形容詞の格変化」と「動詞の活用」、特に後者を中心とする文法事項とギリシャ文化の紹介がもう少しバランスよく組み立てられるように努力したいと思います。

シェイクスピアの『ジュリアス・シーザー』には有名な「それは私にはギリシャ語」（分けがわからん）という台詞が出てきます。そのシェイクスピアは同時代の劇作家ベン・ジョンスンに「ラテン語は少し、ギリシャ語はもっと少ししかできない」（のにすごい）と言われています。なんと私たちの「やる気」を起こさせる言葉ではありませんか。皆さん、ギリシャ語に挑戦しましょう。

授業の到達目標

本授業は、ギリシャ語に興味がある人、また本格的ではなくても、取りあえず、どういうものかを知りたい人など、広い範囲の人たちを対象に開講されます。古典ギリシャ語文法の骨格を理解し、古典を講読できる力の基礎を養うことを目標とします。

ギリシャ語の学習は一にも二にも動詞活用との戦いです。前期を費やしても動詞の直説法・能動相の基本すら完全には説明し切れません。しかし、少しずつ基本を確認し、きちんと語形を整理しながら一歩一歩進んでいくと、段々と先に光明が見えてきます。「そして光は闇の中で輝いている」（カイ・ト・ポース・エン・テー・スコティアー・パイネイ）という状況になるでしょう。その光（ト・ポース）をしっかりと見つめながら先に進むと、古代ギリシャ語文法の基礎という越えがたい峠を越えるための道がはっきりと見えてきます。

成績評価方法

●**試験**　0%　　平常点で評価します
●**レポート**　0%　　平常点で評価します
●**平常点**　100%　　理解度を確認する課題を毎回提出してもらい、それを平常点として評価します。
●**その他**　0%　　平常点で評価します。

備考・関連URL

「初級ギリシャ語1」は春期（前期）科目ですが、秋期（後期）科目の「初級ギリシャ語2」との連続を念頭においています。是非、「初級ギリシャ語2」もあわせて履修してください。

科 目 名	初級ギリシャ語2　ギリシャ語文法の基本的理解の完成							
担当者名	宮城　徳也							
共通	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

春期（前期）科目「初級ギリシャ語1」で学んだ程度の文法知識を前提として、より高次の文法知識を学んでいきます。1で約音動詞について整理しているので、『新約聖書』（原文はギリシャ語）の印象に残る言葉を例文に使うことができやすくなっているはずです。どのような順番で学んでいくかは下記の「授業計画」に委ねることにして、ギリシャ語に関して概括的に述べてみます。

『新約聖書』はギリシャ語で書かれたと言いましたが、それは早くても紀元後1世紀の終わりです。しかし、ヘブライ語で書かれた『旧約聖書』のギリシャ語訳は紀元前からありました。プトレマイオス朝エジプトの首都アレクサンドリアは当時世界一栄えた都で、そこで使われていた言語はギリシャ語でした。アレクサンドリアの名祖アレクサンドロス大王の東征（紀元前334年）以来のヘレニズム時代はギリシャ人が世界をリードしていたからです。国際都市アレクサンドリアには多くのユダヤ人が住み、ヘブライ語を理解できなくなっていたユダヤ人のためにギリシャ語訳『(旧約）聖書』（ユダヤ人にとっては決して「旧約」ではなかったはずですが）ができたのです。アレクサンドリアで使われていたギリシャ語はコイネー（共通語）と呼ばれるものでしたが、これの基礎になったのは、紀元前4世紀にプラトンやアリストテレスの著作に使われたアッティカ方言でした。アッティカ方言は紀元前5世紀の歴史家トゥキュディデスやギリシャ悲劇を学ぶためにも有益です。実は、欧米でも日本でも大学で学ばれる「ギリシャ語」は古代ギリシャ語のアッティカ方言です。

ギリシャ語を学ぶことはこの豊穣さを味わうことであり、ヘレニズムとヘブライズムとよく言いますが、ヘレニズムは「ギリシア風」という意味ですからもちろんのこと、本来はギリシャ的伝統とは別のところから出てきたヘブライズムを代表するキリスト教を学ぶためにもギリシャ語は必要な言語なのです。

「求めよ、さらば与えられん」（アイテイテ・カイ・ドテーセタイ・ヒューミーン）

授業の到達目標

「初級ギリシャ語1」で学んだと同等の基礎をふまえて、初等文法のかなりの事項を理解して、新約聖書の講読に挑戦できるギリシャ語力の涵養を目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　平常点で評価します
●**レポート**　0%　　平常点で評価します
●**平常点**　100%　　理解度を確認する課題を毎回提出してもらい、それを平常点として評価します。
●**その他**　0%　　平常点で評価します

備考・関連URL

備考：春期（前期）科目「初級ギリシャ語1」で学んだ程度の文法知識を前提として授業をします。
関連URL:

科 目 名	ギリシャ・ローマ世界入門　西洋思想と文化の根幹とその発展							
担当者名	宮城　徳也　他／内川　勇海／加藤　喜市／小石　絵美							
共通	２単位	春学期	水曜日	５時限	１年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

ギリシャ・ローマ世界は西洋の母胎であり、現代に生きるわれわれが、西洋世界の強い影響下にある以上、多くの人にとって興味の対象となるはずである。現代の「アメリカの平和」が古代における「ローマの平和」を連想させるばかりでなく、広域多民族国家であるアメリカ合衆国の国内の政治体制もまた共和制及び帝政のローマに似ている所が多い。

政治体制やローマ法、土木技術などにおいて後世に影響を与え、現代ヨーロッパの枠組みをも作ったローマに思想的、文化的支柱を与えたのが古代ギリシャであり、古代ギリシャ文化を意味するヘレニズムは、キリスト教を生み出したヘブライズムとともに欧米文化の思想的根幹を形成している。

こういったギリシャ・ローマ世界の思想と文化を、専門を異にする複数の研究者が半期で、分かり易くダイジェストするのが、本講義の趣旨である。「ギリシャ・ローマ世界入門」は古代ギリシャ・ローマ文化そのものの紹介を中心とし、「後世」への影響に関しては、秋期（後期）科目の「ギリシャ・ローマの思想と文化」が関連している。別の科目なので、どちらか片方でも、両方連続でも履修できる。

講義

授業の到達目標

後世に大きな影響を与えたギリシャ・ローマ文化の多様性を、様々な側面からのアプローチによって理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　レポートと平常点で評価
●**レポート**　40%　　学期末に、3000字程度で、学習成果の報告を求める（コースナビまたはWaseda Moodle提出）
●**平常点**　60%　　毎回、授業内容の要約とそれに関する見解を記したレヴューシートの提出を求める
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

多様な興味を持った広い範囲の受講者の積極的参加を期待する。秋期（後期）の「ギリシャ・ローマの思想と文化」は関連するが別内容なので、連続して両方でも、どちらか一方でも履修できる。

科 目 名	初級ギリシャ語（速修）　古典ギリシャ語文法の全体を1セメスターで修得する							
担当者名	兼利　琢也							
共通	４単位	春学期	火５時限	金５時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

このコースでは，1セメスター週2回計30回の集中学習で古典ギリシャ語文法の基礎を学ぶ．講読を行う秋学期の「中級ギリシャ語」等に接続し，計1年間でギリシャ語文献を読解するための基礎的な知識をつけるのが目標である．最初からしっかりギリシャ語を学びたい人，「入門ギリシャ語」や自習で学んだが基礎固めをしたい人を念頭に置いている．

西洋の文化を調べるとたいていどこかでギリシャ語につきあたる．西洋文化と教養の基礎に直接触れたい，自分にそれが必要だと感じる人にはこの言葉を学ぶことを勧めたい．

ギリシャ語は古来むずかしい言葉の代表であり，その面は否めないが（それだけ学ぶ楽しみも大きい），戸山では週二回という恵まれた状況で学習できる．春学期の30回でも文法の全項目を網羅するには不足だが基礎は十分に学べるだろう．秋学期は講読の合間に復習や補足をするので，年間を通して学べば古典ギリシャ語について全般的な理解が得られる．

なお，この授業で学ぶギリシャ語は現代ギリシャ語ではなく，西洋古典文学，紀元前8世紀頃のホメロスに始まって5世紀頃まで続く古代文化が遺した膨大な言語遺産の言葉である．

ギリシャ語は古典の傑作：叙事詩・叙情詩・劇・歴史・演説・哲学・小説などを生み出しただけでない，今日に繋がる学問の礎はギリシャ人が敷いた（数学や哲学など抽象度の高い学問はギリシャ語の独壇場である．古代ではラテン語は学術語ではない）．また，これら異教古代の遺産と並んで西洋文化の基礎をなすキリスト教は，ギリシャ語圏ユダヤ世界で生まれ，新約聖書はローマ時代の日常語のギリシャ語で綴られた．西洋の言葉と文化の知識を深めたいと思うのであれば，古典ギリシャ語を学ぶのが確実である．

授業の到達目標

古典ギリシャ語の基礎的文法と語彙の習得

成績評価方法

●**試験**　0%　　学期末試験はしません．
●**レポート**　0%　　期末の提出物はありません．
●**平常点**　100%　　毎回の練習問題の回答，変化形の書取りの出来，クイズの成績などです．　時折小テストや小さな課題を出すことがあるかもしれません．
●**その他**　0%　　とくにありません．

備考・関連ＵＲＬ

週2回授業があります，時間割に気をつけてください（片方だけだと挫折します）．＊この週2のコースは，古典ギリシャ語の読解力を習得するために真剣な学習を願い覚悟する文学学術院の学生諸君を受講者に想定してきています．古典語を教養として学びたい方は，この厳しい授業を避けて他の講座，他学部の授業等を選択することを強く勧めます．

科 目 名	中級ギリシャ語2　古典ギリシャ語散文の基礎講読							
担当者名	兼利　琢也							
共通	２単位	秋学期	金曜日	５時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

秋学期の「中級ギリシャ語2」は，春「初級ギリシャ語（速習）」を履修した人，またはこれまでに「入門（初級）ギリシャ語」等を学んだか，それと同程度のギリシャ語に関する基礎知識を持っている人を対象に，実際の文章に直接当たることで読解力を養成することを念頭に置いています．

講読なので文法の大枠を理解していることを前提にしますが，多くの人はまだ始めて3か月（半期）です（し夏の休止があり

ます）から，基礎知識の説明と復習は常に繰り返します．平易な散文で読む意義の大きな古典を（可能であれば比較的速めに）読んで読解力を鍛えたいと思います．

今年は，少し迷うところですが，いちおうは去年と同じく，プラトーン『小ヒッピアース』とホメーロス『イーリアス』からの抜粋を読む予定です（別のプラトーン初中期対話篇（またはその他）に変更する可能性があります．異教古典に限られますが，とくにプラトーン初期対話篇ならばリクエストに応じた選択が可能です）．『小ヒッピアース』は初期対話篇の典型で，ソフィストのヒッピアースが披露したホメーロスを扱う演示演説とその内容に対するソークラテースの批判です．ソークラテースの哲学的手法を，古代における修辞とホメーロスの重要性とともに直に学ぶことができます．時間に余裕があればホメーロス『イーリアス』からの抜粋を読む予定です（古代ギリシャとは結局のところホメーロスの文化ですから，これに一度は触れておくべきです）．

講読ですから毎回少しずつ訳読します（あらかじめ割り当てをしておきます）．細かな文法的な説明をしますが，あわせて教科書や文法書の該当個所，変化や文法の復習をします．毎回ごとに復習と訓練を積み重ねていきますから，半年でもギリシャ語文法のほぼ全域を学べるだろうと思います．（なおホメーロスの文法は，アッティカ散文を読むために作られている教科書では足らないところが間々ありますので，それら（とくに変化形）は説明を加えます．）

大切なのは，自分で形を確かめて暗記する努力をすることです．当然ですが聞いているだけでは理解はできるにせよ，独力で読みこなせる力は身に付きません．予習復習を欠かさないでください．助力は惜しみません．単語と変化は，あるレベルまで必ず覚えなければなりません．頑張って下さい．

授業の到達目標

古典ギリシャ語文献の読解の基礎的能力の養成

成績評価方法

●**試験**　0%　　テストは行いません．
●**レポート**　0%　　期末提出物はありません．
●**平常点**　100%　　毎回の訳読です．
●**その他**　0%　　なし．

科 目 名	ギリシャ語講読2　プラトン『ソフィスト』篇講読							
担当者名	栗原　裕次							
共通	2単位	春学期	月曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

プラトンの対話篇は古典ギリシャ語で書かれた散文の傑作と言われている。この授業では、後期プラトンの代表作『ソフィスト』を最初からギリシャ語でしっかり読んでいく。それと同時に、対話篇に含まれる哲学的問題を参加者と共に考えていく。この二つの作業を通じて、後期プラトン哲学の存在論、認識論、方法論、言語哲学などを理解する手掛かりを得るだろう。

授業の到達目標

・　古典ギリシャ語の初級文法を終えた段階から始めて、ギリシャ語散文の代表作であるプラトンの対話篇を文法的にきちんと読めるようになる。
・　プラトン後期哲学の基本枠組が理解できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　100%　　毎回の授業で、ギリシャ語を訳す能力と哲学的考察の実践を総合的に評価する。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	初級ラテン語1　ラテン語文法の学習							
担当者名	兼利　琢也							
共通	2単位	春学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

ラテン語とは，古代にイタリア半島中部のラティウム地方に源を発しローマ帝国と共に西地中海世界の共通語となった言語で，同時期に文語として完成して多くの古典作品を生み出した．中世以降もカトリック教会と法律と学問の言葉として西洋の普遍的教養の伝統を担い，18世紀まで学問の伝達手段であった．他方，口語（俗ラテン語）はしだいに変化してロマンス諸語（イタリア語，スペイン語，フランス語など）へ変貌する．西洋の古文であるラテン語に直接の実用性はないが，言葉に興味のある人，真の教養に触れたい人はこの言葉を学ぶとよい．今のアメリカでも既修外国語としてスペイン語，フランス語に次ぐ．英語の語彙も3/4がラテン語に由来するのみならず，文法はすべてラテン語文法が元だから，近代語学習には必ず役立つはずである．

春学期の本科目では，教科書の半分程度（9課辺り）まで進む予定．

授業の到達目標

ラテン語文法の基礎の学習と習得，ラテン語の詩文の観賞

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　毎回配布回収する変化形書取り＋クイズの成績（と不定期に実施予定の基礎的な少テストの予定）
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	初級ラテン語2　ラテン語文法の学習							
担当者名	兼利　琢也							
共通	2単位	秋学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

ラテン語とは古代ローマ帝国の言葉である．前1世紀後半の共和政末期，カエサル，キケローによって技巧的文語として完成し，アウグストゥスに始まる元首政の2世紀の間に幾多の古典文学を生み出した．歴史（サッルスティウス，リーウィウス，タキトゥス），哲学（キケロー，セネカ），文学（ルクレーティウス，ウェルギリウス．ホラーティウス，オウィディウス他）にわたる古

典は，ルネサンス以降の西洋文化に深く広い影響を及ぼしている，またラテン語は，ローマ帝国滅亡後も教会と法と学術の言語として西洋の教養を担いつづけた．それゆえ西洋のすべての学問と文化はこの言葉が源である．秋学期は，教科書の後半を進める（第10課から第20課），余裕があれば何らかの古典作品を読む予定（文法学習中にも随時紹介する．また希望があれば優先したいと思う）．

授業の到達目標

ラテン語文法の学習と習得，ラテン語の詩文の観賞

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　毎回配布回収返却する変化形書取り＋少クイズ，不定期に実施する予定の復習小テスト，講読の出来など
●**その他**　0%　　なし

講義

科 目 名	初級ラテン語（速修）							
担当者名	小倉　博行							
共通	４単位	春学期	月５時限	木５時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

今から2,000年以上も前にイタリアのローマを中心に用いられていたラテン語の初級文法を学びます。ローマの支配圏が拡大するのに伴い、このラテン語も西ヨー ロッパの全域に広まりました。現在のイタリア語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語などロマンス諸語と呼ばれる言語は、ラテン語が人々によって用いられる間に少しずつ変化し、成立したものなのです。したがって、ヨーロッパの社会・歴史・言語のどの分野であれ、深い理解を得ようとするにはラテン語（そしてギリシア語）の知識が不可欠です。本講座ではラテン語の読解力を身につけるべく、その初級文法を学びます。また、古い時代に存在した言語とはいえ、外国語を学ぶという点では、ラテン語の学習方法は現代語のそれと基本的には異なりません。課ごとに文法項目を説明し、その上でみなさんに練習問題を解いていってもらいます。現代語に比べてやや複雑な仕組みを持つラテン語ですが、少しずつ確実に学べば必ず身につくものです。

授業の到達目標

ラテン語の初級文法の知識を身につけることが目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない予定です．
●**レポート**　0%　　レポートはありません
●**平常点**　100%　　課が終わるごとに，教科書の作文問題を提出してもらいます．20点満点で添削し，平均6割（12点）以上を合格とします．
●**その他**　0%　　上記が成績判定の基準です．

科 目 名	中級ラテン語1							
担当者名	小倉　博行							
共通	２単位	秋学期	木曜日	５時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

前期科目「初級ラテン語（速習）」を履修した人、あるいはすでに何らかのかたちでラテン語の初級文法を学んだ人を対象にした講座です。とくに後者に該当する人は、動詞とその分詞、そして名詞と形容詞の変化形を身につけていることを前提とします。「中級ラテン語1」では接続法と呼ばれる、ラテン語読解には不可欠な動詞の用法を徹底的に学びます。具体的には『標準ラテン文法』（中山恒夫著、白水社）の16課以降の内容です。

授業の到達目標

課ごとに練習問題を解き、ラテン語の文法のさらなる理解を深めることが目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません
●**レポート**　0%　　レポートは行いません
●**平常点**　100%　　課ごとに練習問題を提出してもらい、20点満点で添削して返却。また，課ごとに20点満点の小テストを行ないます。両者とも平均点が6割である12点以上を合格とします。
●**その他**　0%　　上記が成績判定の方法です

科 目 名	中級ラテン語2　古典ラテン語の原書講読入門							
担当者名	小倉　博行							
共通	２単位	秋学期	月曜日	５時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

「中級ラテン語2」は，ラテン語の初級文法を学び終えた人を対象にした、平易なラテン語で書かれた文献を使ってラテン語読解力の基礎作りを目標とする授業です。ラテン語の読解で無視できない存在が「接続法」と呼ばれる動詞の用法で、これを克服することなくしてラテン語が読めるようにはなりません。この用法を中心に学ぶための併設科目「ラテン語中級文法」に対して、本講座では実際のラテン語の文献にあたりながら、この接続法を学んでいってもらいたいと思います。講読なので実際には輪読形式の授業になります。毎回予習して臨んでください。

授業の到達目標

初級文法を学んだ皆さんが古典ラテン語の原文を読むことによって、読解力を向上させることが目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%　　これまで行なってきませんでしたが，受講者の数によっては最終授業時に，読解力を判断する簡単なテストを実施する可能性もあります．柔軟に対応したいと思います．
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　出席50%, 訳出発表50%

●**その他**　0%　　なし

科 目 名	ラテン語講読3　キケロを読む							
担当者名	土屋　睦廣							
共通	2単位	春学期	金曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

春期科目「ラテン語講読3」は、「初級ラテン語」、「中級ラテン語」を学んだ人、もしくはそれと同程度のラテン語に関する基礎知識を持っている人が、古典古代のラテン語作品を原典で読むための科目です。

今期は、古代ローマを代表する散文作家であるキケロの作品を、文法的知識を踏まえながら、丁寧に講読します。短い作品なら半期で読了できますが、大きな作品の場合は、有名な箇所を抜き出して読むことになります。作品の選択は受講者の希望をできるだけ尊重するので、とくに希望がある場合は初講時に申し出てください。

受講者の語学力に応じて、毎回数十行を精読します。受講者には、数行ずつ区切りながら、音読して訳をつけてもらいます。接続法の用法など、基本的な文法事項も繰り返し確認しながら進めていきます。

前1世紀の代表的弁論家・政治家・思想家であるキケロのラテン語は、古典ラテン語の模範とされる名文です。古典作品を原典で読む喜びを、受講者の皆さんと分かち合いたいと思います。

授業の到達目標

ラテン語文法に関してはすでに大筋を理解していることを前提とし、基礎事項も繰り返し復習しながら、古典ラテン語の文献を独力で読めるようになることを目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　毎回の訳読により評価します。語学力のレベルだけでなく、積極的な取り組みと努力を評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

ラテン語に限らず、外国語の習得には多大な労力と時間を要しますが、努力をいとわぬ者には必ずやそれを上回る喜びが得られるはずです。ラテン語を学んだ経験のある人は、是非とも果敢に挑戦してください。

科 目 名	初級サンスクリット語1　初めて学ぶサンスクリット語							
担当者名	飛田　康裕　他／野武　美弥子							
共通	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

サンスクリット語は、宗教、文学、政治、法制等古代インドのあらゆる分野の古典文献で使われて来た言語です。また、現代インドの諸言語にも少なからぬ影響を与えており、「インド」を理解する上でとても有用な言語です。サンスクリット語はヨーロッパの諸言語とも起源を同じくし、そのなかでも古い言語の一つですので、言語に関心を持つ人にもサンスクリット語の知識は有益でしょう。授業では、サンスクリット語の基礎的な文法事項を学びながら、実際にサンスクリット語の文章を講読していきます。文字と発音から始めて、サンスクリット語がどのような文法に則った言語であるのか一通り理解できるようになることを目指します。また、古代インドの宗教・思想文献、あるいは、文学作品からの短い抜粋文をじっくりと読み、学習した文法についての理解をさらに深めることを目標とします。文法・講読ともに丁寧に解説しながら授業を進めていきますので、語学の学習が苦手な方でも是非挑戦してみて下さい。

授業の到達目標

サンスクリット語の初等的な文法知識、特に、文字や発音、名詞の曲用(格変化)、動詞の活用(数・人称変化)、連声法(音変化の規則)などを学び、サンスクリットの文法構造を大まかに理解して、サンスクリットの文に慣れることを主な目標とします。

成績評価方法

●**試験**　35%　　前半（第8回目予定）に一度簡単な小テストを行います。
●**レポート**　45%　　講読したテキスト等の逐語訳等を、最終回(第15回)に提出してもらいます。
●**平常点**　20%　　授業中に発音や名詞の曲用の練習、あるいは、文法の練習問題をしますので、これらへの取り組みも評価に加えます。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

まったくの初心者を対象に、言語への興味と思想への興味の両方を想定して授業を行います。サンスクリット語への関心がある人、また語学そのものが好きな人、古代インドに興味のある人も大歓迎です。

なお、初級サンスクリット語1 と初級サンスクリット語2 は独立の授業ですが、内容は関係していますので、なるべく続けて受講してください。

科 目 名	初級サンスクリット語2　はじめて読むサンスクリット語の文章							
担当者名	飛田　康裕							
共通	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

初歩文法を復習しながら（初歩文法を学びながら）インドの古典語であるサンスクリット語の文章を読みます。

この授業では、初歩文法の知識を復習しながら、一連のサンスクリット語の文章を講読します。古典語の場合には、文法を一通り学んだ後には、実際の文章を読んで、実践の中で文法の知識を深めていくことが実用的です。よって、文法の知識に不安のある場合でも、是非、挑戦してみてください。授業の終わりには、文法についての理解が深まったことをきっと実感できると思います。また、この授業では、主に、思想や宗教の文献を講読する予定です。思想や宗教の文献は、一見、難しそうに思われるかもしれませんが、文法事項は比較的易しく取り組みやすいものです。

なお、初級サンスクリット語2においては、初級サンスクリット語1では余り詳しく扱わない動詞についての文法事項を丁寧に説明する予定です。また、思想や宗教の文献に頻出する特有の表現についても、折に触れて、重点的に説明します。

授業の到達目標

初歩文法を復習しながら（初歩文法を学びながら）インドの古典語であるサンスクリット語の文章を読む。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。

●**レポート**　100%　　授業中に行う練習問題や授業中に扱うテキストの一部分を逐語訳して、最終回(第15回)にレポートとして提出してもらいます。

●**平常点**　0%　　なし。

●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

初級サンスクリット語1と初級サンスクリット語2は独立の授業ですが、内容は連続していますので、なるべく続けて受講してください。

なお、この授業は、サンスクリット語の初歩文法を一通り学習した人を対象としていますが、文法事項の復習をしながら進みますので、サンスクリット語が全く初めての人でも受講可能です。ただ、全く初めての人は多少の努力が必要であることを心にとめておいてください。

講義

科目名	サンスクリット語基礎講読1							
担当者名	伊藤　瑞康　他／山部　能宜							
共通	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

サンスクリット原典を文法的に解析読解しつつ、インド仏教やインド哲学における重要な教理・思想を学ぶことを目的とする。単なる知識の収集ではなく、テキストの内容を正確に理解するための文献学的方法論を学び、思想を学問的に考究する講義を目指す。

今期のトピックとしては、空の思想について考察する。具体的には、大乗仏典である『中論』をテキストとして講読する。また、梵語原典の解読の一助として、漢訳文献を中心に『中論』諸注釈の参照と比較考察も行う。さらには必要に応じて研究論文も読解参照する。すなわち、たんに知識を得るための講義ではなく、古典語を習得し、原典を正確に読解して、その思想を解釈する、という文献学的方法論を学び、その実践にふれるという学問的な経験が得られることを目標とするものである。

「講読」となってはいるが、初めの数回の講義で基礎的な文法事項の概説を行い、その後も基本的な文法を解説しながらテキストを読み進めていく。また、サンスクリット語文法事項の復習もカリキュラムに含めており、必要に応じて基本文法の復習を講読と併修する。

サンスクリット語文法を未習得の段階でも講読にはついてこられるように配慮するので、初学者も積極的に参加されることを期待する。また、すでにサンスクリット語文法の講義を履修済みで基本文法を習得している者は文法のさらなる熟達を目指す。

授業の到達目標

1. サンスクリット語文法の習得、ならびに、簡単な文章の解読が可能となるようにする。
2. インド仏教における空の思想について、基本的な考え方を了得する。
3. 文献学の方法論の基礎を習得し、原典テキストの扱い方ならびに自力で読解する手法を学ぶ。
4. 学問的に思想や哲学を学ぶ意義について理解する。

成績評価方法

●**試験**　40%　　授業内容の理解度の確認

●**レポート**　0%　　なし

●**平常点**　60%　　授業の参加状況、質疑応答の評価

●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

希望あるいは必要に応じて、Waseda Moodleなどによるサンスクリット文法習得のための添削指導を行います。

科目名	サンスクリット語基礎講読2							
担当者名	伊藤　瑞康　他／山部　能宜							
共通	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

サンスクリット原典を文法的に解析読解しつつ、インド仏教やインド哲学における重要な教理・思想を学ぶことを目的とする。単なる知識の収集ではなく、テキストの内容を正確に理解するための文献学的方法論を学び、思想を学問的に考究する講義を目指す。

今期のトピックとしては、唯識思想について考察する。具体的には、大乗仏典である『唯識三十頌釈』をテキストとして講読する。また、梵語原典の解読の一助として、諸注釈や他の唯識論書の参照と比較考察も行う。さらには必要に応じて研究論文も読解参照する。すなわち、たんに知識を得るための講義ではなく、古典語を習得し、原典を正確に読解して、その思想を解釈する、という文献学的方法論を学び、その実践にふれるという学問的な経験が得られることを目標とするものである。

「講読」となってはいるが、初めの数回の講義で基礎的な文法事項の概説を行い、その後も基本的な文法を解説しながらテキストを読み進めていく。また、サンスクリット語文法事項の復習もカリキュラムに含めており、必要に応じて基本文法の復習を講読と併修する。

サンスクリット語文法を未習得の段階でも講読にはついてこられるように配慮するので、初学者も積極的に参加されることを期待する。また、すでにサンスクリット語文法の講義を履修済みで基本文法を習得している者は文法のさらなる熟達を目指す。

授業の到達目標

1. サンスクリット語文法の習得、ならびに、簡単な文章の解読が可能となるようにする。
2. 唯識思想について、基本的な考え方を了得する。
3. 文献学の方法論の基礎を習得、可能ならば応用を幅広く習得し、原典テキストの扱い方ならびに自力で読解する手法を学ぶ。
4. 学問的に思想や哲学を学ぶ意義について理解する。

成績評価方法

●**試験**　40%　　授業内容の理解度の確認

●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　60%　　授業の参加状況、質疑応答の評価
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

希望あるいは必要に応じて、Waseda Moodleなどによるサンスクリット文法習得のための添削指導を行います。

科 目 名	サンスクリット語講読　唯識の基礎文献を読む							
担当者名	齋藤　直樹　他／佐々木　亮							
共通	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

Vasubandhu（世親, ca. 400-480A.D.), Viṃśikā Vijñaptimātratāsiddhiḥ（唯識二十論）を読む。サンスクリット原典の講読を中心としながら、仏教を、宗教的もしくは実践的側面においてではなく、世界史上における一つの重要で顕著な思想的成果として捉えようとするときに重要となる諸概念の分析にも時間を割く。特に「因果関係」「空間」「全体と部分」「実体と属性」「現実性と可能性」といった哲学的な諸観念の解説に注力することで，広く人文科学一般の理解のための基礎付けにも役だつような授業構成となるであろう。

授業の到達目標

サンスクリット原典の読解を通じて、大乗仏教の教義の二大潮流の一つである「唯識」において展開された諸概念を理解すること。そのうえで、抽象的な思考を組み立てるための基本的な構図に習熟すること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　70%　　授業中に解読したサンスクリットテキストのローマ字表記とその和訳等。
●**平常点**　30%　　授業への取り組みかた。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

サンスクリット文法を多少勉強したことがあり、文献講読に興味を持つ人であればどなたでも歓迎します。文法はこれからという人は、初級サンスクリットやサンスクリット基礎講読の授業をあわせて受講することをお勧めします。

科 目 名	古典ギリシャ文学　ギリシャ・ローマ文学の中のテーマとしてのエロス・・ギリシャ的「愛」							
担当者名	宮城　徳也							
共通	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フルオンデマンド

授業概要

この講義はオンデマンド授業としてウェブ上で行います。本年度は「エロス」をテーマとし、春期科目の「古典ギリシャ文学」では、プラトンの哲学作品『饗宴』（シュポシオン・・「一緒に」シュン、「酒を飲むこと」ポシオンの意味で、シンポジウムという日本語の語源です）で話題となった様々な「エロス」（性愛とその寓意としての愛の神）像と、ソクラテスが報告する上昇する階梯としての「愛の秘儀」を考察した後、ホメロスの「欲望」、ヘシオドスの「宇宙生成原理」など叙事詩に見られるエロス、女流詩人サッポーなどの抒情詩に見られる「愛」とその展開を考えます。トロヤ戦争の直接の原因はスパルタの王妃ヘレネに対するトロヤの王子パリスの不倫の愛でした。トロヤ戦争を背景とするホメロスの叙事詩『イリアス』、『オデュッセイア』に様々な「愛」の思想が見られるのは当然のことでしょう。

ギリシア語で「愛」を表す語として、エロス（性愛）、ピリア（友愛、親族愛）、アガペ（キリスト教的愛）があるのは良く知られていますが、エロスについて考えるには少なくともピリアに関する理解も必要で、アリストテレスの『ニコマコス倫理学』などに見られる「愛」の分析を参考に、ピリアとの対比からプラトン的エロス像を浮き彫りにし、ギリシャ的「愛」の本質を考察します。最終的にはそうした思想としての「愛」の影響が文学作品のどのように反映し、一方でどれほどの乖離が見られかも分析することを目標とします。ギリシャ文学に関しても、常にラテン文学との対比を意識します。教科書によって、ギリシャ文学からラテン文学への流れが、後世のヨーロッパ文学に大きな影響を与えたからです。

授業の到達目標

「エロス」（愛）をキーワードとして、古典ギリシャ文学の概要を理解する。

成績評価方法

●**試験**　70%　　オンデマンド授業の機能を使った小テストを学期中に毎回課し、学期末にまとめの試験をします。 評価のポイントは次のように整理されると思います。1．個々の知識に対する理解度、2．作品や事項に関する理解、3．討論の場での問題提起　その他　0%
●**レポート**　0%　　レポートは課しません
●**平常点**　30%　　BBS（電子掲示板）を使った討論への参加度を平常点として総合的に評価します。評価のポイントは次のように整理されると思います。1．個々の知識に対する理解度、2．作品や事項に関する理解、3．討論の場での問題提起
●**その他**　0%　　試験（小テスト形式）と平常点（BBS）のみで評価します

備考・関連URL

備考
評価のポイントは次のように整理されると思います。
1．個々の知識に対する理解度
2．作品や事項に関する理解
3．討論の場での問題提起
関連URL:
http://www.f.waseda.jp/tokuyam/index.htm

科 目 名	古典ローマ文学　ギリシャ的「愛」のローマ文学的展開							
担当者名	宮城　徳也							
共通	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フルオンデマンド

授業概要

この講義はオンデマンド授業としてウェブ上で行います。

「古典ローマ文学」は紀元前3世紀から、紀元後5世紀くらいまでラテン語で書かれた文学作品を扱いますが、この時代にはギリシャ語でも文学作品が書かれ、ラテン語作品もギリシャ文学の影響を抜きにしては考えられません。本授業では、ローマ文学の中心ではある、叙事詩、演劇、恋愛詩をモデルとなったギリシャ文学と関連させながら、紹介します。

本年度は「エロス」をテーマとし、春期（前期）科目の「古典ギリシャ文学」では、プラトンの哲学作品『饗宴』のエロス論を出発点に、叙事詩に始まる古代ギリシャ文学の中のエロスを分析して、ギリシャ的「愛」に関する基礎知識を得ました。秋期（後期）科目である「古典ローマ文学」においては、このような思想が、言語を異にするローマ文学でどのように展開したかを考えます。エウリピデスの『メデイア』の主人公メデイアは裏切った夫イアソンへの復讐のために愛しいわが子たちを殺してしまいますが、この二人も出会ったときはエロスの神に祝福された幸せなカップルでした。その物語を描いたのが、前3世紀ヘレニズム時代の叙事詩『アルゴ船物語』ですが、この作品に見られるヘレニズム文学の特徴を指摘しながら、エロスが女性に及ぼす作用、「恋におちる女性」というモティーフを文学史を踏まえながら考察します。このモティーフは都市の洗練された世界文学としてのヘレニズム文学の特徴とともに前1世紀後半のローマの大詩人ウェルギリウスの叙事詩『アエネイス』の第四巻に引き継がれます。ここに描かれたディドーの悲恋は後のヨーロッパの絵画、音楽の主題となって、後世の文化に大きな影響を与えました。

ウェルギリウスの作品としては『アエネイス』の他に、『牧歌』と『農耕詩』があります。これらの作品がいかにヘレニズムの精神に満ちていながらローマ的独創性を発揮したものであるかは、授業で紹介しますが、『牧歌』に活かされた恋愛詩のモティーフ、『農耕詩』に取り上げられたオルフェウス伝説を分析することによって、彼の「恋愛」思想の背景にエピクロス哲学があることがわかります。エピクロスの思想をストア哲学などと対比しながら紹介して、ウェルギリウスのエロス観への影響を考察します。

授業の到達目標

ギリシャの影響を受けた「エロス」（愛）の思想が、古代ローマでどのように展開したかをヒントにして、後世に大きな影響を与えた古典ローマ文学の概要を理解する

成績評価方法

●**試験**　70%　　オンデマンド授業の機能を使った小テストを学期中に毎回課し、学期末にまとめの試験をします。
●**レポート**　0%　　レポートは課しません
●**平常点**　30%　　BBS（電子掲示板）を使った討論への参加度を平常点として総合的に評価します。
●**その他**　0%　　試験（小テスト形式）と平常点（BBS）で評価します

備考・関連URL

評価のポイントは次のように整理されると思います。
1. 個々の知識に対する理解度
2. 作品や事項に関する理解
3. 討論の場での問題提起

関連URL:
http://www.f.waseda.jp/tokuyam/index.htm

科 目 名	ギリシャ・ローマの思想と文化　ギリシャ・ローマ文化とその後世への影響							
担当者名	宮城　徳也　他／内川　勇海／加藤　喜市／小石　絵美							
共通	2単位	秋学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

「古典文化」と称されるギリシャ・ローマの文化はそれ自体としても、興味の尽きない存在だが、どの時代においても様々な文化に創造力の源泉を提供してきた。キリスト教はギリシャ哲学との葛藤を通じてその神学を築き上げたし、イスラムの文化が古典古代の文献を一部アラビア語に訳すなどしながら、多くのこと（哲学、医学、天文学、数学、法学）を学んで独自の文化を構築して、さらに中世ヨーロッパに大きな影響を与えたことは良く知られている。

本講義は春期（前期）科目の「ギリシャ・ローマ世界入門」と連動しながら、随時古典古代文化に言及しながら、主としてそれが後世に与えた影響に焦点をあて、様々な事例をわかりやすく紹介してゆく。中世、近代、現代の文化、芸術、思想、宗教、科学、政治その他にとってギリシャ・ローマの思想と文化がどのような意味を持つかを考える機会を提供したい。

授業の到達目標

ギリシャ、ローマの思想と文化が、後世に多様で重大な影響を及ぼしたことの理解を目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　レポートと平常点で評価
●**レポート**　40%　　学期末に3000字程度で、学習の成果をまとめた報告を求める（コースナビまたはWaseda Moodle提出）
●**平常点**　60%　　毎回、授業の内容の要約とそれに対する見解を記したレビューシートの提出を求め、それを平常点として評価する
●**その他**　0%　　レポートと平常点で評価

備考・関連URL

多様な興味を持った広い範囲の受講者の積極的参加を期待する。春期（前期）の「ギリシャ・ローマ世界入門」は関連するが別内容なので、連続して両方でも、どちらか一方でも履修できる。

科 目 名	サンスクリットの世界1　古代インドの宗教と思想							
担当者名	齋藤　直樹　他／野武　美弥子							
共通	2単位	春学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

現在、世界人口のほぼ半数がインド・ヨーロッパ語族に属する言語を使用している。その語族のインド・イラン語派に属するサンスクリットは「(知的に) 整備された言語」であり，その言語によっておそるべき数の「文学」が生みだされた。そして南アジア全域における「普遍語」たるその言語で書かれたあまたの書物が周辺の地域に伝播し翻訳され，その一端がアジアの東端に位置する日本にまで到達した．ヨーロッパにおけるギリシア語あるいはラテン語に匹敵するような，アジアにおけるサンスクリットの知的ならびに文化的影響力の重要性は，現在もっと注目されてよい．　齋藤担当の授業においては、その言語でかたられた神話と宗教的理論のなかからいくつかの論題を取りあげ、それらの解釈の可能性を提示して、インド的思考の基礎への理解を図っていく。たとえばヴァルナ、インドラといった神々にかかわる諸表象の分析、あるいは世界原理としてのブラフマンという観念への評価などである。

また野武担当の授業においては，後代のバラモン哲学諸派において人間や世界がどのように見られていたのかということについて考える。

授業の到達目標

サンスクリットによってかたちづくられた諸宗教あるいは諸思想は、その言語的厳密さからもたらされる難解さや排他性ないしは保守性をもつ一方で、非常にふかい倫理性を湛えたものである。ダルマ（法)、すなわちただしい規範に則った行為を宗教的救済＝解脱の基本的な条件の一つとすることにおいて、インドの諸宗教は、教理上のさまざまな差異を超えて、共通する。その倫理的な基礎付けがいかなる思想的背景をもつのかを理解することは、倫理や道徳が変質し崩壊しつつあるように見えるわれわれの時代へのなんらかの指針を探りだすためにも、いくばくかの意義をもつことであるとおもわれる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　75%　　期末の4千字程度のレポート
●**平常点**　25%　　授業への取り組みかた
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

サンスクリットの語学の授業ではありません。おもに古代のインド・ヨーロッパ語族において形成された思想と宗教にかかわる知識への初歩的な導入を主旨とします。

科 目 名	サンスクリットの世界2　インド思想入門							
担当者名	林　慶仁　他／野武　美弥子							
共通	2単位	秋学期	水曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

サンスクリット語はインドの古典文化を中心的に担ってきた言語である。近代以前のインドの思想の多くはこの言語により表現されてきた。日本人になじみの深い仏典も、その多くはサンスクリットで伝えられてきた。その一方で、インドでは古代からサンスクリット以外の言語も使用されており、インド思想や文化全体を考える場合にはサンスクリット以外の言語も視野に入れる必要がある。このクラスでは、まずは、こうしたサンスクリットとその他のインド諸語の関係、および、それらの言語とインドの諸思想の関係を見る。その上で、これらの言語により展開されてきたインド思想の一端を紹介する。 講座の前半では、仏典及びヒンドゥー教聖典をいくつか取り上げ、その和訳を講読する。仏教の中における異なった考え方や、仏教とヒンドゥー教の世界観の違いを、実際にテキストを読むことを通して発見し、思想史の大まかな流れをつかむことを目指す。講座の後半では、前半の文献講読の中に出てきた考え方を、歴史的・体系的に解説する。

なお、サンスクリット語については、必要に応じて適宜単語等を説明するにとどめる。

授業の到達目標

サンスクリット語のインド文化における位置付けについて理解する。インド古代思想史の大まかな流れを把握し、バラモン教、仏教、ヒンドゥー教それぞれの特徴的な考え方について理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　講義で得た知識を踏まえ、いかに自身の言葉で与えられた課題について論ずることができるかどうか（内容と提出日は追って指示する）
●**平常点**　50%　　授業への取り組みかた
●**その他**　0%

科 目 名	アラビア語から学ぶアラブ文化1							
担当者名	冨永　正人							
共通	4単位	春学期	水5時限	金4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

自己紹介などに必要な現代標準アラビア語（フスハー）の基本表現を身につけていくと同時に、アラビア語を話す人々や地域、文化について学びます。

授業の到達目標

① アラビア文字を読み、書くことができる。
② 自分紹介など個人的な情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。(CEFRのA1レベル)
③ アラビア語が話されている地域や文化に関する知識と関心を高める。

成績評価方法

●**試験**　50%　　授業目標の達成度を、筆記試験と口頭試験で評価します。
●**レポート**　20%　　自分の身の回りからアラビア語を見つけて、簡潔で魅了的なレポートにまとめてもらいます。
●**平常点**　30%　　毎回の出席状況や授業への取り組みに加え、月に1回の割合で復習小テストを行います。

●**その他**　0%

科 目 名	アラビア語から学ぶアラブ文化2							
担当者名	冨永　正人							
共通	4単位	秋学期	火2時限	水5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

初級レベル（CEFRのA1～A2レベル）のタスク遂行に必要な表現とその文法を学びながら、アラビア語を話す人々や地域、文化についても学びます。

授業の到達目標

① 自分にとって身近で日常的な事柄を簡単なアラビア語で表現できる。（CEFRのA1～A2レベル）
② アラビア語が話されている地域や文化に関する知識と関心を高め、理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　70%　　授業目標の達成度を、筆記試験と口頭試験で評価します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　毎回の出席状況や授業への取り組みに加え、月に1回の割合で復習小テストを行います。
●**その他**　0%

講義

科 目 名	初級チベット語1　中央アジア仏教圏の標準語を学ぶ							
担当者名	野村　正次郎　他／三代　舞							
共通	2単位	春学期	木曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

チベット語は文法構造が日本語に大変よく似ており、比較的習得しやすい言語のひとつである。

チベット語には口語・文語の二種類があり、口語には様々な方言や派生言語があるものの、チベット全域から、北インドのラダック・ブータン、ネパールをはじめとし、大変広い地域で使用されている。これに対し文語は、モンゴル、ロシアなどの口語のチベット語を使用しない地域でも使用され、世界で最大の仏教文献コレクションが現存している。

チベット語の基礎を習得することで、北インドからシベリアまで馬に乗って長い旅に出ることも決して夢ではなくなるだけでなく、深淵な仏教哲学から密教にいたるまでの豊富な文献群を紐解くための入り口に立つことにもなる。本講義では、まったくの初心者を対象に、チベット語の基礎となる口語・文語を同時に学び、日常会話の基礎能力と、チベット語文献を読解するための基礎能力を習得する。

授業の到達目標

・チベット語の文字の読み書き、標準的な発音をマスターする。
・口語チベット語の基本を学び、チベット語の日常会話ができるようになるための土台をつくる。
・文語チベット語の基本を学び、チベット語の文章を読解するための土台をつくる。

成績評価方法

出席状況・課題提出状況・小テストなどを合わせて総合的に判断する。

科 目 名	初級チベット語2　チベット語マスターへの入門							
担当者名	野村　正次郎　他／三代　舞							
共通	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義は、春期「初級チベット語1」の続編である。春期に引き続き、チベット語の基礎となる口語・文語を同時に学びながら、日常会話能力と文献講読能力を身につけることが本講義の目的である。チベット語を聞き、話し、読み、書くことができるようになるために、チベット語に固有な様々なジャンルのコンテンツを学ぶことで、チベット語の基礎をマスターして、旅行・交流・読書・調査・研究などができるようになることが本講義の目的である。

授業の到達目標

・口語チベット語で日常的に最も頻繁に使用される基本的な文例と語彙を学び、置き換え練習を通じて、聞く・話す能力を高める。
・文語チベット語で頻繁に使用される基本的な文例を学び、文献の読解と和訳能力の基礎をつくる。

成績評価方法

出席状況・課題提出状況・小テストなどを合わせて総合的に判断する。

科 目 名	現代文化概論1　Contemporary Indian Culture							
担当者名	ホサイン　タニア							
多元	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

Every society has its own culture; the way people live and express themselves, and how they value objects and thoughts. India is also not an exception. It has its own culture and heritage. The study of Indian society has expanded rapidly since the late 20th century. This course will discuss the contemporary Indian culture with reference to the past. Traditions, religions, festivals, music, dance, clothing and movies are an important part of the contemporary Indian society.

Indian Culture is one of the oldest cultures in the world. India had an urban civilization even during the Bronze age. The Indus Valley Civilization (Harappan Civilization) dates back to 3300 BC – 1300 BC.

Distinct cultures that are different from each other co-exist together in a single country. Thus, In India there is unity amidst vast cultural diversity. The way people live in India is reflected its culture. Students will know many unknown aspects of India.

授業の到達目標

The objective of the course is to focus on the language, religion, culture and society of contemporary India, beginning with independence in 1947.

成績評価方法

●**試験**　40%
●**レポート**　30%
●**平常点**　20%
●**その他**　10%

科 目 名	現代文化研究1　芸術文化史（バレエの発祥から現代のダンスまでの変遷）							
担当者名	柳下　恵美							
多元	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

舞踊はその時々の文化、社会によって形作られ、時には相互に影響し合うことがあります。ダンサーが自身の舞踊を披露する場合、通常その舞踊に見合った空間と伴奏が必要となり、美術、音楽、詩、演劇、文学、歴史等の理解が重要な要素となります。これらを踏まえ、芸術文化史は舞踊（バレエとダンス）に主眼を置き、

・舞踊以外の芸術（美術、音楽、詩、演劇等）や文学、歴史に興味を持っている学生
・舞踊について知識がないが興味がある学生
・舞踊についてもっと専門的に知りたい学生

いずれをも対象に、幅広く門戸を開きます。

この授業は、16世紀に発祥した舞踊（バレエ）から現代のダンスに至るまでどのような経緯があったのかについて、其々の時代の代表的ダンサーを注視しつつ、舞踊のスタイルと特徴、身体のムーブメントの進化、文化、社会、歴史的背景についても講義します。さらに、教員自身のバレエ・ダンス経験も交え、国内外で鑑賞した作品やダンサーについても触れます。

授業では、関連文献や資料（写真、絵画、雑誌、舞踊の映像ほか関連するあらゆる資料）を用い、パワーポイントを使用して解説します。

授業の到達目標

・舞踊（バレエ、ダンス）の基本的知識の習得
・其々の時代に活躍したダンサーの舞踊スタイルと特徴、身体のムーブメントの進化への理解
・舞踊の変遷に応じた文化、社会的、歴史的背景ついての理解

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません
●**レポート**　30%　　授業で取り上げたテーマに関する自分なりの考え・意見を提出
●**平常点**　70%　　授業の出席状況
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	現代文化研究2　国民総監視社会についての一考察：セイラム魔女裁判から「テラスハウス」へ							
担当者名	梅宮　悠							
多元	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代文化の発信者を想起した際にはSNSが欠かせない今日となっています。SNSの浸透によって情報はより早く、より幅広く社会に拡散するようになってきました。それと同時にどの情報が必要で、どの情報が正しく、何が間違っているかの線引きが曖昧になってきているようにも思います。これは偏に発信の第一の目的がスピードになっているため、適性などが二の次になってきているからでしょう。

情報の正しくない伝達によって起こり得る悲惨な状況はアーサー・ミラーの『るつぼ』の中に見ることができます。また、情報統制によって荒廃した社会はデストピア小説の代表格であるジョージ・オーウェルの『1894年』に描かれているでしょう。ハロルド・ピンターの『温室』は病院を舞台に国家によって運用されている不可思議な世界観を表現しています。これらの作品をベースに「監視システム」というキーワードを考えたく思います。

監視という行為が何も新しいものではない事実を確認したところで、リアリティー・ショウとして放映されるTV番組を検証していきたいと思います。オランダから誕生した「Big Brother」はまさしく『1894年』から発生していますし、日本の「テラスハウス」も住人たちの生活を傍観することで番組が成り立っていると言えます。監視行為には人々の序列が関係してきており、かつての封建社会にあった明確な階層がなくなりつつある現代だからこそ、情報を使ってより上位を一瞬であっても目指すのではないでしょうか。本講義を通して、普段何気なく目にしている情報が現代文化のあり方を左右している可能性について、文学作品を引き合いに出して考えてみたく思います。

講義中には可能な限り映像資料などを活用しながら、作品の描いている情景イメージの助けになるよう努める予定です。しかし、中にはそうした補助が供給できないものも含まれているので、扱われる作品は各自読んでみることをお勧めします。

授業の到達目標

現代に生きる人間として、情報を取り囲む監視システムについて考え、その危険性と重要性を文学作品から理解することが目標となります。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特に行わない
●**レポート**　0%　　特に行わない
●**平常点**　100%　　積極的な出席とコメントシートによって授業への取り組みを評価する
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL
以上は2020年1月時点での予定です。スケジュールの微細な変更については初回授業など、随時提示していきます。

科 目 名	英米演劇と近代　オスカー・ワイルドとバーナード・ショーから紐解くイギリスの近代							
担当者名	梅宮　悠							
多元	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要
本講義では広くイギリスの近代にあって活躍していたとされる二人の作家の戯曲を扱いしながら、当時の状況や過去とのつながり、そして未来への展望を読み解いていくことを目的にします。

まず導入として19世紀に入って再燃した演劇熱をきっかけとなった俳優や、彼らを取り巻いた演劇事情、歴史的な背景から検証します。

具体的な戯曲として、オスカー・ワイルドの作品からは上・中流階級の日常と婚姻とうものが持つ摂理と問題が垣間見えます。特にワイルドの戯曲人気の始まりに位置付けられる『ウィンダミア卿夫人の扇』*Lady Windermere's Fan*（1892）は結婚後の生活が、『真面目が肝心』The Importance of Being Earnest（1895）ではそこにたどり着くまでの過程を知ることができるでしょう。また、ヴィクトリア朝の終焉期に書かれた『シーザーとクレオパトラ』*Caesar and Cleopatra*（1898）はエリザベス朝のウィリアム・シェイクスピアの作品を意識して書かれたと言われています。シェイクスピアの『ジュリアス・シーザー』なども合わせて触れることで新旧の入れ替わりが感じられるはずです。第一次世界大戦終結期に登場した『聖女ジャンヌ・ダーク』*Saint Joan*（1923）は、組織的な権力や封建社会への反発の姿が窺えるでしょう。

本講義を通じて、作家たちの残した戯曲が近代の一部をどのように表現していたか検討し、時代の推移と変化を戯曲の世界から見つめてみたい。

講義中には可能な限り映像資料などを活用しながら、戯曲の描いている情景イメージの助けになるよう努める予定です。しかし、中にはそうした補助が供給できないものも含まれているので、扱われる戯曲は各自読んでみることをお勧めします。

授業の到達目標
取り扱われる戯曲に触れ、そこから激動のヴィクトリア朝の終焉から第一次世界大戦終結までの期間に、作家がどのような表現活動をしていたか認識することが目標となります。

成績評価方法
●**試験**　0%　　特に行わない
●**レポート**　0%　　特に行わない
●**平常点**　100%　　積極的な出席とコメントシートによって授業への取り組みを評価する
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL
以上は2020年1月時点での予定です。スケジュールの微細な変更については初回授業など、随時提示していきます。

科 目 名	イギリス民衆文化論　現代イギリス文化							
担当者名	小田島　恒志							
多元	2単位	秋学期	木曜日	1時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要
イギリスの文化人類学者 Kate Fox の *Watching the English* を読み、イギリス人の生態にせまる。ベストセラーになるほどの「面白い」本でありながら、学者の文章であるため、しっかりとした学問的手順を（半分は洒落で）踏んでいる。今後の専門研究に必要な文献読解の練習を兼ねるつもりで読み込んでほしい。

授業の到達目標
書かれている内容を知識として体得するだけでなく、書かれている英語そのものから「イギリスらしさ」を感じられるようにする。

成績評価方法
●**試験**　80%　　14回目の授業中に試験を行い、理解度を確認する。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　20%　　出席などの activity を総合的に評価する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	ポストコロニアリズム							
担当者名	チャン　エドワード　ケイ							
多元	2単位	秋学期	金曜日	4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要
Postcolonialism is an intellectual school of thought that deals with the phenomenon of colonialism and its effects on the cultures and peoples of the countries that are former colonies. Postcolonialism is practiced in several disciplines, but came to prominence in Western universities mostly through literary studies. This course will provide an overview of the various theories, issues, and situations that constitute what we call "postcolonialism." The course is modeled after John McLeod's Beginning Postcolonialism（2010）. Class sessions will be conducted entirely in English.

授業の到達目標
Students will learn about the various aspects of postcolonialism and how to apply postcolonial theory to real-world situations. Students will also develop their English-language reading, writing, listening, and discussion skills.

成績評価方法

（subject to change）
Two exams: 60%
Presentation: 30%
Participation/In-class activities: 10%
TOTAL: 100 %

科 目 名	アジアの近代　清朝から近代中国へ							
担当者名	柳澤　明							
多元	２単位	春学期	木曜日	４時限	１年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

「アジアの近代」を包括的に論じることは難しいので、本講では、現代中国の領土・民族的枠組のもとを築いた清朝を扱う。まず、清朝の形成・拡大過程、清帝国を中心とした広域秩序の構造を概観し、続いて、19世紀以降の社会変動と「西洋の衝撃」によって伝統的秩序が解体していく過程を検討するが、その際、「境界」に着目する。前近代のアジアにも国境が存在しなかったわけではないが、厳密に管理された国境によって国土が隙間なく取り囲まれていなければならない、という観念はなかった。ところが、清帝国の解体と並行して、そこに明確な国境をもつ近代国家としての「中国」が姿を現してくる。そのダイナミズムを検討してみたい。また、今年度は、特に清朝と日本との関係の変化にも注意を払いながら進めていく。

本科目は、「ディプロマポリシー」、「カリキュラムポリシー」にいう「講義」に該当する。

授業の到達目標

清朝を例にして、アジアにおける前近代から近代への移行のありかたに対する理解を深め、現代東アジアに残された諸問題の淵源を探る手掛かりとする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　70%　　期末に授業内容に関連するレポートを課す。テーマ設定の明確さ、関連する先行研究・資料の読み込みの程度、論理構成、オリジナリティを総合的に評価する。
●**平常点**　30%　　授業への参加度による。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

図像資料なども利用して、わかりやすく進めていきたい。

科 目 名	アジア社会とイスラーム　イラン地域の歴史と文化							
担当者名	高木　小苗							
多元	２単位	春学期	水曜日	３時限	１年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

イランは、近年では経済制裁やアメリカとの関係で注目されることが多い国ですが、昨年、日本との国交樹立90周年を迎えたように、親日的なことでも知られている国です。この授業では、イスラームと関係性が深いアジア地域のなかでもイランに焦点をあて、歴史的にイランまたはペルシアと呼ばれてきたイラン高原を中心とする地域の歴史・文化を学びます。7世紀にイラン地域に伝わったイスラームは、この地域の伝統文化と融合しながら、その歴史と文化に現在まで多大な影響を与えてきました。またイラン地域では、イスラームの聖典『クルアーン』の言語であるアラビア語とともに、イランの公用語であるペルシア語が前近代から広く使用され、独自の文化を展開してきました。講義では、イラン地域の歴史と文化を、特にそのイスラーム文化とペルシア語文化に着目しながら概観し、中東史・アジア史の流れのなかに位置づけて捉えることを目指します。

授業の到達目標

（1）イラン地域の歴史・文化に関する基礎的知識を習得すること。
（2）イスラームという宗教とその文化の多様性・共通性を理解すること。
（3）イラン地域の歴史をアラブ地域の歴史と相対化し、中東史・アジア史の流れのなかに位置づけること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　期末レポートを実施します。 評価に際しては、授業内容の理解度とともに、授業で学んだことを応用して自分なりの考察をどの程度展開できているかという点を重視します。
●**平常点**　40%　　各回の授業終了後、コメントシートを提出してもらい、授業内容の理解度・授業への積極性を評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

特になし。

科 目 名	伝統文化概論1　日本の絵解き							
担当者名	吉原　浩人							
多元	２単位	春学期	火曜日	５時限	２年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

本講義では、日本の絵解きについて、映像や絵画資料を参照しながら概説します。絵解きとは、物語性・思想性のある絵画の内容を解説・説明することです。宗教的な絵画を利用しながら、参詣者を教導したり、啓蒙したりすることを目的としていました。文字の読めない庶民にとって、絵画によって説明される宗教的事跡は、具体的なイメージが眼前に展開するため、理解しやすいものであったでしょう。

まず、インド・中国・朝鮮半島などにおける絵解きの展開を概説した後、日本の絵解きについて、個別の事例を見ていきます。具体的には、『五趣生死輪図』『熊野観心十界曼荼羅』などの仏教的世界観を示す絵画、『善光寺如来絵伝』や寺社参詣曼荼羅など寺社縁起・境内図、『聖徳太子絵伝』や『親鸞聖人絵伝』などの偉人・高僧伝、『苅萱親子御絵伝』など在地の物語について、吉原自身が撮影した貴重なビデオや、市販のDVDの映像、そして中世以来の絵画資料を利用しながら検討します。

また、講義と並行して、オンデマンド授業により、インターネットと図書館を利用した参考文献の検索などについて指導しま

す。

授業の到達目標

仏教の世界観や寺社の縁起・高僧の伝記などを、庶民にもわかりやすく説いた絵解きの歴史と実態についての基本的な知識を持ち、映像や絵画、各種文献資料を通して理解することを目的とします。

成績評価方法

レポート80%：期末に絵解きに関するレポートを課しますが、詳細は授業中に指示します。
出席20%：三分の二以上の出席が、単位授与の必要条件となります。

備考・関連URL

原典を提示して読解するので、高等学校卒業程度の古文・漢文の基礎知識が必要です。しかし、初学者でも不安を持つ必要はありません。意欲ある学生の受講を望みます。

科目名	伝統文化概論2　中国哲学の思考様式							
担当者名	森　由利亜							
多元	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

講義

授業概要

老荘思想や儒家思想を参照しつつ、中国哲学にはどのような特色があるのかを考える。また、中国哲学からこの世界を見ると、そのように見えるのかを考えて見たい。実践的な観点を含みながら、中国哲学入門を試みる授業である。

授業の到達目標

中国思想について大まかな理解を得ることを目標とする。また、伝統的な哲学について考えることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　90%　　授業の進度に応じてレポートを出題する。学期中に多くとも三回、少なくとも一回は課題を出します。
●**平常点**　10%　　毎回のリアクションペーパーによって評価します。
●**その他**　0%　　出席が全体の三分の二に満たない場合、成績評価の対象と致しません。ご注意下さい。

備考・関連URL

なし

科目名	伝統文化研究1　仏教実践の諸相と、漢文禅観経典の成立背景							
担当者名	山部　能宜							
多元	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

インドにおこった仏教の禅定（禅観）実践は，やがて中央アジア（シルクロード）を経て東アジアに伝えられ，多彩な展開を遂げることとなる．本講義では，そのような実践の諸相を紹介したい．はじめに，初期仏教における代表的な修行法の一つである「念処」（注意深さ、mindfulness）の内容を概観したのち、仏教における実践のさまざまな側面を紹介する．講義の後半では，『観無量寿経』等漢文のみで現存する禅観経典に焦点をあて，それを関係するインド・中国文献，さらには中央アジア（シルクロード）の石窟壁画と比較検討することにより，その成立背景を明らかにすることを試みる．そのような多角的な検討を通じて，シルクロードにおける東西文化交流の一端を明らかにするとともに，学際的な研究手法を身につけることを目指したいと思う．なお、最初の導入部分には一部「仏教概論」と重なる部分がある。

授業の到達目標

人文系の研究において，文献資料が重要な位置を占めることはいうまでもないことであるが，それ以外にも，石窟の構造・壁画の内容・現在の僧院に伝わる実践など，さまざまな手掛かりを使って，五世紀前後の中央アジアにおける行者達の実践形態を多角的に解明していきたい．そのための方法論を提示できればと思う．思想系の学生のみならず，美術史や心理学等を専攻する学生にも，参考となる授業にしたいと考えている．

成績評価方法

●**試験**　100%　　講義内容に関する理解を学期末に確認する。
●**レポート**　0%　　今回は原則として課さない。ただし、休講の補完措置としてレポートを課した場合には、評価に加味する。
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

備考・関連URL

一部の講義でインドの信仰に由来する性的なイメージに言及することがある。

科目名	伝統文化研究2							
担当者名	井上　文則							
多元	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

古代ローマ帝国で流行した宗教の一つにミトラス教がある。ミトラス教とは、ペルシアに起源をもつとされる密儀宗教で、その最盛期にはキリスト教最大のライバルであったとされている。しかし、4世紀末にキリスト教が国教化されると、ミトラス教は次第に衰微し、消滅した。ミトラス教の教義を記した経典なども今日残っていないため、この宗教には不明な部分が多い。本講義では、このようなミトラス教の実態について考察することを通して、キリスト教の伝統とは異なる、もう一つのヨーロッパの側面に迫りたい。 本講義は「ディプロマポリシー」の「人と情報が地球規模で交流し、文化が複雑に絡まりあい、多面的な様相がみられる時代を生き抜くための幅広い教養をもった人材を育成する」という目的に沿ったものである。

授業の到達目標

古代ローマ帝国の宗教についての知見を深める。

成績評価方法

●**試験**　60%　　持ち込み不可で実施する。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　40%　　リアクションペーパーの内容によって評価する。

●**その他**　0%　　なし

科 目 名	**神道概論**　日本の神（カミ）信仰の具体相							
担当者名	久野　俊彦							
多元	2単位	春学期	水曜日	5時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

神道について、一般には「神道は、太古の昔から連綿と続く、自然発生的な日本固有の民族宗教であり、現在の神社は、古代以来の神道を伝えている場所である」と理解されています。しかし、今私たちが目にする神道や神社は、古代以来のものではなく、仏教・儒教などの影響を受けつつ理論化され、明治初期の神仏分離政策によって、近代の創造ともいえる変容を経て現在に至っています。日本の神（カミ）信仰は、固有・不変なのではなく、歴史的に変容して現在の神道や神社として目の前にあらわれています。

本講義では、まず現在見られる神社の構造や神道の儀礼から考え始め、近世以前の神社の景観を考えます。神社をフィールドワークすることで、過去に遡ります。次、に古代・中世・近世の神への信仰と神仏習合の文化を理解し、神仏分離政策から形成された近代の国家神道を理解します。さらに、大自然への信仰からから日本の神への信仰を考え、神を祀る人びと、神を高める祭祀の基本構造、神と人のとエコロジーを考えます。カミ祀りと祭り儀礼の具体的な事例から、さまざまな神への信仰の形態と文化を理解していきます。

授業の到達目標

授業の題目は「神道概論」ですが、「神道」という語にとらわれずに、日本の神観念や神（カミ）信仰、神仏習合文化の特質と実態を認識し、「神道」を入り口として、日本の信仰や行事・儀礼について、多面的な考え方を持つことが目標です。

成績評価方法

●**試験**　50%　　記述式の試験を行います。
●**レポート**　40%　　レポートの課題内容と作成要領を授業の中で説明します。
●**平常点**　10%　　授業でのリアクションシートを提出してください。
●**その他**　0%　　ありません。

科 目 名	**日本の伝統文化**　日本禅の歴史と文化							
担当者名	西山　美香							
多元	2単位	秋学期	月曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

「ZEN（禅）」は現在、世界で通用する言葉です。
日本人にとっても、禅と関わる思想や文化は、日本の思想・文化として認識されています。
しかし本来、禅は中国で大きく発展した思想・文化であり、憧れの最先端の思想・文化として日本人が輸入したものでした。
つまり中国的な思想・文化が、現在は日本の思想や文化として、日本人にも世界的にも認識されています。
禅文化を手がかりに、日本文化の形成の過程や、日本人の美意識について考えてみたいと思います。

授業の到達目標

日本禅の歴史と文化について基本的な知識を習得する。
日本の思想や文化について考える、方法や論点について習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　80%　　期末レポートにより到達度を評価する。
●**平常点**　20%　　質問やコメントなど授業参加の姿勢を評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	**チベット文化論**　チベット仏教入門							
担当者名	伊藤　瑞康							
多元	2単位	秋学期	月曜日	2時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

古くから仏教国として知られるチベットは、8世紀後半に仏教が本格的に受容されてより現在に至るまで、仏教思想がその文化の柱となっています。また、思想的にはインド仏教の伝統、とくに後期インド仏教を直接的に受け継いで発展しており、チベット仏教を学ぶことにより、仏教の全体像を知ることができます。

本講義では、チベットの文化を理解するための重要な手がかりとして、チベットにおける仏教思想と歴史について、その特色と意義を学ぶことを主眼とします。とくに、チベットでもっとも重要かつ根本的な教義であるとされる中観思想については、哲学的な考察を加えていきたいと思います。

また、チベット仏教を深く理解するためには、インド仏教思想などとの比較考察も必要であるため、チベット以外の仏教思想についても適宜概説します。

教理的思想的側面だけではなく、可能な限り、チベット人の風土や生活・土着の信仰などの文化的側面についても、映像資料を援用しつつ紹介していき、チベット文化に対する関心や問題意識を涵養できるよう講義を進める予定です。

授業の到達目標

チベット仏教における基礎知識をやしない、チベットの文化に対する理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　60%　　学期末にレポートを課します。
●**平常点**　40%　　出席や授業に対する取り組みを評価します。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	英米演劇の伝統と変容							
担当者名	梅宮　悠							
多元	2単位	夏クォーター	火6時限	金3時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

演劇と聞くと、テレビや映画に出演している有名俳優を揃えて大型の劇場で上演されるものから、街中の小さなスペースで演じられるものまで様々な形態があります。それらの差異は一概に質の違いとして片付けることはできず、表現・伝達手法の差としても認識されます。種々の主張を内包しつつも、民衆の娯楽として存在している演劇はどのようにして現状にたどり着いたのでしょうか。本授業では英国演劇に焦点を合わせて、その初期から現代に至るまでの流れをいくつかの作品に触れながら概観します。これにより各時代ごとに特徴的な切り口で演劇というものが作られ、人々の心に訴えかけ、保存されてきたかが明らかになるでしょう。講義の中では翻訳だけに頼らず、原文にも触れ、作家が意図した表象を解析しつつ、より具体的なイメージを持ってもらいます。後世の人がそれらをどのように解釈し、表現したかを確認するために、可能な限り映像資料も駆使していく予定です。

なお、英文が紹介されることが多いですが、必ず解説が加わるので、特に高度な英語力は求められません。また、毎授業ごとに提出を求められるレビューシートには意見、感想、質問を書いてもらい、それも成績の一環とさせてもらいます。優れたコメントや返答の必要を感じたものは次回の講義に匿名で触れていきます。

講義

授業の到達目標

演劇史として作家名や作品名、それらの概略を覚えるのではなく、全体的な流れの中での作品同士の関連性や各時代における位置づけの理解を目指します。

成績評価方法

平常点評価 100%（出席 20% / コメントシート 80%）

科 目 名	アジア・日本文化概論1　東洋思想のキーワード――漢語と日本語の間で考える							
担当者名	垣内　景子							
多元	2単位	秋学期	金曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本人にもなじみ深い「仁」「義」「礼」「智」「忠」「孝」などのキーワードに注目し、東洋思想（主に儒教）の世界観や価値観を概説する。あわせて、中国と日本の差異についても比較考察する。伝統的な概念を学ぶことを通して、現代の日本に生きる自分たちの思想を歴史的・相対的に見つめ直してみよう。

授業の到達目標

東洋思想の諸概念についての基礎知識を学び、日中の比較を行うことを通じて、アジアにおける日本文化の特徴を客観的に分析できる力を養う。

成績評価方法

- **試験**　70%　　第15回目の授業中に、理解度を確認するための試験を行う。
- **レポート**　0%
- **平常点**　30%　　授業における積極性および授業後に提出するリアクションペーパーにより評価する。
- **その他**　0%

科 目 名	アジア・日本文化概論2　前近代の日本文化							
担当者名	河野　貴美子							
多元	2単位	秋学期	木曜日	2時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

現在に至る日本文化の基底はいかにして形成されてきたのか。古代から近世まで、前近代における日本文化の諸相を概観する。

言語、思想、宗教、文学、芸術など、各方面における事象を通時的に見ていくとともに、それら相互の関連性にも目を配りながら、分野横断的、総合的に日本文化のありようを捉えていく。また、中国など、日本以外の地域との文化交流、影響関係も視野に入れつつ、日本文化の特質について見ていく。

なお授業では、歴史史料や文学作品などの文献資料や、美術品、遺物などを幅広く扱い紹介していきたい。

授業の到達目標

前近代における日本文化についての理解を深める。また、さまざまな資料や文物に触れ、それらに内包されている文化遺産としての意義を多角的に読み取っていくことができるようにする。

成績評価方法

- **試験**　50%　　理解度の確認
- **レポート**　0%　　行わない
- **平常点**　50%　　授業への参加状況
- **その他**　0%

備考・関連URL

※2012年度からこの科目は名称を変更しています。2011年度まで「日本文化概論1」において単位取得をしている場合、この科目を履修できません。

科 目 名	アジア・日本文化研究1　アイヌ近現代史を紐解く							
担当者名	田辺　陽子							
多元	2単位	春学期	水曜日	4時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

近年、人気漫画の影響もありアイヌ民族の歴史や文化に対する関心が高まってきている。アイヌの人々は日本列島北部周辺、とりわけ北海道に先住し、独自の言語や精神文化やを発展させてきた。昨年4 月に成立した「アイヌ民族支援法」によってアイヌの人々は日本の法律上初めて「先住民族」として明確に位置付けられ、2020年4月末には北海道白老町にアイヌ文化発信の拠点として「民族共生象徴空間（ウポポイ）」が開設される予定である。本授業では、明治維新から現代までのアイヌ史を「フ

ロンティア」という視座から捉えなおすことで、近代国家日本の形成の陰で見過ごされてきた北方先住民族の歴史や彼らの経験について新たな考察を加える。

授業の到達目標

アイヌ民族の近現代史および文化について基礎的な知識を身につけ、多角的に現代の日本社会を理解する。

成績評価方法

●**試験**　50%　　学期末の試験（第15回目の授業）
●**レポート**　20%　　授業中の小レポート
●**平常点**　30%　　出席状況及び授業への貢献
●**その他**　0%

備考・関連URL

＜備考＞
・授業内容は受講生の関心に合わせて多少変更する可能性がある。
・講義内容の理解を深めるため、映像資料や史料を適宜用いる。
・詳細は初回時に説明するが、やる気のある生徒には第14回目の授業でグループまたは個人単位でプレゼンテーションを行う機会を設けたいと考えている。
・教科書は用いないが、参考文献については適宜指示する。
・双方向の授業を心掛けるので、積極的に参加することが望まれる。

＜関連URL＞
・アイヌ文化交流センター（東京）　https://www.ff-ainu.or.jp/web/overview/cultural_exchange/index.html
・公益財団法人　北海道アイヌ協会　https://www.ainu-assn.or.jp/
・民族共生象徴空間（白老）　https://ainu-upopoy.jp/
・内閣官房アイヌ政策推進室　https://www.kantei.go.jp/jp/singi/ainusuishin/

・United Nations For Indigenous Peoples　https://www.un.org/development/desa/indigenouspeoples/

科 目 名	アジア・日本文化研究2　民族・宗教からみた清朝							
担当者名	柳澤　明							
多元	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中国東北（満洲）の一隅を占める小集団であった満洲（Manju）人は、16世紀末から勢力を拡大し、中国内地（旧明朝の領域）に加えて、モンゴルや東トルキスタン（新疆）なども統合し、世界有数の大帝国―清朝を作り上げた。現代中国の原型となったこの帝国においては、多様な文化をもつ諸地域・諸民族が相互に影響しあい、微妙なバランスを保っていたが、そこには同時に、後の帝国解体につながる矛盾もひそんでいた。そこで、清朝における「民族」と「宗教」のありかたを、特に文化的側面から探求し、同時代に世界の他地域に存在したいくつかの「帝国」との比較も視野に入れつつ、多元帝国としての清朝の実像を探る。

本科目は、「ディプロマポリシー」および「カリキュラムポリシー」にいう「講義」に該当する。

授業の到達目標

歴史上の多元帝国である清朝の成り立ち・構造に対する検討を通じて、中国をはじめとする現代の多民族国家が抱える諸問題の淵源を理解する手がかりを得る。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　70%　　授業内容に関連するレポートを期末に課す。テーマ設定、先行研究・資料の読み込みの程度、論理構成、オリジナリティを総合的に評価する。
●**平常点**　30%　　授業への参加度による。
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

授業内容の理解を助けるため、画像資料なども利用して、わかりやすく進めていきたいと考えています。

科 目 名	アジアの思想的基盤　朱子学入門							
担当者名	垣内　景子							
多元	2単位	春学期	金曜日	2時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

本講は、孔子に始まる中国儒教史の中で、朱子学が登場した経緯を確認し、朱子学の基本概念と世界観を概説する。

中国で生まれ、日本・朝鮮を含む東アジアの広い地域の近世・近代の人々の思想に絶大の影響を与えた朱子学を掘り下げてみることを通して、今ここに生きる自分自身のものの考え方を見つめ直してみよう。

授業の到達目標

東アジアの思想原理である朱子学を知ることを通して、現代に生きる自分自身のものの考え方を客観的に見つめ直し、未来に向けてどのような哲学的問いかけが可能かを考える力を養うことを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第15回目の授業中に試験を実施し、理解度の確認をする。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　授業に対する積極性および授業後に提出するリアクションペーパーにより評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	内陸アジア史 「世界史」におけるその重要性							
担当者名	高木　小苗							
多元	2単位	秋学期	水曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

内陸アジアは、近年では中央ユーラシアとも呼ばれるユーラシア大陸の中央部に広がる地域です。この地域の特徴として、古くから北の草原地帯の遊牧民と南のオアシス諸都市の定住民が相互に影響しながら共生してきたこと、多様な言語・宗教・文化を内包することなどが挙げられます。内陸アジアは歴史的に、東アジア・南アジア・西アジア・ヨーロッパ地域からは、「侵入者」である遊牧民の故地、あるいは「周縁の地」とみなされてきたと言えます。しかし、この地域の遊牧民の軍事力や大規模な移動はユーラシア諸地域の歴史を左右してきたと言っても過言ではなく、オアシス諸都市の農耕民・商工業者はユーラシアの各地を結ぶ通商・文化交流に多大な貢献を成してきました。そこで、この授業では、内陸アジアの歴史を、同地域出身の人々の動静が「世界史」に及ぼした影響を重視しながら概観します。

授業の到達目標

（1）内陸アジアの歴史・言語・宗教の多様性に関する基礎的知識を習得する。
（2）内陸アジアの動静が世界史（ユーラシア大陸の歴史）に与えた影響について理解する。

講

成績評価方法

●**試験**　60%　　第15回目の授業時間内に試験を実施します。評価に際しては、授業内容の理解度と自分なりの考察の展開・深さの度合いを重視します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　各回の授業終了後にコメントシートを提出してもらいます。授業への積極性や理解度を評価します。
●**その他**　0%

義

備考・関連URL

特になし

科 目 名	歴史と文学 前近代日本人の異国観							
担当者名	伊川　健二							
多元	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

前近代の日本人は、他の国々をどのように認識し、表現していたのだろうか。基礎的な事柄を平易に解説しつつ、狭義の歴史史料と、文学などに表われた異国観をできるだけ対照しながら見比べ、それらの共通点と相違点を文字、画像資料および地図などを駆使して概観する。

授業の到達目標

講義はパワーポイントおよび配布資料による講義形式である。この講義を受講することで、受講者は前近代の日本における歴史史料と文学作品のなかで、外国がどのように認識されていたかを説明できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　100%　　定期試験
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　0%　　なし
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	日本の英語教育 English Education in Japan							
担当者名	ライアン　スティーブン							
多元	2単位	秋学期	月曜日	4時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

This course will begin by looking at the historical background to English education in Japan and come up to date through discussions of the demands globalisation requires of Japanese learners and educators. While deepening understandings of the role of English as a language of international communication in the era of globalisation, the classes will consider the linguistic content and teaching approaches suitable for Japanese education. The seminar will also encourage students to reflect on their understandings of English education in Japan.

授業の到達目標

The main aim of the course is to develop an understanding of the linguistic content for primary and secondary level English education in Japan..

成績評価方法

In-class participation, including assignments……50%
Research paper……50%

科 目 名	ヨーロッパ・地中海・イスラーム文化概論1 ジャーナリズムから見るロシアの近代							
担当者名	松本　隆志							
多元	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

ヨーロッパの周縁に位置するロシアは17世紀末頃から西欧の進んだ社会的・文化的諸制度を取り入れることで近代化をはかってきました。そのように外部から移入された「近代」は当時のロシアの人々にどのように受け取られ、どのようにロシア社会に根付いたのでしょうか。

この授業では「ジャーナリズム」の視点から近代ロシアの社会史・文化史を概観します。ロシアで最初の新聞の発行が始まった18世紀初頭から帝政末期（20世紀初頭）までの定期刊行物（新聞・雑誌）を取り上げ、その中で繰り広げられる時評的な言説を通して、ロシアに持ち込まれた「西欧近代」の諸制度を当時の文脈から考察していきます。

授業の到達目標

ロシアの近代化の流れを知り、西欧近代的な価値観を同時代の文脈で理解すること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　学期末にレポートを課します。
●**平常点**　30%　　出席状況および毎回のレビューシートの内容から総合的に評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業の進度や取り上げるトピックは受講生の習熟度および関心に応じて変更する可能性があります。

科目名	ヨーロッパ・地中海・イスラーム文化概論2　映画『戦争と平和』から見るヨーロッパの近代							
担当者名	源　貴志							
多元	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

現代のEUの統合・拡大・動揺の状況を視野に、現代ヨーロッパの枠組みの根底をなす近代国家の成立の問題を、歴史・思想・文化の観点から再確認するため、とくに18世紀末から19世紀前半のヨーロッパ（ならびに日本）の近代国家の成立、とくに近代の「国語」や「文学」の成立の構図を検討する。

具体的には《ナポレオン戦争》に焦点をあてる。その歴史的・思想的な背景はもちろん、ヨーロッパ各地域の、その前後の時代における「国民のことば」や「小説（国民の文学）の時代」の成立を、「《ナポレオン戦争》をめぐる事件」としてとらえ、いわゆる近代国家、近代国語、近代文学の成立の過程を政治・経済から衛生学まで、さまざまな観点から追う。また、その延長の問題として、日本の明治期におけるナポレオン崇拝から、東アジアにおける近代国語、近代文学の成立の問題についても触れたい。

なお、講義の手がかりとして、トルストイの長篇小説の映画化超大作、『戦争と平和』（1965-1967年モスフィルム制作作品）にコメントを加えながら鑑賞する。

授業の到達目標

暗記的な「世界史」の知識・理解を脱して、歴史・文学・思想の問題を「人間」の問題として、履修者が個性的かつ柔軟な発想でとらえることができる援けとなることを目標とする。

成績評価方法

レポート：95%　講義の内容を参考に各自考察したところをレポートにまとめてもらい（2000字以上。CourseN@viまたはWaseda Moodleによる提出を予定）、出席状況を勘案して、総合的に評価します。

平常点評価：5%

科目名	ヨーロッパ・地中海・イスラーム文化研究1　中東歴史人類学入門							
担当者名	大稔　哲也							
多元	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

この講義では、中東やイスラームについて、これから本格的に学ぼうとする学生を対象とします（ヨーロッパの講義ではありませんので、ご注意ください）。そのための基本的な知識を得るとともに、さまざまな角度から、総体的に中東の社会について考えます。そこでは、イスラームとは何かについて生活経験をもとに省察したうえで、イスラーム教徒（ムスリム）とキリスト教徒など非ムスリムとの共存、中東の生活慣行、聖者崇敬、死をめぐる儀礼と他界観、「アラブの春」とその後の中東社会、欧米のムスリム社会などのうちからテーマを選択して、具体的に講義します。また、毎回、映像・図像資料や現物資料を活用することによって、より鮮明な理解が得られるよう試みます。

授業の到達目標

中東やムスリム社会に対するに偏見を払拭し、中東やイスラームに関する基本的な知識を獲得できるように講義します。学生の側からも、毎回、主体的な参加が望まれます。伝えたいことがあって講義しているため、出席は必須です。

成績評価方法

試験70%、平常点30%。

備考・関連URL

・1～2年生を念頭に、この講義を設定しています。
・初回のガイダンスには、必ず参加すること。
・アラビア語をはじめとする中東の言語を、他の授業で学習することが望ましい。

科目名	ヨーロッパ・地中海・イスラーム文化研究2　「ヨーロッパ」世界の形成を歴史的に把握する							
担当者名	中澤　達哉							
多元	2単位	春学期	火曜日	6時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

ヨーロッパ諸国は現在、17世紀以来慣れ親しんできた国家システムから脱皮して、グローバル化時代に対応した新しい形態の国家へと変貌しようとしている。EUという超国家システムの出現は、まさに、そうしたヨーロッパ人の歴史的挑戦を端的に表している。ではなぜ、ヨーロッパ世界は従来の国家の枠組みを超える動きを展開しているのか。その理由はなにか。この講義はヨーロッパ世界の形成と発展を2期にわけて分析し、ヨーロッパ世界が背負い続けている歴史的課題を明らかにする。

授業の到達目標

この講義は、ヨーロッパの歴史的形成と発展を全2期（第1期＝「第一のヨーロッパ」（中世）、第2期＝「第2のヨーロッパ」（近世・近代）にわけて分析するが、その際に導きの糸となるのが「政体」のありようと「統治の技法」である。なかでも、ヨーロッパが生み出した2つの政体、「世襲王政」と「選挙王政」を軸に、ヨーロッパ諸国の統治の技法と特質、その問題点を把握できるようになることを目的とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は課さない。

●**レポート**　50%　　正確かつ論理的な試験答案を作成することができる。試験は上記の「授業の到達目標」の達成度をみることを目的とする。
●**平常点**　50%　　30%　授業内容を理解し、質問などを通して、授業に積極的に参加している。 20%　リアクション・ペーパー・感想文で到達度を文章に表現することができる。
●**その他**　0%

科 目 名	東欧世界とその歴史　現代東欧を考える							
担当者名	中澤　達哉							
多元	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
なぜ近現代の東欧の人びとは、国民や民族、あるいは国家のために命を賭してまで戦えたのだろうか。第一次世界大戦と第二次世界大戦はすべて東欧から、東欧のナショナリズムが起因して始まっている。その根源を正確に把握できるようになるための授業構成とする。授業は時系列（ナチズム期、社会主義期、新自由主義期）に沿って歴史学的方法のもとに行うが、歴史補助学としてのナショナリズム・スタディーズ（近代論系構築主義、社会構成主義、原初論系本質主義、エスノ象徴主義）の諸学説の基礎もその都度学ぶ。上記の諸学説は、特に文化構想学部の学生にとっては必ず習得してほしい基本的知見である。なお、理解の一助のために、文献史料のほか画像資料、民俗資料、映像資料も活用し、パワーポイントを使用した授業を行う。

授業の到達目標
現代のヨーロッパの国々は根深い問題を抱えている。近年では、イギリスのEU離脱問題、シリア難民受入問題、パリやブリュッセルでのテロがその典型例である。こうした問題の背後には、言語、宗教、移民、ネオナチなどと複雑に絡み合ったナショナリズムが存在する。相対的に安定した社会秩序を作り上げてきたと言われるヨーロッパで、なぜ今、こうした問題が起こるのだろうか。東欧における「国民（ネイション）」の内実の変化を切り口に、近現代ヨーロッパの重層的なナショナリズムの根源を把握できるようになること、そして、日本を含む現代世界のナショナリズムを理解する際に、以上の知見を（その限界も踏まえて）比較史的に応用できるようになること、これら2つを本講義の到達目標とする。そのため、毎回の予習・復習も必須とする。

成績評価方法
●**試験**　0%　　試験は課さない。
●**レポート**　50%　　正確かつ論理的な試験答案を作成することができる。試験は上記の「授業の到達目標」の達成度をみることを目的とする。
●**平常点**　50%　　30%　授業内容を理解し、質問などを通して、授業に積極的に参加している。 20%　リアクション・ペーパー・感想文で到達度を文章に表現することができる。
●**その他**　0%

備考・関連URL
早稲田大学ナショナリズム・エスニシティ研究所HP（http://wine-waseda.com/）および公式Twitter（@WineWaseda）

科 目 名	現代中欧世界とその歴史　ウィーン：都市のモダニズムとポストヒストリー							
担当者名	森　元孝							
多元	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	オープン科目	合併科目	フルオンデマンド

授業概要
都市と人間、生活、文化という大きく抽象的な問題を素材にして、欧米においても、また日本においても、美しいとして好きになる代表的な都市「ウィーン」について講じていく。とりわけ19世紀後半の近代都市設計とその実践、またそれに深くかかわる思想とイデオロギーを取り出しながら、また毎回、私のオリジナルの写真類を多数示しながら、そもそも「都市」とは何かということを、過去、現在、そして未来に向けて考えていく。
早稲田大学のある東京と、根本的な点で何が異なるのか、また何が同じかということを考えつつ、都市についての理論的な思考のための材料を提供していくので、皆さんが知る東京、新宿、早稲田、所沢を思いながら、これからの都市と人間、都市と生活、そして文化ということを考えて、皆さんのオリジナルな意見提示の糸口となってくれれば幸いである。

授業の到達目標
たくさんの画像を提供する授業であるが、受動的鑑賞にならないように、適宜、課題に応えてもらいつつ、諸問題を現在に結びつけて考えていく能力を養う。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　25%　　最終課題レポートの内容。
●**平常点**　75%　　講義進行中に提出していただく小レポートの内容。
●**その他**　0%

備考・関連URL
※ご迷惑をおかけしますが、この科目はカリキュラム改良のため名称を2度変更しています。2011年度まで「ヨーロッパ・地中海・イスラーム文化研究2」において単位取得をしている場合、2012年度「中欧世界とその歴史」において単位を取得している場合、この科目を履修できません。

関連URL: http://www.f.waseda.jp/wienmoto/

科 目 名	地中海文化概論　古代ローマの文化							
担当者名	井上　文則							
多元	2単位	春学期	木曜日	2時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要
イタリア半島の一都市国家ローマは、その領土を地中海周辺域へ拡大すると共に、その文化も各地に広げていった。ローマ領となった地域では、ローマ文化と在地の伝統的な文化が融合し、新たな文化が生み出され、続く時代に継承されていった。本講義では、ローマ文化とそれが生み出した諸文化の様相を見ていきたい。 本講義は「ディプロマポリシー」の「人と情報が地球規模で交流し、文化が複雑に絡まりあい、多面的な様相がみられる時代を生き抜くための幅広い教養をもった人材を育成する」

という目的に沿ったものである。

授業の到達目標

古代ローマの文化についての知見を深めるだけではなく、ヨーロッパの文化や歴史をより深く理解できるようにする。

成績評価方法

●**試験**　60%　　試験（持ち込み不可）によって評価する。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　40%　　リアクションペーパーの内容によって評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	イスラーム文化世界							
担当者名	佐藤　尚平							
多元	2単位	秋学期	土3時限	無その他	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

現代の中東地域やイスラーム教徒の国家、社会、文化について考察する。初級レベルの授業であり、基礎的な内容から説明する。可能な範囲内で、モノや視聴覚教材を使用する。このことを通じて、地球規模で人と情報が複雑に絡み合う時代を生き抜くための幅広い教養をもった人材を育成することを目指す。

【オンデマンド併用授業】本授業はオンデマンド授業を基本とし、一部のみ教室授業とします。

授業の到達目標

中東やイスラーム教徒についての理解を深める。各テーマについて調査する場合の基礎的な方法に触れる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　100%　　授業内容を踏まえてレポートを課す。
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業中は積極的に発言して議論に参加し、事前事後学習では資料を読んでくることが求められる。
暴力や性にかかわる内容や表現を扱うことがあります。

科 目 名	英語圏文化概論1　English culture in different societies							
担当者名	ホサイン　タニア							
多元	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

Learning a language is a very complex phenomenon, one has to move from grammar to logic and to the philosophy of language to overcome the complexities. Currently English is not viewed as something imposed from the outside, but as something belonging to, and becoming an intrinsic part of the national culture. People are encouraged to express matters that are important to their lives, and confidently and effectively communicate their concerns, cultural viewpoints and personal interests by taking ownership of English and using it as a meaningful interchange with people of other countries, and to relate what it means to be a member of their specific societies and cultures in a positive way to others in the world community. Students will be able to understand how English varieties according to social context, including class, gender, and culture.

授業の到達目標

Language is indissolubly linked with the members of the society in which it is spoken, and social factors are inevitably reflected in their speech. Language can be studied as a social phenomenon. English is currently regarded as the world's principal international language. It performs a useful function in the multilingual society. People are not forced to master English at all costs. There are people who adopt English and use it alongside their own culture, and combine it with. In this class we will look at how English varies around the world as well as at issues that affect language usage such as age, gender, and class. Difference among countries as well as within countries will be considered. Additional topics will include the treatment bilingualism in English-speaking world and language standards.

成績評価方法

●**試験**　20%
●**レポート**　40%
●**平常点**　30%
●**その他**　10%

科 目 名	英語圏文化概論2　Britain in the 21st century... through the eyes of popular culture							
担当者名	ライアン　スティーブン							
多元	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

England is widely considered to be at the heart of the English-speaking world. To the outside world, England is often seen as society and culture based in tradition, but England, and Britain, are societies that are rapidly changing. This course looks at some of the major changes that are taking place in that society, the language, the people, and their cultural values. Using the lens of popular culture, the course will not only discuss changes in British society, it will also explore some of ways in which British people's understandings of themselves are changing.

授業の到達目標

At the end of the course, students should be able to:

1) Understand some of major changes taking place in British society and culture today
2) Understand the diverse cultural groups that make up modern British society
3) Understand how the changes occurring in Britain connect to the wider English-speaking world

成績評価方法

●**試験** 0% No examinations
●**レポート** 70% Final report written in English and including citations and references where needed.
●**平常点** 30% Active attention and participation
●**その他** 0%

備考・関連URL

The main language of instruction, most materials and assignments for this course will be in ENGLISH.

科 目 名	英語圏文化研究1 20世紀イギリス大衆文化の隆盛							
担当者名	渡辺 愛子							
多元	2単位	春クォーター	水1時限	無その他	2年以上	オープン科目	合併科目	—

講義

授業概要

今でこそ文化とは、博物館や美術館にある過去の遺産や芸術鑑賞といったいわゆる高級文化のほかに、大衆文化、若者文化、サブ・カルチャーなど、わたしたちの身のまわりにあるあらゆる次元のあらゆる現象をあらわすようになったが、20世紀初頭までのイギリスでは、限られた人たちが、それまでに培われてきた高尚な伝統を継承、追求することが「カルチャー」であり、教養であった。しかし、第二次世界大戦を経ると国内における経済的荒廃と大英帝国の崩壊という事実が人々の喪失感を増長し、また地球規模におよぶマス・メディアの浸透によって、既成の価値概念が疑問視されはじめ、それまでほとんど「カルチャー」としてとらえられることのなかった「大衆(mass)」による新しい文化形態が広く許容され、生産・消費されるようになる。上流・中流階級ならずとも、労働者にだって社交のためのコミュニティー(共同体)が存在し、日々の労働が終われば、パブ(酒場)に出かけてダーツを楽しむ。現代の若者がフットボールに熱中したり、それが乗じてフーリガンに走ったり、はたまたロックンロールやポップスに夢中になるのもみな、さまざまなレベルの文化の一面を語っているのである。この講義では、第二次世界大戦後、大衆による文化がイギリス国内にどのように興隆したのかを文化史的側面から概観し、それが当時の政治・社会状況とどのように関連し、どのような役割を果たしたのか、大衆文化論的観点から考察する。

本講義は教場授業とオンデマンド授業を併用した授業となる。教場の導入のあと、戦前の大衆文化の嚆矢をおさえ、大衆文化(mass/popularculture)を考える上での理論的支柱を「ジェンダー」、「階級」、「帝国・人種・エスニシティ」、「メディアとオーディエンス」、「ネイション」というテーマごとに、オンデマンド講義によって理解する。一方の教場授業では、大体10年ごとに20世紀後半期を区切り、それぞれの時代の特性を当時の歴史的事象と併せて概観してゆく。その際に注目される政治・社会的事象のおもなものは「冷戦」、「(ニュー)メディア」、「グローバリズム」、脱植民地化、イギリス国内の多文化化であり、文化的事象としては大衆映画、テレビの普及、ビートルズ旋風、パンクファッション、モンティー・パイソン、ブリットポップといった諸ブームの検証を予定している。オンデマンド授業で扱うテーマと教場で行う各時代の特性が必ずしも合致するわけではないが、教場授業の各回で、関連する事象を紹介していく。

授業の到達目標

・20世紀後半のイギリスの文化状況をとらえる。
・「文化」のはらむ政治性・イデオロギー性について考える。

成績評価方法

教場授業への出席、オンデマンド授業の受講と小テスト、学期末課題（筆記試験を予定）から総合的に評価する。

備考・関連URL

★可能であれば、春学期火曜日2時限開講の多元文化論系演習「イギリス文化史」（セメスター科目）、秋学期水曜日1時限開講の多元文化論系演習「思想の文化史」（セメスター科目）もあわせて履修すると、理解がさらに深まるであろう。Course N@viまたはWaseda Moodleを利用して様々な連絡・告知を行うため、メールを受信できるように各自設定しておくこと。

科 目 名	英語圏文化研究2 オーストラリアの演劇							
担当者名	澤田 敬司							
多元	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

オーストラリアの代表的な演劇作品を通して、オーストラリアの社会・文化・歴史について学ぶ。

英米演劇と違い、オーストラリア演劇は短い歴史しか持っていない。しかし、自己表現の手段として「演劇」というメディアを持っていなかった人々に、そのメディアが与えられたときに生じる新しさこそが、オーストラリア演劇の魅力である。そしてその中には、オーストラリアの先住民も含まれる。

授業では、この20年あまりで上演された演劇作品の中から代表的な舞台を選び、戯曲を読んで鑑賞し、社会的、文化的、歴史的背景について考える。

授業の到達目標

オーストラリア社会における多様で複雑な文化の形を理解する。
ナショナリズムや脱植民地主義など、日本と共通する問題について理解を深める。
現代の舞台メディアが、社会をどのようにとらえ何を伝えようとしているのかを考える。

成績評価方法

●**試験** 70% 記述式の試験を行い、授業内容の正しい理解に加えて、そこから自身の思考を発展させた答案を高く評価する。
●**レポート** 0% なし
●**平常点** 30% 毎回の授業への参加度を評価する。
●**その他** 0%

備考・関連URL

時間外にプロの俳優による戯曲リーディングの特別授業を実施します。出席は必須（他の授業と重なる場合は、代替の課題を課します）。

日程は決まり次第告知します。

科 目 名	アメリカ音楽の世界							
担当者名	チャン　エドワード　ケイ							
多元	2単位	春クォーター	火6時限	金3時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

In this course, students will learn about the history of American popular music, starting from the late 19th century to the end of the 20thcentury. We will cover the various musical styles that have developed in the United States, including jazz, Tin Pan Alley, the blues, R&B, rock, and soul, up to the 1970s. (The framework of the course is based on the textbook American Popular Music: From Minstrelsy to MP3s by Larry Starr and Christopher Waterman.) The course will be conducted entirely in English. Please note that this is neither an ethnomusicology nor a musicology course, but more like cultural history and popular culture studies. It provides an overview of American popular music and an opportunity to think about its historical and social context.

授業の到達目標

Students will become familiar with the various forms of American popular music. Students will also have the opportunity to develop their English-language reading, writing, listening, and discussion skills.

成績評価方法

(subject to change)
Two exams: two-thirds
Presentation: one-third
TOTAL: 100%

講義

科 目 名	変貌する英語圏世界　イギリス帝国の遺したもの							
担当者名	武藤　浩史							
多元	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

近現代史におけるイギリス帝国の盛衰は、世界の多くの地域に英語圏の社会・文化を残した。その主たる地域の歴史と現在を、文学・映画などの芸術メディアを効果的に用いながら、概観してみたい。ここで考察の対象となる地域は、アイルランド、カナダ、オーストラリア、インド、南アフリカ、シンガポールなどである。近現代史の大きな流れとそれぞれの地域の現在がどのように関係し、どのように関係していないかを明らかにしてゆきたい。

授業の到達目標

長くイギリスが主導権を握った近現代の世界史の中で、どのように世界各地に英語圏社会・文化が生まれ、それらがその後どのように発展してどのような現在に至っているかを履修者に理解させることを本講義の目標とする。

成績評価方法

●**試験**　40%　　第4回、第6回、第8回、第10回、第12回、第14回に小テストを実施し、理解度を確認します。
●**レポート**　40%　　期末レポートを課します。第11回授業で配布予定のリーディングリストの中から書籍・映画を一つ選び、それについて論じていただきます。
●**平常点**　20%　　出席・授業内発言・発表・受講態度など
●**その他**　0%

科 目 名	現代イギリス社会におけるスポーツ文化							
担当者名	ライアン　スティーブン							
多元	2単位	春学期	月曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

Sport is central to modern life, influencing everything from national identity to daily conversation. A full understanding of any contemporary society must include a discussion of the role of sport in that society. This course explores the development of sporting culture in Britain, which is of particular interest since so many of the world's major sports originated in Britain. Through a consideration of the development of sporting culture in Britain, this course will deepen students' understanding of twenty-first century British society, its values, customs and practices.

授業の到達目標

At the end of this course, students should be able to:
1) Understand the connections between sport, society and cultural values
2) Understand the development of major sports in Britain
3) Understand some of the major issues concerning sport in Britain in the 21st century

成績評価方法

●**試験**　0%　　No examination
●**レポート**　80%　　Final report written in English, including citations and references.
●**平常点**　20%　　Active attention and participation
●**その他**　0%

備考・関連URL

The main language of instruction, most materials and assignments for this course will be in ENGLISH.

科 目 名	多元文化特論2　イングランド北部文化探訪—A Narrow Road to the North of England							
担当者名	菅野　素子							
多元	2単位	秋学期	水曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

イングランド北部の文化・文学を、その歴史社会的背景と共に学びます。「北部」Northに注目し、イングランドの文化を多

元的な視点から見る試みです。
「北部」は地理的な位置であり、地図上で指し示すことのできる地域です。「北部」はまた、南部に対すものとして構築された言説でもあります。19世紀の小説家エリザベス・ギャスケルは『北と南』(North and South, 1854年)において、文化的な生活を謳歌する南部と工業による繁栄に邁進する北部というステレオタイプを二項対立とし、北と南の「二つの国民」の統合を小説のプロットとしました。産業革命後、ネイションの分断を危惧する文学作品が生まれたのです。とはいえ、イングランドを北と南に分断したものとする見方はそれ以前から存在していました。
本講義ではまず、そもそも「北部」はどこを指すのか、「北部性」とは何か、どのように構築されてきたのか、その歴史を概観します。その上で、南部とは異なる「北部」が文化的な言説としてどのように展開してきたのかを、映画・音楽・文学等の文化的生産物を取り上げて検討します。

授業の到達目標
・イングランド北部の歴史や文化に対する理解を深める。
・具体的な作品を「北部」の視点から考察することができる。

成績評価方法
●**試験** 50%　第15回目の授業中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート** 20%　課題は第3回の授業で示します。与えられた課題を講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価します。
●**平常点** 30%　・受講票の記入内容（授業の理解度や感想）　・積極的な授業参加および授業への貢献
●**その他** 0%

講義

科目名	多元文化特論3 「中華料理の歴史」							
担当者名	小二田　章							
多元	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
現代日本人が最も身近に触れている「文化」のひとつは，食物を通したものだろう。本講義では，食物のなかでも生活に深く浸透している中国の料理（日本における「中華料理」）を歴史的な視座から取り上げる。何気なく日常の中で食している料理の歴史的背景を知ることは，それに込められた中国の歴史，文化・社会の意義，あるいはそれらが日本という場で与えられた意義，さらには日本の歴史，文化・社会の意義を知る効果的な入口となる。最終的には，日常自体が歴史と結び付いていることを理解するきっかけとなるだろう。

授業の到達目標
「(中華）料理」の背景の歴史を認識することで、日常が「歴史」的であることを理解し、歴史的に考えるための基礎を得る。

成績評価方法
●**試験** 40%　第15回の授業中に試験。ノート・プリント・レポート原稿持込み可。
●**レポート** 20%　レポート（1000字程度）を最終回までに提出。課題は第8回ごろ公開。
●**平常点** 40%　授業への参加度（20%）＋毎回のリアクションペーパー（20%)。
●**その他** 0%

備考・関連URL
本講義は、日常と「歴史」とを繋ぐ入り口となる側面を持つ。興味関心ある学生全般を歓迎するものである。本講義に興味を持った学生は、既存の関連する内容の講義を受講するのも有効だろう。

科目名	多元文化特論4 仏教文化の世界（インド・チベットを中心に）							
担当者名	佐藤　晃							
多元	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
紀元前5世紀頃にインドで誕生した仏教は、インドのみならず、アジア諸地域へと伝播し、長い歴史の中で各地域固有の仏教文化を生み出してきました。またそれらは日本を含む多くの地域で現在も生き続け、さらなる変化を続けています。本講義では、地域をインドとチベットに限定し、仏教のインドでの興起からチベットへの伝播・その後の展開を歴史的に辿りつつ、それらの地域で展開した仏教文化の多様な側面の理解を目指します。
仏教文化と言うと建築や美術を思い浮かべる人が多いかもしれませんが、それらを十分に理解するためには、その基盤となる思想や思考方法を理解しておく必要があります。そこで講義全体を、思想史的観点から①原始仏教・②部派仏教・③大乗仏教・④密教（1)・⑤チベット前伝期・⑥チベット後伝期（＝密教（2））の6つに区分します。各回では、まず代表的で比較的理解し易い思想を取り上げ解説します。その上で、文学的作品（仏伝や本生譚)、僧団生活、戒律、瞑想方法、マンダラ、建築等の関連する文化的諸事象を取り上げていきます。仏教は、思想、文学、芸術、建築、身体論等、多様な文化的側面を持つ、いわば文化の複合体であり、また文化的運動と言えるかもしれません。様々な関心を持つ学生の受講を歓迎します。

授業の到達目標
インド及びチベットの多様な仏教文化を多角的に理解することを目指す。

成績評価方法
●**試験** 0%　行わない。
●**レポート** 60%　学期末にレポートを課す。講義内容に基づき、各自テーマを設定して執筆する。詳細は教場で指示する。
●**平常点** 40%　出席（原則として3分の2以上)、毎回のレビューシートを総合的に評価する。
●**その他** 0%　特に無し。

科目名	日本史・世界史再発見 「あっ」と驚く、歴史の世界にようこそ！							
担当者名	渡辺　愛子　他/井上　文則/小田島　恒志/河野　貴美子/小二田　章/高屋　亜希/中澤　達哉/ピタルク　パウ/ホサイン　タニア/森　由利亜/八木　君人/由尾　瞳/吉原　浩人							
多元	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要
この講義は、文化構想学部多元文化論系専任教員が中心となって行うオムニバス形式の授業です。「日本史・世界史再発見」と題し、斬新な視点から、さまざまな論点を提供して、学生とともに深く考えます。

私たちは、教科書やマスコミなどから得られる知識によって、何となく持っている「常識」を共有しています。この講義では、その「常識」が、時として歴史的な事実とかけ離れている場合もあることを示しながら、学問の深さについて再発見する契機となることを目指します。

一回完結のオムニバス形式の授業になりますが、各教員によるさまざまな切り口を楽しんでください。具体的な内容と、担当者は以下の通りです。日程は「シラバス」に記載されていますが、諸事情による変更もあり得ますので、メール配信を通じての連絡に注意してください。

講義題目は以下の通りです。

渡辺愛子「'Horrible Histories'―BBC子供番組に見るもうひとつのイギリス史―」／小田島恒志「現代英米戯曲の翻訳作業で気が付く歴史」／パウ・ピタルク「ポップミュージックに見るスペイン現代史」／吉原　浩人「飛翔する達摩と聖徳太子―南岳衡山転生譚を読む―」／タニア・ホサイン「国際言語としての英語の歴史」／小二田章「『東アジアの』活字印刷とその文化」／中澤達哉「日本と似ていたヨーロッパ？―『長い16世紀』の日欧資本主義革命論―」／井上文則「カエサルの『ガリア戦記』を読む」／由尾瞳「The Birth of the New Woman: The Women's Rights Movement in the U.S. and Japan （「新しい女」の誕生：日本とアメリカにおける女権運動の歴史」）／河野貴美子「『源氏物語』を通してみる東アジア文化交流」／八木君人「ロシア革命を表象する」／高屋亜希「纏足をほどいた女たち」／森由利亜「中国史の中の道教」。

授業の到達目標

日本史・世界史について、さまざまな方面・角度から知識を得て、学問の方法について、ともに深く考えることを目標とします。

成績評価方法

レポート80%：期末にレポートを提出してもらいます。詳細は、オンデマンド授業において指示します。

出席20%：三分の二以上出席しないと、単位を授与することはできません。

備考・関連URL

初回に、受講に際しての諸注意を行います。また、学期の半ば以降に公開するオンデマンド授業において、レポート提出方法などについて指示するので、必ず視聴してください。また、一斉メールを送ることもありますので、注意してください。

授業について質問がある場合は、＜多元文化論系室＞に常駐する助手に、遠慮なく問い合わせてください。

科目名	アジア歴史文化論1							
担当者名	小二田　章							
多元	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	―	合併科目	―

授業概要

本講義は、東アジアの歴史文化において中心に位置する正史（主に王朝が主導して編んだ王朝・国家の正統的な史書）などの史書をとりあげ、東アジアにおける国家主導の正史編纂の歴史とその社会的背景、および人びとの歴史認識について検討する。

中国では著名な『史記』以降、歴代王朝において正史編纂の歴史が積み重ねられ、現在でも中華人民共和国政府主導のもとで編纂作業が継続している。また、こうした伝統は地域によって形を変えながらも、日本・朝鮮・ヴェトナムなど東アジア全域に広まり、その歴史文化は現在にまで大きな影響を与えている。

特定の形式で史書を編纂する文化は、社会や時代との結びつきを抜きにしては理解できない。本講義では、中国における正史編纂の歴史とその社会的背景を概説するとともに、東アジア各地域への伝播と受容の差異、人びとの歴史認識に与えた影響について、イスラーム文化圏やヨーロッパなどの事象との比較も交え考えたい。

授業の到達目標

史書編纂の歴史と各地域のありようの違いを知りその背景を考えることで、「歴史を編む」という普遍的な営みが社会・人々に与えた影響、それ自体の意義の一端を理解する。

成績評価方法

●**試験**　40%　　第15回の授業中に試験。ノート・プリント・レポート原稿持込み可。

●**レポート**　20%　　レポート（1000字程度）を最終回までに提出。課題は第8回ごろ公開。

●**平常点**　40%　　授業への参加度（20%）＋毎回のリアクションペーパー（20%）。

●**その他**　0%

備考・関連URL

本講義は、「歴史」自体を考えるための入り口としての側面を持つ。大学1年生はもちろん、高校までで世界史・日本史などを履修しなかった学生、さらには歴史学志望以外の学生も歓迎する。本講義と秋学期の「アジア歴史文化論2」は、相互補完の関係にあるため、どちらを先にしても問題なく、両方を受講するとより深く学ぶことができる。本講義に興味を持った学生は、既存の関連する内容の講義（「アジア史学発達史」「ヨーロッパ史学発達史」など）を受講するのも有効だろう。また、文化構想学部の1年生については、同講師の選択基礎演習5（「史書を読む」）にて、講義にて触れた史書を実際に読むことができる。

科目名	アジア歴史文化論2							
担当者名	小二田　章							
多元	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	―	合併科目	―

授業概要

本講義は、東アジアの歴史文化の特徴のひとつである「地方史誌」（地方の歴史事象を中心にした政治・経済・地理・文化などを網羅する総合的書物）をとりあげ、東アジアにおいてなぜ「地方史誌」が編まれたのか、その背景となる社会との結びつき、および人々の地域・歴史認識などについて検討する。

中国の地方志に端を発する「地方史誌」の編纂は東アジア全域に広まり、日本の藩史・国誌、朝鮮の邑誌、ヴェトナムの輿地志など、各地の歴史文化に大きな影響を与えた。この文化は例えば県史・市史などの形で、現代日本にもその影響が残っている。

地域の歴史を編纂するという行為は自明に行われるものではない。本講義では、それがどのような契機で中国に発生し、東アジア各地に広がり、社会に影響を与えたのか、その経緯や背景について概説するとともに、東アジアにおける地域の把握方法や意義づけ、地域のなかで歴史が果たした社会的機能について、イスラーム文化圏やヨーロッパなどの事象との比較も交え考えていきたい。

授業の到達目標

「地方史誌」編纂の歴史と各地域のありようの違いを知りその背景を考えることで、「歴史を編む」という普遍的な営みが社会・人々に与えた影響、それ自体の意義の一端を理解する。

成績評価方法

●**試験**　40%　　第15回の授業中に試験。ノート・プリント・レポート原稿持込み可。
●**レポート**　20%　　レポート（1000字程度）を最終回までに提出。課題は第8回ごろ公開。
●**平常点**　40%　　授業への参加度（20%）＋毎回のリアクションペーパー（20%）。
●**その他**　0%

備考・関連URL

本講義は、「歴史」自体を考えるための入り口としての側面を持つ。大学1年生はもちろん、高校までで世界史・日本史などを履修しなかった学生、さらには歴史学志望以外の学生も歓迎する。本講義と春学期の「アジア歴史文化論1」は、相互補完の関係にあるため、どちらを先にしても問題なく、両方を受講するとより深く学ぶことができる。本講義に興味を持った学生は、既存の関連する内容の講義（「アジア史学発達史」「ヨーロッパ史学発達史」など）を受講するのも有効だろう。また、文化構想学部の1年生については、同講師の選択基礎演習5（「史書を読む」）にて、講義にて触れた史書を実際に読むことができる。

科目名	比較文学入門　「比較文学」の中の「伝統」と「革新」							
担当者名	宮城　徳也							
複合	2単位	秋学期	月曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

講義

授業概要

「比較文学」に対する考えは多様で、様々な「比較文学」が存在するが、時代、地域による差異や共通性が注目されるのは共通していると言えよう。「比較文学」の考え方を、まず教科書的に整理し、その上で、具体例として、小説，悲劇，喜劇，冒険物語，怪奇小説，SF小説，ピカレス小説，寓話，童話，を取り上げ、共通のモティーフと影響関係、顕著な差異と独自性に注目しながら、「文学」を楽しんで、その背景にある「文化」を考える授業にしたい。「放浪（漂流）→冒険→帰還」を骨子とする「冒険物語」の要素を持つ『オデュッセイア』や、その影響を受けたり、独自に展開した諸作品、絵画、彫刻、音楽、映像について考えていく。最終的には「比較文学」的視点から，西欧文学，日本文学におけるギリシア・ローマ文学の影響を整理，考察する.

授業の到達目標

諸作品を「比較文学」の視点から考察することにより、それぞれの背景にあるギリシャ・ローマ文化についての知見を深める.

成績評価方法

●**試験**　40%　　「理解度の確認」：教場で、知識の確認をし、それぞれの見解を述べてもらう試験を行います。
●**レポート**　0%　　教場試験と平常点で評価します
●**平常点**　60%　　毎回、授業内容の要約とそれぞれの見解を提出してもらい、それを平常点として評価します。授業で述べられなかった知見を書いてくれた場合は、高く評価したいと思います。
●**その他**　0%

備考・関連URL

関連URL:
http://www.f.waseda.jp/tokuyam/index.htm

科目名	比較文学の方法　「テレビドラマ」と「文学」のクロス							
担当者名	柿谷　浩一							
複合	2単位	秋学期	金曜日	4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

テレビドラマと文学は、異なるジャンルで別物のように思うかもしれません。ですが実際には、両者は密接につながり重なり合う形で、多様な関わり方をしています。毎クールほぼ必ず、漫画と並んで小説原作による「ドラマ化」が展開され、その中には海外の名作や古典文学をもとにした「翻案作品」も多く作られています。また話題作では「ノベライズ」が創作されることも珍しくありませんし、近年ではドラマの「脚本（シナリオ）」が活字で読めるよう刊行・公開されることも以前よりも増えて、それらを戯曲と同様にして愉しむあり方も広まってきました。あるいは、映像の中に特定の文学作品（の一節）や作家がモチーフとして登場する作品のほか、書籍・編集・書店といった文学周辺の事象を扱った作品にも、改めて注目が集まっています。ドラマなどを舞台に活躍する役者が書いた「エッセイ」や「自伝」などのも、広義の文学の一つとして捉えて読むこともできます。比較文学というと、どうしても文学間の“影響”や“違い”を研究するものというイメージが強いと思いますが、そうした「受容・影響研究」以外にも、“国・文化・言語の越境”めぐる諸問題の考察や、文学という枠からこえて隣接・関連するジャンルにも目を向ける“クロスジャンル”分析も、重要かつ主要な研究方法の1つです。この講義では、そうした比較文学の基礎的な方法論・視点・課題などを、〈文学とテレビドラマ〉を対象にして、検証・整理をしていきます。

この数年、「愛の諸相」という講義で、現代の恋愛ドラマにおける“胸キュン”について考察を続けてきました。その成果を踏まえ、そこで深めた課題にも接続しながら考えていく意味でも、授業はテレビドラマの側に立って進めていく方針をとります。その点では、文学（研究）だけではなくて、テレビドラマはもちろん、広く映像文化や視覚芸術について考えたい人にもマッチした内容になるでしょう。いわゆる比較文学入門のような概説というよりは、実際の映像分析を軸に「比較文学的な問題」を見出し、問題提起する形で、基礎知識もおさえていくような講義イメージです。その中で、比較文学の根幹にある「文学とは何か」、あるいは「テレビドラマとは何か」、更には「テレビドラマにとって文学はどんな位置にあるか」といった大きな問いも、受講生と一緒に考えていければと思っています。

●研究対象は、出来るだけあまり古くないところで、話題を呼んだ現代ドラマから取り上げていく予定です。候補としては、『シャーロック』（主演＝ディーン・フジオカ、2019）、『貴族探偵』（主演＝相葉雅紀、2017）、『偽装不倫』（主演＝杏、同）、『アルジャーノンに花束を』（主演＝山下智久、2015／ユースケ・サンタマリア、2002）、『空飛ぶ広報室』（主演＝新垣結衣、2013）、『野ブタ。をプロデュース』（主演＝亀梨和也・山下智久、2005）、『愛し君へ』（主演＝菅野美穂・藤木直人、2004）、『池袋ウエストゲートパーク』（主演＝長瀬智也、2000）等を考えています。下記の授業計画も参照下さい（春に更新予定です）。

●講義冒頭の数回は、私の自己紹介と「文学（研究）とテレビドラマ（論）」を考えるための導入として、テレビドラマを“文学的”に捉える担当教員なりの視点・方法を紹介するため、数作品のテレビドラマ論から始めることにします。

「授業方針」について、少し触れておきます。

先にも書いた通り、比較文学の考え方や基礎知識をひたすら教科書的に学ぶのではなく、現代のドラマ作品を実際に検証しながら、私なりの視点と方法で、作品を相手に分析・解釈しつつ、問題を独自に浮かび上がらせることを大事にしたいと考えます。時に失敗もあるかもしれませんが、臆することなく、毎回毎回、作品とシーンに挑んでいく「文化構想学部」らしい、「複合文化論系」らしい実践の場を作れたらと願っています。解説や考察を漫然と聞くのではなく、受講生の皆さんも、一緒にあれこれ積極的に考えることを期待します。そして、時には「それは違うのではないか」、「私ならこう考える」、「最新の現状からみるとこうではないか」といった反応＝反論を、リアクションペーパーを通して、ぶつけてほしいと思います。もちろん、専門的な質問もたくさんぶつけて下さい。皆さんの疑問、面白い見方や授業と異なる解釈も、折にふれて紹介していきたいと思っています。

15回の授業の中で「比較文学」とはどんなものであるかが、単に"比べる"という次元を越えて、どれだけ広がりがあるものかを確認し、それが諸芸術・ジャンルと深く関係しているかを理解してもらえたら、この講義はまずは成功です。意欲ある学生と出会えるのを心待ちにしています。

授業の到達目標

比較文学の基礎を理解し、特にクロスジャンル分析の視点を習得する。比較文学的視点から、映像を分析する方法を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　授業を受けて、どれだけ考えたか。（出席＋リアクションペーパーの内容による）
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

●毎回「リアクションペーパー」を配布します。これが出席カードの代わりになります。授業に積極的に反応し、思考を巡らして下さい。

●出席する以上は、授業を聞いて、しっかり考えて下さい。その態度（リアクションペーパーを含む）を最重視します。（病欠等の）よんどころない事情による欠席は仕方ありませんが、授業に取り組む姿勢がなっていない学生には、厳しく対応します。私語（映像に対する反応は除く）、遅刻、無断退席、内職等、受講態度の悪い学生には口頭で注意を与えます。 ●ノートの点検を講義内で行う場合があります。

※受講者数や学生の関心、授業の展開、さらには2020年のカルチャーシーンの動向によって、内容や計画の一部を変更する場合があります。

科 目 名	神話の世界　古代ギリシャの神話と宗教							
担当者名	兼利　琢也							
複合	２単位	春学期	水曜日	４時限	１年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

神話は，人類が太古の昔から普遍的に抱いてきた世界観の表明，物語の形で表された原初の哲学であり，素朴なだけに喚起力に満ちた意味深いメッセージを与えてきている．本講義では，西洋文化の重要な一部分を形成する古代ギリシャの宗教と神話を扱う．ギリシャ神話でなじみ深い神々について，その機能や祭儀や物語を解説する．あわせてそれに対する近現代の神話分析を紹介し，その意義の解明に関する様々なアプローチを解説する．

授業の到達目標

古代西洋異教世界の宗教と神々に関する歴史的に正確なイメージの獲得，神話学の歴史と方法に関する知識の習得

成績評価方法

●**試験**　100%　　講義内容の理解を問う記述式のテスト．
●**レポート**　0%　　なし．なお出席不足等の代わりのレポートの申し出は受け付けません．
●**平常点**　0%　　出席は評価の前提です．
●**その他**　0%

科 目 名	神話と芸術　西洋近現代におけるギリシャ・ローマ神話の変容							
担当者名	兼利　琢也							
複合	２単位	秋学期	水曜日	４時限	１年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

ギリシャ神話を基礎におく古典古代文化の多種多様な姿形は，西洋世界において中世にその大部分が衰滅したものの，ルネサンス（古代再生）期――現代文化の思春期――に蘇った．以来それらは，18世紀前期まではおもに古代ローマの文学芸術を通じて，18世紀後期以降は（ローマの文物に加えて）古代ギリシャの芸術そのものが，各時代の文化的模範として常に仰がれてきた．本講義では，西洋文化の影響と関係性に直接的な連関の明らかないくつかの主題について，芸術全般にわたり現代に到るその受容と変容をたどりたい．

20世紀後半より以前では，西洋の文化教養の基礎と頂点がギリシャローマの古典だったため，どの時代どの国でも，その時代にのみ可能な形で特定の神話や観念を再生させ，再発見・再創造を行ってきている．この講義で取り上げられる事例も，基本的にどれも各時代の芸術家の自覚的な取り組みと創造である以上，それ自体が各専門家の研究対象だが，私個人の趣向と関心に基づいて，古典学徒の目からその独自な変形を時代を縦断する形で探りたいと思う．基本的に19世紀以降から20世紀初期までを扱う．20世紀大衆文化（おもに映画）との連関では，古代ローマが中心になるため神話より古代異教文化全般に関わる．古典の普遍的な影響力を認識してもらうことがこの講義の到達目標だが，そこから古代そのものに対する新たな理解が拓けることを願っている．

授業の到達目標

古典古代文化の普遍的な影響力の再認識

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません．
●**レポート**　100%　　講義主題に関わる独自調査のレポート．
●**平常点**　0%　　（出席は成績評価の前提です．）
●**その他**　0%　　とくにありません．

科 目 名	異文化受容と文学の変容　異文化受容に文学はどのように関わるか（ヘレニズムの東漸とその変容）							
担当者名	宮城　徳也							
複合	2単位	春学期	月曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

独自の文化を持つ集団が，異文化と接触し，それを受容することによって，自身の文化にも変容が生まれ，新しい文化が創造されます．例えば，日本の場合は古代には中国と朝鮮半島の先進文化を受容しましたが，その中にはインドで生まれた仏教もありました．また，中国やインドもシルクロードなどを通じて，西方世界の影響を受け，それを独自の文化形成に活かしています．16世紀に大航海時代が現出し，東西の交流が盛んになり，日本では南蛮文化と呼ばれる西洋の影響が流行しました．幕末から明治維新，第二次世界大戦後の大変革など，現代に至るまで，日本は様々な外来文化を受容し，それを独自に変容させて新たな文化を創り上げてきました．これは，日本だけに限りません．ヨーロッパ文化の根幹と言えるヘレニズムとキリスト教の影響に焦点を当てながら，詩や小説に限定されない広義の「文学」（演劇，歴史，思想を含む）が，異文化の受容と，新たな文化の創造にどのような力を持ったかを考察したいと思います．

授業の到達目標

文学に見られる異文化受容と，それによる文学の伝統の変容を，幾つかの作品，ジャンルの場合を検証しながら，考察します．

講義

成績評価方法

●**試験**　40%　　教場で「理解度の確認」として行なう。授業内容の理解と、独自の見解を問う試験を行う

●**レポート**　0%　　試験と平常点で評価します

●**平常点**　60%　　授業内容の要約とそれに対する見解を毎回提出してもらい、平常点として評価する。授業で語られなかったことへの言及は特に高く評価したい

●**その他**　0%

備考・関連URL

関連URL:
http://www.f.waseda.jp/tokuyam/index.htm

科 目 名	芸術と社会　都市と美術							
担当者名	坂上　桂子							
複合	2単位	秋学期	火曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

美術と社会の接点を、都市を切り口に見ていきます。とくに、パリ、ニューヨークを中心とし、都市の特徴と成立の歴史を捉えたうえで、芸術、とりわけ美術が人びとの生活のなかでどのようにかかわり、生活を豊かにしてきたのかについて考察します。そこでは、都市計画、土木、建築、美術コレクション、美術館などがおもなテーマとなります。現代のダイナミックな芸術と社会との関係を知るには、現在、それぞれの都市がいかなる美術館、パブリックアートを有し、芸術と人びとを結びつけようとしているかを見る必要があります。また、そのほかのヨーロッパの都市やアジアにおける諸都市の試み、東京についても、そのつど比較検討する予定です。

授業の到達目標

世界の代表的都市を、美術と人びとの生活を視点に考察するなかで、私たちの住む日本の環境と比較検討し、日本における都市のありかたを考え、人びとを豊かにするものとは何かについて自分なりの見解をもつことができるようにするのが目標です。

成績評価方法

学年末にレポートを課します。授業後のレビューシートも参考にします。また、出席については、2回遅刻（早退）で1回欠席とし、3分の2以上の出席が必要です。

備考・関連URL

授業の内容の順番について変更する可能性があります。

科 目 名	芸術論争の歴史　戦後日本における美術館／展覧会の歩み							
担当者名	和田　佐知子							
複合	2単位	春学期	月曜日	2時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

明治時代に日本初の博物館が誕生し100年以上が経過しました。今日ではいたる所で展覧会が開催され、数多くのコレクションが公開されていますが、そのもっとも一般的な「場」は美術館や博物館と言えるでしょう。日本は世界でも有数の美術館大国です。都道府県はもとより、市町村が運営する公立館、そして企業や個人、財団が運営する私設美術館、個性豊かな館が数多く存在します。本講義では、戦後日本における美術館や展覧会の歴史をたどりながら、それらがどのように設立運営されているのか、美術館の役割や問題点も考察します。革新的な展覧会や美術館のあり方を検証することは、その時代におけるアートの意味を読み解くことにつながります。芸術の力でムーヴメントを巻き起こし、社会に対し問題を提起する一方で、運営上の限界も抱えざるを得ない美術館。現代の美術館や美術展を取り巻く環境について、ともに考えていきます。講義では全国の、とくに都内近郊の美術館やそのコレクションについて、美術史的な解説を交えながら多数紹介していきます。講義を通じて作品に関する知識も深めることで、美術館に足を運ぶ新たな機会にしたいと考えています。

授業の到達目標

戦後日本の美術館や展覧会の歩みをたどることで、美術行政の仕組みや問題点に関する考察を深めること。国内に収蔵される美術作品への関心を高め、積極的に作品に触れる機会とすることを目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　50%　　講義期間中に開催されている展覧会を一つ以上鑑賞し、その中からレポートを執筆すること。詳しくは授業中に説明します。

●**平常点**　50%　　出席を重視します。

●**その他**　0%

科 目 名	翻訳とその諸問題　日本児童文学界における外国文学作品（主にロシア文学）の翻訳をめぐって							
担当者名	南平　かおり							
複合	２単位	秋学期	金曜日	５時限	１年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

本授業では、「日本児童文学界における外国文学翻訳作品」の諸問題について取り上げる。

日本の児童文学界の中で「翻訳」をめぐる問題は大変重要であり、検討すべき要素をはらんでいる。

大正7（1918）年の「赤い鳥」誌誕生から、昭和25（1950）年に日本の児童文学の世界に新風を巻き起こした「岩波少年文庫」創刊までの時期を中心に、「翻訳」の在り方の歴史を辿る。「原語からの直接訳でなければならないのか」、「抄訳ではなく完訳であるべきなのか」、さらには「訳者による再話は許されるのか」という大きな問題について、様々な角度から検討していく。具体的には、主だった翻訳者を取り上げ、その翻訳方法について考察しながら、授業を進めていく。

この授業では、特にロシア文学作品を例にとって学んでいくが、折に触れ他の外国作品についても取り上げる。

児童向けの翻訳の場合は、漢字の使い方や、言葉の言い回しなど大人向けの翻訳とは違った心遣いが必要になってくる。「花」を「お花」といえば、児童文学になるわけではない。

児童文学についての知識も学びながら、「翻訳」における様々な問題についてじっくり考えていきたい。

また受講者間での意見交換の機会をもつため、「ワールドカフェ」形式の討論会を2回行う。

さらに、毎回希望した受講生に授業に関する発表（5分～10分程度）を行ってもらう。

授業の到達目標

「日本児童文学界におけるロシア文学の移入の歴史」を理解した上で、外国児童文学作品の「翻訳の在り方」について自らの視点で捉え直し、各々の研究テーマに応用できることを目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　70%　　課題は第7回の授業で提示します。授業の内容をしっかり理解した上で、独自の視点から論を展開してください。

●**平常点**　30%　　毎回の授業で考えたことを感想シートに書いて、提出していただきます。授業への積極的な参加を期待します。

●**その他**　0%

科 目 名	言語学入門　科学とは何か。ヒトは、どのようにして「ことば」に迫ったか							
担当者名	森田　彰							
複合	２単位	秋学期	土曜日	３時限	１年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

言語は、人々が日々、半ば無意識のうちに使用しているものです。そして、人々はその中に魔的なものをみたり、identity のよりどころにしたり、単なるコミュニケーションのツールと見なしたり、時には差別の対象ともしてきました。また、言語の方も人間の思考や世界観に影響を与えていると言われています。「言語学」は言語をその研究の対象にしているのですが、言い換えれば、ヒトが言語をどのように見ているか、また、ヒトとことばとの関わりを体系的に論じたものです。また、ある意味で、ヒトとは何かを問うものです。ヒトが、言語にどのように迫り、言語とは何かを、どのような「記述」方法によって説明しようとしてきたか、これらを振り返ることによって、言語学の目指した、そして目指すものを考えていきます。

言語も他の人間活動と同様、大層複雑なものなので、その実態をより正確に捉えようとするには、様々な切り口が必要です。そうした様々な切り口の主要なものを整理しながら、この地球でヒトにのみ備わったと思われる言語の姿と言語を操る力に焦点を当てて論じていきます。その中には、ヒトがどのように言語を習得するか（したか）も含まれます。それと同時に、言語学がどのような方法で言語を説明しようとし、発展してきたかを見ていきます。

言語の研究は何よりも「例示」が大切です。多くの受講生の既習外国語である英語と日本語は当然その中心となりますが、主としてヨーロッパの他の言語についても触れていきたいと思っています。

なお、この講座は、言語学の特定の理論を通して言語のあり方に迫るものではありません。しかし、近代的言語学の黎明から、20世紀の後半くらいまでの言語学、言語へのアプローチの流れを見ていくので、そこまでの言語理論から見た（違った視点による）言語の姿を語ることになります。

授業の到達目標

- 言語の探求を通じて、科学とは何かを理解すること
- 言語学の目指しているものについて理解できること
- 言語の記述の様々なあり方を知ること
- 人間と言語の関係を自分のものとして考えることができること
- 言語学の諸理論のあらましについて理解できること
- 構造あるいは体系について理解できること
- 言語学の発展を通して、ある探求分野がどのように生まれ、発展してきたかを知ること

成績評価方法

●**試験**　100%　「理解度の確認」。講義の内容の範囲で、言語学のなしてきたことを整理し、言語学の目指すものを理解できているかどうか。一般の定期試験と同じ準備と態度で臨むこと。

●**レポート**　0%　　備考参照

●**平常点**　0%　　備考参照

●**その他**　0%

備考・関連URL

［本科目は早稲田キャンパスで実施する可能性があります］履修者の数が20人を切った場合には、ゼミ形式に近い形で行います。それ以上の場合は、講義形式になります。ゼミ形式の場合は、評価の方法も変ります。また、教科書を指定するかもしれません。どの形式で講座を行うかは、初回の講義で履修者の状況を見、調整を行います。ゼミ形式、講義形式ともに、学生諸君の積極的な関わりを期待します。講義形式の場合も出席をとりますが、それは単位を保証するものではなく、主たる目的は諸君の自己管理のためなので、過大に考えないように。ただし、欠席超過者には、単位は与えられません。これも、試験、レポート等の評価方法とともに第1回講義で解説します。

科 目 名	ヨーロッパのことばと文化							
担当者名	酒井　智宏							
複合	2単位	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

今日の日本人の思考が無意識のうちに時間的にも地理的にも遠く隔たったヨーロッパのことばと文化の影響を受けていることを論じます。たとえば、フランス語がもつ「洗練されている」というイメージは、フランス語の系統のみによっては説明することができません(「洗練されていない」言語も同じ系統に含まれるため)。このイメージの起源を理解するためには、ノルマン征服以降の仏語圏と英語圏の関係、絶対王政期以降のフランスの国際的地位、言語政策などを理解する必要があります。このように、「現在の日本」との見えないつながりという観点から「ヨーロッパのことばと文化」を捉えなおしていきます。

授業の到達目標

1. ヨーロッパの言語のあいだの系統的な関係を理解する。
2. ヨーロッパの言語のあいだの文化的な関係を理解する。
3. ヨーロッパのことばと文化を「現在の日本」との関係で捉えられるようになる。

成績評価方法

講義

●**試験**　70%　　第15回の授業時間中に理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　毎回、課題の解答をCourse N@viまたはWaseda Moodleのレビューシートに記入していただきます。
●**その他**　0%

備考・関連URL

1. この講義で扱う言語は時代的にも地理的にも広範囲にわたりますが、受講にあたって(大学受験程度の)現代英語以外の知識は必要ありません。この講義で扱われる言語の例: 古ノルド語、現代アイスランド語、スウェーデン語、ノルウェー語、ドイツ語、古英語、中英語、ロシア語、ポーランド語、ラテン語、スペイン語、イタリア語、フランス語。
2. この講義では、言語文化の歴史的考察に重点を置き、理論的考察は最小限にとどめます。理論的考察に関心のある方は、春学期開講「フランス語学概論」などをあわせて履修するとよいでしょう。

科 目 名	世界の言語と日本語							
担当者名	吉田　健二							
複合	2単位	春学期	木曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

言語類型論（LinguisticTypology）は，世界の言語の特徴をできるかぎりひろくしらべ，ヒトの言語にとって普遍的な要素は何か（あるいはそもそも，普遍的な要素はあるのか），逆に，言語はどこまで多様にことなりうるのかなどの問題を探求する研究分野です．この授業では，タイトルが示すとおり，世界の言語の類型論的な傾向にてらしたときの日本語の位置・特徴を考察し，ひるがえって、日本語研究によってえられる知見が，世界言語の類型論的研究にどのような洞察をもたらすか検討します．

授業で利用するテキストは、ドイツのMax-Planck研究所が開発・管理する　World Atlas of LanguageStructure（WALS）という言語類型論の研究者むけ書籍/データベースです．WALSは，言語の構造タイプ（類型）にかんする192の項目について，総数2697、平均400言語の情報を分類し，地図上にしめしたもので，インターネット上で公開されています．授業では毎回，2〜3名の受講者に，その回のテーマに関連したWALSの章の記述を要約して説明し、日本語のタイプ、特徴を検討する発表をおこなってもらいます．授業計画の末尾の数字は，予定している章番号です．また講師・吉田も各回の内容に関連した講義を行います．

授業の到達目標

言語類型論の研究上の目標と研究方法を理解し，類型論的視点を導入した言語研究を計画・実行するための基礎知識を身につける．また，類型論的視点からみた，日本語の特徴についての洞察を深める．

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しません
●**レポート**　70%　　期末レポート
●**平常点**　0%　　（とくにかんがえていませんが、受講生の人数によっては、リアクションペーパーの記載内容も勘案します）
●**その他**　30%　　授業における発表・報告の内容を評価します。

備考・関連URL

質問などは kenjiyo.work@gmail.com まで

科 目 名	言語史の方法　日本語を素材としてことばの変化を考える							
担当者名	加藤　大鶴							
複合	2単位	春学期	月曜日	2時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

本授業では、言語史を捉えるための方法を、いくつかの事例を通じて学びます。本授業で紹介する方法は、〈体系的な方法とその限界〉（第2回〜第4回）、〈現代語の言語的事象から遡及する方法〉（第5回〜第6回）、〈言語地理学による方法〉（第7回〜第8回）、〈比較言語学による方法〉（第9回〜第12回）、〈文献と方言を両輪とする方法〉（第13回〜第14回）の5つです。ことばを観察すると、規則的で体系的な面が見て取れる一方で、それだけでは説明の付かない面もみえてきます。授業ではこの両面に注意しながら、言語変化を捉える学問的方法を学びます。

授業の到達目標

言語史を捉えるための方法を学ぶことによって、自分で言語史研究を行うことができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%
●**平常点**　30%
●**その他**　0%

科 目 名	ことばの統計　コーパス日本語学入門							
担当者名	市村　太郎							
複合	2単位	秋学期	金曜日	4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

本講義では、言語研究に関心のある文科系の学生を想定し、コンピュータやコーパスを利用して日本語を言語学的に研究するための基礎的な方法を学ぶ。

主として国立国語研究所で作成されたコーパスを例に、コーパスとは何かを理解し、コーパスを検索し、集計・分析する基礎的な方法を身に着ける。また実際にコーパスを作成する基礎的な方法を学ぶ。そのうえで、日本語研究（言語研究）に応用する方法を検討する。

授業の到達目標

コーパスを利用するための基本的な知識を身に着け、日本語研究に活用することができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません。
●**レポート**　80%　　コーパスを利用した日本語の分析を適切に行うことができる。
●**平常点**　20%　　授業への参加状況。
●**その他**　0%

備考・関連URL

・Webコーパス等を使用するため、PCを使用します。
・教室環境等によって内容を変更する可能性があります。
・本講義は言語学的観点からの初歩的なデータベース利用を想定しており、情報工学的な自然言語処理を対象とするものではありません。

科 目 名	ことばと社会							
担当者名	山岡　華菜子							
複合	2単位	秋学期	金曜日	2時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

この講義では、日本語のバリエーションについて考えていきます。具体的には、近代以降の日本語社会における「方言」を巡る動きを中心にしながら、外国語としての日本語など、現代社会にあらわれる日本語の様相について取り上げます。それらが社会のあり方とどのように関わるのか、みなさんと観察したいと思います。

授業の到達目標

この講義を通じて、言語という視点から社会を捉える方法の獲得を目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しません。
●**レポート**　70%　　学期末レポートを課します。
●**平常点**　30%　　授業の出席状況とコースナビまたはWaseda Moodle上に設置する掲示板への書き込み等から評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	文化人類学の最前線1　文化人類学的研究の広がりを学ぶ							
担当者名	酒井　貴広　他／大澤　誠／三浦　恵子／箕曲　在弘／山本　まゆみ							
複合	2単位	春学期	土曜日	2時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

文化人類学は、人間の営みを総合的に扱う学問として知られる。文化人類学の発達の過程で従来研究の対象とされてきたのは、比較的規模の小さい「地域社会」が大部分であり、周辺の地域や親族関係などの中で閉じた文化を想定していた。

しかし、世界システムが急速に拡大し、グローバリゼーションがいたるところで唱えられている今、文化の境界が極めて不明確となってきている。こうした状況の中で、文化人類学的研究には二つの大きな潮流が見られる。一つは文化人類学の限界と終焉を唱える悲観的な見方であり、他方はこれまで文化人類学が培ってきた知識と研究方法を、積極的に「現代の文化現象」の分析と解釈へ応用しようとする挑戦的な試みである。

本講義では、後者に重点を置きながら、文化人類学という学問がいかなる現況に置かれているのかを示し、それぞれの細分野における最新の研究成果をわかりやすく解説する。その上で、文化人類学が人間の営みを考え続ける上で在るべき方向性について、どのような問題提起を行っているのか、それに対して自らどのような答えを導き出そうとしているのかを明らかにする。

授業では、文化人類学が現代世界をどのように見ているのか、どのような点に着目しなければならないのか、そしてそうした問題群を分析する際にどのようなアプローチが実現し得るのかを、様々なトピックから多角的に検討する。

授業の到達目標

文化人類学における最新の研究課題について、理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　80%　　授業内容の理解度を評価の対象とする。
●**平常点**　20%　　出席状況を評価の対象とする。
●**その他**　0%

備考・関連URL

本講義を受講する前、あるいは授業と並行して、文化人類学の基礎的な講義を受講しておくことが望ましい。 また、この講義は、秋学期に開講する「文化人類学の最前線2」の授業と対になっているため、「文化人類学の最前線1・2」両講義とも受講することを推奨する。

科 目 名	文化人類学の最前線2　文化人類学の多様なアプローチを学ぶ							
担当者名	酒井　貴広　他／牛山　美穂／大坪　聖子／黒崎　岳大／三浦　恵子							
複合	2単位	秋学期	土曜日	2時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

文化人類学は、人間の営みを総合的に扱う学問として知られる。文化人類学の発達の過程で従来研究の対象とされてきたのは、比較的規模の小さい「地域社会」が大部分であり、周辺の地域や親族関係などの中で閉じた文化を想定していた。 しかし、世界システムが急速に拡大し、グローバリゼーションがいたるところで唱えられている今、文化の境界が極めて不明確となってきている。こうした状況の中で、文化人類学的研究には二つの大きな潮流が見られる。一つは文化人類学の限界と終焉を唱える悲観的な見方であり、他方はこれまで文化人類学が培ってきた知識と研究方法を、積極的に「現代の文化現象」の分析と解釈へ応用しようとする挑戦的な試みである。

本講義では、後者に重点を置きながら、文化人類学という学問がいかなる現況に置かれているのかを示し、それぞれの細分野における最新の研究成果をわかりやすく解説する。その上で、文化人類学が人間の営みを考え続ける上で在るべき方向性について、どのような問題提起を行っているのか、それに対して自らどのような答えを導き出そうとしているのかを明らかにする。

授業では、文化人類学が現代世界をどのように見ているのか、どのような点に着目しなければならないのか、そしてそうした問題群を分析する際にどのようなアプローチが実現し得るのかを、様々なトピックから多角的に検討する。

講義

授業の到達目標

文化人類学における最新の研究課題について、理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　80%　　授業内容の理解度を評価の対象とする。
●**平常点**　20%　　出席状況を評価の対象とする。
●**その他**　0%

備考・関連URL

本講義を受講する前、あるいは授業と並行して、文化人類学の基礎的な講義を受講しておくことが望ましい。 また、この講義は、春学期に開講する「文化人類学の最前線1」の授業と対になっているため、「文化人類学の最前線1・2」両講義とも受講することを推奨する。

科 目 名	文化人類学1　文化人類学の基礎を学ぶ							
担当者名	國弘　暁子							
複合	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

人類学（Anthropology）とは、anthropos（ギリシャ語で人間を意味する）について研究する学問（logy）であ。アメリカの文化人類学（Cultural Anthropology）、イギリスの社会人類学（Social Anthropology）、フランスの民族学（Ethnology）など、名称は地域によって異なり、また学史的な違いもあるが、今日では研究の射程における違いは然程見られなくなっている。文化人類学1の授業では、西洋で誕生した人類学の発展に貢献してきた先駆者たちの業績を紹介しながら、それらが現代社会に生きる私たちにとってどのような意義があるのかについて考える。異文化に生きる人々の生活に関する人類学的研究の蓄積を通じて、私たちの身近にある出来事のなかに彼らとの共通項をどのようにして見出すことができるのか。諸文化の多様性のなかに普遍性を見出す為に不可欠な比較の視座の持ち方について学ぶことを目指す。

授業の到達目標

人類学で求められる思考力を鍛えると同時に、自らの研究テーマを構想するための視野を得ることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　80%　　授業内容の理解度、記述の的確さを評価の対象とする。
●**平常点**　20%　　レビューシートの提出状況、および出席状況を評価の対象とする。
●**その他**　0%

備考・関連URL

履修者のレビューシート記述の内容に応答するかたちで、各回の講義内容を変更する場合がある。

科 目 名	文化人類学2　ヨーロッパへの人類学的アプローチ							
担当者名	松前　もゆる							
複合	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

この授業では、文化人類学の基礎的な知識にもとづく応用として、ヨーロッパ地域を対象とした文化・社会人類学的研究について解説します。ヨーロッパをフィールドとする人類学的研究は人類学においては後発の分野ですが、近年、新たな研究が蓄積されつつあります。本授業では、いわゆる西欧だけでなく東欧も視野に入れ、とくに人の移動・移住、体制転換とEU拡大、ジェンダー、仕事、共同性といったテーマに注目しながら、これまでのヨーロッパ人類学の議論を概観します。ヨーロッパ地域への人類学的アプローチの可能性について学ぶとともに、そこから人類学全体の議論につなげ、人類学的思考についての理解を深めることが授業の目標です。

授業の到達目標

1. ヨーロッパを対象とする人類学的研究について、基本的な知識を身につける。
2. ヨーロッパに対する一般的な見方について、フィールドワークにもとづく知見から自分なりに再考できるようになる。
3. 人類学的アプローチの特徴を知り、現代ヨーロッパの諸課題・諸現象を考える視角のひとつとして理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　50%　　学期末にレポートを提出してもらいます。授業内容を充分に理解した上で考察し、正確で論理的な記述がなされているかを評価の対象とします。

●**平常点**　50%　　授業への参加状況とともに、講義に対するレビューシートの内容から授業の理解度を判断し、評価の対象とします。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	環境と人間1（マクロな視点）　環境適応と人間文化の多様性・普遍性							
担当者名	寺崎　秀一郎							
複合	2単位	秋学期	金曜日	1時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

私たち人間は，周囲の環境に適応することによって，他の生物との生存競争に勝ち抜き，繁栄を遂げてきた。具体的には周囲の環境から資源を収奪し，働きかけ，時には改変してきたわけだが，それは多様な生態環境からなる地球上で均一に起こったわけではない。それぞれの地域の環境に特化した文化や社会を築いて現在に至る。こうして生まれた多様な人間文化の根源を探る上で環境との関わりは極めて重要な意味をもつと言えるだろう。本講では「適応」をキーワードに人間文化の多様性と普遍性について，具体例をもとに考察していくことにしたい。

授業の到達目標

私たち人間社会の多様性の基層には環境要因が働いているという側面を理解するとともに，その差異を超えた普遍性という観点から私たち自身を見つめ直す機会として欲しいと思います。また，近年の環境変動が私たちの文化の未来にどのような影響を及ぼすのか，どのような社会を構築していかなければならないのかという点についても個々の受講生自身の問題として受け止めてもらいたいと思っています。

成績評価方法

●**試験**　50%　　理解度，ならびに講義内容を踏まえ，自身の意見を明確に述べることができるかという観点から評価をおこなう。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　受講態度，および，講義終了後一定期間内にレビューシートを記入することによって評価をおこなう。なお，レビューシートの記入をもって出席とする。
●**その他**　0%

科 目 名	環境と人間2（ミクロな視点）　東南アジアの環境と人間社会							
担当者名	三浦　恵子							
複合	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

本講義は、環境と人間社会の相関関係を、主に東南アジア社会の事例を取り上げて、人類学的観点から総合的に学んでゆく。まず、東南アジア地域の異なる環境で生活するさまざまな人々の暮らし（ミクロの視点）について紹介する。次に、第2回から第6回までは、それぞれの異なった環境における民族社会の環境順応と生存（生活）戦略について考察する。第7回と第8回は、環境が人間社会へ及ぼす現象や実践面での影響について考察する。第9回から第15回までは、人間の活動や政策が環境に与える影響と、環境変化が人間社会に投げかけるさまざまな問題について歴史的視点を踏まえて考察する。第11回は、「日本人の生活と東南アジアの環境との関係」について各グループがそれぞれ東南アジアの環境にある特定の物（木材、やし油製品、養殖エビなど）の日本への流通の例を挙げて、そのことが東南アジア地域の環境へどのような影響を与えているかについて詳しく調べて発表する。

授業の到達目標

1. さまざまな自然環境における人間の順応の過程と、変化への対応について理解する。
2. 自然環境と人間社会の相互作用とメカニズムを理解する。
3. 異なった環境と多様な社会に住む人々の生活や現象の関わりについて理解する。
4. 東南アジアの環境と社会について基礎的な知識を習得する。
5. 環境と人間社会の関係性について多角的に議論するための基礎知識、方法論や観点を習得する。
6. 日本人の生活と東南アジアの環境問題との関係について理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　70%　　レポート課題は、第2回から第15回目までの課題（教場で配布）の中から1つ選択すること。適切な文献を3冊以上参照し、理論的に説得力をもって書いてあること。参照文献リストは必ず添付すること。インターネットからの引用のみや切り張りは不可。約3,000字。
●**平常点**　20%　　グループワークにおける貢献度と通常授業への積極的な参加（質疑応答など）を評価する。
●**その他**　10%　　リフレクションシートへのコメントの内容や授業へのフィードバックなどを評価する。

備考・関連URL

英文の文献を読みこなせ、英語のビデオ・DVDその他の映像メディアも大方理解できることが重要である。

科 目 名	異文化の伝播と受容　グローバル化と東アジア美術コレクションの形成							
担当者名	楢山　満照							
複合	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

アメリカやヨーロッパで美術館に立ち寄ると、思いもよらず日本や中国の美術品の充実したコレクションを目にする、ということがあります。こうしたコレクションの核となる作品の多くは19世紀後半から20世紀初頭にかけて蒐集されたもので、その背景には、東アジアを取り巻いていた緊迫した政治情勢のほか、運輸システムと情報ネットワークのグローバル化がありました。ただし、オリエンタルでエキゾチックなものを求める欧米人の蒐集欲を、図像と漢字から構成されるシンボリックな東アジアの美術品が満たしていた、と単純に解釈することはできません。というのも、興味深いことに、同じ時期にここ日本でも、自国の文化の母胎である中国の美術品をコレクションする現象がみられたからです。

とすると、東アジアの美術品の伝播は世界規模でおこなわれていたことになり、それをコレクションすることは何を目的とした行為であったのか、とりわけ、中国の伝統を受容してそれを理解することは何を意味していたのでしょうか。さらに、文化の

基盤が異なる欧米と日本とでは、コレクションの内容と形成過程、そして思惑に違いがあったと想定されます。
東洋や西洋といった各文化圏の枠組みが曖昧になり、世界の距離が目まぐるしい速さで縮まってきている昨今、過去に世界規模で起きた東アジア美術コレクションの形成過程をグローバル化という視点から分析することは、多様な文化が複合的に重なり合い構成される現代の文化をあらためて考え直すためのひとつの題材になるはずです。

授業の到達目標

本科目では、まず全体の内容に関わるガイダンスとして、初回に中国皇帝コレクションの概要とその流転の経緯について説明します。2回目以降は、毎回トピックを設けて、中国の伝統文化と異文化の接触、そして美術品の異文化圏への伝播の具体例を提示します。その後、世界各地にある「中国美術の殿堂」といわれるような美術館を特集し、そのコレクションの形成過程を比較検討していきます。
全体を通して、東アジアの美術品というローカルな文化遺産が巻き起こしたグローバルな展開を知り、自分の身近にもある異文化の接点に気づくことを目指します。

成績評価方法

●**試験**　60%　　最終回に理解度の確認をおこないます。東アジア美術というローカルな文化遺産にみるグローバルな展開を具体的に理解し、自分の身近にもある異文化の接点について、自身の見解を明確に述べることができているかをみます。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　40%　　出席および授業への主体的な参加。ここでいう主体的な参加とは、適宜提出してもらうリアクションペーパー（ミニレポート）のこと。
●**その他**　0%

講義

科 目 名	異文化接触と日本文化　仏像、海を渡る							
担当者名	楢山　満照							
複合	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

近年、巷では、にわかに仏像ブームがきているとのこと。ひょっとするとそれは、ゆるキャラやフィギュアが現代的な文化現象として市民権を獲得してきたことと連動しているのかもしれません。その是非はともかく、祈りの心を受け止めてくれる信仰の対象、という本来の宗教的な枠にとらわれず、自由な感覚で自分好みの仏像を探そうという人が増えてきているのは事実であるように見受けられます。
本科目では、そうした現象を自他の文化理解を考察するための格好の題材ととらえ、仏像という立体彫刻に焦点を当てながら、アジアを舞台とした異文化の接触と交流の様相をみていきます。日本人にとって、仏教は本来、異国の宗教でした。当然、日本で定着するまでには、他の宗教との衝突もあったはずです。そこで、「そもそも誰が最初に仏像をつくったのか？」、「日本にしかない仏像はあるのか？」、「キリスト像との影響関係は？」、「仏像をフィギュアや美術品と考えるのは不謹慎なのか？」など、いくつかのトピックを設け、受講生とともにその問いについて考えながら、実践的な他者理解の思考を養っていきます。

授業の到達目標

本科目は仏像の鑑賞そのものを目的としたものではなく、鑑賞のための基礎知識を身につけるためのものでもありません。異文化接触の観点から、仏像が生まれ日本にたどりついて定着するまでの道程を追いながら、現代の我々にも共感できる「日本的な現象」がそこにあるのかどうか、講義を通して自分なりの見解をもつことを目指します。

成績評価方法

●**試験**　60%　　最終回に理解度の確認をおこないます。鑑賞のための基礎知識にとどまらず、異文化の接触と交流という視点から仏像の変容について理解し、それについて自身の見解を明確に述べることができているかをみます。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　40%　　出席および授業への主体的な参加。ここでいう主体的な参加とは、適宜提出してもらうリアクションペーパー（ミニレポート）のこと。
●**その他**　0%

科 目 名	民族音楽論　世界音楽入門							
担当者名	早稲田　みな子							
複合	2単位	秋学期	水曜日	5時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

世界の諸民族の音楽・芸能を紹介し、音楽構造や理論の多様性、音楽と歴史・宗教・社会とのかかわり、音楽の意義・役割、さらに音楽文化の流動性・可変性等について様々な観点から考察する。取り上げる地域は、アフリカ、北米（アフリカ系アメリカ）、南米（ブラジル、アルゼンチン、ペルー）、太平洋諸島（ハワイ）、東南アジア（インドネシア）、南アジア（インド）、西アジア（イスラム圏）、東アジア（中国）、中央アジア（モンゴル）等を予定している。

授業の到達目標

多様な具体例を通じて音楽文化に対する視野を広げるとともに、音楽に関する既成概念や価値観を見直す。また異文化との比較を通じて、自文化に対する認識・態度についても再考する。

成績評価方法

試験　45%
小テスト1：　15%　（Course N@viまたはWaseda Moodleで実施。範囲は第1回～第5回の授業内容）
小テスト2：　15%　（Course N@viまたはWaseda Moodleで実施。範囲は第6回～第10回の授業内容）
小テスト3：　15%　（Course N@viまたはWaseda Moodleで実施。範囲は第11回～第15回の授業内容）
平常点　55%
出席　＊単位取得には2/3以上の出席が必要です。

備考・関連URL

1．ミニ発表の募集
履修生による音源、楽器、舞踊などの授業内ミニ発表を募集します（15分程度）。
サークル有志による発表も歓迎します。興味のある方は担当教員までお知らせください。
2．出席管理

Course N@viまたはWaseda Moodle上で作成した「出席カード」を授業中に配布し、履修者自身で授業後に登録を行っていただきます。
出席重視のため、15分以上の遅刻・退出は出席点減点の対象となります。30分以上の遅刻・退席は出席と認めません。

科 目 名	国民国家と文化							
担当者名	寺崎　秀一郎							
複合	2単位	春学期	火曜日	1時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

21世紀を生きる多くの人びとにとって「国民国家」は所与の存在であり、帰属すべきものとされている。しかし、長い人類の歴史を見れば「国民国家」がきわめて新しい枠組みであり、人類社会が築き上げてきた「文化」という枠組みと必ずしも一致しない、という事態も生じている。現在、世界各地で起きている民族紛争は、こうした矛盾に起因するとも考えられる。そこで、本講義においては、「国民国家」の中で「文化」がどのように変容し、あるいは、抵抗し、今の世界を形作ったのかを考える。そのため、本講義で取り扱う領域は、人類学はもとより、考古学、歴史学、場合によっては政治経済システムまで多岐にわたる。

授業の到達目標

本講義が、受講生のみなさんにとって、世界の在り方を問い、自らの未来を切り拓く契機となることことを期待したい。

成績評価方法

●**試験**　50%　　受講生の理解度を確認するための試験を最終回実施する。
●**レポート**　10%　　レポート内容の充実度。
●**平常点**　40%　　出席状況。なお、受講生は受講後にコースナビまたはWaseda Moodle上のレビューシートに記入すること。一定期間内のレビューシートの記入をもって出席とする。
●**その他**　0%

科 目 名	現代の国際法							
担当者名	清水　章雄							
複合	2単位	春学期	木曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

「法」の一分野である国際法の基本的事項について，できるだけ実際の事例を題材として講義を行う。なお，受講者がこれまでに法律科目をまったく履修していないことを前提とする。

授業の到達目標

国際関係において何が国際法の問題であるかを認識することができ，「国際法」という用語を誤って使うことがないようにすること。

成績評価方法

●**試験**　80%　　学期末の筆答試験により，授業内容の理解度を確認する。
●**レポート**　0%　　なし。ただし，他の履修科目等との関係で授業を欠席する場合に提出を求められるものを除く。
●**平常点**　20%　　出席状況および授業中に与えられた論題について書いた小論に基づく評価。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

http://legal.un.org/avl/lectureseries.html
https://www.lcil.cam.ac.uk/lectures-events

科 目 名	感性の哲学　近世以降の感性論の展開							
担当者名	桑原　俊介							
複合	2単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

17世紀は「方法の世紀」とも呼ばれ、哲学がその根底から、つまりその方法から刷新された時代です。それに伴い、人間の認識能力にも新たな問いが立てられ、知性のみならず感性に関しても様々な理論の樹立が試みられました。この流れは、18世紀前半から中葉にかけての「芸術」概念の成立や、「美学」という新しい学問の成立に結びくことになります。本講義では、この歴史的展開を、「認識」（感性）と「存在」をキーワードとして再構成することを試みます。認識と存在の間にある複雑な認識論的・存在論的関係性の下で、感性のあり方、芸術のあり方が問い直されることになります。そして最終的には、現代哲学のホット・トピックである思弁的実在論と関係付けることを目指します。

内容は多少高度になりますが、各種テクストを丹念に読解しつつ、それぞれの理論の根幹となる図式を正確に捉え、その歴史的展開を可能な限り精密に描き出すことを試みます。

授業の到達目標

概念や理論の成立には、それを可能にする歴史的条件が不可欠です。感性に関する様々な理論の成立にも、広い哲学的な思考条件が複雑に関連しています。本講義では、個々の感性論を単に時系列的に羅列するのではなく、哲学の全体的な概念の動きの下で捉え返すことを目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　80%
●**平常点**　20%
●**その他**　0%

科 目 名	芸術論　芸術とは何か――美術、音楽、文芸、映画、その他――							
担当者名	伊野　連							
複合	２単位	秋学期	月曜日	３時限	１年以上	オープン科目	合併科目	―

授業概要

【内容】

・ミロシュ・フォアマンの映画《アマデウス》（音楽の哲学）

・レンブラントの油彩画《バテシバ》（醜と悪の美学）

・谷崎潤一郎の小説『瘋癲老人日記』（芸術とフェティシズム）

・山下耕作の映画《博奕打ち　総長賭博》（三島由紀夫の任侠映画論――古典劇との関連――）

なお、時間が許せばリヒャルト・ワーグナーの楽劇《トリスタンとイゾルデ》も採りあげたい。

【理念】

我々はふだん芸術に対して、特別な意識をせずに接していることが多いであろう。この授業ではそうした現状を改革することに努めたい。

芸術作品を受容するという基本的な姿勢から脱却することを心がける。

①そこでまず、芸術鑑賞において、特別な意識を研ぎ澄ませることから始めよう。

我々が芸術作品と向かい合うというのは、多くの場合、それは趣味としての芸術鑑賞であったり、あるいは場合によっては、より専門的に、芸術作品の分析であったりする。

また、それぞれの芸術ジャンルにおいて、自らが創作する立場となる場合も当然ながらあるであろう。鑑賞者としても、創作者としても、

②したがって次に、自分の主な目標となる芸術作品を見出すため、何を目的として芸術作品に向き合うかが問われることとなる。

すると実際には、芸術ジャンル、時代、地域、作家、等々が具体的な問題となってくる。

③そこでさらに、地歴の上でも、古今東西の、幅広い領域を対象とするよう努める。テーマには大衆芸能やサブカルチャーも含む。

現実の授業では、まずはこちらが提案する古典的な諸作品を通じてこうした意識改革を促されることとなる。次の段階では、各自が主体的に選択した芸術作品に対し、種々様々な接し方を模索していってくれることを期待する。

授業の到達目標

①　自分が志向する芸術作品に関する定説をひととおり承知しておく。

②　その上で、可能なかぎり独自の見解を備えられるようにする。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　70%　　期末レポートを作成してもらいます（詳しくは授業内で説明します）

●**平常点**　30%　　毎回の授業で提出してもらうコメント用紙（出席確認を兼ねる）により評価

●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

作品鑑賞時、特に音楽や映画などでは沈黙が必須であるから、他の受講者の鑑賞の妨げになることのないように十分に配慮すること（特に上映中の遅刻による入室はたいへん迷惑になるので注意）。

科 目 名	生活環境美学							
担当者名	宮崎　薫							
複合	２単位	春学期	金曜日	３時限	１年以上	オープン科目	合併科目	―

授業概要

本講義では、「美」や「感性」について、わたしたちの生活環境の場面に、結びつけながら考察します。

衣食住や日本に関わる事象を取り上げ、身のまわりのさまざまな事柄が、「感性」に関わることに気づき、日常生活に潜む美、感覚世界の多様性を探ります。 本講義は、ディプロマポリシーの中の「多様な文化・価値観の交流を育む」に対応し、人間と社会の本質に迫り、新たな価値の創造する力を養います。

授業の到達目標

本講義では、日常のさまざまな事象に意識を働かせ、「美」や「感性」との関わりを見い出し、考察・批判することを通じて、問題認識力と思考力を高めることを目指します。学問の広がりを体験し、自らの独創的な研究テーマを構想するための視野を得ることを目標とします。本講義を通じて、感性的経験を広げ、美学がよりよく生きるための一助になることを理解します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　－－－

●**レポート**　0%　　－－－

●**平常点**　100%　　毎回のレヴューシートと出席状況により評価します。（レポート・試験はありません。）

●**その他**　0%　　－－－

備考・関連ＵＲＬ

ゲスト等の招聘で、授業計画を変更する場合があります。

科 目 名	現代美学の射程　都市の美学：世界の審美化がもたらすものは何か							
担当者名	椎原　伸博							
複合	２単位	春学期	火曜日	６時限	１年以上	オープン科目	合併科目	―

授業概要

「美学」とは、人間の感性的な関心全般に関わり、それらを理論的に考えようとする学問です。この講義では、人間の感性的な関心が複雑にからまっている「都市」に注目し、そこから「美学」の問題を抽出することを目的とします。本講義はパリ、ウィーン、マドリード、,ベルリン、ロンドン等の事例から、それと日本の事例を織り交ぜながら、具体的な都市の審美化の現状に注目し、そこから美学的問題を考察します。

授業の到達目標

現代社会におけるさまざまな感性的経験を分析し、美学的な思考ができるようになること。

成績評価方法

●**試験**　50%　　15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　50%　　実地調査に基づく、都市に対する感性的な認識に関するレポート。
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科 目 名	美の諸相							
担当者名	小林　信之　他／島村　幸忠							
複合	2単位	秋学期	月曜日	2時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

例えば私たちは、「何を美しいと思うかは、時代や民族によって違っている」と思う一方で、「この美しさは、どんな人にとっても絶対のもののはずだ」と思うことがないでしょうか。あるいはまた、「グロテスクだけど、惹かれる」とか「かわいくてたまらない」という感情に支配されることはないでしょうか。本講義は、そのような様々な相を見せる「美しさ」の謎について、主に古代から現代にいたる思想のポイントを押さえながら、具体的な芸術作品をできるだけ多く例にあげて、受講生の皆さんと考えていきたいと思います。

授業の到達目標

実利的な到達目標が設定されているわけではありません。美や芸術に関する思考の一端を知り、歴史の中にある多様な表現に触れることで、感性を養い、深くものごとを見つめるための訓練として考えてください。

成績評価方法

●**試験**　50%　　授業内容の理解度、自己の見解の有無、記述の的確さ等を評価基準とします。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　授業のトピックに合わせてのレビューシート、出席状況等から判断します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

関連URL:
http://www.f.waseda.jp/kobayashi

科 目 名	死の諸相　〈死〉をめぐる表現の諸相							
担当者名	堀内　正規							
複合	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

人間にとって〈死〉はもっとも基本的なものの一つでしょう。どう生きるかという問題は〈死〉とのかかわりにおいて、強く意味を持ってきます。

この講義では、〈死〉というテーマをめぐって、日本ではどのようなすぐれた表現があるのかを、わたしなりの（その意味ではかたよった）視点から、具体的な事例に即して考え、それぞれ固有の問題からより大きな問題を考える糸口を探ってみたいと思います。

感性文化論プログラムの科目の一つとして、感性の面にあらわれた〈死〉の諸相を、芸術創造の表現と結びつけながら、しかし芸術論の枠からずれる形で、とらえてみます。

とはいえ、〈死〉のような問題について、わたしが学問上のディシプリンを持って何かを「教える」ようなことはとても不可能ですし、わたしが学生のみなさんよりも〈死〉のことを深く知っているということもないでしょう。その意味で、体系だった教育とはほど多く、ほとんど手探りの姿勢で、〈死〉というファクターから表現されたものに近づいていく試みをする講義になります。客観的な、あるいはアカデミックな考証をともなうような〈死〉についての知識を求める方は、この授業を履修しないようにしてください。

さまざまな表現者の〈感性〉を通して、命題的な思想内容と重なりながらもそこから逸れた、表現によってしか形にならないような部分に着目してみます。そのような講義であるので、一段高いところから〈教える〉ような性質の授業ではなく、できれば講義を通じて聴いているみなさんが、部分的にではあっても、毎回何かを感じたり考えたりするヒントやきっかけを提示できればと思っています。つまりこの授業の目標は、みなさんをいい意味で刺激することです。

とりあげる予定の作品ですが、まず藤原新也の『メメント・モリ』（新版・旧版）、『納棺夫日記』と『おくりびと』、「千の風になって」、山田太一のドラマ『早春スケッチブック』、宮澤賢治「銀河鉄道の夜」とアニメ版、天童荒太『悼む人』、古屋誠一の写真、『もののけ姫』とマンガ版『ナウシカ』、高畑勲のアニメ『火垂るの墓』、村上春樹『ノルウェイの森』、出崎統『家なき子』第26話、河瀬直美『もがりの森』、手塚治虫『火の鳥・鳳凰編』、茨木のり子や岩成達也や長田弘の詩、などを考えています。紹介をしながら、結論を出すのでなく、教室で一緒に感じとってもらえるような話し方をしたいと思います。こちらから話しっぱなしになるのもどうかと思い、最後の週は、みなさんからの質問や考えに対してレスポンスを返す回にします。**（予定は一部変更になったり順序が入れ替わったりすることもありますので、あらかじめご了承ください。）**

身近な人の死、自らの死、一般的な人間の死、大量死、物体としての死（死体）、生命の死、普遍的な死の観念など、死に向き合うポイントはさまざまですが、ひとが身に迫る感覚とともに死と向き合う機会は、〈わたしが死ぬ〉ということか、さもなければ〈愛する者が死んだ〉といった事態ではないか――そんな仮説から出発して、できるだけ偉そうな物言いをしないようにして、そのつどの試みのように話してみます。自分で感じ考えたい人に履修してほしいと思います。

なおこの科目は2016年度まで「死の制度」というタイトルでおこなわれていた内容と重なります。その科目を履修済みの方

は、履修しないようにしてください。

授業の到達目標

学生個々人が〈死〉を観念や情報としてでなく、感性の次元でとらえ、自ら思考を働かせる。

成績評価方法

●**試験** 0%　試験はしません。
●**レポート** 50%　自分なりの視点を打ち出せているかどうか。真摯に思考しようとしているかどうか。論理的にアウトプットができているかどうか。
●**平常点** 50%　出席は重視されます。3分の2以上を必須とします。
●**その他** 0%

科 目 名	グローバリゼーションとメディア							
担当者名	高橋　利枝							
複合	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

講義

授業概要

デジタル化やグローバル化の進む現代社会において、「文化」はこれまでのように所与のものとして捉えられなくなってきました。今日のグローバル化において文化の「境界」がより一層不明瞭になっているため、「文化」を定義することがますます困難になってきています。人の移動ばかりではなく、衛星放送やインターネット、携帯電話などの普及によって、異なる文化に住む人との出逢いや異なる文化的資源との相互作用がより稠密になり日々拡大しています。これまで「場」に制約を受け、一期一会であった人と人との出逢いも、TwitterやFacebookなどのソーシャル・メディアによって、時空を超えて半永久的につながることも可能となっているのです。

この授業では、「グローバリゼーションとは何か？」という問を出発点として、多様な理論や概念を解説すると共に、日本、アメリカ、イギリスにおける若者の多様なコミュニケーション行動から、グローバル化、デジタル化の進む現代社会の変容について考察していきたいと思います。この講義では、「文化」を理解するために必要な知識や諸概念について理解するとともに、グローバル社会を生きるための能力 - グローバル・リテラシー - を身につけていきましょう。異文化との出会いによって自己を再発見するとともに、新たな自己や文化を創造していきましょう。そして、今日のグローバル社会において、新たなコスモポリタン的文化を創造するための力を身につけましょう。

本授業は教室授業を基本とし、一部オンデマンド授業で実施します。教室授業では、グローバリゼーションやメディアに関する理論や概念のより深い理解を図るために、双方向型、対話型の授業を行います。受講者は、ディスカッションやプレゼンテーションなどへの積極的な参加を通して、コミュニケーション能力を磨きましょう。

授業の到達目標

1）「文化」について、一定の視点から明快な議論ができるようになるための知識を習得し、その基礎能力を身につけましょう。
2）グローバル化、デジタル化における他者への理解を深め、現代社会における好機とリスクについて理解しましょう。
3）参加型・対話型の授業を通してコミュニケーション能力を高めていきましょう。

成績評価方法

●**試験** 100%　理解度の確認によって評価します。
●**レポート** 0%　—
●**平常点** 0%　—
●**その他** 0%　—

備考・関連URL

本授業は、参加型・対話型の授業により、グローバリゼーションやメディアに関する理論や概念のより深い理解を図るために、受講者の人数などによって変更する場合があります。

科 目 名	語用論入門　人間のコミュニケーションを科学する							
担当者名	酒井　智宏							
複合	2単位	春学期	火曜日	5時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

「ことばの意味」を研究する学問分野には「意味論」のほかに「語用論」があります。「意味論」はその名のとおりですが、どうしてこれとは別に「語用論」なる分野が存在するのでしょうか。それは、言語表現が実際のコミュニケーションの中で用いられることにより、プラスαの意味が伝わることがあるためです。そこで、言語学では「意味論 = 言語表現の辞書的意味（文脈独立的意味）を扱う分野」、「語用論 = 言語表現が文脈中で使用されたことによって伝わるプラスαの意味を扱う分野」という棲み分けが行われることになります。この講義では、意味論と語用論の関係に留意しながら、含み、前提、言語行為などの語用論の基本概念を論じ、人間のコミュニケーションのあり方について理解を深めます。

授業の到達目標

1. 意味の研究において、意味論とは別に語用論が必要とされる理由を理解する。
2. 日常のコミュニケーションの実態に即しつつ、語用論の基本概念を理解する。

成績評価方法

●**試験** 70%　第15回の授業時間中に理解度の確認を行います。
●**レポート** 0%
●**平常点** 30%　毎回、課題の解答をCourse N@viまたはWaseda Moodleのレビューシートに記入していただきます。
●**その他** 0%

備考・関連URL

語用論は突き詰めて考えることにより少しずつ面白さがわかってくる学問分野です。結論を急がず、粘り強く、論理的に一歩一歩思考を進める楽しさをこの講義で身につけていただきたいと思います。

関連URL: http://www.tomohirosakai.com/

科 目 名	認知言語学入門							
担当者名	酒井　智宏							
複合	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

生成文法と並んで現代言語学の二大潮流をなす認知言語学の基礎を学びます。「ことばの研究」と聞いて真っ先に思いつくものは何でしょうか。この問いに対して「ことばの意味の研究」という答えを思いつく人がいるかもしれません。しかし、意外なことに、欧米の言語学では、意味の研究は後回しにされ、長いあいだ、語の形態や文の構造といった「ことばの形式の研究」ばかりが行われていました。非常におおざっぱに言えば、「ことばの形式を先に研究して、それに後から意味をくっつければ言語の分析が完成するはずだ」と考えられていたのです。この考え方に真っ向から勝負を挑んだのが「認知言語学」と呼ばれる立場です。認知言語学は、「ことばの形式にはことばの意味が反映されており、意味と独立に形式だけを研究したのでは、ことばの本質を捉えることはできない」と考えます。さらに、「ことばの意味はありのままの現実を写し取ったものではなく、人間の世界の捉え方を反映している」と考えます。この講義では、そうした認知言語学の言語観を、従来の理論との相違に注目しながら論じます。

授業の到達目標

1. 認知言語学の基本概念を理解する。
2. 認知言語学と他の言語理論との相違を理解する。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第15回の授業時間中に理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　毎回、課題の解答をCourse N@viまたはWaseda Moodleのレビューシートに記入していただきます。
●**その他**　0%

備考・関連URL

1. 認知言語学の特徴は、それと対立する生成文法の考え方を学ぶことでより深く理解することができます。生成文法の基礎を学びたい方は秋学期開講「複合文化論系演習(文法の理論)」を履修するとよいでしょう。2. 言語学は突き詰めて考えることにより少しずつ面白さがわかってくる学問分野です。結論を急がず、粘り強く、論理的に一歩一歩思考を進める楽しさをこの講義で身につけていただきたいと思います。

関連URL: http://www.tomohirosakai.com/

科 目 名	文化の哲学							
担当者名	小林　信之　他／嶋田　久美／田原　彰太郎							
複合	2単位	春クォーター	土3時限	土4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

さまざまな文化的営為を哲学的に考察します。他者経験と倫理、美的経験と感情、詩や言語文化と記号、知覚や身体感覚と想像力、性愛と死の文化などをキーワードとし、哲学的に主題化します。

とくに体系的な知識を順序だてて伝授するような講義ではありません。考え、感じることの自由な可能性を構想することがこの講義のめざすところです。

授業の到達目標

なにか実利的な到達目標が設定されているわけではありません。文化の多様な表現にふれ、理論的・哲学的思考と感受性を鋭敏に働かせることで、いっそう深くものごとを見つめるための訓練として考えてください。

成績評価方法

●**試験**　60%　　授業内容の理解度、自己の見解の有無、記述の的確さ等を評価基準とします。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　授業の各単元終了後のレビューシート、出席状況等から判断します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

煩瑣な哲学的議論もふくみますが、何より、ものを考えるわたしたちの力を研ぎ澄ませることに主眼があります。

関連URL:
http://www.f.waseda.jp/kobayashi

科 目 名	人工知能とポストヒューマン思想							
担当者名	高橋　透							
複合	2単位	秋学期	水曜日	2時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

昨今人工知能（AI)がおおきな話題となっています。この授業では、AIや先端テクノロジーを取り挙げつつ、サイボーグ学を講じます。サイボーグはもう、SFの世界の話ではありません。自分をサイボーグ化した研究者がいるし、サイボーグのパフォーマンスをしているアーティストもいる。それから、「バイオ・アート」という、バイオテクノロジーを用いた作品を作っているアーティストもいます。

この講義では、映画とアニメを観ながら、来たるべきサイボーグ世界について想いを巡らしてみたいと思います。映画やアニメはすでに、機械を通じて、世界をサイボーグ化することなのですから。

扱う予定のテーマ以下の通りです：押井守『攻殻機動隊』＋庵野秀明『新世紀エヴァンゲリオン』＋宮崎駿『となりのトトロ』、吉浦康裕『イヴの時間』、『マトリクス』、脳科学と脳のサイボーグ化、チャップリン『モダンタイムズ』、エドゥアルド・カッツの「バイオアート」、メタファーとしてのナノテクノロジーなど。

授業の到達目標

先端テクノロジーの現況ならびにその意義を各自理解し判断することができるようになること

成績評価方法

●**試験**　100%　　最終日に教場でレポートを書いてもらいます

●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　0%　　なし
●**その他**　0%

科 目 名	アジアのジェンダーとセクシュアリティ							
担当者名	國弘　暁子							
複合	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

ジェンダー研究の領域において、非西洋社会に生きる人々のジェンダーやセクシュアリティはどのように記述されてきたのか。この授業では、西洋の研究者たちによって特殊なジェンダーとして取り上げられてきたインドのヒジュラに関する事例を中心に、西洋の帝国主義的発想が与えた非西洋社会のジェンダー、セクシュアリティに係わる研究のあり方について学び、さらには、ジェンダー研究と他の研究領域（宗教やエスニシティ）との関連性について考えることを目的とする。

授業の到達目標

西洋社会の土壌で生まれたジェンダー、セクシュアリティの概念が非西洋社会に与えた具体的な事例の理解を通じて、私たちの生のあり方について今までとは異なる視点から考え直すことの重要性について学び、さらに、自らの研究テーマを構想するための視野を得ることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　80%　　授業全体の理解度を対象とする。
●**平常点**　20%　　レビューシートの提出状況、出席状況を対象とする。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

レビューシートの記述内容に応答するために、講義の順序や内容を変更する場合もある。

科 目 名	近代日本の思想空間　明治期を中心とした近代日本の知識人による「宗教」の探求							
担当者名	長谷川　琢哉							
複合	2単位	秋学期	火曜日	6時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

・「西洋」との出会いが本格的に始まった明治以降の日本において、人々はいかなる思想的営みを行ってきたのか。本講義では、この問題について「宗教」を軸に考えてみたい。

・ただしこの際重要となるのは、私たちが日常的に用いている「宗教」という概念が、近代において作られたものだという視点である。「宗教」（あるいは「非宗教」）という概念が、何らかの仕方で私たちのリアリティの一部をなしているとすれば、その概念を反省的に捉え直すことは有意義であり、また不可欠でもある。そしてこのような視点は、「日本思想」や「東洋思想」と呼ばれてきたものについての批判的反省を促すことにもなるだろう。

・そこで本講義では、近年の「宗教」概念再考論などの成果を踏まえつつ、あらためて近代日本思想へとアプローチすることを試みる。思想史を「逆撫で」しながら考えていくことで、私たちのリアリティがどのように構築されてきたのかを確かめることが本講義の目的となる。

授業の到達目標

・「宗教」概念を反省的に捉え直す視点を身につけること。
・近代日本思想の基本的な流れを理解すること。
・近代日本思想の読解を通して、自分自身の生を再考すること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　・学期末レポート。　・授業の中で扱った題材について自由に記述してもらう。
●**平常点**　40%　　・授業中に行う小レポート。　・授業の内容を理解出来ているかどうか。またそれについて自分で考えることが出来たかどうかを確認する。　・複数回行う小レポートには出席点も含まれる。
●**その他**　0%

科 目 名	人工知能とサイボーグ-先端テクノロジーを哲学する							
担当者名	高橋　透							
複合	2単位	春学期	金曜日	2時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

昨今人工知能（AI)がおおきな話題となっています。この授業では、AIや先端テクノロジーを取り挙げつつ、サイボーグ学を講じます。サイボーグはもう、SFの世界の話ではありません。自分をサイボーグ化した研究者がいるし、サイボーグのパフォーマンスをしているアーティストもいる。それから、「バイオ・アート」という、バイオテクノロジーを用いた作品を作っているアーティストもいます。

この講義では、映画とアニメを観ながら、人工知能や来たるべきサイボーグ世界について想いを巡らしてみたいと思います。映画やアニメはすでに、機械を通じて、世界をサイボーグ化することなのですから。

扱う予定のテーマ以下の通りです：押井守『攻殻機動隊』＋庵野秀明『新世紀エヴァンゲリオン』＋宮崎駿『となりのトトロ』、吉浦康裕『イヴの時間』、『マトリクス』、脳科学と脳のサイボーグ化、チャップリン『モダンタイムズ』、エドゥアルド・カッツの「バイオアート」、メタファーとしてのナノテクノロジーなど。

授業の到達目標

先端テクノロジーの現況ならびにその意義を各自理解し判断することができるようになること

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　100%　　最終授業日に教場でレポートを作成してもらい、それを基準にして評価する
●**平常点**　0%

●**その他**　0%

科 目 名	音から見ることばと文化　楽しい音と音声の世界							
担当者名	竹内　京子							
複合	２単位	春学期	金曜日	４時限	１年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

音とことば、そして文化とのつながりを様々な観点から探る。例えば、ことばで使われる音声も耳の聴こえもひとりひとり違うのに、なぜお互い理解できるのか。よく聞こえない時、人はどうする？日常的に共通した音を聞いていると集団になるのか？音声だけでなく、音が我々の生活の中でどのように存在し、我々をつなぐよう機能しているのか、それらを受講者と一緒に考えるきっかけになるような内容を目指す。

授業の到達目標

音や音声に関する様々な分野の存在を知り、理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　40%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行う。
●**レポート**　30%　　課題は初回の授業で説明する。第15回授業が提出期限である。
●**平常点**　30%　　授業中の小テストなど
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

http://francais.la.coocan.jp/　フランス語の部屋

科 目 名	現象学への導入							
担当者名	長坂　真澄							
複合	２単位	春学期	水曜日	２時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

現象学とは何か、それはなぜ、いかにして、誕生したのか。本講義では、現象学が樹立されるにいたる背景となった近代の哲学史的文脈から出発し、哲学史における現象学の革新性を解説する。とりわけ、現象学を理解する上で欠くことのできない、デカルト、ライプニッツ、ヒューム、カント、フレーゲの関連する議論を概観しつつ、フッサールがこれらの哲学から何を学び、何を問題とし、自らの方法論を彫琢していったのかを考察する。

授業の到達目標

いかなる哲学的問題に導かれて現象学が要請されるにいたったのかを理解することにより、現象学を哲学史の中に位置づけつつ、その意義を理解することができるようになることを目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　-
●**レポート**　50%　　レポート
●**平常点**　50%　　講義への参加度
●**その他**　0%　　-

備考・関連ＵＲＬ

https://researchmap.jp/masumi_nagasaka/Courses/

科 目 名	東アジアの美術工芸　異文化との接触と変容する価値							
担当者名	楢山　満照							
複合	２単位	秋学期	金曜日	３時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

「china」といえば陶磁器（やきもの）、「japan」といえば漆器、という意味があるように、東アジア世界の手仕事は、これまで西洋世界で驚嘆のまなざしで受け止められ、羨望の的にもなりながら、確固たる地位を築いてきました。そこで本科目では、主に東アジアの美術工芸に焦点を当て、それが異文化と接触し、受け入れられ、新たな価値を付加されてきた様相を追いながら、自他の文化理解を促す文化史的考察を試みます。

取り上げる対象は、金工品、陶磁器、玉器、漆器などになります。超絶技巧を駆使したそれらの作品群は、とりわけ中華帝国の威信そのものでもありました。そしてそれらは、東アジア文化圏での交流の場だけではなく、時には西洋世界との政治交渉の場において影響力をもつことさえありました。そのような東洋世界の作品群に対して、西洋世界は何を求め、それをどう理解し、どう利用してきたのか。本科目では、異文化交流の視点から、そうした芸術と政治の接点について分析していきます。

授業の到達目標

本科目は、異文化の接触と交流の場における美術工芸の作用を、文化史的な関心から分析するものです。よって、個別具体的な様式や技法の変遷といった歴史的考察に積極的に関心をもつ必要は必ずしもありません。ただし、「他者理解」という現代的で恒久的な問題について常に関心をもち、身近な美術工芸の話題をその問いに還元しながら、自ら主体的に考えていくことが求められます。

成績評価方法

●**試験**　60%　　最終回に理解度の確認をおこないます。鑑賞のための基礎知識にとどまらず、異文化の接触と交流の場において、かつて美術工芸がどのように作用してきたのか、その具体例を理解し、自身の見解を明確に述べることができているかをみます。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　40%　　出席および授業への主体的な参加。ここでいう主体的な参加とは、適宜提出してもらうリアクションペーパー（ミニレポート）のこと。
●**その他**　0%

科 目 名	メディア論1　歴史から見るメディア							
担当者名	チェン　ドミニク　他／岡室　美奈子／長谷　正人／藤本　一勇							
表象	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義は、メディア論プログラムへの入門編として、表象・メディア論系の教員4名が交替でそれぞれの専門分野からメディアをめぐる諸問題について概説する。

「メディア」という言葉から、たとえばマス・メディアが連想されるかもしれない。が、「メディア」とはメッセージや情報の伝達媒体であるとともに、知識や感情を共有する手段でもあり、その意味では、書物、新聞、雑誌、ラジオ、テレビ、映画、マンガ、インターネット、携帯電話、iPod等はもちろん、人間の身体もまたメディアであると言える。（実際、メディアの単数形メディウムには、死者の言葉を伝達する霊媒という意味もある。）したがって、メディア論の研究対象はきわめて広く多種多様である。

この講義では、身体、テクノロジー、オカルティズムなど多角的な視点から、私たちを取り巻くさまざまなメディアのありようについて考察する。対象とするのは、テレビ、映画、演劇、文学、音楽、アニメ、メディアアート、CG、ロボット、ヴァーチャル・リアリティ、写真、地図、広告、落書きなど、私たちを取り巻くさまざまなメディアとその周辺の事象である。講義の内容は、当然、表象・メディア論系の身体論プログラム、イメージ論プログラムと密接な関わりを持つことになるだろう。

メディア論1では、歴史に目を向け、現在のメディアがどのように成立し発展してきたかを考察する。

授業の到達目標

メディアの多様性を理解する。

成績評価方法

●**試験**　70%　　最終回に理解度を問う試験を実施する。各教員がそれぞれの講義に基づいて出題し、受講者は計5題の中から1題を選択して論じる。
●**レポート**　0%　　0
●**平常点**　30%　　出席状況を見る。
●**その他**　0%

備考・関連URL

冊子の「講義要項」をご覧の方は、詳細をWeb上のシラバスで確認すること。各回の担当者と具体的内容を記載しています。

科 目 名	メディア論2　メディアの現代的展開							
担当者名	長谷　正人　他／岡室　美奈子／チェン　ドミニク／藤本　一勇							
表象	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義は、メディア論プログラムへの入門編として、表象・メディア論系の教員4名が交替でそれぞれの専門分野からメディアをめぐる諸問題について概説する。

「メディア」という言葉から、たとえばマス・メディアが連想されるかもしれない。が、「メディア」とはメッセージや情報の伝達媒体であるとともに、知識や感情を共有する手段でもあり、その意味では、書物、新聞、雑誌、ラジオ、テレビ、映画、マンガ、インターネット、携帯電話、iPod等はもちろん、人間の身体もまたメディアであると言える。（実際、メディアの単数形メディウムには、死者の言葉を伝達する霊媒という意味もある。）したがって、メディア論の研究対象はきわめて広く多種多様である。

この講義では、身体、テクノロジー、オカルティズムなど多角的な視点から、私たちを取り巻くさまざまなメディアのありようについて考察する。対象とするのは、テレビ、映画、演劇、文学、音楽、アニメ、メディアアート、CG、ロボット、ヴァーチャル・リアリティ、人工知能、写真、地図、広告、落書きなど、私たちを取り巻くさまざまなメディアとその周辺の事象である。講義の内容は、当然、表象・メディア論系の身体論プログラム、イメージ論プログラムと密接な関わりを持つことになるだろう。

メディア論2では、メディアのリアルとは何か、メディアのポリティックスおよびメディアの現在と、それを取り巻く社会などについて考察する。

授業の到達目標

メディアの現代的展開を理解すること

成績評価方法

●**試験**　70%　　授業の理解度を問う
●**レポート**　0%　　0
●**平常点**　30%　　出席点
●**その他**　0%

科 目 名	表象文化の政治経済学1　メディアのエロスとホラー							
担当者名	藤本　一勇							
表象	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

新しいメディアが登場すると、いつの時代もエロスとホラーに結びつけて批判されてきた。写真を撮られると「魂が吸い取られる」とか、電話は「不純異性交遊を助長する」とかいった具体に。なぜ人々は新メディアに恐れを抱き、また「萌える」のか。メディアのどのような本質がエロスやホラーと結びつくのか。本講義では、メディアにまつわるエロティシズムとホラーの問題を、歴史や現代における多種多様な文化現象（作品）・社会現象を題材にして考察・分析し、メディアとエロス・ホラーとの本質的な関係性を明らかにする。

授業の到達目標

メディアの根本構造を理解し、メディアと欲望や恐怖との関係について領域横断的な知識を身につける。

成績評価方法

登録者数によって変わる。40名以内ならばレポート、それ以上なら「理解度の確認の試験」。出席点は参考程度。詳しくは最初の回で説明する。

科 目 名	表象文化の政治経済学2　ヴァーチャル・リアリティの哲学							
担当者名	藤本　一勇							
表象	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

「ヴァーチャル・リアリティ」とは、コンピューターが生成するいわゆる「仮想現実」だけではない！　言語や社会、国家や貨幣、さらに言えば「心」でさえ「ヴァーチャル・リアリティ」とみなすことができる。それらはいわば「伝統的」なヴァーチャル・リアリティであり、それらは「フィクション」でありながらも歴史的に人間を大きく拘束してきた。今日コンピューターが生成する「仮想現実」が問題になるとすれば、それはこうした伝統的なヴァーチャル・リアリティに電脳的なヴァーチャル・リアリティが加わってきて、その布置を変えようとしているからである。今日生じているのはヴァーチャル・リアリティの再編なのだ。

本講義では、人間とは「ヴァーチャル・リアリティによって生きる動物」である（アリストテレスの「ロゴスを持った動物」という人間定義をもじって言えば）という見立てにもとづいて、人間と機械と宇宙のネットワークが織りなすヴァーチャル・リアリティの世界の根源性と奥深さを探究する。そのとき、生命や社会、人間や個は、物理法則に抵抗する「特異点」として、その価値を主張することになるだろう。「ヴァーチャル・リアリティ」の言葉と概念を拡張することによって、物理宇宙から生命、心から社会・文化までをも貫く巨大なパースペクティブを構築することを目指す。

授業の到達目標

ヴァーチャル存在としての「人間」の可能性を、政治や経済、心や社会、文化や思想といった多層的な水準で理解すること。

成績評価方法

登録者数によって変わる。40名以内ならばレポート、それ以上なら「理解度の確認の試験」。出席点は参考程度。詳しくは最初の授業で説明する。

科 目 名	映像メディアの社会学							
担当者名	長谷　正人							
表象	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

映像メディア文化はいま大きな変化を遂げようとしています。20世紀を支配したハリウッド映画産業の大量生産式映画の大衆的受容体験やテレビ放送による生中継の国民的視聴体験といったようなマスコミュニケーション形式は、インターネットやデジタル放送やDVDなどのデジタル複製技術の隆盛によって変容しつつあります。大衆文化はいまやパーソナルな文化としてその姿を変えようとしているかのようです。この現代の映像文化の歴史的変容の意味を、過去の歴史的出来事を振り返って考え直してみようというのがこの授業の目的です。

まず最初に映画というメディアについて考えます。最初に映画を見た観客がどのような反応を示したかを見ることで私たちの常識とは違った映画受容のありようへの想像力を働かせます。さらにその後の映画がいかにして大衆を熱狂させるメディアとして成長していったかを考えます。

次に写真というメディアがいかなる社会的機能を果たしてきたかを、私的な写真と大量複製写真とを比較することによって考えます。

最後にテレビについて考えます。テレビというメディア文化がいかに20世紀後半の社会を作り出してきたかを考えます。

授業の到達目標

映像文化が自明のものではなくなること

成績評価方法

- **試験**　80%　　授業内容の理解度を問う
- **レポート**　0%　　なし
- **平常点**　20%　　出席点
- **その他**　0%

科 目 名	現代映画論　ハリウッドの現在							
担当者名	藤井　仁子							
表象	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

1990年代以降のハリウッド映画は、CG技術の普及、人種的・性的マイノリティからの権利主張を受けての政治的公正さ（PC）の導入などにより、内容面で深刻な変化を強いられました。それに加えて、DVDやケーブルテレビ、インターネット配信等の普及によって受容面においても、また複数の産業が業種・国家の境界を越えて結びつき巨大メディア・コングロマリットを形成したことによって産業面においても、根本的な変化が引き起こされました。本講義では、こうした新しい事態について具体的な作品分析の実践を通して考察します。 講義形式によりますが、受講生は授業と並行して各自で教科書を読み進めなければなりません。また、講義中に作品を全篇上映する余裕はないので、受講生は課題作品を事前に各自で見てから講義に臨むように（自分の眼で見ることなしに出席だけしても学習効果は期待できません）。

学部ディプロマポリシーに謳われるとおり、「人と情報が地球規模で交流し、文化が複雑に絡まりあい、多面的な様相がみられる時代を生き抜くための幅広い教養をもった人材」の育成を目指します。

授業の到達目標

上記のような現代の映画を取り巻く新しい状況にかんする知識と方法論はもちろんのこと、併せて映画学の基本発想についても学んでもらいます。

成績評価方法

- **試験**　80%　　授業最終回に「理解度の確認」として論述式の試験を行ないます。
- **レポート**　0%
- **平常点**　20%　　3分の2以上の出席を義務づけます。
- **その他**　0%

備考・関連URL

100年を超える映画史の遠近法のなかに「現代映画」を位置づけることを目指すので、ただたんに最近の映画だけが好きという人には向きません。

科 目 名	アジア映画論　中国映画をどう考えるか							
担当者名	刈間　文俊							
表象	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

映画は国境を超えるというが、それは本当だろうか。超えるとすれば、あるいは超えたように見えるならば、それはどのように超えているのだろう。いちど異文化として映画を観察したとき、たとえば中国映画からは何が見えてくるだろう。映像表象を凝視することで見えてくるものを手掛かりに、いくつかのテーマを設定し、中国映画を横軸と縦軸から考えていく。横軸とは同時代の東西の比較であり、縦軸は映画史的な考察である。異文化としての映像、中国人はどのような映像を見て来たのか、映像の多重性、ナラティブの可能性、ニューウェーブ、ドキュメンタリー映画、映画の悪役、中国的美意識とはなにか等が、テーマとして想定されている。映像の紹介をなるべく多く行うとともに、複数回の課題映画の上映とそのレポートの提出により、レポートの講評を行いつつ、授業を進める。

授業の到達目標

映像を自明のものとせず、なぜ自分にはそう見えたのか、あるいは見させられたのか、映像を自覚的に見る意識を、普段は接することがまだ多くはないかもしれない中国映画を通して養うことを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　講義終了時に指定する課題映画に関するレポートを最終レポートとする。
●**平常点**　60%　　課題映画の上映後に提出する複数回のレポートを平常点とする。
●**その他**　0%

科 目 名	映像アーカイブ　映画アーカイブの役割とその実際							
担当者名	大傍　正規							
表象	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

映画とその関連資料を網羅的に収集し、散逸や劣化等から防ぐために、安全な環境で保護し、長期保管を行う映画アーカイブの役割とその実際について、収集・保存・復元・公開等の具体例を示しながら、概説していく。

授業の到達目標

デジタル時代における映画アーカイブの使命と役割について理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　40%　　講義の理解度を確認するとともに、アーカイブの考え方を各自の研究や活動に活かすため方法を考えることを期待する。
●**平常点**　60%　　毎回出席することを原則とする。
●**その他**　0%

備考・関連URL

国立映画アーカイブHP　https://www.nfaj.go.jp

科 目 名	テレビ文化論							
担当者名	長谷　正人							
表象	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

テレビとは何かを、具体的な番組のありようを通して考える。たとえば音楽を聴くのに、それを歌っている人間の姿を見ながらというのは、邪魔ではないか。しかしテレビを通してだからこそ表現される歌のありようが、沢田研二や山口百恵を通して実践されてきた。あるいはテレビを通して笑いの番組を作ることは無茶ではないか。会場の聴衆のなかにいてこそはじめて人は芸を楽しめるのだ。にもかかわらずテレビは、お笑いを主要なジャンルとして確立させてきた。このようにいま私たちが自明のものとしてみなしているテレビ文化を自明でないものとして見なすことを目的としながら、テレビの多様な表現を見渡していく。取り上げるのは、スポーツ中継番組、歌番組、クイズ番組、旅番組などである。

授業の到達目標

現在のテレビ文化を自明の文化とは見ないようになること。

成績評価方法

●**試験**　80%　　授業の理解度を問う
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　20%　　出席点
●**その他**　0%

科 目 名	サブカルチャー論1							
担当者名	宮沢　章夫							
表象	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

サブカルチャーはしばしば、「サブカル」と略されて言葉にされる。けれど、そうした話法で単純に語られるのは正しいだろうか。たしかに「正しい」という価値や基準で、〈もの〉や〈こと〉を規定することが,そもそも、非サブカルチャー的だ。最初に書いておくが、「サブカルチャー」と「サブカル」はまったく異なる概念だ。言葉の概念を歴史的にとらえなければいけない。その具体的な、つまりサブカルチャーを構成する音楽や美術、コミックや映画をはじめとする多くの〈もの〉や〈こと〉に対し、

イメージだけの視点でそれらを否定する、いわばハイカルチャーしか認めない者らがいる一方、肯定し、むしろその内側にこもる者（しばしばオタクと呼ばれる人たち）からも距離を置き「サブカルチャー」をあらためて考える。それが講義の全体を包括するテーマになるだろう。

授業の到達目標

いま現在ここにあるものは、突然、生まれたのではなく、ある系譜によって生まれたことを理解する。そのことによって、ものの見方、新しいものだけが、すぐれているのではないといった考え方を提示する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はありません。
●**レポート**　50%　　授業の理解がどれほどだったか、そして、個々の関心領域について、どれだけ言語化できるか。
●**平常点**　50%　　出席はチェックします。
●**その他**　0%　　レポートと、平常点で評価します。

科 目 名	サブカルチャー論2							
担当者名	宮沢　章夫							
表象	2単位	秋学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

春学期で授業した概論から、さらに具体的現象を俯瞰し、サブカルチャーを様々な側面から捉え直す。たとえば、「サブカル」と「サブカルチャー」は異なる意味を持つ規定ではないかという考察は、サブカルチャーを歴史的に考えたのちにはじめて登場する考え方だ。そして、現在的な課題として浮上する。様々なサブカルチャー的な現象（ポップミュージック、ポップアート、映画、演劇、アニメ、コミック……）を引用しつつ現在を「サブカルチャー」、あるいは、「サブカル」というキーワードを通じて解読する試み。秋季の「サブカルチャー論2」では、70年代まで語った「1」を基礎にそれを展開して、さらに80年代へ、さらに90年代へ話を進め、現在的なサブカルチャーの役割を考える。

授業の到達目標

いま現在ここにあるものは、突然、生まれたのではなく、ある系譜によって生まれたことを理解する。そのことによって、ものの見方、新しいものだけが、すぐれているのではないといった見方を提示する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はありません。
●**レポート**　50%　　授業の理解度と、自身の関心領域をいかに言語化できるか。
●**平常点**　50%　　出席はチェックします。
●**その他**　0%　　ほかにはなにもありません。

科 目 名	オカルト芸術論　闇の文化史							
担当者名	岡室　美奈子							
表象	2単位	秋学期	火曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

いわゆる「オカルト」は人を惹きつけてやまないと同時に、うさん臭いものと考えられがちである。が、実は文化の深層に地下水脈のように流れる知の源泉として、今日に至るまで多くの芸術家に思想的影響を与えてきた。オカルティズムは合理主義への強烈なアンチテーゼと言えるが、また同時に、たとえばかつては化学と錬金術が不可分であったように、幻燈や映画が死者や亡霊を視覚化する技術であったように、あるいは降霊術や念写が科学的な調査の対象であったように、オカルトは科学やテクノロジーとも密接に関わっている。

この講義では、ルネサンスから近現代までを視野に入れつつ、オカルティズムという闇の文化史について学術的に考察する。「錬金術」「降霊術」「心霊主義」などの概念を押さえつつ、心霊写真やファンタスマゴリア、初期映画などオカルトとメディア・テクノロジーの関係を分析し、小説、演劇、詩、テレビ、映画、アニメなど多様なジャンルの作品を考察する。「ひとはなぜ亡霊を見てしまうのか（見たと思ってしまうのか）」という根源的な問題にも迫りたい。

具体的な考察対象については、シェイクスピア、イェイツ、ベケット、ジョイス、コナン・ドイル、メリエス、川端康成らの文学・演劇作品のほか、『リング』、『もののけ姫』、『テンペスト』、『蟲師』、『シャーロック・ホームズ』、『雨の午後の降霊祭』、『アザーズ』、『フィネガンズ・ウェイク』などの映画、文学、アニメやマンガ、メディアミックスの作品も取り上げる予定。

授業の到達目標

UFOや超常現象などさまざまなメディアで安易に消費されがちな「オカルト」ではなく、ヨーロッパのオカルティズムの主要概念である「錬金術」「降霊術」 「心霊主義」等を文化史のなかで正しく理解するとともに、メディア・テクノロジーとオカルトの関連を考察し、「隠された知」であるオカルティズムを欧米や日本の芸術作品のなかに見出し、その意味を考察すると同時に、なぜ多くの芸術家たちがオカルティズムに魅せられてきたのかを明らかにする。

成績評価方法

●**試験**　80%　　講義で解説した、オカルティズムに関する基本的な知識を身につけたかどうかを問う。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　20%　　3分の2以上の出席が必要。
●**その他**　0%

備考・関連URL

・毎回出席カードの裏にコメントを書いてもらう。授業に生かしていくことで、講義科目ではあるが、インタラクティヴなものとしたい。充実した（量ではなく質）コメントを期待する。
・ホラーはテーマではないが、心霊写真やリングの回などではホラー映画を部分的に視聴することを了承の上、受講されたい。

科 目 名	メディア・アートとデジタル表現　表現メディアの過去、現在、そして未来							
担当者名	チェン　ドミニク							
表象	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

なぜ人はものを創り、事象を表現するのか。この原初の問いを考えるためには、人がどのように創る方法そのものを鍛えてきたかという歴史を知ることが重要である。

メディア・アートとは、メディア（媒体）と人間の関係を浮き彫りにするような、自己言及的な表現全般を指す。

この意味において、メディア・アートはデジタル表現に限定されない。だから、ペンと紙のような太古から存在するメディアを使ってもメディア・アート的表現は可能である。

その上で、デジタル技術を用いた表現は何が特殊なのか。このことを深く理解するためには、現代のデジタル技術の新奇性に注目するだけではなく、人間がメディアとどのような関係性を構築してきたのかという歴史を知り、常に変容し続ける人間の知覚と認識、そして社会状況に注意を向ける必要がある。

講義

この講義では、多くの作品やプロジェクトや研究成果を通じて、身体と言語という原初の「技術」の考察から始めて、文学、音楽、現代美術、そしてメディア考古学の視点を経由しつつ、現代のインターネット以降のスマートフォンやVRディスプレイといった情報インタフェース、バイオテクノロジーに至るまでの歴史を振り返りながら、これからの時代の表現（アート）と技術（アルス）の可能性に光をあてていく。

授業の到達目標

メディアアートとは何か、どのような表現があるのか、その存在理由はどこにあるのかについて理解を深めると同時に、デジタル技術がどのように使われ、われわれの社会や文化をどのように変えつつあるのか、科学技術の発展と文化はどのような関係にあるのか、自分で気づき、考える力を身につける。

成績評価方法

- **試験**　34%　　期末試験を行う。講義内容を踏まえた上で自分の考えがきちんと展開されていることが重要である。
- **レポート**　33%　　メディア・アートの観点から任意の展覧会を鑑賞し、レポートを書くという中間課題を提出。
- **平常点**　33%　　出席を重視する。コメントシートでの講義に対するフィードバックを評価に加える。
- **その他**　0%

科 目 名	デジタル・メディアと社会　技術と文化から探る現在性							
担当者名	瀧　健太郎							
表象	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

私たちの生活空間に溢れる情報とイメージ。これらを可能にする技術の一端を担うデジタルメディアを当該授業では探ります。主に暗号解読を目的として第二次世界大戦中に開発されたコンピュータの演算技術は、1980年代に個人用に市販され、1990年代にネットワークが整備され、2000年代にはモバイル化、更に今後AIなど人間の認知・思考を覆す存在として急成長を遂げています。こうした技術革新は、私たちの生を豊かにする社会デザインである一方で、情報の隠ぺい・改ざん、格差や分断、検閲や監視など政治的・経済的な課題を引き起こしていると指摘できます。当該授業では映画、アート、文学、哲学など文化的側面でこうした社会問題をトピックに、批判的な言説を展開する機能に注目します。具体例を挙げながらデジタル・メディアを文化的な側面から社会の構成要素として読み解くと同時に、デジタル・メディア上に成立する平均化や平板化する社会への対抗的文化から捉え直してみたいと考えます。

この授業では現在進行形の社会的事象や現象を取り上げ、明確な答えではなく、問題提起型の場の形成を試みます。

授業の到達目標

技術と文化の両面からデジタル・メディアを捉え、批判的な視点から次の可能性を探求する視座を持つこと。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　50%　　授業内でのコメントシート。
- **平常点**　50%　　出席と授業への参加度。
- **その他**　0%

科 目 名	身体論1　身体/リアル/バーチャル							
担当者名	坂内　太　他／細馬　宏通／宮沢　章夫／村井　翔／和田　修							
表象	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義は、身体論プログラムへの入門編として、表象・メディア論系の教員5名が交替で各々の専門分野から身体をめぐる諸問題について概説します。

波瀾万丈な物語の最後が「全ては夢でした」と締めくくられることがあります。こうした結末の付け方は、夢と現実との境界が明瞭に認識される場が存在することを前提としています。しかし、物語の初めから「全ては夢の中の話」という仕掛けが明かされていながら、極めて「リアルな」感覚を与えるような物語もあるでしょう。あるいはまた、主人公が死者やバーチャルな世界の住人に出会ったり、自分の身体が異世界での変容を被ったりしていながら、それら一つ一つのディテールにおいて、この上なく「リアル」だと感じさせるような芸術作品に出会ったことはないでしょうか？　実生活の睡眠においても、「自分は夢を見ている」と半ば自覚しながら、リアルな感覚を伴う夢を見ることもあるように思われます。

我々の身体にとって「リアル」とは何でしょうか？　我々の身体を巡る「リアル」にはどのような多様性があり、逆にまた、どれほど多様なコンテクストに、我々の身体のリアルさは位置づけられているのでしょうか？　こうした問いを一つの鍵としながら、本講座では、リアルとバーチャル、人間機械論、身体の精神分析、人間と異形の者との接触や変身、幽霊、サイバーパンク、アニメ作品における〈ゴースト〉など、人間身体を巡る〈虚と実〉や〈夢幻と現実〉の境の探求を試みます。

授業の到達目標

上記の概要に沿って展開される講義を十全に理解した上で、身体論1の対象となりうる様々な作品・事象に関し、「身体/リア

ル/バーチャル」の視点から、独自の観察・批評が出来るようになることを、受講生の各々が目指して欲しい。

成績評価方法

●**試験**　50%　　講義を十全に理解した上で、身体論1の対象となりうる様々な作品・事象に関し、自分独自の観察・批評を行っているかどうか。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　50%　　原則として出席回数が全体の3分の2に達している者のみを、学期末の「理解度の確認」試験の採点対象とする。
●**その他**　0%

備考・関連URL

CourseN@viまたはWaseda Moodleのお知らせ機能などを通じてフィードバックを行う。

科目名	身体論2　仮面/変身/人形							
担当者名	坂内　太　他／細馬　宏通／宮沢　章夫／村井　翔／和田　修							
表象	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義は、身体論プログラムへの入門編として、表象・メディア論系の教員5名が交替で各々の専門分野から身体をめぐる諸問題について概説します。とりわけ、演劇や芸能といった立場から身体の意味を論ずること、テクノロジーの進展につれて変わりつつある私たちの身体の意義を問い直すことという、二つの方向性で身体論について学びます。

演劇や芸能、パフォーミング・アーツは身体をメディアとする芸術です。戯曲そのものの文芸性と実際の舞台の芸術性とは、そこに身体が関わるか否かによって異なります。舞台の芸術性を支える要素にはどのようなものがあり、その中で身体はどのような重要性を担うのでしょうか。また、私たちはなぜ、演劇や芸能といった身体を使用したアートを必要とし、それを享受するのでしょうか。

また、現代では、テクノロジーが私たちの身体に入り込みつつあります。たとえば整形手術。これは、身体が自在に変更可能となることを意味しています。つまり、身体はソフトウェアとなるのです。身体は、もはや確実でリアルなものでなくなっていくのであり、ヴァーチャル化されるわけです。その他の様々なテクノロジーの進展についても、身体との関わりにおいて、私たちはどのように対処していくべきなのでしょうか。また、それらの問題が、様々な芸術作品や社会的な事象の中で、どのように表象されてきたのでしょうか。

こうした様々な点をふまえた上で、秋期の身体論は、とくに「人間の身体」と「仮面/変身/人形」というテーマの探求を試みます。

授業の到達目標

上記の概要に沿って展開される講義を十全に理解した上で、身体論2の対象となりうる様々な作品・事象に関し、「身体/仮面/変身」の視点から、独自の観察・批評が出来るようになることを、受講生の各々が目指して欲しい。

成績評価方法

●**試験**　50%　　講義を十全に理解した上で、身体論2の対象となりうる様々な作品・事象に関し、自分独自の観察・批評を行っているかどうか。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　0%　　実施しない。
●**その他**　50%　　50

備考・関連URL

CourseN@viまたはWaseda Moodleのお知らせ機能などを通じてフィードバックを行う。

科目名	身体メディア論　日本の古典芸能と霊魂							
担当者名	和田　修							
表象	2単位	秋学期	木曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

霊魂（幽霊・神霊・鬼など）の存在を信じる人は少なくないようです。
日本の古典芸能は霊魂と密接な関係があり、霊魂を呼び出すのが古典芸能の機能ということもできます。
CGのない時代に、霊魂を表現するメディアとして、芸能の身体が最適だったのではないでしょうか。

※レポートでは、日本の古典芸能・民俗芸能で霊魂が登場する演目を見て、その特色について考えていただきます。講義期間中に実際に劇場や祭礼等での上演の場に行って見ることが必要です。YouTube・テレビ・DVDなどの映像は対象外です。
いつでもどこでも見られるわけではないので、注意して履修して下さい。

授業の到達目標

霊魂の身体表現を通して、日本古典芸能の特色を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　100%　　開講期間中に霊魂の登場する芸能を見た上で、芸能と霊魂の関係について論じる。いつどこで何を見たのかを明示すること。
●**平常点**　0%　　とくになし。
●**その他**　0%　　とくになし。

科目名	バレエ・ダンス論							
担当者名	桜井　圭介							
表象	2単位	秋学期	金曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

「ダンス」について考えていきます。「ダンス」と何か？「踊る」という「行為」が「カラオケで歌う」並みにありふれたものになっている今、あえてダンスを「見るもの」として、なんなら「芸術」として（「パーフォーミング・アーツ＝上演芸術」）、

さらに言うなら「(身体による) 思考」として扱うこと。
キーワードとしては、「規則・規律／自由・逸脱」「快楽／修行」「共同性／個人／公共性」「ノイズ」「ダイアローグ／モノローグ」「ファルマコン毒＝薬」「人間／機械」などなど。
具体的には、「自分で踊るダンス」(恋ダンス、よさこいソーラン、ヒップホップ、盆踊り) や今日の演劇・美術・音楽など「ダンスに隣接する表現」、体操を始めとするスポーツや格闘技あるいはデモやモッシュといった「ダンスと隣接する行動」を常に参照しつつ、歴史的に重要な／今日の先端的な「ダンス」を見ていきます。

授業の到達目標

ダンスを (「踊る」のではなく)「見る」という「特殊」な (？) 作業を訓練することになるので、その能力の開発が目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　期末に課題レポートを提出してもらいます。
●**平常点**　50%　　出席は取りません。が、期末レポートで授業内容をどの程度理解したかが測られるでしょう。
●**その他**　0%

講義

科目名	オペラ論　ドイツ・オペラへの招待							
担当者名	村井　翔							
表象	2単位	秋学期	月曜日	6時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

ドイツ・オペラとは何かと言えば、ドイツ語の台本に作曲されたオペラのことですが、実際にはイタリア語台本に作曲されたモーツァルトの3つのオペラ・ブッファ (『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』『コジ・ファン・トゥッテ』) も含みます。この授業はモーツァルトの『後宮からの逃走』(1782)からツィンマーマンの『兵士たち』(1965)に至るドイツ・オペラの魅力をお伝えしようとするものですが、この種の授業はオペラのあらすじを喋ったら、ビデオを流しておしまい、ということになりがちなので、一回ごとにテーマを設定し、それに沿って二つの作品を組み合わせて話すことにしました。各回の「切り口」は社会思想史的なもの、精神分析的なものなど様々です。そして二つ目の作品については、ドイツ・オペラというジャンルの枠にはとらわれずに選びました。
オペラはすでに「終わった」芸術ジャンルで、今後も新作が書かれるとしても、ヴァーグナーやR. シュトラウスの新作初演が社会的事件となり、観劇のための特別列車まで仕立てられるような時代の再来はもはやありえません。それでも日本の伝統芸能などと違って、現代的な新演出によって過去の文化遺産に新たな生命を吹き込む余地がまだ残されていますし、音楽、文学、美術、舞踊が文字通り力を合わせる総合芸術であるオペラは確かにヨーロッパ芸術の一つの精華。食わず嫌いのまま終わるのはいかにも惜しいです。200年を概観するには、正直言って30作品では不足なのですが、ともあれ以下のテーマと作品名 (ウェブ上のシラバス参照) にピンときたら履修してみて下さい。

授業の到達目標

レポートが提出できれば、とりあえずOKですが、全15回の講義を聞き終われば、オペラは「歌つきの演劇」ではないという私の主張が理解していただけるはず。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　100%　　以上、30作品のいずれかについて感想文を書いてください。 レポート提出はWaseda Moodle上でのみ受け付けます。
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科目名	芸能論　古典芸能の「中央」と「地方」							
担当者名	和田　修							
表象	2単位	春学期	木曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本の古典芸能というと、能狂言・歌舞伎・人形浄瑠璃などがすぐに思い浮かびますが、これはかつて行われていた多数の芸能が、中央 (都市) で生き残った結果に過ぎません。
近世までの都市で次々と新しい芸能が生まれて地方に伝えられ、それぞれの土地の文化のなかで独自の展開を遂げて今日に伝えられているものが少なくありません。
現在、民俗芸能と総称される各地の芸能を通覧すると、かつて都市で行われていた芸能の姿を知ることもできます。
この授業では、中世から近世の日本の芸能文化を、中央と地方という視点からとらえてみたいと思います。

※レポートでは、「地方の民俗芸能」を実際に見に行ったうえで、民俗芸能・古典芸能の伝承について考えていただきます。
東京23区と関東地方の政令指定都市は「地方」に含みません。ネット上の動画なども対象外です。
開講期間中に「地方の民俗芸能」を見に行ける方が履修して下さい。

授業の到達目標

「中央」と「地方」という観点から、日本の民俗芸能・古典芸能の特色を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　100%　　開講期間中に「地方の芸能」を見に行き、それを踏まえて日本の古典芸能の伝承の特色を論じる。東京23区と関東地方の政令指定都市は「地方」に含めないので、期間内に行われる地方の芸能の情報を把握し、実際に訪れることが必須となる。いつどこで何を見たのか明示すること。
●**平常点**　0%　　平常点は評価しない。
●**その他**　0%　　とくになし。

科 目 名	パフォーマンス・スタディーズ							
担当者名	坂内　太							
表象	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

パフォーマンス・スタディーズは、様々な芸術ジャンルと関わりながら成り立っていて、ジャンルとして厳密な定義を下すのが難しいほど複雑に展開しているが、各々のアーティストが持つ身体が重要な点では共通している。パフォーマンス・スタディーズは基本的にはアーティストと観客が「いま、ここで」を共有する時間芸術・空間芸術だが、そのパフォーマンスは撮影・記録され、様々なメディアに流され、むしろ時間と空間を共有しなかった「より多くの第三者」の視線に晒される芸術でもある。この講義では、「パフォーマンス・スタディーズ」を取り巻く多様な議論の経緯と実際について考察する。なお、扱う項目については、受講生の理解と関心の度合いに応じて、適宜変更することがある。

授業の到達目標

上記の概要に沿って展開される講義を十全に理解した上で、パフォーマンス・スタディーズの対象となりうる様々な作品・事象に関し、独自の観察・批評が出来るようになることを、受講生の各々が目指して欲しい。

成績評価方法

●**試験**　50%　　講義を十全に理解した上で、パフォーマンス・スタディーズの対象となりうる様々な作品・事象に関し、自分独自の観察・批評を行っているかどうか。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　出席回数が全体の3分の2に達している者のみを、学期末の「理解度の確認」試験の採点対象とする。
●**その他**　0%

備考・関連URL

Course N@viまたはWaseda Moodle等を用いてフィードバックを行う。

講義

科 目 名	舞踊論　洋舞の移入・浸透と浅草オペラ							
担当者名	杉山　千鶴							
表象	2単位	春学期	土曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本モダンダンス史の前史に相当する浅草オペラを主に取り上げる。その前史として、1911年3月に開場した帝国劇場に設置された養成機関である歌劇部（同年8月～1916年5月末、途中「洋劇部」に改称）の概要と、そこにいかに西洋舞踊（バレエ）が移入されたのか、そしてその成果について技術特性に触れながら講義する。帝劇歌劇部は1916年5月末をもって解散するが、その後、バレエを身体に刷り込んだ元・歌劇部員の多くが活動の場としたのが浅草オペラ（当時は「浅草のオペラ」）であった。この浅草オペラは1917年1月に浅草は常盤座で高木徳子一座が歌舞劇「女軍出征」（作・伊庭孝）を上演したのを嚆矢とし、同年秋に元・帝劇歌劇部員らが浅草・日本館に旗揚げした東京歌劇座をもってブレイクし、浅草という一地域のオペラから全国区の現象になるに至ったが、1923年9月1日の関東大震災以後急速に衰退し消滅する。この浅草オペラでは日本のモダンダンスのパイオニアが試作的段階の作品を発表した他、多くの舞踊作品が上演された。本講義では上演の場である浅草オペラについての理解を深めるために概要やこれにまつわる様々なトピックと共に、上演された舞踊や舞踊の位置づけについても扱う。日本における洋舞の移入と浸透について考えることとなろう。

授業の到達目標

異文化の移入と浸透について、一つの事例をについて理解すること。並びに他の事例についての関心を喚起すること。

成績評価方法

●**試験**　50%　　第15回における理解度の確認による
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　0%　　なし
●**その他**　50%　　出席点およびリアクションペーパー

備考・関連URL

上記授業計画は、場合により変更となることがある。初回授業のガイダンスでは、授業に関わる事項を記載したプリントを配布する。初回に欠席した者は、第2回目意向に必ずこのプリントを取りに来ること。
なお浅草オペラの雰囲気を知る一助として音響では以下の2点などがある。
CD「浅草オペラからお伽歌劇まで～和製オペレッタの黎明～」（ぐらもくらぶ、B01DVG05AE）
CD「あゝ浅草オペラ　女軍出征100年と魅惑の歌劇」（ぐらもくらぶ、B071VBHSBP）

科 目 名	精神分析入門　映画で学ぶ精神分析							
担当者名	村井　翔							
表象	2単位	春学期	月曜日	6時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

精神分析はもはや過去の学問です。その本来の用途であった心の病気の治療に関しては、精神分析はその歴史的使命をほぼ終えたと言ってもいいでしょう。では、そんな終わった学問になぜ今さら「入門」する必要があるのでしょうか。理由の第一。自分がエセ科学であることを良く自覚していた精神分析は「事後性」「重層決定」「転移」といった用語に代表される自らの解釈手順の自己反省、いわば科学批判の契機をふんだんに含んでいました。フロイトは現代思想の始祖と言われますが、われわれの目の前に見えるものは決して「実体」ではなく、常に既に「痕跡」でしかないという認識を現代思想にもたらしたこと、この一点だけをとってもフロイトの業績は不滅と言えるのです。

理由の第二。「心の中心は自我（意識）にあらず」という革命思想とあいまって、精神分析のある種の分かりやすさは多くの20世紀知識人を魅了してきました。そのため精神分析的な発想は現代人の一般教養の一部となってしまっていますし、精神分析的な解釈がわれわれの「腑におちる」現代社会の現象もまだ多いのです。たとえば、現代日本の言論界において「心の闇」などという言い回しが何の留保もなしに流通してしまっている事態にも精神分析の根深い影響力を見ることができるでしょう。近年のハリウッド映画でも、主人公がトラウマ（心の傷）を抱えていて、それを克服することが映画の重要なサブ・ストーリーになるというような精神分析的設定が常態化しています。副題に反するようですが、この授業では映画を例にして精神分析の理論

を説明するというよりは、逆に映画を通して20世紀における精神分析の受容のされ方を批判的にふり返ってみたいと思います。
しかし、そのためにはまず精神分析の正しい理解が欠かせないので、最初の三回はフロイトのテクストをまじめに読みます。映画を援用するとしても、第3回までは説明のための補助手段に過ぎません。一方、第4回以降は名だたる「心理的」映画の名作がずらりと並んでいます。スラヴォイ・ジジェクのようなカッコいい話は到底無理ですが、何らかの面白い視点を皆さんに提供できればと思います。

授業の到達目標

レポートが提出できれば、一応OKですが、以下のような精神分析の基本用語については分かるようになってもらいたいと考えています。「抑圧」「転移」「事後性」「重層決定」

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　100%　　上記15作品のいずれか、または皆さんの選んだ「心理的」映画の感想を書いてください。 レポート提出はWaseda Moodle上でのみ受け付けます。
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

講義

科 目 名	ファッション・モード論　モードにおける身体／モードとしての身体							
担当者名	橋本　一径							
表象	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

女性の身体を締め付けていたコルセットからの解放が、革命的な事件として象徴的に語られるように、ファッション・モードの歴史は、皮膚を覆っていた過剰な装飾を取り払い、「身体そのもの」へと向かおうとする流れとして要約されることが多い。しかしこの「身体」が単なる「裸」とは異なるものである以上、近代のファッションやモードが、精緻な技工を凝らしながら、限りなく「素肌」に近づこうとするという、倒錯的な動きを目指すことになるのは必然的であった。この授業では、主として18世紀末から20世紀初頭にかけてのヨーロッパにおける、ファッション・モードにまつわるトピックを取り上げながら、「身体そのもの」を目指す服飾史の流れをたどり直す。こうした流れがたどり着いた「身体」がいかなるものであったのかについての考察を深めることが、本授業の最終的な目標となる。

授業の到達目標

今日のファッションやモードを批判的に論じるための歴史的・身体論的な視座を獲得する。

成績評価方法

●**試験**　60%　　第15回目の授業時間中に教場試験を実施します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　コメントシートなどによるフィードバックを総合的に評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	イメージ論1　イメージを考える							
担当者名	石岡　良治　他／大石　雅彦／関　直子／橋本　一径							
表象	2単位	春学期	月曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

「現代はイメージの時代である」と言われだしてから久しいのですが、イメージとは何かということを考え始めると、意外にわかっていないことに気がつきます。
確かに、自分や恋人のイメージ（心像）、画像や映像のイメージ、比喩表現としてのイメージ、大学や企業のイメージ（印象）、夢の形象性、シミュラークル・ハイパーリアリティとしてのイメージといった具合に、イメージはわれわれの生活の隅々にまで拡く深く浸透しています。それにもかかわらず、またそれゆえに、イメージはかぎりなく捉えがたいのです。
イメージが捉えにくいのは、それが物質、知覚、観念、表象のいずれでもなく、そしてこれらのいずれでもあるからです。このヌエ的なものがイメージなのです。そして、われわれにとって重要なのは、イメージが想像力に導かれてやってくることです。想像力と緊密に結びついているために、イメージはわれわれがリアルと考えるものからつねにズレたりブレたりします。このズレ、ブレの中に、リアルなものを考えるための重要な手掛かりも隠されています。
イメージを共通テーマとしながら、4人の講師がそれぞれに具体的なイメージ表現について語ってゆきます。

「イメージ論の輪郭1，2」（大石雅彦）：古代ギリシア・ローマから現代までのイメージ論の変化をざっとたどります。あわせて、自我＝イメージの形成等についても説明します。
「ネオ総合芸術」（大石雅彦）：ダムタイプ、ニブロールを例に取り、総合芸術の現在形を扱います。
説明の合間に、具体例をはさんでいきます。また、美術展・新作映画の紹介も行います。

「指紋イメージ論」（橋本一径）：自分の全身は鏡や写真などのイメージを通してしか見ることができないことからも明らかなように、「アイデンティティ」とはそもそもイメージであるといえます。「指紋」はそのようなアイデンティティのイメージとして、今日においてますます重要な役割を果たすようになっています。この「指紋」の歴史を通して、イメージとしてのアイデンティティの意義を考察します。

「空間体験とイメージ」（関 直子）：現代の創造活動が紹介される美術館では、新しい作品の意味は、様々な作品と共に構成される展示空間を実際に体験することによって形づくられてきましたが、近年のウェッブ上のデジタル画像や言葉によるイメージの増大は、従来の美術館のあり方に変化をもたらしています。その意味を、具体例を通して考えます。

「イメージの背景：支持体の問題」（石岡良治）：洞窟壁画が壁面を必要としているように、イメージの歴史は同時に「イメージが何に描かれてきたのか」についての歴史でもある。絵の支持体の形状、額縁、装飾文様などについて考えることで、イメージの背景に目を向けることをめざす。

授業の到達目標
イメージ研究のための基礎知識の獲得および応用的思考の養成

成績評価方法
●**試験** 60%　最終回の授業時に教場試験を実施します。
●**レポート** 0%
●**平常点** 40%　出席およびコメントシートを総合的に評価します。
●**その他** 0%

科 目 名	イメージ論2 イメージを考える							
担当者名	石岡　良治　他／大石　雅彦／関　直子／橋本　一径							
表象	2単位	秋学期	月曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要
「現代はイメージの時代である」と言われだしてから久しいのですが、イメージとは何かということを考え始めると、意外にわかっていないことに気がつきます。
確かに、自分や恋人のイメージ（心像）、画像や映像のイメージ、比喩表現としてのイメージ、大学や企業のイメージ（印象）、夢の形象性、シミュラークル・ハイパーリアリティとしてのイメージといった具合に、イメージはわれわれの生活の隅々にまで拡く深く浸透しています。それにもかかわらず、またそれゆえに、イメージはかぎりなく捉えがたいのです。
イメージが捉えにくいのは、それが物質、知覚、観念、表象のいずれでもなく、そしてこれらのいずれでもあるからです。このヌエ的なものがイメージなのです。そして、われわれにとって重要なのは、イメージが想像力に導かれてやってくることです。想像力と緊密に結びついているために、イメージはわれわれがリアルと考えるものからつねにズレたりブレたりします。このズレ、ブレの中に、リアルなものを考えるための重要な手掛かりも隠されています。
イメージを共通テーマとしながら、4人の講師がそれぞれに具体的なイメージ表現について語ってゆきます。

「イメージ論の輪郭1，2」（大石雅彦）：古代ギリシア・ローマから現代までのイメージ論の変化をたどります。あわせて、自我＝イメージの形成についても説明します。「アート・アクティヴィズム」（大石雅彦）：バンクシー、Chim↑Pomを例に取り、アートの持つ現実的活動性について説明します。
説明の合間に、具体例をはさんでいきます。また、美術展・新作映画の紹介も毎週行います。

「変身イメージ論」（橋本一径）：「制服ディズニー」や「ハロウィン」など、「変身」がブームになりつつある。「制服」「なりすまし」などのテーマを手がかりに、変身の問題とイメージの関わりについてを考察する。

「場所のイメージ」（関 直子）：近年、新しい創造活動は、専用の文化施設ではなく、空き家などで展示される機会が増えています。それぞれの場の記憶や固有の空間と切り結ぶことで成立するこれらの作品は、当該地域が纏うイメージを、どのように作品化のプロセスで扱っているか、東京で滞在制作したアーティストの作品を中心に考察します。

「イメージの背景：背景知識と陰謀論」（石岡良治）：現代社会におけるイメージの氾濫状況を把握するためには、イメージの由来についての批判的考察を必要とするだろう。写真イメージに対する「信頼」を用いた未確認動物などの諸問題に触れつつ、映画・ビデオ・デジタルイメージのそれぞれにおいて異なる様相を呈する「陰謀論」について映像作品の分析を行う。

授業の到達目標
イメージ研究のための基礎知識の獲得および応用的思考の養成

成績評価方法
●**試験** 60%　最終回の授業時に教場試験を実施します。
●**レポート** 0%
●**平常点** 40%　出席やコメントシートなどを総合的に評価します。
●**その他** 0%

科 目 名	イメージのリテラシー2							
担当者名	竹田　恵子							
表象	2単位	秋学期	月曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要
インターネット環境が普及し、スマートフォンによる動画の視聴が日常の一部となっている現代は、イメージの氾濫する時代と言ってよいであろう。しかし、文字の読み書き教育（リテラシー）と比べてイメージの批判的考察である「イメージのリテラシー」は相対的に立ち遅れる傾向にある。そこで、本講義では現代社会における視覚イメージについて的確に分析を行えること、すなわち「イメージのリテラシー」を高めることを目指す。
現代社会におけるマジョリティ/マイノリティについて主にジェンダー／セクシュアリティの視点から基礎的知識を学んだうえで、アート、ポピュラーカルチャーや広告、メディアにおける視覚イメージの考察を具体的事例を用いながら行う。

授業の到達目標
歴史的な論点、理論をふまえながら、現代社会における視覚イメージのリテラシーを獲得することを目指す

成績評価方法
●**試験** 0%
●**レポート** 50%　学期末レポート（詳細は授業中に説明する）
●**平常点** 50%　授業態度やコメントシートの内容から総合的に判断を行う
●**その他** 0%

科 目 名	性とイメージ　エロティシズム：映画×美術×ダンス×音楽×ファッション							
担当者名	大石　雅彦							
表象	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、芸術作品にあらわれた性愛表現をみてゆきます。ひとくちに〈性愛〉といっても、そこには、エロティシズム、セクシュアリティ、ジェンダー等の要素が複雑微妙に絡まり合っています。したがって性愛表現を読み解くには、それなりの理論的準備が必要になります。

講義では、タナトス／エロス、エディプス・コンプレックス、去勢コンプレックス、サディスム／マゾヒズム、多形倒錯、人形愛・逆人形愛、フェティシズム、トランスジェンダー・セクシュアリティ、エクスタシー（脱自・法悦）、等々が鍵となっている作品を扱います。

まず最初の3回の授業で性愛を考えるさいに必要となる、一般的な理論・ことがら（フロイト、ラカンの性別化、バタイユ、フーコー、タントリズム、エクスタシー［脱自・法悦］、等々）について概略を説明します。この3回をさぼると、のちの授業でまごつくことになるので、注意して下さい。それから、いよいよ作品を鑑賞することになります。そのさい、最初に作品を見てもらい、そのあとで作品にコメントを加えながら理論的な説明をします。取りあげる作品は、いずれもいわゆる「市民社会」の論理・倫理を逸脱するものばかりです。原理的に、性愛表現は多形倒錯的で酷薄なものです。

講

刺激の強いグロテスクな作品も含まれているので、よく考えたうえで履修して下さい。

■

今まで扱ってきたシネマ、アート、事象、今年度扱う予定のものとしては、以下のものがあげられます。受講者の志向・反応をみながら、一回一回慎重に作品を決めてゆきたいと思います。

《薔薇の葬列》（松本俊夫）、《ファスター・プッシーキャット・キル！キル》（ラス・メイヤー）、《ピンクフラミンゴ》（ジョン・ウォーターズ）、《愛の嵐》（リリアーナ・カヴァーニ）、《ソドムの市》（パゾリーニ）、《ナイトレイト・キス》（バーバラ・ハマー）、《W.R.：オルガニズムの神秘》（マカヴェイエフ）、ジョエル＝ピーター・ウィトキン、ハンス・ベルメール、バルテュス、三浦悦子、空山基、豊浦正明、ロマン・スロコンブ、『Sex Pistols』、『テンペスト』、シュルツ、谷崎潤一郎、ファッション《身体の夢》、ルブタン、マノロ・ブラニク、メヴレヴィー教団の回旋舞踊、等々。

義

■

なお授業の最終日（予備日）には、希望者にパゾリーニ《ソドムの市》をみせます。

今年度もゲストを考えています。これまでには、ヴィヴィアン佐藤、ろくでなし子、都築響一、大沼瞳（ヴァニラ画廊）、川合健一（エディシオン・トレヴィル）、睡蓮みどり（女優・映画批評）の諸氏に来ていただきました。

授業の到達目標

性の理論と芸術における性表現の基本的理解

成績評価方法

●**試験**　50%　　第14回目の授業で試験を実施し、理解度の確認をします。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　出席・レビューシート
●**その他**　0%

科 目 名	戦争とイメージ　戦争を「視る」ということ。							
担当者名	奥間　政作							
表象	2単位	春学期	水曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

戦争は、自分の身近にあるものではなく、なにか遠い場所で起きていることと感じる方は多いでしょう。日本人のなかで身近な戦争の記憶を有する人は少なくなりました。一方で私たちは歴史上の戦争について、書物を通じて知ることができます。また、戦場に置かれた兵士たちのヒロイックな姿なども映画を通じて認知していますし、ニュースでは中東の戦争や空爆の映像に接しています。さらに、ゲーム等では、自身を戦場に置く仮想現実も体験することが可能となっています。そうした状況からすれば、案外に私たちは身近に戦争のイメージと接しているのかもしれません。意外かもしれませんが、かつての日本人の大多数にとっても、戦争はイメージとともにありました。それらはは戦争遂行の重要な要素とみなされるばかりか、個人と社会とをむすぶ力も発揮してきました。 例えば、戦争において人々は勝利と栄華の夢を見ますが、それは同時にだれかを殺すこと、殺されること、しかも大量に、という暴力と死のイメージに結びついています。戦争のイメージは、この夢をいかに見せ、そして避けられない死（だれかの／自分の）にどのように直面させるか、または隠蔽するのかに深くかかわってきます。つまり、イメージ自体が、大きな力を発揮するのです。

本講義では戦争と共に生みだされたイメージのありようや、それらを「視ること」がどのようになされたのか、等を考察することによって、戦争とイメージの地平をとらえようと試みます。

授業の到達目標

本講義は、美術史や視覚文化論、表象文化論、メディア論、文化社会学といった領域を戦争という具体的な観点から横断的にむすび、イメージの有する政治的・社会的な性格へ注目しながらその力学をとらえる、イメージ学の応用的ケース・スタディをおこないます。したがって、戦争というテーマにもとづく複合的な視点の獲得を第一の目標とします。最終的には、自分自身の、また私たちの社会の、見えるもの・見えないものについての批評的観点のを獲得することを目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行いません。
●**レポート**　50%　　学期末レポートを課します。
●**平常点**　50%　　毎回のコメントや授業参加を総合的に判断します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

本講義は応用的な授業であるとはいえ、史実と虚構をともに重視しながら、それらを結ぶ具体的なイメージをとりあげて考えるこころみです。したがって、イメージについて学ぶ初心者にとっても入門しやすいと思います。歴史と社会とイメージについて、戦争という場にたちあがる夢と現実に興味のある方の受講をはばひろく歓迎します。

科 目 名	イメージと祝祭　イメージと「観ること」							
担当者名	菅　香子							
表象	2単位	春学期	土曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

イメージは常に「見られる」ために作られ、存在する。イメージを「見る」あるいは「観る」ことは、私たちに何をもたらしてきたのか。絵画はどのようにして生まれ、私たちに何を見せてきたのか。絵画のイメージの変遷を辿りながら、絵画について「描くこと」と「見ること」の両方の観点から考察し、イメージと祝祭との関係性について検討する。

授業の到達目標

絵画のイメージを意識的に捉え、イメージとは何なのかを自分で考えることができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　-
●**レポート**　0%　　ただしレポートによる評価を希望する場合は応じます。
●**平常点**　100%　　毎回の授業の後にコメント・感想などをWaseda Moodleのレビューシートに入力して頂き、それをもとに評価します。
●**その他**　0%　　-

科 目 名	デザイン論　Design of WHAT ?							
担当者名	加島　卓							
表象	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

デザインは自分で作れないものを誰かに作ってもらうことである。こうしたギャンブルみたいなことを、私たちはさまざまなジャンルで当たり前のようにやっている（グラフィックデザイン、プロダクトデザイン、コミュニケーションデザイン…）。本講義ではデザインのこのような特徴に注目しつつ、私たちはデザインという名において一体何を達成しているのかを具体的に検討しながら、デザインに関する基礎知識や考え方を身につけていくことにしたい。

授業の到達目標

この授業では、社会学の立場からデザインを論じていく（デザインの作り方ではなく、デザインへの考え方を論じる）。授業の前半では、デザインの基礎知識および社会学やメディアの考え方を身につけることが目標である。授業の中盤では、事例紹介を通じてデザイナーという職業への理解を深めることが目標である。授業の後半では、多様性やグローバル化を踏まえた現代社会におけるデザインのあり方について考えを深めることが目標である。これらを通じて、デザインという言葉を使い続ける私たち自身への理解を深めることが最終的には目指される。

成績評価方法

●**試験**　80%　　講義の内容を踏まえ、自らの考えを展開できるかどうかを評価します。
●**レポート**　0%　　ありません。
●**平常点**　20%　　出席点やコメントなどで評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	広告イメージ論							
担当者名	岩切　信一郎							
表象	2単位	秋学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

広告はメディアを必要とし、メディアは広告に支えられて来た歴史をもっている。本講義では商品広告・情報広告における、文字・絵画・デザイン・写真による表現で表象された紙媒体広告をおもに扱う。広告すべき事やモノを消費者にどのように伝達してきたのか、広告の作り手の側がイメージしたものは何であったのか、検討したい。15回の内で、前半が広告の基礎基本の理解で、5回程度をあてる。残りの後半は「広告の歴史編」で主に日本での広告の展開の歴史をたどり広告実例を示す。もちろん欧米の広告史にも触れ、現代広告の現状（状況）にも言及しつつ授業を進める。日本の商業美術、広告とメディア、印刷などの歴史的展開をも補足しながら、広く「広告の意義」を考えたい。広告は時代の鏡、時代の反映でもある。こうした観点も大事にしたい。

授業の到達目標

授業内容をよく理解し、広告に関する理解を深め、「広告」に対する自らの考えを持つことを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　平常点での評価
●**レポート**　0%　　平常点での評価
●**平常点**　100%　　授業の出席状況や理解度、課題への取り組みや熱意、努力などの総合的判断。授業時記述小テスト（数回実施予定）、課題提出などの回答状況や授業への取り組み状況。
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業への積極的な各自の取り組みを歓迎し、期待します。

科 目 名	アニメーション文化論　アニメーションの中の「アニメ」							
担当者名	石岡　良治							
表象	2単位	秋学期	木曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

多種多様なアニメーション表現を、実写映像との緊張関係をふまえつつ概観したあと、マンガとの密接な関係をもつ日本の「アニメAnime」の特性について考える。しばしば静止画像が多用されるなど、「平面の美学」を発達させてきたといわれる「アニメ」表現は、CG表現の普及によって大きく様相を変えている。そこでは従来の「実写vsアニメーション」という対比も再定義を余儀なくされるだろう。本講義はこうした展望に基づき、主として物語表現の媒体としてマンガやゲーム文化と結びつき展開して

きた「アニメ」を、視聴覚イメージとして検討することによって、現代のアニメーション文化への再定位を試みる。

授業の到達目標

1現在のメディア状況を踏まえつつ、アニメーション史のなかのアニメについて考察し、現在起きている表現上の変容を捉える

2「無生物に魂を吹き込むこと」を原義とする"Animation"の歴史における「アニメAnime」に顕著な性質を、日本特殊論に陥ることなく批評的に捉え返す

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　学期末レポート
●**平常点**　40%　　コメントシートやアンケートの内容。および小レポート。小レポート提出を学期末レポートの条件として課す。
●**その他**　0%

講義

科目名	実物のアウラ　質感の認識							
担当者名	岩切　信一郎							
表象	2単位	秋学期	月曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

われわれはパソコンを通じ、いとも簡単にさまざまな情報を手に入れている。しかし、絵画情報を例にあげるなら、それらは液晶画面に翻訳されたものであって、実物の絵画そのものではない。恋人の写真に向かいあうことと、実際の恋人を前にすることとの間には、大きな差異がある。この講義では、実物のみが放ちうる特質を、受講者各人に体感させつつ、その意味を考察する手がかりを与えてゆく。実物にしか宿らぬ質をしっかりと見つめ、把握してゆくことは、コンピュータ社会の渦に呑みこまれぬための足場を築くことにもつながるであろうし、受講生それぞれがたしかに保持している触覚的な認識を再確認してゆくことにもなるだろう。

授業は実物に触れることと講義からなる。実物の大きさや重さ、質感など、実物の放つアウラを実感的に把握し、モノそれ自体にしか宿らない質について考えてゆく。また、江戸時代の浮世絵や明治以降の版画、印刷物などを中心に、「実物」を紹介しながら講義をすすめる。紙や墨やインクなどの物質が、それぞれの特性をおびて顕現してくることに理解をうながしたい。

なお、適宜展覧会の見学も課題として指示する。

授業の到達目標

複製メディアでは伝わらぬ実物の質感に託されたメッセージを把握する感性と知性を培うこと。

成績評価方法

毎回感想を書いてもらいます。実物に触れる態度やマナーなども教えますが、授業への取り組む態度、質問状況なども平常点とします。また、展覧会への参加（感想文提出）なども積極的姿勢として評価します。出席状況を含むこうした総合で評価します。

科目名	コンテンポラリー・アート							
担当者名	関　直子　他／石井　香絵							
表象	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

コンテンポラリー・アートは、時代や地域によって、その意味するものに広がりがある。それは、現在進行形で生まれてくる多様な創造活動のなかの何かに注目し、現在の社会の中で表現の意味を考えることが、個々の立場によって異なることが前提とされるからである。授業ではまず、コンテンポラリー・アートという言葉が意味するものについて検討し、その後、具体的な事例として主に日本における動向を追っていく。

授業の到達目標

同時代に制作されるものを積極的に見て、自身の言葉でその意味を語ること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　レポートが不可能になった場合には試験を課すこともある。
●**レポート**　50%　　授業で見た作品の理解度を基本とする評価
●**平常点**　50%　　展覧会見学やコメントシートの提出などを課すことがあるので、それも評価判断にいれる。
●**その他**　0%

備考・関連URL

毎時間、パワー・ポイントを使用。

科目名	比較イメージ論　中国美術のイメージを手がかりに							
担当者名	徳泉　さち							
表象	2単位	秋学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

イメージとは曖昧で多義的な言葉ですが、大きくいえば「目に見えるもの」といってよいでしょう。われわれは朝起きてから眠るまで絶えずさまざまなイメージに取り巻かれて暮らしているのです。

本講義では、日頃、何気なく通り過ぎていくイメージに、足を止め、注意深く観察してみたいと思います。ひとつのイメージが生み出される背景には、それが形成された時代、社会、文化が複雑に絡み合っています。いくつかのケーススタディを示しながら、イメージのなかに潜む意味を探り、その読み取り方を解説していきます。日本で暮らす私たちのまわりにあるイメージを掘り下げていくと、思いがけず中国古代美術の系譜にいきあたることがあります。中国文化の土壌のなかで育まれたイメージは、知らず知らず私たちの生活のなかに溶け込んでいるのです。中国の伝統文化に由来するイメージを軸にして、それが日本にどのように伝わり変容したのかみていきます。さらに、西洋世界に目をひろげ、同じモチーフがどのようなイメージとして表されているのか比較していきます。その違いや共通性を分析し、それが何によってもたらされるのかを考えてみましょう。

授業の到達目標

イメージの読解、分析の方法を理解し、身につけること。
授業で扱ったイメージの比較を通して、そのイメージを生み出した背景にある社会や文化の違いを考察すること。

成績評価方法

●**試験**　60%　　授業の最終回に、理解度をはかるための教場試験を行います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　平常点とは、出席状況および、毎授業の最後に提出してもらうリアクションペーパー（ミニレポート）のこと。リアクションペーパーの記述は、授業の理解度や主体的な取り組みをはかる評価の対象とします。
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

受講者の興味関心などにあわせて、内容を変更することがあります。また、期間中に開催される美術館、博物館の展覧会などへの参観により、授業をふりかえることもあります。

科 目 名	演劇文化論1							
担当者名	宮沢　章夫							
表象	２単位	春学期	金曜日	３時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

主として、六〇年代以降の現代演劇を取り上げるが、それ以前、そこに普遍性があるという意味でギリシア悲劇についても考えたい。そのことで、演劇をより、歴史的に深い場所から知ることができるのではないか。あるいは、坪内逍遥がいかに日本語と格闘して、言文一致にたどりついたか。演劇を狭い範囲で認識するのではなく、様々な視点から見つめることで、また新たな「演劇観」が生まれると考える。

授業の到達目標

もし「演劇知」という言葉があるなら、そのことによって、社会をあらためて見つめることができるのではないか。娯楽を否定するつもりはまったくないが、もっと異なる「知」をこの授業を通じて獲得してもらいたい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はありません。
●**レポート**　50%　　レポートに言葉としてまとめることで、半期の講義で演劇をどう理解したかを確認します。
●**平常点**　50%　　講義への熱意と積極的な参加意識を確認します。
●**その他**　0%

科 目 名	演劇文化論2　人形とホラー番外編							
担当者名	菊地　浩平							
表象	２単位	秋学期	水曜日	４時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

一般的に人間と「人形」の間には、有機物と無機物という越えられない壁がそびえ立っていると考えられています。

その一方で、我々は「人形」を見てしばしば、「彼ら」がその一線をもしかしたら越えてくるんじゃないかという不安や喜びに駆られてしまいます。そうした話を聞くと、1988年に公開された傑作人形ホラー『チャイルド・プレイ』のように、持ち主の少年アンディの肉体を奪おうと凶器を手に襲いかかる「チャッキー」を思い浮かべる人がいるかもしれません。

もちろんチャッキーもとても重要（だし私も大好き）なのですが、例えばAさんにとって極めて重要な「人形」が存在するとして、それを知らないBさんが「人形」をぞんざいに扱い、Aさんはとても気分を害したとします。そのことが原因で両者の関係が悪化、するばかりかAさんから何らかの「リアクション」がなされた場合、Bさんは「不安」を覚えるでしょう（取り返しのつかない事態になることもあるかもしれません）。その場合、Bさんにとって「人形」は単なる「モノ」ですが、Aさんにとっては全く異なる「モノ」以上の存在であり、十分に「一線」を越えているといえます。

つまりこの「人形」にはAさんの主観が投影されており、本来触ることも見ることもできないはずのものを垣間見ることが出来るのです。人間の主観を言語化するには一定のハードルが付きまとうものですが、それをしていくためのひとつの手がかりとして「人形」について考察することは一定の意義があると考えました。

というわけで本講義では諸作品、諸事象をじっくり鑑賞／観察し、とりわけそこで「人形がどんな役割を担い、なにを媒介しているのか」を検討することで、「われわれ」について考察してみたいと思います。

その際対象となるのは、広義の演劇文化です。演劇と聞くといわゆる劇場でいわゆる俳優たちがいわゆる演技をして、それを見た観客が泣いたり笑ったり帰りたくなったりするものを思い浮かべる方がほとんどでしょう。しかし、シェイクスピアの『お気に召すまま』における「世界は劇場」というセリフにも象徴されていますが、演劇はいわゆる劇場という場所にだけ見出されるわけではありません。様々な時代の様々な場所におけるあらゆる人間の営みが演劇たりえます。（着ぐるみやプロレス、アイドル、Perfumeが講義予定に含まれているのはそうした事情によるものです。ほんとうです。） そこで、広義の演劇やその文化を取り上げながら、改めて人形について考えてみたいと思います。

取り上げる対象となるものの一例としては、人形劇、わら人形、腹話術、蝋人形、お化け屋敷、着ぐるみ、プロレス、アイドル文化（Perfume、ジャニーズ、芦田愛菜から天皇まで）などです。

※なお受講者の反応や人形をめぐる社会情勢等によって講義内容を変更することがあり、シラバス掲載の授業計画通りに進むとは限りませんので、その点はご了承ください。

授業の到達目標

「人形」や「ホラー」について演劇文化論的視点からとらえるための基盤をつくること

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しません。
●**レポート**　50%　　講義で扱った内容を踏まえ、期末レポートを書いていただく予定です。（文字数は受講者数によって決定します。）
●**平常点**　50%　　3分の2以上の出席は最低条件ですが、それに加え、各講義の最後にコメントシートの提出を義務付けています。
●**その他**　0%

科 目 名	ポスト／モダニズム論　思想史のなかの精神分析							
担当者名	工藤　顕太							
表象	2単位	春学期	水曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、20世紀に生じた思想状況の根底的な変容の動き、とりわけマルクス、ニーチェ、フロイトがもたらした切断とその継承の動きの一角として、精神分析を全体のテーマとする。今日においても、精神分析は創設者であるフロイトの名と切り離されてはありえない。したがって、本講義の出発点は、フロイトにとって精神分析とはいかなるものだったのか、という基本的な問いである。まずは、無意識、抑圧、（神経症の）症状、転移、エディプスコンプレクス、去勢コンプレクスといった精神分析独自の概念や、それらと緊密に結びついた技法論を概観することで、この問いにアプローチしてみよう。

精神分析が神経症の治療技法に留まらず、ひとつの「思想」としての容貌をもつに至った背景には、フロイトそのひとが、大胆にも、文学をはじめとした芸術作品の分析や、近代ヨーロッパへと至る人類史をめぐる考察にまで踏み出して思考を展開したことが大きいだろう。だが、それと同時に、精神分析運動の歴史を振り返ってみたときにあきらかなのは、フロイトの実践と理論を独自に発展させた後続の精神分析家たちの貢献を抜きにして、精神分析が思想史のなかに占める位置を考えることはできないということである。

とりわけ人文学という領域において精神分析を扱う場合には、精神分析と哲学の関係がひとつの大きなテーマとなりうる。したがって本講義では、この関係を代表しうる存在として、フランスの精神分析家ジャック・ラカンを取り上げる。1950年代にフランス精神分析のシーンで頭角を現したラカンは、分析家組織の最高権威である国際精神分析協会から排除されながらも（あるいはむしろ排除されたからこそ）、「精神分析とは何か」という問いの探究に深く身を投じ、独自の組織と分析家養成システムを構築した。

ラカンの仕事を特徴づけているのは、彼の言説の宛先が分析家や医師には限定されないということ、とりわけ哲学者や思想家の議論を大胆に参照したことである。したがって今日の私たちは、ラカンを読むことで、哲学の別の読み方を、あるいは変形された哲学の姿をそこに見いだすことができる。本講義では、とりわけデカルトやカント、ヘーゲルといった哲学のメインストリームに対するラカン独自の読解の内実を解説しながら、フロイトからラカンへと至る精神分析の変貌に焦点を当て、その思想史的射程をとらえることを目指す。

授業の到達目標

精神分析の基本的な考え方とその歴史的位置づけについて理解する

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　80%
●**平常点**　20%
●**その他**　0%

科 目 名	モダニズム論　モダニティと芸術：「モダニズム」における前衛とプロパガンダ							
担当者名	石岡　良治							
表象	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「モダニズム（modernism）」という「イズム」のドグマ性が批判されるようになって久しい。だがモダニズム批判として現れた「ポストモダニズム」もまた、現在ではしばしば「1980年代の消費文化」や「バブル文化」と結びつけられ揶揄されるようになっている。「モダニズム」をめぐるこうした状況は、「西欧近代における芸術革命」を主として「モダニズム」と呼ぶ通念に由来するように思われる。本講義では「モダニズム」を、「モダニティ（modernity）」すなわち「近代という状況」ないしは「現代性」をめぐる問いの構造から考察しつつ学んでいく。とりわけカリカチュアとプロパガンダについての基本的諸問題に注目する。また、コンテンポラリーアートにおける政治性の問いを、モダニティにおける「前衛（アヴァンギャルド）」の政治性から辿ることでその系譜を見出すことを目指す。

授業の到達目標

1「モダニズム」の魅力と陥穽を学ぶ。
2　芸術における政治性の問いを「近代という状況」から捉え、その裏面としての「プロパガンダ」との関連を辿る。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　学期末レポート
●**平常点**　30%　　コメントシートなどの内容に基づく
●**その他**　0%

科 目 名	マンガ文化論　作品としての「マンガ」							
担当者名	石岡　良治							
表象	2単位	春学期	木曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「コミックス」「バンドデシネ」「グラフィックノベル」などの総称としての「マンガ」は、文字と画像が組み合わされ「コマ」を読解の単位とした「連続的芸術（sequential art）」（ウィル・アイズナー）とみなされる。現代日本のマンガでは「視線誘導」など可読性を重視したエンタメ作品が多く、マンガの読解コードに慣れ親しんだ者は素早く読むことができるが、時代や地域な

ど慣習の異なる「マンガ」表現に接するとき、読解コードの自明性は揺らぎ、ときには「難解」に思えるかもしれない。 本講義は総称としての「マンガ」表現の広がりをその歴史とともに概観しつつ、古典的マンガ作品の魅力をひもといていく導入となることを目指す。
受講者には、以下に挙げたリストを参考に、「慣れ親しんでいない」マンガ作品に触れ、中間レポートを提出することが求められる。そのうえで、学期末レポートでは別の作品（こちらでは現代マンガも可とする）を分析することで、これまで自明視していた「マンガ」の読解コードを意識した上で、多種多様なマンガ表現の魅力にふれてもらいたい。

古典作品リスト（例）
手塚治虫『火の鳥』
白土三平『カムイ伝』
高森朝雄＆ちばてつや『あしたのジョー』
永井豪『デビルマン』
諸星大二郎『暗黒神話』
荒木飛呂彦『バオー来訪者』
楳図かずお『わたしは真悟』
松本大洋『ピンポン』

萩尾望都『ポーの一族』
竹宮恵子『風と木の詩』
大島弓子『バナナブレッドのプディング』
山岸涼子『日出処の天子』
紡木たく『ホットロード』
岩館真理子『キララのキ』
高野文子『棒がいっぽん』
岡崎京子『リバーズ・エッジ』

ロドルフ・テプフェール『M.ヴィユ・ボワ』
ウィンザー・マッケイ『リトル・ニモ』
エルジェ『タンタンの冒険』シリーズ
フランク・ミラー『バットマン: ダークナイト・リターンズ』
アレハンドロ・ホドロフスキー＆メビウス『アンカル』
アラン・ムーア＆デイブ・ギボンズ 『ウォッチメン』
マルジャン・サトラピ『ペルセポリス』

授業の到達目標
マンガ作品の分析における、「内在分析」（イメージの読解やシナリオの構造分析）と「外在分析」（社会的要因や時代相との関連）の双方の重要性を認識する

成績評価方法
●**試験** 0%
●**レポート** 60% 学期末レポート
●**平常点** 40% コメントペーパーやアンケートを含む。 小レポートの提出を学期末レポート提出条件とする
●**その他** 0%

科 目 名	視聴覚表象研究 アニメーション、映画、ドラマ、演劇映像のショット分析							
担当者名	細馬 宏通							
表象	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
アニメーション・映像における視覚と聴覚の時間論を扱う。映像史の中で、身体器官は音声と映像とを結びつけるための重要な役割を担ってきた。口を開閉して話すこと。歌うこと。口に食物を入れ、咀嚼とともに顔を動かすこと。手をたたき、足を踏みならし、踊ること。複数の身体が近づき、離れること。これらの基本的な活動が、映像・音声の同期によっていかに表現されてきたかについて、映画前史から現代までを通観する。

授業の到達目標
・アニメーションや映像を、単に印象に頼るのではなく、映像や音声の時間構造から論じることができるようになる。
・キャラクターの生成の歴史を具体的な作品例に基づいて考えることができるようになる。
・映像と音声との関係史を踏まえた上で、現在の映像文化について考えることができるようになる。

成績評価方法
●**試験** 0% 行わない。
●**レポート** 40% 最終レポート（必須）の内容を採点する
●**平常点** 60% 2-3回に1回の割合で簡単なレスポンス・ペーパーの記入や小レポートの執筆を講義中に課す。その結果を採点する。
●**その他** 0% 行わない。

備考・関連URL
とりあげる作品は、講義の進行に応じて変更することがある。

科 目 名	身体行為論　相互行為の中で時間はいかに組織されるか							
担当者名	細馬　宏通							
表象	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

わたしたちはさまざまな環境下で、他者と互いに声を交わし、身体を動かしながら何らかの相互行為を達成していく。そのとき、お互いの身体はいつ、どのように動くのか。発声はそこにどう関わるのか。そこではどのような制約が働き、お互いにどのような調整が行われるのか。この講義では、さまざまな環境内で行われる相互行為を取り上げ、その多様性を紹介するとともに、わたしたちの発声や身体動作が持っている認知的制約、環境による制約について考える。

授業の到達目標

・脳と身体の関係を、脳科学の基礎的な知識をもとに考えることができるようになる。
・身体の動きを、単なる個人の表現としてではなく、他者との相互行為として捉えることができるようになる。
・身体の動いている環境に注目し、ヒトがそこからどのような手がかりを得ているかを考えることができるようになる。
・声と身体の相互作用を、時間に沿って考えることができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない
●**レポート**　40%　　最終レポートを課す。課題は講義中に紹介する。
●**平常点**　60%　　2-3回に一度の割合で、レスポンス・ペーパーもしくは小レポートの提出を課す。
●**その他**　0%　　行わない

講義

科 目 名	テレビ史　ドラマの歴史：草創期から現在まで							
担当者名	岡室　美奈子							
表象	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、昭和から平成を経て令和までの日本のテレビドラマの歴史を、90年代以降を中心に主だったドラマや脚本家に着目して概観し、ドラマの魅力と可能性を探る。 昨年幕を閉じた平成はバブル経済で幕を開けたが、90年代に突入するとバブルが崩壊し湾岸戦争が起こるなど、不穏な空気が漂い始める。90年代半ばには阪神淡路大震災や地下鉄サリン事件が起き、さらに神戸連続児童殺傷事件などいわゆる「劇場型犯罪」も増え、そうした理不尽な事件がさらに暗い影を落とす。それに呼応するように、ドラマにもデヴィッド・リンチの『ツイン・ピークス』などのアメリカン・カルト・ドラマの影響下にカルトドラマ、サイコドラマが頭角を現す。その一方で北川悦吏子による『愛していると言ってくれ』、『ロング・バケーション』などの日常的な恋愛ドラマが人気を博し、連来ドラマ全盛期となる。ゼロ年代にはいって長い不況で世相が混迷を極め日常のドラマが成り立ちにくくなった時、宮藤官九郎が登場して非日常を通して日常を描くという方法を獲得してゆく。だが、刑事ものや病院ものなど、非日常だけを描くドラマも増えてゆく。2011年の東日本大震災後は、家族の幽霊が登場するドラマが増える。これらのドラマでは、生と死が断絶ではなく連続したものとして描かれ、大震災後の視聴者の心情を反映させたものとなっている。このようにドラマは常に社会を映す鏡であり続けてきた。この演習では、ドラマが時代をどう可視化してきたかを通じて、テレビドラマが社会の中で果たしうる役割について考察する。

毎回、各時代の代表的なドラマを一部視聴するが、「代表的なドラマ」とは必ずしも視聴率の高かった番組を指すのではなく、評価の高かったドラマや、年月を経ても人々の心に残るドラマを中心に選ぶ。視聴する際には、ストーリーよりもテレビというメディアの固有性や表現方法を重視し、テレビとは何か、テレビドラマとは何かを併せて考えたい。

授業の到達目標

日本のテレビドラマの歴史を理解し、制作現場においてテレビというメディアがどのように意識され、映画や演劇などの近接ジャンルとどのように差異化されながら発展してきたかを把握することを目指す。

成績評価方法

●**試験**　80%　　教場で理解度を確認するテストを最終回に行う。日本のテレビドラマの歴史について、一通りの知識を身に着けたかどうかを確認する。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　20%　　出席状況やコメントシートから判断する。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

基本的に地上波で放送されたドラマを取り上げるため過激な表現は少ないが、時には性的、あるいは暴力的な表現が含まれる場合もあることを了承の上、受講されたい。
なお、2017年度「テレビ文化論」(講義)、2019年度表象・メディア論系演習「テレビ文化論」を既に受講済の人は内容が重複するため受講しないよう注意してほしい。

科 目 名	アメリカン・ミュージカル表現史							
担当者名	辻　佐保子							
表象	2単位	春学期	月曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義では、アメリカン・ミュージカルの表現手法の歴史を、アメリカの社会動向との相互的な関係を踏まえながら辿ります。 現在、アメリカン・ミュージカルは日本も含めて世界各国で上演されており、その際、「アメリカ発のポピュラー・エンターテインメント」という背景を抜きにして受容されることも決して珍しくはありません。しかし、アメリカン・ミュージカルの劇作の方法論 -- たとえば、楽曲とドラマの関係性や、歌・ダンスの働き -- は、アメリカの政治的・社会的・経済的・文化的状況と密接に関わっています。
以上の前提に立って、本授業では、表現手法の成立や変化を多角的な視点から考察することを通して、アメリカン・ミュージカルが刻んできた歴史をダイナミックにとらえていきます。
なお、スケジュールの記載内容はあくまで予定であり、授業の進行具合によって変更する可能性があります。

授業の到達目標

・アメリカン・ミュージカルの歴史の基本知識を身につける。

・各時代の代表的な作家や作品を知り、その特徴を理解する。

・ミュージカルを規定する美学や、様々な条件を知り、時代や地域といかに深く関わるかを理解する。

成績評価方法

●**試験**　60%　　講義で解説したミュージカル表現とアメリカ社会との関係について基本的な知識を身につけたかを問う。
●**レポート**　20%　　映像鑑賞後に課す小レポートの質を問う。
●**平常点**　20%　　三分の二以上の出席を要する。 毎回のコメントシートの質も評価に加味する。
●**その他**　0%

科 目 名	アメリカン・ミュージカルと「語り／騙り」の文化史							
担当者名	辻　佐保子							
表象	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、アメリカン・ミュージカルの表現手法を「語り／騙り」という視点から考察していきます。「独立宣言」というナラティブの構築から始まったアメリカという国家において、「騙り／騙り」が国としての外貌や内実を構築するだけでなく、文化的営為にも大きな役割を果たしていることは、（台詞劇中心の）アメリカ演劇研究では共有された見解です。

このような「語り／騙り」の伝統とミュージカルは、どのような関係を築いてきたのでしょうか。共犯的なものでしょうか、それとも相対化するものなのでしょうか。

以上の問題について、春学期の「アメリカン・ミュージカル表現史」で扱った内容をベースにしつつ、多彩な作品を論じていきます。本授業を通して、アメリカの社会・文化とミュージカルとの関係をさらに立体的に捉えていくことを目指します。

なお、授業計画に記載されたスケジュールはあくまで予定であり、授業の進行具合によって変更も考えられます。

授業の到達目標

・アメリカ史とアメリカン・ミュージカルの結びつきを理解する。

・アメリカン・ミュージカルの表現が有する「語り／騙り」の働きを理解する。

成績評価方法

●**試験**　60%　　講義で解説した内容についての基本的知識を身につけたかを問う。
●**レポート**　20%　　映像鑑賞後の小レポートの質を問う。
●**平常点**　20%　　三分の二以上の出席を要する。 毎回のコメントシートの質も評価に加味する。
●**その他**　0%

科 目 名	現代文学史1							
担当者名	堀　千晶							
文ジャ	2単位	秋学期	木曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

批評家ポール・ド・マンは、有名な文学史論のなかで、《われわれがふだん文学史と呼んでいるものは、文学とはほとんど何の関係もない》と挑発的に述べたうえで、《文学の良き解釈こそが、文学史なのである》と書いた。個々の作品のテクストそのものの具体的な読解がなければ、文学史は、時代ごとの流行目録をつくる作業と、たいして変わらないものとなるだろう。まず、テクストを読まなければならない。

その一方で、作品を、それが書かれた時代／それが読まれる時代の知的な地勢図（布置）のなかに位置づけてゆく歴史化の作業がなければ、作品は社会的・歴史的な情況から遊離したものに変えられてしまう。歴史意識なきナイーヴな読解は、最悪の場合、当の作品が抵抗していたものに、協力してしまうことにもなりかねないのである。

だが同時に、歴史的な位置づけばかりを追求することは、作品のテクストそのものからの離反を招く傾向があるのも事実である。つまり、テクスト読解と歴史的位置づけとのあいだには、幾重にも張りめぐらされた緊張状態が存在している。

本講義では、テクスト読解と歴史化のあいだの綱渡りを行いながら、日本語で書く作家たちの作品を読んでゆく。ほとんど読まれなくなった作品もふくめ、作家たちの個々の営為に随伴しながら、目標として目指すのは、言葉に対する圧制や弾圧への抵抗の歴史、新たな言語空間をつくろうとする作家たちの営みの歴史を、浮かび上がらせることである。

授業の到達目標

「文学（史）」についての批判的教養

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　100%　　3000～4000字程度のレポート。
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科 目 名	現代文学史2　村上春樹前後の文学							
担当者名	市川　真人							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

いわゆる「日本近代文学」の歩みが坪内逍遥・二葉亭四迷らによって始まってから百二十余年。いまや、第二次世界大戦の終戦後の時間の方が長くなりつつあります。日本近代文学の折返点以降の約六十年を「現代」ととりあえず定義するならば、その期間に「文学」はどのように描かれ、時代や環境とともにどう変化してきたのか。そして、今日の（エンターテインメント作品やコミックなどまでを遠望した）広義の文学に、それらはどう反復されているのか。

本講義では、村上龍・村上春樹の1970年代以降、2010年代までの「日本文学」像を、いくつかの作家像や具体的作品を抽

出しながら観察してゆきます。さらに、そこに至る影響関係として、「第三の新人」や「内向の世代」といった、半世紀ほど前の日本文学に流布した、ともすればいまや耳慣れないキャッチフレーズが、なぜ、どのように今日の「私たち」と無関係ではないのか――そうした言葉を知らないひとにも、知っているひとにも、あらたな視点を手にして、新しい時代の文化を構想してほしいと思っています。

授業の到達目標

日本の近代文学史の大枠を理解したうえで、現在の「文学」が直面する課題や変化について歴史的な文脈のもとで理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　講義の理解度と、それを応用しての思考・論述力、オリジナリティなど。
●**平常点**　30%　　出席状況等による。
●**その他**　0%

講義

科目名	短詩型文学論1　声と詩。詩の発生。呪いあるいは祈りと詩。							
担当者名	伊藤　比呂美							
文ジャ	2単位	春学期	水曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

詩とはなにかを考える。探る。

授業の到達目標

自分なりの短詩型文学を知る。広い視野で詩をとらえる。逸脱することをおそれない。

成績評価方法

出席重視。レポート課題多いです。レビューシートをよく読みます（書くのがへたな人もおそるるなかれ、真意はちゃんとくみ取ります）。授業の取り組みをよく見ます。私語はめっちゃ嫌い。

科目名	短詩型文学論2　語りと詩。移動と詩。							
担当者名	伊藤　比呂美							
文ジャ	2単位	秋学期	水曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

「語り」としての詩に注目して、いろいろなものを読み、また見、その楽しさ、楽しみかた、効用を考えていく。説経節のおもしろさを知る。

授業の到達目標

広い視野で詩をとらえる。逸脱する自由を知る。自分をみつめる。

成績評価方法

出席重視。レポート課題多いです。レビューシートをよく読みます（書くのがへたな人もおそるるなかれ、真意はちゃんとくみ取ります）。授業の取り組みをよく見ます。私語はめっちゃ嫌い。

科目名	20世紀小説表現史1（日本）「日本文学」の磁場							
担当者名	堀　千晶							
文ジャ	2単位	春学期	木曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

「文学」いうものが、言語に対して一種のねじれや歪みをもたらす作用のことだとするなら、「日本文学」と呼ばれる磁場におけるねじれとはいかなるものか。それが、本講義を貫く問いである。中村光夫は、「小説」を輸入した日本における「自然主義」の歪みを痛烈に批判したが、まずはこの中村の批判を再検証しながら、「日本文学」のうちに、別様なねじれや歪みをもたらす小説や批評を、主に戦後の作品を中心に論じてゆく。

授業の到達目標

「文学」という制度に対するまなざし

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　100%　　3000字程度のレポート。
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科目名	20世紀小説表現史2（英米）　Art of Fiction							
担当者名	小田島　恒志							
文ジャ	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

David Lodge の *Art of Fiction*の中から、とくに現代イギリス小説の技巧にかかわる章について精読する。テキストを単に訳すのではなく、書かれていることについていろいろと考察することを目的とする。

授業の到達目標

原書の内容をしっかりと読み取れる読解力と、その内容を他のテキストに当てはめて考えられる思考力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　70%　　14回目の授業で試験を行い、理解度を確認する。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　30%　　出席など、授業に対するactivity を総合的に評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	20世紀小説表現史3（ヨーロッパ） なぜ書くのか、どう語るのか							
担当者名	森井　良							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

「小説」というジャンルをとおして、二十世紀文学の潮流、とりわけフランスを中心とした西洋文学の流れを実際のテクストとともに見ていきます。その流れが世紀を超えた現在に投げかける問いとインパクトについても考えていくつもりです。個々の作家の「エクリチュール」（≒書いたもの、書くこと、書き方）の特質だけでなく、彼らが作品のうちに反映させた社会動向や知的潮流も俎上にのせることになるでしょう。

担当者の専門の関係で、フランス系の作家を軸に章立てをしましたが、なるべくリンクを飛ばして横断的に論じていきたいと思っています。小説テクストだけでなく、作品に関連する批評（同時代あるいは後代）も紹介するつもりです。受講生の方々、どうぞつつきまわしてください。みんなで授業を○可塑的／×過疎的にしていきましょう。

授業の到達目標

世紀のはじめから後半にかけての小説表現の流れを同時代的文脈やテクストの読解をとおして把握しながら、二十一世紀の現在から見た個々の作家のアクチュアリティを受講生各自が見定めていってほしい。また、小説を書くとはどういうことか、小説とは何なのかという根源的な問題についても、自らに引きつけて考えてもらいたい。「書く≒語る」とは人間にとって基本的な営為なのだから。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　授業で扱ったテーマや作家についてのレポート。
●**平常点**　30%　　出席、コメントカードなど。
●**その他**　0%

備考・関連URL

外国語の知識は問いません。原文について言及することもありますが、その言語が読めない人でもわかるように解説しますのでご安心を。

科 目 名	20世紀小説表現史4（アジア） 帝国と国民国家を生きる							
担当者名	逆井　聡人							
文ジャ	2単位	秋学期	月曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

19世紀に基盤を固めた近代国家日本は、20世紀に入ってますますその勢力を拡大していき、東アジアを睥睨する近代的帝国となった。そして帝国に囲い込まれた民は、社会が求める規範に自らの生をすり合わせていかなくてはならなかった。しかし、そこには必ず枠に収まりきらない残余がある。この残余を切り捨てなければならないのか、隠さなければならないのか、そうした葛藤が苦渋の表現を生み出していく。

アジア太平洋戦争が終わったからといって、この表現をめぐる格闘が止んだわけではない。むしろ、国際政治の非情な荒波は「解放」という希望を飲み込んで窒息させようとしてきた。それでも人々は空気を求めて、蹌き抗い、浮上する。そして抑圧された記憶と身体を間欠泉のように吹き上げる。

20世紀の東アジアという時空間において本講義が見ようとするのは、まさにその生きんがための抗いである。それぞれの時代においての「今の身体」を、そして各々の持つ「過去の記憶」を、どのように結い合わせながら文学作品として昇華させてきたのか。その必死の闘いから学んでいきたい。

授業の到達目標

本講義を受講することで、学生は国籍や民族、ジェンダーという概念を相対化し、過去から連なる現在を批評的視座から考察することが可能となる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　中間レポート 20%、期末レポート 30%
●**平常点**　50%　　毎回、授業の最後に提出するコメントシート 40%　授業中の議論への参加度 10%
●**その他**　0%

科 目 名	児童文学 児童文学の変遷――童話の成立からライトノベルまで							
担当者名	久米　依子							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

児童文学は、〈大人〉と〈子ども〉が区分されていく近代社会において成立した。この講義では欧米の児童文学の成立を確認後、明治時代の学制制定後に発生し、時代の情勢に応じて発展した日本の児童文学の軌跡を、社会の変化を踏まえながら追う。明治期には立身出世する子ども、大正期には童心主義による無垢な子ども像が主流となり、昭和期にはリアリズムの手法が取り入れられ、第二次大戦後には、より子ども読者に接近した、活発な成長する子ども像が描かれる。やがて80年代以降の社会の変容に従い、描かれる〈大人〉と〈子ども〉の関係も揺らぎ始め、児童文学は新たな表象に向けて模索し、それまで暗黙のタブーとされてきた死、いじめ、親への疑義、クラスでの孤立など、成長神話を相対化するような要素を次々と取り上げていく。しかし先鋭的作品群が生まれた後、確たる方向性が掴みにくい時代に入り、そこに、大衆的児童文化としてのライトノベルやアニメーションなど、サブカルチャーが青少年文化として隆盛する事態が重なった。現在の児童文学は、ライトノベルとの境界をふまえて考えなければならない状況を迎えている。1世紀の歴史を超えた日本の児童文学を、今後どのように考えるべきか――過去の主要作品をたどった上で、後半の授業では、今日的問題としてライトノベルとの関係に特に注目し、受講者と共に考えてみたい。

授業の到達目標

日本の児童文学の変遷と現在の青少年文化の状況を理解し、受講者自身が見解を持つことを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　50%　　15回目の授業時間内に、児童文学の変遷と現状についての理解と、それをふまえて自分の見解が示せるかどうかの確認のために試験を行う。教科書を使用するので、教科書不携帯の場合は受験不可。

●**レポート**　30%　　授業で取り上げた日本の児童文学作家の作品を読み、どのような時代的意義があったかを、授業内容をふまえて論述する。800字程度の小レポート。12回目以降に提出。感想文ではないので注意。

●**平常点**　20%　　5回以上の欠席は原則として単位不認定。出席を満たしていても、試験とレポートの結果によっては単位不認定の可能性あり。

●**その他**　0%

備考・関連URL

成績評価欄に記したように、教科書を使用した試験を行うので、試験の時には必ず携帯すること。教科書不携帯の場合は、受験不可。

また試験とは別に児童文学を実際に読み、小レポートを書いてもらう予定。

講義

科目名	横断文学論							
担当者名	陣野　俊史							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「横断」とはどういうことを指すのだろうか。横断するためには、まずどこからどこまでを「横断」するのか、考えなくてはならない。世界を、とひとまず書く。世界文学という呼び方はしていない。ヨーロッパを出発点にして、必ず、日本に折り返し、かつ、アフリカ、南米、台湾、中国を経て、地球を「横断」する、ことのみを目指したい。

授業の到達目標

世界を横断する以上、世界を一周することが目標であり、それ以外の目標はない。最後までついてきて欲しい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない

●**レポート**　60%　　講義内容をどれほど理解しているか、講義を入口にどれくらい自分の理解を深められているか、丁寧に時間をかけて調べているか（結果的に、長く書くことが必要になる）

●**平常点**　40%　　出席して、積極的に授業に参加すること。リアクションとして積極的に参加すること。

●**その他**　0%

科目名	マイナー文学論							
担当者名	陣野　俊史							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

いわゆるメジャーな文学とは何か、という問いがすぐに浮かぶのだが、ここではまず様々な意味で「マイナー」を定義しておきたい。言語的・人種的・性的指向性あるいはジェンダー的な意味でのマイノリティを意識しつつ、そうした「文学」に目を向けたい。授業内容は以下に示す通りうだが、順番は入れ替わる可能性がある。初回の授業時に話す内容を含め、指示する。

授業の到達目標

それぞれのテーマの説明を十分に理解し、かつそこを入口にしてできるかぎりの文献から、そのテーマの真の姿を描き出すこと。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない

●**レポート**　70%　　講義を正確に理解し、自分なりにその理解を深めているか、時間をかけて丁寧に資料を読み、アウトプットできているか、最終的にそうしたことを、長く書けているか

●**平常点**　30%　　積極的に授業に参加したか、リアクション・ペーパーなどを緻密に書いたか

●**その他**　0%

科目名	文学とジェンダー1　「わたしはわたし」のジェンダー論							
担当者名	伊藤　比呂美							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

女として64年、詩人として42年、日系移民として22年、生きてきて、ジェンダーとセックスとセクシュアリティとダイバーシティとマイノリティーの諸問題には苦労してきました。その経験値を生かして、みんなに、人生の諸問題に、みんなの悩みに、社会の在り方に、真摯に親身に向き合います。大きい教室ですが、みんなと議論した感、自分自身に向かい合った感、「ひとりじゃない」感、「自分は自分」感などが、得られるといいなーーと思っています。

授業の到達目標

自分らしく生きられるように。

自分らしさとは何だ？

成績評価方法

●**試験**　0%　　しません

●**レポート**　50%　　提出。内容。

●**平常点**　50%　　出席は感想シートの提出による。4回以上の欠席は（きちんとした理由がないかぎり）不可。授業中の態度も見ます。

●**その他**　0%

科 目 名	文学とジェンダー2 「わたしはわたし」のジェンダー論							
担当者名	伊藤　比呂美							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

女として64年、詩人として42年、日系移民として22年、生きてきて、ジェンダーとセックスとセクシュアリティとダイバーシティとマイノリティーの諸問題には苦労してきました。その経験値を生かして、みんなに、人生の諸問題に、みんなの悩みに、社会の在り方に、真摯に親身に向き合います。大きい教室ですが、みんなと議論した感、自分自身に向かい合った感、「ひとりじゃない」感、「自分は自分」感などが、得られるといいなーーと思っています。

授業の到達目標

自分らしく生きられるように。
自分らしさとは何だ？

成績評価方法

●**試験**　0%　　しません。
●**レポート**　50%　　提出。内容。
●**平常点**　50%　　出席は感想シートの提出による。4回以上の欠席は（きちんとした理由がないかぎり）不可。授業中の態度も見ます。
●**その他**　0%

科 目 名	暴力と文学1 戦争と文学							
担当者名	松永　美穂							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

ギリシャ古典から始めて、ヨーロッパ（特にドイツ語圏）の文学を中心に、文学作品における戦争の表象のしかたや、戦争と文学者の関わりを見ていくつもりです。単なる作品鑑賞ではなく、それぞれの作品が現代において持つ意味についても考えていきたいと思います。歴史記述に対して文学にはどのような可能性があるのか、授業を通して明らかになる部分があれば嬉しいです。昨今いろいろと出版されている暴力論の本についても、紹介していけたらと思います。

授業の到達目標

さまざまな作品に触れつつ、戦争と文学の関わりについて、文学史も参照しつつ主体的に考えること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　50%　　学期末に指定する図書リストから一冊を選んで2000字前後で書いてもらいます。本を読んだうえで、自分の意見がはっきり出せていることを期待します。
●**平常点**　50%　　授業時に質問などをしますので、レビューシートでお答え下さい。単なる出席だけでなく、レビューシートも重視します。
●**その他**　0%

科 目 名	暴力と文学2 戦争における暴力の諸相							
担当者名	鳥羽　耕史							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

トロツキーが「暴力の上に基礎づけられている」とし、ウェーバーが「支配手段としての正当な物理的暴力行使の独占」に本質を見た近代国家においては、軍隊と警察がその暴力の行使を担ってきた。ここでは、特に戦争における軍隊の暴力に焦点を絞り、近代日本の戦争とその周辺を描いた様々な文学テクストを読解する。教科書の第1部「戦場の光景」では特に外地における戦場での直接的暴力の問題が、第2部「戦争の日常」では内地と沖縄における別の形の暴力の問題が、そして第3部「記憶としての戦争」においては戦争から派生した暴力の問題が取り上げられるだろう。

授業の到達目標

戦争を描いた文学から暴力と文学一般の問題について理解し、自分なりに考察できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　講義を踏まえた上で、自分なりの議論ができているか。
●**平常点**　30%　　毎回の講義を理解してコメントできているか。
●**その他**　0%

科 目 名	中南欧の文学 短篇か断章か—タブッキとカルヴィーノを読む							
担当者名	和田　忠彦							
文ジャ	2単位	春学期	木曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

「中南欧」というとき、地図の上でどのあたりを思い描くでしょうか？この講義では、通常「南欧」として位置づけられるイタリア語圏の作品を手掛かりに、「南欧」と「中欧」ふたつの地域をつなぐ想像力のありようについて、短篇作品を読みながらそれらが生まれた同時代の状況をも視界におさめつつ考えていきます。

まずさしあたり関心を寄せていただきたい作家は、ふたり。アントニオ・タブッキ（1943−2012）とイタロ・カルヴィーノ（1923−1985）です。

なお、シラバスは授業中のみなさんの反応などにより適宜変わる可能性があります。

授業の到達目標

文学作品を読むこと考えることをとおして知ること見ることの閾値をひろげる.

成績評価方法

●**試験**　0%　　行いません。
●**レポート**　70%　　授業中に指定する図書リストから一冊もしくは複数を選んで2800字前後で書いてもらいます。本を読んだうえで、自分の意見がはっきり出せていることを期待します。
●**平常点**　30%　　授業時に質問などをしますので、レビューシートで答えてください。単なる出席というより、レビューシートを重視します。
●**その他**　0%

科 目 名	ラテン・アメリカ文学という視点　イスパノアメリカの文学とその背景							
担当者名	内田　兆史							
文ジャ	2単位	秋学期	木曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

イスパノアメリカと呼ばれる地域、そして広くラテンアメリカが生み出した文学作品を、そこに暮らす人びとの歴史と、その中で生まれた暮らしやメンタリティ、政治との関わりとともに考察する。

イスパノアメリカについて、まずはその成り立ちや、歴史に基づいたモザイク模様を織りなす文化を概観し、20世紀から今世紀にかけてのこの地域の代表的作家とその作品を取り上げ、それぞれの作家、作品を、地域や時代の特徴をとらえる。また、そうした文学作品をきっかけに制作された映画についても考察する。

授業の到達目標

いわゆる「ラテンアメリカ」地域を，それ以外のアメリカやヨーロッパと比較し，またそれぞれの関係をとらえられるようになり，そのうえでイスパノアメリカの代表的作家たちの意識や作品に対する理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　イスパノアメリカの文学作品に関するレポート
●**平常点**　50%　　リアクションペーパーに基づく
●**その他**　0%

科 目 名	文芸批評理論1							
担当者名	堀　千晶							
文ジャ	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、20世紀フランスにおける文学／哲学／政治の交叉の諸相を、その変貌を見極めつつ検討する。具体的には、爆発的な影響力をもったヘーゲル哲学の受容、サルトルの流行、ベルクソンの復権、言語学の隆盛、マルクス主義との連関といった主題を、扱うことになるだろう。同時代の映画などにも、適宜触れてゆく。

20世紀のフランス思想は、国際的に言っても、いまや「教養」の域に入ったと言ってよく、現に世界中の大学で教えられている。「教養」とはつまり、「知識なき感性」が存在しうるという幻想を、徹底的に打ち砕く作用のことである。同時に、そこに「批評」というものがありうるとするなら、教養人と同等以上の教養を持ちつつ、そこから割って出ることである。批評とは、何もおのれを保証してくれないところで獲得される、宙吊り状態の危険な自由であろう。教養によって優雅になるのか、あるいは、野生化するのか。それは各自の資質によるが、ひとまず本講義では現代の基礎教養の習得を目指す。

授業の到達目標

批判的知性のための教養

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　100%　　3000-4000字程度のレポート。
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科 目 名	文芸批評理論2							
担当者名	堀　千晶							
文ジャ	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、フランスの思想家ドゥルーズの文学論を中心に、映画論や、政治論をまじえつつ読んでゆく。対象となる作家についても、適宜紹介してゆく。また同時代の批評家や思想家にも、言及してゆくことになるだろう。前期「文芸批評理論1」が20世紀思想史の概論だとするなら、本講義はその特殊例をめぐるものである。

授業の到達目標

批判的知性のための教養

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　100%　　3000-4000程度のレポート。
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科 目 名	装丁と文学　書籍のリバースエンジニアリング							
担当者名	和久田　頼男							
文ジャ	2単位	春学期	水曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本の内容ではなく、書籍の外側（装丁）に注目する授業です。 紙に印刷して綴じたモノが、現代の書籍です。単純なつくりのようですが、解体してみるとさまざまなパーツからなることがわかります。そして、一つ一つのパーツには、書籍の歴史がこ

もっています。
書籍を、その「頁を束ねるデザイン」という観点から考えてみましょう。
まずは、手近にある小説や漫画や単行本を、実際に「解体」してみるところからはじめましょう。
いわば「書籍のリバースエンジニアリング」といった作業によって、書籍の歴史のなかで培われてきた装丁の方法論やテクニックの数々に気づくことができます。
文学作品をはじめ人文書籍などの装丁をとりあげつつ、書籍の内容と形式との関係について、実例を通して理解していきます。

授業の到達目標

装丁の思惑を感じ取ることができるようになり、書籍の形式にまつわる叡智をカスタマイズできるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　授業中の発表・学期末のレポート
●**平常点**　50%　　授業への出席状況
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

出席状況と課題の提出状況や内容、取り組み態度などを総合的に評価します。 授業計画は、受講人数や受講者の理解度に応じて適宜変更します。

講義

科 目 名	音楽文化論1							
担当者名	小沼　純一							
文ジャ	２単位	春学期	月曜日	４時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

基本的には「音楽」のさまざまなありようをみていきます。
その点では、春学期／秋学期ともに変わりはありません。
1年かけても無数にある音楽の一部しか扱えませんが、あまり学生諸君がふだん触れることのないようなものを扱いたいと考えています。
ただ、隠しテーマとして、音楽と「場」というのは想定されているかもしれません。それが、前期から後期にむけて、深化させたいというのがこちらの希望ではあります。

授業の到達目標

従来の「音楽」観が揺らいでくれることが望ましい。

成績評価方法

出席はとりません。
試験のみで成績評価をおこないます。

科 目 名	音楽文化論2							
担当者名	小沼　純一							
文ジャ	２単位	秋学期	月曜日	４時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

基本、「音楽文化論1」の延長上と考えてください。内容はもちろん変わります。

授業の到達目標

上記同様です。

成績評価方法

試験をします。
出席はとりません。

科 目 名	非文字媒体論							
担当者名	小沼　純一							
文ジャ	２単位	秋学期	木曜日	２時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

はじめにお伝えしておきますが、昨年までの「非文字媒体論」と担当が変わっています。当然、内容も変わってきます。
☆
タイトルどおり、「非文字媒体」がテーマとなります。
文字ではない、というところが中心ですが、通常の文字とは異なったもの、というのも含ませ、
同時に、そうしたところから文字が照射できれば、と考えています。
具体的には、文字で書かれていても、それが発音・発声されることで変化するテクストであったり、
コンクリートポエトリーであったり、音響詩であったりします。
口頭伝承や声、にふれたりもするでしょう。

授業の到達目標

これまで接していた文字によるテクストに接する姿勢がすこしでも変化すること。

成績評価方法

基本、教場試験をします。
出席は、人数によって、とるかとらないかを決めたいと考えています。

科 目 名	身体とメディアの基礎理論　文化的テクストを読み解くために							
担当者名	貝澤　哉							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業は、1.「物語」と「終末」、2.「声」と「歌」、3.映像・イメージ：視覚と身体、4.「食物」と「ゴミ」、5.「探偵」などのテーマを手がかりとしながら、文化的テクストを読み解くための基礎となる理論をなるべくわかりやすく紹介することを目的とする。

授業では、最近の文化理論の成果をなるべくわかりやすく紹介するが、その内容は必ずしも簡単ではない。現代の思想・文化理論の難解な問題にも触れていくので、上で挙げた各テーマに関心がないと、授業についていくのに困難を感じるかもしれない。登録のさいにはじゅうぶん注意すること。

しかし、せっかく大学に入ったのに、高校までのような、たんなる知識の詰め込みや、すぐに答えの出る問題だけをやっているのでは、大学に来た意味がない。高校までではけっして教えてくれない、むずかしいが重要な問題をとりあげる場所であること――そこに大学の存在意義があるのだ。この授業は、高校までの授業ではけっしてでてこない、文化の仕組みにかんする重要な理論を学ぶ場なのである。

講義

授業の到達目標

「物語」、「声」と「歌」、「映像・イメージ」、「身体」の基礎理論を習得し、文化的テクストの読解のスキルを高めることが目標である。

そのためには、高校生的な「お勉強」ではなく、自分の頭でものを考え、自分独自の見方を自分の言葉で、しかし他の人にわかるように表現することが重要だ。

成績評価方法

授業状況により、出席とレポート、レビューシートで評価する。

備考・関連URL

出席は2/3以上を厳守のこと。

コピーペーストによるレポートは厳禁し、単位をあたえない。また、メール、ブログ風の書式や、基礎演習でやっているような意味のない形式的章分け、注つけは減点する。自分で考え、自分の言葉で書かれたレポートを高く評価する。

科 目 名	日本近代文学とマスメディア1　谷崎潤一郎の映画小説・映画言説を論じる							
担当者名	佐藤　未央子							
文ジャ	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

19世紀末に生まれ、20世紀初頭にかけて普及した映画は、人々に視聴覚のスペクタクルを与えたのみならず、〈いま・ここ〉と世界をつなぐメディアとしても重要な役割を果たした。日本近代文学の展開と映画の発展は時を同じくしており、両者が相互に与えた影響は大きい。

本講義では、映画との関わりが深い作家の中でも、大正活映の脚本家を務めた谷崎潤一郎を中心として取り上げる。実際の映画や同時代の映画言説・批評、映画理論と照らし合わせながら、谷崎が映画をいかなる存在として捉え、論じ、物語化したかを明らかにする。

授業の到達目標

・映画やメディアの知識を援用して、テクストを解釈することができる。
・資料を読み解き、歴史的に意味づけることができる。
・言説を相対化し、客観的に分析することができる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　講義で扱った事項に関する問題と、理解度を測る記述問題を課します。
●**レポート**　10%　　講義内容をふまえて課題を出します。
●**平常点**　40%　　講義ごとにコメントシートへ感想や意見、質問を記入してもらい、参加度を評価します。
●**その他**　0%　　講義回数の3分の2以上の出席を合格の条件とします。

科 目 名	日本近代文学とマスメディア2　戦後ラジオドラマの名作を聴く／読む							
担当者名	鳥羽　耕史							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

1940年代から50年代はラジオドラマの黄金時代であり、60年代から80年代は、テレビドラマ人気の陰での衰退期と見えながら、様々な実験が試みられた時代でもあった。谷川俊太郎、秋元松代、寺山修司、森崎和江をはじめ、さまざまな文学者や劇作家たちがシナリオを提供し、音だけのドラマの可能性を追求した。この授業では、戦後ラジオドラマの名作の中から、放送番組センターの協力により、音源の現存する15本を実際に鑑賞し、シナリオも検討しながら、その同時代的／現代的意義について考察したい。受講者の積極的な意見発表・参加を求める。なお、許諾の関係で、計画中のプログラムが変更になる可能性もある。

授業の到達目標

既存の文学史や文学観にとらわれず、テクストへの新しいアプローチを考えられるようになる。ラジオドラマを読解する作業を通じ、応用可能なメディア研究や文学研究の基礎を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　講義での議論を踏まえた上で、自分なりの読解ができているか。
●**平常点**　30%　　毎回の講義に積極的に参加しているか。講義内容を理解してコメントできているか。白紙のコメントペーパー提出者は早退扱いとする。
●**その他**　0%

備考・関連URL

ここで鑑賞予定のラジオドラマは放送ライブラリーでも鑑賞可能。

https://www.bpcj.or.jp/

科 目 名	近・現代ジャーナリズム論1　サブカルチャーから現代社会を考える							
担当者名	大澤　真幸							
文ジャ	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

毎回、ヒットしたり、大きな社会的インパクトを与えたりした「フィクション」をとりあげ、それを哲学的・社会学的に分析・解釈しながら、現代社会の意識と構造について考察する。今年度の秋学期の（緩やかな）統一テーマは、「サブカルチャーの想像力は資本主義を超えられるか」である。なお、ここで「フィクション」というのは、小説、マンガ、映画、テレビドラマ、ゲーム等である。分析・解釈においては、次の二つの主題のいずれか、または両方が考察の対象となる。

① なぜその作品がヒットしたのかを考えることから、現代社会のあり方を推測する。

② その作品自体が、人間や社会についてどのような「真理」を語っているのか。

基本的には大澤が講義する。数回に一度の割合で、質疑応答の時間をとる。原則的には、以下の授業計画の順に進めていくが、2020年度の中で考察するにたるヒット作が出てきたり、重要な出来事が起きたりしたときには、緊急に、その作品や出来事についての講義を入れることもある。

授業の到達目標

ある作品に接して感動しても、それが「おもしろかった」（あるいは「つまらなかった」「わからなかった」）の一言で終わってしまえば、その感動は何も残さず、消えていく。どこに感動したのか、何に感動したのかを「概念」によってとらえることができたとき、それは、私たちの「現在」や「社会」や「アイデンティティ」について何かを教えてくれていたことにはじめて気づく。作品の享受を媒介にして、社会や自己について深く考える方法を身につけることが、この授業の目標である。

成績評価方法

●**試験**　0%　　以下の期末のレポートが試験の代わりになる。
●**レポート**　70%　　期末にレポートを提出してもらう。 課題は授業中に指示する。
●**平常点**　30%　　5回に1回程度の割合で、授業中に、それまでの講義に対する感想や意見を書いてもらう。
●**その他**　0%

備考・関連URL

講義時の社会的情況にできるだけ敏感に対応しながら講義を進めていくので、必ずしもシラバス通りに進行するとは限らない。

科 目 名	近・現代ジャーナリズム論2　日本文学をめぐる制度							
担当者名	尾崎　真理子							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

明治期以降、小説を中心とする文学の創作と出版、新聞ジャーナリズムは、三位一体となって活字文化を発展させてきました。今、その在り方は変容を迫られてもいますが、さらなる前進のためにも、これら近現代のメディアは、これまでどのような制度を作り、運営し、150年にわたる文学史を積み上げてきたのか。歩みを知る必要があるでしょう。文芸時評、書評、文学賞……評価され、時代を画した書き手と作品を押さえつつ、文学の諸制度を総覧していきます。

授業の到達目標

名作と時代を代表する作家と文学潮流は、いかにして形成されてきたのか。文学史と作家の年譜の背後で作用した文芸ジャーナリズムの諸制度について理解する。

成績評価方法

試験70%、レポート0%、平常点30%。第15回（1月22日）に試験を教室で実施します。任意のタイミングで授業の感想を書き込む出席票を配布し、回収します。

備考・関連URL

履修者数や到達の状況に応じて、授業内容の変更も一部生じます。

科 目 名	編集論1　文学・メディア・社会にあらわれる無数の「エディット」							
担当者名	市川　真人							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

私たちの思考は、それが言葉によってなされる限り（そしてそのようなものを「思考」とふだん私たちは呼ぶわけですが）、逃れようもなく他者の言葉の再構成です。テキストもまた、かつてフランスの哲学者ロラン・バルトたちも口にしたように、引用の織物にほかなりません。「私の文章」「私だけの思考」は（よしんばそれが存在するとしても）そうした認識の先にはじめて存在します。

そのように考えるならば、私たちはふだん、誰もが無意識に行っているその行為＝エディットを行なっていることになります。それを意識化することは、ひとつの思考訓練、「思考をエディットする者」である自分自身を意識し再構成することでもあるでしょう。

そうした側面を、現実の世界で運用してゆくことの一例が、小説や批評を書くことであり、コンテンツを作ること、さらにはメディアを構築すること、製作・流通することでもあります（もちろん、そうした一義的に「コンテンツ」や「メディア」的な事柄ばかりでなく、あらゆる「生」がそのようなものであることは、言うまでもありません。

つまるところ、世界そのものは無数のカタチと方法で「エディット」されており、そのひとつの方法として、上記の一連の事項があるわけです）。

授業の到達目標

「エディット」という視座が社会や文化、作品あるいはその周辺にどのように存在するか、あるいはどのような影響を相互に与えているかについて、思想といくつかの実例とともに理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　講義の理解度と、それを応用しての思考・論述力、オリジナリティなど。
●**平常点**　30%
●**その他**　0%

科 目 名	編集論2　文学・メディア・社会にあらわれる無数の「エディット」							
担当者名	市川　真人							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

私たちの思考は、それが言葉によってなされる限り（そしてそのようなものを「思考」とふだん私たちは呼ぶわけですが）、逃れようもなく他者の言葉の再構成です。テキストもまた、かつてフランスの哲学者ロラン・バルトたちも口にしたように、引用の織物にほかなりません。「私の文章」「私だけの思考」は（よしんばそれが存在するとしても）そうした認識の先にはじめて存在します。

そのように考えるならば、私たちはふだん、誰もが無意識に行っているその行為＝エディットを行なっていることになります。それを意識化することは、ひとつの思考訓練、「思考をエディットする者」である自分自身を意識し再構成することでもあるでしょう。

そうした側面を、現実の世界で運用してゆくことの一例が、小説や批評を書くことであり、さらにはメディアを構築すること、さらにはそれを製作・流通することでもあります（もちろん、そうした一義的に「文芸」や「メディア」的な事柄ばかりでなく、あらゆる「生」がそのようなものであることは、言うまでもありません。つまるところ、世界そのものは無数のカタチと方法で「エディット」されており、そのひとつの方法として、上記の一連の事項があるわけです）。

この授業では、それら複数のレイヤーについて、個々に様々な表象の実例を見てゆきます。文学・コミック・映像と複数のカテゴリーにまたがったいくつかの作品を対象に、「思考をエディットする者」としての感覚を（自覚の有無とは別に）伴って書かれた作品とそうでない作品、それぞれの特質や魅力、退屈さなどについてみてゆくほか、それらが「作品」として形成されてゆく過程、さらにはメディア化されてゆくさまと、その背景にどのようなメディアの進化や社会構造があるかなど、その一連の流れと、それらがどのようにひとつの世界を構築してゆくかについて追ってゆきます。

授業の到達目標

「エディット」という視座が作品あるいはその周辺にどのように存在するか、あるいはどのような影響を相互に与えているかについて、いくつかの実例とともに理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　講義の理解度と、それを応用しての思考・論述力、オリジナリティなど。
●**平常点**　30%
●**その他**　0%

科 目 名	出版文化論　日本の近代出版史							
担当者名	澤　直哉							
文ジャ	2単位	秋学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

あらゆる文化同様、出版もまた、他の文化領域のみならず、政治・経済・社会と強く結びつき、歴史のなかでみずからを形成していきます。したがって、今日における出版文化について考えようとするならば、必然的にその歴史に学び、現在を見据える視座を獲得せねばなりません。

本講義では、円本・豪華本・文庫本という三本の柱を据えて、日本のいわゆるマスプロ出版の出発点である関東大震災以降、主として戦前の出版史を追っていきます。その功罪を学びつつ、歴史のなかにアクチュアルな問題を見出していきましょう。

授業の到達目標

政治・経済・社会と結びついた事象として出版文化を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　70%　　授業で学んだことを生かしつつ、出版文化について論じてもらいます（分量は1000〜1500字ほどを予定）。提出日・内容・分量・体裁等については、教場にて改めて詳細に指示します。
●**平常点**　30%　　出席カードを配布します。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

授業計画は、受講者数やその興味と理解度に応じて変更となる場合があります。

科 目 名	欧米文化事情1　イギリス演劇の歴史を通して演劇知を探る							
担当者名	水谷　八也							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義では、中世から17世紀の王政復古期までのイギリス演劇の歴史を概観しながら、「近代の成立」がどのように演劇に影響を与えてきたか、また演劇がどのように近代の成立に関わり、表象してきたのかを具体的に戯曲の断片に当たりながら確認していきます。

この流れの中で最も重要な劇作家は、言うまでもなく、ウィリアム・シェイクスピアで、最も重要な戯曲は、そうです、『ハムレット』です。その『ハムレット』が書かれたと推定されるのは1600−1年です。この1600年は世界にとってとてつもなく大きな意味を持つ年です。中世と近代の接合点の中心となる年だからです。野外劇場で太陽光のもと、装置もなく、男性だけで演じられていたシェイクスピアの演劇は現代のものとはまったく異質であり、明らかに中世の文化に深く根付いたものでした。

しかし、シェイクスピアの死後、半世紀ほどたったところで上演されるシェイクスピア劇を見ると、シェイクスピア劇の根幹にあったはずの中世的要素が見事なまでに排除されています。その排除の基準となっているのが、形を整えつつあった近代的精神に他なりません。そして、21世紀の現在、袋小路に入った近代の終焉期に、この「近代的精神」が排除してきたものを再考察することには大きな意義があると思います。近代の成立は、人間をどのように「変質」させてしまったのか。この講義は、演劇の歴史を通して、近代を批判できる視点を探り出し、2020年の「今」にその視点を活かそうとする試みです。逆に言えば、演劇知を通して、人間の在り方を考える試みでもあります。

★　この講義は秋学期の「欧米文化事情2」と連続しています。「欧米文化事情1」と「欧米文化事情2」を連続して取ると、「演劇知」を通して近代人の形成とその限界がより鮮明に見えてきます。

授業の到達目標

演劇を通して世界を新しく見る目を養うことが目標と言えば目標です。

成績評価方法

●**試験**　100%　　出席は一切取りませんので、試験だけが成績評価の対象となります。試験は持ち込み自由ですが、「授業の内容をどれだけ深く理解しているか」が評価の基準になりますので、授業を聞いていないと意味がありません。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　0%　　なし。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

このシラバスは2020年1月3日現在における〈予定〉に過ぎません。

科 目 名	欧米文化事情2 「近代」に抗う演劇（ソーントン・ワイルダーを中心に）――「わたし」はどこに立っているのか							
担当者名	水谷　八也							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	2時限	1年以上	―	合併科目	―

授業概要

★　「欧米文化事情2」は独立した科目ですが、内容的には、春学期の「欧米文化事情1」と連続しています。「欧米文化事情1」を受講していると、より深く学ぶことができます。

アメリカの劇作家ソーントン・ワイルダー(1897-1875)は、日常的な生活を淡々と描く地味な作家というイメージが強いのですが、演劇史の流れを背景においてみると、かなり過激な劇作家であることがわかってきます。ワイルダーは「近代」に反抗することにおいて、きわめて過激でした。何もない舞台を使うことも、物語を断片化することも、客席を使うことも、舞台で演じられていることはすべて虚構であるとネタばらしをしてしまうことも、「近代演劇」に対する反逆であり、それらは劇的な技巧のレベルにとどまらず、近代的な「生」のあり方そのものに対する反逆でもありました。21世紀の日本の演劇では当たり前になっているこれらの技巧を、演劇史的な視点から考え直すことは日本の演劇にとっても極めて重要なことだと思います。

この講義では、まず近代演劇がどのように近代に寄り添って成立してきたかを概観し、近代演劇と前・近代的な演劇を比較できる視野を得ます。その後、彼の代表作である『わが町』(1938)の台詞をていねいに読み、ワイルダーが細部にいたるまで仕掛けた劇的な技巧を取り上げ、その意味について解読していきます。すべてを解読し終わったとき、わたしたちはそこに「近代」に絡みとられない緻密に組み立てられた「リアル」な人間の姿を見ることになるでしょう。

また時間が許せば、ワイルダーに3度目のピューリツァー賞（ピューリツァー賞を3度も受賞し、しかも小説と戯曲という異なったジャンルで受賞している作家はワイルダーしかいません）をもたらした壮大なヴォードヴィル・ショー、『危機一髪』について、またワイルダーの戯曲に魅力を感じている日本の若い演劇人、中野茂樹とフランケンズの中野茂樹（演出家）、ままごとの柴幸男（劇作家）らにも言及する予定です。

授業の到達目標

ワイルダーの戯曲を理解し、「在る」ことの不思議を味わえるようになり、さらに欲張れば、「近代的な生」を批判的に見ることができる視点を獲得できることが目標と言えば目標です。

成績評価方法

●**試験**　100%　　出席は一切取りませんので、試験だけが成績評価の対象となります。試験は持ち込み自由ですが、「授業の内容をどれだけ深く理解しているか」が評価の基準になりますので、授業を聞いていないと意味がありません。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　0%　　なし。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

以上は、2020年1月3日現在においての「予定」にすぎません。
※今年度からこの科目は名称を変更しています。前年度まで「英米文化事情2」において単位取得をしている場合、この科目を履修できません。

科 目 名	翻訳文化論 「翻訳」という行為を通して日本の近代と2020年現在の生きづらさを考えてみる							
担当者名	水谷　八也							
文ジャ	2単位	春学期	月曜日	2時限	1年以上	―	合併科目	―

授業概要

この講義では、「言葉」の翻訳とそれに必然的に伴う「文化」の翻訳について考えていきます。特に講義の後半では、2020年の私たちがボンヤリと感じている生きづらさを「言葉」の問題、特に「翻訳語」に引きつけて考えていきます。

普段、私たちは当たり前のように言葉（日本語）を使い、日本語そのものに気をとめることはほとんどありません。しかし、今日わたしたちが使っているその日本語は長い歴史の中で、「翻訳」を通してこのような形になりました。日本人は漢字を取り

入れながらも、中国語としては受け入れず、訓読みを作り出しましたが、これはすでに一種の翻訳だと考えられます。また漢語を受け入れることで、それまで日本には存在しなかった異質の概念、文化を移入しました。

同じ様な日本語の一大変革が明治期にも起こりました。ヨーロッパの近代文化を一挙に取り入れようとした明治期の日本には、ヨーロッパ近代がつくり上げてきた様々な概念を受け入れるだけの日本語がまだありませんでした。近代的な概念そのものが存在していなかったからです。そこで急遽、ヨーロッパの書物を翻訳する過程で、それに相応する日本語を新たに作り上げていきました。それが、いわゆる「翻訳語」といわれるものです。

明治期に作られた翻訳語には、2020年を生きる私たちにとって直接影響のある言葉がたくさん作られました。たとえば、民主主義の根幹をなす「個人」「自由」「権利」というような言葉は、すべて明治期に作られた翻訳語です。さらに言えば、「社会」「近代」「憲法」という現在誰もが日本語だと考えている言葉も明治期の知識人たちが苦悩しながら翻訳の過程で作り上げてきた翻訳語です。それらの言葉は明治以前には存在しませんでした。

講義

明治期に急いで作り上げられた人工的なこれらの翻訳語は、その意味する実体が曖昧なまま、その実体を模索し続ける中で、言葉だけが先行してしまいました。従って、同じ言葉を使っていても、その意味するところは必ずしも一致していないという状況が起こります。「自由」のようにたとえ漢語として存在していたにしても、それはLibertyとはまったく異なった意味で使われていましたから、話はややこしくなります。ここに大きな混乱が生じる原因があり、その混乱は現在に至るまで確実に波及しています。「個人」も「自由」も「憲法」も、使う人によってずいぶんとその意味するものが異なっているのはそのあたりに原因があるように思われます。2019年後半の日本の政治家の言葉を見ても明らかなように、現在、言葉は意味をはく奪され、ほとんど機能しなくなっています。私たちは言葉とどう接すればよいのでしょうか。

この講義では、翻訳という行為を通して見えてくる言葉の機能を確認した後、主に明治期に必死に西欧近代の諸概念を日本語に置き換えようとした先人の悪戦苦闘の跡を追い、さらに混迷混乱の渦中にある現在の日本の言語状況を「翻訳」という観点から考察していきます。その過程で講義の対象は多岐に渡り、その中には政治的な話題も当然含まれます。「翻訳」という文学的な観点から政治を眺めると、どんな風景が見えてくるでしょうか。2020年の現在でしか語れないことを語る講義にする予定です。

授業の到達目標

現在の日本の状況を言葉、特に翻訳語から捉えることのできる視点を自分のものとし、客観的に、歴史的に「現代」を見ることのできる謙虚な態度を持てることが目標といえば目標になると思います。

成績評価方法

●**試験**　100%　　出席は一切取りませんので、試験だけが成績評価の対象となります。試験は持ち込み自由ですが、「授業の内容をどれだけ深く理解しているか」が評価の基準になりますので、授業を聞いていないと意味がありません。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　0%　　なし。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

以上は2020年1月2日現在の〈予定〉に過ぎません。

科 目 名	ウェブ文化論1　インターネットと現代							
担当者名	尾崎　真理子							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

インターネットの普及やAI技術の進展によって、文化も日常生活も急速に変わり続けています。人間の身体、文学のことば、芸術、新聞・雑誌などのマスメディア、図書館、食生活、交通機関、余暇は、どのような影響を受け、どこへ向かっているのでしょうか。変化の中で生まれた文学作品なども紹介しながら、個別、具体的に、様々な現象をみていきます。現状と未来への課題も考察します。関連する大きなニュースが起きた場合は、逐次、授業でも取り上げ、テーマに応じてゲスト講師も招きます。

授業の到達目標

日々進化するウェブ上の多様なメディアと既存のマスメディア、古典として生き残る文学作品。それぞれの特性、リスク、歴史的背景について知識を獲得し、情報の波に流されることなく主体的な活用を行うことができるよう、メディアリテラシーを高める。

成績評価方法

試験70%、レポート0%、平常点30%。第15回(7月17日)に試験を教室で実施します。授業の感想を書き込む出席票を任意のタイミングで配布し、回収します。

備考・関連URL

履修者数や到達の状況に応じて、授業内容の変更も一部生じます。

科 目 名	書店文化論							
担当者名	小沼　純一　他／笈入　建志／幅　允孝／星野　渉							
文ジャ	2単位	春学期	木曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

近代の文化は、誰もがさまざまなかたちで「印刷された文字」その流布による影響下にあったという点で、とりもなおさず活字の文化・本の文化だった。そのなかで「書店」は、もっとも影響力の強いアクセスポイントのひとつとして、洋の東西を選ばず、またその形態を問わず、高い存在感を誇っていた。

だが、だからこそ、デジタルテクノロジーとネットワーク化を軸とした20世紀末以降の社会構造の変化は、アクセスポイントとしての「書店」の存在にもさまざまな影響を及ぼしている。第一には「本屋さん」としてのありかたの変化において、近景には産業としてのその存立要素や経済構造の変質、そして遠望においては「書店」という存在の本質がなんであるかの問い直しや未来についてゼロから捉え直す契機に、現在の「書店文化」は直面している。

書店・本屋、さらには「本」を旧来の情報伝達メディアと位置づけるとき、そこにはどのような変化が求められるのか。人々の「知識や情報」への態度の変化は書店の店頭風景をどのように変えてきたのか……この講義では、たんなる一産業としてにとどまらず、上記のような強い影響を近代に与えた「書店」文化を、俯瞰とクローズアップ、過去から未来へ、など複数の視点で立体的に観察してゆくことを目的に、業界新聞のジャーナリストとして同時代の書店および周辺産業を観察してきた星野渉（「文化通信」編集長）、80～90年代の書店文化を築いた大手書店を出発点に、現在は象徴的な小規模書店を運営しつつ書店の枠にとらわれない取り組みをつづける生粋の書店人・笈入建志（往来堂書店）、「ブック・ディレクター」という職業を開拓して人と本との関係を考え続ける幅允孝（BACH代表）、以上3名が連続して、また、小沼純一（講義1回）があいだに1回（シラバスでの笈入氏の回のどこか）、分担して講義を行う。

授業の到達目標

大きな過渡期にある「本」と「書店」の状況を様々な角度から学び、そのなかでも行われている新たな試みや過去の書店文化の歴史などから、現在の状況を把握するとともに今後の展望を考えてゆく。

成績評価方法

出席はとります。
試験ではなく、レポートで評価をおこないます。
のちに講義中で発表しますが、講師のどなたかにむけてのレポートを提出することになるでしょう。

備考・関連URL

レポートの提出方法、回数については、講義開始後に教場で伝達します。

科目名	現代人間論系総合講座1							
担当者名	宮田 裕光 他/阿比留 久美/石田 光規/大久保 孝治/岡部 耕典/小塩 真司/草野 慶子/小村 優太/酒井 貴広/清水 由紀/御子柴 善之/村松 聡/森山 至貴							
人間	2単位	秋学期	金曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

文化構想学部現代人間論系は、人間に対する多面的なアプローチを通じて、現代社会の諸問題に立ち向かうたくましい叡知を備えた人材を育てることを目的としている。現代人間論系総合講座1では、現代を生きる人間を対象として多彩な学問を探求している各教員が、それぞれの問題関心をもとに講義を行う。

現代人間論系は、「多様性を生きる人間」論プログラム、「関係を生きる人間」論プログラム、「発達を生きる人間」論プログラム、「心身を生きる人間」論プログラムの4プログラムで構成されている。これらのプログラムに所属する各教員および講師による講義を各回に行う。

本講座は、主として現代人間論系論系への進級を検討している1年生を対象として、導入的内容とし、論系選択に向けた理解を深める場とすることを意図している。そのため、現代人間論系への進級を考えている1年生はぜひ履修してほしい。また、現代人間論系および他論系に所属する2年生以上の学生の履修も歓迎する。現代人間論系総合講座2（春学期）の事前受講は必須ではない。

授業の到達目標

・現代を生きる人間をテーマとした学問的探究について、多方面から学び理解を深める。
・現代人間論系の全体像を把握し、より幅広い観点から人間という存在の理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　70%　　2つのプログラムの教員を選択し、テーマに沿った最終レポートを2つ作成する。各教員の講義に基づいて論題を設定し、論拠・根拠に基づいて適切に論が展開していることを評価の対象とする。
●**平常点**　30%　　リアクションペーパーによる小レポートを課す。
●**その他**　0%

備考・関連URL

現代人間論系HP： http://www.waseda.jp/gendainingen/

第1回目の授業は教室では実施しません。オンデマンドでの実施となりますので、Waseda Moodle（2020年4月1日以降）を確認してください。なお、My WASEDA にログインしている場合は、以下の「講義動画」から事前に初回講義を視聴することができます。 レポート提出期日などの必要事項はWaseda Moodle 上で伝達するので、Waseda Moodle およびEメールの確認を怠らないようにしてください。

科目名	現代人間論系総合講座2							
担当者名	小村 優太 他/阿比留 久美/石田 光規/大久保 孝治/岡部 耕典/小塩 真司/草野 慶子/酒井 貴広/清水 由紀/御子柴 善之/宮田 裕光/村松 聡/森山 至貴							
人間	2単位	春学期	金曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代人間論系は，人間に対する多面的なアプローチを通じて，現代社会の諸問題に立ち向かうたくましい叡知を備えた人材を育てることを目的としている。現代人間論系総合講座2では，特に社会におけるさまざまな課題に直面しながらも解決を模索する，現代に生きる人間のあり方に注目する。 現代人間論系は、「多様性を生きる人間」論プログラム、「関係を生きる人間」論プログラム、「発達を生きる人間」論プログラム、「心身を生きる人間」論プログラムの4プログラムで構成されている。これらのプログラムに所属する各教員および講師による講義を各回に行う。

本講座は文化構想学部現代人間論系に所属する2年生以上の学生を想定して設計されているが，それ以外の学生の受講も歓迎する。また、現代人間論系総合講座1の事前受講は必要としない。

授業の到達目標

・現代人間論系が主題のひとつとしている現代社会に生きる人々の様相について，幅広い観点から理解を深める。
・とりわけ、現代人間論系に所属する学生においては，自論系の全体像を把握し，より幅広い観点から人間という存在の理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　2つのプログラムの教員を選択し，テーマに沿った最終レポートを2つ作成する。各教員の講義に基づいて論題を設定し，論拠・根拠に基づいて適切に論が展開していることを評価の対象とする。

●**平常点**　30%　　リアクションペーパーによる小レポートを課す。
●**その他**　0%

備考・関連URL

現代人間論系HP：http://www.waseda.jp/gendainingen/
第1回目の授業は教室では実施しません。オンデマンドでの実施となりますので、Waseda MoodleまたはCourse N@viをご確認ください。なお、My WASEDAにログインしている場合は、以下の「講義動画」から事前に第1回目の講義がご覧いただけます。

科 目 名	キリスト教概説　キリスト教の内在的論理と現代							
担当者名	廣石　望							
人間	2単位	春学期	木曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

キリスト教は、イエス・キリストが人間に対する神の決定的な働きかけのできごとであると信じる宗教である。キリスト教に特徴的な現実理解や行動のさまざまなあり方も、ここから生じてくる。本講義は、その基本的な特徴と現代的意味について考察する。

授業の到達目標

主として『聖書』にもとづいて、キリスト教の輪郭とその中心的な発言を理解し、現代社会で宗教がもちうる可能性と限界について考察する力を養う。

成績評価方法

●**試験**　60%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行う。複数の問題から選択し、記述式で答える形式（持込は可）。講義内容をよく理解し、要点を抑えながら論理的に書かれているかどうかを重視する。
●**平常点**　40%　　毎回の授業終了時に、自身の理解度や授業の感想などをリアクション・ペーパーで提出。授業への積極性を重視する。

備考・関連URL

私語および居眠り厳禁。

科 目 名	キリスト教図像学　現代社会とキリスト教美術							
担当者名	益田　朋幸							
人間	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代の世界は、欧米のキリスト教徒によって主導されていると言っても過言ではない。宗教に無関心な私たち日本人にも、キリスト教の知識は不可欠である。キリスト教徒が何を信じ、どういう思考法をするのか、それを学ぶには美術が有効な手段のひとつである。
まずキリスト教図像学（キリスト教美術の約束事の体系）の基本を講義したのち、応用編として、現代の社会にキリスト教美術がどのように生きているか、数冊の絵本を題材に考察する。
以上を通じて、欧米人の思考の根底に存在する文化的背景を知ることになるだろう。

授業の到達目標

キリスト教主題の絵画を見て、それが何を意味しているかおおよそ理解すること。欧米の美術・文学等に触れる際に、キリスト教的な背景を意識すること。

成績評価方法

●**試験**　100%　　キリスト教美術の基本的な知識を問います。主題名（「受胎告知」等）や登場人物（大天使ガブリエル等）を理解すること。聖堂名や制作年代等のデータの暗記は不要。

備考・関連URL

資料やパワーポイントの文字部分はWaseda Moodleにアップするので、必要に応じてダウンロードしてください。

科 目 名	応用倫理学							
担当者名	村松　聡							
人間	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

倫理的な問題にはどんな問題があるのか、皆さんが一度は聞いたことがあるトロッコ問題など、身近な問いから、どのような問い、どのような考え方があるのか、紹介します。 たとえば、自己愛は倫理に反するのか、悪いことしかできないときどうすればいいのか、死刑をどう考えるか、などの私たちを悩ます根本的な問題を取り上げていきます。

授業の到達目標

現実に問題にぶつかったときのために、広い視野、重層的なものの見方を養い、的確な判断ができるための基礎を形成することが目的です。
多岐にわたる応用倫理学の問題に触れることで、倫理学のさまざまな分野の知識、洞察へのオリエンテーションをつけます。

成績評価方法

試験：100パーセント　期末の試験で決まります。ただし、出席が足りない場合は、試験を受けることができません。

備考・関連URL

出席は3分の2以上していることが基本です。

科 目 名	社会倫理学　「ともに生きる」ための原理							
担当者名	御子柴　善之							
人間	2単位	秋学期	木曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

社会倫理学という学問分野は、いくつかの歴史的経緯の中では既存のものです。しかし、この講義では、「個人倫理」と対比されるものとして「社会倫理」を捉えることで、新たな社会倫理学を構想します。私たちの住む世界には、各人が「どうでもよ

くない」と思う問題が山積していますが、その中にはその解決が個人のちからでは「どうしようもない」と思われるものも多く含まれます。たとえば、地球環境問題対策や高齢社会における介護です。そうした問題も、ともに生きる人々がそれを社会や社会制度の問題として明確に捉え、社会を改善する方向を見定めることで、解決できるかもしれません。したがって、この講義で構想する社会倫理学は「社会はどうあるべきなのか」という問いを立て、それに答えることを課題として引き受けるものです。この授業を通して、社会倫理学という学問の広がりを体験し、自らの研究テーマを確立するための一助としてもらいたいと思います。

授業の到達目標

この講義は、社会倫理の諸原理に統一的体系性を見出そうとするものでもあります。講義する側はその点を到達目標とするので、受講する方も、ともに社会のあるべき姿を構想できる「構え」を自分のものにできるように、そのための知識を得てください。これが授業の到達目標です。

成績評価方法

●**試験**　95%　　理解度を確認するための試験を行います。
●**レポート**　0%　　特にレポートは課しません。
●**平常点**　5%　　授業回数の三分の二以上、出席していることを成績評価の条件とします。
●**その他**　0%

備考・関連URL

この授業では、ときに新聞記事を参照します。参加者も自分で日々の新聞報道に目を向け、「どうでもよくない」問題を見つけて、それがどうして「どうでもよくない」のかを考えてみてください。それが授業理解の手がかりになるでしょう。

毎回配布する出席カードの裏に、授業に対する質問・感想・要望を書いてください。代表的な質問に次回の授業でお答えする予定です。

関連URL: 特になし。

科 目 名	哲学的人間学　カミュ著『ペスト』で読み解く「自律」の問題							
担当者名	石田　安実							
人間	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では「自律（autonomy）」の問題を扱います。「自律」とは、基本的には「自己コントロール」のことですが、どのような状況で成立するのでしょうか。「自律」の概念は、私たちの実社会で重要であるだけでなく、哲学・倫理学の分野でもたいへん重要視されてきました。実生活では、物事を自分のために決めたり選択したりする時に自己決定や自由選択の核となるものとして行使することが期待される能力であり、またその能力行使の度合いは精神的な成長や成熟度を示す目安とされることもあります。一方、哲学・倫理学の分野では、これまで多くの場合、ある判断や行為がなされるにあたっては、自立し冷静で自律的に判断できる理性的な成人（個人）という人間像が前提とされてきました。さらに現代の生命医療倫理の分野では、たとえば治療の場面で、患者側の自律的決定が期待され、また同時にそれを尊重することが要求されたりもします（その理念は「自律性尊重の原則」と呼ばれます）。

それほどに「自律」は重要な概念ですが、しかし、ふだんの私たち自身の判断や行動のあり方、さらには成長の仕方を考えると、「自律」がすべての者で等しく完全な形で実現されていると言えないことは明らかであるように思います。ある程度成長した個人を前提したとしても、自律的判断・行動を行うにあたっては、自分の周りの人々や、従わなくてはいけない社会的規則や伝統的慣習、あるいは既成の権威が大きく影響することがほとんどでしょう。「自律」を確立させるには、外部のいわゆる"圧力"や"権威"との摩擦や衝突を経験せざるを得ないと言えます。つまり「自律」の問題は、外部の何ものかとの関係における「服従」や「抑圧」の文脈で考えるべきことでもあるのです。

こうした問題を、この授業では、昨年度、「自律」を扱ったさまざまな理論を概観することで考察しましたが、今年は、「不条理の哲学」で知られるアルベール・カミュの小説『ペスト』を読みながら考えていきたいと思います。「自律」は『ペスト』の中心的テーマではありませんが、災厄（この場合はペスト）という巨大な社会的不幸が生活・生存の条件として生じた時（それは「不条理」とも言えます）に、人々の行動や判断にどのような影響がおよぶのかを理解することは、上に述べたような意味で、「自律」の問題を考えるための格好の題材であるように思います。また、倫理の問題の核心の一つは自分と他者の間に何らかの"かけ橋"を見出せるかということであると言えますが、カミュが最終的な希望としていた「連帯」がその倫理的解答になるのかという可能性についても、できれば考察したいと思います。

テキストとしては、新潮文庫版の宮崎嶺雄訳『ペスト』を用います（各人で用意して下さい）。授業の構成としては、予備的作業として最初の2回ほどで「自律」概念の一般的解釈について説明し、次の8回ほどで『ペスト』を読みながら「自律的な人間」「自律を抑圧するもの」とはどのようなものなのかを考察していきます。最後の2、3回の講義では、「自律」に関する著名な哲学的考え方や理論を紹介します。

授業の到達目標

アルベール・カミュの小説『ペスト』を読みながら、哲学・倫理学において人間理解のために重要とされる「自律（autonomy）」概念を考察し、受講者各人が「自律」概念の意義と広がりを理解する。

成績評価方法

・　授業中の態度：携帯スマホ使用や私語は禁止。
・　授業中も、参加者の発言や感想を期待するが、発言はなくとも、RPに簡単なコメントを書いて提出してもらう。
・　採点の割合：
　　平常点【40%】：授業態度を含む。ただし、2分の1以上の出席を最低限の義務とする（すなわち、出席が授業機会全体の半数に満たない者は不合格とします）。
　　レポート（または試験）【60%】：テーマや問いは、講義あるいはクラスでの議論に関連するもの。

備考・関連URL

・受講者数にもよりますが、基本的には講義形式で行う予定です。カミュ著『ペスト』の読むべき個所は、毎回指示します。
・期末試験は、レポートか試験のどちらかを考えています（受講者人数に応じて決定します）。

科 目 名	西洋近代思想							
担当者名	田原　彰太郎							
人間	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

哲学を学ぶ人であれば、その学びの途上で西洋近代哲学の基礎知識が必要になります。この講義では、その基礎知識の獲得を目的とした西洋近代哲学の概説を行います。この講義で扱うのは、デカルトからドイツ観念論までの思想家です。この講義では、教科書的な知識を暗記するというよりは、それぞれの思想家のテクストの邦訳に実際に触れ、自分で考え、自分で理解するという経験ができるように各回の授業を構成する予定です。基本的には、近代西洋哲学を代表する各哲学者の思想を、一人ずつ1〜2回の授業を使い解説する予定ですが、近代哲学の流れや文脈も同時に理解できるように「中間考察」や「全体のまとめ」といった回も設け、その際に各哲学者間の関連などについても考察します。この授業で扱う予定の哲学者の詳細は、授業計画をご覧ください。なお、受講生の理解度や関心などに応じて、授業計画をある程度変更する場合があります。

授業の到達目標

この講義を通じて皆さんには、西洋近代哲学の基礎知識を獲得するとともに、この講義で扱う哲学者の言葉に向き合い、自分で考え理解する能力も身に付けてほしいと思います。

講

成績評価方法

●**試験**　80%　　15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　20%　　3分の2以上の出席を単位取得の条件とし、試験で評価を行います。
●**その他**　0%

義

科 目 名	公共性の哲学思想　公共性再考							
担当者名	浜野　喬士							
人間	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

公共性の問題は、哲学、倫理学、社会思想等の各領域において、この数十年、非常に重要な問題として扱われてきた。それは近年各国で見られる民主主義の動揺、グローバル資本主義の圧倒的席巻、移民・難民問題の深刻化という事態を前に、深刻の度を増している。本講義ではこうした今日的現象を、広く思想的な観点から再考するために、参考となる哲学者の基礎的な文献を辿り、問題を深く問い直すための視座への足掛かりを探すものである。主要検討対象としては、アーレント、アドルノ、カント、グラムシ、サルトル、サンデル、ハーバマス、バーリン、フィヒテ、ホッブズ、ルソー、ロック、ロールズ等であるが、折に触れ関連する哲学思想も見ていくことになる。

授業の到達目標

公共性の問題を、たんに表層的に捉えるだけでなく、哲学的な観点から立体的に思考するための批判的思考力を養う。

成績評価方法

●**試験**　100%　　授業の理解度を確認するために試験を行う。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　0%　　特になし。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	論理的思考法							
担当者名	小口　裕史							
人間	2単位	春学期	金曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

論理的に思考するための基礎を学ぶ。日常生活やビジネスなどにおける思考を扱う「クリティカル・シンキング」は広く知られているが、その論理部門である「クリティカル・リーズニング」の理論を学んで、推論を批判的に分析・評価する練習をおこなう。

扱う内容は以下の通りである：
(1)推論とは何か
(2)推論の分析
(3)推論の評価
(4)含意の理解
(5)言語使用におけるスキル
(6)長めの文章で提示された推論の評価

授業の到達目標

1. 論理的に思考するために必要とされる基本概念を理解する。
2. レポートや卒論などを書く際に、資料の中で提示されている推論を批判的に検討し、かつ、自ら良い推論を構成することができるようなスキルを向上させる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　第15回の授業内に、筆記試験を実施する。
●**レポート**　50%　　不定期で、授業中にテキストの練習問題の解答を書いて提出してもらう。5回実施する予定である。
●**平常点**　0%　　なし
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	論理学　述語論理入門							
担当者名	秋吉　亮太							
人間	2単位	秋学期	木曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代論理学を初歩から解説する．「かつ」や「ならば」などの命題結合子，さらには「すべて」や「ある」といった量化子を取り扱う述語論理の意味論・証明論に慣れることを目指す．時間があれば言語哲学への応用なども概観する．

授業の到達目標

自然言語で書かれた推論を自ら形式化し，その正しさを判定できることを第一の到達目標とする．また，こうした論理学の技能習得のみならず，どうして現在の論理学が枠組みが誕生したのかに関する背景の理解も目標とする．

成績評価方法

●**試験**　100%　（1）自然言語の文の述語論理への翻訳，（2）意味論的な妥当性の概念の理解，（3）証明論的な妥当性の概念の理解．

●**レポート**　0%

●**平常点**　0%

●**その他**　0%

備考・関連URL

授業は講義だけではなく演習を含みます．講義を聞いただけではわからず，自分の手を動かすことによって初めて論理学は身につくと考えてください．授業内では回答の発表，ならびに学生の皆さんのつまずきやすいポイントを適宜解説しますので，授業への積極的な参加を期待します．

科 目 名	グローバル化と日常生活　グローバル化と日常生活について哲学的・倫理学的に考える							
担当者名	吉田　修馬							
人間	2単位	春学期	水曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

人や物やお金、情報やサービスが地球規模で行き交うという意味での「グローバル化」は、私たちにとって、日常的なことであり、言わば当たり前のことです。他方で「グローバル化」は、例えば、自由や平等や正義、主権国家体制や民主主義や資本主義といった、私たちの生活と社会が依拠している、当たり前だった考え方やしくみに変貌を迫るものであるようにも思われます。

私たちの日常生活はすでに「グローバル化」していますが、今後も「グローバル化」によって私たちの社会のしくみが変わるのだとすれば、私たちの日常生活もさらにその変化の影響を受けるかもしれません。しかし、私たちは「グローバル化」をどのように考えれば良いのか、私たちはこれからどのような社会を作っていけば良いのか、まだ必ずしも議論は尽くされていないようにも思われます。

「哲学」は、当たり前に思われていることをいったん括弧に入れて、物事を原理的・根本的に考え直すこと、そのための概念や理論を組み立てることを行ってきました。そして、人間はどう生きるべきか、社会はどうあるべきかについて、原理的・根本的に考える哲学の一分野が「倫理学」です。この科目では、私たちはどう生きるべきか、私たちの社会はどうあるべきか、という視座から、「グローバル化」について原理的・根本的に考えていきたいと思います。つまり、グローバル化と日常生活について哲学的・倫理学的に考えることが、この科目の全体を通じたテーマです。

もちろん、政治や経済など様々な領域にわたる事象や議論も扱いますが、それらを取り上げる問題関心やそれらを検討する方法は、哲学や倫理学をバックグラウンドとするものです。

本講義の全15回の授業うち、前半の7回では、「グローバル化」とはどのような現象なのか、ということを概観します。後半の8回では、「グローバル化」が私たちの生活や社会にとってどのようなインパクトを持つのか、ということを考察します。

授業の到達目標

・グローバル化について多面的な視座から理解できるようになる
・グローバル化という観点から、人間の生き方や社会のあり方について原理的・根本的に考察できるようになる
・グローバル化をめぐる課題に関して、自分の見解とその理由や根拠を理論的・論理的に表現できるようになる

成績評価方法

●**試験**　80%　第15回の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います

●**平常点**　20%　何回かコメントを提出してもらい、授業参加への積極性を評価します

備考・関連URL

・第15回の授業では、試験課題の解説も同時間内に行います。

・他の受講者に迷惑をかける行為、講義を妨げる行為は厳禁です。節度を保ち、緊張感をもって、主体的に学習に取り組むことを期待します。

・グローバル化と日常生活について考える上で、あなたにとって繊細な問題を扱うかもしれません。何らかの立場の方々や、何らかの経験をされている方々のことを揶揄するような意図はありませんので、ご理解ください。

・本講義では、グローバル化と日常生活について、哲学的・倫理学的に考えます。予備知識は必要ありませんが、哲学や倫理学に関心があるかたを歓迎します。不必要に難しい言葉を使わないように心がけますが、哲学や倫理学は概念や論理を用いて丹念に思考する営みですので、サービス精神旺盛な（それだけに警戒すべきな）「わかりやすさ」は期待しないでください。

・様々な考えや議論を多角的・批判的に検討しますが、特定の価値や判断を強要したり、否定したりする意図はありません。事実として、考えや価値観は「人それぞれ」かと思いますし、各人の思考や判断は尊重されるべきかと思います。他方で、社会における課題を考える上では、「考えや価値観は人それぞれですね」で済ませるわけにいかない場合もあります。

・哲学や倫理学における課題では、初等数学のように一義的な正解が決まるわけではありませんが、議論の正しさやもっともらしさには、程度の違いがあります。（つまり、哲学や倫理学のレポートや答案でも、考えや価値観の違いとは異なる次元で、例えば、議論の一貫性や公平性といった観点で「優劣」が判別されます。）

・まだ決着がついていない課題だからこそ、知恵を出し合う必要があります。答えが簡単には見つからない問題について、「考え方や価値観は人それぞれですね」で終わるのではなく、粘り強く、かつ柔軟に考えることを厭わないかたの受講を期待します。

科 目 名	コミュニケーション論　個人化する社会における人間関係							
担当者名	石田　光規							
人間	2単位	秋学期	月曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

現在の社会はとりわけ「個人」を重視する。「個人」を重視する傾向は、円滑な人間関係と時に鋭く対立する。この講義では、人びとの人間関係およびコミュニケーションがどのように変わりつつあるのか、具体的事例を用いながら解説してゆく。そのさい、学術的な理論を基礎に、現在公開されている統計データおよび映像から日本社会の人間関係の実情を学んでゆく。

授業の到達目標

対人的なコミュニケーションといったミクロな視点ではなく、マクロな視点から私たちの人間関係および生活空間を捉えなおす。

成績評価方法

●**試験**　0%　　とくに実施する予定はない
●**レポート**　60%　　期末レポート
●**平常点**　40%　　授業内課題、出席状況
●**その他**　0%　　なし

講義

科 目 名	消費社会論							
担当者名	川副　早央里							
人間	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業は、現代社会を特徴づけている消費という観点から社会を捉え、理解することを目指している。消費社会が登場し、成熟していくなかで、個人の暮らしや地域社会はどのように変化してきたのか、現代の消費社会がいかなるものなのか、またどのように形成されてきたのかを考える。

そのひとつの領域として、この授業ではエネルギー生産と消費に焦点を当て、福島第1原子力発電所の事故の事例を切り口に、リスク社会における消費のあり方を検討し、消費社会の実像に迫りたい。

授業の到達目標

（1）消費社会の成立過程を理解する。
（2）消費社会の特徴とそれに対する批判点や問題点を理解する。
（3）自らの暮らしのなかで現代社会の消費文化を捉え、自分なりの視点から論じることができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　60%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　毎回の授業において自身の理解度や授業の感想などを、授業後一週間以内にCourseNaviまたはWaseda Moodleレビューシートに入力してもらいます。それを出席カードの代わりとし、授業の理解度、積極性も評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	社会変動論　「（ポスト）近代」を考える							
担当者名	田辺　龍							
人間	2単位	春学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

社会学は、近代社会の成立とともに始まり、社会関係の変化について、近代化、工業化、都市化といった「社会の見方」を提示しながら、近代社会という課題と向き合ってきた。本講義では、近代化をめぐる社会学の思考を解説するとともに、グローバル化、ポスト工業化、情報化、リスク社会、個人化、無縁社会、モビリティといった今現在問題とされている社会変動に関わる議論を紹介する。また、こうした状況下で生じている社会的排除や社会的不平等の拡大についても考えていく。

授業の到達目標

西欧における「近代化」以降の社会変動を巨視的に捉えてきた社会学（社会変動論）の基本的な知識を理解し、社会、政治、経済、文化といった領域で既存のシステムの流動化が指摘されている現代社会の見方について、国際比較を行って整理するとともに、われわれが生きる現代（日本）社会が直面する諸課題をも視野に入れた多角的な考察を深めていくことができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　40%　　第15回目の授業時間中に試験を実施、理解度の確認を行います（試験の解説も同時間内に実施）。
●**レポート**　40%　　課題については、第7回の授業で提示します。課題について、講義内容の視点と関連させて深く考察しているか、適切な資料を用いているか、記述形式は正しいかを評価します。
●**平常点**　20%　　毎回の授業に関する意見や感想をCourse N@viまたはWaseda Moodleのレビューシートに入力してもらいます。授業への積極性を評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

毎回記入してもらうレビューシートについては、翌週の授業冒頭にてフィードバックを行います（10分以内程度）。

科 目 名	日常生活の社会学							
担当者名	大久保　孝治							
人間	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

日常生活の中のあれこれの現象を素材として取り上げて、それを社会学的に考察する。そのことを通して、社会学とはどのような学問なのか、社会学的にものを見る、考えるとはどのようなことなのかをわかりやすく説明したいと考えている。

社会学に限らず、どのような学問にも、その学問に固有の言葉（専門用語）というものがある。ある学問を学ぶとは、その学

問に固有の言葉を学ぶことだといってもいい。社会学を学ぶということは、社会学に固有の言葉（社会学用語）を学ぶことである。そうやって習得した言葉を使って、あなたは社会学のレポートや試験の答案を書くことになるだろう。しかし、おそらくそれだけではなくて、社会学の言葉を学んだ人は、自分の周囲の世界を社会学の言葉を通して眺め、語り、ときには変えようと試みるようになるだろう。言葉にはそうした力があるのだ。

社会学の専門用語を網羅した辞典がある。ハンディなものから片手では持ち上げられないものまで、大小の社会学辞典（事典）が出ている。しかし、だからといって、社会学辞典を最初のページから読んでいくという勉強法は（まさか実践しようとする人はいないとは思うが）賢明ではない。辞典というものは、通常、アイウエオ順ないしアルファベット順で言葉を配列している。隣接する言葉同士は、見かけが近似していても、必ずしも意味は近似してはいない。意味がバラバラの言葉を頭の中に順次インプットしていっても、言葉のシステムは構築できない。ある言葉の意味というものは、それと近似した言葉や対立する言葉との関連において、はじめてはっきりとするものである。具体的には、あるキーワードを設定して、それを中心に据えて、類似語や反対語とリンクさせながら、言葉のシステムを作っていくのがよい勉強法だろう。というわけで、まず最初に「社会」という言葉を取り上げて、社会学的思考のシステムの構築の第一歩を踏み出そうと思う。

授業の到達目標

日常の中のありふれた現象を社会学の目で観察し、考察する力を身につける

成績評価方法

●**試験**　80%　　授業の内容を理解し、その上に立って、自分自身の考察を展開できているかどうか。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　20%　　毎回のレビューシートの内容と提出状況。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

教室では紙の出席カードは配布しない。授業後一週間以内にWaseda Moodleから提出されるレビューシートを出席カードの代わりとする。

講義

科 目 名	ライフストーリーの社会学							
担当者名	大久保　孝治							
人間	2単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

「人生をいかに生きるか」にかかわる規範のシステムを「人生の物語」（ライフストーリー）とここでは呼ぶ。どのような社会も「人生の物語」をもっている。日常生活を構成する諸々の活動が「人生」として組織化されることは、個人のためというより、社会の秩序と発展にとって必要なことだからである。したがって「人生の物語」はその社会の構造的特質と適合するものでなくてはならない。たとえば、江戸時代の日本では、身分相応に生きること（生まれた階層の内部で一人前になること）が「人生の物語」のメインテーマであったが、明治以降の日本では、立身出世（出身階層よりも上の階層へ移動すること）が「人生の物語」のメインテーマとなった。

では、現代のわれわれの社会における「人生の物語」とはどのようなものだろうか。「人生の物語」は人々の意識の中に存在するが、決して意識の中にのみ存在するのではない。それは制度として、すなわちデュルケイムの言うところの社会的事実として、個人の外部に一定の強制力をもって存在している。ポピュラーカルチャーは「人生の物語」の陳列棚である。そこにはさまざまな「人生の物語」が並んでいて、われわれは小説を読んだり、映画やTVドラマを観たり、Jポップを聴いたり歌ったり、商品広告に接したり、他人のブログを読んだり自分でブログを書いたり・・・・そうした行為を通して「人生の物語」を知らず知らずに、ときには意識的に、吸収している。

授業では、個人の成長に伴うライフストーリーの変容と、近代日本におけるライフストーリーの型の生成過程を歴史的にたどりながら（日露戦争後から現代までのおよそ100年間）、現代において「人生の物語」はどのように機能し、あるいは機能不全を起こしているのか、そしてこれからどのように変容しようとしているのかを考える。

授業の到達目標

「人生を生きる」という行為も、他の社会的行為と同じように、社会的規範の影響を受けていることを理解し、かつその社会的規範（＝人生の物語）は時代と共に変化してきたことを理解すること。

成績評価方法

●**試験**　80%　　授業において説明されたことを理解しているか。そして、そうした理解の上に立って、自分自身の考察を行えているか。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　20%　　毎回のレビューシートの内容と提出状況。
●**その他**　0%　　とくになし

備考・関連URL

教室では紙の出席カードの配布は行わない。授業後一週間以内にWaseda Moodleから提出するレビューシートが出席カードの代わりである。

科 目 名	子どものこころ（発達心理学）　人間発達の探求							
担当者名	清水　由紀							
人間	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

人間の発達に関する基礎的な事項について解説します。主に胎児期から青年期までの各発達段階において，人が他者とかかわり，社会的な存在になっていくプロセスについて扱います。授業では毎回，子どもの諸側面の発達に関する映像を視聴し，発達過程を具体的に捉えていただきます。また毎回問いの形で示される「テーマ」に関して，自分なりに考え結論を出していただきます。これらを通して，「人間とはどのような存在か」という問いについて，発達心理学の観点から考えていきます。

授業の到達目標

1. 子どもの発達を科学的に捉える。
2. 現代社会における教育や子育て，そして自身の生活に活かすための「発達心理学的な考え方」を身につける。
3. 人の発達に関する様々なテーマに関して主体的に考え，自らの「発達観」「子ども観」を問い直す。

赤ちゃんや小さな子どもたちは，無力な存在のように見えて，実は色んなことを頭の中で行っています。受講を通して，皆さんの「子ども観」が変わることを期待しています。
また，自らのこれまでの人生を発達心理学の観点から振り返り，客観的に自分自身を捉えることにつなげてほしいと思っています。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　30%　　最終レポート
●**平常点**　70%　　毎回のミニレポート提出　演習への参加
●**その他**　0%

科 目 名	大人のこころ（発達心理学）　人生の後半を見渡す							
担当者名	小塩　真司							
人間	2単位	秋学期	水曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

講義

授業概要

従来、発達心理学は青年期以降を発達的変化の「完成」とみなし、生まれてからその「完成」に向けての変化を追究する心理学の研究領域であった。しかし現在では、人間の平均寿命の伸びとともに、生まれてから成長し、老い、死に至るまでの発達的変化を研究の対象とするようになっている。また「生涯発達心理学」と呼ばれるように、従来は「乳幼児心理学」「児童心理学」「青年心理学」など時期による研究の区分が行われてきたが、現在では人生の一連の変化を統合的に捉えようと試みられてもいる。
この授業では、この生涯発達心理学的な視点に立ちつつ、特に青年期以降から成人期、老年期にかけての人間の発達に注目する。

授業の到達目標

人間の発達について幅広い視点を持ち、統合的に考えることができるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　30%　　授業内で感想や疑問、質問を提出してもらう。授業への積極的な参加態度を評価する。
●**その他**　70%　　Waseda Moodle上で試験を実施する。詳細は授業内で指示する。

科 目 名	人間の発達と進化　進化心理学入門							
担当者名	福川　康之							
人間	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

個としての人の発達と種としてのヒトの進化との結びつきについて，国内外の研究成果を紹介しながら論じていく．

授業の到達目標

「適応」という概念を正しく理解する

成績評価方法

●**試験**　75%　　講義内容の理解度
●**レポート**　0%
●**平常点**　15%　　出席
●**その他**　10%　　小テストを実施する

科 目 名	人間の発達と文化　比較文化発達科学への招待							
担当者名	清水　由紀							
人間	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

一つの文化の中で暮らしていると，自分の価値観や見方が正しく「普通」であると思ってしまいがちです。しかし，文化によって実に多様な考え方が存在し，その中では自分の考え方が必ずしも「普通」であるとは言えないことに気づきます。
人間は長い歴史の中で，それぞれの社会の中で文化を生み出し，文化を通して発達・進化してきました。本授業では，人間の心や進化を理解する上での文化の重要性，また体系的に見られる文化の差が，子どもの発達の過程でどのように現れるのかについて，文化心理学と発達心理学の知見を紹介しながら考えていきます。

授業の到達目標

1. 自分の持っている価値観や考え方が唯一のものではなく，多様な見方があることを知る。
2. 異なる文化による見方を相対的に捉え，ディスカッションを行えるようになる。
3. その上で，現代社会に生きる子どもの発達について，文化心理学の観点から考えられるようになる。

成績評価方法

●**試験**　40%　　期末テスト
●**レポート**　0%
●**平常点**　60%　　毎回のミニレポート提出　演習
●**その他**　0%

科 目 名	障害学　ディスアビリティ・スタディーズ							
担当者名	岡部　耕典							
人間	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

障害（disability）とは、その人の心身の機能や能力の問題ではなく、社会との関係のなかで立ち現れる「できないこと（dis-ability）」である。そのように考えるとき、「障害をもつ人（person with disability）」は、差別や偏見や配慮の欠如を含む

社会環境によって不利益が集中し、「できなくされている人(disabled person)」としてたちあらわれる。障害学（disability studies）とは、このような「障害の社会モデル」の考え方を手掛かりとして、障害をめぐる既存の知を問い直し、私たちの新たな生き方や現代社会の別の在り方の提示をめざす知の体系である。

本年度は、まず、障害の概念、そして障害の在る人たちが抗いつつも支えられる福祉制度や政策の概要やその歴史について概観する。障害者権利条約が求める差別禁止の射程はその焦点となるだろう。さらに当事者の語りを聴き、その助けも借りつつ、〈施設〉ではなく地域で自律／自立して生きて暮らすために必要な「新たな福祉のかたち」について検討する。

最終的に本講義がめざすのは、障害（できない／できなくされること）について知り／考えることを通じて、差別・人権・支援・共生・再分配をめぐる現代社会の閉塞と私たちひとりひとりの生き方の窓をひらくことである。

・障害の社会モデル／障害学
・障害者権利条約／差別禁止の射程
・障害当事者の語りを聴く
・障害が在って、生きて／働き／アートすること
・障害福祉の歴史／施設(total institution)という問題
・障害者総合支援法と区分され規律される「自立」
・障害者運動／自立生活運動の実際
・〈支援〉はそもそもズレている　―知的障害／自閉の人たちの自律／自立生活
・「発達障害」という記号

授業の到達目標

障害（できない／できなくされること）について知り／考えることを通じて、差別・人権・支援・共生・再分配をめぐる現代社会の閉塞と私たちひとりひとりの生き方の窓をひらく。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　期末レポートにより評価する。
●**平常点**　40%　　コースナビ・レビューシートにより評価する。
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

岡部耕典研究室　http://www.f.waseda.jp/k_okabe/
生きて在るを学ぶ：生存学創成拠点　http://www.arsvi.com/

※レビューや資料ダウンロード、「お知らせ」にはコースナビを使用する。

科 目 名	福祉文化論　福祉を文化の「メガネ」で分析する							
担当者名	馬場　清							
人間	２単位	春学期	金曜日	１時限	１年以上	―	合併科目	―

授業概要

福祉文化とは福祉領域固有の文化的特徴のことをいいます。そうした福祉領域固有の文化的特徴を記述し、その背景や基盤を考察し、それが持つ問題点や課題を明らかにし、問題の解決や事態の改善の方策を検討することが福祉文化研究です。

本講義では、こうした問題意識に立ちながら、福祉の現場で起きている事象を"文化"のメガネで見ることで見えてくる「福祉文化」を取り上げ、そのあり方を問い直し、新たな福祉文化創造のための方向性を考えていきます。

なお授業はできる限り「双方向性」で行う予定です。授業時に行うアクティビティ、グループワーク等に積極的に参加することを求めます。

授業の到達目標

・なぜ福祉文化研究が必要なのか、その理由について自分なりの意見をもつことができるか。
・日本固有の「福祉文化」（特に負の福祉文化）について、その実態や背景、さらには課題解決の方向性について、自分なりの意見を持つことができるか。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません。
●**レポート**　50%　　授業中に課すレポート課題の内容
●**平常点**　50%　　授業の出席状況及びリアクションペーパーの内容
●**その他**　0%

科 目 名	ユートピアと性							
担当者名	草野　慶子							
人間	２単位	春学期	火曜日	２時限	１年以上	―	合併科目	―

授業概要

ユートピア、すなわち万人にとっての理想郷、理想社会などどこにもないと、人間は知ってはいるけれども、明日は今日より良きものだと思わない限り生きていくのは困難だとすれば、個人の生を包む社会の未来の完成形、ユートピアの具体像を構築することは人類にとって必然の課題であり、歴史を振り返っても、事実、われわれはそうしてきました。

その試みに際して、性愛にまつわる問題をどう解決するかは、富や階級や戦争に関する諸問題と並んで、決定的なものです。有史以来、人間が愛だの恋だの色だのの問題でどれだけ悩み苦しんできたかを考えれば、最重要問題とさえ言えるかもしれません。

本講義では、近現代を中心にいくつかのユートピア像を紹介し、そこで性愛がどう扱われているかを検討し、考察していきます。そのなかで、われわれが日頃当然のものと受けとめている、恋愛や結婚や家族のあり方について、受講者の皆さんが再考する機会を受けとってくださったら、担当者としてこれ以上の幸せはありません。

担当者の専門がロシア文学であるため、近現代のロシア文学や芸術、思想が題材としてとりあげられることがどうしても多く

はなりますが、ロシア語やロシア文化に関する知識はまったく必要としません。
受講する学生の皆さんにむしろお願いしたいのは、遠い国や遠い時代の出来事や思いを、いまここにある自分の問題とリンクさせようとする用意をもつことです。そうした想像力なくして、深く強い学問的思考は不可能だとは思いませんか？

授業の到達目標

上記授業概要の内容について一定の知見を得ること。
同時に、それを自らの生、生の表現にとって親しい主題として考えていく素地をつくること。

成績評価方法

●**試験** 70%　講義内容の理解度。そこからの個々の考察の展開のオリジナリティ。
●**レポート** 0%　実施しません。
●**平常点** 30%　出席状況
●**その他** 0%

科目名	生命倫理							
担当者名	村松　聡							
人間	2単位	秋学期	火曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

生命倫理は、急速な生命科学の発展、とりわけ、遺伝子の解明、再生医療の進展によって、20世紀後半から大きなテーマとなってきた分野である。この講義では、安楽死問題、妊娠中絶、遺伝子治療とエンハンスメントなど生命倫理の諸問題を取り上げ解説する。

授業の到達目標

目標は二つある。生命倫理の諸問題についてオリエンテーションをつけることが第1の目標、倫理的な問題に対してどのように議論を行っていくのか、その作法を実際の議論から理解することが第2の目標である。

成績評価方法

成績は一回の試験で決定しますので、注意してください。
なお、出席は3分の2以上していることが基本です。

備考・関連URL

受講人数が多い場合、教室、試験の関係から、受講制限を行うことがあるので、必ず、最初の回出席すること。（受講制限する場合、最初の回に出席していない学生はまず受講資格対象外となるので注意すること。）

科目名	個性の発達と差異　我々はこころの個人差をどのように捉えるのか							
担当者名	小塩　真司							
人間	2単位	春学期	水曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

人々は互いに異なる存在であり，それぞれに個性がある。しかしその「個性」をどのように捉えるのかを考える機会は多くはない。たとえば，人が自分や他者を評価する際には，どのような評価軸で見るのだろうか。また，その評価軸は時代や文化によってどのように変化するのであろうか。さらにその評価軸を「良い」「悪い」と判断する際に我々はどのようなことを考えるのであろうか。以上のことを踏まえこの授業では，個性の捉え方に関して，(1)個人差の捉え方についての考え方，(2)個人差の測定方法，(3)個人差把握の歴史，(4)個人差把握の先入観と実際，について講義を行う。心理学，特に個人差を扱う「パーソナリティ心理学（性格心理学・人格心理学）」の研究に立脚しつつ，歴史や社会状況も考慮しながら論じる。

授業の到達目標

人間が自分や他者をどのように捉えるのか，またその歴史的変遷がどのようなものであるのかいついて学修する。そのうえで，人間の物事の捉え方，望ましいあり方についてメタ的な視点から考えることができるようにする。

成績評価方法

●**試験** 0%　なし
●**レポート** 0%　なし
●**平常点** 30%　毎回の授業において小レポートを提出する。
●**その他** 70%　Waseda Moodle上で試験を実施する。詳細は授業内の指示に従うこと。

備考・関連URL

小塩研究室：http://www.f.waseda.jp/oshio.at/index.html

科目名	情報社会論							
担当者名	石田　光規							
人間	2単位	秋学期	水曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

インターネットの登場により劇的に変化を遂げた、私たちの情報環境はコミュニケーションをはじめとする生活のあり方を大きく変えた。本講義は、情報通信ツールを使ったコミュニケーションを中心に、情報社会について読み解いてゆく。

授業の到達目標

情報社会についての理解を深め、ソーシャルメディアの誤った利用を避ける知識を身につける。

成績評価方法

●**試験** 0%　実施しない
●**レポート** 60%　期末レポート
●**平常点** 40%　授業内課題、出席状況
●**その他** 0%　特に定めない

科 目 名	ジェンダーを知る　文学作品の読解を通して、ジェンダーの問題を考える							
担当者名	黒岩　裕市							
人間	2単位	春学期	木曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

ジェンダーとは社会的・文化的に構築された性差（いわゆる「男らしさ」や「女らしさ」）と説明されるが、それは規範となり、身体や振る舞い、生き方や関係性を「望ましい」「自然」とみなされるものと、「奇妙」「おかしい」とみなされるものに区分していく。この講義では1980年代以降のいくつかの文学作品を読むことから、ジェンダー規範の問題性を問いなおし、さらには、それに対する抵抗や交渉の試みを検討する。

授業で取り上げる作品は、松浦理英子の小説『ナチュラル・ウーマン』（1987年）とエッセイ『優しい去勢のために』（1994年）、村田沙耶香の小説『ハコブネ』（2011年）、『殺人出産』『トリプル』『清潔な結婚』（2014年）を予定している。

これらの作品では、女性たちによる「男と女の真似事」ではない性愛の模索（『ナチュラル・ウーマン』）、「性器結合中心主義的性愛観を突き崩そうという情熱」（『優しい去勢のために』）、「性別を脱ぐ」、あるいは、「アース［という星］とセックスをする」という発想（『ハコブネ』）、「10人産んだら一人殺してもいい」というシステム（『殺人出産』）や「三人で付き合うという恋人の在り方」（『トリプル』）や「性別のない結婚」（『清潔な結婚』）といった設定…を通して、身体、女性性や男性性、家族や結婚、出産、性愛における「普通」「あたりまえ」というものが再考されることになる。授業ではその可能性や限界を探っていきたい。

なお、ガイダンスでは、ジェンダーに関わるいくつかの用語を紹介するが、この講義では基礎知識から応用編へ進むような段階的なアプローチは行なわず、個々の作品から抽出できる論点を考察することになる。講義全体を通して、さまざまな論点相互の重なりやズレについても考えたい。

授業の到達目標

「あたりまえ」や「普通」とみなされるジェンダーやセクシュアリティのあり方の前でいったん立ち止まり、問いなおすことができるようになること。

文学作品を読み解き、自分なりの解釈を作り、他者に対して説得的に語ることができるようになること。

成績評価方法

●**試験**　50%　　学期末試験。論述問題。 授業の内容を踏まえつつ、各自の解釈が出来ているかどうか。また、それを説得的に語ることが出来ているかどうか。

●**レポート**　0%　　実施しない。

●**平常点**　50%　　「平常点評価」は、毎回の授業で書いて提出してもらうコメントの内容で判断する。単なる出席点ではないことに注意すること。 原則として、授業の感想ではなく、授業で取り上げた作品に関する問いを出す。前の週に予告し、宿題の形式で準備してもらうこともある。 この授業では「平常点評価」の割合が大きいため、継続的に出席できない学生は単位取得が非常に困難になる。

●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

この講義で扱う作品には性的な表現が多く登場するため、受講に際しては十分に注意をすること。もっとも、「性的」とは何か、ということを再検討させる作品でもあるため、一つの単語だけに着目するのではなく、前後の文脈や作品全体の流れに置いて考えてほしい。

科 目 名	発達障害の心理臨床							
担当者名	伊藤　英夫							
人間	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講では、さまざまな発達障害の特性について学び、発達的観点に基づいたアセスメントの方法、早期発見、早期療育、統合保育、学童期の療育、成人期の支援について、幅広く心理臨床の方法について学ぶ。カリキュラムポリシーの「教養・専門を幅広くカバーし、古典から先端・新領域まで学ぶことができる」に位置付いている。

授業の到達目標

発達障害の基礎的な理解ができ、心理臨床的支援の実際を知ることができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　85%　　第14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います（試験の解説は、最終回の学習の総括の中で行います）。

●**レポート**　0%

●**平常点**　15%　　出席状況や授業への積極性を評価します。

●**その他**　0%

科 目 名	福祉社会論　ケアと再分配の新たなかたちのために							
担当者名	岡部　耕典							
人間	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

市場経済至上主義・新自由主義の進展と医療や社会保障の財政危機が喧伝されるなかで、格差や社会的排除、貧困の拡大とケアと再分配をめぐる政策のほころびが顕在化している。

本講義では、まず閉塞する〈福祉国家〉の現在を確認する。医療・福祉・労働の領域における現代社会の課題を概観し、ケアや政策を読み解く理論や思想への架橋を試みる。そのうえで、〈当事者〉概念を手掛かりとしつつ、「援助の対象者」としてまなざされる人々の生と主体性の視座からケアの政策と実践をとらえ直していく。

このような営みを通じて最終的にめざされるのは、社会の多様な構成員にとって望ましい社会／世界の在り方とバルネラブルでプレカリアスな生に寄り添う〈新たな福祉のかたち〉の構想である。

福祉社会の現在を読み解くための手がかりとなるゲストスピーカーを招く予定である。また、ケアの政策と実践にかんする時事問題も積極的に取り上げていきたい。

・「福祉国家」の閉塞／「健康と医療」の政策と理論
・〈ソーシャルワーク〉の脱構築／臨床の場とケア社会問題と社会政策
・福祉政策／福祉社会のアポリア／「新たな福祉のかたち」を求めて
・ニーズとはなにか？／必要の社会的構築／ケアの自律
・ベーシックインカムと分配する最小国家

授業の到達目標

福祉社会の現在進行形について学び、そのあるべき姿を構想する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　期末レポートにより評価する。
●**平常点**　40%　　CourseN@viまたはWaseda Moodleレビューシートにより評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

http://www.f.waseda.jp/k_okabe/　岡部耕典研究室
※LMS（レビュー、資料ダウンロード、お知らせ、レポート提出等）にはコースナビまたはWaseda Moodleを使用する予定。

講義

科目名	セクシュアリティの社会学							
担当者名	森山　至貴							
人間	2単位	春学期	火曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

性に関する諸研究の蓄積は、性的欲望やポルノグラフィ、セクシュアル・マイノリティといったトピックと出会うことによって、従来ジェンダーという語に包含されてきたテーマからはみ出す性にまつわる現象を指すものとしてセクシュアリティという術語を彫琢してきた。本講義ではセクシュアリティという語で指し示される多様なトピックを概括的に紹介しつつ、それらを社会学的に考察する視座と手つきを提示する。

講義全体を通じて、セクシュアリティという語で指し示されるトピックを論じるために必要な広領域的・学融合的アプローチ（ディプロマポリシーより）を受講生が体得することを重視する。

授業の到達目標

・セクシュアリティという語の指し示す範囲を把握する
・セクシュアル・マイノリティについての基本的な知識を習得する
・現代日本の性に関する現象を社会学的に考察する

成績評価方法

●**試験**　100%　　理解度をはかる期末試験をおこなう。試験の詳細については授業内で説明する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科目名	クィア・スタディーズ入門							
担当者名	森山　至貴							
人間	2単位	秋学期	火曜日	2時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

主にセクシュアル・マイノリティに関する学術的議論および社会運動の中から生まれた、人々の性と身体のあり方およびそれを支える社会制度を検討する包括的・学際的な学問分野がクィア・スタディーズである。

この新しい分野について概括的に紹介し、性に関する最先端の学術的視座とその現代的意義を提示する。

講義全体を通じて、クィア・スタディーズが体現する広領域的・学融合的アプローチ（ディプロマポリシーより）を受講生が体得することを重視する。

授業の到達目標

・ジェンダー・セクシュアリティについての歴史の中にクィア・スタディーズを位置づけることができる
・クィア・スタディーズの基本的な知識を習得する
・現代日本の性に関する現象をクィア・スタディーズの視座から分析できる

成績評価方法

●**試験**　100%　　理解度をはかる期末試験をおこなう。試験の詳細については授業内で説明する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科目名	現代と未来の民俗学　民俗学の今後を考える							
担当者名	酒井　貴広							
人間	2単位	春学期	火曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

かつての日本では生業の過半数を農業など一次産業が占めており、常民の習俗から日本文化を明らかにしようとする民俗学の視座にも一定の妥当性が認められた。しかし、生業や生活様式が大きく様変わりした現代社会においては、常民文化の研究がそのまま日本文化の描出へ繋がるとは言えなくなってきている。同時に、民俗学が大きな目標としてきた研究成果の社会還元（公益性）も、急速に「民俗」が後景化しつつある現代においてどこまで有効に働き得るだろうか。

本講義では、こうした民俗学の閉塞状況を踏まえつつ、「民俗学」の知見や研究手法を現在や未来の課題へ活用しようとする研究を紹介する。

なお、必要に応じて講師自身の研究や映像資料を用いることを予定している。

授業の到達目標

(1)民俗学の歴史と現在を知る

(2)現在の民俗学者がどのように「現代」や「未来」に向き合おうとしているのかを学ぶ

(3)履修生自身の研究の視座と実社会との関わりを考えられるようになる

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　70%　　学期末にレポートを課す。

●**平常点**　30%　　出席状況と毎回配布するリアクションペーパーの内容から総合的に判断する。

●**その他**　0%

備考・関連URL

本講義は秋学期に開講する「テクノロジーと民俗学」と対になるものである。可能であれば両講義を受講することが望ましい。

科目名	心身論　心と身体の心理学と実践							
担当者名	宮田　裕光							
人間	2単位	春学期	月曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

現代においては、SNSによるコミュニケーションやAI（人工知能）、ビッグデータ、ICT、IoT などの科学技術が発達し、私たちを取り巻く人間関係や社会との関わり方が大きく変容しているが、その一方でストレスや精神疾患、医療と健康、幸福感、ジェンダーなどをめぐる心の問題も多様化、複雑化している。こうした時代の中で、人間の心と身体の関係やあり方はどのように捉えられるべきだろうか。

本講義では、臨床心理学、認知心理学、生理心理学、脳神経科学、哲学などの幅広い学問分野を基礎から概観しつつ、心と身体にかかわる現代の諸問題についての見取り図を提示する。またそれらに基づいて、心と身体についての統合的、調和的な見方を科学がどのように創りあげていくべきか考える。

具体的には、表情、呼吸や対人空間などの身近な心身の問題や、ストレス低減やうつ予防、心理的健康や幸福の増進に役立つとして近年注目を集めているマインドフルネス、感情・情動と身体をめぐる心と脳の科学、東洋と西洋の心身観などを紹介する。また授業内で、5分間瞑想やマインドフルネスなど、いくつかの実践を実際に体験する機会も設ける。これらを通して、ストレス管理や心身の健康など、日常生活にも応用できる実践の基礎的理解を得ることを目指す。いずれも予備知識は必要とせず、初めてでも学習、参加できる内容とする。

授業の到達目標

（1） 心と身体にかかわる主題について、心理学、脳神経科学、哲学などを含む幅広い学問分野の視点から、基礎的な知識と理解を得る。

（2） マインドフルネスや瞑想などの実践技法について、各自の日常生活にも活かせるように、基本となる内容を体得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　30%　　期末レポート課題を課す。課題内容は授業内で指示する。

●**平常点**　70%　　毎回の授業において小レポートを課し、出席記録を兼ねる。授業実施回の2/3以上の出席を成績評価の前提とする。

●**その他**　0%

備考・関連URL

本講義の関連内容をさらに学習する意欲のある学生には、講義「生活世界と身体」（秋学期）、現代人間論系演習「生活世界・社会と身体」（春学期）、「他者と身体、身体から見た人間」（秋学期）、「こころとからだの関係を考える」（春学期）などと合わせての履修を勧める。

教員紹介：http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html

https://www.wasedapsychology.jp/teacher.html

科目名	生活世界と身体　心と身体の実践と科学							
担当者名	宮田　裕光							
人間	2単位	秋学期	月曜日	3時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

現代においては、SNSによるコミュニケーションやAI（人工知能）、ビッグデータ、ICT、IoT などの科学技術が発達し、私たちを取り巻く人間関係や他者、社会との関わり方が多様な変容を遂げているが、私たちは自身やはり生身の身体を持ち、生活世界を日々生きる存在である。心と身体の多様なあり方から人間を統合的に捉える試みは、むしろ、ますます重要性を増しているといえる。

本講義では、まず前半において、主に東洋のさまざまな身体的実践（ボディーワーク）について紹介する。具体的には、武道・禅・マインドフルネス、整体・マッサージ・東洋医学、ヨガ・瞑想、天台宗比叡山、断食（ファスティング）・自然食、笑いのエクササイズなどの具体的内容を、ビデオ映像も交えて説明し、それらに底流する心身観について考える。講義後半では、脳と心、身体に関わる心理学や脳神経科学の研究を紹介するとともに、実践と科学を統合する視点について考察する。さらに、こうした心身の研究が心理学、哲学、医学、生命科学、健康観など、さまざまな学問分野にも関連、影響する可能性について、発展的に展望する。

心と身体の研究は、複数の学問分野を横断する学際的な性質を持つものである。そのため、本講義では、心理学、生命科学、東洋医学、脳神経科学、哲学など、さまざまな分野の知見が取り上げられる。これらのいずれも、予備知識は必要とせず、初めてでも学習、理解ができるよう解説する。また、日常生活にも活かせる実践的、学術的知識を提供したい。

授業の到達目標

（1） 主に東洋のさまざまな身体的実践の内容を具体的に知り、日常生活にも活かすことができる。

（2）心理学や脳神経科学からの心と身体についての知識、理解を深める。
（3）心と身体に関連する主題について、幅広い学問分野の視点から展望できる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　30%　　期末レポート課題を課す。課題内容は授業内で指示する。
●**平常点**　70%　　毎回の授業において小レポートを課し、出席記録を兼ねる。授業実施回の2/3以上の出席を成績評価の前提とする。
●**その他**　0%

備考・関連URL

本講義は、講義「心身論」（春学期）の内容を応用、発展させたものと位置づけられるが、事前の履修は必須ではない。
本講義の関連分野をさらに学習する意欲のある学生には、講義「心身論」（春学期）、現代人間論系演習「生活世界・社会と身体」（春学期）、「他者と身体、身体から見た人間」（秋学期）、「こころとからだの関係を考える」（春学期）などと合わせての履修を勧める。
教員紹介：http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html
https://www.wasedapsychology.jp/teacher.html

講義

科目名	現代人と居場所　少子高齢化、個人化社会の多様な「居場所」のあり方							
担当者名	阿比留　久美							
人間	2単位	春学期	木曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

少子高齢化、個人化、リスク社会化、格差社会化が進むポストモダン的状況のなかで、非婚化、家族の多様化、雇用の流動化、地域のつながりの希薄化が進行し、ライフコースは多様化している。これまで個々人の「居場所」として機能していた（と思われていた）家庭・職場・地域社会のありようが激変し、現代人はみずからの「居場所」を意識的に模索し獲得しようと動くことを求められるようになった。
不登校、非正規雇用、社会的ひきこもり、「負け犬」、「おひとりさま」、イクメン、ワンオペ育児といった現代的トピックは、社会のどこに「居場所」を見いだし、また「居場所」を見失っているかを示すものともいえる。
そのような社会のなかで、「ほっと安心できる場所」（受容的居場所）や、自分が必要とされ役割を発揮できる場所（能動的居場所、社会的居場所）や、自分を取り戻すことのできる場所（人間的居場所）はどこに求めうるのかという課題について考えていく。

授業の到達目標

・現代社会で起きていることを把握する
・さまざまな属性・年代の「居場所」のありようをとらえる
・ありうべき望ましい社会とはどのようなものか提言できるようになる

成績評価方法

●**試験**　50%　　期末に記述試験を実施します
●**レポート**　0%　　実施しません
●**平常点**　50%　　毎回授業終了後にWaseda Moodleにレビューシートを記入していただきます
●**その他**　0%　　特にありません

科目名	「弱さ」を生きる							
担当者名	杉田　俊介							
人間	2単位	秋学期	水曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、私たちの「弱さ」について考える。私たちは様々な弱さに苦しんでいる。一般的に弱さはネガティヴなもの、乗り越えられるべきものと見なされている。しかし、人文学や宗教の中では、弱さや無力さは避け難いものであるばかりか、人間や社会をより豊かで深みのあるものにする、と考えられてきた。とはいえ、己の弱さや無力さに対峙するには、様々な葛藤や矛盾がつきまとうだろう。そこをどう考えるか。
本講義では、ジェンダー研究、男性学、障害学、当事者研究（精神障害者、発達障害者、依存症者など）などの知見を紹介しながら、人間の弱さの意味を理論的に考察する（『ドラえもん』などのサブカルチャーも随時参照する）。後半では、弱さをめぐる様々なテキストを熟読し、さらに思考を深めていく。

授業の到達目標

「弱さ」の意味を多角的に理解し、自分なりの考えを持てるようになる。

成績評価方法

●**試験**　60%　　2回の授業内テスト（記述式）を行う。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　毎回の授業における理解度や感想など。
●**その他**　0%

科目名	老いの政治　ポスト経済成長時代の超高齢社会／人口減少社会における社会構想s							
担当者名	天田　城介							
人間	2単位	春学期	月曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

「ポスト経済成長時代」と呼びうる現代における「超高齢社会／人口減少社会」において立ち現れている諸問題について経験的データをもとに的確に理解すると同時に、老いや高齢化をめぐる社会の変化の歴史的ダイナミズムを析出したうえで、未曾有の超高齢社会／人口減少社会のもとでの新たな生存保障システムを設計し、それを実現可能とする社会をダイナミックに構想する。

授業の到達目標

超高齢社会において立ち現れている諸問題――少子高齢化、人口減少、人口の都市集中、産業構造の変化、労働者人口の減少／年金生活者の増大、世代間関係の変容、労働の変容、社会保障の変容、世代間関係の変化、貧困の変容、障害の変容、日本型生存保障システムの変容、戦後日本型分配システムの機能不全など――について経験的データをもとに的確に理解すると同時に、老いや高齢化をめぐる社会の変化の歴史的ダイナミズムを析出したうえで、未曾有の超高齢社会のもとでの生存保障システムを設計し、それを実現可能とする社会を社会学的に構想するものとする。戦前から戦後、そして現在にいたるまでの歴史的変容をダイナミックに捉えたうえで、「ポスト経済成長時代」と呼ばれる「超高齢社会／人口減少社会」に求められる社会を構想することが本授業の到達目標となる。

成績評価方法

小レポート（45%）、学期末レポート（40%）、平常点（15%）で評価します。

備考・関連URL

天田城介のウェブサイト（http://www.josukeamada.com/）参照。

科目名	グローバリゼーションと性　戦時性暴力・被害・解決運動から考察する「性」をめぐる権力構造							
担当者名	永山　聡子							
人間	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

「性」をめぐる課題は、生物学的性＜セックス＞と社会的性＜ジェンダー＞の分断と複雑性が、どのようなプロセス・メカニズムを経て社会制度（政治・経済・教育・文化・言語・慣習）を創造し、人々の認識を規定しているのかを考える必要がある。当然ながらこの課題は、一国家・一地域・一時代だけにとどまらず、世界全体を巻き込んだ形で再構成し、時間・空間を越境し続けている、グローバリゼーションが成し得るものである。では何を見ればこの課題へたどり着け、そこに横たわる問題をあぶり出すことができるのだろうか。本講義では、戦時性暴力・被害・被害回復・解決運動、特に日本軍がアジア太平洋戦争で行った戦時性暴力問題を中心にこれらの課題に取り組む。

授業の到達目標

「性」をめぐる権力構造とは何かを理解する。そして諸処のカテゴリーがどのように生成し、同じ人間同志の＜連帯＞を阻み、＜分断＞正統化するのか、プロセス・メカニズムを明らかにする糸口を見つけられるようにする。

成績評価方法

中期レポート（40%）
期末レポート（40%）
平常点（コースナビまたはWaseda Moodleでのコメントを評価）（20%）

備考・関連URL

参考URL
（1）Bookブログ本棚：http://booklog.jp/users/ianfu
（2）女たちの戦争と平和資料館（wam):http://wam-peace.org
（3）日本軍「慰安婦」～忘却への抵抗・未来の責任:FighForJustice http://fightforjustice.info

科目名	エスニシティ論　「多文化社会アメリカ」の軌跡――公民権運動からトランプまで							
担当者名	明戸　隆浩							
人間	2単位	秋学期	金曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、エスニシティにかかわるさまざまな問題を「多文化社会アメリカ」を通して考えなおします。アメリカはさまざまなエスニシティに属する人々が一つの社会をつくりあげる「多文化社会」の典型とされてきましたが、2017年1月にドナルド・トランプがアメリカ大統領に就任して以降、これは必ずしも自明なことではなくなっています。この授業では、1960年代の公民権運動にまで遡ってそれ以降の多文化社会アメリカの展開を確認しつつ、トランプ政権以降それがどのように変わりつつあるのかについて考えます。なお授業でおもに扱う対象はアメリカですが、現代日本の問題との関連は常に意識し、後半では日本のエスニシティについても扱います。

授業の到達目標

（1）この半世紀の「多文化社会アメリカ」の軌跡をたどることで、「エスニシティ」「多文化社会」「マジョリティ／マイノリティ」といった概念について応用可能な知識を身につける
（2）アメリカで展開されたエスニシティの歴史を現在の日本の状況と関連づけることで、日本におけるエスニシティについて考える際の基本的な視座を得る

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　授業最終回に提出する最終レポートで評価します
●**平常点**　30%　　毎回提出するリアクションペーパーで評価します
●**その他**　20%　　最終ディスカッションへの参加で評価します

備考・関連URL

リアクションペーパーの入力などにインターネットを利用しますので、タブレットやノートPCの持ち込みを歓迎します。その他の受講態度についても基本的に各自の裁量に任せますが、他人に迷惑をかける行為（私語など）は禁止します

科目名	霊性と身体　哲学的・宗教的な視点から人間を理解する							
担当者名	小村　優太							
人間	2単位	春学期	月曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義では、これまで古今東西の人々によって育まれてきた哲学的、宗教的思索を手掛かりにして、「人間とは何か」という問いを通奏低音としながら数々のテーマを取り扱ってゆく。講義はいくつかのテーマに分かれており（「自己」、「生命」、「死」、「救済」、「世界」）、それぞれのテーマは複数回の講義から成っている。それぞれのテーマは一見別々の方向を向いているように

思えるかもしれないが、それらはすべて最終的に「人間」（現代に生きる我々、過去に生きた、そして未来に生きるであろう人間）へと収斂してゆくだろう。講義では個々の哲学的思想、宗教思想に限定されることなく、人間が思索したもの全般を幅広く考察の対象とする。

この講義では、必ずしも世界の様々な哲学・宗教に親しんでいない受講者を想定しているので、事前の教科書的な知識は要求されない。むしろ問いそのものに触れて、それを当時の人たちと同じく考えてみる知的態度のみが要求される。

講義の各回では、最初に前回の講義のリアクションペーパーをいくつか選んで紹介する。その後それぞれの講義内容に入り、終了10分前にリアクションペーパー執筆の時間を取る。

授業の到達目標

・宗教や哲学を手掛かりにして「人間とは何か」という問いを問う。
・古今東西の思想に触れることで、人間にたいする多様なパースペクティブを得る。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　受講人数が多くなった場合はレポートの代わりにCourse N@viまたはWaseda Moodle上で試験を実施する。レポートでなく試験になった場合は第1回目の講義にその旨を指示する。
●**平常点**　30%　　授業への参加、リアクションペーパーの執筆（内容は問わない）など。
●**その他**　0%

備考・関連URL

特になし

講義

科 目 名	越境する女性の文学							
担当者名	草野　慶子							
人間	2単位	秋学期	月曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

20世紀以降の、主に欧米と日本の女性作家・詩人たちを、毎回複数人とりあげ、比較文学研究の手法を援用しつつそれぞれの作品を読み解き、各々の詩学や文学観を考察します。

具体的には、科目担当者の専門であるロシア語圏の女性作家と詩人のほか、シドニー=ガブリエル・コレット、ヴァージニア・ウルフ、シルヴィア・プラス、マーガレット・アトウッド、
尾崎翠、津島佑子、笙野頼子、松浦理英子、多和田葉子、赤坂真理、吉本ばなな、絲山秋子、村田沙耶香　等々

ほかにもとりあげるかもしれませんが、こうした作家・詩人たちをさまざま、どうしても日本文学が多くなってしまうのですが、その作品たちを、

各回「フェミニズム」「結婚と家族」「妊娠と出産」「共感覚」「自己表象」「手紙」「皮膚」「衣装」「女性の絆」「病」「天皇」「ユートピア／ディストピア」といった共通テーマを設定してつなぎ、論じていきます。

＊なお、上に記した作家・詩人名と「共通テーマ」は、2020年1月時点での予定です。開講までに変更が考えられますので、詳しくは秋学期科目登録前に、シラバス「授業計画」でご確認ください。

授業の到達目標

上記授業概要の内容について一定の知見を得ること。
同時に、それを自らの生、生の表現にとって親しい主題として考えていく素地をつくること。

成績評価方法

●**試験**　70%　　講義内容の理解度。そこからの個々の考察の展開のオリジナリティ。
●**レポート**　0%　　実施しません。
●**平常点**　30%　　出席状況を考慮します。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

2020年度から始まる新しい講義です。
準備はたいへんなんですけど、私はとても楽しみにしています。

科 目 名	テクノロジーと民俗学　民俗学とテクノロジーの関係							
担当者名	酒井　貴広							
人間	2単位	秋学期	金曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代社会を生きる私たちからすれば、民俗学に登場する技術や道具は古めかしく思えるかもしれない。しかし、こうした技術や道具は当時の人びとにとって最新のテクノロジーであり、我々が未来から過去を振り返るがゆえにそのテクノロジーの意義を理解できていないのかもしれない。

一方、過去の日本人が当時最新のテクノロジーを全て受け入れたとも言い切れない。日本各地の事例に鑑みると、量産性や利便性、あるいは資源の過剰な浪費を抑えるため、あえて古いテクノロジーが生活に残されることもある。

これらを踏まえると、人びとが用いるテクノロジーとは、社会生活に最適と考えられ、「主体的に選択」されたものと考えられる。

本講義では、こうしたテクノロジーと民俗の複雑な関係を日本各地の事例から学ぶ。

加えて、現代社会を生きる私たちとテクノロジーの関係を再考し、日常生活とテクノロジーが今後どのように進展していくのかを考える。

なお、必要に応じて講師自身の研究や映像資料を用いることを予定している。

授業の到達目標

(1)民俗学とテクノロジーの関係を知る
(2)テクノロジーにまつわる人びとの多様で主体的な選択を理解する

(3)現代の私たちを取り巻くテクノロジーと日常生活の進展を考える

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　学期末にレポートを課す。
●**平常点**　30%　　出席状況と毎回配布するリアクションペーパーの内容から総合的に判断する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

本講義は春学期に開講する「現代と未来の民俗学」と対になるものである。可能であれば両講義を受講することが望ましい。

科 目 名	グローバル化の社会分析							
担当者名	樽本　英樹							
構築	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

われわれはグローバル化という急激な社会変動に巻き込まれており、逃れることができない。いかに生きていけばよいのか。いかに社会を維持すればよいのか。身近な事例に引きつけてグローバル化においてどのような社会問題が生じているのかを学ぶ一方、社会学など社会科学の基礎的な用語、理論、方法論などを体得し、グローバル化に伴う社会問題がなぜ生じているのか、どのようにしたら解決できるのかなど社会分析の手法について学ぶ。授業の内容や順番については受講生の反応を見ながら柔軟に対応していく。

授業の到達目標

高校までは学校で学ぶこと少ない国際社会学など社会科学の基礎を学び、われわれを巻き込んでいるグローバル化という急激な社会変動を理解できるようにすることを目指す。これまでの人生で当たり前と見えた社会現象を疑うことができるようになり、学問的および実践的基礎を身につけることが最終目標である。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　70%　　授業全体の理解度を確認するため学期末に行う。
●**平常点**　30%　　グループワークなどの参加度を確認する。
●**その他**　0%　　該当なし

備考・関連URL

授業への出席および参加をする者だけが履修すること。

科 目 名	西洋市民社会史　近代市民社会の比較史的考察							
担当者名	松園　伸　他／紀　愛子／齋藤　敬之／前川　陽祐							
構築	2単位	春学期	木曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では4名の講師により、近代市民社会の形成過程を比較史的に考察する。講師の関心に従い、分担し講義する。平明な講義を心がけるが、その中でヨーロッパ社会の本質を理解できればと考えている。 今年度は、イギリス（イングランド、スコットランド）およびドイツに的を絞って、講義する。

（松園伸）18世紀以降の新聞、雑誌などのメディアの発達、都市の成長と関連づけて市民社会の成長を論じる。その際、イングランド中心史観に陥ることなくスコットランドの状況にも触れていきたい。
（齋藤敬之）近代の前にあたる近世という時代（おおよそ1500～1800年頃）における都市社会や「市民」の性質及びその変化を、ドイツ地域を例に論じていく。
（前川陽祐）ドイツにおける市民社会に関して、19世紀を軸に論じる。「なぜドイツ近代史において市民社会が問題となるのか」という問題意識を念頭にドイツ統一運動やドイツ帝国との市民社
会の関わりに着目する予定である。
（紀愛子） 第一次世界大戦以降のドイツにおける市民社会について、戦争・ジェンダー・市民運動の視点から講義する

授業の到達目標

イギリス、ドイツなどを軸に広くヨーロッパ市民社会の形成について理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　70%　　論題などは教室で指示する
●**平常点**　30%　　出席状況
●**その他**　0%

科 目 名	国家と軍隊							
担当者名	大久保　文彦							
構築	2単位	秋学期	土曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代の国際社会の構造は、17世紀頃よりヨーロッパ諸国の間で形付けられ、積み重ねられて来た一連の慣行・条約を基調として成立したものである。そのキープレイヤーは「主権」国家であり、国家間の紛争は「国際法」によって紀律され、「戦争」は国際紛争を解決する最終手段として公認されていた。

主権絶対・主権平等が一大原則である国際社会にあって、戦争が公認されている以上、戦争に最低限の規制を加え、一定のルールを課すものこそ「戦時」国際法であり、戦時国際法を遵守する義務を有するのは「軍隊」である。この限に於いて、組織化された「暴力」装置としての「軍隊」と「警察」は、その性格を全く異にしており、又その差異にこそ関心が注がれなければならない。

「国家」或は「軍隊」といったタームで意味される対象は、前近代にあっては多種多様であり、近代とは大きく異なる。この点を確認した上で、近代に成立した主権国家を考察し、国家と軍隊との関係、或は軍隊と警察との違いなどに言及していく。又、

我国の歴史にあっては、軍事的要素が近代以前から大きな影響を与えていることから、「幕府」による武家政治、戦前の「統帥権」、戦後の「自衛隊」といったテーマを取上げる予定である。

主権国家の成立を画期として、その前後を比較・考察しながら、所謂「国家」と「軍隊」との関係が如何なる歴史的変遷を経て、現代の国際社会を形成してきたのかを理解することが、本講義の目標である。

授業の到達目標

戦前・戦後を通じて著しく稀薄な「軍隊」にイメージを明確化することを目標とする

成績評価方法

- **試験** 0%
- **レポート** 100%
- **平常点** 0%
- **その他** 0%

科目名	社会主義・共産主義論 平等と差別を考える							
担当者名	熱田 敬子							
構築	2単位	秋学期	水曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

講義

授業概要

現在、グローバルな資本主義体制の中での格差・貧困拡大、金融資本の極端な肥大化と集中、労働者からのシステム化された収奪が問題化されることにともない、社会主義・共産主義に再び注目が集まる現象が起きている。

実際、社会主義、共産主義が当初語っていたのは、市民革命後の社会に不平等が蔓延していることへの批判であり、あらゆる抑圧・隷属・差別を撤廃するという社会正義の理想であった。しかしながら、マルクス、エンゲルスによって定式化され、その後ロシア革命、中国での共産党政権獲得などを経て国家体制として実施された現実の共産主義体制は、「過渡期」として正当化された独裁政治や、生産手段の国有化による計画経済のみが実施体制とされ多義性を失ったこと、性や民族などに起因する様々な差別を階級差別に従属するものとし、マイノリティの存在を不可視化したことなど様々な問題を抱えていた。

にもかかわらず、平等とヒューマニズムを指向する人々にとって、ソビエト崩壊、冷戦の終結まで共産主義は長らくその支柱であった。そして同時に、資本主義陣営の中でも、反共産主義は一つのイデオロギーとなり、現在に続く右翼、ナショナリズムの一つの根拠として未だに影響力を持っている。

本講義では資本主義に対抗する社会経済思想としての社会主義・共産主義について学び、資本主義体制の中で差別、抑圧を受ける社会的マイノリティの解放を目指す視点、ことにフェミニストの視点からその意義と限界を考える。また、社会主義、共産主義の中での現実のマイノリティの状況と、日本の資本主義体制の中で生きるマイノリティの状況の比較から、差別と平等について考えることを目指す。

授業の到達目標

1、資本主義に対抗する社会経済思想としての社会主義・共産主義について批判的に検討し、平等を目指す社会を構想する手がかりを得る。

2、現実の社会主義の歴史的な展開と、我々とは異なるシステムの社会で生きる人々、マイノリティの姿を学ぶ。

成績評価方法

- **試験** 0%
- **レポート** 50% 学期末にレポートを課す。
- **平常点** 30% 毎回のレビューシートの記入で評価する。その際に、リーディングなどを課すことがある。
- **その他** 20% 適宜小課題を課す。

備考・関連URL

講義の内容は、時事問題も盛り込むため変更の可能性がある。

科目名	経済と社会 近現代日本経済史							
担当者名	森田 貴子							
構築	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

近現代の日本経済について、経済と社会の関連に注目しながら検討を行う。

時系列的に講義を進めながら、研究史上、何が問われ、何が明らかにされ、何が今後の課題として残されているのか、についても考える。

授業の到達目標

本講義は、日本経済を歴史的にとらえ、研究史上、重要な課題とされてきた問題について理解を深めることを目標とする。

成績評価方法

- **試験** 60% 学期末の試験（持込み不可）
- **レポート** 0% —
- **平常点** 40% 出席状況他
- **その他** 0% —

科目名	軍隊と社会 戦争と医学・医療の日本近代史							
担当者名	中村 江里							
構築	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

戦争と医学・医療は、近代諸国家の歴史を考える上で重要な領域であり、相互に密接な関係性を持ってきましたが、各領域の「特殊性」や「専門性」ゆえに、戦争史と医学史は互いに独立して発展してきました。しかし、1980年代以降の社会史研究や戦争犯罪研究が深化する中で、両者が交差するテーマを扱う研究が増えつつあります。

この授業では、こうした研究成果をふまえ、近代日本における戦争と医学・医療の関係や、戦争が人々の心身や生活に及ぼした影響について、様々な文献や映像資料などを用いて学んでいきます。

授業の到達目標

（1）近代日本における戦争と医学・医療の歴史的展開について理解する。
（2）戦争が人々の体や心にもたらした影響について具体的なイメージを培う。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　最終レポート
●**平常点**　20%　　授業の出席状況及びリアクションペーパー　正当な理由のない20分以上の遅刻は欠席とみなし、欠席回数が1/3を超えた場合は成績評価の対象外とします。
●**その他**　30%　　課題文献に関する小レポート

備考・関連URL

受講者の人数や関心に応じてシラバスの内容を変更することがあります。

科 目 名	家族と社会							
担当者名	笹野　悦子							
構築	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では近・現代社会における歴史的形態としての「家族」をジェンダーの観点から整理し、現代日本社会における家族の諸相を取り上げて課題を考察する。

授業ではまず近代社会と近代家族モデル、また、大日本帝国時代の「家」制度と今日に続く戸籍を取り上げ、家族政策と教育政策におけるジェンダー関係の構築について解説する。次に、経済システムと家族の関係、さらに、戦後から後期近代としての現代社会における家族について、個人化の側面からパートナーシップ、子育て、ケアなどのジェンダーに関連する複数の課題を取り上げる。実際の家族関係が変質・変容の進む一方でモデルとしての「近代家族」との齟齬がテーマとなる予定である。最後に家族と国家の関係について整理し、「近代家族」モデルの超克を受講者とともに考察する。

授業の到達目標

近・現代社会における歴史的形態としての「家族」を主としてジェンダーの観点から整理し、日本社会における家族の課題を取り上げて考察できるようになる。
1）家族をめぐるジェンダー固定的役割が生物学的自然に根差すものではなく、社会的に構成されたものであることを理解する。
2）現代社会における家族の隘路・限界の諸相を知り、その困難の背景を考え言語化できるようになる。
3）個人化・多様化する家族と社会、国家の関係について整理し問題点を言語化できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　授業内容の理解度の確認を行う。
●**レポート**　100%　　1）中間レポート　40%　2）期末レポート　60%　それぞれ授業内容の理解を踏まえて課題を考察できるかどうかを評価する。
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科 目 名	労働と社会							
担当者名	榎本　環							
構築	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本のホワイトカラーの職場をおもな考察対象に取り上げ、その「現場」について社会学的理解を深めるとともに、職場世界における諸現象、労働という社会的行為、および、企業活動とわれわれの日常的世界との関連について現代社会論的視点から分析することを主眼とします。アルバイト体験や家族・知人の働きぶり、ジャーナリズムを通じて窺い知るところの労働世界など、職場組織と「働くこと」についての各自の日常的な疑問や関心を下敷きに、それらを反省的に掘り下げて考察してみましょう。

本講の内容が「確かな視点から人間の本質を理解」し、「多面的な様相がみられる時代を生き抜く」ための知恵につながれば幸甚です。

授業の到達目標

次の3点が到達目標です。
（1）日本の職場世界とホワイトカラーの業務について現実的なイメージをつかむ　（2）組織のなかで個人が期待される役割を個人行動との比較の視点で理解する　（3）過渡期にある日本の職場世界を理解し、各自のキャリア設計に向けてヒントをつかむ

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　講義内容に関連するテーマを、各自の関心に即して自由に設定してもらいます。授業内外で吸収した知識をもとに、自らの思考を駆使して社会科学的に考え抜いた痕跡がどれだけ反映されているかの点を評価のポイントとします。詳細については初回授業で説明します。
●**平常点**　60%　　レビューシートの投稿回数・内容、授業やディスカッション・授業内ワークへの積極的参加、提出物の提出状況・内容などにもとづいて、授業参加の積極度を総合的に評価します。詳細については初回授業で説明します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

ケーススタディやディスカッション等を交えながら、受講者各位との対話型・問題発見型形式による授業を志向します。

Course N@viまたはWaseda Moodleを使用する予定です。レビューシートの入力内容に対しては、次回の授業冒頭でリプライと補足説明を行います。課題提出を求める場合は次回以降に全体の講評を行い、個別の質問に回答します。

科 目 名	文化と社会　現代の日本社会における記憶と文化の解体と再構築							
担当者名	野坂　真							
構築	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

社会を観察するうえでなぜ文化という概念が重要なのか、現代の日本社会において記憶と文化の解体と再構築が行われた事例も踏まえながら、考えていきます。本授業は、理論編（第1部）と事例編（第2部）の二部構成です。理論編では、社会学における文化概念や集合的記憶論などから、社会を観察するうえでなぜ文化という概念が重要なのか、また、社会、文化、記憶といった概念の関係性を検討します。事例編では、理論編で紹介した分析枠組みを手掛かりに、特に東日本大震災の津波被災地における戦後から被災までの地域振興-被災後の地域復興を事例に、地域の文化やアイデンティティが再構築されている現場で何が起こっているのかを学びます。

授業の到達目標

・社会、文化、記憶の概念とそれぞれの関係性に関する知識を習得する。
・文化の再構築が行われている現場で起こっている事象を考察できる能力を習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特に実施しない。
●**レポート**　60%　　授業後半でテーマや提出方法などを発表します。
●**平常点**　40%　　2/3以上出席することは前提として、リアクションペーパーの内容や授業中のディスカッション参加への主体性、コースナビまたはWaseda Moodleや授業前後での質問・意見の内容などを総合的に評価します。
●**その他**　0%　　特になし。

講義

科 目 名	国家形成論　天皇制・王権を考える							
担当者名	川尻　秋生							
構築	2単位	秋学期	金曜日	4時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

天皇制や王権を考える場合、近現代だけでは解決できない問題が数多くある。そこで本講義では、近現代の儀礼や行事から遡って、その意味、そして起源や目的、時代的な変遷を明らかにしようと思います。

たとえば、天皇はなぜスポーツ観戦をするのか、天皇はなぜ宮中で米をつくるのか、などといった一見すれば些細で身近な話題からはじまって、天皇制や王権の特質を考えようというものです。

また、近代日本では、多くの「古代」的儀礼が復活しました。その理由についても検討したいと思います。

なお、最後の数回は、現代と「武士」など武士論に触れるつもりです。

授業の到達目標

天皇制や王権についての基本的な知識を身につけ、現代の問題点や将来の課題などについて見通す力を身につけることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　学期末に提出していただきます。
●**平常点**　50%　　出席によります。
●**その他**　0%

科 目 名	前近代政治社会思想論　中近世武家法史概説							
担当者名	松園　潤一朗							
構築	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、日本の中世～近世に形成された武家法について、法制史・国制史の観点から考察する。序論として、法と国制（統治体制）の概念について説明し、古代における武士身分の成立について述べる。本論では中世から近世にかけての武家（幕府）の法と裁判制度の展開を通史的に論じていくが、途中で各論（災害、刑事判例、家族制度）を設けて、異なる視点・時間軸からも表記の課題を検討したい。歴史的な過程だけではなく、西欧法や中国法との比較の中で、日本の法文化が有する特質を把握することも重要な課題である。

政治権力からの独立性を要素に持つ近代法とは異なり、前近代日本の法は政治的支配と不可分の関係にあるため、法の考察は政治や政治思想の理解に密接に関わり、その逆も然りである。本講義では、法を素材に政治社会思想が論じられることになる。

授業の到達目標

武家法を素材に前近代日本史の基礎知識を獲得し、その特質を理解すること。

成績評価方法

●**試験**　100%　　期末に筆記試験を行う。
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科 目 名	民衆世界論　民衆と戦国大名							
担当者名	糟谷　幸裕							
構築	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

戦国時代は日本史上、民衆が歴史を動かす主体として、はじめて明確に現れた時代とも評されるなど、重大な画期とされている。一方で、一般に「戦国大名」と呼ばれる、自立的な地域権力が列島各地に分立した時代でもあり、そのなかには現在、地域の〝英雄〟として根付いているものも少なくない。

本講義では、民衆と戦国大名の関係を、後者による支配の正当化のありかたに着目しながら考察していく。フィールドとして

は関東・東海地域を中心に、適宜各地の事例にも触れていく。

授業の到達目標

地域の〝英雄〟が生まれる背景の追究をとおして、民衆と政治権力の関係を考える。

成績評価方法

●**試験**　75%　　学期末におこなう（論述式）
●**レポート**　0%
●**平常点**　25%　　毎回、感想ペーパーの提出を求める。
●**その他**　0%

科 目 名	近代日本社会論　「働くこと」の日本近現代史							
担当者名	佐川　享平							
構築	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、明治初年からを戦後までを対象に、日本社会における民衆の働き方の歴史をたどり、そこに示される社会の特徴や変化を捉えてゆきます。具体的には、いくつかの時期区分を設定し、社会の変容過程を踏まえながら、各時期における働き方の実相や労働に対する考え方、そして、労働に関わって生じる諸問題について論及します。人々の働き方はもとより多様ですので、講義では、各時期の社会において特徴的ないし象徴的な職種・働き方などに焦点をあてて、議論を展開してゆくことになります。

授業の到達目標

1．近代から現代に至る日本社会の変遷と各時期の時代状況を理解できる。
2．近現代日本史における労働のあり方とその変化を、多角的に捉えることができる。

成績評価方法

●**試験**　60%　　第15回の授業時間中に試験（記述式）を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　毎回実施の小レポート（感想・コメント・質問などを記入）によって評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	アジア地域社会論　中国とはなにか							
担当者名	日吉　秀松							
構築	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

言語や文化や民族の多様性をもつアジア社会の一員である中国社会自身も複数の民族や言語が存在している。こうした同質性の低い中国社会を如何に制御するかが中国研究にとって重要な課題である。それも改革開放性先政策を実施して40年以上の歳月を経った今現在の中国を認識するためのカギとなっている。

本講義は、1949年以降の中国政治を二つの時代、すなわち、毛沢東時代（1949年10月～1978年12月）と改革開放時代（1979年1月～現在）に分けて、それぞれの特徴を確認していく。そのため、1949年以降の中国政治に大きな影響を与えた延安整風運動の本質に迫りながら、毛沢東時代の中国政治を分析する。前半の講義内容として、文化大革命を含むさまざまな政治運動の原因、目的や過程を分析し説明する。また、改革開放政策のもとで、経済発展を遂げた中国は内外に期待されていた政治の民主化がいまだに実現されず、政治権力が一個人に集中されつつ、一党独裁ないし個人独裁を維持しているという現状を踏まえて、後半の講義内容は、鄧小平から習近平までの各段階の特徴を説明し、そして、中国政治のみならず、中国経済の変化をも展望することとする。

授業の到達目標

1949年以降の中国政治における変動性と不変性を分析し検証することによって、各時代と各段階の特徴を考察し、中国の全体像をつかむことと多様な文化・価値観の交流力を身に付けることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　45%　　第15回目に期末試験を実施。講義内容の理解度を確認する。
●**レポート**　30%　　第6回と第12回の授業で課題を提示する。授業内容の理解度と個人の観点や考え方の有無を結合して評価する。
●**平常点**　25%　　リアクションペーパーの内容と出席状況を合わせて総合的に判断する。
●**その他**　0%　　無し

備考・関連URL

レポートに対するフィードバック方法として、質疑応答という方式を用いて議論させる過程で各レポートの優れるところや問題所在を説明する。

科 目 名	西洋社会構造論1　19世紀ヨーロッパ史を考える							
担当者名	小原　淳							
構築	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ヨーロッパ地域はもともとは比較的生産力が低く、文化・文明の中心から遠く離れた周縁地域であったが、近世・近代に進行した世界の一体化のなかで先進地域としての地位を確立し、19世紀以降は、政治、経済、文化の各分野において世界に大きな影響を及ぼした。本講義では、19世紀を中心に、かつては後進的であったヨーロッパが世界史において飛躍を遂げた過程、そしてその歴史的意味を概観する。その際、世界規模での環境変動や人口移動、文化交流、経済システムの構築と再編といった問題を意識し、グロバール・ヒストリーの文脈のなかでヨーロッパの歴史を検討する。

授業の到達目標

第一に、19世紀ヨーロッパ史の概略を把握すること、第二に、グローバル・ヒストリーの視点を理解すること、第三に、自分の研究対象をそうした視点から捉え、考える力を養うことを目的とする。

成績評価方法

●**試験**　40%　　授業の理解度を問う。毎回の授業で配布する資料に記載された事柄のみならず、授業中に板書や口頭で強調した事柄についても、出題の対象とする。
●**レポート**　30%　　毎回の授業の度に、理解度を問う簡単なレポートの提出を求める。
●**平常点**　30%　　遅刻、授業中の入退出、私語、居眠り、スマートフォン等の使用は出席を認めない。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	西洋社会構造論3　グローバル化する国際移民							
担当者名	樽本　英樹							
構築	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

グローバル化という世界的な社会変動の中、社会現象が国境を超えることは当然になった。その結果、分析視点や手法も国民国家を超えたものが必要とされてきた。本講義ではヨーロッパ諸国を対象とし日本など他の諸国と比較しながら、1990年代以降急速に発展してきた脱国境・超国家的な社会現象を分析していく。なかでも国境を越える人の移動とその影響を中心的な対象とする。国際社会学を中心に政治学、経済学、文化人類学などにディシプリン横断的な授業となる。ディスカッションの時間もつくりながら、刺激ある空間をつくりあげたい。

授業の到達目標

脱国境・超国家的な社会現象のなかでも、国境を越える人の移動とそれに伴う社会問題を理解し、各人がグローバル化を社会現象のひとつとして分析できるようになることを到達目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施せず
●**レポート**　70%　　講義全体の理解度を確かめるため学期末に実施する。
●**平常点**　30%　　授業時に行うグループワークの参加度合いを見る。
●**その他**　0%　　該当なし

備考・関連URL

授業に出席し参加する者のみが履修すること。

科 目 名	近代日本の社会制度と社会思想　近代日本における制度・経済・社会							
担当者名	森田　貴子							
構築	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

幕末期の開港によって、政治的・軍事的・経済的に近代化を迫られた日本は、明治以降、封建的な制度を撤廃し、近代的な制度を急激に形成した。多様な法律・規則が制定・改廃され、多くの社会的な変動と改革がなされた。

本講義では、明治初年から第二次世界大戦までの日本について、経済・社会・教育などの多角的な制度変革の観点から、日本の近代を歴史的事実に基づき理解する。

授業の到達目標

本講義では、明治初年から第二次世界大戦までの日本について、経済・社会・教育などの多角的な制度変革の観点から、日本の近代を歴史的事実に基づき理解することを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　60%　　学期末の試験（持込み不可）
●**レポート**　0%　　—
●**平常点**　40%　　出席状況他
●**その他**　0%　　—

科 目 名	現代日本社会論　国際移民と市民権の諸問題							
担当者名	樽本　英樹							
構築	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

グローバル化という世界的な社会変動のなか、国境を越える人の移動はますます活発になっている。その結果、社会において「メンバーでない人」や「メンバーと見なされにくい人」が居住・滞在していることが常態となっている。日本も例外ではない。少なからぬ外国人・移民が流入し滞在し定住しているのである。いかにして社会秩序を維持していくことができるのだろうか。いかにして外国人・移民とマジョリティ双方のライフチャンスを保障することができるのだろうか。以上の問題に関して、日本を対象とし英国など他の先進産業国と比較しながら市民権論の視角から論じていく。授業の内容や順番については受講生の反応を見ながら柔軟に対応していく。

授業の到達目標

人の国際移動に関して、英国など他の先進産業国と比較しつつ日本の特徴を理解すること。移民・外国人に対するホスト社会における市民権付与の重要性を理解すること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施せず
●**レポート**　70%　　授業全体の理解度を見るために学期末に行う。
●**平常点**　30%　　授業時のグループワークの参加度を見る。
●**その他**　0%　　該当なし

備考・関連URL

授業に出席および参加する者のみが履修のこと。

科 目 名	市民意識論　市民社会の担い手としての「私」を自覚する							
担当者名	熊本　博之							
構築	2単位	秋学期	水曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「市民」という言葉を含む用語は枚挙にいとまがない。市民運動、市民社会、市民参加、市民団体、果ては「プロ市民」なる揶揄的な言葉まで生み出されている。だがしかし、こうした多様な「市民」像は、「市民」というこのとらえどころのない言葉のもつ、核となるイメージを逆照射してもいる。それは、「主体的になんらかの行為をなそうとする意思を持った個人」というイメージである。

本講義では、この「主体的になんらかの行為をなそうとする意思を持った個人」としての市民の、現代社会における意義、果たしうる役割等について理論的、実証的に考察していく。

授業の到達目標

・市民社会をめぐる様々な理論枠組みや市民社会を左右する諸要因について理解し、自らの言葉で市民社会について論じることができるようになる。

・自分自身も市民社会の担い手であることを自覚し、市民社会の構築に貢献できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　80%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います（論述試験）

●**レポート**　0%

●**平常点**　20%　　授業の感想や授業内容に対する意見をCourse N@viまたはWaseda Moodleのレビューシートに入力してもらいます（100字以上）。その回数を元に評価します。

●**その他**　0%

科 目 名	地域・都市の歴史　近代都市形成の諸相							
担当者名	森田　貴子							
構築	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

明治初年から第二次世界大戦までの日本の都市を取り上げ、近代都市がいかに形成されてきたのか、前近代から近代への移行について、都市計画、都市財政、都市行政、都市と社会問題、インフラストラクチャーなど、近代都市形成について多角的な観点から取り上げる。

授業の到達目標

本講義は、近代日本において、都市がいかに形成されてきたのか、歴史的事実に基づき考察することを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　60%　　学期末の試験（持込み不可）

●**レポート**　0%　　—

●**平常点**　40%　　出席状況他

●**その他**　0%　　—

科 目 名	近代日本都市論　首都東京を歴史的に解剖する							
担当者名	大日方　純夫							
構築	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

歴史学の方法に即して、多様な視点から近代都市に迫ることを通じて、学問のダイナミックな広がりを感得し、社会・文化に対する豊かな着想力を養います。具体的には、有数の巨大都市、東京を対象にすえて、まず、近代都市の原形がどのように形づくられたのかを、①政治、②強制装置（軍隊・警察など）、③生活（産業・交通・暮らし）、④娯楽（芸能・娯楽・盛り場など）、⑤裏面と底辺（病気・災害・貧困など）、⑥都市のなかの「世界」（国際関係・外国人など）、といった観点から解明します。そのうえで、1945年8月の第二次世界大戦敗戦に至る近代都市の姿を、この6つの観点に即して展望します。講義にあたっては図像・地図などを活用・解読し、また、イギリス・フランス・ドイツなどの都市（首都）と比較しながら、日本近代都市の一般性と特殊性を明らかにすることに心がけます。一方的な講義になることを避けるため、テーマ（設問）に応じてグループで討論する機会を設定し、近代日本の都市のあり方を一緒に探っていきたいと考えています。

授業の到達目標

日本における近代都市の形成と展開の過程を具体的に明らかにすることを目標とします。それを通じて、近代日本の都市に関する認識を深めるとともに、歴史を介して都市がかかえる問題をつかみ、解決すべき課題を発見していくことをめざします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない

●**レポート**　60%　　期末のレポート

●**平常点**　40%　　毎回実施の小レポート（質問・感想・意見を記入）

●**その他**　0%

科 目 名	現代日本都市論							
担当者名	下村　恭広							
構築	2単位	春学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

都市空間は建物や人々が単に雑然と集まっているだけに見えるが、そうした建造物群やそれらを生み出す人々の分布を丁寧に観察すると、実はある種のパターンが存在することがわかる。このパターンを都市の空間構造と呼ぼう。このような空間構造の成り立ちには、どのような要因が働いているのだろうか？　様々な都市を比較したり、ひとつの都市の過去と現在とを比較すると、社会変動に伴って空間構造も変化していくことが分かる。この授業では、現代の東京を中心的な考察の対象に据え、以上のような都市の空間構造の社会的側面を理解するための手だてについて、都市社会学および隣接する諸分野（地理学や都市史など）

の知見を紹介しながら解説する。

授業の到達目標

東京の社会-空間構造の特徴について、社会学的概念を用いて説明できるようになる。現代都市の社会-空間構造の変容過程について、社会学的概念を用いて説明できるようになる。

成績評価方法

●**試験** 70%　学期末に実施する
●**レポート** 30%　授業期間中に複数のレポートを課す
●**平常点** 0%
●**その他** 0%

科 目 名	アジアの地域・都市の歴史　開拓・入植・開発からアジア社会の地域史を編む							
担当者名	清水　美里							
構築	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

講義

授業概要

この授業では、アジアの社会・文化が歴史的交流あるいは衝突、断絶を経ながら多様性をもって形成されたことを学ぶことを目的とします。地域は台湾を中心に東アジア・東南アジアを対象とし、開拓・入植・開発を契機とした人・モノ・財・情報の移動、地域間交流の事例を見ていきます。また、国家のレベルではない民間交流の可能性を考えていきます。

アジア世界は多様性をもつ一方でそれぞれの社会が歴史的に重層的なかかわりをもちながら形成されてきました。それぞれの文化の相違は国家の形態や民族の捉え方、土地不動産の所有、金融などの近代システムの受容においても見て取ることができますが、それが現在の状況にあるのは、歴史的な交流、衝突や断絶の結果でもあります。この授業では、アジアとは何かということを問いながら、アジアの各地域・都市の歴史を考察していきます。

授業の到達目標

国際関係の変化が国家間のパワーバランスのみならず、地域社会や個人のレベルにまで影響してきた歴史への想像力を身につけ養うこと。そして、歴史的思考を元に自己の文化を自明とせず異文化と向き合い、建設的な「多文化共生社会」の実現や「持続可能な開発目標」への議論を提供できることを到達目標とします。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 70%　課題を的確に把握し、他者理解に寄与するものであるかどうか、論理的考察がなされているかどうかで判断します。
●**平常点** 30%　授業内容に関するレスポンスシート等。
●**その他** 0%

科 目 名	地域・都市論研究							
担当者名	浦野　正樹							
構築	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

本授業では、地域・都市論の領域についての基礎的な内容を論じたうえで、この領域が課題とする主要な論点について、その概略を提示していく予定である。授業内容は、＜都市の捉え方と定義＞＜都市の研究方法と研究戦略＞など都市・地域社会学を理解するための前提的な枠組みの検討から始まり、都市社会学が成立した背景や初期シカゴ学派にはじまる都市社会学の系譜を論じたうえで、その後の日本における都市・地域社会学の展開について検討していくことにしたい。そのうえで、現代の地域・都市論を考えていくうえで主要な論点となる、都市的生活様式論や結節・統合・支配のシステム、地域移動など都市--農村関係に関わる研究、世界都市論やボーダーレス社会に関わる研究、都市空間＝社会構造に関わる研究、持続可能な開発と エコ・システムに関わる研究、コミュニティ論を含む＜地域づくりにおける参加と協働＞に関わる研究などについて紹介し、検討する機会をつくる予定である。

授業の到達目標

本授業の到達目標は、地域・都市論の基本的な知識や考え方を理解し、この領域の研究内容・広がりについて自分なりの興味をもって学ぶ道筋を探り出せるようになることである。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 60%　授業及びコースナビまたはWaseda Moodleでの指示に従うこと。
●**平常点** 40%　出席（毎回のBBSによる「発言」提出）
●**その他** 0%

備考・関連URL

都市や地域社会、自治体行政などに関心をもつ学生、将来こうした領域で活躍したいと考えている学生は、是非受講してほしい。受講生には、各自の問題関心に沿った集中的な文献検討と独自の考察が要求される。

なお、コースナビまたはWaseda Moodleの利用は必須であり、BBSでの発言はもちろん、教材についてもコースナビまたはWaseda Moodleで提供されるものを前提として授業を進めていく。また、半期授業のうち数回程度をオンデマンド授業の形式で実施する予定である。

科 目 名	ローカル・ガバナンス論　多様な主体によるパートナーシップ							
担当者名	高野　孝子							
構築	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

「グローバルガバナンス」論は国境を超えた課題や国際秩序に関心を向けたものだが、グローバル化に伴う多くの課題が、人々の生活が実際に営まれる地域社会にも表れている。課題への対応には、行政だけでなく、多元的な意思決定メカニズムが模索され、ガバメントからガバナンスへが世界での潮流とされる。

そこにおいて、内外の諸主体の連携・協働による活動である「パートナーシップ」が重視されてきている。またそれは本来、

課題への対応、ということにとどまらず、どのような地域または社会を目指すのかというビジョンの共有が大切であるはずだ。
この講義では、まず世界共通の課題である「持続可能性」の概念について触れ、環境、経済、社会、政治、文化のつながりを理解する。その上で、ガバナンス概念が台頭する背景、パートナーシップの考え方を概観する。行政・NGO/NPO・コミュニティー・諸グループ・個人がパートナーシップを組み、地域の諸課題に取り組んでいる国内外の事例を見ながら、形式的なのか、実質的に役割を果たしているのか、現状と課題、問題点を考え、地域パートナーシップの望ましいあり方を考察する。
日本のさまざまな「地域」で、持続可能な社会を目指して起きていることとその課題（環境全般、まちづくり、福祉、貧困、偏見や差別などの分野）、解決に向けてのパートナーシップの取り組みについて履修生らが調べて発表しあう。その可能性と課題、地球課題とのつながりなどを議論する。
多様な主体によるパートナーシップは、目の前の課題解決だけでなく、社会づくりにも大きな可能性を持つ。当然学生自身も関わることができる。自分自身がある課題に取り組むつもりで、具体的にイメージしながら授業に臨んでほしい。

授業の到達目標

ガバメントからガバナンスへの変化を知り、その背景や課題を理解する。地域振興や環境保全などで重要な諸主体のパートナーシップについて、その現状を把握し、あり方について考える。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　20%　　最終回の教場レポートの評価
●**平常点**　80%　　コースナビまたはWaseda Moodleを通した課題評価、授業への積極的参加、グループワーク
●**その他**　0%

備考・関連URL

＊4回以上の欠席は単位を認めない。

科 目 名	比較文明論　東南アジア諸文明の歴史							
担当者名	田畑　幸嗣							
構築	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フルオンデマンド

授業概要

比較文明の観点から東南アジア諸文明の歴史を取り上げ、人類の生み出した文化の多様性と普遍性について考えます。東南アジアとその歴史を、「中国とインドのはざま」や、植民者によって「発見」された地域という視点ではなく、主体としての東南アジアの人々とその軌跡としてとらえます。 授業では、東南アジア世界への導入として、「東南アジア」という概念の成り立ちを講義し、そののちに歴史理解の背景となる東南アジアの自然環境についての講義をおこない、さらに先史時代から近現代にいたるまでの東南アジアの歴史についての講義をおこないます。
履修する場合、備考の欄をよく読んでおくこと

授業の到達目標

単なる東南アジア各国史ではなく、特に植民地時代以前の東南アジアに存在した社会・経済・政治的諸関係の構造 ― 東南アジア世界 ― を理解することを目指します

成績評価方法

各回ごとに小テストを実施し、さらに最終レポートで評価します。履修人数によっては出席と小テストの成績のみで評価します。必要に応じて中間レポートを課す場合もあります。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。 講義期間内ならばいつでも自由に視聴できるオンデマンド授業ですので、出席（コンテンツの視聴と確認テストへの回答をもって出席とします）については通常の授業よりも厳しい基準を採用します。
出席は100%以外は認めません。
大学の定めるやむを得ない事情（忌引き、病欠などがこれにあたります。サークル活動や就職活動はやむを得ない事情とは認められません）の場合、それを証明することのできる資料を提出してもらいます。なお、やむを得ない事情であっても、欠席回数が多い場合、最終成績がGとなります。何回までやむを得ない欠席を認めるかは、それぞれの状況（その時点での学習状況や授業の進展の度合い）に応じて判断します。いずれにせよ、出席は非常に厳しくチェックされます。

受講の前に、利用環境等などについて、コースナビおよびWaseda Moodleの学生向けマニュアルを熟読してから受講してください。PCのエラーや操作ミスで、小テストが受験できなかったという連絡を受けることがありますが、これに関しては、その申し出が本当かどうかをこちらで確認することができません。従って、一切救済措置は取りません。受講環境には十分注意してください。

この授業には学習順の指定があります。科目登録期間後に配信される第二回以降は、聴講と小テスト受験が終わらない限り、次の回の聴講と小テストを受けることができませんので、注意してください。
バックナンバー聴講の場合、やむを得ない事情であれば出席としますが、そうした連絡がなくバックナンバー聴講をしても、欠席扱いとなります。やむを得ない事情でない限り、各講義期間内に聴講しなかった回が一つでもあれば、成績は自動的にGになります。十分注意してください。
バックナンバー聴講のしかたなど、システムに関することはヘルプデスクに問い合わせてください。教員に連絡されても答えられません。

レポートや成績評定の詳細については、授業中にお知らせします。

科 目 名	産業考古学　産業遺産の歴史と活用							
担当者名	近藤　二郎　他／永田　史子							
構築	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フルオンデマンド

授業概要

産業考古学とは、歴史の浅い学問分野である。この学問分野は、イギリスにおいて、「産業革命」を画期として誕生した

IndustrialArchaeologyを規準として誕生した学問分野ではあるが、イギリスと日本との相違についても考える必要がある。社会の近代化にとって重要な意味を持つ産業遺産（近代化遺産）を紹介することで、身近な文化財を考える基礎とする。

授業の到達目標

本講義では、私たちの身近に残る産業遺産（近代化遺産）を題材として、それらの文化財が、私たちの地域でどのような形で残っているのかを概観し、その意義と活用について、ひとりひとりが考えることを到達目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　40%　　毎回に小レポートの提出を課す。必ず、授業終了後に提出すること。
●**平常点**　50%　　受講生は受講後、コースナビまたはWaseda Moodle上のレビューシートに必ず授業内容について、記入すること。レビューシートへの記入をもって出席とする。
●**その他**　10%　　ディスカションの内容などを加味するので、積極的に掲示板の使用を推奨する。

備考・関連ＵＲＬ

本授業は、フルオンデマンド形式で実施されるため、曜日・教室は指定されないので注意すること。

講義

科 目 名	建築史1　日本の建築の通史を考える							
担当者名	小岩　正樹							
構築	２単位	春学期	金曜日	４時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

アジア的環境下において建築文化を築いてきた日本を対象に、先史から近世および近代にいたるまでの建築の歴史を、形式、技術、社会背景などに着目しながら辿ってゆく。特に、現代においても、日本の伝統建築に対する評価はいまだに曖昧なままであり、様式概念のみでもノスタルジーのみでも語り尽くせない可能性が潜在している。その可能性の所在を探り、どのように現代や自分にとって展開できるか、受講者各自が考える時間とする。

※建築史のうち、西欧建築は、秋期科目「建築史2」にて取り上げるため、あわせて受講することを勧める。

授業の到達目標

日本建築の通史をみることで、歴史的事柄の理解と知識の蓄積を通じて、それぞれの時代性が建築へと結実する仕組みを考え、現代へと続く建築史観を受講者各自で構築できるようになることを目標とする。受講後には、自分なりの建築観（建築への見方・考え方・感じ方）ができていることを目指す。

成績評価方法

各回の感想文と期末レポートを提出。これらレポートの合計評点で最終評価を行う。

1．各回授業感想文（全部を合わせて配点30%、各回講義室のその場で簡単に書いてもらう。必ずしも全回分が揃っていなくとも採点の対象となる）

2．期末レポート（配点70%、A4版3〜4枚程度を予定）

・期末レポートを未提出の場合は、配点上自動的に不可となるので注意すること。
・期末レポートは期日内に提出すること。期日後の提出は原則不可。健康上の理由等事情によっては受理する場合がある。
・具体的な課題については講義中で発表する。

科 目 名	建築史2　西洋建築史							
担当者名	奥田　耕一郎							
構築	２単位	秋学期	火曜日	５時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

1）西洋の建築のうち、イタリア・フランス・ドイツ・イギリスなどの建築事例を取り上げ、技術・歴史・意匠の面から解説する。通史的に連なる各回のテーマに基づいて建築を紹介し、その特徴や見どころ、それがつくられた社会背景などについて解説し、西洋建築と西洋における建築の考え方について、理解を養っていく。

2）家、学校、駅、オフィスビル、店舗、図書館・・・。これらを「建築 architecture」として君たちが意識するようになったのはいつからだろうか。建築は物としてのそれ自体だけでなく、関連するさまざまな行為、思考、概念を含めた総体として把握される。日本建築をあつかう春期「建築史1」に引き続き、こんどは西洋建築のあゆみをたどりながら、建築についての理解をさらに深めていこう。

授業の到達目標

この講義は、西洋の建築や歴史様式についての基礎的知識を習得しつつ広範に理解し、その観察上のポイントや、建築を歴史的に捉えることの意義について学習できるよう計画されている。しかし、これは目標にいたる前提にすぎず、受講者それぞれが自身の知的関心を展開・拡張させることを目指す。すなわち、各自の知的背景に、講義を通じて獲得・蓄積・醸成されていく建築史的知見や建築に対する考え方、建築・都市への想いを重ねることで、現代の世界・現代の社会を理解する視点をより積極的かつ多角的なものとすること、これを目標とする。成績評価にかかわる各レポート課題は、この観点から出題する。

成績評価方法

1．複数回の小レポートと期末レポートを提出。これらレポートの合計評点で最終評価を行う。
　・小レポート（学期中に数回出題・配点20%）
　・期末レポート（学期末に1回出題・配点80%）
2．これらレポートを全て提出した場合に、上記配点に基づいて評価を行う。1つでも未提出の場合は不可とする。
3．各レポートは期日内に提出すること。期日後の提出は原則不可。健康上の理由等事情によっては受理する場合がある。
4．具体的な課題については講義中に伝える。

科 目 名	都市景観の保存学　ユーラシア大陸の都市景観．西アジアで誕生した都市は、地域や民族、時代によってさまざまに変容を遂げる。本講義では、そうして都市の姿を時代・地域にそって紹介し、それぞれの代表的な都市の構造を理解する。							
担当者名	田畑　幸嗣							
構築	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フルオンデマンド

授業概要

西アジアで誕生した都市は、地域や民族、時代によってさまざまに変容を遂げます。この講義では、そうして都市の姿を時代・地域にそって紹介し、それぞれの代表的な都市の構造を理解します。

履修する場合、備考の欄をよく読んでおくこと

授業の到達目標

都市とはどのような空間であり、どのような景観をもつのか、それぞれの都市の特徴と背景を理解することを授業の到達目標とします。

成績評価方法

各回ごとに小テストを行い、さらに最終レポートで評価します。履修人数によっては、出席と小テストのみの評価となります。必要に応じて中間レポートを課す場合もあります。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。 講義期間内ならばいつでも自由に視聴できるオンデマンド授業ですので、出席（コンテンツの視聴と確認テストへの回答をもって出席とします）については通常の授業よりも厳しい基準を採用します。

出席は100%以外は認めません。

大学の定めるやむを得ない事情（忌引き、病欠などがこれにあたります。サークル活動や就職活動はやむを得ない事情とは認められません）の場合、それを証明することのできる資料を提出してもらいます。なお、やむを得ない事情であっても、欠席回数が多い場合、最終成績がGとなります。何回までやむを得ない欠席を認めるかは、それぞれの状況（その時点での学習状況や授業の進展の度合い）に応じて判断します。いずれにせよ、出席は非常に厳しくチェックされます。

受講の前に、利用環境等などについて、コースナビおよびWaseda Moodleの学生向けマニュアルを熟読してから受講してください。PCのエラーや操作ミスで、小テストが受験できなかったという連絡を受けることがありますが、これに関しては、その申し出が本当かどうかをこちらで確認することができません。従って、一切救済措置は取りません。受講環境には十分注意してください。

この授業には学習順の指定があります。科目登録期間後に配信される第二回以降は、聴講と小テスト受験が終わらない限り、次の回の聴講と小テストを受けることができませんので、注意してください。

バックナンバー聴講の場合、やむを得ない事情であれば出席としますが、そうした連絡がなくバックナンバー聴講をしても、欠席扱いとなります。やむを得ない事情でない限り、各講義期間内に聴講しなかった回が一つでもあれば、成績は自動的にGになります。十分注意してください。

バックナンバー聴講のしかたなど、システムに関することはヘルプデスクに問い合わせてください。教員に連絡されても答えられません。

レポートや成績評定の詳細については、授業中にお知らせします。

科 目 名	子ども支援特論							
担当者名	内田　塔子							
構築	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

授業計画にあげる各テーマに即して、国内外の子どもが直面する問題状況を概観しながら、学校・家庭・地域における子ども支援の実際を解説し、子ども支援の視点と方法を検討していく。

授業の到達目標

子どもを取り巻く問題状況を理解し、問題解決に向けて主体的に関われる実践力を獲得することを目標とする。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　60%　　教場レポート
- **平常点**　40%　　リアクションペーパー（4回実施予定）
- **その他**　0%

科 目 名	ジェンダー論							
担当者名	豊田　真穂							
構築	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

本講義は、ジェンダーに関して基礎から学びたいと考える人向けの「ジェンダー論」です。ジェンダー論に関して網羅的に学ぶことはできませんが、ジェンダー論を学ぼうとしている人にとっての導入になることを目指します。ジェンダーやセクシュアリティの視点を用いることは、社会現象や身のまわりの出来事を理解し、見落としがちな差別やそれに伴う暴力について考え、世界を今までとは違う視点で見ることにつながるでしょう。講義では、わたしたちがふだん疑うことのない「常識」にひそむ矛盾や思いこみに気づき、それらを打ち破っていくことを目指します。みなさんにとって身近な自分の問題としてとらえられるように、できる限りディスカッションやグループワークを導入します。

授業の到達目標

「ジェンダー」や「セクシュアリティ」という分析概念を理解し、駆使できるようになること。

成績評価方法

- **試験**　60%　　教場で行う理解度の確認

●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　40%　　クラス内パフォーマンス　10%、レスポンス・ペーパー（学期中に3回行う予定）　30%
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

初回講義時にレスポンス・ペーパー等、成績評価に関する説明をしますので、なるべく出席してください。

科 目 名	多民族社会アメリカ　ジェンダーからみる多民族社会アメリカ							
担当者名	栗原　涼子							
構築	２単位	春学期	金曜日	５時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

多民族社会アメリカをジェンダーと人種に関わる社会運動の歴史から検討する。とくに19世紀から20世紀にかけての女性参政権運動、平和運動、社会福祉論争などをとおして、アメリカの国民国家形成過程におけるジェンダー、人種、民族の包摂と排除の過程を考える。さらに、20世紀アメリカの西欧優位思想、帝国主義的なジェンダー規範が1960年代以降、いかに多文化的に克服されたのかを検討する。「ヘイトの時代」ともいえるトランプ政権の現在もジェンダー、民族、人種問題も考える。

授業の到達目標

① アメリカの多民族・多文化とは何かを論争的に理解する。
② 多民族社会がどのように変遷してきたかを歴史的に理解する。
③ 民族、ジェンダー、人種政策が社会運動に対応して実現していった過程を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　70%　　本講義に関連するテーマを各自自由に決め、引用文献を明記し、学術論文の形式を取ること。
●**平常点**　30%　　ディスカッションへの参加
●**その他**　0%　　とくになし

科 目 名	歴史のなかの人権　ジェンダーで読み解く戦争							
担当者名	豊田　真穂							
構築	２単位	秋学期	金曜日	２時限	２年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

21世紀は、「人権の世紀」と呼ばれています。それは、20世紀が「戦争の世紀」と呼ばれたことに端を発しています。二度にわたる世界大戦を防げなかったことを反省して創設された国際連合は、1948年12月に「世界人権宣言」を採択しました。それは、戦争は最大の人権侵害であり、人権の尊重こそが平和の基礎であるという認識に基づいています。しかし人権といったときの「人間」とは誰をさすのか。本講義では、ジェンダー視点で戦争と人権の世紀を読み解いていくことを通じて、「人権」や「権利」の普遍性そのものにも焦点をあてていきます。例えば、現在の国際社会では、戦時／紛争下の性暴力は、「人道に対する罪」として国際刑事裁判所（オランダのハーグ）で訴追される犯罪とされています。しかしながら1945年に初めて規定された時には、性暴力やレイプが「人道に対する罪」として訴追されることはありませんでした。20世紀後半になり、世界各地で発生した暴力的事件を通して性暴力やレイプが戦争・紛争時の戦略的な道具とされたことが明らかになり、国連を中心とした国際介入がはじまり2003年の国際刑事裁判所の設置にいたります。2018年12月にナディア・ムラドさんとデニ・ムクウェゲさんの2人がノーベル平和賞を受賞したのは、こうした国際社会の流れの象徴といえます。本講義では、こうした「人権の世紀」の基盤となった戦争について、ジェンダーの視点から考察していきます。

授業の到達目標

ジェンダーの視点から人権と戦争の問題について歴史的に考察できる

成績評価方法

●**試験**　60%　　教場で行う到達度の確認
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　40%　　クラス内パフォーマンス　10%、レスポンス・ペーパー（学期中に3回行う予定）　30%
●**その他**　0%

科 目 名	社会システム論　理論社会学　　—社会構築のための媒体と論理							
担当者名	森　元孝							
構築	２単位	秋学期	無	フルOD	２年以上	オープン科目	合併科目	フルオンデマンド

授業概要

私たちは「社会」という言葉を使い、つねに一定のイメージを持っている。しかしながら、それがどのようであるかについて、一般論として述べてみることはたいへん難しい。社会システム論は、20世紀に前半に生まれてきた考え方である。しかしながら、20世紀は科学と技術の急速な発展を見た100年でもあり、その間に「社会」は、その形を大きく変化させたと考えられる。この変化を一般的水準で十分に捉えつつ、「社会のかたち」について理論的で精密な研究を行うための概念装置を学んでいく。

2年生の初学者には少し難しいところもあるが、やってやれないことはない。社会学についての概説、概論、入門などについて学んだことがあれば、多少役に立つかもしれないが、この授業は、「社会システム論」であり、いわゆる社会学の一分野ではなく、独立したもっと壮大な学問領域であるので、ほとんどの人が初学者である。

秋学期の「社会理論」と対をなしている。そちらが、かなり具体的な社会についての講義であるのに対して、こちらは徹底的に抽象的で理論的なものとなっている。「社会」を知り、そして語るには、両方を学ぶ必要があるからである。

授業の到達目標

「社会」ということを、感覚的、情緒的、感情的、イデオロギー的に表現するのではなく、すなわち、好き嫌い、難しい、辛いなどという表現で語るのではなく、徹底的に論理的に表現していくための認識、論理、作法を習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　25%　　最終レポート課題の内容。
●**平常点**　75%　　講義進行中で回答いただく小課題の内容。

●**その他**　0%

備考・関連URL

授業と、次の教科書とは並行して進んでいきます。　http://wienmoto.at.webry.info/201410/article_5.html

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

関連URL: http://www.f.waseda.jp/wienmoto/

文化構想学部 森 元孝ゼミナール プロモーションビデオ http: //www. f. waseda. jp/wienmoto/Japanese/Lesson/KouchikuMorisemi/MC05.html

科 目 名	社会理論　現象としての石原慎太郎：　日本の政治・経済・社会　1955年から2019年							
担当者名	森　元孝							
構築	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	オープン科目	合併科目	フルオンデマンド

授業概要

政治家であり作家でもある石原慎太郎について、その全体像を捉える試みである。1950年代から現在まで、この人の存在は、日本にとって間違えなく大きなものがある。一方で多くの信奉者、他方で多くの批判者を生んできた、この人の「フィロソフィー」について、社会科学データとともに、この人の作品を追いながら、再構成をしていく。

一橋大学に社会科学を学ばんと入学したが、希有の作家として、そして政治家として活動してきた半世紀を超える事実は、戦後復興、バブル崩壊、世界における地位低下など、20世紀後半から現在にいたるまでの日本と、今、現在、未来に向けて日本を考える糸口を提供してくれるはずである。断っておくが私は、この人の信奉者ではない。「人」を、ひとつの社会事象として、社会科学的に捉えた講義をする。

授業の到達目標

社会学、経済学、そして政治学を代表とする社会科学は、原理上、理想主義モデルを前提に理論、思想を創り上げることを常としてきた。これに対して、不条理、反主知主義を軸にした作品に人と人のつながり、日本とその質を提示してきた代表的作家、政治家を主題として、現代日本をどう考えるべきか、その拠り所について理解してもらう。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　30%　　最終レポートの提出
●**平常点**　70%　　適宜、まとめの意味で、小テストを行う。
●**その他**　0%

備考・関連URL

http://www.f.waseda.jp/wienmoto/

科 目 名	国際教育論-国際化・グローバル化と教育							
担当者名	山西　優二							
構築	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

国際教育とは、現代社会において貧困、環境破壊、民族紛争、人権侵害など数多くの地球的規模での諸問題が顕在化し深刻化する中で、私たち一人一人が地球的視野にたって、従来の国際化・グローバル化を批判的に捉える視点から、諸問題の様相と原因を理解し、その解決方策を考え、そして解決にむけての行動に参加することをめざす教育と定義づけることができる。またこの国際教育は、これまでそれぞれの社会的文脈の中で独自の展開を見せてきた平和教育、人権教育、開発教育、環境教育、多文化教育、などを総称する概念でもある。

この授業では、国際教育の歴史を踏まえつつ、国際教育の実践を「グローバル」「地球市民」「人間関係づくり」「文化理解」「問題解決」「未来想像」「ことば」などの視点から読み解き、さらには国際教育のもつ教育目標・教育内容・教育方法、教師・指導者、教育制度などの改革に向けての意味について、これまでの教育との比較を通して検討することを目的としている。

授業の到達目標

本授業では、国際教育に関する知識を単に獲得することにとどまらず、これまでの教育との比較を通して、その特質や教育改革に向けての意味を見い出し、さらには新たな教育づくりに向けての視点や方策を描き出す力を身につけることを目標としている。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない
●**レポート**　80%　　中間教場レポート・最終提出レポート
●**平常点**　20%　　授業参加
●**その他**　0%

備考・関連URL

この授業は講義科目であるため、講義という形態を基本的にはとるが、可能な限り、討議型、対話型、ワークショップ型で授業を進めたいと考えている。授業に積極的に参加できる学生の受講を望む。なおこの授業は、同時間帯の春期科目と関連づけて展開するため、履修者は、文学部の「比較・国際教育学-教育改革の視点とその方策-」を履修することが望ましい。

科 目 名	ボランティアとNPO・NGO							
担当者名	林　加奈子							
構築	2単位	春学期	月曜日	4時限	2年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

世界には、貧困、環境破壊といった地球規模の問題が見られますが、これらの問題はどこか遠くで起こっていることではなく、近年わたしたちの暮らす身近な社会においてもよりはっきりと感じられるようになっています。歴史的に見てみると、国家や国際機関はこれらの問題解決のアクターであり続けていますが、一方で市民も個人あるいは集団で問題解決に関わってきたことを知ることができます。それはボランティアあるいはNGO・NPOとして、政府に対峙する形で、あるいはときには連携をとりながら行われてきました。そして、このような市民による活動は、政府とは異なる「市民社会」というセクターを構成し、近年そ

の存在感を増しています。

本授業では、ボランティアの起源、世界及び日本におけるNGO・NPOの歴史と動向を見ることから、その社会的な意義を検討していきます。また、ボランティア活動がもつ教育的意義についても検討していく予定です。

授業の到達目標

1. 地球規模の問題とわたしたちとの関係性を知り、当事者性をもって世界に向き合うことができる。
2. ボランティア、NGO・NPO登場の背景、動向を知り、市民社会の社会的意義を自分のことばで説明することができる。
3. ボランティアの教育的意義を理解し、自分の学びに結びつけることができる。

成績評価方法

●**試験**　40%　　全体ふりかえり、理解度の確認。
●**レポート**　30%　　中間レポート：自分の関心に基づいてNGO・NPOを調べ、その社会的意義について論じる（当該分野における社会的ニーズを把握し、取り上げたNGO・NPOの社会的意義はどこに認められるのかを自分のことばで論じる）。
●**平常点**　30%　　授業参加、コメントシート。
●**その他**　0%

講義

科目名	平和・人権論　平和・人権を社会に創造するその意味・その主体を問う							
担当者名	南雲　勇多							
構築	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

平和とは誰のためのものか、平和とはどこに創られるべきものか。このシンプルな問いが意図するものこそ、今求められるべきものの1つではないだろうか。

現在、様々な地球的諸課題が複雑に関わり合いながらグローバルにもローカルにもその深刻さが顕在化している。また、テロや紛争、不公正な構造の押しつけとそこから生まれる抑圧や搾取など、様々な暴力が存在し、人々のいのちや尊厳が脅かされている。そのような現代の世界では、人類の悲願である社会の「平和」と一人ひとりの「人権」がよりいっそう求められ、また、その内実と達成へのアプローチが問われている。

本講義では、平和とは何か、人権とは何か、また、平和と人権の関係とはどのようなものかなどについて、現実に課題解決が求められる様々なトピックを切り口に、レクチャーだけではなく、ワークショップなどの参加型学習を通して、共に学び、共に考えていく場を創っていきたい。

加えて平和や人権が、関係性や文脈、文化によって、定義を規定したり、実現へのアプローチのためのコンセンサスをとることの難しさについてもふれつつ、だからこそ人間が平和や人権について学ぶことの意義、また、人と人が対話・協働していくことで知恵を生み出していくことの重要性についても考えていきたい。

人権論、平和学・平和研究、それぞれの知見や課題を学びつつ、両者を往還するかたちで現実課題について考えていく。

授業の到達目標

＊平和や人権に関わるキーワードについて、社会の現実課題にふれながら、また、他者と共に学びながら、自身の考えや言葉を身につけること
＊平和や人権に関わるグローバル／ローカルな課題について、その課題と背景に関する知識を身につけること
＊自身が身につけた現実課題とその背景についての知識、また自身の考え方や言葉について、批判的に問いなおしていく重要性を認識すること

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　55%　　講義内で指示のあるテーマ・問いやフォーマットにしたがいレポートを作成し提出。
・　中間ミニレポート（20%）
・　期末レポート（35%）
テーマに対し、講義で経験し学んだ視点や論点を用いて考察し、自身の意見として表現しているかを評価。
●**平常点**　45%　　毎回の授業において自身の理解度や意見などをリアクションペーパーに記入し提出。（各回3%×15回）どの程度学習を進められたのか・深められたのかについて到達目標の視点にそって評価。
●**その他**　0%

備考・関連URL

・　提出課題に対してのフィードバックは第15回に総評として講義内にて行う。
・　本講義は参加型学習・ワークショップなどにみる学習・方法論を用いて行う。
・　必要に応じて、講義内で取り上げる課題・テーマについて、NGO活動や学外のセミナーなどの情報提供を行い、参加者に役立ててもらう。

科目名	社会構築論1　東アジア共生論―隣国との葛藤を乗り越えるために―							
担当者名	川尻　秋生　他／大日方　純夫／金　敬黙／豊田　真穂／森　元孝／柳澤　明／李　成市							
構築	2単位	春学期	木曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

現在、日本と近隣諸国との関係は良好ではない。このような関係になってしまった原因を過去に学び、現状を分析し、将来を展望することは、現代を生きる我々にとって喫緊の課題であると言える。

そこで、本講義では、社会構築論系ならびに東アジアに関心を持つ教員が集まり、過去・現在・未来の3つのクラスターに分けて講義を実施する。すなわち、①日本が東アジアの国々と歴史的にどのような関係を築き、日本が近代化する過程でその関係がどのように変化し、どんな影響を与えたのかという点を検証し（東アジアの歴史を考える）、②現代の日本と近隣諸国との間に横たわっている問題点を洗い出し（東アジアの歴史認識を考える）、③将来、日本がこれらの国々と共生し、より良き関係を築くための方法（東アジアの共生を考える）を、受講生とともに模索したいと考える。

なお、本講義は、社会構築論系ならびに社会構築論の副専攻「東アジア共生論」の導入科目も兼ねている。

授業の到達目標

現在、アジア諸国に対するヘイトをはじめて負の情報が溢れ、一定の支持を集めているようにも思われる。しかし、こうした

見解は、自分で考え、検証したものではなく、マスコミなどによるステレオタイプの言説を鵜呑みにしている場合が少なくない。
本講義では、知識の吸収はもちろん、自分自身で今の東アジアに横たわる諸関係を読み解き、他者の見解に惑わされず、将来への展望についての意見を持つことをめざす。

成績評価方法

●**試験** 40%　クラスターごと（東アジアの歴史を考える・東アジアの歴史認識を考える・東アジアの共生を考える）に小レポートを課します。
●**レポート** 40%　学期末に課します。
●**平常点** 20%　出席点
●**その他** 0%

科 目 名	子どもの参加と学び支援論							
担当者名	阿比留　久美　他／松山　鮎子							
構築	2単位	秋学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本では、1981（昭和56）年に中央教育審議会答申「生涯教育について」が出されて以来、今日まで、従来の学校教育中心的な教育観の組み直しが目指され、その具体的な現れとして、地域社会の中では官民問わず様々な人々により多様な学びの場が創造、展開されてきました。その一方で、現代の子ども・若者の状況に目を向けると、社会経済構造の変化に伴い、子どもの貧困や児童虐待、いじめ、不登校、引きこもりなど、彼らの成長・発達、自立を阻害する様々な問題がますます深刻化しており、教育面からこうした問題にどのようにアプローチしていけるかを考えることは喫緊の課題の一つとなっています。
この授業では、今日の子ども・若者をめぐる社会状況をふまえつつ、子ども・若者の権利や参加、教育、学びといった概念をそれぞれ紐解いていきながら、特に、子どもが若者期を経て大人へと移行していくプロセス全体を支える活動に注目し、その支援のあり方を検討していきます。
授業の中では、受講者自身が支援・教育の方法や技法を体験することを通して、それらの利点や課題を学習していくことを重視します。また、フリースクール・フリースペース、学習支援、プレーパーク、子ども食堂など、社会における様々な子ども・若者に向けた活動のフィールドワークを行ったうえで、グループ発表や討議によってそれらの実践内容をとらえ返し、授業で学んだ知識の理解を深めていきます。それによって、学生が子ども・若者支援の基礎的な知識を習得し、支援者としての基礎力を育むことを目指します。

授業の到達目標

・参加や権利の意味するものを捉え直し、自分の言葉で説明できるようになる。
・子ども・若者を支援する教育－学びとはなにかを自分の言葉で説明できるようになる。
・子ども・若者支援にかかわる専門性の基礎を身につける。

成績評価方法

●**試験** 0%　試験は実施しません
●**レポート** 40%　レポートを作成していただきます
●**平常点** 60%　フィールドワーク・出席状況等を勘案して評価します
●**その他** 0%　特にありません

科 目 名	アジア社会構造論　「満蒙」と日本							
担当者名	柳澤　明							
構築	2単位	春学期	金曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

「満蒙」とは、現在の中国東北地方（マンチュリア）と内モンゴル東部を合わせた概念であるが、この地域が、近代日本の軌跡をたどる上で一つの鍵となることは言うまでもない。そこで、本講は19世紀後半から20世紀前半にかけての「満蒙」の歴史を扱う。ただし、日本を主体とした対外関係史・植民地史として描くのではなく、多民族が複雑に入り組んだ現地社会の変容や、この地域を取り巻く国際関係の推移を基軸として、その中に日本を一アクターとして位置づける視点をとる。講義の展開はだいたい時間軸に沿っているが、平板な概説におちいらないよう、各回に一つの中心的なトピックを設定して、時代を前後に飛び越えながら論ずるスタイルをとる。
本科目は、「ディプロマポリシー」、「カリキュラムポリシー」にいう「講義」に該当する。

授業の到達目標

「満蒙」の歴史に対する全般的な理解を深めるとともに、近代日本の歴史を国際的な文脈の中で読み解く視座を養うことを目標とする。

成績評価方法

●**試験** 0%　実施しない。
●**レポート** 70%　期末に授業内容に関連するレポートを課す。テーマ設定の明確さ、関連する先行研究・資料の読み込みの程度、論理構成、オリジナリティを総合的に評価する。
●**平常点** 30%　授業への参加度による。
●**その他** 0%　特になし。

備考・関連URL

図像資料なども利用して、わかりやすく進めていきたい。

科 目 名	アジアのトランスナショナル関係論　主権国家を超えるアジアは実現するのか？							
担当者名	金　敬黙							
構築	2単位	春学期	金曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

政治面においてはナショナリズムや国民国家の影響力が強く残るアジア地域ですが、経済や文化面においては地域統合や相互依存の動きも活発に見えています。
本講義ではトランスナショナリズムの理論的な側面と実証的な分析を行います。

授業の到達目標

具体的な事象を活用しながら、手触りのある人、モノ、情報、カネの移動と脱国家関係の進展を理解することを意識します。
国家単位に限らず、市民社会や個人、企業などの取り組みを重視することから21世紀における現象を検証します。
国際文化論やトランスナショナル関係論の文脈から分析します。

成績評価方法

出席と毎週の定期課題で70%、レポートや試験で30%の評価を行うことを目安とします。

備考・関連URL

この科目は、キャンパスアジア「多層的紛争解決・社会変革のためのグローバルリーダー共同育成」プログラムの関連科目でもあります。この科目の2単位を含む、計12単位以上のキャンパスアジアプログラム科目（含：北京大学もしくは高麗大学校への留学）を履修・取得すると、キャンパスアジア修了証が授与されます。
キャンパスアジアプログラムの詳細：https://www.waseda.jp/campus-asia/

講義

科目名	アジアにおける人間の安全保障　「人間の安全保障」をアジアの視点から再考する							
担当者名	金　敬黙　他／忍足　謙朗／川崎　哲							
構築	2単位	春学期	木曜日	6時限	1年以上	オープン科目	合併科目	—

授業概要

今日、アジア地域はさまざまな課題を抱えています。紛争、暴力、環境破壊、格差などのアジェンダは一国では解決できない問題です。同時に、従来の国家の安全保障でも取り組めない課題になります。したがって、国家の安全保障と人間の安全保障の両方を視野に入れた「共通の安全保障」をテーマにしつつ、理論と実践的な分析力を高めることをねらいとします。

授業の到達目標

欠乏からの自由と恐怖からの自由という「人間の安全保障」の理論的な取り組みに加え、アジア地域の共通課題について実務専門家の講師陣とのケース分析型の授業スタイルを通じて、実践力と想像力・創造力を育むことを目指します。とくに、2020年はオリンピックがあり、関連テーマを扱います。

成績評価方法

毎回の授業と関連した内容で作成するレポートで70%の成績をつけます。
出席を含む平常点を30%としてします。

備考・関連URL

この科目は、キャンパスアジア「多層的紛争解決・社会変革のためのグローバルリーダー共同育成」プログラムの関連科目でもあります。この科目の2単位を含む、計12単位以上のキャンパスアジアプログラム科目（含：北京大学もしくは高麗大学校への留学）を履修・取得すると、キャンパスアジア修了証が授与されます。
キャンパスアジアプログラムの詳細：https://www.waseda.jp/campus-asia/

科目名	サステナビリティ論　世界で起きていること、早大生ができること							
担当者名	高野　孝子							
構築	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「未来」はいつの時代も不透明で予測不能なものだ。その中で、人は懸命に前を向いて歩いていく。あらゆる将来設計や夢も、この社会が、変化はあっても基本的にはこのまま続いていくことが前提だ。しかし実は今、その基盤がぐらつき始めており、文明の存続すら危ぶまれている。なんとか延命をするために各国政府は様々な対応を取ろうとしている、いや、そうすべきであろう。

このことを表現する言葉が「サステナビリティ」だ。

この授業では、「サステナビリティ」の概念について理解するとともに、これが重要な議題として国際政治の舞台に登場してきた背景をたどる。それが地球共通の課題であり、環境課題と経済、社会、政治、文化の密接な関係性について認識する。

関連して、地球の現状を、気候変動やエネルギー、汚染、資源と廃棄物、生物多様性、食料と水、安全や経済格差などから概観する。遠い彼方で起きている、自分の日常とは無縁と思われる問題が、実は自分とつながっていることを、幾つかのトピックを取り上げて検討する。

持続可能な社会を構築するためにどのようなことが必要なのか、「経済成長」や「開発」など、一般的に「良い」とされているコンセプトを多角的に考察し、価値観を問い直す機会を持つ。とても大きすぎて自分には何もできないと思うような地球規模のテーマに関して、実際に大学生たちが行動を起こした例などを紹介し、これまで見てきたさまざまな課題に対し、日常で一人でできるアクションは何か、同じ志を持った何人かでできることは何か、何に対して何ができるかを、グループディスカッションを通して考えていく。

広い視野で価値観の転換も含めて考察し、行動へのスタートラインに立つのがこの科目の目的だ。

授業は導入的ではあるが学際的で、社会学を基盤として、生態学や開発学、地理学、人類学などに及ぶ。授業運営は一方通行の講義ではなく、課題を踏まえてのディスカッションや発表など、履修生の積極的な参加が必要となる。

授業の到達目標

「サステナビリティ」の議論が起きる背景と現代までの流れを知る。概念について理解し、「持続可能な開発」との違いを認識する。世界の現状を理解し、自分の日常との関連について意識できるようになる。日常のできごとについて、多角的な視点を獲得する。

成績評価方法

●**試験**　10%　　15回授業時の教場レポート試験における理解度
●**レポート**　10%　　調査課題など
●**平常点**　80%　　出席、授業への積極的参加、提出課題（毎回の授業後、指示された題目に沿ってオンラインプラットフォームから提出する）
●**その他**　0%

備考・関連URL

＊履修生の関心、進行状況によって、柔軟に授業内容を変更していく。＊4回以上の欠席は単位を認めない。

科 目 名	社会実践論　課題解決のアクターたち							
担当者名	高野　孝子							
構築	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

Think globally, act locallyという表現は100年以上前からあります。社会も人々も、異なるレベルで多種多様な課題を抱えている現代、様々な立場にいる個々人が、まさに地球的な視野を持ち、足元で課題解決のために行動することが求められています。

かつては国や自治体が、課題解決の主体と見なされていましたが、「新しい公共」という概念が日本でも登場し、異なるアクターらが時には連携しながら活動をしています。

この授業では、近年社会実践の主体としての役割を担うNPO／NGO、社会的企業、社会起業家、企業のCSRなどを取り上げます。それらが登場してきた歴史的背景や現状、それらを支える制度などに触れ、どのような条件が支えるために必要なのか、課題は何か、検討していきます。

後半は、社会実践をしている人へのインタビューや、履修生自ら、それぞれなんらかの「社会実践」を経験してもらい、そこから見えてくるものについて検討を重ねます。小グループで課題別に、社会実践のあり方を検討し、意見交換します。

どのような目標のもと、どのような社会実践があり、何が達成できているでしょう。

授業のアプローチは原則として参加型体験型です。小グループでのディスカッション、クラス全体の討議、各自の調査と発表などを取り入れます。

授業内容と進行は、履修生の数や状況に応じて変更します。

授業の到達目標

課題解決のためのアクターにどんな形があるのかを理解します。特にNPO／NGOの歴史と特徴、現状を知り、他のセクター（行政、企業）との関係を学びます。現実に体験することを通して、社会課題に対する理解や、社会実践とは何かについて考察します。

成績評価方法

●**試験**　10%　　最終回の教場レポート
●**レポート**　20%　　インタビューと実践課題の評価
●**平常点**　70%　　授業への積極的参加、各講義に対するレスポンス（毎回終了時に指示された題目に沿って、Waseda Moodleから提出する）
●**その他**　0%

備考・関連URL

＊4回以上の欠席は単位を認めない。

科 目 名	近代イギリス帝国のネットワーク：ヒト、モノ、情報の移動と帝国							
担当者名	日尾野　裕一							
構築	2単位	春学期	水曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本授業では、近世・近代イギリス大西洋世界を主な対象とし、本国と植民地のあり方について17世紀、18世紀の言説を明らかにしつつ、当時のイギリス帝国における人の移動、通商、情報網といったものを検討していきます。それにより、当時のイギリス大西洋帝国において、多様なネットワークを媒介に本国（ブリテン島）と諸地域（北米大陸、西インド諸島、アフリカ）とが双方向的に結びついていく様相を示していきます。なお、学生の興味関心や理解度に応じて、授業内容は小幅な変更が加えられることがあります。

授業の到達目標

イギリス大西洋世界についての知識を獲得する。
近世・近代イギリス帝国の持つ多面的、重層的、双方向的な性格についての理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第15回目の授業にて、理解度を確認するための試験を実施します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　出席とコメントシートの内容から総合的に評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	近代ヨーロッパと海：地中海から太平洋まで							
担当者名	日尾野　裕一							
構築	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

古来より海は障壁であるとともに回廊として機能してきました。本授業では、ヨーロッパ世界と海との関係を主に近世・近代を対象に取り扱っていきます。ブローデルの『地中海』やベイリンの『アトランティック・ヒストリー』などを用いつつ、海域史（maritime history）の展望や理論について取り扱うとともに、地中海から太平洋まで様々な事例を取り扱っていきます。それにより、海と地域、人々との関わりについて理解を深めていきます。なお、授業の内容については学生の理解度、関心に応じて小幅な変更が加えられることがあります。

授業の到達目標

海域史についての基本的な知識を得る。
海を媒介にした国家、地域、人の歴史についての理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　授業内容を踏まえた課題に基づいたレポートを課します。
●**平常点**　30%　　出席及びコメントシートの内容から総合的に評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	哲学専門講義1（ドイツ哲学／現代哲学） 哲学的歴史理論の射程							
担当者名	鹿島　徹							
哲学コース	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「歴史」をめぐる理論的諸問題を考察し、現場で作業を行う歴史研究者との対話を試みながら、ひるがえって「歴史」のもつ人間の生への意義を明らかにする営み ― それがこの講義で言う「哲学的歴史理論」です。その試論を講義担当者はすでに『可能性としての歴史』（2006年）と『危機における歴史の思考』（2017年）において公にしました。それらの成果を整理して伝えるとともに、未解決の問題に新たにアプローチするべく、この講義は行われます。

講義は全体としておおまかに3部からなります。まず「歴史」「歴史意識」という基本的な語彙について、リクールらの先行研究を紹介しながら説明します。次いで文学史・社会史・思想史の実証研究の具体的成果を取り上げて、現場の歴史研究・歴史叙述をめぐる理論的諸問題を扱ってゆきます。そのうえで、20世紀に展開された物語論的歴史哲学（ダントーほか）の主要論点を概説し、ハイデガーの歴史性論、マッキンタイアの物語的自己性論の観点をも導入しながら、ひとが生きることにおける歴史の機能・意義について論じます。

哲学が自明化されたものを改めて問い直す営みであるとするなら、「歴史」という自明な、しかし実のところはその内実が不明な事柄について考察することは、哲学のひとつの具体的な営みでありましょう。この意味での哲学的な試みを、この講義では展開したいと思います。

授業の到達目標

「歴史」を考えるにあたっての「哲学的思考」の意義について、一通りの理解をえること。

成績評価方法

中間試験および期末教場試験による

講義

科 目 名	哲学専門講義2（英米哲学／現代哲学） 科学哲学入門							
担当者名	吉田　敬							
哲学コース	2単位	春学期	水曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義の目的は、科学と疑似科学の境界線はどのように引くことができるのかという線引き問題を手がかりに、科学哲学の基礎を学ぶことである。講義で扱われる具体例としては、創造科学、占星術、超能力研究、代替医療などが挙げられる。こうした具体例の検討を通して、帰納主義、反証主義、パラダイム論、科学的実在論、反実在論などの科学哲学上の重要な立場を学んでいく。

授業の到達目標

疑似科学の検討を通して科学とは何なのかを理解し、両者の違いを自分の言葉で説明できるようになること。

科学哲学上の重要な立場を学び、その長所と短所を自分の言葉で説明できるようになること。

成績評価方法

教場試験（100%）による。なお、出席点とはしないけれども、出欠確認回数の3分の2以上の出席が単位取得には必要である。

科 目 名	哲学専門講義3（中世哲学） なぜ一つのものだけではなく多くのものが存在するのか							
担当者名	小山田　圭一							
哲学コース	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この世界にあるあらゆるものは、どんな観点からどのように捉えようと、存在するものである。つまり、存在するということは、どんなもののどんな側面にも行き渡っている。存在することが行き渡っていないものがあるとすれば、それは存在していないものである。それでは、なぜ、すべてが単一の存在するものであるのではなく、互いに区別された多くのものとしてあるのであろうか。言い換えれば、この世界が、単一の存在者からなるのではなく、多くの異なる存在者からなっているのはなぜか。このような疑問に、我々は容易には答えられない。そして容易に答えられないことが判ったとき、区別された多くのものが現に存在しているという事実が、我々にとって驚くべきことであることが判る。ところで、哲学は驚きから始まる（プラトン、アリストテレス）。そこで、この授業では中世哲学の知見に基づき、多くのものが存在することをどう説明できるのか、考えてみたい。その際、中世哲学の重要概念である、存在の一義性やアナロギア、存在の付帯性、絶対的に考察された本性などが、上述の問題に関して理論的に有効な概念であることが示されことになる筈である。

授業の到達目標

副題に掲げた問題に対する考察を通して、中世哲学における代表的な形而上学的理論を学習し、各自が哲学的な問題に対処するのに必要な知見を得るための参考や補助として活用できるようにする。

成績評価方法

- **試験**　90%
- **レポート**　0%
- **平常点**　0%
- **その他**　10%

科 目 名	哲学専門講義4（フランス哲学／現代哲学） 現代における思考のプラクシス							
担当者名	西山　達也							
哲学コース	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

私たちは、なぜ、どのような時に、「思考する」という行為をおこなうのだろうか。

なぜ私たちは、時として思考停止に陥り、あるいは突然、何かに取り憑かれたように思考を開始するということがあるのだろうか。思考はそもそも何を〈為す〉のだろうか。

フランス近現代の哲学は、思考するという行為をめぐって、たえず自己反省を積み重ねてきた。そのよく知られた例がデカル

トの「コギト」であり、パスカルの「パンセ」であるが、こうした探求は現代哲学において発展的に継承されている。本講義においては、現代フランスの哲学者たちが「思考というプラクシス」をめぐって展開した様々な学説を概観する。講義の第一の目標は、これらの学説を理解し、比較検討する技法を身に着けることにあるが、同時に、それらがいかなる歴史的文脈において形成されたのか、哲学以外の領域（人文科学の隣接領域、自然科学、芸術、宗教思想、等々）からいかなる影響を受けたのか、そして新たな時代にいかなる発展可能性を有するかという点にも意識的でなければならない。

授業の到達目標

20世紀フランス哲学の特殊性と普遍性を学ぶことで、混沌とした現代世界を考え抜く思考力を身に着けることが最終目標となる。

成績評価方法

授業は基本的に講義形式で進めるが、ミニアンケートや授業終了時に提出するレスポンスカード、授業時の積極的な質問、討議への参加も成績評価の対象とする。

科 目 名	哲学専門講義5（宗教哲学／キリスト教思想）							
担当者名	西村　雄太							
哲学コース	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「宗教哲学」とは、人間の理性によって宗教という現象を理解しようとする哲学の一分野です。すでにこの言葉そのものに語義矛盾を感じる人も多いでしょう。というのも、一般に宗教の原理は信じることにあり、哲学の原理は理解することにあるからです。

本講義では、この一見矛盾するような「宗教哲学」という営みについて、その内実を明らかにするため、様々な側面から検討を加えていきます。その際、常に問題となるのが、絶対的・無限的存在としての「神」という観念です。有限的存在でしかなく、その有限性により絶えず心の騒乱を覚えざるを得ない人間が、最終的に選ぶべき最善の道は何か、その点について哲学することが本講義の目的です。

授業の到達目標

宗教の存在理由や意義、あるべき宗教の在り方などについて説明できるようになる。
西洋哲学の歴史において、なぜ神が常に問題とされてきたのかを理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　以下の点を評価の基準とします。 1. 授業で取り扱った内容を踏まえている。 2. 関連する文献（先行研究）を独自に調べている。 3. 文献（先行研究）に基づき、自らの主張を提示している。
●**平常点**　30%　　3分の2以上の出席を前提とし、リアクションペーパー等の内容を評価します。（出席率は評価に影響します）
●**その他**　0%

科 目 名	哲学専門講義6（古代ギリシア哲学）　アリストテレスの自然学と魂論							
担当者名	岩田　圭一							
哲学コース	2単位	秋学期	水曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

アリストテレスの自然学と魂論を取り上げ、「質料－形相」、「可能態－現実態」の対概念がそれぞれの問題領域においてどのように用いられているかを『自然学』第1巻、第3巻、『魂論』第2巻、第3巻のテクストに基づいて見ていく。自然学に関しては、生成一般に関する説明と運動の定義を取り上げ、上記の対概念の基本的な用法を理解する。魂論に関しては、魂に関する一般的な説明、魂の諸能力の一つである感覚能力に関する説明、共通感覚に関する説明、知性に関する説明を取り上げ、アリストテレスの認識論について理解を深めるとともに、上記の対概念が魂論の文脈においてどのように用いられているかを注意深く見る。『魂論』は難解なものとして知られているが、さまざまな解釈の可能性を示しつつ、一定の解釈を提示することにしたい。

授業の到達目標

アリストテレスの自然学と魂論において用いられる重要な対概念をテクストに即して理解し、多様な解釈の可能性に注意しながら理解する。

成績評価方法

●**試験**　50%　　教場で理解度の確認を行う。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　出席状況、授業への取り組みによって評価する。 初回の授業で、電子機器の使用に関する注意事項を説明する。
●**その他**　0%

科 目 名	西洋思想史1（古代）　古代ギリシア哲学							
担当者名	岩田　圭一							
哲学コース	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

古代ギリシアの哲学者たちの思想を取り上げ、彼らの問題意識に注意しながら古代ギリシア哲学の全体像を明らかにする。この世界の原理は何か、真に存在するものは何か、人間はいかに生きるべきか、幸福とは何かといった哲学の諸問題に、古代ギリシアの哲学者たちがどのように取り組み、どのような答えを出しているのかを、各哲学者の学説に即して見るとともに、彼らの学説が先行哲学者からどのような影響を受け、また後の哲学者にどのような影響を与えているかを考察する。この講義では、まず、ミレトス派から多元論者に至るまでの自然哲学を取り上げ、その上で、ソクラテス、プラトン、アリストテレスの哲学を詳しく見ることにする。

授業の到達目標

古代ギリシアの哲学者たちがいかなる問題意識をもってそれぞれの学説を提示したのかを理解し、哲学的思考の基礎を身につけることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　50%　　教場で理解度の確認を行う。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　出席状況、授業への取り組みによって評価する。 初回の授業で、電子機器の使用に関する注意事項を説明する。
●**その他**　0%

科 目 名	西洋思想史2（中世）　西洋中世哲学史概説							
担当者名	高橋　厚							
哲学コース	2単位	秋学期	火曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

西洋中世（四世紀～十五世紀）の哲学について、主要な哲学者を取り上げながら概説する。中世哲学の一般的な講義では、十三世紀のキリスト教神学者たちの作品を頂点としたキリスト教神学と古代ギリシア的な形而上学との総合が論じられる。しかし、近年の研究では、自然哲学や物質理論、また古代末期の哲学やアラビア哲学の遺産の継承、さらに過去の研究では衰退期とすら考えられていた十四世紀からルネサンス期にかけての思想の展開なども盛んに議論の対象となっている。そのような研究の現状を踏まえ、「中世哲学とは何か？」という問いを幾度も反芻しつつ、中世哲学の主要な流れをよりダイナミックな形で概観していく。

授業の到達目標

西洋中世哲学の人名や概念を単に覚えるのではなく、中世において人間の「知」がどのような歴史的過程を経て生まれてきたのかを理解し、かつ人に説明できるようになることを目指す。その結果として、物事を理論的かつ体系的に分析し説明する習慣を身に付けることができる。

成績評価方法

学期末レポート: 60%
平常点評価: 40%

「レポート」は「感想文」と異なります。書き方を習得していない学生は、河野哲也（著）『レポート・論文の書き方入門』や類書を参照し、事前に書き方を学習してください。

備考・関連URL

シラバスに記載された内容は受講生の関心や理解度に応じて、講義開始後に変更となる場合があります。

科 目 名	西洋思想史3（近代）　パッションとは何か：その歴史と現在							
担当者名	西山　達也							
哲学コース	2単位	春学期	木曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

「パッション」とは情熱、熱意、激情、情念、情欲、受苦、受難といった多様な語義をもつ語であり、古代ギリシア語の「パトス」に由来する。それは精神の受動的な状態をあらわすものと一般には定義されているが、情熱や熱意という語義からも分かるように、より能動的・活動的な側面もあわせもっている。西洋哲学は「パッション」というこの不思議な現象を問い続けてきた。

この問題を扱う部門として伝統的に「情念論」という分野が存在し、古代以来の哲学における重要な部門をなした。

現代哲学においても、パッションをめぐる問いは、論理的思考と感情の関係、自己／他者、精神／身体、人間／動物の関係、自由意志の定義、共感の限界といった諸問題に直結している。

本講義では、（1）古代・中世の情念論の基本的な枠組みと、（2）これを継承した近代初期の情念論の考え方を概観しながら、（3）現代の哲学によって情念論がどのようなかたちで刷新されているかを検討し、「パッション」をめぐる思考の新たな可能性を探究する。

本講義を通じて、西洋思想の歴史における蓄積を引き受け、新たな時代の中で発展させる力を習得することを目指す。

授業の到達目標

西洋近代哲学史の様々な学説を理解し、比較・吟味する能力を身に着ける。
近代哲学において特定の問いがどのように展開し、現代的な課題として継承されているかを理解する。

成績評価方法

授業評価は基本的に期末レポートによる評価とする（8割程度）。
授業中に提出するミニアンケートや授業終了時に提出するレスポンスカード、授業時の積極的な質問、討議への参加も成績評価の対象とする（2割程度）。

科 目 名	西洋思想史4（近現代）　分析哲学入門							
担当者名	鈴木　雄大							
哲学コース	2単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

分析哲学の基本的なテーマを概観していく。本講義では、過去の哲学者の思想を理解すること（人ベース）よりも、様々な哲学的テーマをめぐる議論を理解し（テーマベース）、自らの哲学的立場を持つことを重視する。

本講義で扱うテーマは、形而上学（存在論）、認識論（&知覚の哲学）、言語哲学、心の哲学、倫理学、行為論などである。「分析哲学」といっても、哲学の中の特別な一分野を指すのではなく、国際的にはスタンダードになりつつある哲学のスタイルを指す。そのスタイルとは、「思考を明晰な言葉で表現し、論理性を重視する」という、学問の一般的な条件に忠実であることである。

授業の到達目標

「思考を明晰な言葉で表現し、論理性を重視する」という態度を、哲学を通して身につける。哲学は、ともすれば「深遠で難解」というイメージを持たれがちだが、本来は求められさえすれば、誰にでも分かる明晰な言葉で説明可能なはずのものである。本講義では、哲学を通して、たとえば以下の一般的な議論能力を身につけることができる。

① 必要十分条件を挙げることによる概念・事象の分析や、それに対する反例の提示。
② ある主張に対し、それを演繹する前提を明示することや、その前提の一部を否定すること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　65%　　学期末にレポートを課し、その内容で評価します。
●**平常点**　35%　　講義ごとにコメントを書いてもらい、その内容で評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	美学1　藝術と哲学							
担当者名	高橋　陽一郎							
哲学コース	2単位	春学期	金曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

その昔、画家の岡本太郎がテレビCMで語った「藝術は爆発だ」という言葉が日本中に浸透したことがあった。この「浸透」自体、藝術をもっぱら情緒的に考えがちな多くの人々の藝術イメージと合致した結果であったといえよう。もちろん藝術は感情や情念の産物でもある。しかしそれだけで出来上がる藝術は存在しない。まず論理的で厳格な技法があり、さらに同時代の哲学・思想からの巨大な影響がある。この講義では、これらのうち後者、すなわち各時代の藝術に大きな影響を与えた哲学思想の側から、藝術を考察してゆく。扱う時代は、近代（ルネサンス）から現代までとする。

授業の到達目標

受講者は、本講義を受講することによって、(1) 藝術史が思想史と内容的にパラレルな関係にあることを知識として獲得することができ、ついで (2) 受講者みずからも、藝術をたんに感情的・感覚的に享受するのではなく、思想の側から理知的に（しかも場合によっては感情的・感覚的に享受するよりも容易に）理解する方途を学びうる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　学期中に課す2種類のレポート
●**平常点**　40%　　授業の出席状況
●**その他**　0%

備考・関連URL

なし

科 目 名	哲学1							
担当者名	橋詰　史晶　他／峰尾　公也							
哲学コース	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

現象学とは、人間の根源的な生に立ち戻ることによって学問を基礎づけようとする哲学的方法論である。現象学は20世紀以降の哲学の歴史を理解するために必須の知的教養であるのみならず、今日においても様々な哲学的問題にアプローチするための重要な方法であり続けている。本講義では現象学の系譜を辿りながら、価値、自由、他者、身体など様々なテーマを取り上げる。後半では特に、哲学史的背景にも配慮しつつ様々な哲学者の時間論を扱う。

橋詰：まず現象学の創始者であるフッサールの思想を通じて、現象学の基本的な枠組みを学ぶ。その後、シェーラー、サルトル、メルロ＝ポンティという三人の現象学者を中心に、現象学の展開を見ていく。

峰尾：アリストテレスの提起した「時間とは何か？」という問いに、彼以降の哲学者や現象学者たちがどのように返答してきたのかを見て行くことで、西洋哲学における時間論の歴史をハイデガーを中心に辿っていく。

授業の到達目標

現象学を中心とする西洋哲学の基本的な用語法を身に着け、様々な学説を理解する。そしてこれらの学説における多様な論点とその相互連関を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　70%　　期末レポートに基づき評価する。
●**平常点**　30%　　出席のほか、毎回提出するリアクションペーパー上での意見や感想なども評価に含める。
●**その他**　0%　　その他の評価基準は設けない。

科 目 名	倫理学1　倫理学入門（倫理学とは何か）							
担当者名	御子柴　善之							
哲学コース	2単位	春学期	木曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

倫理学は哲学の一分野です。したがって、倫理学に関わることは、哲学的思索に関わることです。次に、倫理学の対象は道徳・倫理です。哲学は道徳・倫理に向かって問いを発するのです。いったい道徳・倫理とは何なのか、いったい道徳には誰にでも共有できる根拠があるのか、と。したがって、倫理学は道徳＜を＞語るものではなく（それを語ることを「説教」と言います）、道徳から距離を取り、道徳＜について＞思索し語るものです。他方、倫理学は実践の学として、私たち自身が「何をすべきか」を問うものでもあります。その点が哲学の中でも理論的な諸分野と異なるところです。

この講義では、まず以上のような倫理学の性格を考えた上で、それを他の諸学との関係から裏付けます。さらには、あらゆる倫理思想の根本問題である幸福・自由・善悪について論じます。特にこの講義では、道徳と自由の関係を考えていきます。それは、私たちが日常的に前提している自由とはかなり異なる自由観へと私たちを導くでしょう。

この倫理学1は、哲学的倫理学の立場から、抽象的な問題を問い抜くことを課題としますが、問題の所在は実はたいへん身近なところにあるので、受講生が自分自身に即して考えることができれば、けっして難解なものにはならないはずです。そのための手がかりとして、現代社会の具体的な倫理的問題を考える授業を挿入する予定です。たとえば、生命医療倫理の話題、環境倫理の話題、企業倫理の話題などです。

授業の到達目標

「道徳とは何か」、「道徳には普遍妥当的な根拠があるのか」という問いに対して、それを論じるための手がかりを受講生が自分のものにすることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　95%　　理解度を確認するための試験です。
●**レポート**　0%　　レポートは課しません。
●**平常点**　5%　　授業回数の三分の二以上の出席を成績評価の条件とします。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連ＵＲＬ

毎回配布する出席カードの裏に、授業に対する質問・感想・要望を書いてください。代表的な質問に次回の授業でお答えする予定です。

関連URL: 特になし。

講義

科 目 名	宗教学2　神をめぐる哲学思想							
担当者名	小村　優太							
哲学コース	２単位	秋学期	月曜日	４時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義では、古代ギリシア、後期古代、アラビア、中世ラテン、近世の哲学を中心に、神や第一原因といった根拠にまつわる哲学思想を幅広く取り扱う。

各回は時代ごとではなくテーマごとに区切られている。そもそもこれらの時代に不慣れな受講者も多いと考えられるので、受講するために最低限必要と思われる概念を第2回と第3回「基本概念」で学ぶ。その後は「論理学」、「自然学」、「数学」、「形而上学」といったテーマを設定し、各回ごとに、それぞれの分野で古来から論争されてきた問題を取り上げ、検討する。

各テーマを見る限り、一見するとあまり神が関係していないように思われるかもしれないが、古代から近世に至るまで、あらゆる学問の根拠には神（または非宗教的な第一原因）が陰に陽に控えているものである（もしかしたら、現代の学問においても神の居場所は消え去っていないかもしれない）。

なぜそのような問題が問われたのか、なぜそのような主張が生まれたのかは、哲学史の概説書などを読めば書いてあることである。しかしその根源にまで遡ってみると、図式化された構図からは見えてこないものが見えてくるものである。

この講義では、必ずしも古代・中世の哲学に親しんでいない受講者を想定しているので、事前の教科書的な知識は要求されない。むしろ問いそのものに触れて、それを当時の人たちと同じく考えてみる知的態度のみが要求される。

講義の各回では、最初に前回の講義のリアクションペーパーをいくつか選んで紹介する。その後それぞれの講義内容に入り、終了10分前にリアクションペーパー執筆の時間を取る。

授業の到達目標

・各回ごとに提示された問題をその根拠、成り立ちから理解し、大きな思想史の流れのなかに適切に位置付ける。
・古代から中世における宗教と哲学の関係性を学ぶことにより、思想史にたいする立体的な視点を手に入れる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　受講人数が多くなった場合はレポートの代わりにCourse N@viまたはWaseda Moodle上で試験を実施する。レポートでなく試験になった場合は第1回目の講義にその旨を指示する。
●**平常点**　30%　　授業への参加、リアクションペーパーの執筆（内容は問わない）など。
●**その他**　0%

科 目 名	インド哲学特論　大乗仏教「空」思想の形成と展開							
担当者名	佐藤　晃							
東哲コース	２単位	春学期	木曜日	３時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

「色即是空　空即是色」という一節、またこれが示される『般若心経』という仏教の経典名を耳にしたことのある人も多いでしょう。実に、ここに示される「空」は、インドで誕生した大乗仏教の代表的な思想の1つと言えます。

大乗仏教の「空」思想は、1世紀頃から登場したとされる般若経典の中に現れ、その理論化は2世紀頃のナーガールジュナによってなされます。その後インドでは、彼の主著『中論』を拠り所とする「中観派」という学派が形成され、「空」とは如何なる概念か、それを悟るにはどうすべきか（認識論、修行論、救済論）、また他者に語る方法はどうあるべきか（論理学、論争術）等の点が議論されました。さらに「空」思想は、中国、チベット、そして、日本等の周辺諸国・諸地域へも伝播し、インドとは異なる特徴的な思想的展開を見せるに至ります。本講義では、インド大乗仏教における「空」思想の形成及び展開を、中観派思想史に則して理解することを目指します。また、中国、日本、チベットといった周辺の諸国・諸地域の議論にも触れていきたいと思います。

授業の到達目標

インド大乗仏教の根本的な思想である「空」思想を理解し、その展開を思想史的に理解できるようにする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　60%　　学期末にレポートを課す。講義内容に基づき、各自テーマを設定して執筆する。詳細は教場で指示する。
●**平常点**　40%　　原則として3分の2以上の出席を前提とし、授業への取り組みを総合的に評価する。
●**その他**　0%　　特に無し。

科 目 名	中国哲学特論　陽明学入門							
担当者名	大場　一央							
東哲コース	2単位	春学期	水曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講は、王陽明（1472～1528）の思想について、「心即理」や「知行合一」などの代表的な議論をながめながら理解し、「陽明学」に関する大まかなイメージを捉えていくことを目指す。

この作業を通じて、陽明学が生まれた母胎である朱子学、あるいは近世儒教についても学ぶことになるし、また、それらが現代の「常識」を形作っていることを発見できるかもしれない。そうした視野で陽明学を楽しみながら学んでもらえればと思う。

授業の到達目標

王陽明の思想について基礎的な理解を形成する。

成績評価方法

●**試験**　60%　　毎回の講義ごとに、理解度を測る小テストを実施する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　毎回の講義ごとに、理解度を測る小テスト実施するが、その論述中で積極性を評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	日本思想特論　日本仏教諸宗の思想							
担当者名	大久保　良峻　他／成瀬　隆順／日比　宣仁／柳澤　正志							
東哲コース	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本仏教は、奈良時代に法相宗、三論宗、華厳宗、律宗、倶舎宗、成実宗という南都六宗が学派として成立した。それらは、学問としての価値を持っていたが、現在に宗として伝わっているのは、法相宗・華厳宗・律宗である。そして、平安時代に至ると天台宗と真言宗という二宗が台頭することになる。更に、天台宗からは鎌倉仏教の祖師達を輩出し、現代に至っている。現在の宗派は極めて多彩であるとしても、同時に、仏教の基本的区分からは幾つかに分類される。本講義では、現在に生きる宗派を念頭に置きつつも、必ずしもそのことのみにとらわれず、学派的な宗の意義を考慮した上で、三人の担当者が、それぞれ二宗の解説を行う。本年度は、浄土宗・浄土真宗・日蓮宗・倶舎宗・律宗・法相宗を解説する。（コーディネーター、大久保良峻）

授業の到達目標

日本仏教は、一口に仏教と言うとしても、各宗が独自の特色ある教義を提唱しているのであり、基本的な思想を理解する。そして、それぞれが、日本の思想や文化に対して多大な影響を与えてきたことについての知識を持つことも目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　70%　　講義の内容に関するテーマを提示する。
●**平常点**　30%　　参加状況を考慮する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	東洋思想特論　中国仏教史							
担当者名	柳澤　正志							
東哲コース	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

仏教はインドから中国へわたり、朝鮮半島、日本へと広がった。仏教史全体を俯瞰する時、中国への仏教伝来は重要な出来事であった。それは、中国への仏教伝来は単に一国にとどまらず、朝鮮半島、日本といった漢字文化圏の国々へと広がりを見せたからである。また、仏教の受容は漢訳経典によったのであり、漢字という共通言語を通じて、日本、中国、朝鮮半島の僧侶はそれぞれの国の仏教思想を取り入れることができたのである。現代日本の仏教も、その根底にはあるのは中国仏教である。

中国仏教の発展は代々の王朝の意向に左右された。隋唐の時代には皇帝の庇護の下、多くの仏教思想家を輩出し、諸宗の成立を見た。一方、外来宗教である仏教を拒絶する為政者もいたのであり、その反作用は破仏を呼ばれる仏教排斥として現れた。

外来思想としての仏教の受容は仏典の漢訳を基点に行われた。漢訳経典の習学は中国語による仏教の受容であり、それは中国人による思索を促し、中国独自の仏教文化の醸成を促した。その仏教解釈においては儒教・道教といった中国独自の思想の影響や共通点も見受けられる。

本講は単に中国の仏教史として捉えるのではなく、漢字文化圏の中心的存在である中国における思索活動の一部としての仏教という視座から講義を行う。特に、仏教伝来から訳経、多くの名僧を輩出した隋唐から宋代までを中心に、時代を追う形で授業を進める。

授業の到達目標

中国仏教の伝来から、諸宗の成立、発展という歴史的な流れを把握する。また、多く宗派が成立したが、主要な宗派の思想的特色を理解することを目指す。

成績評価方法

●**試験**　60%　　論述問題と語句説明の記述試験を行う。教科書とノートのみ持ち込み可。
●**レポート**　0%
●**平常点**　20%　　参加状況を考慮する。
●**その他**　20%　　毎回、授業の最後に出席確認も兼ねて簡単なコメント記入を求める。その記述内容により評価する。

科 目 名	インド思想史　インドの諸学派における理論と実践							
担当者名	山部　能宜							
東哲コース	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

多くの日本人にとってもっとも馴染み深いインド思想は仏教思想であろうが，仏教思想がそれを取り巻くインド思想の大きな流れの中から出てきたものであることもまた論を俟たないところである．ヴェーダの権威を承認する主流の諸学派とそれを否定

する仏教・ジャイナ教のような非主流の諸学派の間の議論の応酬を一つの軸としてインド思想は展開してきた．そのような諸学派の思想の概要を紹介する．インド思想のもつ哲学的な側面と信仰的な側面の双方に注意を払う。なお、一部で性的なイメージ、また戦闘のイメージに言及することがある。

授業の到達目標

インド諸学派における考え方の違いを理解し，そのことを通じて仏教の諸論書に展開される議論の背景をつかむ．

成績評価方法

●**試験**　100%　　講義内容を消化し，それを自分の言葉で説明できているかどうかを基準に評価する．
●**レポート**　0%　　今回は課さない．
●**平常点**　0%　　今回は課さない．ただし，休講課題を課した場合は，平常点として評価に含める．
●**その他**　0%　　今回は課さない．

備考・関連ＵＲＬ

シヴァ信仰との関係で、一部性的なイメージ（リンガ崇拝）に言及することがある。

講義

科 目 名	中国思想の世界　中国古代思想史							
担当者名	仙石　知子							
東哲コース	２単位	秋学期	金曜日	４時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

中国思想の世界のうち、中国古代に焦点をあて、先秦諸子から儒教・道教・仏教の三教が融合していく唐の思想までを概観します。

授業の到達目標

中国古代思想の概略を把握したいです。

成績評価方法

●**試験**　0%　　ありません
●**レポート**　80%　　授業内容について、レポートを求めます。
●**平常点**　20%　　積極的に授業に参加してください。
●**その他**　0%　　ありません。

科 目 名	仏教漢文の世界							
担当者名	大久保　良峻							
東哲コース	２単位	春学期	金曜日	５時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

インドで生まれた仏教は、その言語が中国語に翻訳されることで新たな展開を遂げることになった。漢字で表記された仏教語は、日本に伝えられて日本語ともなり、現在でも日常語として多くの語が用いられている。要するに、仏教は中国において漢字の意味を豊かにし、それを日本人は引き継いだのである。そして、その漢字で表された思想は、日本の文化の核心部分となった。本講義はそういった観点から、言語や思想に注目しつつ仏教漢文の世界を探索することを目的とする。幾つかの著名な経典の講義も行う予定であるが、仏教と日常生活との関わり、仏教の人生観、自然観等というような見地から問題点を探ることにしたい。仏教漢文の読み方にも論及することになる。毎回テーマを決め、ほぼ一回で完結するかたちで講義する。

授業の到達目標

様々な仏教漢文を読むことにより、それらが日本人の思索や文化に与えた影響を考えられるようにする。

成績評価方法

●**試験**　70%　　点数に応じて評価する。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　30%　　参加状況を考慮する。
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連ＵＲＬ

大正新脩大藏經テキストデータベース
http://21dzk.l.u-tokyo.ac.jp/SAT/

科 目 名	仏教概論　禅定を軸とした仏教思想の展開について							
担当者名	山部　能宜							
東哲コース	２単位	春学期	金曜日	２時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

仏教は釈尊の菩提樹下での禅定（坐禅）による正覚を原点とすると伝えられており，その後の仏教の展開においても禅定は重要な位置を占めている．本講義では，禅定を軸として仏教の展開を実践的観点から論ずる．その際，仏教の実践のもつ身体的・心理的な側面に注意を払いつつ，さらには教理と信仰の両方の側面を視野に入れて，実践的な仏教思想展開史の構築を試みてみたい．古典語の資料は和訳で提示し，特に仏教に関する予備知識を前提とすることなく講義を進めるので，専門外の学生の受講も歓迎する．

授業の到達目標

仏教に対する先入観を除き，生きた人間の問題解決の道として仏教をとらえなおすこと．抽象的な理論面のみにとどまらず、身心相関的な観点から仏教の実践を再考察し、仏教のもつ現代的意義を提示してみたい。

成績評価方法

●**試験**　100%　　講義内容を消化して，自らの言葉で説明できているかどうかを基準として評価する
●**レポート**　0%　　今回は課さない．
●**平常点**　0%　　今回は課さない．ただし，休講課題を課した場合は，平常点として評価に含める．
●**その他**　0%　　今回は課さない．

科 目 名	儒教概論　古典中国における『論語』解釈の展開							
担当者名	渡邉　義浩							
東哲コース	２単位	春学期	月曜日	３時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

『論語』に載せられている孔子の言動は、すべて孔子本人のものなのか。津田左右吉の研究によれば、そのように考えられる部分は少なく、約五百章ある『論語』の文章の中で、孔子その人の言葉や行動を伝えるものは、半分にも届かないとされる。『論語』の章の過半数は、後世の思想を孔子に仮託したものであろう。しかも、全二十篇の後の篇になるほど、一篇の中でも後の章になるほど、孔子に仮託するものが多くなる。

しかも、孔子の言動が、孔子の意図どおり伝わっているのかについても疑問は大きい。『論語』の解釈によって、『論語』から受ける孔子の言動は異なる。

それでは、『論語』を読むことに意味はないのか。儒教経典に代表される古典は、時代や個人に応じて受け取られ方が異なるからこそ、時代を超えた普遍的な書籍として読み継がれてきた。『論語』も、それを読む一人ひとりの思いに基づいて生きる。答えが一つに固定されないことに、『論語』の重要性がある。

本講は、古典中国における『論語』解釈の展開を検討することを通じて、儒教の概論を目指すものである。

授業の到達目標

『論語』の諸解釈の展開を知るなかで、それぞれの時代における儒教の特徴を考える。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない
●**レポート**　90%　　学期末にレポートを課す
●**平常点**　10%　　積極的に授業に参加すること
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	道教概論　知られざる中国の宗教的伝統							
担当者名	森　由利亜							
東哲コース	２単位	秋学期	土曜日	２時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

道教は儒教、仏教とならぶ中国の最も根本的な宗教的伝統のひとつです。しかし、重要であることが当然とされる割には、儒教や仏教に比べて研究の歴史も浅く、いまだに謎に満ちた宗教であるといってよいでしょう。特に、教義・教理によるしばりが少なく、信仰者たちの懐くイメージによってさまざまな形をとってきたため、移り変わりが激しく、ひとつかみに把握することは至難です。しかし、それでもそこには重要な核となる内容がやはりそなわっています。この授業では、中国で展開した道教の歴史とその信仰の内容について、なるべく分かりやすくお話しすることに努めます。この授業を通じて、受講生の皆さんが中国の伝統文化に興味をもち、また宗教という謎にみちた対象に想像力を働かせていただけるようになることを願ってやみません。

授業の到達目標

道教の歴史的な概略と、信仰のあらましについて理解し、中国の伝統文化への理解を広げることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　90%　　期末レポートを課す。
●**平常点**　10%　　授業で回収するレビューシートの内容や、授業時の発言に基づいて評価を行う。なお、全授業の三分の二以上出席していることを合格の最低条件とする。これを満たしていない場合は落第とする。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	日本思想概論　天神信仰と聖徳太子信仰							
担当者名	吉原　浩人							
東哲コース	２単位	秋学期	火曜日	４時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本思想史を研究することは、日本人としてのアイデンティティを探求することでもあります。また、外国籍の学生にとっても、日本人の拠って立つ根源の部分を理解することは、今後の人生にとって重要なこととなるでしょう。

今期は、日本古代の信仰の中から、天神信仰と聖徳太子信仰に焦点を当てて、その諸相を概観していきます。両者は、ともに実在したとされる人間を、天神もしくは観音菩薩として祀る信仰です。人を菩薩や神として祀るには、どのような理由があるのか、またどのような特色があるのか、史資料の読解を通じて考えていきます。両信仰について、最新の学説も紹介しながら、御霊信仰や生身信仰の問題、あるいは白居易を神として祀る信仰についても触れていきます。

なお、講義やオンデマンド授業においては、中国・日本古典の資料検索方法や辞書の使い方、参考文献検索の方法、論文の書き方について指導します。

授業の到達目標

日本古代の宗教思想、特に天神信仰、聖徳太子信仰の成り立ちと実態など、日本の伝統的な思想について、基礎的な知識を身につけ、個別の課題について深い理解を得るための調査方法を会得することを目標とします。

成績評価方法

レポート80%：期末に講義内容と関連するレポートを課しますが、詳細は授業中に指示します。
出席20%：三分の二以上の出席が、単位授与の必要条件となります。

備考・関連ＵＲＬ

原典を提示して読解するので、高等学校卒業程度の古文・漢文の基礎知識が必要です。しかし、初学者でも不安を持つ必要はありません。意欲ある学生の受講を望みます。

科 目 名	漢文講読1 『論語』を読む							
担当者名	渡邉　義浩							
東哲コース	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

中国思想史は、古典の解釈史です。最も有名な古典である『論語』は、日本と中国を合わせると3000種以上の注釈（解釈）があると言われています。本講義は、『論語』の章ごとに何晏の『論語集解』を中心としながら、皇侃の『論語義疏』、朱子の『論語集注』、伊藤仁斎の『論語古義』、荻生徂徠の『論語徵』などを取り上げ、諸家の説の違いを確認しながら、『論語』を読解することで、東洋哲学の基礎知識と方法を学び、あわせて、中国古典文（漢文）読解力の深化をめざします。

授業の到達目標

『論語集解』を中心とする諸家の説に触れ、中国古典解釈学の手法を学び、白文を読みこなせる力を涵養します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はしません。
●**レポート**　80%　　学期末にレポートを課します。
●**平常点**　20%　　積極的に授業に参加してください。
●**その他**　0%　　その他はありません。

講義

科 目 名	漢文講読2 仏教漢文―伝最澄撰『末法灯明記』を読む―							
担当者名	大久保　良峻							
東哲コース	2単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

最澄撰と伝えられる『末法灯明記』は、鎌倉仏教諸師によって最澄の著作として注目され、特に親鸞がその主著『教行信証』でほぼ全文を引用したことから、現在でも真偽未詳とされることもある。しかし、内容から推せば最澄の真撰とは考えられない。内容としては、末法には戒というものないのであるから、破戒の者はなく、無戒の者ばかりであると説く。しかし、そういった僧を尊重すべきことが説かれているのである。日本で末法に入った年は永承七年（1052）とされる。本書は末法に入る前に、最澄が撰述したことになっている。本書を読むことにより、日本の末法思想の一端を探ることにしたい。

授業の到達目標

『末法灯明記』の講読を通じ、最澄に仮託された本書の末法観を探ると共に、仏教漢文に興味を持てるようにしたい。

成績評価方法

●**試験**　70%　　点数に応じて評価する。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　30%　　参加状況を考慮する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	日本中世思想 密教と禅の交渉							
担当者名	田戸　大智							
東哲コース	2単位	春学期	火曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

密教は、大乗仏教の考え方を受け継ぎつつも、古代インド文化の儀礼や習慣を大胆に取り込んだ思想であり、空海による中国留学を契機として本格的な密教が日本に伝播した。一方、中国において著しい発展を遂げた禅思想は、最澄をはじめとする留学僧や中国人禅僧によって日本に将来され、それを素地として後に栄西や道元が宋朝禅を導入することになる。実は栄西や道元が仏教を修学した天台宗（比叡山）では当初、密教の立場から禅を解釈する傾向があり、その影響を色濃く反映したのが栄西や能忍、円爾などであった。

本講義では、密教と禅の歴史的及び思想的展開を十分踏まえた上で、特に密教を基軸としながら、日本における密教と禅の交渉について解説することを目的とする。中世では、禅と密教を兼修するのがむしろ主流だったのであり、従来の禅宗観とは異なる見方を提示したい。

授業の到達目標

密教と禅の思想内容及び歴史的変遷を明らかにし、その上で日本中世において主流であった密教と禅の兼修化が栄西や能忍、円爾などの思想的特徴であり、更に栄西や能忍の弟子達が道元やその門流の形成に大きな影響を及ぼしたことについて理解する。

成績評価方法

●**試験**　60%　　第15回目の時間中に試験を行う。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　40%　　3分の2以上の出席、レビューシートのコメントなど。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	日本近世思想 江戸時代の儒教（朱子学）受容							
担当者名	垣内　景子							
東哲コース	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

江戸時代の儒教（朱子学）受容の諸相を概説する。

日本人が外来の思想をいかに受け止めたかを考察し、東洋思想の中における日本人の思想の特色を探る。

授業の到達目標

江戸時代における儒教受容を学ぶことを通して、日本人の外来文化の受容について考え、今を生きる自分たちの考え方を見つめ直し、未来の他文化交流において日本人の果たすべき役割を自覚できる力を養う。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行う。
●**レポート**　0%

●**平常点**　30%　　毎回の授業における積極性を評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	心理統計学1（心理学統計法）							
担当者名	豊田　秀樹							
心理コース	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
心理学の研究を進めるために必要となる統計学を教授する。

授業の到達目標
統計学的な考え方を身につける。

成績評価方法
出席・宿題の出来栄え、などの平常点で成績を付ける。

備考・関連URL
出席し、授業内レポートを提出することが大切である。

科 目 名	心理統計学2（心理学統計法）							
担当者名	豊田　秀樹							
心理コース	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
心理データ解析の知識を学習する。

授業の到達目標
心理データ解析の知識を身に着ける。

成績評価方法
出席・宿題の出来栄え、発表の出来などの平常点で成績を付ける。

備考・関連URL
出席し、授業内レポートを提出することが大切である。

科 目 名	学習心理学							
担当者名	神前　裕							
心理コース	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
動物の学習・行動に関する実験的研究を通じて、私たちヒトを含む動物に広く共通する様々な認知機能の基盤が明らかになってきました。本講義では、学習・行動研究に用いられる研究手法およびそこから明らかにされてきた学習・行動の基本原理について紹介します。これらの理解を通じて、「私たちはなぜ今自分がそうするように行動するのだろうか？」「その行動はどのように形成され、何故今生じるのか？」「私たちの行動はどこまで自由意志の産物なのか？」といった人間の意識・行動に関する根本的な問いに対して、実験科学としての心理学がどのように回答しうるかについて考えます。また、予測や強化といった学習・行動の基礎過程を脳内で実現する神経基盤についても適宜紹介します。

授業の到達目標
・学習心理学分野で用いられる基本的な手法・概念・用語について正確に理解する。
・観察可能な行動指標を用いながら行動の内的・認知的側面を客観的に捉える方法について学ぶ。
・学習・行動の基礎的原理の理解にもとづき、様々な場面でヒトや動物がなぜそのように行動するのか説明できるようになる。
・学習・行動を支える神経基盤について基礎的な知見を習得する。

成績評価方法
●**試験**　60%　　学期末試験
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　ミニレポート、小テスト等
●**その他**　0%

科 目 名	経済心理学　行動経済学および消費者行動論の心理的基礎							
担当者名	竹村　和久							
心理コース	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
経済心理学の中でも、特に消費者心理学に焦点を当て、マーケティングとの関係について論じる。たとえば、「なぜ卵やキャベツなどの特売商品が売られていると、わざわざ遠くまで買いに行く消費者いるのか？」、「なぜ教科書を買うのは痛いのに、コンパの料金はそれより高いのに痛くないのか？」、「なぜ旅行に行くと気前がよくなるのか？」、「コンビニの商品の陳列を変えるとどうして売り上げが伸びるのか？」、「ジャムの品数を多くしたほうがかえって売り上げが落ちたのはなぜか？」、「WEBの背景の模様で売り上げが変わるのはなぜ？」といったような身近な問題に、この授業では答えていく。
このような身近な問題は、2002年のノーベル経済学賞の受賞者のカーネマンらの経済心理学やプロスペクト理論と深く関係しており、授業でもこの研究についても取り上げる。また、近年の意思決定の脳科学などとも、経済心理学は深い関係を持っており、そのような研究についても紹介する。
授業では、経済学における効用理論との関係、プロスペクト理論、消費者意思決定過程、店舗内消費者行動などのトピックについて学習する。

授業の到達目標
経済心理学は、経済状況における人々の判断、意思決定、行動を説明し、予測するための学問である。本講義では、特に消費者行動の問題に重点をおいて、マーケティングや経済学との関係についても考察しながら、経済心理学の基礎知識を習得することを目標とする。この授業を履修することにより、経済心理学の専門誌を理解できるようになることを目標とし、実務的な思考もできることも目指す。

成績評価方法

●**試験**　50%　　授業時に行う予告なし小試験と最終日に行う総合試験の結果で知識を評価する
●**レポート**　20%　　授業時に課すいくつかのレポートの内容を評価する
●**平常点**　30%　　出席、実験参加、調査参加、授業態度をもとに評価する
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

高校数学(実数値関数の基礎概念、無限級数、微積分など)、統計学の基礎知識を受講に際して学生に要求する。
授業中は、学生間のディスカッションの時間なども多く設ける。
また、授業時に、レポートや予告なし試験なども行う予定である。
関連URL
竹村和久研究室(http://www.waseda.jp/sem-takemura/)

科 目 名	言語心理学（学習・言語心理学）　言語への認知心理学によるアプローチ							
担当者名	楠瀬　悠							
心理コース	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

講義

授業概要

言語は、私たちにとって重要なコミュニケーションの媒体であるとともに、私たちの思考を支える媒体でもある。また、言語を使用する能力は、人という種に固有の能力であるとも言われている。私たちの言語はどのような構造を持っているのだろうか。また、私たちの言語を運用するとき、そこにはどのような心の仕組みが関わっているのだろうか。この授業では、言語(特に単語)処理に関わる諸問題について，認知心理学の視点を中心に，発達・バイリンガル・単語の認知という観点から主に紹介する。

授業の到達目標

言語心理学がどのような研究領域なのかを紹介するとともに、実際の研究がどのように行われているのか、人が持つ情報処理システムをどのように把握しようとしているのか等を理解してもらうことを目標とする。

成績評価方法

成績評価は、試験の成績を80%(中間テスト含む)、授業への出席状況を20%として評価する。
試験は、第15回の授業時に実施する。

備考・関連URL

受講者には、言語心理学実験への実験参加者としての参加を通して研究の場を体験してもらう予定である。積極的な参加を期待する。
授業で使用する教材等は適宜、配布する。

科 目 名	社会心理学　意思決定の理論と処方							
担当者名	竹村　和久							
心理コース	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、社会的状況における意思決定の理論とその応用に関して、良い社会的意思決定についての議論を行う。隔年で行っている、公認心理士対応の「家族・集団・社会心理学」で広義の社会心理学を扱っていることもあり、本講義では、担当教員の専門に近い分野の意思決定論に特化した授業を行う。社会心理学は、政治、経済、経営、日常生活などの社会的状況における人間の知覚、認知、判断、意思決定、行動の仕組みを解明する学問であると考えることができる。 本講義では、社会心理学の基礎となる意思決定論の考え方と方法論・理論、そして研究知見を総合的に概説する。また、本講義では、方法論や理論などに力点を置きながらも、社会政策や経営・経済政策などの実務的な観点をも考慮した講義を行い、学生に意思決定論がどんな役に立つか」ということを積極的に考えていただくことを目指している。 人間の意思決定の研究は、人々の判断や意思決定に関する心理学的知見を数多く提供してきた。意思決定研究は、少なくとも18世紀にロシアのサンクト・ペテルブルグで活躍したベルヌイ（Bernoulli,D.）の効用の研究に遡ることができるが、1978年度のノーベル経済学賞受賞者のサイモン（Simon, H.A.)、2002年度の受賞者のカーネマン（Kahneman,D.)、2017年度のセイラー（Thaler,R.)の諸研究に認められるように、その心理学的方法論と知見を用いた応用が，経済学，経営学，工学などの分野で広くなされており，その有用性が認められてきている。本講義では，行動計量学的な立場に立脚しながら，意思決定の処方の考え方と我々の検討してきた「状況依存的焦点モデル」についての考え方とそれらの知見と応用についての概説を行う。処方的意思決定アプローチは，記述のみを目的としてはいず，規範的なことのみを考えているわけではなく、よりよい意思決定を考えていく。

テキストは1冊であるが、かなりの分量を学習してもらうことになると思われる。その分、備考欄にも書いたように、学生には、充分な予習や復習をしていただくことを講義の前提としている。本講義を受講することによって、人間の社会的行動への理解が促進し、意思決定論、社会的意思決定についての学術雑誌や学会発表もある程度理解でき、研究の具体的応用を考察できるようにすることを目標とする。

授業の到達目標

本講義を受講することによって、人間の社会的行動への理解が促進し、意思決定論の理解と専門の学術雑誌や学会発表論文もある程度理解でき、研究の具体的応用を考察できるようにすることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　50%　　単元ごとの授業時の予告なし試験、授業終了時の試験での理解力をみる
●**レポート**　20%　　平常のレポート課題の内容を評価する
●**平常点**　30%　　授業への出席状況、授業での態度
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

初回の講義の段階では、社会心理学についての知識は前提としない。ただし、一般心理学や心理学研究法についての初歩的知識、多変量解析や実験計画などの統計解析に関する初等的知識、微積分、多項式関数、ベクトルに関する高校で履修可能な数学的知識、新聞で入手可能な時事問題に関する初歩的知識を前提とする。また、積極的な授業への参加を期待する。テキスト以外に、指定した参考文献なども次回の授業までに読んで来るように随時指示を与える。また、授業時間中に、学生同士のディスカッションや社会心理学に関連した実験参加募集なども行う予

関連URL: http://member.nifty.ne.jp/highway/dm/decbooks.htm http://www.soc.nii.ac.jp/jssp/ http://www.waseda.jp/sem-takemura/

科目名	感情・人格心理学　人間のパーソナリティを理解する							
担当者名	小塩　真司							
心理コース	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では，人格心理学（パーソナリティ心理学）およびそれに伴う感情心理学について概説する。人格，性格，パーソナリティという用語は混乱しがちであるが，これらに決定的な違いがあるわけではない。近年，パーソナリティに関する研究は，心理学のみならずその周辺研究領域も巻き込みながら発展を続けている。この授業では，パーソナリティ心理学の歴史，パーソナリティの把握方法，類型的把握と特性的把握の相違点，個別のパーソナリティ理論と概念，パーソナリティの形成過程，感情に関する理論および感情の生起過程，感情と行動との関連，そして最新の研究動向について学ぶ。

授業の到達目標

パーソナリティ心理学および感情心理学の歴史と知識を学び，人間のパーソナリティについての理解を深める。

成績評価方法

リアクションペーパー：毎回の授業で疑問・質問を提出する（30%）

CourseN@viまたはWaseda Moodle上での試験：CourseN@viまたはWaseda Moodle上で，知識の確認を中心とした試験を行う。アクセス開始から制限時間を設け，一定の時間内に回答を求める。最低点を設けており，それ以下の場合には試験設定期間内に自動的に再試験を行う。（70%）

備考・関連URL

小塩研究室：http://www.f.waseda.jp/oshio.at/index.html

科目名	神経・生理心理学　脳の病理を通して健常の認知を知る							
担当者名	福澤　一吉							
心理コース	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

脳に損傷を受けると我々の精神活動の様々な側面が破綻する。このことは人間のあらゆる精神活動（言語、感情、認知、行為、記憶等々）は脳がその生物学的基礎であることを示している。

神経心理学は脳損傷患者に対する臨床的観察、実験を行うことで脳と心の関係を探求する脳科学の一分野である。

授業では脳の機能神経解剖学的背景を説明したのち、脳の損傷により生じる以下のような症状とそれを引き起こしたと考えられる脳病変部位について講義をする。

講義に含まれる症状は、言語の障害（失語症）、読みの障害（失読症）、書くことの障害（失書症）、認識の障害（物体失認症、相貌失認）、などである。

尚、担当者の講義以外に、本講義では外部から数名の脳科学の研究者をゲストスピーカーとして招聘し、様々な分野の話題を提供する。

なお、このクラスは講義クラスとして設定されているが、実際には受講生との意見の交換を重視している。講義の最中に症状に関する様々な

質問が教員からだされ、受講者はそれに関して各自答えを要求される。各自の意見は他の受講者と共有する。

授業の到達目標

脳がもつ認知機能をそれをつかさどる脳の部位との関係で理解する。

脳の部位とその機能について知る。

症状の把握にどのような理論が構築されてきたかを知る。

自分の症状解釈にどんな仮定が含まれているかに気づく。

成績評価方法

●**試験**　0%　　教場試験はしない。

●**レポート**　80%　　ある病変部位を伴う神経心理学的症状について課題が提示される。 受講生はその課題について自分なりの神経心理学的説明モデルをつくり、提出する。

●**平常点**　20%　　毎週、臨床的症状に関する質問がだされる。受講生はそれについて配布されている用紙に自分なりの答えを書く。 毎月の最終週においてそれを提出していただく。

●**その他**　0%　　欠席は4回までみとめているが、5回以上欠席する場合は単位はでない。

科目名	精神疾患とその治療　精神医学							
担当者名	加藤　隆							
心理コース	2単位	秋学期	土曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

健常な人のこころの成り立ちを知ろうとするのがPsychology（心理学）であれば、「異常な」こころの働きからその仕組みを探ろうとするのがPsychiatry（精神医学）である。とはいえ「健常なこころ」を明確に規定できないことからも、両者は切っても切れない関係にあり、心理の解明には双方の理解が必須である。本講義では、精神科学が扱う様々な疾患と、その背景に推定される脳やからだの機能障害を概説する。特に後半では、実際に臨床場面で見かける症例の提示からその諸症状・状態像の把握法を学び、背景に存在する精神病理学的な理解を深めたい。臨床場面をありありとイメージできるような症例提示を行い、学生自らが治療者としてどのように接するべきか、また実際の問診の手技・手法についても「実践的に」学ぶことを目標とする。

授業の到達目標

本講義を通じて受講生は精神医学の基礎を理解し、代表的な精神疾患についてその成因・症状・診断法・治療法・経過について把握する。授業計画のうち精神科総論では、精神症候学や診断基準などを学び、その神経基盤についても理解を深める。精神科各論では、精神医療が扱う代表的な疾患についてその症状・病態像について理解し、本人や家族への支援の観点から説明でき、かつどのような場合に医療機関への紹介が必要か説明できることを目標とする。また治療場面においてしばしば用いられる向精神薬についてもその心身への影響を理解する。授業全般において、教科書的な「知識」を問うことはせず、精神医学への興味・

関心を喚起することを第一の目的とする。

成績評価方法

●**試験**　10%　　教科書的「知識」は問わない。総論的な精神医学に対する関心の有無を評価する。
●**レポート**　40%　　了解不能な現象に遭遇した際の、個々人の説明的解釈を求めたい。
●**平常点**　50%　　授業への出席状況やディスカッションの参加等により判断する。
●**その他**　0%　　欠席時の理由など適宜参照する

科 目 名	知覚・認知心理学							
担当者名	田中　雅史							
心理コース	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、秋期の講義「行動の科学」が脳の出力である「行動」をとりあげるのに対し、脳の入力である「感覚」を支えるメカニズムを概説します。

私たちは、外界の物体や出来事を、目や耳などの感覚器を通して検出し、その情報を脳で処理することによって知覚・認知しています。ヒトは、大きい脳を進化させた結果、高い認知能力をもつようになり、限られた外界の情報から多くのことを推察できるようになりましたが、ときにその柔軟な脳のふるまいが裏目に出て、間違って外界を理解してしまうこともあります。本講義では、さまざまな錯覚や認知バイアスを紹介し、こうした誤りがなぜ生じるのか考えつつ、最新の研究成果を紹介して、ヒトの知覚・認知、そしてそれらを支える意識・注意・記憶などの脳メカニズムについても論じる予定です。

授業の到達目標

1. ヒトの情報処理を脳・神経系の働きから理解する
2. ヒトの知覚・認知の複雑性や不完全性を確認する
3. 最新の心理学・神経科学の成果や実験的手法に慣れ親しむ

成績評価方法

出席： 30%
小テスト： 70%

科 目 名	司法・犯罪心理学							
担当者名	藤野　京子							
心理コース	2単位	秋学期	火曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

まず、我が国の犯罪や非行の現状やその処遇の流れについて解説する。つづいて、犯罪や非行について、これまでどのような理論づけがなされてきたかについて解説する。また、非行少年や犯罪者の個別事例を取り上げ、その実情についての臨床的理解を深める。加えて、非行や犯罪に走った者への社会適応や犯罪予防に向けての心理学的働きかけのいくつかの手法を取り上げる。このほか、犯罪被害者への支援や犯罪捜査等の刑事司法過程において、心理学の知見がどのように生かされてきたか、また今度どのような役割を果たせる可能性があるかについても併せて考える。

授業の到達目標

司法・犯罪分野に関連する心理学の学部レベルにおける基礎知識の習得をめざす

成績評価方法

●**試験**　80%　　授業で扱った内容をどの程度理解できているかを評価対象とします。
●**レポート**　0%　　該当なし
●**平常点**　20%　　平常点評価には出席（20分以上の遅刻は出席とみなしません）を含みます。
●**その他**　0%　　該当なし

科 目 名	臨床心理学概論							
担当者名	越川　房子							
心理コース	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

臨床心理学は、人間の精神に関する理論、科学的知見、実践を統合して、クライエントの問題（悩み）の解決や精神的な成長をサポートするとともに、不適応やこころの悩みの原因を研究し、問題を予測し、加えてそれらの問題を軽減、解消することを目指す心の科学である。本講では、心の問題のアセスメント方法および臨床心理学の主要理論とその技法について学ぶ。扱う理論としては、精神分析、分析心理学、クライエント中心療法、交流分析、認知行動療法などを予定している。

授業の到達目標

心の問題のアセスメント方法および臨床心理学の主要理論とその技法について理解する

成績評価方法

●**試験**　60%　　60点：日常生活への応用も含めて、学習した内容をよく理解している、50点：学習した内容をよく理解している、40点：学習した内容をかなり理解している、30点：学習した内容をある程度理解している、20点：学習した内容の理解が不十分である、10点：学習した内容を全く理解していない、0点：試験を欠席した
●**レポート**　0%　　実施しない
●**平常点**　40%　　出席回数と出席カードに自由に記入するコメントを基に評価する。
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	行動の科学							
担当者名	田中　雅史							
心理コース	2単位	秋学期	月曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、春期の講義「知覚・認知心理学」が脳の入力である「感覚」をとりあげるのに対し、脳の出力である「行動」について概説します。

ヒトを含めた動物の行動は、ほとんど全てが脳・神経系の活動がひきおこす筋収縮によって制御されていますが、その発現メカニズムは実に多様です。たとえば、特定の刺激に対して同じ反応を示すだけの生得的な反射などは遺伝的に備わった行動だと考えられますが、目まぐるしく変化する環境の中で危険な刺激と安全な刺激を区別して異なる行動を示すためには、柔軟な神経系の再構築が必要になるでしょう。本講義では、様々な動物の行動をとりあげ、そのメカニズムと機能について考えながら、ヒトという、巨大な社会で極めて複雑な価値体系を構築した動物の行動についても考察していく予定です。

授業の到達目標

1. 動物の行動を遺伝や脳・神経系の働きから理解する
2. ヒトを含めた動物の行動の複雑性・多様性を確認する
3. 遺伝学・動物行動学・神経科学の研究法に慣れ親しむ

成績評価方法

出席：　30%
小テスト：　70%

科 目 名	心と体の世界　知られざる心と体の関係を探る							
担当者名	駒田　陽子							
心理コース	2単位	春学期	金曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

心と体の関係を理解するための基礎として、私たちの体に存在する体内時計、脳と神経系について概説します。気分の落ち込みや疲労感、身体の不調はどのように発生しているのでしょうか。心と体は如何に関係し合っているのでしょうか。現代社会における「心と体」の問題、健康状態と生理機能の問題、医療における心身の問題、睡眠負債と生体リズム、意識と無意識の奥深さなどを考えるきっかけを提供できればと考えています。

授業の到達目標

生物的 - 心理的 - 社会的存在としての人間を「心と体」、「生体リズム」、「睡眠学」の側面から理解できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　理解度を確認します。
●**レポート**　25%　　課題は授業内に提示します。与えられた課題について、独自に検討を行ったことについて評価します。
●**平常点**　25%　　講義支援システムやリアクションペーパーを用いて出席状況、受講者の理解度や関心を把握します。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	心の哲学・心の科学　心理学、哲学、精神分析、それぞれの「心」へのアプローチ							
担当者名	村井　翔　他／鈴木　貴之／高瀬　弘樹／牟田　季純							
心理コース	2単位	秋学期	木曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

心理学とはいつ始まった学問でしょうか。心理学史を講ずる多くの人々はドイツの学者、ヴィルヘルム・ヴント(1832-1920)がライプツィヒ大学に心理学研究室を設けた1879年を心理学の始まりの年としています。思いのほか新しい学問なのです。では、心理学ができるまで人類は「心」について考えたことはないのでしょうか。もちろんそんなことはありません。古代ギリシアの昔から「心」は哲学の主要テーマでしたし、哲学は今もなお「心」について考え続けています。「心」を研究対象とする学問には19世紀末にユダヤ系オーストリア人、ジクムント・フロイト(1856-1939)が神経症の治療法として始め、ほぼ半世紀後にフランス人、ジャック・ラカン(1901-1981)が有力な改訂新版を作った精神分析もあります。皆さんはまだ心理学と精神分析の区別がつかないかもしれませんが、精神分析は後述するような理由(以下のシラバス参照)により、心理学ではありません。この授業は本来、別の土俵にいる心理学、哲学、精神分析の研究者がそれぞれの分野における「心」へのアプローチについて概説する異種格闘技戦。文学部の複数のコースを横断するような科目です。

授業の到達目標

心理学、哲学、精神分析という異なる分野の研究者は、それぞれどのような仕方で「心」を研究しようとしているのか。異なる分野からの「心」へのアプローチの仕方の違いを理解するとともに、こうしたアプローチの違いが個々の分野のどのような特徴によるものなのかについても理解を深めてして欲しい。

成績評価方法

成績評価は、レポートの成績を80%、授業への出席状況を20%として評価します。

レポートは、四名の授業担当者のうち、いずれか一名が出題するテーマを選択して作成・提出してください。

科 目 名	心を測る　心理学研究のための多変量解析							
担当者名	大橋　洸太郎							
心理コース	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

心理学の研究では実験や調査から得られたデータに対して様々な統計解析手法を適用し，心理的な側面の把握が試みられます。本授業では，心理学研究においてしばしば利用される解析手法を取り上げ，分析の目的や手法の理論背景を説明するとともに，データへの適用例から分析結果の解釈の仕方について示します。

授業の到達目標

・解析手法の使用目的を理解する
・解析手法の理論の概要を把握する
・データに対して解析手法を正しく適用できるようになる
・出力結果を適切に解釈できるようになる

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　60%　　ほぼ毎回，簡単なと学習した内容に関連した課題を提示します。問題に対する取り組みの姿勢を評価します。

●**平常点**　40%　　授業への出席状況
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

心理統計学に関する基礎知識を有していることが望まれます。したがって，基本的には心理学専修／コースで基礎統計の授業を履修済みの（もしくは，履修している）学生を想定した授業となります。もちろん，授業内容に興味のある他専修／コースの学生の履修も歓迎しますが，統計に関する基礎知識を補うための学習努力が求められます。また，扱う内容の性質上，数学的内容も若干扱います。データ分析のソフトウェアとしてRを使うことを想定して解説を行います。

科 目 名	心理学の歩み							
担当者名	鈴木　朋子							
心理コース	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

心理学がどのように生まれ、どのように発展し、どのように役立ってきたかを知る学問が心理学史である。現在私たちが学ぶ心理学は、社会や文化との相互作用の中で形づくられてきた。これは他の分野でも同様であり、学問の発展の背景には社会や文化が大きく作用している。本講義を通して、心理学とは何か、どのような研究を行っているのかという知識を時代の流れに沿って身に着けてもらいたい。加えて、学史を研究する意義とは何かについて考え、その発展の背後にはどのような社会的要請があったかを考えるきっかけとしてもらいたい。

なお、本授業は教室授業を基本とし、一部オンデマンド授業で実施します。復習用動画がオンデマンドで配信される回もあります。

授業の到達目標

心理学の発展を時代の流れに沿って理解する。学史研究の意義を理解する。自分の関心のあるテーマについて、歴史を踏まえて説明することができる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　20%　　授業中に視聴した映画に関連して、2回のレポートを課します。
●**平常点**　30%　　毎回の授業において自身の理解度や授業の感想を書いてもらいます。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

第1回目の授業は教室では実施しません。オンデマンドでの実施となりますので、Course N@viをご確認ください。
第3回・第6回・第7回・第9回・第10回・第13回の授業は、対面授業予定ですが、復習用の講義動画があります。 最終授業で全体に対するフィードバックを行います。

科 目 名	健康・医療心理学							
担当者名	福川　康之							
心理コース	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では，特に人の健康や適応と関連する様々な要因とその影響メカニズムを概説する．各回のテーマに即した国内外の研究成果を紹介しながら論じていく．

授業の到達目標

種種の病気や不適応にと心身の関係について概説できる．
医療現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる．
さまざまな保健活動において必要な心理に関する支援について説明できる．
災害時等に必要な心理に関する支援について説明できる．

成績評価方法

●**試験**　75%　　講義内容について，専門用語と自分の言葉を駆使して説明できるか，確認する
●**レポート**　0%
●**平常点**　15%　　授業中の発言，授業後の質問など，積極的な授業への参加度
●**その他**　10%　　小テストを実施する。

科 目 名	人体の構造と機能及び疾病							
担当者名	冨田　太一郎							
心理コース	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

私たちの心身の健康は，人体を構成する細胞，組織，器官の構造や器官系の機能が正常な範囲に維持されて初めて成り立っている。本授業では，それぞれの器官についての位置や形状，構造についての理解（解剖学）と，各器官系の機能および身体全体として各器官を調和させる働き（生理学）を中心に，人体の正常機能と構造について講義形式で学ぶ。また，がん，糖尿病，循環器疾患，遺伝性疾患および先天性疾患など，心理的支援が求められる主要な疾病に関しても概説する。

授業の到達目標

1. 人体の構成要素である細胞，組織の基本構造と働きを理解し，説明できる。
2. 人体の各部の骨格，筋，臓器の形態と構造を理解し，その構造と機能の関連を説明できる。
3. 各器官系の正常な機能が概説できることおよび正常な機能からの逸脱がどのような疾病を引き起こすかを概説できる。
4. 心理的支援が必要な疾病について概説できる。

成績評価方法

●**試験**　90%　　定期試験期間中に試験を実施し，評価を行います。
●**レポート**　0%　　レポートは特に課しません。
●**平常点**　10%　　講義時間内に，理解度を確認するためのアンケートを実施します（テストではありません）。アンケートの提出と積極的な受講姿勢を考慮します。

●**その他**　0%　　割合は示しませんが，授業態度を考慮します。

備考・関連URL

・公認心理師の受験に必要な科目です。資格試験等の受験を予定する者は受験資格の必要要件（必要単位）について注意すること。

・Course N@viまたはWaseda Moodleの使用に関しては，必要に応じて講義内で説明します。

科 目 名	宣伝文研究　広告・コミュニケーションと社会							
担当者名	荒井　誠							
心理コース	2単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

・広告は、企業と人、人と人を結びつける現代社会のコミュニケーションにおいて重要な役割を果たしている。

・コミュニケーションメディアは、テレビ・新聞などのマスメディアだけでなく、ソーシャルメディアに代表される新しいメディアの時代へと拡大しており、広告の形態も多岐にわたり進化を遂げている。

・本講座では、メディアの変化を踏まえ、「生活者の心理・価値観の変化」や「ライフスタイルの変化」を把握し、広告によって生活者の意識や消費行動がどのように影響を受けていくか、を明らかにしていく。

・実際の広告の映像・画像を分析しながら、広告を構成するヘッドラインやボディコピー、ビジュアルや音楽・ネーミングまで、広く広告制作の仕組みを習得する。

・受講生自ら広告を創作し、他の受講生の創作した広告のフィードバックを通し、実践的な広告創作も体験する。

・広告だけでなく、企業・自治体が取り組む、広報・PR領域の研究も行う。

授業の到達目標

・受講者は、広告コミュニケーションが人間社会の中でどのような役割を果たし、どのように機能しているのかを理解し、それが創り出され、送り出されるメカニズムを知る。

・その背後にある送り手側の意図を読み解き、日常的に接する広告に対して主体的な「判断力」を養い、高度な情報社会における優れた「リテラシー」を身につけることを目標とする。

・さらに、社会人となって役に立つ、自分の意思をいかにして伝えるかという「コミュニケーション能力」習得へのヒントを掴む。

成績評価方法

●**試験**　40%　　授業内容の理解度・広告／コミュニケーションへの見識の拡がり。

●**レポート**　0%

●**平常点**　30%　　出席状況。 授業後に提出のコメントシートによる、授業内容への理解度と自らもつ独自の視点・考え。

●**その他**　30%　　自ら制作・提出する2つの広告創作で、いかに広告創作の難しさ、楽しさを実感できたか。

備考・関連URL

・広告・PR・メディア・マーケティング・クリエイティブ・ライフスタイル・価値観変容などに関心のある学生の受講を望みます。

・講師は、広告会社電通のマーケティング部門・営業部門において、多くの広告キャンペーン・開発プロジェクトの企画・立案・実践に従事中。

科 目 名	認知のシステム　情報処理システムの構造							
担当者名	楠瀬　悠							
心理コース	2単位	春学期	金曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

我々は、眼を開いただけでそこにあるものを見ることができるし、耳をすませば周囲から発せられる様々な音を聞くことができる。しかしこの知覚のプロセスは外界をそのままに写し取ってくるわけではない。そこには複雑な解釈のプロセスが介在しており、また我々は、既に保持している知識を利用することによって、速やかかつ適切に外界を認識することができる。物理的世界の中に存在する様々な情報をどのようにして我々の心は認識するのだろうか。さらに、知覚入力のプロセスを通して獲得した知識をどのように貯蔵し、その結果、どのように世界を認識しているのだろうか。この授業では、我々が持つ情報処理システム（主に視覚情報）の構造について考察するとともに、外界の認識を支える知覚のシステムと知識との間の交互作用がどのように行われているのかという問題を考察する。

授業の到達目標

視覚情報処理のシステムがどのようにして実現されているかについて、理解してもらうとともに、認知心理学が人の情報処理システムをどのような枠組みでとらえようとしているのかを理解してもらう。

成績評価方法

成績評価は、試験の成績を80%（中間テスト含む）、授業への出席状況を20%として評価する。

試験は、第15回の授業時に実施する。

備考・関連URL

受講者には、心理実験への実験参加者としての参加を通して研究の場を体験してもらう予定である。積極的な参加を期待する。

また，授業で使用する教材等は適宜，配布する。

科 目 名	心理学概論1							
担当者名	小塩　真司　他／神前　裕／越川　房子／竹村　和久／田中　雅史／豊田　秀樹							
心理コース	2単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本科目は，6名の教員がそれぞれ2回あるいは3回ずつ担当して構成されるオムニバス講義である。心の働きや行動に見られる法則性やパターン，関係性，個人差等について，担当教員の専門領域に沿って話題が提供される。具体的内容は授業計画を参照されたい。

授業の到達目標

心理学の諸領域をそれぞれの担当者が紹介することで，心理学がどのような研究領域を含むものであるのかを理解する。また

心理学の基礎的な考え方を身につけ，実社会の解釈に用いることができるようになる。

成績評価方法

授業への出席回数を考慮の上，学期末のレポート課題により評価する。

科 目 名	心理学概論2							
担当者名	福川　康之　他／清水　由紀／福澤　一吉／藤野　京子／前川　真奈美／宮田　裕光							
心理コース	2単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

心理学がどのように進展してきたかについて、心理学の分野ごとに解説していく。

高齢者心理学領域：高齢者の心理的特徴や適応，また，高齢社会において生じる様々な心理学的問題について論じる（福川康之）。犯罪心理学領域：臨床心理学的アプローチにより、非行少年の診断・査定の実際を紹介するほか、非行少年への介入及びそれによる変化について扱う（藤野京子）。思考心理学領域：動物、ヒト乳幼児、および成人の思考や問題解決、計画能力に関する実験的研究について、各研究領域の視点から紹介する（宮田裕光）。神経心理学領域：科学的議論の基礎と、脳損傷例にみられる神経心理学的臨床症状と脳機能について紹介する（福澤一吉）。発達心理学領域：乳児期から青年期までの心の発達について、その道筋を特に社会性の深まりの観点から論じる（清水由紀）。パーソナリティ心理学領域：パーソナリティに関する基本的な理論や測定方法を紹介するほか、パーソナリティ障害の特徴や対応について扱う（前川真奈美）。

講義

授業の到達目標

心理学における様々な分野についての知見を広め、心理学とは何かについて理解を深める。

成績評価方法

成績については各教員により評価方法、評価基準は異なる。

科 目 名	産業・組織心理学							
担当者名	福川　康之　他／大塚　泰正							
心理コース	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

講義は、2名によって行われる。

①　職場における問題（キャリア形成に関することを含む）に対して必要な心理に関する支援，②組織における人の行動について解説する。

授業の到達目標

（1）産業・組織心理学の基礎的知識を学ぶ

（2）職場のストレスの実際を理解し今後の職業生活に活かす手掛かりを得る

成績評価方法

●**試験**　75%　　理解度を確認するために教場試験を行う

●**レポート**　0%

●**平常点**　15%　　出席

●**その他**　10%　　小テストを行う

備考・関連URL

単に講義を受講するだけでなく，一部ロールプレイなど参加型の要素が含まれる。授業内容に対する質問・コメント・意見など、授業への積極的な関わりを歓迎する。

科 目 名	社会学概論1							
担当者名	山田　真茂留							
社会コース	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代の社会学における重要な問題群や概念群を中心としながら議論を展開し、半期の間に社会学的な思考法の基礎を鍛錬する。概論では学史と理論が中心となるものの、それと関わる範囲において各種調査データ等も提示する予定。都市社会学・産業社会学といった連字符社会学的な構成は敢えてとらず、主として現代的なトピック群の原理的な解明の作業を通じて社会学的な想像力を磨いていくことを目指す。

授業の到達目標

現代社会学の緊要な諸課題に接することを通じて、社会学における基礎概念の知識を我がものとし、社会学的思考法ならびに方法論の基礎を磨く。授業全体が終わった際、受講者1人ひとりがそれなりの社会学的洞察力を身につける結果となっていることが目標。

成績評価方法

●**試験**　70%　　最終試験の比率はそれなりに高いが、それだけで決まるわけではないので注意すること。

●**レポート**　25%　　中間レポートとして実施する。この比率は25%～30%となる。受講状況を見ながら、下記の「その他」評価を併用するかどうかを決めていく。レポート課題は、授業の中で提示するが、参考文献（WEBシラバス）に掲げた『集団と組織の社会学』をもとにする予定。レポート提出期日は学期末ではなく、中間的な日程になるので注意（授業の中で伝達する）。

●**平常点**　0%　　——

●**その他**　5%　　この比率は0～5%。受講状況を見ながら、出席点のようなものを全体評価に含めるかどうかを決めていく。この「その他」評価をナシとした場合、上記「レポート」評価は30%となる。

備考・関連URL

評価は中間レポートだけでも最終試験だけでも決まらないので注意しておくこと。例えば試験以外の評価がゼロの場合、試験が85点でも、これに0.7を乗じれば59.5点となってしまうため、合格点には達しなくなる。

科 目 名	社会学概論2							
担当者名	山田　真茂留							
社会コース	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「社会学概論1」に引き続き、現代の社会学における重要な問題群や概念群を中心としながら議論を展開し、半期の間に社会学的な思考法の基礎を鍛錬する。「社会学概論1」では現代的なトピックを中心として議論を展開したが、ここでは今日的ではあるものの、より原理論的な問題に関心を集中して社会的秩序の根幹に迫ることを目指す。ただし、それとの関連で各種の応用的なトピックにも随時触れることにしたい。

授業の到達目標

「社会学概論1」で培った社会学的洞察力を前提としながら、現代社会学における原理的な諸問題に取り組むことを通じて、社会学という学問の根幹を掘り下げる。授業全体が終わった際、受講者1人ひとりが「社会学概論1」のとき以上に社会学的センスに磨きをかけていることを目指す。

成績評価方法

●**試験**　70%　　最終試験の比率はそれなりに高いが、それだけで決まるわけではないので注意すること。
●**レポート**　25%　　中間レポートとして実施する。この比率は25%～30%となる。受講状況を見ながら、下記の「その他」評価を併用するかどうかを決めていく。レポート課題は、授業の中で提示するが、参考文献（WEBシラバス）に掲げた『非日常性の社会学』をもとにする予定。レポート提出期日は学期末ではなく、中間的な日程になるので注意（授業の中で伝達する）。
●**平常点**　0%　　――
●**その他**　5%　　この比率は0～5%。受講状況を見ながら、出席点のようなものを全体評価に含めるかどうかを決めていく。この「その他」評価をナシとした場合、上記「レポート」評価は30%となる。

備考・関連URL

評価は中間レポートだけでも最終試験だけでも決まらないので注意しておくこと。例えば試験以外の評価がゼロの場合、試験が85点でも、これに0.7を乗じれば59.5点となってしまうため、合格点には達しなくなる。

科 目 名	社会調査法1							
担当者名	嶋崎　尚子							
社会コース	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

社会学は様々な方法で社会を認識した上で成立する学問である。そのための主要かつ有効な方法の1つが社会調査である。社会調査の領域では、具体的な社会事象を客観的に把握するため様々な手法が開発され、また多くの先行研究が蓄積されている。本講義は、先行研究例をふまえつつ、実践に向けての基礎知識を習得することを目的とする。なお、本講義は社会調査法2とあわせて履修することが望ましい。

授業の到達目標

社会調査の基礎知識を習得することを目標とする。そこでは、現在種々実施されている社会調査について、「適切な調査」と「不適切な調査」とを識別する力を身につけることも含まれる。

成績評価方法

●**試験**　100%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　0%　　なし
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

■オンデマンド授業受講環境（以下のURLで確認してください）　http://www.waseda.jp/dlc/on-demand/2012.html
※自宅のPCでオンデマンド授業が受講ができない場合には、学内のPC教室で受講してください。

科 目 名	社会調査法2							
担当者名	嶋崎　尚子							
社会コース	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

社会調査をとりまく状況は、ここ10年のうちに劇的に変化している。社会学における実証研究の領域では、2つの対照的な方向への動きがある。すなわち計量的研究への方向と、現象学的な質的研究への方向である。両者は実証研究において相互補完的であるが、実践的な方法論はきわめて異質である。本講義では、前者の計量的研究への方向での社会調査方法論を中心に基礎知識を提供する。

サンプリングから実査までの過程と、実査後のデータ処理、簡単な集計方法、報告書作成までの手順を学習する。近年のコンピュータ環境の急速な進展は、計量的研究の実践をより身近なものとした。もはや「多変量解析」を誰もができる時代になったのである。しかし、高度な計量研究の可能性が拡大すればするほど、われわれには磐石な基礎的知識がますます求められる。たとえばクロス集計という単純な集計方法は、ともすると軽視されがちである。しかし2変数間の関連性あるいは3変数間の関連性にかんして、社会学的想像力を駆使してのクロス集計は、社会現象について実に多くの知見を提供してくれる。本講義では、社会調査方法論の基礎的知識の習得をめざす。なお、本講義は社会調査法1の履修を前提として進める。

授業の到達目標

サンプリングから実査までの過程と、その後のデータ処理、集計、報告書作成までの手順を理解し、身につけることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　100%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%　　非該当
●**平常点**　0%　　非該当
●**その他**　0%　　非該当

備考・関連URL

■オンデマンド授業受講環境（以下のURLで確認してください） http://www.waseda.jp/dlc/on-demand/2012.html
※自宅のPCでオンデマンド授業が受講ができない場合には、学内のPC教室で受講してください。

科 目 名	データ解析1（量的分析） 実践的な多変量解析の方法							
担当者名	寺島　拓幸							
社会コース	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

社会調査データの分析で頻繁に利用される手法として基礎的な集計から高度な多変量解析までを取り上げ，基本的な考え方と使い方を習得する。統計ソフトウェアSPSSを用い，統計手法の選択，出力結果の解釈，データ加工など，実際に統計データ分析をするときに必要なノウハウを習得する。

授業の到達目標

・分析目的とデータ形式に対応する適切な手法を選べる。
・各手法が適用できるデータの前提条件を説明できる。
・よりよい分析をおこなうためのデータ加工ができる。
・統計ソフトウェアを自在に操作できる。
・統計ソフトウェアが出力する分析結果を適切に解釈できる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　第15回目の授業で試験を実施し，理解度の確認をおこなう。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　毎回出題されるデータ分析課題の提出状況と内容を評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	社会学研究3（理論社会学1） フランスにおける社会学の成立と展開							
担当者名	池田　祥英							
社会コース	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義においては、フランスにおける社会学理論の成立とその後の発展を見ていく。時期的には18世紀末から20世紀初頭あたりまでが中心となる。現代では社会学の中心は英語圏、とくにアメリカであり、学説史としてもテンニエスやジンメル、ヴェーバーを擁するドイツ語圏のほうが勢いがあるように思われる。フランス語圏では、コントが「社会学」という言葉を作ったことは知られているものの、それ以上に知られることはなく、デュルケムを例外として社会学においてはあまり取り上げられることはなかった。デュルケムの学説は方法論的にはしばしばヴェーバーと対置されるが、この講義では、より直接的な対立関係に置かれていた同じフランスのタルドの学説に焦点を当てて、フランスにおける社会学の発展について検討していくことにする。

授業の到達目標

1．フランスにおいて社会学が登場する時代背景を理解する。
2．講義で扱う主要な社会学者の議論の概要を理解する。
3．この時代の社会学理論が現代の社会学に対してもちうる意義について議論する。

成績評価方法

●**試験**　80%　　論述試験を行い、それぞれの到達目標を満たしているか、論理的な文章となっているか、という点に基づいて評価する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　20%　　各回のリアクションペーパー（またはシステム上のコメント）の内容と参加度により評価する。

科 目 名	社会学研究4（理論社会学2） 現代のフランス社会学理論							
担当者名	池田　祥英							
社会コース	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、主として20世紀後半のフランスにおける社会学理論の展開について検討するが、通史的に見ていくのではなく、現代においてもしばしば取り上げられるものを中心に取り扱う。まず、前史的な位置づけとしてデュルケム学派、とくにモースとアルヴァックスの学説を検討する。モースは文化人類学的な研究を主導し、後のレヴィ＝ストロースに影響を与えた。一方アルヴァックスは集合的記憶論が近年再評価されつつあり、しばしば参照されている。次いで、必ずしも社会学という学問分野の枠組みのなかには収まり切れないが、社会学に大きな影響をもたらしたフランスの思想家として、レヴィ＝ストロース、フーコー、バルト、ボードリヤールといった人物の所論を検討する。さらに、「文化資本」や「ハビトゥス」といった概念を用いて20世紀後半にフランスの社会学理論をリードしたブルデューと、彼に対抗して「方法論的個人主義」の観点から「機会の不平等」のような社会現象の説明に取り組んだブードンの所説を対比的に検討する。最後に、人間だけでなく「もの」（＝人間以外の存在）も含めて「アクター」とみなし、それらの相互関係をとらえようとするラトゥールらのアクターネットワーク理論の意義について考える。

授業の到達目標

1．各回で取り上げる議論の概要を理解する。
2．それぞれの議論の類似点と対立点を理解する。
3．各自の関心に基づいてこれらの理論を応用して議論が展開できる。

成績評価方法

●**試験**　80%　　論述試験を行い、それぞれの到達目標を満たしているか、論理的な文章となっているか、という点に基づいて評価する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%

●**その他**　20%　　各回のリアクションペーパー（またはシステム上のコメント）の内容と参加度により評価する。

科 目 名	社会学研究9（モードの社会学1）　ファッションを通して「ふつう」を再考する							
担当者名	工藤　雅人							
社会コース	2単位	春学期	月曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

社会学は「社会」と日常的に呼ばれているものについての学問ではなく、さまざまな現象を〈社会(的なもの)〉として分析する学問である。〈社会〉として捉えるとは、行為の組み合わせからなる現象のパターンを記述し、その現象に固有の価値や規範、機能を明らかにすることである。

本講義では、ファッションや美容整形などを対象になされた社会学的分析をとりあげ、分析の具体的な手つきを追体験することで、社会学的な考え方を学んでいく。

授業の到達目標

本講義は、社会学的な視座からファッションについて学ぶものであり、以下の2点を到達目標とする。

(1)ファッションを社会学的に理解できるようになること

(2)社会学的にファッションを分析する方法を理解できるようになること

成績評価方法

●**試験**　100%
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科 目 名	社会学研究10（モードの社会学2）							
担当者名	土屋　淳二							
社会コース	2単位	秋学期	月曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

流行やファッション現象を社会学的観点から解読するための基礎編として，隣接科学を含む学際領域での流行研究の動向と知見とを批判的に検討しながら，社会学的なアプローチの仕方に求められる基本的な考え方および方法論について概説します．モード現象と現代人の身体やアイデンティティにかかわる幅広い問題群に注意をはらいながら，文化の表層的変化が人間の行動様式やコミュニケーション形態のみならず，精神的諸文化（価値観やライフスタイル、アイデンティティ）のあり方におよぼす影響ついて考えます．

授業の到達目標

社会的な集合現象の仕組みを社会学的視点から読み解くための考え方を習得します．

成績評価方法

原則的に試験（理解度確認）の成績にて総合評価します（100%）．

だだし授業後のレビューシート（出欠状況を兼ねる）の提出状況によって適宜加点処理します（最大30%）．

科 目 名	社会学研究13（社会分析の実際1）　データから見る、ライフコースと格差　—　社会階層論の視点より　—							
担当者名	津田　好美							
社会コース	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

私たちは、生まれ落ちた瞬間から不平等な存在です。生まれる国、性別、能力、親など何一つ選べないことがその証左です。本講においては、「階級」と「階層」の概念の違いを理解したうえで、現代日本社会において、教育、就職、結婚、老後など生涯のどのタイミングで・どのような格差が・どの程度・どのような要因により生じているのか、さまざまな調査データの分析結果をもとに検討し、格差是正のためにどのような介入が効果的なのかを、受講生のみなさんとともに考えます。

授業の到達目標

社会階層をめぐる諸問題について、理論的・経験的に考察する力を身につける。

成績評価方法

出席状況（20%）、期末試験（80%）により、総合的に評価します。

備考・関連URL

某マイルストーンは参考にせず、自分の頭で社会の仕組みについてしっかり考えたい人以外は受講しないでください。

科 目 名	社会学研究14（社会分析の実際2）　高齢期の暮らしと社会階層							
担当者名	津田　好美							
社会コース	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

1970年、65歳以上の「高齢者」が総人口に占める割合（高齢化率）は7%に達し、日本は「高齢化社会（aging society）」となりました。その僅か24年後、1995年には高齢化率は14.5%となり、日本は「高齢社会（aged society）」へと歩を進めました。2019年時点での高齢化率は28.4%にも上り、世界最高となっています。本講は人口変動の問題を押さえた上で、高度経済成長期以降の社会保障制度の整備・経済発展とともに高齢者の経済的地位はどのように変化したのか、高齢期の暮らしのいかなる局面において社会階層がどのような影響を及ぼしているのかについて、さまざまな調査データの分析結果をもとに検討します。特に、団塊ジュニア世代が高齢期を迎えると、団塊世代と違ってどのような問題が生じるのか、我々はどのように対応すべきなのか受講生とともに考えたいと思います。

授業の到達目標

高齢期の暮らしと社会階層の関係について、マクロな視点から考察する力を身につける。

成績評価方法

出席状況（20%）、期末試験（80%）により、総合的に評価します。

備考・関連URL

某マイルストーンは参考にせず、自分の頭で社会の仕組みについてしっかり考えたい人以外は受講しないでください。

科 目 名	社会統計学1							
担当者名	田辺　俊介							
社会コース	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

社会調査によってえられたさまざまな形式のデータを整理、分析するために必要となる基礎的な手法を学ぶ。量的調査から得られたデータを処理する基本的な方法を扱い、次にデータの分布を記述する指標の読み方や算出の仕方を扱う。その上で、2変数間の相関関係を読み解く方法や統計量、疑似相関などの概念について講義する。社会統計学の基礎的な分析結果の統計的意味や社会的含意を理解できるようになることを目指す。

授業の到達目標

データの分布、記述統計量を理解し、社会調査のリテラシー（読み書き能力）を習得する。

成績評価方法

講義

- **試験**　80%　　期末試験
- **レポート**　0%
- **平常点**　0%
- **その他**　20%　　授業時に提示する課題

科 目 名	社会統計学2							
担当者名	田辺　俊介							
社会コース	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

社会調査から得られたデータが標本のデータである場合、母集団に関する一般的な結論を導出するには、推定ならびに検定とよばれる統計的処理を経る必要がある。

この講義では、確率論の基礎、確率分布、検定・推定の基礎、平均の差の検定、カイ二乗検定、相関係数や回帰分析について、その理論と実践的な意味の両面について扱う。

受講生は、推測統計の基本的な考え方が理解できるようになること。その上で代表的な統計的検定の結果を適切に解釈できるようになることが期待される。

授業の到達目標

推測統計の基本的な考え方が理解できるようになること。その上で代表的な統計的検定の結果を適切に解釈できるようになること。

成績評価方法

- **試験**　80%　　期末の理解度の確認
- **レポート**　0%
- **平常点**　0%
- **その他**　20%　　授業時に提示する課題

科 目 名	社会学特論1　ジェンダー概念の理解							
担当者名	島　直子							
社会コース	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

社会学特論1・2では、ジェンダー概念について理解したうえで、社会生活や学問研究におけるジェンダー視点の意義について学ぶ。特論1では、主に家族、ケア、貧困、暴力、労働をめぐるジェンダー問題について取り上げる。

授業の到達目標

ジェンダー概念について理解し、人々の意識や行動、社会制度などに潜むジェンダー・バイアスに気づく。

成績評価方法

- **試験**　50%
- **レポート**　0%
- **平常点**　50%　　授業中に実施する小テスト等
- **その他**　0%

科 目 名	社会学特論2　ジェンダー概念の理解							
担当者名	島　直子							
社会コース	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

社会学特論1・2では、ジェンダー概念について理解したうえで、社会生活や学問研究におけるジェンダー視点の意義について学ぶ。特論2では、主に政治、国際情勢、政策について取り上げる。

授業の到達目標

ジェンダー概念について理解し、人々の意識や行動、社会制度などに潜むジェンダー・バイアスに気づく。

成績評価方法

- **試験**　50%
- **レポート**　0%
- **平常点**　50%　　授業中に実施する小テスト等
- **その他**　0%

科 目 名	現代社会論1							
担当者名	竹中　均							
社会コース	2単位	春学期	土曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代社会の中で生きるという視点から自閉症者の世界を捉えようと試みる。現代社会の中で生きる自閉症者の姿から何が読み取れるか。それは、自閉症についての理解というだけでなく、現代社会に関する考察の面でどのような示唆を与えてくれるのだろうか。

授業の到達目標

社会学の枠組みを越えた広範な問題について学ぶことによって、逆に、社会学的考察の必要性を実感できるようにすること。個別的知識の習得を主な目的とはしない。

成績評価方法

●**試験**　50%　　第15回目の授業中に「理解度の確認」の形式で一回行う。授業の内容全体を受講生各自が自分なりに消化した上で自論を構成できるかどうかを評価する。

●**レポート**　50%　　毎回の授業中にミニレポートを書いて、その場で提出してもらう。その回の授業内容を理解するための努力をしたかどうかの確認が中心である。

●**平常点**　0%　　実施しない。

●**その他**　0%　　実施しない。

科 目 名	現代社会論2　現代社会の社会学理論的観察							
担当者名	原科　達也							
社会コース	2単位	秋学期	土曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義は、社会学理論の観点から、現代社会を俯瞰的に観察する講義である。「現代社会」の特徴を捉えるうえで本講義で重視するのは、現代以前の社会と現代社会のちがいであり、そのため、近代社会の特徴を度々確認しつつ、現代社会がこれまで語られてきた近代社会と何が異なっているのか、また何が同じであるのかを、都市、コミュニティ、消費やライフスタイル、政治などの様々な点において確認する機会としたい。本講義の前半では「個人化」という一見するとミクロな概念を中心に、社会の変化について紹介していく。講義の後半では「加速化」という一見するとマクロな概念を中心に、社会の時間構造の変化について紹介する。

授業の到達目標

本講義の目的は、現代社会の特徴について社会学理論的な従来の知見を習得し、それらの知識を論理的に記述しつつ、批判的に検討することができようになることである。

成績評価方法

●**試験**　90%　　第15回目の授業内にて試験を実施し、理解度の確認を行う。

●**レポート**　0%　　レポートは実施しない。

●**平常点**　10%　　毎回講義後に提出するリアクションペーパーの質問や意見に次回講義冒頭で回答する。そのなかで、履修者全体の理解を促す質問や的確な意見などがあれば、評価点を加点する。

●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	社会学の考え方1							
担当者名	草柳　千早							
社会コース	2単位	春学期	木曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本科目では、社会学をはじめて学ぶ学生を対象に、社会学の重要トピックスを拾いながら、その基本的な考え方を俯瞰し、「社会学的に考える」ことの意味や今日的な意義、その学問姿勢にみられる特徴について解説する。社会学をひとつの道具として、時代の流れや世界の広がりのなかで繰り広げられる人間と社会の営みについて考察していきたい。

授業の到達目標

社会学の基礎的な概念を理解し、社会学的な考え方や見方を習得すること。

成績評価方法

理解度の確認（70%）授業内容の理解度と応用力
レポート（30%）授業理解の的確さと考察の独自性

科 目 名	社会学の考え方2							
担当者名	草柳　千早							
社会コース	2単位	秋学期	木曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本科目では、社会学をはじめて学ぶ学生を対象に、社会学の重要トピックスを拾いながら、その基本的な考え方を俯瞰し、「社会学的に考える」ことの意味や今日的な意義、その学問姿勢にみられる特徴について解説する。社会学をひとつの道具として、時代の流れや世界の広がりのなかで繰り広げられる人間と社会の営みについて考察していきたい。

授業の到達目標

社会学の基礎的な概念を理解し、社会学的な考え方や見方を習得すること。

成績評価方法

理解度の確認（70%）授業内容の理解度と応用力
レポート（30%）授業理解の的確さと考察の独自性

科 目 名	社会学原典講読1　社会における「人間以外」							
担当者名	栗原　亘							
社会コース	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

近年、社会理論の分野では、人間だけではなく、各種人工物から動植物に至るさまざまな人間以外の諸要素をどのように捉えるのかが重要な問いの1つとなっています。本講義で取り上げるNick FoxとPam Alldredの"Sociology and the new materialism: Theory, research, action"は、「新唯物論」という立場からこの問いに取り組んでいます。本講義では、本書を精読することを通して、学史的な背景を踏まえつつ、こうした昨今の社会理論の展開の重要な一側面について学び、考察していきます。

なお、授業の進め方については、個人もしくはチームで担当箇所に関するレジュメを作成・報告してもらい、その上で内容に関して受講者全員で討論をおこなうという形にする予定です（※ただし、履修者数などに応じて若干変更する可能性もあります）。また、学期末には、テキストの内容を踏まえたレポートを書いて提出してもらいます。そのため、文献をただ漫然と読むのではなく、自分の問いをもち、考え、議論を組み立てるという積極的な態度が求められます。

授業の到達目標

①英語文献の読解能力を向上させること。
②学史的な背景をふまえつつ、現代の社会理論のパースペクティブを理解すること。
③社会学的なパースペクティブを用いて考え、議論する力を養うこと。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　50%　　文献の内容に関するレポートを課します。提出は学期末。
●**平常点**　50%　　出席状況、レジュメ報告の内容、討論への参加状況などを評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	社会学研究17（社会意識論1）　共生と教育の社会学							
担当者名	岡本　智周							
社会コース	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「社会」とは諸個人の単なる集合以上のものであり、「社会意識」はまさにそのことを体現している。本講では現代日本における社会意識の状態を把握しつつ、社会意識がいかなるものであるのか、社会学はそれをどのように捉えようとしているのかを理解する。

春学期にはとくに、現代日本に浸透している学歴や学力を重視する社会意識に注目する。日本社会の中で、学校教育に関する人びとの社会意識はどのように推移し、内容的に変化を遂げてきたのか。まずはこれまでに行われてきた大規模社会調査の結果を検討する。

さらに本講では、学校の「社会的機能」を理解することによって、「学歴・学力重視の社会意識」が学校の「選別・配分」機能のもとに醸成されていることを考える。そのうえで、学校が果たす社会的機能のもう一つの側面――「社会化」機能の重要性に注目することになる。近年の日本社会で学校教育を通した社会的共生の理念の共有が要請されるのも、この「社会化」機能への期待があるからである。

こうした諸々のトピックを通して、「社会」が「教育」を規定すると同時に、「教育」が「社会」を作りだしているという両者の循環的関係を伝達することが、本講のテーマである。

授業の到達目標

・社会学の基本概念および理論の学習を通して、社会現象を捉えるための社会学的観点を身に付ける。
・「社会意識」と「教育事象」の検討を通して、社会システムと教育システムの相互規定性について理解する。
・社会的共生の必要性／不可能性に対する、学校教育の功罪について理解する。

成績評価方法

●**試験**　50%　　期末試験の結果を評価する。
●**レポート**　10%　　授業内で提出してもらうレポートの内容を評価する。
●**平常点**　40%　　出席状況を評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	社会学研究18（社会意識論2）　ナショナリズムと、学校歴史教育を取り巻く社会							
担当者名	岡本　智周							
社会コース	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「社会」とは諸個人の単なる集合以上のものであり、「社会意識」はまさにそのことを体現している。本講では現代日本における社会意識の状態を把握しつつ、社会意識がいかなるものであるのか、社会学はそれをどのように捉えようとしているのかを理解する。

秋学期にはとくに、「国家・国民に関する社会意識」としてのナショナリズムに注目する。第二次世界大戦後の日本社会の中で、人びとの社会意識としてのナショナリズムはどのように推移し、内容的に変化を遂げてきたのか。まずはこれまでに行われてきた幾つかの大規模社会調査の結果を検討する。

その後、本講ではナショナリズムを涵養する文化的装置としての学校歴史教育に注目したい。学校教育は人びとを社会化する機能をもち、かつ、その内容自体が常に変化している。社会が教育を規定すると同時に、教育が社会を作りだしているという、両者の循環的関係を伝達することが、本講のテーマである。

授業の到達目標

・現代日本の学校歴史教育の特徴、その動向、および社会的帰結について理解する。
・社会学の基本概念および理論の学習を通して、社会事象をみるための社会学的方法論を身につける。
・学校教育がもつ二面性――今後の社会を形成する機能的側面と、これまでの社会意識にとっての原因的側面――について理解する。

成績評価方法

●**試験**　50%　　期末試験の結果を評価する。
●**レポート**　10%　　授業内で提出してもらうレポートの内容を評価する。
●**平常点**　40%　　出席状況を評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	教育学概論1　教育思想の諸相と歴史的展望							
担当者名	梅本　洋							
教育コース	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本科目は、著名な教育思想家や教育家が人間と教育に関してどのようなことを考えたのかを探り、教育の理念と思想にかかわる諸問題を取り扱う。具体的には、西洋の教育思想に限定して、特に有名な人物や影響力の大きい人物として、ソクラテス、プラトン、コメニウス、ルソー、フレーベル、デューイ、イリイチをとりあげ、教育や人間形成に関するそれぞれの基本的発想の特徴や今日的意義を論ずるとともに、その限界についても検討を加える。

古代ギリシャのソクラテスから現代のイリイチまでを時代を追ってとりあげることを通じて、教育に対する歴史的な展望も合わせて行い、さらに教育の背景としての社会的・制度的要因にも適宜触れることとする。

授業の到達目標

さまざまな教育思想を学ぶことによって、教育の理念についての理解を深め、教育の歴史的展開の背景である社会的・制度的要因の重要性を把握することが授業の到達目標である。

成績評価方法

●**試験**　70%　　基本的には試験（論述式）の評点によって成績評価をおこなう。試験の評点が、AとBの中間といった場合には、出席状況などの平常点を加味する。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　30%　　上の試験の評価基準を参照のこと。
●**その他**　0%　　その他として記載する事項はない。

科 目 名	教育制度論　教育学概論2							
担当者名	沖　清豪							
教育コース	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義は、広範な領域をカバーする教育学全体の概論として、制度面に関する領域の概論として位置づけられる科目である。特に「公教育」概念を理解し、現在の教育改革の進捗状況を確認するために、毎回の授業では論点を1つ設定し、関連する議論や情報を組み合わせて説明する。合わせて、主に教員免許取得を希望する学生にとって履修が必要とされている「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」について理解し修得することを主たる目的とする講義を実施することで、単に免許取得のためだけでなく「教育・教育学とは何か」という教育学の原点となる課題を考察する機会となる授業として構成されている。日本の現状を表層的な評論ではなく、深く理解するために歴史的な視点及び国際比較的な観点も踏まえて講義を進める。
※この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

授業の到達目標

(1)教育に関する社会的事項として、現在の教育危機と呼ばれる状況を把握し、教育改革の状況を説明できる。
(2)教育に関する制度的事項として、学校教育の現在・実情を理解し、課題を説明できる。
(3)教育に関する制度的事項として、公教育の意義と課題について自分の言葉で説明できる。
(4)教育に関する経営的事項として、学校経営の視点を理解し、現在の課題を説明できる。

成績評価方法

●**試験**　80%　　試験は定期試験期間内に実施し、教育の制度的・経営的・社会的事項に関する個別知識を問う短答問題に4割程度、総合形式の論述問題に6割程度を按分して出題する。
●**レポート**　15%　　毎回の授業終了時に提出してもらう小レポートで評価する。
●**平常点**　5%　　授業内での各種作業に対する主体的な参加状況に基づき評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

(1)本講義は教育学概論1と合わせて履修することが望ましい。特に教職課程を履修する場合は注意すること。(2)評価方法の詳細については、第1回講義で説明する。(3)オンデマンド形式での講義を提供する場合がある。(4)授業計画は国内の教育改革の進捗状況に応じて一部修正される可能性があるので、秋学期科目登録の際にLMSの当該欄で変更の有無を確認すること。
■オンデマンド授業受講環境（以下のURLで確認してください）　http://www.waseda.jp/dlc/on-demand/2012.html
※自宅のPCでオンデマンド授業が受講ができない場合には、学内のPC教室で受講してください。
関連URL: http://www.f.waseda.jp/okikiyo/index.html

科 目 名	教育哲学　人間の特性と人間形成の可能性							
担当者名	梅本　洋							
教育コース	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

人間の教育に関する探究はさまざまなレヴェルで展開されているが、本科目では、まず巨視的に人間を他の動物との対比においてとらえることを通じて人間の特異性に着目し、その特異性との関連で人間にとっての教育の意義を探ることにしたい。その際、具体的には人間の自己家畜化に関する自然人類学の往年の学説やA. ポルトマンによる有名な人間の新生児に関する生理的早産説などにも言及しつつ、人間の生活環境が文化的に多様な歴史的社会であることと人間における教育の意義とが不可分である事実を明らかにする。

教育を考えてゆくにあたってこのように環境はきわめて重要な要因である点にかんがみて、人間にとって環境とは何であるのかという問題を次にとりあげる。さらには、それとの関連で、遺伝か環境かをめぐる古くからの論争にも論及し、分子レベルで

特定の遺伝子に焦点をあてつつ遺伝と環境の相互作用を探る近年の先端的な研究にも触れる。
教育は学習を前提としつつも学習とは別個の営為である。この点に関しては概念的混乱が生じやすい。そこで次に教育概念の問題をとりあげて、特に教育概念の多様性に留意しつつ概念分析を行う。そして、この概念分析をふまえて、教育行為の顕著な特性としてその試行的性格をきわだたせることにしたい。そのうえで、最後に、カリキュラムの構成と教育資源の配分に関する事例をとりあげて、教育における価値や規範にかかわる問題に論及する。その際、ロールズの正義論の問題も取り上げる。

授業の到達目標

教育を通じて人間の特異性を学ぶとともに、教育行為の際立った特性を理解し、教育における価値や規範の問題の重要性を実感すること、および、人間形成における遺伝と環境の意義や教育概念の多様性について基本的な論点を整理することが授業の到達目標である。

成績評価方法

●**試験**　70%　　基本的には試験（論述式）の評点によって成績評価をおこなう。試験の評点が、AとBの中間といった場合には、出席状況などの平常点を加味する。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　30%　　上の試験の評価基準を参照のこと。
●**その他**　0%　　その他として記載する事項はない。

講義

科 目 名	教育史学　中等教育問題の歴史的研究-イギリスと日本							
担当者名	細金　恒男							
教育コース	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

戦後（第二次世界大戦後）の日本とイギリスの教育の変化の跡を、ときどきの社会・経済・政治の変動とかかわらせながらたどってみたい。
二つの国の戦後教育のあゆみを全体的にとりあげることはできないので、考察の対象は、中等教育とその周辺の歴史に主として絞られる（必要があれば、戦前の歴史にさかのぼることもある）。それとて、戦後の中等教育にかかわる政策とシステムの変転の表層をなぞる程度のものではあるけれど、近代国家がその社会統合上の難題としてかかえ、つねに地域政治の争点でもあり続けてきた中等教育問題の歴史をふり返ることによって、教育と社会・経済・政治の関係史を描くひとつの試みとしたい。

授業の到達目標

教育と社会・経済・政治の関係について、歴史的な視野からの理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　70%　　前後2回にわたって、講義内容の理解度を確認するレポートを提出してもらう。1度目は日本編講義終了後、2度目はイギリス編講義終了後に一定期間をおいて、それぞれ2000～3000字程度のレポートを予定している。
●**平常点**　30%　　出席状況を評価する。3分の2以上の出席を必須とする。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	学校教育学　地域と学校							
担当者名	細金　恒男							
教育コース	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

子ども・若者の成長と、教育の存続にとって、〈地域〉のささえが大事であるということに関しては、おそらく誰にとっても異論がない。しかし、そこでいう〈地域〉とはどのような意味をもつのか、あるいは教育の存続や人間の成長をささえる〈地域〉とはいったいどのような要件からなるのかということについて、共通理解があるわけではない。
戦後日本の地域史にはつねに、近代化、工業化を普遍的価値とみて開発を進める側と、風土と民衆の生業のもつ個性的価値をまもろうとする側との相克があった。「開発」や「近代化」の必要を唱える中央や支配層の側からみた〈地域〉とは、経済成長のための「対象」「手段」としかみなされてこなかった。戦後日本の学校もまた、「近代化」の先鋒をになわされたため、〈地域〉とは学校教育をささえる「条件」か、啓蒙の「対象」としてしかみなされてこなかった。
これにたいして、民衆のことばとして〈地域〉を掲げてきた人びとの論理には、自然と人間と文化とが融合された土着の響きがあり、その個性ある自然と人間と文化とからなる「価値としての地域」を断固としてまもり育てようとする気迫がある。自然と人との結びつきは、生業としての農によってまもられ、そこから文化が紡がれてきた。そうした維持可能な地域づくりのうえに教育を築くことが求められている。
上記の観点を持ちながら、この講義では、戦後日本の〈地域と学校〉の関係について再検討する。
なお筆者は、東日本大震災と原発事故以来、福島県相馬・双葉地域の避難自治体と避難先で再開された学校への調査をつづけてきている。原発避難が地域と学校の営みにもたらした困難と、その困難に立ち向かい苦闘をつづけているさまざまな人びとの姿を、本年度の講義のなかでも紹介していきたいと考えている。

授業の到達目標

講義全編をつうじて伝えたいメッセージを一言で表せば、「地域あっての学校、学校あっての地域」という思いである。都市に住む人間の感覚からは縁遠いかもしれないが、とりわけ農山村社会に息づいてきたこのことばの含意を理解してもらえればと思う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　70%　　講義内容の理解度を確認するためのレポートを学期末に提出してもらいます。
●**平常点**　30%　　出席状況を評価します。3分の2以上の出席を必須とします。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	比較・国際教育学（教育改革の視点とその方策）							
担当者名	山西　優二							
教育コース	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

比較教育または比較教育学とは、比較研究や外国研究を通して、自他の教育の特性を把握し、教育の法則性・規則性を探究し、国内外の教育改革に寄与・貢献することをねらいとする研究領域である。また最近では、いわゆる国際化・グローバル化が進展する中で、異文化にまたがって生きる子どもたちにとっての教育のあり方や地域での多文化化・多言語化への対応、開発問題・環境問題・人権問題・民族紛争などの地球的諸問題の解決をめざす教育のあり方などを問う国際教育という領域を含めて、比較・国際教育学と称せられることもある。

本授業では、このような比較・国際教育学的立場から、近代以降、特に戦後にみる世界の教育改革の動向を読み解きつつ、各論として、識字・生涯教育などのテーマをとり上げ、具体的に教育改革の視点やその実現に向けての課題・方策について論じることを目的としている。

授業の到達目標

本授業は、単に知識を獲得することではなく、参加者が世界の教育改革の動向を読み取る力と、識字・生涯教育などの具体的テーマに即して、教育改革への具体的な視点や方策を描き出す力を身につけることを目標としている。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない
●**レポート**　80%　　中間教場レポート・最終提出レポート
●**平常点**　20%　　授業参加
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

この授業は講義科目であるため、講義という形態を基本的にはとるが、可能な限り、討議型、対話型で授業を進めたいと考えている。授業に積極的に参加できる学生の受講を望む。なおこの授業は、同時間帯の秋期科目と関連づけて展開するため、履修者は、文化構想学部の「国際教育論-国際化・グローバル化と教育-」を履修することが望ましい。

科 目 名	教育法・教育行政							
担当者名	沖　清豪							
教育コース	2単位	秋学期	水曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

学校教育をめぐる法規は、公教育の基盤となるものであるが、一般的に学ぶことが忌避されがちなものとなっている。また文部科学省や教育委員会が学校や教職員、そして教育内容にどのように関係しているのかについても、教育学を学ぶ際に後回しにされがちである。しかし教育問題を考えるうえで、原則となる法規や現実を規定している行政の機能やその限界を理解することは、日本の学校教育を理解するのに不可欠な条件であろう。本講義は日本の公教育、学校教育を支える教育法と教育行政の基礎を学び、教育改革の過去・現在・将来を見通すための知識と技能を修得してもらうことを目的として、論点を絞りつつ出来る限り多面的に検討する。

※この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

授業の到達目標

(1)教育制度を支える教育法の重要性を理解し、必要に応じて法規にあたって教育課題を考えることができるようになる。
(2)教育行政の特性を理解し、教育改革の方向性とそれへの対応について考えることができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません。
●**レポート**　90%　　授業で言及した論点について、4000字以上のレポートを提出してもらいます。
●**平常点**　10%　　授業内で行うグループワークへの参加状況を評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

(1)この講義の内容の一部は、教育制度論（旧教育学概論2）の制度・行政に関する授業内容を、より専門的な観点から詳しく説明するものですので、教育制度論と合わせて履修すると理解が深まります。(2)授業内容の一部は第1講ガイダンスでの履修生との意見交換を踏まえて修正する可能性があります。(3)本授業の一部はオンデマンドで提供される場合があります。

科 目 名	教育福祉論　教育福祉と子ども・若者の育つ権利							
担当者名	阿比留　久美							
教育コース	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

人は家庭・学校・地域・制度といった社会のあらゆる影響を受けながら育っていくが、みずからの生きる環境の選択権をもちづらい子ども期は特にその影響が大きい。

子ども・若者に対する社会的支援のあり方は、「教育」「福祉」「文化」「司法」といった領域ごとにわかれ、制度間の分断や連携の貧弱さによって「制度の谷間」にいる子ども・若者への支援が十分におこなわれないという問題が存在している。

そのような「制度の谷間」に発生している子ども・若者の育ちの困難を考えていくための視点を教育福祉の観点から検討していく。

授業の到達目標

・教育・福祉現場をはじめとした子どもや若者にかかわる場所で、子ども・若者にかかわる際の視野を広げ、領域横断的に子ども・若者の育ちをとらえられるようになる。
・子ども観・人間観を豊かにする。

成績評価方法

●**試験**　50%　　授業内容について筆記試験を実施する。
●**レポート**　0%　　実施しない。

●**平常点**　50%　　毎週授業終了後に、レビューシートへの記入を各自おこなっていく。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	特殊教育学　健常/障害と教育							
担当者名	堤　英俊							
教育コース	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、障害を有する子どもの理解に関して「発達・認知」「内面世界」「社会・文化的文脈」の3つの視点から考える。さらに、特別支援教育・インクルーシブ教育に関する基礎的事項の講義を交えつつ、インクルーシブ教育の日常化に向けてどのような実践を展開していけばよいかについて検討することをねらいとする。

なお、この授業は、特別支援学校における勤務経験を有する教員が、実務経験を活かして講義する。

※この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

授業の到達目標

この授業では、障害を有する子どもを多角的・包括的に理解する力量を高めるとともに、教育学の観点から、日本における特別支援教育・インクルーシブ教育の具体的方策について説明できることを目標としている。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない
●**レポート**　60%　　最終提出レポート
●**平常点**　40%　　毎回のリフレクション・シート
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

ディスカッションを多く取り入れます。主体的な参加を期待しています。

科 目 名	教育とジェンダー							
担当者名	近藤　牧子							
教育コース	2単位	春学期	水曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、社会的・文化的性差であるジェンダーの形成過程とその問題点および課題解決に向けての道筋を主として教育という観点から受講生と共に考えていく。

受講生自身の中にある、そして身近にとりまく「ジェンダー」を意識化していくために、ディスカッションやアクティビティを交え、「性別二元制」のもとにある「差異」「境界線」などを問う。フェミニズム運動が獲得しようとしてきたことや、性暴力を含む女性問題を捉えつつ、男性学にもふれる。そのうえで日本の教育の歴史をたどっていく。明治以降、男女別学体制が形成されていく過程とその背景、および女子に対する良妻賢母主義教育について考えるとともに、現代との連続性を考える。次いで、戦後の憲法改正および男女共学の実施、新しい家庭科の出発から高校における女子のみ必修、さらに男女共修にいたる過程、性的マイノリティに関する教育現場の対応、リプロダクティブ・ヘルス&ライツについて考えていく。そして、現代のジェンダーの問題に取り組む教育実践について考え、主として女性・男性を取り巻く様々な問題・新たな国際的動向について共に考えていく。

以上を通じて、新たな男女の関係に基づく社会を作り出していく手がかりを得ることを目指したい。

授業の到達目標

①ジェンダー不平等の視点から物事を考える力を養う。
②自分の女性・男性としての生き方を考える。
③性やジェンダーを学ぶことの重要性を理解する。
④国際的比較の中から日本のジェンダー平等への取り組みの程度を知る。

成績評価方法

●**試験**　40%　　事前に問題を提示し（4問程度を予定）、試験当日は持ち込み不可の形で行う。欠席が5回を超えた場合は試験を受けることはできない。
●**レポート**　20%　　個人レポート課題
●**平常点**　40%　　出席状況およびレビューシートの提出、授業への参加度。
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

インタラクティブに授業を行う予定であるため、受講生の積極的な姿勢を望む。

科 目 名	教育・学校心理学　教育現場で用いる心理学の基礎							
担当者名	藤野　京子							
教育コース	2単位	春学期	火曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

学校での教育場面において、教師が習得していると役立つと思われる心理学の基礎知識を学習する。具体的には、思春期・青年期までの発達過程（感情・認知・社会性の各領域での発達のほか、教育と発達の関係を含む）、学習（動機づけ、学習の過程、教授法を含む）、学校内で繰り広げられる対人関係（教師と生徒との関係、生徒同士の関係を含む）、生徒にとって有意義な学校のあり方、適切な教育評価の仕方について、その基本を学ぶ。加えて、教育現場において生じる問題及びその背景を考察し、さらに、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について検討する。

授業の到達目標

乳幼児期から青年期までの心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解する。

乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解する。

様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解する。

主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解する。

心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。
教育現場で生じやすい問題への防止及び必要な支援について理解する。

成績評価方法

●**試験** 80%　授業で扱った内容をどの程度理解できているかを評価対象とします。
●**レポート** 0%　特になし。
●**平常点** 20%　各回提出を求めるコメントシートの記載内容を評価対象とします。
●**その他** 0%　特になし。

科 目 名	教職論							
担当者名	沖　清豪							
教育コース	2単位	春学期	月曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義は、教職に就くということについて多様な観点から考察し、学生自身の教職への意欲を確認し、その適性を自ら考え、進路を判断するために必要となる知識を提供することを目的とする。また、教員養成の世界的動向や今後の教員養成システム改革の動向も踏まえつつ、現代社会における教職および教員養成の重要性とそれに伴う社会的評価・責任を理解し、教職の職務の多様性、およびキャリアとしての教職の独自性に関する理解を受講生が深められることを目指して、「教職の制度論的・教師論的探求」「教職の社会学的探求」「直面する課題と希望」の三部構成で講義を展開し、適宜受講生相互のペアワーク、グループワークで理解を深める。
※この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

授業の到達目標

（1）教職の意義、教員の役割、教員の職務内容に関する法制、国内外の教員養成や教職に関する改革動向などの知識を獲得する。
（2）教職希望者が現状において教員が抱えている課題を理解し、説明できる。
（3）教職を将来の選択肢にすることの希望を抱き、多様な課題に対応する覚悟を育む。
（4）教職の意義に関する知識に基づいて一定の分量・水準の文章をまとめる力量を獲得する。

成績評価方法

●**試験** 70%　授業内容について重要な知識が獲得できているか（4割）、および教職をめぐる課題について論理的に文章をかけるか（6割）を定期試験で確認します。
●**レポート** 20%　GW明けに800字程度の感想文を提出してもらう予定です。詳細については第1回の講義で説明します。
●**平常点** 10%　授業での作業等に対する主体的・積極的な参加状況を評価します。
●**その他** 0%

備考・関連URL

（1）本科目は教職履修の入門的性格を有しています。履修登録前に資格科目に関する手引きなどでこの科目の位置づけ、内容についての説明を把握しておくと良いでしょう。（2）出席が求められる回数の3分の1以上の欠席がある場合には、単位は認定されません。また故なき遅刻は平常点に反映されます。（3）この授業に関する情報は適宜、LMS経由でお知らせします。メールをきちんと受信し、内容を確認する習慣をつけておいてください。（4）本科目は一部の授業をオンデマンドコンテンツで提供する場合があります。第1回の授業時に説明します。この科目のオンデマンドコンテンツには、一部Mac環境で再生できないものが含まれています。
関連URL: http://www.f.waseda.jp/okikiyo/index.html

科 目 名	生涯学習概論1　教育と学習の問い直し							
担当者名	古市　将樹							
教育コース	2単位	春学期	月曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

生涯学習という言葉が使われるようになってから久しいが、一般的にその理解が進んでいるかどうかは疑わしい。もともとユネスコで提唱された生涯教育の考えにもとづく生涯学習構想は、日本の教育の組み直しを図るものであったが、それは制度的な改変のみを意味するのではない。生涯学習の考え方には、その目的、内容、方法他、学校教育とは異なる教育や学習のあり方が示される。つまり生涯学習は学校教育中心的な教育観の転換を迫るものであり得るはずであった。ところが、そうした理解が進んでいないのは、未だに学校教育中心的な教育観が根強く残り、さらに、実際に社会的に機能しているからでもあろう。この授業では、生涯学習が求められるようになった現在の教育や学習の諸問題を視野に入れるために、日本における〈教育〉の誕生から現在のそれが形成されてきた過程を、主に、明治期から1980年代までの歴史にそってみていくことで、現在的な教育観の基盤を確認する。特に、それにあたっては、学校教育とならんで、教育の大きな領域である社会教育についての基礎的な理解をすすめていく。なお、社会教育全般においてはもちろんのこと、特に、授業予定の自由大学運動には、文化構想・文学部のDPにある文化や学問の交流の具体的なあり方を看取できる授業を意識するつもりである。

授業の到達目標

日本における教育・学習の変遷についての受講者の理解の深まりに基づいて、教育や学習のあり方を分析・評価できること。さらに、受講者自身の教育・学習観を見直し、今後の教育や学習のあり方を創案できることが最終的な目標である。

成績評価方法

●**試験** 0%　おこなわない。
●**レポート** 80%　平常点と合わせて最低基準（60%）以上を合格とする。
●**平常点** 20%　出席状況と提出物の状況。
●**その他** 0%　特になし。

備考・関連URL

本授業は秋期の生涯学習概論2と連続しているため、受講者は、可能な限り、ぜひそちらもあわせて受講してもらいたい。
なお、使用する資料の都合、および受講者の人数によっては、シラバスの順番・内容に変更の可能性があることを承知願いたい。

科 目 名	生涯学習概論2　教育・学習の問い直し							
担当者名	古市　将樹							
教育コース	2単位	秋学期	月曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本授業では、1960年代以降、生涯学習の考え方が登場した経緯を、特に、ちょうどその時期にさかんに論じられた学校教育批判の各論とともに確認する。もともと生涯学習の考え方には、従来の学校教育への批判の観点が含まれていた。しかしながら、日本の生涯学習においては、そこからの学校教育の大きな見直しが実際に行われてきたとはいいにくい。それどころか、生涯学習は、学校教育的な教育観から位置づけられているところも見受けられる。と同時に、生涯学習では、学校教育的な教育／学習の枠に収まりきらない実践も行われている。そこで、生涯学習を考えるにあたって、近代学校教育批判の各論や、実践からふり返っての、その問題点と先駆性の両方を考えていきたい。また、教育の現代的課題、特に、近年主題化してきた、「教育における他者」の問題に注目し、その観点からの、現行の生涯学習の検討もおこなう。そして、後半では、講義内容をふまえて生涯学習の講座を企画・立案するワークショップをおこなう予定にしている。また、そのときのテーマは、DPにある学問・文化・言語・価値観などに関係するものを予定している。

なお本授業は、一部オンデマンドのハイブリッド型でおこなう（下記備考欄注意）。

講義

授業の到達目標

近代学校批判の各論を乗り越え、教育の現代的課題を踏まえながら、今後の生涯学習のあり方を考案・創案できること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこなわない。
●**レポート**　60%　　平常点と合わせて最低基準（60%）以上を合格とする。
●**平常点**　40%　　出席状況と提出物の状況による。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

本授業は春期の生涯学習概論1から連続しているため、受講者は、可能な限り、ぜひそちらもあわせて受講してもらいたい。

繰り返しになるが、本授業はハイブリッド型（4回分を予定）でおこなう。オンデマンドのスケジュールに注意すること。スケジュールは第1回のガイダンスの時に確認する。

なお、招聘講師による特別授業も計画しており、その都合によって、また、受講者の人数によって、シラバスの順番や内容（特にワークショップに関して）に変更があり得ることを承知願いたい。

科 目 名	学校教育改革と社会変容							
担当者名	岡田　聡志　他／沖　清豪							
教育コース	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本授業では、社会の変容の中で、中等・高等教育改革がどのように進展してきているのかについて、2名の担当者がそれぞれの専門から授業を進めます。

岡田担当分では、学校教育改革の中でも大学に焦点を当てて、現代の大学に関する問題や論争を端緒に、教育理論や教育に対するアプローチについて学習を進めます。「大学生」という当事者として身近な問題群から、実践領域と教育をはじめとする様々な理論との関係性やアカデミックなアプローチのあり方について学習することにより、経験論や居酒屋談義とは異なるより客観的・全体的な視点から教育問題を考え、議論することが出来るようになることを目標とします。

沖担当分では、3回に渡り初等・中等教育改革という観点から3つの論点について資料等を通じて理解を深めることにします。

授業の到達目標

本授業の履修を通じて、学生は以下のことができるようになることを目標とします。
（1）日本における初等・中等教育改革および大学教育改革の実態と社会変容との関係性について理解する。
（2）教育問題に対するアカデミックなアプローチのあり方を理解する。
（3）自分とは異なる意見を踏まえ、より客観的・学術的な視点から自分の考えを主張することができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　40%　　【岡田担当40%、沖担当0%】 2000字以上のレポート課題を設定します。 なお、レポートについては7月上旬に一度提出し、返却されたレポートの指摘事項等を修正した上で期末にもう一度提出するという二回提出方式で実施する予定です。（※沖担当の3回分についてレポートは課しません。）
●**平常点**　60%　　【岡田担当40%、沖担当20%】 各回の授業における提出物と参加の度合い（プレゼンテーションやディスカッション等）を総合的に評価します。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	教育社会学1　高等教育の社会学							
担当者名	沖　清豪							
教育コース	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

教育社会学とは教育学の下位領域であり、かつ社会学の下位領域でもあるという特殊性を有しており、教育が語られる際に当然視されている通念の適否を、社会学の技法や理論を援用しつつ検証する学問領域です。2011年度までは「教育社会学」として設置されてきた科目を、2012年度以降は教育社会学1および2として隔年開講で異なる内容を提供しています。本年度開講される「教育社会学1」では、「高等教育の社会学」と題して、大学をはじめとする高等教育機関がこの20年間続く大きな改革の中でどのように変貌してきたのかを、様々なデータや答申等から検証してみます。その上でこれからの大学のあり方について展望と課題を考えてもらえればと思います。なお授業内容は特に教育面（例えば初年次・導入教育、奨学金、単位制度、教養教育など）に焦点を当てますが、制度改革（例えば入試、法人化、大学院改革）にも配慮して講義を行ないます。

授業の到達目標

（1）日本の高等教育改革の動向を把握し、自らの立ち位置を確認する。

(2)教育社会学的な発想法を理解する。
(3)論文を書くために必要な技法を習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません。
●**レポート**　100%　　論理性、内容の妥当性、表現の妥当性、引用など論文としての形式の正当性から評価します。
●**平常点**　0%　　授業への積極的な参加状況を加点要素とする場合があります。
●**その他**　0%

備考・関連URL

(1)授業計画は必要に応じて修正される場合があります。
(2)本授業の評価にあたってはルーブリックを採用しています。授業中に説明します。
(3)「学校教育改革と社会変容」と合わせて履修すると、大学をめぐる諸問題を広く捉えることができるでしょう。
(4)成績評価方法については、第1回講義資料も確認してください。

科 目 名	社会教育実習							
担当者名	村田　晶子　他／阿比留　久美							
教育コース	2単位	夏秋	土曜日	3-4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

社会教育とは学校教育・家庭教育以外のあらゆる学びを指し、その学びや活動の内容や形態は地域や学びの主体のあり様に即して多様である。この授業では、社会教育における学びとその支援のあり方を社会教育実習を通して学習していく。それによって、社会教育主事（社会教育士）に必要な資質、能力を総合的・実践的に習得していくことを目的とする。

授業は【事前指導】【実習】【事後指導】の3つの構造から成り立っている。まず、夏学期に事前指導を行い、団体や活動についての学習、自分自身の実習目的を明確化する学習を実施した上で、夏季休業期間に社会教育に関する実習を30時間以上実施する。この際、実習先は社会教育施設・福祉関係施設・NPO活動等社会教育にかかわるあらゆる領域での実習を想定している。その後、実習での気づき・省察を丁寧に実施して、実習で得た学びを言語化させていく。

【事前指導】5月中旬～6月上旬の土曜日午前中（3・4限）に2回オリエンテーションを実施する。
第1回（5/9）　オリエンテーション①：授業の目的、社会教育実習とはなにか、実習先の紹介と希望する実習先の調整
第2回（5/9）オリエンテーション②：実習にあたっての諸注意、社会教育実習の具体例の紹介
第3回（6/6）実習準備①：自分の実習の目的を明確化する
第4回（6/6）実習準備②：実習先や関連分野について調査をおこなう
※万が一授業に出席できない場合は、早めに相談してください。

【社会教育実習】
夏季休業期間中に社会教育実習（1日6時間×5日＝30時間以上）

【事後指導】については、授業計画を参照のこと。
※この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。
※この科目は主として実践的な教育が行われる科目です。

授業の到達目標

・実習を通して学びたいことを明確にする
・学びたいことを体験できる実習の受入先を探し、その実習先や実習現場の状況等を調査・研究する
・現場での社会教育実習を実施する
・実習の記録を作成する
・実習報告のプレゼンテーションを行う
・他の報告者のプレゼンテーションを聴く
・全体総括としてのレポートを作成する

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　30%　　実習のふりかえりレポートの作成。
●**平常点**　20%　　グループワークや話し合いへの積極的な参加を評価する。
●**その他**　50%　　実習および実習記録を評価する。

科 目 名	社会教育・成人教育学―社会教育課題研究　現代社会と社会教育の役割							
担当者名	村田　晶子							
教育コース	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

第二次大戦後の民主主義社会の形成は、社会を構成する判断主体、法を作る主体を育てることが鍵であった。それはおとなの学びを通して実現されることである。社会教育法立法当時の社会教育課長寺中作雄は、社会教育を「国民の自己教育・相互教育」と表現した。今日、人々の生活の基盤である地域コミュニティの崩壊に直面し、若者や女性の貧困、格差社会、少子高齢化、様々な災害は、私たちに人と人との豊かな関係とそれを支える学びあうコミュニティの創造を求めている。知識基盤社会の形成と地域のコミュニティの再生のキーワードは「学びあうコミュニテイを培う」ことにある。これらの社会教育の課題について、日本社会が培ってきた社会教育の理論、各種の社会教育実践に出会いながら考察する。具体的には、公民館、博物館等の施設、生活記録運動や識字、夜間中学運動、女性問題学習、ジェンダー平等やセクシュアル・マイノリティの学習等をとりあげ、それらに内在するおとなの学びの価値やその方法論が意味することを教育学の課題としてとりあげていく。
※この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

授業の到達目標

社会教育、生涯学習、成人教育の理論を習得する。

日本における社会教育実践について学ぶ。
社会教育の諸課題について考える力を習得する。
おとなが学ぶことの意味や価値について考える機会を持つ

成績評価方法

●**試験** 50%　社会教育、成人教育に関する基礎的認識の習得　課題意識の構築　論理的な記述の能力
●**レポート** 0%　なし
●**平常点** 30%　出席
●**その他** 20%　小レポートを課す

備考・関連URL

本講は、社会教育主事養成課程が改正されたことに伴い新設する科目である。2020年度より社会教育主事（任用資格）養成課程修了者は「社会教育士」の称号を名乗ることができることになった。従来の教育委員会のみならず、自治体各所、指定管理者、NPO等で活躍することが期待されている。

講義

科目名	日本語日本文学研究1（上代文学）『古事記』の神話を読む							
担当者名	松本　直樹							
日文コース	2単位	春学期	火曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

『古事記』は和銅5年に成立したとされる大和王権国家の史書である。その上巻は、「神代」（かむよ）の記事であって、一般に「神話」と呼ばれる神々の物語によって構成されている。イザナキ・イザナミの国生み、オホクニヌシとイナバノシロウサギ、アマテラスのイハヤ籠もりなど馴染み深い話も多い。

『古事記』の「神話」は、大和王権の天下統治権の由来と正当性を説くという極めて政治色の濃い主題のもとに編纂されたものであり、天地創成から初代神武天皇の誕生までを歴史的時間軸に沿う形で叙述しており、民間に伝承され、共同体社会を形成、維持していた純粋な神話ではない。ただ、その素材には、世界の諸民族の神話とも共通する型を持つ、本来の神話があったと思われる。たとえば、スサノヲのヲロチ退治は、世界中にみられるペルセウス・アンドロメダ型神話であって、そこには世界の諸民族に共通する自然と人間と祭りに関する古代的思想を読み取ることができるが、『古事記』においては、皇祖アマテラスの実弟であるスサノヲによる国土の秩序化などの意味を担わされていると思われる。

歴史学・比較神話学・民俗学など周辺諸分野の学問の成果をとりいれながら、『古事記』の「神話」を立体的にみてゆきたい。

授業の到達目標

『古事記』を読むことを通して、神話の本質を理解し、合わせて国家の成り立ち、「日本文化」の形成過程などを考える。

成績評価方法

学期末試験85%程度
出席状況・授業への参加態度などの平常点15%程度
なお、授業回数の3分の2以上の出席を単位認定の必須条件とする。

備考・関連URL

初めの授業で、『古事記』についての丁寧な解説を行うので、初めて本格的に『古事記』を読む学生も安心して受講してほしい。
授業の性格上、続けて欠席すると内容がつかみづらくなるので、努めて出席して欲しい。

科目名	日本語日本文学研究2（中古文学）　空海の文学							
担当者名	河野　貴美子							
日文コース	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

空海の『三教指帰』を読む。遣唐使に随って唐に渡った空海は、当時最先端の中国の学問・思想・文化を学び伝えた、奈良末・平安初期における一流の知識人である。この授業では、漢文による著述に熟達した空海の作品の講読を通して、日本文学史・文化史における空海の著作の意義を考えるとともに、古代日本において中国の学術と文化の受容がいかに行われ、日本の漢文作品がいかにして生み出されたのか、古代の知の世界を見ていきたい。授業では、空海の人と時代などについて概観した後、『三教指帰』を読み進める。『三教指帰』は、登場人物の言葉をかりて、空海が儒教、道教、仏教の何たるかを説き、またそれら三教に対する自らの考えを述べていくものである。まずは序文から始め、巻上・亀毛先生論（儒教の立場）、巻中・虚亡隠士論（道教の立場）、巻下・仮名乞児論（仏教の立場）の中から幾つかの場面、段落を選び読んでいく。対象が漢文であるため、日本のみならず中国の文献にもしばしば触れることになろうが、漢文を扱う際の基本的な工具書なども適宜紹介しながら進めていきたい。

授業の到達目標

日本古代の漢文学への理解を深め、漢文の読解に必要な基本的知識を身につけることを目指す。

成績評価方法

●**試験** 50%　理解度の確認
●**レポート** 0%　行わない
●**平常点** 50%　授業への参加状況
●**その他** 0%　なし

科目名	日本語日本文学研究3（中世文学）　長明・無住・兼好の思想と文学							
担当者名	土屋　有里子							
日文コース	2単位	秋学期	月曜日	4時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

鴨長明、無住道暁、兼好法師はそれぞれ、中学高校の古典授業においても必読である『方丈記』、『沙石集』、『徒然草』の著者として名高い。彼らの著作を精読し、その思想的特色を把握することは、中世という時代の特質を理解することにつながる。本授業ではまず三者の代表作品を精読してその生涯と思想をとらえ、後半では「住居」「和歌」「女性観」「老いと死」というテーマ論を設定し、三者の共通点と差異から中世文学への理解を深めるものとする。

授業の到達目標

日本中世を代表する思想家である鴨長明、兼好法師と、両者をつなぐ存在である僧無住道暁について各著作を読解し、それぞれの思想的な共通点や差異を中世という時代性に照らして考究し、中世文学読解に必須の知識と教養を習得する。

成績評価方法

●**試験**　80%　　第15回目の授業時間内に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　20%　　毎回の授業において自身の理解度や授業の感想、質問などをレビューシートに書いて提出してもらいます。
●**その他**　0%

備考・関連URL

欠席は最大4回までとします。5回以上欠席すると試験を受ける資格を失います。

科目名	日本語日本文学研究4（近世文学）　題画文学を中心とする近世近代の書画研究							
担当者名	池澤　一郎							
日文コース	2単位	春学期	水曜日	1時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

題画文学とは、絵画に書き付けられた詩詞文章のことである。もともと中国の唐宋に淵源があり、明代清代に盛行し、日本では中国の影響下、中世五山文学や近世近代の山水画に盛んに書き付けられた。絵巻物や俳画に書き付けられた詩歌文章、浮世絵の狂歌などはそのバリエーションであり、日本化したものである。本講義では、これらの中から近世と近代に亘る時代のものを、適宜選んで紹介し、漢詩文を中心とする題画文学を綿密に解読し、絵画の世界との関係を開示したい。また近世近代の日本人は、現在のように文字をパソコンスマホで綴るのではなくして、筆を執って墨に浸してから、和紙や絹布に書き綴ったために、布字の速度を保つために、ほとんどの文字はくずし字か草書である。現在は明朝活字を基礎とする楷書で漢字を書き綴るが、当時は草書が一般であった。現在のわれわれはほとんど草書を書かないし、読まないので、題画文学の常態である草書の漢詩文は欧米語以上に縁遠いものとなっているが、近世近代の日本人は草書やくずし字で日本語を書き綴るのが常態なので、楷書を忘れてしまう場合すらあったのである。この現代と近世近代との常態の変化は、われわれを古典どころか、祖父母の時代に毛筆で書き綴られた文字すら読めなくしていて、歴史や古典との断絶という非人間的状況を現出している。この反省に立って、講義の中ではゆっくりと丁寧に草書やくずし字の、題画文学を読解する。受講者はほぼ全員初学の段階にあると思われるので読解方法については基本から伝授したいと考えている。

授業の到達目標

従来、美術史や中国文学の領域とされていた書画、題画文学について、日本文学史に組み込むことを志す。受講者には近代以降の西欧中心に形成されたジャンル意識がどれほど題画文学のような総合藝術の実態を破壊してしまっているかについての認識を高めてもらうと同時に、くずし字や草書の読み方、印章の篆書や漢詩文の訓読法などについての基礎力を、高等学校までに積み上げた蓄積を更に向上させてもらいたいと考えている。

成績評価方法

●**試験**　70%　　講義内で扱った資料に基づく発問を列挙した形式の試験を学期末に行う。まんべんなく回答しえたものに及第点を与える。
●**レポート**　20%　　講義の中で随時小テスト（レポート）を行って理解度を確かめる。
●**平常点**　10%　　出席は時折確認するが、講義内容をカバーする教科書や講義録、著書などは存在しないので、八割程度は出席していないと学期末の講義に基づく試験に解答が出来ないと思う。解答しうる自信があるものは出席せずに、試験だけ受ければよい。
●**その他**　0%　　上記の三要素で成績判断するので「その他」はない。

科目名	日本語日本文学研究5（近代文学）　20世紀の文学・文化研究							
担当者名	鳥羽　耕史							
日文コース	2単位	春学期	火曜日	2時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

20世紀は、出版メディアが大きく成長したのみならず、演劇、映画、放送などのメディアも発達した時代である。この時期の文学を研究するにあたっては、そうしたメディアに関する知識を身につけ、アーカイブを使いこなせるようになる必要がある。また、同時代の政治運動、芸術運動と文学の関わりについても、目配りができるようになってもらいたい。この授業では、作家、雑誌、映画、テレビなどの具体的な対象に即しながら、20世紀の文学・文化研究の諸問題を扱う。各自の研究テーマへの応用を考えながら参加してもらいたい。

授業の到達目標

20世紀の文学・文化の研究対象や方法を理解する。そうした知識をもとに、各自の研究テーマについて、自分なりの考察を表現できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　授業内容を理解して各自の研究テーマが論じられているか。
●**平常点**　30%　　毎回のコメントシートと、授業での議論への参加ができているか。
●**その他**　0%

科目名	日本語日本文学研究6（日本語学）　日本語の文章・文体と文法							
担当者名	森山　卓郎							
日文コース	2単位	秋学期	水曜日	1時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

文章とは、文の集合である。そのしくみを検討するのが文章論である。文体論とは、文学作品などのさまざまな文章の特性を分析するのが文体論である。したがって文章論と文体論は相互に関連している。最近、記述的な文法研究の進展に伴って、文法研究を応用した日本語の文章と文体についても一定の検討ができるようになってきた。ここでは、具体的な表現をとりあげながら、文章と文体を文法的観点から検討する。

まず、一般的な文章・文体の分析概念を検討し、詩や俳句などの韻文の分析、歌詞の分析、小説の分析などを行っていく。

授業の到達目標

日本語の文章と文体について、一定の知見と文法的な考え方を身につけること。

成績評価方法

試験と平常点

科 目 名	日本語日本文学特論1　古典籍の基礎知識と扱い方と心構えと							
担当者名	梅田　径							
日文コース	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本の扱い方を学びます。 明治以前の本を「古典籍」といいます。現代でも比較的安価に購入できますが、それをただ集めたり、コレクションしたり、眺めたりするだけでは本を理解したとは言えません。源氏物語や古今和歌集といった古典文学の〈モノ〉としての側面を理解し、ただしく扱い、その性質を理解できるようにします。広く「書誌学」と呼ばれる領域ではこうした本の見方を学びますが、本講義も書誌学を中心とする内容で構成されることになるでしょう。 一方で、消費財として作られた現代の「書籍」とは異なる心構えで本に接する必要があります。世界に一冊しかない本、開いたときには価値が分からないけれど、実は重要な本。重要ではなくても破損や汚損がある本などがあり、誤った扱い方や不誠実な取り扱いは文化財の破壊や、日本文学研究者の評価を下げることにもなりかねません。授業内容をよく理解し、適切に予習復習を行ってくれることを期待します。

講義

授業内容は、座学講義・図書館での実習・書類作成からなります。座学は基本的にグーグルスライドを利用し、授業前後にも閲覧可能です。また、ノートはPCやタブレットでの利用も認めます。

また、オンデマンドの崩し字読解の授業や、後期の特論2と併せて履修することを推奨します。

授業の到達目標

1　基本的な古典籍についての書誌学的知識をもつ
2　適切で研究上有用な目録を作成できる
3　それなりに適切な書誌情報を取れる
4　実地に及んで不適切な扱いをしない
5　影印や出版に及んで適切な書類作成や利用許諾を取れる

成績評価方法

●**試験**　70%　　書誌目録は30点、書誌ノートは40点とします。
●**レポート**　0%
●**平常点**　15%　　出席して篤実な態度で授業に臨んでいる場合に平常点を加算します。
●**その他**　15%　　中間テストの結果や授業態度も高得点の場合には配慮します。

科 目 名	日本語日本文学特論2　文献学への招待―歴史・理論・実践的処理――							
担当者名	梅田　径							
日文コース	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

文献学とは、古典文学を素材として、現存する様々な異本を調査し、各書の適切な関係性を考える学問です。
日本近代の黎明と共に発達した文献学は、芳賀矢一、池田亀鑑、西下経一ら、優れた文献学者たちによって現在でも有効な方法論と、古典文学に対する固定化した観点を生み出してきました。現代においても有効とされる文献学の方法は、中国における校勘学とのかかわりや、古筆切や諸本探求の深化、系統学や文化情報学の発展によって改めて再評価されています。

この授業では、著名な文学作品を対象とした講義を中心とするセクションと、崩し字読解や文献評価を目的とするアクティブラーニングを中心としたセクションに分けて展開します。 様々な古典文学作品に関する文献学的な知識を涵養し、実践的な翻刻と文献比較の技術を課題をこなすことで習熟し、書誌文献学的な研究をするための基礎的な技能を習得することを目的とします。グループワークを通じて崩し字読解の練習を行いますので、積極的な参加を期待します。

授業ではGoogleスライドを利用し、課題の提出にはウェブアプリ「SLACK」を使います。スマートフォン、あるいはPCの利用を推奨します。
成績は事前に提出する課題について、教場レポートとして提出してもらいます。また、一部出席、課題の提出も配慮します。また、特論1の履修を推奨します。

授業の到達目標

この授業では、知識面と技能面において以下の達成目標を設定しています。

知識面―理解と態度
①文献学における基礎的な用語を理解し、説明できる。
②日本古典文学作品における近代以降の文献学上の成果を答えられる。
③貴重な典籍に対する敬意をもち、適切な取り扱い方法を理解している。
④博物館や美術館などに蔵される古典籍を観察し、その重要性や価値を把握できる。

技能面――読解と文献取り扱いの基礎。
①基本的な崩し字が読み翻刻ができる。
②影印・原本から序跋、奥書等の情報を読み取れる。
③基礎的な本文異同の調査、本文校訂ができる。
④本文異同や奥書の記載から系統分類を推定することができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません。

●**レポート**　50%　　比較的容易な崩し字読解を必要とする問題を解決するレポート課題を出します。文字数の制限はありませんが、提示された問題を解決できているかどうかを判断基準とします。出席が3分の2以下であった場合にはレポート点を0点とします。

●**平常点**　20%　　授業内の取り組みを課題とともに評価します。重篤な遅刻は課題でもって出席と引き換える場合がありますが、大変な分量となります。

●**その他**　30%　　授業内の取り組みを課題とともに評価します。

備考・関連URL

①参考URL　【崩し字の検索】

『木簡画像データベース・木簡字典』『電子くずし字字典データベース』連携検索http://r-jiten.nabunken.go.jp/kensaku.php

【崩し字学習アプリ】

くずし字学習支援アプリKuLA iOS版

https://itunes.apple.com/jp/app/kuzushi-zi-xue-xi-zhi-yuanapurikula/id1076911000?l=en&mt=8

くずし字学習支援アプリKuLA Android版

https://play.google.com/store/apps/details?id=yuta.hashimoto.kula

②実習期間のやむをえない欠席、自然災害や列車遅延については若干配慮します。

③授業の感想などを書いてもらいますが、質疑はSLACKにおいて返答します。

講義

科目名	日本語日本文学特論3　中世宗教文芸論――後白河院御撰『梁塵秘抄口伝集』の世界							
担当者名	小島　裕子							
日文コース	2単位	春学期	水曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

武家政権の幕開きとなった鎌倉時代前夜の12世紀末に、時の法皇であった後白河院は歌謡集『梁塵秘抄』を編纂した。その具体的な編纂時期は院が平清盛によって鳥羽殿に幽閉されていた頃と目される。自身はもとより、先の見えない院政のただなかにあって、それが単なる歌謡集を編む、ということにとどまらないことは、一連の企画のもとに執筆された『梁塵秘抄口伝集』にみられる王自らが残そうとした「声」の世界への執着と相呼応する。同歌謡集の編纂と口伝集の執筆がもたらす意義は那辺にあったのか。

毎回、読み込む箇所を『口伝集』より切り取り、後白河院の著述の背景に王によって温められたある芸能史を読み解く。梁塵秘抄関係外の説話・絵巻・物語・随筆などの文芸や日記などの記録もからめて考えてゆきたい。

授業の到達目標

到達目標は、『梁塵秘抄口伝集』という作品に対する理解を深めるなかで、中世の宗教芸能が表出した文芸世界の一端を教養として修めること。

成績評価方法

課題：15%　講義の三分の一（5回）経過前後に、受講者が関心をもつ今様一首を選び、「私の今様一首選」として提出。

レポート：70%　授業内に提示するいくつかのテーマから自身の関心の高いものを選び、論述する。

平常点：15%　聴講することが自ずと第一の条件となることを留意して出席するよう。

科目名	神話と伝説の世界							
担当者名	工藤　浩							
日文コース	2単位	春学期	木曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

古事記所載の主な神話・伝説について概観し、研究史の上で問題とされた事柄と今後の課題について考える。

授業の到達目標

古事記の主題と構想を理解し、現在の研究状況を把握する。

文学と歴史、神道の文化との関係について理解する。

成績評価方法

●**試験**　80%　　『古事記』の主題と構想を理解し、自分なりの見解を持つことができているかどうか。

●**レポート**　0%

●**平常点**　20%　　授業への出席と参加の状況。 出席については欠席が5回を超えないよう留意すること。 授業中に理解度の確認のため、受講者を指名して質問し、応答の状況を評価に加える。

●**その他**　0%

科目名	物語文学の世界　光源氏退場後の『源氏物語』							
担当者名	陣野　英則							
日文コース	2単位	秋学期	金曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義では、光源氏が亡くなった後の『源氏物語』をとりあげ、特に注目すべき問題が看取される箇所を中心に、多面的な特色をとらえてゆきたい。

まずは、『源氏物語』全般に関わる問題点、および光源氏が登場する「幻」巻までの梗概と構成などについて概説する。その後、「匂兵部卿」「紅梅」「竹河」の三帖、さらに「橋姫」巻をとりあげる。光源氏という中心を喪失した物語をなおも継続させることは、おそらく容易なことではなかったはずである。さまざまな試行錯誤の跡をのこす「匂兵部卿」「紅梅」「竹河」、そしてあらたな物語の展開を可能にした「橋姫」巻の方法などをとらえてゆく。あわせて、次のような諸問題を扱うこととする。

・物語文学と絵

・『源氏物語』の〈語る〉ことと〈書く〉こと
・倒錯する作中人物たち

授業の到達目標

『源氏物語』の難解な本文を自力で解釈することを目標とする授業ではないが、あくまでも『源氏物語』の本文に即して、その文学としての、また文化としての特色をとらえることを第一義とする。たとえば、「『源氏物語』とはどういう文学か」と尋ねられたときに、その本文の特質にもとづいて自分の言葉で説明できるようになることをめざす。

成績評価方法

●**試験**　50%　　最終回の授業中に行う理解度の確認テストによる。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　授業中に実施する三回の小テストと出席状況による。
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

古文の読解能力にあまり自信がないという人でも充分理解できるように配慮する。
〈関連URL〉
・ 国文学研究資料館　http://www.nijl.ac.jp/
・源氏物語の世界（渋谷栄一氏のサイト）　http://www.sainet.or.jp/~eshibuya/

講義

科 目 名	和歌文学の世界　万葉集入門							
担当者名	高松　寿夫							
日文コース	２単位	秋学期	月曜日	４時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本最古の和歌集である『万葉集』を読むための基礎的な事柄について講義する。
発生から奈良時代（7世紀前半から8世紀後半）までの和歌について、時代を追って話題にしつつ、『万葉集』とはどのような歌集なのか、古代の和歌とはどのようなものなのかを解説する。

授業の到達目標

『万葉集』を中心とした、奈良時代以前の和歌の概要を理解するとともに、古典和歌を解釈・鑑賞するための基本的な知識・方法を身につける。

成績評価方法

●**試験**　50%　　最終授業日に理解度の確認を行う。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　出席・レビューシートの内容。
●**その他**　0%

科 目 名	鎌倉・室町の文学　徒然草とその時代							
担当者名	小川　剛生							
日文コース	２単位	春学期	金曜日	１時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

南北朝期の二条派歌人であった兼好法師が著した徒然草は、243段からなる随筆である。文学史では「隠者文学」と定義され、「無常」や「尚古思想」といったキーワードによって、現在でも多くの読者を獲得している。ところが、虚心に本文に向き合う時には、通説に基づく読み方には違和感を感ずる向きは少なくないであろう。正直、作者が何を言おうとしたのか、よく分からない段も多い。そこで作品の直接の背景となっている中世社会の制度や秩序、また鎌倉時代後期の政治情勢、ひいては中世人の価値観を実証的に探ることで、徒然草解釈の基盤を明らかにし、そこから作品の特色について考察してみたい。

授業の到達目標

●古典文学の解釈の基礎を学ぶ。
●文学史の基礎知識を得る。
●鎌倉時代後期から南北朝時代にかけての社会・文化の実相を理解する。

成績評価方法

出席状況、小テストの平均点数および学期末試験。ほぼ毎時間、出席確認を兼ねて小テストを実施するか、リアクションペーパーを提出して貰う。小テストの成績が一定規準に達しない場合は学期末試験を受験することができない。

科 目 名	近世小説と俳諧　与謝蕪村の発句と為永春水の人情本について							
担当者名	池澤　一郎							
日文コース	２単位	春学期	金曜日	３時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

近世中興俳諧の雄、与謝蕪村の発句を精選して、解読する。殊に先行する元禄期の俳諧や和歌、漢詩を踏まえての、蕪村が「二重の聞きをつける」とする、重層性、多義性を帯びた鑑賞がなしうる「近世的表現」を達成しているものについて、精読し、近現代の俳句との差異を浮彫にする。
近世後期人情本作者、為永春水の『梅暦』シリーズの中から名場面を選んで紹介する。人情本、曲亭馬琴の読本とならんで、坪内逍遥、森鷗外、正岡子規といった近代文学の黎明期の作家に嗜読されたもので、その系譜に連なる永井荷風は近代最高の人情本読者であった。かような近代文学との連続性ということにも注目して、人情本の面白さの一端をお伝えできればと考えている。

授業の到達目標

近代文学者の勧善懲悪論によって、暗黒の時代として葬りさられた近世文学の「近代」を「超克」する側面について、受講者の認識を深めてもらえればよいと考える。

成績評価方法

授業への参加率と参加時の熱意。小テスト、レポート、試験の成績如何によって評価する。

科 目 名	近代の文学と文化　肉筆原稿の文化誌							
担当者名	宗像　和重							
日文コース	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

近代の文学は、端的にいえば「活字的世界」の産物であり、新聞や雑誌などの新しい活字メディアの発達と切り離して考えることができない。私たちも、どのようなテキストであれ、通常は活字を通して近代の文学を享受しているが、言葉で何かを表現するというのはどのような営みなのかを教えてくれるのは、むしろ、推敲や訂正の跡が生々しい作家の肉筆原稿に優るものはない。この授業では、近代の作家たちが、新しい時代の到来のなかでどのように言葉と格闘し、それぞれの表現を紡ぎだしてきたかを、彼らの肉筆原稿を通して探ってみたいと思う。

たとえば森鷗外や夏目漱石は、どんな用紙や筆記用具を使って、どんな筆跡で彼らの「作品」を書いていたのか。また、和紙に筆で書かれていた時代から、原稿用紙に万年筆で書かれていた時代、さらにワープロやパソコンによる執筆が一般的になってきた時代に至るまで、作家の原稿は、近代日本の筆記環境の変遷の証言者であるとともに、執筆や推敲の過程を教えてくれる貴重な資料でもある。この授業では、実際の原稿（の複製やコピー）に触れることで、従来とは異なった角度から、言葉やものを書くことの意味について考えてみたい。具体的には、今年度の授業では、森鷗外・北村透谷・樋口一葉・夏目漱石など、おもに明治・大正期を中心とする近代文学の原稿について、取り上げる予定でいる。

授業の到達目標

ほとんど手書きの機会がなくなってきた現在、肉筆の資料を読むことで、あらためて言葉や文字のもっている意味について考え、またその魅力に触れることを、この授業の目標としたい。そのことを通して、近代の筆記環境の変遷とその文化的背景にも目を向けていくことができればと思う。また、受講生それぞれの言語表現のあり方や、言葉でなにかを伝えることを、より深く考える機会になることを願っている。

なお、授業はおおよそ下記の予定で行う。一つの作品の原稿の代表的な箇所を何回かにわたってとりあげ、その筆記具や用紙、表記や推敲の特色、印刷との関わりなどを読み解いていきたい。また、おおむね時代をたどりながら、それぞれの時代の文化的な背景と筆記環境の関わりにも目を向けていきたいが、学習効果を高めるために、以下の内容や順序については変更することがある。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　各自が関心をもつ近代作家の原稿についての考察を、学期末のレポートとして提出してもらう予定。
●**平常点**　30%　　出席および授業中に随時提示する課題などを、レポートに加えて評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	現代の文学と文化1　ノンフィクション論――ポスト真実の時代に抗う							
担当者名	高橋　敏夫　他／加古　陽治／田村　景子／吉田　敏浩							
日文コース	2単位	春学期	火曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

2020年の今、社会と人間の闇に鋭くきりこむノンフィクションの登場が、つよく、つよく求められています。わたしたちは現在、情報・文化から政治・経済にいたるまで、混沌とした世界に直面しています。もちろん、多様性と共存がうみだす豊かな混沌ではありません。いたるところで顕著な対立と分断、差別と排外が、互いの憎悪をかきたて、暴力へ、戦争へと人びとを誘う黒々とした混沌です。

思わず眼をそむけたくなる混沌とはいえ、こんなときこそ一つ一つの事実を直視したい。暴言や妄言、フェイクニュースなどに逆らって、事実をねばりづよく追い、真実を見極めたい。「ポスト・ファクト（事実）」「ポスト・トゥルース（真実」と呼ばれる今だからこそ、すぐれたノンフィクションが求められるのです。

ただし、ノンフィクション（ルポルタージュ）は、事実をただ記述する事実追認型のジャンルではありません。個々のノンフィクション作家（ライター）が、確固とした思想と、独自の取材方法と、独特な文体によってつくりだす事実発見型のジャンルであり、その発見にもとづく事実批判型（さらに「事実をのせている構造」批判型）のジャンルなのです。

本講座は、社会と人間の闇に鋭くきりこんできたノンフィクションを、その歴史、その方法、その具体的な実践、その様々なテーマなどから明らかにします。講師は、個性的なノンフィクション作家の中でもとりわけ個性的な作家、現役の新聞記者、ノンフィクションを研究対象にしている文学研究者です。

活躍中の作家、新聞記者、編集者に接するまたとない機会になるでしょう。

この講座をきっかけに、ノンフィクションのおもしろさ、意義、そして可能性をつかみ、今日のノンフィクション読者から、明日のノンフィクション作家へ、また、明日のノンフィクション評論家、研究者へ、その第一歩をふみだしてください。

さあ……。（コーディネーター・高橋敏夫）（講義内容・講義計画の詳細はWeb上の講義要項を参照のこと）

授業の到達目標

ノンフィクション作家の話を聞き、ノンフィクション作品を読み、かつ理論と歴史を学んで、ノンフィクションの実践または評論、研究の第一歩をふみだす。

成績評価方法

試験　0%
レポート　50%　成績評価においては、その成績をA＋（優）、A（優）、B（良）、C（可）、F（不可）の五段階評価とし、C以上を合格とする。A＋、A、B、Cについては、課題に対する理解度、独創的視点の有無、文章表現の巧拙を総合して判定する。
平常点評価　50%　出席回数は授業回数の三分の二以上を必要とする。
その他　0%

科 目 名	現代の日本語　日本語は乱れているか							
担当者名	笹原　宏之							
日文コース	2単位	秋学期	水曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

「近頃の日本語は乱れている」という指摘がしばしばなされている。しかし、日本語の歴史を振り返れば、古い時代にも言語

の「乱れ」を嘆く声はある。また、「乱れ」とされるものには、実際には「揺れ」と見るべきものが少なくない。「揺れ」と「乱れ」とを分ける基準は何なのか。

現代の日本語について問題とされるさまざまの現象について、変化と変異、原理化と合理化と効率化、体系化と個別化、規範意識と歴史的動態などの視点を日本語学などの研究成果から加えつつ、その意識と背景にあるもの、多様性のもつ意味の解明を進める。

音声・音韻・語彙・文法・敬語・方言・文字・表記・地名・姓名など、現代の日本語全般にわたるトピックを、原則として下記の計画に沿って広く扱っていく。 毎回、レビューシートを活用し、講義に相互方向性を持たせるとともに、観察・内省と思考・分析を続けていく習慣を身に付け、問題を自ら見出し、真実に迫り、解答を創り出す力を養成する。

授業の到達目標

日本語とその文字・表記に対して、希薄な根拠による硬直した規範意識に囚われることなく、客観的に対座し、観察、内省、考察する姿勢と、使用と受容・鑑賞に際して適切な判断を行うための分析・調査の方法とを身に付ける。

成績評価方法

●**試験** 0%　行わない。
●**レポート** 70%　テーマ違い、枚数不足、引用不備は採点対象外となりかねないので、注意して下さい。
●**平常点** 30%　提出物、探究姿勢、受講姿勢など。
●**その他** 0%　特になし。

備考・関連URL

関連URL:
http://www.iwanami.co.jp/hensyu/sin/sin_kkn/kkn0601/sin_k274.html
http://dictionary.sanseido-publ.co.jp/dicts/ja/ateji_ateyomi/

講義

科目名	日本語の文化史　日本語と日本語表現に垣間見える日本人の価値観や発想の原点							
担当者名	高松　正毅							
日文コース	2単位	秋学期	月曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

言語遊戯（ことば遊び）やさまざまな表現技巧に着目しながら、日本語史や日本語学史の知見も交えつつ、日本語の持つ文化的な特徴をとらえることを目指す。

授業の到達目標

日本語の有する文化的な特徴に対して目を開き、知り、日本語と日本文化への理解を深め、可能な限り意識的に活用できるようになることを目指す。

成績評価方法

●**試験** 70%　「学期末定期試験」の得点（または「学期末提出レポート」（履修者数が少ない場合）の完成度）
●**レポート** 0%
●**平常点** 30%　授業への主体的・能動的な参加度、授業中の発言や質問（授業後を含む）といった講義への積極的な取り組み度
●**その他** 0%

科目名	日本の文学論　古典・古典的公共圏・注釈							
担当者名	前田　雅之							
日文コース	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義では、「古典」および「古典」に付随する問題群、とりわけ、古典はいかにして古典となったのか、どうして古典は尊ばれ明治にまで存続したのか、それなのに、どうして近代において古典は捨てられるに至ったかなどなどといった問題群を古典的公共圏の成立と変容およびそれと表裏一体の関係にある古典の読まれ方を問うものとしての注釈の展開を歴史的に議論することによって、日本の文学論、言ってみれば、古典日本における「文学」、「文学論」とは何であったかを学ぶことを目的する。

議論の対象は、『古今集』仮名序から始まり、古典的公共圏の成立によって日本の古典・古典的書物が確定し、それらに対する注釈活動・本文制定活動が活発になる鎌倉期、戦乱がありつつもしっかり古典注釈が展開した室町後期・戦国期、そして、江戸初期の古典出版活動、大名の古典蒐集、国学の生成までとなる。

日本古典をなぜ学ばねばならないのかという疑問のある学生は参加して戴きたい。

授業の到達目標

前近代日本における古典の意義と機能および利徳を習得する

成績評価方法

試験　90%　平常点（リアクションペーパー）　10%

備考・関連URL

積極的な参加を希望する。

科目名	くずし字を学ぶ　古典から近代まで							
担当者名	宗像　和重　他／兼築　信行							
日文コース	2単位	春学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フルオンデマンド

授業概要

くずし字を解読する力を身につける。古典から近代までの文学資料を教材に用いながら、各時代の文字の特色や、書写上の要点、資料の内容についても説明する。授業は完全なオンデマンド形式で実施する。変体仮名は、今から百十年余ほど前に仮名字体が統一されるまでは、日常生活の中でごく普通に用いられていた。くずし字も、毛筆を使うことが少なくなった現代では、読むことが難しくなっている。しかし、日本の古い文献や資料を取り扱い、専門的に研究するためには、変体仮名やくずし字を読解する力が必須となる。本講義では、独自のワークブックを使用しながら、昔の文字を読むことができるよう練習を重ねていく。前半は兼築信行が担当し、主として鎌倉時代から江戸時代までの写本・版本等の文字を学ぶ。後半は宗像和重が担当し、主として近代の文学資料の文字を学ぶ。学習方法が会得できたら、各自の関心にしたがい、さまざまな文字を読む応用訓練もできるだ

ろう。オンデマンド授業の利点として、理解できなかった点は、何度でも繰り返し受講することが可能である。意欲と根気さえあれば、変体仮名・くずし字を読解する力は、必ず身につけることができる。
テクストの事前学習と、各講の課題を行うため、事前事後に90～120分程度の学習が必要となる。

授業の到達目標

くずし字のうち、少なくとも変体仮名については、「主要仮名変体表」等を参照しながら、完全に読解できるようになること。

成績評価方法

●**試験** 90%　最終講に理解度の確認を実施する。
●**レポート** 0%　該当なし。
●**平常点** 10%　受講状況、BBSへの参加などを評価する。
●**その他** 0%　該当なし。

備考・関連URL

オンデマンド授業受講環境をよく確認すること。
※自宅のPCでオンデマンド授業が受講ができない場合には、学内のPC教室で受講してください。なお、すべての授業コンテンツのうち3分の2以上を、所定期間に受講していない場合は、たとえ試験を受けても評価は「不可」となる。バックナンバーでの受講は、出席としてカウントされないので、注意すること

科目名	日本語学概論1 「ことば」の学問とその研究へのいざない							
担当者名	森山　卓郎　他／高松　正毅							
日文コース	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

毎時間、取り上げる日本語と日本語学に関することがら（トピック）について探求する。
配布プリントに沿って解説を聴きながら、日本語および日本語学に関する理解と見識を得る。

授業の到達目標

本講義の到達目標は、① ことばを捉えるのにどのような観点があるかを知る。② 日本語がどのような言語であるかを知る。③ 言語の研究、特に日本語の研究がどのようなものであるかを知る。の3点である。これらを理解した上で、究極的には自分自身でも言語の分析ができるようになることを目指す。

成績評価方法

●**試験** 70%　「学期末定期試験」の得点（または「学期末提出レポート」（履修者数が少ない場合）の完成度）
●**レポート** 0%
●**平常点** 30%　授業への主体的・能動的な参加度、授業中の発言や質問（授業後を含む）といった講義への積極的な取り組み度
●**その他** 0%

備考・関連URL

・小学館 国語辞典編集部「Web日本語」
http://www.web-nihongo.com/
・清泉女子大学図書館 学科別リンク集「日本語日本文学科」
https://www.seisen-u.ac.jp/library/link/index.php
同大学の「日本語学に関するパスファインダー」も
・立命館大学「日本語学習・日本語教育のためのリンク集」
http://www.ritsumei.ac.jp/~kitade/links.htm

科目名	日本語学概論2 「日本語」の学問とその研究を深める							
担当者名	森山　卓郎　他／高松　正毅							
日文コース	2単位	秋学期	月曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

前期の「日本語学概論1」では、「日本語学」を広く浅くなぞった。後期は、語彙と文法、文章の三つの観点から深める。

授業の到達目標

日本語の語彙、文法、文章の特徴をつかみ、その研究における課題や問題点をとおして日本語学に関する見識を深めることを目指す。

成績評価方法

●**試験** 70%　「学期末定期試験」の得点（または「学期末提出レポート」（履修者数が少ない場合）の完成度）
●**レポート** 0%
●**平常点** 30%　授業への主体的・能動的な参加度、授業中の発言や質問（授業後を含む）といった講義への積極的な取り組み度
●**その他** 0%

科目名	日本語史1 倒叙　近代日本語史							
担当者名	上野　和昭							
日文コース	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代日本語から時代をさかのぼって、安土桃山時代までの日本語を概観する。

授業の到達目標

日本語を歴史的にみる視点を身につけ、現代語の問題をそのような展望のもとに観察できるようになる。

成績評価方法

●**試験** 90%　授業内容の概略を理解し、キーワードを正しく使いこなせること。
●**レポート** 0%　とくに予定していない。
●**平常点** 10%　授業に参加する姿勢をみる。

●**その他**　0%　　とくに予定していない。

科 目 名	**日本語史2**　古代日本語史							
担当者名	上野　和昭							
日文コース	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

先史日本語から時代をくだって、室町時代までの日本語を概観する。

授業の到達目標

日本語を歴史的にみる視点を身につけ、現代語の問題をそのような展望のもとに観察できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　90%　　授業内容の概略を理解し、キーワードを正しく使いこなせること。
●**レポート**　0%　　とくに予定していない。
●**平常点**　10%　　授業に参加する姿勢をみる。
●**その他**　0%　　とくに予定していない。

講義

科 目 名	**日本文法1**　日本語文法の形態論を中心とした検討							
担当者名	森山　卓郎							
日文コース	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「文法」といえばややこしいことを覚える分野と思われがちです。が、まったく違います。考えていくのは、「無意識に使っている日本語」に秘められた「規則性」の発見。

学校文法にも配慮しつつ、語形態を中心とした日本語文法の諸現象について検討します。「よんだ。書いた」のように「た」が「だ」になるのはどんな時かといった基礎的なところから、語と発音、品詞論の見直し、古典語文法と現代語文法の違い、現在の言語表現への応用、方言文法のおもしろさ、といった様々な観点まで、広く取り上げていきたいと思います。

現代共通日本語を中心としますが、適宜古典語や方言にもふれたいとおもいます。国語教育的な観点や日本語教育的な観点にも配慮します。

授業の到達目標

日本語文法の形態的側面について研究の現状の基本的事項を把握する。
あわせて学校文法などの知識もその問題も含めてたしかなものにする。

成績評価方法

●**試験**　60%　　授業での内容の理解を見ます。
●**レポート**　5%　　コメントカードはあります。
●**平常点**　35%　　公欠は配慮しますが、出席を基本的に重視します。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	**日本文法2**　文論							
担当者名	森山　卓郎							
日文コース	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本語文法研究の各種のトピックを、できるだけ包括的に、なるべく広い視点と関連させながら考えます。

・例えば「おいしそうだ」と「おいしいようだ」「おいしいらしい」はどう違うのでしょう。日常言語の奥にある使い分けを考える記述的日本語研究の現状を概説しつつ、言語についての考え方を深めていくことを目指します。
・「は」「が」の使い分けなど、いろいろな問題を深めていきたいと思います。
・日本語教育の文法や国語教育の文法にも配慮します。
・授業にあたっては、受講者との対話や受講者どうしの対話を重視します。
・2は文論的なアプローチを中心とします。

授業の到達目標

現代語を中心とした文法研究現状を理解し、自分なりに文法的に言語表現について考えられるようにすること。

成績評価方法

●**試験**　70%　　最終回に内容理解の確認を行い、その後解説をします。
●**レポート**　5%　　特別なレポートはありませんが、コメントカードを毎回配布します。
●**平常点**　25%　　出席を重視します。公欠には配慮します。
●**その他**　0%　　必要があれば簡単な理解度確認クイズを行います。

科 目 名	**日本文学概論1**　古典の受容							
担当者名	和田　琢磨							
日文コース	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本授業では、古典文学作品が現代に至るまでどの様に読まれてきたのかという問題を考えることを通して、日本文学の特徴を講義する。物語や和歌といった高校までの教科書に載っている作品ばかりだけではなく、妖怪を描いた絵巻、奈良絵本や地獄を描いた物語といった作品も取り上げ、芸能や社会との関係についても言及する予定である。

授業の到達目標

古典から近現代に至る様々な作品の特徴を理解し、日本文学に関する深い理解を獲得することを目指す。

成績評価方法

●**試験**　40%　　第15回目の授業で理解度の確認を行う。
●**レポート**　30%　　「具体例を一つあげ、現代社会における古典文学作品の受容」というテーマで、レポートを書きなさい。

必ず具体例を挙げること。提出締め切りは第10回目の授業日の13時までとする。詳細は授業の最初に指示する。
●**平常点**　30%　　毎回、ミニレポートを提出してもらう。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	日本文学概論2　研究と創造の古典文学受容史							
担当者名	和田　琢磨							
日文コース	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
本授業では、古典文学作品が現代に至るまでどの様にして読み継がれてきたのかという観点から、日本文学の特徴について講義する。前半では古典文学を読むためにどのような研究が繰り広げられてきたのかという観点から、後半では源義経や源為朝を描く物語がどのように創造され、浸透していったのかという観点から考えてみたい。平安時代の文学作品から、中近世の物語・演劇、近現代の小説やマンガまで見通す予定である。

授業の到達目標
日本の古典文学が時代により様々に異なった態度で享受され、現代まで読み続けられてきたことを理解し、日本文学に関する深い理解を獲得することを目指す。

成績評価方法
●**試験**　40%　　第15回目の授業で理解度の確認を行う。
●**レポート**　30%　　具体例を挙げつつ、「日本古典文学は、現代社会にどれほど浸透しているか」。自身の考えを1200字程度で述べよ。提出は第10回目の授業日の13時を締切とする。詳細は、第1回目の授業で指示する。
●**平常点**　30%　　毎回、ミニレポートを提出してもらう。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	日本文学史1（上代文学）							
担当者名	高松　寿夫							
日文コース	2単位	春学期	月曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
日本上代文学（奈良時代以前の文学）について概説する。文献名でいえば、万葉集・古事記・日本書紀・風土記といったものが話題の中心となるであろうが、それらを個々にとりあげるのではなく、文学史の〈流れ〉といったものに配慮しながら、文献や作品どうしのつながりや時代性を重視した講義になる。

授業の到達目標
奈良時代以前の日本文学の流れについてひととおり理解する。併せて、文学史上の諸作品を、個々の作品としてとらえるだけではなく、ひとつの歴史的流れの中で捉える見方・態度を養う。

成績評価方法
●**試験**　50%　　授業内容の理解度を総合的に確認する。
●**レポート**　10%　　Waseda Moodleなどに質問・意見を受け付けるBBSを設定し、受講者の書き込みに随時対応する。
●**平常点**　40%　　出席状況等。
●**その他**　0%

科 目 名	日本文学史2（中古文学）『源氏物語』の注釈書の世界							
担当者名	栗山　元子							
日文コース	2単位	春学期	月曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
『源氏物語』は古くから古典として重んじられてはいたが、どの時代においても同じように評価されてきたわけではなく、時代によってまた読者層によってその読まれ方は異なっていた。そうした『源氏物語』の読まれ方の変遷を知るのにうってつけの資料としては、平安末期から存在する注釈書や評論の類がある。本講義ではこうした注釈書や評論が物語の名場面や文章表現についてどのような注釈を施しているか、登場人物たちをいかに批評しているかを具体的に見ていくことで『源氏物語』の享受のされ方の歴史を把握することを目指していく。注釈書や評論に見られる様々な解釈は、それらの書の書かれた時代性を強く反映していることが多く、そこには現代とはまったく異なる読み方も展開されている。さまざまな「読み」がかつて存在したということを知り、今とは異なる物語への向き合い方があったということについて確認していく。

授業の到達目標
①『源氏物語』がどのように読まれたか、という享受史の研究においては、時代によりまた読者層によりその読まれ方が異なっていたということが知られている。そうしたさまざまな読み方についての知識を得て現代とは異なる解釈があったことを知ることで、「読み」の多様性についての理解を深め、新たな「読み」へのヒントを得る。
②また古典文学作品への評価というものがその作品の持つ時代を超えた普遍性に根ざしつつも、一方でその評価のものさしについては決して不変なものではなかったということについて理解することで、「古典」とは何なのかということを考えるきっかけとする。
③『源氏物語』のさまざまな注釈を読んでいくと、さまざまな時代の文化や思想の特徴的な様相がその注釈内容に顕著に反映されていることが確認される。それはすなわち『源氏物語』の享受史が日本文学史・文化史の流れと密接に結びついていることを示しているが、そうした広い視野での文学・文化史理解へと関心を繋げていく。

成績評価方法
●**試験**　50%　　学期末に行う。授業内容に関連した問いに対して論述形式の試験を課す。評価については前記到達目標の達成度を計るものとする。
●**レポート**　0%　　レポートは行わない
●**平常点**　50%　　授業時の最後にコメントシートを作成、授業内容を理解し、その上で自らの学びにつなげる視点を有しているかを評価していく。提出されたコメントシートの集積点で平常点の評価とする。
●**その他**　0%

備考・関連URL

・講義回数の三分の二以上の出席を単位取得の条件とします。

・毎回の授業で提出するコメントシートを評価し、その累算で平常点を計上するため、出席状況が悪ければ当然点数は低くなります。平常点が占める割合が
高いので、欠席が重ならないように注意してください。

科 目 名	日本文学史3（中世文学） 時代背景と作品の関係を考える							
担当者名	和田　琢磨							
日文コース	2単位	秋学期	月曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

12世紀後半から16世紀にかけての日本文学の流れについて講義する。中世といわれる時代はどのような時代で、そのような時代にどういったジャンルや作品が登場したのか。当時の時代背景、思潮、文化を広く見渡しながら、中世文学の特徴について考えてみたい。

ただし、中世という時代は400年以上にも及ぶ範囲を占めるため、そのすべてを扱うことはできない。したがって、本講義では、和歌文学・軍記物語・説話文学・室町物語を中心に取り上げることになる。

授業の到達目標

中世という時代の特徴とその中で誕生した文学作品の特徴について理解し、その知識を身につける。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第15回目の授業時に試験を実施し、理解度の確認を行います。また、第15回目の授業時に試験の解説を行い、授業のまとめを行います。試験は、基本的に授業で扱った問題に関する重要事項について問う問題と、短い論述で構成した問題とする予定です。

●**レポート**　0%　　なし

●**平常点**　30%　　毎回ミニレポートを書いてもらいます。

●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

何事も本物を見ることが重要です。本で勉強するだけでなく、美術館や博物館に積極的に足を運び、自分の目で様々な物を見るよう心がけてください。

科 目 名	日本文学史4（近世文学） 近代の文章から照射する近世漢詩文―鷗外と荷風―							
担当者名	池澤　一郎							
日文コース	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

森鷗外『澁江抽齋』、『伊澤蘭軒』、『北條霞亭』は、史伝三部作と呼ばれているが、田山花袋、永井荷風、石川淳のほかは、好意的な批評をする者は僅少で、通読する者すら少ない近代文学作品である。三部作の中、『蘭軒』と『霞亭』とは、全体の文章の中で、漢詩文と候文の書簡の引用が多きを占める。現在、『鷗外歴史文学集』（岩波書店）においては、漢詩文の引用部分には、親切な注と訓読が附してあるのだが、この書が出版されて以降も、鷗外史伝三部作の評価は依然として低迷したままである。

永井荷風は、鷗外に師事した人であるが、史伝三部作を早い時期に評価し、卒読するや否や、自らの外祖父を主要人物とする史伝体小説『下谷のはなし』を雑誌に連載し、やがて『下谷叢話』として刊行する。『下谷叢話』は鷗外の史伝に荷風が傾倒するあまりに結実した麗しき果実であった。

本講義では、鷗外と荷風の史伝、随筆を主たる材料として、自らも漢詩文を作成しえた両者が、近世後期の漢詩人たちのどのような作品に心惹かれ、どのように鑑賞しえていたかを、具体的に一首、一句の引用漢詩文を精読することで呈示しようとするものである。

講義が単調に陥ることを厭うて、三好達治の『諷詠十二月』の中の江戸漢詩の部分や、江戸時代のベストセラーズであった唐詩選の俗語訳として、井伏鱒二『厄除け詩集』、与謝野晶子の弟子としての詩藻を佐藤春夫が遺憾なく発揮した中国閨秀詩人の名訳詩集『車塵集』などを併読し、堀口大学が実父九萬一の漢詩を訳した『長城詩集』の誤謬を糾弾する。

授業の到達目標

鷗外・荷風という著名な近代文学者の、江戸の学藝への傾倒ぶりを、史伝の文章を読むことで実感してもらう。鷗外・荷風が引用した漢詩文や候文を読み解くことで、これらが過去においては、歴とした日本語の文体であったことを認識してもらいたい。

成績評価方法

授業への参加率と参加時の熱意、小テストや学期末のレポートまたは試験の成績如何によって評価する。毎回の講義が緊密に連関しており、虎の巻にあたるような参考書が存在しないので、三分の二以上の連続的出席がかなわないと試験答案は作成できないと思われる。

科 目 名	日本文学史5（近代文学） 原稿・原典で読む明治・大正文学史							
担当者名	宗像　和重							
日文コース	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中村真一郎は著書『近代文学への疑問』のなかで、「わが国の近代文学とは、一体、いかなるものか。第一にそれはわが国の文学史のなかで、王朝や中世や江戸期に対して、もうひとつの別の時代を画すだけの、独立した完結性と独自性とを持っているか。第二にそれは、西欧諸国の近代文学とどのような共通性と異質性とを持っているか。つまり、どれだけ「日本文学」であり、同時に、「近代文学」であるのか」と問うている。この問いは、日本の近代文学、とくに明治・大正期の文学をたどろうとしている私たちにとっても、最も大きな関心事であるといわなければならない。果たして漱石や鴎外は、紫式部や西鶴とは異なるどのような仕事をしたのだろうか。そして彼ら近代の小説家・文学者は、日本の近代社会にどのような独特の表現を与えることになったのだろうか。――そのような問題意識をもちながら、19世紀後半から20世紀初頭にいたる明治・大正文学の試みと達成の諸相に目を向けていきたい。とくにこの授業では、同時代の読者が手にした新聞・雑誌・単行本などの本文、また活字になる前の作家の原稿などにも目を向け、言葉や表現がどのようにして生みだされてきたのかを考えたい。なお、下記の授業計画は、学習効果を考慮して適宜変更されることがある。

授業の到達目標

文学史の目標は、作家や作品の名前を覚えたり、作品の発表年や概要を覚えたりすることにはない。そうではなくて、一人の作家のなかから言葉がいかに紡ぎだされてくるか、それはどのような言葉としてあらわれてくるのか、それが同時代においてどのような意味をもっていたのかを、どれだけ生き生きと感得できるか、ということではないだろうか。とりわけ明治・大正期の文学は、「近代文学」とはいっても、現代からみると非常に遠くて「古い」時代の文学に思われるけれども、実際には人間の生き方と言葉が大きく変貌して、「若い」表現者による「新しい」言葉が次々と生まれてきた。その一人である島崎藤村は、「新しき言葉はすなはち新しき生涯なり」と語っているが、彼らにとっては、言葉を新しくすることが、その生き方を新しくすることにほかならなかった。そうした明治・大正期の文学をより親しいものとして受容するだけでなく、言葉で表現することの意味を、作家の原稿なども材料にして考えることができれば、それに過ぎる達成はない。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　授業中にそのつど課題を提示し、そのなかからいくつか選択して学期末にレポートとして提出する。具体的には最初の授業で説明する。
●**平常点**　30%　　毎時間の出席、ならびに授業への積極的な参加やレビューシートへの記入などを、平常点として評価する。
●**その他**　0%

講義

科目名	日本文学史6（現代文学）　1920年代～2010年代の文学							
担当者名	鳥羽　耕史							
日文コース	2単位	秋学期	木曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

1923年の関東大震災にはじまり、日中戦争と太平洋戦争を経て、2011年の東日本大震災にいたる時代の文学の流れについて講義する。授業の中では、それぞれの時期の文学をプリントで紹介しつつ、文学史の展開を考えていきたい。

授業の到達目標

現代文学史の流れをつかんだ上で文学を読むことができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　現代文学史を理解した上で自分なりに文学の読解ができているか。
●**平常点**　30%　　毎回の講義に積極的に参加できているか。講義を理解してコメントが書けているか。
●**その他**　0%

科目名	中国近現代文学史1（作品で読む中国20世紀文学）　作品で読む中国20世紀文学史							
担当者名	千野　拓政							
中文コース	2単位	夏クォーター	月5時限	木4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

20世紀初頭から1930年代前半（日中戦争）までの中国近・現代文学の流れを概観します。

じつは、「近・現代」も「文学」も19世紀（すなわち近代以降）に形成された概念にほかなりません。では、新たに生まれた近・現代の「文学」とは、それまでの物語や詩とどう異なり、どんな特徴を持っているのでしょう。

講義では、実際に作品を読みながら、中国で「近・現代文学」がどのように誕生し、どのように変遷し、どのような課題を抱えてきたかを、最新の成果を交えて考察します。

文学テクストだけでなく、多様な資料を手がかりに、文学の「生産」「消費」「再生産」行為としての側面や、文学とともに中国の近・現代文化を構成している諸事象、社会的背景についても考察します。

児童文学・エンターテインメント・映画・マンガ・アニメなどの関連分野、同時代の日本文学・世界文学との関わりにも言及することになるでしょう。

授業の到達目標

20世紀初頭から1930年代までの中国文学について、基本的な知識と概観できる視野を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　教場で説明する。
●**レポート**　40%　　教場で説明する。
●**平常点**　40%　　教場で説明する。
●**その他**　20%　　教場で説明する。

備考・関連URL

※2か月で完結する授業です。週に2回行います。

原典はもちろん、翻訳も利用してできるだけ多くの作品に接し、自分なりの文学観・文学史観を形作っていただきたいと思います。活発な議論を期待します。

受講者は、あわせて秋学期（秋クォーター）科目「中国近現代文学史2」を受講することが望ましい。

関連URL:（中国近・現代文学作品の原文が読めるサイトの一部）中国青少年新世紀読書網：http://gd.cnread.net/cnread1/（「文学」の項）　新語絲：http://www.xys.org/library.html　網絡新時代：http://www.mypcera.com/（「現代文学」「名家小説」の項）

科目名	中国近現代文学史2（作品で読む中国20世紀・21世紀文学）　作品で読む中国20世紀・21世紀文学史							
担当者名	千野　拓政							
中文コース	2単位	秋クォーター	月3時限	木2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

1930年代後半から今日までの中国近・現代文学の流れを概観します。

じつは、「近・現代」も「文学」も19世紀（すなわち近代以降）に形成された概念にほかなりません。では、新たに生まれた近現代の「文学」とは、それまでの物語や詩とどう異なり、どんな特徴を持っているのでしょう。

講義では、実際に作品を読みながら、中国で「近・現代文学」がどのように誕生し、どのように変遷し、どのような課題を抱

えてきたかを考察します。
　文学テクストだけでなく、多様な資料を手がかりに、文学の「生産」「消費」「再生産」行為としての側面や、文学とともに中国の近・現代文化を構成している諸事象、社会的背景についても考察します。
　児童文学・エンターテインメント・映画・マンガ・アニメなどの関連分野、同時代の日本文学・世界文学との関わりにも言及することになるでしょう。

授業の到達目標

　1940年代から現在までの中国文学について、基本的な知識と概観できる視野を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　教場で説明する
●**レポート**　40%　　教場で説明する
●**平常点**　40%　　教場で説明する
●**その他**　20%　　教場で説明する

備考・関連URL

　※2か月で完結する授業です。週に2回行います。
　原典はもちろん、翻訳も利用してできるだけ多くの作品に接し、自分なりの文学観・文学史観を形作っていただきたいと思います。活発な議論を期待します。
　受講者は、春学期（夏クォーター）科目「中国近現代文学史1」を受講していることが望ましい。
　関連URL:　中国近・現代文学作品の原文が読めるサイトの一部）　中国青少年新世紀読書網：http://gd.cnread.net/cnread1/（「文学」の項）　新語絲：http://www.xys.org/library.html　網絡新時代：http://www.mypcera.com/（「現代文学」「名家小説」の項）

講義

科目名	中国歴史世情小説史							
担当者名	岡崎　由美							
中文コース	2単位	冬クォーター	月5時限	木4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

　小説史は名作を時系列で覚えることではありません。ある文化に内在する価値基準や文化規範に基づいて、文化の生成と変容を体系化する行為の一部となります。中国の小説史を考える場合、その規範は宋代に顕在化し、それまでの物語文化をジャンル別に整理すると共に、その後の通俗小説がジャンル小説として発展していく道筋をつけました。従って、本講義では、時系列順の小説史の形式は取らず、ジャンル別にそのジャンルの形成の背景と他ジャンルとの関係、融合、変容のありさまを講義します。
　なお、本講義は中国古典小説の様々なジャンルのうち、より現実社会と強い関わりを持つもの或いは現実社会の様相を直接的に反映するものとして、歴史ものや世話物のジャンルを取り上げます。現実離れした奇想の系譜を辿る「中国幻想怪異小説史」とは隔年開講のカップリングで中国古典小説史を形成しますので、両方を受講すると一層中国古典小説の特色が理解できます。
　また、本講義で取り上げる中国小説は日本文学にも大きな影響を与えています。例えば、江戸の読本（よみほん）の形成は中国古典小説を抜きにしては語れません。日本文学を振り返る視点からも、中国の小説に目を向けて欲しいと思います。

授業の到達目標

　中国の小説史の特徴やその背景となる文化規範を体系的に理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%
●**平常点**　40%
●**その他**　0%

科目名	中国語学史1							
担当者名	内藤　正子							
中文コース	2単位	夏クォーター	月3時限	木2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

　中国における言語研究を主に文法学史の観点から概説する。
　ことばとは何かという問いがどのように形成され、また言語に関する知見がどのように得られてきたかということを考察する場としたい。日本における中国語研究史も視野に入れ、相互の交流にも気を配りながら進める予定である。

授業の到達目標

　中国語研究史についての基礎的な知識を得、重要な文献について読解力を養い、また文献相互の関連を理解すること等を目標とする。

成績評価方法

●**試験**　50%　　第15回の授業中に理解度の確認を行う。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　出席及び授業に対する積極性等を評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

　人間とことばとの係わりについて関心をもつ学生の積極的な参加を歓迎する。共通の関心と異なる視点を持つ人たちが授業という場を共有し、問題の本質を捉え、多様な解決方法を追究することを期待する。
　中国語だけでなく、現代の身近な言語現象についても適宜取り上げ、理解が深まるようにしたい。

科 目 名	中国語学史2							
担当者名	内藤　正子							
中文コース	2単位	冬クォーター	月3時限	木2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中国における言語研究史を、新中国成立以後を中心に考察する。

将来、中国語を教えることを希望する人たちにとっても、中国語の研究史についての知識は必須である。新中国成立以後の研究成果や問題等を、主な人物や著作を取り上げながらホリスティックに捉える予定である。

授業の到達目標

建国後の言語研究の成果について、基礎的な知識を得ること。重要な文献を相互に関連させながら読むこと。こうしたことを基に言語研究の奥底にある言語観、世界観を読み解くことを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　50%　　第15回の授業中に理解度の確認を行う。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　出席及び授業に対する積極性等を評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

※2か月で完結する授業です。週に2回行います。

生命現象と同様に、我々の使うことばも、モノではなくコトと捉えることができる。ことばとものの見方とは密接に繋がっている。ある言語の特徴は、その研究の方向付けにどのように係わるのだろうか。こうした問題に関心をもつ学生の積極的な参加を歓迎する。

将来、中国語を教えたいと思っている人にも是非受講をすすめる。なお、「中国語学史1」の内容とは重複しないので、順序に関わらず両方を履修することが望ましい。

科 目 名	中国比較文化論1（中国民族文化の諸相(南部編)）　多民族国家・中国を考える							
担当者名	金丸　良子							
中文コース	2単位	春クォーター	水3時限	水4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中国は人口の圧倒的多数（92%）を占める漢族と、それ以外の少数民族からなる複雑な多民族国家である。これらの諸民族の歴史的起源・分布状況を把握することは「中国」を総合的に理解するために極めて大切である。

授業の到達目標

授業では漢民族の多様な地方文化を理解するための基礎知識を習得する。自然風土の違いからくる「南方人」「北方人」の伝統的な違い、「農民」と「都市住民」との違い、急速な近代化が生み出した「格差社会」の実態にも迫りたい。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%
●**平常点**　30%
●**その他**　20%

備考・関連URL

※2か月で完結する授業です。週に1回2時間連続して行います。

授業では、ビデオ・DVDなどの映像教材を多用する予定。

科 目 名	中国比較文化論2　多民族国家・中国を考える							
担当者名	金丸　良子							
中文コース	2単位	秋クォーター	水3時限	水4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中国は人口の圧倒的多数（92%）を占める漢族と、それ以外の少数民族からなる複雑な多民族国家である。これらの諸民族の歴史的起源・分布状況を把握することは「中国」を総合的に理解するために極めて大切である。

授業の到達目標

授業では55もの少数民族を言語系統別に紹介し、その民族文化を明らかにしたい。

また、2000年から本格化した「西部大開発」の政策により、漢民族が少数民族地帯に大量に経済進出したことの影響にもふれたい。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%
●**平常点**　30%
●**その他**　20%

備考・関連URL

※2か月で完結する授業です。週に1回2時間連続して行います。

授業では、ビデオ・DVDなどの映像教材を多用する予定。

科 目 名	中国演劇文化史　演劇を形作ってきた社会と文化							
担当者名	岡崎　由美							
中文コース	2単位	春クォーター	月3時限	木4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代も演じられている京劇や崑曲など中国伝統演劇の形式や発想はどのような芸能文化の中から生まれてきたのか、ということをテーマとする。中国で演劇が大きく発展した宋・元・明・清を中心に、名作に触れながら、演劇の形式や上演形態、物語の

伝播や変容のみならず、演劇に携わる人々のあり方や演劇に求められた役割など、文化史的方面を重視し、中国の伝統演劇の歴史的な理解を促すことを目的とする。講義は、歴史を遡る方法を取り、まず現代も演じられている伝統演劇をプロローグに、各時代の演劇の大きな変化の特徴を社会背景を視野に入れて観察する。

授業の到達目標

（1）中国伝統演劇の歴史の基礎知識を習得する。
（2）中国文化を演劇から観察する。
（3）人々の暮らしと演劇の接点を考察する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　60%　　レポート題目発表の際詳説する。
●**平常点**　40%　　出席を主な対象とする。
●**その他**　0%　　なし

講義

科 目 名	中国詩歌概論2（唐詩を読む）							
担当者名	石　碩							
中文コース	2単位	夏クォーター	水3時限	水4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

漢詩は中国を代表する文学形式の一つであり、そこには様々な時代の風物と、多くの人々の感情が読み込まれてきた。この授業では、詩経から唐詩まで、多くの漢詩作品に触れ、漢詩に対する基礎的な知識を修得する。また、詩中に詠じられる言葉（詩語）を分析し、中国古典詩の魅力に迫る。

授業の到達目標

多くの漢詩作品に触れることで、漢詩に対する基礎的な知識を修得し、漢詩の鑑賞能力を身につける。
また、個別の詩人の生涯や作品の時代背景を知ることで、中国の古典世界全般に対する理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　70%　　学期末にレポートのテーマを出題する
●**平常点**　30%　　出席および授業態度、コメントシートで評価する　（三分の二以上の出席を要す）
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

※2か月で完結する授業です。週に1回2時間連続して行います。

科 目 名	英文学講義Ideas in Context1　sensibility再考							
担当者名	皆本　智美							
英文コース	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

カズオ・イシグロは “novels of great emotional force”の書き手として2017年にノーベル文学賞を受賞したが、小説という文学ジャンルはその発展初期から「感情」と深い関係にある。この授業では18世紀から19世紀初頭にかけて特別な意味をもっていた “sensibility” に着目し、小説との関係について考察を促す。授業では、メアリ・シェリーやジェイン・オースティンといった女性作家の小説を中心に扱うので、ジェンダーの問題についても考えてもらいたい。

授業の到達目標

18〜19世紀の社会的コンテクストと小説という文学ジャンルの関係について考察を深化させる。
「ゴシック」や「パロディ」などの文学ジャンルについて理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　授業中にレポート課題を指示し、授業内容の理解度を中心に評価する。
●**平常点**　40%　　授業への積極的な参加。
●**その他**　0%

科 目 名	英文学講義Ideas in Context2　アメリカの短編小説を英語で読む							
担当者名	都甲　幸治							
英文コース	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

19世紀から1970年代までのアメリカ作家たちが書いた5ページから17ページほどの短編を毎週読みながら、アメリカ文学を読むとはどういうことかを考えていきたい。

授業の到達目標

アメリカ文学の面白さを体感する。

成績評価方法

レポート70%平常点30%

科 目 名	英文学講義Ideas in Context3　アメリカのロマン主義							
担当者名	堀内　正規							
英文コース	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義では、19世紀のいわゆる「アメリカン・ルネサンス」と呼ばれるアメリカ文学について、ロマン主義という大きな時代の文脈の中で紹介しながら、重要なポイントをつかみとってもらいたいと思います。
19世紀半ばのアメリカ合衆国には、たとえば「黒猫」や「アッシャー家の崩壊」で知られるエドガー・アラン・ポーや『緋文字』の作者ナサニエル・ホーソーン、『白鯨』を書いたハーマン・メルヴィル、『自然』をはじめとしたエッセイで有名なラルフ・

ウォルドー・エマソンや『ウォールデン』のヘンリー・D・ソロー、『草の葉』の詩人ウォルト・ホイットマンや、生涯ほとんど作品を公けにせず、自宅の敷地から一歩も外に出ないで1800近くの詩を書き続けたエミリー・ディキンスンなど、きわめて重要な書き手たちがいっせいに登場しました。それは、18世紀終盤にアメリカ合衆国がイギリスから独立してまだそれほど間もない時代の、いわばアメリカ独自の文学の最初の（といってもいい）豊かな実りでした。（彼らの多くは南北戦争後まで書き続けましたが、この授業の中心になるのは南北戦争以前になります。）

その世界は罪や悪といったダークなものから、人間のnatureに善なるものを見て、おおらかにどこまでも広がる世界を歩むような明るいものまで、実にコントラストに富んでいますが、いずれも、いま在る〈ありのまま〉の社会（世界）の現状には満足できず、想像力の世界、紙の上の世界で理想をとことん追求するような、〈反 - 現実〉の側面を強く持っています。それはある意味では、アメリカ合衆国建国の理想が実現されていない現状の社会の在りように対する批判でもあり、〈ここではないどこか〉から現実を逆照射するような機能を持っていました。

本講義では、こうした書き手たちの主要なテクストの「極めつけ」のところを原文で紹介しながら、「自然」、「想像力」、「革命」、「民主主義」といった言葉をキーワードとして、今のアメリカにもつながる〈原点〉のようなものを提示したいと思います。

授業の到達目標

19世紀アメリカ文学についての理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はしません。
●**レポート**　50%　　授業で出された論点を理解しているか、自分なりの視点を持っているか、論理的に書けているか。
●**平常点**　50%　　出席は重視します。3分の2以上必須。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	英文学講義Ideas in Context4　ビート・ジェネレーション：他の運動との接続							
担当者名	山内　功一郎							
英文コース	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、1950年代にアメリカで台頭したビート・ジェネレーションのムーブメントが、他の芸術運動とどのような関係を結んだかを確認する。そのために、次のような手順を踏む：

① David Sterritt 著 *The Beats* の読解。同著はビート・ジェネレーションの概説書である。この運動の名を初めて聞く人に向けられた概説書だが、既にビートの特徴をある程度把握している人にとってもおさらいをするうえで好都合な一冊である。

② 20世紀後半のカリフォルニアにおけるアート･シーンの分析。これにより、Sterritt の上掲書中で手薄な部分に光を当てる。

③ ビートの同世代または後続世代の詩人の詩と批評。

講義科目の範囲内で、できるだけ受講者との意見交換も取り入れ、双方向的な授業を展開する予定である。学期中にレポートを提出してもらうことになるので、履修者の各自が授業の中で知識を吸収すると共に、能動的に自論を展開するよう促したい。

授業の到達目標

・英語で書かれた詩（または英訳された詩）を正確に読み解く力を身につけること。
・英文の批評を原文で読み解き、作品解釈に役立てる力を習得すること。
・オリジナルな解釈を確立し、それを効果的に表現する文章能力を身に着けること。

成績評価方法

平常点50%、レポート50%。平常点は授業時に行う小テスト、レビューシートを含む。出席3分の2を必須とする。

科 目 名	英文学講義Ideas in Context5　ポストコロニアルの短編を英語で読む							
担当者名	都甲　幸治							
英文コース	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

アイルランド、カナダ、中南米、アフリカ諸国など、過去にイギリスなどの植民地だった地域出身の作家たちが書いた3ページから10ページほどの短編を毎週読む。Daniel Halpern, ed. *The Art of the Tale*. Penguin, 1986. *The Art of the Story*. Penguin, 1999.から選んだ作品を扱いながら、ポストコロニアル文学を読むとはどういうことかを考えていきたい。

授業の到達目標

ポストコロニアル文学の面白さを体感する。

成績評価方法

レポート70%平常点30%

科 目 名	英文学特殊講義1　カリフォルニア詩の世界							
担当者名	山内　功一郎							
英文コース	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

20世紀以降のアメリカ詩を語るなら、カリフォルニアの詩人たちによる作品と思想に触れない訳にはいかない。文壇やアカデミズムの世界が東海岸ほどエスタブリッシュされていなかった西海岸は、それ故に既成概念にとらわれない「新しいアメリカ詩」が誕生する震源地となったと言えるだろう。この授業では、Kenneth Rexroth から現在活躍中の詩人たちまでを取り上げ、カリフォルニアにおいてどのように詩の運動が生まれ、詩の世界が形成されていったかを探ることにしたい。講義科目の範囲内で、適宜受講者との意見交換も取り入れ、双方向的な授業を展開する予定である。学期中にレポートを提出してもらうことになるので、履修者の各自が授業の中で知識を吸収すると共に、能動的な自論展開を進めるよう促したい。

授業の到達目標

・20世紀以降のアメリカ詩に親しみ、その展開と詩人の多様性について一定の理解を得ること。
・英語の原典を正確に読解する能力を身に着けること。
・英文の批評を原文で読み解き、作品解釈に役立てる力を習得すること。

・オリジナルな解釈を確立し、それを効果的に表現する文章能力を身に着けること。

成績評価方法

平常点50%、レポート50%。平常点は授業時に行う小テスト、コメントペーパーを含む。出席3分の2を必須とする。

科 目 名	英文学特殊講義2　T. S. エリオットの代表的な批評を讀む							
担当者名	岡田　俊之輔							
英文コース	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「傳統と個人の才能」（1919）から『文化の定義に向けての覺書』（1948）へと至る、20世紀英米文壇の雄T. S. エリオット（1888-1965）の代表的な批評を丹念に讀む。批評の對象は、初期に於ては專ら文學それ自體であるが、徐々に變遷して、後年は廣く現代社會の諸問題に及ぶ。文學と文化に關する本質的思索の所産であるエリオットの批評文はいづれも、現代文明に對する強烈な危機意識に裏打ちされてをり、袋小路に陷つた感のある徒に難解で不毛な現代の文學批評（家）に反省を迫る、生きた文章と言へる。さういふ文章を讀む事によつて吾々現代日本の讀者も、現代に於て自明の理とされてゐる事どもを一旦は疑つてみる事を餘儀なくされるであらう。

講義

授業の到達目標

エリオットを通して西洋文化の本質に觸れる事を目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　90%　　Waseda Moodle 等より提出
●**平常点**　10%　　出席點等
●**その他**　0%

科 目 名	英文学特殊講義3　シェイクスピアの悲劇と喜劇はどこが違うのか？							
担当者名	冬木　ひろみ							
英文コース	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

シェイクスピアの劇には、歴史劇もあれば喜劇、悲劇もあり、問題劇やロマンス劇と呼ばれるものもある。しかし、シェイクスピアの時代に出た最初の全集では、歴史劇・悲劇・喜劇という分け方しかしていない。観客も恐らく、楽しい劇か悲しい劇か、というくらいの感覚しかなかったと考えられているし、実際のところ、シェイクスピア劇の場合、主人公を含めたくさんの人物が死ぬ劇が悲劇で、結婚で終わるのが喜劇と受け止められていた。だが、シェイクスピアの悲劇と喜劇は紙一重の違いでどちらかになるものが多い。例えば、『夏の夜の夢』の妖精がいなければ、恐らくこの劇は『ロミオとジュリエット』になってしまったであろう。『ハムレット』だけでなく、喜劇『十二夜』にもアイデンティティの揺らぎが見られる。また『ヴェニスの商人』も、アル・パチーノがシャイロックを演じた映画を見る限りでは、とても喜劇とは言えない。この講義では、シェイクスピアの喜劇と悲劇の違いと同一性、そしてとりわけその中間である「悲喜劇」に注目して、舞台・映画の映像も使いながら、いくつかの劇をじっくり見てみたい。さらに、ジャンルの異なった劇が、舞台・映画になった時に、どのように変容されるのか、実例を舞台・映画の映像を見ながら検証してみようと思う。最後の方では、シェイクスピアのアダプテーションと言えるような日本の舞台・映画も取り上げ、悲喜劇という観点から検討してみたいと思う。

授業の到達目標

・シェイクスピアの劇について、主に悲喜劇という概念を考察することを通して、その劇作法を知る。
・シェイクスピアの劇のいくつかを悲劇と喜劇の両面から考え、作品解釈ではない視点から鋭く切り込めるような読み方・考え方をできるようにする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　80%　　授業最後の時まで（締め切りは後日連絡）に、指定の題目で書いて提出するレポートの内容（論理性や独自性）による。
●**平常点**　20%　　出席点（3分の2）
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

シェイクスピアのみならず、演劇という、ある種文字化できない部分の大きい世界に興味のある人歓迎。ただし、受講中、1回くらいはシェイクスピアの舞台か映像を見てほしい。割引チケットも随時出す予定。

科 目 名	英文学特殊講義4　英語で世界の名詩をこつこつと読む							
担当者名	栩木　伸明							
英文コース	2単位	秋学期	金曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義では、英語で世界の名詩をこつこつと読んでいく。サッポー、ホメロス、李白、旧約聖書の詩篇、オウィディウスからはじめて、ダンテ、シェイクスピア、マーヴェル、ワーズワス、コールリッジ、ポー、ボードレール、エリオットなど、誰でも知っている（はずの）詩を（長編詩のばあいは一部分をつまみぐいするように）（英語詩以外は英訳で）読んでいきたい。どうしても英語圏の詩が中心にはなるけれど、国で括ることはなるべくしないで、英語で詩を読むコツを一緒に学んでいきたい。テクストの手強さや詩の長さに応じて進度は流動的になるので、授業計画はあくまで予定である、と理解していただきたい。ハーバード大学の比較文学者デヴィッド・ダムロシュいわく、「世界文学とは翻訳を通して豊かになるものである」。このことばをモットーとしてひとつひとつの詩から多様な魅力を引き出していけたら、と思っている。

授業の到達目標

英語で詩を読むには、テクストを流し読みしない忍耐を身につけ、臨機応変に感性を発動させる機敏なセンスが必要である。この講義では、詩をあつかう〈建築家〉となるための準備段階として、まずはマテリアルを熟知した〈大工〉になれるよう、みなさんに必要なスキルを身につけてもらうことを目的とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　70%　　オリジナルなリサーチペーパーとして内容、形式ともに整っているかどうかを評価する。
●**平常点**　30%　　出席回数（3分の2以上を必須とする）を評価する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	イギリス文学史1　イギリス文学とは何か							
担当者名	栩木　伸明　他／桑子　利男／冬木　ひろみ／皆本　智美／吉田　雅之							
英文コース	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

イギリス文学と一口に言っても対象とする作品はきわめて多く、また連綿と今に続く長い伝統がある。この授業ではその中から代表的な、またこれをぜひ知ってほしいという作品・作家を取り上げ、イギリス文学を概観する。まずチョーサーの時代から始めて、シェイクスピア、ミルトン、コールリッジ等を経て、18世紀、19世紀の小説へと至る大きな流れを、各専門分野の教員がリレー方式で講義してゆく。それぞれの講義日程（予定）と内容は以下の「授業計画」を参照のこと。

授業の到達目標

イギリス文学を広く、深く理解することが最終目標である。本目標を達成するために、時代別、ジャンル別に各講義を配し、全体としてイギリス文学とはどのような特徴を持つものなのかを理解できるようにしてゆく。

成績評価方法

教場試験の点数と出席の回数を総合評価する。

備考・関連URL

オリエンテーションでは授業方針や評価についての説明をします。必ず出席してください。

科 目 名	イギリス文学史2　イギリス文学とは何か（続）							
担当者名	栩木　伸明　他／岡田　俊之輔／小田島　恒志／渡辺　愛子							
英文コース	2単位	秋学期	月曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

イギリス文学の大きな流れを、各専門分野の教員がリレー方式で講義する。

授業の到達目標

イギリス文学を広く、深く理解することが最終目標。

成績評価方法

教場試験の点数と出席の回数を総合評価する。

備考・関連URL

オリエンテーションでは授業方針や評価についての重要な説明を行うので、必ず出席のこと。

科 目 名	アメリカ文学史1　17世紀から20世紀初めまで							
担当者名	堀内　正規　他／チャン　エドワード　ケイ／山内　功一郎							
英文コース	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

17世紀から20世紀初めまでのアメリカ文学について、複数の教員が交替で講義する。一回ごとに代表的な詩人、作家、思想家を取り上げ、主要な著作を紹介する。注目すべき出来事、社会情勢、文学運動などにもふれながら、作品や作家がアメリカの歴史や社会のどんな文脈において理解されるべきかを示す。

授業の到達目標

受講者はアメリカ文学の基礎知識を学びながら、単なる名前の羅列ではなく、生身の人間の活動が集積されたものとして文学史をとらえ、連続性や断絶の歴史としてイメージすることができるようになるだろう。それはアメリカとアメリカ文化の形成および変容の過程をたどることでもある。

成績評価方法

試験：　90%　　期末教場試験（3問選択方式）、90点満点
レポート：　0%
平常点評価：　10%　　出席点、10点満点　（但し3分の2以上の出席を必須とする）
その他：　0%

科 目 名	アメリカ文学史2　20世紀初めから現在まで							
担当者名	堀内　正規　他／チャン　エドワード　ケイ／都甲　幸治／山内　功一郎							
英文コース	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

20世紀初めから現在までのアメリカ文学について、複数の教員が交替で講義する。一回ごとに代表的な詩人、作家、思想家を取り上げ、主要な著作を紹介する。注目すべき出来事、社会情勢、文学運動などにもふれながら、作品や作家がアメリカの歴史や社会のどんな文脈において理解されるべきかを示す。

授業の到達目標

受講者はアメリカ文学の基礎知識を学びながら、単なる名前の羅列ではなく、生身の人間の活動が集積されたものとして文学史をとらえ、連続性や断絶の歴史としてイメージすることができるようになるだろう。それはアメリカとアメリカ文化の形成および変容の過程をたどることでもある。

成績評価方法

試験：　90%　　期末教場試験（3問選択方式）、90点満点
レポート：　0%
平常点評価：　10%　　出席点10点（但し、3分の2以上の出席を必須とする）

その他：　0%

科 目 名	英米比較文化論1　American Subcultures							
担当者名	チャン　エドワード　ケイ							
英文コース	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will survey a variety of different subcultures in the United States in categories such as entertainment, music, lifestyle, sports, etc. Our goal is to understand some of the many other aspects of America beyond mainstream culture. We will also think about and discuss Japanese versions of American subcultures. The course will be conducted entirely in English.

授業の到達目標

Students will learn about various American subcultures, and how to study popular culture in an academic fashion. Students will also develop their English-language reading, writing, listening, and discussion skills.

成績評価方法

講義

(subject to change)
Two exams: 60%
Presentation: 30%
Participation/In-class activities: 10%
TOTAL: 100 %

科 目 名	英米比較文化論2　ローカル／グローバルな英米文化の歴史的展開・空間的転回――グローバリゼーションの「起源」としての英国初期近代とその宮廷文化							
担当者名	大谷　伴子							
英文コース	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

旧来のナショナルなイギリス文化論・文化史を批判的に学び直すことにより、ローカル／グローバルな英米文化の歴史的展開・空間的転回の過程を学び、その過程で生じるさまざまなコミュニケーション・ネゴシエーションあるいは比較・翻訳・移動の諸問題を学ぶ。第2回、第4回、第9回で、それぞれに関する英国映像文化テクストを視聴・考察し、さらに第14回でそのまとめとして、英米文化圏にとどまらない多様な文化的経験を実際に有するゲストとの交流の場を設け、その機会を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について、体験的に、理解する。

授業の到達目標

代表的・範例的なテーマ・表象・イメージの集合体からなるイギリス文化の特質を、アメリカ文化との比較において、ナショナルだけでなく、ローカル／グローバルにも、狭義のイギリス文化を含む現在の英語メディア文化の空間において学ぶことにより、他者や異文化に関わるコミュニケーションあるいはさらにネゴシエーションをおこなうことの意味を理解しその基礎的なちからを具体的に身につけることができる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　期末試験
●**レポート**　30%　　中間レポート
●**平常点**　20%　　主体的な授業参加度(出席と小テストなどの提出物を含む)
●**その他**　0%　　その他

備考・関連URL

質問等は、授業時あるいは授業後に、教室で受け付けます。
文学・文化と経済・政治（マネー・パワー）との対立・区別をフレキシブルに乗り越えながら、英国・ヨーロッパの初期近代の過去とグローバル化とネオリベラリズムに特徴づけられる21世紀現在との関係についての歴史的センスを、少しでも身につけるよう関心をもってほしい。

科 目 名	英語の歴史1							
担当者名	十重田　和由							
英文コース	2単位	春学期	水曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

英語の歴史を、英語以前から初期中英語（13世紀）まで通時的に検証するのが本講義の目的である。ノルマン人による征服をへてラテン言語の影響を強く受ける以前の、ゲルマン語の特徴が強い古英語の構造、およびその変化を中心に学ぶ。英語という言語が辿った変化を外面史と内面史の両方の側面から考察する。

授業の到達目標

古英語（700－1100）の構造とその時代の作品の理解を通して、英語の歴史の理解を深める。それにより、現代英語の構造へのより深い理解を獲得する。

成績評価方法

●**試験**　70%　　13世紀までの英語史に関する知識および古英語の構造に関する理解度
●**レポート**　15%　　13世紀までの英語史に関する課題について分析力・考察力を評価
●**平常点**　15%　　授業における貢献および出席
●**その他**　0%

科 目 名	英語の歴史2							
担当者名	十重田　和由							
英文コース	2単位	秋学期	水曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

英語の歴史を、初期中英語（13世紀）から、チョーサーの中英語、シェイクピアの初期現代英語を経て、国際語として通用

する現代英語に至る過程を通時的に検証するのが本講義の目的である。英語という言語が辿った変化を外面史と内面史の両方の側面から考察する。

授業の到達目標

中英語から現代英語までの歴史とその背景および言語構造について理解する。それにより現代英語の構造、そしてその背景に関する理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　70%　　13世紀以降の英語史に関する知識および中英語の構造に関する理解度
●**レポート**　15%　　13世紀以降の英語史に関する課題について分析力・考察力を評価
●**平常点**　15%　　授業における貢献および出席
●**その他**　0%

科 目 名	英語学1							
担当者名	平埜　雅久							
英文コース	2単位	春学期	月曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

標準英語とは何だろうか。英語話者の英語表現には、受験参考書を通して学習してきた英文法の知識では説明しきれない現象がいくつもあります。私たち日本人が、英文法の知識に照らして正しいと思って使う表現が、必ずしも正しいと言い切れないものもあります。さらには、英語を和訳したとき、日本語としての自然さを欠いたり、日本語を英訳したとき、英語らしさが現れないといったことがよく起こります。授業では、そうした現象に焦点を当て、受講生が親しんできた英語学習とは違った視点で英語という言語を見てみようと思います。

授業の到達目標

受験文法とは異なった視点で英語文法をとらえる

成績評価方法

試験の成績(80%)と授業に臨む姿勢(20%)をもとに判定する

科 目 名	英語学2							
担当者名	平埜　雅久							
英文コース	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

英語教育において、語彙の獲得は学習指導上最重要課題であるはずだが、英語教育の歴史を見ても、その認識は低いように思える。授業では、語彙論と形態論(語形成の在り方)という2つの観点から、語彙そのものに対する理解と関心を高め、語彙の獲得が効果的に行われるための素地づくり、方法論を検討していく。

授業の到達目標

1. コトバを知るとはどういうことか。
2. 語彙の獲得の効果的学習指導法とは。
3. コトバ(語)はどのように形成されるか。

上記3点に関する理解を深める

成績評価方法

教場での試験の成績(80%)と授業に臨む姿勢(発言力・出席率：20%)を考慮に入れて成績は判定する

科 目 名	英語音声学1							
担当者名	平埜　雅久							
英文コース	2単位	春学期	月曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

英語の子音、母音の発音に関する基本的な事柄を学習する。最初に、子音、母音の発音の仕組みについて学習する。その次に、個々の子音、母音が、特定の音声環境の中で実際にどのような形で発音されるのかを学習する。発音練習に関しては、リッスン・アンド・リピート方式を採用。次に、音声表記に関して学習する。音声表記に関しては、単に辞書にある発音記号を学習するだけでなく、特定の音声環境を考慮に入れた精密表記についても学習していく。

授業の到達目標

1. 子音・母音の発音の仕方を学習し、その音の発音記号が読めて、書けるようになること
2. 音が出現する実際の音声環境の中でとる「音の実際の形態」を学習し、その発音記号が読めて、書けるようになること。

成績評価方法

教場試験の結果（80%）と授業に臨む姿勢（20%）をもとに成績は判定される

備考・関連URL

この授業は、秋学期の「英語音声学2」と合わせて受講することが望ましい。
2つの授業を合わせて初めて英語音声学の体系が完成する

科 目 名	英語音声学2							
担当者名	平埜　雅久							
英文コース	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

英語の韻律、すなわち、リズム、語句のアクセントパターン、イントネーションの仕組みを、日本語との比較をもとに考察する。加えて、コンピューターを使用した音声分析法を学ぶ。

授業の到達目標

1. 英語らしさが現れる発音の獲得をめざす。
2. 音声分析ソフトの活用の仕方を学ぶ。

成績評価方法

試験の成績(80%)と授業に臨む姿勢(20%)を考慮に入れて成績の判定をする

科 目 名	イングリッシュ・スタディーズへの招待　英語によって表現されたあらゆるものを研究対象に							
担当者名	都甲　幸治　他／栩木　伸明／平埜　雅久／冬木　ひろみ／堀内　正規／皆本　智美／山内　功一郎							
英文コース	2単位	秋学期	木曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

イングリッシュ・スタディーズ（English Studies）とは、英語と英文学の研究を意味する。対象となる地域としては、イギリスの他に、旧イギリス植民地である、アメリカ合衆国、カナダ、アイルランド、カリブ海諸国などの英語圏地域が含まれる。7名の専任教員がそれぞれトピックを選んで、毎回入門的な講義を行い、専門とする領域を具体的な例を用いながら紹介する。担当者によっては、イングリッシュ・スタディーズの学問としての成立過程と現状の課題についても言及し、イングリッシュ・スタディーズが発生した歴史的背景、英文学教育における性役割分担、英語教育と英文学の分化、アメリカ文学の認知、文学から文化へのシフトなどの問題を取り上げる。半年間の講義で「顔見せ」できる内容は限られるが、通して聴けば、イングリッシュ・スタディーズの基礎から専門的な研究の面白さまで、一通り垣間見ることが出来るように工夫してある。

講義

授業の到達目標

イングリッシュ・スタディーズに入門してもらい、その様々な問題の広がりについて理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　60%　　興味を持った1回分について Waseda Moodle 等より提出
●**平常点**　40%　　出席3分の2以上必須
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	シェイクスピアと現代　シェイクスピアは今を生きているか？							
担当者名	冬木　ひろみ							
英文コース	2単位	春学期	月曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

このところ、2014年のシェイクスピア生誕450年、2016年の没後400年というシェイクスピアの記念の年が続いた。イギリスだけでなく、日本でも、無論早稲田でもさまざまなシェイクスピア劇やイベントが行われ、シェイクスピアはへの関心は比較的集まったように思う。また、実際にここ10年ほどを見ると、東京ではシェイクスピアが舞台で上演されない月はないし、映画も次々と封切られる。だが、実際に日本に住んでいて、シェイクスピア（の劇）は現代に生きていると言えるのだろうか。

シェイクスピアの劇には当時のイギリス特有の問題、例えば人種・社会制度・結婚問題などが描かれているのだが、それは当時の時代を映す鏡であると同時に、現代のわれわれの時代を映し出す反射鏡（良い面でも悪い面でも）ともなっているように思われる。さらに言えば、2011年の日本の震災直後の状況は『リア王』の荒涼とした不条理の世界そのものと言えるかもしれない。あるいはアメリカの9.11の同時多発テロの際に声高に叫ばれた「正義(justice)」という言葉は、復讐という極めて危険な問題を孕むという点で『ハムレット』や『オセロー』へとつながり得るだろう。裁判への矛盾は、宗教的な欺瞞とともに『ヴェニスの商人』と合わせ鏡になっていると言える。

この授業では、シェイクスピアのいくつかの劇を取り上げ、それらの中の現代に通ずる問題を検討するとともに、映像と舞台の中の現代のシェイクスピアの変遷についても考えてみたい。取り上げる作品は『ヴェニスの商人』『ハムレット』『リア王』『マクベス』などで、それに合わせて舞台・映画のシェイクスピア作品の違いも時間の許す限り見てゆく予定。アメリカの名優アル・パチーノの『ヴェニスの商人』、藤原竜也の『ロミオとジュリエット』や『ハムレット』、野村萬歳の『ハムレット』、吉田鋼太郎の『タイタスアンドロニカス』など、私の劇評を交えて見てもらうことにしたいと思う。また、現代を写したシェイクスピア現象の一つとも言えるadaptation（翻案）、つまりシェイクスピアを元として作り直された舞台・映画・小説などにも随時触れたいと思っている。

授業の到達目標

・シェイクスピアの劇を英語と日本語両面で部分的に読み、劇の内容を知ることにより、シェイクスピアの劇の特異性とともに、現代との近さ（遠さ）をテクスト上と舞台・映画と通して実際に知り、考察する。
・文学的な意味だけでなく、心理的・社会的、あるいは政治的な意味でも、シェイクスピアの言葉が現代を生きる者にどのような影響を与えるのかを感受できるようになることを目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　80%　　授業最後の時まで（締め切りは後日連絡）に、指定の題目で書いて提出するレポートの内容（論理性や独自性）による。
●**平常点**　20%　　出席点（3分の2）
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

シェイクスピア初心者も熟達者も歓迎。
生の舞台を実際に見てもらいたいと思うので、随時割引チケットを紹介する予定。

科 目 名	イギリスの神話と伝説							
担当者名	ロビンソン　ピーター							
英文コース	2単位	春学期	月曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will look at three of the most powerful British myths/legends: Queen Boudicca, King Arthur and Camelot, and Robin Hood. We will analyse the process by which these myths and legends emerged, exploring their historical, cultural and social contexts, and following them through the ages to the present. A range of print and visual materials will be used.

授業の到達目標

Students will learn the specific background to each of the myths/legends. By the end of the course students will understand the importance of national and regional myths in the creation of identities. Listening, reading and writing skills in English will be enhanced.

成績評価方法

●**試験** 0% no
●**レポート** 60% In-class written paper
●**平常点** 40% Individual or group presentations
●**その他** 0% no

備考・関連ＵＲＬ

Regular attendance is a requirement of the course.

科 目 名	イギリス小説の愉しみ 小説の人類学							
担当者名	武田 将明							
英文コース	２単位	秋学期	金曜日	２時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

「小説の人類学」をテーマに授業を行う。
4回の講義と1回の演習の組み合わせを3回実施する。
それぞれのテーマは、
1. 文明と野蛮
2. 退化への恐怖
3. 生命の根拠
に分かれているが、実際にはどれも相互に関係している。
講義はプリントを配布して進める。講義の際は、引用の読解について、ランダムに受講者に訊ねることがある。第5、10、15週には、課題図書の読書会を実施する。
課題図書は、以下の3冊（日本語訳で読んでも構わない。版については、「教科書」欄を参照）。
第5週：DanielDefoe, *Robinson Crusoe*.
第10週：H. G.Wells, *The Island of Doctor Moreau*.
第15週：Kazuo Ishiguro, *Never Let Me Go*.
最終授業において、本授業に関する最終レポート（日本語4000-8000字あるいは英語1000-2000 words）を提出する。レポート（横書き）は手書きではなくA4判用紙に印刷し、右上にページ番号を振って左上1箇所をホチキス留めすること。

授業の到達目標

近年の人類学には、自己と他者との境界、人間と他の生物との境界や、さらには現実と神話（フィクション）との境界について、根源的に問い直す試みが見られる（春日直樹に倣い、これを「存在論的転回」と呼ぼう）。こうした観点から近代以降のイギリス文学（主に小説）を読み直すことで、ポストコロニアル批評以降の文学論の可能性を模索する。また、「近代イギリス小説」の伝統的な枠組みを相対化することで、イギリス文学・文化への新鮮な見方を提供し、ひいては現代日本でイギリス文学・文化を学ぶことの意義を、受講生と共に考えたい。本授業を通じて、文学テクストの読み方に習熟し、英語で文学作品を読むことの愉しさを感じ、文学と文学教育の未来についてじっくり考えていただくことが到達目標となる。

成績評価方法

授業の理解度（30%）、3回の授業内読書会（30%）、最終レポート（40%）。
授業の理解度については、授業時に当てたときの反応とリアクションペーパーから判断する。
最終レポートは、授業内容を踏まえているかも評価の基準とする。ただし、授業での解釈と同じことを書けばよいのではなく、自分なりに考えたことを明晰に言語化できているかどうかが重要である。

科 目 名	1960年代アメリカ アメリカ文化の60年代							
担当者名	堀内 正規							
英文コース	２単位	秋学期	金曜日	２時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

アメリカ合衆国の1960年代は大きな変化の時代でした。政治的にはキューバ危機、黒人公民権運動、ケネディ暗殺、ヴェトナム戦争、人種暴動、学生運動といった大きな指標がありますが、文化的に見ても実に重要なことが起こっていたのがこの時代です。現代の文化を考えるときにも、この領域の影響は絶大でした。

この講義では、アメリカの60年代のさまざまな文化的事象を、わたしなりに紹介してみます。文化的事象とはいっても、そのほとんどが当時の政治的・社会的な状況となんらかの形でつながっているので、その点も考慮しながら進めます。予備知識は必要ありません。あらかじめお断りしておかねばならないのは、この講義でこの時代のアメリカ文化が万遍なく、全方位的にカヴァーされているわけではないということです。自分なりにある程度確信をもって話ができそうなことがらに絞った内容になりますが、入り口を作るという意味で受けとめていただければと思います。できるだけ、みなさんには〈本物〉に直に触れてもらいたいと思っています。教室にもよりますが、できればパソコン上では体験できない、大画面・大音量で……。

トピックとしては、文学・音楽・映画それに政治の分野から、人種を扱った小説、ビート、ロックンロール、フォーク、ロック、サイケデリック、フラワームーヴメント、ソウル、カウンターカルチャー、アメリカン・ニューシネマ、黒人公民権運動、キングとマルコムX、ヴェトナム戦争など。実際の音楽を聴き、映像を観てもらって、遠い昔の知識としてではなく、現在のわたしたちにびりびりと響いている力を伝えたいと思います。

トランプが大統領になって以降、アメリカも世界も先行きの読めない時代になっていますが、だからこそ、過去のアメリカからたいせつなものを掬い取りたいと思います。トランプとは違うアメリカを。

授業の到達目標

アメリカの1960年代文化についての理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はしません。
●**レポート**　50%　　授業で出された論点が理解できているか、自分なりの視点が打ち出せているか、論理的に書けているか。
●**平常点**　50%　　出席は3分の2以上を必須とします。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	政治と文学　『ガリヴァー旅行記』の諷刺とオーガスタン・ヴィジョン							
担当者名	島森　尚子							
英文コース	2単位	秋学期	金曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

十八世紀英国では諷刺文学、取り分け政治諷刺が多く書かれたが、中でも『ガリヴァー旅行記』は、当時から今日に到るまで世界中で人気がある。諷刺、特に政治諷刺は、本来短命で局所的な生命しか持たないはずだが、本作は例外的に普遍性を得たわけである。その理由は幾つかあるが、本講義では文体と政治ヴィジョンとに着目する。無論、政治と文学が限りなく接近していた18世紀英国の状況をまずは理解する必要があるだろう。その知識を前提として『ガリヴァー旅行記』および関連する文章を読み、スウィフトが随所に仕掛けた技巧を読み解きながら、スウィフトの政治諷刺がなぜ現代の読者にも有効と感じられるのかを考える。

授業の到達目標

諷刺文学の読解を通じて近代英国の政治や社会の状況を知り、政治と文学との深い関係性を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　80%　　授業内で議論したテーマに沿った論点が明確に提示されていること。 指示された形式に従っていること。 レポートは論理的に構成され、適切な表現で書かれていること。 提出期限を守って提出されていること。
●**平常点**　20%　　講義への参加度（小課題提出等を含む）を評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

世界史に詳しくない諸君は、あらかじめ英国の16世紀から18世紀を舞台にした映画などを観ておくとよいだろう。『我が命つきるとも』、『クロムウェル』、『エリザベス』、『バリー・リンドン』など、探せば色々ある。

科 目 名	アイルランドへの招待　アイルランド文学紀行							
担当者名	栩木　伸明							
英文コース	2単位	春学期	金曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、アイルランド各地にゆかりのある詩・小説・戯曲・映画・歌などを紹介した拙著『アイルランド紀行――ジョイスからU2まで』を読みながら、古今の文学・文化を概観する。アイルランドは数百年間の植民地支配を経験した、ヨーロッパ西端の小さな島国である。現在でもアイルランド共和国と英領北アイルランドの間には国境があり、通貨（ユーロとポンド）が異なる。言語はアイルランド語と英語の二言語が使用され、宗教的にもカトリックとプロテスタントが並び立つ島である。悲惨で暴力的な歴史に翻弄された場所であると同時に、歌や演劇や詩や小説が盛んに生み出されてきた土地でもある。中世の詩からスウィフト、ワイルド、イェイツ、ジョイス、ヒーニー、ヴァン・モリソンやU2にいたる文学作品の抜粋を読み、アイルランドが登場するいくつかの映画をつまみ食いし、それらにあらわれた現地のようすなども紹介しながら、この島で熟成された濃厚な言語文化を味わってみたいとおもう。

授業の到達目標

文学作品、映画、音楽などを、社会的・歴史的背景とともに味わい、解釈することに慣れることにより、アイルランドをめぐるトピックについて、受講者それぞれの視点から語れるようになることを目標とする。さらに欲を言えば、異文化を見るさいのひとつのものさしをこしらえることをめざす。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　70%　　オリジナルなリサーチペーパーとして内容、形式ともに整っているかどうかを評価する。
●**平常点**　30%　　出席回数（3分の2以上を必須とする）を評価する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	カナダへの招待　多文化主義に至る道のりを文学とともにたどる							
担当者名	馬場　広信							
英文コース	2単位	春学期	木曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

カナダは「幸福」を感じている国民の割合が高いことで知られており、好感を抱いている人が日本でも少なくないようです。しかし、2014年に対 IS 空爆参加を表明した結果、テロの標的となり悲惨な事件が起きています。それでも他の国々とは異なり、カナダは2019年末現在、「多文化主義（multiculturalism）」を「失敗」だと宣言していません。 イギリス・合衆国・オーストラリアで「多文化主義」「多様性（diversity）」という語は、絵空事のようにやや批判的文脈において用いられるのに対し、カナダの場合は異なります。それは我が国で昨今唱えられている「多様性を重んじる社会」とも全く別の形態です。本講座はその理由を、「カナダ」史と英語で書かれた文学を通じ、理解することを目的とします。

まず日本で根強い人気を持つ小説『赤毛のアン』は、カナダの国民的文学なのか、という問題を入り口として、カナダについて考えるための基礎知識を学びます。そしてかつてイギリスとフランスの植民地支配を受け、現在英語とフランス語を公用語としているカナダの歩みを、18世紀から20世紀のトピックを中心に講義してゆきます。

またカナダは、合衆国に先立ち先住民の土地所有権を認める傍ら、第二次大戦中に日系の国民を「敵国民（enemy alien）」とみなし、強制収容所に入れた歴史も持ちます。それが20世紀後半に少数派の権利を重んじる "multiculturalism" 政策へと大きく舵を切り、カナダ連邦政府は差別撤廃施策を徐々に採用してゆきました。

カナダを知ることを通じ「国家とは何か？」「国民とは何か？」という問を改めて考えることも、この講義の目的となります。

採り上げる文学作品は英語原文と邦訳のハンドアウトを配布します。英語が苦手な学生にも配慮して講義を進めます。
ただし、毎回の授業で多くの知識を学びます。講義終了時のレヴュー・シートは、感想を書くのではなく、講義内容を正確に理解できているかの確認作業となります。毎回集中力をもって講義に臨んでください。文学鑑賞の講座でもあるため、フィクション読解に関心を持つ学生の履修を勧めます。 加えて、マイケル・オンダーチェ『ライオンの皮をまとって』のブック・レヴューを試験で書いてもらいますので、各自試験前に読了してください。試験受験は単位取得の必要条件です。計画的に読み、準備を進めておきましょう。(教科書の欄参照のこと。)。
＊　授業展開の都合上、第5回以降は順序変更ないし複数トピックを併せて1回の講義で採り上げる可能性があります。変更する場合は原則2回前の授業で予告します。

授業の到達目標
文学と歴史を中心にカナダという国家が持つ特徴を学び、カナダ地域研究ないし他の国家と比較して考察する基礎を身につけることを目標とします。英文学コース設置科目なので、英語で文学を読む初歩的スキルを学び、社会的背景を読み解ける基礎力を涵養します。

成績評価方法
●**試験**　40%　　ブック・レヴュー。教科書・印刷物・ノート・辞書・通信端末使用不可。
●**レポート**　0%　　課しません。
●**平常点**　60%　　毎回講義の最後に、当日の講義で何を学んだか、10分でレヴュー・シートに書いて提出してもらいます。各回のレヴュー・シートを評価し、平常点とします。詳細は第1回講義で説明します。
●**その他**　0%　　課しません。

備考・関連URL
＊　教場には鉛筆ないしシャープペンと消しゴム、ノートを持参してください。
＊　携帯電話・スマートフォンは必ずマナー・モードに設定して鞄などにしまい、教場に臨んでください。教場ではいかなる通信端末も使用を認めません。電子辞書使用も不可です。使用した場合、その回の平常点は0点とします。
参考 URL: 日本カナダ学会編著『メイプル豆事典』http://jacs.jp/modules/xwords/

科 目 名	英文学特殊講義5　シャーロット・ブロンテの小説を読む							
担当者名	皆本　智美							
英文コース	2単位	春学期	火曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
三姉妹そろって文学史上に名を残した作家は、世界文学史上でも稀有な存在だろう。ブロンテ姉妹は三人とも早逝したが、シャーロット・ブロンテは四つの中・長編小説を書いたので、私達はそれらの読解を通して、彼女の小説家としての軌跡をたどることができる。本講義では、四小説の特徴をつかみながら、作家の特質や当時の社会について考察を深める。

授業の到達目標
ヴィクトリア朝という時代と小説との関連について理解を深める。
シャーロット・ブロンテの小説を通して、小説分析の基礎を身につける。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　授業中にレポート課題を指示し、授業内容の理解度を中心に評価する。
●**平常点**　40%　　授業への積極的な参加。
●**その他**　0%

科 目 名	イギリス小説の諸相　19世紀イギリス小説とアダプテーション							
担当者名	皆本　智美							
英文コース	2単位	秋学期	水曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要
文学作品はそれ自体で完結することなく、読者の創作意欲を刺激して新たな作品を生むことがある。19世紀イギリス小説も例外でなく、刺激を受けた読者によって別の小説が生み出されたり、絵画や映画という他のメディアに変容を遂げたりしながら、新たな作品が多く生み出されてきた。本講義では基礎的なアダプテーション理論を紹介しながら、いくつかの具体例について考察を深めていくことにする。

授業の到達目標
adaptation studies について理解し、adaptation の可能性について考察する。

成績評価方法
●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　授業中にレポート課題を指示し、授業内容の理解度を中心に評価する。
●**平常点**　40%　　授業への積極的な参加。
●**その他**　0%

科 目 名	アメリカ詩への招待　アメリカ詩の紹介							
担当者名	山内　功一郎							
英文コース	2単位	春学期	水曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要
文字通り「アメリカ詩への招待」を試みる。アメリカという国家をめぐる重要な概念の一つが「多元性」であることは、改めて強調するまでもないだろう。詩人による自作朗読を収めた映像作品 The United States of Poetry （USOP）は、それを見事に表現した資料である。この授業の冒頭ではまずこれを用い、パフォーマンスの映像と音声のシャワーを堪能する。続いて各時代を代表するアメリカ詩人を取り上げ、彼らの体表作とそれらをめぐる批評をじっくりと精読する。受講者には、英語原文の資料を丹念に読解してもらうことになるだろう。
受講生数等の条件にもよるが、ディスカッションやプレゼンテーションも可能な限り取り入れる予定である。その過程の中で、受講生のみなさんと共にアメリカの詩を学ぶ意味を探りたい。

授業の到達目標

・アメリカ詩に親しみ、その展開と詩人の多様性について一定の理解を得ること。
・英語の原典を正確に読解する能力を身に着けること。
・英文の批評を原文で読み解き、作品解釈に役立てる力を習得すること。
・オリジナルな解釈を確立し、それを効果的に表現する文章能力を身に着けること。

成績評価方法

平常点50%、レポート50%。平常点は授業時に行う小テスト、レビューシートを含む。出席3分の2を必須とする。

科 目 名	フランス語学概論　一般言語学から見たフランス語							
担当者名	酒井　智宏							
仏文コース	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

フランス語学とはフランス語を主たる対象とする言語学の分野です。基礎外国語科目等の外国語科目が「フランス語を身につける」ことを目標とするのに対して、フランス語学の講義では「フランス語について考える技術を身につける」ことが目標となります。「フランス語について考える」ためには、「フランス語以外の言語について考える」視点も必要になります。そのような一般的な視点を提供してくれるのが(一般)言語学という学問です。一般言語学的な視点のもとでフランス語を捉えてはじめて、(つぶやきやエッセイの水準ではなく)学問的な水準で「フランス語について考える」ことができるようになります。そこで、本講義では、言語学の下位分野である音韻論、形態論、統語論(統辞論、構文論)、意味論の観点から、フランス語の特徴を考えていきます。

授業の到達目標

1. 一般言語学の基本的な考え方を身につける。
2. 一般言語学の観点からフランス語の特徴を捉えられるようになる。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第15回の授業時間中に理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　毎回、課題の解答をCourse N@viまたはWaseda Moodleのレビューシートに記入していただきます。
●**その他**　0%

備考・関連URL

1. 受講にあたってフランス語の高度な運用能力は要求されません。「(基礎外国語等で)いくらか勉強したことがある」「講義と並行して学ぶつもりでいる」という程度でも大丈夫です。
2. フランス語の歴史的な成り立ちや社会文化的背景については、「フランス語史」および「ヨーロッパのことばと文化」で扱われますので、この講義ではオリエンテーションでふれるにとどめます。
3. 語用論については、「語用論入門」「フランス語フランス文学演習10(フランス語学3)」「フランス語フランス文学演習15(フランス語学4)」で扱われますので、この講義で意味論の一部で言及するにとどめます。ただし、「フランス語フランス文学演習10(フランス語学3)」「フランス語フランス文学演習15(フランス語学4)」の受講にあたっては、フランス語の読解力が必要となります。

関連URL: http://www.tomohirosakai.com/

科 目 名	フランス語史　クレチアン・ド・トロワの『イヴァンまたは獅子の騎士』(1170年ころ)を題材にして							
担当者名	瀬戸　直彦							
仏文コース	2単位	春学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代のフランス語はどのように成立したのだろうか。文法体系と語彙の多くはラテン語を継承している。しかし，それはどのような過程を経ているのだろうか？ラテン語について簡単な解説をほどこしてから、西欧各地でそれが変化し、ロマンス語（フランス語、オック語、イタリア語、スペイン語、カタロニア語、ポルトガル語、ルーマニア語、サルディニア語など）へと変貌していくさまを、ガリアの地域を中心に概説する。あわせて、13世紀の文学作品を読むことにより、フランス語の古い姿に接して，現代のフランス語への変化を知る機会を作りたい。具体的には、1170年ころに成立したといわれる古フランス語による『イヴァンまたは獅子の騎士』（クレチヤン・ド・トロワ）を，とくに史的言語学の視点から読み解く作業を，受講者とともにおこなう。テクストの解読は初歩から始めるので安心して受講してください。

［注意］（1）フランス語の歴史であるから，フランス語既習者が登録すること。なおラテン語や他のロマンス語を学習していれば、興味はより増すことであろう。

（2）テクストとして用いる写本はプリントして配布するが，フランス国立図書館(BnF)のサイトGallicaからカラーの美しいデジタル版を参照できる。

授業の到達目標

フランス語の史的変遷を理解して、その語彙と文法の特徴を知るとともに、フランス語を正確に読むための仏仏辞書の使い方を学ぶ。とくにインターネットで簡単に参照できるDECT（Dictionnaire électronique de Chrétien de Troyes)，DMF(Dictionnaire du moyen français)をじっさいに教室で一緒に参照して，使い方に慣れるようにしたい。

成績評価方法

平常点

科 目 名	フランス文学史1　中世から19世紀まで							
担当者名	川瀬　武夫　他／瀬戸　直彦／O. デュスッド							
仏文コース	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

どの言語による文学も豊かな歴史を持っているはずだが、フランス文学の魅力はそのなかでも際立っているように思われる。英文学ならシェイクスピア、ドイツ文学ならゲーテ、スペイン文学ならセルバンテス、イタリア文学ならダンテと、フランスの周辺にある国々を例にとると、それぞれに代表的な文学者がいるものである。だが、フランス文学ではその代表が見つけられな

い。代表的な文学者がいないのではなく、多すぎて絞れないのである。それほどまでに豊穣なこの文学をひとことでいえば、繊細にして洒脱、深遠かつドラマティックな大人の文学といえるかもしれない。
その内容と歴史的な流れを、中世から始めて「近代＝現代性」の成立する19世紀末まで、それらの時代ごとの社会的・文化的な背景に留意しつつ、できるだけ分かりやすくたどってみる。無味乾燥な講義は避けて、受講者が積極的に参加できるような、また紹介された作品を是非とも読んでみたいと思うような、そのような授業にしてみたい。
3名の専任教員が各人の専門分野を生かして、時代順にリレー方式で5回ずつ講義をおこなう。時代の分担は以下のとおり―
瀬戸直彦：中世（842年）から16世紀まで
オディール・デュスッド：17世紀から18世紀まで
川瀬武夫：19世紀

授業の到達目標
秋学期開講の「フランス文学史2」とあわせて受講すれば、千年以上にわたってフランス語という言語で書かれてきた「フランス文学」についての必須の知識が確実に得られることを目標とする。

成績評価方法
●**試験**　70%　　授業最終日に教場試験をおこなう（資料持ち込み不可）。
●**レポート**　0%　　―
●**平常点**　30%　　試験結果に出席点を加味する。
●**その他**　0%　　―

科 目 名	フランス文学史2　フランス文学にとっての20世紀							
担当者名	鈴木　雅雄　他／佐々木　匠／藤本　一勇							
仏文コース	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要
「フランス文学史1」のあとを受けて、20世紀においてフランス文学（および思想）がいかなる課題を負い、いかなる変貌を遂げたのかを概観する。
まずは「小説」というジャンルをとおして20世紀文学の流れを総括する。その流れが世紀を超えた現在に投げかける問いとインパクトについても考えていきたい。
次に、しばしば同時代の文学的前衛を代表していたとみなされるフランス現代詩のさまざまな動向を、20世紀における文学言語の課題とは何だったかという問いを念頭に置きながら解説する。
最後に、第二次世界大戦以後のフランスの文学・批評の流れを、サルトル、ヌーヴェル・クリティック、クレオール文学に焦点を当て概観する。

授業の到達目標
20世紀フランス文学について考えるための大まかな見取り図を持てるようになることが目標だが、この過程で学生がさまざまな作家や詩人、思想家に出会い、こうした領域で研究していきたいと思うテーマを見つけるための助けになるよう、努力したい。

成績評価方法
●**試験**　70%　　学期末に試験を行う。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　出席点。
●**その他**　0%

備考・関連URL
関連URL: http://www.waseda.jp/bun-bonjour/

科 目 名	フランス中世・ルネサンス文学　クレチヤン・ド・トロワの『イヴァンまたは獅子の騎士』を読む							
担当者名	瀬戸　直彦							
仏文コース	2単位	秋学期	金曜日	5時限	3年以上	―	合併科目	―

授業概要
フランス中世とルネサンス文学については，「フランス文学史」というリレー講義で概説は示すが，この授業のほうは，かんたんな概説を行った後に、古フランス語　（＝中世フランス語）で作品をじっさいに読んでいく。中世語に慣れていれば、ルネサンス期以降のことばの読解も基本的にはそれほど困難ではないからである。テクストとしては、1170年ころに成立したといわれるクレチヤン・ド・トロワの作品『イヴァンまたは獅子の騎士』という散文による作品を，写本（ギヨという写字生の書写したもの）と校訂版から読む。最初は担当教員が写本の読み方など一から指導するので，安心して受講されたい。出席者による写本の読解，テクストの解釈が中心である。なお前期の「フランス語史」（おなじ金曜日5限）でもこのテクストを用いるので，後期はその続きを題材とする。両方を受講すれば広い視野が得られるかと思う。こちらの授業は，受講者の顔ぶれにもよるが，より実践的 pratique に行いたいと思う。
（注意）（1）現代フランス語既習者が受講すること。
（2）前期の同一時間帯の「フランス語史」の授業とおなじテクスト（その続き）を用いるが，前期のその授業の履修は必須ではない。

授業の到達目標
辞書（電子辞書がインターネットで引ける）や語彙集を使えば、独力で中世フランス語が読めるようにするのが目標であるが、前期に「フランス語史」を受講すればさらに力がつくはずである。

成績評価方法
平常点

科 目 名	フランス詩　その起源からロマン派まで							
担当者名	川瀬　武夫							
仏文コース	2単位	春学期	金曜日	4時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

まず中世以来のフランス詩の歴史を簡単にたどってから、フランス語による定型韻文詩を原語で読むために必要な韻律法versificationの基本的な規則を平易に解説します。

そのうえで主として19世紀前半のロマン派の作品のなかから、人口に膾炙した代表作をとりあげて、詳細に味読していきます。

定型韻文詩は韻律やリズムといった音声的（＝音楽的）要素も大切ですので、ネイティヴによる朗読や歌曲のCDなども常時参考にします。

授業の到達目標

詩は分かりにくいものと決めつけている学生諸君も多いと思いますが、なによりも原語で読んで、その言葉の繊細にして優美な響きを聴きとることで、フランス詩の真の魅力に到達することを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　60%　　授業最終日に教場試験をおこないます（仏和辞書持ち込み可）。
●**レポート**　0%　　—
●**平常点**　40%　　試験結果に出席状況や授業への積極的な参加態度についての評価を加味します。
●**その他**　0%　　—

備考・関連URL

当然のことながら、受講者にはフランス語の基礎的な読解能力が求められます。

講義

科 目 名	フランス小説　アルベール・カミュ『異邦人』を読む							
担当者名	芳川　泰久							
仏文コース	2単位	春学期	木曜日	2時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

フランス20世紀小説の代表作をフランス語で読むことを通し、フランス文学とフランス的表現に触れ、その後のフランス小説にどのような変化をもたらしたかを学習し、フランス語の能力を高める。

授業の到達目標

平明な散文によるフランス語を読めるようになり、20世紀のフランス小説の重要な転回点を理解する。

成績評価方法

●**試験**　50%　　授業中に1回、「達成度確認試験」を行なう。
●**レポート**　0%　　レポートは出さない。
●**平常点**　50%　　授業中に担当した個所へ対応と出席から総合評価する。
●**その他**　0%　　特に考えていない。

備考・関連URL

受講者には、予習が望まれる。毎回、辞書をもって授業に出席すること。

出席については、大学の規定を厳守するので、三分の二以上の出席が必要となる。

また、フランス語を読むので、第二外国語で他言語を履修した学生の履修はには自ずと困難がともなうことを注意しておく。他言語を履修したことは成績判断の際に考慮に入れないので、授業についてくるには、初級修了程度のフランス語文法を習得を自習しておく必要がある。

科 目 名	フランス思想　アラン・バディウの思想							
担当者名	藤本　一勇							
仏文コース	2単位	秋学期	月曜日	3時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代フランスにおける「最後の知の巨人」と呼ばれるアラン・バディウの哲学について講義する。バディウには、フランスの数々の知的伝統と現代最先端の思想が合流しており、バディウの哲学を概観することは、フランス哲学の全体を学ぶことだと言ってもよい。存在論、実存思想、数理哲学、エピステモロジー、マルクス主義、精神分析、詩学・芸術論……ざっと挙げてもこれだけの潮流がバディウには流れ込んでいる。

本講義では、バディウ思想の分析を通して、フランス思想がもつ巨大なポテンシャルを描き出してみたい。先行世代であるサルトル、ラカン、アルチュセール、ドゥルーズ、デリダらとの関係についても考察し、フランス現代思想の包括的な見取り図を構築することを目指す。

授業の到達目標

バディウの思想の全体像を理解し、それがフランスの伝統的・現代的な思想の流れとどのように絡み合っているかを理解する。

成績評価方法

登録者数によって変わる。40名以内ならレポート、それ以上なら「理解度の確認の試験」を行う。出席点は参考程度。詳しくは最初の授業のときに説明する。

科 目 名	フランス文学の現在　フランス文学と映画							
担当者名	梶田　裕							
仏文コース	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、映画との関係を通じて、20世紀以降のフランス文学について考えます。映画と文学の関係は、決して平和的なものではありませんでした。文学者はしばしば文学作品の映画化に敵意を示し、映画監督はそれを映画の文学への従属と捉えました。しかし、映画の黎明期において、文学者が映画に見出した可能性は、決して文学作品の映像化ということではありませんでした。前衛的な作家たちは、映画がもたらす新たな知覚の可能性に関心を寄せていました。そしてトーキーの登場以降、映画が次第にただ物語を視覚化するための装置となり果てると、彼らは映画に対する失望を表明しました。しかし映画の方でもまた、

イタリアのネオリアリズモやフランスのヌーヴェルヴァーグによって、物語に対する従属から映画を解放することが試みられていくことになります。ここから、文学と映画の間に、文学作品の映画化という枠には収まらない関係を描くことができるようになります。フランスの映画批評家であるアンドレ・バザンは、映画と文学の間に、「根深いところで共有された美学的条件」や「芸術と現実との関係についての共通した見解」を早くから読み取っていました。哲学者のジャック・ランシエールもまた、「映画は文学の後に来る」と言うことによって、映画と文学が同じ芸術的体制に属していることを明らかにしています。この授業では、文学と映画の間にある。影響や翻案にとどまらない共鳴関係を明らかにし、この共鳴関係から、文学作品の映画化（文学という言語芸術の体制を代表する『ボヴァリー夫人』の様々な映画化、ブレッソンによるベルナノスの作品の映画化、タル・ベーラによる『倫敦から来た男』の映画化）、作家と映画監督との共同作業（アラン・レネとデュラス、ロブ＝グリエ）、作家による映画制作（デュラス）などについて考察したいと思います。

授業の到達目標

文学と映画が共に属している芸術の体制について理解を深め、文学と映画の関係を新たに捉え直すこと。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　学期末にレポートを提出。分量は3000字以上。
●**平常点**　30%　　出席とコメントシート等による授業に対するリアクションを総合的に評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

フランス語の文献を配布することもあるかもしれないが、フランス語の知識がなくとも理解できるよう配慮する。

科 目 名	フランス表象文化論　シュルレアリスムとヴィジュアル・カルチャー							
担当者名	鈴木　雅雄							
仏文コース	２単位	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

もともと詩人たちによる運動だったシュルレアリスムは、次第に美術へと拡張されていきましたが、今では美術の一分野というイメージが強いくらいかもしれません。しかし実は今でも美術史のなかで、シュルレアリスムは決して語りやすい対象ではなく、位置づけは曖昧なままです。シュルレアリスムが作り出した、あるいは探究した視覚体験は、狭義での美術史のなかで捉えるよりも、映画や写真はもちろん、ポスターや絵本、マンガといったいわゆる「大衆的」なイメージ・メディアとの関係で考える方がいいのかもしれません。さらに広い見方をすれば、近代における都市のあり方の変化や視覚に関係した技術の進展との関係で考えなければ、その真価は理解できないようにも思います。

この授業では、シュルレアリストたち（画家だけでなく詩人たちも含みます）がそのような近代的なメディアやテクノロジーとどのように向かい合い、そのなかで自らの創造行為にどのような意味を見出そうとしたかを考えていきます。まずは運動の全体像を見直したうえで、シュルレアリストたちの奇妙な映画の見方、彼らの雑誌での写真の特殊な利用法、マンガやイラストなど、物語るイメージに対する態度、といった個別の問題を扱っていきます。

どこまで行けるかはわかりませんが、近代の視覚文化全体についての新しい見通しを持つことや、私たち自身のさまざまなメディアとの関係を考え直すことにつながるような話ができればと思っています。

授業の到達目標

シュルレアリスムを中心とした20世紀前半の芸術運動に関する知識を身につけるだけでなく、近代の視覚文化現象全般について、理論的かつ批判的な視点から考えられるようになることが目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　80%　　学期末に、授業で扱ったテーマに関するレポートを課する。
●**平常点**　20%　　出席点。
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業形態はごく普通の講義ですが、レポートはやや書きにくいかもしれません。決まった内容を調べれば書けるといったものではなく、「自分でこの授業の内容に関係があると思ったことを自由に書いてください」といった、いささか投げやりなレポート題目になることが予想されます。どんなレポートが書けそうか、いろいろ考えながら授業を聞いてください。

科 目 名	フランスの映画・映像論							
担当者名	北村　陽子							
仏文コース	２単位	秋学期	火曜日	２時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

映画を見ることとは、映画館の暗闇の中で、スクリーンに投影された映像を見ることである。その始まりを告げたのは、1895年のリュミエール兄弟によるシネマトグラフの上映であった。映画は本来、教室などで見るものではない。学校で映画を見たりするのは、「おかしい」ことなのである。ゆえに仕方なく、私なりの選択で、見てもらいたい映画のシーンをDVDなどで部分的に紹介する。映画史的な視点も考慮するが、講義時に映画館で上映されているものも取り上げ、授業から映画館への繋がりを産み出せればと願う。

見てもらいたい映画作家としては、リュミエールからメリエス、ヴィゴ、ルノワール、ベッケル、ブレッソン、メルヴィル、カルネ、ロメール、ピアラ、ロジェ、リヴェット、ゴダール、トリュフォー、ドゥミー、ユスターシュ、テシネ、アサイヤス、デプレシャン、ブラックなど。フランス（語）の映画は、フランス人だけが撮っているのではない。だから、ダルデンヌ兄弟（ベルギー）、イオセリアーニ（ジョージア）、カウリスマキ（フィンランド）、オリヴェイラ（ポルトガル）、ルイス（チリ）、キアロスタミ（イラン）、大島渚、黒沢清といった監督たちも扱うかもしれない。また、フランスにおける外国映画の受容（何よりアメリカ、それから日本）にも、できれば踏み込みたい。写真や絵画との関わりにも言及する予定。かなり独断的な選択をしてしまうかもしれないので、偏りを補うために、教科書として、中条省平『フランス映画史の誘惑』を使う。学期の中程で、この教科書を通読した上でのレポートの提出を求める。

授業の到達目標

フランス映画を見るという体験を通じて、自分なりの映画の嗜好を自分で作ってゆくこと。（フランス語の「cinéma」は、「映

画」と「映画館」の両方を意味することを忘れずに。）

成績評価方法

授業内小レポート、出席、平常点、中間レポート、学年末レポートを、総合的に勘案して評価する。

備考・関連ＵＲＬ

＊映画鑑賞中にパソコンやスマートフォンを見ている学生は、以後授業への参加の資格を失う。
＊映画鑑賞の妨げになるので、授業開始後20分以降の入室は認めない。
＊レポートについて
・授業内小レポート
毎週一本、何か映画を見て、それについて100～200字程度の小レポートを、次週の教場で提出すること。見る映画は、自分で選ぶように。フランス映画には限らなくてよい。（フランス語圏の人は、フランス語の映画だけ見ているのではない。それは日本も同じことである。）いずれの小レポートの場合も、冒頭に以下のデータを記すこと。
－日本語タイトル。日本以外の映画は、可能な限りその原題。
－鑑賞した日。映画館で見た場合は、その映画館名。DVDなどの場合は、購入したか借りたか。借りた場合は店舗名や、図書館などの施設名。その他、配信サービス、Youtubeなど、鑑賞方法に関する情報。
－映画の制作年。
－監督名。
－主な出演者名。
・中間レポートと学年末レポート
－しかるべき時期に指示する。

講義

科 目 名	フランス比較文化論							
担当者名	佐々木　匠							
仏文コース	２単位	春学期	火曜日	６時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

「フランス文化」という言葉から連想される事柄は非常に豊かです。それは、習俗であれ、芸術であれ、フランス文化がそれぞれの分野で長い歴史と伝統を持っているからにほかなりません。この授業では、そうした多様なフランス文化のうち、いくつかを具体的に取り上げ、日本文化との比較や、相互の影響関係を考えていきます。また、日本人にとってのフランス体験、フランス人にとっての日本体験がどのようなものであったかも、とりわけ日本の開国から20世紀半ば頃までの文献を中心に見ることで探ってみたいと思います。 さらに、フランスの成り立ちをよりよく知るため、各回一つの地域を取り上げて、都市、文化等の簡単な紹介をすることも予定しています。
なお、「授業計画」に挙げた項目は変更する可能性があります。また、あくまで日本文化との比較を通してフランス文化を考察するのが主目的です。それぞれの分野の歴史を概観することはあっても、徹底的に掘り下げることはしませんのでご了承ください。

授業の到達目標

日本とフランスの文化の比較を通して、フランス文化の知識を得て、日本文化を見つめ直すことを目指します。あえて多くの分野を扱うため、それぞれの議論が浅くなってしまう懸念はありますが、そのなかから興味を持てるものを一つでも見つけ、各自で調査・研究を続けていくための足がかりにしてほしいです。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—
●**レポート**　70%　　授業で扱ったテーマのいずれかについて、2000字程度のレポートを書いてもらう予定です。
●**平常点**　30%　　出席状況、コメントカード。
●**その他**　0%　　—

科 目 名	フランスの歴史と社会							
担当者名	佐々木　匠							
仏文コース	２単位	秋学期	火曜日	６時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

フランスの社会や文化について書かれた文献を読むと、「複層的」や「多様」といった言葉をよく目にします。事実、文化に関して言えば、フランスのそれは、ケルト文化が、ローマ、ゲルマン、ノルマンなど、いくつもの文化の影響を受けることではぐくまれてきたようです。それらは時代ごとにキリスト教や王政、共和国の理念といったものの下で統合され、一つの国家が形成されてきました。この授業では、そうしたフランスの歴史を古代から順にたどっていくことにします。同時にそれは、現代のフランス社会を理解するための手段の一つにもなるはずです。 とはいえ、年号や事実をひたすら列挙しても単調になってしまうでしょうし、何より皆さんは大学に入るためにそういう段階をすでに越えてきたはずです。フランス社会の変遷を追いつつも、背景にある論理や思想、精神、文化にもなるべく注目し、それらがいかに現代のフランス社会につながっていくのかを考えたいと思います。
なお、フランスの社会をよりよく知ってもらうため、各回一つの地域を取り上げ、そのあたりに伝わる民話や伝承を一つ、ごく簡単に紹介することも予定しています。

授業の到達目標

フランスがたどってきた社会の変遷を学ぶことで、そこに根ざす精神、文化、思想などを理解することを目指します。また、歴史を知ることで、現代のフランス社会について関心や問題意識を持つことも目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—
●**レポート**　70%　　授業で扱ったテーマのいずれかについて、2000字程度のレポートを書いてもらう予定です。
●**平常点**　30%　　出席状況、コメントカード。
●**その他**　0%　　—

科 目 名	ドイツ文学概論1　戦後ドイツ文学と「詩学」							
担当者名	金　志成							
独文コース	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「詩学」とは「詩作についての教え」と定義されるように、文学テクストを書くための規範ないしルールブックのようなものです。その歴史は長く、古代ギリシアにまで遡り、18世紀まで「詩学」は書くための規範的な体系として存在しましたが、近代の幕開けとともに解体が始まり、第二次世界大戦以降はいわば〈ポスト詩学〉の時代に突入することになりました。しかし〈ポスト詩学〉の時代においては、「詩学」がついにその役割を終えたというわけではなく、むしろその規範性の喪失によって、絶えず問われ続けなければならない問題として現れることになります。とりわけ戦後ドイツ文学においては「アウシュヴィッツ」や東西分裂国家といった政治的・歴史的な文脈が作家たちの創作を条件づけることになりました。また「詩学」の問題を考えることは、「近代」、「作者」、「テクスト」、「メデイアとしての言語」、「パフォーマンス」、「言説制度」といった、文学研究におけるきわめて重要な諸問題を考えることへと繋がります。本講義では、詩論的なテクストをつうじて戦後ドイツ文学の代表的な作家を知りつつ、現代の文学研究におけるさまざまな理論や方法論を学んでいきます。

授業の到達目標

「詩学」の観点から戦後ドイツ文学史の基本的な流れと代表的な作家を知ると同時に、文学一般にかかわる諸問題を批判的・反省的に思考する姿勢を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　60%　　期末レポート。
●**平常点**　40%　　出席およびリアクションペーパー。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	ドイツ文学概論2　近代ドイツ文学――社会と文化を見る視角							
担当者名	西尾　宇広							
独文コース	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

文学とは、現実世界をいっとき離れてフィクションの世界に赴き、そこで羽をのばすための束の間の手段、というだけのものではありません。むしろ文学は、そこに描写された内容においても、それが作品として世の中に流通する形態においても、現実世界ときわめて密接に結びついており、現在あるいは過去の（場合によっては見知らぬ土地の）社会や文化を眺めるための、恰好のレンズとなるメディアなのです。

この授業では、主として18世紀と19世紀にドイツ語で書かれた文学を起点として、同時代の社会と文化にさまざまな角度から光をあてていきます。同時代の状況を知ることで可能になる文学の新しい読み方がある一方で、文学が現実世界の単純な反映物ではなく、作者や受容者の多彩な「願望」を取り込みながら成立するものであるからこそ、文学というレンズを通すことではじめて見えてくる同時代の相貌もあります。「ドイツ」という国がまだ地図上には存在していなかった18世紀から、1871年のドイツ帝国成立にいたるまで、現在「ドイツ」と呼ばれている地域の文化と社会は急激かつ巨大な変化を経験してきました。一般に「近代化」と言われるその過程のなかで生み出されたさまざまな制度や価値観は、「ポストモダン」が叫ばれて久しい現代の私たちにとってもなお、決して無縁なものではなく、それどころか、気づかぬところでいまだに強く私たちの感覚や思考回路を規定し続けています。そうした「近代化」の渦中にあった当時の文学を読み解きながら、近代ドイツが辿った歴史の意味について、ひいては、現在にまで連綿と続く近代社会が抱える文化的構造について、考えていきたいと思います。

授業の到達目標

近代ドイツ文学についての知見を深め、歴史的な文脈のなかで文学を読み解く意義を実感することをめざします。また、いわゆる政治史として語られがちな歴史を、文学という切り口からとらえ直すことで、政治的な出来事と同時代の社会的・文化的な現象が密接に連動していることを理解してもらいたいと思います。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　60%　　学期末にレポートを提出してもらいます。詳細については授業時に指示します。
●**平常点**　40%　　学期中に数回、リアクションペーパーの記入を求める回があります。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

「ドイツ文学」についての前提知識は必ずしも必要ありません。むしろ、過去に書かれたテクストを手がかりに、その時代の社会や文化について（あるいは、私たちが生きる現代の社会や文化について）批判的に考察することを厭わない、意欲を持った方たちの受講を歓迎します。

科 目 名	ドイツ言語文化論　「読み応え」のあるドイツ語を読む							
担当者名	藤井　明彦							
独文コース	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

読んだときに充実した満足感が得られるドイツ語のテクストを選んで，読んでいく授業。ベートーベンの「第九」でも有名なシラーの＜An die Freude＞あたりから始めて，ドイツ語を綴っていく時の絶妙な呼吸を楽しむことができるトーマス・マンの作品，軽妙洒脱な筆致のヨーゼフ・ロート，何と言っても周到でバランスの良いゲーテ，ヒリヒリするような鋭さを持つゲオルク・ビューヒナーの『ヴォイツェク』はアルバン・ベルクのオペラ『ヴォツェク』と組み合わせて，時代は13世紀と大きく遡るが雄渾な筆致で悲壮な復讐劇を語る『ニーベルンゲンの歌』も当時のドイツ語（中世高地ドイツ語）で読む。文学関係以外では，敗戦から40年の1985年にヴァイツゼッカー大統領（当時）が連邦議会で行なった余りにも有名な演説，それとは対照的だが大衆の心を掴む点ではヒトラーも演説の名手だった。このようなドイツ語テクストを，訳読するというより「玩読」していく。講義科目ですが予習は不可欠です。

授業の到達目標

テクストを理解するだけではなく味わうレベルにまでドイツ語の読解力を高めることが目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行いません
●**レポート**　0%　　必要ありません
●**平常点**　100%　　授業参加度と出席状況
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	ドイツ文化特論　都市の文化誌――ウィーン							
担当者名	村井　翔							
独文コース	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要

今日のオーストリアは見かけによらぬハイテク工業国でもありますが（ただし、その中心はウィーンではなくリンツ）、過去の遺産と美しい自然以外、あまり資源のないこの国にとって観光産業が重要であることは変わりません。ウィーンのど真ん中のホーフブルク（旧王宮）に観光客向けの「シシー（皇妃エリーザベト）の部屋」ができたりしたのも、そのあかしです。というわけで、ウィーンは日本人にとってヨーロッパ諸都市のなかでも人気屈指の海外旅行先であり続けることでしょう。この科目は18世紀から現代まで、ウィーンという都市をめぐる様々な文化的話題を（3回でワンブロックではありますが）、基本的に一話完結の形式で語るバラエティ形式の授業です。毎回、半分ぐらいの時間は何らかの映像をお見せします（映像を見せつつ、まだ喋ったりしますが）。15回すべてを見終われば、あなたもきっとウィーンについてトリビアが語れる、ウィーン通になるはず。

授業の到達目標

とりあえずレポートが出せればOKですが、興味のある方にとってはウィーン通になれる面白い授業だと自負しています。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　100%　　授業のいずれかの回に関連したレポートを出してください。レポート提出はWaseda Moodle上でのみ受け付けます。 ちなみに、この授業に登場するウィーンゆかりの主要人物名を登場順に列挙すると、ヨハン・シュトラウス2世、皇妃エリーザベト、皇太子ルードルフ、マリア・テレジア、フーゴー・フォン・ホフマンスタール、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト、グスタフ・マーラー、ジクムント・フロイト、オットー・ヴァーグナー、アドルフ・ロース、グスタフ・クリムト、エゴン・シーレ、インゲボルク・バッハマン、エルフリーデ・イェリネク、ミヒャエル・ハネケ、アルトゥア・シュニッツラー。
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科 目 名	ウィーン文化論							
担当者名	藤井　明彦　他／飯田　道子／岩谷　秋美／高橋　順一／山本　浩司							
独文コース	2単位	春学期	火曜日	3時限	1年以上	―	合併科目	―

授業概要

魅力的でいてどこか冷たく、華やかでいて死の臭いのする街、中欧の土の匂いとカフェの甘い香り、永遠に「昨日の世界」であるかのような保守性とそれを鋭く切り裂く革新性。このように様々な顔を持つ都市ウィーンの文学・美術・音楽・建築・思想・映画に関して、早稲田の内外の専門家が講義を行う、【ドイツ語ドイツ文学コース主催】の総合講座的科目です。

●ウィーンと言えば、まずは音楽。新年恒例の楽友協会ホールでのニューイヤーコンサートの歴代の映像から「これぞWiener Musik（ウィーンの音楽）」という演奏を厳選して鑑賞します。更にウィーンで活躍した作曲家の代表的存在とも言えるモーツァルトを取り上げて，オペラ『フィガロの結婚』に盛り込まれたモーツァルトの作曲技法を分析します。また音楽に例をとりながらウィーンの世紀末文化におけるユダヤ性（ユダヤ系エリートとユダヤ人楽師たちの）について考えます。●文学の分野では，戦後のドイツ語文学のなかで唯一実験的なモダニズムの伝統を継いだエルンスト・ヤンドルの観客を笑いの渦に巻き込む話芸，戦後演劇におけるオーストリア的革新の担い手ペーター・ハントケの卜書きだけの無言劇や観客罵倒劇，そして一度読んだら病みつきになる小説家トーマス・ベルンハルトの妙に晴れやかな言葉の罵倒芸などを楽しみます。●ドイツの哲学者、社会学者テオドール・W・アドルノは学位論文を書いた後，新ウィーン楽派のアルバン・ベルクのもとで作曲を学ぶために1925年にウィーンに渡ります。アドルノの仕事は常に音楽と思想の両輪から成っていました。「ウィーンのアドルノ」というテーマで思想と音楽の結び付きを探ります。●美術の分野では，まずハプスブルク家の3人の皇帝を切り口にして，ウィーンの美術史を中世から近代までたどります。その後，世紀末ウィーンを代表する2人の画家グスタフ・クリムトとエゴン・シーレの美術史における意義を考えます。さらに世紀末ウィーンの建築と工芸において，芸術家たちがいかに歴史主義を克服して新しい時代の美術を創出したか，そのプロセスを考察します。●19世紀末に映画が誕生して以来，ウィーンは繰り返し舞台となってきました。文化の咲き誇る街である一方で、享楽と退廃の街でもあった20世紀初頭までのウィーン，20世紀前半の二つの大きな戦争に翻弄され見る影もなく荒廃したウィーン，そして伝統と文化の街というイメージからの脱皮をはかろうともがき苦しむかのような現代のオーストリア出身の映像作家たちの描くウィーン。映画の分野では映像でウィーンがどのように表象されてきたのかを検証します。 このように内容は盛り沢山です。詳しくはWeb上の「授業計画」を参照して下さい。

授業の到達目標

世界的な文化都市ウィーンについての洞察を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　60%　　字数は3,000字以上とします。
●**平常点**　40%　　出席状況を重視します。毎回レビューシート（紙）を提出してもらいます。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	ドイツ比較文化論　文化と文化の間、メディアとメディアの間、ディシプリンとディシプリンの間							
担当者名	山本　浩司　他／尾崎　有紀子／金　志成／前川　一貴／柳橋　大輔							
独文コース	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

比較文化論といえば、異文化間の違いをすぐに思い浮かべます。しかし映画、美術、音楽、ポップカルチャー、文学などメディア・タイプ間の比較のみならず、哲学と科学などのディシプリン間の比較もありえます。 本オムニバス講義では、ドイツ文学、ドイツ思想、メディア論、美術史の新進気鋭の専門家を講師に迎え、ドイツ語圏文化を拠点としながら様々な領域間の比較を試みます。具体的には文学とポップカルチャー、ニーチェと生理学、ドイツとイタリアにおけるファシズムの表象、手塚治虫のドイツ、日本に輸入されたドイツの食文化などのテーマを取り上げます。

授業の到達目標

他文化との比較から、ドイツ語圏文化についての洞察を深める。
ドイツ語圏文化の具体例をもとに、メディア間の相互作用についての洞察を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　80%　　レポート
●**平常点**　20%　　出席点
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	ドイツ語圏の文学　ドイツBL小説へのご招待							
担当者名	山本　浩司							
独文コース	2単位	秋学期	月曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

2019年末の新聞に太平の夢を覚ます新聞広告が出ました。新潮文庫から新刊『特別な友情　ふらんすBL小説セレクション』が出るというのです。盟友・中島万紀子先生も一枚噛んでいると聞いていたので、そのこと自体は慶賀すべきですが、「BLの聖地から届いた少年たちの熱い戯れ、《萌え場》まみれの耽美なアンソロジー」という宣伝文句がいただけません。聖地のうしろにわざわざ括弧に入れてフランスと書き入れているではないですか。これが歴史の改竄でなければ、何が改竄でしょう。日本において「BLの聖地」と言えば、100年前からドイツ、それもギムナジウムと決まっているからです。三島も萩尾望都も山岸涼子も竹宮恵子もみんなみんなマンやヘッセ、ケストナーのドイツ青春小説、寄宿学校小説を耽読した。だからこそあのような耽美作品の名作を書けたのです。えっ、『風と木の詩』の舞台はフランス、『日出処の天子』は奈良だって？　当たり前じゃないですか。ネタ元と同じ国に設定するような愚を誰が犯すというのでしょう？

授業の到達目標

BL耽美小説の聖地はフランスではなくドイツだということを理解する。ことのついでに、ドイツの青春小説、寄宿学校小説の層の厚さを理解して、ドイツ文学史についての一般的教養を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　80%　　作品論を書いてもらいます。
●**平常点**　20%　　出席点と毎回の感想文。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	ドイツ語圏の思想　戦間期の思想							
担当者名	前田　良三							
独文コース	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

いわゆる「戦間期」（Zwischenkriegszeit/Interwar time）の思想家のなかから、ヴァルター・ベンヤミン、エルンスト・ユンガー、ジークフリート・クラカウアーを、戦争、都市、メディア、身体という視点から取り上げ、彼らの思想が知覚体験の変容にいかに反応しようとしたのかを論じ、ゲオルク・ジンメルに遡るひとつの思想的系譜を仮説的に提示することを試みる。それにより、20世紀前半のドイツ語圏の思想が現代にもちうる可能性をさぐる。

授業の到達目標

近・現代ドイツの文化論・美学思想についての基本的な知識を獲得するとともに、現代の社会と文化と知的に向き合うために必要な問題意識・方法意識の涵養をめざす。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　60%　　課題レポートを2回提出してもらう。第1回レポート20%、第2回レポート40%で評価。
●**平常点**　40%　　毎回授業の最後にリアクションペーパー兼出席票を提出してもらい、それに基づき平常点を評価。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	ドイツ語圏の文化　モーツァルトのオペラを探求する							
担当者名	藤井　明彦							
独文コース	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

モーツァルト（1756-1791）の一連の作品によって，オペラはバロック・オペラから近代オペラへと脱皮していったわけだが，その後の，例えばワーグナー（1813-1883）やリヒャルト・シュトラウス（1864-1949）に比べて，モーツァルトの作品は一般的に親しみ易く，また実際に上演の機会も多い。しかしその音楽の造り方，登場人物の造形を詳しく眺めてみると，天才的なひらめきが実に的確な手段によって周到に実現されているのが判る。

半期15回の授業の枠組の中では，多くの作品を取り上げることはできないし，すべきでもないだろう。最も見ごたえ・聴きごたえのある2作品―『フィガロの結婚』（1786年初演）と『ドン・ジョヴァンニ』（1787年初演）―を深く詳しく掘り下げ

たい。この2作品はモーツァルトのオペラの中で最もイロっぽいオペラであり，オペラはそもそもイロっぽくなければ面白くない。しかしその奥には「人を愛するとはどういうことなのだろう」という人間存在に関する根本的な問いが潜んでいる。また「笑い」もこの2作品に共通する要素だ。喜劇ではないが何処となく可笑しい。よく考えると相当に可笑しい。快活な笑いのうちにメランコリーと官能が明滅し，死とエロスが舞台を覆う。

毎回30分前後DVDやBlu-rayを鑑賞した後で，テキスト，音楽，演出等の解釈をする。何十種類も出ている映像の比較も（楽しみながら）行う予定。なお今年度は『ドン・ジョヴァンニ』に重点を置いて講義します。

授業の到達目標

音楽文化（特にオペラ）に関する理解を深める

成績評価方法

●**試験**　0%　　行いません
●**レポート**　50%　　分量は2,000字から3,000字とする予定です
●**平常点**　50%　　毎回レビューシート（紙）を提出してもらいます
●**その他**　0%　　特になし

講義

科 目 名	ロシア語学　実践ロシア語トレーニング							
担当者名	三浦　清美							
露文コース	2単位	秋学期	火曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

初級文法を終えた学生に対して、ロシア語を実践的に運用するのにあたって有益と思われる知識を伝授する。とくに実践的にロシア語を使う場合に最新の注意を要する不完了体と完了体の使い分け、日常的なロシア語の慣用表現を押さえたうえで、詩の暗唱などに挑戦する。

授業の到達目標

ロシア語を実際の場で使えるようになる。

成績評価方法

試験（70%）、主体的な授業参加度（30%）

科 目 名	ロシア語史							
担当者名	丸山　由紀子							
露文コース	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

18世紀初頭までのロシア語の歴史を概説します。現代ロシア語を学ぶ際に不規則なものとして丸暗記しなければならなかった文法事項も、その歴史的由来を知れば、理解が深まると同時に興味深いものへと変わるはずです。

授業では、ロシア語史、現代ロシア語を理解するために不可欠なスラヴ祖語および古教会スラヴ語についても、かなりの時間を割いて説明します。その際、現代ロシア語と照らし合わせながら解説しますので、現代ロシア語の文法をよりクリアーに理解できるようになるはずです。

適時、古教会スラヴ語および中世ロシア語のテクストを読み、授業で扱ったロシア語の歴史的変化が実際の文献でどのように反映されるかを、実例を見て確認します。

授業は言語そのものに生じた変化（歴史文法）が中心になりますが、必要に応じて、文化的・歴史的背景に関する解説も行います。

ロシア語史を理解するためには、現代ロシア語の確かな知識が不可欠です。文法に自信がない人は、授業前に一通り復習しておいてください。

歴史的変化を追っていく授業なので、積み木が一つでも抜けてしまうと理解が難しくなります。授業には毎回出席するよう心がけてください。

以下の授業計画はあくまでも目安です。毎回のレスポンスシートなどで受講者の理解度をチェックしますので、それにより授業進度、扱う内容に変更が生じる可能性があります。

授業の到達目標

ロシア語の歴史を学ぶと同時に、歴史的変遷を知ることで現代ロシア語の文法事項等をより深く理解することを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません。
●**レポート**　50%　　学期末にレポート提出があります。講義内容の正確な理解とその応用力を確認します。
●**平常点**　50%　　毎回の授業で、その日の授業で得られた新たな知見、興味を持った点などをレスポンスシートに記入していただきます。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	ロシア中世文学　ロシア的伝統の形成とロシア中世文学							
担当者名	三浦　清美							
露文コース	2単位	春学期	火曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

19世紀におけるロシア文学の爆発的開花は、プーシキン、ゴーゴリ、ドストエフスキイ、トルストイ、チェーホフといった大作家の名前とともに記憶されるが、それを準備した中近世ロシア文学の独自の伝統が存在したことを忘れてはならない。それは、キリスト教正教の価値観が支配的でビザンツの影響が強い記述文学と、キリスト教正教の枠内にとどまらない独自の文化的伝統が息づいている口承文芸の2つの軸からなっており、両者の併存が中世ロシア文学の特徴であった。ロシアの文字文化は、10世紀末のキリスト教受容にはじまったが、両者が融合を遂げるのはようやく17世紀のことであり、ピョートル改革を経験した18世紀にはおもに西欧の影響下でロマノフ家の宮廷を中心に今までの時代と異なる性質の文学が開花した。

この授業ではロシア中世文学の伝統を比較文学的な考察をも交え、イコノロジー、民俗学、歴史学などの関連諸分野にも目を

配りながら18世紀までのロシア文学の流れをたどってゆく。

授業の到達目標

ロシア中世文学を成立させた宗教的なファクター（ロシア正教の伝統）に十分な注意を払いながら、11世紀から17世紀にいたる文学的伝統の特徴を、時代を追って把握し、前近代ならびに近現代ロシア文化の基層部分にたいする理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　70%　　テクストと向か合えているか、テクストと向き合うことを通じて自分の考えを持ち得ているか、それを的確な日本語で表現できているかを精査し、評価する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　主体的な授業参加度、授業中のテクストの音読（音読を聞けばどのくらい理解できているかがわかる）、授業の感想（時々書かせる）等をふまえて、総合的に判断する。
●**その他**　0%

科 目 名	ロシア現代文学							
担当者名	神岡　理恵子							
露文コース	２単位	秋学期	月曜日	３時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義では、戦後のロシア文学の流れを理解し、読解を通して作品を読む力をつけていくことを目指します。まずソ連時代の文学状況（社会主義リアリズム、亡命文学、地下文学など）を把握した上で、戦後の「雪どけ」期の文学を現在の視点から捉え直し、以降、新しく生まれていった文学の傾向を概観します。当時公式に認められずアンダーグラウンドで独自に活動した作家たちの創作活動はとりわけ重要であり、彼らの存在なしには成立しえなかった現代ロシア文学を、当時の文化・社会状況も踏まえて読み直していきます。近年、翻訳で親しめる作品も増えているため、多様化した最新の動向まで扱います。

ロシア文学やロシア語の知識は不問、翻訳テクストを使用します。受講生は授業で扱う作品（毎回授業で用意します）をあらかじめ読み、各自積極的な読解を実践してもらいます。

授業の到達目標

戦後ソ連の時代から現在までのロシア文学の流れと基礎知識を習得し、作品を読解する基礎を身に着けることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　該当なし
●**レポート**　50%　　学期末にレポートを課します。
●**平常点**　50%　　講義内で扱う作品の読解を毎週レビューしてもらいます。出席は3分の2以上必要となります。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

作品の読解、レビューを通して積極的な授業参加を求めます。

科 目 名	ロシア文学と現代1　『罪と罰』から現代へ：研究のファーストステップ							
担当者名	坂庭　淳史							
露文コース	２単位	春学期	火曜日	５時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

ドストエフスキーやトルストイをはじめとするロシアの文学作品を読んだことがある、あるいはこれから読み込んでみたいという方は多いと思います。あるいはロシアのバレエや音楽、演劇、サーカスに魅せられた人、日本のアニメに登場するロシア人キャラクターが気になるという人もいるかもしれません。では、それらを生み出した「ロシア／ソヴィエト」あるいは「ロシアの文学、文化／精神性、世界観」、「文学作品の構造」とはどんなものか？　とたずねられたらどうでしょう？　「近くて遠い国」といわれて久しいロシアに深く触れてみましょう。もちろん、さまざまな読み方はあっていいのですが、この授業ではロシアの文学や文化を読むための「土台」となるような知識と考え方、理論を提示していきます。そして、「ロシア」を現代、現代日本に引きつけてより身近なところからも考えていきます。さらに、授業でのレビューシートも活用しながら、より広く、さまざまな時代や地域の文学や文化に対するたしかなまなざしを養っていきます。そのため、「ロシア文学好き」はもちろんですが、「これまでロシア文学に全く触れたことがない方」も歓迎します。既存の枠にとらわれない新鮮な意見を期待します。 毎回、映像資料（映画、アニメ、バレエ、ドキュメンタリー…）を駆使して、文学、文学理論、思想、芸術、歴史、宗教、アイデンティティ、コミュニケーションなどさまざま視点からの最新事情も含めたロシア／ソヴィエト文化の魅力を紹介します。それらが現代においてはどんな意味を持つのか、教室で一緒に考えていきましょう。

この授業でのロシア世界への入り口は、ドストエフスキーの『罪と罰』です。

「ロシアに関する予備知識は全くない受講者もいる」という前提で授業を進めます。

授業の到達目標

芸術や文化に対するアプローチの方法を学びながら、ロシア／ソヴィエト文学の根底にある深い精神性や、現代におけるアクチュアリティ、また日本とロシアの意外な親近性を理解してください。

成績評価方法

●**試験**　60%　　最終授業での試験
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　出席、授業への参加度
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

毎回、出席カードの裏に講義についての感想や意見、質問を書いてもらい、いくつかのカードについてはその次の講義で紹介します。ひとつの教室からオリジナリティのある、たくさんの考えが生まれてくることを期待しています。

科 目 名	ロシア文学と現代2 「内容」や「テーマ」のみならず、ロシアの文学作品における「表現」「形式」についても考えていきましょう。							
担当者名	八木　君人							
露文コース	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

春学期に坂庭先生が担当されている「ロシア文学と現代1」を引き継ぐ科目です。「1」を履修しているのが理想ではあるものの、履修していなくても大きな問題はありません。

「2」のほうは、そのときどきの時事ネタや現代文化への影響を視野に入れつつ、「ロシア文学」と「現代」との接点を示しながら、19世紀のロシア文学史の概観について講義していく授業だと考えてください。もっとも「文学（史）」とはいえ、この授業で採り上げるのは、主に「散文」や「小説」です。

ロシア文学の古典は、たんに「古典だからえらい」、「世界的に有名な作品だから教養として知っておくべし」ということではもちろんなく、そこで語られている内容や採り上げられているテーマの多くは、恐ろしいほど現在にも通じるものです（主に2回目から7回目の講義は、こうした（ある意味ではベタな）観点からロシア文学作品をみていきます）。

一方、われわれはすでに「小説」という制度ができあがっている世界に生きているわけですが、その制度は、歴史的に生成してきたものであることはいうまでもありません。メディア環境の変化に伴って「表現」「形式」がかわっていくというのも当然のことです。この授業でいう「文学史」はそういった問題意識を含んでいます（主に8回目から14回目の講義は、こうした観点から作品をみていきます）。ロシアの文学の歴史において、いわゆる「小説」というのがどのように生成・発展していくのか――そうした観点で文学史を考えることは、必然的に、現在、流通している文学についての観念を相対化・歴史化することを伴うはずです。科目名に含まれている「現代」にはそうした意味も含意しています。

また、講義で扱うのは「文学」が中心となりますが、適宜、映画、美術、演劇、音楽といったジャンルにも触れていきます。

授業の到達目標

19世紀を中心としたロシア文学作品やロシア文化についての適切な知識を得て、それらに対して、自分なりの、それでいて独りよがりでない、適切なイメージを持てるようになることが目標です。

成績評価方法

●**試験**　50%　　最後の授業内で、理解度の確認テストを行います。理解度の確認テスト当日までに、あらかじめ課題（問題）を提示するので、回答について準備してきてもらい、教場で記述してもらうかたちの確認テストになります。

●**レポート**　0%

●**平常点**　50%　　大学の規定により、3分の2以上の出席は必須です（出席数がそれに満たない人は評価の対象になりません）。毎回、出席カードの裏に講義についての感想や意見、質問を書いてもらいます。いくつかのカードについてはその次の講義で紹介しますので、面白いコメントや質問を寄せてください。

●**その他**　0%

備考・関連URL

「ロシア」も「文学」も、残念ながら、おそらく、どちらもそれほどポピュラーなものではなくなってしまいました（もちろん、たくさん読んでいる方もいらっしゃるでしょう）。しかし、「ロシア」も「文学」も、そして「ロシア文学」も、とても面白いものだと思うので、まだロシア文学作品を読んだことがない方は、この授業を契機に、個々の作品を読んでくれればと思います。

科 目 名	ロシア芸術の現在1							
担当者名	八木　君人　他／安達　紀子／日向寺　康雄／村山　久美子							
露文コース	2単位	春学期	火曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

ロシアは文学のみならず、音楽、美術、映画、演劇などの芸術諸ジャンルにおいてもきわめて魅力的な活動を続けている国です。本講義の目的は、これら多様なロシアの芸術諸ジャンルの最前線の状況・活動について紹介していくことです。春学期に行われるこの「ロシア芸術の現在1」では、具体的には演劇、ポップス、バレエ、映画などについて、その分野に精通した講師たちが講義を担当していきます。

授業の到達目標

ソ連時代を含めた、広い意味での「ロシア芸術の現在」について知識を得た上で、それぞれの分野において「ロシア芸術の現在」についての自分なりのイメージをもてるようになることが目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　50%　　担当教員それぞれが出す課題の中から一つを選択し、2000字程度のレポートを提出してもらいます。

●**平常点**　50%　　授業への参加態度。但し、大学の規定である、授業回数の3分の2以上の出席は必須になります。

●**その他**　0%

備考・関連URL

ロシア文化に関する積極的な関心を持って受講してもらいたいと思います。

科 目 名	日露比較文化1							
担当者名	源　貴志　他／上野　理恵／桜井　厚二／杉浦　かおり／塚原　孝							
露文コース	2単位	春学期	水曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ロシアは古くから、最も日本に近いヨーロッパ国家として日本と密接な文化的関係を保ってきた。本講義はロシア革命とソ連崩壊という二つの歴史的大転換を経た現在から、新たな視点で日本とロシアの文化的交流をとらえなおそうとするものである。授業は複数教員により様々な日露交流の局面に光をあて、「近くて遠い国ロシア」をあたりまえの隣国として認識できるようにし、そしてまた二つの国の文化的交流がじつはいかに深く広いものであるかを認識し、そこに心血を注いだ先人たちの努力について学ぶことを目的とする。

具体的に扱うテーマは、ロシア映画と日本・日本映画とロシア、日本とロシアの社会制度と宗教、日本語・ロシア語それぞれのリズムから「韻文」の「翻訳」の問題、日本近代文学におけるドストエフスキイ受容、ヨーロッパにおけるジャポニズムとロシアにおけるジャポニズムの差異と共通性、などとなる。

授業の到達目標

日本とロシアの文化的相互交流の歴史について、その概観と注目すべきトピックの詳細を知る。
それらの理解と知識を手がかりにして、異文化交流について広範な知見を得るとともに、柔軟な発想を養う。

成績評価方法

レポート：100%　各講師が提示する題目から任意のものを選び、レポートを提出してもらいます。これと出席状況を勘案して総合的に評価します（出席回数3分の2以上が、レポート評価の前提条件となります）。

備考・関連URL

ロシア文化がとくに近代の日本文化にいかに大きな影響を与えているか、すでに関心のある人も、予備知識のまったくない人も、ともに積極的に履修してくれることを期待します。ロシア語の知識は必要としません。
また、内容的には秋期の「日露比較文化2」と合わせて全体像が描けるように考慮されていますので、両方ともに履修することを強く推奨します。

科目名	日露比較文化2							
担当者名	源　貴志　他／粕谷　典子／高柳　聡子／南平　かおり／籾内　裕子							
露文コース	2単位	秋学期	水曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ロシアは古くから、最も日本に近いヨーロッパ国家として日本と密接な文化的関係を保ってきた。本講義はロシア革命とソ連崩壊という二つの歴史的大転換を経た現在から、新たな視点で日本とロシアの文化的交流をとらえなおそうとするものである。授業は複数教員により様々な日露交流の局面に光をあて、「近くて遠い国ロシア」をあたりまえの隣国として認識できるようにし、そしてまた二つの国の文化的交流がじつはいかに深く広いものであるかを認識し、そこに心血を注いだ先人たちの努力について学ぶことを目的とする。
具体的に扱うテーマは、二葉亭四迷による翻訳『あひびき』の持つ意義の解明、明治・大正の女性と来日ロシア人との文化交流、チェーホフと日本、イデオロギーと女性の表象、などとなる。

授業の到達目標

日本とロシアの文化的相互交流の歴史について、その概観と注目すべきトピックの詳細を知る。
それらの理解と知識を手がかりにして、異文化交流について広範な知見を得るとともに、柔軟な発想を養う。

成績評価方法

レポート：100%　各講師が提示する題目から任意のものを選び、レポートを提出してもらいます。これと出席状況を勘案して総合的に評価します（出席回数3分の2以上が、レポート評価の前提条件となります）。

備考・関連URL

ロシア文化がとくに近代の日本文化にいかに大きな影響を与えているか、すでに関心のある人も、予備知識のまったくない人も、ともに積極的に履修してくれることを期待します。ロシア語の知識は必要としません。
また、内容的には春期の「日露比較文化1」と合わせて全体像が描けるように考慮されていますので、両方ともに履修することを強く推奨します。

科目名	ロシア思想史　ロシア、そのアイデンティティを中心に							
担当者名	小俣　智史							
露文コース	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

プーシキンやドストエフスキー、トルストイ、チェーホフといったロシアの作家たちの作品を読んだことがあるけれども、ロシアの「思想」については具体的なイメージが浮かばないという人は少なくないでしょう。しかし、実はロシアにおいて「思想」と「文学」は密接に結びつきながら発展してきました。そのため、ロシア文学を理解する上でロシア思想についての知識は重要だといえます。
この講義では、ロシアがギリシャから正教を国教として受け入れた10世紀末から現代まで、その思想の歴史を概観します。時代としては19世紀、テーマとしてはロシアのアイデンティティ、宗教、社会、ロシアとヨーロッパの関係を中心に取り上げ、その周辺にも目を向けていきます。
ロシアについて予備知識がない受講者や、ロシア語の知識が全くない受講者もいるという前提で授業を進めていきます。

授業の到達目標

ロシア思想史を全体的にとらえることによって、文学をはじめとするロシアの芸術作品について表面的な意味だけでなく、その根源にある精神性を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　学期末のレポート
●**平常点**　50%　　出席、授業への参加度
●**その他**　0%

備考・関連URL

毎回、出席カードの裏に講義についての感想や意見、質問を書いてもらいます。いくつかのカードについてはその次の講義で紹介します。

科目名	ロシア文化論　ロシア・アヴァンギャルド：映画×美術×フォルマリズム×バフチン×実験音楽							
担当者名	大石　雅彦							
露文コース	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、ロシア・アヴァンギャルド芸術と呼ばれている一群の芸術を扱います。この芸術運動は表現主義、イタリア未来派、ダダイズム、シュルレアリスム、バウハウスとともに、20世紀前半の芸術革命を形成するものです。
ロシア十月革命前後の激動期に展開されたロシア・アヴァンギャルド芸術は、他の国のどの芸術運動にもみられない、ダイナミックなうねりと壮大な規模を有しています。詩（アクメイズム、立体未来主義）、小説（オーナメンタリズム）、文学・文化理

論（フォルマリズム、バフチン）、映画（ヴェルトフ、エイゼンシテイン）、美術（マレーヴィチ、タトリン、ロトチェンコ）、建築（形式主義、構成主義）、演劇（エヴレイノフ、メイエルホリド）、ダンス（ゴレイゾフスキイ、フォレッゲル）、音楽（ショスタコーヴィチ、ルリエ）、アジ・プロ芸術、街頭ページェント、等々と、その裾野はかぎりなく拡がっています。

メディア・ジャンルを軽々と横断し、同時多発的な芸術革命をめざしたロシア・アヴァンギャルドの軌跡／奇跡には、20世紀芸術はもちろん21世紀の芸術を考える際にも役立つヒントが、数多く潜んでいます。

授業では、講義と並行して、できるかぎり多くの作品に触れてもらうつもりです。

受講に際しては、ロシア語の知識は必要ありません。必要なのは知的好奇心だけです！

先にあげた人名、流派、術語のうち、ひとつでも知っている受講者には、意味ある講義となるでしょう。また、ひとつも知らないという受講者は、新たな「世界感覚」を獲得する可能性を手に入れることができるかもしれません。

■

毎回時間の許すかぎり、ロシアにとどまらず、実験的な美術作品・新作映画を紹介してゆきます。

授業の到達目標

実験芸術の基礎的構造の理解

成績評価方法

●**試験**　50%　　最後の授業で試験によって理解度を確認します
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　出席・レビューシート
●**その他**　0%　　なし

講義

科 目 名	ロシア芸術の現在2							
担当者名	八木　君人　他／上田　洋子／大島　幹雄／神岡　理恵子／長井　淳							
露文コース	2単位	秋学期	火曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

ロシアは文学のみならず、音楽、美術、映画、演劇などの芸術諸ジャンルにおいてもきわめて魅力的な活動を続けている国です。本講義の目的は、これら多様なロシアの芸術諸ジャンルの最前線の状況・活動について紹介していくことです。秋学期に行われるこの「ロシア芸術の現在2」では、具体的にはサーカス、クラシック音楽、美術、パフォーマンス芸術などについて、その分野に精通した講師たちが講義を担当していきます。

授業の到達目標

ソ連時代を含めた、広い意味での「ロシア芸術の現在」について知識を得た上で、それぞれの分野において「ロシア芸術の現在」についての自分なりのイメージをもてるようになることが目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　担当教員それぞれが出す課題の中から一つを選択し、2000字程度のレポートを提出してもらいます。
●**平常点**　50%　　授業への参加態度。但し、大学の規定である、授業回数の3分の2以上の出席は必須になります。
●**その他**　0%

備考・関連URL

ロシア文化に関する積極的な関心を持って受講してもらいたいと思います。

科 目 名	ロシア民衆文化論　ロシア民衆の世界観と死生観への展望							
担当者名	三浦　清美							
露文コース	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

ロシアは謎の隣国、大国であるという先入見が日本には流布しているように見える。しかし、ロシア文化に親しみ、彼らの生活を成り立たせている世界観や善悪のバランス感覚に洞察が効くようになると、ロシア人もまた日本人と同じ人間であり、日本人の世界観とはかなり異なるものではありながら、同じような喜怒哀楽、同じような人間的な感情をもって暮らしていることに気づく。このようなロシア民衆独自の世界との対し方は、長い時間をかけて形成されたが、この授業では、その形成過程に配慮しながら、ロシア民衆の世界観の仕組みを明らかにしたい。

授業の到達目標

ロシアの歴史に十分配慮しながら、ロシア人の生活の基層をなすロシア民衆文化への理解をはぐくむ。

成績評価方法

●**試験**　70%　　テクストと向き合えているか、テクストと向き合うことを通じて自分の考えを形成できているか、自分の考えを的確な日本語で表現できているかを精査し、評価する。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　30%　　出席の状況、授業中の音読（音読を聞けば理解の度合いはわかる）、授業の感想等（時々書かせる）によって総合的に判断する。
●**その他**　0%　　その他の評価基準はない。

備考・関連URL

特になし。

科 目 名	演劇研究入門							
担当者名	児玉　竜一							
演映コース	2単位	秋学期	火曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

演劇を研究するための初歩を学ぶ。

基本的には、東洋と西洋の古典演劇について知ってもらうことを中心とするが、ミュージカルから現代演劇までを視野に収めた上で、演劇とはなにか、演劇を研究するとはいかなることか、をめぐって考察する予定である。

ギリシャ悲劇から近代劇、中国の京劇まで、日本では能楽・文楽・歌舞伎を中心に、いずれも戯曲のあり方や、それを肉づけ

する様式、伝承と変容について、基本的な知識を身につけることをめざす。
さらに、演劇の構成要素として欠くことのできないのは、観客である。演劇について考察することは、必然、観客について、すなわち我々自身について考察することにもつながる。

授業の到達目標

演劇についての諸条件を学ぶことを通して、演劇という文化がいかに多岐にわたって偏在しているかを知る。
あわせて、演劇を学ぶための基本的な条件について知見を広げる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　理解度の確認をおこなう。
●**レポート**　0%　　課さない。
●**平常点**　50%　　感想・質問シートを以て、出欠調査に代える。
●**その他**　0%　　特になし。

科目名	日本演劇史1							
担当者名	児玉　竜一							
演映コース	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本の演劇の歩みを概観する。日本の演劇史は、古代から近現代までの演劇ジャンルが重層的に現存しているところに特色があるとされる。
だが、たとえば今日の能は、中世の能と全く同じわけではなく、現在の宝塚と大正時代の草創期宝塚は、およそ異なるジャンルといってもいいほどに違う。
あらゆるジャンルは、それが最前衛であった時代の記憶をとどめながら、伝承の過程で変容しつつ、現在に至っている。
この面倒くさい歴史を解きほぐしながら、今日に至る道筋をともに考えてゆく。
春期は、演劇の濫觴から人形浄瑠璃までを予定している。

授業の到達目標

現在は歴史の果てであると同時に、歴史は現在の目によって再編成される。その関係を、演劇という現在性から離れられない事例を題材として認識すること。
あわせて、日本の文化史のなかにおける演劇の占める位置を認識すること。

成績評価方法

●**試験**　50%　　理解度の確認をおこなう。
●**レポート**　0%　　課さない。
●**平常点**　50%　　感想・質問シートを以て、出欠調査に代える。
●**その他**　0%　　特になし。

科目名	日本演劇史2							
担当者名	児玉　竜一							
演映コース	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本の演劇の歩みを概観する。日本の演劇史は、古代から近現代までの演劇ジャンルが重層的に現存しているところに特色があるとされる。
だが、たとえば今日の能は、中世の能と全く同じわけではなく、現在の宝塚と大正時代の草創期宝塚は、およそ異なるジャンルといってもいいほどに違う。
あらゆるジャンルは、それが最前衛であった時代の記憶をとどめながら、伝承の過程で変容しつつ、現在に至っている。
この面倒くさい歴史を解きほぐしながら、今日に至る道筋をともに考えてゆく。
秋期は、歌舞伎の濫觴から現代演劇までを予定している。

授業の到達目標

現在は歴史の果てであると同時に、歴史は現在の目によって再編成される。その関係を、演劇という現在性から離れられない事例を題材として認識すること。
あわせて、日本の文化史のなかにおける演劇の占める位置を認識すること。

成績評価方法

●**試験**　50%　　理解度の確認をおこなう。
●**レポート**　0%　　課さない。
●**平常点**　50%　　感想・質問シートを以て、出欠調査に代える。
●**その他**　0%　　特になし。

科目名	西洋演劇1　演劇の歴史							
担当者名	藤井　慎太郎							
演映コース	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

古代ギリシアから現代に至るまでのヨーロッパの演劇の歴史のエッセンスを半年間に凝縮して講義する。演劇の歴史は、おもしろい戯曲とすぐれた劇作家の歴史だけではない。演劇はどの時代にあっても生きた芸術であり（それゆえにその記録はつねに不完全なものでしかない）、観客の感覚（とりわけ視線）と理性に訴えかける芸術であり、もっとも人間らしく社会的な芸術であり、19世紀に至るまではもっとも社会的な影響力の強いメディアでもあった。それゆえ、演劇をときに擁護し、ときに規制し、ときに利用しようとした権力との政治的な関係も見過ごすことができないし、国の盛衰と演劇の盛衰とはしばしば一致を見せている。舞台機構や照明、近年では映像やコンピュータなど、上演を支える技術的条件が進歩するのに応じても、演劇はその姿を変えていった。演劇の歴史のダイナミズムを感じとってもらいたい。
演劇学を究めたい学生にも、一般教養として演劇を知っておきたい学生にも、受講をお薦めしたい。西洋演劇2と内容は連続しておらず、西洋演劇1のみを受講することは充分に可能であるが、合わせて受講することが望ましい。

授業の到達目標

・西洋演劇の歴史の基本知識を身につける。
・演劇が歴史上、生み出してきたすぐれた才能と作品を知り、その特徴を理解する。
・演劇を特徴づけている美学的規範、文化的生産条件が時代と地域に応じていかに変化するのかを理解する。
・所与の社会において、演劇がいかに位置づけられ、実践され、受容されてきたのか、政治的・社会的な変化が演劇にいかなる影響を与えてきたのかを知る。

成績評価方法

授業参加と試験によって総合的に評価する。

科 目 名	西洋演劇2　現代演劇の理論							
担当者名	藤井　慎太郎							
演映コース	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

講義

現代アートは概して分かりにくいと言われる。「ポストドラマ的」と形容される現代演劇もまた、その例外ではない。戯曲のない演劇、台詞のない演劇、ダンスのような演劇、劇場以外の場所で行われる演劇、俳優のいない演劇、たった一人で経験する演劇・・・、今日では演劇の意味は拡大し、旧来の「演劇」が存続する一方で、演劇らしからぬ演劇が大きな存在感を示している（小説における書物と読者の関係、映画におけるスクリーンと観客の関係とちがって、演劇においては見る者と見られるものとの関係が固定されておらず、その「関係性」の構築も作品の一部をなしていることがその一因だといえるだろう）。そんな現代演劇を見て、読み、理解するために必要になると思われる理論的な知識を、検討に値する具体例（一般的に高く評価されている戯曲・作品記録映像、演劇論・演劇理論）を通じて講義する。演劇学を究めたい学生にも、一般教養として演劇を知っておきたい学生にも、受講をお薦めしたい。西洋演劇1と内容は連続しておらず、西洋演劇2のみを受講することは充分に可能であるが、合わせて受講することが望ましい。

授業の到達目標

・西洋演劇理論の基本知識を身につける。
・テクスト、空間、身体、社会との関係の観点から演劇の特徴を理解する。
・演劇を規定してきた美学的規範、社会的生産条件を理解する。

成績評価方法

授業参加、レポートによって総合的に評価する。

科 目 名	日本の現代演劇							
担当者名	高橋　宏幸							
演映コース	2単位	春学期	水曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「日本の現代演劇」を考えるために、いくつかの軸をもって日本の現代演劇の位置を措定していきます。ひとつは、明治以後の日本の近代演劇の歴史です。狭義では日本の現代演劇は1960年代以後のものと思われていますが、そもそも、そのような見方がなぜ発生したのか。その歴史軸を検証します。ふたつめは、同時代の海外での演劇の動向も視野にいれます。多くの地域で同時代的に現れたいわゆる実験演劇の枠内には否が応でも日本の演劇も入っていました。国際的な関係のなかで、日本の演劇も見る必要があります。最後に演劇をいわゆる批評理論において論じます。国家論、ポスト・コロニアリズム、クィア・スタディーズなど、日本の現代演劇を考える上で必須のものです。日本の現代演劇の現場で理論や歴史、海外の作品との同時代性などは看過されていることが多いことを思えば、状況を説明するだけでもいいような気もしますが、それらが本来、アートを成立させるものであるという前提をもとに講義します。いわば、時代の表象や世相の反映として日本の現代演劇があるだけではないという視点を作るのが授業の趣旨です。映像を見せて解説したり、たんに歴史の講義をしたりといった授業にはならない予定です。

授業の到達目標

俗説的に語られる新劇、アンダーグラウンド演劇、第一世代～第三世代の世代論的演劇観、静かな演劇などなど、それらの用語が作ってしまったわかりやすい演劇史の見取り図を解体していくことによって、歴史という磁場が形成されたことの目的と意図を批判的に検証する。とくに戦後以後の演劇の歴史や巷に溢れるそれぞれの年代についての世代論的演劇論や文化論的な本を批判的に考える。もちろん、それは現代において盛んであるtwitter界隈であふれる言説、とりあえず舞台を見たらほめるという現象への批判につながるものと思います。少なくとも歴史や理論の基底をおいて、はじめて演劇と批評が成り立つことを考える。それを到達目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません
●**レポート**　50%　　期末レポートを書いていただきます。予定では4000字以上を考えています。レポートの内容としては基本的に独創性とそれを支える文献調査などがきちんと行われているかを評価の基軸とします。
●**平常点**　50%　　みなさんに毎回いくつか質問をしますが、必ず積極的な発言をしてください。またリアクションペーパーも時々書いていただきます。
●**その他**　0%　　とくにないです。

科 目 名	テクストと演出							
担当者名	奥　香織							
演映コース	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

今ではごく自然に用いられる「演出」という言葉／概念は、19世紀末のヨーロッパで誕生したものです。それ以前は、例えばモリエールのように作家兼俳優である人物が舞台創造の現場をまとめていたり、コンメディア・デッラルテのように一座の座長が統括したりすることで舞台が作り上げられていました。それが、1900年前後の世紀転換期から、次第に舞台作りを専門的に行う演出家という職分が確立されていきます。その後、「演出」は黄金時代を迎え、演出家たちは同時代のテクストだけでなく過去の作品の「読み直し」も積極的に行い、古典と称される作品の新たな解釈をも提示していきます。

この授業では、まず「戯曲／演劇テクスト」の特異性と「演出」概念の誕生・発展を概観し、その後、古典作品や現代の演劇

テクストがどのような構造をもち、どのように演出／舞台化されているのかを具体的にみていきます。また、時代と共に変化し続けるテクストと演出の関係についても検討していきます。

授業の到達目標

演劇のテクストと演出、その関係性についての基礎的な知識を得る。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　60%　　授業で学んだ方法論や内容を踏まえ、自分の考えを述べているかどうかを評価する。
●**平常点**　40%　　出席と受講態度を重視する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	舞踊史　舞踊と身体							
担当者名	國吉　和子							
演映コース	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

舞踊の歴史とは、果たしてどのような歴史なのでしょうか。舞踊の歴史といっているものは、私達の身体がこれまでどのように意識されてきたのかの変遷ではないでしょうか。身体に対する私達の意識は、その時代の文化や政治、宗教などによって大きく左右されてきました。現代でも同じことが言えます。

この講義（半期）では、古代ギリシャから現代までという広い範囲を視野にいれています。また、内容は西洋における流れを主にお話しすることとなります。身体意識の比較という視点から、日本の芸能にも触れますが、十分な時間はとれません。

とにかく、舞踊という表現をより広いコンテクストの中に一度溶かし込んで、捉え直してみたいと思います。

授業の到達目標

身体意識の歴史的背景を理解したうえで、現代の舞踊をはじめとする身体表現を、より豊かに鑑賞できるようになることを目的とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　60%　　6月末〜7月初めに課題を発表する。詳細はその時告知する。
●**平常点**　40%　　出席日数＋リアクションペーパー（毎週提出してもらう内容から授業への積極性を判断する。）
●**その他**　0%

備考・関連URL

事前・事後の学習内容については、受講者数によって判断させていただきます。

科 目 名	映画研究入門							
担当者名	武田　潔							
演映コース	2単位	秋学期	月曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

今日の大学生にとって映画は娯楽として、また芸術として、きわめて身近なメディアの一つである。しかし、その親しみ易さにもかかわらず、あるいはまさにそれゆえに、映画を研究対象としてとらえることについての意識は概ね希薄であり、またそうした志向を持つ者でも基本的な知識や姿勢を身に付けている者は稀である。本科目は、主に1年生を対象とし、平易な授業内容を通して、映画の歴史や特性、映画研究の主要な分野などについて概説する。

授業の到達目標

映画に関心のある学生や、あるいはより専門的に映画の研究を志す学生に、映画を理解し、探究するために必要な基礎知識や、考え方や、勉学姿勢を修得してもらうことが本科目の目的である。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　45%　　課題に合致したレポートであり、かつ受講者自らの考えが明瞭に述べられていること
●**平常点**　45%　　出席状況が良好であること
●**その他**　10%　　授業で紹介した映画上映や催しなどについて積極的に参加していること

科 目 名	映画史1　無声映画史（1）							
担当者名	小松　弘							
演映コース	2単位	春学期	土曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

映画はどのようにして生まれたのか、映画前史から映画の発明を経て、いわゆる初期の映画に至る過程を実際の映像を見ながらわかりやすく説明します。

授業の到達目標

映画の起源に何があったのかを理解し、映画史を批判的に考える思考を養います。

成績評価方法

●**試験**　50%　　最終回に試験を行います。
●**レポート**　0%　　レポートは特に課しません。
●**平常点**　50%　　出席を重要視します。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	映画史2　無声映画史（2）							
担当者名	小松　弘							
演映コース	2単位	秋学期	土曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

第一次大戦以降、映画はどのように変化したのか、各国映画史におけるトーキーの出現までの過程を実際の映像を見ながらわかりやすく説明します。

授業の到達目標

無声映画史のディテールを調査しながら、映画史を批判的に考える思考を養います。

成績評価方法

●**試験**　50%　　最終回に試験を行います。
●**レポート**　0%　　レポートは特に課しません。
●**平常点**　50%　　出席を重要視します。
●**その他**　0%　　特になし。

講義

科 目 名	映画理論1							
担当者名	武田　潔							
演映コース	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

表象作用としての映画の特質がどのようにとらえられ、論じられてきたかを、映画理論史の主要な流れに即して概観する。映画が誕生したのは19世紀末であるが、映画をめぐる理論的考察の歴史はきわめて古く、少なくとも1910年代には今日の観点から見ても十分に評価に値する論考が展開されていた。「映画理論1」ではサイレント映画時代（特に1920年代）を取り上げ、新しい時代の新しい表現手段として登場した映画が、既存の知や文化や芸術の枠組みを打ち破ると主張した代表的な理論について概説する。なお、秋学期の「映画理論2」と合わせて受講することが望ましい。

授業の到達目標

時代を通じ、幾多の論者が築き上げてきた映画理論の成果に親しむことによって、映像を理解し、探究するための基盤を築くことがこの授業の目的である。

成績評価方法

●**試験**　45%　　講義内容を正しく理解していること
●**レポート**　0%
●**平常点**　45%　　出席状況が良好であること
●**その他**　10%　　授業で紹介した映画上映や催しなどについて積極的に参加していること

備考・関連URL

映画理論を学ぶことは、映画を見て楽しむこと自体に比べれば、直ちに快楽や感動に結びつくいとなみではないかもしれない。しかし、いかなる対象であれ、それをよりよく愛するためには、その対象の特性について真摯に考察をめぐらせてみることが不可欠である。自らの映画体験をより豊かなものにするため、そうした努力を惜しまない受講者を期待する。

科 目 名	映画理論2							
担当者名	藤井　仁子							
演映コース	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

サイレント映画時代の理論を扱う「映画理論1」を引き継ぎ、トーキー化以降の映画理論について概説します。新たに獲得した音声を、あたかも初めからそうであったかのように自然なものとして摂り込んだ映画の諸実践と、理論はどう切り結んできたのでしょうか？　そのもっともコアな流れを、人と諸概念の変遷の両方に着目してたどります。時期としては、第二次世界大戦後から現代に至るまでが中心となります。 学部ディプロマポリシーに謳われるとおり、「伝統的な学問分野を体系的に深く学び、時代の波に翻弄されることなく、確かな視点から人間の本質にアプローチするために必要な学力」の会得を目指します。

授業の到達目標

世界的に映画理論の衰退が叫ばれていますが、映像のテクノロジーとそれをめぐる状況とが激変し、映画の定義が根本から揺らいでいる今日のような時代においてこそ、一時の流行に惑わされることなく、問題の本質を精緻に見極めることがこれまで以上に求められています。一般に、われわれが何か新しいことを考えついた気になっているときでも、そうした考えは過去においてすでに十分吟味されている場合がほとんどです。古臭く見えるかもしれない先人たちの思考の歴史に学ぶことの最大の意義はここにあります。目まぐるしく移り変わる現代のメディア環境に腰を据えて向きあうための理論的背骨を鍛えることが本講義の最終的なねらいです。

成績評価方法

●**試験**　80%　　授業最終回に「理解度の確認」として論述式の試験を行ないます。
●**レポート**　0%
●**平常点**　20%　　3分の2以上の出席を義務づけます。
●**その他**　0%

備考・関連URL

できるだけ「映画理論1」から続けて受講するようにしてください。いきなり本講義から受講することを妨げるものではありませんが、そのために生じる不利益は各人の努力によって補うこと。

科 目 名	映画作家論　作家主義の歴史と現在							
担当者名	藤井　仁子							
演映コース	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

集団で製作され、しかも複製されて広まることが前提となっている映画において、誰が作家であるかを特定することは本来不

可能です。しかし、批評上の目的からあえて特定の作り手（通常は監督）をそのフィルムの「作家」（auteur）と見なすことがあります。このような批評方針は「作家主義」と呼ばれますが、世界映画史の決定的な転換点であるヌーヴェル・ヴァーグの実践とも切り離すことができない作家主義とは、いったいどのような意義を持つものだったのでしょうか？

本講義では、作家主義の歴史的意義を、その限界までも露呈させるようなクリティカルな事例を通して考察し、現時点での一定の総括を行ないます。「作家」概念が新たなかたちで強化されつつある現状についても視野に入れます。 学部ディプロマポリシーに謳われるとおり、「伝統的な学問分野を体系的に深く学び、時代の波に翻弄されることなく、確かな視点から人間の本質にアプローチするために必要な学力」の会得を目指します。

授業の到達目標

映画における「作家主義」の問題を、その限界まで見定めたうえで、それでもなお何が可能なのか、実践的に探究してもらいます。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　80%　　講義内容をふまえ、まとまった分量の作家論の執筆に受講生自ら挑戦してもらいます。
●**平常点**　20%　　3分の2以上の出席を義務づけます。
●**その他**　0%

講義

科 目 名	映画ジャンル論　「アトラクションの映画」再考							
担当者名	木原　圭翔							
演映コース	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

アメリカの映画研究者トム・ガニングが提唱した「アトラクションの映画（cinema of attractions）」は、映画研究の領域では最もよく知られ、かつ最も頻繁に言及されてきた概念の一つである。映画というメディアは単に物語を伝達するだけでなく、ショックや驚きなどを与えて観客を惹きつける一種のアトラクションとしての性質を持っているというガニングの議論は、論文の中で対象とされている初期映画研究を飛躍的に促進させただけでなく、現代の作品を含めた映画の本質的特性の一つとして認知され、1990年代以降の映画研究に大きなインパクトを与えた。本講義では、「アトラクションの映画」という概念を出発点としながら、様々な時代やジャンルに幅広くみとめられる映画のアトラクション性を概観し、その現代的意義について考察していく。

授業の到達目標

「アトラクションの映画」に関する議論を通して、映画研究における重要概念の理解を深めるとともに、作品鑑賞や分析のための新たな視点を獲得すること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　授業内容に関連した作品評を執筆するレポート課題。「アトラクションの映画」の理論を踏まえた独創的なレポートを評価する。
●**平常点**　40%　　出席とリアクションペーパーによる総合判断。
●**その他**　0%

科 目 名	大衆映画論　映画史ならびに大衆文化としての映画の諸相を学ぶ							
担当者名	濱口　幸一							
演映コース	2単位	春学期	金曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

映画は映画館でしか見られなかった時代がありました。その頃について、映画は娯楽の王様であったとも大衆文化の中心とも言われたりもしていますが、映画史においては大衆映画の時代とも称せると考えられます。本講義では、そのような背景の中での大衆文化としての映画の諸相を、アメリカの例を中心にして、たどっていきます。

授業の到達目標

映画の歴史への視野が広がり、過去と現在のつながりについての理解が深まる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　60%　　試験に代わるものとして、授業内容に関連する複数の問題のうちの各自任意に選んだ1題への答えをまとめたものを期末に提出。
●**平常点**　40%　　事後学習として各授業後に提出を求める課題。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	演劇映像研究1　映画分析の方法							
担当者名	藤井　仁子							
演映コース	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、テクスト分析の実践を通じてごく基本的なところから映画を問いなおすことにより、まずはいかにわれわれが映画のことを知らないか、思い知っていただきます。具体的には、毎回テーマを設定し、古今東西あらゆるジャンルの映画を取り上げて分析を加えます。受講生は、そこから各々のやり方で映画に接近するためのヒントを掴んでください。 学部ディプロマポリシーに謳われるとおり、「伝統的な学問分野を体系的に深く学び、時代の波に翻弄されることなく、確かな視点から人間の本質にアプローチするために必要な学力」の会得を目指します。

授業の到達目標

われわれを圧倒的に取り囲んでいる現代の映像文化に対する批判的な視線を鍛えるため、その来歴をしっかり見据えて、現代のわれわれが当たり前だと思い込んでいる事柄を絶えず歴史化し、脱＝自然化していくような姿勢の獲得を目指します。そこからどこへ赴くかは受講生各人に任されます。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　80%　　講義内容をふまえ、まとまった分量のフィルム分析に受講生自ら挑戦してもらいます。
●**平常点**　20%　　3分の2以上の出席を義務づけます。
●**その他**　0%

科 目 名	演劇映像研究2　演劇／舞台芸術と公共性　'public'/'private'概念から考える							
担当者名	藤井　慎太郎							
演映コース	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義は「公共性」、言い換えると'public'/'private'概念の位相のもとに、演劇／舞台芸術を捉え直してみることを目的とする。「公共」「公」としばしば訳される'public'は、「民間」「私」としばしば訳される'private'の対概念として定義されてきた。'public'とはしかし、多義的な語であり、'public'と'private'は複雑に入り組み合い、簡単に捉えることが難しい概念である（例：早稲田大学のような「私立」大学は、国公立大学からは区別されるがしかし「公教育」の一翼を担い、高い公共性を帯びた存在である。「公共」交通の一部をなす「私鉄」の存在を考えてもよい）。分かりやすくいえば、「みんなのものである」「みんなに関係する」、そして（国や自治体はすべての人に関わるものであることから）「行政が関与している」という意味が生まれるのだが、とりわけ日本ではこの「行政の関与」の意味合いが強調されてきたといえるだろう（そのために民間企業が公共性を担うことにいささかの違和感を覚えもするのだ）。

さらに、演劇にとっての'public'とはまず「観客」（the public）を表すものであるが、同時に、利潤の追求を目標とする民間の劇場・演劇（private theatre）に対立する、公共の劇場・演劇（public theatre）の性格を指すものでもある。事実、今日のほとんどの先進国（とりわけヨーロッパ型の福祉国家）では、公権力（public authorities）による文化政策の一環として、国立劇場をはじめとする公共劇場制度、劇場や上演団体に対する公的助成制度、専門人材を育成するための公的教育制度が形成されてきた。しかも、そうした公共劇場・演劇の諸制度は、今日では、資本主義の論理の公的領域への浸透、公共政策全体の効率化が進む傾向のもと、マーケティングや広告・広報の論理の浸透、公共サービスの民営化、民間セクターへの接近、民間資金の活用・・・・・・が模索され、'public'と'private'の境界線が複雑化していることも国際的に共通した傾向である。このように、'public'/'private'概念という補助線を引いてみたときに演劇の実践が見せる多様なありようを分析・考察することを通じて、演劇に対する理解をさらに深めたい。

授業の到達目標

・演劇全体に対する理解を深め、国際的に共通する特徴、それに対する日本舞台芸術の独自性を把握する。
・演劇の場合と比較しながら、それ以外の芸術（舞踊、音楽劇、美術、映画・・・）における公共性の問題についても理解を深める。

成績評価方法

授業参加、発表、レポートによって総合的に評価する。

科 目 名	美術史専門講義1（日本美術）　日本近世美術の諸問題							
担当者名	新江　京子							
美史コース	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では日本の近世絵画を中心に、日本美術の観かたについて取り上げます。
技法やかたちの特性、時代背景、画題にどんな意味が隠され、何を目的として作られたのか、どう評価されてきたのかなど。
作品や作者を様々な視点から考えることで、美術史を詳細に知る上での基本的な方法論を学びましょう。
なお、ひとつの対象を多角的に捉える例として、江戸時代中期の絵師・伊藤若冲を比較的多く取り上げる予定です。

授業の到達目標

近世日本絵画における基礎的な用語や文化的背景などの理解を深め、他者に説明できる。また、作品や作者を多角的に「見る力」「読み解く力」を身につけ、自分の言葉で表現できる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　期末試験は行いません。
●**レポート**　50%　　期末レポート。テーマや詳細は学期末に提示します。
●**平常点**　20%　　出席点…出席は全体の3分の2以上を目安とします。 体調不良、就活、部活や課外活動などの理由で欠席の場合はお知らせください。
●**その他**　30%　　毎回、授業の後でミニレポートを書いていただきます。

備考・関連URL

皆さんの興味・理解度に応じて、シラバスの内容は変更になる場合があります。また、質問やリクエストにも可能な範囲で対応する予定です。

科 目 名	美術史専門講義2（東洋美術）　日本彫刻史の諸問題							
担当者名	川瀬　由照							
美史コース	2単位	秋学期	木曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

東洋、日本美術史や文化財を学習、研究するにあったってこれまでに得られた研究成果やいくつかの視点を示すことによって美術史における見方・考え方について講義する。とくに日本彫刻史における諸問題のなかから重要なテーマや視点、論争などについて講述し、美術作品からさまざまなことが読み取れることを紹介していく。

授業の到達目標

美術作品や文化財を通してどのように考えていくのか理解することによって非文字資料の分析方法を習得する。文化財研究の基礎を身につける。また従来の彫刻史の概説書とは異なる新たな視点から彫刻史を理解することができる。

成績評価方法

●**試験**　70%　　授業で取り上げたテーマについて選択や記述の問題を授業の最終日に行う。

●**レポート**　0%　　行わない。
●**平常点**　30%　　出席状況を主とする（出席重視）。6回以上欠席した場合には試験の採点を行わない。
●**その他**　0%　　行わない。

科 目 名	美術史専門講義3（西洋美術）　聖なる空間、奇蹟の聖像							
担当者名	児嶋　由枝							
美史コース	2単位	秋学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

前半では、聖なる空間はどのように生成し、演出されるのか、西欧中世からバロックにかけての重要な聖地ならび聖堂建築を取り上げて考察する。最初の2回では基礎知識として中世からバロックの聖堂建築の流れを概観する。

後半では、対抗宗教改革期における奇蹟の聖像の誕生の背景と図像について検討する。また、宣教によってこれらの聖像のコピーが中南米や日本に伝播した状況について検討する。

なお、授業計画内容は状況に応じて少々変更される場合もある。

授業の到達目標

西欧中世からバロックにかけての聖なる空間と聖像の生成と受容について理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　50%　　オリジナリティ、論理的な文章構成、参考文献の理解。
●**平常点**　50%　　基本的に出席とリアクションペーパー
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	美術史専門講義4（西洋美術）　美術史におけるシュルレアリスム							
担当者名	長尾　天							
美史コース	2単位	秋学期	月曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

詩人アンドレ・ブルトンの『シュルレアリスム宣言』（1924年）によって発足したシュルレアリスム（超現実主義）は、しばしば20世紀最大の芸術運動と称されます。本講義ではこのシュルレアリスムを、美術史という枠組みにおいて考えてみたいと思います。

シュルレアリスムを美術史に位置付けようとすると、多くの問題が生じます。シュルレアリスムの美術には美術史の基本的方法論（様式論や図像学）では捉え難い部分が存在するからです。そこで本講義では、記号、イメージ、無意味／多義性などの観点からシュルレアリスムの美術を捉え、その美術史上の意義を考えてみたいと思います。

講義の流れとしては、まずシュルレアリスムとはどのようなものかを紹介し、シュルレアリスムの美術を語る上で生じる問題を確認します。そしてシュルレアリスム美術の前史として何人かの画家と美術動向を押さえた後、シュルレアリスムの代表的画家を取り挙げ、美術史にシュルレアリスムを位置づける試みを行います。

講義では紹介と考察を半々ぐらいで行う予定ですが、第1回にアンケートを取り、その結果次第では紹介重視もしくは考察重視に切り替えます。

シュルレアリスムに関心を持つ方だけでなく、謎めいたもの、不可思議なものの表象をめぐる問題や、イメージとは何かという問題に興味を持つ方、また既存の美術史の方法論とは別の思考方法によって美術史について考えてみたい方を歓迎します。

授業の到達目標

シュルレアリスムの美術及び背景となる20世紀美術史についての知識を修得した上で、自分自身の問題意識を持ち、それについて参考文献を用いながら論理的かつ説得的な方法で分析し、結論を導き出すことができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　70%　　課題は第1回に提示します。文献等の引き写しではなく、自分自身でどれだけ批判的に思考しているか、また思考した内容を論理的に表現しえているかを評価します。
●**平常点**　30%　　毎回コメントシートを提出してもらい、その内容によって評価します。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	美術史専門講義5（日本美術）　近世初期風俗画と南蛮絵画							
担当者名	成澤　勝嗣							
美史コース	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義は、安土桃山時代から江戸時代までの近世日本絵画史について、外国からの影響という視点から取り上げて検討する。桃山時代にポルトガルやスペインとの交流を通じて生まれた南蛮屏風や初期洋風画のような近世初期風俗画、あるいは江戸期に長崎を通じて入ったきた異国趣味の絵画（中国の影響を受けた黄檗絵画や南蘋派、オランダの影響を受けた洋風画など）を中心として、時代思潮の変遷と近世絵画史の関わりを重視しながら探っていきたい。

授業の到達目標

安土桃山～江戸時代の日本絵画史の国際性を理解するとともに、日本人の思考パターンの特性や、異文化に対する受容姿勢の多様さを知る。

成績評価方法

試験　　50%　60点以上を合格の目安とする
平常点　50%　出席3分の2以上を目安とする。

科 目 名	美術史専門講義6（日本美術） 日本近代美術史							
担当者名	河田　明久							
美史コース	2単位	秋学期	水曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

幕末から昭和期に至る日本近代美術の既報的な情報を伝えると同時に、美術を背後で支えた近代日本の視覚文化の広がりについて考える。

授業はおおむね年代を追うかたちで進めるが、毎回具体的なトピックを設けるので、かならずしも網羅的な通史とはならない。

トピックスの柱としては、近代日本の戦争と美術にまつわる諸問題を予定している。

授業の到達目標

日本近代美術史の知見を自身の問題意識に引きつけて考えることができる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　15回目の授業時に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　授業への積極性を評価します。
●**その他**　0%

講義

科 目 名	美術史専門講義7（東洋美術） 中央アジアの美術							
担当者名	森　美智代							
美史コース	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

紀元後一千年紀の中央アジアでは、内陸シルクロードの発達にともない、その幹線上の諸オアシスに多彩な地域文化が展開しました。多言語・多文化環境の中で、当時の国際文化であった仏教をはじめとする外来の諸宗教が受容され、周辺の大文化圏から影響を受けながらも独自の造形美術文化が形成されました。本科目では中央アジア美術への理解を深めるとともに、仏教美術をはじめとするアジアの宗教美術を読み解くための様々な視点を獲得することを目指します。

授業の到達目標

・中央アジアにおける美術の歴史的・地域的展開について把握する。
・仏教美術をはじめとするアジアの宗教美術を読み解くための様々な視点を獲得する。

成績評価方法

●**試験**　60%　　期末に理解度の確認のペーパーテストを行う代わりに、毎回、授業の後でレビューを書いてもらい、それを以て理解度を確認・評価する。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　40%　　出席状況と授業への主体的な参加姿勢をもって評価する。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

授業の進捗状況や展覧会の開催状況により、場合によっては、美術館・博物館での関連する展覧会の見学に振り替える可能性もある。

科 目 名	美術史専門講義8（西洋美術） 旧約聖書の物語を読む							
担当者名	益田　朋幸							
美史コース	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

旧約聖書は本来ユダヤ教の聖典であるが、キリスト教に採りいれられて、ヨーロッパ文化の基礎を築いた。『創世記』をはじめとして、人間臭い物語に満ちている。中世からルネサンス、バロック時代の美術作品を鑑賞しながら、旧約の主要な物語を紹介し、それがキリスト教徒にどのように受け入れられたのかを検討する。

ヴェネツィアのサン・マルコ、パレルモ（シチリア）のいくつかの聖堂、ビザンティンの写本挿絵等に関しては、適宜キリスト教の物語（福音書、使徒言行録等）とも比較しつつ、旧約図像学の基本を講義する。

このタイトルの科目では、隔年で「旧約聖書」と「ビザンティンの聖堂装飾」の話をする予定です。興味のあるほうをどうぞ。

授業の到達目標

『創世記』『出エジプト記』等の旧約聖書の主要な物語とその意味を知る。それがキリスト教徒によってどのように解釈されたか（予型論）、キリスト教聖堂装飾における受容の実際を理解する。

成績評価方法

●**試験**　80%　　授業最終回に「理解度の確認」（教場試験）を行う。スライドの美術作品を見て、主題、登場人物等基本的事項を問うもの。
●**レポート**　0%　　行わない。
●**平常点**　20%　　試験に授業中の話題を採り入れることによって、授業参加の度合いを確認する。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

※2007～2011年度入学者
「美術史専門講義8（西洋美術）」の科目登録は4年次で自動登録されます。

科 目 名	幕末・明治の日本絵画							
担当者名	岡戸　敏幸							
美史コース	2単位	春学期	木曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

幕末から明治に至る時期、社会構造の上で大きな変革があったのは周知の事実である。これに伴って、文化史一般において江戸と明治の間に断絶を認め、個別に論じられることが広く長く行われてきた。しかし、人間の精神的営為が、社会の枠組みに呼

応して瞬時に変化することは困難であり、大きくかつ微細に眺めればそこに連続性が見えてくる。本講義では、幕末・明治の日本絵画を、「19世紀の絵画」として捉え直し、その流れと特質を具体的作品と資料に沿って考えていく。近代の側から江戸を照射することも試みる。

講義で紹介する作品画像を熟視することは無論、適宜提示するオリジナルな作品や文献資料にも積極的に触れて欲しい。講義科目ではあるが、受講者各自の眼と思考を自分自身の「言葉」に纏める機会も積極的に設けていく。

希望者数が一定以上集まれば、自由参加の課外見学会実施も検討するので、積極的かつ主体的な参加を望む。

授業の到達目標

幕末・明治の日本絵画の流れを概観し、「19世紀日本絵画」としての連続性と特質を理解することを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施の予定はありません。

●**レポート**　50%　　学期末に提示された課題についてレポートを提出してもらう。テーマは講義中に指示する。受講者自らが提示した問題を、自分自身の言葉で具体的、論理的に論じ得ているかが評価の基準となる。他の先行文献、WEB等からの出典表記のない引用、剽窃、盗用などが疑われる場合には直ちに不可とする。なお、提出期限に遅れたものは理由の如何を問わず受理しないので充分に留意すること。

●**平常点**　50%　　出席確認は毎回行う。講義開始後およそ10分を経過した後は遅刻の扱いとする。平常点は、出席・遅刻・欠席を点数化したものを基礎に、講義中の小課題への解答、受講態度等を勘案し評価とする。なお、出席回数が、全体の2／3に満たない場合には、レポートが提出されても成績評価の対象とならないので各自充分に留意すること。

●**その他**　0%　　特にありません。

備考・関連URL

講義には積極的、能動的態度で臨むことを強く希望する。

講義を日本美術により親しむ契機として欲しい。

科目名	東洋画の世界　中国絵画における様式の伝承と変容							
担当者名	陸　偉栄							
美史コース	2単位	秋学期	水曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中国で10大名品とも呼ばれているものを歴史的な諸問題も含めてスライド（デジタル化した）を用い、唐宋以降を中心に講義する。宮廷絵画が盛んに発展したと同時に、文人画の発生及び基本的問題なども幅広く取り上げていく。また、明清以降、中国絵画の変容については作品と史料の両方からその展開を探ってみたい。とりわけ嶺南派、海上派、京津派は地域的相違が清末以降になると顕著になり、それぞれ広東、上海、北京・天津の代表でもあろう。また、日中美術交流史の視点からその相互の作用による新しいイメージの生成にも注目していきたい。

授業の到達目標

視覚資料を用いて多くの中国絵画を読み解くことによって中国の歴史文化、ひいては東アジア美術への理解に有効となることを目標としている。

成績評価方法

試験100%、授業参加度（出席3分の2以上、コミュニケーションカードや質問など）も見て総合評価します。

備考・関連URL

簡単な試験の予定ですが、成績が低すぎる場合、レポートも追加します。

科目名	仏教美術の歴史　ほとけのイメージの発生と展開							
担当者名	肥田　路美							
美史コース	2単位	秋学期	水曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

インドのガンジス河中流域で起こった仏教は、膨大な思想体系と造形美術や実践行を生み出しながらアジア全域に伝播しました。なかでも、インドとは風土も文化もまったく異質な東アジアの土壌に仏教が根付くにあたっては、美術という視覚イメージが大きな役割を果たしました。

ほとけの姿とは人の空想の所産に過ぎませんが、それを実際にありありと目で見たいという欲求が、仏像を造形する原動力になりました。また、そうして造り出された仏教美術が、人々に祈りの心を生じさせ、他のジャンルの美術にもさまざまな影響を与え、時に歴史の証人ともなり、芸術性や精神性を以てなお現代の私たちを魅了する力をもっています。

この授業では、ほとけのイメージの発生から密教美術の成立までを通史的に概観しながら、それぞれの地域や時代に、人々が何を見たいと欲し、どのようにそれを形にしてきたかについて、いろいろな角度から考えていきます。

授業の到達目標

・仏教美術を鑑賞したり考察したりする上で必要な基礎的な知識を習得する。

・仏教美術の歴史的展開について把握する。

・仏教美術を通して、“見たいもの”を目に見えるかたちに表現するという美術の本来的な意味やはたらきについて考えを深める。

成績評価方法

●**試験**　60%　　期末に理解度の確認のペーパーテストをおこなう代わりに、毎回、授業の後でレビューを書いてもらい、それを以て理解度を確認・評価する。

●**レポート**　0%　　レポートは課さない。

●**平常点**　40%　　出席状況と授業への主体的な参加姿勢をもって評価する。

●**その他**　0%　　特に無し。

備考・関連URL

本科目に限らず、美術史を勉強する上で最も大切なことは、実際に作品を見る経験を重ねることです。教室では随時、展覧会などの情報を伝えますので、積極的に足を運んで是非自分の目で作品に接して欲しいと思います。

科 目 名	西洋古代・中世の美術　かたちの歴史							
担当者名	益田　朋幸							
美史コース	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

古代ギリシア・ローマ世界から始め、中世（ロマネスク・ゴシック・ビザンティン）に至る美術の流れを概観する。作品を年代順に並べて鑑賞するだけではなく、形のもつ意味、作品が社会の中で果たした役割を常に考えたい。

各時代を代表する都市については、年代の枠からはずれて、「都市史」の視点から考察をする（アテネ、ローマ、ヴェネツィア、イスタンブール、パレルモ、ラヴェンナ等）。

「ルネサンス・バロック美術」「西洋近代美術」「現代アート入門」に接続して、西洋美術史の通史を知ることができる。隔年開講の授業があるので、注意してください。

授業の到達目標

作品を見て、それがおおよそどの時代・地域のものであるか理解すること。中世においては、作品の主題（キリスト教的な意味）も理解することが望ましい。

成績評価方法

講義

●**試験**　100%　　聖堂名や制作年代といったデータの暗記は必要ありません。作品を見て、時代がわかるようにしてください。キリスト教美術については、主題名・登場人物もある程度理解してください。

●**レポート**　0%　　レポートは課さない。

●**平常点**　0%　　特に平常点は評価しない。

●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

授業中のパワーポイントのうち、文字部分はコースナビまたはWaseda Moodleにアップします。必要に応じてダウンロードしてください。

科 目 名	絵画の見方　「絵を見る」とはどういうことか							
担当者名	益田　朋幸							
美史コース	2単位	秋学期	火曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

絵が目の前にあれば、それを「見る」ことは簡単である。しかしそこで受けとる内容は、ひとりひとり異なっており、深くもあり、浅くもある。

主として西洋美術を題材にして、古代から現代までの作品をとりあげ、何をどのように見ればいいのか、具体的に考える。絵を見るためには、知識（作品の技法、図像学など）も必要だが、何よりも自分の頭で考えることが重要である。この講義は、その「考え方」のレッスンでありたいと願う。

まず西洋絵画の技法を簡単に紹介したのち、遠近法とは何か、詳細に検討する。現実の三次元世界を、絵画という二次元に閉じ込めるためには、何らかの形で遠近表現が不可欠だからである。

それを踏まえて、「時間」を絵画の中にどのように表現するか、そのさまざまな方法を概観する。

「だまし絵」は、「芸術的でない」として軽んぜられる傾向があるが、二次元と三次元のイリュージョンの問題を考えるのに最適のジャンルである。古代から近代にいたるだまし絵の系譜をたどり、そこに何が起こっているかを言語化する訓練をする。

「自画像」は絵画の中でも特殊なジャンルであり、メタ絵画的性格が強い。古今の自画像を考察しながら、絵画の仕組みについて考える。西洋絵画の中で重要な意味をもつ「ヌード」、「鏡」といったテーマについても考察する。

授業の到達目標

西洋美術の技法については、基本的な知識を身につけること。

絵画作品の解説に依存するのではなく、自分の目で見て、自分の頭で作品の内容を解釈する（言語化する）ことができれば、言うことはない。

成績評価方法

●**試験**　100%　　基本的な知識を問う問題に加えて、長文記述の1問を用意する。記述問題はあらかじめ告知する。

●**レポート**　0%　　なし

●**平常点**　0%　　なし

●**その他**　0%　　なし

科 目 名	美術史への招待1　美術作品をどう見るか							
担当者名	山本　聡美　他／川瀬　由照／児嶋　由枝／坂上　桂子／成澤　勝嗣／肥田　路美／益田　朋幸							
美史コース	2単位	春学期	水曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

「美術史」とは、どのような学問の分野なのでしょうか。美術の歴史？　しかしそれは、作品の制作年代を覚えることではありません。中学・高校の課程に 「美術史」はないので、馴染みのない人も多いかも知れません。美術史を専門とする全教員が担当し、それぞれの立場から「美術作品を見る」とはどういうことか、考えるのがこの講義です。

各教員が専門とする時代や作品について、毎回視点を変えてお話しします。外国語の文章を読むときに、わからない単語は辞書を引きますが、美術を見るときには何もしなくとも「見る」ことができるような気がします。しかしちょとしたコツや知識をもって作品を見れば、今まで見えなかった側面がきっと見えてくるでしょう。そのための具体的なレッスンをしましょう。毎時間、多数のスライドを鑑賞します。

授業の到達目標

ある美術作品を見て、それが日本・東洋（中国）、西洋のいつ頃の時代のものか、おおよそ見当がつくようになりましょう。さらに一歩進んで、その作品はどのような意味をもっているのか、その意味を考えるためにどのような手続きが必要なのか、鑑賞の技法を身につけて下さい。

成績評価方法

●**試験**　50%　　授業の最終回に理解度の確認の試験を行ないます。担当教員がそれぞれ1問出題し、そのうちから2問を選択

して答えてください。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　50%　　出席によって評価。
●**その他**　0%　　特に無し。

科 目 名	現代アート入門							
担当者名	桝田　倫広							
美史コース	2単位	春学期	水曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本授業は「現代アート入門」という表題です。改めて口にすれば、とても不思議な言葉です。現代美術でなく、contemporary artでもなく、現代アート。この言葉は一体なにを指すのでしょうか。授業内容を先取りすれば、アートは、おそらく「美術」という日本語が喚起する意味から逸脱する多様な芸術実践の出現に対応するために、徐々に使われるようになったと考えられます。それでは何が現代アートであって、何がそうではないのか、あるいはcontemporary artとの語義的な差異はあるのでしょうか。こうした思弁的な問いかけも大変重要なことですが、本授業ではさしあたって、いわゆる「現代アート」の領域で仕事をしているとみなされている作家たちの具体的な実践に着目しながら、現代アートについて考えたいと思います。

ところで現代アートと呼ばれているものを、前半期の週1回程度の講義で紹介しつくすというのは不可能です。時間的な制約はもとより、そもそも世界各地でいまこのときにも生み出される芸術的諸実践のすべてを網羅することは到底できないからです。そこで本授業は、実際に私が見た、あるいは経験した作品から出発します。この編成が全体を網羅できないがゆえの消極的な方策であることを否定しません。それでもこのやり方を採用するのは、私の鑑賞体験を話の基点とすることで、受講者の皆さんにも、まだ評価の定まっていない現代アートに直接触れ、そして考えることの面白さを感じてもらいたいからです。したがって、皆さんひとりひとりが授業に主体的に望んでもらうことを期待します。授業の進め方も、できるだけ一方通行にならないように心がけたいと思います。中間・期末のレポートでは、展覧会などに実際に足を運び、作品を見て、そして考え、自分の言葉で整理する練習を行なってもらいます。

授業では、主に90年代以降の動向を紹介することになりますが、必然的に毎回、その歴史的条件を振り返っていきます。現在とは常に過去の蓄積の上に成立しているからです。事実、過去から学ばない現代作家など殆ど存在しませんし、一方で、私たちの鑑賞体験は美術の歴史を知れば知るほど豊かになっていくものです。この授業が、皆さんひとりひとりが自分なりの現代アートの入り口を見つけるきっかけになれば幸いです。

授業の到達目標

現代アートの諸実践、あるいはそれを鑑賞するという行為は、所与の感性やセンスに頼ることでなく、同時に知性をも駆使するものであることを理解すること。

アートが現実や社会と密接につながる実践であることを理解すること。

本授業を通じて芸術を楽しむための手掛かりをひとつでも多く身につけること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行いません
●**レポート**　50%　　期末レポートは最後の授業時に提出です。課題は、本授業開講期間中に開催されている展覧会に赴き、そこで見た作品について論じるというものです。詳細は授業第1回目のガイダンスおよび、授業中にお伝えします。
●**平常点**　50%　　出席を考慮します。
●**その他**　0%　　授業への積極的な参加を考慮します。

科 目 名	日本美術史入門　社会の中の美術							
担当者名	山本　聡美							
美史コース	2単位	春学期	月曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

高校までに学修した日本史の知識を再確認し、各時代の文化を特徴づけた政治・経済・宗教的背景を理解する。その上で、縄文時代からはじまり、奈良・平安・南北朝・鎌倉・室町・江戸・明治・現代の美術について、それぞれの時代を代表する作品・作家・注文主・受容史へと関心を広げていく。日本美術史の展開を知り、社会において造形が果たしてきた役割についての考察を深める。

なお本講義では、日本の美を未来へ伝え世界へ発信していく目的で、文化庁・宮内庁・読売新聞社が官民連携で発足させた「紡ぐプロジェクト」と協力し、同プロジェクト協賛企業から講師を招いた特別講義を実施する（5月～7月にかけて、計3回）。各々の企業の立場から、日本美術の現代的意味や将来性について話題提供していただくことで、博物館や寺社に伝来する絵画や彫刻が、単なる過去の遺産ではなく、新たな価値形成の可能性を秘めた現代社会の共有財産であることへの理解を促す。

授業の到達目標

各時代の文化を特徴づけた政治・経済・宗教的背景を理解した上で、それぞれの時代を代表する作品・作家・注文主についての基礎的知識を得ている。また、縄文時代からはじまり、奈良・平安・南北朝・鎌倉・室町・江戸・明治・現代へと至る日本美術史の展開を理解し、社会における造形の役割について自ら思考することができる。さらに、現代社会における文化財の役割や新たな活用方法について、自発的に考察できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　60%　　試験内容はガイダンス時に指示する、60点以上を合格の目安とする。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　40%　　毎回コメントシートを提出。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

https://tsumugu.yomiuri.co.jp/

科 目 名	西洋近代美術　19世紀パリの美術研究							
担当者名	坂上　桂子							
美史コース	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義は、近代都市パリの成立と美術とのかかわりを視点として、西洋近代美術の特質を見いだすものです。19世紀のパリでは、新しい都市の整備とともに人びとの生活環境が大きく変化し、美術もまた、そうした社会を反映し新しい動向を次々とみせていきました。近代都市と社会の確立に伴う市民層の台頭、機械文明、消費社会の拡大といった社会的基盤の変容は、美術にも変革をもたらし、それまでのアートの方向性や価値観を大きく転換したのです。その意味で19世紀美術は、20世紀以降の現代アートを導く起点となるものであり、造形芸術の歴史を辿る上でもっとも興味深く、もっとも豊かな作品群を有するといえます。またパリでこの時代に展開された新しい美術は、各国から多くのアーティストたちをひきつけ、西欧諸国はもとより、日本の美術にまで影響を及ぼすことになり、異文化接触の視点からも興味深いものです。ここではこうした19世紀パリにおけるアートの状況を踏まえ、近代西洋美術の特質を浮き彫りにすべく、代表的アーティストとアートをとりあげ、諸問題を検討していきます。

授業の到達目標

19世紀美術の本質を理解し基礎知識を身につけると同時に、作品をいかに読み解くか、美術史の基本的アプローチの手法を学ぶことが目的です。

成績評価方法

●**試験**　60%　　確認のテストを行います。近代美術にかかわる基本的知識が身についたかどうかを最後に確認します。
●**レポート**　10%　　必要に応じてレポートを出します。レポートのない場合は、この分は平常点評価とします。
●**平常点**　30%　　授業のたびに、重要な図像を多く紹介しますので、授業においてまずは図像をよく見ることが必要となります。
●**その他**　0%　　必要に応じます。

備考・関連URL

19世紀の流れに沿い、前半から後半にかけてみていきますが、展覧会の開催状況などに応じ、内容を変更したり、順番を入れ替えることがあります。

科 目 名	日本彫刻史							
担当者名	井上　大樹							
美史コース	2単位	春学期	土曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では日本における彫刻の歴史について講義します。日本彫刻史は美術史の一分野になりますが、彫刻作品の造られた時代や製作背景について、文字資料のみならず像の形や様式から考察する学問です。近世以前までの日本における彫刻の歴史は仏教彫刻史であるといっても過言ではありません。それほど美術作品としても名品といえるような仏像が多く伝わっています。その背景には各時代ごとに優れた仏師が存在したことに加えて、仏教思想の進展ともに大陸から新たな技法や様式がもたらされ、その都度消化し発展してきたことがあったと考えられます。したがって日本彫刻の歴史を学ぶことは、我が国の思想や海外との交流の歴史の一端を理解することにもつながります。

本講義は仏教が伝来した飛鳥時代から江戸時代にいたる彫刻の歴史の流れを理解することを目標とし、技法・様式の変遷や時代背景に触れながら通史的に解説します。講義の形式は講義の流れを大まかに記したレジュメを配布するとともに、時代による様式の変遷や作品の提示するためにプロジェクターなどを用いて画像を投影して講述します。

なお、専門用語や基礎知識は美術史を専攻していない受講生にも配慮して説明します。

授業の到達目標

日本における彫刻の歴史の流れを理解するとともに、様式・技法等の美術史の基礎的な知識、彫刻の鑑賞方法を身につける。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　出席等を中心とする平常点評価
●**その他**　0%

科 目 名	日本史講義1（古代）　古代日本の国際環境							
担当者名	田中　史生							
日史コース	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

戦後の日本古代史研究は、日本における国家の形成過程に多くの関心を傾けてきました。そのなかにあって、日本史の成り立ちを世界史とのかかわりから捉える対外関係史研究や東アジア史研究は、その議論に大きな影響を与えてきました。しかし近年、国民国家を相対化する研究・議論の進展とともに、「日本」と「外国」を隔てる史的境界を固定的に遡らせ、「日本」の「内」からのみ「外」をみる従来の研究のあり方に様々な批判も出されるようになっています。また、国内外の考古学の進展は目覚ましく、朝鮮半島や中国大陸の様々な歴史の主体に目を向けた研究も盛んとなり、そこから「東アジア」にかわる新たな広域史を模索する動きも活発です。本講義では、列島古代社会を取り巻く国際環境を戦後歴史学がどのように説明してきたかを整理した上で、最新の研究成果から、列島古代社会の多様性と、日本史と世界史を結ぶ多元的・重層的な関係を具体的に追いつつ、「日本史」における「日本」の捉え方についてあらためて考えてみたいと思います。

授業の到達目標

①列島古代の国際交流の多様性について理解する。
②日本古代史を世界史と関連づけて理解する。
③「日本」の枠組みを前近代史から相対化する視点を得る。

成績評価方法

●**試験**　70%　　各設問の配点に基づき評価する。

●**レポート**　0%　　提出を求めない。
●**平常点**　30%　　授業時の理解度確認アンケートによって評価する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	日本史講義2（中世）「荘園」からみる中世社会							
担当者名	似鳥　雄一							
日史コース	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「中世」とはどんな時代だったのか。何をもって前後の時代と区別するのか。これらの問いに対する答えは決して自明のものではありません。この点を考える上で欠かせない要素となるのが「荘園」です。荘園制は当時の基本的な社会システムですが、研究史がきわめて重厚なこともあり、初学者には難解な印象があるかもしれません。

本講義では豊富な史料を有する京都の東寺領を題材に、「荘園」とはいかなるもので、そこで実際に何が起こっていたのか、具体的にみていきたいと思います。主にとりあげるのは備中国新見荘です。新見荘は近年大きく研究が進展した荘園で、東寺から派遣された代官の殺害事件、現地の女性が書いたとされる書状など、話題に満ちています。新見荘をメインに、ほかの東寺領荘園も織り交ぜながら、当時の社会について考えます。

授業の到達目標

日本中世の社会システムである荘園制とその実態について理解する。それによって中世という時代をイメージし、その特質について考える能力を身に付ける。

成績評価方法

●**試験**　70%　　学期末の筆記試験
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　授業の出席状況
●**その他**　0%

科 目 名	日本史講義3（前近代史料学）							
担当者名	下村　周太郎							
日史コース	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

歴史学の研究は史料に基づいてなされなければならない。特に、現実の体験者がおらず、また、今日まで伝わっている史料の数が限られている前近代の研究にあたっては、論拠となる史料をいかに収集し読解するかが極めて重要となる。本講義では、前近代の史料にはどのような種類のものがあり、それぞれについてどのように取り扱うべきであるかを講じる。

授業の到達目標

史料には様々な種類があり、それぞれに異なる特性を有し、それぞれに取り扱いにあたっての留意点があることを理解する。また、一つの史料に対しても、見方や分析視角を変えることで、多様な情報を引き出すことができることを学び、卒業論文執筆に向けた専門的知見の習得につなげる。

成績評価方法

●**試験**　80%　　必ず試験を受けなければならない。
●**レポート**　0%
●**平常点**　20%　　随時、リアクションペーパーを配布し、そこに書かれた意見・質問によって、平素における授業への出席状況や理解の度合いを見る。
●**その他**　0%

科 目 名	日本史講義4（近現代史料学）							
担当者名	真辺　将之							
日史コース	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

学問としての「（近現代）史料学」は、「（古）文書学」や「アーカイブズ学（記録史料学）」に大きな影響を受けながら、しかしそれとは明確に区別された独自の方法論を持って近年発達を遂げた学問です。具体的には、近現代の非現用文書を対象に、その文書処理の過程を再現し、史料群の形成過程や組織の意思決定プロセスを把握することを目的とする学問であるということができるでしょう。ただしまだ誕生したばかりの学問であるため、今後別種の方法論が出てくる余地はおおいにありうると考えられます。

ですが、まだ一次史料に触れた経験の少ない学部学生を対象とする本講義において、いきなり上記のような意味での史料学を講義しても、多くの学生には敷居が高すぎて理解できないであろうと考えます。本講義では、「近現代の史料に関する講義」というような、ある種「史料論」といったほうが適切なような、より広い意味での史料に関する講義を行い、日本の近現代史（明治維新-現代）を研究するために必要な史料（主として文献史料）について、さまざまな史料所蔵機関とその利用方法、各機関所蔵史料の内容、史料の分類や用語・様式などについての一般的知識を学んでもらうことを中心的内容としたいと思います。

また毎回、近現代史料の解読作業に時間を取り、活字史料のみならずくずし字史料の基礎的な解読能力をも身につけてもらいたいと考えています。

その上で、一通り、近現代史料の知識を得ることができた段階で、冒頭で述べたような（狭義の）「（近現代）史料学」の入口にあたる部分についても講義し、さらなる発展への道筋をつけてもらえればと思います。

授業の到達目標

（1）日本近現代史に関する主要史料の所在を知る。
（2）日本近現代史に関する史料の初歩的解読能力を習得する。
（3）日本近現代史に関する史料批判の方法を習得する。
（4）近現代史料学の方法に関する基礎的知識を獲得する。

成績評価方法

●**試験**　50%　　文書（くずし字）の読解力を問う試験を行います。

●**レポート**　0%　　くずし字読解に不安の学生を対象に、実際に史料所蔵機関に出向いて、特定の史料に関する調査レポートを作成・提出してもらいます。(任意提出)
●**平常点**　50%　　出席状況、授業後の質問などの勉学態度などを加味します。遅刻や寝ている場合には出席とみなしません。
●**その他**　0%　　特に無し。

科 目 名	日本史講義5（近世）『葉隠』の日本史							
担当者名	谷口　眞子							
日史コース	2単位	春学期	月曜日	1時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義は日本史コース必修講義科目のひとつで、3年次生以上を対象とする専門講義である。近年の日本史学は専門分化が進む一方、これまで他の学問分野で分析されていた素材も考察対象とするようになり、総合的人文科学のディシプリンとして発展する可能性を秘めている。この講義では、これまで文学や日本思想史学でとりあげられてきた『葉隠』を分析対象とする。その歴史を前近代から現代まで見通すことにより、多様な文化・価値観を理解しながら「歴史を見る目」を育てたい。

授業の到達目標

武士道あるいは武士道精神は、日本文化の典型例としてしばしば言及され、ナショナリズムと微妙な関係を保ちながら、変容しつつ現代まで伝えられている。しかし、その内容は時代や論者によって異なるだけではない。ひとつの作品でも内容の解釈は読み手、受容者によって異なる。ある特定の政治的・社会的・文化的背景のもとに生み出された作品が、そもそもどのような読者層を想定し、いかなる執筆・編纂の経緯をたどったのか、それがいつ、どのような出版形態をとって人々に広まったのか、後世の人々は同じ文言を、それぞれの時代背景のもとで意識的に、あるいは無意識的に、いかに解釈していったのか、その詳細を知ることは、現代の我々が歴史上、どのような位置にいるのかを客観的に考える手がかりともなる。本講義では江戸時代の武士道論として知られる『葉隠』をとりあげ、作者論・作品論を超えた分析手法により、前近代から現代までを見通すパースペクティブを身につけてもらいたい。

成績評価方法

●**試験**　60%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行う。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　毎回の授業で質問や意見をレビュー・シートに書いてもらい、その内容で評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

出席10回未満の者は特別な理由がない限り、成績にかかわらず単位を与えない。毎回、レビュー・シートに質問や意見などを書いてもらい、それについて次回の授業冒頭で教員が解説して内容理解を深め、そのあと講義を進める形をとる。授業は一方的に教員が講義するのではなく、出席者も一緒に作っていくものであるから、質問や意見はできるだけたくさん出してもらいたい。なお、参加者の人数やレベルによって、講義予定に一部変更が生じる可能性があることを、あらかじめ断っておく。

科 目 名	日本史講義6（近現代）　近現代日本の政党							
担当者名	真辺　将之							
日史コース	2単位	秋学期	水曜日	2時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

今日の議会政治は、政党を基礎に成立しています。選挙は基本的に政党間によって争われ、議会で最大多数を得た政党が政権を担当し、誰もそのことを不審に思いません。

しかし、現在当たり前のように政権を担っている政党も、約150年前には全く未知の存在でした。幕末、欧米の議会政治を見た福沢諭吉が、「党派には保守党とか自由党と徒党のやうなものがあって、双方負けず劣らず鎬を削って争ふて居ると云ふ。何の事だ、太平無事の天下に政治上の喧嘩をして居ると云ふ。サア分からない。コリヤ大変なことだ。何をしているのか知らん」(『福翁自伝』)と驚かざるをえなかったように、幕末期の日本にとって政党は全く理解しがたい異文化でしかありませんでした。

したがって、日本に議会政治を導入するにあたっても、政党は必ずしも自明の存在ではなく、議会政治の基礎は政党が担うべきだという意見がある一方で、政党に対する批判的な意見や不信感も根強く存在しており、政党が日本社会に根付くに至るまでには、数多くの軋轢を経ることになりました。昭和初期には二大政党が政権を担当する時代がきたものの、それからほどない第二次大戦時には全政党が解散するという事態にもなりました。戦後は憲法で議院内閣制が規定され、政党が政権を担う制度ができましたが、はたして政党政治というものが社会や国民に根付いたものとなっていると言えるかどうかは疑問の余地があるでしょう。

本講義では、幕末から現代にいたるまでの、このような政党の導入・定着と軋轢の過程を、歴史学の立場から検討していきます。

政党は社会・国家の中でさまざまな部分との接点を有し、極めて広い裾野を持っています。この授業においても、政治史を中心にしつつも、思想史・社会史などの諸側面もふまえた多様な視点から近代日本における政党にアプローチしていくことによって、人々がどのように「政党」と向かいあったのか、そこにどのような問題点が孕まれていたのかについて検討していきたいと思います。そしてそのことを通じて、今日の政党を、一歩はなれた場から見つめなおし、政党がいかにあるべきかということを考えてほしいと思います。

授業の到達目標

「政党」をキーワードに、近代から現代にかけての日本の政治と社会の流れを理解してください。

成績評価方法

●**試験**　100%　　論述式で、授業の内容を踏まえて自らの意見を書いてもらう形の試験を行います。
●**レポート**　0%　　任意提出のレポートを課す場合もあります。
●**平常点**　0%　　出席は取らない予定ですが、場合によっては取って成績に参入する可能性もあります。
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

初学者向けに、前提知識が無くても理解できるよう分かりやすく説明するつもりですが、わからないところがあれば遠慮なく質問するようにしてください。

科 目 名	日本史講義7（日本文化史1） 戦後史の中の柳田民俗学							
担当者名	鶴見　太郎							
日史コース	2単位	春学期	金曜日	2時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

柳田国男（1875～1962）の民俗学は、日本民俗学と同義に語られることが多い。その基盤は戦中から戦後にかけて形成された組織基盤にあるといっていい。この講義では、戦後における柳田国男とその民俗学がどのように機能したのか、同時代の社会、思想と対比させながら、その実像に迫りたい。内容は、 1）柳田民俗学の位相―戦中から戦後へ―、2）敗戦直後の柳田民俗学、3）国語改革と民間伝承、4）「民間伝承の会」から日本民俗学会へ、5）「海上の道」に到る行程、6）民俗学研究所の解散、7）晩年の日本像、の構成を予定している。

授業の到達目標

戦後における柳田国男、日本民俗学をとりまく政治・思想状況が把握できる。

成績評価方法

●**試験**　80%　　学期末に理解度の確認を行うほか、出席点を加味。
●**レポート**　0%　　特に行わない。
●**平常点**　20%　　学期末に理解度の確認を行うほか、出席点を加味。
●**その他**　0%　　特に行わない。

科 目 名	日本史講義8（日本文化史2） 戦時下の社会主義者群像－郷土回帰と抵抗―							
担当者名	鶴見　太郎							
日史コース	2単位	秋学期	金曜日	2時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

多くの社会主義者にとって、アジア・太平洋戦争下の日本社会とは、自身の思想像が試される時期でもあった。本講義は春学期の授業で基調となった「郷土」、「民俗」に注目しながら、戦時下の社会において社会主義者たちがどのように自身の思想信条を変容（ないし維持）したか、その実像を同時代の政治、論壇と交差させながら解説していく。戦時下の農山漁村経済更生運動や一部の翼賛運動などにおいて、かつての社会主義者が重要な担い手となったことが知られるが、そこには彼らの思想的な屈折と展開があったことも見逃せない。授業の構成は、1）郷土回帰という現象、2）民俗学へ向かった社会主義者、3）文学・評論の世界からみる抵抗の世界、4）戦時下のアジア主義の許で、5）郷土調査とマルクス主義者、6）戦後における再出発、を予定している。

授業の到達目標

戦時下の社会主義者と郷土の問題について、同時代の背景とともに把握できることを目的とする。

成績評価方法

●**試験**　80%　　学期末の試験に出席点を加味。
●**レポート**　0%　　特に行わない。
●**平常点**　20%　　学期末の試験に出席点を加味。
●**その他**　0%　　特に行わない。

科 目 名	歴史学　歴史を研究することとは							
担当者名	下村　周太郎							
日史コース	2単位	春学期	火曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本の歴史を中心に、「鎌倉幕府はいつできたのか？」、「日本人は自然に優しいか？」といった、学校教育や一般社会でも話題となるトピックや、京都や鎌倉など観光地としても馴染み深い歴史的エリアを取り上げながら、関連する学術研究の成果について解説する。また、伝統文化の継承や自然との共生といった市民社会の歴史意識に関わる諸問題についても、学術的な立場からの検証を加えていく。これらを通じて、中学校や高等学校までの歴史の学習とは異なり、大学という高等教育機関・学術研究機関における歴史の研究とはいかなるものであるのか。歴史を学び、考えることに、どのような意味や効用があるのか。これら、初歩的でありながら本質的な問題について考える材料を提供し、受講者における歴史学という学問への親しみを涵養する。

授業の到達目標

学校教育や趣味愛好の歴史とは異なる、学問として歴史を研究することとはどのような営為であるのかについて理解する。特に、「過去と現代との往還」ないし「理論と実践との往還」という視点を意識しつつ、必ずしも現代には直結しない前近代／非近代を学ぶことの今日的な意義について認識を深める。

成績評価方法

●**試験**　80%　　必ず試験は受けなければならない。
●**レポート**　0%
●**平常点**　20%　　随時、リアクションペーパーを配布し、意見・質問を書いてもらう。これによって平素からの授業への参加状況や理解の度合いを確認する。
●**その他**　0%

科 目 名	日本列島の人類史　天正遣欧使節とその時代							
担当者名	伊川　健二							
日史コース	2単位	秋学期	金曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

1582年に長崎を出港し、ローマなどヨーロッパでの滞在を経て、1590年に長崎へ帰着した一団を、天正遣欧使節という。これらの内容を歴史用語として知る者は少なくないでろう。その一方で、北イタリアの諸都市には彼らにまつわる古文書が膨大に保存され、絵画や詩、演劇のなかに登場することもあったことは、必ずしも広くは知られてはいまい。本講義では、それらを具体的に解説するとともに、彼らの派遣の意義を、より広い観点から考察する。

授業の到達目標

講義は日本語のみでも内容理解に支障が出ないように進められる。受講者はパワーポイント、教科書および配布資料による講義を通じて、天正遣欧使節の原典史料に触れ、その具体像と歴史的意義を説明できるようにする。

成績評価方法

- **試験** 100% 定期試験
- **レポート** 0% なし
- **平常点** 0% なし
- **その他** 0% なし

科 目 名	日本戦争史							
担当者名	加藤　聖文							
日史コース	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

近代に成立した国民国家において、戦争は国民統合の観点から重要な意味を持つ。授業では戦争をキーワードとして日本の国民国家化（＝近代化）と大日本帝国の膨張の歴史を概観する。また、授業では単なる日本史に止まらず世界史の流れも合わせて解説する。それらを通して国際的視座から日本史を考えることの重要性も確認し、今日でも国際秩序形成において戦争が大きな影響を与えていることの意味を考える。

授業の到達目標

日本の近代の歩みにおける戦争の重要性を認識し、近代国民国家における戦争の本質を理解する。

成績評価方法

- **試験** 80% 第15回目の授業時間中に試験を実施。講義に対する理解度および発想力の確認を行う。
- **レポート** 0%
- **平常点** 20% 出席率および授業への積極性。
- **その他** 0%

備考・関連URL

幅広い知識に基づいた独創性を評価する。講義中の中座・退席は認めない。

科 目 名	古文書学1							
担当者名	久保　健一郎							
日史コース	2単位	春学期	土曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

古文書学は、日本史学を学ぶ上で重要であるばかりでなく、総じて日本の過去に関わる数多の事象・事柄を学ぶ際にも資するところ大である。本科目では、古文書を様式から大きく二つの類型に分けた場合の、政治的文書について、公式様文書、公家様文書、武家様文書の順に、成立・内容・機能等を概説し、写真版を用いて実際に解読していく。併せて、解読のために必要な日本史に関する知識・用語等についても解説する。

授業の到達目標

古文書についての体系的知識を学び、実際にある程度解読できるようになることを目標とする。

成績評価方法

- **試験** 100% 古文書の様式やくずし方について、授業内容をどれだけ理解しているか。
- **レポート** 0% なし
- **平常点** 0% なし
- **その他** 0% なし

備考・関連URL

本科目はもちろんそれ自体で完結した内容であるが、古文書学2と併せて受講することによって、古文書学について、より発展した知識を得ることができるので、本科目の受講者は古文書学2も併せて受講することを勧めたい。

科 目 名	日本民俗学							
担当者名	鶴見　太郎							
日史コース	2単位	春学期	水曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

民俗学とは、普段我々が日常的に行う習俗や祭、祭礼などの年中行事、さらに生活上で起こる様々な事象について、その由来や変遷を探り、現在の我々が置かれている状況を知る学問である。もとおと、民俗学がひとつの領域として成立した背景には、文字資料を持って判断材料とする、既存の文献史学に対する強い批判が伏在していた。この授業では、それらの事情を念頭に置き、、1）日本における神観念とは何か、2）日本の祭、祭礼、氏子組織、3）l民俗的な時間、空間、自我意識とは何か、4）沖縄・南西諸島における宗教意識、5）日用雑器、民具に即した民俗学、6）仏教民俗学の成り立ち、などのテーマを設けて検討と行っていく。これ以外にも、柳田国男、折口信夫、南方熊楠、柳宗悦、渋沢敬三などの民俗学者の仕事について適宜、取り上げていく予定である。

授業の到達目標

自分たちが普段、行っているいくつかの日常的な事柄について、その由来を説明することができる。草創期の民俗学を担った群像の仕事について概要を把握することができる。

成績評価方法

- **試験** 80% 学期末の試験に、平常点を加味する。
- **レポート** 0% 特になし
- **平常点** 20% 学期末の試験に、平常点を加味する。
- **その他** 0% 特になし

科 目 名	日本環境史							
担当者名	鶴見　太郎							
日史コース	2単位	秋学期	水曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

我々を取り巻く環境は、有形無形の形で歴史そのものを規定してきた。しかもそれらは、普段、系統立てて説明されることが少なく、無意識のレベルにまで浸透しているため、文献記録に残されないことが多い。この授業では、日本の歴史を考える上で、自然・思想・教育など重要と思われる事象を取り上げながら、それらを背後から規定している要因を探ることを目的とする。具体的なテーマとしては、1）民間習俗からみた日本の仏教受容とはどのようなものか、2）事大主義はなぜ、稲作社会から生み出されるのか、3）民話とはどのような発生形態を持ち、近代に影響を与えたか、4）日本の庭園に見られる美意識とは何か、5）陶磁器の世界から生まれる日本の価値意識などの問題を取り上げ、我々の生活に対して周囲から見えない形で影響を与えている事柄を考察する。

授業の到達目標

我々の日常生活を背後から規定しているいくつかの事象について、その由来を歴史的に説明できる。

成績評価方法

●**試験**　80%　　学期末の試験に平常点を加味する。
●**レポート**　0%　　特に行わない。
●**平常点**　20%　　学期末の試験に平常点を加味する。
●**その他**　0%　　特に行わない。

科 目 名	日本社会経済史　医療の社会経済史							
担当者名	中村　一成							
日史コース	2単位	秋学期	月曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

今日の歴史学ないし社会経済史学では，疾病・衛生・医療についての問題関心が高まっています。こうした研究動向を踏まえ，本講義では近現代の日本におけるこれらの問題について，経済変容，民衆生活，地域社会，社会運動，制度形成といった視点から論じていきます。

授業の到達目標

近現代の日本における疾病・衛生・医療をめぐる問題の所在と歴史過程を理解すること。
一次史料の読解を通じて歴史認識を形成する経験をすること。
学術的な論文作法にもとづいたレポートを執筆できるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　中間レポート20%，期末レポート40%。
●**平常点**　40%　　毎回提出するレスポンスペーパーの記述内容から加点式で積み上げます。
●**その他**　0%

備考・関連URL

レポートはガイドラインを設定して「論文」に準じる水準で書けるよう指導・評価しますので，その覚悟をもって履修してください。

科 目 名	日本女性史　古代の女性官僚							
担当者名	伊集院　葉子							
日史コース	2単位	春学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

国ごとの男女格差の度合いを示すジェンダーギャップ指数の最新値で、日本は、153カ国中121位となりました。過去最低となった要因の一つは、政治分野での男女格差の拡大です。これは、女性が各レベルで意思決定に参画する機会を阻まれていることを意味します。本講義では、このような日本社会のあり方が、わが国固有のものだったのかという問題意識のうえに、日本古代の政治分野における女性の役割を考察します。女官・女房に焦点をあて、その歴史的意義を講義しますが、同時に、村や地方豪族クラスで女性リーダーが活躍し、中央では女帝が輩出した古代社会の構造も考察します。

授業の到達目標

（1）古代社会の基本的な特徴と女性が政治参画し得た要因を理解する。
（2）古墳時代から鎌倉時代初期にいたる長いスパンでの日本社会の変化のなかで、男女の均等性が失われていった経過を理解する。

成績評価方法

●**試験**　80%　　最終日にテストを行います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　20%　　授業への積極性を評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	古文書学2							
担当者名	久保　健一郎							
日史コース	2単位	秋学期	土曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

古文書学は、日本史学を学ぶ上で重要であるばかりでなく、総じて日本の過去に関わる数多の事象・事柄を学ぶ際にも資するところ大である。本科目では、古文書を様式から大きく二つの類型に分けた場合の、非政治的文書について、上申文書、証文類の順に、成立・内容・機能等を概説し、写真版を用いて実際に解読していく。併せて、解読のために必要な日本史に関する知識・用語等についても解説する。

授業の到達目標

古文書についての体系的知識を学び、実際にある程度解読できるようになることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　100%　　古文書の様式やくずし方について、授業内容をどれだけ理解しているか。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　0%　　なし
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

本科目はもちろんそれ自体で完結した内容であるが、古文書学1を併せて受講することによって、古文書学について、より発展した知識を得ることができるので、本科目の受講者は古文書学1も併せて受講することを勧めたい。

科目名	アジア史学発達史2　大日本帝国の治安体制							
担当者名	荻野　富士夫							
日史コース	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

講義

授業概要

卒論から修論にかけて初期社会主義思想という社会の変革の志向を主題にした私は、その後、そうした変革を抑圧し取締る側の諸問題を考察するという「治安体制」の解明をもう一つの主題としてきました。「治安体制」とは国家の統治の理念・意思と治安法制、治安機構、それらの実際的運用ということですが、はじめからその全体像が見えていたわけではなく、一つの小さな主題を乗り越えると、次の課題が見えてくるという拡がり方をしてきました。同時に、近代日本が帝国主義国家に展開していく過程で、朝鮮・台湾という植民地、かいらい国家「満洲国」、さらに中国・アジアにおける戦時下の占領地域においても、その統治および軍政をおこなっていくうえでそれぞれの「治安体制」の構築は不可欠でした。

たとえば、治安維持法は国内において社会変革の運動と思想を逼塞させ、総力戦遂行の障害となるものをことごとく一掃していったという意味で悪法たることはもちろんですが、植民地において、「満洲国」において、日本の帝国主義に立ち向かう運動や思想の弾圧にさらに何倍もの猛威をふるいました。その実態はまだ十分に明らかにされていません。

こうした私のこれまでの研究の推移の過程も「アジア史学発達史」のごくごくわずかの実際例であると強引にみなしたうえで、「大日本帝国の治安体制」の展開過程を概観することにします。

配布する史料を読み込むことを重視します。

授業の到達目標

近代国家にとって「治安体制」がもつ意味と、その下で自由や平等がどのように獲得されようとしたのか、いずれも現代へのつながりで考えること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　本授業の主題「大日本帝国の治安体制」に少しでもかかわるテーマについてのレポート（4000字前後）、締切は最終授業時。
●**平常点**　40%　　本授業への参加状況、史料の読解・質問や意見の表明。
●**その他**　0%

科目名	日本史概論1　日本史の全体像を考える1							
担当者名	川尻　秋生							
日史コース	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、教養としての日本歴史の知識や考え方の獲得をめざし、その概要を解説します。

現在の歴史学は東アジアからの視点はもちろん、考古学や文学など近接分野の研究成果なしには成り立ちません。したがって、本講義でも、これらの成果を積極的に取り入れ、新たな時代像を描き出したいと思います。

授業の到達目標

日本史に関する基礎的知識の獲得を目指します。

成績評価方法

●**試験**　100%　　学期末のテストによる
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科目名	日本史概論2　日本史の全体像を考える2							
担当者名	川尻　秋生							
日史コース	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、教養としての日本歴史の知識や考え方の獲得をめざし、その概要を解説します。

現在の歴史学は世界的、とくに東アジアからの視点は欠かすことができません。また、文学など歴史学の周辺にある諸分野との協業も必要です。本講義でも、これらの成果を積極的に取り入れ、新たな時代像を描き出したいと思います。

授業の到達目標

日本史に関する基礎的知識の獲得を目指します。

成績評価方法

●**試験**　100%　　学期末のテストによる
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科 目 名	中世日本の「文化史」 生活・慣習・環境の歴史学							
担当者名	似鳥　雄一							
日史コース	2単位	春学期	月曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義はタイトルを「文化史」と設定しました。それでは「文化」とはいったい何でしょう。例えば高校の日本史教科書をみたとき、「文化史」が対象としているのは学問・文学・芸術・宗教といった領域が中心ですが、これらは狭義の文化史といってもよいでしょう。

それに対して本講義であつかうのは、身分の上下を問わず、中世日本で日々を暮していた人々の生活様式、慣習・習俗など、すなわち広義の文化史というべき分野です。これにより、様々な方向から「文化」にアプローチすることが可能となります。

また加えて、彼ら中世人の生き方、さらにいえば精神性に大きな影響を及ぼしたであろう自然環境、あるいは災害の実状についてもみていきます。それら諸相のなかに、現代と共通する面と、全く相違する面がそれぞれあることが理解されるでしょう。

授業の到達目標

中世日本にみられる広義の文化事象について幅広く学び、その歴史的な特質を把握する。それによって現代に通用する常識を相対化し、それらもまた歴史の所産であることを理解する。

成績評価方法

●**試験**　70%　　学期末の筆記試験
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　授業の出席状況
●**その他**　0%

備考・関連URL

2016・17年度に「多元文化特論2」の単位を取得した方は、内容が重複しますので本講義を履修しないで下さい。

科 目 名	アジア史特殊講義1（中国古代史） 中国古代24時間（中国古代の人びとと日常生活）							
担当者名	柿沼　陽平							
ア史コース	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、中国古代の日常生活史について検討する。秦の始皇帝、項羽と劉邦、さらには曹操・劉備・孫権ら三国志の英雄が活躍した時代に、人びとは一体どのような日常生活をおくっていたのか。たとえば、彼らは何時頃に起床したのか。歯を磨いたのかどうか。いかなる服装に身を包み、何を基準にして名前を名乗ったのか（姓・氏・名・字は何か）。どの程度の身長・体重・寿命で、何を食べ、飲んでいたか。一日に何回食事をし、何時に寝たのか。泥酔したことはあるか、トイレはどこにあるか。夜に夢をみることはあるか。どのように恋愛をし、結婚し、子どもを産み、いかに子どもを育てたのか。商品はどこでどのように売買し、住居はいかなる形をしているのか。農作業の具体的過程はどのようで、女性労働にはどのようなものがあったか等々。

これらの問いはどれもささいで、高等学校の世界史教科書などで学習する事柄ではない。日本における中国古代史研究でも、政治史や制度史に従事する者が多く、上記の諸問題に焦点が当たることは少ない。しかし周知のように、英雄だけが歴史を作るわけではない。政治史や制度史は重要だが、それだけが歴史学ではない。むしろ民の日常生活を細かく復原し、彼らの生活に思いを馳せることで、私たちはより血肉の通った歴史像を獲得できる。本講義ではとくに、受講者が中国古代（とくに秦漢時代前後）に迷い込んでしまったと仮定し、いわばシミュレーションの形で、中国古代人の日常生活を朝から晩まで順に検討する。また「日常史」「社会史」「地域史」といった視角がいかなる学術的背景のもとで生まれ、どのような歴史学的意味を有するかという根本問題にも説明を加える。講義では、文献のみならず、考古遺物・画像資料（壁画や画像石等）・出土文字資料研究・文化人類学の知見をも活用し、さらに日常史研究の盛んな欧米の研究動向（Michael Loewe、Poo Mu-chou、Denis Twitchett、Bret Hinschら）にも触れるので、適宜学際的アプローチの有意義性を味わっていただきたい。

授業の到達目標

・中国古代史の大まかな流れを理解する。
・中国古代の日常生活について理解する。

成績評価方法

●**試験**　70%　　教場で筆記試験を行なう。
●**レポート**　10%　　中国古代日常史に関して自由に論ぜよ。基本的に平常点評価と試験で採点するが、さらによい成績を目指す者は挑んで欲しい。
●**平常点**　20%　　出席3分の2を満たす者を教場試験の対象者とする。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	アジア史特殊講義2（朝鮮前近代史） 朝鮮前近代史							
担当者名	李　成市							
ア史コース	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

原始古代から高麗王朝前期までの歴史を論じます。朝鮮前近代史を東アジア史の中に位置づけながら、その展開の特色を論じます。

授業の到達目標

朝鮮前近代史の理解を深めるとともに、それを通じて、東アジア地域の文化的な特色についての考えを深めることを目的とします。

成績評価方法

●**試験**　50%　　事前に課題を題して教場で答案を提出してもらう。
●**レポート**　30%　　毎回講義終了時にレスポンスシートに講義内容の質問や意見を書いてもらう。
●**平常点**　20%　　出席
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	アジア史特殊講義3（中国前近代史） 多文化統治と中国史							
担当者名	飯山　知保							
ア史コース	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

政治経済のグローバル化が急速に展開している現代社会の中で、私たちは、民族、宗教、生命に関わる様々な価値観の相違に起因した諸問題や貧困、発展、環境などの問題に直面している。こうした人類共通の諸課題の解決方法を模索する際、そこにいたるまでの人類の歴史を辿る作業が必要不可欠となり、歴史上の成功例から得た経験と知識だけではなく、成功／失敗の教訓をも生かさなければならない。

この授業では、「なぜ中国はあのように多様な諸文化を統合することができてきたのか？そしてそれは、現在の中国で起こっている様々な文化的・社会的・民族的な問題にどのように関連してきたのか？」という疑問を出発点とし、「多文化統治 Multicultural Governance」の観点から、歴代の中国王朝がいかにしてその領域の中に多種多様な文化圏を組み込んできたのかを考察します。

授業の到達目標

歴史上の中国に興亡した諸王朝の民族政策•多民族支配の制度的基盤をふまえ、それがどのような歴史的経緯をたどり、現在中国の状況に帰結してきたのかを理解する。

講義

成績評価方法

●**試験**　50%　　期末に行う論述試験（レポート）により理解度を評価する。
●**レポート**　0%　　出る。席およびその都度提出するレビューシートにより聴講内容を確認・評価す
●**平常点**　50%　　出席およびその都度提出するレビューシートにより聴講内容を確認・評価する。
●**その他**　0%　　三分の一欠席で評価対象外とする。

備考・関連URL

なし

科 目 名	アジア史特殊講義4（東アジア近現代史） 清朝をめぐる国際関係							
担当者名	柳澤　明							
ア史コース	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

18-19世紀、すなわち前近代から近代への移行期における清朝をめぐる国際関係を、特に清・ロシア関係を軸として論ずる。17世紀の最初の接触以来、清とロシアは曲折に富む外交を展開し、独特な二国間関係の枠組みを発展させてきたが、西洋諸国の東アジア進出にともなって、両国関係には大きな変化が生じ、それは現在に連なる「中国」という国家の枠組み形成にも影響を及ぼした。そのダイナミズムを検討する。

本科目は、「ディプロマポリシー」、「カリキュラムポリシー」にいう「専門講義」に該当する。

授業の到達目標

アジアにおける前近代から近代への移行という問題に対する多面的な理解を深めることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　70%　　授業内容に関連するレポートを期末に課す。テーマ設定、先行研究・資料の読み込みの程度、論理構成、オリジナリティを総合的に評価する。
●**平常点**　30%　　授業への参加度による。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

授業内容の理解を助けるため、画像資料なども使用し、わかりやすく進めていきたいと考えています。

科 目 名	フィールド歴史学（東アジア） 資料の「史料化」学							
担当者名	飯山　知保　他／柿沼　陽平／李　成市							
ア史コース	2単位	秋学期	火曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

21世紀の歴史研究は、近代歴史学＝「国民国家の歴史学」の相対化を底流に展開している。東アジア史も例外ではない。本講義は研究手法と史料学の視点からこの底流を検証する。具体的には、「フィールドで獲得した資料はどのようにして史料となりうるのか」という問題意識に基づき、各担当者が出土木簡や石刻・碑文や少数民族地域などの現場で獲得した「資料の史料化作業」を通して、東アジア史研究の主流である文献実証史学再構築をめざす。「泥臭い早稲田」の「汗をかく歴史学」である。

授業の到達目標

史料が所与のものとしての史料ではなく、創造的に「資料を史料化」することによって新しい歴史学が生まれることを理解する。

成績評価方法

出席三分の二以上を満たす者に対して筆記試験を行う。

科 目 名	朝鮮近現代史 近現代東アジア国際関係の中の朝鮮半島							
担当者名	三ツ井　崇							
ア史コース	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

近現代における朝鮮半島の歴史を東アジアの視野に立って理解する。概説的部分で歴史の流れを把握し、各論的部分で朝鮮近現代史の論点を理解する。

授業の到達目標

近現代朝鮮半島の歴史を学ぶことで、近年、日本と韓国の間で盛んに論じられている歴史認識問題の背景を理解することができる。また、自ら歴史を叙述する努力を通して、歴史研究の方法や視角を理解する。

成績評価方法

●**試験**　70%　　記述式・論述問題。第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　30%　　出席と授業への積極性を評価します。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	東南アジア史　環境・経済・文化・社会の変容と課題							
担当者名	太田　淳							
ア史コース	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

初めに地域の基層を形成する環境、人々、共通文化について説明した後、古代国家から現代までの歴史を概観する。各国別の出来事の羅列は避け、様々な時代を特徴づける要素の理解に努める。植民地期の宗主国だけでなく、日本を含むアジアの他地域との接触に着目し、外部の影響に対応しながら経済・文化・社会が変容してきた過程を検討する。

授業の到達目標

自然環境、外部世界との接触などにも帰因して独自に展開した東南アジア史の諸相を理解し、現代の東南アジア諸国や日本が抱える課題の解決について、歴史的理解に基づき考察できる力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　70%　　授業内容の理解度と考察力
●**レポート**　0%　　必要な場合は指示する
●**平常点**　30%　　授業の参加態度
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	基礎漢文1							
担当者名	高井　康行							
ア史コース	2単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では散文体で書かれた史料をとりあげる(『世説新語』をはじめとした、高校漢文教科書に収録される文章を用いる予定)。一口に散文体の史料といっても、正史に代表される編纂史料、裁判記録や行政文書などの一次史料、あるいは虚実の入り混じった筆記・随筆など、様々なスタイルのものがある。これら多様なスタイルの史料の特徴を紹介し、その講読を通じて基礎的な漢文の読解力を身に付けてもらいたい。また、史料の読解はただ書かれている文字を解釈するだけではなく、その記述内容から読み取れる様々な事実や背景を明らかにすることにある、それが史料を読むことの面白さでもある。この「面白さ」を講義を通じて感じ取ってもらいたい。

授業の到達目標

1. 工具書（辞書・事典）などを適切に用いた基本的な漢文の読解方法を修得する。
2. たんに漢文の字面の意味を理解するだけでなく、史料を考証する方法の基礎を修得する。
3. 高校の漢文教育における教材研究を行う上で必要な知識・技術を修得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験実施予定はありません。
●**レポート**　70%　　漢文史料の読解および考証の度合いにより評価する。なお、レポートは複数回提出してもらう予定。
●**平常点**　30%　　出席状況および授業中の質疑への対応などから総合的に評価する。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	基礎漢文2							
担当者名	平林　美理							
ア史コース	2単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、主に中国最古の正史『史記』を通して、漢文を読むための基本的な知識を身に着けることを目指します。『史記』は、紀伝体で編纂された中国古代の歴史書です。紀伝体とは人物の伝記を中心に歴史を記録する方法のことですが、それゆえに記述が物語的で読みやすいのが特徴です。注釈書や解説書も多く、漢文初心者でもそれらを参考に内容読解を進めていくことが比較的容易です。

学生の皆さんも、中学や高校の古典の授業で「鴻門の会」や「四面楚歌」などの漢文を読んだことのある方は多いでしょう。しかしその時に読んだ漢文は、すでに返り点や送り仮名の付されたものだったのではないでしょうか。この先、卒業論文などで漢文を読む場合、多くの史料・作品には書き下し文や返り点のついたテキストが存在していません。あるいは教員を目指している人であれば、教材づくりの際に自分で白文を読む必要がある場面も出てくるでしょう。いずれにせよ、自分で一つ一つの漢字の意味を調べたり、文章の構造を考えながら漢文を読むことこそ、本当の意味で「漢文読解」と呼べるものです。本講義では、その方法を学習・習得することを目指します。

授業では、教材とする『史記』だけでなく、同じ内容を扱った『戦国策』や『漢書』などとの比較検討も行うことで、初歩的な史料読解の方法についても体験してもらいたいと考えています。漢文の多様さを知る契機にしてもらえれば幸いです。

授業の到達目標

漢和辞典などの参考資料を用い、自力で漢文を読解する能力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　50%　　講義と同様の方法で漢文に返り点・送り仮名を付し、書き下し文・現代語訳・注釈を作成する。
●**平常点**　50%　　出席状況（2/3超＝10回以上の出席が必須）、講義中の質疑応答。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	アジア史概論1　東アジア世界の形成と展開							
担当者名	飯山　知保　他／柿沼　陽平／李　成市							
ア史コース	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

全体は三部から構成され、第一部（第1回～第5回）では古代の東アジア世界の形成と展開について検討する。第二部（第6回～第10回）では唐宋変革期から近現代までの東アジア世界を対象とし、伝統中国をめぐる諸問題を検討する。第三部（第11回～第14回）では東アジアにおける朝鮮半島と日本列島をめぐる諸問題について検討する。第15回は全体の総括である。

授業の到達目標

中国を中心地域とする「東アジア世界」（中国文明の世界）がどのようにして形成され、展開していったかという、東アジア史の基本問題を、中国古代史を起点として、中世・近世から近現代、そして朝鮮半島における歴史展開に主に焦点を合わせ、同時に周辺地域も複合的に考察して、動態的な理解を深めることを目的とする。

成績評価方法

●**試験**　80%　　教場試験を行う。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　20%　　出席日数、三分の二以上を要す。
●**その他**　0%　　特になし。

講義

科 目 名	アジア史概論2　アジアの多様なひろがり							
担当者名	柳澤　明　他／五十嵐　大介／石濱　裕美子							
ア史コース	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

歴史世界としてアジアを見たとき、われわれはその多様なひろがりに圧倒される。しかしそれは、単にアジアの内部が多くの地域に分けられるという意味ではない。異なる切り口――たとえば「イスラーム」、「仏教」、「遊牧民と定住民」のような――を設定することによって、さまざまに異なる像が見えてくるということなのである。この講義では、西アジアから東アジアまで広く目を配り、いくつかの異なる視点から大きな地域世界を設定してその構造と展開を概観することを通じて、アジア史の全体像と、そこに見られる多様性・ひろがりの一端を提示したい。具体的な講義内容は以下のとおりである。

1.エジプトから見るイスラーム史（五十嵐大介）：7世紀半ばに始まるイスラーム共同体の勃興と拡大は、人類の政治・文化・宗教思想地図を一変させ、その流れを大きく変えた世界史上の大事件であった。本講義では、7世紀のアラブの大征服以降イスラーム文明の重要な担い手となったエジプトを座標軸に据え、イスラーム時代の西アジア・中東の歴史を概観する。

2.チベット仏教世界のアジアにおける展開（石濱裕美子）：チベットの王権は仏教の庇護者、あるいは、執行者そのものとしてその普遍的な教義をもってモンゴル人、満州人の皇室の師となり、その社会に転生制度などを植え付けるなど民族をこえた影響力を持っていたことを学ぶ。

3.清帝国から近代へ（柳澤明）：単に中国最後の王朝というにとどまらず、内陸アジア世界の一部をも包摂した清帝国の多元的な姿と、19世紀以降におけるその解体・再編の過程を概観する。それを通じて、現代につながる東アジアの国際秩序が形成されてきた背景を探る。

本科目は、「ディプロマポリシー」、「カリキュラムポリシー」にいう「専門講義」に該当する。

授業の到達目標

アジアの歴史をさまざまな角度からとらえ、その多様性に対する理解を深めることを通じて、アジア史の全体像を巨視的にとらえる視座を養うことを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　50%　　期末に1本のレポートを課す。テーマ設定の明確さ、関連する先行研究・資料の読み込みの程度、論理構成、オリジナリティを総合的に評価する。
●**平常点**　50%　　授業への参加度による。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	アジア史学発達史1							
担当者名	佐川　英治							
ア史コース	2単位	春学期	水曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

文明の誕生から大唐帝国にいたるまでの中華文明の多元性、多様性を東部ユーラシアの枠組みの中で体系的に理解できるよう講義を中心に学ぶ。

授業の到達目標

中華文明の歴史に対する基礎知識を習得するとともに、それを東アジアや東部ユーラシアとの関わりにおいて理解し、近年の発見や研究による新しい見方について知る。

成績評価方法

●**試験**　100%　　第8回目と第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認をおこないます。試験は「持ち込み不可」でおこないます。
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科 目 名	アジア史特殊講義5（中国近現代史）							
担当者名	劉　傑							
ア史コース	2単位	秋学期	木曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「中国世界」という言葉があるように、中国は複雑で、分かり難い。近年の中国の激変は、「衝撃」と受け止められる一方、日本人の「中国離れ」を引き起こした。「中国を知ろう」という衝動に駆られることが少なくなり、日本の中国研究が「冬の時代」を迎えているとまでいわれている。しかし、中国は日本の隣国であるという事実は変わらない。この国との付き合い方は日本にとって永遠の課題である。日本における「中国学」の伝統を継承し、多数の中国研究者を育成するとともに、日本の中国研究を発展させることは喫緊の課題である。現代中国を理解するには、近現代史を把握することは不可欠である。19世紀後半以降の中国は「伝統」と「近代」の間を往復しながら国のあり方を模索してきた。第2位の経済大国になった現在もこの営みは止まらない。本講義はアヘン戦争から現在に至るの中国の歩みを「知のエリート」が構想する「国家像」を通して捉えてみたい。その間、1911年の辛亥革命、1949年の中華人民共和国の成立という時代の断層があったが、今日の中国につながる不変のものは何か、中国を理解する鍵がまさにここにあると思い、これを皆さん一緒に探っていきたい。

授業の到達目標

①現代中国を理解するための基本文献の調査、解読、分析能力を身に付けること。
②中国近現代史を理解するキーワードを発見すること。
③討論を通して現代中国を歴史の視点から理解することの重要性を確認すること。

成績評価方法

●**試験**　60%　　授業への理解度と、問題を発見し解決する能力を確認する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　出席状況や討論への参加などを評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	西洋史研究1（西洋近現代史）　近現代ドイツの歴史							
担当者名	小原　淳							
西史コース	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本授業は、近現代ドイツの歴史を概観する。ドイツ地域は19〜20世紀に分裂と統合を繰り返し、また度重なる政治体制の変化を経験しつつも、「世界強国」へと変貌していった。その影響力は、EUの中心を占めるこんにちのドイツのように、ヨーロッパの統合と安定に寄与する方向に発揮される場合もあるが、反対に二度の世界大戦の時代のように、独裁と暴力をもたらす過去もあった。そして、こうしたドイツ史の複雑さと両義性は、同国をモデルの一つとして進められた日本の近代化とも無縁ではない。本授業では、現在のドイツ国家・社会の姿を過去に投影するのではく、むしろ歴史のなかでのドイツの領域的な伸縮、国家体制や社会制度の変化、地域や宗派に起因する多様性を重視し、また、政治史・事件史のみならず人々の生活文化や意識、行動様式をも視野に入れ、さらには日本とのつながりや比較を意識して、講義を行う。なお、毎回の授業ではナショナリズム、国民国家、市民社会、産業革命、帝国主義、ユダヤ人、民族、社会主義・共産主義、大衆民主主義、ファシズム、ジェンダー、環境といった、近現代史の理解に欠かせない諸問題も適宜取り上げる。

授業の到達目標

受講者が、近現代ドイツ史の把握をつうじて、第一に現在のドイツがどのような歴史的過程を経て形成されたのかを理解し、第二に西洋世界、そして日本を含めた世界全体にドイツがいかなる影響を及ぼしたのかを検討し、第三にそこから得られた知見をもとに、現代世界を歴史学的な視点から考える力を養うことを目的とする。

成績評価方法

●**試験**　40%　　授業の理解度を問う。毎回の授業で配布する資料に記載された事柄のみならず、授業中に板書や口頭で強調した事柄についても、出題の対象とする。
●**レポート**　30%　　毎回の授業の度に、理解度を問う簡単なレポートの提出を求める。
●**平常点**　30%　　遅刻、授業中の入退出、私語、居眠り、スマートフォン等の使用は出席を認めない。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	西洋史研究2（西洋近現代史）　フランス革命を考える							
担当者名	森原　隆							
西史コース	2単位	秋学期	金曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

18世紀末に勃発したフランス革命の歴史的意義をさまざまな観点から検討してゆきたい。まず、アンシャン・レジーム期から1789年の革命勃発までのフランスの史実を追跡し、とくに政治文化、社会文化の側面から、個々のテーマに基づいた分析を行ないたい。次いで、19世紀から今日までのフランス革命研究の流れを紹介し、従来のブルジョワ革命論から新しいエリート革命論にいたる研究史を整理して考察する。全体を通して、「フランス革命とは何だったのか」を、近年の研究成果をふまえて、再考してゆきたい。

授業の到達目標

「フランス革命とは何か」について、全般的な知識・情報を修得し、西洋の近現代社会の考察への独自の視点や視野の獲得を目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はない
●**レポート**　70%　　講義内容に関するレポート作成
●**平常点**　30%　　出席状況
●**その他**　0%　　その他はない

科 目 名	西洋史研究3（西洋中世史） 中世ヨーロッパと地中海世界							
担当者名	甚野　尚志							
西史コース	2単位	春学期	木曜日	3時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

初期中世から16世紀頃のヨーロッパ世界は、政治・経済・宗教すべての側面で地中海世界を中心に歴史が動いていた。地中海世界では、教皇権と東西の皇帝権を中心にキリスト教世界の政治的秩序が形成されるとともに、イスラーム世界の異文化とも出会う場であった。また、イタリアの諸都市とコンスタンティノープルとの交易を基軸としてヨーロッパ世界の経済発展を支えた場所でもあり、商人の移動により様々なモノ・人・情報が行きかった。この授業では、ヨーロッパ世界がどのようにして形成されたのかというヨーロッパ史の根幹にかかわる問題について、教皇権と皇帝権、イタリアの諸都市、ビザンツ、シチリアなどの諸国家の動きに注目しつつ、ヨーロッパ史の分岐点となるような重要なテーマを選んで講義をしていきたい。

授業の到達目標

地中海世界の歴史に視点を据えながら、中世ヨーロッパ世界がどのようにして形成され、発展していったのかを理解する。

成績評価方法

●**試験**　60%　　授業の内容について理解度を確認する。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　40%　　毎回、出席を取る。
●**その他**　0%　　なし

講義

科 目 名	西洋史研究4（西洋近現代史） 19-20世紀イギリスの政治と社会							
担当者名	松園　伸							
西史コース	2単位	秋学期	木曜日	5時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

授業計画にあるように、主に4つのテーマを扱う
1　19世紀ヴィクトリア期社会とはなにか
2　19-20世紀イギリスの民主化
3　両大戦間期のイギリス　4　イギリス帝国主義とはなにか
これらを柱に講義するが、1～4のポイントの比重は、受講者の希望を受けて変更することがあります。したがって、シラバスにも変更はあり得ます。

授業の到達目標

授業概要にあげたテーマを理解することで、近現代イギリスの政治、社会とは何であったかを考える。
授業にあたって、英文（平易なものを選びます）、和文の文献、史料を読んでもらうので、予習が必要である。
また随時、BBC制作の歴史教育プログラムを視聴する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　70%　　随時提出のもの、期末提出のもの
●**平常点**　30%　　出席状況など
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	西洋史特別研究1 中近世ヨーロッパの異端と迫害ー「ワルド派」から「魔女狩り」までー							
担当者名	甚野　尚志							
西史コース	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、ヨーロッパの中世から近世にかけての異端や社会的マイノリティに対する統制や迫害について、中世の異端問題から近世の魔女狩りの問題まで考察する。それにより、中近世ヨーロッパのキリスト教社会に独特な宗教と政治との関係を解明したい。具体的にはまず、11世紀に生じた民衆的異端の問題から話を始める。次に、中世を代表する大きな異端集団であるワルド派とカタリ派の運動がなぜ民衆に浸透したのか、そしてまた、なぜ教皇権が異端審問により体系的な異端迫害の制度を創設したのかについて論じる。続いて、中世後期に蔓延した自由心霊派の異端や千年王国主義の異端と、およびユダヤ人などの取り締まりや迫害について述べ、さらに近世における魔女狩りの問題を論じて、西欧キリスト教世界の異端や社会的マイノリティに対する統制と迫害の歴史を11世紀から17世紀まで辿っていきたい。

授業の到達目標

中近世ヨーロッパ世界で生じた異端や魔女などへの教会・国家による統制や迫害について基本的な歴史的知識を獲得することを目指す。

成績評価方法

●**試験**　60%　　授業の内容をを理解したかどうかを確認する。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　40%　　毎回、出席を取る。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	西洋史特別研究2 スコットランド史							
担当者名	松園　伸							
西史コース	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「イギリス史＝イングランド史」であった時代はもはや過去になりました。1960年代以降北海油田の成功もあって、スコットランドは経済的に自立できるとの確信を強め、1997年ついに自治議会の開会に成功しました。そして2014年にスコットランドの完全独立をめぐって住民投票が実施され、これは僅差で否決され連合王国残留が決まりました。しかし英国のEUからの離脱（Brexit)に多くのスコットランド人は不満であり、独立について再度住民投票が行われる可能性は十分にあります。

本講義は、激変するスコットランド状勢が歴史的にいかに生じたかを考察します。中心は近現代史に置かれますが、古代・中世についても触れます。

以下の授業計画で示された、古代、中世、近代、演題のバランスは、受講者の希望も聞きながら、変更する場合があります。

授業の到達目標

これまでイギリス史の中で傍流的な位置づけであったスコットランド史について深く学びます。

成績評価方法

出席状況（授業後のみなさんのレビューによって判断します）30%, 小レポート（1～2回）20%, 期末レポート50%

科 目 名	西洋史概論1							
担当者名	松園　伸　他／井上　文則／小森　宏美／甚野　尚志							
西史コース	2単位	春学期	土曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ヨーロッパの古代から現代までの歴史の流れについて、4人の教員がそれぞれの専門の立場から概説を行います。内容はあくまで入門的なものですが、現在の西洋史研究の動向を反映した概説となります。これから西洋史を深く学びたい学生だけでなく、教養として西洋史の知識を身に付けたい学生にとっても受講して十分理解できる授業です。

授業の到達目標

ヨーロッパ史の古代から現代への歴史の流れを理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　50%　　コースナビまたはWaseda Moodleを使い、最後にレポートを提出する。
●**平常点**　50%　　毎回出席を取る。出席し各回の授業を聴講することを評価する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	西洋史概論2　西洋史を鳥瞰する							
担当者名	森原　隆　他／小原　淳／高津　美和／中澤　達哉							
西史コース	2単位	秋学期	土曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

西洋史学の対象は時代的にも地理的にも多岐にわたるので、この西洋史概論では、学生諸君に西洋史に対してできるだけ幅広い視野を養ってもらうことを目的に、西洋史専攻の教員8名が、古代から近現代まで、それぞれの専門分野を中心に講義する。とくに西洋史コースの2年生は是非とも履修することが望ましい。なお本年度西洋史概論2は、高津美和（イタリア史）、森原隆（フランス近代史）、中澤達哉（東欧史）、小原淳（ドイツ近現代史）が順次担当する。

授業の到達目標

西洋の近世から近現代に至る歴史についての全般的な知識と個別の諸問題についての考察方法を学ぶ。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はしない。
●**レポート**　70%　　授業内容に関するレポートを作成する。
●**平常点**　30%　　出席状況
●**その他**　0%　　とくになし

科 目 名	史学概論　歴史とは何か　歴史学とは何か							
担当者名	森原　隆							
西史コース	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

「歴史とは何か」「歴史学とは何か」を念頭におきつつ、主に西洋の古代・中世・近代・現代のさまざまな歴史家、歴史書、歴史考察を取り上げ、

歴史研究の意義や意味を再検討したい。さらに、マルクス主義、ウェーバー理論、世界システム論、「反近代化論」、「市民的公共性論」などに着目し、ポストモダンの世界認識を展望したい。

授業の到達目標

「歴史とは何か」「歴史学とは何か」に関する見解を構築する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はせず
●**レポート**　70%　　授業内容に関するレポート
●**平常点**　30%　　出席回数
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	西洋史学発達史							
担当者名	小原　淳　他／今村　労／大森　北文／加藤　義明／蝶野　立彦／出口　裕子							
西史コース	2単位	秋学期	火曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

近代歴史学は、19世紀ドイツにおいて、歴史家レオポルト・フォン・ランケが創始した。しかし言うまでもなく、人間や社会の歩みを洞察し、記録し、解釈するという営みはランケのはるか前から行われてきたし、ランケ以降の歴史学にも紆余曲折があった。

本授業では、中世から現代にいたるまでの西洋歴史学の歩みを様々な観点から論じ、その特質を考える。本年度は、出口裕子（ドイツ中世史）、蝶野立彦（ドイツ近世史）、大森北文（ドイツ近代史）、今村労（ロシア近代史）、加藤義明（ドイツ近現代史）が順次担当する。

授業の到達目標

西洋史学の展開の過程とその背景にある歴史的事象についての知識を得るとともに、西洋史学の思考法を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はしない。
●**レポート**　70%　　授業内容に関するレポートを作成する。
●**平常点**　30%　　出席状況。
●**その他**　0%　　とくになし。

科 目 名	西洋史特論1　戦争と社会							
担当者名	森原　隆　他／赤松　道子／奥村　優子／中園　恒明／早川　理穂／松原　俊文							
西史コース	2単位	春学期	木曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

戦争によって社会や国家がどう変化するか、戦争はどのように記憶され、その記憶は社会にどのような影響を与えているか、あるいはある社会の戦争観などを、研究史も踏まえつつ、特定の戦争を取り上げながら論じていく。5人が3回ずつ講義を担当する。予定している順序と内容は下記のとおり。

（1）古代ローマの戦争と平和　　松原俊文
（2）フランク王国の軍制度と教会　奥村優子
（3）フランス革命期の独裁と戦争　早川理穂
（4）ブラジルの「国民」形成と領土紛争：シスプラティナ問題とパラグアイ戦争　中園恒明
（5）戦争とロシア・ソ連社会　赤松道子

講義

授業の到達目標

ヨーロッパ社会において、戦争やコンフリクトのもつ意味を再検討することで、講義を通じて、戦争が社会に与えた影響のほどを理解できるようにする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験はしない
●**レポート**　70%　　授業内容に関するレポート作成
●**平常点**　30%　　出席状況
●**その他**　0%　　とくになし

科 目 名	西洋史特論2　近現代ドイツ史ードイツ史におけるナチズムを考えるー							
担当者名	紀　愛子							
西史コース	2単位	秋学期	木曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、近現代ドイツの歴史、特にナチ体制期の歴史を取り扱う。その際、通史的な理解だけでなく、ホロコースト、ナチズムにおける性、優生学など、回ごとに様々なトピックを扱いながら、一つの時代を多角的視点から捉えることを目指す。全15回の授業のうち、まず第1回～第4回において、ヴァイマール期からナチ体制の崩壊までを通史的に概観する。その後、第5回～第12回までの授業では、ユダヤ人、同性愛者、障害者など、ナチスによる迫害の対象となった種々の集団に焦点を当てながら、それぞれの集団とナチ体制との関わりについて講義する。第13回・14回では、戦後ドイツがナチスの過去とどのように向き合っているのかについても検討する。

授業の到達目標

ナチ体制期の歴史についての基礎知識を習得するのはもちろんのこと、近現代ドイツ史や現代世界において、ナチズムの過去がどのような重要性を持つのかを理解できるようになることを目指す。さらに、歴史的事象を多角的視点から検討する姿勢を養う。

成績評価方法

●**試験**　70%　　最終回（第15回）で、授業の理解度を問う試験を行う。
●**レポート**　15%　　毎回の授業の最後に、理解度を問う簡単なペーパーの提出を求める。
●**平常点**　15%　　出席状況、授業態度を評価する（3分の2以上の出席が単位条件。その他、積極的に授業を聞く姿勢を評価する）。授業中の私語、スマートフォンの使用、居眠り、授業中の入退出は出席を認めない場合があるので注意すること。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	西洋古代史							
担当者名	井上　文則							
西史コース	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

2世紀の五賢帝時代に最盛期を迎えたローマ帝国は、3世紀の軍人皇帝時代以後、衰退期に入る。本講義では、この衰退期のローマ帝国史をシルクロード交易の歴史と関係づけながら、論じる。本講義は「ディプロマポリシー」に沿って、「人と情報が地球規模で交流し、文化が複雑に絡まりあい、多面的な様相がみられる時代を生き抜くための幅広い教養をもった人材を育成」することを目指す。

授業の到達目標

本講義で扱う時代は、ローマ帝国の衰退期であるだけではなく、古代社会が崩壊し、新しい時代が始まる時代の転換点でもある。単にローマ帝国についての知識を得るだけではなく、広い視野で歴史を考える力を養うことを目指す。

成績評価方法

●**試験**　60%　　理解度の確認で評価する。
●**レポート**　0%　　課さない。
●**平常点**　40%　　出席点とレビューシートの内容で評価する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	西洋中世史2　西洋中世の歴史的諸相							
担当者名	田中　史高　他／唐澤　晃一							
西史コース	2単位	秋学期	水曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

西洋中世史上の主要なトピックを、その回ごとに適宜取り上げ論じていきます。今年度は分担講義のかたちをとり、第1回から第3回までと最終回は東欧史、その他の11回は西欧史の専門的研究者が講義をおこないます。

授業の到達目標

この講義は、人類史上における西洋中世の重要性について認識を深め、グローバル世界で活動するための力、異文化地域としての西洋の歴史への理解と洞察力を深めるための一助となることを目標としています。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　学期末に西洋中世の任意のテーマについてレポートを提出してもらいます。
●**平常点**　60%　　出席状況、授業への取り組みを中心に評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	西欧史　スペインの現代史／内戦の背景							
担当者名	渡辺　雅哉							
西史コース	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

1936年から39年にかけて内戦の悲劇に見舞われたスペイン。そして、21世紀の今日では、折からのEUの危機の深まりと相まって、1970年代半ばに始まった民主化の過程が問い直されているかにも見えるスペイン。そんなスペインについて、歴史的な視点からあれこれ考える。

授業の到達目標

ピレネーの南に関して、各人が歴史を踏まえたイメージを持つこと。考察の対象は、主として19世紀の初頭から内戦までの現代史。さまざまな側面を扱うが、特に19・20世紀のアンダルシアに目を向けてみることにしたい。「自由主義」をその看板に掲げる国民国家の形成へ向けてひとまずは「離陸」を果たしながらも、国民の共生には失敗したスペイン。1936年に勃発した内戦こそは、その端的な証しだった。この「兄弟殺し」の破局へとスペインがのめり込んでいったプロセスのなかにアンダルシアが占める比重には、とりわけ大きなものがあったように思われる。

成績評価方法

割合　レポート70%と出席状況・授業態度30%の比率で評価する。レポートの内容その他については授業中に指示する。

科 目 名	近現代ロシア史　帝政ロシアの国家と社会							
担当者名	草野　佳矢子							
西史コース	2単位	春学期	水曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

1917年革命以前のロシアの政治文化の様相や社会構造を歴史的に考察する。

主にロシア帝国の歴史を、特に国家と社会の関係や、統治制度改革、政治改革をめぐる問題に焦点を当てて論じる。関連する映像の視聴も適宜行う。

授業の到達目標

帝政崩壊までのロシア史の流れ、キエフ・ルーシ、モスクワ・ロシアの特徴、ロシア帝国成立後に関しては各皇帝の治世の概要や主要な事件・改革の内容などについて説明できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　80%　　第15回目の授業時間中に論述式の試験（持ち込み可）を実施し、理解度の確認を行います。試験問題に関しては、第14回目の授業終了後、おおよその内容を発表します。なお、受験は第15回目を除き、10回以上の出席を前提とします。
●**レポート**　0%
●**平常点**　20%　　リアクションペーパーの提出など授業への参加態度。
●**その他**　0%

科 目 名	科学史　科学革命期の世界観―16・17世紀における「科学」・宗教・伝説―							
担当者名	山本　大丙							
西史コース	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

キリスト教的世界観が支配的な16・17世紀は、同時に科学革命の時代でもあった。地動説の登場、アジアやアメリカ大陸の探索、それらは西欧に大きな衝撃をもたらした。反面、人々は聖書に記されている天地創造を信じており、さらに数多くの伝説や神話が生き残っていた。まさに、古いものと新しいものが共存し、対立と融合を繰り返していたのが科学革命期であった。当時の人々の世界観を天文学史、地理学史、タイムスケール論という視点から考えてゆきたい。

授業の到達目標

西欧近世における科学の発展と世界観の変化をある程度理解する。

成績評価方法

●**試験**　50%
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%
●**その他**　0%

科 目 名	西洋史特別研究3　礫岩国家/複合国家としてのハプスブルク帝国							
担当者名	中澤　達哉							
西史コース	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

いわゆる西欧型国民国家の一元的支配にみる「凝集性」とは異なる、ハプスブルク帝国の多元的支配にみる「集塊性」を理解するための授業構成とする。その際、一人の君主が複数の国家・地域の君主を兼ね、その君主のもとで諸国家・諸地域が緩やかに連合している「複合君主政」のシステムを把握することが重要である。「合意」を旨とする複合君主政の政治文化はハプスブルク帝国史のほか、帝国以後の東欧現代史をも規定することになる。

なお、理解の一助のために、ポストコロニアル・スタディーズの分析方法もその都度学ぶとともに、文献史料のほか画像資料、民俗資料、映像資料も活用し、パワーポイントを使用した授業を行う。

授業の到達目標

東欧は「文明の十字路」といわれる。歴史的にはハプスブルク帝国、ポーランド=リトアニア共和国、ロシア帝国、オスマン帝国などの複数の巨大な大陸帝国が交錯した場であった。また、20ほどの諸民族が共存・抗争を繰り広げ、キリスト教の諸宗派（カトリック、ルター派、カルヴァン派、東方典礼カトリック、フス派、ボヘミア兄弟団、正教）がせめぎ合い、これらとユダヤ教・イスラム教とが接触する場でもあった。それゆえに東欧は、文化的な複数性と雑多性を特色とするユニークな場なのである。20世紀前半には二つの総力戦の着火点となり後半には社会主義の実験場ともなるような、人類史のダイナミズムを内包する地域でもあった。

こうした東欧を知るには、この地域に数百年に渡って存在したハプスブルク帝国の歴史を理解することが重要な鍵となる。特に、多民族の複合的国家形態や複合君主政体によって育まれた「合意」の政治文化の特性を理解できるようになること、以上が本講義の到達目標である。そのため、毎回の予習・復習が望ましい。

講義

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は課さない。

●**レポート**　50%　　正確かつ論理的な試験答案を作成することができる。試験は上記の「授業の到達目標」の達成度をみることを目的とする。

●**平常点**　50%　　30%　授業内容を理解し、質問などを通して、授業に積極的に参加している。 20%　リアクション・ペーパー・感想文で到達度を文章に表現することができる。

●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

早稲田大学ナショナリズム・エスニシティ研究所HP（http://wine-waseda.com/）および公式Twitter（@WineWaseda）

科 目 名	西洋史特別研究4　ハンムラビ王による統合支配体制－古バビロニア時代の歴史的意義・世界最古の民営化社会と『ハンムラビ法典』－							
担当者名	川崎　康司							
西史コース	2単位	春学期	水曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

古代メソポタミア世界の支配者が頻繁に「法典」を編纂するようになったウル第三王朝成立（前三千年紀末）からバビロン第一王朝崩壊（前二千年紀中頃）に至る約500年の歴史を概観し、彼らが何故「法典」を布告するに至ったのかをこの時代に起こった社会経済史的な変革に焦点を当てて考察する。新たな大転換期を迎えた前二千年紀前半の社会を伝える代表的史料『ハンムラビ法典』の本質と各条項のもつ社会経済史上の意義を講義する。

バビロン市の王ハンムラビ（在位前1792～1750年）は古代メソポタミア史上3番目の統一国家を築き、新たな統治体制の指針として『ハンムラビ法典』（以下、法典）を編纂させた為政者として有名である。近年、彼の生きた時代は古代メソポタミア史のみならず人類史上の一大変革期であったことが明らかになり、また、最新の資料研究に基づく彼の事績に関する総括的な研究書も再び増えつつある。しかしながら、彼の事績研究において最大の史料であるはずの『法典』の特徴づけは未だ伝統的な法制史解釈に偏り、彼が目指した統合支配体制の実態解明には十分に活かされていないと考える。本講義は『法典』の内容理解を主題とするが、そのような見解に至る理由を明らかにするため、まずはその成立の背景となるウル第三王朝期から古バビロニア時代までの歴史の流れを詳述することから始めてみたい。その後、原文から邦訳した『ハンムラビ法典』を利用して、全280条あまりの法令と前文・跋文を受講者とともに系統的に分析しながら、その特徴と内容を理解していく。「目には目を」あるいは身分法的特徴という漠然とした（刑法）イメージで知られるこの歴史的な史料の持つ真の意味が、果たしてそうなのかを検証するとともに、それ以外の条項（訴訟法・土地制度法・債権法・商法・家族法・契約法）の真意を、様々な副次的史料（プリント配布予定）を活用しながら検討していく。講義の回数が短いため、全てを明らかにすることは難しいと思われるが、最終的には、当時の都市社会に起った社会的・政治的そして経済的変化と『法典』の各条項の相関性、そしてハンムラビの統一国家運営の理念を理解してもらいたい。

授業の到達目標

1．古代メソポタミア文明の世界で展開された歴史の概要とその特徴を知る。

2．古代世界の歴史的な展開とその特徴を具体的な史料から読み解くための思考法を修得し、古代史研究におけるより専門的な史料読解や史料批判の方法、専門研究に必須となる基礎知識や歴史用語を身につける。

3．最新の研究状況を知り、歴史研究におけるテーマの立て方や分析の仕方、レポートの作製法を学習する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　・試験は行わずレポートと平常点評価で採点します。

●**レポート**　70%　　・第15回目の講義日前後に最終レポートを作成・提出してもらいます（事務所提出）。 ・レポート課題の詳細は、6月の授業中に詳細を提示します。 ・本講義で身につけた知識から独自のテーマを導き出し、的確に探求しレポート出来るかを評価します。 ・ 5月末締め切りで簡単な「課題図書読後感想文」を提出してもらいます。

●**平常点**　30%　　・毎回出席を確認します。出席を評価の対象とします。 ・毎回の講義前や講義中に質問や発言時間を設けます。積極的な質問や発言を評価します。

●**その他**　0%　　・平常の発言などを最終的な採点に加味します。

備考・関連URL

関連URL

http://www.oi.uchicago.edu/OI/DEPT/RA/ABZU-REGINDX-MESO.HTML（シカゴ大学オリエント研究所のホームア

ドレス・但し英文のみ）など
備考
講義で使用するレジュメは毎回配布する予定なので、整理用にA4版ファイルを用意してください。

科 目 名	西洋中世史1　中世ヨーロッパ世界の諸相：キリスト教秩序と都市社会							
担当者名	鈴木　喜晴　他／齋藤　敬之							
西史コース	2単位	春学期	水曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

近代ヨーロッパ、あるいは近代世界は、多かれ少なかれ変容を経つつも中世キリスト教世界から多くの遺産を受け継いでいる。この「中世」的なるものの諸要素は、おおよそ11世紀以降に明確な姿を現し、その後、現代の我々が「ヨーロッパ」と想定する地域全体へと広がっていった。本講義は二名の講師（鈴木・齋藤）がこうした諸要素を多角的に分析し、受講者に有機的な中世ヨーロッパ像を提示しようとする試みである。

鈴木はこの時期から教皇庁を軸として急速に発展した教会組織について論じる。齋藤は都市社会を取り上げ、その政治的・経済的・社会的様相について検討する。 講義で扱う地理的範囲は、主に教皇が活動したイタリアと、アルプス以北、すなわち現在のフランスやドイツに該当する地域に限られるが、時間の許す範囲でブリテン島や東欧のような周縁地域に関しても言及する。

授業の到達目標

・中世ヨーロッパ社会について一般的知見（学部レベルの教養、または西洋史コースの専門講義を理解するための予備知識）を得ること。

・中世ヨーロッパ社会の成立・統合過程を理解すること。

・教会組織あるいは教皇庁が社会に及ぼしていた影響力を理解すること。

・中世社会の秩序や人々の生活について当時の性質や現代との相違を理解すること。

・その他の諸問題についても、受講者自身が自主的に学習を深めていくための足掛かりをつくること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　70%　　期末に授業内容の理解度を確認するため、課題レポートを課す。
●**平常点**　30%　　出席カードを適宜配布する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	考古学概論							
担当者名	近藤　二郎							
考古コース	2単位	春学期	土曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

考古学とは、どんな学問分野であるか、その形成期からの歴史をたどりながら、「考古学」の全容を説明していく。特に、ダーウィンの進化論が発表されて以降、近代の所謂、伝統的考古学は、進化論を取り入れて発展してきた。また、考古学は、ヒトの誕生から現代まで極めて広範な時代・地域を扱う分野である。本講義は、考古学の基礎を学ぶとともに、その時代や地域による特徴・特色にも言及していく。

授業の到達目標

考古学史を学ぶことで、現在の考古学研究がどのように研究されていったのかを理解することを目標としている。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません。
●**レポート**　40%　　期末課題レポートの提出を義務づける。
●**平常点**　60%　　出席、授業態度などを加味して評価する。出席は2／3以上を原則とする。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

4月におこなわれる早稲田大学考古学会の講演・研究発表の聴講を振り返るとともに、教場に替えてオンデマンド授業で受講をする回があるので、お知らせなどをキチンとチェックすること。

科 目 名	日本考古学概説							
担当者名	長崎　潤一　他／城倉　正祥／高橋　龍三郎							
考古コース	2単位	秋学期	無	フルOD	1年以上	—	合併科目	フルオンデマンド

授業概要

発掘された遺跡・遺構、あるいは土中から出土する考古遺物を駆使して、人類が辿ってきた遥かな道のりを考究する学問が考古学である。本講義では、日本考古学、特に旧石器時代から古代までを対象とし、最新の発掘成果や最先端の研究成果を踏まえて各時代の特色を講義する。日本列島では、高度経済成長期に進んだ開発に伴う発掘調査によって、膨大な考古学的資料が蓄積されている。しかし、考古遺物の分析が精緻化するほど研究も細分化され、通時的な歴史像が描き難くなっているのもまた事実である。本講義では、人類がなぜ立ちあがり、狩猟・採集・漁労の時代を経て稲作へと進んだのか、そして巨大な古墳を作る時代から寺院・都城を造営する国家体制へと変貌を遂げていくのか、各時代の歴史的特色を明らかにする作業を通じて列島に生きた人々の営みとその道のりを通時的に描き出すことを目的とする。

授業の到達目標

本講義では、受講者が日本考古学に関する基礎的な知識を得ると同時に、列島における人々の営みを通時的に位置付ける視点を養うことを目標とする。

成績評価方法

オンデマンド授業の進展に合わせて小テストを課する。備考欄に記した見学レポートを課す場合がある。また、授業の最後に

は理解度を確認するための試験を実施するが、実施方法についてはコースナビまたはWaseda Moodleで通知するため、チェックすること。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。
学内博物館施設、展示施設、学外博物館などの見学レポートを課す場合がある。

科 目 名	世界の考古学　東南アジアの考古学							
担当者名	田畑　幸嗣							
考古コース	2単位	春学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フルオンデマンド

授業概要

東南アジアの考古学をとりあげます。東南アジアは、熱帯モンスーン気候帯に属し、島嶼と大陸というおおきな地理的・歴史的なまとまりをもっていますが、その歴史や文化は、現在の国境線にとらわれず、華南（台湾）とオセアニアまで視野にいれなければ理解できません。

授業では、このような前提にたち、旧石器時代から古代国家の成立までを中心に、それぞれの地域での調査成果と定説、最新の解釈などについて講義します。また、東南アジアの世界文化遺産についても時間が許せば講義をします。

履修する場合、備考の欄をよく読んでおくこと。

授業の到達目標

東南アジアに固有の生態学的環境や歴史的文脈を理解したうえで、代表的な時代区分、文化、遺跡、遺物、年代観などを身につけることを目標とします。

成績評価方法

出席・各回ごとの小テストと最終レポートで評価します。履修人数によっては、出席と小テストの成績のみで評価します。必要に応じて中間レポートを課す場合もあります。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。
講義期間内ならばいつでも自由に視聴できるオンデマンド授業ですので、出席（コンテンツの視聴と確認テストへの回答をもって出席とします）については通常の授業よりも厳しい基準を採用します。
出席は100%以外は認めません。
大学の定めるやむを得ない事情（忌引き、病欠などがこれにあたります。サークル活動や就職活動はやむを得ない事情とは認められません）の場合、それを証明することのできる資料を提出してもらいます。なお、やむを得ない事情であっても、欠席回数が多い場合、最終成績がGとなります。何回までやむを得ない欠席を認めるかは、それぞれの状況（その時点での学習状況や授業の進展の度合い）に応じて判断します。いずれにせよ、出席は非常に厳しくチェックされます。

受講の前に、利用環境等などについて、コースナビおよびWaseda Moodleの学生向けマニュアルを熟読してから受講してください。PCのエラーや操作ミスで、小テストが受験できなかったという連絡を受けることがありますが、これに関しては、その申し出が本当かどうかをこちらで確認することができません。従って、一切救済措置は取りません。受講環境には十分注意してください。

この授業には学習順の指定があります。科目登録期間後に配信される第二回以降は、聴講と小テスト受験が終わらない限り、次の回の聴講と小テストを受けることができませんので、注意してください。
バックナンバー聴講の場合、やむを得ない事情であれば出席としますが、そうした連絡がなくバックナンバー聴講をしても、欠席扱いとなります。やむを得ない事情でない限り、各講義期間内に聴講しなかった回が一つでもあれば、成績は自動的にGになります。十分注意してください。
バックナンバー聴講のしかたなど、システムに関することはヘルプデスクに問い合わせてください。教員に連絡されても答えられません。

レポートや成績評定の詳細については、授業中にお知らせします。

科 目 名	現代社会と考古学　現代社会における考古学の役割							
担当者名	長崎　潤一							
考古コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フルオンデマンド

授業概要

フルオンデマンドで行う。 考古学は過去の歴史的な事象について扱う学問であるが、考古学の扱う『遺跡』は現代にまで残ってきた文化財（文化遺産）であり、この文化財としての『遺跡』は現代に属するものである。この授業ではこうした『遺跡』の有する現代的な意義について考える。

近年ではこうした『遺跡』は人類共通の遺産として世界遺産に登録されたり、文化遺産（文化資源）として観光にも活用されたり、地域で一定の役割を果たしている。一方で現代人の建設・開発行為によって日本でも多くの遺跡が失われてきたし、現在でも発掘された後にはほとんどの遺跡は壊される。こうした埋蔵文化財問題についても扱う。

また日本では考古学関連の報道が多く報道によって遺跡の保存の方向性が決まったりもする。考古学と報道の関係はある部分危ういし、ある分依存的である。また国家や地域住民のアイデンティティと遺跡が結びつく場合や、考古学的な解釈が国家に都合良い形で利用されてしまうことがある。こうした事例についても解説する。

●考古学についての専門知識を必要としないので、他学部の諸君の積極的受講を歓迎する。

授業の到達目標

考古学が現代社会においてどのような役割を演じているのか理解できるレベルを目標とする。遺跡が語るメッセージを現代社会がどのように受けとめるのか、また文化資源としての遺跡の価値、考古学報道に対するリテラシーを養成する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　20%　　期末レポートを課す。なお授業動画を視聴し、小テストで一定以上の成績を取った受講者だけが期末レ

ポートを提出することができる。
●**平常点**　10%　　平常点はその他に記載した小テストで評価するが、授業への質問を書き込みを授業への積極的参加とみなし、平常点に加算する。
●**その他**　70%　　各授業動画には小テストが付属する。この小テストで一定以上の点数を取れなかった場合、授業動画を視聴しなかったとみなし、期末レポートを提出することができない。

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。
講義と関連した、学内博物館、展示施設、学外博物館等の見学と見学レポートの提出を課する場合がある。

科 目 名	アジア考古学交流　東アジア古代都城の比較考古学							
担当者名	城倉　正祥							
考古コース	2単位	春学期	火曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

多極化が進む現代社会において、東アジア各国の結び付きはますます深く、そして濃密になりつつある。しかし、歴史的にみれば、東アジア世界は常に相互に深い関係を保ちながら発展の道をたどってきた。特に、中国で隋唐帝国が出現する6-8世紀には、東アジア各国が中国の最先端の文化・文物を競って取りいれたことが知られる。都城と呼ばれる中国式の都市もその一つである。皇帝（天皇）の居住空間であると同時に政治・経済・行政の中枢である宮城と皇城、その周囲に整然と区画された碁盤目状の街区で構成される都市空間（里坊）、東アジア各国における都市の成立は、まさに唐帝国を模倣した中央集権体制の成立（日本の律令制など）と不可分の関係にある。
本講では、隋唐期に頂点を迎える都城という都市機能が中国においてどのように成立し発展したか、そして隋唐期の都城がどのように東アジア各国に伝播し、各国の伝統と結びつきながら受容されたかを考古学の発掘成果に基づいて比較検討する。我々の地下に眠る古代都市の復原を通して、文献史学とは異なる角度から古代東アジアの国際交流を考えてみる。

授業の到達目標

本講は、考古学からみた古代東アジアの国際交流について理解を深めると同時に、受講者自身が東アジアの視点で歴史を捉える力をつけることを目標とする。レポートの作成を課題とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　30%　　授業の内容を踏まえ、特定課題のレポートを義務づける。その内容により評価する。
●**平常点**　70%　　授業への出席状況より評価する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	文化財の保存と活用　埋蔵文化財の保存と活用							
担当者名	西田　健彦							
考古コース	2単位	春学期	土曜日	5時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本の文化財保護法は、その目的を「文化財を保存し、且つその活用を図り、もって国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献する。」とする。日本各地には先人が残した多様な文化遺産が今も豊富に伝えられてきている。それらは地域の誇りであり、地域への愛着をもたらす精神的な拠り所でもあるとともに、地域の歴史的、文化的環境を形作る重要な資産である。その価値は国民、地域住民が直接、間接に享受することが求められ、文化財保護行政は保存と活用のために様々な施策を行ってきている。戦後、我が国の文化財保護行政において大きな役割を果たしてきたのが、遺跡をあつかう埋蔵文化財保護行政の分野である。開発事業から遺跡を保護するために、都道府県だけではなく、市町村も含めて考古学を専攻した専門職員を配置して、多くの発掘調査を行ってきた。その結果、歴史を書き換え、全国各地域に豊かな固有の歴史があることを明らかにしてきた。これまでに蓄積された豊富な成果は、今日の社会が求めている地域づくり、ひとづくりにつながる資産となっている。
授業では埋蔵文化財保護の歴史、法制度、行政施策、世界遺産などについて、我が国の埋蔵文化財保護を中心に概観する。

授業の到達目標

日本の文化財保護について、埋蔵文化財や史跡を中心にして、以下の項目について理解するとともに、これからの地域づくり、まちづくりのために、文化財の保存と活用をどのように展開させるかを学ぶ。
1、 文化財の種類と内容
2、 埋蔵文化財保護の歴史
3、 埋蔵文化財保護の法制度と仕組み
4、 史跡・埋蔵文化財の保存と活用
5、 文化財保護と地域づくり
6、 世界文化遺産と日本

成績評価方法

●**試験**　90%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。試験の解説も同時間内に行います。資料の持ち込みは一部認める。
●**レポート**　0%
●**平常点**　10%　　出席状況
●**その他**　0%

備考・関連URL

最新の埋蔵文化財保護情報（新たに指定された文化財、発掘調査成果、展覧会など）については、文化庁、奈良文化財研究所、都道府県教育委員会、都道府県の埋蔵文化財発掘調査組織（公立または公益財団法人の埋蔵文化財調査センター）のホームページに掲載されているので、参考にすること。

科 目 名	原始古代の社会と宗教（アジア）							
担当者名	高橋　龍三郎　他／深山　絵実梨							
考古コース	2単位	秋学期	月曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

アジア地域における宗教と社会について、日本および東南アジアの考古学から解き明かす。特に先史時代から古代にかけての社会動態は前近代の基層社会を形成しただけに重要視される。当時の文化と社会が大きく宗教的側面との関わりで形成され、その変化に際しても大きな影響力をもっただけに、当時の精神世界を詳しく検討する必要がある。 講義では日本とベトナム等東南アジアの原始古代に光を当てて、原始信仰や成立宗教などとがどのように影響を及ぼしながら社会を形成したのかについて、考古学の立場から遺跡、遺構、遺物の実態を解明する。

授業の到達目標

考古学を通じて原始古代の文化と社会について、宗教的側面から理解することに努める。特に現代の日本社会、東南アジアの社会とは相当に異なる側面が明らかにされるが、なぜそのように理解されるのか、理論と宗教的論理に基づいて理解できるようにする。

成績評価方法

●**試験**　50%　　試験を実施する。
●**レポート**　0%　　特になし。
●**平常点**　50%　　出席点を評価する。
●**その他**　0%　　なし

講義

科 目 名	原始古代の社会と宗教（エジプト・マヤ）　エジプトとマヤの社会と宗教							
担当者名	近藤　二郎　他／寺崎　秀一郎							
考古コース	2単位	春学期	月曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

考古学研究は物質文化を通じて、過去に存在した社会の復元を目指すことを原則としているが、人類の営為のすべてが物質的残滓として、現在を生きる私たちの前に存在するとは限らない。むしろ、多くの情報はすでに失われてしまっていることも多い。そこで、物質文化＝考古資料を手がかりに、遠い過去に暮らした人びとが何を考え、どのような社会に生きていたのかを解き明かしていくことが必要となる。考古学の手法をもとに宗教や信仰などの精神文化を含む過去の社会の“実像”を描き出す方法を紹介する。本年度は、前半にエジプト文明について、後半にマヤ文明に関する講義をおこなう。

授業の到達目標

本講義では、旧世界と新世界を代表する古代文明であるエジプトと中央アメリカのマヤについて取り上げる。時間的空間的に遠く隔たったエジプトとマヤを比較し、人類社会の多様性と普遍性について考えてほしい。

成績評価方法

●**試験**　50%　　受講者の理解度を確認するための試験を実施する
●**レポート**　0%　　実施しない
●**平常点**　50%　　出席（コースナビまたはWaseda Moodleへの記入）、受講態度等から判断し採点する。なお、受講生は受講後、コースナビまたはWaseda Moodle上のレビューシートに必ず記入すること。レビューシートへの記入をもって出席とする。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	環境と考古学　環境考古学の基礎を学ぶ							
担当者名	馬場　匡浩							
考古コース	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

考古学では主に土器や石器などの遺物、住居址や墓などの遺構から過去を復元する。しかし、遺物や遺構からだけでは、十分に理解することができない。人は自らが生活する周辺の自然環境に、適応または改変する中で必要に応じて様々なものをつくり出す。つまり、遺物や遺構と自然環境をあわせて考えることで、はじめて過去社会の具体像を理解することができる。また、人類史の大きな流れをみても、地球環境の影響は少なくない。人が文化を創出する環境の基盤を明らかにし、さらに人と環境の相互関係を考える学問が環境考古学である。

本講義では、まず環境考古学を学ぶ意義について述べたうえで、過去の自然環境や人間の動植物資源利用を復元する基礎的な方法について説明していく。また後半では、古代文明と環境の問題も扱う。

授業の到達目標

考古学を学ぶうえで必要となる基礎的な環境考古学の知識を身に着け、環境史を学ぶ意義を理解する。

成績評価方法

●**試験**　50%　　教場にて、筆記試験を行う
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　出席状況および授業における積極性を重視する
●**その他**　0%

科 目 名	考古学方法論　考古学の基礎概念・研究法・理論							
担当者名	田畑　幸嗣							
考古コース	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フルオンデマンド

授業概要

考古学とはどのような考えかたをし、どのような問題が考古学のテーマとなっているのでしょうか。

授業では、考古学の基本的な考えかた、概念、方法論や理論について学びます。実際に遺跡に出かけるところから、発掘調査、データの整理、分析や発表のありかたについて、

具体的な事例をまじえながら解説します。考古学の研究現場で実践されている調査・分析方法を紹介し、物質文化から過去の

人類活動を復元するための具体的な方法、問題点、理論的前提について論じていきます。
なお、特定の地域や時代（例えば日本の縄文文化など）を取り扱う授業ではありませんので、注意してください。
履修する場合、備考の欄をよく読んでおくこと

授業の到達目標

専門的な学習を開始する際に必要なの基礎知識と方法論を身につけることを目指します。考古学とはどのような考えかたをする学問なのか、について自分の言葉で説明できるようになることが授業の最終的な目標です。

成績評価方法

各回ごとの小テストと最終レポートで評価します。履修人数によっては、出席と小テストの成績のみで評価します。必要に応じて中間レポートを課す場合もあります。

備考・関連ＵＲＬ

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。 講義期間内ならばいつでも自由に視聴できるオンデマンド授業ですので、出席（コンテンツの視聴と確認テストへの回答をもって出席とします）については通常の授業よりも厳しい基準を採用します。
出席は100%以外は認めません。
大学の定めるやむを得ない事情（忌引き、病欠などがこれにあたります。サークル活動や就職活動はやむを得ない事情とは認められません）の場合、それを証明することのできる資料を提出してもらいます。なお、やむを得ない事情であっても、欠席回数が多い場合、最終成績がGとなります。何回までやむを得ない欠席を認めるかは、それぞれの状況（その時点での学習状況や授業の進展の度合い）に応じて判断します。いずれにせよ、出席は非常に厳しくチェックされます。

受講の前に、利用環境等などについて、コースナビおよびWaseda Moodleの学生向けマニュアルを熟読してから受講してください。PCのエラーや操作ミスで、小テストが受験できなかったという連絡を受けることがありますが、これに関しては、その申し出が本当かどうかをこちらで確認することができません。従って、一切救済措置は取りません。受講環境には十分注意してください。

この授業には学習順の指定があります。科目登録期間後に配信される第二回以降は、聴講と小テスト受験が終わらない限り、次の回の聴講と小テストを受けることができませんので、注意してください。
バックナンバー聴講の場合、やむを得ない事情であれば出席としますが、そうした連絡がなくバックナンバー聴講をしても、欠席扱いとなります。やむを得ない事情でない限り、各講義期間内に聴講しなかった回が一つでもあれば、成績は自動的にGになります。十分注意してください。
バックナンバー聴講のしかたなど、システムに関することはヘルプデスクに問い合わせてください。教員に連絡されても答えられません。

レポートや成績評定の詳細については、授業中にお知らせします。

科 目 名	文化財行政学　文化財保護の制度と行政							
担当者名	御堂島　正							
考古コース	２単位	春学期	土曜日	１時限	３年以上	—	合併科目	—

授業概要

わが国における文化財保護制度と行政の実務について基礎的な知識が身につくよう、文化財保護の基本的事項や各種文化財の保護制度について、文化財保護法をもとに、できるだけわかりやすく解説する。

授業の到達目標

文化財保護の制度と行政実務の基礎を理解し、地方公共団体等の文化財専門職員として必要な基本的知識を得ることができる。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行う。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　授業に対する取り組み姿勢（積極的な発言や受講態度など）を評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	野外考古学概論							
担当者名	竹野内　恵太							
考古コース	２単位	秋学期	金曜日	１時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

考古学において、野外調査（フィールドワーク）は研究対象となる資料を収集するための主要な手段である。一般に、考古学の野外調査は、過去人類の痕跡が埋まっている遺跡の発掘調査と同義である。一方で、今日の考古学者たちは、「遺跡分布調査」や「測量調査」、「民族考古学的調査」など、発掘調査の他にもさまざまな方法を用いた野外調査を実践している。また、考古学の野外調査によって得られた資料は、基本的に物質文化（土器や石器、建造物などの「モノ」）から構成される。遺跡に残された痕跡それ自体から過去の人々の慣習や信仰、生活、社会システムなどを直接復元することは難しいため、それらを適切に解釈する枠組みがしばしば必要となる。そこで本講義では、主として野外調査の手法について紹介するとともに、民族誌や歴史文書、文字・図像資料の援用など、物質文化に対する解釈の枠組みを構築する研究手法についてもとりあげる。 さらに、考古学の野外調査と現代社会との関係性およびその問題点についても触れてみたい。いずれにおいても、全ての地域を網羅することはできないため、講師がこれまでにエジプトで実施してきた野外調査の事例を中心として、その実際の様子を紹介しながら進めていく。

授業の到達目標

考古学研究における野外調査の意義と重要性について認識し、その多様な方法に対する理解を深め、考古学と現代社会との関係性について見識を得る。

成績評価方法

●**試験**　0%　　予定しない
●**レポート**　70%　　授業の理解度とオリジナリティ、ならびに文章展開の論理的整合性、説得力を重視する

●**平常点**　30%　　出席状況および受講態度による
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	理論考古学							
担当者名	山本　典幸							
考古コース	2単位	春学期	金曜日	3時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本における理論考古学への関心とその動向を、米英の考古学思想史と比較しながら講義する。理論考古学とは、簡単にいえば考古学研究の中で特に理論・方法論について議論する狭義の分野を指している。狭義の意味での理論考古学は、考古資料の分析によって時間的・空間的な差異や変化などを追究する記述考古学との間で、人類史の再構成といった論理構造にとって双方向的な役割を担うことになる。

本講義でいう理論考古学は狭義の理論考古学に加えて、記述考古学と狭義の理論考古学との間で双方向性をもつ思考の枠組み（思考の過程）も意味している。 狭義の理論考古学と思考の枠組みとしての理論考古学の両方を学ぶということは、考古資料に関する専門的な知識を身につけるだけでなく、その資料はどのような過程で生み出されたのか、なぜ変化や維持が起きるのか、変化は他の技術や社会、観念などにどういった影響を与えるのか、そもそも取り扱う考古資料は文化の中でどのように位置付けられる存在なのかなどを評価する論理力の会得にもつながる。

講義

授業の到達目標

1. 1960年代から米英を中心に本格的に議論されてきた理論考古学の歴史を、欧文書籍を通して知ることができる。
2. 理論考古学の世界的な針路と比較しながら、編年の精緻さと充実した記述考古学に依拠する旧石器／縄文／弥生／古墳時代研究において、日本型の理論考古学の形成が可能か否かを判断することができる。
3. 理論考古学の世界的な水準を理解し、研究対象の時代や地域に関係なく考古資料の分析と理論・方法論との間の双方向性を自ら実践できるようになる。

成績評価方法

期末に提出する課題レポートの内容40%、出席40%、授業時のコメント20%

備考・関連URL

講義の中では、理論考古学に関する欧文書籍を紹介したり、それらの文献に対して学生からのコメントを随時求めていくので、積極的な参加を望みます。また、理論考古学に対する学生の理解度を深める意味から、第7回頃に理論考古学の論点の共有化と整理を目的に、教員と学生の間でフリートークを催します。

科 目 名	考古学と関連科学　A　考古学と自然人類学のリンクを目指して							
担当者名	藤田　尚							
考古コース	2単位	春学期	土曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本は火山列島であり、酸性土壌のため古人骨は残りにくい。しかし、縄文時代の貝塚や、江戸時代の遺跡からは、しばしば古人骨が出土する。自然人類学者の数が少ないため、古人骨は考古学者によって取り上げられ、鑑定を依頼することになる。しかし、出土した古人骨の取り上げ方、いわゆる初期対応の良し悪しが、資料としての古人骨の「価値」を決めることが多い。従って、本授業では、古人骨が出土した場合の対処法について解説する。また、考古学者は自然人類学の基礎知識を習得する必要がある。8000万年前に出現した初期霊長類が進化を遂げ、初期人類は700万年前に出現したと考えられている。人類は高度な文明を発達させたが、それは、直立二足歩行とそれによる大脳の巨大化によるものである。初期人類から我々ホモ・サピエンスまでの進化の過程を概説するとともに、日本における旧石器人、縄文人、弥生人などの特徴を解説し、現代日本人がどのような過程によって形成されたのかを学ぶ。

授業の到達目標

日本では、考古学と自然人類学は、文系と理系に分かれているが、欧米圏ではDepartment of Archaeology and AnthropologyもしくはDepartment of Anthropologyとして、考古学、自然人類学、民俗学、民族学、文化人類学、言語学などは包括した学問としてみなされる。本講義は自然人類学の講義であるので、受講生諸君は、

1)ヒトの進化の概略について理解し、考古学分野において応用することができる。
2)ヒトの骨格の基本的知識を習得し、発掘現場での対応ができるようになる。
3)ヒトの食性や行動の原点が霊長類に見られることを理解し、考古学の立場からヒトを考える際に、その知識を生かすことができるようになる。
4）近代以前の人類は、非常に短命であり、その原因は感染症・寄生虫症での高い死亡率である。現在の長寿社会とは根本的に異なる、近代以前の社会での出産、成長、寿命などを、各種の感染症等から理解し、考古学分野で活用することができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　70%　　最終授業時間に試験を実施し、理解度の確認を行います。試験の形式は論述試験です。設問に対し、ポイントを的確に押さえた論述力を基本評価としますが、自己学習による、より高い知識習得度はプラス要因となります。
●**レポート**　30%　　理解度の中間的意味として、第7回授業終了後にレポートを課します。課題は講義時間に示します。霊長類や初期人類の特徴などが良く理解できているかを確認します。
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

備考・関連URL

「出席」についての留意点
・出席は9割以上を目標に、7割（11回）を下回らないように留意してください。パワーポイントを多用する授業ですので、出席回数が少ないと、理解度の低下が予想されます。

科 目 名	考古学と関連科学　B							
担当者名	佐々木　由香　他／小林　謙一／早田　勉／樋泉　岳二							
考古コース	2単位	春学期	土曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

遺跡の発掘調査で出土する様々な自然遺物は、動植物遺体から石材、炭化物など多様なものからなっており、それらは年代や文化、社会を探る上で重要な情報源となる。自然遺物をどのように扱い、そこからどのような情報を引き出すかは専門的な知識と技術を必要とする。講義では、年代、植物遺体、動物遺体、火山灰編年学等について、それぞれの専門研究者が実際の資料をもとに、方法論、分析法、解釈の仕方などについて講義する。

授業の到達目標

考古学研究における関連科学の知識・技術の必要性び関連科学を援用した研究方法・成果を理解できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　80%　　試験またはレポート（各担当者ごとに課す評価を合計する）80%、試験・レポートの別は、講義の際に各担当者が指示する。なお、4名の担当者による理解確認の課題評価を、それぞれ受けなければ成績評価されないので注意されたい。
●**レポート**　0%　　-
●**平常点**　20%　　出席8割以上を必要とする。
●**その他**　0%　　-

科 目 名	中東・イスラーム研究入門　観光から中東・イスラームを理解する							
担当者名	安田　慎							
イスコース	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

世間一般のイメージとは異なり、中東・イスラーム社会には豊かな観光文化が根付き、現在でもさまざまな形で受け継がれている。さらに、西洋を中心とした国際観光市場が形成されるなかで、中東・イスラーム社会もまた、多くの変容と課題と立ち向かうことになってきた。そこで本講義では、観光という文脈から中東・イスラーム社会を見ることを通じて、当地に関するさまざまな課題や可能性について議論していきたい。

授業の到達目標

1. 中東・イスラーム社会に関する基礎概念について説明できる。
2. 中東・イスラーム社会の研究動向について説明することができる。
3. 中東・イスラーム社会について、中東・イスラーム研究の議論を踏まえたうえで、観光の文脈から自らの調べた内容を議論することができる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　講義毎の小レポート課題（A4で1枚程度）
●**その他**　0%

備考・関連URL

・希望者がいる場合、東京都内の中東・イスラームに関連する場所（宗教・文化施設、料理店）へのツアーを実施する。なお、ツアーの費用については参加者の負担となる。詳細は講義内で案内する。

科 目 名	中東・イスラーム基礎研究　中東の社会と歴史							
担当者名	大稔　哲也							
イスコース	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この講義では、中東やイスラーム教徒(ムスリム)の歴史と文化・社会について、幾つか焦点を絞って省察を深めます。とりわけ、聖者崇敬と聖墓参詣、慈善と寄進(ワクフ)、十字軍やクルド問題、パレスチナ問題、西アフリカ・マリの社会と歴史、死と他界観、公共性、グローバル化のなかのイスラームなどのテーマを手懸りとして、具体的に探ってゆきます。その上で、エジプトに対象を絞って、現代社会の成り立ちや「アラブの春」後の人々のあり方などについても考察します。なお、毎回、必ず映像・図像資料や現物を使用し、より鮮明な理解が得られるよう試みます。

授業の到達目標

中東やムスリム社会に対する偏見を一度取り払い、中東やイスラームに関する眼力と思考力を深めることができるよう努めます。また、学生の側からも、主体的な参加が望まれます。直接伝えたいことがあるために講義していますので、出席は必須です。

成績評価方法

レポート70%、平常点30%。

備考・関連URL

・初回のガイダンスには必ず参加すること。
・アラビア語をはじめとする中東の言語を、他の授業で学習することが望ましい。

科 目 名	中東・イスラーム前近代史1　イスラーム史概論							
担当者名	五十嵐　大介							
イスコース	2単位	春学期	月曜日	2時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義は、文学部の中東・イスラーム研究コースの3年時必修講義であり、本コースの学生が専門的な知識を深め、中東・イスラーム研究を体系的に深く学び、時代の波に翻弄されることなく、確かな視点から人間の本質にアプローチするために必要な学力を会得することを目的とする。7世紀のイスラーム共同体の成立と発展は、人類社会の政治・社会・文化の多方面に大きな影響をもたらした、世界史上の重要な事件であった。本講義では、イスラーム時代の中東・西アジアの歴史全般について学ぶ。

授業の到達目標

前近代イスラーム世界の歴史の流れを理解するとともに、その特徴を理解し、説明できるようになる。
イスラーム史の重要テーマについて、その特徴を理解し、説明できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　100%　　学期末の試験で評価します
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　0%　　なし
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	中東・イスラーム前近代史2　中世アラブ・イスラーム史の諸問題							
担当者名	五十嵐　大介							
イスコース	2単位	秋学期	木曜日	1時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義は、文学部の中東・イスラーム研究コースの3年時必修講義であり、本コースの学生が専門的な知識を深め、中東・イスラーム研究を体系的に深く学び、時代の波に翻弄されることなく、確かな視点から人間の本質にアプローチするために必要な学力を会得することを目的とする。 10世紀の中東・イスラーム世界は、アッバース朝カリフの弱体化とともに政治的統一性が失われ、各地に軍人政権が登場する、新たな時代を迎える。本講義では、マムルーク朝時代（1250-1517年）のエジプト・シリアを主たる対象として、中世アラブ・イスラーム史に関する重要なトピックを複数取り上げ、学ぶ。

授業の到達目標

中世アラブ・イスラーム世界の歴史を、イスラーム世界の歴史全体の中に位置づけ、その特徴を理解し、説明できるようになる。
中世アラブ・イスラーム史の重要テーマについて、その特徴を理解し、説明できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　100%　　学期末の試験で評価します
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　0%　　なし
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	イラン・トルコ研究　近現代イランに関する文献・論文講読							
担当者名	杉山　隆一							
イスコース	2単位	春学期	火曜日	3時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

近現代のイランに関する様々なテーマを扱った邦語の文献、研究論文を輪読形式で精読する。毎回受講生の中から1～2名担当者を決め、扱う文献についてレジュメを準備してもらい、報告をしてもらう。報告終了後、その内容について参加者全員で議論を行う。

授業の到達目標

19世紀末以降のイランにおける国民国家の形成とその過程で生じた問題、そして1979年に起きたイスラーム革命以降の社会、国際関係の変容その他多様なテーマを扱った論文を参加者全員で読んだうえで、議論を行う。文献の読解を通じて、近現代のイラン社会そして地域をめぐる状況がいかに変化していったかについての理解を深めると共に、先行研究に対する批評能力を身につけることを目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　授業で取り上げたテーマについて、自身が報告を担当した箇所、もしくは一番興味を抱いた点についてレポートを作成し、提出することを求める。詳細は授業内で指示する。
●**平常点**　60%　　文献に基づいて報告をしてもらい、その上で議論を行うという授業の形態から、出席は重視する。その上で、授業での報告の内容や議論への参加度（発言およびその内容）を評価の対象にする。
●**その他**　0%

備考・関連URL

上記の授業計画（個々の授業で扱うテーマ）に関しては、受講生の興味関心を踏まえた上で変更することがある。

科 目 名	南・東南アジアやアフリカのムスリム社会　東南アジアにおけるイスラームの展開							
担当者名	弘末　雅士							
イスコース	2単位	秋学期	月曜日	2時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

東南アジアにおけるイスラームの展開を、1）近世期における東西交易の活性化と港市国家の隆盛、2）植民地支配とムスリム、3）民族主義運動とイスラーム、4）グローバリセーション下の国民統合とイスラーム、の4つの観点から考察する。この地域が、多様な周辺世界との交流をとおして、独自のムスリム社会を形成してきたことに着目し、広域秩序と個別的な社会秩序の関係について検討する。

授業の到達目標

広域秩序原理としてのイスラームと個別的な社会を形成する秩序原理が、緊密に連関していることを理解する。両者を仲介する存在の重要性を考える。

成績評価方法

●**試験**　70%　　最終授業時の試験
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　授業への出席と、配布する用紙に記述された授業内容へのリスポンスを評価対象にします。
●**その他**　0%

科 目 名	アラブ文化研究1 ―アラブを知り、アラブを通して世界を見る―							
担当者名	師岡　カリーマ・エルサムニー							
イスコース	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要

「アラブ」と聞いて真っ先に浮かぶイメージは？「石油」、「砂漠」、「イスラーム」、「テロ」、「戦争」・・・でもこれらは、時にメディアなどによって作られたイメージであり、アラブ世界の一面しか語りません。アラブの人々は、何を創り、何を食べ、どのような言葉で語り、何に感動したり涙したり笑ったりするのか。彼らは世界をどのように見つめているのか。アラブ人の視点に立った時、見えてくる世界とは？このコースでは、アラブの詩、文学、映画、芸能、風俗、生活習慣に触れ、メディアからは見えてこないアラブ人の真の姿に迫ります。

授業の到達目標

アラブ・イスラーム世界に対して皆さんが持っているステレオタイプから脱却することが第一の目的です。そこから出発し、アラブのみならず、あらゆる事柄についてメディアの報道などを鵜呑みにせず、自らの想像力と探求力で世界を知り、理解する「批判的な目」を育んでほしいと思います。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　60%　　課題図書：ガッサーン・カナファーニー著、中編　『太陽の男たち』『ハイファに戻って』（河出文庫）の読後レポート　映像作品鑑賞レポート
●**平常点**　40%　　ディスカッションに積極的に参加してください。出席回数もここに含まれます。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	アラブ文化研究2 ―アラブを知り、アラブを通して世界を見る―							
担当者名	師岡　カリーマ・エルサムニー							
イスコース	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要

「アラブ」と聞いて真っ先に浮かぶイメージは？「石油」、「砂漠」、「イスラーム」、「テロ」、「戦争」・・・でもこれらは、時にメディアなどによって作られたイメージであり、アラブ世界の一面しか語りません。アラブの人々は、何を創り、何を食べ、どのような言葉で語り、何に感動したり涙したり笑ったりするのか。彼らは世界をどのように見つめているのか。アラブ人の視点に立った時、見えてくる世界とは？このコースでは、アラブの詩、文学、映画、芸能、風俗、生活習慣に触れ、メディアからは見えてこないアラブ人の真の姿に迫ります。

授業の到達目標

アラブ・イスラーム世界に対して皆さんが持っているステレオタイプから脱却することが第一の目的です。そこから出発し、アラブのみならず、あらゆる事柄についてメディアの報道などを鵜呑みにせず、自らの想像力と探求力で世界を知り、理解する「批判的な目」を育んでほしいと思います。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　70%　　ナギーブ・マフフーズ著　塙治夫訳　『バイナル・カスライン』（河出書房新社）又は新訳『張り出し窓の街』（国書刊行会）の読後レポート　映像作品鑑賞レポート
●**平常点**　30%　　ディスカッションに積極的に参加してください。出席回数もここに含まれます。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	中東・イスラームの宗教と思想1　イスラーム思想論1							
担当者名	小林　春夫							
イスコース	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要

イスラームにかんする基本知識を確認しながら、思想史のやや専門的内容について考察する。

授業の到達目標

イスラーム思想の多面性や内容について正確に理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　期末レポート。授業の内容を踏まえ、発展的な内容になっていることを評価する。
●**平常点**　50%　　授業への積極的参加を評価する。また毎回のリアクションペーパーにより内容の理解度を確認する。
●**その他**　0%

科 目 名	中東・イスラームの宗教と思想2　イスラーム思想論2							
担当者名	小林　春夫							
イスコース	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要

イスラーム思想の諸問題について、やや専門的に考察する。

授業の到達目標

イスラーム思想の特徴について理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　期末レポートを課します。
●**平常点**　50%　　毎回のリアクションペーパーにより内容の理解度を確認します。
●**その他**　0%

科 目 名	中東の移民とイスラームの拡大　ヨーロッパと／のイスラームを中心にして							
担当者名	植村　清加							
イスコース	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、中東からの人の移動を軸に、移民の生活世界からイスラームの拡大について考える。ここでは、各地からの移民によりイスラームが第二の宗教となっているフランスをはじめ、歴史的にもアクチュアリティにおいても中東からの移民と関係の深いヨーロッパのムスリム系移民に関する諸事例と、現代の多様な文化的、または社会・経済的な資料を用いて、ミクロかつグローバルな観点から、イスラームの広がりを研究する方法を扱う。移民の生活の場や、ヨーロッパの事例を挟むことで、各地域の個性とイスラームの関わり・現れ方の多様性に出会い、日本と中東の比較にとどまらない「広がり」を知る糸口をつかんでほしい。毎回の講義で中心的に扱うテーマの他に、視点を広げるエクササイズワークや受講コメントのフィードバックにより受講生相互の意見を参照しあう時間をとる。自分の「物事の見方」を知り、異なる生き方や新たな発想と結び付け、自分なりの研究テーマを発見してほしい。

授業の到達目標

・「中東・イスラーム」世界の広がりを多様な観点から捉えられるようになること。

・移動する人びとと文化的・宗教的なイスラームの拡大から、文化の恣意性や構築的な側面を考察し、人々の生と関連づけてろらえられるようになること。また、「イスラームフォビア」のような、違いに向けられた衝突の構図とともに、イスラームの広がりのなかで示される共生の技法を諸事例から学ぶこと。

・「マイノリティ」「移動する人びと」の生活の場から、私たちのいま・現代社会を捉えなおす力。

成績評価方法

●**試験**　50%　　第15回目の授業時間中に試験（ないしレポート試験）を実施し、理解度と達成度の確認を行う。
●**レポート**　0%　　事前事後学習として、平常点内で評価する。
●**平常点**　50%　　毎回の授業で提出するコメントシート、事前学習課題、授業内で用いるワークシート等の内容・積極性・貢献度から総合的に評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

事前学習やレポート課題の提出をWaseda Moodle等で行うことがある。また、課題によっては授業内およびWaseda Moodle等内で受講生同士の課題の相互参照を行うことがある。

科 目 名	中東・イスラームの社会研究　ジェンダーをめぐる諸問題							
担当者名	後藤　絵美							
イスコース	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

イスラームにおけるジェンダーの問題は、中東各地の社会にとっても、また個々人の生活や人生にとっても重要なものとして、しばしば議論の俎上に載せられてきた。本講義ではそうした議論の具体的な内容に注目し、その検討を通して、イスラームや中東の諸社会への理解を深める。

前半ではイスラームとジェンダーの関わりを概観する。啓示の書であるクルアーンや預言者の言行録であるハディースといった「聖典」や、古典から現代までのイスラーム法を取り上げ、その中でジェンダーがどのように問題化してきたのかを検討する。後半では、ジェンダーをめぐって中東各地の社会で何が議論されてきたのかを、複数の主題について見ていく。

授業の到達目標

イスラームや中東の諸社会をどう理解しうるのか。ジェンダーという視覚を通して、この問いに対する自分なりの答えを見つけることが本講義の目標である。

成績評価方法

●**試験**　40%　　第14回で理解度の確認を行う
●**レポート**　40%　　各回の終わりに小レポートを提出する
●**平常点**　20%　　グループワークや授業内での発言などの貢献による
●**その他**　0%

科 目 名	中東・イスラームの政治経済　イスラーム主義から読み解く現代中東政治							
担当者名	横田　貴之							
イスコース	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「アラブの春」後の中東諸国における政治変動は、世界の大きな注目を集めています。「アラブの春」後に顕著となった穏健派イスラーム主義運動の政治的台頭は、2013年のエジプトにおけるクーデタを契機に後退しました。最近では、「イスラーム国」など過激派イスラーム主義運動の活動が話題になっています。こうした混乱は中東諸国のみならず、周辺地域、さらには国際社会にも多大な影響を与えています。

本講義では、現代中東の政治・経済へ大きな影響を与えているイスラーム主義に着目することで、諸問題の背景・経緯・現状を考察します。授業では、必要最低限の知識・視座を習得した後、具体的事例に即して現代中東政治の実態解明を目指します。

授業の到達目標

中東諸国の政治・社会・経済に関する知識を深めつつ、20世紀以降の中東地域における多様かつ複雑な政治事象を理解することを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　80%　　期末試験（論述式）
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　0%　　なし
●**その他**　20%　　毎回、リアクションペーパーの提出を求め、良い回答が加点対象とします。 また、履修人数によっては、受講生にプレゼンを課す可能性もあります。

科 目 名	中東・イスラームの芸術と文学 『アラビアン・ナイト』の国の芸術と文学							
担当者名	小林　一枝							
イスコース	2単位	秋学期	水曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

正式名称を『千夜一夜物語』という『アラビアン・ナイト』は、アラビア語文学の金字塔のように思われているが、
実は中世ペルシア語（パフラヴィー語）の『千物語』を起源とし、主人公二人もササン朝ペルシアの王とその宰相の娘である。
本講座では、『アラビアン・ナイト』と、イランの民族叙事詩である『王書（シャー・ナーメ）』という2つの文学作品を軸として、イラク、シリア、エジプトを中心としたアラブ美術、および中央アジアやムガル時代のインドを含むイラン（ペルシア）の芸術を絵画史を中心に概説していく。

授業の到達目標

最近の研究は、細分化された各国美術史を扱うことが多いが、地域・時代を超えて偏在するイスラーム美術の特質を理解することを第一義とする。
生物描写の禁忌の実態やその影響を、イラン・イラクを中心とした東方イスラーム世界における絵画史を概観することによって考察し、学期末には各自が問題意識をもってレポートを作成する。
ミクロの芸術である写本挿絵は、文学とも密接な関連をもつ。
それゆえ、挿絵史を通して中東の文学に親しみ、視覚芸術と併せて基礎知識を習得することを目標とする。

成績評価方法

40%
積極的な授業参加
読書課題
リアクション・ペーパー（学期中2、3回）

60%
学期末レポート

備考・関連URL

毎回、デジタル画像および動画を含む視聴覚資料を使用する予定である。

前後に講義がある学生多数のため
本年度は美術館見学会を行えないが、学生の希望によっては実施する可能性もある。
また講義内容に大きな変更はないが、講義内容に細かな変更はありえる。

科 目 名	中東・イスラームのフィールドワーク							
担当者名	堀内　正樹							
イスコース	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では、中東・イスラーム世界でフィールドワークを実施するということが何を意味するのか、どのような経緯でどのように行われ、結果として何をもたらすのか、といったことを具体的な経験にもとづいて話します。講師（私）は19歳のときにヒッピーのようにしてアラブの土地を踏んで以来60歳代後半の現在に至るまでの約50年間、アラブ・中東・イスラーム世界をさまざまな立場で歩き回ってきました。私の学問的立ち位置としては社会人類学者ですが、かつて社会人類学の専売特許であったフィールドワークというもの自体に対する懐疑も含めて、これは学問ではないぞ（少なくとも近代科学ではない）と、50年の経験を通して実感しています。文系・理系を問わず近代科学の発想のいしずえとなっているのは確率論と集合論（記号論理学）を柱として出来上がった数学基礎論をモデルとするパラダイムすなわちゲッティンゲン的知性ですが、その呪縛からの脱出はヴィットゲンシュタインのように思索を巡らさなくても、中東を歩き回るだけでできるのではないかと思っています。パターン認識を志向する科学的パラダイムを無効にするような旅の話を老人の口から聞いてみたいという方の受講を歓迎します。

授業の到達目標

答がない、筋や起承転結もない、結論もなければ見通しの良い終着地点もない、あるのはただ淡々と移り変わる組み替えの風景のみ、という世界で我々多種多様な人間がどのように生きてきたか、生きているか、生きてゆくのか。地図（すなわち写像）に頼らずに具体性の中で生きることを感覚的につかんだとしたら、この授業の目標は達成されたことになります。

成績評価方法

●**試験**　50%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認をおこないます。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　授業への積極性を評価します。
●**その他**　0%

講 義 内 容

選　択　英　語

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ls A							
担当者名	友田　路							
英語	2単位	春学期	月曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop basic writing skills for students in academic writing in English.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Organizing sentences into paragraphs.
Organizing paragraphs in an essay.
Finding and using sources.
Pre-writing processes.
Editing.

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　There will be 4 written assignments graded to make part of the final grade.
●**平常点**　60%　　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ls B							
担当者名	赤間　勇雄							
英語	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop basic writing skills for students in academic writing in English.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Organizing sentences into paragraphs.
Organizing paragraphs in an essay.
Finding and using sources.
Pre-writing processes.
Editing.

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　There will be 4 written assignments graded to make part of the final grade.
●**平常点**　60%　　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ls C							
担当者名	鈴木　貴子							
英語	2単位	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop basic writing skills for students in academic writing in English.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Organizing sentences into paragraphs.
Organizing paragraphs in an essay.
Finding and using sources.
Pre-writing processes.
Editing.

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　There will be 4 written assignments graded to make part of the final grade.
●**平常点**　60%　　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ls D							
担当者名	赤間　勇雄							
英語	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop basic writing skills for students in academic writing in English.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Organizing sentences into paragraphs.
Organizing paragraphs in an essay.
Finding and using sources.
Pre-writing processes.
Editing.

成績評価方法
●**試験** 0%
●**レポート** 40% There will be 4 written assignments graded to make part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ls E							
担当者名	P. R. マッキネス							
英語	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要
This course will develop basic writing skills for students in academic writing in English.
[CEFR level B2]

授業の到達目標
Organizing sentences into paragraphs.
Organizing paragraphs in an essay.
Finding and using sources.
Pre-writing processes.
Editing.

成績評価方法
●**試験** 0%
●**レポート** 40% There will be 4 written assignments graded to make part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ls F							
担当者名	友田 路							
英語	2単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要
This course will develop basic writing skills for students in academic writing in English.
[CEFR level B2]

授業の到達目標
Organizing sentences into paragraphs.
Organizing paragraphs in an essay.
Finding and using sources.
Pre-writing processes.
Editing.

成績評価方法
●**試験** 0%
●**レポート** 40% There will be 4 written assignments graded to make part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ls G							
担当者名	鈴木 貴子							
英語	2単位	春学期	金曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要
This course will develop basic writing skills for students in academic writing in English.
[CEFR level B2]

授業の到達目標
Organizing sentences into paragraphs.
Organizing paragraphs in an essay.
Finding and using sources.
Pre-writing processes.
Editing.

成績評価方法
●**試験** 0%
●**レポート** 40% There will be 4 written assignments graded to make part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Writing) Lf A							
担当者名	友田 路							
英語	2単位	秋学期	月曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要
This course in academic writing is suitable for lower level and beginning writers. The course will focus on sentence writing.
[CEFR level A1]

授業の到達目標

Develop sentence writing
Develop vocabulary
Develop skills in basic functions, grammar and mechanics

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Writing) Lf B							
担当者名	赤間 勇雄							
英語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course in academic writing is suitable for lower level and beginning writers. The course will focus on sentence writing.
[CEFR level A1]

授業の到達目標

Develop sentence writing
Develop vocabulary
Develop skills in basic functions, grammar and mechanics

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Writing) Lf C							
担当者名	鈴木 貴子							
英語	2単位	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course in academic writing is suitable for lower level and beginning writers. The course will focus on sentence writing.
[CEFR level A1]

授業の到達目標

Develop sentence writing
Develop vocabulary
Develop skills in basic functions, grammar and mechanics

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Writing) Lf D							
担当者名	赤間 勇雄							
英語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course in academic writing is suitable for lower level and beginning writers. The course will focus on sentence writing.
[CEFR level A1]

授業の到達目標

Develop sentence writing
Develop vocabulary
Develop skills in basic functions, grammar and mechanics

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Writing) Lf E							
担当者名	P. R. マッキネス							
英語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course in academic writing is suitable for lower level and beginning writers. The course will focus on

sentence writing.
［CEFR level A1］

授業の到達目標

Develop sentence writing
Develop vocabulary
Develop skills in basic functions, grammar and mechanics

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Writing) Lf F							
担当者名	友田 路							
英語	2単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course in academic writing is suitable for lower level and beginning writers. The course will focus on sentence writing.
［CEFR level A1］

授業の到達目標

Develop sentence writing
Develop vocabulary
Develop skills in basic functions, grammar and mechanics

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Writing) Lf G							
担当者名	鈴木 貴子							
英語	2単位	秋学期	金曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course in academic writing is suitable for lower level and beginning writers. The course will focus on sentence writing.
［CEFR level A1］

授業の到達目標

Develop sentence writing
Develop vocabulary
Develop skills in basic functions, grammar and mechanics

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ms A							
担当者名	J. チャールズ							
英語	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop intermediate writing skills for students in academic writing in English.
［CEFR level C1］

授業の到達目標

Structuring essay types.
Writing powerful introductions.
Evaluating sources.
Using academic language.

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ms B							
担当者名	J. チャールズ							
英語	2単位	春学期	金曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop intermediate writing skills for students in academic writing in English.
[CEFR level C1]

授業の到達目標

Structuring essay types.
Writing powerful introductions.
Evaluating sources.
Using academic language.

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ms C							
担当者名	馬　玉晶							
英語	2単位	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop intermediate writing skills for students in academic writing in English.
[CEFR level C1]

授業の到達目標

Structuring essay types.
Writing powerful introductions.
Evaluating sources.
Using academic language.

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ms D							
担当者名	内田　夕津							
英語	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop intermediate writing skills for students in academic writing in English.
[CEFR level C1]

授業の到達目標

Structuring essay types.
Writing powerful introductions.
Evaluating sources.
Using academic language.

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ms E							
担当者名	榊原　春水							
英語	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop intermediate writing skills for students in academic writing in English.
[CEFR level C1]

授業の到達目標

Structuring essay types.
Writing powerful introductions.
Evaluating sources.
Using academic language.

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.

●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Writing) Ms F							
担当者名	ウィリアムズ　洋子							
英語	2単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop intermediate writing skills for students in academic writing in English.
[CEFR level C1]

授業の到達目標

Structuring essay types.
Writing powerful introductions.
Evaluating sources.
Using academic language.

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Writing) Mf A							
担当者名	J. チャールズ							
英語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course in academic writing is suitable for intermediate writers. The course will focus on paragraph writing.
[CEFR level A2]

授業の到達目標

Develop skills in constructing paragraphs
Learn functions, grammar and mechanics of academic writing
Learn different types of paragraph: descriptive, listing, opinion

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Writing) Mf B							
担当者名	J. チャールズ							
英語	2単位	秋学期	金曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course in academic writing is suitable for intermediate writers. The course will focus on paragraph writing.
[CEFR level A2]

授業の到達目標

Develop skills in constructing paragraphs
Learn functions, grammar and mechanics of academic writing
Learn different types of paragraph: descriptive, listing, opinion

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Writing) Mf C							
担当者名	馬　玉晶							
英語	2単位	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course in academic writing is suitable for intermediate writers. The course will focus on paragraph writing.
[CEFR level A2]

授業の到達目標

Develop skills in constructing paragraphs
Learn functions, grammar and mechanics of academic writing
Learn different types of paragraph: descriptive, listing, opinion

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Writing) Mf D							
担当者名	内田　夕津							
英語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course in academic writing is suitable for intermediate writers. The course will focus on paragraph writing. [CEFR level A2]

授業の到達目標

Develop skills in constructing paragraphs
Learn functions, grammar and mechanics of academic writing
Learn different types of paragraph: descriptive, listing, opinion

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Writing) Mf E							
担当者名	榊原　春水							
英語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course in academic writing is suitable for intermediate writers. The course will focus on paragraph writing. [CEFR level A2]

授業の到達目標

Develop skills in constructing paragraphs
Learn functions, grammar and mechanics of academic writing
Learn different types of paragraph: descriptive, listing, opinion

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Writing) Mf F							
担当者名	ウィリアムズ　洋子							
英語	2単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course in academic writing is suitable for intermediate writers. The course will focus on paragraph writing. [CEFR level A2]

授業の到達目標

Develop skills in constructing paragraphs
Learn functions, grammar and mechanics of academic writing
Learn different types of paragraph: descriptive, listing, opinion

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Writing) Mf G							
担当者名	馬　玉晶							
英語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course in academic writing is suitable for intermediate writers. The course will focus on paragraph writing. [CEFR level A2]

授業の到達目標

Develop skills in constructing paragraphs
Learn functions, grammar and mechanics of academic writing
Learn different types of paragraph: descriptive, listing, opinion

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Writing) Us A							
担当者名	D. J. ウェブスター							
英語	2単位	春学期	火曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop upper-intermediate and advanced writing skills for students in academic writing in English.
[CEFR level C2]

授業の到達目標

Developing logical paragraphs
Paraphrasing, summarizing, and quotation
Writing strong, descriptive sentences
Using intensifiers and transitional words and phrases

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Writing) Us B							
担当者名	カーリン　オマール							
英語	2単位	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop upper-intermediate and advanced writing skills for students in academic writing in English.
[CEFR level C2]

授業の到達目標

Developing logical paragraphs
Paraphrasing, summarizing, and quotation
Writing strong, descriptive sentences
Using intensifiers and transitional words and phrases

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% There will be 4 written assignments graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Writing) Uf A							
担当者名	D. J. ウェブスター							
英語	2単位	秋学期	火曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course in academic writing is suitable for higher level, upper-intermediate writers. The course will focus on essay writing.
[CEFR level B1-B2]

授業の到達目標

Develop skills in creating and organizing essays
Acquire high-level academic vocabulary
Develop skills in editing writing

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40% 4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点** 60% Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Writing) Uf B							
担当者名	カーリン　オマール							
英語	2単位	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course in academic writing is suitable for higher level, upper-intermediate writers. The course will focus on essay writing.
[CEFR level B1-B2]

授業の到達目標

Develop skills in creating and organizing essays
Acquire high-level academic vocabulary
Develop skills in editing writing

成績評価方法

●**試験** 0%

●**レポート**　40%　　4 written assignments will be graded as part of the final grade.
●**平常点**　60%　　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ls A							
担当者名	金澤　淳子							
英語	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for students of lower-intermediate level.
[CEFR Level A2-B1]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験**　30%　　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ls B							
担当者名	赤間　勇雄							
英語	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for students of lower-intermediate level.
[CEFR Level A2-B1]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験**　30%　　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ls C							
担当者名	鈴木　貴子							
英語	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for students of lower-intermediate level.
[CEFR Level A2-B1]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験**　30%　　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ls D							
担当者名	ローソン　アンドリュー							
英語	2単位	春学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for students of lower-intermediate level.

［CEFR Level A2-B1］

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ls E							
担当者名	金澤　淳子							
英語	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for students of lower-intermediate level.
［CEFR Level A2-B1］

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ls F							
担当者名	赤間　勇雄							
英語	2単位	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for students of lower-intermediate level.
［CEFR Level A2-B1］

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ls G							
担当者名	鈴木　貴子							
英語	2単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for students of lower-intermediate level.
［CEFR Level A2-B1］

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0%

●**平常点**　70%　　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ls H							
担当者名	N. K. ウィリアムズ							
英語	2単位	春学期	金曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for students of lower-intermediate level.
[CEFR Level A2-B1]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験**　30%　　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Lf A							
担当者名	金澤　淳子							
英語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for lower-intermediate students.
[CEFR level A2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between fact and opinion

成績評価方法

●**試験**　30%　　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Lf B							
担当者名	赤間　勇雄							
英語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for lower-intermediate students.
[CEFR level A2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between fact and opinion

成績評価方法

●**試験**　30%　　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Lf C							
担当者名	鈴木　貴子							
英語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for lower-intermediate students.
[CEFR level A2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between fact and opinion

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Lf D							
担当者名	ローソン　アンドリュー							
英語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for lower-intermediate students. [CEFR level A2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between fact and opinion

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Lf E							
担当者名	金澤　淳子							
英語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for lower-intermediate students. [CEFR level A2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between fact and opinion

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Lf F							
担当者名	赤間　勇雄							
英語	2単位	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for lower-intermediate students. [CEFR level A2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between fact and opinion

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Lf G							
担当者名	鈴木　貴子							
英語	2単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for lower-intermediate students. [CEFR level A2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus

Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between fact and opinion

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ms A							
担当者名	阿部　敬子							
英語	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for intermediate students. [CEFR level B1-B2]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ms B							
担当者名	J. チャールズ							
英語	2単位	春学期	月曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for intermediate students. [CEFR level B1-B2]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ms C							
担当者名	カーリン　オマール							
英語	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for intermediate students. [CEFR level B1-B2]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ms D							
担当者名	マグズ　アンドリュウ　ジョン							
英語	2単位	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for intermediate students.
[CEFR level B1-B2]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ms E							
担当者名	榊原　春水							
英語	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for intermediate students.
[CEFR level B1-B2]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Ms F							
担当者名	J. チャールズ							
英語	2単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for intermediate students.
[CEFR level B1-B2]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Mf A							
担当者名	阿部　敬子							
英語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for intermediate students.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between comparison and contrast
Understand use of metaphors

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Mf B							
担当者名	J. チャールズ							
英語	2単位	秋学期	月曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for intermediate students.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between comparison and contrast
Understand use of metaphors

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Mf C							
担当者名	カーリン　オマール							
英語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for intermediate students.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between comparison and contrast
Understand use of metaphors

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Mf D							
担当者名	マグズ　アンドリュウ　ジョン							
英語	2単位	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for intermediate students.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between comparison and contrast
Understand use of metaphors

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Mf E							
担当者名	榊原　春水							
英語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for intermediate students.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between comparison and contrast
Understand use of metaphors

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Mf F							
担当者名	J. チャールズ							
英語	2単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for intermediate students.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between comparison and contrast
Understand use of metaphors

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Us A							
担当者名	D. J. ウェブスター							
英語	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for upper-intermediate students.
[CEFR Level B2-C1]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Us B							
担当者名	小林　亜紀子							
英語	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for upper-intermediate students.
[CEFR Level B2-C1]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Us C							
担当者名	カラン　ポール							
英語	2単位	春学期	金曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop skills in vocabulary, reading and critical thinking for upper-intermediate students. [CEFR Level B2-C1]

授業の到達目標

Acquire and improve reading skills
Build academic vocabulary
Develop critical thinking skills
Learn techniques of scanning and skimming texts
Learn techniques of identifying parts of texts, topics, evidence and opinions

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Uf A							
担当者名	D. J. ウェブスター							
英語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for upper-intermediate students. [CEFR level C1]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between causes and effects
Understand use of analogies

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Uf B							
担当者名	小林　亜紀子							
英語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for upper-intermediate students. [CEFR level C1]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between causes and effects
Understand use of analogies

成績評価方法

●**試験**　30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Reading) Uf C							
担当者名	カラン　ポール							
英語	2単位	秋学期	金曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will develop reading skills and academic vocabulary for upper-intermediate students. [CEFR level C1]

授業の到達目標

Develop reading skills
Acquire vocabulary from Oxford English Corpus
Develop skills in Previewing, Scanning, Inference
Distinguish between causes and effects
Understand use of analogies

成績評価方法

●**試験** 30%　2 written tests, each worth 15 points.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ls A							
担当者名	N. K. ウィリアムズ							
英語	2単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for lower-intermediate students.
[CEFR level A2]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験** 30%　Tests will be given in 3 classes on skills developed in the units.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ls B							
担当者名	ローソン　アンドリュー							
英語	2単位	春学期	月曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for lower-intermediate students.
[CEFR level A2]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験** 30%　Tests will be given in 3 classes on skills developed in the units.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ls C							
担当者名	マグズ　アンドリュウ　ジョン							
英語	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for lower-intermediate students.
[CEFR level A2]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験** 30%　Tests will be given in 3 classes on skills developed in the units.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active class participation will be assessed.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ls D							
担当者名	ローソン　アンドリュー							
英語	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for lower-intermediate students.
[CEFR level A2]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験**　30%　Tests will be given in 3 classes on skills developed in the units.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Lf A							
担当者名	ローソン　アンドリュー							
英語	2単位	秋学期	月曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course covers academic skills at a basic level in listening and speaking, vocabulary and note-taking.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Develop listening skills by hearing and responding to academic lectures.
Develop speaking skills in formal and informal academic situations.
Acquire academic vocabulary.
Learn to take, organize and study from notes.

成績評価方法

●**試験**　30%　Mid-term and final tests will be worth 15 points each
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Lf B							
担当者名	ローソン　アンドリュー							
英語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course covers academic skills at a basic level in listening and speaking, vocabulary and note-taking.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Develop listening skills by hearing and responding to academic lectures.
Develop speaking skills in formal and informal academic situations.
Acquire academic vocabulary.
Learn to take, organize and study from notes.

成績評価方法

●**試験**　30%　Mid-term and final tests will be worth 15 points each
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Lf C							
担当者名	マグズ　アンドリュウ　ジョン							
英語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course covers academic skills at a basic level in listening and speaking, vocabulary and note-taking.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Develop listening skills by hearing and responding to academic lectures.
Develop speaking skills in formal and informal academic situations.
Acquire academic vocabulary.
Learn to take, organize and study from notes.

成績評価方法

●**試験**　30%　Mid-term and final tests will be worth 15 points each

●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　　Active class participation will be assessed.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ms A							
担当者名	友田　路							
英語	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験**　30%　　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%

選択英語

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ms B							
担当者名	中尾　照代							
英語	2単位	春学期	月曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験**　30%　　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ms C							
担当者名	荊　紅涛							
英語	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験**　30%　　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ms D							
担当者名	阿部　敬子							
英語	2単位	春学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.

[CEFR level B1]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験** 30% Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70% Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ms E							
担当者名	P. R. マッキネス							
英語	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験** 30% Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70% Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ms F							
担当者名	金澤　淳子							
英語	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験** 30% Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70% Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Ms G							
担当者名	友田　路							
英語	2単位	春学期	金曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing.

成績評価方法

●**試験** 30% Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0%

●**平常点**　70%　　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Mf A							
担当者名	友田　路							
英語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験**　30%　　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Mf B							
担当者名	中尾　照代							
英語	2単位	秋学期	月曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験**　30%　　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Mf C							
担当者名	荊　紅涛							
英語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験**　30%　　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Mf D							
担当者名	阿部　敬子							
英語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills

Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験** 30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Mf E							
担当者名	P. R. マッキネス							
英語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験** 30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Mf F							
担当者名	金澤　淳子							
英語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験** 30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Mf G							
担当者名	友田　路							
英語	2単位	秋学期	金曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for intermediate students.
[CEFR level B1]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験** 30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Us A							
担当者名	小林　亜紀子							
英語	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for upper-intermediate students.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing

成績評価方法

●**試験**　30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Us B							
担当者名	ウィリアムズ　洋子							
英語	2単位	春学期	金曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

選択英語

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for upper-intermediate students.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing

成績評価方法

●**試験**　30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Us C							
担当者名	馬　玉晶							
英語	2単位	春学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for upper-intermediate students.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Acquire and improve listening skills
Build academic vocabulary
Focus attention
Discussion of reading and listening materials
Note-taking and reviewing

成績評価方法

●**試験**　30%　Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　Active participation will be expected for each class.
●**その他**　0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Uf A							
担当者名	小林　亜紀子							
英語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for upper-intermediate students.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop listening skills

Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験** 30% Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70% Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Uf B							
担当者名	ウィリアムズ　洋子							
英語	2単位	秋学期	金曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for upper-intermediate students.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験** 30% Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70% Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0%

科 目 名	Academic Skills (Discussion) Uf C							
担当者名	馬　玉晶							
英語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course uses realistic audio and video materials to practice academic skills of listening, taking notes and discussion. This course is for upper-intermediate students.
[CEFR level B2]

授業の到達目標

Develop listening skills
Develop note-taking skills
Develop academic discussion skills
Develop presentation skills

成績評価方法

●**試験** 30% Two tests, mid and final, worth 15 points each.
●**レポート** 0%
●**平常点** 70% Active participation will be expected for each class.
●**その他** 0%

科 目 名	Intensive Studies 1 (Philosophy 1) Ideas and Thinkers 1							
担当者名	ダルグリーシュ　ブレガム							
英語	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

Thought is the means by which we elaborate who we are, justify our political systems, design our economic architecture, assert our membership of a culture, authorise institutions within society, and make ethical claims upon each other. Indeed, without any philosophical reflection upon these matters, life would have neither any sense nor articulated meaning. It is thus precisely at the cross-roads between our daily practices and taken for granted ideas that this course is situated. This course provides instruction and practice in the art of philosophical reflection and the skill of critical argument through the study of some of the core (Western) texts in the humanities and social sciences. While the focus is on analytical reading and critical thinking, there is an equal emphasis on expressing and presenting one's ideas in writing, as well as engaging in dialogue on how to interpret and explain concepts and the practices they capture.

授業の到達目標

The purpose of the course is for students to:

1) read critically by asking pertinent questions and evaluating ideas in a text;
2) recognise core assumptions and wider implications of a text;
3) read texts of different genres and disciplines in the humanities and social sciences.
4) ascertain the meaning of a passage by identifying evidence and narrative sequences;
5) recognise the implicit assumptions and values underlying a written work;
6) assess ideas in terms of the rhetorical structures used to persuade readers;

7) distinguish between facts and opinions in a text;
8) identify the tone, mood and voice of a text through an analysis of its linguistic features, context of production and literary devices.

成績評価方法

30% Final Class Test
30% Participation
40% Presentations

備考・関連URL

This course is best suited to students with a TOEFL score of 500 or more and/or who relish and enjoy engaging in active class discussion and debate with a view to thinking differently. Please note that Ideas and Thinkers 1 (Spring Semester) and Ideas and Thinkers 2 (Winter Semester) are two separate courses. They have the same structure and format but the content – the authors studied – is different.

科 目 名	Intensive Studies 2 (Philosophy 2) Ideas and Thinkers 2							
担当者名	ダルグリーシュ　ブレガム							
英語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

Thought is the means by which we elaborate who we are, justify our political systems, design our economic architecture, assert our membership of a culture, authorise institutions within society, and make ethical claims upon each other. Indeed, without any philosophical reflection upon these matters, life would have neither any sense nor articulated meaning. It is thus precisely at the cross-roads between our daily practices and taken for granted ideas that this course is situated. This course provides instruction and practice in the art of philosophical reflection and the skill of critical argument through the study of some of the core (Western) texts in the humanities and social sciences. While the focus is on analytical reading and critical thinking, there is an equal emphasis on expressing and presenting one's ideas in writing, as well as engaging in dialogue on how to interpret and explain concepts and the practices they capture.

授業の到達目標

The purpose of the course is for students to:

1) read critically by asking pertinent questions and evaluating ideas in a text;
2) recognise core assumptions and wider implications of a text;
3) read texts of different genres and disciplines in the humanities and social sciences.
4) ascertain the meaning of a passage by identifying evidence and narrative sequences;
5) recognise the implicit assumptions and values underlying a written work;
6) assess ideas in terms of the rhetorical structures used to persuade readers;
7) distinguish between facts and opinions in a text;
8) identify the tone, mood and voice of a text through an analysis of its linguistic features, context of production and literary devices.

成績評価方法

30% Final Class Test
30% Participation
40% Presentations

備考・関連URL

This course is best suited to students with a TOEFL score of 500 or more and/or who relish and enjoy engaging in active class discussion and debate with a view to thinking differently. Please note that Ideas and Thinkers 1 (Spring Semester) and Ideas and Thinkers 2 (Winter Semester) are two separate courses. They have the same structure and format but the content – the authors studied – is different.

科 目 名	Intensive Studies 3 (Philosophy 3) Introduction to Political Theory 1							
担当者名	ダルグリーシュ　ブレガム							
英語	2単位	春学期	月曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

The course examines key ideas in the history of (Western) thought and the questions they raise about the design of the political order. It considers the ways thinkers have responded to political problems of their times and how these dilemmas are inextricably entwined with the social, economic, cultural and ethical aspects of everyday life. Such an approach enables us to understand the strengths and weaknesses of various epochs and philosophical approaches; concomitantly, we gain a critical perspective on our own. Students are therefore expected to master a number of relevant concepts and to assess the form and quality of the influence that certain political theories have had – and may still have – on the contemporary political landscape. Similarly, students are expected to constantly compare past and present, and to discern the connections between other empirical and normative social science and humanities disciplines, from political science, sociology and economics to history, literature, philosophy and cultural studies.

授業の到達目標

The course is much an invitation as an introduction to understanding the "political" and how it harbours the good life and fosters coexistence. While introductions map out a territory and lay the groundwork for more detailed research, invitations invite students to:

1) critically assess key social and political ideas and concepts, both orally and in writing;
2) appreciate the nuances of persuasive and sophisticated language in debates about politics, society, the economy and who we are more generally;
3) develop an ability in scrutinising to what extent theories enable us to understand and explain facts and values, instead of simply learning the facts and values themselves;
4) and, finally, broaden their perspective on many of today's political problems, together with their potential resolution.

成績評価方法

50% Final Class Exam
25% Weekly Multiple Choice Questions
25% Participation

備考・関連URL

This course is best suited to students with a TOEFL score of 500 or more and/or who relish and enjoy engaging in active class discussion and debate with a view to thinking differently. Please note that Introduction to Political Theory 1 (Spring Semester) and Introduction to Political Theory 2 (Winter Semester) are two separate courses. They have the same structure and format but the content - the concepts studied - is different.

科 目 名	Intensive Studies 4 (Philosophy 4) Introduction to Political theory 2							
担当者名	ダルグリーシュ　ブレガム							
英語	2単位	秋学期	月曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

The course examines key ideas in the history of (Western) thought and the questions they raise about the design of the political order. It considers the ways thinkers have responded to political problems of their times and how these dilemmas are inextricably entwined with the social, economic, cultural and ethical aspects of everyday life. Such an approach enables us to understand the strengths and weaknesses of various epochs and philosophical approaches; concomitantly, we gain a critical perspective on our own. Students are therefore expected to master a number of relevant concepts and to assess the form and quality of the influence that certain political theories have had – and may still have – on the contemporary political landscape. Similarly, students are expected to constantly compare past and present, and to discern the connections between other empirical and normative social science and humanities disciplines, from political science, sociology and economics to history, literature, philosophy and cultural studies.

授業の到達目標

The course is much an invitation as an introduction to understanding the "political" and how it harbours the good life and fosters coexistence. While introductions map out a territory and lay the groundwork for more detailed research, invitations invite students to:

1) critically assess key social and political ideas and concepts, both orally and in writing;
2) appreciate the nuances of persuasive and sophisticated language in debates about politics, society, the economy and who we are more generally;
3) develop an ability in scrutinising to what extent theories enable us to understand and explain facts and values, instead of simply learning the facts and values themselves;
4) and, finally, broaden their perspective on many of today's political problems, together with their potential resolution.

成績評価方法

50% Final Class Exam
25% Weekly Multiple Choice Questions
25% Participation

備考・関連URL

This course is best suited to students with a TOEFL score of 500 or more and/or who relish and enjoy engaging in active class discussion and debate with a view to thinking differently. Please note that Introduction to Political Theory 1 (Spring Semester) and Introduction to Political Theory 2 (Winter Semester) are two separate courses. They have the same structure and format but the content - the concepts studied - is different.

科 目 名	Intensive Studies 5 (Literature 1) Critical Theory (Part 1)							
担当者名	鈴木　理恵子							
英語	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course on critical theory consists of two parts. Part 1 offered during the spring semester will focus on text-centered criticisms that emerged around the first half of the twentieth century. While the main objective of this course is to understand how theory came to being in the twentieth century, which distinguished itself from the kind of literary criticisms that were prevalent in the nineteenth century, it also aims to look at various schools of thought with their differing manifestations dependent on the institutions and the national milieus. They overlap and interact in ways that make the trend of critical theory of the first half of the twentieth century discussable as methodological formations of a certain kind. This is not to say that what follows in Part 2 that examines the contextualized criticisms of the latter twentieth century is a severance from the text-centered criticisms of Part 1. Rather, they build on the linguistic or/and psychoanalytic-based criticisms that dominated the critical theory covered in the spring semester. Although the focus of each class is provided below by the methodology and an

individual theorist most associated with it, this does not mean that the approach is on the individual per se necessarily but rather on the texts that are relevant to the methodology in question.

Given the diversity of student academic background and their levels, I have maintained a fairly flexible and open manner in which to conduct the classes. While covering the main texts for discussion, I welcome the different perspectives and motives students bring to understanding and applying these theories. Therefore, it is not my intention to adhere to a strict and rigorous application of these theories to literature/film/the arts as one might expect of a critical theory course; but instead the course will focus on how these theories bear relevance to the disciplines in which respective students are studying and researching.

授業の到達目標

This course maintains several objectives. One is to historically situate texts produced within various schools of thought so as to enable better appreciation and understanding of their emergences. Secondly, to encourage students to become more attentive to the text; not only in the limited sense of the word pertaining to the literary, but also to the text understood in its broadest sense to include anything that manifests a semiotic system. By understanding the text, not in its limited application, but in its permeating effects on our everyday life, it is hoped that students will acquire a critical and discriminating eye to interpreting texts, society and life as lived in the private and public spheres.

成績評価方法

- **試験** 0%
- **レポート** 30% A 1500-word essay must be submitted at the end of the course.
- **平常点** 40% Regular attendance and active participation will be required.
- **その他** 30% A 20-minute presentation on a given topic is mandatory.

選択英語

科目名	Intensive Studies 6 (Literature 2) Critical Theory (Part 2)							
担当者名	鈴木　理恵子							
英語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course is a sequel to the critical theory course offered in the spring semester. While Part 1 focusses on the text-centered criticisms of the first half of the twentieth century with a significant emphasis on linguistics and psychoanalysis, Part 2 offered in the fall semester examines various schools of thought that emerged most prominently in the latter half of the twentieth century and beyond as historically oriented and socio-linguistically based criticisms. Just to name some of the prominent schools of thought – Marxism, (new) historicism, feminism, post-colonialism, queer studies and eco-criticism – we have seen a plethora of critical theories that have contributed to the further understanding and uncovering of overlooked, suppressed and unidentified ways of analyzing texts; they have also led to our realization that contextualizing texts within the socio-political enable us to appreciate what it means to produce a text and what we as readers and critics can gain from that pastness of a text by projecting our reading into the future, which makes the act of reading a much more dynamic and dialogical exercise. The polemic aspect of critical theory cannot be overlooked either, opening new ways of conceiving class, sexuality, race and the environment, just to name a few concepts, which inevitably brings such subject-matters into a sharp relief against previously held conceptions and beliefs. This aspect is an encouraging and hopeful aspect of critical theory that can at times seem somewhat insular and cerebral.

This course offers an overview of literary theory that focuses primarily on the social context of a literary work. Students will familiarize themselves with the various schools of thought and theoretical practices that have dominated literary criticism of the twentieth to the twenty-first century. Depending on the critical perspective from which one examines the text, the outcome of criticism varies significantly. While close reading of text is still valued in literary criticism, theoretical practice cannot be ignored in the academic world today. Such being the case, it is vital and also useful to become acquainted with the various schools of thought that have left a mark in the landscape of literary criticism.

授業の到達目標

The focus of this course is to become attuned to the way in which language engages with reality (by this word I mean the social norms and conventions that provide a common sense by which we abide in a given society): how language serves to represent and also to destabilize the reality as we know it. The implications of many of these critical theories dealt with in this course go beyond the confinement of a text to question and interrogate some of the strongly held beliefs and conceptions of a given society. Reading becomes a social act, which by being implicated in the very social fabric of words and actions, we as readers are invited to not simply engage in it but to reflect and renegotiate the very reality we had taken for granted. For this very reason, students are expected to become more critical and reflective of their living environment, the very site in which these texts interrogate and debunk reality as an illusionary construction of man.

成績評価方法

- **試験** 0% There are no exams for this course.
- **レポート** 30% A 1500-word essay must be submitted at the end of the course.
- **平常点** 40% Regular attendance and active participation will be required.
- **その他** 30% A 20-minute presentation on a given topic is mandatory.

科 目 名	Intensive Studies 7 (American Studies 1) Popular Culture and Globalization							
担当者名	溝口　彰子							
英語	2単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will explore ways in which popular culture has become globalized. Topics for the spring semester will include advertising, art, attitudes, beverages, celebrity icons, cyberculture, dancing, fashion, foodways, and leisure (see specific examples in the course schedule). The course will be conducted entirely in English. Students should be prepared to actively participate in class discussion. Active participation means that each student will be expected to speak in English about her or his ideas and understanding of readings and presentations every week.

授業の到達目標

Through intensive use of various English language skills (reading, listening, speaking, presenting, and writing), students will improve their English usage. Students will also learn about academic approaches to popular culture.

成績評価方法

In-class activities and participation 50%
Presentations (15% each) 30%
Paper 20%

備考・関連URL

Make sure to attend the first class.

科 目 名	Intensive Studies 8 (American Studies 2) Globalization and Popular Culture							
担当者名	チャン　エドワード　ケイ							
英語	2単位	秋学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will explore ways in which popular culture has become globalized, with particular reference to the United States. Topics for the spring semester will include advertising, art, attitudes, beverages, celebrity icons, cyberculture, dancing, fashion, foodways, and leisure (see specific examples in the course schedule). Topics for the fall semester will include literature, movies, music, slang, sports, technology, tourism, toys, television, and video games. The course will be conducted entirely in English, and each student will be expected to speak in English about her or his ideas and understanding of readings and presentations every week.

授業の到達目標

Through intensive use of various English language skills (reading, listening, speaking, presenting, and writing), students will improve their English usage. Students will also learn about academic approaches to popular culture.

成績評価方法

(subject to change)
Reading quizzes (10 x 5 points): 50%
Group presentation: 15%
Individual presentation: 15%
Participation / In-class activities: 20%
TOTAL: 100 %

(NOTE: graduate students may be assigned additional work.)

科 目 名	Intensive Studies 9 (Survey of Japanese Literature 1)							
担当者名	クリステワ　ツベタナ							
英語	2単位	秋クォーター	火3時限	金3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

The course will cover a rather long period of the history of Japanese Literature – from ancient times up to the Early Modern period. After a short survey of the major developments and genres, the course will focus on the most representative texts and cultural phenomena. A special emphasis will be made on the literature of the Heian period (the end of the 8th C. until the end of the 12th C.), which is justly considered to be "the Golden Age" of Japanese Literature, both because it laid the foundations of the Japanese cultural identity, and because it produced such unsurpassed masterpieces as *Makura-no soshi* ("The Pillow Book") and *Genji monogatari* ("The Tale of Genji").

Some changes will be possible according to the interest of the students enrolled in the course.

The working language is English. However, final essays will be accepted both in English and in Japanese.

授業の到達目標

1. To provide basic knowledge of classical Japanese Literature (genres, texts, etc.) and to stimulate students' interest in it;
2. To develop an apprehension of classical Japanese Literature as a significant element of Japanese intellectual history;
3. To outline the possibility of the inter-disciplinary approach to classical Japanese Literature;
4. To enhance students' critical thinking;
5. Last but not least, to increase the pleasure of reading.

成績評価方法

●**試験**　50%　The numbers are not absolute.　Any outstanding performance in any of the three categories will

be appreciated and will result in a high final score.
●**レポート**　30%
●**平常点**　20%
●**その他**　0%

備考・関連URL

For those students who are interested in the course but lack confidence in their knowledge of English: if you were able to read and understand the syllabus, you may consider enrolling in the course.

科 目 名	Intensive Studies 10 (Survey of Japanese Literature 2)							
担当者名	クリステワ　ツベタナ							
英語	2単位	冬クォーター	火3時限	金3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

The course will deal with the Early Modern Literature, the literature of the Edo period (1603 – 1868). After a short survey of the major developments and genres, the course will focus on the most representative texts and cultural phenomena. A special emphasis will be made on the literature of the Genroku period (end of the 17th, beginning of the 18th C.), which is duly considered as the second "Golden Age" in the history of Japanese Literature and Culture (after the Heian period), when the foundations of Japan's modern cultural identity were laid.

Some changes will be possible according to the interest of the students enrolled in the course.

The working language is English. However, final essays will be accepted both in English and in Japanese.

授業の到達目標

1. To provide basic knowledge of Early Modern Japanese Literature;
2. To focus on the problems of cultural identity;
3. To enhance the understanding of the history of Japanese Literature;
4. To develop the critical thinking of the students;
5. Last but not least, to increase the pleasure of reading.

成績評価方法

●**試験**　50%　The numbers are not absolute.　Any outstanding performance in any of the three categories will be appreciated and will result in a high final score.
●**レポート**　30%
●**平常点**　20%
●**その他**　0%

備考・関連URL

For those students who are interested in the course but lack confidence in their knowledge of English: if you were able to read and understand the syllabus, you may consider enrolling in the course.

科 目 名	Intensive Studies 11 (Survey of Japanese Literature 3) Modern and Contemporary Japanese Literature							
担当者名	ピタルク　パウ							
英語	2単位	春クォーター	火3時限	金3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

In this course we will read representative works of modern and contemporary Japanese fiction in translation. By working together through the readings we will aim towards two objectives. First, to gain a glimpse at the Japanese experience of the 20th century, including modernization, colonialism, postwar democratization and globalization. Second, to develop tools to critically analyze texts as literary narratives, focusing on how meaning is rhetorically created. We will strive to understand how these two dimensions (thematic and formal) shape and enrich each other, and how they inform the fiction that Japanese writers have created to try and make sense of the world they live(d) in.

All readings are in English translation. No knowledge of Japanese is required.

授業の到達目標

1. Read some of the most representative and well-known Japanese fiction written since the Meiji era.
2. Situate specific works in their historical and cultural contexts.
3. Appreciate the diversity of modern Japanese fiction.
4. Use the tools of literary analysis to interpret the readings.

成績評価方法

40% Midterm and Final Exams
30% Attendance and Class Participation
30% Weekly Responses and Presentations

備考・関連URL

You will need passing grades in all categories (Exams / Attendance & Participation / Responses & Presentations) in order to obtain a grade for the course.

科 目 名	Intensive Studies 12 (Introduction to Japanese Culture and Civilization 1) Culture and Civilization from Prehistory to the Muromachi Period							
担当者名	リーブズ　クリストファー							
英語	2単位	秋クォーター	火4時限	金4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will serve as an introductory survey of Japanese culture and civilization from prehistory through to the end of the Muromachi period, that is, roughly, from the fourth to the sixteenth century. We will look at both

secondary material —writing about the history and culture of Japan by modern scholars— as well as English translations of a selection of representative primary sources —premodern texts written by Japanese authors in the period under consideration— and discuss their historical background, as well as their cultural and intellectual significance.

Regarding primary sources, students may read materials in the original Japanese or in modern Japanese translations, depending on their language ability. All secondary materials looked at in this course are only available in English. No previous knowledge of Japanese language or history is required.

授業の到達目標

This course seeks to achieve two objectives. First, students will be able to gain a broad understanding of the historical development of Japanese culture and thought. Second, by studying Japanese cultural history through English sources and translations, students will learn to reconsider Japanese culture from the outside, thereby encouraging new interpretations.

成績評価方法

Students will be evaluated based on the following three factors:

1. Weekly attendance and active participation in class discussions: 30%
2. Weekly homework assignments due at the beginning of each session: 30%
3. One final report, due on the last session: 40%

In exceptional cases, such as unavoidable absence from class, students will be given the opportunity to submit extra work in order to make up for lost marks. Such arrangements may be made on an individual basis with the instructor.

科 目 名	Intensive Studies 13 (Introduction to Japanese Culture and Civilization 2)							
担当者名	ブルチャー　ミヒャエル							
英語	2単位	冬クォーター	火4時限	金4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This class will consider Japan's emergence as a modern state with a focus on the transition from the Tokugawa to the Meiji era. In studying societal and political change predominantly in the nineteenth century (albeit with a view to twentieth-century developments), it will pay particular attention to conceptual shifts in the political and intellectual lexicon of the modern Japanese language.

授業の到達目標

The purpose of this class is to serve as an introduction to the history and political culture of modern Japan. While proceeding roughly chronologically in laying the narrative groundwork, each lecture will apply a topical focus designed to bring larger questions into view. Even as this class will study the emergence of new ways of thinking in response - not solely but also not least - to the impact of Western encroachments and ideas, it will emphasize the extent to which this response could draw on preexisting conceptual resources. Special attention will be paid to how concepts such as 'civilization' and 'culture', 'corporation' and 'society', or 'public' and 'rights', were translated into Sino-Japanese character compounds. A further focus of this class will be the role of the imperial institution in attempts at defining, or contesting, Japanese culture in national terms.

成績評価方法

Two in-class tests (25% each)	50%
Take-home assignment	30%
Attendance and participation	20%

科 目 名	Intensive Studies 14 (Introduction to Japanese Culture and Civilization 3) Japan's Modern History							
担当者名	アコスタ　アリエル　キャサリン							
英語	2単位	春クォーター	火4時限	金4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course is a survey of Japanese modern history, beginning in the late 19th century and reaching the turn of the 21st century. We will approach questions about tradition and modernity, what constitutes "Japanese-ness," and Japan's place in the world, and consider how answers to these questions have changed over time. Students will gain an overview of Japan's 20th century, from the ideology of nation building in the Meiji period, to tensions between country and city in the interwar period, to colonization and imperialism, to postwar economic expansion and environmental issues. The last sessions of the class will discuss issues in contemporary Japan, including disasters, tourism, the contemporary political situation, and depictions in popular culture.

授業の到達目標

Students will learn to use a variety of sources, not just history textbooks, as a means of telling and understanding history. We will discuss the use of primary source documents, fiction, mass media, print culture, and visual culture in understanding and analyzing the past. The course will be conducted in English, but students are encouraged to seek out and consult sources in Japanese as well. This class emphasizes a critical approach to Japanese history, and asks students to interrogate their own conceptions of Japanese history, Japanese identity, and Japanese culture.

成績評価方法

●**試験**　20%　There will be a mid-term and final exam, each worth 10% of the total grade. These exams are a mix of multiple choice and short answer questions, to ensure students have a solid understanding of key events,

names, places, etc. of 20th-century Japanese history.
●**レポート** 40%　Students will write one final five-page research paper on a topic of their choice, to be decided in consultation with the professor. This paper is worth 30% of the final grade. A series of small writing assignments（350-400 words）throughout the class will prepare the students for the final paper. These assignments are worth 10% of the final grade.
●**平常点** 40%　Class participation includes both regular attendance of class sessions, as well as active participation in class and small-group discussions, and in-class presentations. Failure to attend class regularly and on-time will result in a failing grade. Please refer to syllabus distributed in class for full description of attendance policies.
●**その他** 0%

科 目 名	Intensive Studies 15 (Introduction to Japanese Thought and Religion 1) Exploring Socio-cultural Problems in Japan through Anthropological Perspectives							
担当者名	中村　寛							
英語	２単位	秋クォーター	火６時限	金６時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

How does one perceive "Japanese" thoughts and religions? To put it more bluntly, how does one identify something that is "Japanese?" Are there any characteristics, either salient or subtle, that are integral or even intrinsic to Japan, as some would like to think? Or is what we see just a seemingly unique variation of modernized society, inching toward universal one under enormous power of globalization? This class looks at socio-cultural problems related to contemporary Japan in relation to thoughts and religions, while seeking to disturb the notion of "Japaneseness" and its boundaries. By doing so, the students are invited to reframe some of the issues from anthropological perspectives. The class also introduces some of the texts and documentaries created at the socio-cultural margins of Japan.

選択英語

授業の到達目標

1. To gain basic yet fundamental knowledge about socio-cultural histories in contemporary Japan
2. To familiarize oneself with anthropological/critical ways of thinking
3. To be able to engage in discussion with others in a positive and creative manner

成績評価方法

50% Final Paper
The students are expected to write the final paper in relation to the assigned readings and in-class discussions.

50% Class Participation
Attendance is of course mandatory. If the students miss more than three classes without legitimate reasons, there will be no credit. But in addition, each student must read their assigned books or articles and actively engage in the discussion with others. They are not only expected to share their thoughts and ideas but also investigate their own sets of assumption that are usually sub-conscious.

科 目 名	Intensive Studies 16 (Introduction to Japanese Thought and Religion 2)							
担当者名	眞野　新也							
英語	２単位	冬クォーター	月６時限	木５時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course provides an introduction of Japanese Buddhist doctrine, and devotes attention to various themes, such as art and ritual. This class will involve interactive lectures, and seminar-like discussions. Students are expected to participate actively, express their thoughts and critically evaluate the sources they study.

本科目は、日本仏教教学の基礎を学びつつ、美術や儀礼に関する諸問題にも注目していく。ティーチングスタイルは講義とセミナー形式のディスカッションとを採用する。学生には授業で用いるテキストを批判的に評価することや、授業に積極的に参加し自分の考えを表明することなどが求められる。

授業の到達目標

At the end of the course, students will acquire;

1）a basic knowledge of Japanese Buddhist Doctrine
2）skills for describing Japanese Buddhism in English
3）an understanding of English necessary for post-graduate studies (for MA students)

本コースの終了時までに、

1）日本仏教教学の基礎知識
2）英語で日本仏教思想を解説する技術
3）大学院レベルの英語力（修士の学生）

を習得することが見込まれる。

成績評価方法

Academic Essay 60%
Attendance 40%

備考・関連URL

The above schedule is not entirely fixed. There will be a change in schedule according to level of participants.

科 目 名	Intensive Studies 17 (Introduction to Japanese Thought and Religion 3)							
担当者名	クリステワ　ツベタナ							
英語	２単位	春クォーター	火５時限	金５時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

The course will cover a long period in the history of Japanese Religion and Intellectual Thought – from ancient times to the Early Modern Period. The range of approaches will also be vast: from introduction of the traditional views to an attempt "to deconstruct deconstruction". In other words, on the one hand, the course will provide basic knowledge on Japanese religion, whereas on the other, it will dwell upon the specific forms of development of the intellectual thought in Japan, which deviate from the stereotypes based on the Western tradition with its focus on philosophy.

Some changes will be possible according to the interest of the students enrolled in the course.

The working language is English. However, final essays will be accepted both in English and in Japanese.

授業の到達目標

1. To provide basic knowledge on the history of Japanese religion;
2. To outline the specific development of the intellectual thought in Japan by challenging the stereotypes;
3. To enhance students' critical thinking and understanding of cultural diversity

成績評価方法

●**試験**　50%　The numbers are not absolute.　Any outstanding performance in any of the three categories will be appreciated and will result in a high final score.

●**レポート**　0%

●**平常点**　30%

●**その他**　20%

備考・関連URL

For those students who are interested in the course but lack confidence in their knowledge of English: if you were able to read and understand the syllabus, you may consider enrolling in the course.

科 目 名	Intensive Studies 18 (Introduction to Japanese Visual and Performing Arts 1)　Japanese Cinema							
担当者名	ノルドストロム　K.　ヨハン							
英語	２単位	秋クォーター	土１時限	土２時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will explore the development of the Japanese cinema from its earliest inception into the early post-war era, charting its development from silent to sound, and through its first Golden Era in the late 1930s and its second Golden Era in the 1950s.

The course will draw on a rich body of both English and Japanese texts as well as screenings of films to highlight the Japanese cinema`s artistic as well as industrial development, while situating these in the context of the sociopolitical and economic issues experienced by early twentieth-century Japan.

Special emphasis will be given to issues of modernity, the Japanese cinemas transition from silent to sound, as well as what came to be known as its first and second Golden Era of Japanese cinema, and finally the Japanese cinemas development in post-war Japan.

The class will be conducted in English, and all films screened will be with English subtitles.

授業の到達目標

- Acquire exposure to major works of Japanese cinema.
- Cultivate the tools to critically analyze cinematic texts.
- Develop an understanding of the historical, cultural, and social backgrounds.
- Situate Japanese cinema in a global context.

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　60%　Response Papers (30%)　You will be required to write a weekly response paper (at least 350 words) that reflect a thoughtful engagement with the assigned films and readings. The instructor will suggest a starting question for the students to respond to, but students are also encouraged to pose and address further questions related to the relevant material. Each response paper is to be submitted after the subsequent weeks class. Late submissions are not accepted.　Final Paper (2,000-3000 words) (30%)　In the final essay paper, the student will analyze a Japanese feature film, title to be announced. Your essay should include a main argument, which needs to made through detailed analysis of the textual and visual material, which in turn needs to be fully documented (Chicago style is preferred, but other formats accepted). The essay should be 2000-3000 words long (12pt Times New Roman, double- spaced, 1-inch margins). Indicate the word count on your paper. Actively/critically use at least 3 different written sources (texts discussed in class are okay to use). Late papers will be downgraded at the discretion of the instructor.

●**平常点**　20%　Regular attendance, reading, and participation are required for the course. It is essential that students come to class fully prepared to engage in activities and in discussions with fellow students and the instructor. Students are expected to take an active role by critically engaging with the material, closely listening to others, considering others' points of view, and sharing their own perspectives during the class discussions.

●**その他**　20%　Presentation　Each student is required to give one or two (depending on class size) 10-15

minute oral presentation on that week's text/film(s), addressing the issues raised by the assigned material and proposing topics for class discussion. The presentation should be focused on your interpretation of the relevant material, based on an in-depth reading of the text/film(s) as well as further issues or questions you would like to discuss. Please select specific theoretical issues or parts of the text/film(s) that you deem suitable for discussion and can act as springboards for discussion.

科 目 名	Intensive Studies 19 (Introduction to Japanese Visual and Performing Arts 2) Japanese Animation							
担当者名	ノルドストロム　K.　ヨハン							
英語	2単位	冬クォーター	土1時限	土2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course explores the development of Japanese animation, from the silent era to the present. Focusing on the shifting intersections between art, industry, and mass culture, the course charts the industrial and artistic development of the Japanese animation industry. The course readings and screenings examine the emergence of anime and its early development, while also emphasizing the later development of what would become the dominant form of anime, with the start of TV-broadcast animation in the 1960s. The course will explicate the industrial underpinnings for the development and reinforcement of media specific genre conventions, including its interrelation with the medium of manga, while also paying special attention to the post-war development of how manga and anime's unique mode of cultural production and consumption resulted in what we today label as "media mix".

The class will be conducted in English, and all films screened will be with English subtitles.

選択英語

授業の到達目標

- Acquire exposure to major works of Japanese animation.
- Cultivate the tools to critically analyze anime texts.
- Develop an understanding of the historical, cultural, and social backgrounds.
- Situate Japanese anime in a global context

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　60%　Response Papers (30%)　You will be required to write a weekly response paper (at least 350 words) that reflect a thoughtful engagement with the assigned films and readings. The instructor will suggest a starting question for the students to respond to, but students are also encouraged to pose and address further questions related to the relevant material. Each response paper is to be submitted after the subsequent weeks class. Late submissions are not accepted.　Final Paper (2,000-3000 words) (30%)　In the final essay paper, the student will analyze a work of Japanese animation, title to be announced. Your essay should include a main argument, which needs to made through detailed analysis of the textual and visual material, which in turn needs to be fully documented (Chicago style is preferred, but other formats accepted). The essay should be 2000-3000 words long (12pt Times New Roman, double- spaced, 1-inch margins). Indicate the word count on your paper. Actively/critically use at least 3 different written sources (texts discussed in class are okay to use). Late papers will be downgraded at the discretion of the instructor.

●**平常点**　20%　Regular attendance, reading, and participation are required for the course. It is essential that students come to class fully prepared to engage in activities and in discussions with fellow students and the instructor. Students are expected to take an active role by critically engaging with the material, closely listening to others, considering others' points of view, and sharing their own perspectives during the class discussions.

●**その他**　20%　Presentation　Each student is required to give one or two (depending on class size) 10-15 minute oral presentation on that week's text/film(s), addressing the issues raised by the assigned material and proposing topics for class discussion. The presentation should be focused on your interpretation of the relevant material, based on an in-depth reading of the text/film(s) as well as further issues or questions you would like to discuss. Please select specific theoretical issues or parts of the text/film(s) that you deem suitable for discussion and can act as springboards for discussion.

科 目 名	Intensive Studies 20 (Introduction to Japanese Visual and Performing Arts 3) Seeing, Feeling and Thinking about Japan through Visual Culture							
担当者名	土金　康子							
英語	2単位	春クォーター	月4時限	木4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

The class will introduce you to some dialogues in art history dealing with Japan, and will help you to look at, spatially embrace, think and discuss about works of "art," or more broadly, "visual culture," which have been historically and are currently associated with Japan. The central question we will ask ourselves will be what (if anything) is specifically "Japanese" about the making, appreciation and practice of visual culture from the past and present within and outside of Japan. In its application to Japanese culture, is such a national framework timeless or fluid, universally valid or variable, creatively fruitful or rather superficial? Our class will explore this set of large questions regarding various media of visual art, such as painting, graphic art, design, sculpture, calligraphy, ceramics, architecture, gardens, photography and manga through the following two venues: 1) an introductory historical survey of the rise of new artistic tendencies of such a visual culture from the prehistoric period to the present within the current geopolitical territory of Japan, with some major considerations on how Japan's visual culture has interacted with the rest of the world over time; and 2) a thematic approach, highlighting selected visual conventions in Japanese society across time that privilege certain materials, aesthetics, beliefs, and collecting and displaying customs, such as tea ceremony and Zen meditation.

授業の到達目標

1) Introduce the method of art history to visually and spatially examine art works in person while learning their historical backgrounds and integrating them with visual and spatial information about the works
2) Introduce major artistic phenomena from Japan's prehistoric to modern/contemporary periods
3) Discuss major works, sites, individuals and institutions within the large historical context of Japanese visual culture (the emphasis is on discussion and analysis, not on the memorization of dates and names)
4) Analyze major typologies and visual strategies from historical, artistic and conceptual points of view
5) Examine various notions of "Japan" in visual culture available in Japan and elsewhere by referring to examples from both premodern and modern/contemporary periods
6) Cultivate cultural sensitivity toward premodern examples of Japanese visual culture (before the beginning of the Meiji period in 1868)

成績評価方法

●**試験** 45% Two Small Quizzes, Midterm and Final Exam. The criteria for grading are based primarily on understanding the contents of the readings, class lectures and discussions, not on the memorization of dates and names.
●**レポート** 20% Two Short Writing Assignments & One Museum Report
●**平常点** 30% Attendance and Class Discussions (Bring a question or answer a question given for each class reading)
●**その他** 5% Short Oral Presentation (5 minutes)

科 目 名	Intensive Studies 21 (Education 1) Culture and Society							
担当者名	ホサイン タニア							
英語	2単位	春学期	月曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

Language is not only a means of communication, it also influences attitudes and behavior and is a vital component of the cultural prerequisites underlying societal development. The aim of this course is to discuss the role of language and language use in a series of societal challenges and in various cultural contexts. Education is a process through which people learn to create new institutions, use new technologies, cope with their environment and alter their patterns of behavior. Economic and social development of a nation depends on these factors. In a broad sense education improves the capacity of individuals and institutions that contributes to the social, economic, cultural, and demographical changes which are related with the national development. As a whole, education is a process of providing enlightenment and skills to a nation. It is not clear how these changes occur through education but evidence suggests that schooling and education can make major contributions to poverty reduction, gender equity, responsibility of citizenship and equality of life. Education is a process through which people learn to create new institutions, use new technologies, cope with their environment and alter their patterns of behavior. Economic and social development of a nation depends on these factors. In a broad sense education improves the capacity of individuals and institutions that contributes to the social, economic, cultural, and demographical changes which are related with the national development. As a whole, education is a process of providing enlightenment and skills to a nation. It is not clear how these changes occur through education but evidence suggests that schooling and education can make major contributions to poverty reduction, gender equity, responsibility of citizenship and equality of life.

授業の到達目標

In this course, students will develop their academic speaking, listening, reading, and writing skills through study and discussion of English lectures of varying lengths. Main focus would be education in different countries. Activities will include listening to lectures in class, taking structured notes, discussion, answering questions, and writing summaries. Students will also develop their communication skills through a variety of pair, group and class activities. Emphasis will be placed on developing a deep understanding of sentence and text structure, and also on micro- and macro-reading skills. Students will learn how to get the main points of the text quickly and effectively, without the need for translation into the native language. They will also be encouraged to read related reading with the referred textbook to gain a deeper understanding of the covered topics. Students will also develop writing skills in English. In addition, students are required to master academic words including their meaning and collocations by studying the words from the textbook. Students are expected to do 90 minutes homework on weekly assignments.

成績評価方法

Book Report……20
In-class short test……40
Final Assessment/ Presentations……40

備考・関連URL

Instructor has the right to amend the syllabus.

科 目 名	Intensive Studies 22 (Education 2) Culture and Society							
担当者名	ホサイン タニア							
英語	2単位	秋学期	火曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

Language is not only a means of communication, it also influences attitudes and behavior and is a vital component of the cultural prerequisites underlying societal development. The aim of this course is to discuss the role of language and language use in a series of societal challenges and in various cultural contexts. Education is

a process through which people learn to create new institutions, use new technologies, cope with their environment and alter their patterns of behavior. Economic and social development of a nation depends on these factors. In a broad sense education improves the capacity of individuals and institutions that contributes to the social, economic, cultural, and demographical changes which are related with the national development. As a whole, education is a process of providing enlightenment and skills to a nation. It is not clear how these changes occur through education but evidence suggests that schooling and education can make major contributions to poverty reduction, gender equity, responsibility of citizenship and equality of life. Education is a process through which people learn to create new institutions, use new technologies, cope with their environment and alter their patterns of behavior. Economic and social development of a nation depends on these factors. In a broad sense education improves the capacity of individuals and institutions that contributes to the social, economic, cultural, and demographical changes which are related with the national development. As a whole, education is a process of providing enlightenment and skills to a nation. It is not clear how these changes occur through education but evidence suggests that schooling and education can make major contributions to poverty reduction, gender equity, responsibility of citizenship and equality of life.

授業の到達目標

In this course, students will develop their academic speaking, listening, reading, and writing skills through study and discussion of English lectures of varying lengths. Main focus would be education in different countries. Activities will include listening to lectures in class, taking structured notes, discussion, answering questions, and writing summaries. Students will also develop their communication skills through a variety of pair, group and class activities. Emphasis will be placed on developing a deep understanding of sentence and text structure, and also on micro- and macro-reading skills. Students will learn how to get the main points of the text quickly and effectively, without the need for translation into the native language. They will also be encouraged to read related reading with the referred textbook to gain a deeper understanding of the covered topics. Students will also develop writing skills in English. In addition, students are required to master academic words including their meaning and collocations by studying the words from the textbook. Students are expected to do 90 minutes homework on weekly assignments.

成績評価方法

Book Report……20
In-class short test……40
Final Assessment/ Presentations……40

備考・関連URL

Instructor has the right to amend the syllabus.

科目名	Intensive Studies 23 (European Thought 1) British and European Landscape and Garden Interactions, 1680-1950							
担当者名	ロビンソン　ピーター							
英語	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

The process by which landscapes are shaped, whether in the form of medieval royal hunting forests, aristocratic pleasure grounds, public parks, or intimate private gardens, tells us a lot about national identity, cultural priorities, and aesthetic values. This course introduces students to key principles, developments, and transitions in the British and European landscape tradition, spanning the Baroque period to the end of WWII. By studying a range of key concepts, important examples of landscapes, gardens, and their designers as well as the ideals and principles that lay behind them, we will see how the land has been a rich site for political, philosophical, and artistic expression, rivalling other mediums in which ideas are born, develop, and reach maturity.

授業の到達目標

By the end of the course you will understand the key philosophical and aesthetic ideas that underpinned attitudes towards landscape in Britain and Europe from the mid-seventeenth century to the mid-twentieth century, recognize the importance of specific gardens in the process of development and place landscape within the wider intellectual and social framework of the Western Tradition.

成績評価方法

●**試験**　0%　　None.
●**レポート**　70%　　End of term paper.
●**平常点**　30%　　Individual/group presentation.
●**その他**　0%　　Regular attendance is a requirement of the course.

科目名	Intensive Studies 24 (European Thought 2) A Cultural History of Collecting							
担当者名	ロビンソン　ピーター							
英語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course explores the cultural importance of collecting in the Anglophone world. From important institutional collections of plants in botanical gardens and vast museums containing millions of artefacts, to small private 'cabinets of curiosities' first popularized in the 17th century, the desire to collect is timeless. Collections have satisfied inquiring minds throughout the ages, become obsessions and fetishes, and been used to project political power and status. Collections undoubtedly remain important, but are transforming. Many of the insights into the cultures of past societies that we have today, and a whole range of scientific break-throughs, are the result of the existence of collections. This course will address the motivation behind collecting and consider both the great harm collections have done, but also the great benefits they have brought us. A range of indicative

collections will be introduced, such as plants, antiques, fossils, natural history, art, as well as examples of popular culture such as American comics.

授業の到達目標

By the end of the course you will have a solid understanding of the importance of collecting, its social and intellectual impact on the Anglophone world, and be familiar with some of the most important collections in their respective fields. The roles played by the concepts of curatorship（the construction of narratives）, display, classification, and the impact of digitalization and technology will also be explored.

成績評価方法

1）A short（750 word）paper responding to an assigned question based on session 9（40% of grade）
2）An end-of-term in-class written examination（60% of grade）

備考・関連ＵＲＬ

Regular attendance is a requirement of the course.

科 目 名	Intensive Studies 25（Critical Theory） Literary and Cultural Theory: Text, World, Self							
担当者名	マッキン　ゼイン　ディーン　リバー							
英語	２単位	秋学期	木曜日	４時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course introduces literary and cultural critical theory from the 20th century to the present, with special attention to issues relevant to the study of East Asia. Students will be encouraged to think critically and creatively about any theoretical arguments or issues that emerge in the course of our readings and discussions, rather than treat theoretical idiom as an instrument to be applied to a literary text.

（All readings for this course will be in English.）

授業の到達目標

1. Become familiar with the main theoretical debates relevant to the study of East Asia.
2. Develop the skills necessary to interpret literary, cultural, and historical texts.
3. Develop and practice analytical writing skills.

成績評価方法

●**試験**　30%　Final Exam
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　Attendance and Class Participation
●**その他**　40%　Weekly Responses and Presentations

科 目 名	Intensive Studies 26（Japanese Culture and Society 1） Mapping East Asia: Tracing the Borders of Japan in the Early 20th Century							
担当者名	ハートマン　ナン							
英語	２単位	夏クォーター	月３時限	木２時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course serves as an introduction to the entity commonly referred to as “Japan.” Focusing on the topic of “extraterritorial”（gaichi）, the readings of this course take an intensive look at transculturations of Japanese literature and aims to deepen knowledge of Japanese colonialism(s).They are selected to provide mappings of the colonies in literary languages that inevitably shape our sense of the strange, while requiring us to re-conceptualizethe definitions of nation, language, culture, ethnicity, and self-identity.

授業の到達目標

- familiarize students with the modern nation-state of Japan through literary works
- recognize Japan’s shifting geographies across time and space in the early 20th century
- critical reading and analytical skills of texts from various historical contexts

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　Four response papers 4 x 15%
●**平常点**　20%　Attendance and Participation
●**その他**　20%　Presentation

科 目 名	Intensive Studies 27（Japanese Culture and Society 2） Voices from the Margins: Radical Thought, Protest, and Dissent in Modern Japan							
担当者名	アコスタ　アリエル　キャサリン							
英語	２単位	夏クォーター	火３時限	金３時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

This class will approach modern Japanese history, from the mid-Meiji period to our current day, from the ‘margins’ of history. We will read primary source documents from suppressed voices, including political radicals, ethnic and cultural minorities, labor movements, feminist activists and others, while investigating the political and cultural contexts that lead to their marginalization and/or suppression.

Content and scheduling of each week’s lectures is subject to change from the suggested themes listed below. Please feel free to contact the professor in advance of the class if you have any questions about this class or the subjects it might cover.

授業の到達目標

Students will learn to use a variety of sources, not just history textbooks, as a means of telling and understanding history. We will discuss the use of primary source documents, fiction, mass media, print culture, and visual culture in understanding and analyzing the past. The course will be conducted in English, but as this course emphasizes primary source documents, students are encouraged to seek out and consult sources in

Japanese as well.

成績評価方法

●**試験** 0%

●**レポート** 40% Students will write one final research paper on a topic of their choice, to be decided in consultation with the professor, worth 30% of the grade. A series of small writing assignments (350-400 words) throughout the class will prepare the students for the final paper, worth 10% of the grade.

●**平常点** 40% Class participation includes both regular attendance of class sessions, as well as active participation in class and small-group discussions and in-class presentations. This seminar will be discussion-intensive, and this portion of the grade reflects attendance, preparedness, and active participation.

●**その他** 20% Students will give a short (10-15 minute) presentation on one reading. The presentation schedule will be decided in the beginning of the class.

科 目 名	Intensive Studies 28 (Japanese Culture and Society 3) Sociolinguistic dynamics in Japanese languages and dialects							
担当者名	吉田 健二							
英語	2単位	冬クォーター	火5時限	金5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

In this course, we will review current issues in Japanese languages and dialects focusing on their diversity and sociolinguistic dynamics. We will look at multiple languages spoken in the islands of Japan and overseas, and varieties of dialects with their wide range of interesting features. Some of the topics to be discussed in this course may challenge common perceptions on socio-linguistic situation of Japan, i.e., virtually monolingual, fairly homogeneous culture with the strong standard variety. I hope that this course help students to gain a solid understanding of sociolinguistic theory and analysis and to expand their interest in important and interesting issues related to language and society.

授業の到達目標

The class will proceed with lectures by the instructors and discussion by students. Printed course materials will be provided in class. The students will be asked to find their own research questions and develop them throughout the course toward the final write-up. The students will be asked to give the mid-term presentation, which is intended to help students to start considering and develop their course project.

成績評価方法

●**試験** 0%

●**レポート** 70% The term final paper will be evaluated using the criteria below: 1) Clear and meaningful research question(s) grounded on the discussion and materials covered throughout the course 2) Coherent essay structure that naturally leads to appropriate answers to the research questions 3) Proper citation of preceding studies

●**平常点** 30% Contribution to class discussion will be highly valued. Students are encouraged to report on materials or their own findings.

●**その他** 0%

科 目 名	Intensive Studies 29 (Japanese Visual Culture and Media 1) Japanese Cinema and Literature							
担当者名	ハートマン ナン							
英語	2単位	夏クォーター	月5時限	木4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course examines visual adaptations of Japanese literary works. Through comparative analysis of textual and visual media we will discuss issues including the relationship between content and style, politics of representation (such as hyper femininity/masculinity), intended readership/audience, aesthetics, and genre characteristics. Students will learn about Japanese cinema as the artistic expression of individual directors and gain a better understanding of the history of Japanese society as reflected and documented in literature and popular culture.

授業の到達目標

- practice discussing film with reference to story, character, image, and narration
- learn about some of the major directors of Japanese cinema and auteurism
- improve analytical skills by reading primary texts and critical essays on films viewed
- improve writing skills, particularly description, analysis, and refining of arguments about films/stories in question

成績評価方法

●**試験** 0%

●**レポート** 60% Six short written responses 6 x 10%

●**平常点** 30% Attendance (15%) and participation in discussion (15%)

●**その他** 10% Final presentation

科 目 名	Intensive Studies 30 (Japanese Visual Culture and Media 2) Anime: The Face of Japanese Popular Culture							
担当者名	ケルツ ローランド ノゾム							
英語	2単位	夏クォーター	土4時限	土5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course provides a critical perspective on Japanese animation ('anime') and its relationship to postwar Japanese history and popular culture. The focus of this course is to develop a nuanced understanding of anime, not only as an aesthetic discipline and form of expression, but also as a cultural product informed by native

economic and societal conditions. Through screenings, readings, lectures, discussions and collaborative projects, students will gain a broader and deeper awareness of what lies behind the curtain of such a profoundly hybridized and influential medium — and how it may evolve in the future.

授業の到達目標

- Acquire exposure to major works in the history of anime.

- Cultivate the tools to critically analyze anime narratives and visuals.

- Develop an understanding of historical, cultural and social backgrounds.

- Situate anime in a global context.

成績評価方法

1. Class Participation 30%
2. Homework/Class Preparation 30%
3. Presentations 20%
4. Papers 20%

備考・関連ＵＲＬ

*If you miss more than 5 classes, the university will not grant you credit for the course.
*More than 30 minutes late will count as a missed class, barring urgent reasons.

科 目 名	Intensive Studies 31 (Japanese Visual Culture and Media 3) Global Perspective on Japanese Arts and Culture							
担当者名	柳下　恵美							
英語	２単位	春クォーター	火５時限	金５時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will focus on the arts, culture, and philosophy of Japan, as well as on the work of Japanese artists active in other countries. In this class, students will study influential aspects of Japanese arts, culture, and philosophy, while gaining a global viewpoint by learning about how other nations perceive Japan and Japanese civilization. We will cover a variety of Japnese topics, including their impact on Western art and thought; Noh theatre; Kabuki; Tea master and tea ceremony; Samurai culture; notable Japanese philosophers, dancers, sculptors, writers, film directors, conductors, painters, government officials, and academicians, etc.

Students are required to develop their own opinions on these subjects and summarize their ideas in oral presentations and writings. At the end of class, different points of view will be compared and discussed. In this course, some illustrations and audio-visual materials will be used to deepen students' knowledge.

授業の到達目標

1. Develop reading, writing, speaking and listening skills
2. Increase vocabulary
3. Understand aspects of Japanese arts and culture
4. Gain a global viewpoint on Japanese arts and culture

成績評価方法

●**試験**　0%　　N/A
●**レポート**　30%　　Report
●**平常点**　70%　　Attendance/Class Participation
●**その他**　0%　　N/A

科 目 名	Intensive Studies 32 (Comparative Perspectives in Japanese Literature) Japanese Essay Literature from a Comparative Perspective							
担当者名	リーブズ　クリストファー							
英語	２単位	秋学期	火曜日	２時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will serve as an introductory survey of Japanese essay literature (zuihitsu bungaku). We will look at English translations of a selection of representative essays, both literary and philosophical, and discuss their historical background, literary features, and contribution to Japanese intellectual history. We will, by way of comparison, look at a number of short essays by writers of other nations, as a means of gaining a broader understanding of our material.

Students may also read materials in the original Japanese or in modern Japanese translations, depending on their language ability. No previous knowledge of Japanese language or literature is required.

授業の到達目標

This course seeks to achieve two objectives. First, students will be able to gain a broad understanding of the historical, literary, and intellectual features of Japanese essay literature. Second, by studying essay literature through English translations, students will learn to reconsider Japanese culture from the outside, thereby encouraging new interpretations.

成績評価方法

Students will be evaluated based on the following three factors:

1. Weekly attendance and active participation in class discussions: 30%
2. Weekly homework assignments: 30%
3. One final report, due on the last session: 40%

In exceptional cases, such as unavoidable absence from class, students will be given the opportunity to submit extra work in order to make up for lost marks. Such arrangements may be made on an individual basis with the instructor.

科 目 名	Intensive Studies 33 (Creative Writing) Introduction to Creative Writing: Prose & Poetry							
担当者名	カール　スティーブン・ロドニー							
英語	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course is an introduction to creative writing. The course will expose students to a variety of writing styles such as short story, flash fiction, vignette, lyric poetry, and prose poetry. We will learn to read and approach literature from the point of view as writers, not as a finished product but as a process. The course readings will range from canonical to contemporary texts with a goal to introduce students to a wide range of creative work. Your development and growth as a writer, as well as the ability to experiment and revise effectively, are the core components of the class. Class participation and attendance are essential.

This class is taught entirely in English. All of the required readings, class discussions, workshop, and writing will be in English.

授業の到達目標

1) Become familiar with the concepts and techniques of writing prose and poetry.
2) Acquire the techniques of revising creative works.
3) Learn to give productive peer feedback.

成績評価方法

40% Written Assignments
30% Class Participation
30% Final Portfolio

科 目 名	Intensive Studies 34 (Literature 3) 19th-century American literature							
担当者名	未定							
英語	2単位	秋学期	未定	未定	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will expose students a range of works and writers from 19th Century American Literature between 1800 and 1865. The course will be divided into themes in United States literature and society during these years, helping students to gain familiarity with shorter literary works by major authors of the period and their situation in a rich historical context. Many of these works deal with the most important and difficult social issues of the era, including rapid technological change, racial slavery and discrimination, unequal rights, and war.

All readings will be done in English and limited to shorter stories, essays, excerpts from novels, and poetry Students will complete two short essays in English and take a midterm exam and final exam in English. Each class will begin with a short lecture on the assigned reading and its historical context, followed by a discussion of the assigned reading.

授業の到達目標

1. To gain familiarity with important works of literature by a diverse group of significant United States authors
2. To understand these writings in relation to major social issues and possibilities between 1800-1865
3. To become more comfortable reading historical literary works written in English.

成績評価方法

- **試験**　40%
- **レポート**　40%
- **平常点**　20%
- **その他**　0%

科 目 名	Intensive Studies 35 (American Studies 3) 19th-century American culture							
担当者名	未定							
英語	2単位	秋学期	未定	未定	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will expose students to major ideas and issues in American culture between 1800 and 1865 through lectures and reading selected literary works by a diverse group of significant American authors. The course will be divided into themes with paired literary readings and brief introductory lectures that will guide students through an introduction to some of the most challenging issues and opportunities facing a young nation coming into maturity and nearly coming to an early end.

All readings will be done in English and limited to shorter stories, essays, excerpts from novels, and poetry. Students will complete two short essays in English and take a midterm exam and final exam in English. Each class will begin with a short lecture on the assigned reading and its historical context, followed by a discussion of the assigned reading.

授業の到達目標

1. To gain familiarity with important social issues of the early national United States through the Civil War.

2. To learn how to use literary works written by a diverse group of significant United States authors as an important lens for understanding early national U.S. culture and society.
3. To become more comfortable reading historical literary works written in English.

成績評価方法

●**試験** 40%
●**レポート** 40%
●**平常点** 20%
●**その他** 0%

科 目 名	Intensive Studies 51 (Seminar: Topics in Japanese Literature 1) The Burst Bubble: Japanese Literature of the 1990s							
担当者名	アコスタ　アリエル　キャサリン							
英語	2単位	夏クォーター	火1時限	金1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

Japan's 1990s is known as "The Lost Decade," a nickname that refers the economic collapse of the 1980s " Bubble economy," the severity of the natural and manmade disasters, and the many social crises of the era. The literature of this time reflects this mood, but also reflects emerging technologies of communication and work, shifting social roles, and new cultural forms. We will consider questions of technology, postmodernity, youth, crime, labor, cultural crisis, and more. This class will read novels, short stories, and non-fiction by Japanese writers writing in the 1990s, as well as a selection of short articles to give context to the works we read.

授業の到達目標

Students will acquire knowledge of a broad selection of Japanese literature from the 1990s, develop critical reading skills, and produce research papers on Japanese literature.

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 40%　There will be two papers required for this class. A shorter midterm paper worth 15% of the final grade, and a longer final paper worth 25% of the final grade.
●**平常点** 40%　Consistent attendance and active participation in in-class discussions are a requirement. Please refer to the syllabus distributed in class for detailed information on the attendance policy.
●**その他** 20%　Brief homework assignments throughout the class, and one in-class presentation.

科 目 名	Intensive Studies 52 (Seminar: Topics in Japanese Literature 2) Reading and Translating Japanese Literature							
担当者名	ピタルク　パウ							
英語	2単位	春クォーター	火4時限	金4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course is a first introduction to the challenges of Japanese-to-English literary translation. Students will read recent works of short Japanese fiction and produce English translations of selected passages. Class time will be devoted to analyzing the original texts as literary works, and discussing the different choices available in the process of their translation.
(An advanced level of both Japanese and English is required for this course.)

授業の到達目標

1. Improve one's ability to produce accurate translations of literary Japanese texts into English.
2. Identify the key features of a literary text and the choices available to its translator.
3. Evaluate the quality of a translation, and identify areas of improvement.

成績評価方法

30% Final Project
30% Attendance and Class Participation
40% Weekly Responses and Presentations

科 目 名	Intensive Studies 53 (Seminar: Topics in Japanese Literature 3) Women Writers in Japanese Literature, 1600-1900							
担当者名	ローリー　ゲイ							
英語	2単位	冬クォーター	火1時限	金1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

Japanese literature is unusual in world history for the importance of women writers to its development. Its long-acknowledged masterpiece, The Tale of Genji, is the work of a woman; and many of the greatest writers of the Nara, Heian, Kamakura, and Muromachi periods are women—Princess Nukata, Sei Shōnagon, Izumi Shikibu, Abutsu, "Lady Nijō," to name but a few. Thereafter, women seem to disappear from the history of Japanese literature, at least as it is written nowadays. Surely women did not stop writing. But who—and where—are the women writers between Towazugatari (The Confessions of Lady Nijo, ca. 1306) and the fictions of Higuchi Ichiyō (1872-1896)? The aim of this course is to begin filling this gap; to explore what women wrote, and how and why, during Japan's early modern period, between 1600 and the late nineteenth century. Texts will include auto/biographies, stories, poetry, and travel writing. All readings and discussion will be in English; knowledge of Japanese is welcome but not a prerequisite.

授業の到達目標

Students should expect to:
1. Become familiar with a wide range of Japanese literature written between 1600 and 1900.
2. Develop an understanding of the historical and social backgrounds of this literature.
3. Read more analytically and express their understanding of the texts in more sophisticated English.

4. Situate early modern Japanese literature in a global context.

成績評価方法

●**試験** 0% There is no examination for this course.
●**レポート** 40% The short final project (1500 words for undergraduates, 2000 words for graduate students) should be either an interpretive essay concerning one or more of the texts considered in this course, OR an annotated translation of a passage from one of them or from a similar work. Final projects should be typewritten in a 12-point font, double-spaced, and submitted via either Waseda Moodle or CourseN@vi.
●**平常点** 30% The course is a seminar and the active participation of all students is expected. In-class discussions of texts will be the heart of each class. Commitment to reading and thinking carefully about the texts and a willingness to share ideas in class are vital. Make notes of your answers to the discussion questions (include page numbers!) and come to class prepared to listen and to talk.
●**その他** 30% Assignments and presentations

科 目 名	Intensive Studies 54 (Seminar: East Asian Cultures in Global Perspective 1) Japanese Literature, Then and Now: Modern-Day Approaches to Old Texts							
担当者名	リーブズ　クリストファー							
英語	２単位	春クォーター	月３時限	木２時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will be dedicated to, first, looking at a number of texts (in English translation) from the world of Japanese literature and philosophy, and, second, reexamining these same texts through the broader lens of modern-day English-language scholarly research.

Students may also read materials in the original languages, or through modern translations in languages other than English, depending on their language ability. No previous knowledge of Japanese, Korean, or Chinese language or literature is required.

選択英語

授業の到達目標

This course seeks to achieve two objectives. First, students will be able to gain a broad understanding of some of the major literary themes and perennial questions running through Japanese literature and philosophy. Second, by studying these literary and intellectual traditions through English-language translations, and from the broader perspective of modern-day (English-language) research, students will learn to reconsider Japanese culture, and, more generally speaking, East Asian culture, from the outside, thereby encouraging new and creative interpretations.

成績評価方法

Students will be evaluated based on the following three factors:

1. Weekly attendance and active participation in class discussions: 30%
2. Weekly in-class quizzes and/or presentations: 30%
3. One final written report, due on the final session: 40%

In exceptional cases, such as unavoidable absence from class, students will be given the opportunity to submit extra work in order to make up for lost marks. Such arrangements may be made on an individual basis with the instructor.

科 目 名	Intensive Studies 55 (Seminar: East Asian Cultures in Global Perspective 2) Japanese Literature, Then and Now: Modern-Day Approaches to Old Texts							
担当者名	リーブズ　クリストファー							
英語	２単位	春クォーター	月４時限	木４時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course will be dedicated to, first, looking at a number of texts (in English translation) from the world of Japanese literature and philosophy, and, second, reexamining these same texts through the broader lens of modern-day English-language scholarly research.

Students may also read materials in the original languages, or through modern translations in languages other than English, depending on their language ability. No previous knowledge of Japanese, Korean, or Chinese language or literature is required.

授業の到達目標

This course seeks to achieve two objectives. First, students will be able to gain a broad understanding of some of the major literary themes and perennial questions running through Japanese literature and philosophy. Second, by studying these literary and intellectual traditions through English-language translations, and from the broader perspective of modern-day (English-language) research, students will learn to reconsider Japanese culture, and, more generally speaking, East Asian culture, from the outside, thereby encouraging new and creative interpretations.

成績評価方法

Students will be evaluated based on the following three factors:

1. Weekly attendance and active participation in class discussions: 30%
2. Weekly in-class quizzes and/or presentations: 30%
3. One final written report, due on the final session: 40%

In exceptional cases, such as unavoidable absence from class, students will be given the opportunity to submit extra work in order to make up for lost marks. Such arrangements may be made on an individual basis with the instructor.

科 目 名	Intensive Studies 56 (Seminar: East Asian Cultures in Global Perspective 3) Writing Women in Early Modern East Asia							
担当者名	ローリー　ゲイ							
英語	2単位	秋クォーター	火1時限	金1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

In the British novelist Virginia Woolf's famous essay "A Room of One's Own" (1929), she wrote: "A woman must have money and a room of her own if she is to write fiction." What else might a woman need to be a writer? What else might a woman write besides fiction? The aim of this course is to explore some answers to these questions in the East Asian context, by which I mean those countries that are part of the "Sinosphere" of Chinese textual influence: China, Japan, Korea, and Vietnam. Our readings will be from the early modern period, roughly 1600 through the late nineteenth century, and will include auto/biographies, fiction, and poetry. All readings and discussion will be in English; knowledge of an East Asian language is welcome but not a prerequisite.

授業の到達目標

Students should expect to:

1. Become familiar with a variety of literature by women in East Asia between 1600 and 1900.
2. Develop an understanding of the historical and social backgrounds of this literature.
3. Read more analytically and express their understanding of the texts in more sophisticated English, both spoken and written.
4. Situate gender and writing in early modern East Asia in a comparative context.

成績評価方法

●**試験**　0%　　There is no examination for this course.

●**レポート**　40%　　The short final project (1500 words for undergraduates, 2000 words for graduate students, topic subject to instructor's approval) should be either an interpretive essay concerning one or more of the texts considered in this course, OR an annotated translation of a passage from one of them or from a similar work. Final projects should be typewritten in a 12-point font, double-spaced, and submitted via either Waseda Moodle or CourseN@vi.

●**平常点**　30%　　The course is a seminar and the active participation of all students is expected. In-class discussions of texts will be the heart of each class. Commitment to reading and thinking carefully about the texts and a willingness to share ideas in class are vital. Make notes of your answers to the discussion questions (include page numbers!) and come to class prepared to listen and to talk.

●**その他**　30%　　Assignments and presentations

科 目 名	Academic Skills (Integrated) s A							
担当者名	安藤　文人							
英語	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course aims to help students develop their 4 skills in a balanced way as well as use English as a tool for global communication.

授業の到達目標

This course aims to help intermediate/ high intermediate students, especially those who are thinking of teaching English as a future career, develop their 4 skills in a balanced way. The other aim is to help students use English as a tool for global communication and develop English ability to think critically and objectively and convey their thoughts and ideas in an organized manner through pair work, discussion, and presentations.

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　60%

●**平常点**　0%

●**その他**　0%　　プレゼンテーション(準備段階の取り組み、補助レポートも含む)30%　エッセイ(500語以上)10%

科 目 名	Academic Skills (Integrated) s B							
担当者名	斎藤　裕紀恵							
英語	2単位	春学期	水曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course aims to help students develop their 4 skills in a balanced way as well as use English as a tool for global communication.

授業の到達目標

This course aims to help intermediate/ high intermediate students, especially those who are thinking of teaching English as a future career, develop their 4 skills in a balanced way. The other aim is to help students use English as a tool for global communication and develop English ability to think critically and objectively and convey their thoughts and ideas in an organized manner through pair work, discussion, and presentations.

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　60%

●**平常点**　0%

●**その他**　0%　　プレゼンテーション(準備段階の取り組み、補助レポートも含む)30%　エッセイ(500語以上)10%

科 目 名	Academic Skills (Integrated) f							
担当者名	安藤　文人							
英語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

This course aims to help intermediate students, especially those who are thinking of teaching English as a future career, develop their 4 skills in a balanced way.
この科目では、中級の学生で、特に教職を目指すものを対象にして、4技能の力をバランスよく伸ばすことを目指す。

授業の到達目標

This course aims to help students develop their 4 skills in a balanced way.
この科目では、英語4技能の力をバランスよく伸ばすことを目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　60%　　アサインメント、課題レポート、積極的な授業への参加度などを評価
●**その他**　40%　　プレゼンテーション　準備段階の取り組み（補助レポート）も含む

科 目 名	Academic Skills (Online) B							
担当者名	安藤　文人　他／ビューケンス　ロジャー　トッド							
英語	2単位	秋学期	無	フルOD	2年以上	—	合併科目	フルオンデマンド

選択英語

授業概要

This fullyonline course is designed for students to develop both their listening andreading skills. Each unit of the course is based around a core topic and containstwo listening lessons and one reading lesson. The listening lessons feature shortnatural conversations between English speakers from all over the world. Thereading lessons should be challenging for intermediate English learners.

授業の到達目標

To develop core English listening skills
To build an awareness of a range of English varieties and accents
To develop strategies for vocabulary building
To improve reading speed
To develop the ability to learn independently

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　成績評価はP（合格）、Q（不合格）の2種類です。平常点の学習状況によって評価され、課題の3分の2を満たしていない場合はQとなります。
●**その他**　0%

備考・関連URL

本授業は全回オンデマンド授業として実施します。※曜日時限は「無フルOD」となり、教室は配当されません。

講 義 内 容

選 択 外 国 語

科 目 名	フランス語を読む1（文学1）							
担当者名	福山　智							
仏語	2単位	春学期	水曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

初等文法を履修した学生（一般的には2年生以上、ただし独学や高校以前の既習者はその限りではない）が対象となります。

特に2年生は文法事項を修めたばかりで実際に読むためにその知識を運用した経験がほとんどないでしょう。また3年生以上でもしばらくブランクがある場合も考えられます。したがって前期は、文字数の少ない韻文詩を読みましょう（だからといって簡単には読めませんが）。前半は比較的読みやすい20世紀の作品をいくつか取り上げます。それから、せっかく韻文を読む機会なので、後半は、フランス詩法のイロハにも目くばせをするために、17世紀古典主義ラシーヌの『フェードル』から19世紀近代史の幕開けを告げる詩人たち、ボードレール、ランボー等の代表的な韻文作品を読みます。時には、実際に読んだ作品とゆかりのある映像なども観る予定です。

どれも知っておいて損のない作品ばかりです。フランス語力のみならず知識としても還元できればと思います。

フランス語を読む楽しみ、原文でしかわからない味わいを感じること、またそれだけではなく、作品の背後にある、それぞれの歴史、文化にもふれることでより豊かにテキストに接すること、これが当講義の主眼となります。従って、2年生のみならず、3年生、4年生、さらに上の学生の受講も、もちろん歓迎です。またオープン科目でもあります。他学部からの受講生もおおいに歓迎します。このようにダイレクトにひたすら文学的な作品を読むという講義は他学部ではなかなかお目にかかれるものではないかもしれません。そうした機会を逃さずに、臆することなく参加してください。

試験は期末の教場試験とします。辞書持ち込み可。おおよそ半分は授業で扱ったプリントから、残りの半分は実力テストで基本的には和訳形式になります。

授業の到達目標

フランス語で読む楽しみ、継続して読もうという意欲を感じるようになること。また文化一般にも興味を抱くようになること。

成績評価方法

- **試験**　70%　　辞書持ち込み可
- **レポート**　0%　　特になし
- **平常点**　30%　　授業での積極性
- **その他**　0%　　特になし

科 目 名	フランス語を読む2（哲学）　哲学書のフランス語に慣れる							
担当者名	立花　史							
仏語	2単位	春学期	火曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

思想・哲学系のフランス語文献を読んでゆきます。

春、秋ともに、それぞれ哲学者のテクストの抜粋（1〜2つ）を読みます。そのつど、新たな哲学者のテクストに入るときには、可能な範囲で、こちらから哲学者の簡単な解説もおこないます。

※ただし登録者や講師の問題関心によっては美学・社会学・分析哲学に関わるテクストや哲学的な文学テクストを扱う場合もあります。

論述文によく出てくる語彙や熟語、文構造というものがあります。それらを少しずつ身につけてゆくと、文面から徐々に意味が汲み取れるようになります。それまでの間、辞書を片手に、フランス語の文章と根気よく向き合える登録者がのぞましいと考えています。なるべく平易なテクストを選ぶつもりですが、哲学という縛りがあるので、どうしてもテクストのレヴェルは中級以上になります。

中級者を主な対象としていますが、学部生から院生まで、学年や所属は幅広く歓迎します。

準備・環境がととのえば、視聴覚教材も利用したいと思います。

授業の到達目標

本講座の到達目標は、哲学書に出てくるフランス語に慣れることです。単に辞書を引くだけでなく、独特の語彙、熟語、文構造をなるべく習得するように心がけてください。

もちろん本講座は、フランス語圏の思想・哲学に関する教養を深め、さまざまなテーマに関して自主的に考える機会を提供する場となることも目指しています。（ただし哲学や思想そのものを専門的に講ずる授業ではないのであしからず。）

成績評価方法

- **試験**　45%
- **レポート**　0%
- **平常点**　55%
- **その他**　0%

備考・関連URL

秋期からの登録も歓迎しますが、通年で受講することをお勧めします（春期のテクストの途中からになる場合もあります）。

科 目 名	フランス語を読む3（芸術・文化）　フランスの文学作品をとにかく読んでいくうちに、フランス語が自力で読めるようになる							
担当者名	中島　万紀子							
仏語	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

フランスの、おもに文学のテクストをとりあげて、とにかく辞書さえあれば自力でフランス語の本格的な文章を読むことができるようになる。

フランス文学の有名な作品を、読むにたやすいものから順に取り上げて、数多く読んでいくので、フランス文学の名作について知る機会も兼ねている。

フランス語をひととおり学習した人を対象としているが、フランス語に少々自信のない人でも、文法事項も復習しながらフランス語読解のコツをおさえていくので、じっさいのフランス語の文章を自分で読めるようになる……はずである。

取りあげるテーマに関しては、学期の初めにアンケートをおこなうので、可能な限り皆さんの希望にも添いたいと考えている。

毎回短めの文章を読みきりというかたちで取りあげる。

授業の到達目標

じっさいのフランス語の文章を、自分で辞書をひいて読めるようになること。

成績評価方法

●**試験**　60%　　学期末に、持込不可（辞書も不可）の復習テストをおこなう。学期中に読んだフランス語の文章の抜粋を出題するので、それを和訳すること。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。訳文提出については「平常点評価」の項を参照のこと。
●**平常点**　40%　　出席を1回2点として30点、訳文提出を、1回2点、上限5回として10点、計40点とする。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	フランス語を読む4（現代文明）「黄色いベスト運動」の教え							
担当者名	梶田　裕							
仏語	2単位	春学期	月曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

2018年11月以降、燃料税の値上げに端を発し、フランス全土に広がった抗議運動は、車に積むことが義務付けられている非常時用の黄色いベストを参加者が着用したことから、「黄色いベスト運動」と呼ばれるようになりました。その主張は直ちにより広範な政治・社会的要求を伴うようになり、大規模な社会運動へと発展しました。しかし、「反緊縮」という共通項の周りに「左派的主張」と「右派的主張」が入り乱れる「雑多さ」、労働組合や既存の政治団体に対して取られた距離、そして中心的な指導者や代表者の不在は、この運動の「新しさ」でもあると同時に、その政治的な意味を見えにくくもしています。この授業では、「黄色いベスト運動」の一貫性、その意義と限界を、「モラル・エコノミー」という概念を用いて読み解いているサミュエル・アヤトの論考（Samuel Hayat, « Les Gilets Jaunes, l'économie morale et le pouvoir »）を読み、この運動についての理解を深めると同時に、現代社会の政治的状況を考えるための手がかりを探りたいと思います。

授業の到達目標

中級程度のフランス語を読むための語学力・読解力を身につけること。また、現代社会が抱えている様々な問題をより深く理解すること。

成績評価方法

毎回の予習や授業への参加50%、筆記試験50%で評価する。

備考・関連URL

初回の授業の際、辞書を持参すること。

選択外国語

科 目 名	フランス語を読む5（大学院受験のための仏語）							
担当者名	小出石　敦子							
仏語	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

このクラスは、高度なフランス語の読解力を身につけること、ならびに、大学院受験にそなえたフランス語読解の練習をすることを目的にします。従って二つの方向性を持っていますが、その二つがまったく別の方向を向いているわけではありません。原則的には、ある程度の難度をもったフランス語の文章が読めるようになることを目指し、その実践として、これまで都内の主要大学院の入試に出されてきたさまざまなフランス語の問題を取上げ読んでいきます。

ただし、受験予定もなく純粋にフランス語を読みたいという意見もある場合、全時間を入試問題に当てるのでなく、ときには有名なフランス文学作品の抜粋もしくは研究書を読んでいくことも考えています。入試対策と作品講読の時間的配分や、授業で取上げる大学院過去問題あるいは作品など、学期の初めに参加者の意見を聞いて詳しいことを決めるつもりです。

授業の到達目標

大学院入学試験におけるフランス語の問題を読んで、大体の内容を理解し、日本語に訳すことができるようになること。

成績評価方法

●**試験**　50%　　学期末の記述試験の内容が評価対象。
●**レポート**　0%　　レポートは実施しません。
●**平常点**　50%　　出席状況と予習の状況が評価対象。
●**その他**　0%　　特にありません。

科 目 名	フランス語を読む6（文学1）							
担当者名	福山　智							
仏語	2単位	秋学期	水曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

前期（春期）での自信や興味を糧に、後期はより多くのフランス語を読むことを目指します（とはいえ、後期（秋期）からの履修でもまったく問題ありません）。散文詩や小説作品を中心に徐々に難易度の高いテクストへとステップ・アップしていきましょう。名文の誉れ高い作品や、原文で読んでこそ魅力が伝わる文章を取り上げます。時には作品が引用されている映画、映像にも時間が許す限り目を通す予定です。当講義はテクストのつまみぐいのようなものです。フランス語力を培うのみならず、今後の個人的な興味や研究対象を選ぶヒントになるよう期待しています。

対象は、フランス語初級文法を修めた学生となります。またオープン科目でもあります。文学作品を読むことに垣根は有りません。他学部からの受講生もおおいに歓迎します。

カリキュラムはあくまでも目安です（授業計画は2019年度後期に実際取り上げたテクストを挙げておきます）。というのも、一部、受講者からのリクエストを優先してテクストを選定しているからです。あくまでも一部なので、全員のリクエストにこたえることはできませんが、どしどし読みたいテクストを提案してください。フランス人による作品ではないもの、フランス語「訳」作品を読むこともやぶさかではありません。ただし、アゴタ・クリストフ『文盲』、サガン『悲しみよこんにちは』、カミュ『異邦人』、フローベールは必ず取り上げる予定です（フローベールに関しては、具体的に作品や箇所のリクエストがあるのなら歓迎します）。

試験は期末に教場試験を行います。辞書持ち込み可。半分は授業で扱ったプリントから、残りの半分は実力テストで和訳形式

です。

授業の到達目標

フランス語を読むことに喜びを感じること。語学力のみならず、フランスの文化、ひいてはヨーロッパ全体の文化や歴史への興味を抱くこと。

成績評価方法

●**試験**　70%　　辞書持ち込み可
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　30%　　授業における積極性
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	フランス語を読む7（哲学）　哲学書のフランス語に慣れる							
担当者名	立花　史							
仏語	2単位	秋学期	火曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

思想・哲学系のフランス語文献を読んでゆきます。

春、秋ともに、それぞれ哲学者のテクストの抜粋（1〜2つ）を読みます。そのつど、新たな哲学者のテクストに入るときには、可能な範囲で、こちらから哲学者の簡単な解説もおこないます。

※ただし登録者や講師の問題関心によっては美学・社会学・分析哲学に関わるテクストや哲学的な文学テクストを扱う場合もあります。

論述文によく出てくる語彙や熟語、文構造というものがあります。それらを少しずつ身につけてゆくと、文面から徐々に意味が汲み取れるようになります。それまでの間、辞書を片手に、フランス語の文章と根気よく向き合える登録者がのぞましいと考えています。なるべく平易なテクストを選ぶつもりですが、哲学という縛りがあるので、どうしてもテクストのレヴェルは中級以上になります。

中級者を主な対象としていますが、学部生から院生まで、学年や所属は幅広く歓迎します。

準備・環境がととのえば、視聴覚教材も利用したいと思います。

授業の到達目標

本講座の到達目標は、哲学書に出てくるフランス語に慣れることです。単に辞書を引くだけでなく、独特の語彙、熟語、文構造をなるべく習得するように心がけてください。

もちろん本講座は、フランス語圏の思想・哲学に関する教養を深め、さまざまなテーマに関して自主的に考える機会を提供する場となることも目指しています。（ただし哲学や思想そのものを専門的に講ずる授業ではないのであしからず。）

成績評価方法

●**試験**　45%
●**レポート**　0%
●**平常点**　55%
●**その他**　0%

備考・関連URL

秋期からの登録も歓迎しますが、通年で受講することをお勧めします（春期のテクストの途中からになる場合もあります）。

科 目 名	フランス語を読む8（芸術・文化）　フランスの文学作品をとにかく読んでいくうちに、フランス語が自力でサクサク読めるようになる							
担当者名	中島　万紀子							
仏語	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

基本的には、春学期の「フランス語を読む3（芸術・文化）」のつづきであるが、秋学期だけ単独で受講することもできる。（しかし、春学期のつづきではあるので、春学期から履修している人はレベルアップしているはずである。したがって、秋学期から履修する人は、周りのレベルに合わせて自助努力する必要が出てくるかもしれない。）

春学期と同様、フランスの、おもに文学のテクストをとりあげて、とにかく辞書さえあれば自力でフランス語の本格的な文章を読むことに慣れていく。フランス語の有名な作品を、できるだけ難易度順に数多く読んでいくので、フランス文学の名作について知る機会も兼ねている。

フランス語をひととおり学習した人を対象としているが、フランス語に少々自信のない人でも、文法事項も復習しながらフランス語読解のコツをおさえていくので、じっさいのフランス語の文章を自分で読めるようになる……はずである。

取りあげるテーマに関しては、学期の初めにアンケートをおこなうので、可能な限り皆さんの希望にも添いたいと考えている。

毎回短めの文章を読みきりというかたちで取りあげる。

授業の到達目標

じっさいのフランス語の文章を、自分で辞書をひいて読むのに慣れること。

成績評価方法

●**試験**　60%　　学期末に、持込不可（辞書も不可）の復習テストをおこなう。学期中に読んだフランス語の文章の抜粋を出題するので、それを和訳すること。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。「訳文提出」については以下の「平常点評価」の項を参照のこと。
●**平常点**　40%　　出席を1回2点として30点、訳文提出を、1回2点、上限5回として10点、計40点とする。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	フランス語を読む9（現代文明）　映画評論を読む							
担当者名	梶田　裕							
仏語	2単位	秋学期	月曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代文明がイメージの文明であることは疑いの余地がないように思われます。イメージは、一見情報の客観化に寄与するものであるように思われますが、クレショフの実験が示しているように、その意味作用は本質的に曖昧なものです。同じイメージは、

それと組み合わされるイメージによって、様々に意味を変えてしまうからです。フランスの映画批評家であるアンドレ・バザンによれば、映画の歴史は、この本質的な曖昧さをコントロールするためにモンタージュの技法を発展させた後、再びイメージに「現実」同様の曖昧さを取り戻させる方向へ向かいました。しかし、今日の商業的な映像文化は、映像から再び曖昧さを取り除き、解釈の可能性をますます制限するようになっています（物語を映像によって語るためだけのものとなった映画、広告、テレビにおけるテロップの過剰な使用、さらにはニュース番組のコメンテーター等）。現代文明におけるイメージの氾濫は、逆説的にも、イメージとその意味との関係を固定化するステレオタイプ化とともに、イメージの意味作用の極端な貧困化を引き起こしています。この授業では、現代文明におけるイメージの支配的な使用に抗する芸術的実践としての映画を考えるため、Cahiers du cinéma誌や、Trafic誌といったフランスの映画専門誌に掲載された評論を読みたいと思います。

授業の到達目標

中級程度のフランス語を読むための語学力・読解力を身につけること。映画を論じるための初歩的な語彙、概念、あるいは技法を学ぶこと。

成績評価方法

毎回の予習や授業への参加50%、筆記試験50%で評価する。

備考・関連ＵＲＬ

初回の授業の際、辞書を持参すること。

科 目 名	フランス語を読む10（大学院受験のための仏語）							
担当者名	小出石　敦子							
仏語	２単位	秋学期	火曜日	４時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

このクラスは、春期に開講している「フランス語を読む5」に続き、高度なフランス語の読解力を身につけること、ならびに、大学院受験にそなえたフランス語読解の練習をすることを目的にします。従って二つの方向性を持っていますが、その二つがまったく別の方向を向いているわけではありません。原則的には、ある程度の難度をもったフランス語の文章が読めるようになることを目指し、その実践として、これまで都内の主要大学院の入試に出されてきたさまざまなフランス語の問題を取上げ読んでいきます。

ただし、受験予定もなく純粋にフランス語を読みたいという意見もある場合、全時間を入試問題に当てるのでなく、ときには有名なフランス文学作品の抜粋もしくは研究書を読んでいくことも考えています。入試対策と作品講読の時間的配分や、授業で取上げる大学院過去問題あるいは作品など、学期の初めに参加者の意見を聞いて詳しいことを決めるつもりです。

授業の到達目標

大学院入学試験におけるフランス語の問題を読んで、大体の内容を理解し、日本語に訳すことができるようになること。

成績評価方法

●**試験**　50%　　学期末の記述試験の内容が評価対象。
●**レポート**　0%　　レポートは実施しません。
●**平常点**　50%　　出席状況と予習の状況が評価対象。
●**その他**　0%　　特にありません。

科 目 名	フランス語で表現する1（会話初級）　A							
担当者名	クーショ　マリナ							
仏語	２単位	春学期	木曜日	４時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、現実的な状況や場面に即した会話表現を習い、実際に役立つフランス語を身につけていきます。各テーマの初めに短い動画を見て、理解します（言葉やジェスチャーなど）。その後、その例にならって、会話練習を行います。

授業の到達目標

フランス語の基礎的な知識を獲得し、フランス文化を目と耳で感じながら学ぶこと。
フランス語による初歩的なコミュニケーション能力を身につけること。

成績評価方法

60%：テスト　　各テーマについて、オリジナルなやりとりを考え、演じる＞（ペアの評価＋個人評価）
40%：出席＋宿題＋グループワークにおける貢献度を評価します。

科 目 名	フランス語で表現する1（会話初級）　B							
担当者名	E. ヴィエル							
仏語	２単位	春学期	水曜日	５時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

次の二つのことを目指した授業です。

まずは効果的に気持ちを伝えるための初級レベルの表現を身に着けて、旅行でもそれほど困らず、フランス語話者とも関係を築けるくらいになることが目標です。ですから授業の方法は口頭表現を中心にしたものになります。

もう一つは、はっきりとした正確なフランス語の発音を身に着けることも目指します。発音とイントネーションについては、段階的にいろいろな練習をしていきましょう。フランスの演劇学校で使われている練習方法をやりやすい形にアレンジして、発音とイントネーションを鍛えるつもりです。音声を識別する現代的な道具なども使ってみたいと思います。

授業の到達目標

概要に書いた通り、初級レベルの実践的な会話能力と、正確なフランス語の発音を身に着けることが目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%
●**その他**　0%

科 目 名	フランス語で表現する1（会話初級） C							
担当者名	オジュロ　アン							
仏語	2単位	春学期	金曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

フランス語学習歴1年程度の学習者を対象とするクラスです。フランス語でコミュニケーションをとるのに最低限必要な平易な表現を学びます。発音や文法や語彙に関する簡単な練習も並行して行います。

授業の到達目標

フランス旅行やフランス滞在に役立つ、さまざまな場面での基本会話表現を身につける。

成績評価方法

●**試験**　60%
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%
●**その他**　0%

科 目 名	フランス語で表現する2（会話中級） A　日常生活の表現から意見の発表までフランス語で言う							
担当者名	ヴァンシンテヤン　カティ							
仏語	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

発音の復習をしてから、文書、オーディオ、AV資料などに基づいて、ロールプレーと会話を実地する。 言葉の自然度を高めるため、日常生活の言葉を習ったり、限られた表現を使いこなせるように練習します。

インターネット上で見つけた資料を使うので学生達の主体性を促進される。

授業の到達目標

日常生活の語彙を身につけて、表現したいことを分かりやすく伝えるようになる。

成績評価方法

●**試験**　40%
●**レポート**　0%
●**平常点**　60%
●**その他**　0%

科 目 名	フランス語で表現する2（会話中級） B							
担当者名	クーショ　マリナ							
仏語	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「フランス語で表現する1（会話初級）A」クラスに引き続き、教科書『TOTEM 3』のビデオ（字幕付き）に基づいて行われる授業です。

中級編のビデオはほとんど、フランスのTVプログラム（コマーシャルなど）からの動画です。流行語、慣用表現などがたくさん出てますので、普段あまり触れる機会のない仏語を身につけましょう。

また取り上げたテーマについて話し、新しい表現を再現できる力を養います。

授業の到達目標

ー自然なフランス語に慣れていくこと。
ー自分の感想をより豊かに、自然に述べること。
ー意見をかわす力を得ること。

成績評価方法

●**試験**　60%　　会話テスト（2回）
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　20%　　参加態度
●**その他**　20%　　出席

科 目 名	フランス語で表現する3（作文初級） A							
担当者名	小倉　博行							
仏語	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

フランス語の初級文法を学び終えた人を対象に、フランス語の作文の方法を学んでもらいます。この授業で用いる予定の教科書（下記参照）は文法事項の復習も兼ねることができるように作られています。

授業の進め方としては、まず各課ごとに挙げられている文法事項を丁寧に説明します。それをふまえた上で練習問題（和文仏訳）に取り組んでもらいます。この教科書はCDが付いていて正解を「耳で」確認することができます。その意味ではリスニング力を鍛える、といった利用の仕方も可能でしょう。

また，教科書とは別に，「どのように書くとフランス語らしいフランス語になるのか」という観点から，オリジナルのプリントを使って教場で仏作文に取り組んでもらうというやり方を三回に一回ないしは二回に一回の割合で行ないたいと思います．

授業の到達目標

フランス語を書いてみるという過程を通して、フランス語文法のさらなる理解を得ることが目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない予定です
●**レポート**　0%　　レポートは行わない予定です
●**平常点**　100%　　課ごとに附属している練習問題を提出してもらい、20点満点で添削して返却。オリジナルプリントについても同様。両者とも平均点が6割の12点以上を合格とします。

●**その他**　0%　　上記を成績判定の方法とします.

科 目 名	フランス語で表現する3（作文初級）　B　フランス語で発信しよう！							
担当者名	中野　茂							
仏語	2単位	春学期	水曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、すでにフランス語の初級文法を学んだ人を対象に、「フランス語で発信するテクニック」を楽しく学んでいきます。この科目の履修を通して幅広いトピックに対応できる外国語能力を身につけ、フランス人との日常的コミュニケーション能力や専門課程で活用できる能力を養います。　まず今までに習った文法事項の復習から始め、それらを実際に活用しながらフランス語で簡単な文章が作れるようになること、さらには辞書に頼ることなく日本文化をフランス語で発信することをめざします。また、フランス語で表現する際にフランス文化の理解も不可欠になってきます。 授業は以下の通り進めていきます。

・フランス文化の紹介。
・穴埋め問題や並び替え問題を中心とした文法項目の復習。
・文をつくる際に必要な基本重要語彙や表現をテーマごとに紹介。
・実際に受講生が作った文の添削。

単に日本語を直訳してもフランス語にならない場合が多くあります。日本語とは違う「フランス語のしくみや発想」を学び、直訳ではなく「フランス語らしい発想」で表現するテクニックを紹介していきます。

＊仏検の4級～3級を目指している人向けのレベルです。

授業の到達目標

・フランス文化の理解
・フランス語初級文法の復習
・各テーマを語る際に必要な重要表現および重要語彙の習得
・日常生活や日本文化を「フランス語らしい発想」で発信できる能力の習得

成績評価方法

●**試験**　70%　　理解度の確認70%
●**レポート**　15%　　コースナビまたはWaseda Moodleで提出してもらう課題15%
●**平常点**　15%　　出席点15%
●**その他**　0%　　特になし

選択外国語

科 目 名	フランス語で表現する4（作文中級）　Traduire, écrire, composer							
担当者名	O. デュスッド							
仏語	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

Deux types d'exercices seront alternativement proposés :

-la traduction en français d'un court passage de japonais,
-la composition d'un texte rédigé directement en français à partir du passage japonais précédemment traduit ou d'un texte français lu en classe.

Une semaine, le cours sera consacré à la reprise des traductions faites à lamaison, à des exercices de grammaire portant sur des points spécifiques ainsiqu'à des recherches de vocabulaire. Un nouveau texte sera donné à traduire.

La semaine suivante, les étudiants remettront leur nouvelle traduction etcommenceront à produire et rédiger en français leur propre texte, d'après les consignes proposées.

授業の到達目標

Révision des points de grammaire principaux
Entraînement à l'écriture et à la composition

成績評価方法

présence 30%
production écrite 70%

科 目 名	フランス語で表現する5（会話・作文総合）　Analyser, discuter, argumenter フランス語で議論する							
担当者名	O. デュスッド							
仏語	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

À partir d'articles de presse, d'émissions télévisées, de sites internet ou de films portant sur des sujets variés, politiques, sociaux, culturels, etc., nous rechercherons d'abord les différents points de vue évoqués et les arguments échangés, puis nous discuterons à notre tour. Chez eux, les étudiants seront invités à rédiger des comptes rendus. Chaque thème abordé sera l'occasion de se familiariser avec le vocabulaire et les formes grammaticales qui lui sont le plus adaptés.

文化文学的や社会的や政治的なテーマを選んで、雑誌、テレビ番組、インターネットのページなどを使いながら、議論の論拠を理解し、自分の意見をフランス語で伝えるように練習させたいと思います。

授業の到達目標

Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants qui souhaitent partir en France en automne ou à ceux qui reviennent de France et qui souhaitent entretenir leur niveau de français. Une présence assidue est souhaitable.

授業に積極的な出席が望ましいです。

成績評価方法

レポート50%
ディスカシオン50%

科 目 名	フランス語で表現する6（会話初級） A							
担当者名	クーショ　マリナ							
仏語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、現実的な状況や場面に即した会話表現を習い、実際に役立つフランス語を身につけていきます。各テーマの初めに短い動画を見て、理解します（言葉やジェスチャーなど）。その後、その例にならって、会話練習を行います。

授業の到達目標

フランス語の基礎的な知識を獲得し、フランス文化を目と耳で感じながら学ぶこと。
フランス語による初歩的なコミュニケーション能力を身につけること。

成績評価方法

60%：テスト　　各テーマについて、オリジナルなやりとりを考え、演じる＞（ペアの評価＋個人評価）
40%：出席＋宿題＋グループワークにおける貢献度を評価します。

科 目 名	フランス語で表現する6（会話初級） B							
担当者名	E. ヴィエル							
仏語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

次の二つのことを目指した授業です。

まずは効果的に気持ちを伝えるための初級レベルの表現を身に着けて、旅行でもそれほど困らず、フランス語話者とも関係を築けるくらいになることが目標です。ですから授業の方法は口頭表現を中心にしたものになります。

もう一つは、はっきりとした正確なフランス語の発音を身に着けることも目指します。発音とイントネーションについては、段階的にいろいろな練習をしていきましょう。フランスの演劇学校で使われている練習方法をやりやすい形にアレンジして、発音とイントネーションを鍛えるつもりです。音声を識別する現代的な道具なども使ってみたいと思います。

授業の到達目標

概要に書いた通り、初級レベルの実践的な会話能力と、正確なフランス語の発音を身に着けることが目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%
●**その他**　0%

科 目 名	フランス語で表現する6（会話初級） C							
担当者名	オジュロ　アン							
仏語	2単位	秋学期	金曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

フランス語学習歴1年半程度の学習者を対象とするクラスです。春学期の「フランス語で表現する1」に続き、フランス語でコミュニケーションをとるのに最低限必要な平易な表現を学びます。発音や文法や語彙に関する簡単な練習も並行して行います。

授業の到達目標

フランス旅行やフランス滞在に役立つ、さまざまな場面での基本会話表現を身につける。

成績評価方法

●**試験**　60%
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%
●**その他**　0%

科 目 名	フランス語で表現する7（会話中級） A　日常生活の表現から意見の発表までフランス語で言う							
担当者名	ヴァンシンテヤン　カティ							
仏語	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

発音の復習をしてから、文書、オーディオ、AV資料などに基づいて、ロールプレーと会話を実地する。 言葉の自然度を高めるため、日常生活の言葉を習ったり、限られた表現を使いこなせるように練習します。

インターネット上で見つけた資料を使うので学生達の主体性を促進される。

授業の到達目標

日常生活の語彙を身につけて、表現したいことを分かりやすく伝えるようになる。

成績評価方法

●**試験**　40%
●**レポート**　0%
●**平常点**　60%
●**その他**　0%

科 目 名	フランス語で表現する7（会話中級） B							
担当者名	クーショ　マリナ							
仏語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「フランス語で表現する6（会話初級）A」クラスに引き続き、教科書『TOTEM 3』のビデオ（字幕付き）に基づいて行われる授業です。

中級編のビデオはほとんど、フランスTVプログラム（コマーシャルなど）からの動画です。流行語、慣用表現などがたくさん出てますので、普段あまり触れる機会のない仏語を身につけましょう。

また取り上げたテーマについて話し、新しい表現を再現できる力を養います。

授業の到達目標

ー自然なフランス語に慣れていくこと。

ー自分の感想をより豊かに、自然に述べること。

ー意見かわす力を得ること。

成績評価方法

●**試験**　60%　　会話テスト（2回）

●**レポート**　0%　　なし

●**平常点**　20%　　参加態度

●**その他**　20%　　出席

科 目 名	フランス語で表現する8（作文初級） A							
担当者名	小倉　博行							
仏語	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

春期に引き続き、初級文法を学び終えた人を対象に、フランス語の作文方法を学んでもらいます。授業の進め方も春期と同じです。

授業の到達目標

フランス語を書いてみるという過程を通して、フランス語文法のさらなる理解を得ることが目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない予定です

●**レポート**　0%　　行わない予定です

●**平常点**　100%　　課ごとに附属する練習問題を提出してもらい、20点満点で添削・返却。オリジナルプリントによるものも同様です．両者とも平均が6割の12点以上を合格とします。

●**その他**　0%　　行わない予定です

備考・関連URL

語学の学習ですが，グループ学習や学習成果の発表など，受講生のみなさんが積極的に授業に参加するような授業構成にします．

科 目 名	フランス語で表現する8（作文初級） B　フランス語で発信しよう！							
担当者名	中野　茂							
仏語	2単位	秋学期	水曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、すでにフランス語初級文法を学んだ人を対象に、「フランス語で発信するテクニック」を楽しく学んでいきます。この科目の履修を通して幅広いトピックに対応できる外国語能力を身につけ、フランス人との日常的コミュニケーション能力や専門課程で活用できる能力を養います。

まず今までに習った文法事項の復習から始め、それらを実際に活用しながらフランス語で簡単な文章が作れるようになること、さらには辞書に頼ることなく日本文化をフランス語で発信することをめざします。また、フランス語で表現する際にフランス文化の理解も不可欠になってきます。

授業は以下の通り進めていきます。

・フランス文化の紹介。

・穴埋め問題や並び替え問題を中心とした文法項目の復習。

・文をつくる際に必要な基本重要語彙や表現をテーマごとに紹介。

・実際に受講生が作った文の添削。

単に日本語を直訳してもフランス語にならない場合が多くあります。日本語とは違う「フランス語のしくみや発想」を学び、直訳ではなく「フランス語らしい発想」で表現するテクニックを紹介していきます。

＊仏検の4級〜準2級を目指している人向けのレベルです。

授業の到達目標

・フランス文化の理解

・フランス語初級文法の復習

・各テーマを語る際に必要な重要表現および重要語彙の習得

・日常生活や日本文化を「フランス語らしい発想」で発信できる能力の習得

成績評価方法

●**試験**　70%　　理解度の確認70%

●**レポート**　15%　　コースナビまたはWaseda Moodleで提出してもらう課題15%

●**平常点**　15%　　出席点15%

●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	フランス語で表現する9（作文中級） Traduire, écrire, composer							
担当者名	O. デュスッド							
仏語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

Deux types d'exercices seront alternativement proposés :

-la traduction en français d'un court passage de japonais,
-la composition d'un texte rédigé directement en français à partir du passage japonais précédemment traduit ou d'un texte français lu en classe.

Une semaine, le cours sera consacré à la reprise des traductions faites à la maison, à des exercices de grammaire portant sur des points spécifiques ainsiqu'à des recherches de vocabulaire. Un nouveau texte sera donné à traduire.

Lasemaine suivante, les étudiants remettront leur nouvelle traduction et commenceront à produire et rédiger en français leur propre texte, d'après les consignes proposées.

授業の到達目標

Reprise détaillée des révisions de grammaire et d'expression à l'aide de nouveaux thèmes et de nouveaux exercices de production.

成績評価方法

présence 30%
production écrite 70%

科 目 名	フランス語で表現する10（会話・作文総合） Analyser, discuter, argumenter フランス語で議論する							
担当者名	O. デュスッド							
仏語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

À partir d'articles de presse, d'émissions télévisées,de sites internet ou de films portant sur des sujets variés, politiques, sociaux, culturels, etc., nous rechercherons d'abord les différents points devue évoqués et les arguments échangés, puis nous discuterons à notre tour. Chez eux, les étudiants seront invités à rédiger des comptes rendus. Chaque thème abordé sera l'occasion de se familiariser avec le vocabulaire et les formes grammaticales qui lui sont le plus adaptés.
文化文学的や社会的や政治的なテーマを選んで、雑誌、テレビ番組、インターネットのページなどを使いながら、議論の論拠を理解し、自分の意見をフランス語で伝えるように練習させたいと思います。

だいたい3週間で一つのテーマを扱います。論議が終わったら、学生が一人一人レポートを書いて提出します。テーマは学生が一緒に選びます。

授業の到達目標

Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants qui souhaitent partir en France en automne ou à ceux qui reviennent de France et qui souhaitent entretenir leur niveau de français.

成績評価方法

レポート50%
ディスカシオン50%

科 目 名	フランス文化を知る1（時事フランス語）							
担当者名	高頭　麻子							
仏語	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

フランス語で書かれた新聞やネット上の記事は語彙や表現等、特徴あるものが多く、会話や文学テクストなどで使用されるフランス語とはしばしば大きく異なる。それは政治や経済といった内容に関わるものだけではなく、音楽やゲームのレヴューなどにおいても同様である。そこで当授業では、なるべく様々なジャンルの文章を読むことで文学や他の語学の授業ではあまり触れることのないフランス語の文章を読んでもらうことになる。

授業の到達目標

フランス語のジャーナリスティックな文章における独特な表現を理解することを目的とする。当然そのような表現は当該の事件は文化的背景などの知識を前提としていることが多く、そのためフランス語そのものの運用能力の向上とともにフランスの文化的事象や政治経済的な背景についての知識の蓄積も目的とすることになる。

成績評価方法

●**試験**　70%　　長文の読解および和訳のテストを行う予定である。基本的に正しく訳しているかというよりも、文章を的確に読解しているかということを評価基準として採点する。辞書の持ち込みは可とするが、スマートフォンのアプリは認められない。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　授業内で担当した箇所を適切に理解できているか、また文法事項を理解しているかに注目し、授業態度等も含めて総合的に判断する。
●**その他**　0%

科 目 名	フランス文化を知る2（フランスを旅する） パリだけがフランスじゃない―北部篇―							
担当者名	家山　也寿生							
仏語	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要

この授業ではフランスの地方に焦点を当てて、現地に暮らすのでもなければなかなか触れる機会のない全国津々浦々の地理的・歴史的・文化的な豊かさに迫ります。春学期はフランス北西部のブルターニュから旅を始め、英仏海峡に沿って北東部へと進み、東の国境から内陸部に入ってブルゴーニュまで巡ります。

授業の中軸となるのは指定教科書のテクスト講読です。そのうえで、関連する映像資料も視聴しながらフランス各地の自然や文化、生活がより身近に感じられるコーナーも毎回あります。そして、日本語の字幕がだいたい付いていて、聞き取れそうな箇所ではフランス語の字幕さえ表示される映像を見て抱いた感想や意見や疑問を、みんなで交わします。

授業の到達目標

1. フランス語と日本語の文構造の違いに注意して、こなれた翻訳ができる。
2. 綴り字の正しい読み方を心がけ、たとえゆっくりでもテンポよく音読ができる。
3. 字幕付きの映像視聴を通して、フランス語の聞き取り能力を向上させる。
4. 毎回の授業で扱われる話題について意見や感想を述べる積極性を培う。
5. 各地方の知見を深め、フランスという国土のイメージを根本から変える。

成績評価方法

●**試験**　40%　　理解度の確認
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　30%　　音読、訳読、発言
●**その他**　30%　　課題　なお、以上の総合得点から欠席点（-5点/回）を差し引いて、最終評価とする。

備考・関連URL

この授業では、原文の正しい音読を訳読と同等かそれ以上に重視しますので、フランス語の綴り字の読み方をある程度マスターしていること、もしくはそうしようとする意欲を持ち続けることが望まれます。というのも、たしかに毎回視聴する映像には教員が付けた日本語字幕がたいてい表示されますが、いつまでも字幕に頼らずに映像を見ながら聞こえてくるフランス語の音声に慣れてもらいたいからですし、そのためには自分がその言語を正しく発音できるようになってゆくほうがよいからです。

科 目 名	フランス文化を知る3（映画・映像）							
担当者名	キヨタ　リディア　A.							
仏語	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要

フランス語を上達するために、継続性をもってできる方法の一つとして、今回は過去から今日に至るフランス映画を通して、社会・文化・ライフスタイル等を同時に理解しながら、興味深く学んでゆく講座です。

内容は

1：現代フランス映画アラカルト
2：戦前から戦後へ
3：ヌーヴェル・ヴァーグ
4：60年代から90年代へ

授業の到達目標

・映画を通して、受講生の会話を上達させ、時として映画の字幕の分析をおこない、フランスの社会文化を学びます。
・語彙の増加
・フランス社会の現代的な側面の理解が目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　講義の中で説明
●**平常点**　20%　　授業の際の発言など
●**その他**　30%　　出席

備考・関連URL

出席は必須です。
レベルは、基礎文法の理解がしっかりしていることが前提です。
フランス映画の講義が中心になります。

科 目 名	フランス文化を知る4（美術・音楽） 美術を通してフランス文化を知る							
担当者名	ベルナール　ミルティル　ロランス							
仏語	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要

この授業では楽しみながら、様々な切り口からフランス文化(美術・音楽)を学んでいきましょう。

この授業の主な目的は以下の2つです。

1）フランス文化を具体的に広く知る機会を持つ
2）異文化を理解するための視野を広げる

授業の到達目標

この授業では「文化」という言葉を「人々が生み出したもの」や「人々の生活習慣」として広く捉え、フランスに関する数多くの事象を扱っていきたいと思います。

映画やアニメーションやドキュメンタリーなどの様々な映像を通して、フランスの文化（主に戦後）を視覚的に学んでいきます。授業では、テーマに沿って幾つかの映画のシーンを補足的に見ますが、あくまで各テーマの理解を深めることが目標です。

春学期は美術を中心に扱います。美術を通して様々な文化の分野に触れること目指します。

成績評価方法

授業への積極的な参加、及び出席率が最も重要です。
出席状況、授業態度、小レポート、小テストなどにより総合的に評価を行います。

備考・関連ＵＲＬ

欠席や遅刻はなるべく避けるようにお願いします。
シラバスの内容は多少変更される場合があります。予めご了承下さい。

科 目 名	フランス文化を知る5（歴史・社会） フランスの歴史を知る							
担当者名	斎藤　公一							
仏語	２単位	春学期	月曜日	２時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

フランスの歴史を駆け足で見ていきます。フランスという国の存在は知っていても、ではどんな歴史を辿ってきた国かというと大雑把にしか答えられないでしょう。本講義では、フランスの歴史を概観した後、いくつかのテーマについて個々に発表してもらい、そのテーマについてフランス語で書かれたテクストを読んでいきます。重要な時代や興味深い出来事を把握、確認して、フランスという国への理解を深めていきます。

授業の到達目標

フランスの歴史の流れを把握し、重要な出来事の経緯を理解し、フランスの現在をよりしっかりと捉えることができるようになりましょう。

成績評価方法

試験 80%、平常点評価（発表、課題）20%

科 目 名	フランス文化を知る6（時事フランス語）							
担当者名	高頭　麻子							
仏語	２単位	秋学期	水曜日	５時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

フランス語で書かれた新聞やネット上の記事は語彙や表現等、特徴あるものが多く、会話や文学テクストなどで使用されるフランス語とはしばしば大きく異なる。それは政治や経済といった内容に関わるものだけではなく、音楽やゲームのレヴューなどにおいても同様である。そこで当授業では、なるべく様々なジャンルの文章を読むことで文学や他の語学の授業ではあまり触れることのないフランス語の文章を読んでもらうことになる。

授業の到達目標

フランス語のジャーナリスティックな文章における独特な表現を理解することを目的とする。当然そのような表現は当該の事件は文化的背景などの知識を前提としていることが多く、そのためフランス語そのものの運用能力の向上とともにフランスの文化的事象や政治経済的な背景についての知識の蓄積も目的とすることになる。

成績評価方法

●**試験**　70%　　長文の読解および和訳のテストを行う予定である。基本的に正しく訳しているかというよりも、文章を的確に読解しているかということを評価基準として採点する。辞書の持ち込みは可とするが、スマートフォンのアプリは認められない。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　授業内で担当した箇所を適切に理解できているか、また文法事項を理解しているかに注目し、授業態度等も含めて総合的に判断する。
●**その他**　0%

科 目 名	フランス文化を知る7（フランスを旅する） パリだけがフランスじゃない―南部篇―							
担当者名	家山　也寿生							
仏語	２単位	秋学期	月曜日	５時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業は、春学期「フランス文化を知る2」の続きです。南フランスのプロヴァンスやコート・ダジュールから旅を始め、地中海沿岸を西へ進み、ピレネー山脈を横目にみながら大西洋側に出たあと、ロワール河をさかのぼってフランス中部へ入り、アルプス地方にまで至ります。

授業の中軸となるのは、春学期同様、指定教科書のテクスト講読です。また関連する映像を毎回何本か見て、文章だけでは到底イメージできない現地の風景や日常にも触れ、感想や意見や疑問をみんなで交わす、そんな時間を設けるのも同じです。春学期との違いは、視聴映像にフランス語字幕が表示される頻度が多くなる点です。

授業の到達目標

1. 綴り字の読み方を間違えずにテンポよく音読できる速度を上げる。
2. フランス語の字幕も頼りに、聞き取り能力をさらに向上させる。
3. 毎回の話題について、日本とも比較しながら意見や感想を述べる。
4. 各地方の知見を深め、フランスという国土のイメージを完全に塗り変える。

成績評価方法

●**試験**　40%　　理解度の確認
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　30%　　音読、訳読、発言
●**その他**　30%　　課題　なお、以上の総合得点から欠席点（-5点/回）を差し引いて、最終評価とする。

備考・関連ＵＲＬ

秋学期からの履修を考えている場合は、春学期分のシラバスも読んで、この授業のそもそもの趣旨を理解してください。テキストは比較的平易で、教科書には多くの単語の意味も載っていますから、予習に苦労することはさほどありません。ですがその分、授業中には訳読と同等もしくはそれ以上に、発音の上達具合が評価の対象となります。秋学期からの履修の条件は、ある程

度正しく音読できることです。

科 目 名	フランス文化を知る8（映画・映像）							
担当者名	キヨタ　リディア　A.							
仏語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

フランス語を上達するために、継続性をもってできる方法の一つとして、今回は過去から今日に至るフランス映画を通して、社会・文化・ライフスタイル等を同時に理解しながら、興味深く学んでゆく講座です。
内容は
1：現代フランス映画アラカルト
2：戦前から戦後へ
3：ヌーヴェル・ヴァーグ
4：60年代から90年代へ

授業の到達目標

・映画を通して、受講生の会話を上達させ、時として映画の字幕の分析をおこない、フランスの社会文化を学びます。
・語彙の増加
・フランス社会の現代的な側面の理解が目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　講義の中で説明
●**平常点**　20%　　授業の際の発言など
●**その他**　30%　　出席

備考・関連URL

出席は必須です。
レベルは、基礎文法の理解がしっかりしていることが前提です。
フランス映画の講義が中心になります。

科 目 名	フランス文化を知る9（美術・音楽）　フランスの音楽とミュージカル							
担当者名	ベルナール　ミルティル　ロランス							
仏語	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では楽しみながら、様々な切り口からフランス文化(美術・音楽)を学んでいきましょう。
この授業の主な目的は以下の2つです。
1）フランス文化を具体的に広く知る機会を持つ
2）異文化を理解するための視野を広げる

授業の到達目標

この授業では「文化」という言葉を「人々が生み出したもの」や「人々の生活習慣」として広く捉え、フランスに関する数多くの事象を扱っていきたいと思います。
映画やアニメーションやドキュメンタリーなどの様々な映像を通して、フランスの文化（主に戦後）を視覚的に学んでいきます。授業では、テーマに沿って幾つかの映画のシーンを補足的に見ますが、あくまで各テーマの理解を深めることが目標です。

秋学期は音楽を中心に扱います。フランスのポップミュージック、ジャッズ、ラップなどいろいろな音楽ジャンルを取り上げます。ミュージカルや映画も紹介する予定です。

成績評価方法

授業への積極的な参加、及び出席率が最も重要です。
出席状況、授業態度、小レポート、小テストなどにより総合的に評価を行います。

備考・関連URL

欠席や遅刻はなるべく避けるようにお願いします。
シラバスの内容は多少変更される場合があります。予めご了承下さい。

科 目 名	フランス文化を知る10（歴史・社会）　フランスの文化、生活、社会を知る							
担当者名	斎藤　公一							
仏語	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

インターネットなどで外国の情報も手に入れやすくなっている状況にありますが、フランスという国の存在は知っていても、フランスやフランス人についても、まだまだマスメディアが提供するステレオタイプで偏った捉え方が蔓延しているせいで、時にはとんでもない誤解をしていることもあります。本講義では、フランス人の生活の基盤になっている様々な事柄について発表してもらい、その事柄についてフランス語で書かれたテクストを読み、フランス及びフランス人の実像を捉えていきます。

授業の到達目標

様々な事柄を知ることによって、フランスという国と文化、フランス人をより深く理解するようになる。

成績評価方法

試験 80%、平常点評価（発表、課題）20%

科 目 名	フランス語の資格をめざす1（初級） A 確かな文法知識＆語彙力で仏検3級合格							
担当者名	家山 也寿生							
仏語	2単位	春学期	木曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

実用フランス語検定試験（いわゆる仏検）3級レベルの筆記問題にどんどん答えてゆく科目です。毎回の授業は二部構成です。前半は語彙の強化が目的で、次回授業冒頭に行うプチ・テストにはほぼ同じ問題を出します。後半は、動詞の活用や代名詞など、文法力が求められる問題の解答と答え合わせです。達成度の判断は履修者各人にほぼ委ねられます。学期内に2回行う模擬試験も自己判断の材料にすぎず、教員が評価するのは継続的な学習姿勢のみですから、自分の理解度と意欲とにしたがって練習問題にこつこつ取り組むことができます。

授業の到達目標

この授業の"目標"は仏検3級合格です。しかし本当の"目的"は他にあります。1年次に一通り学んだフランス語文法をより確実なものにすること、そして使用頻度の高い単語の数を増やすことです。ですから、3級に合格したからといってこの授業の役割が果たされてしまうわけでもなければ、年度内に仏検を受けて合格することが必須なわけでもありません。しっかりとした文法知識と語彙力という両面からの基礎固めがこの授業の主旨です。そうして、他に受講しているフランス語科目での理解を補えたり、次年度以降も自信をもってフランス語に接してゆけるようになりましょう。

成績評価方法

●**試験** 0% 学期内に行う二度の「模擬試験」は自己評価の材料であり、教員による成績評価の対象とはなりません。
●**レポート** 0% なし
●**平常点** 100% 授業への参加度60%＋小テストの総得点40%
●**その他** 0% なし

備考・関連URL

1年次に用いた教科書『新システマティックフランス語文法』は、2年目以降も繰り返し参照するに値する参考書となります。問題集と併用してください。

科 目 名	フランス語の資格をめざす1（初級） B 仏検4級合格講座							
担当者名	小幡 一雄							
仏語	2単位	春学期	土曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

6月におこなわれる実用フランス語技能検定試験4級の合格を目指します。
検定試験を受けない学生も、同程度の実力をつけることができます。
検定試験後は、秋の3級合格を目標として、勉強を続けます。

授業の到達目標

実用フランス語技能検定試験4級合格を目標とします。
さらに、秋の3級合格に向けての土台を作ります。

成績評価方法

●**試験** 90% 第9回および、第15回の確認テストによって評価します。
●**レポート** 0% なし。
●**平常点** 10% 小テストや出席回数で評価します。
●**その他** 0% なし。

科 目 名	フランス語の資格をめざす2（中級） A DELF中級レベル準備クラス							
担当者名	オジュロ アン							
仏語	2単位	春学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業は、すでにフランス語の基礎的な知識を学んだ学生のためのものです。
出席者は、フランス人の日常生活で普通に使われるようなテキストを学びながら、書くことと口頭表現の両方について、理解のレベルを上げていけるでしょう。

授業の到達目標

この授業の目標は、文法と語彙の知識を豊かにすることで、出席者が、手紙を書いたり文章の要約をしたり、あるいはまた割り振られたテーマについて、自分自身の視点を表現したり議論をしたりできるような方法を身につけることです。
授業の最後のころには、学生はDELFのB2レベルの試験に合格できると思います。DELFとは、フランス政府が実施するフランス語能力の認定試験です。これに合格すると留学のさいに有利になります。

成績評価方法

出席点：10%
筆記あるいは口頭での課題：30%
試験：60%

科 目 名	フランス語の資格をめざす2（中級） B 資格を受ける自信をつけましょう							
担当者名	ヴァンシンテヤン カティ							
仏語	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、文法の復習をしながら、仏検とDELFの練習をします。 各レベルの練習に参加し、自分の進歩を計る。

授業の到達目標

フランス語の資格をとる自信をつける。聞き・読み・書き・話しの4スキルを発展させます。

成績評価方法

●**試験** 40%

●**レポート**　0%
●**平常点**　60%
●**その他**　0%

科 目 名	フランス語の資格をめざす3（初級）　A　確かな文法知識＆語彙力で仏検3級合格							
担当者名	家山　也寿生							
仏語	2単位	秋学期	木曜日	6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

春学期の授業に引き続き、実用フランス語検定試験（いわゆる仏検）3級レベルの筆記問題にどんどん答えてゆく科目です。秋学期も授業は毎回二部構成です。前半はさらなる語彙力と文法教科書では日陰者扱いされがちな前置詞、これらの強化が目的で、次回授業冒頭に行うプチ・テストにはほぼ同じような問題を出します。授業後半は、会話文・長文の読解といった総合的な理解力が求められる問題の解答と答え合わせです。なお、達成度の判断は履修者各人にほぼ委ねられます。学期内に2回行う模擬試験も自己判断の材料にすぎず、教員が評価するのは継続的な学習姿勢のみですから、自分の理解度と意欲とにしたがって練習問題にこつこつ取り組むことができます。

授業の到達目標

この授業の"目標"は仏検3級合格です。しかし本当の"目的"は他にあります。1年次に一通り学んだフランス語文法をより確実なものにすること、そして使用頻度の高い単語の数を増やすことです。ですから、3級に合格したからといってこの授業の役割が果たされてしまうわけでもなければ、年度内に仏検を受けて合格することが必須なわけでもありません。しっかりとした文法知識と語彙力という両面からの基礎固めがこの授業の主旨です。そうして、他に受講しているフランス語科目での理解を補えたり、次年度以降もさらに自信をもってフランス語に接してゆけるようになりましょう。

成績評価方法

●**試験**　0%　　学期内に行う模擬試験の結果は評価の対象ではありません。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　授業への参加度60%＋小テストの総得点40%
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

1年次に用いた教科書『新システマティックフランス語文法』は、2年目以降も繰り返し参照するに値する参考書となります。授業で使う問題集と併用しましょう。

選択外国語

科 目 名	フランス語の資格をめざす3（初級）　B　仏検3級合格講座							
担当者名	小幡　一雄							
仏語	2単位	秋学期	土曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

11月におこなわれる実用フランス語技能検定試験3級の合格を目指します。
検定試験を受けない学生も、それと同レベルの実力を養成します。
検定試験後は、準2級への土台作りと、文章を読む練習をしますs。

授業の到達目標

実用フランス語技能検定試験3級合格、あるいは、それと同レベルの実力を養成することを目指します。
試験後は、準2級相当の文法を身につけます。

成績評価方法

●**試験**　90%　　第8回、および、第15回の確認テストの点数で評価する。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　10%　　小テストや出席回数によって評価する。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	フランス語の資格をめざす4（中級）　A　DELF中級レベル準備クラス							
担当者名	オジュロ　アン							
仏語	2単位	秋学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業は、すでにフランス語の基礎的な知識を学んだ学生のためのものです。
出席者は、フランス人の日常生活で普通に使われるようなテキストを学びながら、書くことと口頭表現の両方について、理解のレベルを上げていけるでしょう。

授業の到達目標

この授業の目標は、文法と語彙の知識を豊かにすることで、出席者が、手紙を書いたり文章の要約をしたり、あるいはまた割り振られたテーマについて、自分自身の視点を表現したり議論をしたりできるような方法を身につけることです。
授業の最後のころには、学生はDELFのB2レベルの試験に合格できると思います。DELFとは、フランス政府が実施するフランス語能力の認定試験です。これに合格すると留学のさいに有利になります。

成績評価方法

出席点：10%
筆記あるいは口頭での課題：30%
試験：60%

科 目 名	フランス語の資格をめざす4（中級） B 資格を受ける自信をつけましょう							
担当者名	ヴァンシンテヤン　カティ							
仏語	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、文法の復習をしながら、仏験とDELFの練習をします。 各レベルの練習に参加し、自分の進歩を計る。

授業の到達目標

フランス語の資格をとる自信をつける。聞き・読み・書き・話しの4スキルを発展させます。

成績評価方法

- **試験**　40%
- **レポート**　0%
- **平常点**　60%
- **その他**　0%

科 目 名	フランス語力を強化する1（留学準備） フランスでの留学生活に備えるために							
担当者名	明石　伸子							
仏語	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

フランスで充実した留学生活を送るためには、フランス語の文法能力のみが必要なわけではなく、フランスに関する全般的な知識を蓄えておくことが大切です。この授業では、フランスに関するベーシックな情報をインプットするための興味深いテキストを読み進めます。ひとつのテーマには2種類のテキストが用意されます。導入の速読テキストでは辞書なしでフランス語のテキストを理解できるよう試みます（それから対訳と照らし合わせてスピーディーな理解をめざします）。発展の精読テキストは、辞書を用いて内容について細かく取組み、テキストから関連する語彙や表現などへと膨らませてフランス語の力を養います。フランス語会話については、講義の目的に対応した「学校関連のフランス語」に触れる機会を持ちます。留学する予定がある場合はもちろんですが、留学への憧れがある学生も、楽しめる内容になっています。映像資料もふんだんに鑑賞してフランス語を学ぶモーチベーションを高めます。

授業の到達目標

ランス社会に関する興味を養い、簡易なテキストを読んで情報を吸収できる力を身につける。

成績評価方法

- **試験**　60%　　教材の内容の理解度を得点で測ります。
- **レポート**　10%　　授業内に実施されるコメント・ペーパー等の内容に応じて評価を与えます。
- **平常点**　20%　　授業内で取り組んだテキスト理解等の作業を評価します。
- **その他**　10%　　授業への讃歌の姿勢を評価します。

備考・関連URL

授業の詳細についてはガイダンスにてさらに詳しく追加します。

科 目 名	フランス語力を強化する3（発音の訓練）							
担当者名	小出石　敦子							
仏語	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

フランス語を話すために必要な、発話の基礎となる発音を学ぶクラスです。

この授業は、秋学期に開講する「フランス語を強化する6（聞き取りの訓練）」クラスと連動しており、発話と聞き取りの両面の訓練を通じてフランス語の音に対する感覚を磨き発音の基礎を固めていくことで、フランス語コミュニケーション力養成への導入となるはずです。会話のクラスと並行して受講するのも可能です。

一年以上の学習経験を持つ学生で、発音の規則を最初に習ったものの理解が曖昧であるとか、まだ実践において使えるほど自身がない、身についていないという人を想定して授業を進めていきます。単語やいくらかのまとまりのある語句は読めるが、文の読み方（抑揚や強調箇所）を知らない人、会話で困らないように正しい発音を身につけたい人、1年時の語学の授業で出てきた発音の規則をより詳細に学習したい人など、それぞれの動機に合わせてこの授業を活用してくれることを望みます。授業では毎回学生のみなさんに発音の実践やさまざまな学習のための作業をしてもらいます。授業中は主体的に参加してください。また課題（発音に関するもの）も出す予定なので、意欲を持って取り組んでほしいと思います。

授業の到達目標

まずフランス語のつづりと音の関係をしっかり理解する。次に、単語、語句、文における発音の規則（リエゾン、アンシェヌマン、リズムグループ、抑揚、強調等）を身につける。会話や文章の朗読において、できるだけ自然なイントネーションで発音できるようになる。

成績評価方法

- **試験**　60%　　学習のまとめと確認として、中間と期末に口述試験を行います。
- **レポート**　0%　　レポートは実施しません。
- **平常点**　40%　　中間・期末試験とともに、出席状況と授業への参加度を評価します。
- **その他**　0%　　特にありません。

科 目 名	フランス語力を強化する4（文法）							
担当者名	小幡　一雄							
仏語	2単位	秋学期	土曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

フランス語力を強化するため、フランスで子どもから大人まで人気のある『プチ・ニコラ』の物語を読みながら、文法や語彙を身につけていきます。比較的やさしく愉しい読み物です。初級文法をひととおり勉強したあとに読むと、とてもいい勉強になります。「フランス語力を強化する2」とは異なる内容になるので、すでに「2」を受講した学生も歓迎します。

授業の到達目標

文法の土台を確かなものにする。また、文章の構文を把握する能力も身につけます。

成績評価方法

●**試験**　90%　　2回の確認テストをおこないます。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　10%　　出席や授業内での訳、小テストを考慮します。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	フランス語力を強化する5（語彙）　フランス語力のアップに大切なのは語彙力です！							
担当者名	明石　伸子							
仏語	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

基礎文法をひと通り学習したあと、語学力を高めるために最も肝心なのは語彙の力です。使いこなせる単語数を増やすこと、重要な定型表現やイデオムなどを身につけることで、「テキストを快適に読む」、「検定を取得する」、「コミュニケーションを楽しむ」などの充実した世界が広がります。この講座では、仏検3・2級レベルで用いられる単語・熟語・表現を対象とした学習を行います。単語や熟語のトレーニングだけでなく、まとまりある文章のディクテ（フランス語の書き取り）を試すことにより、聴いて理解する能力も育てながら、フランス語への学習意欲を立体的に刺激する授業をめざします。語彙に関するイラストいっぱいのフランス製教材は、フランス文化を知る楽しみを刺激してくれます。

授業の到達目標

基礎的な語彙力を定着させ、自力で語彙力をさらに伸ばす方法を発見する。

成績評価方法

●**試験**　60%　　教材の内容の理解度を得点で測ります。
●**レポート**　10%　　授業内に実施されるコメント・ペーパー等の内容に応じて評価を与えます。
●**平常点**　20%　　授業内で説いた練習問題等の得点で測ります。
●**その他**　10%　　授業への参加の姿勢を評価します。

備考・関連URL

授業の詳細については、ガイダンスにて詳しく追加します

科 目 名	フランス語力を強化する6（聞き取りの訓練）							
担当者名	小出石　敦子							
仏語	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業は、春期の「フランス語を強化する3（発音の訓練）」で学んだことをベースにして、実践的な聞き取りの訓練を行うクラスです。発話の訓練に加えさらに聞き取りの訓練を通じて、フランス語の音に対する感覚を磨いていくことで、フランス語コミュニケーション力養成への導入となるはずです。会話のクラスと並行して受講するのも可能です。なるべく春期の「フランス語を強化する3（発音の訓練）」を受講していることが望ましいのですが、そうでなくても一年以上の学習経験を持つ学生で、実践において聞き取る自身がないという人を想定して授業を進めていきます。ただし発音の規則に関してはある程度身につけておく（自分で復習しておく）必要があります。聞き取りには、発音とはまた違った要素が出てきます。耳に入ってくる音を正確に聞き取り再現できることが基本ですが、さらにその音に意味を与える作業（語句の認識）も必要になります。これは、発音の規則はもちろん、語彙力、動詞の活用規則等文法的知識、あるいは初めて聞く音（語句）も文脈を頼りにその意味を想像する能力にまで関係してきます。とはいえ最初からそこまでは望みません。とにかく正確に音を聞き取りそれを再現する（発音と記述）という訓練を、単語、語句、文レベルにおいて繰返し訓練します。その訓練を通じて、将来的には少し難しいフランス語の聞き取りに対する準備となればよいと考えます。会話で困らないように聞き取りの力を身につけたい人、フランスへの留学を考えている人など、それぞれの動機に合わせてこの授業を活用してくれることを望みます。授業では毎回学生のみなさんに聞き取りの実践やさまざまな学習のための作業をしてもらいます。授業中は主体的に参加してください。また毎回の授業で簡単なディクテーション（dictée）課題も出す予定なので、意欲を持って取り組んでほしいと思います。

授業の到達目標

春期で学習した発音を、今度は聞くことにおいて確認・実践します。単語、語句、文における音の聞き取りの訓練を行い、最終的にさまざまなシチュエーションにおける会話等の聞き取りをに挑戦し、主な内容を理解できるようにします。

成績評価方法

●**試験**　60%　　学習のまとめとして、中間と期末に聞き取り会話試験と簡単なディクテーション（dictée）試験を行います。
●**レポート**　0%　　レポートは実施しません。
●**平常点**　40%　　中間・期末試験とともに、出席状況と授業への参加度も合わせて評価します。
●**その他**　0%　　特にありません。

科 目 名	第三外国語としてのフランス語1　A							
担当者名	福山　智							
仏語	2単位	春学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

アルファベの読み方から始めます。したがって、対象者はフランス語未経験者となります。既習者のなかでも自分の文法の知識を見直したいという人には門戸は開放しますが、後期からを推奨します(簡単すぎるかもしれないので)。ただし、教科書の性格上、フランスの文学作品やフランス史に興味があるなら既修者でも楽しめるでしょう。教科書は　Apprenons le français par les belles expressions！『名句で学ぼう！初級フランス語』を用います。進度とのかねあいで各課ごとの練習問題は宿題として課すことになります(強制ではありませんが、そのほうがより早く上達するでしょう)。またフランス語の発音やリズムにも親しんでもらうために、毎週シャンソンを聞く予定です。フランス語そのものの上達はもとより、フランス語圏の文化への興味がはぐくまれることを何よりも望みます。　試験は定期試験の予定です。

授業の到達目標

フランス語、もしくはフランス語圏文化への興味を持ち継続して学ぶこと。

成績評価方法

●**試験**　70%　　試験
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　30%　　課題の提出や授業における積極性など
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	第三外国語としてのフランス語1　B							
担当者名	立花　史							
仏語	2単位	春学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講座は、フランス語の初歩をいちから学んでみたいと思う学生を対象とするものです。まったくフランス語の予備知識のない人（例えば、第二外国語で別の言語を選択した人）が多いですが、それ以外にも、第二外国語でフランス語を選択したことのある人、高校時代にフランス語を少し習ったけれども忘れてしまった人など、毎年いろいろな人が登録しています。

教科書はなるべく平易で簡潔なものを選んでいます。『エリソン』にはイラストが多く収められており、フランス語圏で見かけるフレーズや身体表現を読み解きながら、文化的な背景について理解を深められるような構成になっています。

音源は出版社のウェブサイトでダウンロードできます。

進行方法ですが、教科書のはじめからゆっくりめにスタートして、なるべく一回で一課ずつ進むことになります。

その他、教科書だけでは足りない場合には、別途、文法問題を配布したり、あるいは授業の内容と関連のある資料（映像や音源など）を見せたりすることもあります。

※秋季からの受講者も歓迎しますが、その場合、教科書は途中からになります。フランス語を半期以上の既修者にかぎります。

授業の到達目標

本講座の最大の目標は、フランス語のごく初歩的な運用能力を得ること、それを通じて、多少なりともフランス語圏の文化に触れることです。

成績評価方法

●**試験**　80%
●**レポート**　0%
●**平常点**　20%
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業計画は、進行上大幅に前後する場合があります。あくまで目安と考えてください。

科 目 名	第三外国語としてのフランス語2　A							
担当者名	福山　智							
仏語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

春期からの継続です（Apprenons le français par les belles expressions！『名句で学ぼう！初級フランス語』 第11課～23課）。この秋期で基本的な文法事項全体をおさえることになります。秋期から新規で履修しようとするフランス語未経験者は、不可能ではありませんし（そういう履修者も過去何人もいました）、心より歓迎はしますが、それなりの意欲が必要なのは言うまでもありません。既習者は文法の弱点強化として秋期から登録するのも有効でしょう。

授業の進めかたは前期と同じ要領となります。各課ごとの練習問題は宿題制とし（強制ではありませんが、そのほうがより早く上達するでしょう）、教科書とは別に、フランス語の発音やリズムにも親しんでもらうために、毎週シャンソンを聞く予定です。フランス語そのものの上達はもとより、フランス語圏の文化への興味がはぐくまれることを何よりも望みます。 試験は定期試験の予定です。

授業の到達目標

フランス語、もしくはフランス語圏文化への興味を持ち継続して学ぶこと。

成績評価方法

●**試験**　70%　　試験
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　30%　　課題の提出や授業における積極性など
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

試験に関して、秋期は、カリキュラムの都合上、おそらく定期試験期間中におこなう。

科 目 名	第三外国語としてのフランス語2　B							
担当者名	立花　史							
仏語	2単位	秋学期	火曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講座は、フランス語の初歩をいちから学んでみたいと思う学生を対象とするものです。まったくフランス語の予備知識のない人（例えば、第二外国語で別の言語を選択した人）が多いですが、それ以外にも、第二外国語でフランス語を選択したことのある人、高校時代にフランス語を少し習ったけれども忘れてしまった人など、毎年いろいろな人が登録しています。

教科書はなるべく平易で簡潔なものを選んでいます。『エリソン』にはイラストが多く収められており、フランス語圏で見かけるフレーズや身体表現を読み解きながら、文化的な背景について理解を深められるような構成になっています。

音源は出版社のウェブサイトでダウンロードできます。

進行方法ですが、教科書のはじめからゆっくりめにスタートして、なるべく一回で一課ずつ進むことになります。

その他、教科書だけでは足りない場合には、別途、文法問題を配布したり、あるいは授業の内容と関連のある資料（映像や音

源など）を見せたりすることもあります。
※秋季からの受講者も歓迎しますが、その場合、教科書は途中からになります。フランス語を半期以上の既修者にかぎります。

授業の到達目標

本講座の最大の目標は、フランス語のごく初歩的な運用能力を得ること、それを通じて、多少なりともフランス語圏の文化に触れることです。

成績評価方法

●**試験**　80%
●**レポート**　0%
●**平常点**　20%
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業計画は、進行上大幅に前後する場合があります。あくまで目安と考えてください。

科目名	速習フランス語　A　フランス語初級文法を半期（週2回）で学ぶ							
担当者名	松村　悠子							
仏語	4単位	春学期	月5時限	金5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

半期週2回（計30回）の授業でフランス語の初級文法を一通り学習します。フランス語を一から学びたい人、一からやり直したい人を対象とする講座です。 文法中心、短期集中型の授業であり、短期間で初級文法全般を扱うため、授業の進め方はかなりスピーディーです。また、詳細な文法事項や幅広い語彙の習得より、基礎的な文法事項の習得を優先します。

発音、動詞の活用、基本的な語彙、その他文法事項に関する小テストを度々行います。受講者は予習・復習に力を入れてください。

その上で、文法学習にも役立つような、ちょっとした会話、文化紹介（映画、歌、社会情勢など）なども授業に取り入れていきます。みなさんの要望に従って、内容・方法を決めますので、どうぞ遠慮せずに言ってください。

皆さんの中には、フランス語文法の習得を本格的に目指している人もいれば、フランス語がどんな言語か知りたいだけ、という人もいるでしょう。この授業は、基本的に、様々な学習目的に合わせて構想されています。前者のタイプの人は、授業で扱った事項を踏まえて、より詳細な文法事項を自習すれば、それなりに詳しい文法知識を身に付けることができるでしょう。教科書には授業で扱わない詳細な文法事項も一通り載っています。翌学期には中級のクラスを履修しても、やっていけるくらいのレベルに達することは可能です。後者のタイプの人は、とりあえず授業をがんばって受けてください。

ただし、通常、文法を短期集中的に学習しただけでは、会話力は身に付きません。その点は理解した上で履修を考えてください。会話力を身に付けたい人は、会話の授業の担当教員、あるいは本学フランス語フランス文学コース室（39号館3階）のスタッフにご相談ください。会話の授業を履修する前に、最低限の文法学習が必要な場合は、春学期にこの「速習フランス語A」の単位を取得して、次の秋学期にお目当ての会話クラスを履修するというのも一案です！

授業の到達目標

フランス語初級文法の基礎を身につける。

成績評価方法

●**試験**　55%　　授業で扱った問題を中心とする筆記試験（29回目か30回目の授業で実施予定）
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　45%　　出席状況、授業態度、小テスト、宿題
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

仏和辞典と教科書を用意して授業に参加してください。
辞書に関しては、主要なものを初回授業で紹介します。
教科書の紹介ページ（朝日出版社HP）: https://text.asahipress.com/french/detail.php?id=1211
教科書の音声ダウンロード：http://text.asahipress.com/free/french/Revolutions1/index.html

科目名	速習フランス語　B　フランス語初級文法を半期（週2回）で学ぶ							
担当者名	松村　悠子							
仏語	4単位	秋学期	月5時限	金5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

半期週2回（計30回）の授業でフランス語の初級文法を一通り学習します。フランス語を一から学びたい人、一からやり直したい人を対象とする講座です。 文法中心、短期集中型の授業であり、短期間で初級文法全般を扱うため、授業の進め方はかなりスピーディーです。また、詳細な文法事項や幅広い語彙の習得より、基礎的な文法事項の習得を優先します。

発音、動詞の活用、基本的な語彙、その他文法事項に関する小テストを度々行います。受講者は予習・復習に力を入れてください。

その上で、文法学習にも役立つような、ちょっとした会話、文化紹介（映画、歌、社会情勢など）なども授業に取り入れていきます。みなさんの要望に従って、内容・方法を決めますので、どうぞ遠慮せずに言ってください。

皆さんの中には、フランス語文法の習得を本格的に目指している人もいれば、フランス語がどんな言語か知りたいだけ、という人もいるでしょう。この授業は、基本的に、様々な学習目的に合わせて構想されています。前者のタイプの人は、授業で扱った事項を踏まえて、より詳細な文法事項を自習すれば、それなりに詳しい文法知識を身に付けることができるでしょう。教科書には授業で扱わない詳細な文法事項も一通り載っています。翌学期には中級のクラスを履修しても、やっていけるくらいのレベルに達することは可能です。後者のタイプの人は、とりあえず授業をがんばって受けてください。

ただし、通常、文法を短期集中的に学習しただけでは、会話力は身に付きません。その点は理解した上で履修を考えてください。会話力を身に付けたい人は、会話の授業の担当教員、あるいは本学フランス語フランス文学コース室（39号館3階）のスタッフにご相談ください。会話の授業を履修する前に、最低限の文法学習が必要な場合は、秋学期にこの「速習フランス語B」

の単位を取得して、来年度の春学期にお目当ての会話クラスを履修するというのも一案です！

授業の到達目標

フランス語初級文法の基礎を身につける。

成績評価方法

●**試験**　55%　　授業で扱った問題を中心とする筆記試験（29回目か30回目の授業で実施予定）
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　45%　　出席状況、授業態度、小テスト、宿題
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

仏和辞典と教科書を用意して授業に参加してください。
辞書に関しては、主要なものを初回授業で紹介します。
教科書の紹介ページ（朝日出版社HP): https://text.asahipress.com/french/detail.php?id=1211
教科書の音声ダウンロード : http://text.asahipress.com/free/french/Revolutions1/index.html

科 目 名	フランス語を読む11（文学2）							
担当者名	福山　智							
仏語	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

当講座は、おもに文学的または美学的な批評文の講読となります。対象はフランス語既習者です。
批評文を原文で読むことで、履修者のフランス語の読解力の向上を目指すのはもちろんですが、内容そのものも訳文で読む以上にしっかり根付いて血となり肉となってゆく、そんなスリルも体感してください。
当講座は「フランス語を読む(文学2)」ですが、「フランス語を読む（文学1)」の批評版です。またレベル設定は「上級」となっていますが、フランス語の難解さにおいて上級なのではなく（文学作品には文学作品の難解さがあります)、内容がより固く、論理的という意味において「上級」だと認識して下さい。したがって、「上級」というレベル設定にひるむ必要はありません(じっさいに、これまでにフランス語歴1年という受講者もひとりやふたりではありませんし、結果的に向こう見ずな行為だとも思えません。フランス語力というより意欲の問題です)。批評に、またはフランス語そのものに興味のある学生なら誰でも歓迎します。また当講座はオープン科目でもあります。他学部からも臆することなく参加してください。ともに学びましょう。
基本的にテキストはリクエスト制です。したがって、授業計画など存在しません。初回の授業でアンケートをとります。リクエストや所属の学部・コース・論系やそれぞれの興味を勘案してテキストを選定していきます。すべてのリクエストにこたえることはできないかもしれませんが、名案を期待します。参考までに、2019年度春期にじっさいに扱われたものを授業計画として提示しておきます。
また副読テキストとして比較的容易に読み通せて自信になるような短いお話も読んでいく予定です。
おおよその時間配分としては批評的な文章をさいしょの1時間、副読テキストを残りの30分と予定しています。

なお、学期末に教場試験を行います。辞書持ち込み可で、おおよそ半分は授業で扱ったものから、残りの半分は実力テストという形式です。問題はすべて和訳です。

授業の到達目標

今後の考えるツールのひとつとして原文で読むことでよりしっかりと根付かせること。

成績評価方法

●**試験**　70%　　辞書持ち込み可
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　30%　　授業における積極性
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	フランス語を読む12（文学2）							
担当者名	福山　智							
仏語	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

後期も引き続き、文学的または美学的な批評文を読みます。対象はフランス語既習者です。もちろん、後期(秋期)からの履修でも、まったく問題はありません。

（以下は、春期のシラバスとほぼ同文です。秋期からの履修を考えている学生用に再掲します。）

批評文を原文で読むことで、履修者のフランス語の読解力の向上を目指すのはもちろんですが、内容そのものも訳文で読む以上にしっかり根付いて血となり肉となってゆく、そんなスリルも体感してください。
当講座は「フランス語を読む(文学2)」ですが、「フランス語を読む（文学1)」の批評版です。またレベル設定は「上級」となっていますが、フランス語の難解さにおいて上級なのではなく（文学作品には文学作品の難解さがある)、内容がより固く、論理的という意味において「上級」だと認識して下さい。したがって、「上級」というレベル設定にひるむ必要はありません(じっさいに、これまでにフランス語歴1年という受講者もひとりやふたりではありませんし、結果的に向こう見ずな行為だとも思えません)。批評に、またはフランス語そのものに興味のある学生なら誰でも歓迎します。また当講座はオープン科目でもあります。他学部からも臆することなく参加してください。ともに学びましょう。
基本的にテキストはリクエスト制です。したがって、授業計画など存在しません。初回の授業でアンケートをとります。すべての案にこたえることはできないかもしれませんが、名案を期待します。参考までに、2019年度秋期にじっさいに扱われたものを授業計画として提示しておきます。 前期と同じく残り30分で読む副読テキストも用意したいと思います。

なお、学期末に教場試験を行います。辞書持ち込み可で、おおよそ半分は授業で扱ったものから、残りの半分は実力テストという形式です。問題はすべて和訳です。

授業の到達目標
今後の考えるツールのひとつとして原文で読むことでよりしっかりと根付かせること。

成績評価方法
●**試験**　70%　　辞書持ち込み可
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　30%　　授業における積極性など
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	フランス文化を知る11（ファッション・料理） フランス文化。ファッションと料理							
担当者名	C. ヴァリエーヌ							
仏語	2単位	春学期	水曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
このクラスでは、ファッションと料理にフランス文化を発見するでしょう。あなたは、店舗やレストランでの会話が持っている基本的な単語を学習します.

授業の到達目標
ファッションと料理の語彙や表現を発見. 学生は、ファッションと料理のテーマについての会話を作ることができるようになります

成績評価方法
40% クラスで研究テーマに会話を
60% 参加、質問をします

科 目 名	フランス文化を知る12（ファッション・料理） フランス文化。ファッションと料理							
担当者名	C. ヴァリエーヌ							
仏語	2単位	秋学期	水曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
このクラスでは、ファッションと料理にフランス文化を発見するでしょう。あなたは、店舗やレストランでの会話が持っている基本的な単語を学習します.

授業の到達目標
ファッションと料理の語彙や表現を発見. 学生は、ファッションと料理のテーマについての会話を作ることができるようになります

成績評価方法
40% クラスで研究テーマに会話を
60% 参加、質問をします

科 目 名	フランス語で表現する11（メディア・コミュニケーション） フランス語によるメディア・コミュニケーションで世界に飛び出そう！							
担当者名	明石　伸子							
仏語	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
デジタルなメディアの誕生により、フランス語圏の人々とコミュニケーションすることはより容易となっています。この講義ではインターネット関連のさまざまな可能性（電子メール、ブログ、フェイスブックなど）に関するスキルを身につけ、フランス語による発信を試みます。フランス語の運用能力をみがくため、あるいはフランス文化を理解するために有益なサイトをめぐり、学習意欲を高めます。立体的なアプローチによって新しいフランス語の学習へと挑戦しましょう。

授業の到達目標
デジタルなメディアを通じてフランス語によるコミュニケーションをはかる。

成績評価方法
●**試験**　60%　　教材の内容の理解度を得点で測ります。
●**レポート**　10%　　授業内に実施されるコメント・ペーパー等の内容に応じて評価を与えます。
●**平常点**　20%　　授業内で取り組んだテキスト理解等の作業を評価します。
●**その他**　10%　　授業への参加の姿勢を評価します。

備考・関連URL
授業の詳細についてはガイダンスにてさらに詳しく追加します。

科 目 名	フランス語で表現する12（メディア・コミュニケーション） フランス語によるメディア・コミュニケーションで世界に飛び出そう！							
担当者名	明石　伸子							
仏語	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
デジタルなメディアの誕生により、フランス語圏の人々とコミュニケーションすることはより容易となっています。この講義ではインターネット関連のさまざまな可能性（電子メール、ブログ、フェイスブックなど）に関するスキルを身につけ、フランス語による発信を試みます。フランス語の運用能力をみがくため、あるいはフランス文化を理解するために有益なサイトをめぐり、学習意欲を高めます。立体的なアプローチによって新しいフランス語の学習へと挑戦しましょう。

授業の到達目標
デジタルなメディアを通じてフランス語によるコミュニケーションをはかる。

成績評価方法
●**試験**　60%　　教材の内容の理解度を得点で測ります。
●**レポート**　10%　　授業内に実施されるコメント・ペーパー等の内容に応じて評価を与えます。
●**平常点**　20%　　授業内で取り組んだテキスト理解等の作業を評価します。
●**その他**　10%　　授業への参加の姿勢を評価します。

備考・関連URL
授業の詳細についてはガイダンスにてさらに詳しく追加します。

科 目 名	フランス語力を強化する2（文法）							
担当者名	小幡　一雄							
仏語	2単位	春学期	土曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
フランス語力を強化するため、フランスで子どもから大人まで人気のある『プチ・ニコラ』の物語を読みながら、文法や語彙を身につけていきます。比較的やさしく愉しい読み物です。初級文法をひととおり勉強したあとに読むと、とてもいい勉強になります。「フランス語力を強化する4」とは異なる内容になるので、「4」を受講予定の学生も歓迎します。

授業の到達目標
文法の土台を確かなものにする。また、文章の構文を把握する能力も身につけます。

成績評価方法
●**試験**　90%　　2回の確認テストをおこないます。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　10%　　出席や授業内での訳、小テストを考慮します。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	フランス文化を知る13（演劇・ミュージカル）　フランス語圏スペクタクルをより深く理解し、味わい、楽しむための方法							
担当者名	片山　幹生							
仏語	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
フランス語圏のスペクタクルに関わる文字資料・映像資料を教材として用います。基本的な授業の流れは、以下のようにしたいと考えています。

1．取り上げる作品・作者の紹介（スライドと映像）。40分
2．戯曲／シナリオの抜粋を声に出して読む（グループないしクラス全体で役柄を振り分けて読む。音読の手本にしたがって正確で美しい発音で読むことを目指します）。40分
3．テクストの文法・語彙の解説および解釈。40分
4．グループないし個人で、抜粋部分の翻訳・翻案を作成（できるだけ自分たちの日常的表現に近い自然な訳・翻案を目指す）。40分
5．グループないし個人での翻訳・翻案のプレゼンテーション。40分
6．取り上げた作品についてのディスカッション。アクティビティの総括。40分

戯曲・シナリオ抜粋の講読・翻訳以外にも、作品の梗概や劇評、劇場サイトの情報の読み方、チケットの予約の仕方なども、授業で随時取り上げたいと思います。また授業期間中にフランス語圏の作品の上演が都内及び近郊である場合は、鑑賞会の実施も考えています。

授業の到達目標
フランス語を正確に読めるようになる。
戯曲・シナリオを読んだり、劇場サイトの情報などを理解したりできるようになるのに必要となるフランス語文法・語法・表現の知識を習得する。
フランス語圏のスペクタクルへの関心を高め、作品・作者や公演について調査・研究するためのプロセスを学ぶ。

成績評価方法
テクストの朗読（正確に明瞭に読めているかどうか）20%
テクストの翻訳・翻案（随時提出してもらいます）30%
翻訳・翻案のプレゼンテーションあるいは作品・作家についての発表・レポート　50%

を評価の対象とします。
授業への積極的な参加が重要となります。筆記試験は行いません。

備考・関連URL
フランス語圏に実際にスペクタクルを見に行きたい、毎年7月に開催されるアヴィニョン演劇祭に関心のある方がもしいれば、情報を提供します。
フランス語を週2回1年間、大学等で学習したことのあることが受講の条件となります。おおむね仏検4級ないし3級レベルの人を想定して、授業を行うつもりです。

科 目 名	フランス文化を知る14（演劇・ミュージカル）　フランス語圏スペクタクルをより深く理解し、味わい、楽しむための方法							
担当者名	片山　幹生							
仏語	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
フランス語圏のスペクタクルに関わる文字資料・映像資料を教材として用います。基本的な授業の流れは、以下のようにしたいと考えています。

1．取り上げる作品・作者の紹介（スライドと映像）。40分
2．戯曲／シナリオの抜粋を声に出して読む（グループないしクラス全体で役柄を振り分けて読む。音読の手本にしたがって正確で美しい発音で読むことを目指します）。40分
3．テクストの文法・語彙の解説および解釈。40分
4．グループないし個人で、抜粋部分の翻訳・翻案を作成（できるだけ自分たちの日常的表現に近い自然な訳・翻案を目指す）。40分

5. グループないし個人での翻訳・翻案のプレゼンテーション。40分
6. 取り上げた作品についてのディスカッション。アクティビティの総括。40分
戯曲・シナリオ抜粋の講読・翻訳以外にも、作品の梗概や劇評、劇場サイトの情報の読み方、チケットの予約の仕方なども、授業で随時取り上げたいと思います。また授業期間中にフランス語圏の作品の上演が都内及び近郊である場合は、鑑賞会の実施も考えています。

授業の到達目標

フランス語を正確に読めるようになる。
戯曲・シナリオを読んだり、劇場サイトの情報などを理解したりできるようになるのに必要となるフランス語文法・語法・表現の知識を習得する。
フランス語圏のスペクタクルへの関心を高め、作品・作者や公演について調査・研究するためのプロセスを学ぶ。

成績評価方法

テクストの朗読（正確に明瞭に読めているかどうか）20%
テクストの翻訳・翻案（随時提出してもらいます）30%
翻訳・翻案のプレゼンテーションあるいは作品・作家についての発表・レポート　50%

を評価の対象とします。
授業への積極的な参加が重要となります。筆記試験は行いません。

備考・関連URL

フランス語圏に実際にスペクタクルを見に行きたい方がもしいれば、情報を提供します。
フランス語を週2回1年間、大学等で学習したことのあることが受講の条件となります。おおむね仏検4級ないし3級レベルの人を想定して、授業を行うつもりです。

科 目 名	ドイツ語で表現する11（上級の会話・作文） Deutsche Geschichte in Bildern							
担当者名	ペーカー　トーマス							
独語	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

Das Sprichwort "ein Bild sagt mehr als 1000 Worte" besagt, dass komplizierte Dinge sich in Bildern einfacher als mit Worten erklären lassen. So werden im Kurs die Geschichte und Kultur Deutschlands ab 1949 in Bildern thematisiert, d.h. Bilder, zumeist aus Massenmedien, stehen im Mittelpunkt, die dann in historische und kulturelle Kontexte gestellt werden. Grundlagen der Bildwissenschaft (Visual History) werden ergänzend erarbeitet.
Methodisch wird so vorgegangen, dass durch Teilnehmer- und Teilnehmerinnen-Referate einzelne Bilder vorgestellt werden, woran sich die Seminar-Diskussion anschließt.

授業の到達目標

Studierende lernen über Bilder die deutsche Nachkriegsgeschichte kennen. Sie werden zu Bildbeschreibungen angeregt. Dabei werden weiter kultur- und bildwissenschaftliche Grundlagenkenntnisse vermittelt. Insbesondere versteht sich der Kurs auch als eine Einführung in den relativ neuen Wissenschaftszweig der Bildwissenschaft (Visual History).

成績評価方法

Teilnahmevoraussetzungen sind: Bereitschaft zur Übernahme eines mündlichen Referates, die regelmäßige Anwesenheit, die Teilnahme am Test und an den Diskussionen im Unterricht. Die Leistungsbewertung setzt sich aus diesen Teilen zusammen.

科 目 名	ドイツ語で表現する12（上級の会話・作文） Sprech- und Schreibkurs 会話・作文講座							
担当者名	クラヴィッター　アルネ							
独語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

Die Studenten üben das Bewältigen alltäglicher Situationen auf höherem Niveau. Es werden die Grundfertigkeiten Sprechen, Hören, Lesen, Schreiben gleichermaßen geübt. この授業では、日常の場面において上級レベルのドイツ語で対応できるよう練習し、会話・聴解・読解・作文の4技能を総合的に学んでもらう.

授業の到達目標

Besonderes Gewicht wird darauf gelegt, dass die Studierenden mit Hilfe von Stichworten（ und ohne elektronische Wörterbücher）möglichst frei sprechen. Durch ergänzende Übungen erweitern die Studierenden ihren Wortschatz und erlernen die Routinen der Alltagskommunikation.　学生がキーワードを手掛かりにして(電子辞書を使わずに)自由に話せるようになることを到達目標とする。補足的な課題を通して語彙を増やし、日常のコミュニケーションにおける定型表現を習得してもらう.

成績評価方法

●**試験**　40%　　Ergebnis der Prüfung am Ende des Semesters　学期末試験の成績
●**レポート**　0%
●**平常点**　60%　　Häufigkeit der Teilnahme（30%）, aktive Teilnahme（30%）　出席率(30%)、積極的な授業参加(30%)
●**その他**　0%

科 目 名	速習ドイツ語1							
担当者名	柳　勝己							
独語	2単位	春学期	金曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講座は、初めてドイツ語を学ぶ学生、あるいはもう一度基礎からやり直したい学生を対象にしたものです。基本的な文法の習得を目指します。半期15回と少ない授業回数で初級文法をすべて学ぶため、授業のスピードは速めです。文法事項をひとつひとつ確実に身につけ、ドイツ語圏の文化や歴史に興味のある学生、ドイツ語の原書を読む必要のある学生、すでに他の第二外国語をある程度習得した上でドイツ語にも興味のある学生がより広い世界に手を伸ばしていけるよう、授業を進めます。

授業の到達目標

ドイツ語文法の基礎を身につける

成績評価方法

●**試験**　70%　　15回目の授業で試験を行います
●**レポート**　0%　　特に無し
●**平常点**　30%　　課題30%
●**その他**　0%　　特に無し

科 目 名	速習ドイツ語2　一学期でアルファベットから接続法へ							
担当者名	柳橋　大輔							
独語	2単位	秋学期	水曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

ドイツ語を初めて学ぶ学生、とりわけ第二外国語としてドイツ語以外の外国語を選択した学生を主な対象とし、ドイツ語初級文法の重要事項を一学期という短期間のうちにひととおり学習することを目的とする速習講座です。

授業の到達目標

ドイツ語を運用するための基礎となる知識を習得し、理解できるようになる。
なお、効率的な学習のためには、たとえばドイツ語技能検定（独検）5級もしくは4級など、自分なりの具体的な目標を設定することも有効です。

成績評価方法

●**試験**　50%　　受験しない場合には単位の認定はできません。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　授業への積極的な参加（予習・ペアワークなど）。
●**その他**　0%　　なお、授業回数の3分の2以上の出席が成績評価の前提条件です。

備考・関連URL

・いわゆる「反転授業」という性格上、受講生のみなさんが積極的に授業に参加することが授業運営の大前提となります。まず、事前にしっかりと予習をしてきてください。
・文法の知識を定着させるのに最適なのは文法問題を解くこと（トライアル・アンド・エラー）ですが、教科書の練習問題の数には限りがあります。必要があれば追加練習問題などを用いてさらに解説を加えることにより、速習によって生じかねない説明の手薄な部分をできるかぎりカバーします。
・現在のところ、学期末試験は第14回授業の際に行なうことにしています。最後の第15回で答案を返却しながら授業内容を復習することにより、試験をゴールとせず、さらなるドイツ語学習への土台作りに生かすためです。とはいえ、そのためだけ（?）に大学へ来ることに意味を見出しにくい人もいるかもしれません。そのため、この点は受講生のみなさんの要望に合わせることにします。
ドイツ語技能検定試験（独検）ウェブサイト
http://www.dokken.or.jp/

科 目 名	ドイツ語を読む1（文学）　書評を読んで新作小説を読んだ気になってみよう							
担当者名	山本　浩司							
独語	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ドイツ語で文学作品を読む動機として、好きな小説を原文で味わってみたいというのもあれば、日本でまだ誰も読んでない小説を他に先駆けて読んでみたいというのもあるはず。でも、出たばかりの小説を片っ端から読むなどどだい不可能。そこで書評で読んだ気になってみるのはどうだろう。フランクフルトやライプチッヒのブックフェアなどドイツ語圏では年に数回大きな文学イベントがあって各紙の文芸欄が賑わいを見せる。ただし、ドイツの新聞の書評は日本みたいにコンパクトでないので、それをさらに簡単に要約したサイトも活用して各紙の書評にあたり、良さそうだったら出版社が出している小説の抜粋見本に手を伸ばすというのがこの授業のコンセプトです。

授業の到達目標

ドイツ語読解力の飛躍的向上（ドイツの新聞文芸欄を辞書片手に読めるレベル）
文学テキストの論じ方を書評を手がかりにして学びとる。
小説のサンプルテキストを読んで、文学ドイツ語を読む力も養う。

成績評価方法

●**試験**　30%　　確認テストでドイツ語力を測ります。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　70%　　普段の訳読を評価します。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	ドイツ語を読む2（文学）							
担当者名	村井　浩一							
独語	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

文学作品を味読しながらドイツ語の読解力の向上を目指す授業です。

今期は短編小説の中でも特に短いもの（長くても4ページ程度、短いものは1ページで終わる「掌編」）を教材にします。19世紀から現代に至るまでの作家の小品から、趣向も文体も異なる何篇かを選んで読みます。Bertolt Brecht（1898-1956)のような有名作家の他、日本ではあまり馴染みのない作家の「名品」も取り上げたいと思っています。必要に応じて文法の復習もまじえながら、丁寧に読み進めていきます。

授業の到達目標

辞書を用いて一般的なドイツ語の文章をなんとか自力で読める力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　60%　　学期末に独文和訳を中心とした筆記試験を実施します（辞書使用可)。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　随時教室で指名し、きちんと授業準備ができているかどうかを確認します。授業への真摯な取り組みを評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	ドイツ語を読む3（思想）　様々なドイツ語テキストを読んでみる							
担当者名	高橋　透							
独語	2単位	春学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

受講生の希望があれば、基本的にそれに応じます。受講生の趣味関心も多様なので、多様性に対応するつもりでいます。

とはいえ、希望がとくにないという場合もあるので、現在以下を候補として考えています。詳細は初回に決めましょう。様々のテキストを部分的扱うので構いません。

（「ドイツ語を読む3（思想)」となってますが、「思想」を広く取り、何かを考えさせるという意味に解して下記テキストを選んでいます。）

なお、テキストはプリント配布します。

＋ドイツ語圏の精神分析医たちによって書かれた、ハリウッド映画（おもに）の心理分析。(2016年には、『マトリクス』と『アバター』を授業で扱いました。部分的に当該映画を鑑賞しながら進めます。ドイツ語学習歴1年でついて来られます。)

＋グリム童話を読む　＋宮崎駿『風の谷のナウシカ』（漫画版・ドイツ語訳）を読む

＋ヴァルター・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』（翻訳あり。ガチで思想。）

＋ドイツ・ラジオ放送局による外国人ドイツ語初級学習者向けのニュース・テキスト。(これも考えさせるニュースが多い。語彙集が付いています。)

＊必要であれば、初等文法から説明しますので、安心して受講してください。

授業の到達目標

思想にかかわるドイツ語読解力を身につける

成績評価方法

●**試験**　50%　　最終日に簡単なテストをおこないます
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　平常点を見ます
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	ドイツ語を読む4（思想）　ドイツの全体像を知る―生活、社会、文化―							
担当者名	前川　一貴							
独語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、ドイツの一般常識を学びつつ、基礎的な文法事項を固めて、語彙力を増やしていきます。取り扱われるテーマは、授業計画にある通り、多岐に渡っていて、専門分野に偏ることなく、幅広い知識が身に付きます。基本的には、読解が中心にはなりますが、日本について尋ねられたときに、ドイツ語で答えられるように、会話や独作文の練習も、適宜、取り入れていく予定です。このような練習を通じて、ドイツと日本を比較して、双方の生活スタイル、社会制度、文化様式について、理解を深めていきます。

授業の到達目標

・やや長めの文章を理解し、内容に関する質問に答えられる。
・日独の具体的・抽象的なテーマについて、簡単に会話したり、短い文章を書いたりすることができる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　教場試験
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　出席：15%、単語リストの作成：5%、独作文などの宿題：30%
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

・単位を取得するには、合計で3分の2以上の出席が必要です。

科 目 名	ドイツ語を読む5（ナチ＝ドイツと言語） ナチ＝ドイツと言語							
担当者名	村井　浩一							
独語	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

独裁的な政権が国民をコントロールしようとするとき効力を発揮するのは、物理的・身体的脅迫もさることながら、言葉の力です。言葉を通じて人々を煽り、「民族」としての一体感を演出し、単純な二者択一を迫って合理的判断力を奪い、特定のイデオロギーを個々人の内面にまで浸透させていく。そのような戦略は残念ながらいまなお「有効」なのかもしれません。だからこそ、おぞましい結果を招いた過去を検証することが、我々の変わらぬ課題としてあるのだとも言えます。

この授業では、ナチ統治下のドイツの人々を「魅了」してしまった様々な「言葉」も教材とします。たとえば、ナチ党大会を記録したリーフェンシュタール監督の映画『意志の勝利』の中でのヒトラーの演説などを取り上げます。一方でナチ政権に対する人々の距離感をうかがわせるようなジョークにも目を向けます。そのうえで、ナチ時代に独特の意味を付与されてしまった語彙を現代人がどう扱うべきかを論じた文章も読みたいと思っています。それらのテクストを訳読し、批判的な目で検証しながら、基本文法を学び終えた受講生を対象にドイツ語の読解力をさらに高めていこうというわけです。あくまで「ドイツ語の読解力」向上を第一目標とする授業ではありますが、プロパガンダに惑わされない、広い意味での「読む力」を養う一助になればと願います。

授業の到達目標

辞書を用いて一般的なドイツ語の文章をなんとか自力で読解する能力を身につける。

成績評価方法

- **試験**　60%　　学期末に独文和訳を中心とした筆記試験を実施します（辞書持ち込み可）。
- **レポート**　0%
- **平常点**　40%　　授業中、随時指名して授業準備をきちんとしてあるか確認します。授業への真摯な取り組みを評価します。
- **その他**　0%

科 目 名	ドイツ語を読む6（童話） ドイツ語で子ども向けのストーリーを読む							
担当者名	松永　美穂							
独語	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、初級文法の知識がある人を対象に、文法の復習を行いながら、ドイツ語圏の8〜10歳くらいの子を対象に書かれたストーリーを読んでいきます。

授業の到達目標

中級程度のドイツ語を楽に読みこなせるようになること。語彙を増やし、ドイツ語の構文を理解すること。

成績評価方法

- **試験**　50%　　最後の授業のときに教場試験を行います。
- **レポート**　0%　　レポートは必要ありません。
- **平常点**　50%　　普段の授業では、一人一人に当ててテクストの翻訳をしてもらいます。
- **その他**　0%　　特になし。

科 目 名	ドイツ語を読む7（大学院受験のためのドイツ語） 高度なドイツ語読解力を身につけよう							
担当者名	田邉　恵子							
独語	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

このクラスではドイツ語の高度な読解力の養成を目指します。これまでみなさんが学んできた文法や単語力を総動員して、時事テクスト、思想家の書いたエッセイ、大学院入試問題などさまざまなジャンルの文章に挑戦します。科目名に「大学院受験」とありますが、大学院受験を考えているひとはもちろん、自分のドイツ語力をよりブラッシュアップしたいひとの受講を歓迎します。質と量の両方をこなすことで、精確にドイツ語を読むための訓練をしましょう。

授業の到達目標

大学院入試レベルのドイツ語テクストを読みこなせるようになること。（欧州評価基準のC1を目安とする）。

成績評価方法

- **試験**　60%　　理解度テストの結果
- **レポート**　0%
- **平常点**　40%　　教室での積極性や訳の正確さで評価
- **その他**　0%

科 目 名	ドイツ語を読む8（大学院受験のためのドイツ語） ドイツ語をじっくり読む							
担当者名	柳　勝己							
独語	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ドイツ語で大学院を受験するために必要な読解力を養います。ドイツ語圏の作家、芸術家たちの書いた短編、エッセイなどを読みます。既に中級科目を受講し上級を目指そうという人、しばらくドイツ語から離れていた人、初級で学んだことを活かしたいと思う人。ドイツ語を読みたい人ならば専攻にかかわらずどなたでも歓迎します。本文にはなるべく注を付けますので、文法的な側面の心配は要らないと思います。一方で内容が難しい箇所はみんなで解釈を試みましょう。

授業の到達目標

腰を落ち着けてドイツ語テキストに接することで文章の構造を理解し、ドイツ語による大学院受験、ひいては大学院においてドイツ語文献の読解が出来るようになることを目標にします。

成績評価方法

試験は行いません。毎回の授業で担当する訳文の質および量により評価します。出席は授業回数の三分の二以上必要ですが、

出席点はありません。

科 目 名	ドイツ語圏文化を知る1（都市を巡る） 歴史ある観光都市を巡る							
担当者名	江口　陽子							
独語	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ドイツ語圏の観光都市の歴史や文化、名所旧跡などについて書かれたドイツ語の文章を、時には映像資料も活用しながら読んでいきます。今学期はウィーン、アウクスブルク、ドレスデン、ベルリンを取り上げます。教材はプリント配布します。

オーストリアの首都ウィーンは、音楽や世界遺産のシェーンブルン宮殿のみならず、カフェ文化や、名物料理やお菓子でも有名です。アウクスブルクは、ロマンチック街道で最大の都市で、フッガー家のもとで繁栄しました。世界最古かつ現役の社会福祉住宅フッゲライの構内には、博物館や見学用住宅が併設されています。

ドレスデンは、旧東ドイツ地域で最も発展している都市の一つ。18世紀初頭、アウグスト強王のもとで隆盛を極めます。エルベ（川）のフィレンツェとも称されています。ドイツの首都ベルリンは、プロイセン王家の記念教会ベルリン大聖堂、分断と統一の象徴であるブランデンブルク門、世界遺産の博物館島など、見所満載の大都市です。

テクストは、インターネット上の紹介記事(Deutsche WelleのVideo-Themaほか)やガイドブックなどを中心に、比較的読みやすいやすいものを用い、文法的な解説はもちろん、必要に応じ文法復習も行います。

これらの都市に関する様々な文を読むことを通して、ドイツ語圏の文化により一層接近してみましょう。

授業の到達目標

・インターネットや新聞・雑誌の記事のような、標準的なレベルのドイツ語で書かれた文章を辞書を使用しながら自力で読解できる力を養うこと。

・都市の歴史や特徴について知識を得ることにより、ドイツ語圏の文化への理解と関心を深める。

成績評価方法

授業への出席を前提とします。

試験50%：学期末に理解度確認のための筆記試験を行う。

平常点50%：予習の実行度・授業に取り組む姿勢（小テストや課題提出を課すこともある：平常点のうち20%程度)。

選択外国語

科 目 名	ドイツ語圏文化を知る2（都市を巡る） 夕方4時にはドイツのお菓子							
担当者名	荒井　泰							
独語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

甘党とか辛党とかよく聞きますが、そんな党派性など関係なしに、誰もが一日のなかのどこかでお菓子を口にするのではないでしょうか？いや、するに決まっています。誕生日だからショートケーキ、友人とカフェでタルトとはいかなくても、授業のあい間にグミやキャンディーといったふうに、お菓子は生活のなかにあふれています。もちろん、ドイツでもおなじです。

この授業では、私たちにとって馴染みのあるHARIBOからバウムクーヘンやシュトーレンなどのさまざまなお菓子についてのテクストを読みます。もちろん、それらのお菓子には生まれ故郷があり、それについて知ることで、まるでお菓子に導かれるかのように、ドイツ語圏をめぐることができればいいなあ、と願っています。わたしたちの文化の根底には、その土地土地の風土があります。その風土にあった食材があり、それらをおいしく食べる調理法が、それぞれの土地で伝えられてきました。こう考えると、食文化に触れることがその土地を知るための、もっとも確実な手段なのではないでしょうか。なによりも、おいしいものを食べるとしあわせになります。

秋学期の5限、授業期間なかばになってくると、授業後の帰り道はすっかり日が落ちて寒くなってきます。そんな帰り道でもあたたかく帰れるように、ときにはテクストに出てくるお菓子を実際に食べてみる予定です。

※ドイツ語の初級文法をひととおり学んだ人を対象にしていますが、あまり自信がない……という場合でもご心配なく。文法事項は確認しながら進めていきます。

※履修者のみなさんと相談のうえ、扱うお菓子は変更になる可能性があります。

授業の到達目標

お菓子をとおして、ドイツ各地の風土、文化についての理解を得ること。

ごく一般的なホームページ上の説明の大旨をとらえるドイツ語力を獲得すること。

成績評価方法

●**試験**　60%　　授業最終回に理解度の確認を実施。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　出席と授業への参加度。
●**その他**　0%

科 目 名	ドイツ語圏文化を知る3（芸術） ミュージカル『エリーザベト』を読む							
担当者名	村井　翔							
独語	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ミヒャエル・クンツェ台本、ジルヴェスター・リーヴァイ音楽によるオーストリア製のミュージカル『エリーザベト』(日本ではエリザベートという表記が普通)は本国に劣らず日本でもヒットしており、わが国だけでも延べ観客動員数が百数十万人というドイツ語オリジナルのミュージカルとしては最大の成功作です。1）宮廷という窮屈な境遇の中で自由を求める女性の闘いというフェミニズム的なテーマを掲げたこと、2）ミュージカルは基本的にラブストーリーだが、フランツ・ヨーゼフ皇帝と皇后エリーザベトの間には（結婚当初は別として）愛が生まれなかったので、オーストリア文学では長い伝統を誇るトート（死、死神）をエリーザベトと相思相愛の男主役として登場させたこと、3）皇后を刺殺したイタリア人のテロリスト、ルケーニ（日

本ではなぜかルキーニ）を狂言回しにすることによって、帝室や主人公に対する、いわばブレヒト流の批判的視点を確保したこと、以上三点の工夫により、大ヒットも当然の優れた現代的なミュージカルになりました。

このミュージカルの1992年初演版のドイツ語台本を抜粋で（全体の三分二ほど、注つきの手作りテキストです）講読します。物語の背景について解説するとともに、授業で読んだ部分をドイツ語版上演のDVD（日本語字幕つき）で見ていただきましょう。ただし、DVDは2005年に収録された再演版の舞台なので、授業で読んだ初演版とは歌詞にも若干の違いがあります。

授業の到達目標

全体としては特に難しいところのない、初級文法修了直後の人でも読めるドイツ語です。一部にイタリア語、ウィーン方言などもありますが、難しい箇所にはすべて注をつけています。このミュージカルの面白さが、上記のような三つの工夫も含めて理解できるようになれば幸いです。

成績評価方法

●**試験**　45%　　最終回授業（7月20日）の学期末試験、オール持ち込み可の独文和訳問題。ミュージカル『エリーザベト』に関する文章ですが、授業で扱ったテキストとは違った独文です。100点満点。

●**レポート**　0%

●**平常点**　55%　　第2回（4月13日）から第14回（7月13日）まで（ドイツ語を読んで訳す）授業に参加してくれた人に1回10点の出席点を差し上げます。全部貯めると130点。

●**その他**　0%

科 目 名	ドイツ語圏文化を知る4（芸術）　ヨーロッパのカフェ文化についての考察							
担当者名	大宮　洋子							
独語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

『ベルリンのカフェ　黄金の1920年代』（ユルゲン　シェベラ著）の中から数章を抜粋して、文法事項を復習しながら読み進め、他に『ヨーロッパのカフェ文化』（クラウス　ティーレ＝ドールマン著）や『文学カフェ』（菊盛　英夫著）を参照しつつ、ベルリンを中心にウィーンなどの都市におけるカフェの役割や文化的背景などを概観するとともに、ドイツ語の映像作品を通してリスニングの力を高めます。さらにコーヒーやケーキの歴史やレシピなどについてもドイツ語で読みながら知識の幅を広げてゆきたいと思います。

授業の到達目標

既習のドイツ文法を復習しながらドイツ語の文章を精読する力をつけ、ドイツ語映像を通して、ドイツの文化や芸術についての知識を深めつつ、ヒアリング力も高めてゆくことが目標となります。カフェ文化についての知識を得、カフェの役割の歴史的変遷についても考察を広げてゆきたいと思います。

成績評価方法

●**試験**　80%　　教場テスト。授業中に読んだドイツ語の文章を和訳して、その内容についての短文を書いていただきます。その点数で評価を出します。

●**レポート**　0%　　特になし。

●**平常点**　20%　　授業中に読解するドイツ語の文章の抜粋箇所から担当を決めますので、担当箇所の訳文の発表も点数に加算します。

●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	ドイツ語圏文化を知る5（芸術）　ドイツ語ロック、ポップを精読する							
担当者名	伊藤　壮							
独語	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

1年次でのドイツ語の初等学習を終えたからには、まずは国内外での会話の実践なども積極的に試みるのも大変に有意義であることは言うまでもありませんが、ここでのもう一つの醍醐味と言うべきものこそは上質なドイツ語テキストを読むことです。ただ、それぞれの専門あるいは興味の対象に応じたものから取り掛かるにしても、いきなり長文・難文を正解も分からないままやみくもに読もうとするのも大変でしょうし、結果的にあまり有意義ではない場合も往々にあります。

しかし、そもそも英語を習得する際に、愛聴している英米のロックやポップスの歌詞を熟読し、時には暗記・暗唱するまでになると、語彙力のみならず文法理解も格段に進み、一挙に上達したというという体験はなかったでしょうか。ならばこの手がドイツ語の学習にも適用できないはずがありません。

本講では、日本では比較的馴染みの薄いドイツ語圏のロックやヒップホップをはじめとするポピュラー音楽の歌詞に題材を限って、厳選の上そのテキストを精読玩味していきます。ドイツ語圏の社会的・時代的背景や、その作品の世界の音楽シーンにおける位置づけなどに関しても考証しつつ、テキストを含めた総体としての理解も大事にしたいところです。

音楽とりわけ歌は感性の領野に属するから、その詞も文法規則よりも感覚を研ぎ澄ませて読まれるべきものだ、などと考えるのならばそれは大いに間違いです。言語芸術とは、まず文法規則に基づき、その可能性を極限まで追求したところに成立するものなので、その読解にも初等文法を踏まえてのさらに高度な知識と応用力が必要となります。ここで受講者全員で講読していくことで、中・上級へ向けて力を伸ばしていく良い機会となるでしょう。

また、他の欧米諸国のものと同様、ドイツ語の歌詞はドイツ語詩文学の長く豊かな歴史を引き継いでいるものなので、まずは初めに目につく脚韻を取り掛かりに、音楽とも密接な関わりを持つ韻律学も検討していくことにしましょう。この際、折に触れ関連する古典文学の詩歌なども参照することでドイツ語文学への橋渡しも得られるようになります。

扱うことになる作品については、受講者の専門・興味などにも応じて柔軟に選ぶこととしますが、時代・ジャンルなど偏ることなく広範にカバーするようにします。なお、読後にそれぞれが何らかの形でそれを歌ってみるというアプローチも有り得るかも知れません。ともあれ、意欲的で主体的な参加が期待されます。

授業の到達目標

まずは、背景知識がなくとも、文法知識と辞書の語彙によってテキストを読めるようにすること。その上で背後の情報も補完しつつ、芸術作品・文学作品として詞を読めるようになります。

成績評価方法

●**試験**　55%

●**レポート**　0%
●**平常点**　45%
●**その他**　0%

科 目 名	ドイツ語圏文化を知る6（芸術）　様々なドイツ語テキストを読んでみる							
担当者名	高橋　透							
独語	2単位	秋学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

受講生の希望があれば、基本的にそれに応じます。受講生の趣味関心も多様なので、多様性に対応するつもりでいます。

とはいえ、希望がとくにないという場合もあるので、現在以下を候補として考えています。詳細は初回に決めましょう。様々のテキストを部分的扱うので構いません。
「ドイツ語圏文化を知る6（芸術）」となっていますが、「芸術」は幅広く捉えてください。

なお、テキストはプリント配布します。
（ただし、2017年春期「ドイツ語を読む3（思想）」で扱ったものと同じテキストは扱いません。）

＋ドイツ語圏の精神分析医たちによって書かれた、ハリウッド映画（おもに）の心理分析。（2016年には、『マトリクス』と『アバター』を授業で扱いました。部分的に当該映画を鑑賞しながら進めます。映画は当然ながら芸術。ドイツ語学習歴1年でついて来られます。
　＋グリム童話を読む

＋宮崎駿『風の谷のナウシカ』マンガ版のドイツ語訳を読む。マンガも芸術。

＋ドイツ語圏ミステリー小説を読む（具体的には、推理小説家として高名なFr.デュレンマットの『約束』。邦訳あり。小説を題材にした映画もあるのでそれを鑑賞しながら。文学も芸術の一種）

＋ドイツ・ラジオ放送局による外国人ドイツ語初級学習者向けのニュース・テキスト。（芸術関連のニュースもあり。語彙集が付いています。）

＊必要であれば、初等文法から説明しますので、安心して受講してください。

授業の到達目標

中級レベルのドイツ語読解力を身につける

成績評価方法

●**試験**　50%　　最終日に簡単なテストをおこないます
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　平常点を見ます
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	ドイツ語圏文化を知る7（芸術）　芸術を着て、街へ出よう							
担当者名	荒井　泰							
独語	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

いわゆる「芸術」といえば、絵画や彫刻、音楽などばかりをイメージしがちです。ところが最近では、ファッションデザイナーの展覧会がミュージアムで開催されるようになってきました。たしかにこうした状況は、ごく最近のトレンドに過ぎないのかもしれません。ですが、芸術とファッションの区別はいまよりもずっと前、19世紀末からドイツをふくむヨーロッパにおいて、すこしずつなくなりはじめていたのです。この授業では、そうしたドイツ語圏におけるファッションと芸術の関係を歴史的に概観することからはじめます。そして、ベルリン・ファッション・ウィークなどファッション系イベント関連の記事や、ドイツ語圏のモード雑誌を読んでみます。もちろんドイツ語圏のファッション誌もありますが、それだけではなく、ドイツ版VOGUEなどを他国のそれとくらべることによって、ほかとはちがう今日のドイツ文化が浮かび上がってくればいいなあ、とおもっています。
（フランスとちがって）ドイツがおしゃれじゃないなんて、もう言わせません。
※ドイツ語の初級文法をひととおり学んだ人を対象にしていますが、あまり自信がない……という場合でもご心配なく。文法事項は確認しながら進めていきます。
※履修者のみなさんと相談のうえ、一部の予定は変更になる可能性があります。

授業の到達目標

ドイツを中心としたヨーロッパの近代服飾史と芸術史との関係を理解する。一般紙の記事の大旨をとらえるドイツ語能力を獲得する。

成績評価方法

●**試験**　60%　　授業最終回で理解度の確認をする試験を行います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　出席と授業への参加度。
●**その他**　0%

科 目 名	ドイツ語圏文化を知る9（現代文明） 時事ドイツ語から読み解くドイツ社会の姿							
担当者名	柳　勝己							
独語	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

初級ドイツ語修了者を対象に、ニュース記事を出発点にドイツ語文化圏、主にドイツ社会の姿を読み解きます。聞き取りの練習にもなるDeutsche Welle配信のニュースLangsam gesprochene Nachrichtenを手始めに、同じくDeutsche Welleの主要ニュースを簡潔にまとめたTop-Thema mit Vokabeln、映像付きのVideo-Thema、更にはweb上で読める新聞・雑誌の記事などを読みます。シラバスでは仮に「ポピュリズム」と「ドイツから見た世界」をテーマに挙げましたが、受講生には記事やテーマの選択にも関わってもらいます。取り上げた記事内容や報道に対する意見・感想も毎回書いて下さい。

授業の到達目標

「1年ドイツ語」に合格した学生が、習得した文法の知識を実際の読解に生かせるようになることを目標とします。具体的には独和辞典を引き、単語の意味だけでなく句や文の構造を把握し、文章を理解出来るようになることが目標になります。地味な作業ですが、辞書を繰り返し引かないと語彙は増えません。文の構造は一筋縄ではいきませんが、難しい箇所には注を付けるので心配はいりません。積み重ねによって次第に自力で文章を読めるようになるでしょう。

成績評価方法

試験は行いません。毎回の授業で担当する訳文の質および量により評価します。出席は授業回数の三分の二以上必要ですが、出席点はありません。

科 目 名	ドイツ語圏文化を知る10（現代文明） 2018/19年にドイツで話題になったテーマ							
担当者名	E・ヘルメル							
独語	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、2018/19年にドイツの新聞やメディアで話題になったテーマについて、毎週1ー2頁の簡単な記事を読みます。語彙や文法を日本語で説明します。

2018/19年にドイツで話題になったテーマは社会や政治における女性の役割、ドイツの青少年が既成政党へ不信感、性の多様性とその社会的な問題、賃貸マンションの不足と家賃の高騰、環境問題になったプラスチックの禁止、日曜大工の国としての国、Bauhausというドイツの一番有名なデザイン大学の創立100周年、もう正書法を身につけないドイツの小学生などです。

授業の到達目標

この授業の目標はドイツの新聞やメディアで取り上げられたテーマについて簡単なテキストを読み、新聞が読めるに必要な語彙や文法構造を身につけ、テキストの読解を通して現代ドイツ社会への知識を広げることです。

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　0%
- **平常点**　0%
- **その他**　100%　　平常点（50%）と課題（50%）

科 目 名	ドイツ語で表現する1（初歩の会話）							
担当者名	小笠原　能仁							
独語	2単位	春学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、「ドイツ語で話す」「ドイツ語を聞きとる」ための力をのばすことに重点を置きます。教科書に沿って日常的に用いる表現を学び、ペアワークやグループワークを交えながら、会話と聞き取りの練習を重ねていきます。文法の解説も、適宜行います。

授業の到達目標

日常生活での基本的な表現を理解し、自分のことばで簡単な文を組み立てられる力を身につけることが目標です。ゼロからのスタートとなりますので、ドイツ語の基礎知識は必要ありません。

全12課からなるドイツ語テキストを用いて授業を進めていきます。授業の進捗状況により、スケジュール等は適宜変更されることがあります。

成績評価方法

- **試験**　50%　　最終授業日に試験を行います。
- **レポート**　0%　　なし。
- **平常点**　50%　　出席・授業への参加、宿題
- **その他**　0%　　なし。

科 目 名	ドイツ語で表現する2（初歩の会話）							
担当者名	泉　ボグミワ							
独語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

口頭でのコミュニケーションに重点を置く。初級文法を一通り復習しながら、「友達を紹介する」「誕生日に」「道案内」「電話で約束する」、「メールと履歴書」、「パーティーで」などのテーマについてのドイツ語を聞き、書き、読む能力を養う。

授業の到達目標

日常生活でのコミュニケーションの能力を高める。

成績評価方法

- **試験**　70%　　授業内のテストでドイツ語の語彙、表現、文法の習得度を確認する。
- **レポート**　0%
- **平常点**　30%　　授業への積極的な参加

●**その他**　0%　　授業への積極的な参加の有無、授業中のテスト等により、総合的に評価する。

科 目 名	ドイツ語で表現する4（初歩の作文）　ドイツ語を書いてみよう！							
担当者名	小笠原　能仁							
独語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

ごく初歩的な文法を終えた学生を対象にしたドイツ語作文の授業です。「ドイツ語の文を作るためには何がわかっていなければならないか」をやさしく解説します。まず講師がポイントを解説し、次に文法表を説明します。そのあと学生が練習問題としてドイツ語作文をします。その際ドイツ語の単語は添え書きされているので、文を作ることに専念できます。その後「自己紹介」などの発信型のテーマ別に、ドイツ語作文をして、語彙と表現を強化します。

作文のために授業中に時間を少々とりますが、予習で作文をしてくることを推薦します。授業中では作文してみて、不確かな点、理解できなかった点について、どしどし質問してください。

授業の到達目標

「名詞の格変化」「現在完了形」などの形を練習することが目的ではなく、「ドイツ語には主語が必要である」「定冠詞は特定できるものにつける」など、正しいドイツ語の文を作るために必要な「文法知識」をとらえなおし、練習問題を通して習得することが目的です。

成績評価方法

●**試験**　50%　　期末テストで、授業で扱った文について試験をします。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　出席を重視します。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	ドイツ語で表現する5（中級の会話・作文）　ドイツ語で簡単な話をしよう、簡単な文章を書こう							
担当者名	E・ヘルメル							
独語	2単位	春学期	水曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業ではドイツ語圏の文化を紹介する短いテキストを読み、そのテキストを口頭と作文で纏める練習します。

同時に1年生の時に習ったものの、まださほど定着していない文法、例えば副文の接続詞、zu不定句、接続法なども練習問題で復習します。

話す、書く練習以外に聴き取りの練習も頻繁に行います。

教材としてはドイツ語圏についての知識を広げる面白いテキストを選びます。

次のテーマを授業で扱います：

1.ドイツ人との付き合い（招待された時のやり取り、礼儀、プレゼントなど）
2.グリム童話(Die Märchen der Gebrüder Grimm)
3.オーストリア=ハンガリー帝国の皇后。「シシィ」(Sissi) の伝記(Sissi: Ein Leben wie im Märchen)
シシィの人生を扱う映画も鑑賞する予定です。
4. Ödön von Horváth（オーストリアの作家）の滑稽な自伝
5. シルダという町の愚行(Schildbürgerstreiche)（シルダは、市民の愚行で有名になった町の伝説）

語彙と文法は日本語で説明します。

授業の到達目標

この講座はドイツ語の文法知識をさらに深め、ドイツ語での発言力や筆記表現力や聴解力を育てること、
すなわち受講生のドイツ語の語感を発達させ、学生が自主的に簡単な作文を書けることが目標です。

成績評価方法

平常点（50%）と課題（50%）

備考・関連URL

語彙と文法は日本語で説明します。

科 目 名	ドイツ語で表現する6（中級の会話・作文）　Sprech- und Schreibkurs 会話・作文講座							
担当者名	クラヴィッター　アルネ							
独語	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

Geübt wird das Bewältigen alltäglicher Kommunikationssituationen und das Abfassen einfacher Texte unterschiedlicher Textsorten auf mittlerem Niveau.

日常場面において、中級レベルのドイツ語で対応できるよう会話を学び、様々なタイプの簡単な作文練習を行う。

授業の到達目標

Im Unterricht werden in Partnerarbeit alltägliche Kommunikationssituationen nachgespielt und geübt. Die Studierenden erhalten außerdem Schreibaufgaben (auch als Hausaufgaben). Im Kurs werden die Fehler korrigiert und gemeinsam besprochen. Darüber hinaus gibt es zusätzliche Übungen zur Grammatik und Stilistik.

授業では、学生同士でペアを組んで日常的場面を演じ会話練習を行ってもらう。また、作文課題にも取り組んでもらう(宿題として課す場合あり)。授業中に、作文における間違いを訂正したり、クラス全体で表現の検討を行う。更に、追加で文法や文体練習にも取り組んでもらう。

成績評価方法

●**試験**　40%　　Ergebnis der Prüfung am Ende des Semesters　学期末試験の成績
●**レポート**　0%
●**平常点**　60%　　Häufigkeit der Teilnahme (30%), aktive Teilnahme (30%)　出席率(30%)、授業への積極的参加

（30%）
●**その他**　0%

科 目 名	ドイツ語で表現する7（中級の会話・作文） ドイツ語で日常会話を練習し、文法を復習しながら簡単な文章を書こう。							
担当者名	E・ヘルメル							
独語	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では　8つのテーマ（食事、買い物、健康、旅行など）を扱う日常会話を聞き、読み、そして会話の文法を練習します。日常会話と言っても、この授業のために選んだ会話は一般の教科書で出てくるような学生用に「洗練された」会話と違って、「なま」のドイツ語に聞こえるのが特徴です。すべての会話に判りやすいユーモアが含まれているので、ただの情報交換だけではなく、テキストとしての面白さもあります。一年生の時に勉強してきた基礎文法の練習問題が授業にたくさん盛り込まれているので、受講者に正しいドイツ語で話せるという自信を育てるつもりです。

語彙や文法の説明は日本語で行います。

授業の到達目標

この講座はドイツ語の日常会話の聴解力や日常場面での発言力を育てること、すなわち受講生のドイツ語の語感を発達させることが目標です。ドイツ語の基礎文法、すなわち一年生の時に学んだ文法、の練習問題がたくさん盛り込まれてあり、ドイツ語で日常生活をテーマにする文章を書くことは、もうひとつの目標になります。

成績評価方法

平常点（50%）と課題（50%）

科 目 名	ドイツ語で表現する8（中級の会話・作文） ドイツ語で簡単な話をしよう、簡単な文章を書こう！							
担当者名	E・ヘルメル							
独語	2単位	秋学期	水曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業ではドイツ語圏の文化を紹介する短いテキストを読み、そのテキストを口頭と作文で纏める練習をします。同時に1年生の時に習った、まださほど定着していない文法、例えばzu不定句、現在完了形、接続法II、前置詞的な目的語なども練習問題で復習します。話す、書く練習以外に聴き取りの練習も頻繁に行います。教材としてはドイツ語圏についての知識を広げる面白いテキストを選びます。

授業では次のテーマを扱います：
1. ドイツ人の権利意識
2. 実の親と里親の葛藤 B.　BRECHT: Der Augsburger Kreidekreis
3. 日常生活におけるコンピュータ・メディア
4. ドイツ人の食生活と健康についての考え
5.　健康的な栄養という神話

語彙と文法は日本語で説明します。

授業の到達目標

この講座はドイツ語の文法知識をさらに深め、ドイツ語での発言力や筆記表現力や聴解力を育てること、
すなわち受講生のドイツ語の語感を発達させ、学生が自主的に簡単な作文を書けることが目標です。

成績評価方法

平常点（50%）と課題（50%）

備考・関連URL

語彙と文法は日本語で説明します。

科 目 名	ドイツ語で表現する9（中級の会話・作文） Konversation Deutsch							
担当者名	シュレンドルフ　レオポルト							
独語	2単位	春学期	木曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

Der Kurs stellt die kommunikativen Fertigkeiten ins Zentrum. Dazu wird auch die Grammatik wiederholt. Der Kurs richtet sich im Niveau an die vorhandenen Kenntnisse der Studierenden auf Mittelstufeniveau (B1 - B2) und versucht individuelle Ziele zu formulieren und zu erreichen. Besondere Berücksichtigung finden Gruppen- und Partnerarbeiten, auch im Rahmen der Hausarbeiten.

授業の到達目標

Aufbau komplexer kommunikativer Fertigkeiten in Alltag, Studium und Beruf

成績評価方法

●**試験**　50%　Test
●**レポート**　0%　none
●**平常点**　50%　Mitarbeit
●**その他**　0%　none

科 目 名	ドイツ語で表現する10（中級の会話・作文） Konversation Deutsch							
担当者名	シュレンドルフ　レオポルト							
独語	2単位	秋学期	木曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

Der Kurs stellt die kommunikativen Fertigkeiten ins Zentrum. Dazu wird auch die Grammatik wiederholt. Der Kurs richtet sich im Niveau an die vorhandenen Kenntnisse der Studierenden auf Mittelstufeniveau (B1 - B2) und

versucht individuelle Ziele zu formulieren und zu erreichen. Besondere Berücksichtigung finden Gruppen- und Partnerarbeiten, auch im Rahmen der Hausarbeiten.

授業の到達目標

Aufbau komplexer kommunikativer Fertigkeiten in Alltag, Studium und Beruf

成績評価方法

●**試験** 50% Test
●**レポート** 0% none
●**平常点** 50% Mitarbeit
●**その他** 0% none

科 目 名	第三外国語としてのドイツ語1							
担当者名	村井　浩一							
独語	2単位	春学期	木曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

初めてドイツ語を学ぶ人のための入門コースです。週一回、通年の授業（春学期・秋学期連続）で基本文法を一通り習得し、今後さらに本格的に表現力や読解力を磨いていくための確かな基盤を築くことを目指します。春学期はアルファベートや挨拶の表現から始め、動詞の現在人称化や冠詞の格変化、前置詞や助動詞の用法等を中心に学習します。他の外国語を学習している皆さんに、深い奥行きを持ったドイツ語の世界にもぜひ触れていただきたいと思います。ドイツ語を自分の知っている他の外国語と比べることで、背景にある文化や発想の違いを発見することもできるでしょう。

授業の到達目標

ドイツ語の基礎的な文法事項を習得し、日常使われる平易な慣用表現を覚える。

成績評価方法

●**試験** 70% 学期末に筆記試験を行います（教科書で学習した内容を出題。辞書持ち込み不可）
●**レポート** 0%
●**平常点** 30% 随時指名して、自宅で授業準備をきちんと行っているか確認します。授業への真摯な取り組みを評価します。
●**その他** 0%

科 目 名	第三外国語としてのドイツ語2							
担当者名	村井　浩一							
独語	2単位	秋学期	木曜日	3時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

初めてドイツ語を学ぶ人のための入門コースです。週一回、通年の授業（春学期・秋学期連続）で基本文法を一通り習得し、今後さらに本格的に表現力や読解力を磨いていくための確かな基盤を築くことを目指します。他の外国語を学習している皆さんに、深い奥行きを持ったドイツ語の世界にもぜひ触れていただきたいと思っています。ドイツ語を他の言語と比べることで、背景にある文化や発想の違いを発見することもできるでしょう。秋学期は春学期に学んだ事項を土台に、教科書の後半部分（第8課から第14課）を学習します。

授業の到達目標

基本文法を一通り習得し、日常よく使われる言い回しを覚え、比較的平易な文章を辞書を用いて読解できるようにする。

成績評価方法

●**試験** 70% 学期末に筆記試験を実施します（教科書で学習した内容を出題。辞書持ち込み不可）
●**レポート** 0%
●**平常点** 30% 随時指名して、自宅で授業準備をきちんと行っているか確認します。授業への真摯な取り組みを評価します。
●**その他** 0%

科 目 名	ロシア語を読む1（読解のコツ）							
担当者名	小俣　智史							
露語	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ロシア語の基礎文法を1年以上学んだ方を対象とし、ロシア語のまとまった文章を初めて読む方を想定して実際に文章を読解していきます。

主にロシアの文化や社会に関するテキストを使用します。受講者の興味に合わせて民話や文学作品などのテキストも取り上げる予定です。

基礎文法の復習と定着を図る一方、1年時には未習の中級文法や熟語、慣用句等も学び、文章読解に必要な基礎知識を身につけていきます。

授業の到達目標

自分で辞書を引きながら簡単なロシア語の文章を読めるようになる。

成績評価方法

●**試験** 50% 露文和訳
●**レポート** 0%
●**平常点** 50% 出席、授業への参加度、毎回の予習
●**その他** 0%

備考・関連URL

受講者の興味やレベルによって、内容や進度を変更する可能性があります。

科 目 名	ロシア語を読む2（文学作品に挑戦）							
担当者名	八木　君人							
露語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ロシア語で書かれた文学テクストを、文法事項を確認しながら、丁寧に講読していきます。授業のレベルとしては、ロシア語の初級文法（基礎外国語1年の学習内容に相当）を習得済の履修者を想定しています。

児童文学など、比較的やさしい作品からはじめて、徐々に本格的な文学作品にも挑戦していきましょう。その際、基礎外国語の課程では習っていない事項もたくさん出てくることでしょうから、テクストの精読を通して、既習の文法理解を深めるだけでなく、新たな文法事項や語彙の習得、表現の知識の獲得も目指します。

また、受講者からの希望があれば、（一部にならざるを得ないとはいえ）みなさんが読んでみたい作家・作品もとりあげていきたいと思います。

なお、授業は予習してあることを前提に進めます。かならず事前に辞書で単語を調べ、自分なりに文章の意味を把握した上で、授業に臨んでください。

授業の到達目標

基礎外国語の課程を終えたばかりの段階では、ロシア語の「文章」を読む経験はほとんどないでしょうから、まずは、ロシア語の文章を読むことになれましょう。文学テクストを講読しながら、1年の基礎外国語の課程で教わっていないロシア語の文法事項を習得し、「辞書があれば、ロシア語の文章はそれなりに読める」くらいのレベルになることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　50%　　基本的には授業中に読んできたテキストをもとに、主に、露文和訳の問題を中心とした試験を行います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　予習を含め、授業への参加態度で判断します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

受講者の語学のレベル・関心に応じて、上記内容は変更される可能性があります。

科 目 名	ロシア語で表現する1（作文・エレメンタリー）							
担当者名	籾内　裕子							
露語	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

初級文法の学習を終えた学生を対象とし、中級程度のロシア語力獲得を目指します。この授業は和文露訳が中心となりますが、「書いた文章を読む」「他者の発話を聞く」訓練も合わせて行います。教科書に沿って進行しますが、必要に応じて補助教材（プリント・DVDなど）をこちらで用意します。

語学力をつけるためには地道なくり返しが何より重要です。単語を調べる、文章を書いてみる、スムースに発音出来るようにする、耳を慣らすといった訓練を一緒に重ねていきましょう。記憶を定着させる手段として、毎回小テストを行います。

授業の到達目標

ロシアでの日常生活に必要な表現を身につけることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　90%　　60点以上を合格とします。毎回授業で行う小テストは記憶を定着させる手段として扱いますので、成績判定には直接影響しません。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　10%　　語学の授業は出席が大前提となります（出席状況が悪い場合、期末試験受験を認めない場合があります）。出席状況と取り組みも成績判定に含めます。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

必ず予習をした上で授業に臨んで下さい。欠席した場合でも、後日教科書の該当箇所を解いて提出すれば添削して返却します。模範解答を配布することはしません。

科 目 名	ロシア語で表現する2（会話・エレメンタリー）							
担当者名	岡野　エレナ							
露語	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ロシア語基礎を学んだ学生を対象に、基本会話のさらなる向上を目指します。使用できる単語数を確実に増やす一方、聞き取り能力、自由会話力もバランスよく向上するよう授業を進めます。基本文法の理解度チェックも適宜行います。

具体的には様々な場面を設定し、①基本型の練習②関連の単語の習得③発音練習④文法の復習を行います。一通り基本をマスターした後に、実地で応用できるよう、一対一あるいは複数人で自由会話を行います。ビデオなども多用し、ゲーム感覚で楽しく進めます。なお、毎回関連の課題を出し、次回の授業で解説し、理解を深めます。

授業の到達目標

ロシア語圏での生活および旅行に十分対応できることを目標とします。そのために必要となる基本単語と基本的な言い回しをマスターするとともに、正しい発音と聞き取り能力を、一段と向上させます。

成績評価方法

●**試験**　50%　　設問に対する適切度で評価。暗記力でなく、表現力、自由な発想力のある解答を期待している。
●**レポート**　0%　　レポートは課さない。
●**平常点**　50%　　出席状況と授業中の活動状況で評価。受け身でなく、積極的で活発な授業参加を期待している。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	ロシア語で表現する4（作文・ステップアップ）							
担当者名	籾内　裕子							
露語	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

春学期に続いて中級程度のロシア語作文に取り組みます。教科書は同じですが、第Ⅱ部へ進み、より高度な文法を用いた文章表現を学びます。教科書に沿って進行しますが、ロシアでのニュース、映画などもトピックとして取り上げます。必要に応じて補助教材を配布します。また毎回小テストを行います。

授業の到達目標

ロシアでの日常生活に必要なロシア語力獲得を目指します。

成績評価方法

●**試験**　90%　　60点以上を合格とします。小テストは記憶を定着させる手段として扱いますので、成績判定に直接影響しません。

●**レポート**　0%　　なし

●**平常点**　10%　　語学の授業は出席することが大前提となります（出席状況が悪いと期末試験の受験を認めない場合があります）。出席状況と取り組み方を成績判定に組み込みます。

●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

必ず予習をして授業に臨んで下さい。欠席した場合でも、教科書の該当箇所を解いて提出すれば添削して返却します。模範解答を配布することはありません。

科 目 名	ロシア語で表現する5（会話・ステップアップ）							
担当者名	岡野　エレナ							
露語	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ロシア語基礎を学んだ学生を対象に、基本会話のさらなる向上を目指します。使用できる単語数を確実に増やす一方、聞き取り能力、自由会話力もバランスよく向上するよう授業を進めます。基本文法の理解度チェックも適宜行います。

具体的には様々な場面を設定し、①基本型の練習②関連の単語の習得③発音練習④文法の復習を行います。一通り基本をマスターした後に、実地で応用できるよう、一対一あるいは複数人で自由会話を行います。ビデオなども多用し、ゲーム感覚で楽しく進めます。

なお、毎回関連の課題を出し、次回の授業で解説し、理解を深めます。

授業の到達目標

ロシア語圏の長期滞在や留学にも対応できることを目標とします。そのために必要となる基本単語と基本的な言い回しをマスターするとともに、正しい発音と聞き取り能力を、一段と向上させます。

成績評価方法

●**試験**　50%　　設問に対する適切度で評価。暗記力でなく、表現力、自由な発想力のある解答を期待している。

●**レポート**　0%　　レポートは課さない。

●**平常点**　50%　　出席状況と授業中の活動状況で評価。受け身でなく、積極的で活発な授業参加を期待している。

●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	ロシア語で鑑賞する1（演劇映画）							
担当者名	岡野　エレナ							
露語	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ロシア語の基礎と基本ロシア語会話を学んだ学生を対象に、「読む・見る・話す・スピーチする」能力の一層の向上を図る。

授業は、毎回配布するロシアの著名な作家のロシア語短編小説のプリントと、その映画などを用いて行う。そしてロシア語のプリントを読むことにより読解力を向上させ、映画を見ることによりロシア語の聞き取り力を向上させる。さらに、見て聞いた内容についてロシア語で会話練習を実施し、会話力を向上させる。

ロシアに関係する幅広い分野を対象として毎回話題を変えて授業を行うので、ロシアに関する知識が増えるとともに、使用できる単語数も確実に増加していく。

授業の到達目標

ロシアでの日常生活やロシアの事物に関係する分野を話題として、ロシア語の読解力・会話力を高めるとともに作文力も高める。

成績評価方法

●**試験**　50%　　設問に対する適切度で評価。 暗記力でなく、表現力、自由な発想力のある解答を期待。

●**レポート**　0%　　レポートは無し。

●**平常点**　50%　　出席状況、宿題の提出状況、授業中の活動状況で評価。 受け身でなく、積極的で活発な授業参加を期待。

●**その他**　0%　　その他、特に評価に関係する事項は無し。

備考・関連URL

特になし

科 目 名	ロシア語力を磨く1（進学・留学のためのロシア語）　生きたロシア語を身につける							
担当者名	上田　洋子							
露語	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

大学院への進学、ロシア語圏の大学への留学、ロシア語を使う就職、情報の発信や受信、ほか、なんらかのかたちで今後もロシア語に関わっていきたいと考えている学生を対象とします。ロシア語圏の文化や社会のいまを、自分の力で知ることができる

だけの語学力をつけることがこの授業の目標です。具体的には、現在と歴史をつなぐインタビューやニュース記事、論文、新しい文学・芸術作品などの講読を通じて、読解力と語彙力、そしてロシア語のセンスを養います。また、テクストの読解とあわせて、動画あるいは音声を通じて耳で聞いたロシア語を理解する力をつけ、実際に使えるロシア語を身につけることを目指します。そのロシア語を日本語に置き換えるとなににあたるのか。論理的かつ柔軟に言葉に対峙する術を身につけましょう。初回授業の際にテクストをいくつか準備していきます。そのうちふたつを目安に、異なる文体、異なる語彙に触れられるようにテクストを選びます。また、現在ロシアで起こっている重要なトピックについても、適宜紹介したいと思います。

授業の到達目標

自分のロシア語の知識に自信を持ち、読みたいと思うロシア語の文章にどんどんチャレンジできるような語彙力と読解力をつけることを目標とします。

成績評価方法

●**試験** 0%　評価はレポートになります。
●**レポート** 50%　授業で学んだことを、言葉のレベルと内容のレベルで確認します。
●**平常点** 50%　予習復習をきちんとやってきているか、これまでに学んだことを身につけて力を伸ばしているかを確認します。
●**その他** 0%　特になし。

備考・関連URL

授業内容は受講者のレベルや理解度、また、扱うトピックの鮮度に合わせて調整します。授業計画通りに進むとは限りません。

科 目 名	ロシア語力を磨く2（上級会話）							
担当者名	岡野　エレナ							
露語	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ロシア語の基本会話を修得したが、さらに磨きをかけたい人のためのクラスです。通じるだけでなく、周囲の人々に不快感を与えない、洗練された振る舞いに裏打ちされた会話を目指します。そのためには、ロシアの生活慣習や常識を十分に身に付けなければなりません。

最初にロシアの生活慣習や常識を、興味深い内容のビデオとテキストを用いて学びます。次にその知識を背景に、より洗練された実際的なロシア語会話を修得します。

一通りテキストを理解した後に、テキストの内容に沿った会話練習を行います。基本をマスターした後に、実地で応用できるよう一対一あるいは複数人で自由会話を行います。絵なども多用し、楽しく進めます。使用できる単語数を確実に増やす一方、聞き取り能力もバランスよく向上するよう授業を進めます。基本文法の理解度チェックも適宜行います。

なお、毎回関連の課題を出し、次回の授業で解説し、理解を深めます。

授業の到達目標

ネイティブにも違和感のない洗練されたロシア語をマスターします。ロシア語圏への留学やビジネスにも役立つことも目標とします。そのために必要となるロシアの慣習や常識を身に付け、関連の基本単語とより洗練した言い回しをマスターするとともに、正しい発音と聞き取り能力を一段と向上させます。

成績評価方法

●**試験** 50%　設問に対する適切度で評価。暗記力でなく、表現力、自由な発想力のある解答を期待している。
●**レポート** 0%　レポートは課さない。
●**平常点** 50%　出席状況と授業中の活動状況で評価。受け身でなく、積極的で活発な授業参加を期待している。
●**その他** 0%　特になし。

科 目 名	ロシア語力を磨く3（さまざまな文体を身につける） Этикет письменного и разговорного русского языка							
担当者名	東井　ナジェージュダ							
露語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

Усвоить некоторые приемы, формы, клише публицистического стиля в русском языке

授業の到達目標

Стилистические приемы письменной и разговорной речи

成績評価方法

Оценка будет ставиться по письменным работам и выступлениям студентов на занятиях.

科 目 名	ロシア語力を磨く4（上級会話） コミュニケーション能力を鍛える							
担当者名	V. フィラトフ							
露語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

話す力、聞く力というレベルにおいて、コミュニケーション能力をより完璧なものへと導きます。モノローグ、ダイアローグの能力を鍛え、具体的なもの、抽象的なものについて叙述する方法、さらには互いの質問や意見交換の中で、判断したり、論証したり、評価したりする方法を学んでいきます。

授業の到達目標

受講者には、講義終了までにさまざまな場（家庭、職場、レジャー、私生活、親と子、男性と女性、芸術、政治、社会、自由時間、趣味、旅行）に対応できるコミュニケーション能力の獲得を目指します。

成績評価方法

●**試験** 50%　教場試験。
●**レポート** 0%
●**平常点** 50%　授業への主体的な参加態度。
●**その他** 0%

科 目 名	入門ロシア語1　楽しく学ぼうロシア語！							
担当者名	長井　淳							
露語	2単位	春学期	土曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

ゼロからスタートし、ロシア語の一番核になる部分を習得します。ロシア語はあまり見慣れない文字で書かれていますが、その文字からどんな世界が見えてくるか、一緒に勉強してみませんか？　ロシア語の習得は、ロシア、そしてロシア語を解する文化圏、人々に開かれた大きな扉です。ロシアの文化や社会に興味を持ったとき、専門的な研究に向かうときも、日本語や英語からは知りえない知識や情報を得ることができます。今後、日露関係がさらに深まることを考えると、将来仕事でロシア語を用いる可能性も十分あり、ロシア語の基礎を学ぶことはその土台作りとなります。

授業ではアルファベットからはじめ、ロシア語文法の基礎を学びながら、「読む・聞く・話す・書く」を総合的に訓練します。ロシア語文法は緻密で美しい体系を持っています。一見複雑で難しく思われるかもしれませんが、文法の構造を論理的・体系的に捉える目を養い、かつ何度も反復練習することで、身につけてゆきましょう。

言語は文化的な土壌の中から生まれており、人々の暮らしや文化、歴史的・社会的背景の理解も不可欠です。授業ではロシアに関する話を交え、時に映像を見たり、音楽を聴いたりする機会も作りたいと思います。ロシアの歌も歌います。また授業進度に応じ、小テストをおこない、自分の理解度・到達度をチェックできるようにします。

全15回と回数が少ないので、毎回の授業を大事にし（つまり極力休まず）、復習を確実にしてもらうことが受講の最低条件です。再入門したいという人の履修も歓迎します。

授業の到達目標

授業の到達目標は、ロシア語の文字と発音に慣れ、基本語彙を習得し、基礎文法を理解すること、簡単な文章が読め、簡単な表現ができるようになること、そして何よりロシア語とロシアを身近に感じてもらうことです。

成績評価方法

●**試験**　60%　　第14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。答案は第15回目の授業で返却し、解説もします。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　出席率、小テスト、授業への取り組み
●**その他**　0%

科 目 名	入門ロシア語2　さらに学ぼうロシア語！							
担当者名	長井　淳							
露語	2単位	秋学期	土曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

入門ロシア語1の後継授業です。春学期の学習を土台に、ロシア語を総合的に学びます。順調に勉強が進めば、ロシア語を読んだり話したりすることが少しずつできるようになる時期です。これまで習得したことを確認しながら、ステップアップしましょう。文法事項もより複雑になりますが、重要なところはゆっくり確実に押さえます。全体像をうまく把握し、ロシア語の森が大きく俯瞰できるように授業を進めます。

春学期同様、学習進度に応じて小テストをおこない、各自、理解度・到達度をチェックしてもらいます。またロシア語の文化的土壌を理解するために、映画を見たり、歌を聴いたり、歌ったりする機会も毎回設けたいと思います。入門ロシア語を1年間受講すると、ロシア語の主要な骨格がマスターでき、基本的な会話表現も身につきます。最終的には中級文法への橋渡しの段階まで進みたいと思います。継続は力なりです。頑張りましょう。

授業の到達目標

ロシア語の基礎文法の体系を理解すること、基本語彙を習得すること、辞書を引けば簡単な文章が読めるようになること、身近な会話表現ができるようになることが到達目標です。

成績評価方法

●**試験**　60%　　第14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。答案は第15回目の授業で返却し、解説もします。
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　出席率、小テスト、授業への取り組み
●**その他**　0%

科 目 名	ロシア語を読む3（ロシアのいまを知る）							
担当者名	八木　君人							
露語	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「ロシアのいま」に関するロシア語テキストを読み、ロシア語の読解力を養うと同時に、現代ロシア社会についての知識・理解を深めていきます。ロシア語文法を習得し、ある程度、文章を読むことに慣れた人を対象にします。

毎回の授業は、主に以下の二つで構成されます：

1．毎回、ロシア語の短いニュース記事を教員が配布するので、初見で、しかも辞書をみることなく、その文章を読んでもらいます。この作業を通して、わからない単語があったとしても、大雑把にでも文章全体の内容を捉えられるような力を養っていきます。

2．現代ロシア社会について採り上げられている長めの、しかしそれほど難しくない文章を講読していきます。3〜4回にわたって、一つの文章を読み切るかたちになるでしょう。ここでは、ニュース記事のように、字義通りの「いま」が扱われるわけではありませんが、「いま」を理解するために必要となる知識を習得することを目指します。

毎回の授業の時間配分は、おおよそ、20分（初見でニュース記事を読む）＋20分（ニュース記事の内容の確認と解説）＋50分（2．のテキストの講読）とします。1．については予習は不要ですが、2．に関しては、予習を要します。

授業の到達目標

それほど長くないロシア語の文章を、一息でストレスなく読める力をつけると同時に、現代ロシア社会に関する知識・理解を

深めることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　50%　　主に露文和訳を行ってもらいます。授業中に読んできたテキストの中からのものと、（授業では扱っていない、初見の）ニュース記事から出題する予定です。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　授業への参加態度。
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業の進度や難易度自体は、実際の受講者の学習歴や顔ぶれに応じてかえていきますが、基本的には、ロシア語学習歴1年半～2年半程度のロシア語学習者を想定しています。

科目名	ロシア語を読む4（現代ロシアの文学）　チェブラーシカを読む							
担当者名	坂庭　淳史							
露語	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ロシア語の基礎文法を習得している方を対象に、さらに高度な文法事項、慣用表現などについて現代ロシアの文学作品を読みながら解説していきます。また、文学作品を読みこなすのに必要な語彙力を獲得するためにも、毎回の授業の冒頭で単語テストを行います。

ロシアの現代文学に関する予備知識はなくても構いません。「ロシア語を読みたい／理解したい／味わいたい」という気持ちと、予習を厭わない心構えがあれば十分です。

扱うテキストについては皆さんの希望も考慮しながら決定していくつもりですが、まずは、エドゥアルド・ウスペンスキーの『チェブラーシカ、ソチへ行く』（2013）を読む予定です。さらにヴィクトル・ペレーヴィンやエヴゲーニー・ヴォドラスキンといった現代作家の作品をはじめ、詩や歌などを扱う可能性もありますし、ロシア人ゲストを招いて現代文学の話をうかがう回もあるかもしれません。

授業の到達目標

ロシア語の基礎文法を確認しながら、より高度な文法の知識と語彙力、読解力を身につけていきます。

成績評価方法

●**試験**　40%　　授業最終回に、基本的にそれまで読んできたテキストを試験範囲としてテストをします。
●**レポート**　0%
●**平常点**　60%　　予習の状況、出席率、授業中への参加度を総合して評価します。授業の最初に出席を確認します。
●**その他**　0%

科目名	練習問題でマスターするロシア語1　語彙を増やすことも目指して							
担当者名	上野　理恵							
露語	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ロシア語の初級文法の学習を終えた人を対象に、練習問題を解きながら、これまで習得した基本的な文法事項を復習し、知識の定着をはかります。初級文法では学ばなかった文法事項にも触れることになるので、初級文法では学ばなかった隙間を埋めていくことになります。

また、そうした学習と同時に、最重要単語の習得も目指します。そのために毎回の授業で単語テストを行います。単語テストの範囲については前の週の授業で指定するので、覚えておくようにしてください。

授業は、基本的に、「単語テスト（20分）」＋「練習問題回答＋解説、あるいは文法事項の説明（70分）」というかたちで行います。

授業の到達目標

ロシア語の初級文法を着実に身につけると共に、初級文法を学ぶ際には採り上げられることが少ない、細かい文法事項についても習得することを目指します。ロシア語能力検定に照準を合わせた授業ではありませんが、文法に関しては、4級・3級レベルは軽くこなせる程度の力をつけましょう。

成績評価方法

●**試験**　50%　　15回目の授業の際に実施
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　単語テスト、出席
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

受講者の語学のレベル・関心に応じて、上記内容は変更される可能性があります。

ただし、授業概要にも記してあるように、本授業で対象とするのは、基本的には、必修外国語科目としての1年生ロシア語を終えた学生、あるいはそのレベルのロシア語基礎文法を修得している学生です。授業はあくまでこのレベルに設定するので、それ以上の実力のある学生にとって生産的な効果が得られるとは思いません（もちろん、制度的には履修可能ですが）。その点はよく考えて、履修するようにしてください。

科目名	ロシア語力を磨く5（上級講読）　現代ロシアを読む							
担当者名	上田　洋子							
露語	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代ロシアを捉えようとするとき、わたしたちは何を読めばよいのでしょうか。ネット時代になって文学や言語は多様化し、また、その位置づけも変わってきているように思います。この授業では現代の作家、思想家、エッセイスト、ジャーナリスト、劇作家らの作品や論考を精読します。また、インターネット上で公開されている現代ロシアを考えるためのプロジェクトなども紹介し、読んだり視聴したりする機会を設けます。

ソ連崩壊後、あらたなアイデンティティを模索し続けてきたロシアは、現在は保守化し、伝統の賛美や歴史への興味が高まっています。他方、たとえばウラジオストクのアフチェンコら、モスクワ・ペテルブルク以外の土地を基盤にする文学・芸術も広がりを見せています。文学のみならず、各地で土地に根付いたクリエイターや活動家が生まれ、特色のある国際芸術祭や演劇祭などが開催されるようになりました。さらに、youtubeなどを利用し、ロシアの問題を脱モスクワ・ペテルブルクの視点から語るオルタナティブノジャーナリズも現れてきています。 現在ロシアでもっとも人気があるとされている作家プリレーピンはニージニー・ノヴゴロドを拠点とし、志願してウクライナ東部戦線で従軍し、その体験に基づいた作品を書いています。他方、ベラルーシのアレクシエヴィチやウクライナのクルコフのような、旧ソ連圏でロシア語で発信している／最近まで発信していた作家もいます。ロシア語を使って、わたしたちは世界におけるなにを読みとることができるのか。テクストを読みながら考えていきたいと思います。

授業の到達目標

ロシア語のテクストを読みながら、論理や思考の流れを正確に追えるようになることが目標です。

成績評価方法

- **試験** 0%
- **レポート** 50%　ロシア語が読めるか、日本語にできるか、内容を理解しているかの3点を確認します。
- **平常点** 50%　予習をやってきているか、これまでに学んだことを理解しているかを確認します。
- **その他** 0%

科 目 名	ロシア語で表現する7（スピーチ）							
担当者名	岡野　エレナ							
露語	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ロシア語の基礎と基本ロシア語会話を学んだ学生を対象に、会話力のいっそうの向上を図るとともにスピーチの基本となる能力の向上を目指す。

授業は、毎回配布するロシア語のプリント、絵などを用いて行う。そしてロシア語の読解力を向上させ、絵を見てロシア語で作文することにより作文力を付け、それらの力を用いて会話練習を実施し、会話力を向上させる。毎回話題を変えて授業を行うので、ロシアに関する知識が増えるとともに、使用できる単語数も確実に増加していく。

このような授業を繰り返すことにより、作文スキルと会話スキルを高めていく。

授業の到達目標

ロシアでの日常生活やロシアの事物に関係する分野を話題として、会話力を高めるとともに作文力も高め、スピーチの基本技術の習得を目指す。

成績評価方法

- **試験** 50%　設問に対する適切度で評価。 暗記力でなく、表現力、自由な発想力のある解答を期待。
- **レポート** 0%　レポートは無し。
- **平常点** 50%　出席状況、宿題の提出状況、授業中の活動状況で評価。 受け身でなく、積極的で活発な授業参加を期待。
- **その他** 0%　その他、特に評価に関係する事項は無し。

備考・関連URL

特になし

科 目 名	ロシア語力を磨く6（上級講読） ロシアのモダニズム文学と出会う							
担当者名	高柳　聡子							
露語	2単位	春学期	月曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、19世紀末から20世紀初頭のモダニズムの時代の作品を中心に、原語での精読を行います。

古典的な文学を脱して、新たな表現を探る作家や詩人たちの登場により、ロシア文学がさらに豊かになる時期です。そうした作品群の中から、チェーホフ、ソログープ、ガルシン、ゴーリキイ、アンドレーエフ、ブリューソフなどの抜粋を選び、緻密な文学テクストを精読しながら、豊かなロシア語に触れていきましょう。翻訳のあるものも多いため、自分の訳と比べてみることもできます。

授業には、できるだけ丁寧に予習したうえで臨んでください。毎回の分量は多くはありませんので早く読める必要はありません。ゆっくりと確実に読むトレーニングを行います。

講読の授業を履修したことがあるほうが望ましいですが、やる気があれば2年生やブランクのある学生も歓迎します。

テキストは履修者の希望を加味しながら、初回の授業で話し合って決めたいと考えています。

授業の到達目標

高度に洗練された芸術的な文体を原語で正確に読み解き、原文にふさわしい日本語へと訳出するスキルを身につけること、テクストに書かれた言葉と余白から、その背景にあるもうひとつの現実を読み取ることのできるロシア語力を磨きながら、ロシア文学独特の「余白」を読み取る意識をもつことを目指します。

初級・中級の文法事項を適宜復習しながら、まだ未習の文法についても学びます。副動詞・形動詞はもちろんのこと、物主形容詞や係り結び、また、語結合や造語を作る際のルールや、翻訳のコツと基本的なスキルなど、高度なテクストを正確に読み解くために必要な知識と姿勢を身につけることを目標とします。

「分からない」ことを楽しみながら、分かるまで調べ・考え抜く自分をみつけます。

成績評価方法

- **試験** 30%　期末に教場試験を実施します。初見のテクスト（授業では取り上げなかったもの）を訳してもらいます（辞書持ち込み可）。
- **レポート** 0%　実施しない。
- **平常点** 70%　毎回の授業へ丁寧に予習して出席することを重視します。
- **その他** 0%　特になし。

科 目 名	練習問題でマスターするロシア語2　聞き取りや音読の力を身につける							
担当者名	小俣　智史							
露語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ロシア語の基礎文法を1年以上学んだ方を対象とします。春学期の「練習問題でマスターするロシア語1」の後続の授業ですが、秋学期ではリスニングやリーディングなど、ロシア語を主に音の面から学ぶことに主軸をおきます。授業では毎回リスニングとリーディングの練習を行います。授業中の練習課題に取り組むことはもちろん、リーディングの練習に用いるロシア語の文章を予習してくることも授業の一環となります。ロシア語の発音のルールを知るとともに、ロシアの生活に身近な表現や文章の読解力も養成されると期待しています。

授業の到達目標

ロシア語能力検定4級または3級に対応できる程度の聞き取りや音読の力を身につけることを目指します。

成績評価方法

●**試験**　50%　　学期末試験（リスニング、リーディング）
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　出席、授業への参加度
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業の進度や内容は、受講生のレベルや興味に応じて変更する可能性があります。

科 目 名	速習中国語1　中国語の基礎を身につける							
担当者名	倉持　貴文							
中語	4単位	春学期	水5時限	木6時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

速習中国語1は週2回の授業で、速習中国語2とあわせ、一年間で中国語の基礎を身につけることを目指します。（もちろんこの速習中国語1だけの履修だけでもかまいませんが、できるだけ合わせて履修し、基礎をきちんと身につけてほしいと思います。）この授業はそのうちの前期として、発音を中心に基礎の基礎を固める授業です。最初は、拼音（ピンイン、中国語のアルファベット表記）をきちんと認識できるよう努力し、その後、初歩文法の基礎を学び、おおむね、教科書の前半を学習する予定です。

授業の到達目標

中国語の発音を理解し、基本4文型を中心とした文法の基礎を身につける。

成績評価方法

●**試験**　60%　　学期末の理解度の確認（試験）での成績。
●**レポート**　0%　　レポートは原則として実施しません。実施した場合は、平常点評価に組み入れます。
●**平常点**　40%　　授業での発言、作業などの総合評価（宿題・小テストなども含みます）。出席しても、ただ座っているだけでは平常点はつきません。授業に積極的に参加するなかで、発音をチェックし、そのうえ、平常点もたくさんゲットできるのです。
●**その他**　0%　　ミニテストなどは何回か実施しますが、いずれも平常点評価に組み入れます。

備考・関連URL

（1）中国語は、文字・文法でも日本語・英語と大きな差がありますが、発音面では声調、有気音・無気音、そり舌音など日本語にない要素がたくさんあります。そのうえ、拼音（ピンイン）表記も独特の読み方をするものが多いのです。最初は（そして最後まで）教員・CDの音を聞き、大きな声でそのまねをするなかでピンインの読み方を身につけていってください。
（2）その日に学んだことを確認するため小テストを行うことがあります。練習問題を宿題にするなど、作業もたくさんやってもらいます。
（3）教室での学習の妨げとなる行為は授業妨害として禁止します。

科 目 名	オンデマンド中国語（中級）　A　中国を見る							
担当者名	楊　達							
中語	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ナチュラルスピードの中国語を正確に理解でき、平易な表現でコミュニケーションができるようになることが目標です。授業は現在の中国社会を扱った新聞や雑誌の記事などを教材にして、会話、作文を中心に進めていきます。内容は身近なものから最近の社会問題まで、できるだけ広い範囲のものを扱うことを考えています。また、授業のほかに、履修者はオンデマンドシステムにあるコンテンツを予習してくることが必要です。

授業の到達目標

ナチュラルスピードの中国語を聞き取れるようにするのが主たる目的です。平行して自分の意志を表現できる語学力

成績評価方法

●**試験**　50%
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%
●**その他**　0%

科 目 名	オンデマンド中国語（中級）　B							
担当者名	南　勇							
中語	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

一年生のとき学んだ単語・文法、そしてこれから学ぶ単語と文法のすべてを「音声化」することを目指す。つまり単なる「知識」として覚えるのではなく、耳で聞き取れる能力を身につける。また、多様な場面を設定、「聴く」と「話す」をセットで練習し、

自分の意見を述べられる、コメントすることができるようにしたい。

授業の到達目標

中国語検定試験3～2級、HSK4～5級相当のリスニング力をつける。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　30%　　授業参与の積極性を評価する。また、様々な課題の完成度も評価のポイントにする。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

履修する学生の実際レベルに合わせて授業内容と方法を調整することがある。

科目名	中国語会話（中級）　A							
担当者名	丸井　憲							
中語	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業は、中国語の生の会話を身につけたい方のためのクラスです。会話を進めるためには、回答するとともに、トピックを続けさせるための表現力、正確な発音、さらにリスニング力が要求されます。このため、授業では所定の教科書の本文を朗読するだけではなく、暗記も求められます。その後、質疑応答を通じて、内容についての理解を深めると同時に、会話のやりとりに慣れていただきます。また、教科書だけではなく、随時トピックを設定し、発表していただくことがあります。「聞く」→「話す」→「質問し返す」ことで、これまで学習してきた発音と文法を活用し、会話を長く続けられるように練習しましょう。前半の授業では、日本語と併用しますが、後半は中国語を中心に運営します。受講者は、ミスを気にせず、より多く発言することが求められます。

授業の到達目標

中国語検定3級以上、HSK4級以上の能力を目標とします。

成績評価方法

●**試験**　40%　　トピック練習の成績
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　60%　　出席状況および授業の貢献度
●**その他**　0%　　なし

科目名	中国語会話（中級）　B　ことばと文化を一挙両得しましょう。							
担当者名	胡　婉如							
中語	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

初級中国語を履修した学生を対象にするこの授業は、基礎的な事項を再確認しながら、会話を中心に授業を進める。
A、やり方
前半：聞き取り練習を行ったり、発音を直したりする。
後半：学習者が主体的に前回の授業の内容に基づいて自力で仕上げていく。
①、教材を朗読して内容の理解を確認する。文型や慣用句などの説明を通して、口頭で短文を造ってもらう。
②、本文の内容に基づいて問答練習や会話発表をしてもらい、ドリルなどを通して、理解度を確認する。
③、授業中、できるだけ中国語を使う。
B、進み度合い
学生の人数やレベルにもよるが、二..三回で一課のようなペースで、授業を進める予定である。

授業の到達目標

最新中国事情の学習や会話の発表を通して、「聞く」、「話す」能力を養成しながら、中国語という言語の背景にある文化をより理解すること。
日中間の慣習や大学事情について､中国語で中国人とコミュニケーションが少しでもとれるように､主に次の3点を目標とする。

①、内容を聞いて直ちに理解できる。
②、正確な発音および自然なリズムで言える。
③、日中間の慣習や大学事情について一般的な応答が支障なく行える。

成績評価方法

●**試験**　50%　　筆記テスト
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　確認小テスト、会話発表や出席状況および授業に取り組む姿勢。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

【受講生に対する希望】
積極的に授業に取り組んで、予習、復習を欠かさぬようにしてほしい。人数が多く、レベルが一様ではないので、一学期にとくにCDを繰り返して聞いてから教室に臨んでほしい。

科目名	中国語会話（中級）　C							
担当者名	新田　小雨子							
中語	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業は色々なトピックスについて中国語で会話する能力を高めることを目的としており、この授業を履修するには、中国語の基礎文法を習得した上、ある程度の「読む・書く・話す・聞く」力も必要です。授業中設定されたトピックについて、中国

語で意見を述べてもらう場合がよくあります。この授業ではスピーキングを重視します。トピックスによって使う表現も異なるので、この授業を受講することによって、物事について説明したり自分の意見を述べたりする能力をアップすることが期待されます。学期末にスピーキング能力アップの確認として、中国語によるプレゼンテーションも実施する予定です。講義中、中国語による説明や指示も多いですが、日本語によるフォローも臨機応変に行います。本講義の授業時間以外の指示、資料、音声データの共有は全てSNS（LINE）で行います。

授業の到達目標

① トピックスに応じた会話能力を高める。
② 中国語を聞く力を高める。

成績評価方法

●**試験** 50%　期末目標言語によるプレゼンテーション
●**レポート** 0%　なし
●**平常点** 50%　授業への参加度・取り組む姿勢・口頭発表など
●**その他** 0%　なし

科目名	中国語作文（中級） A							
担当者名	小島　瑞紀							
中語	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中国語の初級文法を駆け足で復習しつつ、中級の表現にも触れていく。

授業の到達目標

作文時に犯しがちな簡単な間違いを、極力排除できるようにすることを最大の目標とする。
加えて、少しずつ中級レベルの作文力も身につけて、まとまった文章が書けるようにしたい。

成績評価方法

●**試験** 70%　特になし
●**レポート** 0%　特になし
●**平常点** 30%　毎回の授業時に行われる小テストの合計点を30パーセントに換算する。
●**その他** 0%　特になし

備考・関連URL

必ず家庭学習の時間を設けること。
前後期あわせて受講することが望ましい。

科目名	中国語作文（中級） B 中国テレビニュース放送の聴き、読み、翻訳							
担当者名	王　瑞来							
中語	2単位	春学期	木曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

発音を重視する。ネイティブ・スピーカーという特長を最大限に生かして、学生諸君に生の中国語の響きを体感させ、とりわけ日本人に共通する中国語発音の間違えやすい箇所と声調に対する訓練に力を入れる。中国語の会話と文章の朗読法として、ほとんど見落とされたアクセントとリズムの方法を導入しており、中国人らしい上手な発音ができることを目標とする。文字化・ビデオCD化した中国テレビニュース放送の精選を教材として、繰り返して見せ聞かせて、読ませて、さらに翻訳させる。

授業の到達目標

中国語の聴きと読み及び文章の翻訳能力の向上を目指す。

成績評価方法

●**試験** 70%　なし
●**レポート** 0%　なし
●**平常点** 15%　課題の完成度など
●**その他** 15%　出席率

科目名	中国語プレゼンテーション（中級） スピーチの達人になろう							
担当者名	金　佩華							
中語	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中国語の文章を読んだ上で、それを手本に身近なテーマについてスピーチ発表の練習を繰り返します。中国語で授業を進め、分かる学生に通訳になってもらいます。学生全員が分からない時だけ教員が日本語に訳します。授業とは中国語を聞く、読む、訳す、話すことの連続です。なお、授業中、時間の余裕があるときは中国の話もする予定です。

授業の到達目標

中国語の表現力を高め、基本的な応用力を身に付け、日常的な事を中国語で、ある程度述べられるようになることです。

成績評価方法

●**試験** 40%　最終発表は試験とします。
●**レポート** 0%　行いません
●**平常点** 50%　各テーマの発表は平常点とします。
●**その他** 10%　出席と授業態度の点数です。 欠席1回で2点減点します。5回で失格となります。 遅刻や授業に相応しくない行為がある場合は1点減点します。10点になると失格です。

備考・関連URL

本気で中国語の表現力を身につけたい学生は大歓迎です。
年間計画で授業をすすめますので、春期と秋期を合わせての受講が望ましいです。

科 目 名	中国語ヒアリング（中級）							
担当者名	伴　俊典							
中語	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

初級の中国語ヒアリングをおさらいするとともに発展中国語聴力学習への準備を行う授業です。
中国語基礎を修めた学生を対象に、音声教材を使った中国語学習を行います。授業はテーマに即した様々な中国語音声聞を使って

1　中国語音声を使った様々な実習
2　教員による音声の解説と内容理解・定着

を行い、中国語音で中国語を扱うスキルを養います。

2020年度の授業では主に中国の社会、文化に関する題材を扱う予定です。この授業は例年様々な受講生が参加するので、具体的な内容は第1回の授業で受講生の学習進度や要望を聞いて決定します。中国語のヒアリングが苦手な学生や中国の社会文化の知識に自信がないというに学生には、フォローのための副教材を準備しますので、気軽に参加してください。希望者が過半数いる場合は中検、HSKの聴力対策も行います。

授業の到達目標

『ベーシックチャイニーズ』によって獲得した中国語の聴覚イメージを確実に定着させる。
中検3級、HSK4級レベルの中国語音声の聞き取りを問題なくこなせる。

成績評価方法

●**試験**　60%　　定着度の確認ごとに実戦形式で様々な課題を行ってもらいます。
●**レポート**　0%　　行いません。
●**平常点**　40%　　出席点と授業中の質疑応答。
●**その他**　0%　　行いません。

備考・関連URL

受講生のレベルや要望に応じて授業内容を変更することがあります。
オンラインで教材を配布する予定ですが、パソコン操作が苦手な学生には適宜紙やCD等の教材を併用して授業を行います。

選択外国語

科 目 名	時事中国語（中級）　A　中国語でニュースを読もう！（入門編）							
担当者名	土屋　文子							
中語	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ニュースから学術論文まで広く用いられる中国語の論説体（文章語）に触れ、読解力と文法知識を深めてゆくためのクラスです。

授業の到達目標

中国語の基礎的な文法知識と語彙のブラッシュアップ。
辞書およびネット上の資料の検索法に習熟する。
平易な論説体の文章をツールを用いて読解し、内容を的確に説明できる。

成績評価方法

試験50%　制限時間内に辞書を用いて課題文を読み訳文を作成する。
平常点評価50%　毎回のクラスにおける本文の音読と和訳。

科 目 名	中国現代文学に親しむ（中級）　21世紀の中国語小説							
担当者名	土屋　文子							
中語	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

近年SFやミステリの翻訳紹介により、その面白さが世界的に知られるようになってきた中国語（華文）小説。当クラスでは中国語圏で活躍する20-40代の作家の作品を数編取り上げ、読解を通じてその感性に触れ、また現代中国語の表現および解釈法について理解を深めてゆきます。

授業の到達目標

中国語の基礎的な文法知識と語彙のブラッシュアップ。
辞書およびネット上の資料の検索法に習熟する。
平易な文学作品をツールを用いて読解し、内容を的確に説明できる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　制限時間内に辞書を用いて課題文を読み訳文を作成する。
●**レポート**　0%　　授業で扱った教材すべての訳文を作成し学期末に提出。（通常の成績評価としては実施しません）
●**平常点**　50%　　毎回の授業における本文の音読と和訳。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

読解作業は調べ物に始まり調べ物に終わるといっても過言ではありません。辞書はなるべく大型のものを用意し、丹念に引く習慣を身につけて下さい。またネットなどの参考資料も大いに活用して下さい。
取り上げる課題文は講師が適宜選びますが、受講者の希望も可能な限り考慮します。
春・秋両学期をあわせて受講することを勧めます。

科 目 名	映画で学ぶ中国語（中級） A　映画『夜店』で学ぶ中国語							
担当者名	山本　律							
中語	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本授業は、中国語初級レベルを終了した学生を対象とします。本授業は、映画を教材に中国語のレベルアップをはかり、また中国文化への理解を深めていきます。

授業の到達目標

初級で学んだ中国語の定着とその活用力の強化をめざします。

成績評価方法

●**試験**　30%　　授業の理解度の確認
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　70%　　出席、宿題の提出、授業態度
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

学習者の進度に合わせレベルをあげていきます。春期秋期あわせて受講することをすすめます。

科 目 名	映画で学ぶ中国語（中級） B　様々なジャンルの中国映画に親しむ							
担当者名	段　文凝							
中語	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

初級中国語を学び終えた人が対象の授業です。中国映画というとどんなジャンルの映画を思い浮かべますか？カンフー映画、コメディー映画、恋愛映画、時代劇映画・・・。これらの映画は、中国の歴史や文化、流行や社会問題と密接にかかわっています。日本でも有名な陳凱歌（チェン・カイコー）、張芸謀（チャン・イーモウ）監督など、中国映画界「第5世代」の監督たちの作品から、最近の話題作まで概ね2本程度の映画を観て、作品中のシーンやセリフから、様々なシチュエーションや意味合いで使われる、ワンランク上の中国語の活用法を学びます。

授業の到達目標

●映画の中に出て来る平易な話し言葉を、自分でも話すことができる。
●中国映画の中国語字幕を追いながら、ストーリーを概ね理解できる。
●映画についての自分の意見を、平易な中国語で述べることができる。

成績評価方法

●**試験**　30%　　授業で学んだフレーズ、授業の内容の定着度を測ります。
●**レポート**　40%　　毎回の授業のミニレポート提出で出席をカウントします。しっかりと自分の意見や所見があるかどうかがポイントです。
●**平常点**　30%　　出席状況、ディスカッションへの貢献度を測ります。
●**その他**　0%

科 目 名	オンデマンド中国語（上級）1　中国で、いま							
担当者名	楊　達							
中語	2単位	春学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

CCTV（中央電視台）のニュースなどを聞き取りながら、今の中国の変化を見ていきます。

授業の到達目標

テレビのニュースや新聞記事を学習していくことで、日常会話以外に、内容のある議論もできるようになること

成績評価方法

●**試験**　60%
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%
●**その他**　0%

科 目 名	中国語ヒアリング（上級）1							
担当者名	南　勇							
中語	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

今までマスターした中国語文法知識を活用して、より高い次元で中国語聴力の実力をレベルアップします。そのため、さまざまなジャンルの音声(映像)を素材に、聞く・話す・読む・書くなど多様な練習を通じて、聴覚イメージを総合的に形成します。特に、ネイティブスピーカーの発話で「耳」を刺激し、単語・文法・表現などの知識を内面化します。

授業の到達目標

新HSK6級の合格を目指します。中国語のテレビ番組、映画、演説など基本的に聞き取り、理解できるようにする。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　30%　　授業参与の積極性を評価します。また、様々な課題の完成度も評価のポイントにします。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

履修する学生の実際レベルに合わせて授業内容と方法を調整することがある。

科 目 名	中国語作文（上級）1 ―― 中国語で作文を書いてみましょう ――							
担当者名	孫　国震							
中語	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要

中国語の基礎文法を覚え、基礎的な作文力を身に付けた学習者を対象に、複文、複複文と文章の作成を主に練習します。
中国の作文集を輪読し、吸収できるものを吸収して、自分の作文に応用して、作文力を向上します。
中国人の書いた作文の読解　→　複文・複複文の作文練習　→　テーマ作文の提出と発表　という順で進みます。

授業の到達目標

自分で見聞したこと、経験したこと、考えたことを、文字で表現できるように指導します。且つHSK5級、HSK6級の作文力を目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　普段作成した作文の提出をもとに評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	中国語翻訳1　中文翻訳の技法　レベル4							
担当者名	土屋　文子							
中語	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要

1年以上の学習歴を持ち、基礎的な読解力を身につけた上で、中日翻訳の具体的な技法を学びたい方を対象とするクラスです。
小説・散文などさまざまなジャンルの文章を題材に、演習方式で読解と翻訳の訓練を行います。

授業の到達目標

単なる読解手法としての中文和訳を脱し、文意の正確な伝達と日本語として違和感のない表現の両立について、自分なりの方法論あるいはその端緒を見いだすこと。

成績評価方法

平常点　60%（授業参加・課題提出）
レポート　40%（訳文の完成度）

備考・関連URL

日中主要コーパス（語料庫）：ある語彙が実際の文中でどのように使われているかを概観するのに役立つデータ集。
少納言（現代日本語書き言葉均衡コーパス）
http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/
北大语料库（北京大学中国语言学研究中心）
http://ccl.pku.edu.cn/corpus.asp
北京语言大学现代汉语语料库（汉语国际教育技术研发中心）
http://bcc.blcu.edu.cn/
现代汉语词汇历时检索系统
http://nlp.blcu.edu.cn/others/historical%20computing/
現代漢語平衡語料庫（中央研究院）
http://app.sinica.edu.tw/kiwi/mkiwi/

科 目 名	中国語字幕翻訳1　中国語映画のセリフを翻訳する							
担当者名	樋口　裕子							
中語	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要

配布されたスクリプトを日本語訳し、
一部を字数制限に合わせた日本語字幕に作る。
予習は必須です。

授業の到達目標

登場人物に合ったこなれた日本語に訳す。
各地の方言から中国語の多様性に触れ、
中国の歴史や社会の背景を理解する。

成績評価方法

授業に臨む態度と翻訳の課題提出で総合評価します。

科 目 名	速習中国語2　中国語の基礎を身につける2							
担当者名	倉持　貴文							
中語	4単位	秋学期	水5時限	木6時限	2年以上	―	合併科目	―

授業概要

速習中国語1とあわせ、一年間で中国語の基礎を身につけることを目指します。（この速習中国語2だけの履修でもかまいませんが、その場合、速習中国語1の既習者あるいはそれと同等の学力を持つ者に限定します。）この授業は1で習った内容を基礎として、発音を完璧なものとし、介詞（前置詞）、能願動詞（助動詞）や補語、連動文、兼語文、存現文などの中国語独特の内容も含め、中国語の基礎をきちんと身につけ、会話・作文能力の向上を目指します。

授業の到達目標

中国語の発音と基礎的な文法事項を理解し、あわせて基礎的なコミュニケーション能力を獲得する。

成績評価方法

●**試験**　60%　　学期末の試験。
●**レポート**　0%　　レポートは原則として実施しません。かりに実施した場合には、平常点評価に組み入れます。
●**平常点**　40%　　授業中の作業などの総合評価。
●**その他**　0%　　何回か小テストを実施しますが、これも平常点評価に組み入れます。

備考・関連URL

基本的に春期と同じ方針で授業を行っていきます。速習中国語1の「備考」などを参照してください。

科 目 名	オンデマンド中国語（中上級） A　中国を聞く							
担当者名	楊　達							
中語	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ナチュラルスピードの中国語を正確に理解でき、平易な表現でコミュニケーションができるようになることが目標です。授業は春期に引き続き現在の中国社会を扱った新聞や雑誌の記事などを教材にして、会話、作文を中心に進めていきます。内容は身近なものから最近の社会問題まで、できるだけ広い範囲のものを扱うことを考えています。また、授業のほかに、履修者はオンデマンドシステムにあるコンテンツを必ず予習してくることが前提条件です。

授業は初級の復習から始め、限定された語彙の中で、ナチュラルスピードの中国語の聞きとりと会話練習を中心に授業を進めていくと同時に、長い文章の暗記をも行います。また、春期では簡単な作文を通じて、文法の定着をも図ってきましたが、秋期では前期学習したことの定着をはかりながら、記事内容について議論することも取り入れるつもりです。

授業の到達目標

自然な速さの中国語でも聞き取ることができ、かつ、教材として聞いたインタビューの内容について、自分の意見を述べられるようにするのが目標。

成績評価方法

●**試験**　70%　　学習した内容を中心に出題する
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　30%　　出席および課題に取り組む態度
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	オンデマンド中国語（中上級） B							
担当者名	南　勇							
中語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

一年生のとき学んだ単語·文法、そしてこれから学ぶ単語と文法のすべてを「音声化」することを目指す。つまり単なる「知識」として覚えるのではなく、耳で聞き取れる能

力を身につける。また、多様な場面を設定、「聴く」と「話す」をセットで練習し、自分の意見を述べられる、コメントすることができるようにしたい。

授業の到達目標

中国語検定試験3～2級、HSK4～5級相当のリスニング力をつける。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　30%　　授業参与の積極性を評価する。また、様々な課題の完成度も評価のポイントにする。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

履修する学生の実際レベルに合わせて授業内容と方法を調整することがある。

科 目 名	中国語会話（中上級） A							
担当者名	丸井　憲							
中語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業は、中国語の生の会話を身につけたい方のためのクラスです。会話を進めるためには、回答するとともに、トピックを続けさせるための表現力、正確な発音、さらにリスニング力が要求されます。このため、授業では所定の教科書の本文を朗読するだけではなく、暗記も求められます。その後、質疑応答を通じて、内容についての理解を深めると同時に、会話のやりとりに慣れていただきます。また、教科書だけではなく、随時トピックを設定し、発表していただくことがあります。「聞く」→「話す」→「質問し返す」ことで、これまで学習してきた発音と文法を活用し、会話を長く続けられるように練習しましょう。前半の授業では、日本語と併用しますが、後半は中国語を中心に運営します。受講者は、ミスを気にせず、より多く発言することが求められます。

授業の到達目標

中国語検定3級以上、HSK4級以上の能力を目標とします。

成績評価方法

●**試験**　40%　　トピック練習の成績
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　60%　　出席状況および授業の貢献度
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	中国語会話（中上級） B　ことばと文化を一挙両得しましょう。							
担当者名	胡　婉如							
中語	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

春学期の続きで、基礎的な事項を再確認しながら、会話を中心に授業を進める。
A、やり方
基本的には学習者が主体的に前回の授業の内容に基づいて自力で仕上げていく予定です。
①、教材を朗読して内容の理解を確認する。文型や慣用句などの説明を通して、口頭で短文を造ってもらう。
②、本文の内容に基づいて問答練習や会話発表をしてもらい、ドリルなどを通して、理解度を確認する。
③、授業中、できるだけ中国語を使う。
B、進み度合い
学生の人数やレベルにもよるが、二、三回で一課のようなペースで、授業を進める予定である。

授業の到達目標

最新中国事情の学習や会話の発表を通して、日中間の慣習や大学事情について、中国語で中国人とコミュニケーションが少しでもとれるように次の3点を目標とする。

①、内容を聞いて直ちに理解できる。
②、正確な発音および自然なリズムで言える。
③、日中間の慣習や大学事情について一般的な応答が支障なく行える。

成績評価方法

●**試験**　50%　　筆記テスト
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　確認小テスト、会話発表、出席状況
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

【受講生に対する希望】
積極的に授業に取り組んで、予習、復習を欠かさぬようにしてほしい。人数が多く、レベルが一様ではないので、一学期にとくにCDを繰り返して聞いてから教室に臨んでほしい。

選択外国語

科 目 名	中国語会話（中上級） C							
担当者名	新田　小雨子							
中語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業は色々なトピックスについて中国語で会話する能力を高めることを目的としており、この授業を履修するには、中国語の基礎文法を習得した上、ある程度の「読む・書く・話す・聞く」力も必要です。授業中設定されたトピックについて、中国語で意見を述べてもらう場合がよくあります。この授業ではスピーキングを重視します。トピックスによって使う表現も異なるので、この授業を受講することによって、物事について説明したり自分の意見を述べたりする能力をアップすることが期待されます。学期末にスピーキング能力アップの確認として、中国語によるプレゼンテーションも実施する予定です。講義中、中国語による説明や指示も多いですが、日本語によるフォローも臨機応変に行います。本講義の授業時間以外の指示、資料、音声データの共有は全てSNS（LINE）で行います。

授業の到達目標

① トピックスに応じた会話能力を高める。
② 中国語を聞く力を高める。

成績評価方法

●**試験**　50%　　期末目標言語によるプレゼンテーション
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　授業への参加度・取り組む姿勢、口頭発表など
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	中国語作文（中上級） A							
担当者名	小島　瑞紀							
中語	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

各課の本文とポイントの例文を学習したのち、練習問題をこなすことにより、さらに豊かな中国語の表現力を養う。
授業の最後にポイントの項目に則した短文を作ってもらう。
また、翌週に毎回学習ポイントに則した小テストを行い、習った内容の定着を図っていく。

授業の到達目標

作文時に犯しがちな簡単な間違いを排除するとともに、少し難しい表現のセンテンスが書けるようになることを最大の目標とする。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第15回目の授業時間時に試験を実施し、理解度の確認をする。
●**レポート**　0%　　特になし
●**平常点**　30%　　毎回の授業時に行われる小テストの合計点を30パーセントに換算する。
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

必ず家庭学習の時間を設けること。

前後期あわせて受講することが望ましい。

科 目 名	中国語作文（中上級） B ビジネス文書の作文							
担当者名	王　瑞来							
中語	2単位	秋学期	木曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中国語の勉強においては一定の基礎を築いた後に、文章作成能力の向上を目指した作文訓練が必要となる。この授業では実用性の高いビジネス文書を中心として、それらの種類やスタイルなどを紹介し、簡単な文章から複雑な文章まで、精選した文書の和訳・中訳を受講者全員が行う。これを通して作文能力を鍛える。

授業の到達目標

中国語での実用文章の翻訳能力や作文能力の向上を目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　70%　　作文の完成度
●**その他**　30%　　出席率

科 目 名	中国語プレゼンテーション（中上級） スピーチの達人になろう							
担当者名	金　佩華							
中語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中国語の文章を読んだ上で、それを手本に日本の事についてスピーチ発表の練習を繰り返します。中国語で授業を進め、分かる学生に通訳になってもらいます。学生全員が分からない時だけ教員が日本語に訳します。授業とは中国語を聞く、読む、訳す、話すことの連続です。なお、授業中時間の余裕があれば中国の話もする予定です。

授業の到達目標

中国語の表現力を高め、基本的な応用力を身に付け、日本の事に関して簡単な紹介ができるようになることです。

成績評価方法

●**試験**　40%　　最終発表は試験とします。
●**レポート**　0%　　行いません。
●**平常点**　50%　　各テーマの発表は平常点とします。
●**その他**　10%　　出席と授業態度の点数です。 欠席1回で2点減点します。5回で失格となります。 遅刻や授業に相応しくない行為がある場合は1点減点します。10点になると失格です。

備考・関連URL

本気で中国語の表現力を身につけたい学生は大歓迎です。
年間計画で授業をすすめますので、春期と秋期を合わせての受講が望ましいです。

科 目 名	中国語ヒアリング（中上級）							
担当者名	伴　俊典							
中語	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中級中国語のヒアリングを学び、上級中国語聴力学習への準備を行う授業です。
基礎的なヒアリング学習を修めた学生を対象に、音声教材を用いて中国語学習を行います。各課のテーマに沿った音声素材を使って

1　中国語音声を使った様々な実習
2　教員による音声の解説と内容理解・定着

を行います。受講生の学習進度に応じて様々な角度から中国語を扱う課題を設け、中国語音から知識を吸収する実践的なスキルを養います。

2020年度の授業では中国の社会・文化に関わるやや複雑な表現を扱いますが、受講生の要望や学習進度に応じて内容を調節し、必要に応じて副教材を作って対応します。中国語能力をさらに伸ばしたい学生、ヒアリングが苦手で克服したい学生ともに歓迎します。また希望者が過半数の場合は中検、HSK対策等の教材を使い授業を行います。

授業の到達目標

日常に使用される中国語レベルの聴覚イメージを確実に定着させる。
中検2級、HSK5級の聞き取り問題を解けるようになる。

成績評価方法

●**試験**　60%　　定着度の確認ごとに実戦形式で課題を行ってもらいます
●**レポート**　0%　　行いません
●**平常点**　40%　　出席点と授業中の質疑応答及び課題
●**その他**　0%　　行いません

備考・関連URL

初回ガイダンス時にアンケートを取り受講生のレベルや事情を確認し授業計画を調整するので、特にヒアリングで伸ばしたい点や要望のある受講希望者は初回の授業に必ず参加するようにしてください。
オンラインで教材を配布する予定ですが、パソコン操作が苦手な学生には適宜紙やCD等の教材を併用しますので心配いりません。

科 目 名	時事中国語（中上級） A 中国語でニュースを読もう！（実践編）							
担当者名	土屋 文子							
中語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

今や中華圏のみならずBBCやニューヨークタイムズなど世界中の大手メディアが"中文网"を持つ時代。中国語で切り取られる世界の様相も目まぐるしく多角化しています。当クラスでは中国の世相や最新事情が伺えるもの中心に、様々なメディアからピックアップした中文記事を読み、ネイティヴ向けに書かれた"生の"中国語文章表現に親しんでゆきます。

授業の到達目標

中国語の基礎的な文法知識と語彙のブラッシュアップ。
辞書およびネット上の資料の検索法に習熟する。
平易な論説体の文章をツールを用いて読解し、内容を的確に説明できる。

成績評価方法

●**試験** 50% 制限時間内に辞書を用いて課題文を読み訳文を作成する。
●**レポート** 0%
●**平常点** 50% 毎回のクラスにおける本文の和訳。
●**その他** 0%

備考・関連URL

教材は講師があらかじめ用意しますが、扱う題材やメディアについて受講者の希望があれば可能なかぎり取り入れます。
読解作業は調べ物に始まり調べ物に終わるといっても過言ではありません。辞書はなるべく大型のものを用意し、丹念に引く習慣を身につけて下さい。またネットなどの参考資料も大いに活用して下さい。

科 目 名	中国現代文学に親しむ（中上級） 21世紀の中国語小説							
担当者名	土屋 文子							
中語	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

近年SFやミステリの翻訳紹介により、その面白さが世界的に知られるようになってきた中国語（華文）小説。当クラスでは中国語圏で活躍する20-40代の作家の作品を数編取り上げ、読解を通じてその感性に触れ、また現代中国語の表現および解釈法について理解を深めてゆきます。
春学期の中級クラスに比べてやや長めの作品にも挑戦する予定。

授業の到達目標

中国語の基礎的な文法知識と語彙のブラッシュアップ。
辞書およびネット上の資料の検索法に習熟する。
平易な文学作品をツールを用いて読解し、内容を的確に説明できる。

成績評価方法

●**試験** 50% 制限時間内に辞書を用いて課題文を読み訳文を作成する。
●**レポート** 0% 授業で扱った教材すべての訳文を作成し学期末に提出。（通常の成績評価としては実施しません）
●**平常点** 50% 毎回の授業における本文の和訳。
●**その他** 0% 特になし。

備考・関連URL

読解作業は調べ物に始まり調べ物に終わるといっても過言ではありません。辞書はなるべく大型のものを用意し、丹念に引く習慣を身につけて下さい。またネットなどの参考資料も大いに活用して下さい。
取り上げる課題文は講師が適宜選びますが、受講者の希望も可能な限り考慮します。
春・秋両学期をあわせて受講することを勧めます。

科 目 名	映画で学ぶ中国語（中上級） A 映画『窈窕紳士』で学ぶ中国語							
担当者名	山本 律							
中語	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本授業は、中国語初級レベルを終了した学生を対象とします。本授業は、映画を教材に、中国語のレベルアップをはかり、また中国文化への理解を深めていきます。

授業の到達目標

初級で学んだ中国語の定着とその活用力の強化を目指します。

成績評価方法

●**試験** 30% 授業の理解度の確認
●**レポート** 0% なし
●**平常点** 70% 出席、宿題の提出、授業態度
●**その他** 0% なし

備考・関連URL

学習者の進度に合わせレベルを上げていきます。春期秋期合わせて受講することをすすめます。

科 目 名	映画で学ぶ中国語（中上級） B 中国語映画の世界を味わう							
担当者名	段 文凝							
中語	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本授業は中国映画（第5世代～最新作の中から2本程度）のシーンやセリフを中心に、俳優のインタビューなども交えながら中国語のレベルアップと、背景にある中国の文化や風習、流行などについての理解も深めていきます。

授業の到達目標

●映画に出て来る中上級レベルの口語フレーズを聞き取り、自らも使える。
●中国映画についての自分の意見を、中国語で述べることができる。
●中国語だけでなく、中国の文化や風習、流行への理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　30%　　授業で学んだフレーズ、授業の内容の定着度を測ります。
●**レポート**　40%　　毎回の授業のミニレポート提出で出席をカウントします。しっかりと自分の意見や所見があるかどうかがポイントです。
●**平常点**　30%　　出席状況、ディスカッションへの貢献度を測ります。
●**その他**　0%

科 目 名	オンデマンド中国語（上級）2　中国で、いま							
担当者名	楊　達							
中語	2単位	秋学期	金曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

テレビのニュースの聞き取りや新聞記事の読解を通して、より実用的な語彙を学習して、会話能力を養う。最終的にはより高いレベルの中国語をマスターすることを目指す。 CCTV（中央電視台）のニュースなどを聞き取りながら、今の中国の変化を見ていきます。

授業の到達目標

中国語で自分の意見を述べたり、文章にまとめたりすることができるようにする。

成績評価方法

●**試験**　60%
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%
●**その他**　0%

科 目 名	中国語ヒアリング（上級）2							
担当者名	南　勇							
中語	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

今までマスターした中国語文法知識を活用して、より高い次元で中国語聴力の実力をレベルアップします。そのため、さまざまなジャンルの音声(映像)を素材に、聞く・話す・読む・書くなど多様な練習を通じて、聴覚イメージを総合的に形成します。特に、ネイティブスピーカーの発話で「耳」を刺激し、単語・文法・表現などの知識を内面化します。

授業の到達目標

中国語のテレビ番組、映画、演説などを聞き取ること、また自分の言いたいことを伝えるようにする。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　30%　　授業参与の積極性を評価します。また、様々な課題の完成度も評価のポイントにします。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

履修する学生の実際レベルに合わせて授業内容と方法を調整することがある。

科 目 名	中国語作文（上級）2 ―― 中国語で作文を書いてみましょう ――							
担当者名	孫　国震							
中語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中国語の基礎文法を覚え、基礎的な作文力を身に付けた学習者を対象に、複文、複複文と文章の作成を主に練習します。
中国の作文集を輪読し、吸収できるものを吸収して、自分の作文に応用して、作文力を向上します。
中国人の書いた作文の読解　→　複文・複複文の作文練習　→　テーマ作文の提出と発表　という順で進みます。

授業の到達目標

自分で見聞したこと、経験したこと、考えたことを、文字で表現できるように指導します。且つHSK5級、HSK6級の作文力を目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　普段作成した作文の提出をもとに評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	中国語翻訳2　中文翻訳の技法　レベル4							
担当者名	土屋　文子							
中語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

1年以上の学習歴を持ち、基礎的な読解力を身につけた上で、中日翻訳の具体的な技法を学びたい方を対象とするクラスです。
小説・散文などさまざまなジャンルの文章を題材に、演習方式で読解と翻訳の訓練を行います。

授業の到達目標
単なる読解手法としての中文和訳を脱し、文意の正確な伝達と日本語として違和感のない表現の両立について、自分なりの方法論あるいはその端緒を見いだすこと。

成績評価方法
平常点　60%（授業参加・課題提出）
レポート　40%（訳文の完成度）

備考・関連URL
初回の教材は講師があらかじめ用意しますが、2つ目以降については受講者の希望があれば可能なかぎり取り入れます。
日中主要コーパス（語料庫）：ある語彙が実際の文中でどのように使われているかを概観するのに役立つデータ集。
少納言（現代日本語書き言葉均衡コーパス）
http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/
北大语料库（北京大学中国语言学研究中心）
http://ccl.pku.edu.cn/corpus.asp
北京语言大学现代汉语语料库（汉语国际教育技术研发中心）
http://bcc.blcu.edu.cn/
现代汉语词汇历时检索系统
http://nlp.blcu.edu.cn/others/historical%20computing/
現代漢語平衡語料庫（中央研究院）
http://app.sinica.edu.tw/kiwi/mkiwi/

科目名	中国語字幕翻訳2　中国語映画のセリフを翻訳する							
担当者名	樋口　裕子							
中語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
配布されたスクリプトを日本語訳し、
一部を字数制限に合わせた日本語字幕に作る。
予習は必須です。

授業の到達目標
登場人物に合ったこなれた日本語に訳す。
各地の方言から中国語の多様性に触れ、
中国の歴史や社会の背景を理解する。

成績評価方法
授業に臨む態度と翻訳の課題提出で総合評価します。

科目名	中国語検定をめざす（中級）　A　——3級の文法を中心に——							
担当者名	李　洵							
中語	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
中国語検定試験3級の合格を目指します。
授業は演習の形で進め、文法を解説しつつ過去問題を解いていきます。

授業の到達目標
中検3級筆記の合格。

成績評価方法
●**試験**　90%　　期末試験
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　10%　　普段の小テスト
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL
欠席5回以上は、不合格とする。

科目名	中国語検定をめざす（中級）　B　——3級のリスニングを中心に——							
担当者名	陳　愛玲							
中語	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要
中国語検定試験3級の合格を目指します。
授業はテーマ別に進み、ポイントなどを確認しながら実際の過去問題を解いていきます。

授業の到達目標
中検3級リスニングの合格。

成績評価方法
●**試験**　40%　　学習の到達度
●**レポート**　20%　　学習態度と意欲
●**平常点**　40%　　出席状況・小テストの結果・学習意欲など
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	HSKをめざす（中級） A ——HSKのリスニングを中心に——							
担当者名	陳　愛玲							
中語	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

HSK4級リスニングの合格を目指します。
授業は毎回まず単語・常用表現などを確認した上でリスニングの実践練習を行い、更にいろいろな演習を取り入れリスニング力を強化していく。

授業の到達目標

HSK4級リスニングの合格。

成績評価方法

●**試験**　40%　　学習の到達度
●**レポート**　20%　　学習態度と意欲
●**平常点**　40%　　出席状況・小テストの結果・学習意欲など
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	HSKをめざす（中級） B							
担当者名	南　勇							
中語	2単位	春学期	月曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中国語文法を知識としてでなく、HSKの対策・攻略としてを再整理し、全体像の「文法地図」を作成する。そしてHSKの出題者の視点から、それぞれの文法ポイントはどのように出題されるか、その出題傾向と常套手法を解明することで、解答のテクニックを磨き、正解率をアップする。

授業の到達目標

中国語文法の理解を深め、HSK4～5級の合格を目指す。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行う。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　30%　　授業参与の積極性を評価する。また、様々な課題の完成度も評価のポイントにする。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

履修する学生の実際レベルに合わせて授業内容と方法を調整することがある。

科 目 名	中国語検定をめざす（中上級） A ——2級の文法を中心に——							
担当者名	李　洵							
中語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中国語検定試験2級の合格を目指します。
授業は演習の形で進め、文法を解説しつつ過去問題を解いていきます。

授業の到達目標

中検2級レベルの文法力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　90%　　期末試験
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　10%　　普段の小テスト
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

欠席5回以上は、不合格とする。

科 目 名	中国語検定をめざす（中上級） B ——2級のリスニングを中心に——							
担当者名	陳　愛玲							
中語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

中国語検定試験2級の合格を目指します。
授業はテーマ別に進み、ポイントなどを確認しながら実際の過去問題を解いていきます。

授業の到達目標

中検2級リスニングの合格。

成績評価方法

●**試験**　40%　　学習の到達度
●**レポート**　20%　　学習態度と意欲
●**平常点**　40%　　出席状況・小テストの結果・学習意欲など
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	HSKをめざす（中上級） A ——HSKのリスニングを中心に——							
担当者名	陳　愛玲							
中語	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

HSK5級リスニングの合格を目指します。

授業は毎回まず単語・常用表現などを確認した上でリスニングの実践練習を行い、更にいろいろな演習を取り入れリスニング力を強化していく。

授業の到達目標

HSK5級リスニングの合格。

成績評価方法

●**試験**　40%　　学習の到達度
●**レポート**　20%　　学習態度と意欲
●**平常点**　40%　　出席状況・小テストの結果・学習意欲など
●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	HSKをめざす（中上級） B							
担当者名	南　勇							
中語	2単位	秋学期	月曜日	1時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

まずHSK対策・攻略の視点から中国語文法体系を再構築する。そして出題者の立場に立って、「この文法ならどう出題するだろう」と問いかけ、正解のテクニックを身につける。「単語コース」「文法コース」「出題形式コース」この三つのアプローチで攻略する。

授業の到達目標

中国語文法の理解を深め、HSK5～6級の合格を目指す。

成績評価方法

●**試験**　70%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　30%　　授業への積極性を評価します。また、様々な課題の完成度も評価のポイントにします。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

履修する学生の実際レベルに合わせて授業内容と方法を調整することがある。

科 目 名	スペイン語上級（運用力アップ）1							
担当者名	プラナス　ナバロ　イネス							
西語	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業の目的は、できるだけ流暢なスペイン語会話能力を身につけることにある。授業の方法としては、日常的によく使われる会話表現の練習と、テーマを決めて、そのテーマについての口頭表現の練習、およびその基本となる作文の練習で進行する。

授業の到達目標

日常的な会話能力の獲得にとどまらず、様々な分野のニュースや社会における出来事について正確に聞き取り、またそれを正しいスペイン語で書く能力も身につける。さらにはそれらのテーマについてスペイン語で討論することのできるレベルを目指す。

成績評価方法

●**試験**　70%　　オーラル試験　30%　ペーパー試験　40%
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　授業への参加、宿題の達成度
●**その他**　0%

科 目 名	スペイン語上級（運用力アップ）2							
担当者名	プラナス　ナバロ　イネス							
西語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業の目的は、できるだけ流暢なスペイン語会話能力を身につけることにある。授業の方法としては、日常的によく使われる会話表現の練習と、テーマを決めて、そのテーマについての口頭表現の練習、およびその基本となる作文の練習で進行する。

授業の到達目標

日常的な会話能力の獲得にとどまらず、様々な分野のニュースや社会における出来事について正確に聞き取り、またそれを正しいスペイン語で書く能力も身につける。さらにはそれらのテーマについてスペイン語で討論することのできるレベルを目指す。

成績評価方法

●**試験**　70%　　オーラル試験　30%　ペーパー試験　40%
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　授業への参加、宿題の達成度
●**その他**　0%

科 目 名	スペイン語中上級（作文力をつける）1　スペイン語での発信力を高める！							
担当者名	四宮　瑞枝							
西語	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

基本的な作文力を充実させ、スペイン語による「発信力」「伝える力」の基礎固めをすることを目的とするクラスです。パターン化した文の暗記や逐語訳ではなく、状況を感じ取って簡潔に伝えるストラテジーについても学びます。以下の活動を適宜組み合わせて、授業を進めていきます。

1.基本作文:文法力を高める。（実際に文を作る際に間違い易いことや迷うことに焦点を当て、基礎文法の確認をしながら作文力の底固めをする。）

2.メール文：表現力・コミュニケーション力を高める。（日常的にやり取りされるテーマでメール文を作る。相手を気遣う書き方、状況に応じた表現を考える。）

3.DELE（外国語としてのスペイン語認定試験）のA2～B1に準拠した練習問題：語彙力・表現力を高める。

4.社会生活の身近な話題を扱った短い教材：意見交換の材料として論点をつかみ、自分の考えや経験を簡潔に伝える力を養う。

授業の到達目標

1. 基本的な文法を理解して、目的に合ったメール文を書ける。

2. 身近な社会生活に関するテーマであれば、相手の話に反応したり、自分の意見や考えを簡潔に伝えたりして、話を展開できる。

3. DELE　A2～B1レベルの語彙力・表現力を身に着ける。

成績評価方法

●**試験**　20%　「テーマを選んでメールを書く」「提示されたメールに返事を書く」という小テストを行う。

●**レポート**　20%　授業で扱った意見交換のテーマから特に関心を持ったテーマについて、スペイン語で意見をまとめたものを提出する。

●**平常点**　60%　出席率、課題の達成度、自らの意見・関心・疑問を積極的に表現する態度を総合的に判断します。

●**その他**　0%　該当しません。

備考・関連URL

中級の選択スペイン語を履修した人を対象とするクラスですが、基礎スペイン語を終えただけでも、やる気があれば歓迎します。

クラスでは積極的に発言して、互いに学べる貴重な場を有効に使いましょう。

教室での活動を効果的なものにするために、作文や教材など毎回の授業準備はきちんと行ってください。

科 目 名	スペイン語中上級（作文力をつける）2　スペイン語での発信力を高める!							
担当者名	四宮　瑞枝							
西語	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

作文力を充実させ、スペイン語による「発信力」「伝える力」を鍛えることを目的とするクラスです。パターン化した文の暗記ではなく、状況に応じた表現の違い、相手を気遣う応答など、春学期に引き続いて色々な話題のメール文を材料として考えるとともに、明快に伝えるストラテジーについても学びます。

授業は以下の活動を適宜組み合わせて、適宜調整しながら進めます。

1.基本作文：文法力を高める。（実際に文を作る際に間違い易いことに焦点を当て、基礎文法の確認をしながら作文力を高める。）

2.メール文2：表現力、コミュニケーション力を高める。（日常的にやり取りされるテーマでメール文を作る。訳文ではない適切な表現に置き換える視点を養う。）

3.DELE（外国語としてのスペイン語認定試験）B1～B2に準拠した練習問題：語彙力・表現力を高める。

4.社会生活の色々な話題に関する短い教材を：意見交換の材料として論点をつかみ、自分の考えや経験を簡潔に伝える力を養う。

授業の到達目標

1.社会生活の身近なテーマであれば、目的に合ったメールを書ける。

2.話題を提供する、相手の話に反応する、自分の意見や考えを簡潔に伝えるなど、その場に相応しいコミュニケーション・ストラテジーを使える。

3. DELEのB1レベルの語彙力・表現力を身に着け、必要に応じて使える。

成績評価方法

●**試験**　20%　文章構成力・語彙力・表現力の習得度を確認する小テストを行います。

●**レポート**　20%　授業で扱った意見交換のためのテーマから一つを選び、スペイン語で意見を簡潔にまとめて提出してもらいます。

●**平常点**　60%　出席率、課題の達成度、自らの意見・関心・疑問を積極的に表現する態度を総合的に判断します。

●**その他**　0%　行いません。

備考・関連URL

クラスでは積極的に発言して、考え方・感じ方をシェアして学べる貴重な場を有効に使いましょう。

教室での活動を効果的なものにするために、作文や教材など毎回の授業準備はきちんと行ってください。

中級の選択スペイン語を履修した人を対象とするクラスですが、基礎スペイン語を終えただけでも、やる気があれば歓迎します。

科 目 名	スペイン語上級（近現代史を知る）1　歴史的背景を知って、スペインの現代社会事情を読み解く							
担当者名	四宮　瑞枝							
西語	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代スペインを理解するためには、その歴史的背景を知ることはとても重要なことです。スペインの近現代の出来事や社会事情の変化に関する様々な記事を読み、スペインおよびヨーロッパ社会に対する理解を深めながら、スペイン語力、特に読解力のアップを図ります。日本の近現代の出来事や社会事情と対比するなどして、批判的に読み解く能力を高めることも目指します。

授業活動としては、記事の内容確認を全体で行った後、チェックシートを使って理解の確認をする、キーセンテンスを探す、異なる語や表現を使って内容を言い換えるなどしてスペイン語力を高めます。また、関連する補足資料（映画などの映像資料、新聞やネットの記事など）を紹介して背景的知識を補い、興味を持ったこと・疑問に思ったことについて意見を交換します。

履修者の希望や状況に応じて、扱うテーマを調整したり、スペイン語での意見交換を円滑にするために語彙や文法の補足学習を適宜取り入れたりしていきます。

授業の到達目標

1. 歴史的背景を踏まえて、スペインの現代社会事情の概略を理解する。
2. 辞書を使えば、ある程度まとまった内容のスペイン語の資料について、概要を把握し、キーワード・キーセンテンスを認識できる。
3. 既存の知識や自文化の状況を踏まえ、情報を多角的にとらえ、批判的に読み解く態度を身に付ける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行いません。
●**レポート**　40%　　1. 授業を振り返って関心のあるテーマを選び、概要をまとめる課題を出します。 2. 授業で自分が関心を持ったことについて補足情報を調べ、簡単な報告をします。
●**平常点**　60%　　出席率、授業参加度（自らの疑問・意見・関心を積極的に発言する態度）、授業の準備などを総合的に判断します。
●**その他**　0%　　ありません。

備考・関連URL

幅広く色々なテーマを扱っていくので、各テーマに関心を向けて世界を広げる一方、自分が深めたいと思うテーマに巡りあうきっかけになればと思っています。身近な問題と比べるなどして積極的に発言する態度を歓迎します。教室での活動を効果的なものにするために、教材の予習などはきちんと行ってください。

選択外国語

科 目 名	スペイン語上級（近現代史を知る）2　ラテンアメリカ諸国の社会文化事情を読み解く							
担当者名	四宮　瑞枝							
西語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

ラテンアメリカ諸国の近現代の歴史的出来事や社会事情に関する様々な記事を読み、ラテンアメリカ諸国に対する理解を深めながら、スペイン語力、特に読解力のアップを図ります。日本の近現代の出来事や社会事情と対比するなどして、批判的に読み解く能力を高めることも目指します。

授業の活動としては、記事の内容確認を全体で行った後、チェックシートを使ってやりとりしたり、キーセンテンスを探したり、異なる表現を使って内容を言い換えたりして、スペイン語力を高めます。また、関連する補足資料（映画などの映像資料、新聞やネットの記事など）を紹介して背景的知識を補い、興味を持ったこと・疑問に思ったことについて意見を交換します。

履修者の希望や状況に応じて、扱うテーマを調整したり、スペイン語での意見交換を円滑にするために、語彙力や文法力を高める補足学習を適宜取り入れていきます。

授業の到達目標

1. 歴史的背景を踏まえて、ラテンアメリカ諸国の社会文化事情を理解し、興味を持つ。
2. 辞書を使えば、ある程度まとまった内容のスペイン語の資料について、概要を把握し、キーセンテンスを認識できる。
3. 既存の知識や自文化の状況を踏まえ、情報を多角的にとらえ、批判的に読み解く態度を身に付ける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しません。
●**レポート**　40%　　1. 授業を振り返り、関心のあるテーマを選んで概要をまとめる課題を出します。 2. 授業で関心を持ったことについて補足情報を調べ、簡単な報告をします。
●**平常点**　60%　　出席率、授業参加度（自らの疑問・意見・関心を積極的に表現する態度）、授業の準備などを総合的に判断します。
●**その他**　0%　　ありません。

備考・関連URL

色々な国のテーマを扱っていくので、各国の事情に関心を向けて世界を広げる一方、自分が深めたいと思うテーマに巡りあうきっかけになればと思っています。身近な問題と比べるなどして積極的に発言する態度を歓迎します。教室での活動を効果的なものにするために、教材の予習はきちんと行ってください。

科 目 名	スペイン語中級（コミュニケーション活動）1							
担当者名	プラナス　ナバロ　イネス							
西語	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

スペイン語圏の人々に自分の意思を伝え、また相手の意思を正確に理解するコミュニケーション能力の獲得を目指します。

教科書およびDVD教材からその日のテーマや重要表現を提示し、その課題について教師と生徒、また生徒同士での口頭実践練習を中心に授業をすすめます。

言語の背景にある文化や習慣、伝統、人生観などを理解することも大切であり、そのためのショートビデオを随時紹介します。

授業の到達目標

スペイン語圏の人々とスペイン語で日常的な話題についてコミュニケーションがとれるレベルを目指します。円滑なスペイン語でなくとも通じるスペイン語、実生活に役立つスペイン語能力を身につけることを目標にします。

成績評価方法

- **試験** 70%　授業内試験（2〜3回）の平均点
- **レポート** 0%
- **平常点** 30%　授業への参加度と宿題提出度
- **その他** 0%

備考・関連URL

中級（コミュニケーション活動）1Aとは同一科目なので重複履修はできません。

科目名	スペイン語中級（コミュニケーション活動）2							
担当者名	プラナス　ナバロ　イネス							
西語	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

スペイン語圏の人々に自分の意思を伝え、また相手の意思を正確に理解するコミュニケーション能力の獲得を目指します。

教科書およびDVD教材からその日のテーマや重要表現を提示し、その課題について教師と生徒、また生徒同士での口頭実践練習を中心に授業をすすめます。

言語の背景にある文化や習慣、伝統、人生観などを理解することも大切であり、そのためのショートビデオを随時紹介します。

授業の到達目標

スペイン語圏の人々とスペイン語で日常的な話題についてコミュニケーションがとれるレベルを目指します。円滑なスペイン語でなくとも通じるスペイン語、実生活に役立つスペイン語能力を身につけることを目標にします。

成績評価方法

- **試験** 70%　授業内試験（2〜3回）の平均点
- **レポート** 0%
- **平常点** 30%　授業への参加度と宿題提出度
- **その他** 0%

備考・関連URL

中級（コミュニケーション活動）2Aとは同一科目なので重複履修はできません。

科目名	初級スペイン語1　スペイン語の基礎力をつけ、スペイン語圏社会への扉を開く							
担当者名	四宮　瑞枝							
西語	2単位	春学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

初めてスペイン語を学ぶ人を対象としています。週一度の授業でスペイン語文法の基礎（直説法現在まで）を学ぶので、通常のクラスよりも速度は若干速めです。

4技能（話す、聞く、読む、書く）を通じて使えるように、色々な活動を組み合わせて授業を進めますが、スペイン語圏の社会事情にも触れて、視野を広げる楽しさを体感してもらえればと思います。

授業の到達目標

1. スペイン語初級文法（直説法現在まで）を理解する。
2. 日常の生活でよく使われる基本語彙や表現を身に付ける。
3. 身近なテーマであればスペイン語で簡単なやりとりができる。
4. スペイン語圏の社会事情に関心を持ち、視野を広げる。

成績評価方法

- **試験** 50%　学期末試験を実施します。
- **レポート** 0%　実施の予定はありません。
- **平常点** 50%　随時行う小テスト、出席、授業参加度、宿題の達成度などを総合的に判断します。
- **その他** 0%　実施の予定はありません。

備考・関連URL

週1回だけの授業で進める速習クラスなので、少し大変かもしれませんが、「多言語を学んで自分の世界・可能性を広げたい」、「スペイン語圏に関心がある」など、意欲ある皆さんと、時間を有効に使って、目標レベルまで到達出来ればと思います。そのためには、事前·事後の学習をしっかり頑張りましょう。「基礎スペイン語」を履修中あるいは履修した人は内容が重複するので、履修は薦められません。

科目名	初級スペイン語2　スペイン語の基礎をもっと学んで、スペイン語圏社会への扉を開こう！							
担当者名	四宮　瑞枝							
西語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

「初級スペイン語1」もしくは「基礎スペイン語（Step1）」を履修した人を対象としています。週一度の授業でスペイン語文法の基礎(直説法過去まで）を学ぶので、通常のクラスよりもスピードは速めです。4技能（話す、聞く、読む、書く）を通じて使えるように色々な活動を組み合わせて授業を進めますが、広大なスペイン語圏の変化に富んだ社会文化事情にも触れて、視野を広げる楽しさを体感していきます。

授業の到達目標

1. スペイン語の基礎文法の全体像を理解する。
2. 日常生活でよく使われる基本語彙や表現を身に着ける。
3. 身近なテーマであればスペイン語で簡単なやりとりができる。
4. スペイン語圏の社会事情に関心を持ち、視野を広げる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　学期末試験を実施します。
●**レポート**　0%　　実施の予定はありません。
●**平常点**　50%　　各課終了毎に行う確認の小テスト、出席、授業参加度、宿題の達成度などを総合的に判断します。
●**その他**　0%　　実施の予定はありません。

備考・関連URL

週1回だけで進める速習クラスなので、少し大変かもしれませんが、多言語を学んで自分の世界・可能性を広げたい、スペイン語圏に関心があるなど、意欲ある皆さんと、時間を有効に使って、目標レベルへ到達出来ればと思います。そのためには、事前・事後の学習をしっかり頑張りましょう。「基礎スペイン語（Step2）」を履修中、もしくは履修した者は内容が重複するので、履修は薦められません。

科目名	スペイン語中級（文法・実践）1　A							
担当者名	中島　さやか							
西語	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「基礎スペイン語」「初級スペイン語」を終えた学習者を対象に、1年次に学習した基本的な文法を復習しながら「聞く・読む・書く・話す」の4技能の運用力を高める演習をします。この授業では特に、日本人が不得意な傾向にある聴く力と語彙・表現力アップを重視します。

課題や試験範囲などの指定・説明は日本語で行いますが、授業は平易なスペイン語を使って行い、スペイン語でスペイン語を理解する訓練を行います。

授業の到達目標

表現の幅を増やしながら1年次に学習した基礎文法を、特に目的人称代名詞、線過去・点過去、命令法など習得しにくいポイントを中心に復習し、場面に適切なアウトプットを行えるようになることを目指します。

また、映像の聞き取りを通じて実際の言語活動に日本語の逐語訳に頼らないで接し、文脈の中でスペイン語を理解しながら使える表現を獲得していく学習態度を身に付けることも目標としています。

成績評価方法

●**試験**　50%　　習熟度テスト 50%
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　小テスト・授業参加・課題
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業ではPCを使います。スペイン語入力を学習し、文法や語彙の復習を授業外に自動採点で行えるようにすることで、教室での活動の効率をあげることを目指します。指定された範囲の授業準備及び復習は必ず行ってきてください。中級（文法・実践）1Bとは同一科目になるので重複履修はできません。

科目名	スペイン語中級（文法・実践）1　B　未習文法の修得とスペイン語のレベルアップ							
担当者名	宮内　ふじ乃							
西語	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「基礎スペイン語」「初級スペイン語」を終えた学習者を対象に、多くのタスクや語彙を含む教科書に沿って授業を進めます。講義前半は基礎文法の復習および接続法の定着を図る学習活動を取り入れ、それをさらに発展させて語彙力と応用力をつけることを目指します。

文法・作文・講読を中心に、スペイン語圏の文化・歴史・自然についての理解を深めると同時に、スペイン語の検定試験に対応する練習問題なども取り入れて、スペイン語力の総体的アップを図ります。

授業の到達目標

1．接続法・条件文とその複雑な構造の文の読解ができ、書けるようになる。
2．スペイン語を使って身近なテーマや関心のあるテーマについての情報を取ることができる。
3．スペイン語検定の合格を目指す。（DELE A2レベル、西語検定3-4級）

成績評価方法

試験　50%　　理解度の確認
平常点評価　50%　小テスト、出席、授業参加度、課題達成度を総合的に判断する。

備考・関連URL

授業の進行は学生の習熟度にもよるので、必ずしもこの通りに進むわけではありません。中級（文法・実践）1Aとは同一科目になるので重複履修はできません。

科目名	スペイン語中級（社会文化事情を知る）1　A　読んで観て聴いて、ラテンアメリカ諸国について学ぼう							
担当者名	杉守　慶太							
西語	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業は「基礎スペイン語」「初級スペイン語」を終えた学習者を対象にしています。既習のスペイン語の基礎文法事項の定着をはかるとともに、それを応用した読解力・リスニング力を養うことを目的にしています。また、読解力・リスニング力が身につくだけではなく、スペイン語圏（特にラテンアメリカ諸国）の社会文化事情についての理解を深めることができます。授業では、スペイン、ラテンアメリカ諸国に関する映像教材（映画・ドキュメンタリー番組、音楽など）を毎回使用する予定です。

スペイン語力に自信がない人でも十分についていける授業です。スペイン語圏の社会文化事情に少しでも興味がある人は大歓迎です。スペイン語の読解力、リスニング力を少しずつ養っていきましょう。！

授業の到達目標

1．テキストの内容を正しく理解し、読めるようにする。

2. スペイン語圏（特にラテンアメリカ諸国）の社会文化事情について知る。
3. スペイン語の多様性を知る。

成績評価方法

●**試験** 50%　期末試験
●**レポート** 0%　なし
●**平常点** 50%　予習、提出物、授業態度などを総合的に評価する。
●**その他** 0%　なし

備考・関連URL

第1回「イントロダクション」にて授業を受ける上での注意事項を詳しく説明しますので、必ず出席すること。
授業の進行は学生の習熟度によって変更することがあります。
中級(社会文化事情を知る）1Bとは同一科目になるので、重複履修はできません。

科目名	スペイン語中級（社会文化事情を知る）1　B							
担当者名	アイトモレーノ　イサーク							
西語	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、1年スペイン語または初級スペイン語で学習済みの文法や語彙を実践的に用いながら、スペイン語圏の文化や社会を学びます。歴史、美術、政治、音楽、料理などさまざまなテーマについてのテキスト、ニュースやビデオを用います。学んだ語彙や内容を使って、皆さんの興味あるテーマについて、簡単なプレゼンテーションにも挑戦してみましょう。

授業の到達目標

スペイン語を使ってスペイン語圏の文化や社会についての最新の情報を学び、発信して、スペイン語のコミュニケーション能力を伸ばすことを目指します。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 0%
●**平常点** 30%　授業への積極的な参加
●**その他** 70%　35% 短いプレゼンテーション （4回） ＋ 35%復習チェック （2回）

備考・関連URL

授業に毎回、西和辞書、和西辞書（電子辞書が便利）が必要です。

科目名	スペイン語中級（文法・実践）2　A							
担当者名	中島　さやか							
西語	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

前期に引き続き、「基礎スペイン語」「初級スペイン語」を終えた学習者を対象に、1年次に学習した基本的な文法を復習しながら「聞く・読む・書く・話す」の4技能の運用力を高める演習をします。この授業では特に、日本人が不得意な傾向にある聴く力と語彙・表現力アップを重視します。

課題や試験範囲などの指定・説明は日本語で行いますが、授業は平易なスペイン語を使って行い、スペイン語でスペイン語を理解する訓練を行います。

授業の到達目標

表現の幅を増やしながら1年次に学習した基礎文法を、特に接続法現在・過去、未来・過去未来、間接話法、関係詞などを中心に復習し、場面に適切なアウトプットを行えるようになることを目指します。

また、映像の聞き取りを通じて実際の言語活動に日本語の逐語訳に頼らずに接し、文脈の中でスペイン語を理解しながら使える表現を獲得していく学習態度を身に付けることも目標としています。

成績評価方法

●**試験** 50%　習熟度テスト50%
●**レポート** 0%
●**平常点** 50%　小テスト・課題・提出物など
●**その他** 0%

備考・関連URL

授業ではPCを使います。スペイン語入力を学習し、文法や語彙の復習を授業外に自動採点で行えるようにすることで、教室での活動の効率をあげることを目指します。指定された範囲の授業準備及び復習は必ず行ってきてください。 中級（文法･実践）2Bとは同一科目になるので重複履修はできません。

科目名	スペイン語中級（文法・実践）2　B　スペイン語で小説を読む							
担当者名	宮内　ふじ乃							
西語	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「基礎スペイン語」および「中級スペイン語」を終えた学生を対象に、スペインの短編小説と映画を通して、スペイン語の読解力や表現力を高めることを目標とします。これまでに習得した基本的な文法知識を使って、文法の用例や文法理解のために書かれた文章とは異なるスペイン語に挑戦します。スペイン語の文字テキストを「読む」（音読と読解）ことによって、スペインの人・社会・歴史についての理解や興味を深めることも目指します。ネイティヴが親しんできた小説を、自分も読めるのだということを実感し、自らのスペイン語力に自信が持てるようになってもらうのも本講義の狙いのひとつです。

授業の到達目標

1. スペイン語で小説が読めるようになる。
2. 文学作品を通して、スペインの社会や歴史の理解を深める。
3. 映画の中で話されている日常的なスペイン語を聞き取り、使えるようになる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　理解度の確認
●**レポート**　10%　　課題提出（1回）
●**平常点**　30%　　出席、予習復習、課題達成度を総合的に判断します
●**その他**　10%　　音読や発音

備考・関連URL

進度などは学生の理解度に合わせ、ある程度の柔軟性を持たせて進む場合があります。中級（文法・実践）2Aとは同一科目になるので重複履修はできません。

科目名	スペイン語中級（社会文化事情を知る）2　A　読んで観て聴いて、さらにラテンアメリカについて知ろう。							
担当者名	杉守　慶太							
西語	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業は「基礎スペイン語」、「中級スペイン語」を終えた学習者を対象にしています。既習の文法事項を確認しながら、読解力・リスニング力をさらに養うことを目的にしています。スペイン語の新聞・雑誌記事を読めるようになることを目指します。また、様々な内容を扱ったテキストの読解を通じて、「読む」力が身につくだけではなく、スペイン語圏（特にラテンアメリカ）の社会文化事情についての理解を深めることができます。授業では、スペイン、ラテンアメリカ諸国に関する映像教材（映画・ドキュメンタリー番組、音楽など）を毎回使用する予定です。

スペイン語力に自信がない人でも十分についていける授業です。スペイン語圏の社会文化事情に少しでも興味がある人は大歓迎です。スペイン語の読解力、リスニング力を少しずつ養っていきましょう。

授業の到達目標

1. スペイン語で新聞・雑誌の記事、論文を読めるようになる。
2. スペイン語圏（特にラテンアメリカ諸国）の社会文化について知る。
3. スペイン語の多様性を知る。

成績評価方法

●**試験**　50%　　期末試験
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　50%　　予習、提出物、授業態度などを総合的に評価する。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

第1回「イントロダクション」にて授業を受ける上での注意事項を詳しく説明しますので、必ず出席すること。
授業の進行は学生の習熟度によって変更することがあります。履修者の希望をできるだけ取り入れて進めていく予定です。
中級（社会文化事情を知る）2Bとは同一科目になるので、重複履修はできません。

科目名	スペイン語中級（社会文化事情を知る）2　B							
担当者名	アイトモレーノ　イサーク							
西語	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、1年スペイン語または初級スペイン語で学習済みの文法や語彙を実践的に用いながら、スペイン語圏の文化や社会を学びます。歴史、美術、政治、音楽、料理などさまざまなテーマについてのテキスト、ニュースやビデオを用います。学んだ語彙や内容を使って、皆さんの興味あるテーマについて、簡単なプレゼンテーションにも挑戦してみましょう。

授業の到達目標

スペイン語を使ってスペイン語圏の文化や社会についての最新の情報を学び、発信して、スペイン語のコミュニケーション能力を伸ばすことを目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　授業への積極的な参加
●**その他**　70%　　35% 短いプレゼンテーション （4回） ＋ 35%復習チェック （2回）

科目名	スペイン語中級（コミュニケーション力アップ）　Clase de interacción por medio de juegos de rol							
担当者名	アラストゥルエイ　メリノ　ハビエル　サンティアゴ							
西語	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

Esta es una clase de interacción total entre los estudiantes, con ayuda del profesor. El medio que utilizamos para crear la interacción es un juego de rol: la clase (profesor y estudiantes) colabora para contar juntos una historia en la que cada capítulo es una sesión (una clase). El profesor ayuda a crear la narrativa, y los estudiantes controlan las acciones y palabras de los personajes principales en la historia.

（教員の助けを借りて、履修者自身がコミュニケーション活動を主体的に行うクラスです。ストーリー作りなどの共同作業を通じてスペイン語力を鍛えていきます。各回のテーマと学習語彙は効果的学習につながるように配列にしています。）

授業の到達目標

El proceso del juego de rol está diseñado para que los estudiantes tengan que interaccionar con sus compañeros y utilizar nuevo vocabulario. Cada uno de los capítulos está centrado en un grupo léxico.

成績評価方法

La nota de la clase se divide en dos partes: 70% para la interacción a lo largo del curso y 30% para el examen final, en el que se resumen los contenidos vistos a lo largo del curso.

科 目 名	スペイン語中上級（コミュニケーションカアップ） Clase de interacción por medio de juegos de rol							
担当者名	アラストゥルエイ　メリノ　ハビエル　サンティアゴ							
西語	２単位	秋学期	金曜日	３時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

Esta es una clase de interacción total entre los estudiantes, con ayuda del profesor. El medio que utilizamos para crear la interacción es un juego de rol: la clase (profesor y estudiantes) colabora para contar juntos una historia en la que cada capítulo es una sesión (una clase). El profesor ayuda a crear la narrativa, y los estudiantes controlan las acciones y palabras de los personajes principales en la historia.

（教員の助けを借りて、履修者自身がコミュニケーション活動を主体的に行うクラスです。ストーリー作りなどの共同作業を通じてスペイン語力を鍛えていきます。各回のテーマと学習語彙は効果的学習につながるように配列にしています。）

授業の到達目標

El proceso del juego de rol está diseñado para que los estudiantes tengan que interaccionar con sus compañeros y utilizar nuevo vocabulario. Cada uno de los capítulos está centrado en un grupo léxico.

成績評価方法

La nota de la clase se divide en dos partes: 70% para la interacción a lo largo del curso y 30% para el examen final, en el que se resumen los contenidos vistos a lo largo del curso.

科 目 名	スペイン語中上級（ニュースで学ぶ）１　スペイン語中級　（ニュースで学ぶ）							
担当者名	高山　バトリシア　ベレン							
西語	２単位	春学期	金曜日	５時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

En cada lección se presentará un tema de actualidad por medio de artículos de prensa, vídeos o audios. Una vez comprendido el contenido y adquirido el vocabulario, se iniciará una conversación entre los alumnos y el profesor. En el espacio cultural, los estudiantes pensarán en grupo cómo responder de forma sencilla a preguntas sobre la cultura japonesa como ¿qué es el “hanami”?, ¿qué es el “undokai”? o ¿qué es el “mochi”?

毎回よく話題に上る今日的テーマについて紹介します。新聞記事を読んだり、映像を見たり、音声を聞いたりして内容への理解を深め、用語を身に付けた後、会話活動を行います。文化のコーナーでは、「花見って何」、「運動会って何」、「餅って何」等、外国の人に日本の文化を分かりやすいスペイン語で紹介する方法を皆で考えます。

授業の到達目標

El objetivo principal es mejorar la comprensión lectora y la capacidad comunicativa.

Los estudiantes se familiarizarán con el vocabulario básico de temas de actualidad (economía, política, medioambiente, deporte, etc.) y adquirirán las destrezas necesarias para explicar en español diversos aspectos de la cultura japonesa (celebraciones, costumbres, artes, etc.).

主な目的は読解力やコミュニケーション力を高めることです。

経済、政治、環境、スポーツ等よく話題に上るテーマの用語に馴染み、祝祭事、習慣、芸術等、様々な面から日本の文化をスペイン語で紹介するための技能を身に付けます。

成績評価方法

- **試験**　30%　　テスト
- **レポート**　0%
- **平常点**　40%　　授業内ワーク
- **その他**　30%　　プレゼンテーション

科 目 名	スペイン語中上級（ニュースで学ぶ）２　スペイン語中上級　（ニュースで学ぶ）							
担当者名	高山　バトリシア　ベレン							
西語	２単位	秋学期	金曜日	５時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要

En cada lección se presentará un tema de actualidad por medio de artículos de prensa, vídeos o audios. Una vez comprendido el contenido y adquirido el vocabulario, se iniciará una conversación entre los alumnos y el profesor. En el espacio cultural, los estudiantes pensarán en grupo cómo responder de forma sencilla a preguntas sobre la cultura japonesa como ¿qué es el hatsumode?, ¿qué es el koyo? o ¿qué es el ekiden?

毎回よく話題に上る今日的テーマについて紹介します。新聞記事を読んだり、映像を見たり、音声を聞いたりして内容への理解を深め、用語を身に付けた後、会話活動を行います。文化のコーナーでは、「初詣って何」、「紅葉って何」、「駅伝って何」等、外国の人に日本の文化を分かりやすいスペイン語で紹介する方法を皆で考えます。

授業の到達目標

El objetivo principal es mejorar la comprensión lectora y la capacidad comunicativa. Asimismo, se espera que los alumnos fortalezcan la capacidad de expresar su opinión.

Los estudiantes se familiarizarán con el vocabulario básico de temas de actualidad (economía, política, medioambiente, deporte, etc.) y adquirirán las destrezas necesarias para explicar en español diversos aspectos de la cultura japonesa (celebraciones, costumbres, artes, etc.).

主な目的は読解力やコミュニケーション力を高め、自分の意見を述べる能力を伸ばすことです。

経済、政治、環境、スポーツ等よく話題に上るテーマの用語に馴染み、祝祭事、習慣、芸術等、様々な面から日本の文化をスペイン語で紹介するための技能を身に付けます。

成績評価方法

●**試験**　30%　　テスト
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　授業内ワーク
●**その他**　30%　　プレゼンテーション

科 目 名	スペイン語中級（芸術・文化を知る）1　スペインの芸術・生活文化に親しもう！							
担当者名	四宮　瑞枝							
西語	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

スペイン語圏は広大な地域にまたがり、長い歴史と多様性に富んでいます。そこで培われた芸術文化や生活文化に焦点を当てた教材を読み、映像資料を活用したり自文化や他の文化圏の状況と比較したりして理解を深めていきます。春学期は特にスペインに焦点を当てます。基礎文法の定着を図るための復習や接続法の学習を入れて、スペイン語力の底上げを図ります。

授業の到達目標

1. スペインの芸術文化や生活文化に対する基礎的知識を持ち、背景にある歴史的経緯や価値観に目を向けることができる。
2. 自文化の事象のいくつかについて簡単なスペイン語で説明できる。
3. スペイン語の基礎文法を理解し、簡潔な文であれば、辞書を使って情報を読み取れる。

成績評価方法

●**試験**　15%　　基礎文法力の確認をするテストを行います。
●**レポート**　35%　　関心を持ったテーマについてミニレポートを提出してもらいます。
●**平常点**　50%　　出席率、振り返りのチェックシート、授業準備、授業参加（自らの意見、関連する情報などを積極的に発言する態度）などを総合的に判断しますs。
●**その他**　0%　　実施の予定はありません。

備考・関連URL

受講者の関心やスペイン語力に応じて扱うテーマを調整していきます。
同じ文化圏に属していても価値観や感じ方に違いがあることに注意して、異文化を理解する目を養いましょう。教室での活動を効果的なものにするために、教材など毎回の授業準備はきちんと行ってください。

科 目 名	スペイン語中級（芸術・文化を知る）2　ラテンアメリカ諸国の芸術・生活文化に親しもう！							
担当者名	四宮　瑞枝							
西語	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

スペイン語圏は広大な地域にまたがり、長い歴史と多様性に富んでいます。そこで培われた芸術文化や生活文化に焦点を当てた教材を読み、映像資料を活用したり自文化や他の文化圏の状況と比較したりして、理解を深めていきます。秋学期は特にラテンアメリカに焦点を当てます。必要に応じて接続法も含めた文法学習も入れ、スペイン語力・異文化能力を総体的に高めることを目的とするクラスです。

授業の到達目標

1. ラテンアメリカ諸国の芸術文化や生活文化に対する基礎的知識を持ち、背景にある歴史的経緯や価値観に目を向けることができる。
2. 自文化の事象の幾つかについて、スペイン語で簡単な説明ができる。
3. スペイン語の基礎文法を理解し、辞書を使えば様々な情報を読み取ることができる。

成績評価方法

●**試験**　15%　　語彙、表現力、文法の理解度を確認する小テストを行います。
●**レポート**　35%　　関心を持ったテーマについてミニレポートを提出してもらいます。
●**平常点**　50%　　出席率、授業準備、授業参加（自らの意見、関連する情報などを積極的に発言する態度）などを総合的に判断します。
●**その他**　0%　　実施の予定はありません。

備考・関連URL

受講者の関心やスペイン語力に応じて扱うテーマを調整していきます。
同じ文化圏に属していても価値観や感じ方に違いがあることに注意して、異文化を理解する目を養いましょう。
教室での活動を効果的なものにするために、教材など毎回の授業準備はきちんと行ってください。

科 目 名	スペイン語中上級（検定試験をめざす）1							
担当者名	中島　さやか							
西語	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

基礎または初級スペイン語で培ったスペイン語力を基礎に、4つの技能（読む、聴く、書く、話す）をバランスを取りながら学習し、DELE（Diploma de Español como Lengua Extranjera）のA2レベルのスペイン語力の取得を目指します。できるだけ多くの文章や音声に触れ、文脈から意味を理解し、会話や作文に応用できる自然な表現を選択的に習得していく訓練を行います。

DELE を意識した教材を使用し、DELE取得を目指す学生の試験対策にもなる授業の構成になります。

授業の到達目標

まず、DELEのA2レベルのスペイン語ではどの程度の知識や技能が要求されるのかを把握し、それぞれの学生がそのレベルのスペイン語を習得するにはどのような学習をどの程度行う必要があるのかを理解することが第一の目標です。

その上で課題を含めた授業時間、及び自習時間を効率よく使う方法を検討し、教材の使い方や各単元の勉強にあてる時間配分などをプログラムできるようになることが第二の目標です。

最終目的は自分に必要な学習プログラムをモニタリングしながら実行し、スペイン語力をA2レベルに到達させる、あるいは

少しでも近づけることです。

成績評価方法

●**試験**　50%　　小テスト・復習テスト 50%
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　出席・課題・提出物など　50%
●**その他**　0%

科 目 名	スペイン語中上級（検定試験をめざす）2							
担当者名	中島　さやか							
西語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

基礎または初級スペイン語及び中級レベルで培ったスペイン語力を基礎に、4つの技能（読む、聴く、書く、話す）をバランスを取りながら学習し、DELE（Diploma de Español como Lengua Extranjera）のA2～B1レベルのスペイン語力の取得を目指します。できるだけ多くの文章や音声に触れ、文脈から意味を理解し、会話や作文に応用できる自然な表現を選択的に習得していく訓練を行います。

DELE を意識した教材を使用し、DELE取得を目指す学生の試験対策にもなる授業の構成になります。

授業の到達目標

まず、DELEのB1レベルのスペイン語ではどの程度の知識や技能が要求されるのかを把握し、それぞれの学生がそのレベルのスペイン語を習得するにはどのような学習をどの程度行う必要があるのかを理解することが第一の目標です。

その上で課題を含めた授業時間、及び自習時間を効率よく使う方法を検討し、教材の使い方や各単元の勉強にあてる時間配分などをプログラムできるようになることが第二の目標です。

最終目的は自分に必要な学習プログラムをモニタリングしながら実行し、スペイン語力をA2～B1レベルに到達させる、あるいは少しでも近づけることです。

成績評価方法

●**試験**　50%　　小テスト・復習テスト 50%
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　出席・課題・提出物など　50%
●**その他**　0%

科 目 名	イタリア語を読む2（歴史・思想）　イタリア史への招待							
担当者名	三森　のぞみ							
伊語	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

都市や地域によって歴史の歩みが大きく異なるイタリア。1861年の「イタリア王国」成立まで、イタリアには統一国家が存在しませんでした。イタリアの文化や社会をより深く知るためには、こうしたイタリア史への理解が欠かせません。そのための一歩として、いくつかの平易なテキストを読みながら、古代ローマ世界の伝統、中世都市社会、ルネサンス、そしてイタリアという「国家」が作られる過程を学んでいきます。これまでのイタリア語の知識の応用、新たな文法や語彙の習得に加え、イタリア語の文章に慣れ、読み方のコツを身につけることで、「読む」のみならず、「聴く」「話す」「書く」力も高めることができるでしょう。また授業では、パワーポイントを活用し、視覚資料によってできるだけ具体的に歴史を捉える作業を行います。さらに学期末には、イタリア史に関連する映画作品を観賞し、その時代背景を考えてみます。

授業の到達目標

「1年イタリア語」既習者あるいはそれと同等の語学力を持つ学生が、リーディングの効果的なトレーニングを行うことで総合的な語学能力を向上させること、また、「イタリア語を学ぶ」という単純な語学学習にどどまることなく、「イタリア語で学ぶ」ために必要なスキルを身につけ、イタリアの歴史や思想、文化、社会に対する理解を深めることを目的とします。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　30%　　指定されたイタリア語テキストの和訳を学期末に提出して下さい（提出のない場合、単位を修得することはできません）。
●**平常点**　70%　　通常の授業への参加度（出席、授業態度、予習など）によって評価します。期末試験は行いません。
●**その他**　0%

備考・関連URL

イタリアの歴史、思想、文化、社会に関心を持ち、イタリア語を通してその理解を深めたいと思う人であれば、誰でも歓迎します。異なる分野を学ぶ人たちが集まり、楽しく活気にあふれた授業の場ができることを期待しています。

科 目 名	イタリア文化を知る3（映画）							
担当者名	M. カマンドーナ							
伊語	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代イタリアの映画を日本語字幕で鑑賞する講座です。1作品を3回にわけて鑑賞します。各授業は、前半が作品上映、後半がその日の内容の記述です。3回目の授業では内容とともに感想や意見も書いてもらいます。それを4回目の授業で一緒に見ていき、文法的な間違いなどがあれば正しく直します。

授業の到達目標

この授業の目標は以下の3点です。

1. 映画を通して、現代イタリアの文化や社会を知る
2. 作品の感想や自分の意見を伝えるために必要な表現力の向上
3. これまで勉強した文法などの復習

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　各授業における映画についての記述
●**平常点**　50%　　出欠席、授業への参加意欲
●**その他**　0%

備考・関連URL

http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad
イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方留学センターへお問い合わせください。

科 目 名	イタリア文化を知る4（映画）							
担当者名	M. カマンドーナ							
伊語	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

現代イタリアの映画を日本語字幕で鑑賞する講座です。1作品を3回にわけて鑑賞します。各授業は、前半が作品上映、後半がその日の内容の記述です。3回目の授業では、内容とともに感想や意見も書いてもらいます。それを4回目の授業で一緒に見ていき、文法的な間違いなどがあれば正しく直します。

授業の到達目標

この授業の目標は以下の3点です。
1. 映画を通して、現代イタリアの文化や社会を知る
2. 作品の感想や自分の意見を伝えるために必要な表現力の向上
3. これまで勉強した文法などの復習

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　各授業における映画についての記述
●**平常点**　50%　　出欠席、授業への参加意欲
●**その他**　0%

備考・関連URL

http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad
イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方留学センターへお問い合わせください。

科 目 名	資格を目指すイタリア語　1　レベルA1～B1（初級・準中級）							
担当者名	F. ウジッコ							
伊語	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

このクラスでは、イタリア語検定試験CILS（シエナ外国人大学）とCELI（ペルージャ外国人大学）の受験準備が行われます。イタリア政府認定のイタリア語検定試験CILSとCELIは、外国語としてのイタリア語のコミュニケーション能力を証明するものです。この授業中に過去問題「レベルA1-A2」（初級）と「レベルB1」（準中級）の解答をし、必要に応じて試験項目を検証します。言語およびコミュニケーション能力に関するすべての試験内容についてレッスンを行います。検定試験を受けない方も受講可です。
※この科目は主として実践的な教育が行われる科目です。

授業の到達目標

イタリア語検定試験CILSとCELIは、イタリア語のコミュニケーションの能力を客観的に測る試験です。この授業では、CILS/CELI「レベルA1-A2-B1」(*）の受験準備を目指し、語彙力の増強、文法事項の把握、聴き取り及び読解の能力の向上を図ります。必要があれば、基本的な文法や語法を復習するためのプリントを課題として配布します。
*この「A1-A2」及び「B1」（初級/準中級）レベルはEU（欧州連合）においての語学教育レベル基準と同等であり、詳しくは『ヨーロッパ言語共通参照枠組み』で参照できます。『ヨーロッパ言語共通参照枠組み』（CEFR）とはEU評議会が作成した、言語能力を測る共通の基準や枠組みです。

成績評価方法

●**試験**　20%　　学習成果や理解度の確認のため、学期末試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　80%　　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

http://www.iictokyo.esteri.it/IIC_Tokyo/Menu/Imparare_Italiano/Certificazioni/
イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	資格を目指すイタリア語　2　レベルA2～B2（初級・中級）、C1（上級）							
担当者名	F. ウジッコ							
伊語	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

このクラスでは、イタリア語検定試験CILS（シエナ外国人大学）とCELI（ペルージャ外国人大学）の受験準備が行われます。イタリア政府認定のイタリア語検定試験CILSとCELIは、外国語としてのイタリア語のコミュニケーション能力を証明するものです。この授業中に、CILS/CELI過去問題「レベルA2、B1-B2」（初級、準中級・中級）と「レベルC1」（上級）の解答をし、必要に応じて試験項目を検証します。言語およびコミュニケーション能力に関するすべての試験内容についてレッスンを行います。検定試験を受けない方も受講可です。
※この科目は主として実践的な教育が行われる科目です。

授業の到達目標

イタリア語検定試験CILSとCELIは、イタリア語のコミュニケーションの能力を客観的に測る試験です。この授業では、CILS/CELI「レベルA2、B1-B2、C1」(*) の受験準備を目指し、語彙力の増強、文法事項の把握、聴取及び読解の能力の向上を図ります。必要があれば、基本的な文法や語法を復習するためのプリントを課題として配布します。

*この「A2、B1-B2」及び「C1」(初級〜上級) レベルはEU (欧州連合) においての語学教育レベル基準と同等であり、詳しくは『ヨーロッパ言語共通参照枠組み』で参照できます。『ヨーロッパ言語共通参照枠組み』(CEFR) とはEU評議会が作成した、言語能力を測る共通の基準や枠組みです。

成績評価方法

●**試験** 20%　学習成果や理解度の確認のため、学期末試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
●**レポート** 0%
●**平常点** 80%　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
●**その他** 0%

備考・関連URL

http://www.iictokyo.esteri.it/IIC_Tokyo/Menu/Imparare_Italiano/Certificazioni/

イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	イタリア語を読む1（文学・社会） イタリア、そして世界への窓							
担当者名	M. カマンドーナ							
伊語	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

イタリアの新聞を一緒に読んでいく中級レベルの授業です。マスコミで使われるイタリア語を通して、さまざまな形式の文章表現を学びつつ、語彙を増やします。政治・経済・文化など様々なジャンルのテキストを扱います。イタリアのオンラインメディア「Il POST」(政治的に中道・信頼性のあるニュースメディア) の記事を基にしたオリジナル教材を用いて読解力を強化します。

授業の到達目標

時事イタリア語に触れながら、イタリアの近現代の社会や文化についてより深い知識を身につけることを目指します。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 0%
●**平常点** 100%　出欠席、授業への参加意欲、提出物による総合評価とします。特に授業態度を重視します。
●**その他** 0%

備考・関連URL

Il POST : www.ilpost.it

科 目 名	イタリア文化を知る1（美術） ルネサンス（レベル初級・準中級）							
担当者名	L. トゥッチ							
伊語	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、スライド、マルチメディア教材とオリジナル資料を使用して、ルネサンス期のイタリア美術の発展を解説します。特にボッティチェリ、ダヴィンチ、ラファエロ等といった代表的芸術家の作品の進化を分析しながら、その作品の背景も学びます。そのため、美術史を研究している学生、勉強中の学生、または関心を持っている学生が対象です。

具体的には、美術史における話題を取り上げ、作品の分析、説明、評価などによって、初級クラスで学習した文法事項、語彙や表現を復習し、より高度な語学力を養成します。

授業の到達目標

大学で学習したイタリア語の基礎的な内容を土台にして、常用表現と語彙を増やしながら文法知識の活用をはかります。この授業の目標は以下の三点です。

1. 既習の文法を復習
2. 語彙を増強
3. 新しい表現を習得

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 0%
●**平常点** 70%　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
●**その他** 30%　グループプレゼンテーションの内容を評価します。

備考・関連URL

イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	イタリア文化を知る2（美術） ルネサンスから20世紀まで							
担当者名	L. トゥッチ							
伊語	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、スライド、マルチメディア教材とオリジナル資料を使用して、ルネサンスから20世紀までのイタリア美術の発展を解説します。特にミケランジェロ、カラヴァッジョ等といった代表的芸術家の作品の進化を分析しながら、その作品の背景も学びます。そのため、美術史を研究している学生、勉強中の学生、または関心を持っている学生が対象です。

具体的には、美術史における話題を取り上げ、作品の分析、説明、評価などによって、初級クラスで学習した文法事項、語彙や表現を復習し、より高度な語学力を養成します。

授業の到達目標

大学で学習したイタリア語の基礎的な内容を土台にして、常用表現と語彙を増やしながら文法知識の活用をはかります。この授業の目標は以下の三点です。

1. 既習の文法を復習
2. 語彙を増強
3. 新しい表現を習得

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 0%
●**平常点** 70% 出席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
●**その他** 30% グループプレゼンテーションの内容を評価します。

備考・関連URL

イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	イタリア語中級1							
担当者名	F. ウジッコ							
伊語	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本科目はレベル2（準中級）で、週2コマ履修【春期・イタリア語中級1＋イタリア語中級2（会話）】が可能な授業です。「1年イタリア語」の続きとなるクラスです。

「読む」と「書く」ことを重視すると同時に、「聞く」と「話す」の能力も養成する授業です。「質」を重視し、ビデオ教材・マルチメディア教材と教科書の内容を中心に、学生が主役であるという形で授業を行います。実用的なコミュニケーションに必要な文法と表現を、段階を追いながら学びます。日常的な場面を想定した会話のトレーニングが主ですが、読解力とリスニングの能力の練習もします。また、ペアーワーク、グループワークやスキット作りなど、学生が参加して作り上げる練習を行いますので、間違うことを気にせず積極的に授業に参加する事が大事です。さらにイタリアの社会的や文化的な知識も深めるよう学習します。

授業の到達目標

この「イタリア語中級」クラスは、特に留学を考えている学生、現代イタリア文化とその日常生活に触れながらイタリア語能力の総合的な上達を希望する人、そしてイタリア語資格の取得を目指している人を対象とします。

この講義では「A2」（初級）及び「B1」（準中級）レベルの教材を使用し、イタリア人講師のもとで特に会話力、リスニング力と読解力等のステップアップを図ります。教科書は「1年イタリア語」のテキストを継続して使用し、初級クラスで学習した文法事項・語彙と表現を復習しながら、より高度な語学力を養成します。また、教科書の練習問題の一部はCILSという（イタリア政府認定の）イタリア語検定試験問題の構成・レベルに合わせて設定されていますので、希望者はイタリア語能力試験を受験できます。

成績評価方法

●**試験** 20% 学習成果や理解度の確認のため、学期末試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
●**レポート** 0%
●**平常点** 80% 出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
●**その他** 0%

備考・関連URL

イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	イタリア語中級2（会話）							
担当者名	L. トゥッチ							
伊語	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本科目はレベル2（準中級）で「1年イタリア語」の続きとなるクラスです。週2コマの履修（春期／イタリア語中級1＋イタリア語中級2）が可能です。この授業の目標は次の二つです。一つは1年生で学んだ内容をしっかりと自分のものにすること、もう一つは新たな知識を吸収することです。そのため、会話、リスニング、作文、読解を総合的に学習します。グループワークを中心にイタリア語で積極的に会話することで、イタリア語の能力を総合的に向上させ、イタリアについての知識を深めます。

語学力の向上に真剣に取り組みたい人には、週2コマの履修をお勧めします。

授業の到達目標

「イタリア語中級」クラスは、特に留学を考えている学生、現代イタリアの文化と日常生活に触れながらイタリア語能力の総合的な上達を希望する人、そしてイタリア語の資格の取得を目指している人を対象とします。この講義では、「A2＊」および「B1＊」レベル（準中級）の教材を使用し、イタリア人講師のもとで、特に会話力、リスニング力と読解力等のステップアップを図ります。教科書は「1年イタリア語」のテキストを継続して使用し、初級クラスで学習した文法事項や語彙、表現を復習しながら、より高度な語学力を養成します。また、教科書の練習問題の一部はCILSというイタリア政府認定のイタリア語検定試験問題の構成、レベルに合わせて設定されていますので、希望者はイタリア語能力試験を受験できます。

＊この「A2」（初級）および「B1」（準中級）レベルはEU（欧州連合）においての語学教育レベル基準と同等であり、詳しくは「ヨーロッパ言語共通参照枠組み」で参照できます。「ヨーロッパ言語共通参照枠組み」（CEFR）とは、EU評議会が作成した、言語能力を測る共通の基準や枠組みです。

成績評価方法

●**試験** 30% 学習成果や理解度の確認のために、学期末試験を実施します。
●**レポート** 0%
●**平常点** 70% 出席、授業への参加意欲など総合的に評価します。

●**その他**　0%

備考・関連URL

イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味がある方は、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	イタリア語中級3							
担当者名	F. ウジッコ							
伊語	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本科目はレベル2（準中級）で、週2コマ履修【秋期・イタリア語中級3＋イタリア語中級4（会話）】が可能な授業です。「イタリア語中級1・2」の続きとなるクラスです。

「読む」と「書く」ことを重視すると同時に、「聞く」と「話す」の能力も養成する授業です。「質」を重視し、ビデオ教材・マルチメディア教材と教科書の内容を中心に、学生が主役であるという形で授業を行います。実用的なコミュニケーションに必要な文法と表現を、段階を追いながら学びます。日常的な場面を想定した会話のトレーニングが主ですが、読解力とリスニングの能力の練習もします。また、ペアーワーク、グループワークやスキット作りなど、学生が参加して作り上げる練習を行いますので、間違うことを気にせず積極的に授業に参加する事が大事です。さらにイタリアの社会的や文化的な知識も深めるよう学習します。

授業の到達目標

この「イタリア語中級」クラスは、特に留学を考えている学生、現代イタリア文化とその日常生活に触れながらイタリア語能力の総合的な上達を希望する人、そしてイタリア語資格の取得を目指している人を対象とします。

この講義では「B1」（準中級）レベルの教材を使用し、イタリア人講師のもとで特に会話力、リスニング力と読解力等のステップアップを図ります。教科書は「1年イタリア語」で使用したテキストのレベルアップを図るもので、初級クラスで学習した文法事項・語彙と表現を復習しながら、より高度な語学力を養成します。また、教科書の練習問題の一部はCILSという（イタリア政府認定の）イタリア語検定試験問題の構成・レベルに合わせて設定されていますので、希望者はイタリア語能力試験を受験できます。

成績評価方法

●**試験**　20%　　学習成果や理解度の確認のため、学期末試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　80%　　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	イタリア語中級4（会話）							
担当者名	L. トゥッチ							
伊語	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本科目はレベル2（準中級）で「イタリア語中級1，2」の続きとなるクラスです。週2コマの履修（秋期／イタリア語中級3＋イタリア語中級4）が可能です。この授業の目標は次の二つです。一つは1年生で学んだ内容をしっかりと自分のものにすること、もう一つは新たな知識を吸収することです。そのため、会話、リスニング、作文、読解を総合的に学習します。グループワークを中心にイタリア語で積極的に会話することで、イタリア語の能力を総合的に向上させ、イタリアについての知識を深めます。

語学力の向上に真剣に取り組みたい人には、週2コマの履修をお勧めします。

授業の到達目標

「イタリア語中級」クラスは、特に留学を考えている学生、現代イタリアの文化と日常生活に触れながらイタリア語能力の総合的な上達を希望する人、そしてイタリア語の資格の取得を目指している人を対象とします。この講義では、「B1＊」レベル（準中級）の教材を使用し、イタリア人講師のもとで、特に会話力、リスニング力と読解力等のステップアップを図ります。教科書は「1年イタリア語」で使用したテキストのレベルアップを図るもので初級クラスで学習した文法事項や語彙、表現を復習しながら、より高度な語学力を養成します。また、教科書の練習問題の一部はCILSというイタリア政府認定のイタリア語検定試験問題の構成、レベルに合わせて設定されていますので、希望者はイタリア語能力試験を受験できます。

＊「B1」（準中級）レベルはEU（欧州連合）においての語学教育レベル基準と同等であり、詳しくは「ヨーロッパ言語共通参照枠組み」で参照できます。「ヨーロッパ言語共通参照枠組み」（CEFR）とは、EU評議会が作成した、言語能力を測る共通の基準や枠組みです。

成績評価方法

●**試験**　30%　　学習成果や理解度の確認のために、学期末試験を実施します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　　出席、授業への参加意欲など総合的に評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味がある方は、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	イタリア語中上級							
担当者名	F. ウジッコ							
伊語	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本科目は「イタリア語中級」の続きとなるクラスです。「読む」と「書く」ことを重視すると同時に、「聞く」と「話す」の能力も養成する授業です。「質」を重視し、ビデオ教材・マルチメディア教材と教科書の内容を中心に、学生が主役であるという形で授業を行います。実用的なコミュニケーションに必要な文法と表現を、段階を追いながら学びます。日常的な場面を想定した会話のトレーニングが主ですが、読解力とリスニングの能力の練習もします。また、ペアーワーク、グループワークやスキット作りなど、学生が参加して作り上げる練習を行いますので、間違うことを気にせず積極的に授業に参加する事が大事です。さらにイタリアの社会的や文化的な知識も深めるよう学習します。

授業の到達目標

この「イタリア語中上級」クラスは、特に留学を考えている学生、現代イタリア文化とその日常生活に触れながらイタリア語能力の総合的な上達を希望する人、そしてイタリア語資格の取得を目指している人を対象とします。

この講義では「B1*」及び「B2*」レベルの教材を使用し、イタリア人講師のもとで特に会話力、リスニング力と読解力等のステップアップを図ります。教科書は「イタリア語中級」で使用したテキストのレベルアップを図るもので、中級クラスで学習した文法事項・語彙と表現を復習しながら、より高度な語学力を養成します。また、教科書の練習問題の一部はCILSという（イタリア政府認定の）イタリア語検定試験問題の構成・レベルに合わせて設定されていますので、希望者はイタリア語能力試験を受験できます。

*この「B1-B2」（準中級・中級）レベルはEU（欧州連合）においての語学教育レベル基準であり、詳しくは『ヨーロッパ言語共通参照枠組み』で参照できます。『ヨーロッパ言語共通参照枠組み』（CEFR）とはEU評議会が作成した言語能力を測る共通の基準や枠組みです。

成績評価方法

●**試験** 20%　学習成果や理解度の確認のため、学期末試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
●**レポート** 0%
●**平常点** 80%　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
●**その他** 0%

備考・関連URL

イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

選択外国語

科 目 名	イタリア語上級							
担当者名	F. ウジッコ							
伊語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本科目は「イタリア語中上級」の続きとなるクラスです。

「読む」と「書く」ことを重視すると同時に、「聞く」と「話す」の能力も養成する授業です。「質」を重視し、ビデオ教材・マルチメディア教材と教科書の内容を中心に、学生が主役であるという形で授業を行います。実用的なコミュニケーションに必要な文法と表現を、段階を追いながら学びます。日常的な場面を想定した会話のトレーニングが主ですが、読解力とリスニングの能力の練習もします。また、ペアーワーク、グループワークやスキット作りなど、学生が参加して作り上げる練習を行いますので、間違うことを気にせず積極的に授業に参加する事が大事です。さらにイタリアの社会的や文化的な知識も深めるよう学習します。

授業の到達目標

この「イタリア語上級」クラスは、特に留学を考えている学生、現代イタリア文化とその日常生活に触れながらイタリア語能力の総合的な上達を希望する人、そしてイタリア語資格の取得を目指している人を対象とします。

この講義では「B2*」レベルの教材を使用し、イタリア人講師のもとで特に会話力、リスニング力と読解力等のステップアップを図ります。教科書は「イタリア語中級」で使用したテキストのレベルアップを図るもので、中上級クラスで学習した文法事項・語彙と表現を復習しながら、より高度な語学力を養成します。また、教科書の練習問題の一部はCILSという（イタリア政府認定の）イタリア語検定試験問題の構成・レベルに合わせて設定されていますので、希望者はイタリア語能力試験を受験できます。

*この「B2」（中級）レベルはEU（欧州連合）においての語学教育レベル基準であり、詳しくは『ヨーロッパ言語共通参照枠組み』で参照できます。『ヨーロッパ言語共通参照枠組み』（CEFR）とはEU評議会が作成した言語能力を測る共通の基準や枠組みです。

成績評価方法

●**試験** 20%　学習成果や理解度の確認のため、学期末試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
●**レポート** 0%
●**平常点** 80%　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
●**その他** 0%

備考・関連URL

イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	イタリア文化を知る5（都市を巡る） イタリア都市の伝統と文化							
担当者名	高津　美和							
伊語	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

世界遺産登録数の国別ランキングで堂々の一位に輝き、多くの旅行者を魅了するイタリア。そんなイタリアの魅力をより良く

知る鍵は、「都市」にあります。中世に都市国家として高い自立性を誇ったイタリアの諸都市は、現在もなお豊かな個性をそなえています。この授業では、ヨーロッパ最古の大学を擁するボローニャ、『ロミオとジュリエット』の舞台となったヴェローナをはじめとするいくつかの魅力的なイタリアの都市を取り上げて、その多種多様な歴史や美術、文学、祝祭、食文化などについて学びます。授業では、各都市に関連する内容が記されたイタリア語資料の講読を行います。また、CDやDVDなどの視聴覚資料を活用することによって理解を補います。

授業の到達目標

1. 新しい単語・熟語表現の習得
2. 既習の文法知識の応用、読解力の向上
3. イタリアの歴史や文化に関する知識の習得

成績評価方法

●**試験** 0%　なし
●**レポート** 40%　学期末にレポートを提出してください。詳細については授業の中で説明します。
●**平常点** 60%　授業への参加意欲（出席、予習など）によって評価します。
●**その他** 0%　なし

備考・関連URL

受講者数や進度に応じて授業内容を変更する場合があります。

科 目 名	イタリア文化を知る6（都市を巡る） 机上で旅するイタリア							
担当者名	横山　修一郎							
伊語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

机上の旅行者の特権はどこへでも自由に行けること。

せっかくイタリア語の基礎を学んだのだから、言葉が実際に話されている場所に行ってみたい。その望みをかなえるのは、皆さんの一瞬のいきごみ次第、けれど準備も必要。本講座が皆さんに提供できることは、これまで以上に「言葉を知ること」と「言葉が話されている場所を知ること」です。

本講座では、イタリアのいくつかの町を描いた映像作品を鑑賞します。また、町に関する説明文や文学作品を読みます。その過程において、イタリア語の語学力の維持とさらなる向上を目指します。そして、履修者の皆さんが、「イタリアの町の姿形」をより身近に捉えるようになること、これが本講座の最終的な目標です。

授業の到達目標

1. イタリア語の基礎学力を維持する。
2. 文法知識や語彙力のさらなる向上をめざす。
3. 映像作品などを通して、言葉そのものや言葉が話されている場所の持つ「雰囲気」をつかむ。

成績評価方法

●**試験** 0%　実施しません。
●**レポート** 40%　日本語レポート
●**平常点** 30%　出席、宿題課題への取り組み、授業への参加意欲
●**その他** 30%　授業内発表

備考・関連URL

グループで読解・練習などする機会も多々あります。知るも知らぬも互いに力合わせる気持ちで授業に参加して下さい。
また、履修者数及び進度の都合で、授業計画を変更することもあります。

科 目 名	第三外国語としてのイタリア語1							
担当者名	F. ウジッコ							
伊語	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

イタリア語を初めて学ぶ学生を対象に、文法事項の学習と会話練習を行う。イタリア語の語学力を養うには、文法知識の習得に加えて、生きた言葉として実際に使う演習が重要である。授業では、正確な文法知識に基づく会話の反復練習を通して、語彙力の向上と使える言葉としてのイタリア語の習得を目指す。また、さまざまなメディア（インターネットニュース、ビデオなど）を利用して、言葉と文化について学ぶ。

授業の到達目標

初級文法を学びながら、語彙の拡充を図るとともに基礎的なコミュニケーション能力（EU語学基準CEFRのA1レベル）を養う。

イタリア文化と触れあいながらイタリア語の習得を目指す。語彙力を高め文法を正しく学んだ上で、さまざまな場面を想定した会話練習を少人数グループで行う。会話練習を通してさらに語彙を増やし、学んだ知識の運用能力の向上を図る。

「旅行」「日常会話」の場で、自然な会話ができるようになることが、「第三外国語としてのイタリア語」の目標である。

成績評価方法

●**試験** 20%　学習成果や理解度の確認のため、学期末試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
●**レポート** 0%
●**平常点** 80%　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
●**その他** 0%

備考・関連URL

イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	第三外国語としてのイタリア語2							
担当者名	F. ウジッコ							
伊語	2単位	秋学期	木曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

「第三外国語としてのイタリア語1」に引き続き、文法事項の学習と会話練習を行う。イタリア語の語学力を養うには、文法知識の習得に加えて、生きた言葉として実際に使う演習が重要である。授業では、正確な文法知識に基づく会話の反復練習を通して、語彙力の向上と使える言葉としてのイタリア語の習得を目指す。また、さまざまなメディア（インターネットニュース、ビデオなど）を利用して、言葉と文化について学ぶ。

授業の到達目標

初級文法を学びながら、語彙の拡充を図るとともに基礎的なコミュニケーション能力（EU語学基準CEFRのA1レベル）を養う。

イタリア文化と触れあいながらイタリア語の習得を目指す。語彙力を高め文法を正しく学んだ上で、さまざまな場面を想定した会話練習を少人数グループで行う。会話練習を通してさらに語彙を増やし、学んだ知識の運用能力の向上を図る。

「旅行」「日常会話」の場で、自然な会話ができるようになることが、「第三外国語としてのイタリア語」の目標である。

成績評価方法

●**試験** 20%　学習成果や理解度の確認のため、学期末試験を実施します。詳細は授業内で説明します。
●**レポート** 0%
●**平常点** 80%　出欠席、授業への参加意欲、提出物などによって総合的に評価します。
●**その他** 0%

備考・関連URL

イタリアの協定大学への交換留学プログラムに興味のある方、留学センターへお問い合わせください。http://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad

科 目 名	朝鮮語中級							
担当者名	印　省熙							
朝語	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

週4回の授業を1年（週2回の授業を1年半）程度学習した人を対象に、中級レベルの学習を行います。授業は中級の文法と会話を中心に行いますが、課題を通して読解、作文作成など読み・書き能力の向上を目指します。

毎回、テキストの題材と関連した予習・復習の課題と読解や作文の課題があるため、自宅学習が多く求められます。

授業の到達目標

ハングル能力検定4級～3級前半レベルの文法の習得を目指します。

成績評価方法

●**試験** 50%　期末試験
●**レポート** 0%　無し
●**平常点** 50%　出席、授業への参加度、小テスト、課題（Waseda Moodleなどによる自律学習含む）などで総合的に判断します。
●**その他** 0%　無し

備考・関連URL

受講者のレベルによって、上記の授業計画は変更になることがあります。
本授業のほか、「朝鮮語会話中級」または「朝鮮語作文中級」の授業を合わせて受講することをお勧めします。
＜留意点＞
・最初の授業でテキストを決め、人数分注文するので、受講希望者は最初の授業に必ず出席してください。
・3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。
・本授業は対話型・問題発見・解決型教育の手法を導入しており、Waseda Moodleなどを利用した自律学習を促しています。毎回、Waseda Moodleなどを使った資料の閲覧と事前・事後学習が必要となります。

科 目 名	朝鮮語中上級							
担当者名	印　省熙							
朝語	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

春学期の「朝鮮語中級」に続き、中上級前半レベルの学習を行います。授業は中級の文法と会話を中心に行いますが、課題を通して読解、作文作成など読み・書き能力の向上を目指します。

毎回、テキストの題材と関連した予習・復習の課題と読解や作文の課題があるため、自宅学習が多く求められます。

授業の到達目標

ハングル能力検定3級レベルの文法の習得を目指します。

成績評価方法

●**試験** 50%　期末試験
●**レポート** 0%　無し
●**平常点** 50%　出席、授業への参加度、小テスト、課題（Waseda Moodleなどによる自律学習含む）などで総合的に判断します。
●**その他** 0%　無し

備考・関連URL

受講者のレベルによって、上記の授業計画は変更になることがあります。
本授業のほか、「朝鮮語会話中上級1」または「朝鮮語作文中上級」の授業を合わせて受講することをお勧めします。
＜留意点＞

・最初の授業の人数でテキストを注文するので、受講希望者は最初の授業に出席してください。
・3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。
・本授業は対話型・問題発見・解決型教育の手法を導入しており、Waseda Moodleなどを利用した自律学習を促しています。毎回、Waseda Moodleなどを使った資料の閲覧と事前・事後学習が必要となります。

科 目 名	朝鮮語上級1							
担当者名	印　省熙							
朝語	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「朝鮮語中上級」履修者、韓国短期留学経験者など中上級レベルの文法事項の習得を終えた学習者を対象に、上級レベルの韓国語運用能力の向上を目指します。
授業では文法事項の習得と会話や発表を中心に行い、読解や作文の課題を通して、文法項目の定着と表現の幅を広げます。
毎回、テキストの題材と関連した予習・復習の課題と、読解・作文や発表などの課題があり、自宅学習が多く求められます。

授業の到達目標

ハングル能力検定準2級前半レベルの文法事項の習得を目指します。

成績評価方法

●**試験**　50%　　中間試験・期末試験
●**レポート**　0%　　無し
●**平常点**　50%　　出席、授業への参加度、小テスト、課題などで総合的に判断します。
●**その他**　0%　　無し

備考・関連URL

受講者のレベルによって上記の授業計画は変更になることがあります。
最初の授業でテキストを決め、人数分注文するので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。
3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。
本授業は対話型・問題発見・解決型教育の手法を導入しており、Waseda Moodleなどを利用した自律学習を促しています。
Waseda Moodleなどを使った資料の閲覧と事前・事後学習が必要となります。

科 目 名	朝鮮語上級2							
担当者名	印　省熙							
朝語	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「朝鮮語中上級」履修者、韓国短期留学経験者など中上級レベルの文法事項の習得を終えた学習者を対象に、上級レベルの韓国語運用能力の向上を目指します。
授業では文法事項の習得と会話や発表を中心に行い、読解や作文の課題を通して、文法項目の定着と表現の幅を広げます。
毎回、テキストの題材と関連した予習・復習の課題と、読解・作文や発表などの課題があり、自宅学習が多く求められます。

授業の到達目標

ハングル能力検定準2級後半レベルの文法事項の習得を目指します。

成績評価方法

●**試験**　50%　　中間試験・期末試験
●**レポート**　0%　　無し
●**平常点**　50%　　出席、授業への参加度、小テスト、課題などで総合的に判断します。
●**その他**　0%　　無し

備考・関連URL

受講者のレベルによって上記の授業計画は変更になることがあります。
最初の授業でテキストを決め、人数分注文するので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。
3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。
本授業は対話型・問題発見・解決型教育の手法を導入しており、Waseda Moodleなどを利用した自律学習を促しています。
Waseda Moodleなどを使った資料の閲覧と事前・事後学習が必要となります。

科 目 名	朝鮮語会話中級							
担当者名	李　和貞							
朝語	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

初級文法の学習を終えた学生を対象にし、さらに語彙、文法、表現力を学びながら会話力を磨いていきます。それと並行し聞き取り練習、読解、作文を組み合わせ、総合的な学習を行います。中級教科書はやや易しめのものを用います。その代わり、映像、雑誌・新聞記事など、多様な媒体を使い、朝鮮半島の社会、文化についての理解を深めながら会話中心の学習を進めていきます。授業ではペアワークやグループワークを多く取り入れます。また教科書本文の暗記、発表も毎回行います。学習を通して、履修者同士のコミュニケーションスキルの向上を目指します。

授業の到達目標

初級文法を確実に使いこなし、そのうえで応用的な表現の運用能力を身につけることが目標です。会話においては、少々の間違いがあっても朝鮮語で自分の言いたいことを伝え、相手とコミュニケーションが取れるようになること、読解においては、簡単な文なら辞書を引かずに推測しながら文意がつかめるようにすることを目指します。

成績評価方法

●**試験**　40%　　学期末試験（最終回の授業時に試験を実施します。追試、レポート等による救済措置はありません）
●**レポート**　30%　　小テスト、課題、レポートなど
●**平常点**　25%　　授業への積極的な参加が必須です。理解度確認のために、教科書本文暗記、小テストを毎回実施します。欠席があまりにも多い場合は、試験の成績が良くても評価の対象になりませんので注意してください。

●**その他**　5%　　コミュニケーションカードの作成（詳細はガイダンスの際に説明）

備考・関連URL

朝鮮語学習を通して、朝鮮文化に関する皆さんの興味、関心を広げるような授業を行いたいと思っています。授業外での教科書の復習は必須ですが、知識の詰め込みに終わらず、多角的に朝鮮語へアプローチできるよう皆さんと工夫しながら授業を進めます。授業中の積極的な発言、意見、質問を歓迎します。

科目名	朝鮮語会話中上級1							
担当者名	李　和貞							
朝語	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本授業は春学期の＜会話中級＞に引き続き、中級会話教科書を用いて進めます。初級文法を確実に身につけながら、さらに語彙、文法、表現力を会話中心に磨いていきます。それと並行し、聞き取り練習、読解、翻訳を組み合わせ、総合的な学習を行います。中級教科書はやや易しめのものを用います。その代わり、映像、雑誌・新聞記事、文学、マンガなど多様な媒体を使い、朝鮮半島の教育、社会、文化についての理解を深めながら学習を進めていきます。

授業ではペアワークやグループワークを多く取り入れます。また教科書本文の暗記、発表も毎回行います。

授業の到達目標

初級文法を確実に使いこなし、そのうえで応用的な表現の運用能力を身につけることが目標です。会話においては、少々の間違いがあっても朝鮮語で自分の言いたいことを伝え、相手とコミュニケーションが取れるようになること、読解においては、簡単な文なら辞書を引かずに推測しながら文意がつかめるようにすることを目指します。

こうした学習を通し、この授業を履修し終える頃には、朝鮮語で会話ができ、自分の意見および意思を伝えられるようになることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　40%　　最終回の授業時に試験を実施します。追試、レポート等による救済措置はありません。
●**レポート**　30%　　小テスト、レポート、課題など
●**平常点**　25%　　授業への積極的な参加が必須です。理解度確認のために、教科書本文暗記、小テストを毎回実施します。欠席があまりにも多い場合は、試験の成績が良くても評価の対象になりませんので注意してください。
●**その他**　5%　　コミュニケーションカードの作成（詳細はガイダンスの際に説明）

備考・関連URL

朝鮮語学習を通して、朝鮮文化、教育に関する皆さんの興味、関心を広げるような授業を行いたいと思っています。授業外での教科書の復習は必須ですが、知識の詰め込みに終わらず、多角的に朝鮮語へアプローチできるよう皆さんと工夫しながら授業を進めます。授業中の積極的な発言、意見、質問を歓迎します。

また、学習を通してコミュニケーションスキルの向上を目指します。

科目名	朝鮮語会話中上級2							
担当者名	金　牡蘭							
朝語	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「朝鮮語中上級」や「朝鮮語会話中上級1」履修者、韓国短期留学経験者など中級レベル（ハングル能力検定3級）の文法事項の習得を終えた学習者を対象に、中級から上級への実力向上を目指す。授業はテクストの内容に沿った会話の練習および韓国の社会・文化に関する討論活動で構成される。それを通じて、日常生活におけるコミュニケーション能力を伸ばすとともに、韓国の社会・文化に関する理解を深めることを目標とする。授業中の活動に積極的に参加することが求められる。

授業の到達目標

中上級レベルの語彙・表現を理解し、実際のコミュニケーションにおいてそれらを駆使できる。

成績評価方法

●**試験**　30%　　期末試験（創作会話の発表）
●**レポート**　0%
●**平常点**　70%　　授業への参加度、各種小テストおよび課題
●**その他**　0%

備考・関連URL

＜留意点＞
・受講者のレベルや要望により、上記の授業計画は変更になることがある。
・受講希望者は最初の授業に必ず出席すること。
・3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象としない。

科目名	朝鮮語会話中上級3							
担当者名	金　牡蘭							
朝語	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

「朝鮮語中上級」や「朝鮮語会話中上級2」履修者、韓国短期留学経験者など中級レベル（ハングル能力検定3級）の文法事項の習得を終えた学習者を対象に、中級から上級への実力向上を目指す。授業はテクストの内容に沿った会話の練習および韓国の社会・文化に関する討論活動で構成される。それを通じて、日常生活におけるコミュニケーション能力を伸ばすとともに、韓国の社会・文化に関する理解を深めることを目標とする。授業中の活動に積極的に参加することが求められる。

授業の到達目標

中上級レベルの語彙・表現を理解し、実際のコミュニケーションにおいてそれらを駆使できる。

成績評価方法

●**試験**　30%　　期末試験（創作会話の発表）
●**レポート**　0%

●**平常点**　70%　　授業への参加度、各種小テストおよび課題
●**その他**　0%

備考・関連URL

＜留意点＞
・受講者のレベルや要望により、上記の授業計画は変更になることがある。
・受講希望者は最初の授業に必ず出席すること。
・3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象としない。

科 目 名	朝鮮語会話上級1							
担当者名	林　周禧							
朝語	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

授業はすべて韓国語で行い、韓国人との会話に自信が持てるようにしたい。
会話はもちろん韓国の文化や社会についても学ぶ。

授業の到達目標

韓国語の語彙を増やし、会話力を高める。

成績評価方法

●**試験**　100%
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

備考・関連URL

出席及び授業中の態度も評価対象になる。

科 目 名	朝鮮語会話上級2							
担当者名	林　周禧							
朝語	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

授業はすべて韓国語で行い、韓国人との会話に自信が持てるようにしたい。
会話はもちろん韓国の文化や社会についても学ぶ。

授業の到達目標

韓国語の語彙を増やし、会話力を高める。

成績評価方法

●**試験**　100%
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

備考・関連URL

出席及び授業中の態度も評価対象になる。

科 目 名	朝鮮語作文中級							
担当者名	李　和貞							
朝語	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では多種類の教材を通してナチュラルな韓国語の文章に触れ、自分の考えを文にする力を身につけることを目標とする。そのため韓国の社会や文化に関する内容の資料を中心にリーディングをしながら、具体的な表現を学習し、文章の読み方、書き方、言い回しなどの表現について学ぶ。その上、自分の考えや意見について作文・個人発表をし、実践的な語学力の向上を促す。

授業の到達目標

授業では毎回作文学習を行うが、必要に応じて履修者の作文課題を授業で紹介し、間違いやすい表現や言い回しや細かい部分について授業教材として利用することもある。授業では履修者のモチベーションを重要視しつつ履修者の関心・興味のある分野の様々の題材を活用しながら授業を進める。ニュース、会話、アナウンス、音楽、映画など、多種類の教材に触れながら、自然な韓国語に翻訳・表現することを学ぶ。また文の表現力の幅を広げると同時に、授業で学習した内容を中心にペア学習、個人発表の実践を促し、受講者の実用的な韓国語コミュニケーション力の向上に主力したい。

成績評価方法

試験：　40%　　期末テスト
レポート：　20%　　毎回の宿題、レポート
平常点評価：　30%
その他：　10%　　授業での発言・発表

備考・関連URL

授業への積極的な参加を重要視します。授業計画は、履修人数及び履修者のレベルによって変更することがあります。

科 目 名	朝鮮語作文中上級							
担当者名	李　和貞							
朝語	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本講義では多種類の教材を通してナチュラルな韓国語の文章に触れ、自分の考えを文にする力を身につけることを目標とする。授業では、履修者のモチベーションを高めるため、履修者の関心・興味のある分野の様々の題材を活用する。例えば、ニュー

ス、会話、アナウンス、音楽、映画など、多種類の教材に触れながら自然な韓国語に翻訳・表現することを学ぶ。また必要に応じて履修者の作文を授業で紹介し、間違いやすい表現や言い回しなど細かい部分について学習する。そのほか、授業では韓国の社会や文化に関する様々な内容の資料を中心としたリスニング＆リーディング練習にも力を入れる。

授業の到達目標

文章の読み方、書き方、さまざまな表現を学習し、作文中心の実践的な語学力の向上を目指す。

成績評価方法

●**試験**　30%　　中間試験、期末試験
●**レポート**　10%　　小レポート
●**平常点**　50%　　出席・授業参加度・日々の課題が含まれます。
●**その他**　10%　　毎回の発言

備考・関連URL

・学期に1回ぐらいは韓国の大衆文化映像を鑑賞し、韓国文化および生きた朝鮮語の表現について学びます。
・スキルアップのため卒業まで韓国語スピーチコンテストへの参加を心がけて下さい（特に毎年12月に行われる早稲田大学のスピーチコンテストにも積極的な参加を期待しています。）

科目名	時事朝鮮語							
担当者名	印　省熙							
朝語	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

韓国のニュースを通して時事関連内容を習得し、ビジネスシーンにも使える韓国語の習得を目指します。各課の内容について、時事用語を調べる事前学習が必要で、時事関連の発表や課題のクリアが必要です。授業では討論も多く、積極的な参加が求められます。

リスニングが苦手な人にはニュース記事の予習が必要です。

授業の到達目標

韓国のニュース記事を中心に時事内容を学びながら、上級レベルのリスニング・スピーキング能力の習得を目指します。

成績評価方法

●**試験**　50%　　期末試験
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　出席、授業への参加度、小テスト、課題、中間発表などで総合的に判断します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

受講者のレベルや参加者によって、上記の授業計画は変更になることがあります。
秋学期に「通訳朝鮮語」を続けて受講することをお勧めします。
本授業は対話型・問題発見・解決型教育の手法を導入しており、Waseda Moodleなどを利用した自律学習を促しています。課題などをWaseda Moodleなどで提出することが求められることがあります。

＜留意点＞　受講希望者は最初の授業に出席してください。
3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。

科目名	通訳朝鮮語							
担当者名	印　省熙							
朝語	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

本授業では、韓国語通訳の基礎的な内容を習得します。
毎回、発音練習のため、韓国語教材やニュースから記事を選び、シャドーイングをします。
そのあと、授業では自己紹介・簡単な挨拶から、インタビュー、ニュース、ビジネス会話、スポーツ、イベント司会など多様なスピーチを逐次通訳する練習を行います。
授業では通訳練習を主にするので、授業資料の単語の調べや内容の翻訳は、事前予習が必要です。なお、リスニングが苦手な人には授業資料の事前リスニングの予習が必要です。
毎回、スピーカーと通訳の役割を担った活動が多いので、授業での積極的な参加が求められます。

授業の到達目標

韓国語通訳の基礎を学びます。

成績評価方法

●**試験**　50%　　期末試験
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　出席、授業への参加度、小テスト、課題、中間発表などで総合的に判断します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

受講者のレベルや参加者によって、上記の授業計画は変更になることがあります。
春学期に「時事朝鮮語」を受講しておくことをお勧めします。
本授業は対話型・問題発見・解決型教育の手法を導入しており、Waseda Moodleなどを利用した自律学習を促しています。課題などをWaseda Moodleなどで提出することが求められることがあります。

＜留意点＞　受講希望者は最初の授業に出席してください。
3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。

科 目 名	第三外国語としての朝鮮語入門1　朝鮮語・入門							
担当者名	岸　加那子							
朝語	2単位	春学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

第三外国語としての朝鮮語の授業です。朝鮮語を初めて勉強する学生を対象としています。週1回の授業でハングル文字の読み方、書き方、初級文法等、朝鮮語の基礎内容を学んでいきます。学んだ文法を使って練習問題を解いたり、ロールプレイなどを並行して行い、学習内容の定着を図ります。

また音楽や映像等を利用しながら、学習への意欲を高めていきます。随時、韓国文化の紹介なども行い、韓国という国についての理解も深めていきます。

授業の到達目標

ハングル文字が読めるようになる。

韓国語で簡単な挨拶、自己紹介ができる。

初級文法を使って簡単な文章を作ることができる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　期末テストを実施します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　出席、授業態度、参加度、小テスト、課題などを総合的に評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	第三外国語としての朝鮮語入門2　朝鮮語・入門							
担当者名	岸　加那子							
朝語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

第三外国語としての朝鮮語の授業です。ハングル文字の読み書きができ、朝鮮語で簡単な挨拶や基本名詞文、自己紹介などができるレベルの学生を対象として授業を進めていきます。

春学期の文法内容に引き続き、秋学期には疑問文、否定文、数字など、朝鮮語の基礎内容を学んでいきます。学んだ文法を実際に使って話せるよう、練習問題やロールプレイなどの応用も並行して行っていきます。

また音楽や映像等を利用しながら、学習への意欲を高めていきます。随時、韓国文化の紹介なども行い、韓国という国についての理解も深めていきます。

授業の到達目標

初級文法を使って朝鮮語の文章を作ることができる。

ネイティブスピーカーと簡単な会話ができる。

成績評価方法

●**試験**　50%　　期末テストを実施します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　出席、授業態度、参加度、小テスト、課題などを総合的に評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	第三外国語としての朝鮮語会話初級1							
担当者名	李　和貞							
朝語	2単位	春学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業は、過去に朝鮮語入門を履修し読み書き及び基礎文法を理解している学生を対象にして日常会話の基礎を学習していきます。独学などで同レベルに達していると見なされる学生も履修ができます。

本講義では、到達目標を目指し「ペア—学習」を中心とした会話中心の授業を進めていきます。本講座の特色は、会話中心の初級クラスであること、週1回の講座であることです。そのために一人一人の積極的な参加や取り組みが非常に重要になっています。毎回の授業では初級文法・文型をしっかり理解してもらい、応用練習のための会話時間を多く取り入れていきます。テキストのみならず、童謡、Kpop、映像など、様々な教材を取りあげながら、楽しく朝鮮語の会話力が身につく授業を目指します。朝鮮語は日本語文法と似ているところが多く、日本人にとって親しみやすい外国語の一つだと言われています。朝鮮語の学習を通して外国語を学ぶ楽しさと大切さを感じてほしいと思います。

授業の到達目標

朝鮮語で簡単な日常会話ができることを目標に授業を進めます。

成績評価方法

●**試験**　50%　　小テスト及び期末試験（期末試験のほかに中間試験を行う場合があります）
●**レポート**　10%　　課題や宿題などの提出物
●**平常点**　40%　　出席及び授業への参加度
●**その他**　0%　　成績評価は、試験、課題提出、授業での態度、欠席、遅刻などを含めて総合的に評価します。

備考・関連ＵＲＬ

授業計画は履修者及び履修者のレベルによって変更することがあります。

科 目 名	第三外国語としての朝鮮語会話初級2							
担当者名	李　和貞							
朝語	2単位	秋学期	水曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業は、前期の「第三外国語としての朝鮮語会話初級1」を履修した学生及び過去に朝鮮語入門を履修し基礎文法を理解している学生を対象にして初級会話の学習をしていきます。独学などで同レベルに達していると見なされる学生も履修できま

す。本講義は、朝鮮語で簡単な自分の意見や意思を伝えられることを目標に授業を進めていきます。週1回の授業であるため一人一人の積極的な授業参加及び取り組みが非常に重要になっています。会話中心の特色を生かし「ペア一学習」を中心とした授業を展開、テキストのみならず、童謡、Kpop、映像など、様々な教材を取りあげながら、楽しく朝鮮語のコミュニケーション力が身につく授業を目指します。

後期の授業では前期より様々な文法や表現が多くでてきますが、日常の場面を想定したロールプレイや会話練習を毎回の授業で取り入れ、朝鮮語で話す・聞く機会を徐々に増やしていきます。

朝鮮語は日本語文法と似ているところが多く、日本人にとって親しみやすい外国語の一つだと言われています。朝鮮語の学習を通して外国語を学ぶ楽しさと大切さを感じてほしいと思います。

授業の到達目標

初級文法を確実に使いこなし、朝鮮語で自分の意見や意思を伝えられることを目標に授業を進めます。

成績評価方法

●**試験**　50%　　小テスト及び期末試験（期末試験のほかに中間試験を行う場合があります）
●**レポート**　10%　　課題や宿題などの提出物
●**平常点**　40%　　出席及び授業への参加度
●**その他**　0%　　成績評価は、試験、課題提出、授業での態度、欠席、遅刻などを含めて総合的に評価します。

備考・関連URL

授業計画は履修者及び履修者のレベルによって変更することがあります。

科目名	アラビア語中級（会話）1							
担当者名	スライマーン　アラーエルディーン							
アラ語	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業は、1年でアラビア語（Step1）と（Step2）を受講した人、または、それに相当するアラビア語の文法と語彙の知識がある人を対象とする授業です。毎回の授業では、一つの場面を想定し、短い文章や練習問題を使い、その場面に使用可能な語彙、文法事項などを確認、学習し、語彙力や場面コミュニケーション能力や表現能力の向上を図ります。

授業の到達目標

自分や他人の行為・習慣・趣味・今後の予定や回りに存在する物・場所などの描写に使用される語彙と表現を身につけることです。

成績評価方法

●**試験**　50%　　各期末に理解度を確認するために試験を実施します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　小テスト、出欠席、授業への参加意欲などをもとに総合的に判断します。
●**その他**　0%

科目名	アラビア語中級（会話）2							
担当者名	スライマーン　アラーエルディーン							
アラ語	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業は、1年でアラビア語（Step1）と（Step2）を受講した人、または、それに相当するアラビア語の文法と語彙の知識がある人を対象とする授業です。毎回の授業では、一つの場面を想定し、短い文章や練習問題を使い、その場面に使用可能な語彙、文法事項などを確認、学習し、語彙力や場面コミュニケーション能力や表現能力の向上を図ります。

授業の到達目標

自分や他人の行為・習慣・趣味・今後の予定や回りに存在する物・場所などの描写に使用される語彙と表現を身につけることです。

成績評価方法

●**試験**　50%　　各期末に理解度を確認するために試験を実施します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　小テスト、出欠席、授業への参加意欲などをもとに総合的に判断します。
●**その他**　0%

科目名	アラビア語中級（読解・作文）1							
担当者名	平　寛多朗							
アラ語	2単位	春学期	水曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

初級文法を学んだ学生を対象とした授業です.

授業ではアラビア語圏で古くから親しまれているジョハーの小話を読みます.
読解を通して，今後アラビア語の文章を読んでいく上で必要となる表現や文法などを学びます.

授業の中心となる表現や文法を各回設定していますが，それ以外でも文章の中で出てきた重要な表現・文法などを適宜取り上げていきます.

授業の到達目標

①辞書を使用し，単語の意味を一人で調べられるようになる.

②母音記号付きのアラビア語の文章を読めるようになる.

成績評価方法

●**試験**　60%　　第15回目の授業中に理解度を確認する試験を行います．　なお出席率が6割を切る場合，試験を受けること

を認めません.
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　40%　　出欠席，授業への積極性，予習などをもとに総合的に判断します．　なお原則30分以上の遅刻は，教室への入室を認めないので注意して下さい.
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	アラビア語中級（読解・作文）２							
担当者名	平　寛多朗							
アラ語	２単位	秋学期	水曜日	３時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要
　この授業では『イーサーの昇天』という物語と『クドゥスはアラブ・イスラムの街』というエッセイを読みます.
　イーサーとはイエスのアラビア語名であり，『イーサーの昇天』はイスラム教徒の子供を対象に刊行されたイスラムの預言者伝シリーズの一部です.
　クドゥスはエルサレムのアラビア語名であり，『クドゥスはアラブ・イスラムの街』は2000年代のエジプトの高校教科書に収録されていたものです.

　これらの読み物を通してアラブ世界への関心を高めると共に，読解に必要な文法や重要表現を学びます.

授業の到達目標
　①母音記号なしでアラビア語の文章を読めるようになる.

　②アラブ世界の文化，歴史観に関する理解を深める.

成績評価方法
●**試験**　60%　　第15回目の授業中に理解度を確認する試験を行います．　なお出席率が6割を切る場合，試験を受けることを認めません.
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　40%　　出欠席，授業への積極性，予習などをもとに総合的に判断します．　なお原則30分以上の遅刻は，教室への入室を認めないので注意して下さい.
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	アラビア語中級（時事アラビア語）１							
担当者名	冨永　正人							
アラ語	２単位	春学期	金曜日	５時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要
　アラブ・イスラーム文化に関するアラビア語メディアの記事を題材に、読解と聴解の練習を行います。

授業の到達目標
　1. アラブ・イスラーム文化やアラブの時事問題への関心を高め、理解を深める。
　2. 自分が関心あるテーマについて、アラビア語のテクストから必要な情報を取り出すことができる。

成績評価方法
●**試験**　70%　　学期末に達成度を確認する試験を実施します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　毎回の授業への参加状況や復習状況などを元に、総合的に評価します。
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ
　授業計画は、あくまでも扱うテーマの目安です。世間の耳目を集める最新の時事問題をタイムリーに扱い、履修生の興味関心に応えられるよう、変更を加えていきます。

科 目 名	アラビア語中級（時事アラビア語）２							
担当者名	冨永　正人							
アラ語	２単位	秋学期	火曜日	３時限	２年以上	—	合併科目	—

授業概要
　アラブの社会問題や時事問題に関するアラビア語メディアの記事などを題材にして、読解と聴解の練習を行います。

授業の到達目標
　1. アラブの社会問題や時事問題への関心を高め、理解を深める。
　2. 世界や日本に対するアラブの視点を知る。
　3. 自分が関心あるテーマについて、アラビア語のテクストから必要な情報を取り出すことができる。

成績評価方法
●**試験**　70%　　学期末に達成度を確認する試験を実施します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　30%　　毎回の授業への参加状況や復習状況などを元に、総合的に評価します。
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ
　授業計画は、あくまでも扱う予定のテーマの目安です。世間の耳目を集める最新の時事問題をタイムリーに扱い、履修生の興味関心に応えるよう、授業計画の内容は変更していきます。

科 目 名	アラビア語上級（会話）1							
担当者名	スライマーン　アラーエルディーン							
アラ語	2単位	春学期	水曜日	2時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、アラビア語中級を受講した人、または、それに相当するアラビア語の文法と語彙の能力がある人を対象とする授業です。毎回の授業では、抽象的または、具体的な話題を想定し、その話題に使用可能な語彙、文法事項などを確認し、語彙力やコミュニケーションや表現能力の向上を図ります。

授業の到達目標

幅広い話題について話す能力を身につけることです。

成績評価方法

●**試験**　50%　　各期末に理解度を確認するために試験を実施します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　小テスト、出欠席、授業への参加意欲などをもとに総合的に判断します。
●**その他**　0%

科 目 名	アラビア語上級（会話）2							
担当者名	スライマーン　アラーエルディーン							
アラ語	2単位	秋学期	水曜日	2時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業では、アラビア語中級を受講した人、または、それに相当するアラビア語の文法と語彙の能力がある人を対象とする授業です。毎回の授業では、抽象的または、具体的な話題を想定し、その話題に使用可能な語彙、文法事項などを確認し、語彙力やコミュニケーションや表現能力の向上を図ります。

授業の到達目標

幅広い話題について話す能力を身につけることです。

成績評価方法

●**試験**　50%　　各期末に理解度を確認するために試験を実施します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　小テスト、出欠席、授業への参加意欲などをもとに総合的に判断します。
●**その他**　0%

科 目 名	アラビア語上級（読解）1							
担当者名	中野　さやか							
アラ語	2単位	春学期	水曜日	3時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

アラビア語初級文法を学んだ人が対象です。最初に絵本などの母音記号付きの簡単な文章を読解し、初級文法の復習を行います。

コーランや古典作品、現代アラブ文学、アラブ地域の語学学校の入試問題、BBCアラビックの記事などの文章から、受講生の文法理解度と興味関心に沿った文章を選び、読解していきます。
読解で学んだ語彙と文法を用いた短文の作文も行います。

授業の到達目標

不規則活用動詞の語根が消える活用や派生名詞でもきちんと語根を把握し辞書が引ける状態で、複雑な文章を読解できるようにすることが目標です。

成績評価方法

●**試験**　20%　　授業中に行う小テストの合計点。理解度の把握に必要と判断した場合、複数回行います。テストの点数が悪かった場合は、間違えた文法事項の書き取りを提出し、それによって加点します。
●**レポート**　60%　　長文読解のシャクルと和訳、作文をレポートとみなします。
●**平常点**　20%　　授業への参加度
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	アラビア語上級（読解）2							
担当者名	中野　さやか							
アラ語	2単位	秋学期	水曜日	3時限	3年以上	—	合併科目	—

授業概要

アラビア語上級（読解）1で行った長文読解を引き続き行います。

また長文読解で学んだ表現を用いた作文や応用問題のテストを行います。

授業の到達目標

アラビア語の文法と文章構造を理解し、一人でも辞書を用いて様々な文章を読解できるようにします。

成績評価方法

●**試験**　40%　　授業中に行うテストの合計点。テストの点数が悪い場合は、間違えた箇所の書き取り問題を行い、加点します。
●**レポート**　40%　　長文に振ったシャクルと和訳をレポートと見なします。また13回から15回の授業で行う応用問題もレポートと見なします。
●**平常点**　20%　　授業への参加度。
●**その他**　0%　　特になし。

講 義 内 容

専　門　演　習

科 目 名	多元文化論系演習（現代中国と道教・民間信仰） 『道教と中国社会』を読む							
担当者名	廣瀬　直記							
多元	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この授業では『道教と中国社会』という本を読みながらグループ発表およびグループディスカッションを行ないます。この本は、道教という中国の伝統宗教が近代以降の新たな宗教運動やあるいは人々の生活のなかにどのようにとけ込んでいるのか、という部分に焦点を当てた論文集です。かつて魯迅が「中国の根底はすべて道教にあり」という言葉を残したことは有名ですが、この本を読みながら、魯迅のその言葉をどう評価すべきなのか、また中国社会における道教の役割は何なのか、などの問題についてみなさんとともに考えてみたいと思います。

授業の到達目標

道教を中心にさまざまな角度から中国の宗教文化に対する理解を深めてほしいです。

成績評価方法

●**試験**　30%　　理解度の確認。
●**レポート**　0%　　ありません。
●**平常点**　20%　　ディスカッションへの貢献度。
●**その他**　50%　　グループ発表と要約の提出。

科 目 名	多元文化論系演習（中国現代文化）							
担当者名	高屋　亜希							
多元	2単位	秋学期	金曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

中国現代文化について、一般的なイメージは海賊版や剽窃など、ネガティブなものではないでしょうか？しかし、それは現象の一面にすぎません。本演習では、中国現代文化が抱える諸課題、それに対応するための制度改革や実践などについて、個々の成果に即して、その社会的意味や歴史的経緯、海外文化との関係など、さまざまな視点から検討していきます。

本演習は、受講者の発表を中心に進めます。扱うジャンルはメディア・映画・建築・美術・文学などを予定していますが、受講者の興味・関心を聞いた上で決めたいと思います。

授業の到達目標

本演習の目標は、中国現代文化の状況やその社会的・歴史的背景について理解を深め、ジャンルごとに把握することです。またそれを踏まえた上で、個々の文化事象を社会的にどう位置づけたらよいのか、考える力を養うことを目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　授業内で発表したテーマについて、レポート（3000字程度）をまとめてもらいます。幅広く資料調査を行った上で、独自の視点から考察してあるものを評価します。
●**平常点**　50%　　出席を重視する他、発表の内容、質疑など授業への積極性を評価します。3分の2以上の出席が評価の対象となる他、授業内で必ず1回発表してもらいます。
●**その他**　0%

備考・関連URL

中国語の知識は特に求めませんが、日本語で読める中国現代文化の資料はごくわずかです。中国語資料を積極的に利用することを期待しています。

科 目 名	多元文化論系演習（現代英語圏フィクション） 英語で書かれた小説の読み方							
担当者名	小田島　恒志							
多元	2単位	夏クォーター	月1時限	木1時限	2年以上	—	—	—

授業概要

イギリスの短篇小説を読む。

ただ読んで内容を理解するのではなく、いかに様々な「読み」が可能か、グループ別に話し合って発表してもらう。と、今度はグループごとに様々な「読み」をしていることが分かる。では、どうしてそうなるのか・・・実は、指定の小説には巧みな「語り」の誘導があって、唯一無二の真実を提示してはいない。各自それぞれ「私はこう読む。なぜなら・・・」と自己主張するつもりで参加して欲しい。

授業の到達目標

原書を正確に読む語学力をつけると同時に、「正確」に読みながらも「読み」にはさまざまな可能性があることを体感する。

成績評価方法

●**試験**　60%　　最終授業で試験を行い、理解度を確認する。
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　40%　　グループ発表など、activity を総合的に判断する。
●**その他**　0%

科 目 名	多元文化論系演習（現代ヨーロッパの諸問題） 現代ヨーロッパの諸問題を研究するにあたっての基礎を学ぶ							
担当者名	中澤　達哉							
多元	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

これまでの大学での学修を基礎に、受講生自身の興味や関心に沿ってテーマを定め、現代ヨーロッパ史研究の第一歩を踏み出すための演習である。研究の設定、進め方、手続きのほか、プレゼンテーションの仕方、レポートや論文の作成方法、各種文献・学術論文・図表などの扱い方や読解方法など、具体的かつ詳細に学ぶ。以上の手続きの他、ゼミ論文に向けての導入となるオリエンテーションも行う。これによって、ゼミ論文を控えた大学生に不可欠なアカデミックスキルを習得することができるだろう。

具体的なスケジュールとしては、まず演習前半において、ゼミ論文に向けた研究テーマの設定のために、現況において関心の

あるいつくかのテーマに関する複数の著書・学術論文を自らの手で収集する。収集の前提として、本学図書館のほか国立国会図書館の蔵書検索システムや、国立情報学研究所の学術論文検索システム（CiNii Articles）の利用方法を演習で学ぶ。その知識を踏まえ、数冊の著書、数本の論文を入手し、ここから読み込みをはじめ、研究テーマを絞る作業を行う。

授業の到達目標

以上のプロセスにおいては、レジュメ作成あるいはパワーポイントによる研究報告が不可欠である。より良いレジュメ作成の方法やパワーポイントによる効果的なプレゼンテーション方法を習得する。要点を簡潔にまとめ、それを適切な言葉を使用して、明白に他者に伝える技能は、現代ヨーロッパ史研究にとって不可欠なアカデミックスキルであるが、就職後においても重要なソーシャルスキルにもなる。将来に有用な技能やノウハウを学ぶことも本演習の目的となる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　50%　　レジュメ発表、パワーポイント発表を、提出レポートとして理解し、総合的に判断する。 正確かつ論理的なレジュメ、パワポを作成することができる。
●**平常点**　50%　　授業内容を理解し、質問などを通して、授業に積極的に参加している。
●**その他**　0%

科 目 名	多元文化論系演習（フランス近現代文化） フランスとは何か・フランスを考える							
担当者名	森原　隆							
多元	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「フランス」を文化、歴史、政治、思想などさまざまな観点から検討することで、今日の現代世界、及び、西洋世界における「フランス」のもつ普遍性や特殊性を考察してゆきたい。とくに、フランスの歴史の流れに基盤をおきながら、多方面に展開する「フランス文化」の意義や意味を再考する。

演習は主に次の3点を適宜あわせながら行ないます。

とくにグループ（個別）プレゼンテーションが中心となりますので、いずれも出席者の自発的、積極的な参加が必要です。

1. フランスに関する文献（和文または英文）の輪読
2. フランスに関する個別テーマでのレクチャー
3. フランスに関するグループまたは個人でのプレゼンテーション

授業の到達目標

「フランス」について、さまざまな角度から検討することで、受講生がそれぞれ独自のフランス像を構築することを目指す。

成績評価方法

試験: 0%
レポート: 0%
平常点評価: 100%　出席と平常点
その他: 0%

専門演習

科 目 名	多元文化論系演習（北欧近現代文化） 北欧の多元性と共通性を考える							
担当者名	大溪　太郎							
多元	2単位	秋学期	金曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

北欧には福祉国家、男女平等、デザインなど様々な視点から関心が向けられているが、それはややもすると過度な理想化や礼賛に流れやすい。その背景には北欧の諸国・諸地域それぞれの有する歴史的経験が捨象され、「北欧」という一つの自明の存在がイメージされて独り歩きしていることがあるのではないか。また現代の北欧の国・地域もそれぞれ課題を抱え、常に変化しつつあることは言うまでもない。本演習では、近現代北欧の諸問題についての履修者の研究発表と討論を通じて、北欧の多元性を踏まえた上でどのような共通性が見出せるのかを考えていきたい。

授業の到達目標

履修者が、近現代北欧の社会・文化の諸問題について、その歴史的背景と諸国・諸地域の共通性・差異を理解したうえで論理的に考察し発表できるようにする。異なる地域文化を主体的な問題意識をもって学ぶための視点と方法を身につけることを目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　30%　　各自の研究発表と教室での討論を踏まえた課題レポート。
●**平常点**　70%　　発表の内容、議論への積極的な参加を評価する。発表担当回の無断欠席者は成績評価の対象としない。
●**その他**　0%

科 目 名	多元文化論系演習（ドイツ近現代文化） ドイツと東欧ロシアのややこしい関係							
担当者名	山本　浩司							
多元	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

今でこそドイツは欧州のリーダー面しているが、およそ百年まえまでは「西欧対ドイツ」という対立図式が普通だった。例えば、後にはデモクラシーの擁護者になる作家トーマス・マンは第一次大戦前夜に熱烈に国粋論的論陣を張った。そもそも17世紀の三十年戦争の後遺症で産業化や民主化において英仏に周回遅れとなったドイツは、統一のなった19世紀末になって懸命の巻き返しを図るものの、急速な近代化は大きな歪みを伴い、それが反動思想の温床ともなる。英米先進国に対する劣等感が募れば募るほど、ちょうど日本の脱亜入欧に似て、後進の東欧ロシアに対する優越感で補償しなければならなかった。この延長線上に20世紀のドイツ＝東欧ロシア史の不幸はある。しかし近隣関係は決して一方通行ではありえない。とくに文化領域ではさまざまな生産的な接触が行われてきた。オーストリアも含むドイツ語圏と東欧ロシア間の文化接触の諸相に迫るべく、本演習では、各回ともテーマに合わせたテキストを用意し、それに関する個別発表とディスカッションを行なう。

授業の到達目標

ドイツ文化の多元性を東欧ロシアとの接触から読み取り、ナチズムのような純潔主義思想の限界を学びとる。これは近代化競争に一歩遅れて二等国に転落するかもしれない恐怖からより強権的になっていった1.5等の国々に共通する問題であり、今日の自国第一主義という政治的ナルシズムに対して批判的な洞察を可能にすることが期待できる。

成績評価方法

●**試験**　40%　　教場レポート
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　60%　　出席点と発表。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	多元文化論系演習（西洋古典研究）　伝アリストテレス『アテナイ人の国制』を読む							
担当者名	内川　勇海							
多元	2単位	春学期	水曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

古代ギリシアの哲学者アリストテレスの著作を読む。アリストテレスは論理学、生物学、政治学、倫理学など様々な学問分野における著作で知られる。本演習ではアリストテレス自身あるいは彼の弟子が執筆したと考えられている『アテナイ人の国制』の日本語訳を読み、その内容について報告・討論を行う。

授業の到達目標

西洋古典学全般についての知見を深めるとともに、古代ギリシア史や古代アテナイの政治・司法制度についての知識を獲得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　40%　　3000~4000字程度のレポートを課し、その内容によって評価する。
●**平常点**　60%　　出席状況や報告・議論内容によって評価する。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

古典ギリシア語の知識があることを必須とはしない。ただし余力のある受講者は、テキストとして用いる日本語訳に加えて、英訳やギリシア語原文も参照してほしい。

科 目 名	多元文化論系演習（神話の発生と社会）　記紀神話と社会							
担当者名	高松　寿夫							
多元	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

『古事記』『日本書紀』はいずれも奈良時代前期に成立した歴史書であるが、その冒頭は、天皇家の祖先を主人公とする神話的色彩が濃厚な内容になっている。それらを総称して「記紀神話」と唱えたりする。『古事記』と『日本書紀』の「神話」は、大筋においてほぼ同様の展開を有するが、細かなところには相違点も見られる。それら共通点と相違点の双方に注目しながら、「記紀神話」は総体としてどのようなことを語ろうとしているのか、また、『古事記』と『日本書紀』との相違点は、どのような主張の違いを反映するのかといったことを、背景にある時代性や社会性と関わらせつつ考える。

「背景にある時代性や社会性」と言った場合、とりあえずは、大きく2つの場合が考えられる。ひとつは『古事記』『日本書紀』が成立した8世紀前半のそれ、もうひとつは、それよりはるか以前の、対象の神話が形成された時期のそれである。『古事記』『日本書紀』の神話を、記載された文字テキストとして扱う一方で、それ以前の原型的神話を探る資料として扱う可能性もさぐってみることができるだろう。そして『古事記』『日本書紀』といった文献は、現代にまで継承される間にも、さまざまなかたちで受容されてきた。個々の神話・説話は、一貫した受容のされ方をしたのではなく、それぞれの時代の状況下において、さまざまな解釈や変容を被っている。そのような原態からの変化も、いうなればそれぞれの時代における「神話の発生と社会」の問題であった。その意味で、各神話の後世における受容についても話題にしたいと考えている。

授業の到達目標

『古事記』『日本書紀』の読み方の基本的な方法を身につける。必要な知識・情報を得るためにどのような文献・ツールをどのように駆使すればよいのかをひととおり理解し、新たな問題点をみずから見出し、考察する力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　授業の流れにそって個別に課題を課し、調査・考察の結果を授業中に報告してもらう。
●**平常点**　50%　　授業への参加姿勢（他人の報告に対する質疑も含む）。
●**その他**　0%

科 目 名	多元文化論系演習（経書研究）　『論語集解』を読む							
担当者名	高橋　康浩							
多元	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

中国思想史は、古典の解釈史です。最も有名な古典である『論語』は、日本と中国を合わせると3000種以上の注釈（解釈）があると言われています。それらの中から、三国時代の何晏がまとめた『論語集解』をとりあげ、注釈をていねいに読解することで、東洋哲学の基礎知識と方法を学び、あわせて、中国古典文（漢文）読解力の深化をめざします。

授業の到達目標

『論語集解』の読解を通じて、中国古典解釈学を学び、白文を読みこなせる力を涵養します。また、漢から魏にかけての注釈を読むことで、当時の中国思想の理解を目的とします。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　授業の理解度を踏まえてレポートを課します。

●**平常点**　60%　　輪読には積極的に参加してください。
●**その他**　0%

備考・関連URL

『論語集解』は、早稲田大学古典籍データベースより画像ファイルをダウンロードできます。
http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/html/ro12/ro12_00525/index.html

科 目 名	多元文化論系演習（超領域的伝統形成）『伝習録』を読む―陽明学の世界―							
担当者名	永冨　青地							
多元	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	―	―	―

授業概要

陽明学は明代中期に誕生し、明代後期、そして江戸期の日本の思想界に大きな刺激を与えた。
本演習では、江戸期に刊行された和刻本によって、陽明学の基本的文献である『伝習録』の下巻を巻首より読んでいく。
本演習の内容は、中国思想および江戸期の思想に興味を有する学生にとって有用であると信じる。
意欲のある学生諸君の参加を得れば幸いである。

授業の到達目標

和刻本とそれに付された注釈とによって、思想的文献の読解を可能とすることを目指す。

成績評価方法

授業中の応答に、出欠および遅刻などを加味して評価を行う。

科 目 名	多元文化論系演習（東アジアの伝統と宗教文化）東アジアの伝統と宗教文化							
担当者名	垣内　景子							
多元	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	―	―	―

授業概要

中国で生まれ、日本をも含む東アジアの広い地域で絶大の影響力をもった朱子学について学ぶ。授業では、朱子学の祖の朱熹の語録『朱子語類』を抜粋して精読する。『朱子語類』には、朱熹とその門人たちとの会話が記録されているが、彼らが話題にする範囲は、単なる道徳的人生訓にとどまらず、自然や怪異現象、人間の本質や心の問題から歴史や文学に至るまで実に幅広い。彼らの興味の世界を概観することを通して、西洋文化に出会う以前の東洋の知のあり方を見つめ直す。
『朱子語類』は、中国近世の独特の口語体で書かれた文献である。この授業を通して、原典文献を読み解くという作業の一端に触れてほしい。ただし、漢文の知識があまりなくても支障はない。

授業の到達目標

東アジアの思想原理ともいうべき朱子学についての基礎知識を得、東洋的知の世界を理解する。
原典文献を読み解くことを通じて、思想研究の基礎作業を体験する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　担当箇所を指定して、訳注を提出してもらう。
●**平常点**　50%　　授業に対する積極性を評価する。
●**その他**　0%

専門演習

科 目 名	多元文化論系演習（日本宗教の伝統と変容）『沙石集』をよむ							
担当者名	平澤　卓也							
多元	2単位	秋学期	火曜日	6時限	2年以上	―	―	―

授業概要

仏教伝来以後、日本の神祇信仰は次第に仏教の世界に組み込まれ、両者は密接に関連しながら発展した。その結果、平安時代には、本地である仏・菩薩が衆生救済のためこの世界に現れたのが在地の神々であるとする本地垂迹説が広まった。更に鎌倉時代になると、より人々に身近な存在である神祇に対する関心が高まり、神についての物語を数多く収める説話集が編まれるようになる。今回取り上げる、諸宗兼学の学僧無住（1226-1312）によって撰述された『沙石集』も、そうした文献の一つであり、当時の神観念を知る上で極めて重要な説話集といっていいだろう。本演習では、この無住によって記された信仰世界を、輪読形式で丁寧に読み解いていく。

授業の到達目標

中世の説話集を精読しその特質を理解するとともに、基本的な資料の集め方、調べ方、発表の仕方を修得する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　演習で担当した箇所に関するレポートを作成し提出してもらう（3000字以上）。
●**平常点**　60%　　発表内容や受講態度などを総合して判断する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

単位の修得には、次の3点を満たすことが必要である。①担当箇所の発表、②レポートの提出、③全15回中3分の2以上の出席。その他の授業の進め方については、初回の授業時に詳しく説明する。

科 目 名	多元文化論系演習（宗教の文化史）Religion and American Society							
担当者名	チャン　エドワード　ケイ							
多元	2単位	夏クォーター	火5時限	金6時限	2年以上	―	―	―

授業概要

This course will provide an overview of the various religious traditions in the United States, including American Indian religions, Christianity, Judaism, Islam, Scientology / new age religions, and atheism. The course will be conducted entirely in English, and students should be prepared to speak in English each week.

授業の到達目標

Students will learn about the various religious traditions and their social contexts in the United States. Students will also utilize their English-language reading, writing, listening, and discussion skills.

成績評価方法

Reading quizzes (6 x 10 pts) 30%
Group presentation 25%
Project 25%
Participation/In-class activities 20%

科 目 名	多元文化論系演習（海域文化交流史） ルイス・フロイス『日本史』を日本語でよむ・第5期							
担当者名	伊川　健二							
多元	2単位	夏クォーター	火2時限	金2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

ルイス・フロイスは1563年に来日し、1597年に没するまでの多くの期間を日本布教に従事したイエズス会士で、その著作『日本史』は著名である。

その一方で、柳谷武夫訳は第3部まであるなかの第1部のみの重訳であり、松田毅一、川崎桃太訳は原書の秩序を再構成しており、第1部から第3部までを原秩序に沿って読むことができる邦訳は存在しない。

本演習では、既存の邦訳に依拠しつつ、原秩序にしたがい読み進めていく。報告者は、担当箇所の要約を作成するとともに、追加情報を補い、書面で共有することで、フロイス『日本史』への理解を深める。

本演習は1学期間で完結するが、フロイス『日本史』は伊川が担当する他の演習でも継続して読み進めていく。本演習では、第1部90章から第1部第115章までを予定しているが、適宜変更することがありうる。

授業の到達目標

フロイス『日本史』が描き出す、戦国から織豊期にかけての日本を、可能な限り日本側の情報を照合することで、虚実にせまり、異文化理解の複雑さを理解する。

口頭報告に使用した書面の資料は、保存してフロイス『日本史』を主たる素材とする他の演習や、出版にも使用することがありうる。

以下の具体的内容はあくまで予定であり、受講者との相談によるなどの事情により変更される可能性がある。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　70%　　演習における口頭報告および配布資料（2回）
●**平常点**　30%　　出席および授業時間中における発言
●**その他**　0%　　※ただし、以下の条件にひとつでも当てはまる者は、原則として事情の如何を問わず不合格とする。　・初回の割振りに欠席した者　・発表担当回に欠席、あるいは出席しても発表できなかった者　・出欠を確認した回の半数以上を欠席した者（半数を含む）

科 目 名	多元文化論系演習（東アジアの国際秩序）							
担当者名	小二田　章							
多元	2単位	夏クォーター	月2時限	木2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

東アジアの諸民族・国家間の関係とその秩序は、中国の諸王朝が歴史的にその中心となって構築・変遷してきた。本演習は、東アジアの歴史的内容にて研究を行いたい者の基礎を養成する目的を兼ねて、前近代の中国から見た国際秩序を中心の題材とした概説・史資料輪読を行う。具体的には、教員が古代～近世まで、中国の歴史時期毎に国際秩序に関する概説を行い、その後各時期毎の国際秩序に関するトピックについて、学生が準備した研究整理・議論に対し教員と参加者がディスカッションを行う。そして、日程の終盤には、演習の成果確認を兼ねて、学生が自分の興味ある国際秩序問題についてミニ報告を行う。

授業の到達目標

概説と史料輪読を通じ、歴史的に積み重ねられてきた国際秩序のありようと背景を理解させると共に、自身で読解できる力をはぐくむ。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　40%　　授業への参加度（20%）＋毎回の授業への貢献（20%）。
●**その他**　60%　　①第3～12回の偶数回において、参加者は必ず1回、その回のキーワードになっている単語について、ディスカッションのたたき台となるレジュメを作成する。（30%）　②第13～14回にかけて、参加者は必ず1回、自分の関心のある国際関係についてミニ報告またはその史料読解レジュメを授業に提示する。（30%）

備考・関連URL

本演習は、ゼミ論文・卒業研究に向けた「歴史」研究実践の入り口となる側面を持つ。高校までで世界史・日本史などを履修しなかった学生など、初学者の学生も歓迎する。学生は授業の奇数回（月曜）において講師による中国の前近代の国際秩序の概説を聞き、偶数回（木曜）にその内容を踏まえたディスカッションを行う。なお、講義回の1回分は、該時期の国際関係を専門とする研究者のゲスト講義を行う予定である。演習の終盤には、学生が自分の関心ある国際秩序問題についてミニ報告を行うが、その内容は日本語のレジュメを条件に、「国際秩序」に関するものであれば地域・言語・時期を問わない。歴史に興味のある学生の幅広い分野からの参加を心より願うものである。

科 目 名	多元文化論系演習（仏教文化交流）『今昔物語集』天竺部を読む							
担当者名	吉原　浩人							
多元	2単位	春学期	火曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要

【注意】

本演習は、一人一回の発表を義務づけており、発表日程は4月に決定する。しかし、発表の直前になって就職活動などのため、日程変更を申し出る学生がいる。二週間以上前ならば対応できるが、直前の申し出には対応できないので、そのような可能性のある学生は、登録を遠慮していただきたい。

【校外学習】

本演習は「文化交流創成コーディネーター資格」認定制度2020の選択科目として指定されている。そこで、仏教文化交流を仏像や絵画などの文物を鑑賞することによって体感してもらうため、東京国立博物館などにおいて二回程度の、校外学習を実施する。時期は未定であるが、座学の演習に振り替える形で、金曜日の夜など、多くの学生が参加できる時間帯に設定する。指定日時に授業などで参加できない学生は、各自の都合のよい時間に参観し、後日小レポートを提出してもらう。早稲田大学学生は、「東京国立博物館キャンパスメンバーズ」となっているので、特別展以外は無料のため、学生証を忘れないこと。

【内容】

本演習では、大陸と日本の仏教文化交流についての、さまざまな事象を取りあげる。本年度は、仏教あるいはインドの文化が、どのように日本に受容されたかを探るため、『今昔物語集』天竺部（巻一〜五）のうちの何話かを、担当を決めて輪読していく。

日本最大の説話集『今昔物語集』は全三十一巻からなり、天竺・震旦・本朝の三部構成からなり、エピソードで綴る世界仏教史といった趣きを持つ。そのうち天竺部は、仏陀の伝記に始まり、仏在世中の仏教の展開、仏の前世譚、仏後の展開までが語られる。本集を一話一話精読することによって、平安後期のインド仏教ならびにインド思想理解の実態に迫っていきたい。

最初に、『今昔物語集』の基礎知識について概説し、調査・発表の方法についても指示する。その後、いくつかの話を提示した上で、担当希望箇所を決める。毎回の学生諸君による発表と、全員参加の質疑・討論により授業を進めていくため、積極的に授業に参加することが必要になる。

なお、オンデマンド授業において、辞書の使い方、参考文献検索の方法などについて講義する。

授業の到達目標

『今昔物語集』天竺部の精読によって、仏教史の基礎知識を身につけ、平安時代における大陸と日本の文化交流の具体相を知ることができる。また、東京国立博物館の所蔵品などを通して、インド・中国・日本の文物を参観し、その背景について学習する。

成績評価方法

レポート60%：校外学習小レポート2回、発表についてのレポート1回。小レポートを期限までに提出しない場合は、以後の出席資格がなくなる。

平常点評価40%：発表内容を重視するが、質問を積極的に行い、授業に参加する態度も採点に加味する。当然のことであるが、三分の二以上の出席が、単位授与の必要条件となる。

備考・関連URL

原典を提示して読解するので、高等学校卒業程度の古文・漢文の基礎知識が必要である。例年、発表の義務を果たさず、他の学生に迷惑をかける学生が多い。勉学に対する意欲ある学生のみ、登録してほしい。

なお、本演習は「文化交流創成コーディネーター資格」認定制度2020の選択科目として指定されている。

専門演習

科 目 名	多元文化論系演習（アジア地域文化交流） ルイス・フロイス『日本史』を日本語でよむ・第6期							
担当者名	伊川　健二							
多元	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

ルイス・フロイスは1563年に来日し、1597年に没するまでの多くの期間を日本布教に従事したイエズス会士で、その著作『日本史』は著名である。

その一方で、柳谷武夫訳は第3部まであるなかの第1部のみの重訳であり、松田毅一,川崎桃太訳は原書の秩序を再構成しており、第1部から第3部までを原秩序に沿って読むことができる邦訳は存在しない。

本演習では、既存の邦訳に依拠しつつ、原秩序にしたがい読み進めていく。報告者は、担当箇所の要約を作成するとともに、追加情報を補い、書面で共有することで、フロイス『日本史』への理解を深める。

本演習は1学期間で完結するが、フロイス『日本史』は伊川が担当する他の演習でも継続して読み進めていく。本演習では、第1部116章から第2部第25章までを予定しているが、適宜変更することがありうる。

授業の到達目標

フロイス『日本史』が描き出す、戦国から織豊期にかけての日本を、可能な限り日本側の情報を照合することで、虚実にせまり、異文化理解の複雑さを理解する。

口頭報告に使用した書面の資料は、保存してフロイス『日本史』を主たる素材とする他の演習や、出版にも使用することがありうる。

以下の具体的内容はあくまで予定であり、受講者との相談によるなどの事情により変更される可能性がある。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない

●**レポート**　70%　　演習における口頭報告および配布資料（2回）

●**平常点**　30%　　出席および授業時間中における発言

●**その他**　0%　　※ただし、以下の条件にひとつでも当てはまる者は、原則として事情の如何を問わず不合格とする。　・初回の割振りに欠席した者　・発表担当回に欠席、あるいは出席しても発表できなかった者　・出欠を確認した回の半数以上を欠席した者（半数を含む）

科 目 名	多元文化論系演習（東アジアの言葉と書物） 日本に伝来した漢籍をめぐって							
担当者名	河野　貴美子							
多元	２単位	春学期	火曜日	２時限	２年以上	—	—	—

授業概要

中国、韓国、ベトナム、日本など、東アジアの国々では、今でこそ異なる言語、文字が用いられているが、かつては広く漢字を共通の表記文字として使用していた。漢字で書かれた書物は、国を越え、海をわたり、文化の伝播に大きな役割を果たしたのである。しかし、それらの書物は、すべての地域においてひとしく中国語で読まれたわけではない。同じ書物であっても、それぞれの地域ごとに、それぞれの言葉や文化背景のもとに読み解かれていったのである。

本演習では、このいわゆる漢字文化圏における言葉と書物の問題にせまる手がかりとして、日本に伝えられた中国の古典籍（漢籍）をとりあげる。はじめに、日本に伝来した漢籍に関する基本事項や研究史、研究の対象となりうるテーマなどについて概説し、その後、各人の関心にしたがって分担調査して発表を行っていく。

たとえば、中国古典を代表する作品である『論語』は、『古事記』に既に日本への伝来記事がみえる。それでは、古代日本で『論語』はどのように読まれたのであろうか。中国語で読まれたのか。訓読はいつから行われたのか。そして、どのような人々が何を目的としてどのように『論語』を学んだのか。また、かつて『論語』はどのような姿の書物であったのか。現代の注釈書や日本語訳は何に基づいて作られているのか。また、日本人の著作に『論語』の影響はどのように現れてくるのか。さらには、現代を生きる我々にとって『論語』とはいかなる存在なのか。

書物の伝播は、さまざまな文化的事象を伴い、新たな変化をも引き起こす。中国、日本、そして東アジアの言葉と書物をめぐる文化の諸問題について、さまざまな角度から切り込み、考察を試みていきたい。

授業の到達目標

漢籍の伝来がもたらした日本語や日本文化への影響を多面的に検討することによって、東アジアに展開した漢文化の特質を理解することをめざす。また、各自の興味関心を出発点として資料を調査、収集、整理、分析し、学術的な口頭発表を行うことにより、文化を対象とする研究の方法とスキルを身につける。

成績評価方法

●**試験**　30%　　理解度の確認
●**レポート**　0%　　行わない
●**平常点**　70%　　発表（40%）、授業への参加状況（30%）
●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

漢文資料を含むさまざまな文献に触れることになろうが、調査・発表を通じてそうした文献の取り扱いにも習熟できるよう配慮しながら進めていきたい。

科 目 名	多元文化論系演習（遊牧・オアシス文化論） 中央アジアの歴史と文化							
担当者名	河原　弥生							
多元	２単位	秋学期	火曜日	２時限	２年以上	—	—	—

授業概要

中央アジア（主に旧ソ連五ヶ国及び中国の新疆ウイグル自治区を対象とする）は、イスラーム文化圏の一部であるが、多様な民族を内包し、社会主義国家を経験するなど特徴ある歴史を歩んできた。本演習では、中央アジアの自然環境、イスラーム化以降の歴史、言語、芸術文化、近年の紛争など様々な問題について、教員が概説を行った後、受講者が各自の関心に従ってテーマを選択し、その内容を発表する。

授業の到達目標

中央アジアの歴史と文化に対する理解を深めるとともに、各自の発表と質疑応答・討論を通じて発表技術を向上させることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　授業時に各自が発表した内容を増補改訂し、期末にレポート（3500～4000字）として提出する。
●**平常点**　50%　　授業時の発表内容、質疑・討論への参加度などによる。
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

報告担当箇所と日程を決めるため、第一回の授業には必ず出席すること。

科 目 名	多元文化論系演習（歴史の遺産と表現） 映画に見る江戸落語の滑稽とイギリスのセンス・オブ・ヒューモアの比較							
担当者名	池澤　一郎							
多元	２単位	秋学期	木曜日	３時限	３年以上	—	—	—

授業概要

本演習では、落語の趣向をふんだんに取り入れた山田洋次監督の映画作品とイギリスからアメリカに渡ったビリー・ワイルダー監督の映画作品とを綿密に鑑賞し、その江戸的滑稽味と英国的sense of humour を比較することを主眼とする。山田洋次監督は当初黒澤明監督のスペクタクルロマンを尊崇し、やがて小津安二郎監督や成瀬己喜男監督の日常生活の細部のきらめきを掬い取る作風の作品に傾倒する。ビリー・ワイルダーの先蹤は言わずと知れたエルンスト・ルビッチであるが、ワイルダーもルビッチも映画の作劇術において笑いの要素を重視している。山田洋次監督もビリー・ワイルダーも先輩の監督の手法を継承発展させようと試みた伝統重視の姿勢を堅持した人といってよい。参加者には山田洋次監督作品に影響を及ぼした落語をまず鑑賞してもらい、それについての報告を分担して行ってもらう。次に最も落語的要素に富む映画作品の鑑賞をしてもらってから、落語的要素をいかに摂取しているかを具体的に指摘する報告を行ってもらう。次にビリー・ワイルダー監督作品の鑑賞を行い、その中に現れるヒューモアについて具体的事例を列挙説明する報告を分担して行ってもらう。最後に山田洋次監督の落語的滑稽とビリー・ワイルダー監督作品のヒューモアとの比較を総合的に行う報告をなしていただく。余力あらば、やはりイギリス出身のアレフレッド・ヒッチコック監督のサスペンスロマンにおけるヒューモアの効果についても映画鑑賞の後に報告を行っていただく予定である。

授業の到達目標

まず参加者には、江戸・明治伝来の落語が決して表層的、ポップな笑いを醸すだけでなく、悲喜こもごもの複雑な人間心理を土台とするものであることを認識してもらい、落語についての一家言を備えてもらいたい。日本人はおおまかにいって、深刻な事件や悲劇的要素を扱った藝術を重視し、滑稽笑いの要素を軽視する傾向にあるが、それは大きな誤りであることにも気づいてもらいたい。次に現存する日本の映画監督の中で、いかに伝統性重視の山田洋次が優れているかを把握してもらい、ビリー・ワイルダー監督やアレフレッド・ヒッチコック監督がいかにイギリス的センス・オブ・ヒューモアに満ちた脚本を書いた人であったかの認識を深めてもらうことを目途とする。

成績評価方法

毎回の分担報告の事前の調査準備の質如何と発表時の熱意や創意工夫、レポートの文章の明晰さや演習参加時の情況がいかにビビッドに反映されているかなどによって評価する。

科 目 名	多元文化論系演習（海外華人文化）							
担当者名	高屋　亜希							
多元	２単位	春学期	金曜日	５時限	２年以上	—	—	—

授業概要

中国の移民の歴史は長く、移住先も東南アジアを中心に世界各国に広がっています。大量の移民が流出するようになったのは近代、とりわけ文革が終わった1970年代末以降のことで、現在もその流れは続いています。その一方で、1990年代後半に入ってからは、発展めざましい中国に将来性を見いだし、香港や台湾などの出身者を含む多くの華人が、中国のさまざまな場面で活躍するようにもなってきました。こうした国境や国籍に縛られることなく移動・連携する海外華人の問題は、グローバル化が進む今日において、私たち自身の問題でもあるのではないでしょうか？

本演習では、海外華人が抱える社会的事情や歴史的背景について概観した上で、彼らが果たしている社会的・文化的役割などを、受講者の発表を中心に具体的事例に沿って考えていく予定です。

授業の到達目標

本演習は2つの目標を設けています。1つは、海外華人の歴史的変遷、移民先の社会で移民が抱える問題や果たしてきた文化的役割などについて、基本的な理解を得ることです。もう1つは、その基本的理解を踏まえた上でそれぞれ資料調査等を行い、具体的な事例の分析に応用する力を養うことです。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　50%　　発表で扱ったテーマを更に発展させたレポート（3000字以上）を提出してもらいます。先行研究を丁寧に調査し、それを踏まえて独自の考察をしているかどうかを評価します。

●**平常点**　50%　　出席の他、発表の内容、および発表に対する質疑など、授業への積極性を評価します。3分の2以上の出席を評価の対象とする他、授業内で必ず1回発表してもらう予定です。

●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

中国語など外国語の知識は特に求めません。ただし日本語で読める資料は限られているので、積極的に外国語資料を利用することを期待しています。

専門演習

科 目 名	多元文化論系演習（ヨーロッパとアジアの接触）							
担当者名	源　貴志							
多元	２単位	秋学期	金曜日	４時限	３年以上	—	—	—

授業概要

ヨーロッパとアジアの、とくに文化的な面での接触について、さまざまなトピック・事件を、あらためて今日的な視点から検証し、異文化接触の現場に思いを馳せ、ひとつの文化がどのようにして多元的・多層的な構造として成立していくかを考える手がかりとします。

授業としては、各自、興味を持っている接触（トピック・事件）について、できるだけ実証的な資料の検討に基づいた口頭発表をしてもらい、ディスカッションを通じて、その歴史的・文化史的な意味を考察していきます。

とりあつかう事件・トピックは、ヨーロッパとアジアそれぞれの、どの国・地域のあいだのものでもかまいませんし、また、古代から現代まで、時代も限定しません。

授業の到達目標

演習形式の授業ですので、履修者にそれぞれの興味にもとづいてテーマを設定してもらい、他の履修者の興味を効果的に喚起する、個性を生かした発表を進めることができるようにすることが目標となります。もちろん、教員の側から随時研究上の基礎知識が得られるような情報提供を行ないます。

成績評価方法

各自の発表をもとに、他の履修者から得られた意見などを取り入れて学期末までにレポートを作成してもらいます（40%）。また、教場での口頭発表の内容やディスカッションの実践を評価します（60%）。なお、教室での発表とディスカッションが中心の授業ですから、出席重視です。

備考・関連ＵＲＬ

口頭発表で扱うトピックは各自の関心で自由に選んでもらいますが、1年次に履修する基礎外国語を専門科目で活かす機会としても考えることができると思います。

科 目 名	多元文化論系演習（ミュージアムにみる「ヨーロッパ」-文化触変の形跡を探る-）　文化触変の形跡を探る							
担当者名	渡辺　愛子							
多元	２単位	集春	火１時限	土その他	２年以上	—	—	—

授業概要

「ヨーロッパ」という言葉を聞くと、なにやら統一された一地域のようなイメージをもつ者も少なくないだろう。それはヨーロッパ各国が協調、議論を重ねて作り上げた欧州連合(EU)に付随する印象かもしれないし、その申し子ともいえる同一通貨ユーロの影響かもしれない。しかし、近年のEUは、ユーロ圏北部と南部の大きな経済格差や地域的な諸問題を全世界に露呈したか

たちとなり、数十年発展をともにしたイギリスは離脱の道を選ぶという、まさに混沌の渦中にある。ヨーロッパとはやはり、あくまで異種雑多な国々がひしめき合う場所でしかないのであろうか。それとも、多様ななかになにか普遍的な共通性を保持した存在なのだろうか。

この授業では、そんな「ヨーロッパ」が形成されるにいたった文化史を、ミュージアムのなかに見出していく。たとえば、古代ギリシアやペルシアでの文化的対照要素がいかに融合していったのか、宗教改革によりカトリックとプロテスタントに分岐したキリスト教の影響とはどのようなものだったのか、さらには人文主義や啓蒙思想、そして戦争が、ヨーロッパ文明と呼ばれるものをどのように変容させたのだろうか。ミュージアムとは、有史以来の多様な文化が収集・保存された、いわば「タイム・カプセル」である。そこに所蔵された工芸品や美術品を実地調査することにより、いま述べたような「文化触変」が概念や実体としての「ヨーロッパ」の文化芸術をいかに生み出していったのかを、あらためて考えてみたい。

本授業では、校外学習の時間を設けることで、都内の主要ミュージアムでフィールドワークを行う機会が生まれる。早稲田大学は「東京国立博物館キャンパスメンバーズ」および「国立美術館キャンパスメンバーズ（関東3館）に加入していることから、これら主要ミュージアムに無料入館できるメリットを最大限に活用したい。

授業の到達目標

・フィールドワーク（校外学習）を通じて、ミュージアムの機能と役割を理解し、「ヨーロッパ」を形成するにいたった多様な文化の混交を実感する。

・校外実習の事前リサーチを入念に行い、実習の成果を効果的にプレゼンする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　50%　　下記の出席点を満たしていること。

●**平常点**　50%　　平常点は、授業時の発表成果と出席点で評価される。 ※教場授業の出席は3分の2以上。校外学習への参加は必須である。（よって、二度の校外学習に欠席した場合は、たとえ教場授業で3分の2以上の出席を満たしていても、単位は与えられない。）

●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

※今年度より、開講クォーターが夏クォーターから春クォーターに移動した。

※本科目を履修する際には、当該クォーター（場合によっては当該セメスター）の1時限・6時限以外の土曜日科目を履修することができなくなるので、注意すること。

※本演習は、多元文化論系で本年度より導入された資格制度「文化創成コーディネーター（ICCO）」のフィールドワーク科目である。本資格を取得したい学生は、必ず履修しなければならない。

科目名	多元文化論系演習（ギリシア世界）　古代ギリシア哲学における人間理解							
担当者名	岩田　圭一							
多元	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

古代ギリシア哲学には人間を神に似たものとみなす考え方がある。人間は他の動物と異なり、知性をもっており、知性に従った生き方を選ぶことができる。社会共同体の中で倫理的によく生きる人は、人間の欲望的な部分を統制する優れた知性をもち、これを働かせる人である。知性には理論的な知性もあり、人間はこの知性を働かせることによって、学問的な探究に従事したり、神的なものを観想したりする。後者の知性は神的とみなされ、しばしば神の知性との比較において説明される。しかしながら倫理的な行為を可能にする知性もまた、とくにプラトンの哲学においては、神的で永遠的なものとのかかわりにおいて理解される。この演習では、プラトンの対話篇とアリストテレスの倫理学および魂論を手がかりに、知性をもつ人間について考察を行い、理解を深めることにしたい。

授業の到達目標

古代ギリシア哲学における人間理解を学び、人間の知性について理解を深めることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　40%　　教場で理解度の確認を行う。授業内容に関係する、ある程度の長さの文章を配布し、これを読んで考察し、小論文を書いてもらう。知識を問うのではなく、思考力を評価する。

●**レポート**　0%

●**平常点**　60%　　発表、出席状況、授業への貢献度によって評価する。 初回の授業で、電子機器の使用に関する注意事項を説明する。

●**その他**　0%

科目名	多元文化論系演習（ローマ世界）							
担当者名	井上　文則							
多元	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

ローマ帝国は、なぜ滅んだのか？この疑問は、18世紀のE・ギボンの『ローマ帝国衰亡史』以来、繰り返し問われ、そしてさまざまな答えが出されてきた。21世紀の今日においてもなおこの問題を巡って学界では論争が続けられている。本演習では、ローマ帝国衰亡論に関する文献を読み、当該問題について考える。

授業の到達目標

ローマ帝国の歴史についての知見を深めるだけでなく、広く歴史を考える力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　40%　　学期末に4000字程度のレポートを求める。

●**平常点**　60%　　発表・討論内容によって評価する。

●**その他**　0%　　なし

科 目 名	多元文化論系演習（ヨーロッパの芸術）							
担当者名	源　貴志							
多元	2単位	夏クォーター	火3時限	金1時限	2年以上	—	—	—

授業概要

当科目はクォーター科目です。6月・7月（夏クォーター）に週2回（火・3、金・1）授業を実施します（開始日は6月5日）。

ひろくヨーロッパの芸術について、履修者それぞれが関心を持っている分野について、その創作方法や歴史などについて、文献資料などを調査し、その面白さ、すばらしさを他の履修者に伝えるプレゼンテーションを行なうことを内容とします。

プレゼンテーションはまず最初に少人数のグループで行ないます。

取扱う「芸術」については、美術、音楽、演劇、バレエなどから、本の装訂のような装飾芸術まで、とくに分野・時代を限定しません。

授業の到達目標

演習形式の授業ですので、専門的な知識を得ることよりも、自分で興味を持った芸術作品（あるいはその創作者）について、第三者にその面白さ、すばらしさを伝えるコミュニケーションの能力を磨くことを目標とします。

成績評価方法

各自の発表をもとに、他の履修者から得られた意見などを取り入れて学期末までにレポートを作成してもらいます（40%）。また、教場での口頭発表の内容やディスカッションの実践を評価します（60%）。なお、教室での発表とディスカッションが中心の授業ですから、出席重視です。

備考・関連URL

当科目はクォーター科目です。6月・7月（夏クォーター）に週2回（火・3、金・1）授業を実施します（開始日は6月5日）。

科 目 名	多元文化論系演習（ロシア文化論）							
担当者名	八木　君人							
多元	2単位	春クォーター	火3時限	金1時限	2年以上	—	—	—

授業概要

★当科目はクォーター科目です。週2回授業を実施し、4月・5月で完結します。ご注意ください。★

この授業は、映画、美術、パフォーマンス、音楽、バレエ、アニメーション、文学、宗教、歴史、（諸）民族、政治、経済といった、ロシア・旧ソ連邦におけるあらゆる文化事象の中で、受講者の興味・関心にあわせて、グループによる課題図書の輪読と、その内容およびそれを展開した発表を行ってもらいます。また、グループ発表をしてもらった上で、希望者には、上記のテーマに沿ったかたちで、自身の関心のあるテーマで個人発表をしてもらいます。

教員による講義も行いますが、講義部分で扱うテーマは「ソ連時代」を中心に採り上げます（もちろん、必要に応じて、他の時代についても触れます）。現在のロシアを考える上でもソ連を知ることは有益ですし、また、現在、われわれが生きている社会と比較し、類似点と相違点とを見出すことにより、今後、みなさんが、社会や世界のオルタナティブな在り方を構想するための糸口になるかもしれません。

もう少し身近な話でいえば、ロシアやソ連を学ぶことは、多元文化論系に席をおくみなさんにとって、これからのご自分の研究のテーマとして、あるいは、ロシアやソ連を主題にするのではないにせよ、「多元」を構成する一つのヴァリアントとして、有益なものになるのではないかと思います。

専門演習

授業の到達目標

教員による講義も行いますが、基本的には演習形式の授業ですので、受講者には積極的な課題への取り組みが求められます。

課題図書の正確な読解、グループ内での適切なディスカッション、その結果を他のグループに属する受講者の前で「発表」する、そうした能力を獲得するのが一つの目標です。

また、他の受講者の報告を聴き、それに対して的確な応答・生産的な議論ができるような力もつけていきましょう。

最後に、この授業全体を通して、「ロシア」に関する知識や理解を深め、文化の多様性を学ぶことのみならず（「ロシア」はやはり「多元」うちの一つにすぎません）、それらを通して、「別の仕方で思考する」という習慣を獲得していくことを目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　50%　　期末までに4000字程度のレポートを作成してもらいます。 内容は、グループで扱った課題図書の内容を発展させるかたちでもいいですし、課題図書とは関係なく、ご自身の興味・関心にそったロシアや旧ソ連圏、あるいはソ連時代の文化事象に関するものでもかまいません。 なお、グループ発表とは別に、授業中、個人発表を行った方は、このレポート課題は免除し、その個人発表で評価します。

●**平常点**　50%　「演習」なので、グループ内外で自らの発表等を行うことが義務なのはいうまでもありませんが、ご自分（たち）が中心にならないときにも、ディスカッション等、積極的な授業への参加が求められます。

●**その他**　0%

備考・関連URL

演習の授業ですので、上に記した「授業計画」や授業スタイル、内容は大きくかわってきます。基本的には「概要」や「シラバス」に記したかたちで授業を行いますが、履修者の顔ぶれやモチベーションに応じて、臨機応変に授業運営を行いたいと思っています。その上で、週二回授業をおこなうクォーター科目の特性の活かし方も考えていきます。みなさんもそのつもりで履修してください。

そうしたスタイルの授業になりますので、初回のオリエンテーション（と2回目の授業）は必ず出席するようにしてください。

なお、履修にあたっては、ロシア語の知識があるにこしたことはありませんが、必要とはしません。

科 目 名	多元文化論系演習（東欧の歴史から）　東欧史を研究するにあたっての基礎を学ぶ							
担当者名	中澤　達哉							
多元	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

これまでの大学での学修を基礎に、受講生自身の興味や関心に沿ってテーマを定め、東欧史研究の第一歩を踏み出すための演習である。研究の設定、進め方、手続きのほか、プレゼンテーションの仕方、レポートや論文の作成方法、各種文献・学術論文・

図表などの扱い方や読解方法など、具体的かつ詳細に学ぶ。以上の手続きの他、ゼミ論文に向けての導入となるオリエンテーションも行う。これによって、ゼミ論文を控えた大学生に不可欠なアカデミックスキルを習得することができるだろう。

具体的なスケジュールとしては、まず演習前半において、ゼミ論文に向けた研究テーマの設定のために、現況において関心のあるいつくかのテーマに関する複数の著書・学術論文を自らの手で収集する。収集の前提として、本学図書館のほか国立国会図書館の蔵書検索システムや、国立情報学研究所の学術論文検索システム（CiNii Articles）の利用方法を演習で学ぶ。その知識を踏まえ、数冊の著書、数本の論文を入手し、ここから読み込みをはじめ、研究テーマを絞る作業を行う。研究テーマを確定させている演習後半においては、入手済みの資料をもとに学説史の整理方法、すなわち「学説批判」の方法を学ぶ。自己の研究テーマにおいて相対する2つの学説を探す作業を行い、当該テーマの論点は何か、新たに研究するとすれば、何が研究史上新たな貢献になるのかを確定させる。この過程と同時に行うのが、史料探しである。史料収集は同時に「史料批判」を伴うので、史料批判の方法も学ぶ。

授業の到達目標

以上のプロセスにおいては、レジュメ作成あるいはパワーポイントによる研究報告が不可欠である。より良いレジュメ作成の方法やパワーポイントによる効果的なプレゼンテーション方法を習得する。要点を簡潔にまとめ、それを適切な言葉を使用して、明白に他者に伝える技能は、東欧史研究にとって不可欠なアカデミックスキルであるが、就職後においても重要なソーシャルスキルにもなる。将来に有用な技能やノウハウを学ぶことも本演習の目的となる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　50%　　レジュメ発表、パワーポイント発表を、提出レポートとして理解し、総合的に判断する。 正確かつ論理的なレジュメ、パワポを作成することができる。
●**平常点**　50%　　授業内容を理解し、質問などを通して、授業に積極的に参加している。
●**その他**　0%

科 目 名	多元文化論系演習（イスラーム社会論） 観光から中東・イスラーム社会を理解する							
担当者名	安田　慎							
多元	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

近年では中東・イスラーム社会の理解促進に際して、観光から深めていこうとする潮流が見られる。そのなかで、従来の中東・イスラーム社会の理解とは異なった視角の異文化理解のコンテクストが生まれてきている。

以上の潮流を踏まえたうえで本演習では、中東・イスラーム社会に関する旅行雑誌記事特集の作成を通じて、観光の文脈から中東・イスラーム社会の理解を深めていくことを目指す。

授業の到達目標

1. 中東・イスラーム社会の基本的事項について説明することができる。
2. 中東・イスラーム社会の特定のテーマについて、関連情報を収集したうえで説明することができる。
3. 中東・イスラーム社会について、観光の文脈から特定のテーマを設定し、旅行雑誌記事としてその内容を発信することができる。

成績評価方法

・演習課題（30%）：旅行特集記事「中東・イスラーム社会を観光する」の作成（個人で1回）
・発表課題（30%）：中東・イスラーム社会の観光に関わるプレゼンテーション（グループで2回）
・グループワーク（40%）：演習内外での個別課題（演習毎に設定）

備考・関連URL

希望者がいる場合、東京都内の中東・イスラーム社会に関連する場所（宗教・文化施設、料理店）への半日から1日のツアーを実施する。なお、ツアーの費用については参加者の負担となる。詳細は講義内で案内する。

科 目 名	多元文化論系演習（地中海・イスラーム世界） イスラーム地域研究文献講読							
担当者名	秋山　徹							
多元	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

本演習は、イスラーム地域研究に関して近年発表された学術論文・学術書をとりあげ、それを参加者全員で精読し、議論することを目的とする。手始めに、『史学雑誌』の「回顧と展望」等を道しるべとして、イスラーム地域研究をめぐる近年の研究動向を把握する。それを踏まえ、参加者各自に文献を選んでもらい、その内容について発表してもらう。原則として文献は日本語で書かれたものを予定しているが、場合によっては英語等の外国語文献を扱う可能性もある。

授業の到達目標

研究者を志願するか否かにかかわらず、卒業論文は、学部4年間の成否の鍵を握っていると言っても過言ではない。興味の赴くまま縦横無尽に本を読み漁る濫読は学部生の特権であり、教養の幅を広げるのみならず、卒論のテーマを発見するうえでも重要であるが、一方で、納得のゆく卒論を完成させるためには、早い時期にテーマを絞り、関連する先行研究を隈なく読み込むことが必須となる。そこで、本演習は、卒論作成を念頭においた実践的な文献読解力をトレーニングする。本演習の到達目標は以下に掲げる3点である。(1)「読解力」：学術論文や学術書を精読し、その内容を正確かつ的確に把握すること、(2)「批評力」：文献を研究史の中に位置づけ、批評する力を養うこと、(3)「表現力」：以上の作業の経過と結果を自分の言葉で表現し、他人に分かり易く伝え、有機的な議論に結び付けること。

成績評価方法

・報告（レジュメ、口頭報告、質問・コメントへのフォローアップ）：50%
・平常点（質疑時間での発言、コメントペーパーの提出）：50%

科 目 名	多元文化論系演習（アメリカ文化史） 1950s-2000s							
担当者名	チャン　エドワード　ケイ							
多元	2単位	春クォーター	火5時限	金6時限	2年以上	—	—	—

授業概要

This course will provide a survey of American cultural history in the second half of the twentieth century, including the beginning of the twenty-first century. We will try to understand the historical, social, economic, political, and artistic forces that shaped American culture during the second half of the twentieth century. The course will be conducted entirely in English, and students should be prepared to speak in English each week.

授業の到達目標

Students will learn about significant events, people, and trends that occurred in the United States during the twentieth century. Students will also develop their English-language reading, writing, listening, and discussion skills.

成績評価方法

(subject to change)
Two exams　60%
Presentation　20%
Participation/In-class activities　20%

備考・関連URL

http://www.ushistory.org/us/index.asp
http://www.digitalhistory.uh.edu/era.cfm?eraID=20&smtID=1

科 目 名	多元文化論系演習（イギリス文化史） 現代イギリス文化の入門と探究							
担当者名	渡辺　愛子							
多元	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現在のイギリス社会について、その入門書であるChristopherの*British Culture: An Introduction*を読む。本書はよりオーソドックスなタイプの概説書であるが、言語、文学、演劇、映画、テレビ、音楽、ファッション、芸術、建築など、現代イギリスの多様な文化事象に関する多様な情報を得ることができるだろう。

授業では、担当する章について概略をまとめ、各自が関心をもったトピックについてさらなるリサーチを行ってもらいたい。とくに、現代のイギリス社会の文化形態がいかに形成されていったかのを、その歴史に辿ることは有用であろう。まず学生による発表形式で進め、その後履習者全員で活発な意見交換を行っていく。なお、発表とは別に、3週ほど<Discussion topics and activities>として、実際の文化事象を紹介・鑑賞し、議論する時間を設けたい。

授業の到達目標

たんに英語論文の読解に努めるだけでなく、その要旨を的確に把握すること。さらに、現代イギリス社会における小説、詩、戯曲、映画、サブカルチャーなどに触れることで、改めて「連合王国」であるイギリスの多様性についても考え直すこと。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　学期末課題論文
●**平常点**　50%　　出席は3分の2以上。発表と授業における貢献度。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

★可能であれば、春学期第1クオーター開講の「英語圏文化研究1」、秋学期セメスター開講の「思想の文化史」をあわせて履修すると、理解がさらに深まるであろう。

★本演習で使用するテキストはそれほど難解ではないものの、担当する箇所の分量は多めである。英語力向上への意欲のない学生、担当分の発表を責任をもってこなせる自信がない学生は、履修を控えていただきたい。くれぐれも時間割の都合だけで登録しないこと。

★Course N@viまたはWaseda Moodleを利用して様々な連絡・告知を行うため、メールを受信できるように各自設定しておくこと。

★あらゆる場面での積極的参加をとくに重視する。また、授業への出席と担当部分の発表を規定回数以上行うことが期末課題論文提出の最低条件である。

※近年とくに安易かつ無責任な学生の当日欠席（例：どういうわけか発表日に限って高熱が出る学生<多発>）によって、授業の進行に支障をきたすというゆゆしき事態が起きている。真面目に出席している学生への配慮から、原則として、割り当てられた発表日・発表時間に欠席した場合、単位の取得はほぼ不可能となることを銘記したうえで、履修するかどうか決断いただきたい。病気の場合は後日診断書、インフルエンザは事務所からの書類、忌引も当該箇所からの書類が提出されれば「セカンドチャンス」は与えるが、その場合には新たな担当箇所が指定される可能性が高くなることを、あらかじめ断っておく。

科 目 名	多元文化論系演習（アイルランド文化史） アイルランド文化の流れと広がりを概観する							
担当者名	栩木　伸明							
多元	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

ヨーロッパ西端の島国アイルランドの地誌と歴史に目配りしながら、文化のさまざまな分野について古代から現代までを概観する。神話・伝説・近代文学をはじめとして、アイルランド美術、映画、音楽、スポーツなどについても幅広く学びたい。各分野の参考書についてはプリントで紹介する。授業は毎回、受講者による研究発表と質疑応答によってすすめていく。発表担当者はプリントを作成・配布し（パワーポイントの使用も歓迎します）、音楽や映像資料なども積極的に活用して発表すること。考えられる発表テーマをいくつか上げてみると、「ケルト神話と中世航海文学」、「アルスター物語群における英雄クー・フリン」、「アイルランドの装飾写本」、「大飢饉と移民」、「アイルランド映画」、「オスカー・ワイルドの演劇」、「アラン島紀行」、「ジェイ

ムズ・ジョイスと『ダブリン市民』」「サミュエル・ベケットの『ゴドーを待ちながら』」、「アイルランド伝統音楽とダンス」、「U2の歌詞」、「北アイルランド紛争と文学」、「アイルランドにおけるスポーツとナショナリズム」など。
発表が当たっていない受講者も積極的に議論に参加することが期待される。

授業の到達目標

アイルランド文学と文化について、具体的な知識を持ってもらうことをめざす。つまり、アイルランドを扱った書物や映画や音楽や美術作品をどう読み取った（聞き、鑑賞し、解釈した）のかを、さまざまな根拠を使いながら他者に語れるようになってもらうことを目標とする。そうすることで、アイルランド文化を、異文化を見るさいのひとつのものさしとして使えるようになってもらうことをめざす。

成績評価方法

●**試験** 0%　なし
●**レポート** 50%　オリジナルなリサーチペーパーとして内容、形式ともに整っているかどうかを評価する。
●**平常点** 50%　出席回数と授業への貢献度（口頭発表の内容や議論への参加度など）を評価する。
●**その他** 0%　なし

科 目 名	多元文化論系演習（英語演劇の文化史） 現代イギリス演劇入門							
担当者名	小田島　恒志							
多元	2単位	春クォーター	月1時限	木1時限	2年以上	—	—	—

授業概要

2010年にロンドンのリリック・ハンマースミス劇場他全国で上演された Richard Bean の戯曲 *The Big Fellah* を読む。イギリス人が書いた芝居だが、舞台はニューヨーク、ある消防士のアパート。そこで70年代から現代（ラストシーンは2001年9.11）まで、北アイルランド紛争におけるIRAの活動にアイルランド系アメリカ人として遠くから援助活動をしていた者たちの話。政治的な事実にも触れつつ、会話は「おふざけ」な所も多く、いわゆる「ブラックコメディ」と称される。
英国演劇の文化のみならず、イギリス、アメリカ、アイルランドそれぞれの英語圏文化をも読み解いていきたい。個人個人のテキスト解釈が大切だが、授業ではグループによる発表形式も考えている。

授業の到達目標

上記のとおり、テキストから英国演劇の文化および英語圏文化を読み解き、知識とすることと、そのような読解の技術を身につけること。

成績評価方法

●**試験** 60%　14回目の授業の日に試験をして、理解度を確認します。
●**レポート** 0%　なし
●**平常点** 40%　グループ発表などの activity を総合的に判断します。
●**その他** 0%　なし

備考・関連URL

http://www.outofjoint.co.uk/prods/bigfellah.html
http://setagaya-pt.jp/news/2013/11/the_big_fellah.html

科 目 名	多元文化論系演習（思想の文化史）「文化」とは？文化「の研究」とは？							
担当者名	渡辺　愛子							
多元	2単位	秋学期	水曜日	1時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「文化(culture)」とはなにか。人文科学の学問分野において、この言葉ほどその歴史的・現代的意義を論じる上で、多様な含意をもつものはそう多くはないだろう。そして、文化構想学部に入学してきた学生さんたちは、少なくともなんらかの理由で、こうした文化のありように関心をもっているはずである（と、信じたい）。とはいえ、実際にこれをどうとらえて、どう批判的に研究していくものか・・・、と、ある種の行き詰まり感を抱いてはいないだろうか。
この演習では、「文化」とはなにか、そしてこれを研究するにはどのようなアプローチ方法があるのかということを、文化史的な視点も含めながら学んでいくことを目的とする。授業では、イギリスを中心にこのテーマを探る研究書Studying Culture: A Practical Introductionをテキストに用いる。発表者は、担当する章について概略をまとめ、各自が関心をもったトピックについてさらなるリサーチを行ってもらいたい。まず学生による発表形式で進め、その後履習者全員で活発な意見交換を行っていく。なお、履修者数にもよるが、発表とは別に、2週ほど<Discussion topics and activities>として、実際の文化事象を紹介・鑑賞し、議論する時間を設けたい。

授業の到達目標

・文化にまつわる諸問題を研究する視点を養う。
・英語の精読および多読の能力を身につける。
・効果的なプレゼンテーションを行う。

成績評価方法

●**試験** 0%　なし
●**レポート** 50%　学期末課題論文
●**平常点** 50%　出席を重視。担当箇所の発表と授業における貢献度を総合的に評価。
●**その他** 0%　なし

備考・関連URL

★Course N@viまたはWaseda Moodleを利用して様々な連絡・告知を行うため、メールを受信できるように各自設定しておくこと。
★本演習で使用するテキストはそれほど難解ではないものの、担当する箇所の分量は多めである。英語力向上への意欲のない学生、担当分の発表を責任をもってこなせる自信がない学生は、履修を控えていただきたい。くれぐれも時間割の都合だけで登録しないこと。
★あらゆる場面での積極的参加をとくに重視する。また、授業への出席と担当部分の発表を規定回数以上行うことが期末課題論文提出の最低条件である。

※近年とくに安易かつ無責任な学生の当日欠席（例：どういうわけか発表日に限って高熱が出る学生<多発>）によって、授業の進行に支障をきたすというゆゆしき事態が起きている。真面目に出席している学生への配慮から、原則として、割り当てられた発表日・発表時間に欠席した場合、単位の取得はほぼ不可能となることを銘記したうえで、履修するかどうか決断いただきたい。病気の場合は後日診断書、インフルエンザは事務所からの書類、忌引も当該箇所からの書類が提出されれば、「セカンドチャンス」は与えるが、その場合には新たな担当箇所が指定される可能性が高くなることを、あらかじめ断っておく。

科 目 名	多元文化論系演習（英語圏の言語政策） Language and Education Policy							
担当者名	ホサイン　タニア							
多元	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

Language policy is what a government does either officially through legislation, court decisions or policy to determine how languages are used, cultivate language skills needed to meet national priorities or to establish the rights of individuals or groups to use and maintain languages. The scope of language policy varies in practice from State to State. This may be explained by the fact that language policy is often based on contingent historical reasons. The preservation of cultural and linguistic diversity in today's world is a major concern to many scientists, artists, writers, politicians, leaders of linguistic communities, and defenders of linguistic human rights. Throughout its modern history, Japan has considered itself monolingual for purposes of nation-building rhetoric, despite the presence of substantial ethnic minorities. Over the last fifteen years, however, the realization that it is in fact a multilingual society has slowly taken hold. English is getting importance as a social language. This course will focus on the language policy in the English-speaking world. It mainly focuses on the language policy of New Zealand, Australia and Japan. English is the dominant language in these countries and shares almost similar colonial heritage. All these countries neglect the languages spoken by the indigenous people.

授業の到達目標

This course will explain how is the power of English within these countries played out in terms of official status of the language and internal relations with groups and individuals who use other official languages?

The aim of this course is to give an idea about the language policies, reasons for language policies, and the cultural politics of the language policies in some of the world's largest and most powerful countries.

成績評価方法

- **試験**　20%
- **レポート**　40%
- **平常点**　30%
- **その他**　10%

科 目 名	多元文化論系演習（英語の構造） 言語の構造と英語の特徴							
担当者名	森田　彰							
多元	2単位	秋学期	土曜日	2時限	2年以上	—	—	—

専門演習

授業概要

この講座の目的は、構造とは何か、言語の構造とは何かを理解しながら、英語の特徴を考えることです。現在の英語とその古い時代の姿との比較をしたり、同時代（現代）の近い言語あるいは日本語との比較をしたりすることによって、英語の構造を浮き彫りにし、さらに言語の構造とは何か、それをどう記述するかを考えます。英語は、1500年の歴史の中で、極めて drastic な変化を遂げた言語です。それは、かつての英語と現代英語では、全く違った系統に属す言語であると見られてもおかしくないくらいの変化でした。ある意味で、英語は、他のヨーロッパの言語からは孤立した言語となった、と言っても良いでしょう。しかし、その激しい変化の中で生き残った様々な「英語らしさ」もありますし、また、英語が獲得した特質もあります。それらを、以下の授業計画に沿って、明らかにしていきます。それらを通じ、科学的手法、記述とは何かを学びます。

更に、英語の構造を理解することが、どう英語の運用能力の向上に資するかについても、考え応用していきます。それによって、今までの英語学習とは違った学習の方法論が見えてくるでしょう。

半期の講義なので、扱う項目の奥行きと広がりは、受講者の構成によって、柔軟に考えるつもりです。つまり、単純な講義科目と考えず、自ら考え取り組む演習として受講してください。

言語に対する興味があれば、英語以外の言語に関する深い知識は特に必要としません。

授業の到達目標

- 構造とは何かが理解できること。
- 言語にとって構造とは何かが理解できること。
- 英語の構造について理解する。
- 英語の構造の変化とその要因について理解する。
- 英語の構造を理解し、運用能力の向上につなげられる。
- 科学とは何か、科学的「記述」方法とは何かが理解できる。

成績評価方法

構造とは何かを理解し、英語の構造を分析できるかどうかについて理解度の確認を行いますが、受講者の人数、演習の進度等によりレポートあるいは、試験と簡単なレポートのいずれかになります。レポートのみとなった場合は、レポート80%から90%、平常点（演習への参加度）20% 以内としますが、後者の基準は、単に出席だけではありません。従って、プラスの評価となる部分と考えてください。試験を行った場合は、試験の成果が80%、その他の要素が 20% 以内が目安です。

備考・関連ＵＲＬ

当然の事ですが、受講者の人数、構成によって講座の進め方、評価の方法は変えざるを得ません。第1回の講義には必ず出席してください。その時に調整します。また、Course N@viまたはWaseda Moodleのチェックも忘れないようにしてください。また、演習ですから、出席して討議に参加することも評価の対象となります。極力欠席をしないようにしてください。なお、この講座は、早稲田キャンパスで実施されるうようになると思いますから、必ず事前に確認してください。

科 目 名	多元文化論系演習（英語教育の諸問題） English as a Global Language							
担当者名	ホサイン　タニア							
多元	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

There is no official definition of "global" or "world" language, but it essentially refers to a language that is learned and spoken internationally, and is characterized not only by the number of its native and second language speakers, but also by its geographical distribution, and its use in international organizations and in diplomatic relations. A global language acts as a “lingua franca”, a common language that enables people from diverse backgrounds and ethnicity to communicate on a more or less equitable basis. This course examines English language issues at societal and global levels. It will discuss the historical context of the global development of English, status of English as a first and second language, and issues involving English that are currently developing in and across diverse societies.

In this class, you will practice reading critically, organizing your ideas, and writing clear, concise and academic prose. We will be using readings from articles to launch our inquiries. From there, we will be drawing on a variety of media to help us explore these questions. Research, and the collection of ideas and materials, will be very important. You will be given the opportunity to use our texts from the class and follow interests of your own that will help to explain and expand the points that we are making. You will be making reference to film, newspapers, magazines, journals, articles, books, and – of course – the Internet. We will learn how to use such sources to advance our thinking and our ideas, cite them correctly, and use them in creative written argumentation, evaluation, and explanation.

授業の到達目標

People often talk about English as a global language or lingua franca. With more than 350 million people around the world speaking English as a first language and more than 430 million speaking it as a second language, there are English speakers in most countries around the world. The objective of this course is to show why the English known as a global language and why other languages do not have this ability. Also introduce some other languages such as Chinese that can be replaced with English and their capability of being a global one.

成績評価方法

- **試験**　20%
- **レポート**　40%
- **平常点**　30%
- **その他**　10%

科 目 名	多元文化論系演習（バイリンガリズム） Bilingualism							
担当者名	ライアン　スティーブン							
多元	2単位	秋学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

For large parts of the world, bilingualism and multilingualism are normal. However, in predominantly monolingual societies, such as Japan, it is assumed that it is 'natural' for people to speak only one language and bilingualism is both rare and still largely misunderstood. This seminar begins by considering what we mean by the word ' bilingual' and then moves on to discuss various complex social, cultural, cognitive, and linguistic issues relating to bilingualism.

授業の到達目標

At the end of this course, students should be able to:
1) Understand different meanings of the word 'bilingual'
2) Have their own definition of what 'bilingual' means to them
3) Understand the cultural and social aspects of being bilingual

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　70%　One oral presentation　One written report
- **平常点**　30%　Active class participation
- **その他**　0%

備考・関連URL

The main language of instruction, most materials and assignments for this course will be in ENGLISH.

科 目 名	多元文化論系演習（英語圏の映像文化） American Auteurs							
担当者名	チャン　エドワード　ケイ							
多元	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

This course will explore American cinema in relation to the concept of the auteur: the director as primary author of the film despite working in a collaborative studio system. We will survey films by those directors who are typically thought of, or could be thought of, as auteurs, starting in the silent era and continuing up to the beginning of the twenty-first century. Films will have subtitles in Japanese; however, the course will be conducted entirely in English. Students need to commit to spending the time and the money to view at least one film per week（see "Assigned work before/after class" below）. Please be aware that several films include VIOLENCE, SEXUAL CONTENT, and STRONG LANGUAGE. If you are sensitive about any of these areas, you should think

twice about registering for the course.

授業の到達目標

Students will learn to discuss films from an academic perspective and learn about various aspects of American life and culture. Students will also develop their English-language reading, writing, listening, presenting, and discussion skills.

成績評価方法

(subject to change)
Weekly quizzes (14 x 5 points): 70%
Group presentation: 20%
Participation: 10%
TOTAL: 100%

備考・関連URL

https://www.waseda.jp/library/assets/uploads/2016/12/no13_av_room_2013.12.1.pdf

科 目 名	多元文化論系演習（外国語学習者の心理）							
担当者名	ライアン　スティーブン							
多元	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

This seminar considers why some people are able to learn a foreign language more quickly and to a higher level than others. We will discuss topics such as personality, identity, emotions, and motivation, and think about how they affect learning. The seminar will help students' understand the important role of psychological factors in successful language learning and encourage students to think about their own experiences as language learners.

授業の到達目標

At the end of this course students should be able to:
1) Understand the importance of psychology in language learning
2) Have a knowledge of some of the most important ideas from psychology and their role in language learning
3) Discuss how these ideas connect to their own learning experience

成績評価方法

●**試験**　0%　　No examination
●**レポート**　70%　　One written research report　One oral presentation
●**平常点**　30%　　Active class participation
●**その他**　0%

備考・関連URL

The main language of instruction, most materials and assignments for this course will be in ENGLISH.

専門演習

科 目 名	Contemporary Japanese Fiction in English Translation (TCS quarter seminar)							
担当者名	由尾　瞳							
多元	2単位	春クォーター	火2時限	金2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

This course offers students an opportunity to read contemporary Japanese fiction in English translation, published in a variety of international print and online venues. We will read a range of authors including Haruki Murakami, Yoko Ogawa, Hiromi Kawakami, Mieko Kawakami, and Yoko Tawada. Through a close study of the fiction as well as the publication venues, we will explore the diverse themes and styles of contemporary Japanese literature and how selected works have been introduced and circulated in the global market.

The course will be conducted in English. Although the readings will be offered in English translation, you are encouraged to read the stories in the original Japanese as well.

授業の到達目標

1)　Acquire exposure to contemporary Japanese fiction in English translation.
2)　Become familiar with international literary journals and popular magazines.
3)　Situate contemporary Japanese literature in a global context.

成績評価方法

1. Attendance & Class Participation (20%)
2. Response Papers (50%)
3. Final Paper (30%)

科 目 名	Women's Coming-of-Age Narratives (TCS quarter seminar)							
担当者名	由尾　瞳							
多元	2単位	秋クォーター	火2時限	金2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

This class will explore coming-of-age narratives by a diverse group of women writers and artists from around the world. Through a close analysis of short stories, novellas, films, and visual arts, we will address themes such as gender roles, puberty, sexuality, socialization, romance, marriage, and family. We will consider how some themes are shared across cultures, while other are tied to their cultural contexts. Through the course, we will explore how coming-of-narratives have represented women's lives, constructed or deconstructed ideals of girlhood and womanhood, and played a role in the development of feminism.

The course will be conducted in English. Although the readings will be offered in English, you are encouraged to consult the material in the original languages whenever available.

授業の到達目標

1) Acquire exposure to coming-of-age narratives written by women.
2) Critically analyze literary works by exploring issues of gender, sexuality, identity, and race.
3) Understand how literary works have critiqued or shaped women's gender roles.
4) Situate the coming-of-age narratives in their local and global contexts.

成績評価方法

1. Attendance & Class Participation (20%)
2. Response Papers (50%)
4. Final Project & Presentation (30%)

科 目 名	Global Tokyo (TCS quarter seminar)							
担当者名	由尾　瞳							
多元	2単位	冬クォーター	月4時限	木4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

This course explores the modern city of Tokyo by examining a variety of material produced in Japan and overseas, ranging from literary texts, films, photographs, advertisements, guides, and other media. We will explore how Tokyo has developed and changed over time from the standpoint of global and comparative perspectives, and understand the interplay between traditional and modern, and global and local. Throughout the course, students will pay particular attention to issues of gender, class, ethnicity, and national identity. You will be encouraged to go out into the city and think critically about aspects of Tokyo that you discover throughout the course.

The course will be conducted in English. Although the readings will be offered in English translation, you are encouraged to consult the material in Japanese whenever available.

授業の到達目標

1) Understand how Tokyo has developed and changed over time.
2) Become familiar with cultural works depicting Tokyo.
3) Develop critical ways of thinking about urban space.
4) Explore the interplay between traditional and modern, and global and local.

成績評価方法

1. Attendance & Class Participation (20%)
2. Assignments (40%)
3. Final Project: Presentation & Self-Analysis (40%)

科 目 名	Global Science Fiction (TCS quarter seminar)							
担当者名	ピタルク　パウ							
多元	2単位	秋クォーター	月4時限	木4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

This course will examine science fiction as a genre that engages with our experience of the modern world. We will consider how, by purportedly narrating the future, science fiction provides a rich language to think through very present issues, and allows creators to play out fears and fantasies about the relationship between humans and technology, and their impact on our planet. Through a close reading of literary and visual texts, we will think about the particular ways each medium contributes to the creation of a shared imaginary that goes beyond specific works. Special attention will be devoted to works of science fiction produced in Japan and East Asia.

The reading load for this class will be, on average, around 50 pages/week.
All readings will be in English.

授業の到達目標

1. Become familiar with the development of science fiction as a genre, and its main topics.
2. Appreciate the specificity and commonalities of science fiction imagery in diverse media.
3. Practice analyzing literary and visual texts, paying attention to the interplay of the thematic and the formal.

成績評価方法

40% Final Project
30% Attendance and Class Participation
30% Weekly Responses and Presentations

科 目 名	Youth Culture in Modern East Asia (TCS quarter seminar)							
担当者名	ピタルク　パウ							
多元	2単位	冬クォーター	火2時限	金2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

This course will examine how young men and women have been imagined and represented in modern East Asia, through an analysis of literary works from the late nineteenth century to the present. As a period of change and uncertainty, youth has worked as a rich space to discuss issues of modernity, identity, sexuality, family relations, and commodity culture. We will think about the connections of the personal and the political, paying attention to

how coming of age stories gain an allegorical dimension within the process of nation building and modernization. We will examine how modern consumer culture has fetishized the idea of youth through fashion and music. We will also pay special attention to constructions of adolescence and youth as a period of idealism and purity, and to the many forms the idea of youth has been mobilized for political activism throughout the century.

The reading load for this class will be, on average, around 50 pages/week.
All readings are in English translation. No knowledge of Chinese, Japanese or Korean is required.

授業の到達目標

1. Consider the role of young people in East Asian modernity, both as agents of change and as objects of representation.
2. Situate specific works in their historical and cultural contexts.
3. Appreciate the specificity and commonalities of the experiences of young people throughout East Asia.
4. Use the tools of literary and visual text analysis to interpret the readings.

成績評価方法

40% Final Project
30% Attendance and Class Participation
30% Weekly Responses and Presentations

科 目 名	Ghosts and the Supernatural in Japanese Culture (TCS quarter seminar)							
担当者名	ノルドストロム　K.　ヨハン							
多元	2単位	春クォーター	土1時限	土2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

This course will explore representations of ghosts and supernatural elements in Japanese cinema, across various genres. We will examine the historical background and religious and cultural context of representations of ghosts and the supernatural, and utilizing a range of analytical tools from cinema studies, including, crucially, psychoanalysis, critically investigate their cultural and symbolic significance to the real world, people's psyches, and society at large. The themes we will consider include gender roles, class, race, censorship, isolation and urbanization.

The class will be conducted in English, and all films screened will be with English subtitles.

授業の到達目標

- To acquire the theoretical tools necessary to analyze and understand the use of ghosts and supernatural elements in Japanese film.
- To be able to contextualize the use of ghosts and supernatural elements in Japanese film through close engagement with and consideration of the cultural, religious, and historical context.
- To be able to effectively use secondary readings to analyze primary texts.

専門演習

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%

Response Papers (30%)　You will be required to write a weekly response paper (at least 350 words) that reflect a thoughtful engagement with the assigned films and readings. The instructor will suggest a starting question for the students to respond to, but students are also encouraged to pose and address further questions related to the relevant material. Each response paper is to be submitted after the subsequent weeks class. Late submissions are not accepted.

Final Paper (2,000-3000 words) (30%)　In the final essay paper, the student will analyze a Japanese film featuring ghosts or other supernatural aspects, title to be announced. Your essay should include a main argument, which needs to made through detailed analysis of the textual and visual material, which in turn needs to be fully documented (Chicago style is preferred, but other formats accepted). The essay should be 2000-3000 words long (12pt Times New Roman, double- spaced, 1-inch margins). Indicate the word count on your paper. Actively/critically use at least 3 different written sources (texts discussed in class are okay to use). Late papers will be downgraded at the discretion of the instructor.

●**平常点**　20%　Regular attendance, reading, and participation are required for the course. It is essential that students come to class fully prepared to engage in activities and in discussions with fellow students and the instructor. Students are expected to take an active role by critically engaging with the material, closely listening to others, considering others' points of view, and sharing their own perspectives during the class discussions.

●**その他**　20%　Presentation　Each student is required to give one or two (depending on class size) 10-15 minute oral presentation on that week's text/film(s), addressing the issues raised by the assigned material and proposing topics for class discussion. The presentation should be focused on your interpretation of the relevant material, based on an in-depth reading of the text/film(s) as well as further issues or questions you would like to discuss. Please select specific theoretical issues or parts of the text/film(s) that you deem suitable for discussion and can act as springboards for discussion

科 目 名	Adaptations of Classical Japanese Literature (TCS quarter seminar)							
担当者名	ノルドストロム　K.　ヨハン							
多元	2単位	夏クォーター	土1時限	土2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

This class examines the rich cultural history of cinematic adaptations of classical works of Japanese literature

and theater, giving special attention to how the past is revisited and reimagined across a multitude of genres and for various purposes. While paying close attention to historical specificities of the literary and cinematic works discussed, the class will explore themes such as genre conventions, authorship, modes of reception, and various theories from the field of adaptation studies.

The class will be conducted in English, and all films screened will be with English subtitles.

授業の到達目標

- Acquire exposure to major works of Japanese literature and cinema.
- Cultivate the theoretical tools to critically analyze cinematic adaptations of literary texts.
- Develop an understanding of the historical, cultural, and social backgrounds.

成績評価方法

●**試験** 0%

●**レポート** 60%

Response Papers (30%) You will be required to write a weekly response paper (at least 350 words) that reflect a thoughtful engagement with the assigned films and readings. The instructor will suggest a starting question for the students to respond to, but students are also encouraged to pose and address further questions related to the relevant material. Each response paper is to be submitted after the subsequent weeks class. Late submissions are not accepted.

Final Paper (2,000-3000 words) (30%) In the final essay paper, the student will analyze a Japanese film featuring ghosts or other supernatural aspects, title to be announced. Your essay should include a main argument, which needs to made through detailed analysis of the textual and visual material, which in turn needs to be fully documented (Chicago style is preferred, but other formats accepted). The essay should be 2000-3000 words long (12pt Times New Roman, double- spaced, 1-inch margins). Indicate the word count on your paper. Actively/critically use at least 3 different written sources (texts discussed in class are okay to use). Late papers will be downgraded at the discretion of the instructor.

●**平常点** 20% Regular attendance, reading, and participation are required for the course. It is essential that students come to class fully prepared to engage in activities and in discussions with fellow students and the instructor. Students are expected to take an active role by critically engaging with the material, closely listening to others, considering others' points of view, and sharing their own perspectives during the class discussions.

●**その他** 20% Presentation Each student is required to give one or two (depending on class size) 10-15 minute oral presentation on that week's text/film(s), addressing the issues raised by the assigned material and proposing topics for class discussion. The presentation should be focused on your interpretation of the relevant material, based on an in-depth reading of the text/film(s) as well as further issues or questions you would like to discuss. Please select specific theoretical issues or parts of the text/film(s) that you deem suitable for discussion and can act as springboards for discussion.

科 目 名	Japanese Mystery Fiction (TCS quarter seminar)							
担当者名	ピタルク パウ							
多元	2単位	春クォーター	月2時限	木2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

This course will explore the development of mystery fiction in Japan, focusing mostly on its literary form, but considering also its presence in other media (film, TV, manga, etc.). We will consider both the formal characteristics of the genre (such as the different techniques creators have deployed to create suspense), and also its potential for social and political commentary.

The reading load for this class will be, on average, around 50 pages/week.
All readings are in English translation. No knowledge of Japanese is required.

授業の到達目標

1. Become familiar with the development of mystery fiction in modern Japan and its main topics.
2. Situate specific works in their historical and cultural contexts.
3. Appreciate the specificity and commonalities of mystery fiction in diverse media.
4. Practice analyzing literary and visual texts, paying attention to the interplay of the thematic and the formal.

成績評価方法

40% Final Project
30% Attendance and Class Participation
30% Weekly Responses and Presentations

科 目 名	Japan's Living Theater (TCS quarter seminar) Shakespearean adaptations in Japanese theatre and film							
担当者名	梅宮 悠							
多元	2単位	春クォーター	火3時限	金4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

In this course, we will survey the ways of representations of Shakespearean plays and his life in various Japanese adaptations. We will mainly focus on the impact of those adaptations and their effect as examples of cultural hybridity. The visual materials provided during classes are in Japanese, but the module will be conducted entirely in English. Students are required to read or to research on the given subject for each class and be ready to participate in lively discussion.

授業の到達目標

By the end of the course, students will be able to:
1) Understand the impact of Shakespearean adaptations in Japan.
2) Understand the possible reason for continuous invention of Shakespearean adaptations in Japan.
3) Become familiar with Shakespearean plays and their surroundings as well as various art form in Japan.

成績評価方法

●**試験** 30% Final Project（Analytical Presentation or Creative Presentation; the duration will be decided according to the number of registration）
●**レポート** 0% None
●**平常点** 70% Attendance and Class Participation（including short presentations）
●**その他** 0% None

科 目 名	複合文化論系演習（芸術思潮の越境） 展覧会から見る芸術作品の越境							
担当者名	和田 佐知子							
複合	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

古今東西無数の芸術作品を私たちはインターネットを介して気軽に観ることができます。しかしそれでもなお、人々は作品と（ヴィデオアートであったとしても）「生」で接するため展覧会に足を運びます。明治時代に日本に博物館が生まれ100年以上が経ち、今では数えきれないほどの展覧会が開催されています。考えてみれば、展覧会とは私たちが足を運ぶと同時に、芸術作品が収蔵されている博物館・美術館等の居場所から運び出される、すなわち越境することで成立します。本講義では、芸術思潮を越境する「場」として展覧会を考察します。また、制作された時空を超えて現代の鑑賞者に受け入れられるためには、作品についてよく知ることが不可欠で、その手掛かりのひとつが美術史といえるでしょう。作品が移動し、鑑賞者の眼に触れられるまでには実に様々な業界が介在しますが、美術史の知識なくしては十分に運用することはできません。本講義では展覧会をスタディケースに、美術史という学問を実際に活用しながら、物体としての芸術作品が現実社会の多様な領域と結びつく様子を考察します。基本的には実技を主体とした講義ですが、前半は基礎的な美術史の方法論についての講義と各自の発表、後半は複数グループに分かれて討議や実技を行います。

授業の到達目標

アートを取り巻く領域の広がりについて理解を深めながら、美術史の基礎的な方法論を習得し、具体的な活用例を検証します。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 30% 演習で発表したものが対象です。
●**平常点** 70% 出席、発表内容、ディスカッション等の授業への積極的な関わり方から総合的に判断します。
●**その他** 0%

科 目 名	複合文化論系演習（時代の刻印） 冒険物語とその時代							
担当者名	宮城 徳也							
複合	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	—	—

専門演習

授業概要

ここで言う「冒険物語」（AdventureStory）とは，主人公が，偶然，もしくは必然によって，あるいは自ら求めて，日常性を離れた場所で苦難を味わい，それを運と努力と才覚によって克服し，帰るべき場所に帰り，もしくは達成すべき目的を達成する物語のことであり，古代から「ギルガメシュ叙事詩」，ホメロスの『オデュッセイア』などが知られる．これらの影響により，ヘレニズム時代，ローマ時代，中世，ルネサンス期，近現代に多くの，「冒険物語」もしくは，その関連作品が創作された．代表的なものにダニエル・デフォーの『ロビンソン・クルーソーの生涯と冒険（1719年）』がある．『オデュッセイア』と『ロビンソン・クルーソー』には共通点も多く，後者は前者の何らかの影響を間違いなく受けているが，2500年の時代差がある以上，その意味するところや，読後感は自ずから異なる．個々の作家の資質，個性が異なることは言うまでもないが，それらが創作された時代背景が大きな意味を持っていると思われる．『オデュッセイア』と『ロビンソン・クルーソー』という代表的な「冒険物語」を中心に，幾つかの文学作品を取り上げ，その背景となる文化，思想，価値観がどのように影響したかを考えていく．

授業の到達目標

ギリシア，ローマ，キリスト教中世，ルネサンス，近現代の「冒険物語」から，地域，時代に固有の文化，思想，価値観を考察する

成績評価方法

●**試験** 0% レポートと平常点で評価する
●**レポート** 40% 授業で発表した内容を，学期末にレポートとして，提出してもらう
●**平常点** 60% 「冒険物語」について調べて，その結果を授業で発表してもらう．また，毎回授業内容のもしくは発表内容の要約，感想を書いたものを提出してもらい，平常点とする
●**その他** 0%

備考・関連URL

http://www.f.waseda.jp/tokuyam/index.htm

科 目 名	複合文化論系演習（主題系の研究）「主題」としてのルネサンス							
担当者名	宮城 徳也							
複合	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

絵画、彫刻、建築、映画、音楽、詩、思想に現れた「人文主義」（ヒューマニズム）について、中世、イタリア・ルネサンスから現代まで続くその影響を考察します。遠い日本の現代の日常にも「人文主義」は見られます。できるだけ多くの題材を取り上げていきたいと思っています。

イタリア・ルネサンスを支えた理念は「人文主義」（ヒューマニズム）と言われます。キリスト教中心の中世に、ギリシャ・ロー

マの人間中心の価値観が復活して、近代の芽生えであるルネサンスが花開いたとされ、実際にその通りである面は確かにあると思われます。しかし、現代に至るまでヨーロッパではキリスト教中心の価値観が維持され、宗教改革を経て、プロテスタントのキリスト教も大きな力を持っていますが、ローマ・カトリックの影響力は決して小さくありません。さらに、イタリアのルネサンスを芸術方面から考察するとき、現代のベルギーなどがある北方のフランドル地方の影響が大きかったことに気づかされます。そもそも中世初期のゲルマン的要素や、中期の南仏の影響も無視することはできません。ルネサンスにおけるギリシャ・ローマの影響（ヘレニズム）に関する知識を整理して、なおかつそれ以外の要素を点検して、その上でルネサンスの現代における意義を考えたいと思います。

授業の到達目標

文化史に現れる、主題としてのルネサンスの文化・芸術を通じて、その変容と展開を考察します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　レポートと平常点で評価します

●**レポート**　40%　　学期末に、3000字程度で学習成果の報告を求めます（Waseda Moodle提出）

●**平常点**　60%　　授業の際に参考にした映像や、発表の内容をまとめ、それに対する見解を記したレビューシートの提出を求め、自分の発表、他の受講者の発表の際の討議などと合わせて平常点として評価します。

●**その他**　0%

備考・関連URL

http://www.f.waseda.jp/tokuyam/index.htm

科 目 名	複合文化論系演習（国民文学から世界文学へ） 宇多田ヒカルを聴く・読む・味わう、そして考える							
担当者名	柿谷　浩一							
複合	２単位	秋学期	金曜日	６時限	２年以上	—	—	—

授業概要

宇多田ヒカルは、広大な〈文学〉の海を泳いで、その源泉を求めて突き進んでいるようだ――。

彼女の音楽と歌詞世界から、そんな印象を強く感じることがしばしばあります。実際、宇多田は海外文学はもとより、日本文学も近代から戦後まで幅広く愛読していて、その読書家ぶりは、おすすめの本をコーナーにした「宇多田書店」と題された書店企画などでも見ることができました。制作風景に迫ったドキュメンタリー映像でみせた、ウラジミール・ナボコフ『青白い炎』の詩を朗読しながら涙し、自己の心奥にある真実を見つめて新曲（「夕凪」）の曲想を得る姿が、記憶に残っている人もいるでしょう。それは彼女の創作において、いかに文学が重要なものかを証明するだけでなく、人間と芸術を結ぶ普遍的真理のようなものに触れる崇高な瞬間を映し取っている感もありました。

この演習クラスでは、自国の音楽・言語・文化の枠組みでは到底語りきることの出来ない「宇多田ヒカル」の音楽とその表現について、文学をキーワードにして、受講生の皆さんと多角的に考えを巡らせてみたいと思います。実際、作品への直接的に触れた言葉自体はあまり多くないように、影響関係そのものを立証することは難しいですし、それはあまり意味がないことでしょう。ですが、作品そのものから浮かび上がって見えてくる、例えばナボコフの作品を想起させるツアー名や、ヘルマン・ヘッセに重なる曲名、あるいは『平家物語』冒頭の「祇園精舎」を引用したと考えられる歌詞など、宇多田ヒカルの音楽の側にある文学について“思索”しながら作品を再考してみる。本人が愛読する文学作品と重ね、接続させながら、いま一度作品を観賞してみる。受講生各自の研究・専攻する分野の関心や知識、視点も交えながら、こうした私たちなりにできる“試み”は、宇多田の音楽の本質と、それが“文学的”としばしば呼ばれる由縁を考える意味でも、無意味ではないはずです。

毎回、実際に楽曲に耳を傾け、歌詞を精読し、考える時間を持ってみましょう。

【授業の具体的な進め方】

・受講人数にもよりますが、「個人報告＋ディスカッション」の形式を中心とします。その前後で、ミニ講義回（教員による発表）を挟みます。

・順番に考えてみたいトピック、調べてみたいテーマなどを報告し合っていきます。それを受けて、毎回、受講者全員でディスカッションを行います。基本、レポート提出等はありません。　・講義回以外は、私もディスカッションの参加者のひとりです。日本文学・文化、ポップカルチャーの観点から報告に対してコメント等はもちろんしますが、それ以降は一緒に考える「仲間」でありたいというのが願いです。活発に、対等に、対話をし合えたら素敵じゃないですか。

授業の到達目標

シンガーソングライターの作品と表現を、学際的に検証できる。

「（国民／世界）文学」という概念を拡張する感性を磨く。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。

●**レポート**　0%　　なし。

●**平常点**　100%　　個人報告と、毎回のディスカッションへの取り組み。

●**その他**　0%

備考・関連URL

・毎回のディスカッションへの参加をもって、出席とします。その回の、ミニ講義または他の人の報告に積極的に反応し「声」を発して下さい。（例年、最初はなかなか全員の声は出てきません。その気持ちもよく分かります。ですが、次第に授業時間が足りないぐらい活発な議論になっていきます。今年もそうした「無理のない、楽しく、充実したディスカッションの場」を目指したいと思っています。そのために、私も教室・雰囲気作りに工夫を凝らします）　・平常点100%ですので、欠席は単位に影響してきます。どうにも出られない時は、しっかりと礼節とルールを守り、事前に連絡をするようにして下さい。

・報告が充実していない（しっかり作品を鑑賞し、あるいは調べていない）と判断した場合には、やり直しを指示することもあります（これまではいませんでしたが）。だからといって、凝り固まって悪い意味での「ちゃんと」したレジュメをきって報告しなければ、と窮屈になることはありません。むしろ、ディスカッションの土台やきっかけを提供するような報告が望まれます。

☆受講者数や学生の関心、授業の展開、さらには2020年のカルチャーシーンの動向によって、内容や計画の一部を変更する場合があります。特に少人数の場合は、発表主体というよりは「問い」や「視点」を持ちよった対話メインになるでしょう。予

め了解のうえ、履修して下さい。

科 目 名	複合文化論系演習（現代日本語研究1） 類義語の研究							
担当者名	苅宿　紀子							
複合	2単位	春学期	月曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「サケル」と「ヨケル」、「オコル」と「シカル」、「ニンゲン」と「ヒト」、「ナルホド」と「タシカニ」、「セッカク」と「ワザワザ」、「トテモ」と「ヒジョウニ」と「スゴク」などの類義語を、わたしたちは普段なにげなく使い分けている。しかし、それぞれの類義語の違いを的確に説明できるだろうか。

日本語を話したり書いたりする際には、意味の似ている語の微妙な違いを区別し、的確に使い分けることが必要である。本授業では、単に言葉の使い分けができるだけでなく、微妙な意味や語感の違いを具体的に説明する力を身につけることを目標とする。

類義語の使い分け・分析方法などについて考えを深めるために、履修者による発表形式で授業を進める。発表後には必ずディスカッションを入れる予定である。また、毎回コメントシートの記入により授業の振り返りをする。

授業の到達目標

・類義語の意味・語感の違いを説明できるようになる。
・類義語について用例をもとに分析できるようになる。
・言語研究の基本を身につける。
・言語研究の論文を読めるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　論文の要約・用例の分析ができているか、オリジナルな研究であるか
●**平常点**　60%　　分担発表の内容、ディスカッションへの参加状況、毎回のコメントシート
●**その他**　0%

科 目 名	複合文化論系演習（現代日本語研究2） 比喩の研究							
担当者名	苅宿　紀子							
複合	2単位	秋学期	月曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

文学的な文章、歌詞、広告コピーなどには様々な比喩表現がみられるが、実は日常的にもわたしたちは多くの比喩表現を用いている。特に抽象的な事柄を具体的な「物」とみなして表現することはよく行われ、「心を動かす」「心を読む」「心を閉じる」「心が広い・狭い」「心の底」「心が痛む」など、「心」にまつわる表現だけでもさまざまな表現がある。

本授業では、比喩を中心とした日本語のレトリックについて考察する。工夫された新鮮な比喩表現から比喩とは意識されなくなった日常的な表現まで、様々な比喩表現を分析することにより「言葉で表現するとはどういうことか」を考えていく。

比喩表現の特徴・分析方法などについて考えを深めるために、履修者による発表形式で授業を進める。発表後には必ずディスカッションを入れる予定である。また、毎回コメントシートの記入により授業の振り返りをする。

授業の到達目標

・比喩表現を分類整理することができる。
・比喩・レトリックについて用例をもとに分析できるようになる。
・言語研究の基本を身につける。
・言語研究の論文を読めるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　論文の要約・用例の分析ができているか、オリジナルな研究であるか
●**平常点**　60%　　分担発表の内容、ディスカッションへの参加状況、毎回のコメントシート
●**その他**　0%

科 目 名	複合文化論系演習（日本地域言語研究1） 現代日本の地域言語							
担当者名	上野　和昭							
複合	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代日本語（共通語と地域言語）のいろいろな面を取りあげて検討する。春学期に扱うテーマは、現代日本の地域言語をテーマとする内容である。教材は、方言・地域言語に関する論文を10篇プリントして用いる。受講生は班ごとに論文1篇を分担して、その内容を解説する。さらにその論文を批判的に批評し、発展的な研究の方向を提案できるようにしたい。このような取り組みによって、現代日本の地域言語について理解を深めたい。

授業の到達目標

現代日本の地域言語および地域言語研究について、さまざまな問題を取りあげて理解を深め、多角的に検討して、独自の意見・見解をもつに至ること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　とくに予定していない。
●**レポート**　70%　　テーマの選定、資料・データの集め方、記述の論理性、結論の妥当性
●**平常点**　30%　　発表と討論を中心に構想される授業であるから、積極的に毎回の授業に参加しているかどうかを評価する。
●**その他**　0%　　とくにない。

科 目 名	複合文化論系演習（日本地域言語研究2） 現代日本の社会言語							
担当者名	上野　和昭							
複合	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代日本語（共通語と地域言語）のいろいろな面を取りあげて検討する。秋学期に扱うテーマは、現代日本の社会言語をテーマとする内容である。教材は、社会言語を扱った論文を11篇プリントして用いる。受講生は班ごとに論文1篇を分担して、その内容を解説する。さらにその論文を批判的に論評し、発展的な研究の方向を提案できるようにしたい。このような取り組みによって、現代日本の社会言語について理解を深めたい。

授業の到達目標

現代日本の社会言語および社会言語研究について、さまざまな問題を取りあげて理解を深め、多角的に検討して、独自の意見・見解をもつに至ること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　とくに予定していない。
●**レポート**　70%　　テーマの選定、資料・データの集め方、記述の論理性、結論の妥当性　なお、レポートは最後の授業で書くこととする。
●**平常点**　30%　　発表と討論を中心に構想される授業であるから、積極的に毎回の授業に参加しているかどうかを評価する。
●**その他**　0%　　とくにない。

科 目 名	複合文化論系演習（対照言語学研究） 英語と日本語を比較する							
担当者名	森田　彰							
複合	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

言語を比較することには、いくつかの目的、対象、方法がありますが、ここで言う対照言語学とは、基本的には、例えば英語と日本語とな ど、異系統の2言語を比較し、その言語間の共通点や相違点を探ることにあります。つまり、両言語のそれぞれの構造や成り立ちを学び、さらにそれらを比較することになります。これに加えて、両者に何らかの接触がある場合は（それの場合も多いですが）、その接触のあり方、過程、結果についても考えていきます。また、同一言語でっても、その中に存在するvariation に注目することで、同様な手法をとることも可能です。このように、2つあるいは、それ以上の言語の違いを比べることは、違いそのものを理解することだけでなく、それぞれの言語の特質 design features を、ひいては、言語そのものの性質について考えることになります。

対照言語学の成果は様々に利用されますが、特に両言語の学習・習得の分野における貢献には大きなものがあります。むしろ、言語教育の分野から、対照言語学の発展が促進されたと言ってもよいでしょう。そこで、本演習でも、英語教育（場合によっては日本語教育）に対照言語学の成果を応用する（した）場合のことも考えていきます。それはまた、文化のサンプル（記号、あるいはアイコン）とも言える言語の異同を学ぶことによって、各文化の特徴、ものの捉え方、発想を理解する手助けになることでしょう。

演習では、まず、英語（と日本語）の基本構造について学び、対照言語学の方法論、成果を学びます。次に、受講者が、各自が選んだテーマで発表を行ってもらいます。発表の形式、例えば、単独、グループ、時間などは、受講者の人数など、様子を見て決めて行きたいと思います。その中で、引用、論証、調査と言った科学的論文、リサーチエッセイの書き方の基本を学んでいきます。

授業の到達目標

・科学的論文の書き方の基本を知る。
・異系統の言語を比較するとは、どんなことかが理解できる。
・英語と日本語の異同の羅列ではない、記述方法を知る。
・英語と日本語の大まかな構造について知る。
・特に英語の特質について理解する。
・英語（日本語）学習への応用法を理解できる。
・同一言語の変種についても、その手法が応用できることを理解する。

成績評価方法

一応、理解度を測るテストを20%程度、発表を60%程度、演習への貢献（所謂平常点）を20%程度と考え、総合的に評価します。が、受講者の人数により、テストの比重を高めたり、発表の比重を高めたりすることがあります。理解度を測るテストは行わず、発表とレポートとなることもあり得ます。人数が多くなれば、別にテストを行う可能性もあります。全ては登録後の履修者数により正式に決定します。

備考・関連URL

通常の演習（授業）、討議もそうですが、学生の発表についても、受け身にならず、積極的に参加してください。Course N@vi または Waseda Moodle の点検は常に行ってください。演習ですから、評価の基準であることも含め、参加、出席が重要です。

教科書は、履修者共通の理解項目として使用します。

科 目 名	複合文化論系演習（言語と文化）							
担当者名	酒井　智宏							
複合	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「言語を学ぶとはすなわち文化を学ぶことである。」これまでみなさんは何度となくこのような話を聞いたことがあると思います。しかし、これらの主張は、雰囲気としてはなんとなく分かるような気もしますが、「いったいどういうことなのか具体的に説明してください」と言われると困ってしまうのではないでしょうか。この講義では、こうした主張の起源と発展をたどり、その妥当性を検討することを通じて、その正しい解釈について考察します。

授業の到達目標

1.「言語の違いにかかわらず、人間がもつ概念は普遍的である」とする普遍主義の考え方を理解する。
2.「言語が異なれば概念（さらには世界観）も異なる」とする相対主義の考え方を理解する。
3. 極端な普遍主義・極端な相対主義に陥ることなく、言語と概念、言語と文化の関係を正しく捉えられるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　学期末のレポートを評価対象とします。
●**平常点**　50%　　教科書の各章の内容についてのグループ発表、および討論への参加の度合いを評価の対象とします。
●**その他**　0%

備考・関連URL

秋学期開講「ヨーロッパのことばと文化」「認知言語学入門」をあわせて履修すると、いっそう理解が深まるでしょう。
関連URL: http://www.tomohirosakai.com/

科 目 名	複合文化論系演習（日常言語の論理学）							
担当者名	峯島　宏次							
複合	2単位	春学期	金曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「人間の言葉を形式的に分析する」という考え方は、G.フレーゲ、N.チョムスキー、R.モンタギューらの研究を経て、形式文法・形式意味論という分野に発展し、現在では論理学・哲学・言語学の境界領域で活発に研究されています。この講義では、現代的な観点からその成果の重要な部分を見通しよく提示し、主に日本語と英語を対象にして、私たちがふだん使っている言葉（自然言語）を論理的手法によって分析することの意義について考えます。これは形式意味論の分野で現在標準的な考え方の基本を学ぶと同時に、その基礎を問い直す試みでもあります。

論理学や言語学の特別な知識は仮定せず、授業と平行して、言語分析への応用を念頭に置きつつ、現代論理学の基礎を学ぶ予定です。

授業の到達目標

(1)現代論理学の考え方に基づく言語分析の基本的な方法を学ぶ。
(2)その背景にある言語学・言語哲学の主要な課題、言語学者・哲学者の間で論じられてきた主要な言語現象について概観を得る。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%
●**平常点**　50%
●**その他**　0%

備考・関連URL

自然言語の文法・意味論に興味のある人、形式言語・論理学に興味のある人、言語一般について哲学的な興味を持っている人など、幅広い背景・専門をもつ人を含めて、言語に関心のある学生の参加を期待します。

専門演習

科 目 名	複合文化論系演習（意味と文脈）							
担当者名	酒井　智宏							
複合	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「ことばの意味」を研究する学問分野には「意味論」のほかに「語用論」があります。「意味論」はその名のとおりですが、どうしてこれとは別に「語用論」なる分野が存在するのでしょうか。それは、言語表現が実際の文脈中で用いられることにより、プラスαの意味が伝わることがあるためです。そこで従来、「意味論 = 言語表現の辞書的意味（文脈独立的意味）を扱う分野」、「語用論 = 言語表現が文脈中で使用されたことによって伝わるプラスαの意味を扱う分野」という棲み分けが行われてきました。しかし、近年の語用論では、文脈中でプラスαの意味が生まれるだけでなく、辞書的意味自体が変容することがある（あるいは常に変容する）ことが指摘され、意味論と語用論の棲み分けは従来考えられてきたほどすっきりしたものではないと考えられるようになっています。さらに、1980年代に成立した認知言語学では、意味論と語用論の間に明確な境界線を引こうとすること自体に意味がないと考えられています。この演習では、意味論と語用論の関係についての議論を読み解き、日常なんとなく言われる「ことばの意味は前後の文脈に依存する」ということが具体的に何を意味するのか考えます。

授業の到達目標

1. ことばの意味に対する多面的な見方を身につける。
2.「ことばの意味は文脈に依存する」という言い方が何を意味するかを厳密に理解する。
3. 論理的に書かれた英語文献を正確に読むスキルを身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　学期末のレポートを評価対象とします。
●**平常点**　50%　　講読する論文の内容についてのグループ発表・グループワークへの参加・レビューシート・討論への参加の度合いを評価の対象とします。
●**その他**　0%

備考・関連URL

言語学は突き詰めて考えることにより少しずつ面白さがわかってくる学問分野です。結論を急がず、文献をゆっくり丁寧に読みながら(速読の必要はまったくありません)、論理的に一歩一歩思考を進める楽しさをこの演習で身につけていただきたいと思います。

春学期開講「語用論入門」および秋学期開講「認知言語学入門」をあわせて履修すると、いっそう理解が深まるでしょう。
関連URL: http://www.tomohirosakai.com/

科 目 名	複合文化論系演習（文化人類学入門）							
担当者名	松前　もゆる							
複合	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

文化人類学は、人間の営みについて文化的側面から研究する学問で、世界の人びとの生活や文化、社会を考える視点を提示してきました。フィールドワークを基盤として描かれてきた各地の社会・文化の様相は、時に私たちの「常識」と異なるでしょうが、これに気がつくことは、私たち自身の文化、さらには「人間とは何か？」をとらえ直すことにもつながります。本演習では、文化人類学を初めて学ぶ人を対象として、具体的にいくつかのテーマを取り上げ、世界各地の文化や社会の多様性について理解を深めると同時に、私たち自身の文化や常識について改めて考えてみたいと思います。全体を通じ、文化人類学の基本的なものの見方・考え方を学び、専門研究に取り組む為の基礎的な力を養うことを目指します。

なお、本科目は演習ですので、教科書となる文献を購読し、担当者による報告と全員でのディスカッションを通じて理解を深めるとともに、グループごとにテーマと関連したトピックについて調べたことを報告してもらう時間をもうけます。一連の作業により、文化研究の方法のひとつを実践的に学ぶことができるでしょう。

授業の到達目標

文化人類学の基本的なものの見方・考え方を理解し、自らの「文化」を絶対視することなく、研究・考察する姿勢を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　40%　　学期末にレポートを提出してもらいます。授業内容を充分に理解した上で考察し、正確で論理的な記述がなされているかを評価の対象とします。
●**平常点**　60%　　報告の内容、およびディスカッション等、授業への参加状況を評価の対象とします。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	複合文化論系演習（フィールドワーク入門）							
担当者名	磯野　真穂							
複合	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

文化人類学とは他者を理解するための学問の1つであり、「フィールドワーク」は、文化人類学者がその目的を達成するために用いる調査方法のことを指す。

「フィールドワーク」は、一般的に、調査対象の人々の生活空間に入り込み、そこでの日常生活をつぶさに観察する「参与観察」と、調査対象の人々に対する 「インタビュー」の2本柱により成り立つ。参与観察とインタビューにより得られた調査結果により描かれたものは通常「エスノグラフィー」と名付けられる。

通常のフィールドワークは1年以上かけて行われるが、本講義に参加する学生は、それを圧縮した「『小さな』フィールドワーク」をグループごとに実施する。

授業では、序盤においてフィールドワークの基本的な方法と調査設問の立て方を、机上だけでなく、実際に体験しながら学び、中盤から終盤では各自が進めているフィールドワークの中間報告を中心に進められる。学外で行うフィールドワークと学内で行う学生同士の議論を柱とした参加型の授業である。

授業の到達目標

・フィールドワークを通じて、身近な問いを学術的なものに昇華する方法を身に付ける。
・プレゼンテーションとライティングスキルを高める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　70%　　期末レポートではなく、授業中に提示される課題の提出のことを指す。
●**平常点**　30%　　出席率と授業態度
●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

以下を留意の上受講を検討すること
①学期を通じたグループワークである。
②細かい課題が多く課される。
③授業中の発言を常に求められる。
④受講人数に応じて、授業計画と課題を変更することがある。

科 目 名	複合文化論系演習（文化人類学学説史）　フィールドワークとエスノグラフィの実践と批評							
担当者名	小田島　理絵							
複合	2単位	春学期	土曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

大航海時代以降、世界は拡大し、異文化接触の機会が高まった。19世紀になると、異文化を研究する専門分野として民族学・文化人類学・社会人類学が学問として誕生した。20世紀には、世界各地でフィールドワークを行うことが文化人類学の方法論となり、そこで得たデータを基に、各文化に備わる仕組み、論理の解明を行い、文化の多様性を検証してきた。現代、文化人類学の歴史的営為には様々な批評がある。自己省察を経て、文化研究の一分野として再輪郭化を図っている。

本演習では、文化人類学的知見が築かれた道程＝学説を辿りながら、世界各地の様々な文化に関わる知識が、誰によって、どのようなフィルターを通して見つめられ、翻訳され、理解されてきたかを学んでいく。教場での講義やディスカッション、および机上を超えたフィールドワークの体験を通して、受講生自らが、文化について自分で書く実践を行う。その作業を通して、文化人類学学説と文化研究への接近を試みると同時に、文化を表すことの意義や難しさも学んでいく。

授業の到達目標

（1）文化人類学の基礎的視座と知見の理解

（2）文化研究の初歩的実践（フィールドワークと民族誌記述）

成績評価方法

授業への積極的参加を50%、中間課題と最終レポートを50%の割合で評価の対象とします。中間課題と最終レポートは、講義、講読文献、グループでの議論の内容を基に仕上げることになりますので、授業の予習や復習が必須となります。

科 目 名	複合文化論系演習（ジェンダー人類学） ジェンダー視点からの通文化的な比較研究							
担当者名	國弘　暁子							
複合	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この演習授業では、人類学的調査に基づいたジェンダーに関する論文（英文）についての発表、そしてデスカッションを毎回行う。人類学におけるジェンダー研究の射程を把握し、さらに、現代社会を生きる我々にとって、それら研究がいかに重要なのかについて共に考えることを目的とする。履修者は複数の英論文を事前に読み込んで、その内容について授業で発表するという課題をこなすことに加えて、他の履修者が担当するエッセイも事前に読んでおいて、授業のディスカッションに参加することが求められる。

授業の到達目標

この授業の到達目標は、人類学におけるジェンダー研究の動向について学ぶことだけなく、英語で書かれたものを日本語に翻訳する作業を通じて、ゼミ論・卒論執筆で必要となる文章力を鍛えることも目標としている。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　発表内容とディスカッションへの参加度
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	複合文化論系演習（グローバリゼーションと人間の経済） 経済活動への人類学的アプローチ							
担当者名	松前　もゆる							
複合	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

経済活動は人間にとって欠かすことができない営みであり、各地の生業などの分析は文化人類学を学ぶ者にとって必須となってきました。一方で、グローバリゼーションが進行する今日の世界では、経済は、市場経済に特化するかたちで、文化やくらしとは切り離して語られがちです。しかし、世界各地でのフィールドワークから明らかにされてきたように、グローバリゼーションは各地域で個別に、ローカルなかたちで立ち現れるのであって、人々が実際にグローバリゼーションをどう生きているのかにもっと目を向ける必要があるでしょう。したがって本演習では、人々の日常の経済活動について文化人類学および隣接分野でどのような議論がなされてきたかを学ぶとともに、経済活動の市場原則とは異なる側面、人間のくらしに根ざした経済（＝人間の経済）に光をあてて、グローバル経済の中で実際に人々がどのように生きているか、その<生きる世界>の経済面に接近することを試み、そこから現代世界における人々のくらしの現状と課題について、参加者とともに考えることを目指します。 なお、本科目は演習ですので、経済活動に関する文化人類学および隣接分野でのこれまでの議論について文献から学んだ後、参加者に関連するトピックについて自主的に調べ報告してもらう時間をとる予定です。

専門演習

授業の到達目標

（1）世界各地における人々の経済活動について、文化人類学および隣接分野でこれまでどのような議論がなされてきたか、学説史の概略を理解する。
（2）経済のグローバル化が進行するなかで各地域の人々はどのような経済活動をおこなっているのか、その現状と課題について具体的な事例から検討できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　40%　　学期末にレポートを提出してもらいます。授業内容を充分に理解した上で考察し、正確で論理的な記述がなされているかを評価の対象とします。
●**平常点**　60%　　報告の内容、およびディスカッション等、授業への参加状況を評価の対象とします。
●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	複合文化論系演習（植民地主義と人類学） ポストコロニアル研究の現在							
担当者名	國弘　暁子							
複合	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この演習授業では、ポストコロニアル研究のショートエッセイ（英文）についての発表とデスカッションを毎回行う。ポストコロニアル研究の射程を把握し、さらに、現代社会を生きる我々にとって、それら研究がいかに重要かについて共に考えることを目的とする。履修者は複数の英文エッセイを事前に読み込んで、その内容について授業で発表するという課題をこなすことに加えて、他の履修者が担当するエッセイも事前に読んでおいて、授業のディスカッションに参加することが求められる。

授業の到達目標

この授業の到達目標は、ポストコロニアル研究の動向について学ぶことだけなく、英語で書かれたものを日本語に翻訳する作業を通じて、ゼミ論・卒論執筆で必要となる文章力を鍛えることも目標としている。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　発表の内容とディスカッションへの参加度を重視します。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	複合文化論系演習（民族文化論）							
担当者名	寺崎　秀一郎							
複合	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

文化や民族という概念はア・プリオリに存在するものではなく、それらを担う人間集団によって歴史的に形成されたものであり、自己と他者との差異に基づく分類ということになる。この差異、すなわち、文化や民族を規定するものは何だろうか。たとえば、言語は文化や民族集団を識別する手がかりとはなるが、現実には、同一民族集団としての認識を持ちつつも、異なる言語を使用している例、あるいはその逆、なども知られていることから、言語は自らの文化や民族と他と識別する「アイデンティティ」としては不十分である。

そこで、本演習では、文化や民族を規定する「アイデンティティ」として世界認識の方法に着目し、その歴史的背景や自然環境、場合によっては隣接する他集団との関係、あるいは、世界の秩序を説明するためのマニュアルとしての神話などについて、各地の事例を比較検し、「アイデンティティ」の生成と受容について文化人類学的なアプローチによって明らかにする。

授業の到達目標

「私たち」と「彼ら」の間にはどのような異同が存在するのか。多様な人類社会のあり方について、自ら問題を設定し、読み解くための文化人類学の手法を学ぶ。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない

●**レポート**　0%　　実施しない

●**平常点**　100%　　出席状況、ならびに研究報告の達成度、討議への参加状況等によって総合的に判断する。出席については、受講後、一定期間内にレビューシートを記入すること。レビューシートの記入をもって出席とする。

●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	複合文化論系演習（カルチュラル・スタディーズと人類学）							
担当者名	松平　俊久							
複合	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

カルチュラル・スタディーズは、学問的に等閑視されがちであったテレビや広告、映画、ポップミュージック、ファッション、アニメ、ゲームなどの大衆文化（ポピュラー・カルチャー）と若者文化を主たる対象として、それらを日常生活（実践）との関わりのなかで捉えてさまざまな学問の理論や概念、方法を借用して理解・考察し、文化の問題にとり組むことを基本としてきた研究領域です。そのスタンスは、さまざまな民衆の文化を対象とし、調査結果から実証的にアプローチしていく先行学問である文化人類学とけっして無関係ではなく、むしろ両者には相互性がみられるといえます。本授業では、そうした関係をもつカルチュラル・スタディーズと文化人類学双方の基本的な特徴・性格を踏まえて、文化（の多様性）の見方・考え方についてともに学び、考えていきます。 授業形式は、導入として数回講義を実施しますが、演習であることに鑑み、関心をもつ身近な対象・テーマについてグループ発表（2〜3名編成）をし、発表後には質疑応答・議論（Waseda Moodle上のBBSも使用）をするという、履修者主体の実践的なものとなります（別途、コメンテーター制度も予定。詳細は第1回時に説明）。そして最終的には、発表内容をブラッシュアップし、レポートとして文章化するという作業をおこなってもらいます。なお、発表に関してはフィードバックとして講師からコメントを出します。

授業の到達目標

導入の講義内容を参考・意識しつつ、グループのメンバーとともに関心をもつ身近な対象・テーマについていろいろと調べて（調査をして）考えを巡らし、その内容を発表して、さらに他のグループの発表でとりあげられるいくつもの対象・テーマに触れ、履修者間の質疑応答・議論ならびに講師からのフィードバックをも介することで、カルチュラル・スタディーズと文化人類学双方の立ち位置からの文化（の多様性）の見方・考え方を多角的かつ経験的に身につけてもらうことを目標とします。

また、学術的な思考法や発表構成の組み立て方をはじめとして、発表の仕方（レジュメやpptのスライドの作り方などを含む）や発表内容の文章化といった、自身の考えを的確にアウトプットする能力を身につけることも目標に設定しています。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。

●**レポート**　35%　　発表内容を的確に文章化できているか、質疑応答・議論で指摘されたことや講師からのフィードバックがうまく踏まえられ、発表時よりも内容がさらによくなっているかなどを評価基準とします。

●**平常点**　65%　　発表を35%、質疑応答・議論・BBSへの参加度を15%、出席状況を15%とします。 発表は、構成が論理的に考えられているか、限られた時間のなかで的確に内容を伝えられているか、独自の考察が展開できているか、質疑応答で質問に答えられているか、レジュメやpptが適切に作成されているのかなどを評価基準とします。

●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

授業中では確保できる時間が不十分のため、質疑応答・議論と講師による発表へのフィードバックには、Waseda Moodle上のBBSも使用します。

第1回のオリエンテーションでは、発表に関して注意事項の説明をおこなうとともに、グループ・発表日程を決めますので、欠席しないようにしてください。

履修者数などの都合により、授業内容・計画が多少変更となる場合があります。

科 目 名	複合文化論系演習（開発人類学） 文化人類学における開発の視座							
担当者名	小田島　理絵							
複合	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

本演習では、様々な文化社会において推進された開発、進行中の開発の在り方に関する文化人類学研究の講読、研究内容に関する受講生の発表、受講生同士の議論を通して、様々な文化と社会における進歩や発展に対する考えを深めていく。

授業は、以下の全6部から構成されている。（1）文化人類学による開発の見方・関わり方に関する一般講義
（2）近代化理論と都市開発
（3）持続可能な発展と観光開発
（4）モラルエコノミー・ネオリベラルエコノミーと貧困の見方・あり方
（5）市民社会の形成と人間的発展に向けた共同体の在り方の模索
（6）総合まとめ

各部のテーマに関連するアジア諸国の事例を主に用いて考察を行う。受講者が開発に対する人類学的視野や考察上の方法論を身に付けていくことを目標とする。

授業の到達目標

（1）開発と開発に関わる諸問題の文化人類学的見方を鍛え、身に付ける。
（2）開発に関わる諸問題に対する自分の見方を発信する力を身に付ける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　定期試験は行わない。
●**レポート**　50%　　中間課題として、各自が授業の内容に基づいた小調査を行い、その結果を簡単な報告書としてまとめ、データの見方や取り扱い方法の練習をする。期末には最終レポートの提出が求められる。最終レポートでは、授業の理解度、独自の調査の進め方、文章の構成、参考文献や資料の用い方などを評価する。
●**平常点**　50%　　授業では各自がノートを付けることを習慣づけ、それを基に、文献要約発表や議論へ積極的に参加することが求められている。とくに、受講生が小グループとなり、意見を交換する議論の時間が設けられており、その際には、限られた時間でグループごとに他の人の意見に耳を傾け、話し合い、発表することが求められる。この作業に対し、積極的に参加することが求められる。講読文献を読む際には、その文献で著者が述べているポイントを要約していくことが必要となる。そのポイントを授業で発表する。授業の進度とともに、各自、要約の仕方を鍛えていくことが望まれる。
●**その他**　0%

科 目 名	複合文化論系演習（医療人類学）							
担当者名	磯野　真穂							
複合	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

生きている限り私たちは必ず心や身体の不調を抱えます。そのような不調には、「うつ病」や「糖尿病」のような疾患名がつけられ、それに応じた治療法がとられることが私たちの社会では一般的ですが、このような医療システム（＝生物医療）は世界ある医療システムの1つにしかすぎません。中には病名のつかない不調、精霊や呪いによって起こると考えられる不調もあります。

医療人類学は、生物医療を最も優れた医療システムとして捉えるのではなく、世界にある数多くの医療システムの1つとして相対化し、ひとが抱える心身の不調を、生物学的な異常ではなく、個人の後ろ側にある社会や文化、政治・経済状況までもが包括的に絡み合った苦しみとして捉えます。

本演習では、生物医療以外の医療システムや、摂食障害、ストレス、トラウマといった最近よく耳にする用語や、死や老化といった問題を扱い、心と身体の不調を、世界の中で試行錯誤をしながら生きる人間という大きな視野でとらえる見方を学びます。

専門演習

授業の到達目標

身体や心の不調を医療人類学的に分析する視点を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　40%　　テーマごとに提出。期末レポートはなし。
●**平常点**　30%　　出席と授業参加態度
●**その他**　30%　　グループ発表

備考・関連URL

受講に当たっては下記を留意すること
1. テーマごとに課題が出される
2. テーマごとにグループに分かれ、グループそれぞれが講師のアドバイスのもとディスカッションを行いながら授業を運営する形式である
3. グループワークへの積極的な参加が求められる。
4. 扱い内容に若干の変更を加える場合がある。

科 目 名	複合文化論系演習（コミュニティとナショナリズム）　現代世界におけるナショナリズムとコミュニティ							
担当者名	松前　もゆる							
複合	2単位	秋学期	木曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

ナショナリズムは近代と強く結びつく現象であるが、現代のグローバル化の時代にあって、再びこうした動きが世界各地で目立つようになってきたと言われる。とりわけ近年では、移民や難民に対し、あるいは、外部に由来すると考えられる理念や価値観に対し、「われわれ」―われわれの利益や価値観、あるいは「われわれのコミュニティ」―を守ろうとする動きとして現れているように思われる。他方、「コミュニティ」という言葉も、さまざまなレベルの多様な集団をさすことがある多義的なものでありながら、昨今「地域コミュニティの再生」が目指されるなど、社会的に注目されている。こうした状況への理解に近づくために、本演習ではまず、ナショナリズムおよびコミュニティについて論じた古典、重要な著作を何度かに分けて購読し、これまでの議論の概要を学ぶ。具体的には、ベネディクト・アンダーソンの『想像の共同体 Imagined Communities』、ホブズボウム＆レンジャー『創られた伝統』およびジェラード・デランティ『コミュニティ』の一部の章をテキストとして購読予定である。さらに、3〜4人のグループごとに現代世界においてコミュニティとナショナリズムを考えるための事例を選び、それについて調べたことを発表してもらい、全体でのディスカッションを経て、このテーマへの理解を深めたい。

授業の到達目標

①「ナショナリズム」および「コミュニティ」という今も注目される概念について、基本的な知識を得る。

②現代世界における「ナショナリズム」と「コミュニティ」をめぐる問題系について、自ら調べて理解を深め、自分なりにアプローチする力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。

●**レポート**　40%　　学期末にレポートを提出してもらいます。レポート内容が、授業内容を充分に理解したうえで、正確に論理的に記述されているかをもとに評価します。

●**平常点**　60%　　授業での報告・発表の内容、およびディスカッション等授業への参加状況を評価の対象とします。

●**その他**　0%　　特になし。

科 目 名	複合文化論系演習（多文化社会論）　グローバル世界とダイバーシティ（多様性）							
担当者名	高橋　利枝							
複合	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

移民が多い国、たとえば、カナダ、オーストラリアなどに、それぞれの移民が以前にいた国、地域の文化を背負い、別の地域から人々の異なる文化と共存する「多文化」という現象が見られます。歴史的経緯の中で、それらが融合して、別の文化を形成していく傾向も見られますが、その一方で、それぞれの異なる文化を尊重して、それらを保持したまま、もしくはその変化は自然な経過に委ね、積極的に共存を模索する動きもあります。例えば今日では、衛星放送やインターネット、YouTubeなどの動画共有サイト、ソーシャルメディアなどによって日常生活において絶えず母国とつながり、文化的アイデンティティを再創造している若者たちもいます。そうした、ひとつの国もしくは地域に属する社会に見られる、「多文化」という現象に関して、幾つかの具体的なケースについて検討しながら、考察して行きたいと思います。その際に、私たちが「国」や「民族」という枠組みにとわられているので、一民族もしくは一民族に一様な一つの文化と思いがちですが、実は一つの文化について詳しく学べば学ぶほど、それらの中に「多文化」の要素があることがわかる、ということを常に意識したいと思います。本演習では、アメリカやカナダ、フランス、イギリス、オーストラリア、日本などにおけるダイバーシティ（多様性）を受講者のそれぞれの関心に応じて、文献講読やリサーチ、グループワークやディスカッションなどを通じて理論的かつ経験的に理解を深めていきたいと思います。

授業の到達目標

1.「多文化」という現象を考察することにより、「文化」のありかたと「社会」について、可能な限り、深く理解していく端緒としたいと思っています。

2. グループワークやプレゼンテーションなどを通して、コミュニケーション能力を身に付けることを目標としています。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—

●**レポート**　0%　　—

●**平常点**　100%　　出席、授業におけるディスカッションなどへの参加度と貢献度、プレゼンテーションによる総合評価。

●**その他**　0%　　—

備考・関連URL

以上に関して、受講者による、調査、グループ発表を中心として授業を進めるので、順不同となり、内容も、受講者の興味とテーマ設定によって変更する場合があります。

科 目 名	複合文化論系演習（近代文化の相互交流）　越境するモダニズム							
担当者名	上野　理恵							
複合	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

20世紀初頭の産業社会の成熟や大衆文化の形成は、世界各都市のモダニズムに新たな展開をもたらしました。絵画、彫刻、文学、音楽、演劇といった既存の芸術ジャンルを越えて、それまで誰も見たことがなかったような実験的な作品をつぎつぎに生み出していったのです。芸術に生産性や実用を求める動きは、工業的素材や複製技術の利用を促し、さらにデザインという新たな分野を確立しました。また作品に対する観者の一方的な関係の否定は、パフォーマンスという身体表現を生み、舞台芸術にも変革をもたしました。このような現象はイタリアの未来主義、ロシアの未来主義や構成主義、ドイツのダダやバウハウス、そして日本の〈マヴォ〉や〈三科〉に共通するものです。舞踊の世界に目を向けると、フランスではバレエ・リュスがピカソやコクトーをはじめさまざまな国籍の芸術家たちを引き入れてバレエを刷新し、ドイツやロシアではダンカンのモダン・ダンスやダルクローズのリトミックの受容からモダン・ダンスの新たな潮流が形成されています。

国境やジャンルを越えた芸術家たちの交流は、各都市のモダニズムを互いに刺激し、新しい動きを産む原動力になったのです。この授業ではモダニズムを担った芸術家たちの相互交流に着目し、その歴史的意義を考えます。

授業の到達目標

各国で展開されたモダニズムを比較対照しながら、近代文化の越境や相互交流について考える。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　20%　　自分の考えを述べていることを重視します。

●**平常点**　40%　　出席状況、授業への参加度。

●**その他**　40%　　発表

科 目 名	複合文化論系演習（メディアと異文化コミュニケーション） AI(人工知能)時代におけるリテラシー							
担当者名	高橋　利枝							
複合	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

グローバル化やAI(人工知能)化が急速に進む現代社会において、人々は対面的コミュニケーションとインターネットや携帯電話などのメディア・コミュニケーション、AIやロボットとのコミュニケーションによって、多様な「他者」や文化と稠密な相互作用を行なっています。ユネスコはこのようなAI社会を生きる若者を「ジェネレーションAI」と名付け、「AIリテラシー」の世界的な普及に取り組んでいます。本演習では、このような現代の「異文化コミュニケーション」と「AI/デジタル・リテラシー」に関して、文献講読やリサーチ、グループワークやディスカッションなどを通じて、理論的かつ経験的に理解を深めていきます。受講者の関心に合わせたグループプロジェクトを通して、現代のグローバル社会、AI(人工知能)社会における好機とリスクを理解し、新たなコスモポリタン文化の創造の可能性を考察していきたいと思います。

授業の到達目標

1. さまざまな文献、フィールドワークを通して、デジタル時代の「異文化コミュニケーション」について理解を深めましょう。
2. AI/デジタル・リテラシーについて理解し、実践することによって、新たな文化を創造する力を身につけましょう。
3. グローバル人材・AI人材に必要なコミュニケーション能力を身に付けることを目標としています。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—
●**レポート**　0%　　—
●**平常点**　100%　　出席、授業におけるディスカッションなどへの参加度と貢献度、プレゼンテーションによる総合評価。
●**その他**　0%　　—

備考・関連URL

本演習は、プロジェクト型授業であり、受講者による調査、グループ発表を中心として授業を進めるため、受講者の興味とテーマ設定によって変更する場合があります。

科 目 名	複合文化論系演習（創造の交流点） 美術に見る異文化交流の問題							
担当者名	坂上　桂子							
複合	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

異文化交流の問題を、美術の視点から学びます。モネやドガ、ロートレックは、日本美術と出会うことで、独自のアートを生み出しました。ピカソはアフリカ美術に触れることで「キュビスム」を生み出しました。美術の歴史を見てみると、こうした例は枚挙にいとまがありません。新しい偉大な創造は、異質な文化が出会い交流するところでこそ生み出されてきたと言えます。異文化の出会いとは何か、他者に学ぶとは何かといった問題を、創造の交流する地点に立って考察していきます。異文化接触と美術、ここでは二つの問題について学びます。

授業の到達目標

美術の創造が、自身に固有の伝統や社会的背景からだけではなく、さまざまな異文化との接触によって生まれてきたことを具体的な例によって知り、それについて考えることが目的です。日本、東洋、西洋といった枠を超えて、広い視野のもと、横断的にイメージ（図像）の創造を考える必要があります。従ってここでは、①異文化接触との交流により、何が生まれるのか、具体的に考察することが一つ目の目的です。同時に②美術史や、美術作品、イメージ（図像）の見方を身に着けることが二つ目の目的です。授業は発表形式としますので、図像を用いたプレゼンテーションができるようになることも必要です。

成績評価方法

平常点で評価します。発表内容、発表原稿、レジュメおよび、授業中に積極的に質疑応答に加わっているかにより、総合的に評価します。

専門演習

科 目 名	複合文化論系演習（若者、メディア、グローバリゼーション） ソーシャルグッドのためのAI(人工知能)							
担当者名	高橋　利枝							
複合	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

私たちはこれまで経験したことがないような変動する世界に生きています。加速するグローバル化やデジタル化によって、日常生活は好機とリスクに満ちています。第4時産業革命と呼ばれているように、AI（人工知能）やロボット、モノのインターネット(IoT)、AR（拡張現実）、VR(仮想現実）など新たな技術の発展によって、多様な形式の「メディア」が私たちの日常生活に入り込んできています。特に子どもや若者たちは、様々な調査結果から多くの時間をスマートフォンやソーシャルメディア、ゲームなどのデジタル・メディアに費やしていることが明らかになっています。そのため、「デジタル・ネイティブ」や「AIネイティブ」、「ジェネレーションAI」などと呼ばれています。

本演習では、グローバル社会、デジタル社会、AI化における好機とリスクについて注目していきたいと思います。文献や、調査およびフィールドワークなどから好機とリスクを明らかにし、グループプロジェクトによって、マテリアルを企画・作成することによって、AI時代における新たな文化を創造するためのスキルを高めていきたいと思います。

授業の到達目標

1. さまざまな文献、フィールドワークを通して、現代社会における好機とリスクを理解し、その対処法を提示することによって、デジタル・リテラシーを高めていきましょう。
2. グループワークやプレゼンテーションなどを通して、グローバル人材・AI人材に必要なコミュニケーション能力を身に付けることを目標としています。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—
●**レポート**　0%　　—
●**平常点**　100%　　出席、授業におけるディスカッションなどへの参加度と貢献度、プレゼンテーションによる総合評価。
●**その他**　0%　　—

備考・関連URL

本演習は、プロジェクト型授業であり、受講者による調査、グループ発表を中心として授業を進めるため、受講者の興味とテーマ設定によって変更する場合があります。

科 目 名	複合文化論系演習（広告にみる異文化コミュニケーション） ジャパン・ブランドのグローバル戦略							
担当者名	高橋　利枝							
複合	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

今日私たちは、携帯電話やソーシャルメディアなどによるメディア・コミュニケーションによって「異文化」とつながり、映画やテレビ、ラジオ、新聞、雑誌などのマス・メディアや、広告、観光ビジネスなどが与える「文化」のイメージを受容しています。このようにデジタル社会において、衛星放送やインターネット、YouTubeなどの動画共有サイト、携帯電話やソーシャルメディアなどによって、私たちは日常生活において、様々な文化とつながり、「異文化」を体験しているのです。「グローカリゼーション」という概念が表しているように、グローバル企業は各国の文化的・社会的規範に応じた「広告文化」を創造しています。ソーシャルメディア時代において「クロスメディア広告」を通じて様々な文化とつながり、異文化接触を行なっています。そのため広告の国際比較は、文化的特殊性を際だたせるだけではなく、研究対象国のメディア政策や社会問題の理解を深めるでしょう。本演習では、文献購読やリサーチ、グループワークやディスカッション、広告マテリアルの企画・製作などを通して、グローバル社会における異文化コミュニケーションについて理論的かつ経験的に理解を深めて行きましょう。

授業の到達目標

1. さまざまな文献、フィールドワークを通して、文化としての広告、コミュニケーションとしての広告を国際比較することによって、グローバル社会における異文化コミュニケーションについて理解を深めていきましょう。
2. グループワークやプレゼンテーションなどを通して、コミュニケーション能力を身に付けることを目標としています。
3. 実際に日本および日本に関する商品と対象国を設定してCMを企画・製作することによって、企画力、分析力、表現力、発信力を身につけましょう。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—
●**レポート**　0%　　—
●**平常点**　100%　　出席、授業におけるディスカッションなどへの参加度と貢献度、プレゼンテーションによる総合評価。
●**その他**　0%　　—

備考・関連URL

本演習は、プロジェクト型授業であり、受講者による調査、グループ発表を中心として授業を進めるため、受講者の興味とテーマ設定によって変更する場合があります。

科 目 名	複合文化論系演習（ギリシア思想の伝播）							
担当者名	岩田　圭一							
複合	2単位	秋学期	木曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

人間とは何か、人間はいかに生きるべきかといった、人間の存在の本質にかかわる問いを考えるとき、古代ギリシアの思想はわれわれに一定の思考方法を示してくれます。例えば人間を欲求的な部分と知性的・理性的な部分に分けて、知性や理性に従うことの重要性を説く考え方は、古代ギリシアの哲学者プラトンに由来する、西洋の伝統的な思考方法の一つです。この考え方では、人間の本質的な部分は知性や理性であり、知的な能力を発揮して生きることが幸福な生き方であるとされます。プラトンにおいては、イデアという理想的な範型的存在との関係で幸福な生き方が追求されますが、その弟子のアリストテレスにおいては、範型的存在は否定され、知性や感覚・欲求などに関する詳細な研究（魂に関する研究）を前提にした独自の幸福論が提示されます。続くヘレニズム・ローマ、中世の哲学者たちは、プラトン、アリストテレスの哲学を基礎にして、哲学のさまざまな問題に取り組み、哲学的思考を発展させました。この演習では、古代ギリシア哲学にはじまる西洋の伝統的な思考方法を学び、人間の生にかかわるさまざまな哲学的問題について考察を行います。

授業の到達目標

西洋の伝統的な思考方法を学び、哲学的な問題を考える力を養うことを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　40%　　教場で理解度の確認を行います。授業内容に関係する、ある程度の長さの文章を配布し、これを読んで考察し、小論文を書いてもらいます。知識を問うのではなく、思考力を評価します。
●**レポート**　0%
●**平常点**　60%　　発表、出席状況、授業への貢献度によって評価します。 初回の授業で、電子機器の使用に関する注意事項を説明します。
●**その他**　0%

科 目 名	複合文化論系演習（東アジアの文化遺産） オリエンタルさと異国情緒を伝えるもの							
担当者名	楢山　満照							
複合	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代社会において、グローバル化とは、往々にして西洋文化を基軸とした文化体系への同調、とイメージされがちであるように見受けられますが、その逆のベクトルをもつ事例も多々あります。この演習では、芸術や宗教など過去の文化交流の事例にとどまらず、サブカルチャーやオタク文化といった現代的な現象、さらには落語や漫才といったかたちをもたない話芸も含めて、まず受講生に自身の興味と感性にしたがって「これぞ東アジアの文化遺産」というものを選定してもらいます。その後、関連する資料を探し出し、異文化圏との影響関係や社会的影響を整理し、自分なりの考察を加えてその魅力や問題点をプレゼンテーションというかたちで発表してもらいます。毎回、発表者から提示された題材をもとに、受講生間の議論を通して「オリエンタルさとは何か」を考えながら、ナショナル・アイデンティティに関する考察をおこなっていきます。

授業の到達目標

ここでいう文化遺産とは、文字通り、先人が残した文化的な財産のことです。そしてそれを、いま自分が暮らしている東アジア文化圏のものに限定したとき、主観的な意見と客観的な視点を区別しながら、その財産の魅力や問題点をどのように他者に伝えることができるのか。あるいはどのように伝えるべきなのか。自分なりの筋道を立てながらプレゼンや議論をすることで、自他の文化理解に関する主体的な意見をもてるようになることを目指します。

成績評価方法

平常点で評価します。ここでいう平常点とは、パワーポイントとレジュメによるプレゼンの訴求力、出席状況、議論に主体的に加わっているかどうか、適宜提出してもらうリアクションペーパー（ミニレポート）のことを指します。

科 目 名	複合文化論系演習（アジアの美術と思想） 想いと願いをデザインする							
担当者名	楢山　満照							
複合	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

造形化されたイメージは、ときに言葉よりも雄弁です。美術はコミュニケーション・ツールとしても機能し、識字率が低かった時代においては、現代以上に特定の思想を伝達するためのものでもありました。この演習では、受講生自身がアジア全域の美術の中から各々の興味にそって「かたちのある」作品を選定し、「かたちのない」思想というものを、どのように造形化していったのか、受講生間の議論を通してその理論と工程を考察し、アジア文化圏と西洋文化圏の相違を主体的に学んでいきます。

西洋文化圏からみたアジア美術、あるいはアジア全般のイメージとは、具体的にどのようなものなのでしょうか。奇異なもの、異質なもの、それでいてどこかエキゾチックで魅惑的なもの。こうしたイメージは、高度に情報化しグローバルな環境が確立された現代では、あまりにもステレオタイプに過ぎるかもしれません。ですが、宗教、思想の不一致による国際紛争が絶えず、人種や性別による差別にようやく敏感になってきた現代だからこそ、アジア人がこれまでどのような想いをどのようなかたちで表現してきたのか、それをあらためて考えることは極めて現代的かつ実践的な考察になり得るはずです。

授業の到達目標

ここでいう美術とは、辞書的な意味でいうならば、「美の視覚的・空間的な表現」ということになります。よってその範疇は広く、現代アートはもちろんのこと、特定の思想や想いを伝えるためのもので、なおかつ「かたちのある」ものであれば、舞台芸術なども含みます。アニメやマンガも含みますが、他のジャンルの美術と同様に、授業の中でおこなってもらうプレゼンテーションでは、自分なりの筋道と理論を立てて、なぜそれが美術であるのかを明確に説明する必要があります。

成績評価方法

平常点で評価します。ここでいう平常点とは、パワーポイントとレジュメによるプレゼンの訴求力、出席状況、議論に主体的に加わっているかどうか、適宜提出してもらうリアクションペーパー（ミニレポート）のことを指します。

科 目 名	複合文化論系演習（世界の工芸にみるデザイン） 日用品から芸術品まで							
担当者名	楢山　満照							
複合	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

専門演習

日々手に取る日用品から、特殊な素材と技巧を駆使した高価な品まで、工芸品には各民族が育み営んできた伝統文化がデザインされています。そしてそこには、その文化を象徴するシンボルが隠されていることも多いように思われます。ただその一方で、普遍的なデザインが、民族や文化の枠を超えて広く踏襲されていることもあるのが、工芸デザインの面白いところです。昨今では、障害者、高齢者、健常者の区別なしに全ての人が使いやすい「ユニバーサルデザイン」という言葉もよく耳にするようになりました。目には見えない思いやり。それをデザインすることさえ可能なのです。

この演習では、まず受講生に自身の興味にそってシンボリックなデザインをもつ対象を選定してもらい、関連する資料を精査したのち、その由来と魅力についてプレゼンテーションというかたちで発表してもらいます。その後、受講生間の議論を通して工芸デザインの機能について考えていきます。

授業の到達目標

各自に選定してもらう工芸に関しては、「実用の品としての機能性に、美的装飾が加えられたもの」と自身が判断したのであれば、時代、地域、素材、用途は一切問いません。また、工芸とは一般に小規模なものをいい、辞書的な意味でいうならば建築はそれに含めないということになるようですが、各種の建築意匠は工芸デザインに他なりませんので可とします。この演習では、自分なりの道筋を立てながらプレゼンや議論をすることで、お気に入りの工芸デザインの機能性と装飾性について、主体的な意見を客観的に説明できるようになることを目指します。

成績評価方法

平常点で評価します。ここでいう平常点とは、パワーポイントとレジュメによるプレゼンの訴求力、出席状況、議論に主体的に加わっているかどうか、適宜提出してもらうリアクションペーパー（ミニレポート）のことを指します。

科 目 名	複合文化論系演習（感性文化基礎論） 香りと感性							
担当者名	宮崎　薫							
複合	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

香りは、日本の文化や芸術に大きく関わる感性です。日本では、仏教とともに伝来した香りを、貴族社会、武家社会の中で育み、香道という独特の香りの文化を構築しました。本演習では、香りを哲学、文学、美術、生活美学の各領域で、日本と西洋を比較しながら検証します。香りにまつわるさまざまな作品や資料を紹介します。 本演習は、ディプロマポリシーの中の「多様な文化・価値観の交流を育む」に対応し、文化研究の方法を実践的に学び、専門研究に取り組むための基礎的な能力を養います。

授業の到達目標

この演習で、発表や議論することを通じて、参加者自身が日本の文化や芸術、生活における香りと感性の関わりについて検証し、各々の研究テーマにつなげることを目指します。哲学、文学、美術、生活美学など、学問の広がりを体験し、自らの独創的な研究を構想する視野を得ることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　-　-　-

●**レポート**　0%　　-　-　-
●**平常点**　100%　　授業終了後にコメントや感想を書いてもらい、その評価を集積して総合的に成績を判断します。その際、授業内容の理解度、自己の見解の有無、記述の的確さ等を評価基準とします。また、課題の発表、出席状況、議論への参加度等も考慮します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

ゲスト等の招聘で、授業計画を変更する場合があります。

科 目 名	複合文化論系演習（感性哲学）							
担当者名	小林　信之　他／辻内　宣博							
複合	２単位	夏クォーター	火４時限	金４時限	２年以上	—	—	—

授業概要

一般に感覚や感情と呼ばれている事柄にかんして、哲学や美学の観点から考察します。
授業は、テーマの概要を説明したのちに、関連するテキストを精読するというかたちですすめていきます。担当者をきめてテキストについて発表してもらいますが、それ以外の参加者もあらかじめ文献に目をとおしておくことが求められます。
講読する文献はすべて授業中またはネットをつうじて配布します。

あつかわれるテーマの例としては、以下のようなものがあります。
-感覚／感情とは何か。
-中世哲学における感情論
-美にかんする感情
-カント『判断力批判』について
-ニーチェの思想
-ハンナ・アーレントと共通感覚
-永井均『マンガは哲学する』より

授業の到達目標

（1）　哲学的に深く「考える」力を身につけること。
（2）　美的なものをつうじて「感じる」ことの意味を探求すること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　授業内容の理解度、自己の見解の有無、記述の的確さ等を評価基準とします。
●**平常点**　50%　　演習発表、出席状況、議論への参加度等より判断します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

煩瑣な哲学的議論もふくまれますが、それにとどまらず、直接感じとることの魅力を知ってもらえればと思っています。演習発表をふくめ、能動的な参加が必要です。
関連URL:
http://www.f.waseda.jp/kobayashi

科 目 名	複合文化論系演習（日本の美意識）							
担当者名	常田　槙子							
複合	２単位	春学期	金曜日	５時限	２年以上	—	—	—

授業概要

19世紀後半の日本では、海外から御雇外国人や外交官が訪れるようになり、様々な日本の藝術が彼らの目に留まるようになった。たとえば、そのなかの一人アーネスト・フェノロサが日本美術を高く評価したことはよく知られているだろう。20世紀になると、反対に日本人自らが日本の文化にみられる「美」を海外に発信したり、西洋との対比のなかで日本文化を見つめ直す動きも見られるようになってゆく。本演習では、海外との邂逅のなかで見出だされ、とらえられ、生み出されてきた日本の美意識について考えてみたい。
本演習では、まず講義形式で、日本古典文学のなかで生成されてきた「美」について概説するとともに、海外でそのような美意識がどのように紹介されていったかについていくつかの例を紹介する。そののち、受講者に授業計画に示した著書のなかから一つを選び、発表してもらう。詳細は第1回目のオリエンテーションで説明する。

授業の到達目標

日本的「美」とされるものがどのようにとらえられてきたのかを、時代的・社会的背景などに照らしながら理解するとともに、一人ひとりが日本の美意識について批判的にとらえなおしつつ深く探究することを目指す。

成績評価方法

●**試験**　50%　　最終回の授業時間に試験を実施する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　授業での発表内容、質疑における発言内容、出席状況等を総合的に判断する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

古典作品の読解能力については、高等学校の国語科（古典）で学んだ程度の基礎的な知識さえあれば良い。なお、受講者の人数等により、授業内容に若干の変更を加えることがあり得る。

科 目 名	複合文化論系演習（生活環境感性論） 日常生活の中の情趣							
担当者名	牧野　圭子							
複合	２単位	春学期	金曜日	３時限	２年以上	—	—	—

授業概要

この演習では、日本ではまだほとんど知られていない「消費者美学」の視点から、日常生活の中の情趣の問題について考えていきます。

消費者美学は、「消費者行動研究」の分野の中の一つの研究領域ですが、理論面及び方法面では主として心理学（特に、認知心理学）と関わっており、概念の面では美学（特に、感性論、環境美学、日常美学）と関わっています。

この演習では下記の本を教科書として用います。毎回1節程度ずつ、ゆっくり進んでいきますが、各回につき、予め課題を出します。課題について各自が解答を持ち寄り、それに基づいてディスカッションする形で授業を進めていきます。ディスカッションでは、具体例と理論・概念の間を行ったり来たりする予定です。

授業の到達目標

日常生活の中の情趣の問題について、消費者美学の観点から、自分なりの疑問点を出せるようになることを目標とします。また、情趣の問題に限らず、日常生活の中で生じてくる様々な疑問を学術的な研究テーマへと深めていけるようになることを目指します。

成績評価方法

レポート（50%）：学期末にレポートを提出してもらいます。理解度・着眼・論理的一貫性等を総合的に評価します。
平常点評価（50%）：毎回の課題および授業中の質疑応答・ディスカッション・出席状況に基づいて評価します。

備考・関連URL

心理学（特に、認知心理学）と消費者行動研究について、概論レベルの知識があることが望ましいと考えています。ただし、専門用語については授業中に適宜説明する予定です。

科 目 名	複合文化論系演習（日本古典文化の受容と変容） 翻訳される日本古典文学							
担当者名	常田　槙子							
複合	２単位	秋学期	金曜日	５時限	２年以上	—	—	—

授業概要

日本の古典作品は、時空を越えて現代もなお読み継がれている。特に海外で読まれるようになるには、翻訳が必要不可欠であった。いつ、誰が、何を、誰に向けて、どのように翻訳したのかといったことを考えてみると、そこには翻訳者の思想や狙い、社会的事情などが反映されていることがわかる。本演習では翻訳を通して、変容しながらも次の時代へとつながっていく古典文学の可能性を考えたい。

本演習では、まず、翻訳理論など翻訳研究を行う上で必要となる知識を講義形式で概説する。また、欧米における『源氏物語』を中心とした古典文学の受容状況についても紹介する。そののち、日本古典文学の翻訳からいくつかを課題とし、受講者にそのうちの一つを担当して発表してもらう。詳細は第一回目のオリエンテーションで説明する。

専門演習

授業の到達目標

原文およびその他のテクストと比較したり、時代的・社会的背景なども考慮しながら作品を理解しようとするなかで、分析力を高め、物事を複合的にとらえる力を養うことを目指す。また、一人ひとりが翻訳に向き合うなかで、それぞれの言語のもつ背景や感性、発想に触れることを期する。

成績評価方法

●**試験**　50%　　最終回の授業時間に試験を実施する。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　授業での発表内容、質疑における発言内容、出席状況等を総合的に判断する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

古典作品の読解能力については、高等学校の国語科（古典）で学んだ程度の基礎的な知識さえあれば良い。また、高等学校卒業程度の英語力があることが望ましい。英語以外の諸外国語については、知識を必須としない。なお、受講者の人数等により、授業内容に若干の変更を加えることがあり得る。

科 目 名	複合文化論系演習（集合的アイデンティティ論） グローバル現代社会論							
担当者名	山田　真茂留							
複合	２単位	春学期	木曜日	２時限	２年以上	—	—	—

授業概要

個人主義化、個人化の進展する現代社会では、個人のアイデンティティも集合的なアイデンティティもさまざまなゆらぎをきたしている。またその反動として、エスニック文化やナショナリズムへの志向も強く見られるようになった。そしてそうした傾向は、グローバル化が進めば進むほど顕著なものとなってくる。そこでこの演習では、指定するテキストを講読・検討しながら、このグローバル時代にあたって眼前に広がる多様で流動的な現代社会のありようを深く見据え、さらに今日的なアイデンティティをめぐる諸問題にもアプローチしていきたい。

用いるテキストは『グローバル現代社会論』（担当教員編、文真堂刊、2600円＋税）で、これは参加者全員必携となる。各回は、担当となった章の要約ならびに独自の探究の結果を小グループで発表してもらう予定。また各発表の回には、必ず討論者群を付けることとする。刺激的な発表ならびに活発な討議が期待される。科目の性質上、毎回の演習への出席ならびに主体的な探究姿勢が肝要になる。

（上述のように教科書を使用することになりますので、その点承知しておいてください。）

授業の到達目標

グローバル社会における集合的アイデンティティ現象の豊かさに触れること、グローバル化に関連する主要なトピックを見極めること、社会学をはじめとする学術的な探究法に馴れ親しむこと、学際的なアプローチの仕方の基礎を身につけること、グロー

バル化の進む現代社会の諸問題に対して独自の視点からアプローチできるようになること。

成績評価方法

演習への参加状況を総合的に勘案して評価する。なお通常の発表の他にレポートを提出してもらう可能性もある。

科 目 名	複合文化論系演習（視覚文化論）							
担当者名	島村　幸忠							
複合	2単位	秋学期	月曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

絵画や彫刻といった美術作品にはじまり、写真、映画、漫画、テレビ、あるいは広告にいたるまで、わたしたちの周囲には視覚によって認識することのできる文化的なイメージが溢れています。それらのイメージは独立して存在するのではなく、歴史や政治、経済など、様々な背景のもとに作り出されています。本講義では、それらの文化的なイメージを多角的な視点から読解していきます。

最初の数回は、講師がいくつかのイメージを例にあげ、それらに対してどのような読解が可能であるのか示します。その後は、学生に自由にイメージを選択していただき、それについて読解した内容を発表してもらいます。取りあげるイメージは、文化的営為にまつわるものであればどのようなものでも構いません。

授業の到達目標

文化的なイメージが様々な文脈のもとに成立していることを理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　0%

●**平常点**　100%　　毎回、他の者が行った発表に対してコメントを書いてもらい、その次の回で発表者にフィードバックします。成績は、出席数、発表とそれに対するコメントの内容、フィードバックへの応答などを総合的に評価します。

●**その他**　0%

科 目 名	複合文化論系演習（現代文化研究）							
担当者名	高橋　透							
複合	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

基本的に受講生の興味関心に基づいて発表をしてもらいます。テーマは、複合文化系にかかわるものであれば、各自、自由に設定してください。

授業の到達目標

各自の研究テーマについて説得力のあるプレゼンをおこなうことができるようになること

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　50%　　授業で各自が発表した内容を仕上げてレポートを作成してください

●**平常点**　50%　　授業での発表

●**その他**　0%

科 目 名	複合文化論系演習（現代文化の諸相）							
担当者名	高橋　透							
複合	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

基本的に受講生の興味関心に基づいて発表をしてもらいます。テーマは、複合文化系にかかわるものであれば、各自、自由に設定してください。

授業の到達目標

各自の研究テーマについて説得力のあるプレゼンをおこなうことができるようになること

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　50%　　授業で各自が発表した内容を仕上げてレポートを作成してください

●**平常点**　50%　　授業での発表

●**その他**　0%

科 目 名	複合文化論系演習（現代哲学の諸相）　マイケル・サンデルの『公共哲学』を読む							
担当者名	辻内　宣博							
複合	2単位	秋学期	金曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代政治哲学において、ジョン・ロールズの『正義論』への対案を提示しようとしているマイケル・サンデルの議論の基本的な構図を学ぶ。

具体的には、『公共哲学』のテクストを、英語の原書に基づいて丁寧に読み解いていく。

授業の到達目標

マイケル・サンデルの政治哲学における「政治と道徳との関係」に関する哲学的理論を取り押さえる。

英語の哲学的な読解と分析能力を身につける。

成績評価方法

授業での議論への参加貢献度（30%）とプレゼンテーションでの議論の分析（70%）によって評価する。

備考・関連ＵＲＬ

講義要項やWebシラバスの記載内容は，登録された受講生の人数や理解度，進捗度に応じて，授業開始後に変更となる可能性

があります。

科 目 名	複合文化論系演習（現代フランス思想） フーコー『言葉と物』から言語の可能性を考える							
担当者名	西山　達也							
複合	２単位	秋学期	木曜日	１時限	２年以上	—	—	—

授業概要

フランスの哲学者ミシェル・フーコーの『言葉と物　人文科学の考古学』は、狭い意味での思想史の著作であるにとどまらず、「語りうるもの」と「語りえないもの」の関係に翻弄される人間たちの歴史を描いた書物です。本演習では、この著作から出発して、「言語の可能性」とは何かを考えるとともに、文学、芸術、宗教、科学にまたがる様々な領域を複眼的に見るための視点を獲得することを目指します。何か知識を詰め込むのではなく、難解な文章のなかから、ふと気になる一言を拾うことができる面白さを共有したいと考えています。大学時代に哲学書を何か一冊読みたいと思っている人におすすめの一冊を、皆で読みましょう。

授業の到達目標

現代フランス思想の普遍性と特殊性を学び、現代社会や文化のなかでの意義を理解する。

成績評価方法

演習への定期的・積極的な参加を基準とする。

科 目 名	複合文化論系演習（美学研究）							
担当者名	島村　幸忠							
複合	２単位	秋学期	水曜日	４時限	２年以上	—	—	—

授業概要

美学は、もともと感覚的知覚についての学を意味していましたが、後に、美や芸術などに関する哲学的考究をも含意するようになりました。本講義における美学もこの広い意味で捉えることにします。美学をそのようなものとして捉えた場合、洋の東西を問わず、古来より様々な人が美学を行ってきたことが分かります。本講義では、それらの先人が残した美学に関する著作を読み解き、彼らの思索を跡付けていきます。

最初の数回は、講師がいくつか美学理論を紹介し、それについて討論を行います。その後は、学生に選択した美学理論について発表してもらい、それについて討論を行っていただきます。取りあげる美学理論がいつ書かれたのか、どこで書かれたのか、トピックが何であるかについては問いません。学生のみなさんは自身の興味に従った課題を選択してください。

授業の到達目標

文献を正しく解釈することができるようになること。

また、他の者の発表に対して、有意義なコメントができるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　0%

●**平常点**　100%　　毎回、他の者が行った発表に対してコメントを書いてもらい、その次の回で発表者にフィードバックします。成績は、出席数、発表とそれに対するコメントの内容、フィードバックへの応答などを総合的に評価します。

●**その他**　0%

専門演習

科 目 名	複合文化論系演習（サブカルチャーにみる異文化コミュニケーション） クールジャパンのグローバル戦略							
担当者名	高橋　利枝							
複合	２単位	秋学期	金曜日	４時限	２年以上	—	—	—

授業概要

現代のデジタル社会において、若者はメディアと多様に関わり、中でも「参加型文化（participatory culture）」の生成が注目されています。YouTubeなどの動画共有サイトやソーシャルメディアによって、アニメ、ゲーム、音楽、ファッションなどの領域のどれをとってみても、グローバル化が進んでいます。日本のアニメ、ファッション、ゲーム、初音ミク、アプリ等はクールジャパンと呼ばれ、海外での高い人気から、官民主導でグローバル戦略が推し進められています。本演習では、グローバルな地平におけるサブカルチャーを対象とし、その変容と重層性、文化の生成、グローバル戦略を複合的な観点から検討していきたいと思います。グループワークでは、受講生の関心に合わせて、気候変動など世界の人と協働が必要な課題に対して、日本のサブカルチャーを用いた解決策を提案してもらいたいと思います。

授業の到達目標

1. 本演習では、学術的な文献の講読、経産省や企業などの資料やデータ、フィールドワークやリサーチなどを通して、グローバル社会における異文化コミュニケーションについて理論的かつ経験的に理解を深めて行きましょう。

2. グループワークやディスカッション、プレゼンテーションマテリアル（動画を含む）の製作などを通して、コミュニケーション能力を身に付けることを目標としています。

3. 世界に配信すべき日本のコンテンツや対象国を設定して、実践的なプロジェクトを企画することによって、企画力、分析力、表現力、発信力を身につけましょう。

成績評価方法

●**試験**　0%　　ー

●**レポート**　0%　　ー

●**平常点**　100%　　出席、授業におけるディスカッションなどへの参加度と貢献度、プレゼンテーションによる総合評価。

●**その他**　0%　　ー

備考・関連ＵＲＬ

本演習は、プロジェクト型授業であり、受講者による調査、グループ発表を中心として授業を進めるため、受講者の興味とテーマ設定によって変更する場合があります。

科 目 名	複合文化論系演習（世界のなかの日本のイメージ） ヴィジュアルカルチャーにみる日本							
担当者名	坂上　桂子							
複合	２単位	秋学期	火曜日	４時限	２年以上	—	—	—

授業概要

日本について表象されたイメージから考える授業です。最近ではクール・ジャパンとして、アニメや「かわいい」文化、「おもてなし」文化などを日本独自の「良い」イメージとして積極的に世界にアピールし、売り出そうとする動きがあります。しかし、海外からみた日本のイメージは、原発、環境、歴史認識問題にまつわるものなど、必ずしも私たちが考えるほど「良い」イメージばかりではありません。外国からみた日本や日本人に関する固定概念は、国や個人レベルにおける国際交流、コミュニケーションなど、さまざまな場面において影響を及ぼすものです。私たちは、しばしば「良い」イメージとしての日本ばかりを見がちですが、海外では日本や日本人についてどのように見ているのか、実際のイメージを正しく把握していくことが必要でしょう。ここでは、美術館の芸術作品から食文化、ファッションまで幅広く多様なヴィジュアルカルチャーを考察の出発点とし、世界のなかで日本や日本人がどのような存在であり、どのように捉えられているかを見いだし、考察していきます。その上で、これからの日本の社会についてしっかり見据え、ともに考えます。

授業の到達目標

世界を視野に入れたとき日本がどのように見えているのか、受講生には、まず自分が一番関心のもてる具体的テーマをヴィジュアルカルチャーのなかから見いだし、これを手がかりとして問題を考察してもてもらいます。すなわち、ここでの一つのねらいは、テキストだではなく、視覚的図像から何かを考察する手法を学んでもらうことにあります。またその成果を、図像を使ったパワーポイントにまとめ、発表してもらいます。ほかの受講生がとりあげたテーマについて積極的に意見を述べ問題を共有することで、つねに大きな視点で日本と世界の関係を捉えられる問題意識をもてるようになることを目標とします。

成績評価方法

平常点で評価します。発表内容、発表原稿、レジュメおよび、授業中に積極的に質疑応答に加わっているかにより、総合的に評価します。

科 目 名	複合文化論系演習（アートコミュニケーション）							
担当者名	宮崎　薫　他／伊藤　悠							
複合	２単位	秋学期	火曜日	４時限	２年以上	—	—	—

授業概要

本演習では、アートを介した新たな関係性や創造的なコミュニケーションについて共に考えます。人と作品、人と作家、人と人、人と地域、人と社会といったアートを介して生まれるさまざまな関係性を探ります。キュレーターやギャラリスト、作家等、アートの最前線の方とも交流します。 本演習は、ディプロマポリシーの中の「多様な文化・価値観の交流を育む」に対応し、文化研究の方法を実践的に学び、専門研究に取り組むための基礎的な能力を養います。

授業の到達目標

この演習での議論や発表を通じて、参加者自身がアートに対する理解を深め、その結果を言語化し表現する力が高まることを目指します。アートを切り口に、学問の広がりを体験し、自らの独創的な研究を構想するための視野を得ることを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　-　-　-

●**レポート**　0%　　-　-　-

●**平常点**　100%　　授業の各単元終了後にコメントや感想を書いてもらい、その評価を集積して総合的に成績を判断します。その際、授業内容の理解度、自己の見解の有無、記述の的確さ等を評価基準とします。また、課題の発表、出席状況、議論への参加度等も考慮します。

●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

ゲスト等の招聘で、授業計画を変更する場合があります。

科 目 名	複合文化論系演習（聴覚文化論）							
担当者名	福田　貴成							
複合	２単位	秋学期	火曜日	３時限	２年以上	—	—	—

授業概要

聴覚文化論に関連する文献の講読をおこなう。今期は、渡辺裕『サウンドとメディアの文化資源学――境界線上の音楽』（春秋社、2013年）所収の論文を中心に、聴覚文化論およびそれにかかわる諸領域の日本語論文を取り上げる。本書は、今日における聴覚文化（Auditory Culture）研究の動向と来歴を踏まえたうえで、民謡やソノシート、さらには鉄道の音など、「音楽」の制度的な枠から逸脱しつつも近代的聴覚の形成にかかわってきた事象を多角的に論じたものであり、日本における聴覚文化論の展開を知るうえで重要な一冊である。

本演習は、担当者（第1回の授業で担当箇所と発表日を決める、なお受講者多数の場合はグループでの担当とする）による発表を基本とし、その後コメント担当者（これも第1回の授業時に決める）からの発言を踏まえたうえで、参加者全員での議論をおこなう。なお発表の際には、教科書の担当箇所をまとめたレジュメの準備を必須とする。必要に応じて音声・動画などの紹介も歓迎する。発表担当者には、担当箇所の内容とみずからの関心を結びつけ、またコメント担当者の発言内容も適切に汲みながら、議論の発展に努めることが求められる。

授業の到達目標

聴覚文化論の基本的文献の講読、および関連事項の検討を通じて、聴覚文化論を学ぶにあたって必要とされる知識および理論の基礎を習得する。同時に、それらの知識や理論を、受講者自身の議論にも応用できるようになることを目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。

●**レポート**　40%　　学期末に講読対象図書の内容と自身の関心をからめたテーマでレポートを提出してもらう。

●**平常点**　60%　　発表の内容、および演習への貢献度によって評価する。

●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

無断で4回以上欠席した者には単位を発給しないので注意すること。

科 目 名	表象・メディア論系演習（言葉とイメージ1） 文学と映画							
担当者名	谷　昌親							
表象	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

文学と映画は、異なるジャンルでありながら、たがいに影響を与えあってきました。後発のメディアである映画は、当初こそドキュメンタリー的に現実をほぼありのままに映す場合が多かったものの、やがて物語を映像で語る形式が主流になっていくにつれて、文学を模範と仰ぐようになります。最も早い例のひとつが、ジュール・ヴェルヌの小説を翻案したメリエスの『月世界旅行』（1902）でしょう。以後、文学作品の映画化が頻繁におこなわれるようになっていきます。

一方、文学の側も、それこそ映画が誕生する以前から、映画的とも言える表現を模索してきました。たとえば、19世紀に書かれたフローベールの『ボヴァリー夫人』には、映画を思わせる描写が散見されます。そして19世紀末にリュミエール兄弟が映画を発明してからは、文学はこの新しいメディアから少なからぬ刺激を受け、それまでになかった表現のかたちを見つけ出してきたのです。

しかしながら、文学と映画は、たんに影響しあうだけでなく、一種の葛藤の場を形成することもありました。1950年代にフランスの映画雑誌『カイエ・デュ・シネマ』に集い、のちに自身も映画制作を始め、ヌーヴェル・ヴァーグと呼ばれる映画史上きわめて重要な運動の中心となっていったゴダール、トリュフォー、シャブロル、リヴェット、ロメールといった若き映画批評家たちは、脚本重視で文学的な色合いを求めがちだった当時のフランス映画のあり方に反発し、映画独自の表現を求め、監督を映画の作者とみなす「作家主義」を標榜しました。

このように、文学と映画のあいだの緊張関係が、それぞれのジャンル特有の表現の探求に向かう場合も存在するのです。そうした例は、フランスにかぎらず世界の各地に見られるでしょうし、現代にまで続く問題でもあります。たとえば、最近の日本に例を探してみた場合、吉田修一の小説を李相日の監督で映画化した『怒り』（2016年）、島尾敏雄と島尾ミホの小説をもとに越川道夫監督が映画作品にした『海辺の生と死』（2017年）などでも、小説と映画のあいだの緊張関係が、それぞれのメディアの表現について再考させる契機になっていたと言えるでしょう。

この授業では、最初に映画における「作家主義」の成立過程で浮上してきた、文学と映画のあいだの問題点を紹介した上で、おもに文学作品の映画化という観点から、具体的な作品を例にあげつつ、文学と映画におけるそれぞれ固有の表現形式を探っていきたいと思います。演習の授業ですので、学期の後半は学生による発表が中心となりますが、そこで取り上げる作品については、こちらで候補を絞ったうえで、教室で相談して決めていく予定です。ただ、文学と映画の緊張関係を維持した作品を選ぶという意味では、もともと映画的な表現が入りやすいエンターテイメント系の小説ではなく、原則として、いわゆる純文学系の小説を原作にしたケースを取り上げたいと思います。

授業の到達目標

文学と映画の関係を見ていく授業ですが、たんに影響関係を見るだけでなく、両者の比較をとおして、それぞれのメディアでの独自の表現、そして各々の作家の個性を見極めるようになれればと考えています。

さらには、そうした文学と映画の違いをとおして、世界を見つめる視線のあり方、そしてその延長上に生じる表現のあり方についても考えてみたいものです。

専門演習

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　50%　　授業での発表とは別に、新たに自分なりに作品を選び、文学作品の映画化という観点から学期末レポートを書いてもらいます。口頭発表の経験を踏まえたうえで、新たな対象についてどれだけ真摯に取り組み、どれだけ論理的に考え、説得力のあるかたちでまとめているか、といった点がおもに評価の対象となります。また、口頭発表の時点で出てきた問題点をどれだけ解決しているか、ということも重要な要素になります。

●**平常点**　20%　　演習の授業ですので、単に出席するだけでなく、議論などにどれだけ積極的に参加したかが問われます。

●**その他**　30%　　口頭発表において、自分の選んだ作品についてどれだけ調べ、また自分なりに考え、それをどのように論理的にまとめたかが大事になってきます。また、発表におけるプレゼンテーションの仕方の工夫なども評価の対象となります。

備考・関連URL

谷のホームページ　：　http://www.f.waseda.jp/masachika_1622/

科 目 名	表象・メディア論系演習（ジェンダーとイメージ1） 映像文化にみるジェンダーとセクシュアリティの表現							
担当者名	久保　豊							
表象	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

本演習では、映画・アニメ・テレビドラマを主な題材に、ジェンダーとセクシュアリティが現在の映像文化においてどのように表現されているかについて考察する。分析にあたっては、単純に物語のプロットを解説したり直感的な意見を述べるのではなく、カメラワークや編集、音響や色彩、さらには空間や衣装といった要素がジェンダーとセクシュアリティの表現に対していかに作用しているのかを詳細に分析することが求められる。

本演習には二つの柱がある。一つは、履修者による口頭発表である。発表テーマは上記の題材から履修者が自由に設定できるが、授業進度に合わせて講師と相談のうえ調整しても構わない。発表時の質疑応答では、履修者同士のコメントを通じて学び合う姿勢が重要であるため、授業への積極的な参加が求められる。学期の冒頭、映像分析におけるジェンダー批評およびクィア批評の動向について基礎的な文献紹介や用語解説を交えて講義した後、履修者の口頭発表の参考として、講師がケース・スタディを行う。

もう一つの柱は、口頭発表をもとにした期末レポートである。履修者は、各自のテーマに関する資料を調査・収集・分析のうえ、オリジナリティのある考察を行う。

以上二本の柱を通じて、映像文化とジェンダーおよびセクシュアリティの密接な関係性を考察することを試みる。

キーワード：ジェンダー／セクシュアリティ／ジェンダー批評／クィア批評／映画／アニメ／テレビドラマ／Netflix／メディ

ア／ポピュラーカルチャー／LGBTQ／表現とテクノロジー／エイジング

授業の到達目標

・映像文化におけるジェンダーやセクシュアリティの表現に関する先行研究の効率的な収集方法、読解および引用のスキルを身につける。
・各自が関心のある対象について、客観的な視野から具体的で多角的な分析に応用する力を身につける。
・他者へ適切に伝える発表スキルを身につける。
・他者の発表や意見に対して、敬意を払いつつ建設的にコメントする能力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　40%　　第15回授業日に提出する期末レポート（文字数：2000字以上）により評価。
●**平常点**　30%　　出席状況および授業への貢献度。＊正当な理由なく4回以上欠席した場合は、成績評価の対象とはならない。
●**その他**　30%　　授業内での口頭発表とコメントシートにより評価。

備考・関連URL

・オフィス・アワー（個別相談）は設けない。希望する場合は、授業前後に口頭で、あるいは初回授業で示す講師のメールアドレスへ余裕をもって事前に連絡し、アポイントをとること。
・学内でのインターネット環境へのアクセス方法を把握していること、また電子メールやパワーポイント等のプレゼン用ツールも使えることが望ましい。
・口頭発表もしくはレポートの内容に剽窃（plagiarism）が認められた場合は、成績評価の対象から外す。
・授業中に意図的な差別的言動を繰り返し、他の履修者の学習を妨げる者については退室を求める。平常点も認めない。

科 目 名	表象・メディア論系演習（表象文化の政治経済学1） 食べることの哲学							
担当者名	伊藤　潤一郎							
表象	2単位	春学期	月曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

人間は毎日何かを食べないと生きていけません。食べることは生命を維持するためのもっとも根本的な事柄ですが、よく考えてみると不思議なことがたくさんあります。生きていくために必要な栄養が摂取できれば十分なはずなのに、なぜ人は「おいしさ」や「おしゃれ」を求めるのでしょうか。あるいは、なぜこうも必要以上に食べ過ぎたり飲み過ぎたりしてしまうのでしょうか。なぜ牛や豚を食べるのに、ペットの犬や猫は食べないのでしょうか。そもそも、なぜ人間同士は基本的に共食いをしないのでしょうか。疑問は尽きません。この演習では、私たちが毎日繰り返していながら多くの謎に包まれている食べることについて考えます。

とはいえ、何の手がかりもないところから考え始めることはできないので、授業の前半では分析のための道具としていくつかの理論を紹介し、それが食べることとどのように関係しているかを教員が講義形式で紹介します。具体的には、ジョルジュ・バタイユの「全般経済学」、ジャック・デリダの動物論、ミシェル・フーコーの生権力論など、主に現代フランスの哲学者・思想家の議論を扱う予定です。

授業の後半では、前半で学んだ哲学者たちの理論を作品分析に応用するとともに、食べることについての理論の一端を自分たち自身の手によって作り出すことを試みます。食べることに関する哲学者たちの議論にはまだ不十分な点が多く、近年発表されている食べることを主題とした作品（『孤独のグルメ』、『東京喰種』、『約束のネバーランド』、『生命式』など）が提起している問題を十分に理論化できていません。そこで、こうした作品において食べることがいかに表象されているかを受講者のみなさんに分析し発表してもらい、食べることとそれにまつわる文化についての理解を深めることを目指します（どのような作品を扱うかは初回の授業で受講者のみなさんと相談したうえで決めます。個人発表かグループ発表かは受講者数による）。

授業の到達目標

・食べることにまつわる現代哲学の理論を理解する。
・近年の食べることを主題とする作品を自分の力で分析できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　期末にレポートを提出してもらいます。詳細は授業内で指示します。
●**平常点**　50%　　出席（30%）と発表（20%）による。
●**その他**　0%

備考・関連URL

受講者の興味関心によって授業内容を変更する可能性があります。
期末レポートに関しては、Waseda Moodleからコメントをフィードバックする予定です。

科 目 名	表象・メディア論系演習（映画文化論1）							
担当者名	川崎　佳哉							
表象	2単位	秋学期	水曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

映画は一般的に集団で製作され、集団で受容されるマス・メディアとして認識されています。しかし他方で、映画作品を作り手（＝監督）の個人的な表現として捉える見方も存在してきました。映画がある意味でパーソナルなメディアであるとするこのような考え方は、とりわけフランスで「作家主義」が唱えられて以降、世界中で広く共有されるものとなりました。また、映画を見る側も集団的というよりもパーソナルに作品と向き合うようになっていったことは、映画館から家庭用のVHSへという受容形態の変化からも明らかでしょう。この演習では、映画史におけるそうした歴史的変化を踏まえつつ、映画をパーソナルなメディアとして考える意義を具体的な映画作品に探っていきます。基本的には、担当教員が取り上げる映画作品とそれに関連する文献を提示するので、それらを紹介・分析する発表を担当者もしくはグループに行ってもらいます。

取り上げるのは、アルフレッド・ヒッチコック（古典的な映画）からウェス・アンダーソン（ポスト古典的な映画）に至るまで、「映画作家」としてしばしば考えられてきた映画監督たちの作品です。具体的な映画作品に関しては、受講生からの提案を聞きつつ決めたいと考えています。

授業の到達目標

映画作品の良し悪しとは異なる観点から映画というメディアについて考えるための思考力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　授業内容を踏まえた上で、論理性のあるレポートを書けているかを判断します。
●**平常点**　50%　　出席、発表、討議への参加度などを総合的に判断します。
●**その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論系演習（映画文化論2）　映画批評入門							
担当者名	廣瀬　純							
表象	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

毎回、映画作品を鑑賞し、教員の指導の下でそれについてのディスカッションを行う。授業で学んだことを踏まえ、学期末に批評文を作成する。

授業の到達目標

映像を見る力、音声を聴く力、見たもの及び聴いたものを分析・綜合し言葉にする力を身につける。

成績評価方法

平常点（出席＋発言）70%
レポート（批評文）30%

科 目 名	表象・メディア論系演習（写真論）							
担当者名	長島　有里枝							
表象	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

本演習では、1990年代に起こったガーリーフォトムーブメントの実践を参照しながら、写真を用いた表現についての理解を深めることを目標とします。美術批評家のスーザン・ソンタグは、「厳密にいえば、ひとは写真から理解するものはなにもない」ともいいます。この言葉には、どのような意味があるのでしょうか。

写真（機）はその黎明期から長らく選ばれた人々のものでしたが、機材の小型軽量化やデジタル化などにより、その特権性は失われたかのように言われます。スマートフォンで撮影された美しい写真と、高価な機材が可能にした美しい写真を一緒くたに語ることは、果たして本当に可能でしょうか。

ガーリーフォトを理解するには、1990年代にアメリカやイギリスを中心に興った第三波フェミニズムについて知る必要があります。写真家が「若い」ことや「女性」であることが、写真表現とその解釈にどう影響を及ぼしたのかについて、歴史的背景（写真史、女性史、サブカルチャーの動向）を参照しながら学びましょう。ジェンダーやエスニシティ、年齢や社会階層の違いによって、表現の可能性が異なることがわかるはずです。受講者のみなさんには、それぞれどのような写真表現が開かれているのか一緒に考えましょう。 また、本演習は写真を言語的に解釈することや説明することを重視します。アートというと「言葉がなくてもわかってもらえる」とか「言語以前の感覚的な領域（自然状態）を表現できる」と考える人が多いと思いますが、本演習はそのような言説を疑問視するスタンスを取ります。したがって、必要だと思われる文献を随時配布しますので、宿題で読んでもらいます。他には、エクササイズとしての撮影課題の宿題があります。どちらも、翌週の授業で発表やディスカッションをおこないます。そこでの学びを参照し、最終課題をおのおの決めてもらいます。課題はその年のテーマ（授業内で発表します）に沿った、10点程度の組み写真を基本形とします。演習の最後に、作品の講評会をおこないます。

授業中は意見や質問、活発な議論を歓迎します。採点は、出席の頻度と課題提出の有無に基づいておこないます。

注意点が二つあります。まず、この授業ではカメラ（または写真が撮れるデバイス）が一台以上必要です。それから、課題はプリント（写真用紙などに）して提出してもらうのでその費用がかかります。この二点について了承の上、授業に参加してください。

授業の到達目標

・写真を通じて、自己表現の方法を学ぶ。

・写真表現と社会情勢の関連性や、テクノロジーの発展による表現の変遷について学ぶ。

・自分の置かれた状況や好みに適した機材や、制作の手法を選択できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこなわない。
●**レポート**　10%　　展覧会を鑑賞してもらい、それについての感想レポートを提出してもらいます。内容は評点に影響しませんが、提出がないと採点不可になります。
●**平常点**　45%　　授業の欠席日数が五日以上に到達した場合には採点不可となります。授業内外での取り組みの積極性をみます。
●**その他**　45%　　最終課題として組写真の作品を制作し、講評を受けてもらいます。

科 目 名	表象・メディア論系演習（テレビ文化論）　ドラマにおける多様な恋愛の表象							
担当者名	岡室　美奈子							
表象	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

近年、ゲイカップルなど多様な恋愛のかたちが描かれるドラマが増えている。それらは果たして、多様性への理解を深めうるものなのだろうか？あるいは単に多様性を消費の対象としているに過ぎないのだろうか？この演習では、『きのう何食べた？』、『腐女子、うっかりゲイに告る』、『女子的生活』、『おっさんずラブ』、『ベスト・フレンズ』、『弟の夫』など評価の高かったドラマの中から4作品を選んで分析し、各ドラマが描く恋愛のかたちを明らかにするとともに、テレビドラマの問題点と可能性について考察する。

専門演習

授業の到達目標

テレビドラマの詳細な分析を通して、ドラマの研究方法を身につけるとともに、現実と密接に関連しつつもフィクションとして提示されるテレビドラマの意義について、各自が自分の見解を持つことを目標とする。

また、それぞれのドラマは作り手たちが意図した以上に多くの情報を含んでいるが、私たちは多くの場合1回しか出会わないため、たくさんの情報を受け取り損ねている。この演習では、一つの作品と何度も出会い直すことによって、一つの作品が別のものに見えてくるという体験を受講者にしてもらうことを目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　70%　　作品の理解度に加えて、独自の視点と分析の緻密さ、論理性の有無等を判断材料とする。
●**平常点**　30%　　研究発表、出席、発言の量と質、貢献度等を総合的に判断する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

基本的に地上波で放送されたテレビドラマを取り上げるが、ときには性的、あるいは暴力的な表現を含む場合があることを了承した上で受講してほしい。

科目名	表象・メディア論系演習（芸能文化論）「変身」と日本の古典芸能							
担当者名	和田　修							
表象	2単位	秋学期	月曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「変身」というとウルトラマンや仮面ライダーのそれを思い浮かべるだろうと思いますが、観客の目の前で「変身」するシーンは特撮ヒーローに限ったものではありません。

日本の古典芸能は、「変身」を舞台上で表現するためのものといえ、また、ひろく演劇が役者と役という関係を前提とする以上、「変身」なしには成り立たないのです。

特撮ヒーローの「変身」を生み出した日本の文化的基盤を考えてみたいと思います。

授業の到達目標

「変身」をキーワードに、日本の古典芸能についての基礎的知識を習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　50%　　古典芸能/演劇における変身についてのレポートで評価します。
●**平常点**　50%　　出席と発表で評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

実際に古典芸能を見に行く機会を作れればいいと思っています。

科目名	表象・メディア論系演習（ポピュラー音楽論1）							
担当者名	小沼　純一							
表象	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「ポピュラー音楽」といいます。知ったような気になっています。
ほんとうでしょうか？
いろいろディスカッションして、考えていければとおもいます。

授業の到達目標

ひとつの名称・概念がどうひとつでないかを確認できれば。

成績評価方法

演習ですから、参加が重要になります。

科目名	表象・メディア論系演習（ポピュラー音楽論2）							
担当者名	原　雅明							
表象	2単位	秋学期	火曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要

音楽を聴くことを掘り下げる。そのために、様々な音楽を様々な側面から聴き進み、音楽の現場で起きている事象も適宜取り上げ、多様な聴取体験をもたらす契機を作り、ディスカッションやグループワークを通して理解を深める。

授業の到達目標

音楽を聴く耳を育てる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%
●**平常点**　50%
●**その他**　0%

科目名	表象・メディア論系演習（デザイン論）　デザインの理論と歴史							
担当者名	河村　彩							
表象	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現在のライフスタイルの基礎は大衆文化と都市文化が誕生した20世紀初頭に形成されました。この授業では、家具や道具、建築物、グラフィックなど、さまざまなデザインを対象とし、その理論と歴史を考察します。

授業は講義と文献講読を交互に行う予定です。講義では欧米の代表的なデザイン運動を取り上げ、理論および実践面から考察

します。講読では読むべき文献をあらかじめ決定し、担当者にレジュメを作成して発表してもらいます。講読の会では参加者全員文献を読んで来ることを前提とし、ディスカッションを行います。

授業の到達目標

20世紀のデザインに関する基本的知識を身につける。
イメージや造形を分析できるようになる。

成績評価方法

授業への参加50%　レポート50%

科 目 名	表象・メディア論系演習（メディア・アート論） 未知の価値をキュレーションする							
担当者名	チェン　ドミニク							
表象	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この演習では、メディア・アートとは何か、ということを意識しながら、架空の展示・イベントの企画を作成し、そのカタログ（印刷＋ウェブ）を制作、そしてプレゼンテーションをグループで行う。

メディアアートとは単にメディア技術を作品制作に利用したアート作品と同義ではないし、デジタル技術の使用を意味するものでもない。メディアの歴史的変遷や現在の情報メディア社会に対する問題意識を踏まえた上で、作者のコンセプトを作品あるいはプロジェクトという形で展開するものである。そこではメディア技術は、メディアのありよう、メディアの意味に着目して意識的に用いられる。インターネットやスマホなど情報メディア技術が生活の基盤となっている現在、メディアアートは「美術館や劇場で鑑賞する」古典的な芸術よりむしろ、日常生活に隣接するもの、もしくは埋め込まれたものになってきた。

TV、コンピュータ、インターネット、ゲーム、バーチャルリアリティなどのように、商業的に利用され、社会的に大きな影響を持つメディア技術を、アーティストたちはどのように異なる視点から切り取って見せるのか？　そこから我々は何を読み取ることができるだろうか？　メディアアートの成立過程や存在理由は？　「メディアアート」と日本型の「メディア芸術」とはどう異なり、どのような関係にあるのか？　デジタル技術がもたらした複製・編集可能性は映像・音楽表現に何をもたらしたか？　考えるべきテーマは多い。

この演習では、パブリックアート、ネットプロジェクト、デザイン、ポップカルチャー など、関連領域との関係性を視野に入れつつ、メディアアートについて理解を深め、その社会的・文化的な意味について考える。

演習の課題は、これらに関連したテーマの展覧会の「バーチャル企画」作成とプレゼンテーションである。関心を共有するメンバーで班を形成し、その成果を発表する。また、そのプロセスにおいてメディア・リテラシーを身につけ、調査・研究の手法、グループワークの方法、プレゼンテーションの方法を学ぶ。

授業の到達目標

メディアアートについて、歴史と現在の両面から理解し、その表現と社会的役割、今後の方向性について考えるだけでなく、オリジナルなアプローチから企画し、発信する力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　40%　　グループでテーマを決めてバーチャル展示企画のカタログ制作と発表を行う。期末課題としてこの発表内容をレポートにまとめる。中間課題として展示見学レポートを提出する。
●**平常点**　60%　　所定の回数以上の出席、グループ活動への積極的な参加、他のグループの発表に対するフィードバックを重視する。
●**その他**　0%

専門演習

科 目 名	表象・メディア論系演習（バレエ・ダンス論）							
担当者名	中島　那奈子							
表象	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この授業では、ダンスとは何かを様々な仕方で考えるのが主題です。この授業では、ダンスとは何かを振付家やテーマに沿って考えながら、ダンスにおいて理論と実践を融合させていく作業を理解し、ダンスを読みこむことを試みます。受講生の発表で取り上げていく関連テクストや振付家は一回目の授業で提示しますが、具体的には、ピナ・バウシュ、ピチェ・クランチェン、大野一雄、中国・革命バレエなどを考えています。

授業の到達目標

ダンスとは何かを考えることによって、自分と社会や環境との関わりや、他者への理解に繋げていくことを目指します。欧米と日本、アジアのダンス的なものを概観しつつ、それを理論的に上演分析し議論する過程で、近年舞台制作の現場に登用され、創作のためのリサーチや理論、批評的側面をサポートするドラマトゥルクが果たす役割への理解も深めます。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　授業で発表した内容をどこまで深化させているか。
●**平常点**　50%　　担当する発表の中で、該当するテーマについて調べ、ダンスの理論と実践をどこまで説得力をもって繋ぎ合わせているか。また、他の発表における議論にどれだけ積極的に関わっているか。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	表象・メディア論系演習（ファッション・モード論） ファッションをめぐる社会・技術的問題							
担当者名	チェン　ドミニク　他／川崎　和也							
表象	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

デジタルトランスフォーメーションとグローバリゼーションの進行は、「ファッション」の意味を根本から変えようとしている。「ファッションの終わり［The end of fashion］（Geczy & Karaminas, 2018）」とも評される21世紀ファッションの様相を理解するためには、これまでの美学、歴史学的な研究に加え、デザイン学や情報学、環境学など領域横断的な視座が求められる。

オゾンホール研究で功績をなした大気化学者パウル・クルッツェンが「人新世」という新たな地質年代を提唱し、人類文明と自然環境の新たな関係性について議論が活性化すると刻を同じくして、ファッションが自然環境に与える悪影響が本格的に研究対象になり始めている(Fletcher & Tham, 2014)。ファッションを取り巻く廃棄と消費の問題は既存の既製服システム（プレタポルテ）に原因があることは明らかだが、未だ代替のファッションシステムの検討を十分に検討できているとは言い難い。過度な人間中心主義に依拠している実情に対し、多様な種や物、情報も含めたアクターを包摂する新しいファッションシステムを必要としている。さらにこれまでのモードはデザイナー信仰に依拠して運営されてきたが、デジタル技術や生命工学の発達は新しい製造方法や素材を生み出し、「機械仕掛けの手仕事［Manus x Maxhina］(Bolton, 2016)」を前提とした新しい創造性を要請している。いま、人新世における新たな創造性の探求とオルタナティヴなファッションシステムの思索が求められている。

本講義では、ファッションを身体、衣服、社会、環境のあいだに存在する広義の「メディア」として捉え、これからの衣生活について理解を深めることを目的としている。 同時に、情報技術や生物工学の加速度的な発展によって大きく変化しているファッション産業固有の問題を、サステナブルファッションやスペキュラティヴデザイン、トランジションデザインといった最新のデザイン理論を関連付けつつ考えていく。具体的には以下の3つの手法を採用しつつ講義を進行する：
（1）レクチャー：デザイン学に依拠しながら、現代のファッション産業が置かれている状況を理解するのに必要な文脈や知識を獲得する
（2）エクササイズ／ワークショップ：衣服の設計における基礎的な原理あるいは問題構造について、実際の身体知として感覚する
（3）プレゼンテーション：現代の社会的／環境／技術的問題を前提として、これからのファッションの未来を推論するシナリオを制作しプレゼンテーションを行う

授業の到達目標

現代ファッションの抱える社会的、環境的、技術的問題を理解し、これからの衣生活について自ら考えることができるようになる。講義や文献精読などで文脈を理解するだけではなく、ワークショップ／エクササイズで手足を動かすことで、身体性と共にファッションを体験することができる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　・授業への参加、貢献度を総合的に評価します　・授業最終回におけるプレゼンテーションを評価において考慮します
●**その他**　0%

備考・関連URL

■講師の活動について・微生物やアルゴリズムと「服をつくる」：スペキュラティヴデザイナー・川崎和也による"ポスト人間中心"の実装 https://wired.jp/2019/05/26/kazuya-kawasaki/
・「テクノロジーをファッションをアップデートする一つの切り札として盛り上げていけたらなと」by川崎和也スペキュラティブ・ファッションデザイナー／シンフラックス主宰　連載「モードって何？」Vol.6
https://www.wwdjapan.com/articles/926737
・慶大チームの研究成果が海外で脚光　AIを活用した廃棄物ゼロのパターンメーキング
https://www.wwdjapan.com/articles/840204

■今日のデザインリサーチ領域の着目すべき理論について
・この地球を支える「惑星規模のコンピュテーション」とは何か？：『The Stack』提唱者ベンジャミン・ブラットンに訊く（前編）
https://wired.jp/2019/12/28/benjamin-bratton-1/
・もはや人類は地球上の支配的なアクターではなくなる：デザイン理論家ベンジャミン・ブラットン、「ポストアントロポセン」の可能性を語る（後編）
https://wired.jp/2019/12/29/benjamin-bratton-2/
・「人類の絶滅は避けられないと思います」――MoMAキュレーターのパオラ・アントネッリ、地球の修復を目指すデザインを語る
https://wired.jp/2020/01/02/speculations-paola-antonelli/

科 目 名	表象・メディア論系演習（サブカルチャー論1）							
担当者名	宮沢　章夫							
表象	2単位	春学期	金曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

サブカルチャーはしばしば、「サブカル」と略されて言葉にされることが多い。けれど、そうした話法で単純に語られるのは正しいだろうか。たしかに「正しい」という価値や基準で、〈もの〉や〈こと〉を規定することが本来、非サブカルチャー的だ。では、学生個々は、その言葉をどう捉え、どのような感覚で口にするか。そして自身の関心領域をあきらかにし、より深く興味を掘り下げることが、自身を知ること、またサブカルチャーへの理解を深めることになるはずだ。

授業の到達目標

自身の「関心領域」にあるものを、いかに他者に理解してもらえるか。音楽、映画、演劇、文学、コミック、アニメ、同人誌、コミケ……、どんな種類の発表でもまったく問題はないが、それをプレゼンテーションすることで、自分の興味をいかに他者に伝えることができるかもまた、大事な到達点だ。

成績評価方法

●**試験**　0%　　ありません。
●**レポート**　30%　　全授業を通じて考えたことを、まとめる。
●**平常点**　70%　　自身の関心領域、好きなことを発表するにあたって、それをどのように、どう熱意を持って語ったか。
●**その他**　0%　　ありません。

科 目 名	表象・メディア論系演習（サブカルチャー論2）							
担当者名	宮沢　章夫							
表象	2単位	秋学期	金曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

サブカルチャーはしばしば、「サブカル」と略されて言葉にされることが多い。けれど、そうした話法で単純に語られるのは正しいだろうか。たしかに「正しい」という価値や基準で、〈もの〉や〈こと〉を規定することが本来、非サブカルチャー的だ。では、学生個々は、その言葉をどう捉え、どのような感覚で口にするか。そして自身の関心領域をあきらかにし、より深く興味を掘り下げることが、自身を知ること、またサブカルチャーへの理解を深めることになるはずだ。

授業の到達目標

自身の「関心領域」にあるものを、いかに他者に理解してもらえるか。音楽、映画、演劇、文学、コミック、アニメ、同人誌、コミケ……、どんな種類の発表でもまったく問題はないが、それをプレゼンテーションすることで、自分の興味をいかに他者に伝えることができるかもまた、大事な到達点だ。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しません。
●**レポート**　40%　　他の学生の発表から、自身がどんな刺激を受けたかを確認する。
●**平常点**　60%　　いかに発表したか。授業への貢献、出席。
●**その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論系演習（広告イメージ論）　テレビCMの歴史							
担当者名	高野　光平							
表象	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

日本のテレビコマーシャルの歴史について、豊富な映像資料を提示しつつ詳しく解説する。また、初期のテレビコマーシャルの保存・公開の状況についても解説し、映像アーカイブスの意義や今後のあるべき姿について考える。

授業の到達目標

映像広告史の基本的な流れを理解する。
映像アーカイブスの現状と課題を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない
●**レポート**　100%　　評価基準は授業中に指示する
●**平常点**　0%　　平常点評価は実施しない
●**その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論系演習（スポーツ文化論）　歴史的・社会的構築物としてのスポーツ							
担当者名	石井　昌幸							
表象	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	—	—

専門演習

授業概要

この演習では、スポーツを人文・社会科学の研究対象として扱うことを試みる。たとえば、何らかのスポーツの歴史をより大きな時代の変化と対応させて社会史的に考察する、近代社会におけるスポーツの意味や位置を、ひとつの近代社会論として展開するなどの試みが可能であろう。あるいは、ある社会におけるスポーツに共通する諸特質やそれが映し出している地域文化（アメリカにおけるとか、日本におけるとか）などについて論じることもできるかもしれない。また、「○○とスポーツ」のような課題設定も可能である。○○のなかに、ナショナリズム（国民意識）、ジェンダー表象、マスメディア、階級、人種、政治、マンガ、芸術などの語句を入れてみよう。このようなテーマ設定を通してスポーツを「文化」として考えてみる。

授業の到達目標

スポーツというものを歴史的・社会的構築物としてとらえ、現代スポーツを相対化する視点を獲得すること。また逆に、スポーツをとおして私たちの暮らす（近代）社会の特質について考える力も磨くこと。

成績評価方法

最低1回の発表および学期末のレポートを中心に、授業への参加態度・貢献度などを加味して総合的に判断する。

備考・関連URL

受講者数の多寡により多少の内容変更を加えることがあります。

科 目 名	表象・メディア論系演習（言葉とイメージ2）							
担当者名	辻　佐保子							
表象	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

アメリカン・ミュージカルの制作において、しばしば「翻案（アダプテーション）」という手法がとられます。戯曲や小説、映画、舞踊作品、果ては絵画やコミックも、ミュージカルという形式へ翻案されてきました。その際、作り手たちの「ミュージカルとは何か」「ミュージカルでは何が不／可能か」という認識が作品のあり方に大きく関わります。 本演習では、絵画に触発されて制作されたミュージカル作品を取り上げて、受講生に映像鑑賞やテクスト精読、発表、ディスカッションを課し、イメージとミュージカル表現との間の豊かな関係を考察する中で、ミュージカルという形式の可能性を多角的にとらえていくことを目指します。

授業の到達目標

・アメリカン・ミュージカルの「翻案」という営為の中で、イメージと言葉がどのような関係を築いているかを理解する。

・ミュージカルを分析的に批評する方法論を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　授業内容を踏まえ、論理性やオリジナリティを備えたレポートであるかを問う。
●**平常点**　40%　　三分の二以上の出席を要する。 また、担当グループでの発表の質や、ディスカッションへの寄与も加味する。
●**その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論系演習（ジェンダーとイメージ2）　ポピュラーカルチャーにおける表象／現実／ファンタジー							
担当者名	溝口　彰子							
表象	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

どんな表象も誰かの現実がそのまま反映されているものはなく、必ず何らかのファンタジー（ドリーム、思い込み、偏見などとも言い換えられる）が関与しているという基本的な認識のもとに、ポピュラーカルチャーを分析、考察していく。とくに、「現実」におけるジェンダー（社会、文化的な性差）がどう作用しているのかについて、それを攪乱し、そこから逃避しているケースも含め、注意を払う。学期の冒頭に基本理論およびケース・スタディの講義を行うが、本演習のメインは学生による研究発表と、質疑応答である。つまり、学生が相互に学び合うセッションを講師が調停しつつ導いていく。（毎週、登場した論点に応じて、追加して参考文献や用語説明をWaseda Moodleにて配布する）

なお、本授業におけるポピュラーカルチャーとは、今日、大衆が消費者として比較的容易にアクセスし楽しむことができるもの――映画、マンガ（BL、少女、少年、青年…）、アニメ、アイドル、スポーツ、宝塚、ミュージカル、ファッション――など、必ずビジュアル要素を持つものとする。分析にあたっては、何が(what)描かれているかだけではなく、どのように(how)描かれているかについて、例えば映画であれば具体的な場面におけるカメラワークや編集の分析などを含めることが求められる。(映画化された小説原作と映画版の比較検討などを扱うことや、とある小説家がテレビや雑誌のインタビューで自らのイメージをビジュアル的にどのように演出しているかの分析などは良いが、小説のみの分析は本授業の課題としては適さない)

発表とレポートで扱う内容については、以上をふまえて受講者が自由に選ぶこととするが、第2回授業で申告した上で、必要に応じて講師と相談し調整する。

授業の到達目標

ポピュラーカルチャーにおける表象／現実／ファンタジーの関連性についての先行研究を理解し、自らの分析に応用できる力を身につける。

ジェンダーについて精神分析的主観性と社会的主体の違いと関係を理解し、自らの分析に応用できる力を身につける。

自らが愛好家しているか、あるいは強い興味を持つポピュラーカルチャーについて、主観的な熱意と客観的な分析眼をもって、他者に対して適切かつ具体的な分析を発表するスキルを身につける。

学術論文を書くためのトレーニングとして、先行論文や評論の戦略的な読解能力、適切な調査能力と資料参照、引用能力を身につける。

他者の発表に対して、即興的に生産的な質問やコメントをする能力を養う。

成績評価方法

授業内発表(20%)
学期末レポート（40%)
授業貢献(40%) 質疑やコメントの回数および内容的な貢献度を見る。

備考・関連URL

第1～3回の授業には必ず出席すること。
発表予定日に無断で欠席した場合は自動的に20%がマイナスとなる。
発表およびレポートの内容に剽窃が認められた場合は成績評価の対象から外す。
個別相談を希望する人は、授業前後に口頭で、あるいは初回に示すメールアドレスにメールで、アポイントをとってください。

科 目 名	表象・メディア論系演習（表象文化の政治経済学2）　精神分析を読む							
担当者名	工藤　顕太							
表象	2単位	秋学期	水曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

本演習では、精神分析にかかわる文献を取り上げ、それをベースとして参加者による発表と議論を行う。まずは精神分析の創設者であるジークムント・フロイトの論考を複数取り上げ、教員が適宜解説することで、精神分析の基本的な理解の共有を図り、参加者自身による作業のベースとしたい。そのあとで取り上げる文献（日本語ないし邦訳を用いる予定）は参加者の関心を踏まえて選定するが、次のようなカテゴリーが想定される。①フロイトの著作　②フロイトに後続する精神分析家の著作（例えばジャック・ラカン、ジャン・ラプランシュなど）　③フロイトやその他の分析家についての研究書ないし概説書　④精神分析の影響を受けた哲学者や思想家の著作（例えばジャック・デリダ、アラン・バディウなど）等々。以上の文献から出発して議論になりうるテーマは、狭義の精神分析には限定されない。それはおのずと、社会と心理療法の関係、無意識や欲望のあり方の歴史的変化、アイデンティティや自己イメージをめぐる文化論・文明論など、多岐にわたるだろう。したがって参加者に求められるのは、真摯にテクストと向き合い、議論すること、そしてそこから自分自身の問いを（再）発見することである。

授業の到達目標

文献を正確に読解すること、議論によって考えを深めること

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%
●**平常点**　50%
●**その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論系演習（ゲームデザインの考現学） ゲームについて学問的に考える							
担当者名	村井　翔							
表象	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

ゲームにはボードゲーム、カードゲームなどもあり、約五千年の歴史があると言われますが、今日ではゲーム専用機ないし携帯電話やPCを使って行われるコンピューターゲーム、テレビゲームないしビデオゲーム（欧米での一般的呼称は後者）が圧倒的な比重を占めており、ここでいう「ゲーム」もそのことです。この種のゲームが現在見られるような形態を整えたのは1980年代以降ですから、ゲームについての学問的研究はアニメ、漫画と比べても遥かに遅れていますが、一方、ゲームは現在、きわめて多様なジャンルに分化しており、そのすべてを包括しうるような研究の視点は見出しがたいとも言えます。それでもRPG（ロールプレイング・ゲーム）など何らかの意味でストーリーのあるゲームに対しては物語論（ナラトロジー）という文学研究の方法が適用できることは明らかであり、たとえば東 浩紀『ゲーム的リアリズムの誕生』（2007、講談社現代新書）は実際にはゲームよりもライトノベルがもっぱら論じられているとしても、特筆すべき優れた成果と言えます。ゲーム研究専門家の書いた本ではイェスパー・ユール『ハーフリアル』（2016、ニューゲームズオーダー）が、やや古びた感はあるものの（原著、英語版は2005）、広く浅くの概括的入門書として良く書けています。最新のものではミゲル・シカール『プレイ・マターズ』（2019、フィルムアート社）がちょっと小難しいながら、名著の誉れ高い。また中川大地『現代ゲーム全史』（2016、早川書房）は日本で発売されてきた膨大なゲームの大半について、当時の社会情勢や業界事情などとからめて論じた大作。約600タイトルのゲームが論じられた、なかなか凄い本です。この授業ではゲームと小説のストーリーはどう違うのか、といった基本的な事柄から出発して、現代のゲームデザイン（システム面を含めたゲームの内容、またその設計のこと）を考察してゆきたいと思います。演習参加者にも発表を求めますので、まずは自分の好きなゲームについて熱く語るところから始めてください。担当者はもともと精神分析の研究者なので、いまだに非科学的な議論が横行している「ゲーム脳」「ゲーム有害論」についての発表も歓迎します。

授業の到達目標

演習内における発表（できればそれに加えてレポートの提出）

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　0%　　任意（後述の通り、加算点があります）

●**平常点**　100%　　必ず授業内で1回の発表を行うこと。発表の際にレジュメを配った場合、それをそのままレポートの代わりとして構いませんが、別途、レポートを出せばさらに加算点があります。

●**その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論系演習（メディア原論1） ポスト・ヒューマン論							
担当者名	藤本　一勇							
表象	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代は情報メディアや先端テクノロジーの驚異的な発展によって、従来の世界観・人間観が覆されつつある人類史上画期的な時代です。地球上に張り巡らされた情報ネットワークはグローバル化と地球全体の村化（マクルーハンが言う「グローバル・ビレッジ」）とを同時に促進し、「人類」というリアリティを今までになく高めていると同時に、異文化間の軋轢を生んでいます。また、コンピューター技術によるAIの発展は、これまであらゆる生物の長と自認してきた「人類」の根拠である知性の優越性を揺るがしています。さらに遺伝子工学は、神の領域と考えられてきた生命の創造＝工作をも可能にしてきています。このように従来の社会設計や価値観・倫理の前提だった「人間」の個別性や有限性、外部宇宙の改変不可能性や生命の工作不可能性が崩れる時、いったい「人間」や「わたしたち個人」はどうなるのでしょうか？

本演習は、「ポスト・ヒューマン時代」とも呼ばれる先端メディアとテクノロジー社会の基本構造を学び、それが文化、人間や個人をどのように変容させていくかを考察します。最終的には、受講生それぞれが、来たるべきメディア社会、先端テクノロジー社会のなかで「自分」らしく生きるための「物語」や「思想」を描けるようになることを目指します。

メディア論や情報社会論が初めての学生にも身近な例を取って分かりやすく解説します。基本的に2年生向けの授業ですが、もちろん3年生以上の受講も歓迎です。テクストにもとづいた学生の発表と教員による解説、授業テーマに関連する映画やアニメ作品の分析・考察をおこないます（4作品を観てもらって、テクストと同様に発表・討論をしてもらいます）。

＊初回は、授業の進め方の説明、グループ分け、担当回の決定、等々をおこなうので、欠席しないこと。

授業の到達目標

メディア社会・先端テクノロジー社会の基礎構造やそれらをめぐる「物語」を分析し、未来のメディア社会における文化や思想の可能性を知ること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。

●**レポート**　60%　　詳細は授業中に指示します。

●**平常点**　40%　　平常点とは、出席、発表の評価、授業中における討論への参加度合い、等々のことを指し、それらを総合的に判断して評価を出します。

●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	表象・メディア論系演習（複製メディア論1）							
担当者名	長谷　正人							
表象	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

映画、写真、レコード、活版印刷物といった複製メディアの大量の普及が19世紀後半から20世紀前半の人びとの社会生活を大きく変化させた。例えば写真という機械の視線によって自分自身の姿を客観的に眺めることを人類はそこで初めて学んだわけである。最初多くの人々は写真に写った自分の姿が自分の想像しているイメージと違っているために、自分であるとは理解できなかったという。むろん現代の私たちは、もはや写真を伝達や記録の道具として使いこなしているつもりになってはいる。たとえばパスポートや学生証や免許証の証明写真を自分であると認めて持ち歩いている。しかし実は、それを笑いの種にするとき、

専門演習

感受性の深いところで私たちは、それが自分でないように思えるという19世紀の人々と同じ感覚にも捉えられているのではないか。こうしたメディアによる世界の知覚様式の変化の問題をもっとも深く考えた論考が、ヴァルター・ベンヤミンの「複製技術時代の芸術作品」であろう。この授業はこの論文を読みこなせるようになることを目指しつつ、複製メディア時代の具体的な芸術文化現象を取り上げて、複製メディアの歴史的意味に少しづつ馴染んでいく作業を行いたい。

授業の到達目標

ベンヤミンの提起している複製技術時代の芸術作品という問題を現代社会を生きる自分の問題として考えられるようになること

成績評価方法

授業への出席、報告、授業内容にかかわるレポートを総合的に判断する

科 目 名	表象・メディア論系演習（メディア作品分析） TOKYO―スペクタクルとしての都市							
担当者名	岡室　美奈子							
表象	２単位	春学期	火曜日	４時限	２年以上	―	―	―

授業概要

この演習は、j従来の「表象・メディア論系演習（メディア考古学）」をより内実に合致するように名称変更したものであるが、内容的には、演劇、映画、テレビドラマ、小説、漫画など多様なジャンルの作品を分析し、各メディアの特性に留意しながら深く味わうことを目的とするものであり、従来の「メディア考古学」演習を踏襲するものである。

2020年、東京オリンピック・パラリンピック競技会が開催されるのにともない、東京という都市にも注目が集まっている。この演習では、東京を舞台とするさまざまなメディア・ジャンルの作品を取り上げ、東京／TOKYOという都市がどのように描かれてきたかを考える。取り上げる作品としては、小津安二郎『東京物語』、本多猪四郎『ゴジラ』または庵野秀明／樋口真嗣『シン・ゴジラ』、大友克洋『AKIRA』（映画版）、フランシス・コッポラ『ロスト・イン・トランスレーション』、リリー・フランキー／松岡錠司『東京タワー　オカンとボクと、時々、オトン』などの中から4作品を選ぶ。

授業の到達目標

映画・演劇・テレビドラマ・小説等のジャンルにかかわらず、それぞれの作品は、作者が意図した以上に多くの情報を含んでいる。しかし私たちは多くの場合作品と1回しか出会わないため、たくさんの情報を受け取り損ねている。この演習では、一つの作品と何度も出会い直すことによって、一つの作品が別のものに見えてくるという体験を受講者にしてもらうことを目指す。

また、ジャンルの異なる作品それぞれの分析の手法を身につけることを目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　70%　　作品の理解度に加えて、独自の視点と分析の緻密さ、論理性の有無等を判断材料とする。
●**平常点**　30%　　研究発表、出席、発言の量と質、貢献度等を総合的に判断する。
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

受講者には授業時間外にもDVD等映像資料や図書を視聴する／読むことを求めることになるので、そのつもりで受講されたい。作品はできるだけ論系室にも置いてもらうようにするが、レンタルショップで借りる、オンデマンドで視聴する、買ってもらうなど、お金がかかる場合もあることをあらかじめ了承の上、受講されたい。

また、作品によっては性的、あるいは暴力的な表現を含む場合もありうるので、その点を了承した上で受講されたい。

科 目 名	表象・メディア論系演習（消費社会とメディア1） 私をメディアする、私のかたち・時間を造形する―アートのつくり方―							
担当者名	中村　理恵子							
表象	２単位	春学期	水曜日	３時限	２年以上	―	―	―

授業概要

「メディアとしての私」という視点をもつことによって、消費社会に巻き込まれた自分の目線を批評的にずらし、既存のメディア環境によって作られた「私」とは違う「私」をそれぞれが会得するワークショップです。

外にあるメディアを使って「私」を表現する、というイメージを捨てて、日日世界を直感し、感触を味わい、身体を動かし、行為し、変化すること自体を「メディアとしての私」ととらえ、それまでとは違う「私」を実践します。

ワークショップは、まずソーシャルな文脈にさらされた「メディアの中の私」を観察するところからはじめ、アーティスト目線を育み、そして制作へと向かいます。

作品制作に、目的や説明はいりません。アーティストにとって「今ここ＋わたし」という構図がすべてです。

シンプルなモノ、事、画材、馴染んだガジェット、肉眼、素手、身体…それらを総動員し、制作のプロセスとその痕跡が作品として残ることを目指します。

授業の到達目標

日日の中にしばしば見落されがちな、物事をアートに変換する"まなざし"を鍛えて、多様な画材、技術、道具をふんだんに、じゃぶじゃぶと使いながら、新たなアートの兆しをつかまえ作品を生み出します。

成績評価方法

試験は、ありません。
授業参加点（30%）
課題に対する取組み、レポート・リアクションペーパーの内容（30%）
グループワークへの貢献、発言、発想力、個人の作品・成果物（40%）
※ 毎回の講義を「座＝セッション」と考え、コラボレーションやワークショップへの貢献度を総合的に評価します。

備考・関連ＵＲＬ

※ワークショップ及び作品制作に必要な画材や道具を個人で準備いただきます。
※遅刻厳禁。
※動きやすい服装で。
※授業内容やテーマは、受講者との相互作用によって変更する可能性があります。
※アートイベント、ライブなど、実際にその場へ行き情報収集、体験することを宿題、課題として出すことがあります。

※ワークショップ、講義内容及び成果物を、インターネットやほかで公開することがあります。
※参照「なかむらLab.」 http://rieko.jp/lab/

科 目 名	表象・メディア論系演習（メディア原論2） ゲームの哲学							
担当者名	藤本　一勇							
表象	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

近代から20世紀後半へ至る過程で生じた大きな世界観の変化のひとつが、「世界はゲームである」という思想であった。世界は実体的で確実だという決定論的な世界観から、世界は確率論的にしか把握できず、それぞれの領域でそれぞれの法則（＝ルール）をもった、ローカルな集合の群れであるという認識である。この世界観は、量子力学や相対性理論のような物理学から、社会とは一定のルールに則った個人間のロールプレイゲームであるという社会学にまでおよび、政治・経済にも「ゲーム理論」（フォン・ノイマン）が適応されるようになる。ここにさらにコンピューターの発達・普及が加わり、身近にコンピューターゲームやヴァーチャル・リアリティなども浸透してきて、ゲーム的世界観はますますその深度を深め、現代社会の「環境」そのものにもなってきている。

こうした環境のなかで、そもそも「ゲーム」とは何なのか、「ゲーム」はいかなる特性と本質をもつのか、という問いは、現代社会や未来社会を考察するとき、最も本質的で不可欠な問いとなる。本授業は、政治・経済・社会・文化（さらには日常生活）のさまざまな領域で進む「ゲーム化」（あるいはVR化）のなかで、ありうべき個人や社会の在り方を考える〈ゲーム的・VR的存在論〉を議論し、最終的には、単なる存在論を超えて、ゲーム的・VR的世界における「倫理」の礎を築くことを目指す。

＊　本授業で言う「ゲーム」とは、上記のように、政治・経済・社会・文化を貫通する領域横断的な概念・事象であり、「ルール」（法・法則）を利用した「遊び」という人類学的な巨大な射程をもっている。もちろん、現代のサブカル的な「ゲーム」のことも念頭にあり、それらにも触れるが、単にいわゆる「ソシャゲ」や「ネトゲ」やVtuberなどを扱う授業ではないので要注意。本授業が目指すのは、そうしたサブカル的なゲームをも含め、さらにはそれらを超えて、「メタ」のレベルで駆動している「ゲーム」構造のことである。

授業の到達目標

現代社会あるいはメディア社会における「ゲーム」にまつわる諸現象と理論を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　60%　　詳細は教場で説明します。
●**平常点**　40%　　平常点とは、出席、発表の評価、授業中における討論への参加度合い、等々のことを指し、それらを総合的に判断して評価を出します。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	表象・メディア論系演習（複製メディア論2） 映像文化の社会学							
担当者名	長谷　正人							
表象	2単位	秋学期	木曜日	5時限	2年以上	—	—	—

専門演習

授業概要

長谷正人編『映像文化の社会学』有斐閣をテキストにして映像文化について多角的に分析する。

授業の到達目標

映像文化に対する批判的視点を身につけること。

成績評価方法

出席、授業での報告、授業に関わるレポートで総合的に評価する

科 目 名	表象・メディア論系演習（消費社会とメディア2） Revolutionary 2030 : Speculative Design for the Other 90%							
担当者名	長谷川　愛							
表象	2単位	秋学期	金曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

文明の発達と人類の幸福は必ずしもイコールではありません。アートとデザインと科学技術によって世界はどのように変化するのか、したいのか？

何をもって幸福なのか？そもそも私たちの存在する目的は幸福になることなのか？このような根本的な問いから始まるアートからデザイン、社会実装までを網羅する授業です。

様々なゲストによる社会問題や社会を変える方法、それらににまつわるアート、デザイン作品等の講義とディスカッションを行います。

授業の到達目標

最後に課題の発表をしていただきます。「2030年の革命家」として様々な国に振り分け、歴史＆未来予測リサーチ（未来の盲点やブラックスワンを探す）をしてもらい、どのような問題をどう解決するか作品やプレゼン、パフォーマンスにして発表してもらいます。

最終課題の制作と発表および授業での他学生へのフィードバックなどを評価対象とします。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　出席率
●**その他**　50%　　課題制作と発表: 35%　他の学生の課題への意見だし：15%

科 目 名	表象・メディア論系演習（デザイン・フィクション・ワークショップ） 近未来のメディアを構想する							
担当者名	チェン　ドミニク							
表象	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代はインフォメーション・オーバーロード（情報過多）の時代だと言われている。多様な快楽や苦痛が浮遊する膨大な情報の海のなかで、様々な問題が複雑に絡み合っている。この授業では、そのような複雑な社会との適切な距離感を取り、自己の創造性を最大化するために、個人的な動機を基に、その物語（narrative）の中で未知の情報技術の姿を浮かび上がらせるデザイン・フィクション（サイエンス・フィクションを参照しながら、架空のメディア・テクノロジーに注目する方法）やスペキュラティブ・デザイン（問題解決ではなく、議論を喚び起こすためのデザイン）の手法を用いた一連のワークショップを行う。

ペイン（ストレスや苦痛と感じること）を掘り下げ、その解決策=ペインキラーを考えたり、好き過ぎること＝偏愛・妄想を深掘りながらそれを支援する技術を考えたりしながらプロトタイプ（試作品）を構想し、「自分の物語」を社会に接続する方法を身に付けていく。多様な経験や背景の学生の参加を歓迎する。

※ 受講者全員が参加するグループ発表やディスカッションなどを多く含むので、主体的な参加を臨む方のみ受講すること。

授業の到達目標

個人的なペインを認識し、そのペインキラーとしての未来の技術を構想し、そのかたちをデザインする力を育む。

具体的には以下を行う：

・当事者としての研究テーマの探求
・課題のリサーチと代替案のデザイン
・提案のプレゼンテーション

成績評価方法

出席、積極的な参加と発言、最終発表プレゼンテーションの完成度の総合的な評価を行う。

科 目 名	表象・メディア論系演習（身体原論1） 人間の身体と機械・テクノロジー							
担当者名	坂内　太							
表象	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

我々の身体は絶えず機械によって取り囲まれ、機械に多くを依存した社会の中に置かれています。そうした状況は映像・文学・演劇・マンガ・アニメ等のさまざまな作品に影響を与え、アイデアの源泉ともなってきました。この演習では映像・文学・演劇・マンガ・アニメ諸作品における人間の身体と機械の表象、及びその系譜について概観・討論していきます。

授業の到達目標

毎回の演習内容を十全に理解した上で、分析対象となりうる様々な作品・事象に関し、独自の観察・批評が出来るようになることを、受講生の各々が目指して欲しい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　分析対象となる様々な作品・事象に関して、自分独自のオリジナルな観察・批評が出来ているかどうかを判断・評価する。
●**平常点**　50%　　出席が全体の2/3に満たない者は、最終的な評価の対象としない。
●**その他**　0%

備考・関連URL

最終授業で包括的にフィードバックを行う。

科 目 名	表象・メディア論系演習（音声身体論） マンガの吹きだしを考える							
担当者名	細馬　宏通							
表象	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この講義では、マンガの吹きだしについて考えることを通して、人間の音声と動作の関係について考える。一般に、マンガは絵によって性格づけられ、物語を進行させると考えられがちである。実際、マンガ家はその画力によって認められることが多いし、吹きだしを排したアーティスティックなマンガも存在する。しかし、ほとんどのマンガにおいて、わたしたちが予備知識もないのにその作品をすらすら読めてしまうのは、読みながら吹きだしの時間を無意識のうちに再構成し、会話の時間として感じているからに他ならない。

本年は、戦前戦後の日本のマンガの代表的な作家の作品を通観しながら、吹きだしの多様な表現を考える。

授業の到達目標

・マンガ史のさまざまな表現を比較できるようになる。
・マンガの中のことばをマンガ史から論じることができるようになる。
・音声が書き言葉になるときにどのような表現が可能かをマンガに即して論じることができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　50%　　各自が作品分析を行い、レポートを作成する。
●**平常点**　50%　　小レポートやリスポンスカードをもとに評価する。
●**その他**　0%　　行わない。

備考・関連URL

講義の進行に応じて、取り上げる作家は変更することがある。

科 目 名	表象・メディア論系演習（身体文化論1） 祭りの身体を映像でとらえよう							
担当者名	和田　修							
表象	2単位	春学期	月曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要

かつて祭りは、日頃抑制されている身体を解放する場でした。そこには当時流行のさまざまな芸能が取り入れられました。
現在では祭りの機能も意義も変わってきていますが、かろうじて日常と異なる身体を維持しているものもあります。
この授業では、そうした祭りの身体を各自/グループで撮影に行き、映像コンテンツとしてまとめていただきます。
その他に、各自でレポートを提出して下さい。

実際に祭りの場に足を運ぶ必要があり、多くの祭りは土日祝日に行われるので、7月末までに余裕があるかどうか確認のうえ履修して下さい。

授業の到達目標

祭りに残されている特異な身体を知り、その背景となった文化を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　40%　　祭りや芸能の特色、映像記録の意義などを各自レポートにまとめる。
●**平常点**　20%　　授業での出席や発表によって評価します。
●**その他**　40%　　個人または数人のグループで、実際に祭りを撮影に行き、15分程度の映像コンテンツを作成する。撮影時のカメラは貸出可能。

科 目 名	表象・メディア論系演習（身体原論2） 人間の身体と機械・テクノロジー							
担当者名	坂内　太							
表象	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

我々の身体は絶えず機械によって取り囲まれ、機械に多くを依存した社会の中に置かれています。そうした状況は映像・文学・演劇・マンガ・アニメ等のさまざまな作品に影響を与え、アイデアの源泉ともなってきました。この演習では映像・文学・演劇・マンガ・アニメ諸作品における人間の身体と機械の表象、及びその系譜について概観していきます。

授業の到達目標

毎回の演習内容を十全に理解した上で、分析対象となりうる様々な作品・事象に関し、独自の観察・批評が出来るようになることを、受講生の各々が目指して欲しい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　分析対象となる様々な作品・事象に関して、自分独自のオリジナルな観察・批評が出来ているかどうかを判断・評価する。
●**平常点**　50%　　出席が全体の2/3に満たない者は、最終的な評価の対象としない。
●**その他**　0%

備考・関連URL

最終授業で包括的にフィードバックを行う。

専門演習

科 目 名	表象・メディア論系演習（身体文化論2） ポピュラー音楽のアスペクツ							
担当者名	細馬　宏通							
表象	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

ポピュラー音楽は文化の混淆の産物である。一つの曲にさまざまな要素が合流しており、簡単に「ブルース」「ロック」「ジャズ」「クラシック」「Jポップ」などと分類するのは難しい。一方で、曲はでたらめに生まれるわけではなく、それまでの流行歌の歴史に多くを負う。それは聞き手が全くの白紙の状態で音楽をきくのではなく、自分が聞きなじんできた音や声やさまざまな文化を手がかりに聞くからである。この演習では、音楽をジャンルに分類するかわりに、一つの曲にどのような側面（アスペクト）があり、その曲の聞き手はどのような音や声になじんできたのか、それがどんな文化を形成していたのかを調べ、考える。

授業の到達目標

・歌からさまざまな文化史を聞き取ることを楽しめるようになる。
・一つの歌からさまざまな別の歌の響きをきくことを楽しめるようになる。
・音楽だけでなく、音楽を生み出す身体まで想像力を届かせることができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　50%　　1もしくは2回の中間レポート、および期末レポート
●**平常点**　50%　　レスポンス・カード、小レポート
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

講義で取り上げる楽曲は進行状況によって変更することがある。

科 目 名	表象・メディア論系演習（身体と現在1）							
担当者名	宮沢　章夫							
表象	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

基本的には学生が大学の外に出て、フィールドワークすることから、「身体知」のようなものを発見してほしいと考える。簡単なことを言えば、坂道を登るのはきつい。それでようやく自分のからだの状態を知ることができるだろう。それと同様、では、

「現在」という枠組みのなかでは、どんな「身体」を発見できるかに焦点をあてる。それは街でもいいが、たとえば、ダンサーがいるかもしれない。アスリートの身体はどうなっているか。風俗に勤める人たち、夜に生きる人たち、早朝から働く人たちはどうか。生々しい、身体を大学の外でいかに発見できるか。そのつどテーマを与えフィールドワークする。

授業の到達目標

見ることがなにより大きな意味を持っていると考える。人は歩く。だが、ひとりひとり、まったく歩き方は異なる。その差異に気がつくことでようやく、視界は広がる。都市のなかに現在のからだはある。

成績評価方法

●**試験** 0% 試験はありません。
●**レポート** 20% 自分たちのフィールドワークについてあらためて考える。なにを見たか。なにを知ったか。
●**平常点** 80% ほとんど成績は、いかに熱心にフィールドワークに取り組んだかによって判定する。それは時間であり、いかに声をかけたかであり、なにを自分たちが学んだかが重要になる。
●**その他** 0% 以上のほか、なにもありません。

科 目 名	表象・メディア論系演習（身体と現在2）							
担当者名	宮沢 章夫							
表象	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

基本的には学生が大学の外に出て、フィールドワークすることから、「身体知」のようなものを発見してほしいと考える。簡単なことを言えば、坂道を登るのはきつい。それでようやく自分のからだの状態を知ることができるだろう。それと同様、では、「現在」という枠組みのなかでは、どんな「身体」を発見できるかに焦点をあてる。それは街でもいいが、たとえば、ダンサーがいるかもしれない。アスリートの身体はどうなっているか。風俗に勤める人たち、夜に生きる人たち、早朝から働く人たちはどうか。生々しい、身体を大学の外でいかに発見できるか。そのつどテーマを与えフィールドワークする。

授業の到達目標

見ることがなにより大きな意味を持っていると考える。人は歩く。だが、ひとりひとり、まったく歩き方は異なる。その差異に気がつくことでようやく、視界は広がる。都市のなかに現在のからだはある。

成績評価方法

●**試験** 0% 試験はありません。
●**レポート** 20% 授業で学んだことをどれだけ把握しているか。
●**平常点** 80% いかに発表にいたる作業に積極的に参加したか。
●**その他** 0%

科 目 名	表象・メディア論系演習（身体行為分析） 発声と身体動作の時系列分析							
担当者名	細馬 宏通							
表象	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

わたしたちの体験する映像のほとんどは、編集を経て、いくつかのショットによって構成されている。この演習では、ショットを映像分析の基本単位に据え、さまざまなジャンルの映像を分析する。映像は世界や身体をさまざまな方法で視覚的に切り取るだけでなく、それらを音声や音楽と組み合わされることによってわたしたちの認知を左右している。本演習では、複数のショットが複数の感覚によってどのようにつむぎ合わされているかを紐解くため、マルチモーダルな分析を基本とする。

授業の到達目標

・アニメーション、実写映画、ドラマ、演劇などさまざまな映像資料をショット単位で分析できるようになる。
・映像の中で動いている身体を、動作単位で観察できるようになる。
・音声や音楽と身体動作との関係を記述し、その組み合わせが何をもたらすかを論じることができるようになる。

成績評価方法

●**試験** 0% 行わない。
●**レポート** 50% 中間レポート1もしくは2回。期末レポート1回。
●**平常点** 50% レスポンス・カード、小レポート
●**その他** 0% とくになし。

備考・関連URL

とりあげる作品は進行状況によって変更することがあります。

科 目 名	表象・メディア論系演習（イメージ原論1） ミゲル・シカール『プレイ・マターズ』を読む：遊戯論からゲームスタディーズへ							
担当者名	石岡 良治							
表象	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

ミゲル・シカールの『プレイ・マターズ』（Miguel Sicart, "Play Matters"）は、2014年に原著、2019年に日本語訳が刊行された「遊び心の哲学」を主題にした書物である。本書は、遊戯論の多くが今なおヨハン・ホイジンガの『ホモ・ルーデンス』やロジェ・カイヨワの『遊びと人間』を参照する傾向に対して、「（デジタル）ゲーム」が学問的研究対象となって久しい今世紀の学問的状況に対応した遊戯論を構想する書物である。

本演習では、『プレイ・マターズ』が参照する書物や様々な論点に着目しつつ、受講者の関心に応じてフィクション論やゲームスタディーズの議論を紹介しつつ、同書を読み解いていく予定である。

授業の到達目標

1『プレイ・マターズ』の諸論点の理解に努めつつ、要点をまとめながら読解する
2芸術や文化についての理論的テクストを精読することで、作品読解との接点についての知見を深める

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 60% 学期末レポート

●**平常点**　40%　　コメントシートや発表を加味する
●**その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論系演習（図像学1）　図像の言葉							
担当者名	石井　香絵							
表象	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

絵に代表される視覚イメージは、各々の感覚で自由に見ればよい、というだけのものではない。自由な視覚は、絵が伝えようとしていることがらの理解を土台にしてはじめて成立する。「鳩」は何を表わす、と問えば、多くは「平和」とこたえるだろう。しかし中世やルネサンス期の絵画に描かれた「鳩」は「平和」ではなく「聖霊」の象徴である。日本のアジア・太平洋戦争期の作品に表現された「鳩」は「兵士」を意味する。狭い範囲の知識に依りながら図像を目にすることは、そこに託された意味内容の理解の妨げにもなる。この演習では、時代や地域によって異なるさまざまな図像を例示しながら、多岐にわたる図像イメージの基本的理解をうながす。

授業の到達目標

図像による伝達言語の理解をうながし、さまざまな図像の読解の基礎的態度を培うこと。

成績評価方法

●**試験**　0%　　レポートをもって試験とする。
●**レポート**　70%　　授業の理解度と、それにもとづいた展開力による評価
●**平常点**　30%　　発表の内容による評価
●**その他**　0%

備考・関連URL

毎時間スライドを使用

科 目 名	表象・メディア論系演習（ヴィジュアル・カルチャー論1）							
担当者名	坂内　太							
表象	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この演習では、写真家とその作品、或いはグラフ雑誌の時代を象徴したLIFE誌の名高いフォト・エッセイやニュース記事などを手がかりとしながら、人間を取り巻く様々な行為とそれを伝える表象の政治性について考察する。

報道の即時性に関して、文字媒体・印刷媒体に対するテレビやインターネットの優位性がいくら喧伝されたとしても、報道の場で文章記事と写真とが手を携えることを止めたわけではない。多種多様なメディアが発達しても、依然として報道写真の重要性を疑うことはできないだろう。身体表象と活字メディアとの重要な結節点としてのフォト・ジャーナリズムも同様である。そして、そうした写真が「いま、ここ」に存在する人間を巡る出来事を、その場に居なかった多くの人に伝える点で、様々な問題が中間項目として介在する。

毎回の演習はフォト・エッセイやニュース記事に関するグループ発表とその検討を中心とするが、学期末には、受講生一人一人に簡単なフォトエッセイ/フォトドキュメンタリーを作成してもらう。これをレポートとして提出してもらうが、これについては授業の際に説明する。カメラを持っていない受講生には、使い捨てカメラ（レンズ付きフィルム）などを自分で用意してもらうことになるが、受講に際して写真の経験の有無はまったく問わない。また、携帯電話やスマートフォンに付属したカメラ機能等を利用して撮影し、プリントした写真を素材としても構わない。

専門演習

授業の到達目標

上記の概要に沿って展開される演習の内容を十全に理解した上で、ヴィジュアル・カルチャー論1の対象となりうる様々な作品・事象に関し、独自の観察・批評が出来るようになることを、受講生の各々が目指して欲しい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　50%　　演習の内容を十全に理解した上で、ヴィジュアル・カルチャー論1の対象となりうる様々な作品・事象に関し、独自の観察・批評の視点を有しているかどうか。
●**平常点**　50%　　グループ発表に積極的に参加しているかどうか、また、出席が全体の3分の2に達しているかどうかで判断する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

最終授業で包括的にフィードバックを行う。

科 目 名	表象・メディア論系演習（イメージ原論2）　マンガ・アニメ・映画・文学などの、アダプテーションあるいは「メディアミックス」についての発表演習							
担当者名	石岡　良治							
表象	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

日本のマンガ・アニメ文化では「実写映画化」をめぐる議論がしばしば生じる。そこで顕著に見られるのは「原作」のファンによるメディアミックスに対する否定的な応答であり、メディアミックスが困難である理由が「キャラクター文化」に帰せられることも多い。メディア横断性を大きな特徴として有するキャラクター文化において、「メディアの固有性」をめぐる議論が再帰的に生じるという事態は、分析や考察を要するように思われる。 その一方で、物語メディアとしての性質を持つ映画産業では「文学作品の映画化」「マンガの実写映画化」などの「アダプテーション」がたえず行われており、「映画」はメディアミックスにおいて不可欠の構成要素となっている。映画のノベライズのようなアダプテーションも広範にみられるがゆえに、映像メディアにおける物語の役割についての分析と考察もつねに求められるだろう。

本演習では、具体的な作品分析を通じて、映像作品における「メディアミックス」についての理解を深め、上記の諸問題についてのアプローチを学んでいく。

授業の到達目標

「アダプテーション」ないしは「メディアミックス」の観点からの作品分析を学ぶ

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　学期末レポート
●**平常点**　40%　　発表やコメントシートの内容を加味する
●**その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論系演習（ヴィジュアル・カルチャー論2）　ドローイング　ー　手がきのノートから壁のグラフィティまで							
担当者名	関　直子							
表象	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

デジタル化のすすむ今日、手を介したドローイングの孕む意義は逆に増大している。線を核とするさまざまな表現を、現代におけるドローイングと捉えなら、常に変化していく過程にある、ひとや社会のありようそのものを示すものとしてこれを再考することが意味を持ってくる。

この授業では、イメージだけでなく手がきの言葉も含めて、ドローイングとして捉え、両者の関係を探る。また、紙の上にかく方法は、揺らぎ、ときに途絶え、そして飛翔する思考や感覚の展開を克明に記すものだが、このような平面のうえで拡がる線だけでなく、支持体の内部にまで刻まれるものや、空間のなかで構成される線も視野に入れ、空間へのまなざしという観点から、彫刻家によるドローイングの実践を紹介する。更に、現実を超える想像力の中で、画家たちを捉えて離さなかった、流動的な水をめぐるヴィジョンというものが、ドローイングの主題として取り上げられてきた点に注目する。

このようなアートとしての表現者による試みだけでなく、日常生活の中で今も行われるノートやメモをとる行為、さらに都市空間の中のグラフィティまでを視野に入れ、線をかくという最も根源的でシンプルな表現行為について、複雑化した現代におけるその意味を具体例を通して考える。

授業の到達目標

手で線をかくという行為が、現代の視覚的な空間の中で持つ意味を考える。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　20%　　発表の概要をまとめる
●**平常点**　80%　　1回目から9回目までの授業での参加態度と、10回目から15回目までの発表とディスカッション
●**その他**　0%　　特記事項なし

科 目 名	表象・メディア論系演習（キュレーション）　リアルな体験とデジタル情報が共存する時代のキュレーションの可能性							
担当者名	関　直子							
表象	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

キュレーションという言葉は、ニュースサイトの編集に使われるように近年、日常の場でも散見されるようになっているが、この演習では、ミュージアムをはじめとする展示空間における作品や資料の編集的行為について考えていく。

作品や資料というかたちあるものと、鑑賞する人、そして場合によっては展示されているものの成立に関わったアーティストや学芸員が、展示室という同一の空間のなかで出会い、何かしらの接触ー感覚や感情や会話ーが行われる場というのが、これまでのミュージアムのありようだったわけだが、デジタル・メディアの進展により、展示空間はもとよりミュージアムそのものの存在意義も変容している。ミュージアムのバックヤードに存在する収蔵庫や資料室は、ミュージアムのホームページのなかに蓄積されたデジタル・アーカイブの検索機能と並存することで、建物の壁を越えた世界とのネットワークの中で意味を持つものとなっている。また、展示空間での鑑賞においても、目の前の空間にある作品と、掌中のスマホで検索した画面とを同時に見つめることはさしたる手間ではなく、さらにスマホを目の高さまで持ってきてシャッターを押し、SNSで個人的な眼差しを無限に拡散することも、ほんの数秒、指を動かせばすむ。ミュージアムがこのようにリアルな体験とデジタルな情報が共存する場となった現在、そこで意味を持つキュレーションの可能性を探ってみたい。

授業の到達目標

リアルな体験とデジタルな情報が共存する時代のキュレーションのための思考を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　20%　　発表の概要をまとめること
●**平常点**　80%　　1回目から10回目までの授業への積極的な参加と、11回目以降の発表内容
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	表象・メディア論系演習（デジタルコンテンツ技術1）　デジタルと音楽							
担当者名	和田　修							
表象	2単位	春学期	火曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要

デジタルとは何か。そして、デジタルは万能なのだろうか。

この授業では、デジタルとアナログの基本的な相違をわきまえたうえで、さまざまなデジタルコンテンツを支える技術の基礎を体験する。

春学期は、主としてデジタル音声と画像について取り上げる。グループごとに実際に音楽・音声を録音して編集し、画像の編集の基礎を学ぶ。

授業の到達目標

デジタルコンテンツ技術について、基本的な知識を学ぶと同時に、実際に音声の編集を体験し、正しいコンテンツ運用方法を身につけることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　50%　　デジタルという概念と技術の変遷を正しく理解できたかどうかを評価する。

●**平常点**　50%　　グループ発表への貢献と日常的な学習態度を評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

テクニカルな興味がないとついて行くのが厳しいでしょう。秋学期は動画とWebページを作成する予定です。

科 目 名	表象・メディア論系演習（デジタルコンテンツ技術2）　動画とWebページ							
担当者名	和田　修							
表象	2単位	秋学期	火曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要

デジタルとは何か。そして、デジタルは万能なのだろうか。

この授業では、デジタルとアナログの基本的な相違をわきまえたうえで、さまざまなデジタルコンテンツを支える技術の基礎を体験する。

秋学期は、主として動画編集とWebページの作成について取り上げる。グループごとに動画を撮影し、Webページを作って編集した動画を掲載する。

授業の到達目標

デジタルコンテンツ技術について、基本的な知識を学ぶと同時に、実際に静止画・映像編集などを体験し、正しいコンテンツ運用方法を身につけることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　50%　　デジタルという概念と技術の変遷を正しく理解できたかどうかを評価する。
●**平常点**　50%　　グループ発表への貢献と日常的な学習態度を評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

テクニカルな興味がないとついて行くのが厳しいでしょう。春学期の履修を前提とするわけではありませんが、継続している方が理解はしやすいと思います。

科 目 名	表象・メディア論系演習（視覚イメージの読み方1）　描き変えられる記憶を「読む」こと──「見えるもの」と「見えないもの」のあいだを探る							
担当者名	田口　かおり							
表象	2単位	春学期	月曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

美術館や博物館に出かけて美術作品を見るとき、あるいはTVのなかに映る何がしかの映像を見るとき、私たちは一体何を、どこまで「見よう」としているのでしょうか？かの有名な《モナ・リザ》を見るとき、私たちは、それがレオナルド・ダ・ヴィンチによって描かれたこと、油絵の具で描かれていること、描かれているのが謎めいた微笑みを浮かべる美女であることなど、既存の知識や視覚情報を脳内で結びつけて「《モナ・リザ》だ」と認識します。しかし、これだけでは、私たちは作品を「読んだ」ことにはなりません。《モナ・リザ》を横や裏から観察し、紫外線や赤外線を照射すると、そこには肉眼による観察のみでは知り得なかった多くの情報が浮かび上がってきます。繰り返し行われた絵具の塗り直しは紫外線の下で黒く浮かび上がり、盗難被害にあった時の傷は完全に消えることがありません。蝶々の形をした楔が打ち込まれた様子からは、何世紀も前に行われた修復の痕跡を探り当てることが可能でしょう。観客が酸を浴びせかけて損傷した左腕が水彩絵具で補彩されていることも、光の加減を変えて観察をすれば、確認できるのです。 このように、作品を「読む」ためには、まず、「肉眼で見えるものがすべてではない」ことを知り、「見えないもの」を見るための工夫と訓練をする必要があります。私たちが良く知っているはずの美術作品のほとんどすべてには、過去のいずれかの時点で修復の手が入り、改変が施されています。言い換えるなら、私たちが目の前にしている美術作品のイメージは、その作品の一番上の「顔」にすぎません。その下には、私たちの知らない過去が、時間が、記憶が、お菓子のパイの生地のように積み重なり、眠っているのです。

本演習では、絵画、彫刻、写真、映画などを中心に、個々の対象のイメージが歴史的変遷のなかでいかに破壊され、中断され、再生あるいは改変されたのかを分析することで、メディアと記憶が切り結ぶ関係性を明らかにしていきます。肉眼で確認できる情報を超えて、イメージを「読む」ためには、物理的な意味あいにおいてだけではなく、作品を縦から横から裏から知り、見えるものと見えないものの意味を思考しなくてはなりません。授業と発表を手がかりに、一緒にイメージの深みを切り開いていきましょう。

授業の到達目標

本演習では、古代から現代まで様々な時代に現れたメディアを対象に、多様なイメージの生成と変遷の過程を明らかにすることを目標としています。

絵画や彫刻、写真、映画が示すひとつひとつのイメージが、一体何故その時代に生まれ、何故評価を受け、あるいはされないままに現代にまで辿り着いたのか。その過程でどのような改変が加えられてきたのか。こうした情報すべてを多様な方法を用いて「見て」「読みとり」「分析し」「語る」訓練を行います。表層のイメージを超えて、対象を総合的に認識し、時に隠蔽され忘却されてきた過去や記憶を拾い集め、ひとつの歴史を語る（ディスクリプション）ことができるようになるよう、講義を積み重ねていきます。

成績評価方法

●**試験**　30%　　14回目の授業の際に、理解度を確認するため、自由論述式の試験を行います。詳細は追って解説します。
●**レポート**　20%　　毎回授業終了時に、授業で取り扱った内容を踏まえた上でのコメントや質問を書く「ミニレポート」のための時間を設けます。独自の視点からの鋭い考察を評価します。
●**平常点**　50%　　グループワークへの積極的な参加、貢献度を評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

・シラバスの内容は、受講者の人数や関心により変更する場合があります。

・出席者全員が発表を担当します。グループ分けやテーマ設定については、授業内で追って説明します。・授業開講日が月曜日にあたるため、美術館見学は補講として別の曜日に行う可能性があります。受講者の関心や都合に鑑みて、詳細は開講後に決定します。

科 目 名	表象・メディア論系演習（視覚イメージの読み方2） 女性美術家の活動を読む							
担当者名	関　直子							
表象	2単位	秋学期	木曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

活動領域の異なる三世代の女性美術家一柱ゆき、オノ・ヨーコ、レベッカ・ホルンーの作品に焦点を当て、それぞれの視覚イメージを読みといていく。3名はいずれも、視覚だけでなく、触覚や聴覚、言語との往還によって構成される独自の活動を展開した点が注目される。本演習では、そのような越境的な作品の意味を、活動の転換期を過ごした米国の状況も視野に入れ、考えていく。

授業の到達目標

女性美術家の仕事を、多角的なアプローチで読み解くことの重要性を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません
●**レポート**　20%　　発表の概要をまとめる
●**平常点**　80%　　1回目から10回目までの授業でのディスカッションと11回目から15回目の授業内で行う発表
●**その他**　0%　　特記事項なし

科 目 名	表象・メディア論系演習（メディア演劇論）							
担当者名	辻　佐保子							
表象	2単位	秋学期	月曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この演習では、劇中でミュージカル場面が重要な役割を担ういくつかの映画を取り上げて、いかに歌い踊る行為がキャラクターや関係性を媒介するものとして機能しているかを、作品を精緻に分析し、考えていきます。

ミュージカルにおける歌やダンスを考えるにあたってしばしば、歌詞やメロディによって表現されることと、歌い踊る行為によって表現されることが混同され、両者の間に生じる連携や齟齬がどのように作用しているかという論点は見落とされがちです。

その歌や踊りは、誰が誰に（何に）向けたものなのでしょうか。それは誰かとともに行うものでしょうか。途中で誰か加わるでしょうか。はたまた一人きりでしょうか。あるいは、最初から加われないキャラクターはいるでしょうか。歌う人・踊る人は作品のどこに位置づけられているのでしょうか。作品の物語世界の中でしょうか、劇中劇の中でしょうか、それとも別の位相でしょうか。歌い踊る行為はどのようなタイミングで作品に挿入されているでしょうか。歌や踊りの前後で作品に何か変化は生じているでしょうか。歌やダンスという表現をとることは、作品においてどのような意味を持つのでしょうか。

本演習では、歌詞やメロディ、ダンスのスタイルへの注目からは少し距離をとり、作品の進展において歌うこと・踊ることがどのような働きを担っているかを分析し考察していきます。特に、キャラクターの関係性の構築や変化を歌・ダンスが媒介している作品に焦点をあてて、テクストの精読・映像分析・グループ発表・ディスカッションを通して歌い踊る行為のダイナミックな働きを徹底的に考察していきます。

取り上げる作品の候補としては、『思いがけない幸せ』（ドラマ：1978年、映画：1981年）、『ダンサー・イン・ザ・ダーク』（2000年）、『ミーン・ガールズ』（2004年）、『シェイプ・オブ・ウォーター』（2018年）などを考えていますが、受講生からの提案も聴きながら3作品を決めていきます。

授業の到達目標

ミュージカルは誕生から現在に至るまで隆盛を誇る演劇ジャンルであるものの、批評的な分析・考察を抜きに好悪で判断がくだされる傾向にあります。本演習を通して、受講生全員がミュージカルを学術的に分析・考察する方法論を獲得することを目標とします。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　作品の理解度に加えて、独自の視点と分析の緻密さ、論理性を判断する。
●**平常点**　40%　　研究発表の質、ディスカッションでの発言の量と質、授業への貢献度、出席日数を総合的に判断する。
●**その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論系演習（戦争の視覚文化論）							
担当者名	奥間　政作							
表象	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「戦争」のイメージは絵画や映画などに描かれた視覚的な媒体を通じて社会に広められることが多く、それを享受する側もこうしたイメージによって「戦争」を理解するという側面があります。一方で「平和」に対するイメージも時として対極にある「戦争」との結びつきを持つものも少なくありません。こうした戦争や平和に関する視覚的な作品を通じて、「戦争」イメージの成立や特性について理解し、学生自らが自発的にこうしたイメージについて考察し、成果を発表する場を提供します。

授業の到達目標

戦争に関する視覚的な作品の読み解きを通じて、対象とする作品に対して学生自らの見解を発表し、内容について学生相互の議論を深めることを目標とする。

成績評価方法

レポート　50%　個々人の発表をもとに、学期末にレポート（3000字以上）を提出。詳細は講義内で解説します。
平常点　50%　発表およびレビューシートの提出を含む授業への参加態度を総合的に判断します。

備考・関連URL

※最新の授業計画は初回に提示します。登録者数等によってスケジュールを変更する場合もあります。

科 目 名	表象・メディア論系演習（モダニズム論） 造形芸術におけるモダニズム・アンチモダニズム・ポストモダニズム							
担当者名	石岡　良治							
表象	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「モダニズム（modernism）」という「イズム」のドグマ性が批判されるようになって久しい。だがモダニズム批判として現れた「ポストモダニズム」もまた、現在ではしばしば「1980年代の消費文化」や「バブル文化」と結びつけられ揶揄されるようになっている。「モダニズム」をめぐるこうした状況は、「西欧近代における芸術革命」を主として「モダニズム」と呼ぶ通念に由来するように思われる。本演習では『ART SINCE 1900 図鑑 1900年以後の芸術』を教科書として用いることで、「モダニズム」を、「モダニティ（modernity）」すなわち「近代という状況」ないしは「現代性」をめぐる問いの構造から考察しつつ、造形芸術についての批評理論を学んでいく。同書はアメリカの美術理論雑誌『オクトーバー』の主要メンバー5人の執筆による「20世紀から現在に至る批評的美術史」であり、毀誉褒貶もありつつ基本書としての位置を占めている。理論的前提などについては補足資料を用いつつ、「批評理論（Theory）」が興隆し衰退していく過程を辿ることで、現在におけるその意義についてあらためて捉え直すことも目指す。

授業の到達目標

1「モダニズム」の批評がもつ魅力と陥穽を学ぶ。
2「モダニズム」を狭隘なドグマとしてではなく、「モダニティ」をめぐる問いかけとして見出す。
3　二十世紀批評理論の「可能性の中心」を探る

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　学期末レポート
●**平常点**　40%　　コメントシートと発表
●**その他**　0%

科 目 名	表象・メディア論系演習（イメージの分析1） イメージの流通とその起源							
担当者名	橋本　一径							
表象	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

アルフレッド・アイゼンスタットが撮影し、1945年8月27日の『LIFE』誌上に掲載された、ニューヨークのタイムズ・スクエアで水兵と看護師がキスをする写真は、『勝利のキス』と呼び習わされ、第二次大戦の終結を象徴する祝祭的なイメージとして広く流通し、人々に記憶されてきた。恋人同士のキスのように思われてきたこの写真は、近年の研究によって、通りすがりの兵士が、見ず知らずの女性に強引にキスをする瞬間を写したものであることが明らかにされている。このように写真とは、撮影当初の文脈を離れて、さまざまな意味をまといながら流通してしまう。本演習では、このようなイメージの流通に対する批判的な眼差しを身につけることを目指す。グループワークにより実施される本演習が、各グループに課す課題は主に以下の3つである。①写真イメージのイコノグラフィー。誰もが一度はどこかで目にしたことがあるような、写真史上の傑作について、誰がいつそれを撮影したのか、どこで最初に発表されたのか等を、可能な限り詳細に特定する。②イメージの興隆と凋落。かつては人々に愛されていたイメージが、ある時期から見向きもされなくなったり、逆にかつて誰も気に留めていなかったイメージが、突然人々の敬愛の対象となることがある。イメージとは、かくも人々の欲望に翻弄される存在である。各グループは、このようなイメージの興隆や凋落について、具体例を取り上げ、そのイメージがいつ発生し、いつ頃から寵愛を受け始めたか、あるいは失楽し始めたのかを、データベース等を駆使しながら、特定することを目指す。③「犬」と「猫」、「早稲田」と「慶應」など、ライバル視されるイメージについて、各班はそれぞれの生成や、それがいかに愛されてきたのかをプレゼンし、ライバル対決に決着をつけることを目指す。

専門演習

授業の到達目標

巷に氾濫するイメージに対して、批判的な眼差しを向ける能力を獲得する。データベース等によるイメージの特定や分析の技能を獲得する。

成績評価方法

履修者には半期の授業期間中に3回のプレゼンテーション（グループによる）が求められる。それらの内容や提出状況、および出席やコメントシートなどの平常点を総合的に判断し、成績評価とする。

科 目 名	表象・メディア論系演習（イメージの分析2） 動画共有サービスを活用した映画字幕制作実習							
担当者名	橋本　一径							
表象	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

著作権切れを迎えてパブリックドメイン入りをした映画作品の多くが、YouTubeなどの動画共有サービス上で、無料で視聴できるようになっている。本演習では、そのような映画作品に日本語字幕をつけることを試みる。まずはチャップリンやバスター・キートンらの無声映画作品から出発し、最終的には長編映画作品に日本語字幕をつけることを目指したい。

授業の到達目標

映画作品の字幕制作に必要な英語力を身に着けるとともに、動画共有サービスを利用した字幕制作を実践することで、ソーシャルメディアによる知の共有の可能性を理解し、活用できるようになる。

成績評価方法

担当した字幕の完成度、および授業での貢献度を総合的に評価する。

備考・関連URL

以下のアカウントなどによりYoutube上にアップされたパブリックドメイン動画を利用する。Timeless Classic Movies：
https://www.youtube.com/channel/UC0g0aMAXmF3o5m243PxhE5g

科 目 名	表象・メディア論系演習（イメージの記号論） 未来派×ダダ×シュール×構成主義×バウハウス×東京1920							
担当者名	大石　雅彦							
表象	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この演習では、20世紀前半のモダニズム／アヴァンギャルドを対象とします。具体的には、イタリア未来派、ダダイズム、シュルレアリスム、構成主義、バウハウスといったようなものです。これらの主義から適宜抜きだした、映画、絵画、写真、デザイン、建築、音楽、パフォーマンス等をもとに、芸術について考察してゆきます。手掛かりとなる特性は、抽象、コラージュ、モンタージュ、無意味、ノイズ、機能性といったもので、これらは21世紀文化の基底にも横たわっています。

こうした芸術と共に、1920年代のモダン東京の文化・ライフスタイルを扱います。

■

授業としては、まず最初に短い論文を一編輪読します。そのあと、いくつかのテーマを設定し、テーマ別に班を編成します。そしてテーマ毎に、鑑賞と説明、班の発表という形で進みます。

毎回レビューシートを書いてもらいます。

授業の到達目標

モダニズム・歴史的アヴァンギャルド芸術に親しむ

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　出席回数・発表の状態、毎回のレビュー
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（小説表現1） 短篇小説を読む。							
担当者名	堀江　敏幸							
文ジャ	2単位	春学期	土曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

1954年-1963年のあいだに書かれた作品を精読する。

グループ発表の後、精読を行う。

授業の到達目標

小説の読みに「正しい解」が存在しないことを理解する。

成績評価方法

出席、発表レジュメ、発言等、平常点全般と学期末レポートを総合的に評価する。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（小説表現2） 短篇小説を読む。							
担当者名	堀江　敏幸							
文ジャ	2単位	秋学期	土曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

1964年から1973年のあいだに書かれた作品を精読する。グループ発表の後、精読を行う。

授業の到達目標

小説の読みに「正しい解」が存在しないことを理解する。

成績評価方法

出席、発表レジュメ、発言等、平常点全般と学期末レポートを総合的に評価する。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（小説表現3） Creative writing							
担当者名	伊藤　比呂美							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

小説とか詩とかエッセイとか研究論文とかノンフィクションとかフィクションとか、そういうかっちりした分け方はもううんざりだーーーーー。文芸でいいじゃん、文芸で、とずっと考えてきて、実践もしてきたので、最後の1年はそこに居直って、思いっきりやっていきたいと思います。

授業の到達目標

自分の文芸をみつける。自分をみつける。

成績評価方法

重視するのはまず、課題提出。その努力。作品の質。出席。合評への関わり方・・・外向的・内向的、しゃべるのが苦手・得意、それぞれに対応します。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（小説表現4） Creative writing							
担当者名	伊藤　比呂美							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

小説とか詩とかエッセイとか研究論文とかノンフィクションとかフィクションとか、そういうかっちりした分け方はもううんざりだーーーーー。文芸でいいじゃん、文芸で、とずっと考えてきて、実践もしてきたので、最後の1年はそこに居直って、思いっきりやっていきたいと思います。

授業の到達目標

自分の文芸をみつける。自分をみつける。

成績評価方法

重視するのはまず、課題提出。その努力。作品の質。それから出席。合評への関わり方。しかしながら外向的・内向的、しゃ

べるのが苦手・得意、いろいろな人がいると思います。それぞれに対応します。伊藤のメールには即返を心がけてください。（わたしはメールをLINEのように駆使する女・・・）

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（小説表現5） 小説の語り							
担当者名	滝口　悠生							
文ジャ	2単位	春学期	水曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

小説の文章は、どのようにはじまり、持続し、終わるのか。

視点や時制、人称など、いくつかの具体的なポイントをおさえながら、実際に文章を読み、書くことを通して、文章の発生源であるところの語り手、そして動力となるところの語り方について考えます。

受講者の発表と、発表を受けてのディスカッションを主としますが、具体的な小説作品などを取り上げての講義も適宜行います。

発表については、教員が指定した作品について、担当箇所を割り当てて精読のうえ、着眼点や考察を示してもらいます。上記の授業のテーマを念頭に、その作品の一文一文、一語一語についてできるかぎり丁寧に、時間をかけて読んだ成果を示してください。

（ちなみに昨年度は　発表の課題作品として青山七恵「山猫」（『かけら』所収）を取り上げました。今年は別の作品にします。）

また、実際に散文（小説ではない）を書いてみること、そしてそれを全員で読み合う作業を行います。具体的には教室を出て全員で学校周辺を散策し、その記録を文章にしてもらうことなどを予定しています。同じ時間、同じ場所を歩いた経験が、複数の書き手によって文章という形になる時、そこには自ずとそれぞれの「語り方」が、そしてそれぞれの「語り手」の有り様が現れるはずです。

本授業の教員（滝口）は研究者ではなく実作者＝「書き手」なのですが、小説の語りについて考えることは、書くことと読むことの両方から考えることが重要だと思っています。なので、創作に興味があるひと、批評や研究を主眼におくひと、いずれも歓迎します。書くと読むが相互に作用し、せめぎ合うような議論、また、それをうながす受講者からの問題提起を期待します。

授業の到達目標

小説の読み方の幅と射程を広げること。そのうえで、受講者それぞれが小説の文章に対する自分なりの着眼点や批評性を見つけ、作品の読みや、創作・研究につなげること。

成績評価方法

発表内容、提出物、授業内での発言、参加度などを総合的に評価します。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（小説表現6） 書くことと読むことを学ぶ							
担当者名	小野　正嗣							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

この授業では、小説表現に用いられるさまざまな要素や手法について学びます。受講生には、読書課題を精読した上で授業での議論に参加し、みずから文章を執筆し、さらに他の受講生の執筆した文章をていねいに読んでフィードバックすることが要求されます。授業は、読書課題についての議論、受講生が書いてきた文章をめぐるワークショップの二つの部分から構成されます。

受講生は、学期末までにかなりの分量の文章を書くことを要求されます。

1）12000字程度の短篇小説を1篇か2篇
2）そのそれぞれについての何段階かに渡る草稿
3）毎週出される課題（短篇小説、エッセイ、ときに映画など）へのコメント（1000字程度）
4）他の受講生の書いた作品へのフィードバック・コメント（1000字程度）

毎回出される読書課題は、50ページほどの短篇から一冊の本に至るまで多岐にわたります。それに加えて、他の受講生の書いた12000字程度の文章を読まなくてはなりません。

上記のような授業の性質からして、以下のことができる学生に受講を推奨します。

1）毎回必ず授業に出席し、積極的に発言し、集団での議論を楽しめる
2）毎回、かなりの分量の読書課題を精読できる
3）定められた期限内に、指定された方法で課題を提出できる

学生は、すべての授業に出席し、すべての課題を提出することが要求されます。

正当な理由なく課題が提出されなかった場合、及び、正当な理由なく欠席した場合には、成績評価の対象から外されます。

授業の到達目標

1）小説を執筆するという観点から、さまざまな現代作家の作品やエッセイ、創作論などに触れる
2）小説やエッセイなど創作的作品を、その主題と手法に注目しつつ分析的に読む
3）みずからの書いた文章を何度も読み直して、作品として練り上げていく方法を学ぶ
4）他の受講生の書いた文章を精読して、そこから執筆者に資する建設的な議論を展開する方法を学ぶ

成績評価方法

●**試験**　30%　　短篇小説（草稿と最終稿）
●**レポート**　30%　　課題へのコメント、他の受講者の文章へのコメント、その他授業中に要求される文章
●**平常点**　40%　　出席、発言、課題への取り組みから総合的に判断する。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連ＵＲＬ

以下の点に注意してください。

・執筆した短篇作品は、その作品が対象となるワークショップの1週間前には提出すること。提出方法は、初回の授業の際に説明します。

・正当な理由（病気や忌引きなど）で欠席した／正当な理由で課題が提出できなかった場合は、教員に連絡を取り、代替の提出課題について尋ねること。正当な理由のうちに、就職活動やインターンシップは入りません。

・他の受講生の書いた作品へのフィードバック・コメントは、該当作品のワークショップの前日の正午までに提出すること（必ず最後に文字数を記載すること）。提出方法は、初回の授業の際に説明します。
・読書課題についてのコメントは、該当課題が論じられる授業日の前日の正午までに提出すること（必ず最後に文字数を記載すること）。
・他の受講生の読書課題についてのコメントと、他の受講生の作品へのフィードバック・コメントが、決められた期日内に提出されないことが続く場合には、C以下の評価が与えられることになりますので、注意してください。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（小説表現7） 書く・読む・改稿する							
担当者名	重松　清							
文ジャ	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

一編の小説を書き上げたときのよろこびは、何にも替えがたいものだろう。担当講師も実作者の端くれとして、それはよくわかっているつもりである。けれど、そのよろこびをひととき噛みしめたあとで、自らにこんなふうに問いかけてみてはどうだろう。「手直しをしたら、さらによくなるんじゃないか？」。本演習では、学生諸君に小説の改稿を繰り返しやってもらう。テキスト（というより、徹底的に書き直されるための「元ネタ」のような存在）は、担当講師の掌編小説である。すでに一冊の書物に収められ、「確定」したかのような既存の小説も、じつは、さまざまな角度から改稿することでまったく別の相貌を見せる可能性を秘めている。視点を変えたり、場面に出てくる人物を一人増やしたり、エピソードを追加したり、登場人物のその後を想像したり……。10人の書き手がいれば、10通り（もしくはそれ以上）の可能性が広がる。それを肌で感じ取って、学生諸君自身の創作の、もしくは小説を読む際の糧にしてもらいたい。

授業の到達目標

既存の小説の改稿を通じて、小説を書くことや読むことへの理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこなわない
●**レポート**　60%　　期末に提出する小説や、学期内に課す数編の「改稿作品」の内容（詳細は授業計画の欄を参照）
●**平常点**　40%　　出席状況と学期内に課す「改稿作品」の提出状況、内容、授業への参加度など。なお、出席回数は授業回数の3分の2以上が必要である。
●**その他**　0%

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（小説表現8） 書く・読む・改稿する							
担当者名	重松　清							
文ジャ	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

一編の小説を書き上げたときのよろこびは、何にも替えがたいものだろう。担当講師も実作者の端くれとして、それはよくわかっているつもりである。けれど、そのよろこびをひととき噛みしめたあとで、自らにこんなふうに問いかけてみてはどうだろう。「手直しをしたら、さらによくなるんじゃないか？」。本演習では、学生諸君に小説の改稿を繰り返しやってもらう。テキスト（というより、徹底的に書き直されるための「元ネタ」のような存在）は、担当講師の掌編小説である。すでに一冊の書物に収められ、「確定」したかのような既存の小説も、じつは、さまざまな角度から改稿することでまったく別の相貌を見せる可能性を秘めている。視点を変えたり、場面に出てくる人物を一人増やしたり、エピソードを追加したり、登場人物のその後を想像したり……。10人の書き手がいれば、10通り（もしくはそれ以上）の可能性が広がる。それを肌で感じ取って、学生諸君自身の創作の、もしくは小説を読む際の糧にしてもらいたい。

授業の到達目標

既存の小説の改稿を通じて、小説を書くことや読むことへの理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこなわない
●**レポート**　60%　　期末に提出する小説や、学期内に課す数編の「改稿作品」の内容（詳細は授業計画の欄を参照）
●**平常点**　40%　　出席状況と学期内に課す「改稿作品」の提出状況、内容、授業への参加度など。なお、出席回数は授業回数の3分の2以上が必要である。
●**その他**　0%

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（短詩型表現1） Creative writing							
担当者名	伊藤　比呂美							
文ジャ	2単位	春学期	水曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代詩のboot camp。書く、書く、書く、書く。毎週（!!）作品を提出する。
ここでは読むより書く方を重視する。水曜日2時限の「短詩型文学論1」をとっておいてくれると話は早い。
自分に必要な詩を発見する力、読み解く力、疑う力、逸脱する力を養い、書いて発表し、朗読し、合評する。
基本は現代詩だが、俳句、短歌、その他短詩型創作も歓迎。逸脱する詩（のようなもの）はなんでも歓迎。最終的に詩誌「繭5」にまとめよう。
詩を書くというのは自分の解剖である。

授業の到達目標

自分の詩を発見し、書きまくることで自分を確認する。

成績評価方法

重視するのはまず、課題提出。その作品の質。出席。努力。合評への関わり方。朗読の度胸。外向的・内向的、しゃべるのが得意・苦手、それぞれに対応します。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（短詩型表現2） Creative writing							
担当者名	伊藤　比呂美							
文ジャ	2単位	秋学期	水曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代詩のboot camp。書く、書く、書く、書く。毎週（!!）作品を提出する。
ここでは読むより書く方を重視する。水曜日2時限の「短詩型文学論1」をとっておいてくれると話は早い。
自分に必要な詩を発見する力、読み解く力、疑う力、逸脱する力を養い、書いて発表し、朗読し、合評する。
基本は現代詩だが、俳句、短歌、その他短詩型創作も歓迎。逸脱する詩（のようなもの）はなんでも歓迎。最終的に詩誌「繭6」にまとめよう。
詩を書くというのは自分の解剖である。

授業の到達目標

自分の詩を発見し、書きまくることで自分を確認する。

成績評価方法

重視するのはまず、課題提出。その作品の質。出席。努力。合評への関わり方。朗読の度胸。外向的・内向的、しゃべるのが得意・苦手、それぞれに対応します。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（シナリオ表現1） 井上ひさしの『父と暮せば』を歴史的に読み解き、横目でこうの史代の『この世界の片隅に』を見たりしながら、その英知を2020年につなげる。							
担当者名	水谷　八也							
文ジャ	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

井上ひさし（1934—2010）は膨大な数の戯曲、小説を世に送り出してきましたが、そのなかでも明治から昭和にかけての日本の近代の問題は、彼の大きなテーマのひとつでした。この演習では井上ひさしの戯曲『父と暮せば』を精読します。1945年8月6日に広島で被爆した美津江とその父・竹造の姿を全編広島弁で描くこの戯曲は短い作品ですが、「劇場の機知」が詰め込まれた傑作です。

井上ひさしの戯曲は、笑いあり、涙ありの誰にでもわかる大衆演劇のノリで書かれているにもかかわらず、よく知られているように膨大な資料を徹底的に収集し、読みこなした上で、それらの事実を想像力で昇華させ、戯曲を構築しています。「劇場の機知」はそのような結果として生まれてきます。『父と暮らせば』も例外ではありません。

井上ひさしが『父と暮せば』に散りばめた「劇場の機知」を丁寧に受け取り、立体的に理解するために、舞台映像を見たり、こうの史代の『この世界の片隅に』（コミック、アニメ）や、原民喜の『夏の花』や太田洋子の『屍の街』などにも触れてもらいます。さらに中学、高校では教えられていない1940年代の日本の姿もドキュメンタリー映像を通して学ぶ予定です。

最終的に2020年に生きる私たちは『父と暮せば』からどのような英知を受け取れるのか、一緒に考えてみる予定です。

授業の到達目標

この演習では、戯曲を読み込むこと、戯曲の中に仕掛けられた演劇という方法を仔細に観察すること、舞台映像を見ること、時代背景を知るためのドキュメンタリー映像を見ること、1945年8月の広島を知るためにこうの史代、原民喜、大田洋子の作品に触れること、事実を調べあげることを通して、井上ひさしの偉業の一端に触れ、最終的には履修者ひとりひとりがあの「過去」に対して、自分の見方を作ることが目標と言えば目標となります。

成績評価方法

- **試験**　0%　　なし。
- **レポート**　70%　　作品論。（ただし、5回以上欠席した受講者は評価の対象としない）
- **平常点**　30%　　演習内での発言、発表など。
- **その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

以上は2020年1月2日現在の〈予定〉に過ぎません。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（シナリオ表現2） ソーントン・ワイルダーの一幕劇『長いクリスマス・ディナー』の上演台本を翻訳する							
担当者名	水谷　八也							
文ジャ	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この演習ではアメリカの劇作家、ソーントン・ワイルダーの一幕劇、The Long Christmas Dinner を翻訳し、演劇として上演できる翻訳台本を作ります。この戯曲はすでに1970年代に翻訳が出版されていますが、その翻訳を参考にしながら、新たに2020年度に演劇として上演するとしたら、という設定で翻訳し直してみます。

ワイルダーは20世紀の前半に活躍した劇作家ですが、アメリカ演劇においては珍しく実験色の強い演劇を書き続けた人です。この『長いクリスマス・ディナー』が出版されたのは1931年ですが、具体的なセットを組んだ舞台が主流だったその当時としては異色の何もない舞台の上で上演され、さらにその内容は90年に及ぶベヤード家のクリスマスの様子を約30分の一幕劇に凝縮したという変わったものでした。

ワイルダーは終生、演劇とはどのような表現方法であるのかを考え、そのことを作品として書き続けてきた人ですから、この一幕劇を翻訳することで演劇という表現方法、「劇場の機知」「演劇知」により深く触れることになるでしょう。

演習は、あらかじめ決められた担当者が作ってきた翻訳台本を受講者全員でチェックするというやり方で進めて行きます。

授業の到達目標

戯曲の翻訳を通して、劇場の機知、演劇知に触れ、世界を見直せるようになることが目標と言えば目標になります。

専門演習

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　50%　　作品論、翻訳論。(ただし、5回以上欠席した受講者は評価の対象としない)
●**平常点**　50%　　演習内での発表、発言など。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

以上は2020年1月3日現在の〈予定〉に過ぎません。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（翻訳表現1） 翻訳文学の諸作品を精読する							
担当者名	小野　正嗣							
文ジャ	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

翻訳された現代小説を精読します。毎回、担当者を決め（受講者が多い場合はグループごとに)、必要があれば原文を参照するなどして該当の作品について発表を行ない、それを受けて、受講者全員で作品について議論します。

この授業を受講するに際しては、以下の点を注意してください。
この授業では、毎回1冊（長い小説であれば2回で1冊）の小説を読みます。1学期中に約10冊は読むことになります。
毎回、受講者は、課題となった小説を読んだ上で、800字程度の文章を執筆し、授業に持参することが要求されます（プリントアウトできない場合には、手書きでも構いません。学生番号と氏名を必ず記載のこと)。この文章は、毎回授業終了時に回収します。

授業の到達目標

・小説がどのように書かれているのか、書き手の技法上の工夫に気づけるようになること。
・どのような翻訳上の工夫がなされているのかを注意深く読み解けるようになること。
・原作がどのような時代背景や文学的状況のなかで書かれているのかを理解すること。
・翻訳を読むことで感じ考えことを、明確に説明できるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　各回で論じられる作品を読んで執筆する文章。出席。議論への積極的な参加。授業の性質上、出席と参加はとりわけ重視されます。受講者は毎回出席することを要求されます。消極的な姿勢で授業にのぞむ場合（例えば、課題の小説も読まず、その小説についての文章も書かずに授業に出席するなど）には、最終的な成績評価に大きく影響します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

秋学期の「翻訳表現2」を受講することが望ましい。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（翻訳表現2） 英語で書かれた現代小説/エッセイを読み、翻訳する。							
担当者名	小野　正嗣							
文ジャ	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

翻訳された現代小説を精読します。
毎回、担当者を決め（受講者が多い場合はグループごとに)、必要があれば原文を参照するなどして該当の作品について発表を行ない、それを受けて、受講者全員で作品について議論します。
この授業を受講するに際しては、以下の点を注意してください。
この授業では、毎回1冊（長い小説であれば2回で1冊）の小説を読みます。1学期中に約10冊は読むことになります。
毎回、受講者は、課題となった小説を読んだ上で、800字程度の文章を執筆し、授業に持参することが要求されます（プリントアウトできない場合には、手書きでも構いません。学生番号と氏名を必ず記載のこと)。この文章は、毎回授業終了時に回収します。

授業の到達目標

・小説がどのように書かれているのか、書き手の技法上の工夫に気づけるようになること。
・どのような翻訳上の工夫がなされているのかを注意深く読み解けるようになること。
・原作がどのような時代背景や文学的状況のなかで書かれているのかを理解すること。
・翻訳を読むことで感じ考えことを、明確に説明できるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　各回で論じられる作品を読んで執筆する文章。出席。議論への積極的な参加。授業の性質上、出席と参加はとりわけ重視されます。受講者は毎回出席することを要求されます。消極的な姿勢で授業にのぞむ場合（例えば、課題の小説も読まず、その小説についての文章も書かずに授業に出席するなど）には、最終的な成績評価に大きく影響します。
●**その他**　0%

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（翻訳表現3） 文芸翻訳ワークショップ							
担当者名	小野　正嗣							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	2時限	3年以上	—	—	—

授業概要

英語で書かれた短篇小説を毎回1編、翻訳します。そのため、12回〜13回は翻訳課題が課されます。
受講者全員には以下のことが求められます。
1）ワークショップで扱われる課題の短篇小説（どれも1ページ程度）を翻訳し、授業日の2日前の正午までに、LMS上に提

出する。
2）ワークショップでは、訳例を叩き台にして、全員で議論します。
そのような授業の性質上、以下のことができる学生だけが参加してください。
1）毎回出席し、定められたやり方と期日を守って翻訳の課題を提出できること。
2）教室で積極的に発言をし、受講者全員での議論を楽しめること。

授業の到達目標

1）ある程度の長さの英文を翻訳することになれる。
2）翻訳するという観点から、英文を緻密に読解し、それにふさわしい日本語を練り上げることを学ぶ。
3）よい翻訳とは何かについては、翻訳の実践を通して学ぶ。
4）自分の訳文を、批判的に検討し、よりよいものにする技術を身につける。
5）他の受講生の訳文について、建設的な意見を表明できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席、課題、発言から総合的に判断する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

受講者が提出した翻訳課題から、翻訳サンプルを作成します。以下の点は注意してください。
授業の性質上、受講者は毎回必ず出席し、課題を提出し、授業に積極的に参加することが求められます。
1）正当な理由があって欠席する場合、正当な理由があって課題を期限内に提出できない場合は、すぐに授業担当者に連絡をして代替の課題などについて尋ねること。
（正当な理由とは、病気や忌引きなどであって、就職活動やインターンシップは含まれません。）
2）課題をLMS上に期限内に提出できないことが複数回ある場合は、C以下の評価になります。
3）20分以上の遅刻は、欠席とみなします。

科目名	文芸・ジャーナリズム論系演習（翻訳表現4）　文芸翻訳ワークショップ							
担当者名	小野　正嗣							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	2時限	3年以上	—	—	—

授業概要

英語で書かれた短篇小説を毎回1編、翻訳します。
そのため、12回〜13回は翻訳課題が課されます。
受講者全員には以下のことが求められます。
1）ワークショップで扱われる課題の短篇小説（どれも1ページ程度）を翻訳し、授業日の2日前の正午までに、LMS上に提出する。
2）ワークショップでは、訳例を叩き台にして、全員で議論します。
そのような授業の性質上、以下のことができる学生だけが参加してください。
1）毎回出席し、定められたやり方と期日を守って翻訳の課題を提出できること。
2）教室で積極的に発言をし、受講者全員での議論を楽しめること。

専門演習

授業の到達目標

1）ある程度の長さの英文を翻訳することになれる。
2）翻訳するという観点から、英文を緻密に読解し、それにふさわしい日本語を練り上げることを学ぶ。
3）よい翻訳とは何かについては、翻訳の実践を通して学ぶ。
4）自分の訳文を、批判的に検討し、よりよいものにする技術を身につける。
5）他の受講生の訳文について、建設的な意見を表明できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席、発言、課題を総合的に判断する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

受講者が提出した翻訳課題から、翻訳サンプルを作成します。
以下の点は注意してください。
授業の性質上、受講者は毎回必ず出席し、課題を提出し、授業に積極的に参加することが求められます。
1）正当な理由があって欠席する場合、正当な理由があって課題を期限内に提出できない場合は、すぐに授業担当者に連絡をして代替の課題などについて尋ねること。
（正当な理由とは、病気や忌引きなどであって、就職活動やインターンシップは含まれません。）
2）課題をLMS上に期限内に提出できないことが複数回ある場合は、C以下の評価になります。
3）20分以上の遅刻は、欠席とみなしましまます。

科目名	文芸・ジャーナリズム論系演習（近代からの日本の文学1）〈異界〉文学を読む							
担当者名	鳥羽　耕史							
文ジャ	2単位	春学期	木曜日	1時限	2年以上	—	—	—

授業概要

〈異界〉を描いた近代の短編小説の「名作」が集められている教科書を用い、小説の論じ方を学ぶ。作品を論じる際の参考文献の探し方や読み方、レジュメの作り方や発表方法も実習しながら学べるようにしたい。

授業の到達目標

先行研究を踏まえながら小説を読み、自分なりの考察を発表できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　演習での発表と議論を踏まえた上で、自分なりの読解ができているか。
●**平常点**　30%　　講義や他の学生の発表を理解してコメントできているか。
●**その他**　0%

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（近代からの日本の文学2）　日本近現代文学に描かれた〈都市〉を読む							
担当者名	金子　亜由美							
文ジャ	2単位	秋学期	水曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

本演習では、『〈都市〉文学を読む』に収録されている15篇の短編を扱う。
履修者にはまず、この15篇の中から任意の1篇を選択していただき、各自の問題意識に基づいて、その1篇について調査・考察したことを教場で発表してもらう予定である。

テキストのタイトルから容易に推測できる通り、収録された短編の主要なテーマは〈都市〉である。
しかし、これまた容易に推測できることであるが、この〈都市〉は、人々が密集して暮らす場所という意味だけを持っているわけではない。
それはしばしば、集団がもたらす集合意識や、地縁・血縁から切り離された匿名的な人間の、同様に匿名的な存在である他者への不安の象徴としても描き出される。
たとえば、昼の間は煩わしい雑踏にもまれる平凡な都会が、真夜中の暗闇と無人の静寂に満たされた瞬間、半日前とはまったく別の姿を見せることは多々ある。
見慣れているはずの街が、非日常的な世界へと変質するのを目の当たりにしたときの、不気味さや恐怖、あるいは興奮。
このような感情を絶えず呑み込み、吐き出しているのが〈都市〉という場でもある。
〈都市〉は、単なる居住空間ではなく、そこにひしめく人間たちの精神性の鏡像なのだといえよう。
そのとき、〈都市〉は現実の街を離れ、ひとつの幻影（幻想）として新たに立ち現れるのである。

本演習においては、そのような〈都市〉が言語によってどのように組み上げられているのか、いわば〈都市〉を可能にする条件自体を分析し、考察するような発表を行っていただけることを期待する。
そして、自らの問題意識に即して、作品を読み、調査を行う過程で、日本近現代文学の研究を行うのに必要な基礎的な知識や方法論等を学んで欲しい。
同時に、他者の問題意識に接することで、自他の視点の差異と重なりを踏まえ、自らの考察を更に深めていくような議論を行って欲しい。

【本演習で扱う予定の作品】
・泉鏡花「夜行巡査」
・樋口一葉「十三夜」
・田山花袋「少女病」
・国木田独歩「窮死」
・谷崎潤一郎「秘密」
・志賀直哉「小僧の神様」
・芥川龍之介「舞踏病」
・梶井基次郎「檸檬」
・横光利一「街の底」
・中野重治「交番前」
・堀辰雄「水族館」
・江戸川乱歩「目羅博士」
・織田作之助「木の都」
・三島由紀夫「橋づくし」
・大江健三郎「人間の羊」

授業の到達目標

作品を読み、考察・調査することを通じて、日本近現代文学研究を行う上で必要となる基礎的知識・方法論等を理解する。
自らの問題意識を明確にし、それに基づいた考察を発表することで、発表資料の作成方法や、プレゼンテーションの作法を理解する。
質疑応答を適切に行うことで、学術的な議論のルールを理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　50%　　演習での発表内容を元に、質疑応答の内容や教員・他履修者のコメントなどを参考にしつつ、自らの問題意識に即して作品を解釈しようとしているかという点を重視する。
●**平常点**　50%　　演習に主体的に参加しているかという点を重視する。つまり、自分の発表の回だけではなく、他履修者の発表の回にもきちんと参加し、その内容を理解した上で、質疑応答での発言等によってアドバイスをすることができているかを評価する。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（同時代文学論1） 散文の方へ——島崎藤村『千曲川のスケッチ』を読む							
担当者名	堀江　敏幸							
文ジャ	2単位	春学期	土曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「同時代文学」とは何か。はたして現在刊行されつつある文学だけを意味するのか。100年以上前の散文を読みながら「同時代」を考える。また、詩人藤村がいかにして散文へと向かったのかを追体験する。 あわせて、「スケッチ」という形式の特質とその可能性を探る。グループ発表形式で行い、議論を重ねる。

授業の到達目標

全体を読むことと細部を読むことを両立させる。また、文献に当たり、辞書を引く習慣を徹底する。

成績評価方法

出席、発言等、平常点全般と学期末レポートを総合的に評価する

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（同時代文学論2） 散文の方へ——島崎藤村の初期短篇を読む							
担当者名	堀江　敏幸							
文ジャ	2単位	秋学期	土曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「同時代文学」とは何か。はたして現在刊行されつつある文学だけを意味するのか。100年以上前の散文を読みながら「同時代」を考える。また、詩人藤村がいかにして散文へと向かったのかを、精読によって追体験する。　また、藤村初期の短篇群が21世紀の同時代の日本語作品として、どのような新しさを示しているかを考察する。

授業の到達目標

全体を読むことと、細部を読むことの両立。

成績評価方法

出席、発言等、平常点全般と学期末レポートを総合的に評価する。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（同時代文学論3） 正岡子規最晩年の随筆精読							
担当者名	澤　直哉							
文ジャ	2単位	春学期	月曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

人は誰しも同時代のうちに身を置かざるを得ません。同時代のうちにあって同時代を見つめるというのが常道です。

しかしときに、強いられて同時代の「欄外」に身を置かざるを得ない者が現れます。病牀にあった正岡子規（1867-1902年）は、その最晩年の三代随筆（『墨汁一滴』『病牀六尺』『仰臥漫録』）最初の一篇『墨汁一滴』を、新聞『日本』紙上の「欄外文学」だといいます。

この自己規定が示しているのは、自己卑下などではありません。そこにあるのは、強いられて同時代の「欄外」に身を置く者が、新聞という同時代の中心的メディアに「欄外」から忍び込む、という力学です。20世紀のはじまりの年である1901年（明治34年）に書き起こされるこの特異な「同時代文学」に、現在時への単なる参加・没入とは異なる視座を学びながら、文語体と口語体の混淆する高密度な散文を、一語一語を大切に、超低速で読んでいきたいと思います。

授業形式としては、事前に担当者を決めての履修生による発表と、それを受けての全体討議を中心とし、授業担当者による補足などを適宜入れていくこととします。履修者には、知識と意見の積極的な共有を求めます。

専門演習

授業の到達目標

読むこと、調べること、書くことの基礎を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　50%　　基本的には、自身の発表で扱った箇所に関して自由に論じてもらいますが、他の履修者の発表をきっかけとして、レポートで扱う箇所・範囲に変化がある場合には、むしろこれを歓迎します。提出日・内容・分量・体裁等については、教場にて改めて詳細に指示します。

●**平常点**　50%　　自身の出席・発表はもちろんのこと、他の履修者との議論に対する積極性も重視します。

●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

2020年度秋学期の「同時代文学論4」も併せての受講を推奨します。

また授業計画は、受講者数やその興味と理解度に応じて変更となる場合があります。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（同時代文学論4） 正岡子規最晩年の随筆精読							
担当者名	澤　直哉							
文ジャ	2単位	秋学期	月曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

人は誰しも同時代のうちに身を置かざるを得ません。同時代のうちにあって同時代を見つめるというのが常道です。

しかしときに、強いられて同時代の「欄外」に身を置かざるを得ない者が現れます。病牀にあった正岡子規（1867-1902年）は、その最晩年の三代随筆（『墨汁一滴』『病牀六尺』『仰臥漫録』）最初の一篇『墨汁一滴』を、新聞『日本』紙上の「欄外文学」だといいます。

この自己規定が示しているのは、自己卑下などではありません。そこにあるのは、強いられて同時代の「欄外」に身を置く者が、新聞という同時代の中心的メディアに「欄外」から忍び込む、という力学です。20世紀のはじまりの年である1901年（明治34年）に書き起こされるこの特異な「同時代文学」に、現在時への単なる参加・没入とは異なる視座を学びながら、文語体と口語体の混淆する高密度な散文を、一語一語を大切に、超低速で読んでいきたいと思います。

授業形式としては、事前に担当者を決めての履修生による発表と、それを受けての全体討議を中心とし、授業担当者による補足などを適宜入れていくこととします。履修者には、知識と意見の積極的な共有を求めます。

授業の到達目標
読むこと、調べること、書くことの基礎を身につける。

成績評価方法
●**試験** 0%　なし
●**レポート** 50%　基本的には、自身の発表で扱った箇所に関して自由に論じてもらいますが、他の履修者の発表をきっかけとして、レポートで扱う箇所・範囲に変化がある場合には、むしろこれを歓迎します。提出日・内容・分量・体裁等については、教場にて改めて詳細に指示します。
●**平常点** 50%　自身の出席・発表はもちろんのこと、他の履修者との議論に対する積極性も重視します。
●**その他** 0%　なし

備考・関連URL
2020年度春学期の「同時代文学論3」も併せての受講を推奨します。
授業計画は、受講者数やその興味と理解度に応じて変更となる場合があります。

科目名	文芸・ジャーナリズム論系演習（メディアと文芸1） 言葉と身体							
担当者名	貝澤　哉							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要
いまさら言うまでもないが、小説は、観念的思想内容や物語・ストーリーをたんに絵解きしたものではない。小説は言葉を媒介として登場人物とそれを取り巻く時間・空間を造形化・表象化したものにほかならない。そこでは視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚などあらゆる身体感覚が言葉によって表現されているのである。
そこで、この授業では、ラカンやメルロ＝ポンティ、リカルドゥーやバフチン、さらにグロスツ、ディディ＝ユベルマン、ストイキツァ、アガンベン、ドゥルーズをも参照しながら、小説における、このような言葉による身体表象の特性について多角的に考えてみたい。
小説における身体性や感覚の問題を考えるさいにきわめて重要なのは、言葉と身体表象のあいだにある決定的な齟齬であろう。ちょっと考えればすぐわかることだが、言葉は写真や映画のように視覚的イメージを直接伝えることはできないし、ダンスや音楽、料理、恋愛のように時間・空間・身体感覚を共有することも不可能だ。ロマン主義や19世紀リアリズムの作家にも直感されていたこのような言葉の不自由さ、不可能性を自覚的・戦略的にいかに逆転し、利用してゆくか――それが20世紀以降の小説の可能性と限界を決定づける最大の要因だったと言ってもよいだろう。
この授業では、こうした文学における言葉と身体の関係を、理論的テクストと小説テクストをもとに検討してゆく。

授業の到達目標
授業は、身体についてのさまざまな理論的テクストや小説作品を受講者に読んでもらい、それについて文章を書き発表してもらって、討議するかたちで進める。
理論や読解技術、文章技術の習得をとおして、高校までの国語教育の洗脳から脱出して、「早く人間になる」（?!）ことが到達目標である。
職人技を修行しようというのだから、学校的な暗記物のお勉強ではない。修行の第一歩は、なにより自分の頭で考えることである。人と同じことを考えて同じ文章を書いても、だれもわざわざ読んでくれるはずがない。自分の頭で考えることが、ロボットから「真人間」になる第一歩なのだ。

成績評価方法
授業で書く文章および討論への参加度、出席を総合して評価する。

備考・関連URL
受講生には、週に最低1冊本を読んでもらい、学期中数度の文章執筆を課すので、読むことや書くこと自体が苦手な学生には向かない。登録のさいじゅうぶん注意すること。

科目名	文芸・ジャーナリズム論系演習（サウンド批評論） 音と音楽、そして書くこと							
担当者名	小沼　純一							
文ジャ	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要
サウンドという語を用いることで、狭義の音楽ではなく、もっと広い意味で音・音楽を捉えようとする試み。
実際に書かれた音楽批評を読むこともあるでしょうが、それ以上に、音・音楽を聴いて、文章を書いてみることが多くなります。
音に対して距離をとり、音の表情をことばにする。
ですから、聞く・聴くことと書くこと、考えることを併行しておこなってもらいます。

授業の到達目標
音・音楽に、また、文章にある音・音楽の描写に敏感になること。

成績評価方法
●**試験** 30%　あくまで「理解度の確認」です。
●**レポート** 30%　ときどき教場で何かを書いてもらいます。それを「平常点」とともに勘案します。
●**平常点** 40%　上記レポートとあわせての評価となります。
●**その他** 0%

科目名	文芸・ジャーナリズム論系演習（テクスト論1（イメージと批評）） ギュスターヴ・クールベの絵画とその批評							
担当者名	北村　陽子							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要
阿部良雄『クールベ』を読み、ギュスターヴ・クールベの絵画とその批評について考える。クールベ（1819－1877）は19世紀フランスを代表する画家のひとりであり、阿部良雄（1932－2007）は詩人シャルル・ボードレール（1821－1867）の研究で知られるフランス文学者・美術史家である。

クールベは、大作《オルナンの埋葬》《画家のアトリエ》が最も重要だが、《波》を描いた画家としても有名だろう。国立西洋美術館（早稲田の学生は無料！）には《波》を含む9点の油彩が所蔵されているので、ぜひ実物を見に行ってほしい。他に様々な展覧会で目にすることもあるし、日本ではweb上でそれなりに有名らしい「最もエロティック」な（というよりただの「猥褻」か）《世界の起源》は1995年からオルセー美術館に展示されている。クールベはレアリスムの画家として、「見えるものしか描かない」で「ありのままを描いた」とされている。だが、ありのままに描くというのは、クールベ以降の印象派のモネやルノワール、ポスト印象派のスーラやゴッホに至るまでの近代絵画に共通する問題意識である。その嚆矢となったのがクールベで、当時の文脈ではありのままに描くこと自体がスキャンダルだった。

クールベは1855年に個展（これが史上初の個展とされる）を開き、「レアリスム展」と称した。ボードレールとクールベは完全な同世代の友人だった。阿部良雄が『クールベ』に付している論文は、詩人にして美術批評家だったボードレールについての深い知見に裏打ちされている。阿部はこう言っている。「クールベ自身、「私はあらゆる存在(もの)に彼の自然な機能を認めてやる、私は石ころにさえ物を考えさせる」と言い表した態度、それこそは、真の意味でロマンティックな態度ではなかっただろうか。」

授業の到達目標

阿部の思考をたどりながらクールベの作品を見ることで、この画家の作品を理解し、同時に絵画を批評することの困難と豊かさを体験すること。

成績評価方法

発表、授業への参加度、レポートを総合的に勘案して評価する。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（テクスト論2（表象論）） テクストと沈黙							
担当者名	堀　千晶							
文ジャ	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

テクストに書いてあることから語りうることのみを語り、その他のことについては沈黙しなければならない――「テクスト論」と呼ばれるこの手法は、読むことの訓練として、確実に役立つ方法論である。批評として成立していない批評（印象批評）の大半は、作品に由来しない自分の考えや思い込みを作品に投影してしまい、そのことによって逆に、作品そのものを経験しそこなうことに由来しているからである。

本演習の前半5，6回をかけて、「テクスト論」の批評のうち、たとえば、形式主義（フォルマリスム）、主題論（テマティスム）、比喩論などのテクストを、数篇読んでゆく（具体的には、バルト、ジュネット、リカルドゥー、ヤコブソン、リシャール、ド・マン等）。テクストはひとまず担当者から提案するが、受講者から希望があれば、話し合いのうえ、随時取り入れてゆく。

演習の後半では、そうした批評テクストを受けて、受講者みずから作品読解に取り組む発表を行ってもらい、その後、討論をとおして議論を深めてゆく。発表に際して選ぶ作家、作品は基本的に自由である。

授業の到達目標

語らないこと／正確に語ることの美徳

成績評価方法

- **試験**　0%
- **レポート**　30%　　学期末に2000字程度のレポート
- **平常点**　70%　　発表と、討論での発言内容
- **その他**　0%

専門演習

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（テクスト論3（生成論）） 20世紀の小説を変えたフローベールとプルーストを読む							
担当者名	芳川　泰久							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

20世紀の小説を切り開いたのは、二つのフランス小説です。フローベールの『ボヴァリー夫人』とプルーストの『失われた時を求めて』です。この二作が、それぞれに小説の歴史に革命ともいえる変化をもたらしました。その二つがもたらしたものを見ていくことで、文学的創造に潜む構造と方法にふれ、小説の流れとその多様性を体験する。

授業の到達目標

二つの小説へのアプローチの仕方により、テクスト論の一端にふれる。

成績評価方法

- **試験**　50%　　「達成度確認」の試験による
- **レポート**　0%　　特にレポートを課す予定はない
- **平常点**　50%　　出席と授業対応による総合評価
- **その他**　0%　　特にない

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（テクスト論4（相関論）） 小説を書く視点から読む							
担当者名	芳川　泰久							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

小説テクストを、書く視点から読む。扱う小説は、内外の二作。アルベール・カミュの『異邦人』と大岡昇平の『野火』である。ともに、物語の一つの中心とも言える「殺人」の場面にその特徴が集約的に出ている。冒頭から、二作を読んでゆき、そこで作者は何をどう書いたかを考える。また、内外の二つの小説を読み比べることで、文化・文学の多様性にふれ、小説創造の仕組みを学ぶ。

演習の特徴を生かし、質問を主にしながら授業を組み立ててゆく予定なので、その積りで指示された個所を事前に呼んで授業にのぞむこと。

授業の到達目標

小説を読むときに、その内容だけをみるのではなく書く方法を見抜くスキルを高める。

成績評価方法

●**試験**　50%　「達成度確認」の試験による
●**レポート**　0%　特にレポートは課さない
●**平常点**　50%　授業時の質問への対応や出席による総合評価
●**その他**　0%　特にない

備考・関連URL

『異邦人』の場合、一回の授業で一章を予定しているが、ときに短い章などは二章分にまたがって進むこともあるので、細かな指示は教場で行なう。また『野火』についても、一回の授業で三章分を予定しているが、場合によっては、それ以上進むこともあるので、細かな指示は教場で行なう。

科目名	文芸・ジャーナリズム論系演習（現代文学のフィールドワーク（先端）） 日本の小説の今を読む							
担当者名	貝澤　哉							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

日本の小説は現在どのように書かれ、どのように読まれているのか――それをなるべくアクチュアルなかたちでとらえることがこの演習の最大の目的である。

文芸・ジャーナリズムの授業なので、ここでは、アカデミックな古典文学研究というよりも、むしろ小説や批評を実際に書きたい学生や、現代文学のナマの動きに関心を持つ学生を対象に、現代日本の小説、なかでも90年代以降の重要な作品を読んでもらい、それについてみずから文章を書き発表してもらう。

とりわけ注意を向けたいのは、現代の小説のなかで作家たちが今いったい何を表現しようと欲望し、またそれをどのような言葉で織り上げようとしているのか、その軌跡を緻密なテクストの読みのなかで具体的に追うことである。だから、受講生諸君には、同時代の作家たちが小説の言葉の細部をどのように組み立てているかを読み解く繊細で鋭い眼を養ってもらいたい。

授業の到達目標

授業は学生による文章の執筆、発表を中心におこなわれる。小説読解と文章技術の習得をとおして、高校までの国語教育の洗脳から脱出して、「早く人間になる」（?!）ことが到達目標である。

文章を読むこと、書くことは、学校的な暗記物のお勉強ではない。修行の第一歩は、なにより自分の頭で考えることである。人と同じことを考えて同じ文章を書いても、だれもわざわざ読んでくれるはずがない。自分の頭で考えることが、ロボットから「真人間」になる第一歩なのだ。

成績評価方法

授業で書く文章および討論への参加度、出席を総合して評価する。

備考・関連URL

受講生には、週に最低1冊本を読んでもらい、学期中数度の文章執筆を課すので、読むことや書くこと自体が苦手な学生には向かない。登録の際十分注意すること

科目名	文芸・ジャーナリズム論系演習（エディター文学論1） 拡張現実の世界における「文学」とはなにか							
担当者名	市川　真人							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

拡張現実という言葉が誕生していくばくかの時間が経過し、「ポケモンGO」などのARコンテンツが普及することで、コミックやアニメーションに関連深い場所を訪れる行為を指した「聖地巡礼」という言葉の本来とは異なる使用法も、日常のものとなってきました。しかし考えてみれば、拡張現実という用語やそのデバイス・環境が誕生するはるか以前から、人々の想像力は、ここではないどこかで起きたことを「いまこの私」に重ねさせ、あるいは、現実には起きていない出来事や現実とは異なるエンコードのなされた記述を「いまここ」に重ね合わせる、という営みをとうに持っていました。

近年でいえば、SF作家チャイナ・ミエヴィルの『都市と都市』や、テッド・チャンの「あなたのための物語」などの作品は、私たちが感知する「現実」があくまで限定的なものでしかないことを前提に、その感知が異なることがなにを意味するかを実験的に描いています。古くは、ミシェル・ビュトールの「合い間」や「時間割」も、空間や時間の拡張性や複数性をテーマとしていました。他方、日本文学においても、永井荷風の描く「東京」や「墨東」、なんなれば宮沢賢治がイーハトーヴとして描く岩手まで、は現実の光景と微妙に重なり、そして偏光をかけられディフォルメされた「トポス」があります。

「現実のその場所」は、作中でどのように描かれるのか。それはどのように変化するのか。拡張現実の構造をあらかじめ踏まえたうえで、「新宿」「渋谷」はじめさまざまな場所が登場するコンテンツを探し、その描かれ方を検証してゆくとともに、コミックやアニメーションまで「文学」の概念を拡張したうえで、今後のコンテンツにいかなる可能性がありうるかを探ってゆきます。

授業の到達目標

実在の場所をコンテンツに描くことを例に、21世紀におけるコンテンツと「現実」の多層化する現状を把握する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　学期末にレポートが課されます。
●**平常点**　50%　出席および発表内容が評価対象となります。
●**その他**　0%

科目名	文芸・ジャーナリズム論系演習（エディター文学論2） 世界の同時代文学を、読み、論じ、書く。（世界の「物語」の探究）							
担当者名	和久田　頼男							
文ジャ	2単位	秋学期	土曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

世界の同時代文学について論じましょう。

映画や演劇やTVなどで「実写化される原作」について、編集という観点から読みこむ授業です。また、ノベライゼーション（小説化）という文学のあり方について学んでもらいたいと思います。 戯曲や脚本やシナリオと、原作小説や原作漫画とを「比較

文学研究」したい人にもおすすめです。
まずは、テキスト・マイニングと計量文献学の最新技術にふれながら、読者や観客を魅了する「秘密のDNA」にアプローチします。
そして、感情グラフに基づいたインフォグラフィックスの作成により、人気作における「時制のマネジメント」を身につけましょう。
学生による発表／ディスカッション／ディベート／ワークショップが軸となるため、①文学作品を深く読み込み、②自発的にディスカッションやディベートに参加することが求められます。また、③「動画」をノベライズする能力も必要となります。各種レポート、個人／グループ発表に加えて、ワークショップ（ノベライズなど）の課題提出もあります。
映画や演劇やTVなどの第一線で活躍しているゲスト講師によるレクチャーの場も設けるつもりですので、プロフェッショナルの流儀というものを知ることもできるでしょう。
世界の「物語」について編集という観点から読みこみ、「物語力」を身につける授業です。 宗教や神話をはじめ、文学作品はもちろん、映画や演劇やTVのナラティブ、音楽のトラックメイクなどについて、編集という観点から、実践的に学んでもらいたいと思います。
NetflixやAmazon Primeなど同時代における物語のあり方や、音楽の「薬としての効能」などに関心がある人に。

授業の到達目標

世界の同時代文学作品を読みこみ、「時制のマネジメント」を身につける。（世界の「物語」を探究し、「物語る」という能力を身につける。）

成績評価方法

20%レポート
20%発表
30%課題
30%出席・参加度

備考・関連ＵＲＬ

演習科目のため、授業計画は受講者の人数・水準・関心などに合わせて変動する可能性があります。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（編集というメチエ） ジェンダー／セクシュアリティ、表象、暴力							
担当者名	堀　千晶							
文ジャ	２単位	秋学期	木曜日	５時限	２年以上	—	—	—

授業概要

暴力と表象の連関は根深い。表象すること、とりわけ暴力の表象には、様々な疑念や疑惑がつきまとい、その手法をめぐっても様々な葛藤が、欺瞞が生まれてきた。また、表象するという行為そのものに内在する暴力もあり、また、表象しないこと、隠蔽することの暴力もある。対象との距離をめぐる問題もある（近すぎる／遠すぎる、表象したと思っても対象が遠ざかる）。暴力と非暴力の境界はどこにあるのか、というきわめて繊細な問題もある。
おそらくこうした問題に対しては、明白な誤答と言えるものはあるものの、はっきりした正解はない。それだけに、大きな問題となってきたのである。
本演習では表象と暴力に加え、さらにジェンダー／セクシュアリティを扱うことで、三重の問題としたい。この三つの主題のうち、少なくとも二つ以上を組み合わせながら――そしてその場合も、残りの主題にたえず目配せしつつ――、本演習を進行してゆくことにする。
この三つの問題をめぐって、まず参加者全員で理論的／批評的なテクストをいくつか読み、議論したうえで、そののちに受講者に発表してもらうこととする。
現在のところ、学期最初の3分の1から半分程度をテクストの読解に当て、そのあとの授業を受講者の発表に当てる予定である。
講読テクストは、担当者の方から提案したうえで、受講者からのさらなる提案や希望を募集し、相談のうえで随時決めてゆくこととする（現在、担当者の念頭にあるのは、ヴァージニア・ウルフ、ジュディス・バトラー、ミシェル・フーコー、岡真理といった人々のテクスト）。
各受講者の発表において、対象となる作家や作品は、基本的に発表者の自由とする。その発表を受けて、参加者全員で討議し、議論を深めてゆく。

授業の到達目標

表象／権力の絡まりを顕在化させるまなざしを獲得すること

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　学期末に2000字程度のレポート
●**平常点**　60%　　発表と、討論での発言内容
●**その他**　0%

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（編集実践1） ZINEの製作を通じて〈本〉を見据える							
担当者名	澤　直哉							
文ジャ	２単位	秋学期	月曜日	５時限	２年以上	—	—	—

授業概要

単行本、雑誌、同人誌といった出版物の洪水のなか、自分ひとりで一冊の〈本〉を作るという実践を経験する者は、決して多くはないと思います。本演習では、最小8頁の小冊子（ZINE）を自作してもらうことで、自身がやがて作るであろう一冊の〈本〉を製作するための視座を獲得することを目指します。
その際、冊子という物理的・空間的拘束、半期の授業という時間的拘束と、自分の知識・能力の限界との関係を常に考えるのみならず、自身がこれまで触れてきた〈本〉や、他の履修生の意見・企画・制作物とも向き合って、「ひとりで作る」ことにも必ず付随する、「他者との関わり」を意識することが求められます。こうした様々な拘束、影響と向き合うことが、必然的に「編集」の「実践」となるでしょう。
もちろん、小冊子（ZINE）は未だ〈本〉ではない、ということではありませんが、最小のかたちを生み出すことによって、履修者それぞれが〈本〉というものになくてはならないと考える最小限のもの（著者名、版元名、本文、ノンブル、「綴じ」な

専門演習

どの有無）とは何かを見出だし、自身にとって、また他者にとって〈本〉とは何なのか、と問いかけ合う契機を得ることが課題となります。

授業の到達目標

自主制作を通じて、編集や執筆に必要な基礎と、ものを見る目を獲得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　自作の小冊子の提出を求めるとともに、コメントシート程度のものを最小限として、製作を通じて自身が考えたことを言語化してもらうことになるかと思います。提出の要領については、教場にて詳細に指示します。
●**平常点**　50%　　出席とプレゼンはもちろんのこと、他の履修者へのアドバイスをはじめとして、授業参加への積極性を重視します。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

「ひとりで作る」ことの自主性と、「他者との関わり」への積極性、そして課題提出の意志が大前提となる授業であることを念頭に置いて履修してください。なお、授業計画は履修者数やその興味と理解度に応じて変更となる場合があります。

科目名	文芸・ジャーナリズム論系演習（編集実践2）　雑誌をつくる							
担当者名	北原　美那　他／奥定　泰之							
文ジャ	2単位	秋学期	土曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

いかに問いを立て、情報を集め、整理し検め、ねらい通りに他者に伝えていくか。
「編集」という行為は、出版のなかでの実務作業という意味をこえて、情報社会に生きる個人にとって必須であり、すでに日々無意識下にもおこなっている重要な営みといえるでしょう。
出版の産業化のなかで職能として分化され可視化されてきたこの「編集」という行為は、複数の記事が混在し、さまざまな人間が関わりながら一冊の形にまとめられる「雑誌」という物理メディアについて考えるとき、よりその意義を顕在化させます。

この授業では、実際に雑誌を作る前提で、編集に関する基礎的な知識を学んでいきます。
20世紀後半に成熟をきわめた雑誌文化が、いかに与えられた条件や制約や欲望……複数のオーダーに応えながら成り立っているか、いくつかの雑誌を見ながら確認していきます。
さらに、企画や編集、執筆、制作進行、校正校閲、デザインといったセグメントが、どのような作業を行い、全体のなかでどのように機能しているか、共同作業による模擬特集の制作を通じて体得していきます。
雑誌文化に関心のある人はもちろん、他者とコミュニケーションを図りながらものを作る営みについて、実践を通じて考え、学びたい受講生を歓迎します。

授業の到達目標

企画、編集、ライティング、デザインーの初歩的な知識と経験を身につけること。雑誌の完成。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　100%　　クラス・グループへの貢献度や特集の完成度などを総合的に判断します。
●**その他**　0%

科目名	文芸・ジャーナリズム論系演習（モノとしての書籍2）							
担当者名	奥定　泰之							
文ジャ	2単位	秋学期	土曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

書かれた言葉が本（モノ）になるということは、その程度はどうあれ、ある形態の影響を受けた言葉が、読み手に届けられるということです。モノの質感によって読みの質感も変わってしまう。この講義ではそのような「モノとしての書籍」の事例を、より具体的に確認、考察していきます。また、そのような着想で作られた実際の本や、それにまつわる技術なども紹介しつつ、本という読む装置をバラバラに分解してみます。本のデザインを入り口に、言葉が読まれること、物が見られることの自明さを解きほぐしていきます。

授業の到達目標

「モノとしての書籍」を形成するさまざまな要素（紙、書体、余白、レイアウトなど）の役割を正確に理解し、かつそれらを使うことにより、効果的な「モノとしての書籍」を考え、実際に自分で設計することができるようになります。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　講義最終日にレポートを提出
●**平常点**　30%　　出席と課題発表
●**その他**　0%

備考・関連URL

この講座では普段見ることのないようなさまざまな角度から本を見ていきます。また色々なテーマを決めて、実際に造本のプランを作ってもらいます。本を読むこと、書くこと、作ること、編集すること、印刷やデザインの好きな人はぜひ。

科目名	文芸・ジャーナリズム論系演習（メディアと文芸3）　笑いと語りの文学							
担当者名	安部　達雄							
文ジャ	2単位	秋学期	月曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

担当者（安部達雄）は、漫才コンビ米粒写経のサンキュータツオの名前で芸人活動もしており、メディアまたライブなどのフィールドワークと、博士課程までの研究活動を並行して行ってきました。

この演習では、笑いとテキストの研究にまつわる諸問題を整理します。
「笑い」は身近なテーマでありながら、心理学、哲学、社会学、言語学などが横断的に乗り入れるテーマです。自分の身の回りで起こったこと、見かけたこと、読んだものなどといったものなどから、どこにおもしろみを見出したか発表してもらうことを通して、テキストの扱い方と、笑いの研究の諸問題を明らかにしていきます。ぬるい覚悟の方は来ないでください。エンタメではなくガチの授業です。

授業の到達目標

文献の講読とミニプレゼンを通じて、文学研究の対象として笑いや語りを取り扱う上での基礎的なルールを身につけ、批評・論考の執筆へと繋げる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　50%　　授業内容を踏まえ、笑いの資料を採集、分析例を2000字程度にまとめる。
●**平常点**　50%　　やる気ある人のみ。
●**その他**　0%

備考・関連URL

授業内容は履修者数や理解度に応じて一部変更となる場合があります。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（メディアと文芸4）　コラムの書き方							
担当者名	小田嶋　隆							
文ジャ	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

本講義では、単に平明で論理的な文章とは一線を画する、真に「自分らしい」自己の感情や個性に根ざした文章を書くための模索を中心に授業を進める。 管理教育が徹底され、QC思想が人事にまで及んでいる昨今、いわゆる「自分らしい」表現は、多くの場面で、単に悪文として忌避されている。しかしながら、本講では、適切な技巧に裏打ちされた魅力的な悪文をむしろ高く評価し、受講生が真に自分らしい文体を獲得することを最終的な目標とする。
それゆえ、授業では、小論文でも作文でもない「コラム」という刀で世界を自在に切り取るための具体的な手順をお伝えするつもりでいる。悪文が悪文の特徴を備えたまま、魅力的な文章に変貌する過程をお伝えできたら成功だと考えている。

授業の到達目標

個々の学生が自身の固有な文体を獲得し、その文体を駆使して世界を観察し、ものを考え、文章の形で表現できるようになることを目指しています。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません
●**レポート**　50%　　最終日に演習課題を提出
●**平常点**　50%　　出席状況とレビューシートの内容を評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

講師ブログ：http://takoashi.air-nifty.com/講師ツイッターアカウント：https://twitter.com/tako_ashi

専門演習

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（ライターという仕事1）							
担当者名	重松　清							
文ジャ	2単位	春学期	水曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

ラジオは発信するものを自らの中に持っているのではない。番組を発信しているのはあくまでも放送局であり、ラジオは外から来た（目に見えない）電波をとらえ、それを音声に変換して我々に伝えてくれる、いわば中継の装置なのである。本演習では、「ライター」をラジオに重ね合わせて「中継者」と解釈する。自分の外にあるものを文章によって読者に伝えていくこと、それがライターの仕事なのである。よって、本演習では、自らの主張や思いを表現するライティングは取り扱わない。伝えるべきものは自分自身の外にある、というのが大前提で、それに従って講義や課題の内容も設定される。
担当講師は30年以上にわたってフリーライターをつづけてきた。フィクションを書く仕事が日常の中心になったいまも、「ライター的な仕事」は一定の割合でつづけているし、自分の書くフィクションは「創作」ではなく「中継」のほうが近いだろう、とも思っているし、なによりライターの仕事に、ひいては自分がライターであった／あることに、強い誇りを持っている。
そんな講師が担当する演習であるからには、とにもかくにも、受講する学生諸君にはたくさんの文章を書いてもらわなくてはならない。それもラジオで言うならチューナーの端から端まで、さまざまな文章に挑んでもらう。題材、スタイル、分量、与えられた時間、伝えるべき読者……制約は数多い。学生諸君がふだん使っていない筋肉も酷使することになるかもしれない。「理論」よりも「実戦」に重心を置いた演習になる。しかし、さまざまな文章をまずはとにかくひたすら書いてみることで、「書く」力のみならず、「読む」力、さらにはそんな（いくつもの声が響く）各種の文章を集めて編む「編集する」力をも鍛えることができる、と講師は信じている。それを踏まえて、受講されたい。

授業の到達目標

さまざまな題材やスタイルの文章を書くことで、「書く」「読む」「編集する」力を鍛えていく。

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこなわない
●**レポート**　60%　　期末に提出するレポートの内容（詳細は教場で指示する）
●**平常点**　40%　　出席状況と学期内に課す「レポート」の提出状況、内容、授業への参加度など。なお、出席回数は授業回数の3分の2以上が必要である。
●**その他**　0%

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（ライターという仕事2）							
担当者名	重松　清							
文ジャ	2単位	秋学期	水曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

ラジオは発信するものを自らの中に持っているのではない。番組を発信しているのはあくまでも放送局であり、ラジオは外から来た（目に見えない）電波をとらえ、それを音声に変換して我々に伝えてくれる、いわば中継の装置なのである。本演習では、「ライター」をラジオに重ね合わせて「中継者」と解釈する。自分の外にあるものを文章によって読者に伝えていくこと、それがライターの仕事なのである。よって、本演習では、自らの主張や思いを表現するライティングは取り扱わない。伝えるべきものは自分自身の外にある、というのが大前提で、それに従って講義や課題の内容も設定される。

担当講師は30年以上にわたってフリーライターをつづけてきた。フィクションを書く仕事が日常の中心になったいまも、「ライター的な仕事」は一定の割合でつづけているし、自分の書くフィクションは「創作」ではなく「中継」のほうが近いだろう、とも思っているし、なによりライターの仕事に、ひいては自分がライターであった／あることに、強い誇りを持っている。

そんな講師が担当する演習であるからには、とにもかくにも、受講する学生諸君にはたくさんの文章を書いてもらわなくてはならない。それもラジオで言うならチューナーの端から端まで、さまざまな文章に挑んでもらう。題材、スタイル、分量、与えられた時間、伝えるべき読者……制約は数多い。学生諸君がふだん使っていない筋肉も酷使することになるかもしれない。「理論」よりも「実戦」に重心を置いた演習になる。しかし、さまざまな文章をまずはとにかくひたすら書いてみることで、「書く」力のみならず、「読む」力、さらにはそんな（いくつもの声が響く）各種の文章を集めて編む「編集する」力をも鍛えることができる、と講師は信じている。それを踏まえて、受講されたい。

授業の到達目標

さまざまな題材やスタイルの文章を書くことで、「書く」「読む」「編集する」力を鍛えていく。

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこなわない
●**レポート**　60%　　期末に提出するレポートの内容（詳細は教場で指示する）
●**平常点**　40%　　出席状況と学期内に課す「レポート」の提出状況、内容、授業への参加度など。なお、出席回数は授業回数の3分の2以上が必要である。
●**その他**　0%

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（メディアと文芸2）　メディアと短歌							
担当者名	小沼　純一　他／花山　周子							
文ジャ	2単位	秋学期	水曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

31音の短歌という短い詩形は、古来より発表される場（メディア）と読者の享受によって成り立つ文芸でもあった。本講では、主に現代短歌の名歌秀歌と呼ばれるものを俎上に載せながら、その読みの成立のあり方を紹介するとともに実作を通じ、様々な読みのアングルを体験的に探る。

授業の到達目標

31音が引き出すイメージの豊かさを体験するとともに、日常に潜む詩の豊かさを発見する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない
●**レポート**　30%　　レポート　毎回、短歌創作のためのメモか短歌作品一首を提出してもらう
●**平常点**　60%　　授業参加度
●**その他**　10%　　授業での発言やレポートにおける積極性

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（書物の経済学）							
担当者名	市川　真人							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

知識の源であり愉悦の泉である私たちの「書物」。けれども同時にそれは、価格がつけられ流通する「商品」であり、さまざまな原価やそれにかかわる人たちの労働価値の注ぎ込まれた「製品」でもあります。

「書く」ことと「読む」ことの狭間にある、書物の「製品／商品」としての側面を、書籍・雑誌など形態上の分類や、過去から現在への歴史、書物を構成する素材や執筆から広報などの人的コストに至るまで、様々な角度から追ってゆき、その構造を知るのがこの演習です。 とりわけ、タブレットデバイスの登場により何度目かの「電子書籍元年」と呼ばれた2010年から10年が経過し、主としてコミックや雑誌を中心に電子書籍やその流通システムが普及した今日では、「書物の（と）経済」や「製品（商品）としての書物」について考えることは、電子書籍とそれも含めたサービス産業について考えることが不可欠です。電子で読めないということは、畢竟、ただ「読まれない」ことを意味する――そんな時代を目の前に控えて、「本」はどう変化してゆくのか。そのことを、いまなお残る「紙の本」の時代のシステムの現状とともに学び、考えてゆきます。

授業の到達目標

「製品／商品としての書物」を理解し、デジタル環境における再構築を考えながら、そこから逆算して書物を書き／読むことにもういちど辿り着ける俯瞰的な視野を身につける。

成績評価方法

発表やレジュメ・ディスカッションへの参加度合や発言内容、レポートなど。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（ジャーナリズム論1）　現代文学史の試み							
担当者名	尾崎　真理子							
文ジャ	2単位	春学期	水曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

1970年代から2020年に至る半世紀、どんな作家たちが文芸ジャーナリズムにおいて評価、関心を得てきたのか。現代日本

文学の流れをさまざまな観点から俯瞰する試みを行います。受講者は文学史的見取り図をそれぞれの頭の中に描いてみることで、相対的な視点をもって個々の作家や事象、時代への関心を深める手がかりとします。

まず、評論や書評、文学賞、新聞・雑誌の記事から作家と作品を振り返ります。作家の社会的行動についても時代の出来事との関連をみていきます。並行して、受講者がそれぞれ対象とする作家を決め、作家論をまとめていきます。授業で参考文献、資料の集め方等は伝えますが、できるだけ多くの小説と関連する文献を読む、能動的な取り組みが必要になります。海外の潮流にも触れます。一線に立つ新聞記者、編集者をゲストに招くこともあります。

授業の到達目標

同時代の作家や作品から、どのようにその価値、新しさを見出していくか。文芸ジャーナリズムの基本となる判断力を養います。

成績評価方法

レポート70%、授業態度などの平常点30%の割合で評価します。

備考・関連URL

履修者数や到達の状況に応じて、授業内容の変更も一部生じます。

科目名	文芸・ジャーナリズム論系演習（ジャーナリズム論2） 文芸ジャーナリズムの仕事							
担当者名	尾崎　真理子							
文ジャ	2単位	秋学期	水曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

新しい文芸作品はどのようにプロデュースされ、発表に至るのか。新人はどのように発掘され、編集者に期待されるのはどんな能力なのか。紙と電子の本が競合する現状にはどう対処しているのか、等々。文芸書や雑誌の企画・編集、出版社の経営にたずさわる人々から話を聞きます。ゲスト講師の仕事については、受講生も関連書や記事を通じて予習し、インタビューに参加します。インタビュー後、人物紹介記事として800字程度のレポートを書き、その内容を次週、グループ内で討議し、講義でフォローアップします。ますます多様化する時代とことば、文化の関係を、文芸ジャーナリズムの仕事に携わる人々を通じて、リアルに感じる場とします。

授業の到達目標

文芸ジャーナリズムの現状について、積極的に知識を獲得する。同時に、ゲスト講師へのインタビューを通じて、話を聞く態度、要旨をまとめる体験を積む。

成績評価方法

試験0%、7回のレポート70%、ゲスト講師への質問内容やグループ討議の発表などの平常点30%の割合で評価します。

備考・関連URL

ゲスト講師は講談社や新潮社、カドカワ等の編集者、朝日新聞や読売新聞の文化面、電子版の記者、フリーのジャーナリストを予定しています。

履修者数や到達の状況に応じて、授業内容の変更も一部生じます。

科目名	文芸・ジャーナリズム論系演習（編集実践3） 意見を伝える文章を書く							
担当者名	尾崎　真理子							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

自分はこういう者です、この問題についてはこのように考えています——SNSを通じて、すでに日常的に発信している人も少なくないでしょうが、個人的な意見をまじえた文章を書くのは案外、難しいことです。目的に応じて不特定多数の人々に考えを伝える「自律した文章」にするためには、どんな注意や技術が必要か。読みやすく過不足なく書けば、それでよいのか？「公」と「私」の境界線上にある文章、小さなメディアで力を発揮する表現の可能性について、多様な視点から考え、書いていきます。

主に加藤典洋著『言語表現法講義』を講読しながら、まず「私」について、続いて好きな文章について、等々、800字の文章をほぼ隔週で提出してもらいます。途中からグループ分けして互いの文章を読み合い、秀作は授業で講評します。授業の仕上げに各自が好きな作家やアーティストの作品を薦めるパンフレットを作成し、全員には配布して感想を述べ合います。

授業の到達目標

公私のさまざまな目的に応じて、距離感とバランスを保った、真意の伝わる文章を書けるようになる。小説の読みを深めることにもつなげていく。

成績評価方法

試験0%、レポート70%、授業態度などの平常点30%の割合で評価します。

備考・関連URL

履修者数や到達の状況に応じて、授業内容の変更も一部生じます。

科目名	文芸・ジャーナリズム論系演習（編集実践4）「文化」を記事にする							
担当者名	尾崎　真理子							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

本講座の担当者は長年、新聞の文化面の取材、企画、編集に携わり、文芸を中心に論壇、美術、演劇、映画、音楽など、さまざまな分野の文化関連記事を手がけてきました。文化面の記事は作品や事象の紹介にとどまらず、創作者の意図や社会へのメッセージ、歴史的な意義づけを端的な言葉で表して読者へ伝えることが肝要です。そうした記事の文章は、他の文化発信の場でも応用可能な基本形でもあるでしょう。インタビューや批評をまじえた解説記事、コラム、展覧会評など、さまざまなスタイルの文章を読み、書いていきます。

授業では、新旧の記事や論考の中から、手本となるす文章を読んでいきます。同時に、2020年度に発表される文学作品や演劇、展覧会などから対象を選び、催事の紹介記事を書くことからスタートし、評論的な文章に挑戦する機会も設けます。秀作は授業中に紹介します。実践の中でブログとマスメディアの文章の違い、必要な要素を正確に伝える大切さ、伝わりやすくする工夫なども習得していきます。

授業の到達目標

事実をとらえ、解説や評価を加える文章の基本をよく理解し、実際に使いこなす技術の基礎を築く。すぐれた記事、視点の不明確な記事などを判断するメディアリテラシーも養う。

成績評価方法

試験0%、レポート70%、平常点30%の割合で評価します。

備考・関連URL

履修者数や到達の状況、時事的なニュースの発生に応じて、授業内容の変更も一部生じます。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（21世紀と文学の古典1） ミハイル・バフチン「美的活動における作者と主人公」を読む							
担当者名	澤　直哉							
文ジャ	２単位	春学期	水曜日	２時限	２年以上	—	—	—

授業概要

20世紀ロシアを代表する哲学者ミハイル・バフチンの『美的活動における作者と主人公』を読んでいきます。

美的なできごとの参加者として作者と主人公の関係を原理的に考察した草稿「美的活動における作者と主人公」は、古今東西の文学作品を読む上で重要な示唆をいくつも与えてくれます。半期をかけての通読を目指します。

授業形式としては、事前に担当者を決めての履修生による発表と、それを受けての全体討議を中心とし、授業担当者による補足などを適宜入れていくこととします。履修者には、知識と意見の積極的な共有を求めます。

外国語の知識は必要としませんが、言語を含めた「未知」への興味を持つ履修者を歓迎します。

授業の到達目標

古典を相手にするために必要な原理的問題について考える。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　50%　　基本的には、自身の発表で扱った箇所に関して自由に論じてもらいますが、他の履修者の発表をきっかけとして、レポートで扱う箇所・範囲に変化がある場合には、むしろこれを歓迎します。提出日・内容・分量・体裁等については、教場にて改めて詳細に指示します。

●**平常点**　50%　　自身の出席・発表はもちろんのこと、他の履修者との議論に対する積極性も重視します。

●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

授業計画は、受講者数やその興味と理解度に応じて変更となる場合があります。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（21世紀と文学の古典2） ジョゼフ・ロージーの映画							
担当者名	北村　陽子							
文ジャ	２単位	秋学期	木曜日	４時限	３年以上	—	—	—

授業概要

ジョゼフ・ロージー監督（1909 - 1984）の映画を取り上げる。ロージーは1948年にハリウッドで『緑色の髪の少年』により監督デビューするが、共産党の映画人への弾圧「赤狩り」によって1951年にハリウッドを追われ、以後は生涯亡命生活にありながら映画を撮り続けた。赤狩りと、それに並行するハリウッド撮影所システムの凋落という「不幸」に翻弄されたという点で、ロージーは「ハリウッド50年代」を体現する映画作家である。

フランスで出版されたロージーのインタビュー集『追放された魂の物語』を日本語訳したのは、自身も映画監督の中田秀夫である。『リング』から『スマホを落としただけなのに』に至るホラー映画を撮っている中田は、1990年代のイギリス滞在時にこのインタビュー集を翻訳し、ロージーについてのドキュメンタリー映画『四つの名を持つ男』を製作する。中田が出世作の『女優霊』を撮ったのは、このインタビュー集が出版された同年の1996年だった。中田は言っている。「赤狩りの嵐に巻き込まれて、イタリア、イギリスで三つの変名を使うことを余儀なくされた彼の50年代の作品を貪るように見ていった。なかでも、（フリッツ・）ラング版にひけをとらない『M』や、イギリスで初めて実名がクレジットされた『非情の時』が、筆者にとってのロージーの最高傑作である。」一方ロージーは、ハリウッドを離れて名声を確立して以降も、意志的にアメリカへの帰還を拒否し続けている。この点ではロージーは確信犯的な亡命者であり、無国籍的監督であった。仮にハリウッドに居続けられていたなら、後半生の独特な作品群は生まれなかっただろう。それらは互いに全く似ていないのに、どこから見てもロージーなのである。

代表作とも言われる『召使』、カンヌ映画祭パルムドール受賞作の『恋』、『銃殺』などのイギリス製作の映画は、たしかにイギリスでしか作られ得なかったように思える。『エヴァの匂い』で究極のファム・ファタルを演じたのはフランスのジャンヌ・モロー、哲学的政治ミステリー（?）『暗殺者のメロディ』『パリの灯は遠く』の主演はフランスの二枚目俳優アラン・ドロン。『唇からナイフ』はコミックが原作のスノッブでふざけた娯楽映画で、『ドン・ジョヴァンニ』はモーツアルトのオペラ映画の傑作である。日本に来て撮った『鱒』はフランス映画なのだが、ロージーの作品の中でももしかしたら一番「変」かもしれない。

授業の到達目標

「一筋縄では行かない」という言葉はこの人のためにある、と言って良いようなロージーの映画を毎週見るのはほとんど苦行になるかもしれないが、実は映像も音楽もこれほど格好いい監督はおらず、同時にこれほど「思想的な」監督はいないかもしれない。ひとつの賭けですが、参加するからには高度な理解のための努力を惜しまないこと。（私自身は偏愛しているので。）

成績評価方法

授業への取り組み、発表、レポートなどを総合して評価する。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（思想と文学1） アニメーションの思想							
担当者名	大澤　真幸							
文ジャ	２単位	秋学期	木曜日	４時限	２年以上	—	—	—

授業概要

優れたアニメーション、とりわけ日本のアニメーションは、少し前まで小説が担っていたような思想の源泉になりつつある。

しかし、アニメーションの思想的な意味を抽出するような理論的な概念は、まだ十分に育ってはいない。つまり、かつての文芸批評に対応するようなレベルの広がりと深さを持った批評が、アニメーションに関しては、まだ発展途上である。

この授業では、アニメーションを広義の「文学」と見なし、若い人たちの思考と感受性に強い刺激や大きな影響力をもつアニ

メーションから思想を紡ぎだしてみる。

授業の到達目標

思想は、自分が実際に直面している人生や社会についての問題を考えるときに使いこなせる概念を獲得しなければ、活きたものにならない。若者たちが普段から見て感動しているアニメーションからならば、そのような概念を獲得することができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。以下のレポートが試験の代わりになる。

●**レポート**　50%　　以下の三つのものを提出する。 ①講読したテクストについての批評。 ②自らが発表のときに用いた資料・レジュメ等を（発表時の討論をふまえて）ヴァージョンアップしたもの。 ③他の人の発表の中からひとつを選び、それにコメントしたもの。

●**平常点**　50%　　発表がどれだけ深く、思想的な含蓄があったのものだったか。また普段の討論にどれだけ有意味な貢献をしたか。

●**その他**　0%

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（思想と文学2） オーシプ・マンデリシターム『言葉と文化』を読む							
担当者名	澤　直哉							
文ジャ	2単位	秋学期	水曜日	2時限	3年以上	—	—	—

授業概要

20世紀ロシアを代表する詩人オーシプ・マンデリシターム（1891-1938年）の批評的散文を、主として詳細な注釈の付いた邦訳『言葉と文化』（水声社、1999年）で読んでいきます。

マンデリシタームの散文はその詩に劣らず難解ですが、同時代の文学のみならず古今の文学的古典と呼びかわしながら、読む者を大きな時空間へと連れ出し、世界と出会わせてくれる稀有なものです。その難解さを誤魔化し、わかるところだけを繋ぎ合わせていくのが精一杯ですが、本演習ではむしろ、「ここがわからない」という点の抽出を積極的に行なっていけたらと考えています。

授業形式としては、事前に担当者を決めての履修生による発表と、それを受けての全体討議を中心とし、授業担当者による補足などを適宜入れていくこととします。履修者には、知識と意見の積極的な共有を求めます。

ロシア語の知識は必要とせず、論じられている作家や時代背景などについては上記の通り適宜補足していきますが、言語を含めた「未知」への興味を持つ履修者を歓迎します。

授業の到達目標

理解に努めることと、理解できていないものの認識との両立。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　50%　　基本的には、自身の発表で扱った箇所に関して自由に論じてもらいますが、他の履修者の発表をきっかけとして、レポートで扱う箇所・範囲に変化がある場合には、むしろこれを歓迎します。提出日・内容・分量・体裁等については、教場にて改めて詳細に指示します。

●**平常点**　50%　　自身の出席・発表はもちろんのこと、他の履修者との議論に対する積極性も重視します。

●**その他**　0%　　なし

専門演習

備考・関連URL

授業計画は、受講者数やその興味と理解度に応じて変更となる場合があります。

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（横断文学論） BL文学論——文学×BLのただならぬ関係							
担当者名	森井　良							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「BL＝ボーイズ・ラヴ」を知っていますか？（阿刀田高風に）

きっと耳にしたことぐらいはあるでしょう。「BL」は（本当は）定義が難しい言葉なのですが、一般的にいえば「男の子どうしの恋愛／友情以上の熱い関係」を意味します。なので、性愛を含むものから含まないもの、ひたすら純粋に想いあう「ブロマンス」からほんとんど肉欲だけが頼りの「ハードコア」、明らかに実体のある同性愛から読み手の「BL脳」を刺激する補正待ちの関係まで、じつに味とりどりのBLがこの世にはあふれているのです。

また、BLは男性間の関係性だけでなく、エンターテインメントのージャンルを指す言葉にもなっています。とりわけ日本には、マンガ・小説・ゲームなどメディアミックスで進展中の一大市場が形成されており、少女マンガから「耽美・やおい」という一次・二次創作の文化を経て、同人誌／商業双方で発展を遂げてきた長い伝統があります。

本授業では、こういった「BL」にまつわる多様な状況を踏まえながら、その溯源にある「BL文学」について論じていきたいと思います。受容の問題はもちろん、「BL」という滋味豊かなテーマから文学史を捉え返し、「BL文学」の広がりと可能性（「ゲイ文学」と何が違うねん……ということも含め）を紹介することが本授業のねらいです。

担当教員の専門の関係上、今回は外国文学とりわけフランス文学に焦点をしぼりました。傍論的にイギリス・ドイツ・日本文学についても触れることになるかと思いますが、いずれにしても講義をとおして、各自がそれぞれの守備範囲で「文学×BL」を考える糸口をつかんでもらえればと思います。その成果をレポートか「受講生による発表」（希望者のみ）で存分にアウトプットしてください。なお、以下のスケジュールはあくまで授業で取り上げるであろうトピックを並べただけで、このとおり進むかどうかわかりません。担当教員はすでに頭が「発酵」しているので、横断どころか暴走は必定（？）。どうかお含みおきを。

授業の到達目標

「BL」が惹起する様々な主題を通時的かつ共時的に把握する。「BL」をどう捉えるかという問題を自らに引きつけて考えながら、受講者各自が「BL的なるもの」のゆくえを見定めていってほしい。みんなで楽しく「腐」りましょう。すでに「腐」っている方は「発酵」してください。さまざまな愛のかたち・モラル・感覚を知ることで世界の見方を広げていくことが何よりのね

らいです。オンナも、オトコも、ヘテロも、クィアも、それぞれ積極的に「ジェンダー・トラブル」を受け入れてみよう。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　授業で扱ったテーマやトピックを発展させたレポートあるいは口頭発表。口頭発表を選んだ学生はその内容を評価対象とし、レポートを免除する。
●**平常点**　30%　　出席点、コメントカードなど。
●**その他**　0%

科 目 名	文芸・ジャーナリズム論系演習（比較翻訳論）　文芸翻訳を精読する。							
担当者名	小野　正嗣							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

すぐれた文芸翻訳を精読し、原文と付き合わせながら、どのような点に工夫が凝らされているかを分析する。毎回、担当者（あるいは担当グループ）が、文芸翻訳書の指定された部分について発表を行なう。
その発表を受けて、全員で議論を行なう。
発表担当者以外の者は、毎回、指定された部分について、800字の文章課題を提出する。
この文章課題は、指定された部分を扱う授業の2日前の正午までに、LMSを使って提出すること。
この文章課題は、毎回、各自プリントアウトして（あるいは手書きで）授業に持参すること（スマートフォンやノートパソコンでは閲覧しないこと）
学期末までに、各自が少なくとも8000字程度の分量の文章を書くことになる。

授業の到達目標

翻訳者の技術的な工夫を理解できるようになる。
みずからが理解したことを、話し言葉でも書き言葉でも明確に表現できるようになる。
他の履修者の発表について建設的なフィードバックを行なえるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席、発表、発言、コメント課題を総合的に判断する。自分が出席・発表するのはもちろんのこと、他履修者の発表に対するアドバイスができているかどうかも重視する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

以下の点は注意してください。
授業の性質上、履修者は毎回必ず出席し、必ず文章課題を提出し、必ず発表し、授業に積極的に参加することが求められます。
1）正当な理由があって欠席する場合、正当な理由があってコメントを期限内に提出できない場合は、すぐに授業担当者に連絡をして代替の課題などについて尋ねること。
（正当な理由とは、病気や忌引きなどであって、就職活動は含まれません。）
2）文章課題の提出が期限内でないことが複数回続いた場合、C以下の成績となります。
3）20分以上の遅刻は、欠席とみなします。
4)授業時間内のスマートフォンとノートパソコンの使用は禁止します。使用した場合は、その回を欠席したものとみなします。

科 目 名	現代人間論系演習（宗教と共同体）　アメリカン・スピリチュアリズムの源流を読む							
担当者名	小村　優太							
人間	2単位	春学期	月曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この授業ではアメリカのスピリチュアリズム思想の源流となったラルフ・ワルド・エマーソン（1803-1882）の著作を読む。エマーソンの思想はその後のアメリカ的な考えの源流にあり、その影響は様々な分野に及んでいる。文学においてはヘンリー・デイヴィッド・ソロー（1817-1862）やウォルター・ホイットマン（1819-1892）、哲学においてはウィリアム・ジェームズ（1842-1910）などに大きな影響を与えている。また成功哲学、自己啓発などのニューソート思想の源流のひとつであるとも言われている。ヨーロッパとは異なる「アメリカ的なもの」の大本とその成立の現場をこの授業では紐解いていくことにする。

授業の到達目標

・具体的なテクストを読み解くことにより、エマーソンの思想の概要を理解する。
・アメリカン・スピリチュアリズムの基本概念を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　授業での発表および議論への参加。（備考参照）
●**その他**　0%

備考・関連URL

この演習ではテクスト読解をおこなうため、各回で担当者を選び、その担当者による発表をもとに授業を進めてゆく。受講人数によっては発表の担当がない学生も出てくるため、発表を行わない場合は任意でレポートを執筆すること。発表の上レポートを執筆することはとくに問題ない。
発表は以下の様式にて行う。
1.　　要約：検討するテクストの内容を箇条書きでまとめ、全体像を明らかにする。
2.　　解説：テクストで取り扱われている内容を、外部資料などを参考にして解説する。
3.　　考察：上記の作業をおこなった後に、発表者自身の考察を述べる。

科 目 名	現代人間論系演習（宗教と言語）							
担当者名	吉村　均							
人間	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

私たちは、異なる価値観がぶつかり合い、対立が生じ、対話が求められる世界に生きている。

宗教と言語の関係は、宗教によって大きく異なる。「神は言葉と共にありき」（ヨハネによる福音書）という宗教もあれば、さとりの境地を言葉であらわすことはできない、教えの言葉は「月を指す指」、向こう岸に渡るための「筏」でしかない（仏典）と説く宗教もある。

それは正しさ、善さとは何か、どうやってそれを知りうるか、という問題とも関わる。

この授業は演習であるので、今年度はこのような問題意識をもちつつ、ダライラマ『思いやりのある生活』を読んでいく。これは、仏教の実践を心の訓練として捉える伝統を、西洋人に対して紹介したもので、ダライラマは西洋社会では、仏教を代表する存在と見なされている。

授業の到達目標

宗教による言語観の違いについて理解を得る。

仏教の実践についての基本知識を得る。

成績評価方法

演習であるので、出席・参加の度合いが成績評価に反映される。成績評価の30～40パーセント

授業時間中の発表、あるいは（履修人数にもよるが）授業の終わりにおけるレポートを義務付ける。成績評価の50パーセント

授業中にアンケートや小テストを実施して、それを平常点として、成績評価に反映させることがある。成績評価の0～10パーセント

科 目 名	現代人間論系演習（現代人のアイデンティティーの心理）　就職活動を考える							
担当者名	小塩　真司							
人間	2単位	秋学期	金曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代を生きる人々にとって、アイデンティティの達成はひとつの大きな目標となっている。大学生諸君にとって，もっとも身近なアイデンティティ達成に繋がる行動のひとつは「就職活動」であろう。この授業では，近年出版された「就職活動」に関連する3冊の新書を講読しながら，現代を生きる人々，特に大学生におけるアイデンティティの意味を探ることを目的としている。3冊の講読を通して，今という時代に職に就く意味を俯瞰して眺め，自分自身のアイデンティティについて考えてもらいたい。

授業では，受講生を複数のグループに分け（4～6グループ），各書籍につき1回（計3回）の発表を行う。各発表においてディスカッションテーマを定め，残りの時間でディスカッションを行う。その内容に基づき，授業後に小レポートを提出する。

授業の到達目標

現代社会におけるアイデンティティの様相ついて知識を深め、自分なりの考えを持つことができるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない

●**レポート**　50%　　毎回の小レポートを評価の対象とする。ディスカッションテーマにそって適切に考察がなされているかを評価する。

●**平常点**　50%　　授業への参加，発表内容、ディスカッションへの参加の度合いを総合的に評価する。

●**その他**　0%

専門演習

科 目 名	現代人間論系演習（セクシュアリティ研究の実践）　皮膚に関すること							
担当者名	草野　慶子							
人間	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「セクシュアリティ」の概念を広くとって、いえ広すぎるくらいにとって、この演習では、「皮膚に関すること」をとりあげます。

セクシュアリティという概念を立ち上げるにあたって、性的欲望、性的事象と深く本質的にかかわる「皮膚」は、重要な考察の糸口となります。

皮膚の思考、皮膚の文化、皮膚の快楽、皮膚と自我　などのテーマに即し、さらに具体的には、

恋愛、生殖行為、性的快楽にかかわる皮膚、

あるいは皮膚の自己表現、たとえばメイクやタトゥーなど、

またあるいは自己と他者の境界となり、世界における自己の位置を定める皮膚、よって快・不快の感覚の最大のよりどころとなり、ときに自我の不安を思いもよらないかたちで表出する皮膚について（私はいやなことがあるとすぐに湿疹が出ます……）

いくつかの短い文献を読んでのディスカッション、そして、受講者個々の発表を通して考えていきます。

ディスカッションに使用する文献に関しては、担当者の専門が文学なので、文学・芸術における皮膚感覚の表現をとりあげることが多くなるはずですが、理系の研究者の文章なども、少し読んでみる予定です。

授業の到達目標

上記「授業概要」に記した諸点について、演習という場を通してお互いの関心領域が広がり、多層化し、豊かに展開すること」を目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しません。

●**レポート**　0%　　実施しません。

●**平常点**　100%　　1）出席状況　2）授業中の発表への評価。十全に準備されているか。オリジナリティはあるか。 ＊発表時のパワーポイント、ハンドアウト類は、Waseda Moodleにアップロードしていただき、評価の対象とします。 3）授業中のディスカッションへの参加への評価。十分に積極的であるかどうか。

●**その他**　0%

備考・関連URL

「授業計画」はあくまで仮のものです。受講者数によって変更の可能性が大いにあります。

科 目 名	現代人間論系演習（ジェンダー研究の実践） 現代日本社会におけるジェンダー問題の観察　～身の回りにツッコミを入れまくってみる～							
担当者名	中島　万紀子							
人間	２単位	春学期	金曜日	２時限	２年以上	—	—	—

授業概要

広告をなにげなく見ていて、エプロンをした女性が男性もののワイシャツを洗って干している写真について何か考えたり、カードローンの広告はなぜ中年男性と若い女性の組み合わせなんだろうと考えたりしたことがある人にはぜひ来てほしいし、そうでない人（特に男性！）にもぜひ来てほしい。

今の社会や人間関係のありかたについて、なんとなく生きづらさ、息苦しさを感じている人にも、そうでない人にもぜひ来てほしい。

短くても良いので、必ずひとり1回発表をしてもらおうと考えている。（授業1回につき、2人ないし3人ずつの発表とする。）さらに、それについて皆で話し合えればまことに幸甚である。

テーマはジェンダーに関することであれば自由だが、多少こちらからヒントやネタの提供はしようと考えている。

授業計画のところに、わたし自身が興味を持っている題材を書いておくことにする。

授業の到達目標

ジェンダーに関することに限らず、世の中のさまざまな表象に接したときに、客観的に分析できるようになると単純に面白いし、今後の人生を送っていくうえで自分たちにとってより住みよい社会（というか、もはや2019年時点で日本はジェンダーギャップ指数が世界で121位（！）というところまでくると、さらに住みにくい社会にならないよう防ぐ、と言ったほうが妥当だが）を作っていくヒントも得られるのではないかと考えている。自分の身を守ることにつながる観察力と、考察のための材料の集めかたを身につけられるようになる…といいな。

成績評価方法

発表を必ず1回おこなう。50点。
出席＋レビューシート提出を1回2点として、15回で30点。
学期末に、関連する本（ジェンダー関連なら選択は自由）を3冊以上読んで
それぞれの内容と読後感を短いレポートにまとめる。20点。
計100点として算出する。

科 目 名	現代人間論系演習（性的欲望・性的快楽を考える）							
担当者名	堀江　有里							
人間	２単位	春学期	金曜日	４時限	２年以上	—	—	—

授業概要

わたしたちの社会には性をめぐる規範が存在する。性をめぐる欲望や快楽にも、〈正常〉なものを確定するために時代や文化のなかで〈異常〉や〈逸脱〉というカテゴリーが生み出されてきた。プライベートな領域に属すると考えられることの多い性の領域の諸現象をめぐって、たえずこのような峻別（線引き）が繰り返されてきた歴史をみると、その背景には政治的な状況が存在していることがわかる。本演習では、テクストの精読をとおして、性的欲望・性的快楽についての事例や現象を取り上げ、フェミニズムやクィア理論の視点から考察する。

授業の到達目標

・性的な欲望や快楽が時代や文化のなかで政治的な背景をもっていることを知る。
・〈異常／正常〉、〈私的領域／公的領域〉など二元論で語られる性的欲望・性的快楽を学問的に理解する。
・学際的に発展してきたクィア・スタディーズの議論をフェミニズムとの関連のなかで学ぶ。

成績評価方法

●**試験**　0%　　演習科目のため、学期末試験は実施しない。
●**レポート**　50%　　期末レポート
●**平常点**　50%　　グループ発表への貢献度、授業への貢献度や参加度合いなどを含めて総合的に判断する。
●**その他**　0%

科 目 名	現代人間論系演習（身体理解の諸相） 身体と心のリベラルアーツとしての「ソマティック心理学」を学ぶ・体験する							
担当者名	久保　隆司							
人間	２単位	春学期	水曜日	３時限	２年以上	—	—	—

授業概要

誰にも「身体」と「心」がある。しかし、AIやヴァーチャルな環境になるほど、現実の「身体と心」は忘れられる傾向にある。私たち自身にとっても、心身の問題への対応は重要と言える。

本演習では、新しい身体概念の導入を通して、臨床心理学ベースの先端的な身体／心身理解のための、様々な学びや体験を提案する。新しい身体概念とは、「ソーマ(Soma)」である。物理的な「ボディ(Body)」ではなく、肉体・感情・心、そしてスピリットに至るまでの、多層に人間を構成する複合体／統合体としての「生き生きとした身体」を意味する言葉である。

この領域を探索するための学際横断的、実践的な学問分野として、「ソマティック心理学(Somatic Psychology)」がある。PTSD／トラウマなどに見られる心身分離（解離）の状態から、心身統合（身心一如）な状態まで、このソマティック心理学と関連諸学の活躍の場は広く、次世代のリベラルアーツ（＝自由な人間になるための基盤となる学科）としての一翼を担うことが期待される。本演習は、欧米で発展した多様なソマティック心理学の学び、ソマティック教育の体験を通して、「今・ここ」にある身体を基盤に、主観的・客観的・間主観的な複数の観点から人間を捉えなおす（日本の大学教育においては）パイオニア的な試みとなろう。21世紀に必要とされる、新しい心理学、身体論／心身論を再構築するための、ささやかな準備の場となることを目指したい。

授業の到達目標

1）ソマティック心理学を通じて、心と身体の関係性についての先端的な知見に関する理解を深める。
2）ソマティック心理学理解のため、臨床心理学、神経生理学、身体技法（ソマティックス／ボディワーク）など関連する基

本知識と体験を獲得する。
3）多様な身体と心・感情の在り方に出会い、考え、自分なりの身体観／心身観を構築していくための基盤を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　30%　　最終レポート：課題内容は、授業内で提示する。
●**平常点**　70%　　授業参加の積極性を重視する。具体的には、授業中の積極的な発言や体験への取り組み態度。毎回の授業で小レポート（フィードバック用メモ）を課し、出席記録を兼ねる。テーマが毎回異なるので、全回出席が望まれる。授業実施回数の2／3以上の出席を成績評価の前提とする。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

初回のオリエンテーション以外は、基本的に動きやすい服装で受講すること（とくに"実践中心"のクラスの日）。クラス各回の教科書・参考図書の対応ページは、クラス初日、ならびに随時指示する。
クラスの参加者や進行の状況によって、随時、内容の調整などの対応をする場合がある。
関連webページ：www.somaticjapan.org　ならびに　www.somaticworld.org

科目名	現代人間論系演習（死生学と現代社会）　応用倫理としての死生学							
担当者名	浅見　昇吾							
人間	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代社会は、価値観の多様性を大きな特徴している。生と死にまつわる問題に対しても、幾つもの考え方が併存している。このような状況下で、生と死に関する問題にどのように対応するべきだろうか。死生学や生命倫理学の理論を参照しつつ、生と死に関連する諸問題について議論を交わすことで、現代社会で生と死の問題に取り組むための新しい視点を模索していきたい。

授業の到達目標

現代社会の特徴を理解し、身近な問題を社会的コンテクストの中で理解できるようになること、さらには生や死にまつわる問題に対して、自分なりの考えを社会に発言できるようになること――これが本講義の目標である。

成績評価方法

●**レポート**　50%　　課題を正確に理解し、説得力のある議論で自分の考えを提示できるているかによって評価する。
●**平常点**　50%　　出席および授業中の議論への貢度を基準とする。

科目名	現代人間論系演習（神と人間）　ロジャー・ペンローズ『心は量子で語れるか』を読む							
担当者名	小村　優太							
人間	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この授業では現代の物理学者ロジャー・ペンローズ（1931-）の著書『心は量子で語れるか』を読む（現代はThe Large, the Small and the Human Mind『宇宙、量子、人の心』）。物理学が果たして人間の心をすべて解明できるかというのは、現代の我々にとっても無視できない問題であろう。ペンローズはその問題にたいして量子力学からのアプローチを試みる。人間の心という巨大な問題に挑むペンローズの筆致は、普段は人文社会科学を中心に触れている我々にとっても学ぶところが大きいだろう。
本書は量子力学や相対性理論を取り扱いながらも、数式の使用を最小限に努め、最大限文章で説明してくれている。

専門演習

授業の到達目標

・具体的なテクストを読み解くことにより、ペンローズの思想の概要を理解する。
・量子力学と心の問題の基本概念を理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　授業での発表および議論への参加。（備考参照）
●**その他**　0%

備考・関連URL

この演習ではテクスト読解をおこなうため、各回で担当者を選び、その担当者による発表をもとに授業を進めてゆく。受講人数によっては発表の担当がない学生も出てくるため、発表を行わない場合は任意でレポートを執筆すること。発表の上レポートを執筆することはとくに問題ない。
発表は以下の様式にて行う。
1.　**要約**：検討するテクストの内容を箇条書きでまとめ、全体像を明らかにする。
2.　**解説**：テクストで取り扱われている内容を、外部資料などを参考にして解説する。
3.　**考察**：上記の作業をおこなった後に、発表者自身の考察を述べる。

科目名	現代人間論系演習（道徳意識の研究）　倫理学入門							
担当者名	村松　聡							
人間	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

私たちが「いい」あるいは「悪い」と考え、感じる、その基準はひとつではありません。倫理学でもっとも基本的な基準は三つ（義務倫理学・功利主義・徳倫理学）あります。授業では、具体的なケースを検討しながら、三つの基本的な倫理思想を学んでいきます。
マイケル・サンデル、『これからの正義の話をしよう』を使用し、テキストが提示する例を中心にグループで討議しながら、倫理的な思考を身につけます。

授業の到達目標

「善」と「悪」についての様々な異なる見解を学ぶことで、規範倫理学のオリエンテーションをつけ、倫理学、実践哲学を学

ぶ基礎を獲得することが一つの目的です。また、テキストを偏見なく批判的に吟味する姿勢を身につけることが、もう一つの重要な目的です。

成績評価方法

レポート：60パーセント　学期末にそれまでの成果として、レポートを課します。

平常点評価：40パーセント　全員に一度は、口頭発表をしてもらいます。口頭発表と、日常の発言、議論を含めて総合的に評価します。

備考・関連URL

演習は、学生の熱意、勉強度にその正否がかかっています。したがって、積極的に授業に参加する学生を求めています。授業は、グループに分かれて議論することが中心となりますから、皆さん頑張って背のびをしても発言し、議論しましょう。また、汗をかいて手に入れた知のみが、皆さんのこれからの経験値をあげる知的アイテムとして、一生の血となり、肉となります。

科目名	現代人間論系演習（実存と他者の倫理）　自己・他者・身体・実存							
担当者名	村松　聡							
人間	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この演習では「人間とは何か」を実存理解から考えます。私たちは、単に生物学的ヒトではなく、人間としてそれ以上の存在です。それを「実存哲学」は、実存と呼んでいます。この演習は、実存としての人間に固有な特徴を考察するとともに、そこに本質的に属している身体理解、他者の影響を考えていきます。したがって、実存理解とともに、自己にとって他者や身体とはなにかを考えていくことになるでしょう。

今年は、メルロ=ポンティの「幼児の対人関係」を読みながら、身体とは何か、他者とはどのような存在か、また、感情とは他者、身体とどのように関係するか、などを考えていきます。

授業の到達目標

人間存在に対する理解を深めることから、私たちの現代社会が抱える問題を考えていく一つの礎石を手に入れることが目的の一つです。また、テキストを偏見なく批判的に吟味する姿勢を身につけることが、もう一つの重要な目的です。

成績評価方法

レポート：60パーセント

平常点評価：40パーセント　全員に一度は、口頭発表をしてもらいます。口頭発表と、日常の発言、議論を含めて総合的に評価します。

備考・関連URL

演習は、学生の熱意、勉強度にその正否がかかっています。したがって、積極的に授業に参加する学生を求めています。授業は、グループに分かれて議論することが中心となります。皆さん頑張って背のびをしても発言し、議論しましょう。また、汗をかいて手に入れた知のみが、皆さんのこれからの経験値をあげる知的アイテムとして、一生の血となり、肉となります。

哲学のテキストですので、やさしくはありませんが、一所懸命に取り組めば、必ず皆さんにとっての知的武器となります。そういうつもりでがんばりましょう。

科目名	現代人間論系演習（生命・医療の論理と倫理）　生殖医療をめぐる理論と倫理							
担当者名	仙波　由加里							
人間	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

生殖医療は、①望まない子どもの出生を回避する医療技術（避妊技術、避妊手術や人工妊娠中絶）、②妊娠の成立を補助する医療技術（生殖医療技術、社会一般には不妊治療という言い方で知られている）、③生命の質を選別する医療技術（出生前診断、胎児治療、男女産み分け等）の3つに分類できます。生殖医療技術の進歩はめざましく、これが多くの人々に利益をもたらしている一方で、倫理的な問題も複雑化してきています。本授業ではこの生殖医療に焦点を当て、生殖医療をとりまくさまざまな倫理的な問題を理論的に学んでいきます。取り上げるトピックは、①不妊治療、②生殖ツーリズム、③精子提供、④卵子提供、⑤養子と生殖医療、⑥提供精子・卵子で生まれた人、⑦生殖医療でできた家族、⑧性的マイノリティの家族形成と生殖医療、⑨代理出産と子宮移植、⑩出生前診断と優生思想、⑪避妊（緊急避妊）、⑫強制不妊手術（優生手術）、⑬代理出産と子宮移植等を予定しています。しかし授業の進行状態や、開講期間中に社会的に注目されるような生殖医療に関連する出来事等が起こった場合には、適宜それを取り上げますので、内容は変更することもあります。取り上げるトピックの順番についても授業の中でお知らせします。

授業の到達目標

各回の授業では、テキスト『グローバル化時代における生殖技術と家族形成』の中の指定する章の内容と授業の中で指定する論文の内容から、なぜこうした生殖医療の需要があるのかを文化や慣習的な背景等にも目を向けながら、倫理的な問題を多面的に思考する姿勢を身につけます。さらに各授業でとりあげるトピックについて、現在の最新の状況について学生自身に調べてくることを課すため、新たな情報を入手、吟味し、報告する能力を養うことも重要な到達目的です。

成績評価方法

平常点評価：30パーセント、毎回提出してもらうトピックに関するミニレポート：30パーセント。全員に一度は口頭発表してもらいます。残りの40%は口頭発表と授業内での発言、議論を含めて総合的に評価します。

備考・関連URL

演習は学生の熱意や勉強度が重要です。したがって、生殖医療に興味を持ち、積極的に授業に参加する学生を求めます。授業は毎回、指定するトピックについて自身で下調べし、討論することが中心となりますので、人の意見を聞くばかりでなく、自身も積極的に発言することを重要視します。

科 目 名	現代人間論系演習（環境問題の論理と倫理） 環境倫理学の現在							
担当者名	御子柴　善之							
人間	2単位	秋学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

地球環境問題は時代のキーワードであり、環境問題対策は、一般に「総論賛成」という性格をもちます。しかし、いったん具体的な場面、さらに言えば、各人自身が環境問題対策として推奨されることを実行する段階となると、「各論反対」とも言える困難が姿を表します。そうした状況に対して向かい合い、言葉を紡ごうと努力するのが環境倫理学です。この分野ではさらに、人間と動植物との関係、現在世代と未来世代との関係、地球環境問題と南北経済格差との関係などがテーマとなります。これらも併せて学ぶことで、環境問題が哲学的な問題でもあることを知ることができるでしょう。

授業の到達目標

この演習の到達目標は、環境問題を引き起こした人間、環境問題対策への懐疑を語る人間など、さまざまな人間像に対峙することで、そもそも人間とは何か、という問いを自分のものにして、それを自分のことばで語れるようになることです。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　50%　　環境倫理学にかんするレポートを作成してもらいます。
●**平常点**　50%　　討論に積極的に参加したかどうかを評価の対象とします。
●**その他**　0%　　授業回数の三分の二以上の出席を成績評価の条件とします。

科 目 名	現代人間論系演習（企業行動の論理と倫理）							
担当者名	太田　哲							
人間	2単位	秋学期	木曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

本授業は社会人類学を中心に学際的な視点から、現代社会においてグローバルに活動する企業の行動とその背景を分析し、企業論理と企業倫理の在り方を再検討する。また、企業倫理の考察を更に拡大し、GAFAなどの巨大企業の躍進と国民国家という現在の世界システムに関しても考えていく。

それに加え、本コースは日本の若者が働くということに対しどう向き合っていくか受講者一人一人が考察し、今後の学生生活や進路について考えていく。それにあたって、日本の産業構造、労働環境、経済状況、日本社会におけるジェンダーギャップなどを理解する。アカデミックな文献や日本の様々な産業について書かれた書物などを参照し、現代の日本経済、雇用システム、労働関係の発展を概観し、人間関係、人間関係力学、性別による役割の違いなど、職場のシステムと構造について検討する。本コースはマクロ的な現状把握のみならず、受講者一人一人の生活経験と照らし合わせながら、現在日本で起こっている現象が自分にどのように影響しているのかを考え、それにあたって今後の進路を考える上での参考となることを目指したい。

授業の到達目標

1. 現代社会における企業の企業論理と企業倫理の在り方を考察する。
2. 現在の日本における若者の就労状態を理解する。
3. 日本の社会構造を理論的に分析し、現在起こっている様々な事象に対し理解する力を養う。
4. 労働環境の変化が日本においてどのように語られてきたかを時系列的に理解する。
5. 女性の労働環境の変化を理解し、それに伴う女性の生き方の変化について目を向ける。
6. 日本における労働者階級の若者に目を向け、社会階層と趣向の関係についての意識を高める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　期末試験は行わない。
●**レポート**　60%　　授業で扱われたテーマについて各自ピックアップし、それについて4000字程度のレポートを提出する。提出期限は授業授業日とする。
●**平常点**　40%　　ディスカッションにおける参加やプレゼンテーション等を評価する。
●**その他**　0%　　特になし

備考・関連URL

本講座は基本的に学生が課題図書を事前に講読し、それを基にディスカッションを行う。学生には事前講読の資料、文献をまとめ、プレゼンテーションを行ってもらうことを想定している。

科 目 名	現代人間論系演習（消費社会の論理と倫理）							
担当者名	廣瀬　毅士							
人間	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代の経済社会を特徴づける人々の行為として「消費」を位置づけ、研究対象とする。前半では文献の輪読を行い、後半では調査研究を行う。

前半の輪読では、20世紀の消費について語られてきた言説を批判的に検討するとともに、それらの現象を貫くメタ理論について議論する。

後半の調査研究においては、前半の輪読を通じた議論を念頭に、それらと関連する現在の消費現象について学生が調査し、報告を行う。その際、たとえばいま注目されている店は何かといった個別事例をただ記述するのではなく、マクロな消費社会における人々の選好や傾向といったものを念頭において考えていく。また、それらの傾向が現象として「ある」ということだけでなく、それらが「どのような人々に」「なぜ」「どのような仕組みで」起きているのか、といったことについて人々の社会経済的要因、地域の文化的要因、マクロの経済的要因などをキーにして議論を進める。

授業の到達目標

「消費社会」として位置付けられる現代社会において、人々の行う消費活動がどのような傾向や特徴を帯びているのかを自ら見つけ出すこと、またそれらの消費活動に人々がいかなる意味を見出し、いかなる価値を求めているのかを多角的に考えることができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない

●**レポート**　60%　　後半の調査研究のテーマ、調査枠組み、調査方法、調査結果、考察などについて適切にまとめた内容とします。 各自が調べた内容を、前半で輪読した文献やその他の先行研究の内容と絡めて考察しているかを評価します。

●**平常点**　40%　　演習全体を通じた貢献度を評価します。 自身の担当回における報告内容や作成した資料はもちろん、他者が報告した内容に対する質問やコメントなどの積極性も評価します。

●**その他**　0%

科 目 名	現代人間論系演習（科学技術の論理と倫理） 現代科学技術の現状と倫理的諸問題を考える							
担当者名	大橋　容一郎							
人間	2単位	秋学期	水曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

21世紀の産業社会は、20世紀末までの右肩上がりの高度科学技術時代とは異なる様相を示しています。現代の社会認識論、情報論、生命論、情動論、身体論、ケア論などの考え方には、従来の科学技術倫理とは異なった倫理観が要求されるようになりました。その倫理観も、従来の徳倫理、義務倫理、功利主義倫理などの単純な適用では対処できない状況が生じています。たとえばビッグサイエンスや人工知能における善悪、平等を前提しないケア論の倫理観などは、どのように考えればよいのか。哲学倫理が応答しなければならない現代の問題が山積しています。この演習では、諸科学の先端の現状を知るとともに、そこに含まれる倫理的課題について再検討します。

授業の到達目標

①現代の先端的な諸科学のもつ哲学的・倫理的含意を認識する
②2010年以降の日本における科学観・学問観の社会的変動を知る
③現代社会の科学的問題に対する倫理を再考し、自分なりの倫理観の基礎を構築する

成績評価方法

成績は、①発表時の報告内容（30%）、②毎回提出する事前学習のレジュメおよび討論結果への意見（50%）、③授業時の質疑への参加（20%）、を総合して評価する

科 目 名	現代人間論系演習（親密圏の論理と倫理）							
担当者名	石田　光規							
人間	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「親密なつながり」というと多くの人が肯定的な印象を抱く。しかし、その一方で、「親密なつながり」に息苦しさを覚えるときもある。社会学では親密圏にかんするいくつかの議論がある。本演習はそれらをテキストに「親密なつながり」の実態を読み解いてゆく。なお、以下の計画は履修者の人数や授業の進行具合に応じて変更することもある。

授業の到達目標

身の回りの親密な関係について社会学的視点から考察を深めることを目標とする。

成績評価方法

グループ討論を通じたレポートおよびグループ報告での貢献、授業参加状況をもとに総合的に評価する。

備考・関連URL

授業はグループ討論と報告を軸に進められます。そのため、毎回の出席が求められます。きちんと出席できる人が履修してください。

皆さんの日常生活でも身近な親密な社会について、他の人と議論したいと考えている人の参加を歓迎します。

なお、授業の進め方はあくまで目安なので、履修者の人数や進行具合に応じて柔軟に変更します。

科 目 名	現代人間論系演習（サイバー空間の論理と倫理）							
担当者名	酒井　貴広							
人間	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

情報技術の加速度的な発達は、多くの人々がサイバー空間（cyber-space）を利用し得る社会を生み出した。サイバー空間とは、コンピューターソフトやコンピュータネットワークに代表される仮想的データ空間を指し、「インターネット」、「ネトゲ」、「SNS」、「ソシャゲ」などの呼称で私たちの日常生活に深く入り込んでいる。

サイバー空間が整備されることによって、私たちの用いるコミュニケーションに2つの大きな変化がもたらされた。1つは、サイバー空間の登場以前から存在する従来のコミュニケーションが、時と場所を選ばず随時利用できるようになったことである。

もう1つの変化とは、サイバー空間内における非対面での接触機会が格段に増えた点であろう。従来のコミュニケーションが相手を特定した上での接触（対面接触）を想定していたこととは対照的に、サイバー空間内でのコミュニケーションは、身体的接触や特定された相手を想定しないまま進められる場合も多い。これは、「コミュニケーション」の在り方そのものを創り変える重要な変化とみなせるだろう。

加えて、もはやサイバー空間におけるコミュニケーションを切り捨てて生活することはきわめて難しくなっており、私たちはこの新たなコミュニケーションの場と向き合い、適切な付き合い方を模索せねばならない。

本演習では、刻一刻と変化していく現代社会をいかに生きるべきかを、文献の輪読と個人およびグループの発表を軸に検討していく。なお、履修者の人数や授業の進行具合に併せて計画を変更することもある。

授業の到達目標

・サイバー空間の独自性と普遍性を理解する。
・情報社会についての理解を深め、ソーシャルメディアの誤った利用を避ける知識を身につける。

成績評価方法

授業は履修人数、進行速度に応じて変更します。

必要な資料は随時授業内で指定します。Waseda Moodleを通じてやりとりをする機会が増えるのでまめにチェックしてください。
グループ課題とレポートを通じて授業が進むので、しっかりと出席できる方の履修を望みます。

科 目 名	現代人間論系演習（こころとからだの関係を考える）							
担当者名	宮田　裕光							
人間	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代においては、SNSによるコミュニケーションやAI（人工知能）、ビッグデータ、ICT、IoT などの科学技術が発達し、私たちを取り巻く人間関係や社会との関わり方が大きく変容しているが、その一方でストレスや精神疾患、医療と健康、幸福感、ジェンダーなどをめぐる心の問題も多様化、複雑化している。こうした時代の中で、人間の心と身体の関係やあり方はどのように捉えられるべきだろうか。

本演習では、心と身体の関係やあり方をめぐるテーマについて、文献講読を通して学ぶ。具体的に取り上げられる分野は、臨床心理学、生理心理学、東洋医学、東洋哲学、仏教、芸道など、多岐にわたる。これらを踏まえて、主に東洋における心と身体の見方が、心理学や生理学、脳神経科学といった現代の心の研究にどのように貢献しうるかについても考える。本演習の内容は、生命の根源としての場所、名人芸をみちびく直観、東洋の医学・生命・健康観など、心身と生命の本質に深く切り込むとともに、実生活への応用にもつながる、きわめて大切な内容を含んでいる。これらを、予備知識は前提とせず、心身論にはじめて触れる履修者も理解が進み、かつ楽しんで参加できる形で講読する。

各回の進め方は以下を予定しているが、履修者数などを考慮して調整する。（1）各回の講読箇所のテキストについて、要点をノートに整理する。（2）グループに分かれて講読部分の内容確認および討論を行う。（3）テキストの要点および討論内容を各グループの代表者が発表し、全体討論を行う。

授業の到達目標

（1）心と身体の関係やあり方をめぐる主題について、東洋と西洋を含めた幅広い視点から理解できる。
（2）講読するテキストについて、理解した内容とみずからの考えを的確に伝えられるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　各回の授業で、講読文献の要約や討論内容をまとめたノートを提出する。
●**平常点**　50%　　発表、討論を含む、授業参加への態度を総合的に評価する。授業実施回の2/3以上の出席を成績評価の前提とする。
●**その他**　0%

備考・関連URL

本演習の関連内容をさらに学習する意欲のある学生には、講義「心身論」（春学期）、「生活世界と身体」（秋学期）、現代人間論系演習「生活世界・社会と身体」（春学期）、「他者と身体、身体から見た人間」（秋学期）などと合わせての履修を勧める。
2019年度に担当教員の演習のいずれかを履修した学生は、2020年度の内容をよく確認し、重複がないよう注意すること。
教員紹介：http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html
https://www.wasedapsychology.jp/teacher.html

専門演習

科 目 名	現代人間論系演習（他者と身体、身体から見た人間）　心と身体の心理学を探求する							
担当者名	宮田　裕光							
人間	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代においては、SNSによるコミュニケーションやAI（人工知能）、ビッグデータ、ICT、IoT などの科学技術が発達し、私たちと他者、社会との関係のあり方が大きく変容しているが、その一方で、ストレスや精神疾患、医療と健康、幸福感、ジェンダーなどをめぐる心の問題も大きな社会問題となっている。こうした時代の中で、人間の心と身体の関係やあり方はどのように捉えられるべきだろうか。

本演習では、心と身体、他者と社会などに関わる分野の学術書ないし一般書の文献講読を行い、心身に関連する諸問題への理解を深めていく。心と身体についての研究は、複数の学問分野を横断する学際的な性質を持つものである。そのため、演習で具体的に取り上げられるテーマは、心と身体の心理学、臨床心理学、心理療法、マインドフルネス、東洋医学、身体的実践（ボディーワーク）、脳神経科学、生命科学、哲学、仏教など、自然科学、社会科学、および人文学を幅広く包括するものとなる見込みである。

授業では、グループに分かれて講読文献を選定し、レジュメによる発表とグループ討論、および全体討論を行う。心理学およびそれ以外の幅広い関心を持つ履修者が含まれることを考慮し、予備知識は前提とせず、必要に応じて解説や日常にも活かせる実践の時間を取るなど、全体の理解が進むように授業を行う。

授業の到達目標

（1）心と身体に関連する諸問題について、文献講読を通して理解を深める。
（2）講読する文献について、その要旨と各自の論点を的確に伝え、内容についての議論ができるようになる。
（3）みずからの研究に必要な文献を検索できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　20%　　レジュメ発表の機会がなかった履修者に課す。課題内容は授業内で指示する。
●**平常点**　80%　　発表資料、プレゼンテーション、討論を含む、授業参加への態度を総合的に評価する。授業実施回の2/3以上の出席を成績評価の前提とする。
●**その他**　0%

備考・関連URL

本演習は、現代人間論系演習「生活世界・社会と身体」（春学期）の学習内容を応用、発展させたものと位置づけられるが、事前の履修は必須ではない。また、講読文献は春学期演習とは異なるものとする。
本演習の関連内容をさらに深く学習する意欲のある学生には、上記科目に加え、講義「心身論」（春学期）、「生活世界と身体」

（秋学期）、現代人間論系演習「こころとからだの関係を考える」（春学期）などと合わせての履修を勧める。
2019年度に担当教員の演習のいずれかを履修した学生は、2020年度の内容をよく確認し、重複がないよう注意すること。
教員紹介：http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html
https://www.wasedapsychology.jp/teacher.html

科 目 名	現代人間論系演習（生活世界・社会と身体） 心と身体の心理学を概観する							
担当者名	宮田　裕光							
人間	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代においては、SNSによるコミュニケーションやAI（人工知能）、ビッグデータ、ICT、IoT などの科学技術が発達し、私たちの生活世界を取り巻く人間関係や社会との関係のあり方が大きく変容しているが、その一方で、ストレスや精神疾患、医療と健康、幸福感、ジェンダーなどをめぐる心の問題も大きな社会問題となっている。こうした時代の中で、人間の心と身体の関係やあり方はどのように捉えられるべきだろうか。

本演習では、心と身体のつながりや調和、統合に関連する研究分野について、学術書ないし一般書の文献講読を通して概観する。心と身体についての研究は、複数の学問分野を横断する学際的な性質を持つものである。そのため、演習で具体的に取り上げられるテーマは、臨床心理学、心理療法、認知心理学、生理心理学、脳神経科学、マインドフルネスと瞑想、東洋医学、東洋哲学、身体実践技法（ボディーワーク）など、自然科学、人文学、および身体的実践に関わる分野を幅広く含むことになる見込みである。

授業では、グループに分かれて講読文献を選定し、レジュメによる発表とグループ討論、および全体討論を行う。これらにより、予備知識を前提とせず、当該分野を基礎から広く概観するとともに、一般教養や日常の実践にも役立つ心身の心理学の見取り図を得ることを目指す。

授業の到達目標

（1）心と身体のつながりや統合について、心理学、東洋医学や身体的実践を含む幅広い分野の知見を概観し、見取り図を得る。
（2）レジュメ作成と発表、討論を通して、文献の要旨と各自の論点を的確に伝え、学術的な議論ができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　20%　　レジュメ発表の機会がなかった履修者に課す。課題内容は授業内で指示する。
●**平常点**　80%　　発表資料、プレゼンテーション、討論を含む、授業参加への態度を総合的に評価する。授業実施回の2/3以上の出席を成績評価の前提とする。
●**その他**　0%

備考・関連URL

本演習の関連内容をさらに学習する意欲のある学生には、講義「心身論」（春学期）、「生活世界と身体」（秋学期）、現代人間論系演習「他者と身体、身体から見た人間」（秋学期）、「こころとからだの関係を考える」（春学期）などと合わせての履修を勧める。
2019年度に担当教員の演習のいずれかを履修した学生は、2020年度の内容をよく確認し、重複がないよう注意すること。
教員紹介：http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html
https://www.wasedapsychology.jp/teacher.html

科 目 名	現代人間論系演習（スクールソーシャルワークの理論と実践） 子どもの生活と学びをつなぐ							
担当者名	山田　恵子							
人間	2単位	秋学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

近年、教育と福祉をつなぐ仕事として、スクールソーシャルワークが注目されています。この授業では、スクールソーシャルワークの拠点である学校と、子どもや家族の現状を理解していきます。スクールソーシャルワークの価値・知識・技術を実践的に捉えるとともに、理論化していくことができる能力を身につけることを目指します。事例に基づいてディスカッションやグループワークを行います。

授業の到達目標

学校現場および子どもと家族の生活の現状を理解する。
子どもを自律的な個人として見つめ直す。
子どもにとっての学びの意味について考察を深める。

成績評価方法

●**試験**　50%　　第15回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。
●**レポート**　0%
●**平常点**　50%　　毎回の授業出席状況およびディスカッションへの参加状況、グループ発表を評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	現代人間論系演習（生きづらさの論理と倫理） 生きづらさと現代社会							
担当者名	草柳　千早							
人間	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代社会で生きることは容易ではない。広く知られているいわゆる「社会問題」から、日々の生活で感じるさまざまな困難、不満、不安や違和感まで、私たちの日常には問題が山積している。各人にとって直面する問題の内実や原因はそれぞれ様々でも、その違いをこえて共通の問いが立てられよう。私たちの生きづらさは社会のあり方とどのようにつながっているのだろうか。私たちは自分や他者の生きづらさといかに向き合い、それに対していかにふるまいうるのだろうか。そこからいかによりよく生きることへと向かうことができるのだろうか。

本演習では、現代社会における生きづらさを考察している文献、主に社会学の文献を読みながら、上の問いについて考えていきたい。とても大きな問いであり、正解があるような問いではないが、皆で共に考えていくことに意味があると考えている。

毎回の演習は出席者が「いまここ」を共にする相互作用である。他の人と相互作用することで自分1人では得られないことが得られる。1回1回大切に参加して下さい。

授業の到達目標

各自の生活上の諸問題・生きづらさを現代社会のあり方と結びつけて捉え、1人1人の問題・生きづらさを、個人的な課題としてのみならず社会の課題として多様な角度から考えていく、そのための視点・思考を身につける。

成績評価方法

毎回の演習への参加状況、個人発表（レポート）により総合的に評価する。

備考・関連URL

グループ単位で文献講読・報告・ディスカッションを行います。毎回の出席、報告、ディスカッションへの参加を重視します。

科目名	現代人間論系演習（子ども文化と社会病理） 子ども・若者の生活世界の把握と課題・困難に処する方策の展望							
担当者名	阿比留　久美							
人間	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

人は社会の影響を受けつつ生きていくが、特に自分で生きる環境を選べない子どもが社会・家庭・学校から受ける影響は非常に大きいものとなる。現代の日本社会では、無縁社会などと呼ばれるよう"つながり"の希薄化が指摘されるなかで、さまざまな社会病理が存在している。子ども・若者が育っていく上で直面する課題や困難にも社会病理の影響を受けているものは少なくない。

そこで、この演習では、子どもが育っていく上で直面する課題について、子どもたちの生きる文化と社会病理という視点から検討し、考察を加えていく。それによって、子ども・若者の生活世界を見る視点をつちかい、子ども・若者が直面する課題・困難に処する方策を展望していく。

授業の到達目標

・子ども・若者の直面する課題・困難の現状を把握する。
・子ども・若者の直面する課題・困難と社会病理とを結びつけてとらえられるようになる。
・子ども・若者の生活世界を見る視点をつちかう。
・子ども・若者が直面する課題・困難に処する方策を具体的に提案できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません。
●**レポート**　40%　　テーマを選んでレポートを作成していただきます。またレポート報告もします。
●**平常点**　60%　　授業での議論への積極的な発言を期待します。また、授業内外の時間を使ってグループ作業なども共同してすすめていってください。
●**その他**　0%

備考・関連URL

子ども・若者の文化と社会病理を関連づけて具体的に考えるために、小説やマンガ、映画などにもふれていきます。研究書、一般書のみでなく、幅広い文化に関心をもって授業にあたってください。

専門演習

科目名	現代人間論系演習（現代人と人生）							
担当者名	石田　光規							
人間	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「現代人と人生」では、人生で直面する多様な問題を扱い、大学生が"今の社会"を生きることを深く考察することを目論む。人生課題を包括的に扱う当科目は、リスク社会と呼ばれる現代においてこそ、学ばれるべきものである。授業は、今の社会を生きる人びとが直面する課題について、担当教員のライフコースをたどる形で検討・考察する。具体的には、大学受験、就職活動、企業生活、家族、挫折などを扱う。後半は履修者の報告をもとに議論を深めてゆく。

15回の演習のなかではゲストスピーカーを交えた討論も予定している。なお、履修人数により予定を変更することもある。

授業の到達目標

現代社会で人生を送ることへの理解を深め、社会と人生について深く考える。

成績評価方法

授業内報告、授業内レポート、出席状況を総合的に検討する。

備考・関連URL

1）履修者の人数、授業の進行状況により予定は柔軟に変更する。
2）グループ課題と討論が中心となるため、きちんと出席できる自信のあるものが履修すること。

科目名	現代人間論系演習（若者の生活世界と移行）							
担当者名	阿比留　久美							
人間	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

人は社会の影響を受けつつ生きていくが、子どもから大人への移行期にあたる若者期には、子ども期から蓄積してきたものがよきにつけ悪しきにつけ、表面化していくことが多い。また、たとえ、それまでの時期に困難を有していないと感じていた若者であっても、移行期には（具体的に言えば特に就職期に）実存がゆるがされる体験をすることは少なくない。

現代の日本社会では、若者の生きる生活世界や移行過程は階層・ジェンダー・出身地域などの影響をうけつつ、社会関係資本をはじめとした諸資本の不平等・不均衡な分配と、社会から求められるコードに応えやすいか否かによって、異なる様相をみせつつ推移しているが、困難を有する若者とそうではない（ように見える）若者との相違点と共通点を探りつつ、若者の移行に起きている事象とその本質がどのようなものであるかを捉えることが必要であろう。

そこで、この演習では、若者がどのような生活世界で生きているのかを検討しつつ、その生活世界の中でどのように移行が可能でありうるのか、ということを社会権という視点を位置づけながら検討していく。

授業の到達目標

・若者の生活世界の実情を把握する。
・若者が移行を遂げるとはどのようなことなのかを捉え、社会構造が若者に与える影響をつかむ。
・若者の移行支援としてどのようなものがあるのかを知る。
・若者の移行の「あってほしい姿」とそのための方途を構想する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません
●**レポート**　40%　　テーマを選んでレポートを作成していただきます。またレポート報告もします。
●**平常点**　60%　　授業での議論への積極的な発言を期待します。また、授業内外の時間を使ってグループ作業なども共同してすすめていってください。
●**その他**　0%　　特にありません

備考・関連ＵＲＬ

若者の生活世界と移行を関連づけて具体的に考えるために、小説やマンガ、映画などにもふれていきます。研究書、一般書のみでなく、幅広い文化に関心をもって授業にあたってください。

科 目 名	現代人間論系演習（ケーススタディの方法）　ケーススタディの基礎的知識と実践							
担当者名	酒井　貴広							
人間	２単位	春学期	金曜日	５時限	３年以上	—	—	—

授業概要

本講義は質的研究の基礎的な知識と実践方法を学ぶものである。

質的研究を実践するためには、単純に調査地へ赴くだけではなく、事前に綿密な研究計画を立て、調査後は確かな視座に基づいたデータ分析を実施する必要がある。加えて、調査地での聞き取りやインタビューにも注意すべき点は多い。また、多くの場合生身の人びとと関わる質的研究においては、研究対象者への配慮やマナーの習得、研究者自身がトラブルから身を守る方法を学ぶ必要もある。

これらを踏まえ本講義では、20世紀初頭から質的研究の重要性に着目してきた文化人類学の視座を主軸に据え、調査地の人びとの生活に入り込みながら質的調査を実施する参与観察の技法の習得を目指す。

なお、履修生に質的研究を体験させるため、講義中に課外活動を課す可能性がある。

授業の到達目標

ケーススタディの基礎を習得し、各自が一次データを収集する力を身に付ける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　学期末にレポートを課す。
●**平常点**　60%　　授業時に課す小課題や授業への参加度、毎回のリアクションペーパーへの記入内容、課外課題への取り組みを元に評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	現代人間論系演習（現代人と家族）							
担当者名	安藤　藍							
人間	２単位	春学期	金曜日	２時限	２年以上	—	—	—

授業概要

「家族」と聞いたとき、皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。父親や母親といった「人」や、あたたかさのような「雰囲気」かもしれません。「家族」こそが一番大切だという人もいれば、そこに居心地の悪さや生きづらさを覚える人もいるはずです。あまりに日常に根差したテーマゆえに、改めて「家族」について思考するとき、自分が過ごしてきた身近な生活体験をもとに「家族というのはこのようなもの」と自然視してしまいがちです。しかし、「家族」は誰にとっても、いつ、どこでも普遍的なものとはいいがたく、また「家族」はきわめて個人的な事柄のようでいて、政治的なものでもあります。

本演習では、家族に関わる文献輪読、自由報告、ディスカッション等を通じ、自明視しがちな「家族」を解きほぐす視点を獲得していくことを目指します。演習でのトピックは「性別役割分業」「出産」「子育て」「家族介護」「セクシュアリティ」「ひとり親」等の想定をしていますが、 参加者の人数や希望をふまえて適宜柔軟に変更します。

「家族」をめぐる色々なもやもやや疑問に、対話を通してと向き合える時間と場所にしていきたいと思います。

授業の到達目標

1）「家族」を素材に、日常生活において自明視しやすい事柄を問い、改めて思考の俎上にあげる社会学の基本視点を身に着けること。
2）家族社会学の知見や社会学の基礎概念を用いて、現代を生きる私たちにとって「家族」の意味を考察すること。
3）自ら問いを立て、関連する知見を調べ、説得的な文章を展開して問いにこたえる力を身に着けること。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　期末レポートは、担当した自由報告のなかから独自に問いを設定し、これに考察を行ったものを提出してもらう。評価基準は、テーマ設定の着眼点、文献検索の程度、論文構成、適切な引用ルールの遵守、演習での学びの応用の程度などだが、詳細は授業中に説明する。
●**平常点**　50%　　課題文献や自由報告での担当、ディスカッションへの参加度、各回のリアクションペーパーを主たる対象とする。詳細は授業中に説明する。
●**その他**　0%

科 目 名	現代人間論系演習（現代社会と心の機能） 差別や偏見について心理学から考える							
担当者名	小塩　真司							
人間	2単位	春学期	火曜日	1時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この授業では，書籍を読み進めながら，現代社会において重要な概念の理解を深めることを目的とする。2020年度は偏見や差別に関する心理学の研究を取り上げ，授業をすすめる。現代社会では，偏見や差別の問題が再燃しており，心理学の研究知見による現象の解釈と応用が待たれている。果たして，心理学でこのような問題に対してどのようなアプローチが可能なのであろうか。本演習では，偏見や差別の問題について各研究を行っている第一線の研究者たちが書いた書籍を理解しながら，心理学や周辺領域の知識を深め，なぜこのような問題が生じるのかを考察する。 授業においては，2〜3名ごとのグループを作り，発表ではなく「講義」をしてもらう。テキストの内容だけではなく，現実の問題も交えながら，偏見や差別に関連するそれぞれの内容について理解を深める。

授業の到達目標

現代社会において重要だとされる心理学的構成概念や研究について理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　毎回のテーマに関する小レポートを評価対象とする。
●**平常点**　50%　　ワークシートの記入および授業内のディスカッションの参加の程度を評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

テキストとなる書籍のはしがき：http://chitosepress.com/books/978-4-908736-10-0/

科 目 名	現代人間論系演習（発達の生得性と環境効果）							
担当者名	清水　由紀							
人間	2単位	秋学期	火曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

人の育ちは，遺伝によるものなのでしょうか，環境によるものなのでしょうか。「遺伝か環境か」「氏か育ちか」「Nature or Nurture」などの対比により古くより論争が行われてきたこのテーマは，近年，人の性質の様々な側面（身長，知能，性格，疾患，職業興味，etc...）における遺伝と環境（共有環境と非共有環境）の影響について明らかにされ，大きな発展を遂げています。遺伝と環境は，互いにどのように関わり合うのでしょうか。またその相互作用は，年齢が上がると共にどのような様相を見せるのでしょうか。これらについて，最新の知見をもとに考えていきます。

また親子関係に関する知見や虐待事例について見ていくと同時に，環境の変数としての文化の影響についても考えることにより，人の発達における遺伝と環境に関する多面的な議論を行います。

授業の到達目標

人間の発達に影響する生得要因と環境要因についての知識を習得し，それを基に子どもの育ちに関する議論ができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　30%　　グループ・プレゼンテーションを基に，最終レポートを作成する
●**平常点**　70%　　演習・ディスカッションへの参加，グループ・プレゼンテーション
●**その他**　0%

専門演習

科 目 名	現代人間論系演習（心をみる） 人の心を「科学する」							
担当者名	清水　由紀							
人間	2単位	春学期	火曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

目に見えない人の心を，どのように可視化できるのでしょうか。心理学では，人の心を科学的に調べるための様々な方法が確立されてきました。本授業ではその中でも，特に実験法と観察法を取り上げます。まず実験法では，目的に応じて刺激や条件を設定し，その中で人の知覚・認知や行動がどのように現れるのかを調べます。本授業では言語反応，視線，脳波などを指標とした実験の手法について体験的に学びます。

観察法では，対象となる行動の特徴をどのように切り取ることができるかを考え，記録の仕方を目的に応じて選択します。本授業では親子のコミュニケーション場面を観察し，その記録を元に解釈を行います。

これらを通して，人の心を「科学する」方法の基礎を学びます。

授業の到達目標

心理学の方法に関する基礎的な知識とスキルを学ぶ。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　実験法，観察法のそれぞれの演習後に，データを分析しレポートを作成する。
●**平常点**　50%　　演習への参加
●**その他**　0%

科 目 名	現代人間論系演習（自己形成と無我）							
担当者名	越川　房子							
人間	2単位	春学期	月曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

受講者は、心理学、精神医学、哲学、社会学、宗教などの諸分野から、自己・自我・無我に関わる理論を選び、各理論の自己・

自我の定義やとらえ方を相互に発表し合う。研究発表を通じて得られた知識を基に、それらの類似点・相違点について考察する。また、西洋における自己変容の技法、東洋における無我への変容の技法の体験を通して、自己とは何かについて、またその形成過程について、そして無我という東洋的な自己・自我のとらえ方の意義と効用についてディスカッションする。最後に、演習の総まとめとして、それぞれの受講者が「(自分にとっての) 自己の定義」を創出する。

授業の到達目標

受講者各自が、自己の定義を新たに創出すること

成績評価方法

●**試験**　40%　　40点：定義が明確で、その理由も説得的に記述されている、30点：定義は明確だが、その理由の論拠が弱い、20点：定義が明確さに欠け、その理由の論拠が弱い、10点：定義が明確さに欠け、理由も提示されていない、0点：試験を欠席した

●**レポート**　10%　　発表で使用したパワポファイルをWaseda Moodleの指定フォルダーにアップする

●**平常点**　50%　　発表内容が優れている場合は30点、平均的である場合は20点、不十分な場合は10点とする。また、出席回数（上限10点）と授業内での発言の様子（上限10点）も評価対象とする。

●**その他**　0%　　特になし

科 目 名	現代人間論系演習（子育ての文化比較）							
担当者名	根ケ山　光一							
人間	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

子育てとは、哺乳類である私たちにとっていうまでもなく重要な営みである。それには種による差があるが、その差は生息する生態学的環境の差とも不可分に関連する。私たちの子育ては、その基盤を霊長類の中のヒトという種の枠組みに準拠しながらも、文化や時代によって大きな多様性をもっている。その多様性とそれによる自由度の大きさが私たちの子育ての重要な特徴であるが、同時にそれは、私たちの子育てをずいぶん悩ましくまた難しくする要因ともなっている。高度な知能をもって環境を人工的に改変することができるという私たちの能力と、一方で直立二足歩行を進化させた結果、子どもが行動能力の未熟な状態で生まれ落ちてきて、親子の間に間隙が生じる機会がたくさんあるということがその背景にある。

価値のシステムとしての文化は、私たちを取り巻く具体的な道具や生活空間、対人関係、そしてそれを取り巻く社会的制度といった具体的な形をとって私たちの生活に立ち現れる。そして子育てもそれらの「モノ」「ヒト」「シクミ」の多様性に重層的に取り巻かれて実現されており、そういった多様な事物は、「離れつつ守る」という親子間にとって「インターフェイス」となっている。そしてまた、そういう環境で育った人が大人となって、次世代にその文化を継承していく。

そのような文化と子育ての関係を読み解くにあたって、本講義では二つの軸を定める。一つは空間軸であり、もう一つは時間軸である。空間軸のわかりやすい例として国際比較があげられ、時間軸の例としては歴史的変遷があげられる。それらの軸はさらに、同じ日本国内での地域差や、同一家庭での時間推移という形へと掘り下げることもできる。

本演習ではそのような私たちの多様な育児の特徴・現状と課題について、霊長類との比較をふまえつつ、発達行動学的観点から、とくに身体・環境・行動の関連性に注目して議論する。授業の前半部ではそれらのトピックに関して講義を行うが、演習であるため後半部ではそれをふまえ、受講生が自らの興味関心に応じテーマを選んで研究発表するという形式をとる。

授業の到達目標

人が多様な文化を創出しながら生き、またその文化の中で自己形成していく存在であることを理解できる。

そのような文化的存在としての人間を具体的な生活の中から実証し、考察する力をつける。

成績評価方法

原則として担当した発表の内容を70%，その他出席状況や参加度を30%として評価する。

備考・関連URL

初回授業のみ教室ではなくオンデマンドで行う。また，最終授業で全体について講評する。

科 目 名	現代人間論系演習（心をしらべる・心理学実験）							
担当者名	鈴木　公啓							
人間	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

心理学は，心のメカニズムを明らかにしようとする学問です。そのために，心という直接的には見えない概念を何かしらの方法で扱っていく必要があります。本演習では，まず，心理学の研究で用いられている基本的な方法論やそれに関連する内容を説明します。その後，実際に演習を通して，理解を深めてもらいます。

授業の到達目標

心理学における方法論についての知識を学んだうえで，実際に体験し理解を深めることを目標とします。

成績評価方法

受講態度も考慮しつつ，基本的には最終的なプレゼンおよびその資料の内容によって評価します。

科 目 名	現代人間論系演習（現代人と孤独）							
担当者名	竹中　均							
人間	2単位	秋学期	木曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

孤独とは、単に他者がいないというだけのことではないように思われる。孤独の視点に立って初めて見えてくる社会の風景もあるはずである。豊かな孤独というのはありえるだろうか。どう孤独と向き合うべきだろうか。

理論的著作・実証的著作・小説などのフィクションや文化的産物を素材として、演習参加者には、「現代人と孤独」というテーマで個人発表をしてもらう（受講者数によっては、他の発表形態もありうる）。発表のための文献や資料などは、各自が自力で探してきてもらいたい。

授業の到達目標

孤独という、ある意味で自明な現象について、常識的な決めつけにとどまらない多面的な視点を身につけることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　0%　　原則的になし。
●**平常点**　100%　　出席状況と発表内容。（受講生人数によっては、期末レポートを課す場合もありうる。）
●**その他**　0%

備考・関連URL

課題に対するフィードバックを希望する人は、その旨を教員にお知らせ下さい。メールなどによってフィードバックをお送りします。

科 目 名	現代人間論系演習（現代人と社交）							
担当者名	大久保　孝治							
人間	２単位	春学期	火曜日	５時限	２年以上	—	—	—

授業概要

個人の生活を時間の面から考えると、それは家族の時間、仕事の時間、社交の時間、孤独の時間の4次元から構成されている。ここで問題となるのは時間の配分のバランスである。第一の個人化の時代（高度成長期がそのピークだった）では家族と職場が絶大な重力をもっており、個人がいかにそれに抗してサードプレイス（インフォーマルな公共空間＝その典型はカフェ）での社交の時間や孤独の時間を持てるかが課題であった。しかるに第二の個人化の時代（現代）では、未婚者や非正規雇用者の増加によって、家族と職場という従来の生活の足場がもろくなってきている。ここではサードプレスでの社交の時間や孤独の時間がいかに存在論的不安から個人を救済しえるかが課題となるだろう。こうした問題意識に立って、本演習では、「現代人と社交」というテーマに、理論的かつ実践的にアプローチしていく。

なお、「現代人と孤独」については別途演習が用意されている。

授業の到達目標

社交というものの重要性を理論的に認識し、実践的に社交に取り組めるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　授業の最後にレポートを課す。既存の研究をレビューして、そこに自分なりの知見が加味されていること。
●**平常点**　50%　　グループ発表および毎回の演習への積極的参加度で評価する。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	現代人間論系演習（心の回復と成長）							
担当者名	平野　真理							
人間	２単位	秋学期	木曜日	６時限	２年以上	—	—	—

授業概要

レジリエンス（resilience）とは、人が落ち込みから心理的に回復する力や、逆境の中で適応できる力を表す概念です。日本においても、東日本大震災以降この言葉を目にすることが多くなりました。しかし、レジリエンスとはいったい何なのか、どのように高められるのかということはシンプルではなく、捉えることが難しい概念です。本授業では、まず、レジリエンスとはいったい何か、どのように測定されているのか、どういった研究が行われてきたのかの基礎を学ぶとともに、レジリエンスを高めるとされている介入技法について体験的に学びます。さらに、個々人のレジリエンスの多様性についてもワークを通して学んだうえで、レジリエンスの考え方をどのように応用できるかをグループワークを通して考えます。

授業の到達目標

レジリエンス概念および測定方法、介入方法を理解できる。
レジリエンスの多様性について体験的に理解できる。
レジリエンス概念を自らの生活や人間理解に応用することができる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行いません
●**レポート**　40%　　毎回のミニレポートの内容
●**平常点**　20%　　授業内ワーク及びディスカッションへの積極的取り組み
●**その他**　40%　　論文発表および、グループワークのプレゼンテーションへの取り組み

科 目 名	現代人間論系演習（人間関係の生涯発達）　助け合いの心理学							
担当者名	永井　智							
人間	２単位	秋学期	月曜日	５時限	２年以上	—	—	—

授業概要

本研究では人間関係の中でも特に「助け合い」というテーマに扱います。「助け合い」が我々の社会の中で重要であることは言うまでもありませんが、その実現が困難であることも、日々実感していることと思います。これまで、心理学を中心とした様々な学問で「人はなぜ助けあうのか、あえないのか」について様々な研究が行われてきました。本授業では、様々な切り口から「助け合い」について学びます。ただしここで言う「助け合い」は、助け合う行動そのものだけでなく、それに関連する「協力・善悪判断・道徳性」等の概念も含みます。

授業では、関連する文献について毎回複数のメンバーで発表を行い、全体でディスカッションを行います。最初の数回は教科書を扱い、残りの回では別のいくつかの文献（参考文献に記載した本を中心に選択）を抜粋したものを扱います。

授業の到達目標

①「助け合い」について心理学を中心とする複数の観点からその原理・限界等について理解し、説明ができるようになる。
②関連する複数の立場の相違を理解し、説明できる。
③これらの論点を踏まえ、自分なりに現代社会の在り方に結びつけて考え、論じることができる。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　50%　　与えられた課題について、授業の内容を踏まえながら説明・考察できているかを評価します。
●**平常点**　25%　　自身が担当する文献を十分理解・咀嚼した上で適切に発表できているかを評価します。
●**その他**　25%　　ディスカッションにおいて発表内容や他者の意見を受け止めた上で積極的にコミュニケーションを取れているかを評価します。

科 目 名	現代人間論系演習（現代社会における心理学の意義）							
担当者名	武田　美亜							
人間	2単位	春学期	火曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「心理学」に対して，人々は心にまつわる様々な問題が解決できることを期待している。しかし学術としての心理学研究の知見は，個人が抱える個々の問題に対して直接的に具体的な答えを提示することはできない。また，経験的にはよく知られていて「わざわざ調べなくてもそんなの当たり前」といわれることもある。

本演習では，おもに社会心理学の研究を題材として，心理学の研究がどのようになされているかを知り，研究知見からどこまでものが言えそうかを見直すことを通して，心理学の意義を考える。

なお，こうした問題は心理学に限らずほかの学術分野の研究知見にもいえることである。そこで，科学コミュニケーションやトランスサイエンスについても紹介し，心理学および各履修者の専門（予定・希望を含む）領域のコミュニケーションについても考えたい。

授業の到達目標

心理学の研究知見と日常生活との間のギャップを理解すること

心理学に限らず様々な学術分野の研究知見を，その分野の専門家でない人々はどう捉えるべきか，自分なりの考察ができるようになること

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　所与の課題に対して，妥当な資料を用いて考察できているか
●**平常点**　50%　　出席，議論への参加，授業中の課題，発表など
●**その他**　0%

科 目 名	現代人間論系演習（社会福祉の論理と倫理）　婚姻制度と社会福祉							
担当者名	熱田　敬子							
人間	2単位	秋学期	水曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

なぜ私たちは結婚したいとおもい、結婚しようとするのか？

現代の日本社会で結婚とは単なる愛情による結びつきではない、国家による社会福祉の最小単位を構成する契約である。 日本の社会福祉制度の多くは、結婚と、日本国籍を持ち、婚姻関係にある異性愛の男女から生まれる子どもを対象としており、そこから外れる人々への対応は非常に脆弱である。

こうした状況は新自由主義的政策が、国家の社会福祉コストを削減し、個人の自助努力と家族間の助け合いを重視する傾向のなかでさらに強化されてきた。

結婚が社会福祉の代替品と捉えられることは、私たち1人1人の生き方を大きく制限している。

人々の生き方が多様化し、結婚するかどうかが個人の選択になったといわれる一方で、子どもの養育、介護などの社会化は進まず、あるいは後退し、結婚した異性カップルを中心とする家族関係がケアの負担を負うことになる。

日本の婚姻制度がモデルとして想定する男性片稼ぎ／専業主婦／子どもの世帯構成自体が、正社員減少、平均年収の低下、晩婚化、非婚化、家族の個人化によって崩壊しつつある一方、婚姻を前提としない個人単位の福祉制度の構築は進まない。

さらに、婚姻にまつわる問題は、結婚が愛情の制度である／でなければならないというロマンチック・ラブイデオロギーに基づいた規範意識によって、見えにくいものとなっている。

ヘテロセクシュアルな夫婦関係、婚姻関係にある両親と子の関係が結婚を通じて親密な関係性として保護される一方、その他の親密な関係性は社会的に不可視化される。

本演習では日本の社会福祉の中核である結婚制度の成り立ちと、結婚が人々に与える影響、結婚と恋愛の関係といった視点から、強くジェンダー化されている日本の社会福祉を問い直すことをめざす。

授業の到達目標

・人々が生き方の自明の前提としがちな結婚制度と、結婚制度が社会福祉の単位とされている現状を多角的、批判的に捉えなおし、新たな社会関係に対する想像力はぐくむこと。

・戸籍制度、事実婚運動、モノガミー、税・社会保障制度、住居政策などの面から、社会制度としての婚姻を理解すること。

・男女、セクシュアリティを問わず私たちの人生を構造化するジェンダー作用について、反省的に捉える視点を持つこと。また、ジェンダー化作用と深く関わって複合差別を形成する、経済階層、エスニシティ、シチズンシップ、ディスアビリティなどの要素についても理解を深めること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　50%　　学期末にレポートを課す。
●**平常点**　30%　　授業への積極的な参加、Waseda Moodleでの意見記入で評価する。
●**その他**　20%　　グループワーク、授業内の課題への取り組みで評価する。

科 目 名	現代人間論系演習（世代間交流の理論と実践）							
担当者名	齋藤　史夫							
人間	2単位	秋学期	水曜日	1時限	2年以上	—	—	—

授業概要

人間関係の希薄化のもとで「あらゆる世代が心身ともに健全に育つことが出来る家庭や地域を作り出すことは社会全体に課せられた責務」となっている（日本世代間交流学会）。

動物としてのヒトが人間になるにあたって、社会的な生活の営みが大きな意味を持った。とりわけ、子ども期・青年期・成人期・高齢期という重層的な世代構造を持っていることの重要性が指摘されている。未来に向かって「健康で文化的な生活」を実現する一つの鍵として「世代間交流」の試みが進められている。

「世代間交流」の理論を学ぶとともに、東京都中野区の「なかの生涯学習大学」の高齢者と共通するテーマをさだめて共に学び・交流する「世代間交流」を実践することから、その意義を深め可能性を考える。

授業の到達目標

世代間交流の実践に裏付けられた考察から、これからの社会形成の方向を考えることができる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　グループ研究発表、世代間交流実践の記録・考察など、随時課題を出す。
●**平常点**　30%　　毎回の授業レビューシートの内容と出席状況にもとづいて評価する。
●**その他**　30%　　交流を充実させるための行動など演習の充実への貢献度。

科 目 名	現代人間論系演習（クィア・スタディーズ）							
担当者名	井芹　真紀子							
人間	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

本演習では、ジェンダーやセクシュアリティをめぐるさまざまな規範に対して批判的介入を行ってきたクィア・スタディーズという学問領域が、どのような社会的背景から、どのようなテーマを、どのような視点によって論じてきたかを包括的に学ぶ。その創成期にあたる1990年代から現在にかけて、クィア理論における中心的な論点を示してきた重要文献の講読を行うとともに、それらを用いて具体的な文化的・社会的事象について批判的に考察するための視座を養う。

授業の到達目標

・ジェンダー・セクシュアリティに関する議論を理解する上で必要となる、基本的な用語や概念、トピックを理解する。
・ジェンダーやセクシュアリティについて議論を行う際に不可欠な基本姿勢と批評的アプローチを身につける。
・クィア理論が展開してきたさまざまな批評実践を、それぞれの歴史的・社会的文脈に位置づけるとともに、それらの視座を適切に用いて、現在のジェンダー・セクシュアリティをめぐる社会的・文化的事象について批判的に分析・考察することができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%
●**平常点**　20%　　授業への参加および貢献度　※3分の2以上の出席がない場合、成績評価対象となりません。
●**その他**　40%　　課題論文のレビュー発表　20%　期末レポートの構想発表およびピアレビュー　20%

備考・関連URL

・本演習は、ジェンダー・セクシュアリティに関する議論の学修を目的として、多くの性的なイシューや表現を扱い、論じるものであるため、履修の際は十分に留意すること。
・意図的に差別発言を繰り返す・嫌がらせを行うなどの悪質な言動を、講師の警告を受けてもなお続ける受講者がいた場合、退室を求める、あるいは授業への出席を認めない可能性がある。その場合、成績評価の対象とはならない。
・授業内容については、履修者の人数などに応じて進度や内容、成績評価の割合が多少変更される可能性がある。
・初回のオリエンテーションで文献講読の発表担当者を決めるので、履修を考えている学生は必ず出席すること。

科 目 名	現代人間論系演習（福祉社会の臨界）							
担当者名	岡部　耕典							
人間	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

社会の構成員がケアや再分配について十分な配慮をもっている社会が〈福祉社会〉である。権力的で中央集権的な〈福祉国家〉＝「大きな政府」から、私たちひとり一人の生が毀損されない〈福祉社会〉＝「分配する最少国家」への移行が求められている。しかし、グローバリズムと金融資本主義の進展は、能力主義・私的所有・自己責任論に裏打ちされた「小さな政府」へと私たちを追い立てている。

本演習ではこのような問題意識を踏まえ、福祉社会の臨界にせめぎあうさまざまな課題について以下の4つのテーマを設定し、講義や映像の視聴、ディスカッションを繰り返しながら多面的に検討していきたい。

・いのちを分ける：出生前診断／臓器移植／「尊厳」死
・老い／呆けること：〈認知症〉と社会的入院／の世界／の政策
・〈貧困〉問題のリアル：連鎖／マイノリティ／生活保護
・臨界を超えて：ヘイトスピーチ／社会的企業／「同性婚」法制化

授業の到達目標

福祉社会の臨界にせめぎあうさまざまな課題の検討を通じて、生き方の自由が生存の平等を棄損しない社会の在り方の構想を、自らの生き方の問い直しへと接続すること。

成績評価方法

演習への参画姿勢と毎回のコースナビからの小レポート（レビュー）により総合的に評価する。

備考・関連ＵＲＬ

http://www.f.waseda.jp/k_okabe/　岡部耕典研究室
※LMSはコースナビを使用する予定。

科 目 名	現代人間論系演習（貧困と社会的排除）							
担当者名	大西　連							
人間	２単位	秋学期	月曜日	３時限	２年以上	—	—	—

授業概要

本演習では、現在の日本社会に拡がる「貧困」と「社会的排除」について、それらの問題の理解を深めるとともに、その背景、社会的課題、政策の現状について検討する。特に、「ホームレス」「生活保護」「子どもの貧困」に着目し、当事者が抱える困難さ、支援現場で起きていること、社会的背景や政策的課題について、講義、ディスカッション、グループワーク等を通じて学ぶ。

授業の到達目標

・「貧困」「社会的排除」という概念を理解する。
・「ホームレス」「生活保護」「子どもの貧困」についての基本的な知識を習得する。
・それらが起きる社会的背景について、社会的課題について、印象や思い込み、偏見などで語るのではなく、文献をあたり、現状を分析し、能動的にその解決を検討することを通して、自らの見解を持つことができるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　期末のレポートの内容により評価する。
●**平常点**　50%　　報告・コメントを含む演習への参画姿勢により総合的に評価する。（備考にあるように欠席の上限を設ける）
●**その他**　0%

備考・関連ＵＲＬ

・本演習は出席を重視する。1／3以上を欠席した場合、単位は不可とする。・授業スケジュール、グループ編成等は受講人数等によって変更することがありうる。

科 目 名	現代人間論系演習（エスノメソドロジーの方法）							
担当者名	居關　友里子							
人間	２単位	春学期	金曜日	４時限	２年以上	—	—	—

授業概要

日常生活で人々が社会的状況を認識し、その状況に適った行為を生み出していく際に用いている方法を研究する研究分野「エスノメソドロジー」のうち、人と人がことばを交わす際の方法に注目した「会話分析」を演習形式の授業で学ぶ。会話分析では、実際に行われたことばのやり取りを丁寧に観察することを通して、人々が相互行為を秩序だったものとして成立させる方法を分析する。この手法の習得には分析概念の知識だけではなく、実際に手を動かしながら実データに向き合う姿勢が求められる。授業前半では、教員が用意した音声データを素材に、データを分析するための概念と実践を学ぶ。これを用い授業後半では、受講生自らがテーマを設定し、プレゼンテーションや全体での議論を通して、テーマとする現象に対する考察や会話分析への理解を深める。

授業の到達目標

以下のような知識・能力を身につけることを目標とする。
・会話分析が目指す理念に関する知識
・会話を分析するための知識
・会話分析で用いられる概念の正確な運用能力
またこれらの知識・能力をもとに、他の学生と議論を行うことを通して問題意識を共有し、さらに考察を深める力をつけることをも目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　30%
●**平常点**　50%
●**その他**　20%　（プレゼンテーションなど）

科 目 名	現代人間論系演習（相互承認の技法）							
担当者名	森山　至貴							
人間	２単位	春学期	火曜日	５時限	２年以上	—	—	—

授業概要

本演習では、他者との相互作用における「エチケット」「マナー」「礼儀」、あるいは社会運動の文脈における「差別」「偏見」「ポリティカル・コレクトネス」など、他者の存在を認めともに存在することにまつわる諸理論・諸概念を具体的な事例にそくして検討する。原理と実践を往還しながら学習することで、相互行為によって成り立つ人間社会の本質に迫る（ディプロマ・ポリシー）営みとしての社会学の基本的な視座を学習してもらう。

授業の到達目標

・他者との相互作用にはたらく規範について、観察・分析ができるようになる
・他者への行為の望ましさについて、社会学的に議論できるようになる
・具体的なトピックに着目した上で、望ましい社会のあり方について構想できるようになる

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　・グループワークへの貢献度　・発表の質　・リアクションペーパーでのコメント　などを総合的に判

断して成績を評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

・期末レポートを課さない分、(学期末の)グループ発表の完成度をきわめて重視します。事前・事後学習に努めてください。

科 目 名	現代人間論系演習（日常動作の社会学）							
担当者名	森山　至貴							
人間	2単位	秋学期	火曜日	1時限	2年以上	—	—	—

授業概要

立つ、座る、歩く、走る、食べる、飲む、話す、聞くなどの日常動作は、あまりにも日常的であるがゆえに普段はほとんど意識されることがない。しかし、これらの動作もまた、特定のスタイルを伴った行為として学習されたものであり、そこには人間の社会性が強く刻印されている。本演習では、きわめて単純な日常動作を実際におこない、詳細に観察・分析することで、社会の本質に迫る(ディプロマ・ポリシー)営みとしての社会学の基本的な視座を学習してもらう。

授業の到達目標

・特定の身体動作について、詳細に観察・分析ができるようになる
・行為の社会性についての学術的議論に知悉する
・任意の行為について、社会学的に考察できるようになる

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　・グループワークへの貢献度　・発表の質　・リアクションペーパーでのコメント　などを総合的に判断して成績を評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

・期末レポートを課さない分、(学期末の)グループ発表の完成度をきわめて重視します。事前・事後学習に努めてください。

科 目 名	現代人間論系演習（調査データ　収集・分析の手法）　量的調査データの収集・分析の基礎を学ぶ							
担当者名	井上　公人							
人間	2単位	春学期	水曜日	1時限	2年以上	—	—	—

授業概要

本授業の目標は、社会調査に関する基礎的な知識と、社会調査によって収集された量的データの分析・解釈に必要な基礎的な技能の習得である。これらの知識・技能は、実証的な研究を行う上で不可欠なアカデミック・スキルである。

この目標を達成するため、本授業では、講義と実習を交えながら、データ分析からレポートの執筆に至る量的調査の過程を実践的に学ぶ。

授業の流れは、次の通りである。まず、講義により社会調査の目的や意義・方法を理解した後、量的調査や量的データを用いた研究プロセスを学ぶ。次に、問題設定や仮説構築の方法と、官庁統計の収集方法を学び、自らの問題関心に従ってこれらを実践する。その後、各自の問題関心に従い、量的調査データの二次分析による実習を行う。実習では、統計分析ソフト「SPSS」を用い、記述統計量のほか、2変数間の関係の分析とエラボレーションの方法を学ぶ。

授業全体を通じ、履修者は各自の問題関心に従った分析とレポートの執筆を少しずつ進め、学期末にはレポートとして提出してもらうこととなる。

授業の到達目標

1. 社会調査および量的調査に関する基礎知識の理解
2. 量的研究を行うための、問題設定・仮説構築能力の習得
3. 量的データを適切に処理するための情報処理能力の習得
4. 量的分析の結果を適切に解釈するための科学的思考力の習得
5. 学術的に適切な文章表現を行うためのアカデミック・ライティング能力の習得

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　40%　　学期末レポートの成果によって評価する。
●**平常点**　60%　　本授業中に課す3回の課題の成果、および授業に対する取り組み状況によって評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

本授業の履修にあたっては、中学校レベルの数学的知識があれば十分である。また、分析手法については、これを数学的に理解することより、値の持つ意味や概念が理解できるようになることを重視するので、数字（数学）を苦手とする者も、本授業で扱う内容に必要性を感じるならば、是非履修して欲しい。

遅刻・欠席すると、授業についていけなくなるので、十分注意すること。遅刻・欠席した分については、自分でフォローすること。

科 目 名	現代人間論系演習（近代的人間観の論理と倫理）　J・S・ミル『自由論』を読む							
担当者名	御子柴　善之							
人間	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この演習では、近代的人間観の根幹をなす「自由」の問題を考えるために、J・S・ミルの『自由論』を読みます。さらに、併せて、同じミルの『女性の解放』にも部分的に目を通します。ミルの自由観は、近代という時代を反省する際につねに参照すべき重要な思想です。有名な書物でも、機会がないと、なかなか一人では読めないものです。しかし、それを読まずにいること自体が、各人の内面にコンプレックスを生みます。この際、思い切って、有名な本と取り組んでみようというのが、この演習の試みです。

授業の到達目標

近代的人間観を理解するための手掛かりとして、イングランドの哲学者が「自由」をどのように論じたかを見定めることを目標にします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　50%　　学期末に、2,000字程度のレポートを課します。内容は、J・S・ミルの自由観にかんするものです。
●**平常点**　50%　　演習に参加して、自分の疑問点などを積極的に発言しましょう。
●**その他**　0%　　特にありません。

備考・関連URL

『女性の解放』については、岩波文庫に収められた訳書が手にはいらない場合があるかもしれません。その場合には、コピーを作成します。

科 目 名	現代人間論系演習（生の詩学／生の解釈）「家族」と「性」をめぐる、現代日本の女性作家の作品を読む							
担当者名	草野　慶子							
人間	2単位	秋学期	火曜日	1時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「家族」そして「性」。このふたつの、緊密に連関する主題にかかわる、現代日本の女性作家の作品を読みます。比較の対象として、このカテゴリーに収まらない作品や表現も扱います。

「お父さんが外で働いて、お母さんが家事と育児をする。子どもが幾人かいる」「長じた子どもは、やがてただひとりの異性を選び、結婚して、子どもができて、父母に倣った家族を再びつくる」といった家族観、性愛観からもっとも遠いところにあるのが、もしかしたら、現代の女性作家たちの作品かもしれない、と考えたのが、その動機です。

松浦理英子、吉本ばなな、村田沙耶香……などの作品を読んでいる方、関心のある方はご参加ください。

といっても、読書は基本的にはひとりでするもので、大学の演習という場でなにをするかと言えば、それはもう、すでに読んできた作品について報告していただく、ということになるかと思います。

担当者（草野）自身は、上に名前を挙げた作家たちの作品を好んで、あるいは関心をもって読んできましたが、ほかにも読むべき作品がたくさんあることはもちろん知っています。

受講者の皆さんには、それぞれの関心、読書体験から、自由に作品をご紹介いただくことになります。

演習という場を通して、お互いの関心領域が広がり、多層化し、豊かに展開することを目指したいと思います。

最後に、この演習は1限です。しかし、早起きは人生を生きやすくします（もともと夜型、というか真夜中型の私の実感）。多少の遅刻や居眠りは許容範囲ですけれども、どうかがんばって教室にいらしてください。

授業の到達目標

上記「授業概要」に書いたとおり、家族、そして性という主題をめぐり、「演習という場を通して、お互いの関心領域が広がり、多層化し、豊かに展開すること」を目指」します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しません。
●**レポート**　0%　　実施しません。
●**平常点**　100%　　1）出席状況　2）授業中の発表への評価。十全に準備されているか。オリジナリティはあるか。 ＊発表時のパワーポイント、ハンドアウト類は、Waseda Moodleにアップロードしていただき、評価の対象とします。 3）授業中のディスカッションへの参加への評価。十分に積極的であるかどうか。
●**その他**　0%

備考・関連URL

1限の演習です。でも、昨年度までの月曜1限から火曜1限に移動できて、今年度は少しはらくになるのだろうか……
いずれにしても、早起きは人生を生きやすくします（もともと夜型、というか真夜中型の私の実感）。 がんばりましょう。

なお、「授業計画」はあくまで仮のものです。受講者数によって変更の可能性が大いにあります。

科 目 名	現代人間論系演習（生きて働くことの臨界） 生きて働く、と／の福祉							
担当者名	岡部　耕典							
人間	2単位	春学期	木曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

生きて在るために働き、そこで稼ぐ／“生きがい”を得ることについて考える。就活や非正規雇用の“生きづらさ”、若者の労働運動、能力主義や分配的正義、生活保護バッシングなどの福祉社会のイシューを参照しつつ、働くことを含む生き方の自由が生存の平等を棄損しない社会の在り方やそのために必要なシステムを構想する。

以下の4つのテーマ別グループを設定し、前半は講義や映像の視聴とグループディスカッション、後半はグループ研究の報告と議論によって演習を進める。

・生存：「働くこと」と私たちの「生きづらさ」の関係について考える。
・労働：現代社会において「働く」とはどういうことなのか。
・制度：「生きて働く」ために必要な制度や政策とは何か。
・社会：誰もが排除されない／自由と平等が二者択一ではない社会は構想可能か。

授業の到達目標

働くことを含む生き方の自由が生存の平等を棄損しない社会の在り方の構想を、自らの生き方の問い直しへと接続すること。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　40%　　期末レポートにより評価する。
●**平常点**　60%　　報告・毎回のレビューを中心とする演習への参画姿勢により総合的に評価する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

岡部耕典研究室　http://www.f.waseda.jp/k_okabe/
※LMSはコースナビを使用する予定。

科 目 名	現代人間論系演習（不死の様式）　妊娠・出産・育児のナラティヴ							
担当者名	草野　慶子							
人間	2単位	春学期	火曜日	1時限	2年以上	—	—	—

授業概要

子を産み、育てること、すなわち次世代再生産は、死すべき者としての人間が不死を実現する手段であり、
社会を維持する基盤であり、
また、生物としての人間が、他のすべての生物と同じく、そこに生存の真の意味があるとさえ見なしてきたことでもあります。

この演習ではこうした前提に立ちながら、妊娠・出産・育児のナラティヴを考察します。
具体的には、望まれる妊娠（不妊）、望まれない妊娠、中絶、生殖補助医療技術、出生前診断、シングルマザー、イクメン、児童虐待、育児ノイローゼ、恋愛と結婚、物語としての母性と父性、女性のライフコース

こうしたトピックを語る、フィクション、ノンフィクション、すべてのナラティヴを考察の対象とします。

最後に、この演習は1限です。しかし早起きは人生を生きやすくします（もともと夜型、というか真夜中型の私の実感）。多少の遅刻や居眠りは許容範囲ですけれども、どうかがんばって教室にいらしてください。

授業の到達目標

上記「授業概要」に記した問題意識を共有し、文化研究の手法でそれに相対することができるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しません。
●**レポート**　0%　　実施しません。
●**平常点**　100%　　主体的・積極的な授業参加度　個人およびグループ発表の充実度：発表内容と提出されるパワーポイント資料　＊発表時のパワーポイント、ハンドアウト類は、Waseda Moodleにアップロードしていただき、評価の対象とします。
●**その他**　0%

備考・関連URL

1限の演習です。多少の遅刻や欠席は気にせず、とにかく最後までご出席ください。

なお、「授業計画」はあくまで仮のものです。受講者数によって変更の可能性が大いにあります。

専門演習

科 目 名	現代人間論系演習（現代的人間観の論理と倫理）　遺伝子改変と人間							
担当者名	村松　聡							
人間	2単位	春学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

この演習は「人間とは何か」を主題として取り上げます。今年は、急速に発展する遺伝子操作技術に対して、人間の何が変えてはいけないのか、人間の本質、人間の尊厳、自由、などについて考えます。まず、わかりやすく遺伝子操作についての説明を行った後、『治療を超えて　バイオテクノロジーと幸福の追求』を読みます。その後、
サンデルの『完全な人間を目指さなくてもよい理由　－遺伝子操作とエンハンスメントの倫理－』を読んでいきます。

授業の到達目標

「人間とは何か」を哲学・思想の観点から深く理解する問題意識を育てます。その際3つの目標を設定します。

1）理解力：まず正確にテキストの内容を理解する力を養います。

2）問題意識：理解した内容に基づき、何が問題なのか、どこに困難な点があるのか、把握する力を養います。

3）発表（Presentation）：理解し、問題意識をもつとともに、発表から、討論、レポートの作成にいたるPresentationのための一連の技法を身に着け、表現する力を養います。

成績評価方法

レポート：60パーセント　学期末にそれまでの成果として、レポートを課します。
平常点評価：40パーセント　一度は、全員に口頭発表をしてもらいます。口頭発表と、日常の発言、議論を含めて総合的に評価します。

備考・関連URL

演習は学生の熱意、勉強度にその正否がかかっています。したがって、積極的に授業に参加する学生を求めています。
授業は、グループに分かれて議論することが中心となります。皆さん頑張って背のびをしても発言し、議論しましょう。また、汗をかいて手に入れた知のみが、皆さんのこれからの経験値をあげる知的アイテムとして、一生の血となり、肉となります。

科 目 名	現代人間論系演習（障害とクィア） クィア・ディスアビリティ論入門							
担当者名	飯野　由里子							
人間	2単位	春学期	木曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

2000年代に入ってから、ジェンダー・セクシュアリティ、ディスアビリティ（障害）が交差する地点に着目する新しい学問領域（クィア・ディスアビリティ論）が登場してきています。そこではどのような議論が展開されているのでしょうか。また、それらは既存のクィア理論やディスアビリティ理論、あるいは両者の関係に、どのような変容を迫っているのでしょうか。本授業では、クィア領域と障害領域に共通するテーマとして「メインストリーム化」や「能力主義」をめぐる問題に焦点をあて、文献の講読を行います。

授業の到達目標

1）ジェンダー・セクシュアリティや障害の社会構築性を理解すること
2）「クィア」と「障害」の両視点から差異の間にある不均衡の問題を見ること
3）障害者運動とクィア・ムーブメントの共通点や共闘可能性について考えること

成績評価方法

平常点評価：40%
ミニ・レポート：60%（15点×4回）

科 目 名	社会構築論系総合演習2 東京で再発見するアジア							
担当者名	金　敬黙							
構築	4単位	秋学期	木曜日	5-6時限	2年以上	—	—	—

授業概要

東京におけるアジアンコミュニティ（例えば、新大久保エリア、池袋エリア、上野エリアなど）を歩きながら、今までは通り過ごしてきたグローバル都市TOKIOにおけるアジア文化の再発見を試みます。
また、フィールドワークの方法を身に付けます。

授業の到達目標

何よりも、グローバル都市TOKYOがどのように変化しているのかについて学ぶ必要があります。
同時に、質的研究の方法として活用される参与観察やフィールドワークを行いつつ、履修者が自ら社会調査を経験してみることを目標とします。
問題意識の設定に始まり、調査と分析、そして研究成果をまとめるための訓練を行うことも大切な目標です。

成績評価方法

演習への参加と議論（50%）
最終的な成果物（50%）

備考・関連URL

この科目は、キャンパスアジア「多層的紛争解決・社会変革のためのグローバルリーダー共同育成」プログラムの関連科目でもあります。この科目の4単位を含む、計12単位以上のキャンパスアジアプログラム科目（含：北京大学もしくは高麗大学校への留学）を履修・取得すると、キャンパスアジア修了証が授与されます。
キャンパスアジアプログラムの詳細：https://www.waseda.jp/campus-asia/

科 目 名	社会構築論系総合演習1 太平洋に消された日本統治の記憶 植民地主義とジェンダーを考える							
担当者名	豊田　真穂							
構築	4単位	春学期	金曜日	3-4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

日本映画のアクションスター、ゴジラ。最近では、映画「シン・ゴジラ」が2016年夏に公開され、2019年夏にはハリウッド版も製作されたが、ゴジラ誕生の背景を知る人はどのくらいいるだろうか。ゴジラ・シリーズの第1作目となった1954年11月公開の映画『ゴジラ』によれば、ゴジラは、絶滅したはずの恐竜が海底の洞窟に潜んで生きながらえていたのだが、度重なる核実験によって生活環境を完全に破壊され安住の地を追われて、東京近海にあらわれたという。東京にやってきては、人びとを踏みつぶし、口から放射能の火を吐いて街を焼き尽くしていった。つまり、ゴジラは核実験の被害者なのである。 でも核実験の被害者は、ゴジラだけではない。1954年3月、マーシャル諸島のビキニで行われた核実験によって、焼津のマグロ漁船「第5福竜丸」の乗組員23名が被爆し、うち1名が死亡している。この事件によってゴジラの着想が得られたという。しかし、日本では「第五福竜丸被災事件」と呼ばれるこの事件は、世界的には「ビキニ事件」と呼ばれている。そこでは、マーシャル諸島北部の人びともまた、「死の灰」を浴びていた。なぜここがアメリカの核実験場として選ばれたのか。その背景には、マーシャル諸島を含む太平洋北部ミクロネシアにおける日本統治の歴史がある。本演習では、「ゴジラ」とは何かを考える際に、南洋諸島における日本統治を基点にしていく。
また、「ゴジラ」公開の1954年は、日本にとって両義的な年である。「第五福竜丸事件」を契機とした署名運動からスタートした原水爆禁止運動は、世界的な展開をみせ、1955年8月6日には広島で第1回原水爆禁止世界大会が開催された。その一方で、「核の平和利用」を謳ったアイゼンハワー米大統領の演説を背景に、国会では1954年の「原子力予算」成立や「原子力平和利用委員会」設置、翌55年の「原子力三法案」の成立など、原発大国への歩みをすすめていた。被爆国日本が、なぜ原発大国になったのか。本演習では、こうした視点からも「ゴジラ」を検討していきたい。

授業の到達目標

さまざまな表象を植民地主義およびジェンダーの視点から読み解くことができる

成績評価方法

出席、グループ・ワーク、プレゼン等の平常点（60%）と期末レポート（40%）で総合的に評価します。

備考・関連URL

本演習のスピンオフ企画として、社会構築論系主催の広島フィールドワーク（8月末-9月頭）を予定しています。任意参加。

科 目 名	社会構築論系共通演習　アンケート調査の理論・方法・実習							
担当者名	森　元孝							
構築	2単位	春学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

アンケート調査（質問紙票調査）とは、何かということを、アンケートをする意義、調査手法の設計、母集団と標本の関係、質問とデータの関係、データセットというもの、プログラムを書くこと、さまざまな集計と統計の技法、報告書のまとめ方まで、15回を使って、簡潔に、かつ精確で発展可能性のある内容を教授していきながら、受講者に実際に行ってもらう。

演習の目的は、アンケート調査とはどういうものかということを精確に理解してもらうことだが、現代日本社会の重要な問題について問う調査票を使い、調査結果について内容のある議論ができ、受講者各自の最終報告レポートも意味あるものとなるように、演習を進めていく。

アンケート（調査票）を実際に回収する作業、コンピューターを使って、世界で一般に使用されている統計パッケージSPSSを利用しながら集計・分析作業をおこなっていく**「実習」であるので、欠席をすると、次回からついていけなくなる。就職活動が忙しい人は無理である。** これと同時に、早稲田大学学生を対象にしたアンケートを「実際に回収する作業」をすることが、この演習の必須課題のひとつとなる。

授業の到達目標

1）アンケート調査とは何かということを、精確に理解し、実際に自分でも実施していくことができるスキルを身につける。

2）統計パッケージSPSSの利用を熟達していく。（なお、受講者は、まったく初学者でかまわない。何も知らなくても、できるように教える）。

3）調査結果から、現代日本について、受講者各自の分析と意見を明確に表明できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験など行わない。
●**レポート**　20%　　各自がまとめる最終レポートの内容で判断する。
●**平常点**　50%　　欠席すると、わからなくなるので、出欠はとらないが、毎回の作業課題で判断する。
●**その他**　30%　　調査票の配布と回収作業を、どれだけ行ったか。演習受講者それぞれに割り当てられた票数をクリアすれば、この部分は満点となる。

備考・関連URL

関連URL: http://www.f.waseda.jp/wienmoto/

森元孝ゼミナールプロモーションビデオ http: //www. f. waseda. jp/wienmoto/Japanese/Lesson/KouchikuMorisemi/MC05.html

専門演習

科 目 名	社会構築論系演習（社会構造論1）　天皇と天皇制を考える							
担当者名	岩本　健寿							
構築	2単位	春学期	月曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

昨年、天皇の代替わりが行われました。元号も改まりました。関連する様々な行事も各所で行われました。これらにともない、天皇や天皇制に対する社会的関心も高まっています。では、天皇・天皇制は、どのように形成され、どのように継承され、どのように変化してきたのでしょうか。 本演習では、歴史学研究会編・加藤陽子責任編集『天皇はいかに受け継がれたか-天皇の身体と皇位継承』（績文堂出版、2019年）を使用して、主に歴史学的観点から天皇・天皇制について参加者の皆さんとともに考えてみたいと思います。

方法としては、当該書籍を読んで発表者各位が興味をもった学説や考え方を取り上げ、それに関して歴史学的観点から調べて発表し、その後、議論していきたいと考えております。

なお、発表は4～6人のグループで担当していただく予定です。グループごとに話し合って発表するテーマを設定し、手分けして参考文献や史資料を探し、発表を練り上げていってください。

教科書・参考文献を多角的に考察・批判し、天皇・天皇制に対する各位の認識を深化させていただきたいと思います。

授業の到達目標

天皇や天皇制についての理解を深める。
それらと現代社会との繋がりについて考察する。
論理的思考力を涵養する。
グループで協働して参考文献や史資料を探し、調べ、まとめ、発表する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　期末のレポートによる。レポートの詳細については、授業内で説明する。
●**平常点**　50%　　出席・発表・討論への参加状況による。
●**その他**　0%

科 目 名	社会構築論系演習（社会構造論2）　日本中世社会を考える―国制と「家」―							
担当者名	松園　潤一朗							
構築	2単位	春学期	木曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

日本中世の社会について、国制（統治体制）と「家」（家族制度）という視点から考えます。国制については、幕府と朝廷による支配の関係や将軍の権力構造などの中世国家論における基本的テーマを論じ、現在までの議論の基本文献となっている、佐

藤進一『日本の中世国家』（1983年刊）をテキストに用います（各回20～30頁程）。
上記テキストの講読の後、人々の社会生活上の基礎をなす「家」について考えます。「家」は近世の国制の基礎単位の1つであり、近代においても存続する制度です。中世を通じての「家」制度の展開は女性史などとも関係し、中世社会、さらには日本の文化・伝統を考える上で不可欠のテーマと言えます。テキストは、五味文彦「中世の家と家父長制」（永原慶二ほか編『家と家父長制』早稲田大学出版部、1992年）などを予定していますが、受講者とも相談しながら決定し、コピーを配布します。

授業は、各回の報告者がレジュメを作成して発表し、全員で議論を行いながら進めていきます。レジュメには、テキストが記す歴史的事実とそれに関する著者の評価・意味付けについてまとめを行い、疑問点や意見を記す形式をとることを原則とします。テキストとは異なる立場をとる学説も検証しながら、学問的な議論・方法について理解を深めることを目標とします。

授業の到達目標

・日本中世史の基礎的知識を獲得し、特に社会科学的な視点から歴史を考える視点を身に付けること
・文献講読を通じて発表や議論を行う技能を身に付けること

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　発表の際のレジュメによります（要約は適切であるか、自身の疑問点や意見の提示ができているか、など）。
●**平常点**　30%　　出席状況や発言、討論での積極性などを基準にします。
●**その他**　0%

科 目 名	社会構築論系演習（社会構造論3）　前近代の戦争と社会							
担当者名	久保　健一郎							
構築	2単位	秋学期	土曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

日本前近代の戦争について、その社会との関わりや及ぼした影響について、具体的な戦争の事例を取り上げながら、歴史的な視点から多角的に検討していく。中心となるのは前近代のなかでも最も戦争が頻発した中世とする。参加者は報告を分担し、その報告について全員で討論を行うのが授業の軸となる。

授業の到達目標

日本前近代の戦争についての理解を深め、自分なりに歴史的位置づけができるようになることを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　授業で担当した報告の内容や、質疑などへの参加姿勢
●**その他**　0%

科 目 名	社会構築論系演習（社会構造論4）　社会構築論系風に「憲法」を考える							
担当者名	大日方　純夫							
構築	2単位	春学期	火曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

社会構造を研究するための方法を実践的に学び、専門研究に取り組むための能力を養います。また、参加者が互いに刺激し合う環境を通じて、社会の本質に迫るための柔軟で豊かな発想力を養います。そのため、今、大きな話題になっている「憲法」に焦点を定め、人間と社会の関係を考えてみることにします。憲法とは、国家という統治体の存在を基礎づける基本法であり、また、個人の権利・自由を保障する規範であると考えられています。ですから、国家・社会のあり方を構想・構築するうえで、真剣に考えることが求められる切実なテーマです。この演習では、法学部とは少し違った角度や方向で憲法について考えます。文化構想学部風にいえば、憲法を文化として、社会構築論系風にいえば、過去―現在―未来の流れのなかで、社会のあり方の問題として考えます。天皇と国民、戦争と平和、人権のあり方、家族のかたち、人と人との共生、人間・社会と環境・自然の関係など、考えてみたいテーマはいろいろあります。それらについて、結論を急いだり、性急に判断を迫ったりするのではなく、まず、一緒に考えてみたいと思います。それぞれの関心に沿って検討してみたい条文を選び、その条文と、歴史的な背景や現実の推移を対照させながら、解読していきたいと考えています。発表については、テーマに即して発表班を編成し、発表班のなかでテーマや順番を調整しながら、発表を準備してもらいます。各回の討論は、討論グループをつくって論議し、それを全体に還元していく方式をとります。

授業の到達目標

世界のあり方、国家・社会のあり方、人間のあり方、個人の生き方などを、憲法を鍵として考え、社会認識を深めることをめざします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　50%　　期末のレポート
●**平常点**　50%　　発表内容と討論状況
●**その他**　0%

科 目 名	社会構築論系演習（社会構造論5）　米軍基地を世界史的視野から考える							
担当者名	戸邉　秀明							
構築	2単位	春学期	月曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要

社会の構造と動態を捉えようとする時、歴史的アプローチはもっとも基礎的かつ有用といえる。だがそれは、事実の“発掘”だけでは成り立たない。むしろ重要なのは、どのような視角から歴史に接し、対象とする時代をどのように描くかという、歴史認識とその具体化である叙述の水準である。そこでこの「専門演習」では、近年の研究成果に立った具体的な叙述＝作品に対する集団的な読解と討論を通じて、歴史認識の視点と方法を学ぶ機会を提供する。それにより、広義の文化研究の方法を実践的に学び、専門研究に取り組むための基礎的な能力を養うことを目的とする（本学部ディプロマポリシー参照）。

今回は、そのための対象として軍事基地、特に米国軍隊の海外基地を取り上げる。米軍基地といえば、日本社会では「沖縄にあるもの」とされ、軍事基地と安全保障をめぐる問題は、ともすれば「沖縄問題」と呼ばれて、「国家の専権事項」であるにもかかわらず「沖縄が問題をやらかしている」、かのように捉えられている。しかし、この東京都にも広大な米軍基地があり、世界的に見ても、多くの国と地域に米軍が駐屯しており、この100年あまり、その数は拡大の一途をたどってきた。それにともない、軍事基地と人間の関係も、それぞれの時代と場所に応じて複雑な歴史を生み出し、世界史の不可欠な一環を構成してきた。したがって、米軍基地をよりリアルに把握しようとすれば、一方では基地と隣合わせの地域社会から、他方では米軍基地のグローバルな展開の歴史から捉えることで、国家間関係史（とりわけ「日米」関係史）に局限された私たちの狭い視野を解き放つ必要がある。

具体的には、世界中に展開する米軍基地の歴史と現状を追いかけた、壮大で、かつ興味深いエピソードをちりばめた作品＝研究書を輪読して、私たちと米軍基地の関係史を、世界史的な視野のもとに置きなおしていく。そうすることで、国家間関係を軸に理解されている日本社会の世界観を相対化し、私たちが生きるこの社会の構造を再考する手がかりを得たい。この演習を通じて、基地のなかの「見知らぬ人々」の姿以上に、現代世界の構造と主体の関係が織りなすダイナミズムについて、より深く考える機会を持ってもらえれば幸いである。そのために必要なテクストの「読み方」や議論の仕方についても、随時解説・指導していきたい。積極的な参加をお願いする。

＊授業の進め方は以下の通りである。

1．初回を含めて初めの2回は、（1）演習のねらい・概要、（2）発表方法等について指導し、参加者の発表分担（＝教科書講読の分担）を決定する。また関連映像について視聴・討論を通じて講読に向けた態勢を整える。

2．演習参加者には、いずれかの回を担当してテキストの読解・報告をしてもらう。第3回から第14回まで、教科書を順に講読する。参加者多数の場合は、グループによる準備・発表の場合がある（詳細は参加人数に応じて決定する）。報告準備の仕方については事前に指示するが、報告や作成されたレジュメの内容・表記についても評価の対象とする。

3．参加者には報告をめぐる討論への積極的参加に加え、毎回終了時に簡単な感想や意見を書いてもらう（用紙＝レスポンスシート配布）。これに対して、次回の冒頭で討論に反映させていく。なお、レスポンスシートへの記入・提出をもって出席とみなす。

4．最終回に、各回の討論で出された論点や疑問点を参加者全員で討議し、全体を通じたまとめとする。またこれをふまえて期末レポートを作成・提出する。

授業の到達目標

1．日本と世界の現代史に関する基本的な知識を得られるようにする。
2．特定の主題を通した歴史の学習の意義と特質について理解し、自身で学習を進められるようにする。
3．一冊の書物の綿密な講読により、資料読解の能力を向上させる。
4．資料（文字・映像）の「読み方」について、報告・討論の繰り返しによって習得できるようにする。
5．参加者が自身の考察を適切に発表し、それをもとにレポートが作成できるようにする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　40%　　以下の2つのレポートにより評価する。 1．映像視聴レポート：第2回に、今後の参考となる映像を観てもらい、これに関するレポートを課す。 2．期末レポート：教科書の講読を通じて得られた知見をもとにして、演習テーマをめぐる考察を論じること（書式など詳細は授業中に指示する）。
●**平常点**　60%　　以下の3点を総合的に評価する。 1．出席状況：レスポンスシート（毎回要提出）の記入内容によって評価する。 2．発表内容：報告者作成のレジュメ自体も評価対象とする。 3．討論への参加状況（司会等の担当も含む）。
●**その他**　0%

専門演習

備考・関連URL

1．レポートやレスポンスシートに対しては随時フィードバックを行う。 2．参加者は、教科書を事前に購入し、第1回授業から持参して参加すること。また可能な限り「はじめに」「おわりに」を読んだうえで臨むこと。

3．参加者は、教科書の目次を参考にして、興味の湧くトピック（自身にとって報告に積極的に取り組みやすい主題）を探しておくこと。

4．演習の性格上、出席並びに討論への参加を重視する。

5．参加者の人数に応じて、授業計画を変更する場合がある。

6．狭義の軍事史や国家安全保障論にだけ関心を持っている学生には、ぜひ教科書にじかにふれたうえで受講如何を決定されるように期待する。

科目名	社会構築論系演習（社会構造論6）　内藤湖南『支那論』にみる中国社会論							
担当者名	澁谷　由里							
構築	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

日本における中国史研究に多大な貢献をした、内藤湖南（1866-1934）の代表作を読みます。ジャーナリストから研究者に転じた内藤は、同時代にも鋭い観察眼を向け、観察結果に対して歴史的考察を加えるという稀有な人物でした。現在では20世紀初頭の中国社会論としても有名な本作を通じて、中国の歴史・政治の本質を考察していきましょう。

第5回以降は、事前に決定した報告者が、指定された箇所の講読や、検討結果の報告をおこなう形をとります。ほかの受講者も、同じ箇所をあらかじめ読んできたうえで、報告に対する質疑をしてください。

授業の到達目標

1、中国社会の歴史的な特徴を考えられるようになる。
2、中国における、社会と政治の関係を考えられるようになる。

成績評価方法

●**試験**　20%　　最終回に総括テストを行う。
●**レポート**　40%　　報告担当時における報告内容（テキストに対する正確な理解、レジュメの出来具合、記述内容への考察、語句の調べ具合、独自の見解等）を評価する。
●**平常点**　40%　　授業への主体的参加（報告への積極的な質問や意見、質疑に対する応答を含む）を評価する。

●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

遅刻および無断欠席厳禁。私は開始時刻とともに授業をはじめる主義です。途中で入室されると、どこまで話したか忘れてしまい、ペースを乱されてしまうので、ご理解・ご協力をお願いします（登校中の急病・事故などを除く、寝坊などによる遅刻厳禁）。また分担も、初回で大部分を決めたいので、事情がない限り、初回出席をお願いします。欠席5回以上の場合、授業の趣旨を理解していないものとして「不可」にします。なお遅刻2回で欠席1回に数えます。30分以上の大幅な遅刻は欠席とみなします（授業の3分の1は聞いていないということで）。細かいようですがよろしくお願いします。

科 目 名	社会構築論系演習（社会構造論7） アメリカのフェミニズム運動形成							
担当者名	栗原　涼子							
構築	2単位	秋学期	金曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

アメリカのフェミニズム運動の歴史は常に人種、民族、階級の問題と不可分であった。女性参政権獲得に結実するいわゆる第一波フェミニズム運動が中産階級白人女性の運動中心であったことは自明である。1920年代以降、保護か平等かをめぐる平等憲法修正条項(ERA)論争の際にも、フェミニズムは人種、民族間の平等の問題を看過してきた。1960年代後半からの第二波フェミニズムは人種、民族間の不平等を可視化したが、多様性を強調する1990年代からの第三波フェミニズムは、白人性を再度強調していないだろうか。

各回に、20分程度の講義（時事問題も含む）を行い、次に小グループに分かれて、アメリカ政治、社会、人種、ジェンダーなどに関するテーマを選び、プレゼンテーションをしてもらうこととする。その後、全体討論を行う。

授業の到達目標

さまざまな事象をジェンダー、植民地主義の視点から分析できるようにする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　最終回に提出する。
●**平常点**　50%　　ディスカッションへの参加
●**その他**　0%　　とくになし

科 目 名	社会構築論系演習（社会構造論8） イギリス帝国の周縁部							
担当者名	日尾野　裕一							
構築	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

本演習では、近世イギリス帝国において焦点が当てられることの少ない帝国周縁部について、ナショナル・ヒストリーにとらわれない観点から考えていきます。リンダ・コリー『虜囚』を講読しながら、イギリスが帝国として膨張していく中で、その周縁部では「他者」とどのような関係を構築していたのかを様々な面から考察します。授業は発表とディスカッションを軸に進めていきます。

授業の到達目標

文献購読を通じて、近世イギリス帝国についての多面的な理解を獲得する。
文献の読み込み、自らの意見の構築し、それらをプレゼンテーションという形で論理的かつ明快に発表する力を養う。
主体的にディスカッションに参加することで、生産的な議論を構築する力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　授業の内容に応じてレポートを課します。
●**平常点**　30%　　発表内容及びディスカッションへの参加度から総合的に評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	社会構築論系演習（社会構造論9） 現代イギリス社会について							
担当者名	松園　伸							
構築	2単位	春学期	火曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要

2011年度まで社会構築論系の演習を担当してきました。12年度は私がオックスフォード・ウォルフソンカレッジでの特別研究期間のためお休みしましたが、13年度以降はまたずっと担当しています。産業の停滞、超高齢化社会、金融危機、財政危機はイギリスも例外ではありません。この国の現状を半年かけて一緒に考えていきましょう。スコットランド独立問題や英国のEU離脱問題（Brexit）についても触れたいと思います。

授業の到達目標

極力レクチャーを最小限にして受講したみなさんがみずから演（じて）習（う）ことで現代イギリスの抱える諸問題を考えていきます。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しません
●**レポート**　20%　　授業期間中、短いレポートを課します。
●**平常点**　20%　　ただ受け身で出席するのではなく、発表を聴いてレビューシートで意見、感想、評価を書いてください。
●**その他**　60%　　演習での報告内容で評価します。

科 目 名	社会構築論系演習（社会構造論10）							
担当者名	樽本　英樹							
構築	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

グローバル化という世界的な社会変動により、既存の社会科学の方法論では分析が難しい社会現象が頻出している。たとえば、難民志願者の殺到、極右・ポピュリズムの台頭、テロリズムの頻発、移民・外国人をめぐる不平等や格差の拡大などの社会現象に、社会科学は挑戦を余儀なくされている。そのうち本演習では、ポピュリズムに焦点を当て、前半は文献購読を通じてポピュリズムという社会現象でなぜ生起し、どのようなものが望ましいのかを考えていく。続いて、受講生自身にポピュリズムに関する自由発表をしていただくことにする。 この過程を通じて、受講生は自らの興味のある社会現象を分析する方法論を学ぶことを期待されている。なお、授業の内容と構成は受講生の反応により柔軟に対応することに留意されたい。

授業の到達目標

ポピュリズムとはどのような社会現象か、なぜ生起するのか、どのような意味で望ましいまたは望ましくないのかを考えることで、社会現象の分析方法を習得することが到達目標である。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施せず。
●**レポート**　60%　　学期末に自由発表に基づいた最終レポートを提出していただく。
●**平常点**　40%　　通常授業時のレポートおよびコメント、ディスカッションへの参加度合いにより判断する。
●**その他**　0%　　該当せず。

備考・関連URL

授業に出席し積極的に参加する者のみが履修のこと。

科 目 名	社会構築論系演習（社会構造論11） 公と私の「あいだ」について考える							
担当者名	野坂　真							
構築	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

地方都市やその周辺集落を含む「地方」の社会に焦点を当てながら、地域研究や地域社会学の文献を講読し、大都市部とは異なる、日本社会のオルタナティブなライフスタイルや、地域社会の持続可能性について理解を深めます。特に、地方の社会が成り立つ上で無視できない公と私の中間領域（例：共助システムや地域イベント、およびその担い手となる自治会や地域産業など）が、戦後から現在までにどのように変遷してきたか、またこれからどうなっていくかを考えます。授業は、受講生を主体とした発表とディスカッションを軸に進めていきます。

授業の到達目標

・文献講読を通じて、多面的な日本社会の構造と公と私の中間領域の実態を理解する。
・文献を読み込み、それを他人にも理解可能なように発表する力を養う。
・他人の発表を偏りなく聴いた上で、主体的にコメントやディスカッションができる力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　特に実施しない。
●**レポート**　60%　　授業の進捗状況に応じてレポート課題を出します。
●**平常点**　40%　　2/3以上出席することは前提として、授業中の発表内容やディスカッション参加への主体性などを総合的に評価します。
●**その他**　0%　　特になし。

専門演習

科 目 名	社会構築論系演習（社会構造論12） 東アジア社会の近代的再編							
担当者名	柳澤　明							
構築	2単位	秋学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「近代とは何か」という問題は、さまざまな角度から論ずることができるが、この演習では、主として国際関係と地域社会の相互作用という面から、東アジアにおける前近代から近代への移行のダイナミズムと、そこに見られる諸特徴を探る。今年度は、アロー戦争後に新しい外交の枠組みを構築しつつあった清朝と、明治維新後の日本との関係に焦点を当てて、日清修好条規や琉球分割交渉などのトピックスを扱ったテキスト（史料）を手がかりに、受講者各人にテーマを設定して発表してもらい、質疑応答・討論を行う。テキストについては、「教科書」の項を参照。

本科目は、「ディプロマポリシー」および「カリキュラムポリシー」にいう「専門演習」に該当する。

授業の到達目標

アジアにおいて現代社会につながる「近代」的な枠組みが成立してきた過程を、現在の視点・価値基準から描いた物語としてではなく、同時代のテキストを通じて理解することを目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　50%　　授業時の発表内容を基礎としたレポートを期末に提出してもらう。テーマ設定の明確さ、テキスト・先行研究の読み込みの程度、論理構成、オリジナリティを総合的に評価する。
●**平常点**　50%　　授業時の発表内容、討論への参加度等による。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

※日程や発表のトピックスは、受講者数や各人の希望などに応じて適宜調整していきます。

科 目 名	社会構築論系演習（社会構造論13）							
担当者名	樽本　英樹							
構築	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

グローバル化という世界的な社会変動の中、社会現象が国境を超えることは当然となった。その結果、難民志願者の殺到、極右・ポピュリズムの台頭、テロリズムの頻発、移民・外国人をめぐる不平等や格差の拡大など様々な問題が世界各地で噴出している。このなかで、本演習では多文化社会の困難さに焦点を合わせて考察していく。特に排外主義の各国間比較を取り上げる。授業の内容や構成については、受講生の反応を見ながら柔軟に対応する。

授業の到達目標

国際移民の増大による多文化社会化にどのような問題があるのかを理解すること。特に、ネガティヴな反応である排外主義がどのような社会問題なのかをわれわれの生活に関係づけて理解できるようになること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施せず。
●**レポート**　60%　　学期末に自らのコメントに基づいた最終レポートを執筆し、提出していただく。
●**平常点**　40%　　通常の授業中に行うレポート、コメント、およびディスカッションによって判断する。
●**その他**　0%　　該当なし。

備考・関連URL

授業に出席し積極的に参加する者のみが履修のこと。

科 目 名	社会構築論系演習（社会構造論14）　社会科学の方法論を学ぶ							
担当者名	樽本　英樹							
構築	2単位	秋学期	木曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

グローバル化という世界的な社会変動により、既存の社会科学の方法論では分析が難しい社会現象が頻出している。たとえば、難民志願者の殺到、極右・ポピュリズムの台頭、テロリズムの頻発、移民・外国人をめぐる不平等や格差の拡大などの社会現象に、社会科学は挑戦を余儀なくされている。どのようにそれら社会現象の生起メカニズムを解明したらよいのだろうか。そのように解決策を模索できるのだろうか。

本授業は受講生に自らの興味のある社会現象を分析する方法論を学ぶため、文献購読と自由発表を組み合わせて展開していく。授業の内容と構成は受講生の反応により柔軟に対応することに留意されたい。

授業の到達目標

社会現象を分析する方法論にはどのようなものがあるか、それらをどのように使うと分析が可能なのかを習得することが到達目標である。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施せず。
●**レポート**　60%　　学期末に自らのコメントに基づいた最終レポートを執筆し、提出していただく。
●**平常点**　40%　　通常の授業中に行うレポート、コメント、およびディスカッションによって判断する。
●**その他**　0%　　該当なし

備考・関連URL

授業に出席し積極的に参加する者のみが履修のこと。

科 目 名	社会構築論系演習（社会構造論15）　近代世界の形成とグローバリゼーション							
担当者名	日尾野　裕一							
構築	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

本演習では、近代世界の形成について、「グローバル・ヒストリー」の見地を加えながら検討していきます。C. A. ベイリ『近代世界の誕生』を講読し、東西比較の比較の視点を持ちながら、グローバリゼーション、工業化、エスニシティ、文化、環境といった要素について考えていきます。

授業は、グループ発表とディスカッションを軸に進めていきます。また、受講生数によって進め方については変更する可能性があります。

授業の到達目標

グローバル・ヒストリーの視点から、現代世界に通ずる世界の「近代化」とそれに伴う諸現象についての理解を深める。
文献の読み込み、自らの意見の構築し、それらをプレゼンテーションという形で論理的かつ明快に発表する力を養う。
主体的にディスカッションに参加することで、生産的な議論を構築する力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　60%　　授業内容に応じてレポートを課します。
●**平常点**　40%　　発表内容及びディスカッションへの参加度から総合的に評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	社会構築論系演習（社会構造論16）　グローバリゼーションと現代社会							
担当者名	森田　貴子							
構築	2単位	秋学期	月曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

今日、政治・経済・文化・社会の多様な側面において、地域や国家の枠を越えた、地球規模での活動が注目されるようになってきている。世界経済がグローバル化する中で、日本企業もグローバル経営を必要とされている。

本演習は、経済活動のグローバル化を取り上げ、日本企業をテーマに、企業の成立と経営の特徴、発展過程について明らかに

し、日本の未来へ向けてのあり方を考察する。
主な企業とテーマは第1回目に提示する。受講者は関心のある企業を選び、第3回目以降、担当した企業についてテーマを設定し、文献・資料を調査し、論点を発展させて報告する。特に関心のある企業があれば、相談の上、取り上げても良い。

授業の到達目標

経済活動のグローバル化を取り上げ、日本企業をテーマに、企業の成立と経営の特徴、発展過程について明らかにし、日本の未来へ向けてのあり方を考察することを目標とする。

成績評価方法

●**試験** 0% —
●**レポート** 30% 学期末のレポート
●**平常点** 70% 演習への参加度と報告内容
●**その他** 0% —

備考・関連URL

第1回目は、本演習のガイダンスと報告担当者を決める。

科目名	社会構築論系演習（地域・都市論1） 近現代の日本都市を歴史的に解読する							
担当者名	大日方 純夫							
構築	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

地域・都市のあり方を研究するための方法を実践的に学び、専門研究に取り組むための能力を養います。また、参加者が互いに刺激し合う環境を通じて、地域・都市の本質に迫るための柔軟で豊かな発想力を養います。そのため明治維新から高度成長期まで、変貌を続ける都市の姿を、東京を対象として解読します。具体的には、1868年から1967年までの100年間に生まれた様々な文学作品を、文学としてではなく、都市社会史の資料として読み解くことに挑戦します。そのためには、都市史の成果に学びながら、文献・資料や地図・図像・写真などを作品のうえに重ねあわせ、丹念に解読していく作業が不可欠です。そうした手法を駆使することによって、作品の背後にある各時代の歴史に迫り、制度、文化、世相・風俗など、多彩な切り口から都市社会の姿を明らかにしていきたいと考えています。
テキストに用いる『東京百年物語』は、第1巻「Ⅰ 江戸からトウケイへ－開化への自負ととまどい」・「Ⅱ 江戸の名残－進歩と格差のはざま」・「Ⅲ 東京の黎明－大国化の陰影」、第2巻「Ⅰ 東京の虚実－世界都市への野心」・「Ⅱ 東京スナップ－モダニズムの夢」・「Ⅲ 東京の陰鬱－発展と孤立」、第3巻「Ⅰ 東京に根ざす－出征と銃後」・「Ⅱ 東京車中－復員と占領」・「Ⅲ 東京で生きる－遠ざかる焼け跡」から構成されています。収録作品全46点のなかから、解読対象とする作品を選び出し、調査・発表と討論を重ねながら、「江戸から明治へ」、「震災からの復興」、「戦争から平和へ」と、歴史を重ねてきた東京の歩みを、そこに暮らしていた人びとの視点から浮かび上がらせます。 発表については、テーマに即して発表班を編成し、発表班のなかでテーマや順番を調整しながら、発表を準備してもらいます。各回の討論は、討論グループをつくって論議し、それを全体に還元していく方式をとります。

授業の到達目標

都市に注ぐ多様な視線や都市をとらえる豊かな着想を育むことを目ざします。また、歴史的な文献や資料を読む力を養うことを目標とします。

専門演習

成績評価方法

●**試験** 0% 実施しない
●**レポート** 50% 期末のレポート
●**平常点** 50% 報告内容と討論状況
●**その他** 0%

科目名	社会構築論系演習（地域・都市論2） ニューヨークを探求する							
担当者名	中村 寛							
構築	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

本授業では、ニューヨーク市に焦点をあて、地域・都市にまつわる問題を検討します。より具体的には、20世紀から現在にかけてのニューヨークの生成変化に向き合うなかで編まれたいくつかのテクストを読み、自分たちも直接関係している場所と比較しながら、じっくりと問題を吟味します。文献を通じて文化人類学やエスノグラフィ、社会学、歴史学などの研究蓄積に触れつつ、地域・都市のあり方を吟味する際に必要な想像力／創造力を身につけるのが目的です。

授業の到達目標

・20世紀から現在にかけてニューヨークが直面した諸問題ついて最低限の知識を獲得する。
・ニューヨークを中心に地域・都市の諸問題について仲間と議論し、認識の枠組みをつくりなおしながら複眼的に思考する力を養う。
・探求のプロセスを言語化し、他者にむけてプレゼンテーションできる能力を鍛える。

成績評価方法

レポート40%
7回目の授業で最終レポート課題を提示しますが、その課題を課題文献や授業内容とからめて論じられているかどうかを評価します。

授業内プレゼンテーション40%
4回あるプレゼンテーションを通じて、問題の理解度および議論の深度を評価します。

平常点評価20%
課題文献をちゃんと読んでるかどうか、グループ・ディスカッションに参加し貢献できているかどうか等を評価します。なお、演習授業ということもあり、正当な理由なしに3回以上欠席すると、単位はもらえないと考えてください。

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市論3） 東京をフィールドワークする							
担当者名	中村　寛							
構築	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

本授業では、東京に焦点をあて、地域・都市にまつわる問題を検討します。具体的には、「あるく、みる、きく」を基本とするフィールドワークの動作のうち、とくに「あるく、みる」を実践し、東京を見直し、問いをたて、それにこたえていきます。学生はいくつかのグループにわかれ、授業時間外にフィールドワークを数回おこなうことを求められます。また、それぞれのグループが選択した地域について、基本文献や資料を収集し読解することも求められます。フィールドワークや文献読解を通じて文化人類学やエスノグラフィ、社会学、歴史学などの観察方法をまなび、地域・都市のあり方を吟味する際に必要な想像力／創造力を身につけるのが目的です。

授業の到達目標

・20世紀から現在にかけて東京が直面した諸問題ついて最低限の知識を獲得する。
・東京を中心に地域・都市の諸問題について仲間と議論し、認識の枠組みをつくりなおしながら複眼的に思考する力を養う。
・フィールドワークを通じた探求方法をまなび、その探求プロセスを言語化し、他者にむけてプレゼンテーションできる能力を鍛える。

成績評価方法

最終レポート40%
9回目の授業で最終レポート課題を提示しますが、その課題を課題文献や授業内容とからめて論じられているかどうかを評価します。

授業内グループプレゼンテーション40%
2回あるグループプレゼンテーションを通じて、問題の理解度および議論の深度を評価します。

平常点評価20%
各授業での課題にちゃんとこたえているかどうか、グループワークに参加し貢献できているかどうか等を評価します。なお、演習授業ということもあり、正当な理由なしに3回以上欠席すると、単位はもらえないと考えてください。

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市論4） 社会の視点からみた3.11							
担当者名	中嶋　久人							
構築	2単位	秋学期	火曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要

2011年3月11日の東日本大震災と、それを契機として惹起した福島第一原発事故は、日本だけでなく世界中に大きな衝撃を与え、日本社会における一種のターニングポイントとなった。とりわけ、被災地域の地域社会には、ある意味で有史以来の打撃となった。今回の演習においては、この東日本大震災と福島第一原発事故について、まずは、被災当時時点にもどって、その実況の把握につとめる。さらに、東日本大震災と福島第一原発事故について、歴史学・メディア・社会運動などの多様な観点からアプローチを試み、この当時から現代にまで続く日本社会に提起された多様な諸問題について、参加者たちによる活発な議論を惹起したい。

授業の到達目標

演習授業であり、自身も関わりをもつテーマを主体的に設定し、それを歴史的に把握し、未来を展望することを課題とする。参加者には主体的に本演習をつくりあげることを期待する。暫定的に各回の授業計画をあげたが、参加者との協議によって再検討することを想定し、協議する時間を設けている。まずは、当時の映像資料などをみて、当時の状況を追体験してみたいと考えている。さらに、2011年前後の雑誌・書籍などを参加者自らが自身の関心に基づいて調べることによって、当時の状況や社会意識についてそれぞれの見解をもつようにしていきたい。その上で、3.11によって提起され、2020年まで引き続いている諸問題について、参加者によるフリーディスカッションを行うことを想定している。これらのことを通じて、参加者たちが、現況の正確な理解のもとに、自らの意見を創出し、表現することが、授業の到達目標である。最終的には、民間企業の労働者としても、公務員としても、研究者としても、自立した主体として、考え、表現し、行動することが、本演習のめざすところである。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　30%
●**平常点**　70%　　出席・報告内容・討論の寄与などにおいて評価する。毎回出席することを原則とし、欠席が目立つ場合は成績評価の対象としない。
●**その他**　0%

備考・関連URL

「3.11時点の社会意識を調べてみる」について、3.11当時のテクストであれば、ここで挙げた以外のテクストを使ってもかまわない。また、ここで挙げているフリーディスカッションのテーマは例示であり、実際には参加者と相談して決めることになろう。なお、参加者との協議で、全体のスケジュールが変更されることもありえる。本演習においては、闊達な議論を惹起するため、教員から挑発的な問いかけを行うことも想定している。

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市論5） コミュニティ／地域課題の発見・探求							
担当者名	浦野　正樹							
構築	2単位	春学期	木曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

本演習は、この領域をはじめて学ぶ学生を対象に、地域社会論や都市論への問題関心を高め、そこで起きている基本的な現象に触れ、それを考える手がかりや視点・方法を探り出してもらうための演習である。地域社会や都市空間は、歴史の中で大きく変貌してきた。とくに都市空間は、時代を動かすさまざまな舞台を演出し人々を引き付け、多くの創造とともに矛盾をも生み出してきた。政治と経済、文化のさまざまな葛藤が、まさにこうした空間を中心に展開していったのである。この演習では、そう

した地域・都市社会を背景に繰り広げられる人間の営みを理解し解明することを通じて現代社会を読み取っていくことにしたい。本演習では、ドキュメンタリーなどの身近な教材や素材を手がかりにしながら、とくに実際に自分たちの身の回りのコミュニティで起こっている事柄を理解し、そこでの地域課題を発見・探求し、その社会背景やそこに働いているさまざまな力について考えていけるようなカリキュラムを想定している。

授業の到達目標

この演習授業は、地域社会論や都市論への問題関心を高め、そこで起きている基本的な現象に触れ、それを考える手がかりや視点・方法を学生自身に探り出してもらうことを目標としている。自分たちの身の回りのコミュニティで起こっている事柄を実際に理解し、そこでの地域課題を発見・探求し、その社会背景やそこに働いているさまざまな力について考察する能力を養うことがこの演習の目標である。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　学期末の最終論文の評価
●**平常点**　60%　　出席点及び授業中（及びコースナビまたはWaseda Moodle上）の討論参加と討論内容
●**その他**　0%

備考・関連URL

本演習は、地域社会や都市に関心のある学生を対象にして、小説やドキュメンタリー、エッセイ、論文などのさまざまな媒体による作品を手がかりとしながら、地域社会で進行している諸問題を真摯に受け止め理解していく能力を養おうとしています。学生には、この領域でのルポルタージュなどの作品を積極的に読み、フィールドワークなども試みてもらいたいと思います。本演習は、演習参加者の発表をベースとし、それを踏まえた質疑応答やディスカッションを軸にして、授業を進めていきますので、演習参加者は討論への積極的な参加が要求されます。また、この演習は、学生の質疑応答やディスカッション能力を引き出すことに主眼があるため、討論の展開次第によっては、授業時間を超えて運営されることがあります。

なお、コースナビまたはWaseda Moodleの利用は必須であり、BBSはもちろん教材についてもコースナビまたはWaseda Moodleで提供されるものを前提として授業を進めていきます。また、半期授業のうち数回程度をオンデマンド授業の形式で実施する予定です。

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市論6）　都市・地域社会の解読							
担当者名	浦野　正樹							
構築	2単位	秋学期	火曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要

地域社会は、人間の生活が具体的に営まれる場である。わが国では、戦後の高度経済成長とそれに並行しておこった全国的な都市化と産業化の波が、地域社会を大きな変動の渦に巻き込み、従来の都市、村落という2つの性格の異なる地域社会を、緊密な内部構造をもち、かつ一定の共通性をもつ都市化社会に変質させていった。現在では、グローバル化の中での都市化社会の変容、大都市と地方中小都市との関係の変容、市町村合併などにみる自治体経営と生活地域の再編、地域の活性化、地域社会における安全や安心を担保するしくみなど、地域社会はさまざまな問題を抱えている場でもある。

この演習では、主としてこの地域社会の構造、地域住民の生活と意識、地域社会の変動の様相などを扱っていくが、学生には、まずこの領域の基本的な文献を、現実の問題と絡ませながら豊かに、かつ批判的に読み込むことを通じて、地域に関わる社会現象を捉える目を養ってもらいたいと思っている。視点としては、＜都市--農村（中央--地方）＞関係、＜先進国経済--第三世界＞関係、都市の歴史的発展、現代の日本の都市が抱える諸問題等に注目していきたい。

専門演習

授業の到達目標

授業の到達目標は、地域社会研究の基本論文及び著作の読解能力とそれを踏まえた討議能力を養うことである。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　40%　　最終課題レポート評価
●**平常点**　60%　　授業への出席及び質疑応答・討論などの評価。なお、授業における質疑応答の延長としてのコースナビまたはWaseda MoodleのBBS書込みも重要な評価対象であり、毎回の発言が義務付けられる。
●**その他**　0%

備考・関連URL

この演習では、社会学の方法を学びかつ慣れてもらうために、社会学の基礎的な文献も扱う予定なので、意欲があれば初学者でも参加が可能であるが、レベルとしては主として関連専門領域の上級生を対象とした授業内容を想定している。コースナビまたはWaseda Moodleの利用は必須であり、BBSでの発言はもちろん、教材についてもコースナビまたはWaseda Moodleで提供されるものを前提として授業を進めていく。また、半期授業のうち数回程度をオンデマンド授業の形式で実施する予定である。

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市論7）　共同体を考える～地域、都市、農山村							
担当者名	高野　孝子							
構築	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

気候変動やテロ、増え続ける難民、排他的な潮流など、今の社会には不安な要素が山積している。しかしこうした行き詰まり感や、未来に向けた危機感は、理由こそ違っていても、今に始まった事ではない。それぞれの時代で人々はより良い社会を目指して動いてきたであろう。

そして私たちも今、どのような社会を目指して動くべきかを問われている。グローバル化を見過ごすことはできないが、同時に地域社会に目を向ける必要がある。なぜなら、そこは私たちの生活が具体的に営まれる場であるから。地域を考えることは、共同体の意味やあり方を考え直すことでもある。この演習では、最初に地域社会学の基礎的な概念と分野を押さえた上で、共同体のとらえかた、人と自然の関係、地域社会の変動の様相などを扱っていく。都市も農村も、そしてその両者の関係から見える日本社会・経済の仕組みも範疇となるが、広い分野すべてを捉えることはできないので、農山村へのフィールドトリップを核とした思考の展開が想定されている。

一般的に、概念の理解の度合いは、本人の体験の幅と深さによって大きく異なってくる。「地域社会」を考える上で、履修生

全員の共通体験としてのフィールドトリップは本演習で重要な位置を占める。（＊必須となっているフィールドトリップについては備考を参照。）
農村での体験を通して見える都市やその諸問題にも注目し、どのような社会を目指すのか、大きな枠組みについての議論につなげる。
授業は参加型で実施し、「教わる」のではなく、「調べて共有する」。ディスカッションをベースにするので積極的な参加が前提となっている。

授業の到達目標

地域社会学の基礎の一端を学ぶ。日本社会の都市と地方の関係についての認識を深める。農山村の現状を理解し、共同体の基礎理論について考察する。多角的な視点を持つ力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　30%　　リーティングノート、フィールドトリップエッセイ、授業全体を通しての最終レポート
●**平常点**　70%　　授業やフィールドトリップへの積極的参加
●**その他**　0%

備考・関連URL

＊フィールドトリップについて：5月30-31日の週末（1週間前になる可能性もある）に新潟県南魚沼市の農山村を訪れる。これに参加できる人のみ履修登録できる。全員が可能であれば、2泊して現地での時間を長く取る。1泊の場合、費用は交通費抜きで1万5千円前後。交通費はチャーターバスで往復約7,000円ほど。田んぼでの作業を手伝いながら、現代の中山間地の実態に触れる。「農都交流」「農によるまちづくり」の参与観察と考察の機会となる。
＊フィールドトリップ参加は演習の単位取得には必須だが、なんらかの事情でどうしても参加できないながら本演習を履修したい場合は、事前に高野までメールにて相談すること（takano@aoni.waseda.jp）。事情に応じて検討する。登録日までにゆとりを持ってコンタクトすること。　＊4回以上の欠席、フィールドトリップ欠席は単位を認めない。

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市論8）　博物館の意義とこれから							
担当者名	佐藤　桂							
構築	2単位	春学期	月曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

文化財科学・博物館学に関する基本的な文献の読解を通して、博物館の歴史と使命について学ぶとともに、実際に博物館・美術館を訪れてレポートを作成し、発表・ディスカッションを行う。現代社会における博物館の意義と課題、これからの博物館のあり方等について考える。

授業の到達目標

・博物館の歴史と使命について学ぶ。
・現代社会における博物館の意義と課題を考える。
・これからの博物館のあり方について、自分なりの意見を持つ。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　40%　　与えられたテーマに関するレポートの内容で評価する。
●**平常点**　60%　　発表、授業態度等で評価する。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市論9）　グローバル化社会の中で「場所性」について考える							
担当者名	佐藤　桂							
構築	2単位	春学期	月曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

高度に情報化した現代社会において、グローバル化はますます進展し、それに伴い「場所」の概念も徐々に変化しつつある。インターネット上では、世界のあらゆる「場所」が均質化した情報として扱われ、グーグルを使えば空中散歩も、擬似的な訪問も容易に体験できる。しかしその一方で、土地に根ざした固有の「場所性」を掘り起こし、その記憶や風土を活かした地域再生への取り組みも、近年は盛んに行われるようになった。
この演習では、現代の私たちを取り巻く地域・都市環境に対して、俯瞰的な視点（鳥の目）と、草の根的な視点（虫の目）をもち、その現状を相対化して、世界の中に位置付けていくことを目的とする。大都市・東京を例にとり、その地理的・歴史的な背景を踏まえながら、様々な顔をもつ各地域の「場所性」について、フィールドワークを通して考察してもらう。また、現在進行中の文化財保存修復・整備事業の紹介も行い、伝統文化の保存再生や東京と地方との関係、国際都市とは何か、といった諸問題についても考える機会としたい。

授業の到達目標

・東京の地理と歴史の全体像をつかむこと
・それぞれの地域に蓄積された記憶と「場所性」について考察すること
・それぞれの地域における都市開発の現状を把握し、その将来像について考えること
・文化財（文化遺産）の保存をめぐる議論や理念を把握し、伝統と開発の未来について考えること
・日本文化を世界の中で相対化し、国際都市に関する自分の考えをもつこと

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　50%　　レポートの内容で評価する。
●**平常点**　50%　　出席、受講態度等で評価する。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

第1回の演習で発表分担を行いますので、必ず出席して下さい。やむを得ない理由で欠席する場合は、教員（katsura.sato@aoni.waseda.jp）まで事前に連絡すること。

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市論10） 自文化を知り、相対化するために							
担当者名	佐藤　桂							
構築	2単位	秋学期	月曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

インターネットの普及とともに、世界には、これと逆行するような自文化中心主義が目立つようになってきた。日本もその例外ではなく、テレビをつければ日本文化を過度に称賛する番組に溢れ、若者は世界への興味を失い、ヴァーチャルの中に居場所を求めているように見える。広い視野を得るためのツールが、一方では、狭く偏った世界観を増幅させているのではないだろうか。 本演習では、異文化理解のための出発点として、まずは日本文化を知り、その特徴を捉え、世界の中で相対化することを目指す。日本文化論、及び比較文化論に関する基本的な文献の読解と発表・ディスカッションを通じて、世界に対峙するための自分なりの視点を獲得する訓練を行う。

授業の到達目標

・日本文化の形成過程を理解し、その特徴を把握する。
・日本文化を世界の中で相対的に捉え、説明することができる。
・異文化理解のための自分なりの視点を獲得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しない。
●**レポート**　40%　　与えられたテーマに関するレポートの内容で評価する。
●**平常点**　60%　　発表、授業態度等で評価する。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市論11） 過去との共存／未来の構築							
担当者名	寺崎　秀一郎							
構築	2単位	秋学期	火曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

「文化財」と称した場合、たとえば、日本の文化財保護法第2条に定義されているが、その対象となるものは多岐にわたる。なかでも過去における人類の活動の所産である「遺跡」とされるものは、近年、観光資源として世界的に注目されている。

従来、1987年に「環境と開発に関する世界委員会」で示された「持続可能な開発」という概念が、とりわけ、発展途上国においては、観光産業の振興、特にエコツーリズムとして注目を浴びてきたが、その延長線上に遺跡観光を「持続可能な開発」としてとらえ、新たな外貨獲得手段として認識されるようになってきた。日本国内においても同様の傾向があり、遺跡観光を含む歴史的景観などの「文化財」が重要な地域振興のファクターとなっている例も珍しくない。また，近年では，「町おこし」にも関心が集まっている。

しかし、同時に資源としての「文化財」の活用には未だ幅広い議論が必要である。単に保存修復、景観保存に留まらず、その成果をどのように地域にフィードバックしていくのか、あるいは、どのように次世代に継承していくのか課題は多い。本演習では、受講生は各自の関心に基づき，研究対象地域を選定し，その地域が有する広義の文化財（＝有形無形の文化資源）の過去と現在を明らかにし，そこから見える将来像等について知見を深めて欲しい。そのためには，自身で対象地域に足を運ぶことが必須となるが，その上で、現在に生きる私たちになし得ることは何かについて、広い視野からの議論を期待したい。

専門演習

授業の到達目標

「文化財」とは守るべきもの、と考えられがちだが、なぜ守らなければならないのか、あるいは、ただ保存すればそれで十分なのだろうか。現代に生きる私たちが過去の営為の結果である「文化財」にどのように向き合うことが求められているのか、「文化財」を取り巻くさまざまな社会状況を考慮し、「文化財」の未来を考える。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　0%　　実施しない
●**平常点**　100%　　出席状況、ならびに研究報告の達成度、討議への参加状況等によって総合的に判断する。なお、受講生は受講後、コースナビまたはWaseda Moodle上のレビューシートに記入すること。レビューシートへの記入をもって出席とする。
●**その他**　0%

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市論12） 現代中央アジアにおける歴史実践とその様態							
担当者名	秋山　徹							
構築	2単位	春学期	木曜日	6時限	2年以上	—	—	—

授業概要

現代中央アジアは、ウズベク、カザフ、クルグズ（キルギス）をはじめとする民族を単位として領域的に編成された複数の国家から構成されている。現代中央アジアにおける歴史叙述は、こうした国家の枠組みを単位として行なわれるのが主流となっている。本演習は、現代中央アジアにおけるこうした国史叙述＝ナショナルヒストリーの様態を受講者とともに考えてゆく。なお、秋学期開講の社会構築論系演習（地域・都市論14）は本演習の続編なので併せて受講することが望ましい。

授業の到達目標

1．現代問題を、皮相な現状分析で済ませずに、歴史的な視点から考察する力を養う。
2．現代中央アジアを参照点として、現代日本をはじめ、受講者各自の関心にひきつけて考え、発信する力を養う。

成績評価方法

・報告（レジュメ、口頭報告、質問・コメントへのフォローアップ）：50%
・平常点（質疑時間での発言、コメントペーパーの提出）：50%

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市論13） 子どもにやさしいまちづくりと子どもの権利							
担当者名	内田　塔子							
構築	２単位	秋学期	金曜日	３時限	２年以上	—	—	—

授業概要

「子どもにやさしいまち」（Child Friendly Cities）とは、国連・子どもの権利条約を実現するまちのことをいいます。本演習では、現在、学校や地域において、子どもや子育て家庭が直面する課題を取り上げ、子どもの権利の視点から、問題の所在と、子どもにやさしいまちを実現する方策についてともに考えていきます。

具体的には、授業計画に挙げる各テーマについて、グループに分かれ、以下のような段階を踏んで授業を進めていきます。

（1）基礎的知識の整理
（2）主な先行研究の論点整理と問題設定
（3）グループ発表
（4）発表のふりかえり・フィードバック

授業の到達目標

国連・子どもの権利条約（グローバル・スタンダード）と子どもの権利の視点を理解するとともに、主体的で対話的な学習方法を獲得することを目的とします。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　50%　　学期末のレポート
●**平常点**　40%　　グループによる研究発表・討論への参加状況
●**その他**　10%　　自己評価

備考・関連URL

以下のサイトも参照。
UNICEF Child Friendly Cities Initiative
（https://childfriendlycities.org/）
UNICEF　*Child Friendly Cities and Communities Handbook*
（https://www.unicef.org/eap/reports/child-friendly-cities-and-communities-handbook）

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市論14） 現代中央アジアの新たな歴史像を模索する							
担当者名	秋山　徹							
構築	２単位	秋学期	木曜日	６時限	２年以上	—	—	—

授業概要

現代中央アジアは、ウズベク、カザフ、クルグズ（キルギス）をはじめとする民族を単位として領域的に編成された複数の国家から構成されている。現代中央アジアにおける歴史叙述は、こうした国家の枠組みを単位として行なわれるのが主流となっている。本演習は、現代中央アジアにおけるこうした国史叙述＝ナショナルヒストリーの枠組みにとらわれない、新たな歴史像の可能性を受講者とともに考えてゆく。なお、本演習は、春学期開講の社会構築論系演習（地域・都市論12）と連動しており、それを踏まえた内容・展開となっているので、可能な限り併せて受講することが望ましい。

授業の到達目標

1．中央アジアの事例を通して、多様な歴史叙述の可能性を学ぶ。
2．現代中央アジアを参照点として、現代日本をはじめ、受講者各自の関心にひきつけて考え、発信する力を養う。

成績評価方法

・報告（レジュメ、口頭報告、質問・コメントへのフォローアップ）：50%
・平常点（質疑時間での発言、コメントペーパーの提出）：50%

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市論15） 子どもの権利と子ども支援							
担当者名	高石　啓人							
構築	２単位	春学期	金曜日	１時限	２年以上	—	—	—

授業概要

本演習では、子どもの権利条約を基盤として、子ども支援を検討していく。

子どもをめぐる現状は危機的であるが、大人の問題と比較して認知されにくい。そこで、本演習では子どもを取り巻く現状について共通理解をもつ。その後、グループ・個人ごとに、テーマを設定し、子ども支援について検討していく。特に現代的課題、既存の領域を超えた分野横断型の課題に取り組む。実践に学び、専門研究に取り組むための基礎的な能力を養う。なお、学内外を問わず、自主的に学ぶ姿勢が求められる。

授業の到達目標

・子どもを取り巻く現代的課題を理解し、説明できるようになる。
・子どもを取り巻く課題を自ら発見できるようになる。
・発見した課題に対して、分析し、支援策を提示できるようになる。

成績評価方法

レポート 60%：課題文献を読んで、レポート作成。評価基準は授業内で説明する。
平常点評価 30%：グループ・個人での発表を評価。
コメントペーパー　10%：授業ごとに感想や考察を記入。

備考・関連URL

・発表は、その場でフィードバックを行う予定。レポートは、15回目にフィードバックを行う予定。
・興味関心の持ち方や自主的に学ぶ姿勢が重要である。そうした能力を養うため、子どもに関わるボランティア・アルバイトをしていることが望ましい。
・出席については、コメントペーパーで判断する。不適切と判断されたコメントペーパーは、欠席扱いになる。

科 目 名	社会構築論系演習（地域・都市論16） 子どもの権利と地域・文化を考える							
担当者名	南雲　勇多							
構築	2単位	春学期	月曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

地域や都市を考える際に最も大切なことの1つが「人」である。この演習では「人」をとらえ、地域・都市を考えていくために、人権や権利を手がかりとしていく。特にその中でも「子ども」に着目していく。地域・都市における子どもの権利の課題について関心をもち、視野を広げたり深めていくことに加え、子どもの権利の視点から地域・都市のあり様を問い、社会を捉えなおしていくことも重要である。

子どもの権利条約が国連で1989年に採択され、1994年に日本政府が批准をした。現在にいたるこれまでの間、子どもの権利に関わる状況が進展していることもあれば、問題が増えたこともあるであろう。一方、条約ができて約30年、この間国際社会や日本社会の様相も著しく変化している。現在の子どもの権利保障を考えるため、また、子どもの権利の視点から地域・都市づくりを考えるためには、この子ども（の権利）についてと現在の社会変化の両者を合せて考慮することが求められる。

そこで社会背景の影響を受けて「マイノリティ」の立場におかれてしまいがちな「子ども」の存在と、その子どもの権利保障のための実践に目を向け、現実課題から子どもの権利の視点を学ぶとともに、地域社会や文化を問いなおしていきたい。

この演習では、ワークショップへの参加やグループワークを基本とし、一人ひとりが学びあいのコミュニティを協働でつくる主体として進めていく。

子どもの権利論を中心とし、人権論、社会的マイノリティに関わる研究の知見をかりつつ、現実課題について考えていく。

授業の到達目標

＊子どもの権利や社会的マイノリティに関わるキーワードについて、現実課題にふれながら、また、他者と共に学びながら、自身の考えや言葉を身につけること

＊子どもの権利や社会的マイノリティに関わる現実課題について、その課題の背景にある「地域社会」や「文化」に関する知識や自身の考えを身につけること

＊子どもの権利や社会的マイノリティに関わる自身の「まなざし」や「ものさし」を改めてとらえ、問いなおすこと

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　40%　　演習内で指示のあるテーマ・問いやフォーマットにしたがいレポートを作成し提出。 テーマに対し、演習で経験し学んだ視点や論点を用いて考察し、自身の意見として表現しているかを評価。

●**平常点**　60%　　毎回の授業において自身の理解度や意見などをリアクションペーパーに記入し提出。（各回4%×15回）（グループ発表についてもその内容へのリフレクションを記入することで評価の対象とする。） どの程度学習を進められたのか・深められたのかについて到達目標の視点にそって評価。

●**その他**　0%

備考・関連URL

・　提出課題に対してのフィードバックは第15回に総評として演習内にて行う。

・　本演習は参加型学習・ワークショップなどにみる学習・方法論を用いたり、課題探求のためにグループワークを行う。

・　演習内のテーマにそった実践現場や実践者を紹介し、グループ発表などとのつながりで、学外フィールドワーク（単発含む）を推奨する。

・　必要に応じて、演習内で取り上げる課題・テーマについて、NGO活動や学外のセミナーなどの情報提供を行い、参加者に役立ててもらう。

専門演習

科 目 名	社会構築論系演習（共生社会論1） インターセクショナリティとフェミニズム							
担当者名	熱田　敬子							
構築	2単位	春学期	水曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

すでに知られているように、フェミニズムにはこれまでいくつかの波があった。

第一波フェミニズムは女性参政権運動など、主として法的・政治的権利平等を求めたとされ、第二波フェミニズムは「個人的なことは政治的なこと」というスローガンに代表されるように公／私の分離自体を問い直し、女性の全人格的な解放を目指したとされる。そして、現在フェミニズムの第三、第四の波についても語られることがあるが、この際日本に第三、第四の波が本当に訪れているのかは、議論がわかれる。

「波」というのは、単なる時代区分や世代区分ではないことに注意する必要がある。第一波と第二波のフェミニズムの関係を見れば、連続したものがありつつも、第二波は第一の波の前提自体を問い直し、新たな社会変革の視座をもたらした。第三、第四の波もまた、第二波フェミニズムがもたらした豊かな視点と成果を受け継ぐと同時に、その枠組みを新たにするものでなければならない。

フェミニズムはジェンダー差別構造の中で生きる女性たちの経験をもとに成立し、社会のジェンダー構造を問い直してきた運動であり、そこから生まれた学問である。その「女性」には誰が含まれるのか、「女性」の経験を読み解くためにはジェンダー以外に何が必要なのかということ、「女性」の間の差異や格差については、実は第二波フェミニズムの中でもさかんに語られてきた。「女性」たちが直面するジェンダー差別は、ジェンダーとセクシュアリティ、エスニシティやディスアビリティなど、他の差別構造との交差により、多様な姿を見せるからだ。

しかし、そうした多様さは、多くの場合単なるバリエーションとしてのみとらえられ、社会のジェンダー構造全体に関する認識の変化を引き起こすものにはならなかった。経験的に語られる差異をたんなるカテゴリーの付け足しに終わらせないためには、新たな視点が不可欠である。

本演習では、この点を鑑み、フェミニズムの変化を引き起こす概念のひとつとされるインターセクショナリティの視座が、どのような認識と社会構造の変化をもたらすのかを、具体的な事例と、フェミニズム運動の経験から考える。演習の進行としては、上記の視点から、いくつかの具体的なテーマに沿って、フェミニズム運動及びジェンダーとインターセクショナリティに関する、文献リーディング、フィールドワーク、報告・討論を行う。

授業の到達目標

・フェミニズムの歴史と現在を理解する。
・多様な「女性」、ジェンダー・マイノリティの経験を学び、これからの「わたし」のフェミニズムを構想する。
・フェミニズムは学問であると同時に運動である。司法システムを持たない法学が机上の空論になりかねないように、フェミニズムも哲学やジェンダー分析にとどまらず、実践されて初めて変革の力を持つ。知と実践はフェミニズムの両輪なのだ。したがって、参加者は学んだことをどのように実践するか考えることを求められる。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　学期末にレポートを課す
●**平常点**　30%　　レビューシート記入で評価する
●**その他**　20%　　発表やグループワークにより評価する

備考・関連URL

具体的な内容・進行は、参加者の人数などによって変化する可能性がある。

科 目 名	社会構築論系演習（共生社会論2）　優生保護法と強制不妊手術							
担当者名	豊田　真穂							
構築	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

2018年以降、優生保護法の強制不妊手術をめぐってメディア報道が活発化した。その背景には、同年1月30日の宮城県での訴訟をはじめとして、各地方裁判所で当事者（やその家族）による国家賠償請求訴訟が提出されたことがある。日本政府は、優生保護法が1996年に廃止（母体保護法に改称・改正）されてから20年が経ち、「賠償請求権はない」などと回答している。一方、ドイツやスウェーデンなどでは政府による補償がなされてきた。そこで、国会議員の超党派プロジェクトチームなどによって優生保護法によって強制不妊手術の対象となった人びとに対する救済制度を立法化し、2019年4月24日、議員立法による「旧優生保護法に基づく優生手術等を受けた者に対する一時金の支給等に関する法律」の成立にいたった。しかし、この法律には多くの課題が残されている。さらに裁判はいまだ継続中である。そこで本演習では、優生保護法がどのような法律であったのかを理解することを目的とする。また、参照点としてハンセン病の国賠訴訟（2001年）や家族訴訟（2019年）を基点とし、ハンセン病政策の歴史などについても学ぶ。

授業の到達目標

1）人権の視点で議論できるようになる。
2）過去を見据えた上で現在の問題を知ることができる。

成績評価方法

出席、グループ・ワーク、プレゼン等の平常点（60%）と期末レポート（40%）で総合的に評価します。

科 目 名	社会構築論系演習（共生社会論3）　アジアン・ディアスポラ							
担当者名	金　敬黙							
構築	2単位	春学期	金曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

アジア地域の域内外から（へ）の難民、移住者などの流入と流出の事例、背景、傾向などを学びます。
日本からアジア諸国へ、そしてアジア諸国から日本へ、さらにアジアの域外から日本を含むアジア地域への人の移動について学ぶきっかけを作ります。
学生たちのプレゼンテーションと討論を通じて参加型の授業をも進めます。
具体的には北朝鮮難民（脱北者）をとりまくディアスポラの事例や日本に暮らす難民や「デカセギ」労働者などの事例を数多く活用します。

授業の到達目標

グローバルな課題として浮上している難民・移住者のテーマを日本を含むアジア地域の事例を中心に理解し、今後の政策や現象問題への理解を深めることを主なねらいとします。
日本の難民政策や移民受け入れ政策の今までと今後を理解し、グローバルな視点から日本とアジア諸国（地域）の在り方を検討します。

成績評価方法

平常点が50%（出席、報告、討論）、残りの50%はレポートや最終課題（試験またはレポートなど）で評価します。

科 目 名	社会構築論系演習（共生社会論4）　コンピュータを用いて社会統計を学ぶ							
担当者名	森　元孝							
構築	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

いわゆる統計計算を、コンピュータを自由に駆使して行うことは、順序を踏んで学んでいけば、まったく難しいことではない。そして、みなさんが、これから生きていく過程で、絶対に必要なスキルである。講義で、一方的に知識の伝授を受けるのは、たいていの場合、先生の教え方が面白くなく、授業も退屈でつまらない。そうではなく、目の前にあるコンピュータを用いて、自らデータを分析し加工していくスキルを身につけていくトレーニングを積んでいく。
これまでに統計学関係の授業を取ったことがない、まったくの初心者でも、また高校卒業とともに数学と縁を切ってきた人でも、興味をもってデータ分析のスキルを身に着けることに積極的な意志のある人、そしてこの種の分析はグループワークで行っていくことが重要であるので、グループワークをすることが得意、あるいはこの演習を機会にやっていこうと思う人であれば、十分にやっていくことができるように各回、順序を踏んで進めていく。

授業の到達目標

ソフトウェアのスキル習得とともに、社会現象を観察し分析していく根本的な興味・関心を高めていくことが、この演習の到達目標である。
統計学の基礎知識を学びながら、実際にデータを整理し分析する基礎的技法を習得する。加えて社会調査の基本から少々難し

い多変量解析までひととおり習得していく。表計算ソフトウェアExcel、統計計算ソフトウェアSPSS（Statistical Package for the Social Sciences）について、その基本を習熟する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　30%　　最終課題レポートの内容。
●**平常点**　70%　　各回の課題への積極性。
●**その他**　0%

備考・関連URL

出席はとらないが、欠席をすると、次からわからなくなる。

関連URL: http://www.f.waseda.jp/wienmoto/

森元孝ゼミナールプロモーションビデオ http: //www. f. waseda. jp/wienmoto/Japanese/Lesson/KouchikuMorisemi/MC05.html

論系内のカリキュラム改革を進めております。なお、2018年度までに「社会構築論系共通演習」において単位を取得している場合、この科目は、履修内容が重なります。

科目名	社会構築論系演習（共生社会論5）　貨幣の社会学　―経済社会学と社会経済学の視点を身につける							
担当者名	森　元孝							
構築	2単位	春学期	金曜日	3時限	2年以上	―	―	―

授業概要

経済とは、媒体「貨幣」をが結ぶ行為連鎖の体系である。これが、社会科学における「経済」の定義である。経済を知るには、貨幣が、いったいどのようなものであり、どのような機能をしているのかを十分に知る必要がある。本演習は、この問題を、日本社会が1980年代末、その絶頂に達し、その後20年、「第二の敗戦」とまで言われ、世界での地歩を失っていくことになった、そもそもの原因を直視して考え、みなさんの世代に、この種の愚かな失敗を二度としないようにするための生きる力、生きる指針を身につけることを目的としたものである。

毎回、社会経済学、経済社会学的な視点を学問的にトレーニングしながら、かつ新聞記事を適宜参照しながら、今、現在について考えることができる能力を身につけていく。

学問の領域ということで言えば、社会経済学の基礎知識と、経済社会学の考え方についてその基本を学ぶ。この分野は、日本では社会学者がほとんど専門にしている人がおらず、私がその第一人者である。私と学ぶことは、日本の経済社会を、十分に見通せる力を身につけ、さらに貨幣が持っている、さまざまな機能の中から、実は、社会を変えていくこともできることを理解できるはずである。社会学者や、たいていの場合、お金が実は好きなくせに、貨幣については研究をしていない。むしろ、社会は、人のつながりだと言うのが常だが、つながりをつける最たるものは、実はお金である。これを悪いものだと言うことは簡単であるが、社会学者のみならず、政治家、大学教授、実はみんなお金が大好きなのに、それがいったい何なのかについては言わない。このこともなぜか、みなさんと考えていきたい。

専門演習

授業の到達目標

社会経済学の基礎知識と、経済社会学の基本発想について学びながら、貨幣とはいったいどのような機能を持つものであるのかを、正確に理解する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　20%　　最終レポートの得点
●**平常点**　80%　　各回の演習での報告、参加状況
●**その他**　0%

備考・関連URL

森　元孝のウェブページ　http://www.f.waseda.jp/wienmoto/
社会構築論系森ゼミのウェブページ http: //www. f. waseda. jp/wienmoto/Japanese/Lesson/KouchikuMorisemi/MC05.html
教科書案内
大学生協　http://www.honyaclub.com/shop/g/g12397642/

科目名	社会構築論系演習（共生社会論6）　多文化共生に向けて							
担当者名	黒川　悠輔							
構築	2単位	春学期	火曜日	5時限	2年以上	―	―	―

授業概要

多文化共生社会とはどのような社会を指すのか。ひとつのイメージとしては、さまざまな点で違いを持つ人びとが互いに認め合い、対等な立場で関わり合う理想的な状態を思い描くことができる。しかしながら、政府を含む多くの主体によって多文化共生が標榜されてきた日本社会において、特定の人びとの直面する差別や不平等や抑圧といった問題状況が数多く指摘されている。そうした状況に置かれた人びとの例を挙げるとすれば、ニューカマーやオールドカマーと呼ばれる外国人、難民、外国につながる子ども、言語的マイノリティ、セクシュアルマイノリティ、障がい者など、さまざまな観点からのカテゴリー化が可能である。このような問題状況を踏まえて、わたしたちが到達するべき多文化共生社会とは何か、そうした社会をどのように実現していくことができるかを繰り返し問う必要があるのではないか。

本演習では、参加者相互のやり取りを通して、上記の問いに取り組んでいくことになる。基本的な内容は、社会における人びとの多様性と結びついた問題事例を取り上げつつ、それを踏まえて多文化共生社会のあり方について具体的なレベルで考察していくことである。その際、各々の問題関心にもとづいて演習参加者のグループ分けをおこない、グループ内でのディスカッション、グループ発表、そして参加者全体でのディスカッションが中心的な活動になる。また、演習全体の最後には各個人で選んだテーマについてレポートを作成する。なお、本演習では基本的に日本社会の事例を扱うものとし、特に社会のなかで不利な立場

に置かれているマイノリティに焦点を当てる予定である。

授業の到達目標

多文化共生社会のあり方について、具体的な事例を踏まえ、さまざまな立場を考慮しながら論じられるようになることが本演習の主な到達目標である。また、演習全体を通して、大学生として求められるアカデミックな発表・議論等の仕方を習得することも目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　50%　　問いの立て方、論理性、アカデミックなレポート作成方法の適切さなど、複数の観点から総合的に評価する。詳細については授業内で説明する。

●**平常点**　50%　　ディスカッションへの参加状況、出席状況、グループ発表の内容、コメント用紙の記述内容、その他の課題などをもとに総合的に評価する。

●**その他**　0%

科 目 名	社会構築論系演習（共生社会論7）　教育と環境　―　持続可能な社会の文脈で							
担当者名	高野　孝子							
構築	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	―	―	―

授業概要

さまざまな課題に直面する現代、持続可能な社会への模索が国内外で続いている。

教育はどんな役割を果たせるのか。

価値観に影響を与え、社会変革のために重要だとされる「教育」について、イリイチやフレイレ、ソベルなどの批判的な見方を含めて、多角的に検討する。その中で、持続可能な社会を求める中で発生してきた、環境教育や「持続可能な開発のための教育」の流れを概観する。「教育は社会を変えることができる」のか、それとも「主流の価値観や体制を維持する道具」なのか、社会を変えるにはどのような教育が必要か、自分たちの経験も踏まえて考える。

また「場」「場所」について検討し、「地域に根ざした教育」「場の教育」について議論する。教育を通した地域づくりの可能性と課題について考察し、それをグループごとまたは個々人で、授業内で発表する。互いの評価とディスカッションでフィードバックとする。

すべてを統合して考察し、それぞれレポートを作成する。

授業は参加型で実施し、「教わる」のではなく、「調べて共有」し、「討論で掘り下げる」。履修生たちが、文献を批判的に読み込み、自分たちの経験に照らし合わせ、かつ想像力も駆使して考察し、発表し、意見交換しながら授業が進行していく。また英語での文献も読み、ディスカッションしていく。

「サステナビリティ」の理解を前提として進めるので、春期の「サステナビリティ論」を履修していることが望ましい。

授業の到達目標

自分たちに身近である「教育」について捉え直す。「場」への認識を高める。読解力と思考力、それを踏まえた討議力、表現力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　20%　　伝えたいことを明快に書けているか、レファレンスのつけ方は適切か

●**平常点**　80%　　授業への積極的参加、発表と討議の内容など、総合的に判断

●**その他**　0%

備考・関連URL

履修を希望する場合は、積極的に関わる意欲を持ち、英語を含む文献を読み、グループワークするための時間をきちんと作り、かつマネジメントできる人であること。 4回以上の欠席は単位を認めない。

科 目 名	社会構築論系演習（共生社会論9）　共生社会とことば							
担当者名	宮野　祥子							
構築	2単位	秋学期	水曜日	2時限	2年以上	―	―	―

授業概要

本演習では、共生社会の実現に向けて、ことばが持つ可能性や課題を検討していきます。私たちは誰しもことばと無縁に社会生活を営むことはできません。にもかかわらず、ことばをめぐる権力や格差の再生産、差別、排除などについて検討する機会はそうあるわけではありません。対話や熟議の必要性は叫ばれていますが、その実現はどのように可能なのでしょうか。ここでは、そうした課題をめぐり、またことばを軸にしつつも、「ことば」中心主義に陥らないように、からだや、ときにはアートとのつながりなども視野にいれながら、共生社会とことばとがどのような関わりにあるのか、参加者それぞれの関心にもとづき、テーマを見出し、参加者間でシェアしながら深め、探究していきます。また、授業自体を一つの実践と捉えます。グループワークをとおして、学生という同じ立場でも多様な価値観があることに気づき、共に生きていくためにどうすればよいのかを考えます。

通じ合える、わかりあえる、だけでなく、通じない、わかりあえないけれども、一緒にいる、あるいは共に生きていくための、共生社会とことばについて考えていけたらと思います。

授業の到達目標

共生社会とは何か、考察を深めるとともに、またその実現のために必要なことばをめぐる課題、可能性を見出し、自らの課題として引き受け、それを深めていくことを目指します。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし

●**レポート**　60%　　設定した課題について、オリジナリティをもち、自分なりに葛藤し取り組むことができたのか、どれほど学びを深めることができたのかを重視します。

●**平常点**　30%　　リフレクション・シートでの考察や、グループワーク発表の内容、他者の発表や全体のディスカッションなどにおいて、共に探究するプロセスに貢献できたかを重視します。

●**その他**　10%　　自己評価、相互評価

備考・関連URL

演劇的手法をもちいたワークショップなども行う予定です。ワークショップには、多様なバックグラウンドをもつ人たちとの交流が含まれる可能性があります。積極的に参加することを望みます。

科 目 名	社会構築論系演習（共生社会論10） 移動とコミュニティ							
担当者名	松薗　祐子							
構築	2単位	秋学期	火曜日	5時限	2年以上	—	—	—

授業概要

本演習では、「移動とコミュニティ」をテーマとして、現代社会における「共生」について考える。

今年度は2つの問題を取り上げる。一つは、東日本大震災と原発事故により、自治体ごと強制避難を強いられた人々の地域再生の問題である。災害からすでに10年近くが経過したが、復興とは言えない状況が続いている。もう一つはアジア都市の都市下層やスラム住民の強制移動、コミュニティ開発の問題である。発展著しいアジア都市は一方で格差の拡大も深刻化している。グローバル化の進む現代社会が抱える課題を背景に、利害や意見の異なる人々が地域社会の持続可能性に取り組む問題として題材とする。

授業は、一部講義を含む演習とディスカッションを組み合わせて行う。

授業の到達目標

グローバル化における地域社会（コミュニティ）の意味と意義について理解する。

ディスカッションの内容をふまえて、レポートを作成する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　70%　　ディスカッションを踏まえレポートは3回提出。（20点＋20点＋30点）
●**平常点**　30%　　ディスカッションでや授業内での発表など、積極的な授業への取り組みを評価します
●**その他**　0%

科 目 名	社会構築論系演習（共生社会論11） 身近なサステナビリティを意識化する							
担当者名	高野　孝子							
構築	2単位	春学期	水曜日	2時限	2年以上	—	—	—

授業概要

＊本演習は春期科目「サステナビリティ論」と深く関連するので、合わせて履修することが望ましい。

2015年9月、「国連持続可能な開発サミット」において、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択された。「持続可能な開発目標（SDGs）」と呼ばれ、17の目標と169のターゲットからなる。すべての国連加盟国は、このアジェンダを元に、2030年までに目標達成のための努力をすることになっている。

アジェンダを見るとまるで他人事のようだが、サステナビリティは私たちの日々と密接に関わっている。それらを自ら発見し、「可視化」する作業をしていく。

前半に何度か基礎的な学習をしたあとは、グループごとにテーマを設定し、発表とディスカッションを行う。グループワークでは、役割分担ではなく、グループとしての協議と思考が求められる。履修生が自ら掘り下げ、課題を見つけていく作業が必要となり、積極的な学習と参画が前提となる。

専門演習

授業の到達目標

「持続可能な社会」（開発ではなく）とはどのような状態であり、どうやって実現されうるのかを学習と協議を通して考え、指針となるような何らかのヒントを得る。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　20%　　総合的に学んだことを記述。内容と明確さで測られる。
●**平常点**　80%　　授業への関与の姿勢や発表内容などを総合的に判断する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

＊4回以上の欠席は単位を認めない。

国連広報センター
http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/
アジェンダファクトシート
http://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/15775/

科 目 名	社会構築論系演習（共生社会論12） 少子化とリプロダクティブ・ライツ							
担当者名	豊田　真穂							
構築	2単位	秋学期	金曜日	4時限	2年以上	—	—	—

授業概要

日本で「少子化」が問題になって久しい。日本では、1990年代以降、「少子化対策」という名の人口政策が立案されてきた。日本における人口政策といえば、戦前／戦中には、「産めよ殖やせよ」の政策を思い浮かべる人も多いだろう。このとき、「産児制限」つまり避妊方法の普及などを目指す運動が国策に反するとして制限／弾圧されていた。戦後は一転、人口爆発を懸念して、主に中絶によって子供の数の制限が推奨された。また「不妊治療」と呼ばれる生殖補助医療は、すべての人にアクセスがあるわけではない。このように、「産む・産まない」の決定は、国家の政策によって形作られている。

しかし産む・産まないの決定は、本来、リプロダクティブ・ライツとして個人に保障されるべきものなのではないか。リプロダクティブ・ライツとは、すべてのカップルと個人が、子どもをつくるのか／つくらないのか、つくるのならいつどのくらいの間隔で何人つくるのかを決める権利で、1994年、カイロ人口開発会議でリプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康・権利）として提唱されたものの一部である。

こうしたリプロダクティブ・ライツを保障するための／しながらの少子化対策とはどのようなものであり得るのか。本演習ではこうした問いを検討すると同時に、リプロダクティブ・ライツとは何かを考える。

授業の到達目標

リプロダクティブ・ライツを理解する

成績評価方法

出席、グループ・ワーク、プレゼン等の平常点（60%）と期末レポート（40%）で総合的に評価します。

科 目 名	社会構築論系演習（共生社会論13） 戦後アジアの紛争と和解ー朝鮮戦争、ベトナム戦争、カンボジア紛争、そして「対テロ戦争」							
担当者名	金　敬黙							
構築	2単位	秋学期	金曜日	3時限	2年以上	—	—	—

授業概要

日本は戦後70年以上も直接、戦争を行うことがありませんでした。しかし、朝鮮戦争、ベトナム戦争において日本におかれている米軍基地を通じて多くの戦争物資や兵力がアジアでの戦争に関わってきた経緯があります。いわゆる兵站国家として市の機能を果たしてきました。

沖縄の基地問題をはじめ、最近では「対テロ戦争」と関わる安全保障問題が問われています。また、1990年代にはカンボジア紛争の処理をめぐり日本のPKOが海外派兵〈派遣〉を行う転機を迎えました。これは、憲法9条や安保法制などとも密接に関連します。

本演習では、戦後アジアの紛争と和解をテーマに、日本とアジア、そしてアジアと世界におけるケースを扱いつつ、履修者の理解を深めます。

授業の到達目標

具体的な歴史的な史実を現代史、国際関係論、平和研究の視点から学びます。
そのために、平和研究のアプローチを理論面でも学び、現場中心の学びを行います。

成績評価方法

授業への参加と発表、討論などで50%の評価を行います。
定期レポートや試験（課題レポートの場合もある）で残りの50%の評価を行います。

講 義 内 容

論　系　ゼ　ミ

科 目 名	中東・イスラーム文化論ゼミ （春学期）							
担当者名	砂井　紫里							
多元	２単位	春学期	火曜日	５時限	３年以上	—	—	—

授業概要

中東や世界にあるいはイスラームの文化・社会・歴史についての理解を深めるために、教員による講義、共通テクストの輪読、履修者自身による調査と発表、討議を行う。

授業の到達目標

・中東あるいはイスラームの文化・社会・歴史についての知識を深める。
・参加者自身による調査にもとづくゼミ論文を執筆するための能力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　平常点による。
●**その他**　0%

備考・関連URL

現地語の学習を推奨する。

科 目 名	中東・イスラーム文化論ゼミ （秋学期）							
担当者名	砂井　紫里							
多元	２単位	秋学期	火曜日	５時限	３年以上	—	—	—

授業概要

中東や世界にあるいはイスラームの文化・社会・歴史についての理解を深めるために、教員による講義、共通テクストの輪読、履修者自身による調査と発表、討議を行う。

授業の到達目標

・中東あるいはイスラームの文化・社会・歴史についての知識を深める。
・参加者自身による調査にもとづくゼミ論文を執筆するための能力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　平常点による。
●**その他**　0%

備考・関連URL

平常点による。

科 目 名	異文化受容論ゼミ （春学期）							
担当者名	小田島　恒志							
多元	２単位	春学期	火曜日	５時限	３年以上	—	—	—

授業概要

外国の文化に触れるには、単に情報伝達を目的とした媒体以外にも、様々な機会、方法がある。それは、たとえば文学、演劇、映画、音楽、絵画などのように、知識としてではなく直接感性に訴えてくる場合もある。だが、その感性の持ち主がもともと異文化を背景に持っている以上、その伝わり方はどこまで有効なのだろうか。本国の人々が感じているものと同じ感覚で受容しているとは到底言えないのではないだろうか。

では、100%同じように感じることができないからと言って、それは無駄な行為かといえば決してそうではない。日本人が日本の文化を背景として外国文化を受け止める場合、それがプラスに働くこともあり得るだろうし、伝えようとする人間は、それを効果的に活用する場合もあるだろう。

担当教員自身は英語文化圏の演劇や小説の翻訳作業を通して常に上のようなことを考えている。たとえば、南アフリカの作家アソル・フガートの戯曲を日本で上演した際には、原文から読み取れる様々な文化をいかに日本語のセリフで表わせるか様々なレベルで苦心したが、演劇の場合、言葉で表わしきれない要素を、舞台美術や演出の力で見せることも可能であった。もちろん役者の技量によるものも大きい。

このように、異文化理解と受容が起こる実際の場（たとえば翻訳）において、とりこぼされる要素と、それに対して伝達者（たとえば翻訳家）がいかに工夫を施しているか、実際の作品を通じてのリサーチと、より効果的な伝達／表現法の更なる可能性を模索、提示することが本ゼミの目的である。

授業の到達目標

最終的に研究成果をゼミ論にまとめる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　20%　　きちんと提出すること。
●**平常点**　80%　　授業中の activity。BBSへの参加を含む。
●**その他**　0%

科 目 名	異文化受容論ゼミ （秋学期）							
担当者名	小田島　恒志							
多元	２単位	秋学期	火曜日	５時限	３年以上	—	—	—

授業概要

外国の文化に触れるには、単に情報伝達を目的とした媒体以外にも、様々な機会、方法がある。それは、たとえば文学、演劇、映画、音楽、絵画などのように、知識としてではなく直接感性に訴えてくる場合もある。だが、その感性の持ち主がもともと異

文化を背景に持っている以上、その伝わり方はどこまで有効なのだろうか。本国の人々が感じているものと同じ感覚で受容しているとは到底言えないのではないだろうか。

では、100%同じように感じることができないからと言って、それは無駄な行為かといえば決してそうではない。日本人が日本の文化を背景として外国文化を受け止める場合、それがプラスに働くこともあり得るだろうし、伝えようとする人間は、それを効果的に活用する場合もあるだろう。

担当教員自身は英語文化圏の演劇や小説の翻訳作業を通して常に上のようなことを考えている。たとえば、南アフリカの作家アソル・フガートの戯曲を日本で上演した際には、原文から読み取れる様々な文化をいかに日本語のセリフで表わせるか様々なレベルで苦心したが、演劇の場合、言葉で表わしきれない要素を、舞台美術や演出の力で見せることも可能であった。もちろん役者の技量によるものも大きい。

このように、異文化理解と受容が起こる実際の場（たとえば翻訳）において、とりこぼされる要素と、それに対して伝達者（たとえば翻訳家）がいかに工夫を施しているか、実際の作品を通じてのリサーチと、より効果的な伝達／表現法の更なる可能性を模索、提示することが本ゼミの目的である。

授業の到達目標

最終的に研究成果をゼミ論にまとめる。

成績評価方法

- **試験** 0%　なし
- **レポート** 20%　きちんと提出すること
- **平常点** 80%　授業中のactivity。BBSへの参加を含む。
- **その他** 0%

科 目 名	アジア近世史ゼミ （春学期）							
担当者名	柳澤　明							
多元	２単位	春学期	月曜日	５時限	３年以上	—	—	—

授業概要

このゼミでは、アジアの伝統社会が「近代的」に再編されていく過程と、そこに見られる諸特徴を、歴史的に検討することを目標とする。

アジアの近代は、それぞれの国・地域の内発的な発展の結果ではなく、西洋によって他律的にもたらされた面が大きいことは、否定できない。ヨーロッパにおける近代への移行が長期にわたる漸進的な変化であったのに対して、アジア諸地域の近代化は、おおむね19世紀後半から比較的急速に進行した。そこで生じた大きな変化は、政治制度・法律・経済・社会慣習・教育・芸術などさまざまな面で、現代に大きな影響を及ぼしている。したがって、現代アジア社会の成り立ちを理解するためには、近代直前の時期（近世）を起点として、その後の変化の実相を歴史的にあとづけていく必要がある。

もちろん、アジア諸地域の近代化のプロセスは、それぞれの伝統社会のありかたや、近代化の過程での諸条件（植民地支配を受けたかどうかなど）によって、一律ではない。そうした地域固有の特徴や、各地域の相互関係を視野に入れることも重要である。

このゼミで扱う地域は、日本以外の東アジア――中国とその周辺――が主となるが、ゼミ生の関心によっては、他の地域を取り上げてもかまわない。また、日本自体は基本的に対象外だが、アジアの他地域と日本との比較という視点での取り組みは妨げない。時代の範囲も明確には定めがたいが、だいたい17世紀頃から20世紀前半までが中心となるだろう。

本科目は、「ディプロマポリシー」および「カリキュラムポリシー」にいう「論系ゼミ」に該当する。

授業の到達目標

【3年生】ゼミ生各自の関心に応じた調査・発表と質疑応答・討論を通じて、近代アジア社会の形成過程に関する理解を深め、ゼミ論文執筆へ向けての基礎知識と視座を獲得することを目標とする。

【4年生以上】

春学期：前学期までの調査・発表内容を踏まえて、ゼミ論文の問題設定を確立する。

論系ゼミ

成績評価方法

- **試験** 0%　実施しない。
- **レポート** 0%　期末レポート等は特に課さない。
- **平常点** 100%　授業時の発表内容、討論への参加度などによる。
- **その他** 0%　特になし。

備考・関連ＵＲＬ

日程は状況に応じて随時調整します。各自の発表に対する他の学生や教員からの質問・コメントを次のステップに生かせるよう、留意してください。

科 目 名	アジア近世史ゼミ （秋学期）							
担当者名	柳澤　明							
多元	２単位	秋学期	月曜日	５時限	３年以上	—	—	—

授業概要

このゼミでは、アジアの伝統社会が「近代的」に再編されていく過程と、そこに見られる諸特徴を、歴史的に検討することを目標とする。

アジアの近代は、それぞれの国・地域の内発的な発展の結果ではなく、西洋によって他律的にもたらされた面が大きいことは、否定できない。ヨーロッパにおける近代への移行が長期にわたる漸進的な変化であったのに対して、アジア諸地域の近代化は、おおむね19世紀後半から比較的急速に進行した。そこで生じた大きな変化は、政治制度・法律・経済・社会慣習・教育・芸術などさまざまな面で、現代に大きな影響を及ぼしている。したがって、現代アジア社会の成り立ちを理解するためには、近代直前の時期（近世）を起点として、その後の変化の実相を歴史的にあとづけていく必要がある。

もちろん、アジア諸地域の近代化のプロセスは、それぞれの伝統社会のありかたや、近代化の過程での諸条件（植民地支配を受けたかどうかなど）によって、一律ではない。そうした地域固有の特徴や、各地域の相互関係を視野に入れることも重要である。

このゼミで扱う地域は、日本以外の東アジア――中国とその周辺――が主となるが、ゼミ生の関心によっては、他の地域を取

り上げてもかまわない。また、日本自体は基本的に対象外だが、アジアの他地域と日本との比較という視点での取り組みは妨げない。時代の範囲も明確には定めがたいが、だいたい17世紀頃から20世紀前半までが中心となるだろう。
本科目は、「ディプロマポリシー」および「カリキュラムポリシー」にいう「論系ゼミ」に該当する。

授業の到達目標

【3年生】ゼミ生各自の関心に応じた調査・発表と質疑応答・討論を通じて、近代アジア社会の形成過程に関する理解を深め、ゼミ論文執筆へ向けての基礎知識と視座を獲得することを目標とする。
【4年生以上】
秋学期：前学期までに収集した資料に基づく分析・論証を進め、ゼミ論文を完成させる。

成績評価方法

●**試験** 0% 実施しない。
●**レポート** 0% 期末レポート等は特に課さない。
●**平常点** 100% 授業時の発表内容、討論への参加度などによる。
●**その他** 0% 特になし。

備考・関連ＵＲＬ

日程は状況に応じて随時調整します。各自の発表に対する他の学生や教員からの質問・コメントを次のステップに生かせるよう、留意してください。

科 目 名	現代中国文化論ゼミ （春学期）							
担当者名	高屋 亜希							
多元	２単位	春学期	月曜日	３時限	３年以上	—	—	—

授業概要

本ゼミは、現代中国の社会や文化に関心があり、これに関連するテーマに取り組む学生を対象とします。大陸だけでなく、台湾・香港・日本・東南アジア・欧米など、中国から移住した人々が移住先の諸地域で果たしてきた社会的役割や文化的営為も視野に入れながら、現代中国をさまざまな視点から考え、理解を深めていきます。
授業は、一つは共通のテクストの読解と議論、もう一つは受講者の発表と議論によって進めます。前者については、3年生が中心となります。共通のテクストについては、受講者の関心や語学力等を考慮した上で具体的な内容を決めます。後者については、おもに4年生が中心で、各自の関心に基づき資料を読解し、要約する作業を繰り返すことを通じて、ゼミ論文の構想を練り、完成させます。

授業の到達目標

3年生については、現代中国の社会や文化、歴史的背景について基本的な知識、資料収集の方法を身につけることを目標とします。4年生については、基本的な知識を踏まえた上で、ゼミ論の準備および発表を通じてさまざまな論点に触れ、より幅広い視野から現代中国を語る視点を獲得することを目標とします。

成績評価方法

●**試験** 0% なし
●**レポート** 40% 3年生は春学期に講読した資料の要約をA4レポート用紙1～2枚で作成し、提出してもらいます。秋学期の講読分をあわせ、1年の成果をまとめる予定です。またゼミ論執筆に向けて、参考文献の簡単なリストを作成してもらいます。4年生はゼミ論の章立てと途中経過報告を提出してもらいます。
●**平常点** 60% 出席を重視する他、発表の内容、質疑など授業への積極性を評価します。3分の2以上の出席が評価の対象となります。
●**その他** 0% なし

科 目 名	現代中国文化論ゼミ （秋学期）							
担当者名	高屋 亜希							
多元	２単位	秋学期	月曜日	３時限	３年以上	—	—	—

授業概要

本ゼミは、現代中国の社会や文化に関心があり、これに関連するテーマに取り組む学生を対象とします。大陸だけでなく、台湾・香港・日本・東南アジア・欧米など、中国から移住した人々が移住先の諸地域で果たしてきた社会的役割や文化的営為も視野に入れながら、現代中国をさまざまな視点から考え、理解を深めていきます。
授業は、一つは共通のテクストの読解と議論、もう一つは受講者の発表と議論によって進めます。前者については、3年生を中心に春学期から取り組んだテーマについて引き続き調査を進め、論点を出し合った上で、ゼミ全体で一つの発表にまとめてもらう予定です。後者については4年生が中心で、各自の関心に基づき資料を読解し、要約する作業を繰り返すことを通じて、ゼミ論文の構想を練り完成させます。

授業の到達目標

3年生については、現代中国の社会や文化、歴史的背景について基本的な知識を身につけるとともに、ゼミ論執筆に向けて各自のテーマを見つけ、調査に着手することを目標とします。4年生については、ゼミ論の準備や経過報告でさまざまな意見や論点に触れることを通じて、現代中国を語る視点を広げ、ゼミ論の完成を目指します。

成績評価方法

●**試験** 0% なし
●**レポート** 40% 3年生は各自のゼミ論計画書と参考文献リスト、調査の途中報告などを作成してもらう予定です。4年生はゼミ論完成に向けてアウトラインや草稿などを段階的に提出してもらいます。
●**平常点** 60% 出席を重視する他、発表の内容、質疑など授業への積極性を評価します。3分の2以上の出席が評価の対象となります。3年生は各自のゼミ論の準備を進め、ゼミ論構想を発表する他、1年間学んだことを総括する内容のプレゼンテーションをまとめてもらいます。4年生は草稿をもとにした発表をしてもらいます。
●**その他** 0% なし

科 目 名	東アジアの生命観と倫理ゼミ （春学期） A 東アジアの伝統的価値観の研究							
担当者名	森 由利亜 他／垣内 景子							
多元	２単位	春学期	月曜日	４時限	３年以上	—	—	—

授業概要

東アジアの伝統的価値観の研究

いま日本を含む東アジアは、新しい時代に突入しています。二十世紀の戦争を体験した人々が次第に世を去り、情報共有の仕方も根本的な変質を遂げるなかで、私たちは感情と歴史認識とが泥のように混ざりながら無秩序に流れ下る激流の中へと足を踏み入れようとしています。アジアは、日本は、これからどうなってゆくのでしょうか？そうしたなかで、非常に大切なことは、アジア諸地域の伝統的な価値観、哲学、宗教観など、文化の深層心理ともいうべき層をしっかり見据えることだと思います。このゼミでは、東アジアにおける他者や自己が携えてきた、「大切な感覚」「ものの見方」を見直していくことを目指します。

共同研究（2コマあるうちの1コマ目）

1コマ目の授業では、二人の教員がゼミの全学生と共同で課題を設定して、ゼミ生を交えながらそのつど議論をして行きます。初回もしくはその翌週の授業で、課題の設定を行います。課題によって、読書会形式になるかもしれませんし、学生にもレポートしてもらうことになるかもしれません。集まるゼミ生の興味・感心を勘案しながら進めて行きます。2コマ目と同じく毎回、必ず全員が参加しなくてはなりません。

個別研究（2コマあるうちの2コマ目）

2コマ目の授業では、学生の発表を中心に行います。ゼミ論の完成に向けて、発表・議論・指導を重ねて行きます。共同研究と同じく、全員の参加が必須となります。

過去のゼミ論題目の例：「中国の近代化と宗教」「中国における家族制度と孝の生命観」「不死の身体と倫理」「近代中国と女性」等。

授業の到達目標

共通の課題に取り組みつつ、ゼミ論文を完成させることを目的とする。

成績評価方法

●**試験** 0% 試験は行わない。
●**レポート** 50% 自分が報告を担当する際に作成するレジュメをレポートと見なし、評価の対象とします。
●**平常点** 50% 自分の報告と、報告を担当しない時間における議論の内容によって評価する。
●**その他** 0% 出席が全体授業の三分の二に満たない場合は、評価の対象としない。（G評価とする。）

備考・関連URL

なし

科 目 名	東アジアの生命観と倫理ゼミ （春学期） B 東アジアの伝統的価値観の研究							
担当者名	森 由利亜 他／垣内 景子							
多元	２単位	春学期	月曜日	５時限	３年以上	—	—	—

授業概要

東アジアの伝統的価値観の研究

いま日本を含む東アジアは、新しい時代に突入しています。二十世紀の戦争を体験した人々が次第に世を去り、情報共有の仕方も根本的な変質を遂げるなかで、私たちは感情と歴史認識とが泥のように混ざりながら無秩序に流れ下る激流の中へと足を踏み入れようとしています。アジアは、日本は、これからどうなってゆくのでしょうか？そうしたなかで、非常に大切なことは、アジア諸地域の伝統的な価値観、哲学、宗教観など、文化の深層心理ともいうべき層をしっかり見据えることだと思います。このゼミでは、東アジアにおける他者や自己が携えてきた、「大切な感覚」「ものの見方」を見直していくことを目指します。

共同研究（2コマあるうちの1コマ目）

1コマ目の授業では、二人の教員がゼミの全学生と共同で課題を設定して、ゼミ生を交えながらそのつど議論をして行きます。初回もしくはその翌週の授業で、課題の設定を行います。課題によって、読書会形式になるかもしれませんし、学生にもレポートしてもらうことになるかもしれません。集まるゼミ生の興味・感心を勘案しながら進めて行きます。2コマ目と同じく毎回、必ず全員が参加しなくてはなりません。

個別研究（2コマあるうちの2コマ目）

2コマ目の授業では、学生の発表を中心に行います。ゼミ論の完成に向けて、発表・議論・指導を重ねて行きます。共同研究と同じく、全員の参加が必須となります。

過去のゼミ論題目の例：「中国の近代化と宗教」「中国における家族制度と孝の生命観」「不死の身体と倫理」「近代中国と女性」等。

授業の到達目標

共通の課題に取り組みつつ、ゼミ論文を完成させることを目的とする。

成績評価方法

●**試験** 0% 試験は行わない。
●**レポート** 50% 自分が報告を担当する際に作成するレジュメをレポートと見なし、評価の対象とします。
●**平常点** 50% 自分の報告と、報告を担当しない時間における議論の内容によって評価する。
●**その他** 0% 出席が全体授業の三分の二に満たない場合は、評価の対象としない。（G評価とする。）

備考・関連URL

なし

科 目 名	東アジアの生命観と倫理ゼミ （秋学期） A 東アジアの伝統的価値観の研究							
担当者名	森 由利亜 他／垣内 景子							
多元	2単位	秋学期	月曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

東アジアの伝統的価値観の研究

いま日本を含む東アジアは、新しい時代に突入しています。二十世紀の戦争を体験した人々が次第に世を去り、情報共有の仕方も根本的な変質を遂げるなかで、私たちは感情と歴史認識とが泥のように混ざりながら無秩序に流れ下る激流の中へと足を踏み入れようとしています。アジアは、日本は、これからどうなってゆくのでしょうか？そうしたなかで、非常に大切なことは、アジア諸地域の伝統的な価値観、哲学、宗教観など、文化の深層心理ともいうべき層をしっかり見据えることだと思います。このゼミでは、東アジアにおける他者や自己が携えてきた、「大切な感覚」「ものの見方」を見直していくことを目指します。

共同研究（2コマあるうちの1コマ目）

1コマ目の授業では、二人の教員がゼミの全学生と共同で課題を設定して、ゼミ生を交えながらそのつど議論をして行きます。初回もしくはその翌週の授業で、課題の設定を行います。課題によって、読書会形式になるかもしれませんし、学生にもレポートしてもらうことになるかもしれません。集まるゼミ生の興味・感心を勘案しながら進めて行きます。2コマ目と同じく毎回、必ず全員が参加しなくてはなりません。

個別研究（2コマあるうちの2コマ目）

2コマ目の授業では、学生の発表を中心に行います。ゼミ論の完成に向けて、発表・議論・指導を重ねて行きます。共同研究と同じく、全員の参加が必須となります。

過去のゼミ論題目の例：「中国の近代化と宗教」「中国における家族制度と孝の生命観」「不死の身体と倫理」「近代中国と女性」等。

授業の到達目標

共通の課題に取り組みつつ、ゼミ論文を完成させることを目的とする。

成績評価方法

●**試験** 0% 試験は行わない。
●**レポート** 50% 自分が報告を担当する際に作成するレジュメをレポートと見なし、評価の対象とします。
●**平常点** 50% 自分の報告と、報告を担当しない時間における議論の内容によって評価する。
●**その他** 0% 出席が全体授業の三分の二に満たない場合は、評価の対象としない。（G評価とする。）

備考・関連URL

なし

科 目 名	東アジアの生命観と倫理ゼミ （秋学期） B 東アジアの伝統的価値観の研究							
担当者名	森 由利亜 他／垣内 景子							
多元	2単位	秋学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

東アジアの伝統的価値観の研究

いま日本を含む東アジアは、新しい時代に突入しています。二十世紀の戦争を体験した人々が次第に世を去り、情報共有の仕方も根本的な変質を遂げるなかで、私たちは感情と歴史認識とが泥のように混ざりながら無秩序に流れ下る激流の中へと足を踏み入れようとしています。アジアは、日本は、これからどうなってゆくのでしょうか？そうしたなかで、非常に大切なことは、アジア諸地域の伝統的な価値観、哲学、宗教観など、文化の深層心理ともいうべき層をしっかり見据えることだと思います。このゼミでは、東アジアにおける他者や自己が携えてきた、「大切な感覚」「ものの見方」を見直していくことを目指します。

共同研究（2コマあるうちの1コマ目）

1コマ目の授業では、二人の教員がゼミの全学生と共同で課題を設定して、ゼミ生を交えながらそのつど議論をして行きます。初回もしくはその翌週の授業で、課題の設定を行います。課題によって、読書会形式になるかもしれませんし、学生にもレポートしてもらうことになるかもしれません。集まるゼミ生の興味・感心を勘案しながら進めて行きます。2コマ目と同じく毎回、必ず全員が参加しなくてはなりません。

個別研究（2コマあるうちの2コマ目）

2コマ目の授業では、学生の発表を中心に行います。ゼミ論の完成に向けて、発表・議論・指導を重ねて行きます。共同研究と同じく、全員の参加が必須となります。

過去のゼミ論題目の例：「中国の近代化と宗教」「中国における家族制度と孝の生命観」「不死の身体と倫理」「近代中国と女性」等。

授業の到達目標

共通の課題に取り組みつつ、ゼミ論文を完成させることを目的とする。

成績評価方法

●**試験** 0% 試験は行わない。
●**レポート** 50% 自分が報告を担当する際に作成するレジュメをレポートと見なし、評価の対象とします。
●**平常点** 50% 自分の報告と、報告を担当しない時間における議論の内容によって評価する。
●**その他** 0% 出席が全体授業の三分の二に満たない場合は、評価の対象としない。（G評価とする。）

備考・関連URL

なし

科 目 名	思想文化論ゼミ （春学期） A 漢字文化圏の古典研究							
担当者名	吉原 浩人							
多元	2単位	春学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

本ゼミは、日本もしくは中国・台湾・韓国・ベトナムなど、漢字文化圏における前近代の思想・宗教・文学・美術などに興味を持つ学生を対象に設置します。

3年生は、まず漢字文化圏のあらゆる文献を読解するための基礎となる、古典漢文を正しく読むための訓練から入ります。漢文は、東アジアの共通言語として、様々な局面に用いられ、影響を与えていますが、漢文は基本的な法則と調査方法さえ身につければ、それほど難しいものではありません。四六駢儷文読解の基礎を身につけるため、長年培ったノウハウを、丁寧に伝授します。辞書の使い方や資料の調査方法ばかりでなく、パソコンを利用した検索方法をも指導します。また、大学院進学希望者に対しては、必要なアドバイスを与えます。

具体的には、平安朝漢文学の精華、『本朝文粋』から短い作品を選んで輪読しますが、きちんと指導するので、初学者でも不安を持つ必要はありません。

夏期には、3・4年生合同のゼミ合宿を実施し、東洋文化についての見聞と理解を深めます。また、希望者に対しては漢字文化圏への海外研修旅行も実施します。

授業の到達目標

漢文読解を通じて、東アジア文化全般についての理解を深めます。また、ゼミ論執筆に向けての指導を行います。

成績評価方法

レポート40%：春期末にレポートを課します。

平常点60%：ゼミの各種発表、参加態度、出席などを総合して決定します。

備考・関連URL

3・4年合同ゼミをしばしば行うので、月曜5・6限には、他の授業や予定などを入れないようにしてください。

適当な時期に、中国・台湾・韓国のいずれかを訪れ、現地大学生との交流などを中心にした研修旅行を実施する予定ですが、参加を強制するものではありません。夏期に実施する国内合宿については、全員参加を原則とします。

科 目 名	思想文化論ゼミ （春学期） B 漢字文化圏の古典研究							
担当者名	吉原 浩人							
多元	2単位	春学期	月曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

本ゼミは、日本もしくは中国・台湾・韓国など、漢字文化圏における前近代の思想・宗教・文学・美術などに興味を持つ学生を対象に設置します。

4年生は、応用的な作品の輪読を行いつつ、ゼミ論の完成に向けて、個別の指導を行います。読解する作品については、学生の希望を聴いて決定します。また、辞書の使い方や資料の調査方法ばかりでなく、パソコンを利用した検索方法を指導し、大学院進学希望者に対しては、必要なアドバイスを与えます。

夏期には、3・4年生合同のゼミ合宿を実施し、東洋文化についての見聞と理解を深めます。また、希望者に対しては漢字文化圏への海外研修旅行も実施します。

授業の到達目標

ゼミ論の完成を最終目標に、指導を行います。また、漢文や日本古典読解を通じて、東アジア文化全般についての理解を深めます。

成績評価方法

平常点100%：ゼミの各種発表、ゼミ論計画発表、参加態度、出席などを総合して決定します。

備考・関連URL

3・4年合同ゼミをしばしば行うので、月曜5・6限には、他の授業や予定などを入れないようにしてください。

適当な時期に、中国・台湾・韓国のいずれかを訪れ、現地大学生との交流などを中心にした研修旅行を実施する予定ですが、参加を強制するものではありません。夏期に実施する国内合宿については、全員参加を原則とします。

科 目 名	思想文化論ゼミ （秋学期） A 漢字文化圏の古典研究							
担当者名	吉原 浩人							
多元	2単位	秋学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

春学期に同じ。

授業の到達目標

春学期に同じ。

成績評価方法

レポート40%：秋期末にレポートを課します。

平常点60%：ゼミの各種発表、参加態度、出席などを総合して決定します。

備考・関連URL

3・4年合同ゼミをしばしば行うので、月曜5・6限には、他の授業や予定などを入れないようにしてください。

適当な時期に、中国・台湾・韓国のいずれかを訪れ、現地大学生との交流などを中心にした研修旅行を実施する予定ですが、参加を強制するものではありません。夏期に実施する国内合宿については、全員参加を原則とします。

科 目 名	思想文化論ゼミ （秋学期） B 漢字文化圏の古典研究							
担当者名	吉原 浩人							
多元	2単位	秋学期	月曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

合同授業以外は、ゼミ論の個別執筆指導を行います。

授業の到達目標
ゼミ論の完成を、最終目標とします。
成績評価方法
平常点100%：ゼミ論執筆指導に積極的に参加したか、ゼミ論公開口頭試問会できちんと発表できたかなどを総合して決定します。
備考・関連URL
3・4年合同ゼミをしばしば行うので、月曜5・6限には、他の授業や予定などを入れないようにしてください。
適当な時期に、中国・台湾・韓国のいずれかを訪れ、現地大学生との交流などを中心にした研修旅行を実施する予定ですが、参加を強制するものではありません。

科 目 名	漢字・漢文文化ゼミ （春学期） A							
担当者名	河野　貴美子							
多元	2単位	春学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要
本ゼミが掲げる「漢字・漢文文化」とは、中国を中心として朝鮮、日本など東アジア諸地域に及んだ、漢字・漢文を基として展開してきた学術・文化全般を指していうものです。本ゼミでは、既成の学問の枠組みにとらわれず、古代から現代に至るまでの日本、中国、朝鮮など東アジア各地域におけるさまざまな文化現象を漢字・漢文文化への視点を軸にして考察し、魅力ある新たな東アジア文化論を構築していきたいと考えています。東アジア地域は、かつて漢字・漢文を共有したことにより、世界的にみても独自の文化圏を形成してきたといえます。授業では、日本を含む東アジア地域共通の文化基盤となっている「漢字・漢文文化」について、その本質、特質、意義、問題点をさまざまな角度から考察していきます。具体的には、漢字・漢文文化に関する先行研究を読み深めると同時に、実際の作品・文献の輪読も合わせて行います。また、ゼミ論文に向けての準備を進め、構想発表を行います。
授業の到達目標
漢字・漢文文化を中心に、東アジア文化研究を進めていくために必要な知識や方法の習得を目指します。基本的な参考文献の利用法や、情報の収集方法を身につけるとともに、実際の作品・文献を通して基本的な読解作業、資料の活用にも取り組みます。また、各自のテーマにしたがってゼミ論文の構想に向けての調査、研究を合わせて進めていきます。
成績評価方法
●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　30%　　内容、構成、資料の使い方などを総合的に評価します。
●**平常点**　70%　　授業への参加状況および討論の内容。
●**その他**　0%

科 目 名	漢字・漢文文化ゼミ （春学期） B							
担当者名	河野　貴美子							
多元	2単位	春学期	月曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要
漢字・漢文文化に関する先行研究への理解を深めるとともに、作品・文献の輪読を行います。また、ゼミ論文の執筆、提出に向けて具体的な作業を進め、中間報告などを行っていきます。
授業の到達目標
東アジア文化研究に関わる知識を深め、広い視野で情報を収集し、分析検討する力を身につけます。漢字・漢文による作品・文献の読解にも習熟するとともに、より発展的な思考に展開できる応用力の獲得を目指します。そのうえで、各自のゼミ論文の中間報告を行い、ゼミ論文の完成に向けて執筆を進めます。
成績評価方法
●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　0%　　行わない。
●**平常点**　100%　　授業への参加状況、発表等。
●**その他**　0%

科 目 名	漢字・漢文文化ゼミ （秋学期） A							
担当者名	河野　貴美子							
多元	2単位	秋学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要
本ゼミが掲げる「漢字・漢文文化」とは、中国を中心として朝鮮、日本など東アジア諸地域に及んだ、漢字・漢文を基として展開してきた学術・文化全般を指していうものです。本ゼミでは、既成の学問の枠組みにとらわれず、古代から現代に至るまでの日本、中国、朝鮮など東アジア各地域におけるさまざまな文化現象を漢字・漢文文化への視点を軸にして考察し、魅力ある新たな東アジア文化論を構築していきたいと考えています。東アジア地域は、かつて漢字・漢文を共有したことにより、世界的にみても独自の文化圏を形成してきたといえます。授業では、日本を含む東アジア地域共通の文化基盤となっている「漢字・漢文文化」について、その本質、特質、意義、問題点をさまざまな角度から考察していきます。具体的には、漢字・漢文文化に関する先行研究を読み深めると同時に、実際の作品・文献の輪読も合わせて行います。また、ゼミ論文に向けての準備を進め、構想発表を行います。
授業の到達目標
漢字・漢文文化を中心に、東アジア文化研究を進めていくために必要な知識や方法の習得を目指します。基本的な参考文献の利用法や、情報の収集方法を身につけるとともに、実際の作品・文献を通して基本的な読解作業、資料の活用にも取り組みます。また、各自のテーマにしたがってゼミ論文の構想に向けての調査、研究を合わせて進めていきます。
成績評価方法
●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　30%　　内容、構成、資料の使い方などを総合的に評価します。

●**平常点**　70%　　授業への参加状況および討論の内容。
●**その他**　0%

科 目 名	漢字・漢文文化ゼミ　（秋学期）　B							
担当者名	河野　貴美子							
多元	２単位	秋学期	月曜日	６時限	３年以上	—	—	—

授業概要

漢字・漢文文化に関する先行研究への理解を深めるとともに、作品・文献の輪読を行います。また、ゼミ論文の執筆、提出に向けて具体的な作業を進め、中間報告などを行っていきます。

授業の到達目標

東アジア文化研究に関わる知識を深め、広い視野で情報を収集し、分析検討する力を身につけます。漢字・漢文による作品・文献の読解にも習熟するとともに、より発展的な思考に展開できる応用力の獲得を目指します。そのうえで、各自のゼミ論文の中間報告を行い、ゼミ論文の完成に向けて執筆を進めます。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　0%　　行わない。
●**平常点**　100%　　授業への参加状況、発表等。
●**その他**　0%

科 目 名	日本文化史ゼミ　（春学期）							
担当者名	伊川　健二							
多元	２単位	春学期	木曜日	５時限	３年以上	—	—	—

授業概要

本ゼミは、2017年4月に発足した新しいゼミで、日本史、とりわけ文化史の諸問題を広範に探求、議論し、ゼミ論文完成に到達するための場所である。ここにいう「文化」は芸術や文学などの狭義の内容はいうまでもなく、特定の社会で共有される生活様式一般を含んでいる。受講者は極力自由に問題を設定し、発表や議論を通じて考察を深めていく。それらの活動を通じて、学問としての歴史学の方法論に触れ、ゼミ論文の完成を目指す。

テーマは基本的に受講者の希望により設定されるが、本ゼミにふさわしいものであることのほか、受講者の生年以前（生年を含まない）の出来事であることを要件とする。また、外国との関係史、比較史を観点とする研究を歓迎する。

【3年生】

春期：歴史学の出発点となる史料について、『日本史史料論』に基づく口頭報告により概観する。
　　また、『文学に現はれたる我が国民思想の研究』を通じて文化史への理解を深める。

秋期：春期の学習内容や夏季休暇期間中の学習を踏まえて、各自の研究テーマを設定し、先行研究などについて報告をする。

【4年生】

春期：前学期に設定したテーマについて、春期休暇などの時間を使用して論文の全体構想を練り、発表し、その適否を議論する。

秋期：夏期休暇などの時間を使用して、論文の独自性を打ち出し、発表し、ゼミ論文提出にむけての最終的な準備をする。

【その他】

木曜6限を次の用途に使用することがありうる。
・3年生・4年生のうち希望者がいる場合、和製漢文の読解などのさらに高度な研究・学習の場とする。
・4年生秋期には、論文指導に使用することがありうる。
・外部の講師を招聘する際に、講演時間に使用することがありうる。

授業計画における「研究発表」の一部を、現地見学などの活動に振り替えることがありうる。

論系ゼミ

授業の到達目標

ゼミ論文完成を最終目標として、各段階における内容を着実に消化することで、その準備を進める。
以上および以下の具体的内容はあくまで予定であり、受講者との相談によるなどの事情により変更される可能性がある。

成績評価方法

●**試験**　0%　　-
●**レポート**　60%　　ゼミにおける報告内容
●**平常点**　40%　　出席および授業時間中における発言
●**その他**　0%　　※ただし、以下の条件にひとつでも当てはまる者は、原則として不合格とする。　・主として欠席または遅刻により、初回授業終了時点で割振りが未定である者　・当該学期のすべての発表担当回において、欠席、あるいは出席しても発表ができなかった者　・出欠を確認した回の半数以上の欠席が認定された者（半数を含む）

科 目 名	日本文化史ゼミ　（秋学期）							
担当者名	伊川　健二							
多元	２単位	秋学期	木曜日	５時限	３年以上	—	—	—

授業概要

本ゼミは、2017年4月に発足した新しいゼミで、日本史、とりわけ文化史の諸問題を広範に探求、議論し、ゼミ論文完成に到達するための場所である。ここにいう「文化」は芸術や文学などの狭義の内容はいうまでもなく、特定の社会で共有される生活様式一般を含んでいる。受講者は極力自由に問題を設定し、発表や議論を通じて考察を深めていく。それらの活動を通じて、学問としての歴史学の方法論に触れ、ゼミ論文の完成を目指す。

テーマは基本的に受講者の希望により設定されるが、本ゼミにふさわしいものであることのほか、受講者の生年以前（生年を含まない）の出来事であることを要件とする。また、外国との関係史、比較史を観点とする研究を歓迎する。

【3年生】

春期：歴史学の出発点となる史料について、『日本史史料論』に基づく口頭報告により概観する。
　　また、『文学に現はれたる我が国民思想の研究』を通じて文化史への理解を深める。

秋期：春期の学習内容や夏季休暇期間中の学習を踏まえて、各自の研究テーマを設定し、先行研究などについて報告をする。
【4年生】
春期：前学期に設定したテーマについて、春期休暇などの時間を使用して論文の全体構想を練り、発表し、その適否を議論する。
秋期：夏期休暇などの時間を使用して、論文の独自性を打ち出し、発表し、ゼミ論文提出にむけての最終的な準備をする。
【その他】
木曜6限を次の用途に使用することがありうる。
・3年生・4年生のうち希望者がいる場合、和製漢文の読解などのさらに高度な研究・学習の場とする。
・4年生秋期には、論文指導に使用することがありうる。
・外部の講師を招聘する際に、講演時間に使用することがありうる。
授業計画における「研究発表」の一部を、現地見学などの活動に振り替えることがありうる。

授業の到達目標

ゼミ論文完成を最終目標として、各段階における内容を着実に消化することで、その準備を進める。
以上および以下の具体的内容はあくまで予定であり、受講者との相談によるなどの事情により変更される可能性がある。

成績評価方法

●**試験** 0% －
●**レポート** 60% ゼミにおける報告内容
●**平常点** 40% 出席および授業時間中における発言
●**その他** 0% ※ただし、以下の条件にひとつでも当てはまる者は、原則として不合格とする。 ・主として欠席または遅刻により、初回授業終了時点で割振りが未定である者 ・当該学期のすべての発表担当回において、欠席、あるいは出席しても発表ができなかった者 ・出欠を確認した回の半数以上の欠席が認定された者（半数を含む）

科 目 名	ヨーロッパ文化論ゼミ（春学期） なぜ人びとは国民や民族の名のもとに争うのか？争えるのか？争わねばならないのか？①							
担当者名	中澤 達哉							
多元	2単位	春学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

なぜ二つの世界大戦はヨーロッパで始まったのか？ なぜ近現代ヨーロッパの人びとは国民や民族（ネイション）のために命を賭してまで戦いあえたのか？ このような問いをたてるとき、必ず議論となるのが、そもそもヨーロッパの国民/民族は太古の昔から存在する共同体なのかどうか、あるいは、近代以降に創られた人工物なのかどうか、という論題である。現在の学説はふたつに割れている。前者は、国民/民族の起源を古代に置き血縁的・社会的連続性を重視する「原初論系本質主義」であり、後者は、18世紀の産業革命に際して国民/民族が構築ないしは捏造されたと理解する「近代論系構築主義」である。
近現代ヨーロッパ史研究において最大のテーマの一つとされる、近代国民/民族とそのナショナリズムの根源に関する研究方法（主にE・ゲルナー、B・アンダーソン、E・ホブズボーム、A・スミスの学説）を学び、近世後期以降のヨーロッパ文化を考察する際に必要な観点や諸学説の整理の仕方など、総合的な分析力を高める。

授業の到達目標

ヨーロッパ近現代史に関する日本語・欧語の著書や論文が、はたして原初論に依拠して書かれているのか、それとも近代論に基づき書かれているのか、しっかりと読解できるようになること。

成績評価方法

●**試験** 0% 試験は実施しない。
●**レポート** 50% レジュメ発表、パワーポイント発表を、提出レポートとして理解し、総合的に判断する。 正確かつ論理的な研究発表をすることができる。
●**平常点** 50% 授業内容を理解し、質問などを通して、授業に積極的に参加している。
●**その他** 0%

科 目 名	ヨーロッパ文化論ゼミ（秋学期） なぜ人びとは国民や民族の名のもとに争うのか？争えるのか？争わねばならないのか？②							
担当者名	中澤 達哉							
多元	2単位	秋学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

1980年代以降のヨーロッパ・ナショナリズム研究は、近代論（modernizationtheory）と原初論（primordialism theory）ないしはエスノ象徴主義（ethnosymbolism）という図式のもとで論争が繰り広げられ、文化人類学・社会人類学・民族学・政治学・社会学・歴史学の領域を超えて世界レベルで深化した。なかでも「近代論系構築主義」の文化研究には、カルチュラル・スタディーズやポストコロニアル・スタディーズも加わり、2010年前後まで国民国家に関する論壇は活況を呈していた。しかし現在では、こうした盛況もいささか昔日のものとなった。なによりも注視しなければならないのは、原初論・近代論ともに理論的な限界が指摘されはじめていることである。
本ゼミでは、両学説の内実を詳細に検証し、その利点と問題点を史料分析も交えながら把握する。これによって、文献を解読する際に必要な実証力や諸学説の整理の仕方など、総合的な研究力をさらに高める。そのうえで、ナショナリズムのほか、愛国主義・自民族中心主義・排他主義・難民問題・移民問題・地域主義・EUの今後まで考えたい。

授業の到達目標

学説整理のうえでナショナリズムに関する実証的な論文を書くことができるようになること。簡潔で的確なプレゼンテーションができるようになること。

成績評価方法

●**試験** 0% 試験は実施しない。
●**レポート** 50% レジュメ発表、パワーポイント発表を、提出レポートとして理解し、ゼミ論文とあわせて総合的に判断する。 正確かつ論理的な研究発表をすることができる。
●**平常点** 50% 授業内容を理解し、質問などを通して、授業に積極的に参加している。
●**その他** 0%

科 目 名	ユーラシア文化論ゼミ （春学期）							
担当者名	源　貴志							
多元	２単位	春学期	木曜日	５時限	３年以上	—	—	—

授業概要

まずゼミ全体のなかで、つづいて少人数のグループのなかで、ゼミ生それぞれがどのような関心と知的背景を持つかを披瀝しあうことになる。春学期中はそれぞれのグループに4年生がコメンテーターとして参加してする。

なお、3年生にとってはまだ「広い関心」ということが、すなわち「関心が1点にさだまらない」状態であることが予想されるので、夏期休業中がテーマを絞っていくための読書・調査・思索の期間となるだろう。その手がかりをゼミ参加者や担当教員から得られるように、夏期休業中に2泊の合宿を設定する予定。

4年生は3年生への助言などを行ないながら、一方でゼミ論文執筆に向けての準備を進める。

授業の到達目標

3年生については、まずなによりもみずから興味をもつものの魅力を、それぞれの個性を生かしたかたちで第三者に伝えられるようになることが目標となる。

4年生については、ゼミ論文のテーマの確定と、核になる部分の執筆、全体の目次立てなどに目途をつけることが目標となる。

成績評価方法

平常点評価：100%　ディスカッションなど、日頃の活動の様子に加えて、発表資料などを評価の対象とする。

科 目 名	ユーラシア文化論ゼミ （秋学期）							
担当者名	源　貴志							
多元	２単位	秋学期	木曜日	５時限	３年以上	—	—	—

授業概要

3年生にとっては、絞り込んだテーマをゼミ員に対して説明するようなプレゼンテーションの期間であり、同時に、ゼミ論文作成に向けて必要な、文献収集・調査などの計画を立てる期間となる。この期間は、ゼミ参加者それぞれと担当教員との個別の対話が重きをなすようになるだろう。1月から春休み期間中にかけては、計画に沿って文献収集・調査に当たる期間となる。

4年生はこの期間に個別指導を受けつつ、ゼミ内で論文執筆の途中経過を発表し、ゼミ員による反応を論文の最終稿に反映させることになる。

授業の到達目標

3年生については、4年次におけるゼミ論文執筆のためのテーマ設定がおぼろげながらも見えてくるようになることが目標となる。

4年生の目標は、言うまでもなく、ゼミ論文の完成であり、書き終わった瞬間に、みずからが達成感を得ることにある。

成績評価方法

平常点評価：100%　ディスカッションなど、日頃の活動の様子に加えて、発表資料などを評価の対象とする。

科 目 名	イギリス・アイルランド・英連邦諸国ゼミ （春学期） A　イギリス諸地域に関する通時的な知識を身につけよう							
担当者名	渡辺　愛子							
多元	２単位	春学期	火曜日	４時限	３年以上	—	—	—

授業概要

前期はイギリス通史として、なんと新石器時代(!)から最近の出来事までを網羅したDargieの*A History of Britain*を扱う。大きな本ではあるが、さまざまな歴史項目をコンパクトに見開きでまとめ読みやすい体裁づくりを目指した‘“A”History’に仕上がっている。ゼミ生一人ひとり（あるいはグループ）が担当の時代区分をまずは時系列的に概説した上で、関心のある歴史事象についてさらにリサーチを行い発表する。その際、プレゼンの体裁やスピーチ技術の向上にも留意してもらいたい。

なお、一年を通じ授業のはじめには、毎回ウォーミングアップとして欧米に古くから伝わる伝承童謡(‘nursery rhymes’ or ’Mother Goose’)を紹介する。まずは解釈を行い童謡の内容を把握した後、発音やメロディーに注意しながら暗記・暗唱してもらう。こちらに関しては予習の必要はないが、履修者の積極的なコミットメントが期待される（独唱、合唱、輪唱などなど…）。

※授業内では、日本語・英語を「公用語」として、積極的に発言してもらいたい。

授業の到達目標

ゼミ要項にも記したとおり、このゼミでは、イギリス、アイルランドという地理的に近接した地域だけでなく、英連邦諸国、すなわち「イギリス帝国の旧植民地」という、歴史上で政治的に構築された諸地域を扱い、小説、詩、戯曲、映画、サブカルチャーなどに表れた国や地域、時代、政治、民俗、思想などを映し出す文化的表象に関する知識を深めることが目的である。

また、「ナーサリーライムズ」に親しむことによって、欧米の民衆文化だけでなく、文学をはじめ、映画、新聞など、現在でも数多くの場面に顔を出す、さまざまな伝承童謡の現代的意義や歴史性についても考える。

成績評価方法

●**試験**　10%　　授業の冒頭で行う「ナーサリーライムズ」に関するテスト
●**レポート**　40%　　学期末課題論文
●**平常点**　50%　　出席を重視するほか、原則として、個人発表と授業における貢献度を評価基準とする。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

Course N@viまたはWaseda Moodleを利用して様々な連絡・告知を行うため、メールを受信できるように各自設定しておくこと。

あらゆる場面での積極的参加をとくに重視する。また、授業への出席と担当部分の発表を規定回数以上行うことが期末課題論文提出の最低条件である。

科 目 名	イギリス・アイルランド・英連邦諸国ゼミ （春学期） B 論文作成の基礎を身につけ、独創的な「自分だけの」ゼミ論を書き上げよう							
担当者名	渡辺　愛子							
多元	2単位	春学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

4年生対象のこの「発展ゼミ」では、3年次の「基礎ゼミ」で培った基礎知識をふまえ、論文の形式や情報収集方法を学んだ上で自分自身のテーマに取り組み、最終的にゼミ論文としてまとめる。前期は論文執筆のための基礎能力育成と研究の経過報告を行う。

しかし、このゼミは、必ずしも「結果」としての論文や、それを執筆する行為だけを求めているわけではない。むしろ、(1)テーマの設定、(2)本や雑誌論文などの資料の収集・整理、(3)資料の正確な理解とその批判的考察、(4)収集した情報と各自の考察の報告と討論、(5)調査内容や自分の考えを論文として適切な構成と形式の文章にまとめあげる、といった「過程」を重視する。

イギリス・アイルランド・英連邦諸国を扱うゼミであるため、当然のことながら資料は日本語のもの（翻訳も含む）だけでなく英語のもの（原典）にもあたることが要求される。また、トピックや先行研究の紹介だけでなく執筆者自身の独創的な視点や解釈が求められることにも留意すること。

授業の到達目標

イギリス・アイルランド・英連邦諸国に関連するトピックから、論文として適切なテーマを設定し、十分な情報収集を行い、自分の考えをまとめ、論を組立て、それを文章および口頭で発信する能力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　出席、提出物（※ゼミ論文自体は別評価）、発表と討論における貢献度により評価する。ゼミ論文の内容については、テーマと調査方法の適切さ、収集資料とその理解度、論理構成、論文形式、独創性などについて評価する。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

Course N@viまたはWaseda Moodleを利用して様々な連絡・告知を行うため、メールを受信できるように各自設定しておくこと。

あらゆる場面での積極的参加をとくに重視する。また、授業への出席と担当部分の発表を規定回数以上行うことが期末課題論文提出の最低条件である。

科 目 名	イギリス・アイルランド・英連邦諸国ゼミ （秋学期） A イギリス諸地域に関する共時的な知識を身につけよう							
担当者名	渡辺　愛子							
多元	2単位	秋学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

後期はおもに、多くの学生が関心を寄せている現在のイギリス社会を中心に、ナショナリズム、人種、階級、ジェンダーなどに関する現代的問題を扱った諸論文を読んでいく。まずは正確な英文読解をめざし、問題意識を培ったうえで、各自がリサーチを行う。学期の後半では、次年度に控えたゼミ論文の構想を練る段階まで到達したい。

なお、前期同様、授業のはじめには、毎回ウォーミングアップとして欧米に古くから伝わる伝承童謡('nursery rhymes' or 'Mother Goose')を紹介する。まずは解釈を行い童謡の内容を把握した後、発音やメロディーに注意しながら暗記・暗唱してもらう。こちらに関しては予習の必要はないが、履修者の積極的なコミットメントが期待される（独唱、合唱、輪唱などなど…）。

※授業内では、日本語・英語を「公用語」として、積極的に発言してもらいたい。＜英語によるプレゼンテーション＞もトレーニングの一環に含まれることになるだろう。

授業の到達目標

ゼミ要項にも記したとおり、このゼミでは、イギリス、アイルランドという地理的に近接した地域だけでなく、英連邦諸国、すなわち「大英帝国の旧植民地」という、歴史上で政治的に構築された諸地域を扱い、小説、詩、戯曲、映画、サブカルチャーなどに表れた国や地域、時代、政治、民俗、思想などを映し出す文化的表象に関する知識を深めることが目的である。

また、「ナーサリーライムズ」に親しむことによって、欧米の民衆文化だけでなく、文学をはじめ、映画、新聞など、現在でも数多くの場面に顔を出す、さまざまな伝承童謡の現代的意義や歴史性についても考える。

成績評価方法

●**試験**　10%　　授業の冒頭で行う「ナーサリーライムズ」に関するテスト
●**レポート**　40%　　ゼミ論文構想
●**平常点**　50%　　出席を重視するほか、原則として、発表と授業における貢献度を評価基準とする。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

Course N@viまたはWaseda Moodleを利用して様々な連絡・告知を行うため、メールを受信できるように各自設定しておくこと。

あらゆる場面での積極的参加をとくに重視する。また、授業への出席と担当部分の発表を規定回数以上行うことが期末課題論文提出の最低条件である。

科 目 名	イギリス・アイルランド・英連邦諸国ゼミ （秋学期） B 論文作成の基礎を身につけ、独創的な「自分だけの」ゼミ論を書き上げよう							
担当者名	渡辺　愛子							
多元	2単位	秋学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

4年生対象のこの「発展ゼミ」では、3年次の「基礎ゼミ」で培った基礎知識をふまえ、論文の形式や情報収集方法を学んだ上で自分自身のテーマに取り組み、最終的にゼミ論文としてまとめる。後期は中間発表を通じて検討をかさねながら、ゼミ論完成を目指す。しかし、このゼミは、必ずしも「結果」としての論文や、それを執筆する行為だけを求めているわけではない。むしろ、(1)テーマの設定、(2)本や雑誌論文などの資料の収集・整理、(3)資料の正確な理解とその批判的考察、(4)収集した情報と各自の考察の報告と討論、(5)調査内容や自分の考えを論文として適切な構成と形式の文章にまとめあげる、といった「過程」

を重視する。イギリス・アイルランド・英連邦諸国を扱うゼミであるため、当然のことながら資料は日本語のもの（翻訳も含む）だけでなく英語のもの（原典）にもあたることが要求される。また、トピックや先行研究の紹介だけでなく執筆者自身の独創的な視点や解釈が求められることにも留意すること。

授業の到達目標

イギリス・アイルランド・英連邦諸国に関連するトピックから、論文として適切なテーマを設定し、十分な情報収集を行い、自分の考えをまとめ、論を組立て、それを文章および口頭で発信する能力を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　出席、数回ある草稿の期限内提出により評価する（※ゼミ論文自体は別評価）。
●**その他**　0%　　なし

備考・関連ＵＲＬ

Course N@viまたはWaseda Moodleを利用して様々な連絡・告知を行うため、メールを受信できるように各自設定しておくこと。あらゆる場面での積極的参加をとくに重視する。

また、授業への出席と担当部分の発表を規定回数以上行うことが期末課題論文提出の最低条件である。

科 目 名	言語・文化・英語教育ゼミ　（春学期）　South Asian Language, Culture and Society							
担当者名	ホサイン　タニア							
多元	２単位	春学期	月曜日	５時限	３年以上	—	—	—

授業概要

Language is not only a means of communication but it is also a social phenomenon which is closely tied up with social structures and values. Language is indissolubly linked with the members of the society in which it is spoken, and social factors are inevitably reflected in their speech. English is currently regarded as the world's principal international language. It performs a useful function in the multilingual society. People are not forced to master English at all costs. There are people who adopt English and use it alongside their own culture, and combine it with. In this class we will look at how English varies around the world as well as at issues that affect language usage such as age, gender, and class. Difference among countries as well as within countries will be considered.

At the same time, language and culture are deeply related in many ways, and languages influence human values and the culture in which they are born. Culture strongly influences how an individual approaches education, and a society's culture determines how that society educates its citizens. Because culture consists of values and beliefs that influence practices, students are more likely to engage in education that aligns with and includes their cultural identity. Culture refers to the core beliefs and customs of a particular group of people, and it can be observed in many aspects of their lives, such as their language, food, clothing, religious ceremonies, symbols and history. In many cases, culture is associated with family origins, race, ethnicity and geographic location; but culture can also be gained by choosing to identify with a specific group. Learning a language other than your mother tongue also increases your opportunities to come into contact with information about different cultures and diverse values and ways of thinking. It goes without saying that English as an international language in particular opens up opportunities for access to diverse cultures.

授業の到達目標

This seminar examines English language issues at societal and global levels. It discusses the historical context of the global development of English, status of English as a first and second language, and issues involving English that are currently developing in and across diverse societies. This seminar will help students to understand the educational systems, successes, and problems of different countries. It will also show how education creates inequalities in the society. This seminar is useful for students who want to work in international organizations, interpretation/translation, and foreign language education after graduation.

成績評価方法

●**試験**　20%
●**レポート**　40%
●**平常点**　40%
●**その他**　0%

科 目 名	言語・文化・英語教育ゼミ　（秋学期）　Middle Eastern Culture and Society							
担当者名	ホサイン　タニア							
多元	２単位	秋学期	月曜日	５時限	３年以上	—	—	—

授業概要

Language is not only a means of communication but it is also a social phenomenon which is closely tied up with social structures and values. Language is indissolubly linked with the members of the society in which it is spoken, and social factors are inevitably reflected in their speech. English is currently regarded as the world's principal international language. It performs useful function in the multilingual society. People are not forced to master English at all costs. There are people who adopt English and use it alongside their own culture, and combine it with. In this class we will look at how English varies around the world as well as at issues that affect language usage such as age, gender, and class. Difference among countries as well as within countries will be considered.

At the same time, language and culture are deeply related in many ways, and languages influence human values and the culture in which they are born. Culture strongly influences how an individual approaches education, and a society's culture determines how that society educates its citizens. Because culture consists of values and

beliefs that influence practices, students are more likely to engage in education that aligns with and includes their cultural identity. Culture refers to the core beliefs and customs of a particular group of people, and it can be observed in many aspects of their lives, such as their language, food, clothing, religious ceremonies, symbols and history. In many cases, culture is associated with family origins, race, ethnicity and geographic location, but culture can also be gained by choosing to identify with a specific group. Learning a language other than your mother tongue also increases your opportunities to come into contact with information about different cultures and diverse values and ways of thinking. It goes without saying that English as an international language in particular opens up opportunities for access to diverse cultures.

授業の到達目標

This seminar examines English language issues at societal and global levels. It discusses the historical context of the global development of English, status of English as a first and second language, and issues involving English that are currently developing in and across diverse societies. This seminar will help students to understand the educational systems, successes, and problems of different countries. It will also show how education creates inequalities in the society. This seminar is useful for students who want to work in international organizations, interpretation/translation, and foreign language education after graduation.

P.S. Although Egypt does not belong to the Middle East but it will be taught in this course because of cultural similarities

成績評価方法

In-class writing……30%
Long paper……40%
Group presentation……20%
Portfolio, home work, participation……10%

科 目 名	地中海文化論ゼミ （春学期）							
担当者名	井上　文則							
多元	2単位	春学期	火曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

ギリシア・ローマ文化を初めとする地中海文化の諸問題について考える。受講生各自が設定したテーマを報告し、参加者で討論する。「カリキュラムポリシー」の「論系ゼミ」に当たる科目であり、「学生同士が互いに刺激し合い切磋琢磨する環境を通じて、・・・「ゼミ論文」」を完成させることを目指す。

授業の到達目標

ゼミ論文の作成および、地中海地方の諸文化についての知見を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　出席・報告・討論内容によって総合的に評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	地中海文化論ゼミ （秋学期）							
担当者名	井上　文則							
多元	2単位	秋学期	火曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

ギリシア・ローマ文化を初めとする地中海文化の諸問題について考える。受講生各自が設定したテーマを報告し、参加者で討論する。「カリキュラムポリシー」の「論系ゼミ」に当たる科目であり、「学生同士が互いに刺激し合い切磋琢磨する環境を通じて、・・・「ゼミ論文」」を完成させることを目指す。

授業の到達目標

ゼミ論文の作成および、地中海地方の諸文化についての知見を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　出席・報告・討論内容によって総合的に評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	アメリカ文化論ゼミ （春学期）							
担当者名	チャン　エドワード　ケイ							
多元	2単位	春学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

3rd-year students: (NOTE: The content and format of this seminar has changed from previous years.) The seminar will be an introduction to American studies, which is an interdisciplinary field of study focused on various aspects of American culture. We will organize our study of America around key topics (many of which are overlapping), such as national identity, race and ethnicity, class, gender, sexual orientation, globalization, immigration, regionalism, foodways, consumerism, countercultures, and so on. The seminar will emphasize "active learning," meaning students are expected to actively contribute to the class through participation, discussion based on homework assignments, presentations, among other things. The course will be conducted entirely in English, and students should be prepared to speak in English during class every week.

4th-year students: The main focus of this course is to conduct research and produce a draft of the Graduation Thesis (4,000 words) to prepare for the final version (final version: 8,000 words) in the fall semester. Students

will conduct research for the graduation thesis each week and do informal status reports and a presentation on their research to both 3rd-year and4th-year students during the semester. The class format will be research/writing workshops meeting with 3rd-year students. The course will be conducted entirely in English, and students should be prepared to speak in English during class every week.

授業の到達目標

3rd-year students: Students will learn about various aspects of American culture and how to analyze culture from an academic perspective. They will also develop critical thinking, analytical skills, and English-language discussion skills. The main objective is to prepare students for researching and writing the Graduation Thesis during the fourth year.

4th-year students: Students will learn and practice academic research and writing skills for the main objective: to produce the graduation thesis.

成績評価方法

(subject to change)
Evaluation for 3rd-year students:
Weekly reading quizzes (12 x 5 points): 60%
Presentations (2 x 10 points): 20%
Participation/In-class activities: 20%
TOTAL: 100 %

Evaluation for 4th-year students:
Annotations (4 x 10 points): 40%
Bibliography: 10%
First draft: 20%
Thesis presentation: 20%
Participation/In-class activities: 10%
TOTAL: 100 %

科 目 名	アメリカ文化論ゼミ （秋学期）							
担当者名	チャン　エドワード　ケイ							
多元	２単位	秋学期	木曜日	５時限	３年以上	—	—	—

授業概要

(NOTE: The content and format of this seminar has changed from previous years.)
3rd-year students: Students will begin doing research for the Graduation Thesis. Readings, discussions, and assignments will revolve around students' thesis topics. The course will be conducted entirely in English, and students should be prepared to speak in English during class every week.
4th-year students: The main focus of this course is to conduct research and produce the Graduation Thesis. Each week, students will conduct research for the Graduation Thesis and share their research with the other students. The class format will be workshops. The course will be conducted entirely in English, and students should be prepared to speak in English during class every week.

授業の到達目標

3rd-year students: Students will learn about various aspects of American culture and how to analyze culture from an academic perspective. They will also develop critical thinking, analytical skills, and English-language discussion skills. The main objective is to prepare students for researching and writing the Graduation Thesis during the fourth year.

4th-year students: Students will learn and practice academic research and writing skills for the main objective: to produce the graduation thesis.

成績評価方法

(subject to change)
Evaluation for 3rd-year students:
Final paper: 40%
Research reports: (2 x 20 points) 40%
Participation/In-class activities: 20%
TOTAL: 100 %

Evaluation for 4th-year students:
First complete draft: 60% (all or nothing)
Second complete draft (required to pass course)
Final draft (required to pass course)
Printed and bound copy (required to pass course)
Participation/In-class activities: 40%
TOTAL 100 %

科 目 名	Seminar on Japanese Popular Culture and Media （Spring） A							
担当者名	ピタルク　パウ							
多元	2単位	春クォーター	月3時限	木3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

This course introduces key themes, ideas, and methodologies in the study of media texts and networks, with special attention paid to issues relevant to contemporary Japanese popular culture. Students will be encouraged to think critically about the theoretical arguments that emerge in the course of our readings and discussions, and to apply these findings productively to their individual areas of interest within the field of media studies.

授業の到達目標

Students will familiarize themselves with the main methods to study media and popular culture, and start exploring ideas to eventually choose their graduation thesis topics in the following semester.

成績評価方法

40% Final Project
30% Attendance and Class Participation
30% Weekly Responses and Presentations

科 目 名	Seminar on Japanese Popular Culture and Media （Spring） B							
担当者名	ピタルク　パウ							
多元	2単位	春クォーター	月4時限	木4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

This seminar will offer a space for students to delve into Japanese popular culture (fiction, music, animation, games, etc.) and its expressions in various media, considering not only their formal features but also their social and historical implications, as well as their role in the global circulation of ideas and entertainment. Comparative approaches within East Asia or a global context are also very welcome.

授業の到達目標

Students will start the process of writing their graduation theses.

成績評価方法

40% Final Project
30% Attendance and Class Participation
30% Weekly Responses and Presentations

科 目 名	Seminar on Japanese Popular Culture and Media （Fall） A							
担当者名	ピタルク　パウ							
多元	2単位	秋学期	金曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

This seminar will offer a space for students to delve into Japanese popular culture (fiction, music, animation, games, etc.) and its expressions in various media, considering not only their formal features but also their social and historical implications, as well as their role in the global circulation of ideas and entertainment. Comparative approaches within East Asia or a global context are also very welcome.

授業の到達目標

Students will formulate and develop a research question that will guide the writing of their graduation theses in during the following year.

成績評価方法

40% Final Project
30% Attendance and Class Participation
30% Weekly Responses and Presentations

科 目 名	Seminar on Japanese Popular Culture and Media （Fall） B							
担当者名	ピタルク　パウ							
多元	2単位	秋学期	金曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

This seminar will offer a space for students to delve into Japanese popular culture (fiction, music, animation, games, etc.) and its expressions in various media, considering not only their formal features but also their social and historical implications, as well as their role in the global circulation of ideas and entertainment. Comparative approaches within East Asia or a global context are also very welcome.

授業の到達目標

Students will complete their graduation theses.

成績評価方法

40% Final Project
30% Attendance and Class Participation
30% Weekly Responses and Presentations

科 目 名	Seminar on Performing Arts Culture in Japan （Spring） Beauty and Senses							
担当者名	クリステワ　ツベタナ							
多元	2単位	春クォーター	火2時限	金2時限	3年以上	—	—	—

授業概要

The *zemi* will deal with "Performing Arts" in a very broad sense, i.e. with literature, fine arts, theater, film, music, etc., looking for the different manifestations of the over-all-code of beauty, which comprises the essence of Japanese Culture. In the first part, the Spring term, the focus will be on the importance of human senses and sensitivity in the process of distinguishing, creating, and appreciating beauty.

The students will be encouraged to form groups according to their spheres of interest, and there will be individual and group presentations.

The concrete content of the course and the schedule will be settled based on a general discussion of the members of the *zemi*.

The details of the evaluation policy will also be introduced in class.

Therefore, please, read the data below only as a frame of reference.

授業の到達目標

The main objectives are: to deepen students' understanding of Japanese Culture and its aestheticism; to develop students' critical thinking; to assist the students in their search for topics for their graduation theses, and hopefully, for postgraduate activities (academic, or other fields)

成績評価方法

- **試験**　30%　The numbers are not absolute (read the Course Orientation)
- **レポート**　40%
- **平常点**　30%
- **その他**　0%

科 目 名	Seminar on Performing Arts Culture in Japan （Fall） The Transfigurations of Beauty							
担当者名	クリステワ　ツベタナ							
多元	2単位	秋学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

The *zemi* will deal with "Performing Arts" in a very broad sense, i.e. with literature, fine arts, theater, film, music, etc., looking for the different manifestations of the over-all-code of beauty, which comprises the essence of Japanese Culture. In the first part, the Spring term, the focus will be on the importance of human senses and sensitivity in the process of distinguishing, creating, and appreciating beauty.

The students will be encouraged to form groups according to their spheres of interest, and there will be individual and group presentations.

The Fall Course will be a continuation of the Spring Course. However, changes will be possible, especially in the case of change of the members.

The details of the evaluation policy will also be introduced in class.

Therefore, please, read the data below only as a frame of reference.

授業の到達目標

The main objectives are: to deepen students' understanding of Japanese Culture and its aestheticism; to develop students' critical thinking; to assist the students in their search for topics for their graduation theses, and hopefully, for postgraduate activities (academic, or other fields)

成績評価方法

- **試験**　30%　The numbers are not absolute (read the Course Orientation)
- **レポート**　40%
- **平常点**　30%
- **その他**　0%

科 目 名	Seminar on Diversity in Japanese Culture （Spring） A							
担当者名	由尾　瞳							
多元	2単位	春クォーター	火3時限	金3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

Diversity has become a key theme in the study of Japanese culture in recent years across disciplines. In this zemi, students will reexamine various aspects of Japanese culture through the umbrella theme of diversity, exploring areas of study such as literature, film, art, history, contemporary society, media, and subculture. The zemi seeks to complicate the view of Japanese culture and tradition as exclusively unique and uniform, and instead aims to uncover the complexity of connections with other cultures and traditions. Furthermore, students will learn to challenge the myth of Japan as a monolingual and homogeneous country, and discover instead a heterogeneous and culturally diverse Japan, consisting of a wide range of multilingual, multicultural, and multiethnic communities.

In Year One, students will read and discuss key scholarly works on diversity and multiculturalism, and gain a crucial understanding of the themes explored in this zemi. Students will be expected to choose their zemi thesis topic by the end of Year One. In Year Two, students will focus on their own research topics and ultimately write their graduation thesis. Through individual and collaborative group work, students will learn from their classmates and dig deeper into exploring their own topics from interdisciplinary and global perspectives.

授業の到達目標

【 Year One 】- 3rd year JS, 2nd-3rd year OS

Year One of the zemi will be a preparation period to write a graduation thesis during Year Two. Emphasis will be placed on working collaboratively to explore shared topics together with your classmates. Students will be expected to choose their zemi thesis topics by the end of Year One.

- Read and acquire familiarity with important scholarly works to understand key issues of the zemi.
- Explore a range of topics and methodology in preparation for choosing a zemi thesis topic.
- Work collaboratively and develop individual and group presentation skills.

【 Year Two 】- 4th year JS, 3rd-4th year OS

In Year Two, students will delve into researching their chosen topics and writing their zemi theses. Students will give presentations on their progress, and give and receive feedback to and from their classmates. Year Two students will also be paired with Year One students to give encouragement and advice on their progress.

- Design and implement an effective writing plan to produce a zemi thesis.
- Find relevant secondary sources, and interpret and incorporate them in their own writing.
- Effectively use digital technology and resources to present the zemi thesis to the class.
- Draft, edit, peer-review, and polish a zemi thesis.

成績評価方法

1. Attendance & Class Participation (20%)
2. Assignments (30%)
3. Group Work & Presentations (10%)
4. Final Project (40%)

科 目 名	Seminar on Diversity in Japanese Culture (Spring) B							
担当者名	由尾 瞳							
多元	2単位	春クォーター	火4時限	金4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

Diversity has become a key theme in the study of Japanese culture in recent years across disciplines. In this zemi, students will reexamine various aspects of Japanese culture through the umbrella theme of diversity, exploring areas of study such as literature, film, art, history, contemporary society, media, and subculture. The zemi seeks to complicate the view of Japanese culture and tradition as exclusively unique and uniform, and instead aims to uncover the complexity of connections with other cultures and traditions. Furthermore, students will learn to challenge the myth of Japan as a monolingual and homogeneous country, and discover instead a heterogeneous and culturally diverse Japan, consisting of a wide range of multilingual, multicultural, and multiethnic communities.

In Year One, students will read and discuss key scholarly works on diversity and multiculturalism, and gain a crucial understanding of the themes explored in this zemi. Students will be expected to choose their zemi thesis topic by the end of Year One. In Year Two, students will focus on their own research topics and ultimately write their graduation thesis. Through individual and collaborative group work, students will learn from their classmates and dig deeper into exploring their own topics from interdisciplinary and global perspectives.

授業の到達目標

【 Year One 】- 3rd year JS, 2nd-3rd year OS

Year One of the zemi will be a preparation period to write a graduation thesis during Year Two. Emphasis will be placed on working collaboratively to explore shared topics together with your classmates. Students will be expected to choose their zemi thesis topics by the end of Year One.

- Read and acquire familiarity with important scholarly works to understand key issues of the zemi.
- Explore a range of topics and methodology in preparation for choosing a zemi thesis topic.
- Work collaboratively and develop individual and group presentation skills.

【 Year Two 】- 4th year JS, 3rd-4th year OS

In Year Two, students will delve into researching their chosen topics and writing their zemi theses. Students will give presentations on their progress, and give and receive feedback to and from their classmates. Year Two students will also be paired with Year One students to give encouragement and advice on their progress.

- Design and implement an effective writing plan to produce a zemi thesis.
- Find relevant secondary sources, and interpret and incorporate them in their own writing.
- Effectively use digital technology and resources to present the zemi thesis to the class.
- Draft, edit, peer-review, and polish a zemi thesis.

成績評価方法

1. Attendance & Class Participation (20%)
2. Assignments (30%)
3. Group Work & Presentations (10%)
4. Final Project (40%)

科 目 名	Seminar on Diversity in Japanese Culture (Fall) A							
担当者名	由尾 瞳							
多元	2単位	秋学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

Diversity has become a key theme in the study of Japanese culture in recent years across disciplines. In this zemi, students will reexamine various aspects of Japanese culture through the umbrella theme of diversity, exploring areas of study such as literature, film, art, history, contemporary society, media, and subculture. The zemi seeks to complicate the view of Japanese culture and tradition as exclusively unique and uniform, and instead aims to uncover the complexity of connections with other cultures and traditions. Furthermore, students will learn to challenge the myth of Japan as a monolingual and homogeneous country, and discover instead a heterogeneous and culturally diverse Japan, consisting of a wide range of multilingual, multicultural, and multiethnic communities.

In Year One, students will read and discuss key scholarly works on diversity and multiculturalism, and gain a crucial understanding of the themes explored in this zemi. Students will be expected to choose their zemi thesis topic by the end of Year One. In Year Two, students will focus on their own research topics and ultimately write their graduation thesis. Through individual and collaborative group work, students will learn from their classmates and dig deeper into exploring their own topics from interdisciplinary and global perspectives.

授業の到達目標

【 Year One 】- 3rd year JS, 2nd-3rd year OS

Year One of the zemi will be a preparation period to write a graduation thesis during Year Two. Emphasis will be placed on working collaboratively to explore shared topics together with your classmates. Students will be expected to choose their zemi thesis topics by the end of Year One.

- Read and acquire familiarity with important scholarly works to understand key issues of the zemi.
- Explore a range of topics and methodology in preparation for choosing a zemi thesis topic.
- Work collaboratively and develop individual and group presentation skills.

【 Year Two 】- 4th year JS, 3rd-4th year OS

In Year Two, students will delve into researching their chosen topics and writing their zemi theses. Students will give presentations on their progress, and give and receive feedback to and from their classmates. Year Two students will also be paired with Year One students to give encouragement and advice on their progress.

- Design and implement an effective writing plan to produce a zemi thesis.
- Find relevant secondary sources, and interpret and incorporate them in their own writing.
- Effectively use digital technology and resources to present the zemi thesis to the class.
- Draft, edit, peer-review, and polish a zemi thesis.

成績評価方法

1. Attendance & Class Participation (20%)
2. Workshop & Presentations (30%)
3. Final Thesis Proposal (50%)

科 目 名	Seminar on Diversity in Japanese Culture (Fall) B							
担当者名	由尾 瞳							
多元	2単位	秋学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

Diversity has become a key theme in the study of Japanese culture in recent years across disciplines. In this zemi, students will reexamine various aspects of Japanese culture through the umbrella theme of diversity, exploring areas of study such as literature, film, art, history, contemporary society, media, and subculture. The zemi seeks to complicate the view of Japanese culture and tradition as exclusively unique and uniform, and instead aims to uncover the complexity of connections with other cultures and traditions. Furthermore, students will learn to challenge the myth of Japan as a monolingual and homogeneous country, and discover instead a heterogeneous and culturally diverse Japan, consisting of a wide range of multilingual, multicultural, and multiethnic communities.

In Year One, students will read and discuss key scholarly works on diversity and multiculturalism, and gain a crucial understanding of the themes explored in this zemi. Students will be expected to choose their zemi thesis topic by the end of Year One. In Year Two, students will focus on their own research topics and ultimately write their graduation thesis. Through individual and collaborative group work, students will learn from their classmates

and dig deeper into exploring their own topics from interdisciplinary and global perspectives.

授業の到達目標

【 Year One 】- 3rd year JS, 2nd-3rd year OS

Year One of the zemi will be a preparation period to write a graduation thesis during Year Two. Emphasis will be placed on working collaboratively to explore shared topics together with your classmates. Students will be expected to choose their zemi thesis topics by the end of Year One.

- Read and acquire familiarity with important scholarly works to understand key issues of the zemi.
- Explore a range of topics and methodology in preparation for choosing a zemi thesis topic.
- Work collaboratively and develop individual and group presentation skills.

【 Year Two 】- 4th year JS, 3rd-4th year OS

In Year Two, students will delve into researching their chosen topics and writing their zemi theses. Students will give presentations on their progress, and give and receive feedback to and from their classmates. Year Two students will also be paired with Year One students to give encouragement and advice on their progress.

- Design and implement an effective writing plan to produce a zemi thesis.
- Find relevant secondary sources, and interpret and incorporate them in their own writing.
- Effectively use digital technology and resources to present the zemi thesis to the class.
- Draft, edit, peer-review, and polish a zemi thesis.

成績評価方法

1. Attendance & Class Participation (20%)
2. Workshop & Presentations (30%)
3. Final Zemi Thesis Paper (50%)

科 目 名	言語文化ゼミ（ことばの歴史・ことばの地理）（春学期） 地域言語調査実習とゼミ論構想の発表							
担当者名	上野　和昭							
複合	２単位	春学期	火曜日	３時限	３年以上	—	—	—

授業概要

このゼミは3・4年生合同で行うものです。そのためにゼミ論構想の指導と地域言語調査実習指導とを並行して行います。

地域言語調査の方法と実際とを学び、各自の問題意識に応じて調査地・調査項目を設定して調査研究を行なえるようにします。共同で実地に調査したデータはそれぞれに分析して、調査報告書を作成します。

また4年生は、ゼミ論の構想を発表し、質問や意見を出してもらって、質の向上につとめることにします。

授業の到達目標

○ゼミ論構想を練って、より高いレベルのゼミ論を作成できるようになる。

○地域言語の実態を調査する方法を身につけ、その調査データを整理して考察できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　とくに予定していません。

●**レポート**　50%　　レポートの課題、分量、提出方法などは、初回の授業において説明します。

●**平常点**　50%　　毎回の授業に積極的に参加し、自己の考えを発表するのみならず、ほかの学生の考えにも見解を述べることを要求します。そのような授業への参加の様子を評価します。

●**その他**　0%　　とくにありません。

科 目 名	言語文化ゼミ（ことばの歴史・ことばの地理）（秋学期） 文献による言語調査実習とゼミ論の作成							
担当者名	上野　和昭							
複合	２単位	秋学期	火曜日	３時限	３年以上	—	—	—

授業概要

このゼミは3・4年生合同で行うものです。そのためにゼミ論執筆の指導と文献による言語調査実習指導とを並行して行います。

文献言語調査の方法と実際とを学び、各自の問題意識に応じて文献の調査研究を行なえるようにします。

4年生は、ゼミ論の内容に質問や意見を出してもらって、さらなる質の向上につとめることにします。

授業の到達目標

○質の高いゼミ論を執筆できるようになる。

○文献による言語調査をする方法を身につけ、その調査データを整理して考察できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　とくに予定していません。

●**レポート**　50%　　レポートの課題、分量、提出方法などは、初回の授業において説明します。

●**平常点**　50%　　毎回の授業に積極的に参加し、自己の考えを発表するのみならず、ほかの学生の考えについても見解を述べることを要求します。そのような授業への参加の様子を評価します。

●**その他**　0%　　とくにありません。

科 目 名	言語文化ゼミ（ことばの科学・ことばの哲学）（春学期） A							
担当者名	酒井　智宏							
複合	2単位	春学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

捉えどころのない言語という複雑な対象物を、それでもなんとか捉えてやろうと思う人たちのためのゼミです。現代の言語学は科学の一分野であるとされます。そのため、どんなテーマを選ぶにせよ、科学的な問いの立て方・科学的な議論の仕方をしっかりと身につける必要があります。そのうえで、異なるテーマを研究する人とでも科学的な議論を戦わせることのできる技術を身につけます。他方で、科学はときに暴走することがあります。それは、科学自体の問題である場合もあれば、科学を使う人の問題である場合もあるでしょう。いずれの場合も、科学の暴走を止めるのは広い意味での哲学です。このゼミでは、言語への科学的アプローチのほかに、近代ヨーロッパの哲学的言語論、20世紀以降の言語哲学、科学哲学の思考法も重視し、「科学としての言語学」を醒めた目で眺める視点を養成します。

授業の到達目標

このゼミでは、(1) どの言語の、(2) どんな側面を、(3) どんなアプローチで捉えるのか、各自の問題意識を明確にしたうえで、研究の経過を発表し、その際に受け取ったコメントをふまえつつ、真に論じるべき問題を絞り込んでいきます。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　30%　　研究の途中経過についてのレポートを評価対象とします。
●**平常点**　70%　　発表（複数回）・ディスカッションへの参加度・レビューシートを評価対象とします。
●**その他**　0%

備考・関連URL

関連URL: http://www.tomohirosakai.com/

科 目 名	言語文化ゼミ（ことばの科学・ことばの哲学）（春学期） B							
担当者名	酒井　智宏							
複合	2単位	春学期	木曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

捉えどころのない言語という複雑な対象物を、それでもなんとか捉えてやろうと思う人たちのためのゼミです。現代の言語学は科学の一分野であるとされます。そのため、どんなテーマを選ぶにせよ、科学的な問いの立て方・科学的な議論の仕方をしっかりと身につける必要があります。そのうえで、異なるテーマを研究する人とでも科学的な議論を戦わせることのできる技術を身につけます。他方で、科学はときに暴走することがあります。それは、科学自体の問題である場合もあれば、科学を使う人の問題である場合もあるでしょう。いずれの場合も、科学の暴走を止めるのは広い意味での哲学です。このゼミでは、言語への科学的アプローチのほかに、近代ヨーロッパの哲学的言語論、20世紀以降の言語哲学、科学哲学の思考法も重視し、「科学としての言語学」を醒めた目で眺める視点を養成します。

授業の到達目標

このゼミでは、(1) どの言語の、(2) どんな側面を、(3) どんなアプローチで捉えるのか、各自の問題意識を明確にしたうえで、研究の経過を発表し、その際に受け取ったコメントをふまえつつ、真に論じるべき問題を絞り込んでいきます。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　30%　　研究の途中経過についてのレポートを評価対象とします。
●**平常点**　70%　　発表（複数回）・ディスカッションへの参加度・レビューシートを評価対象とします。
●**その他**　0%

備考・関連URL

関連URL: http://www.tomohirosakai.com/

科 目 名	言語文化ゼミ（ことばの科学・ことばの哲学）（秋学期） A							
担当者名	酒井　智宏							
複合	2単位	秋学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

捉えどころのない言語という複雑な対象物を、それでもなんとか捉えてやろうと思う人たちのためのゼミです。現代の言語学は科学の一分野であるとされます。そのため、どんなテーマを選ぶにせよ、科学的な問いの立て方・科学的な議論の仕方をしっかりと身につける必要があります。そのうえで、異なるテーマを研究する人とでも科学的な議論を戦わせることのできる技術を身につけます。他方で、科学はときに暴走することがあります。それは、科学自体の問題である場合もあれば、科学を使う人の問題である場合もあるでしょう。いずれの場合も、科学の暴走を止めるのは広い意味での哲学です。このゼミでは、言語への科学的アプローチのほかに、近代ヨーロッパの哲学的言語論、20世紀以降の言語哲学、科学哲学の思考法も重視し、「科学としての言語学」を醒めた目で眺める視点を養成します。

授業の到達目標

このゼミでは、(1) どの言語の、(2) どんな側面を、(3) どんなアプローチで捉えるのか、各自の問題意識を明確にしたうえで、研究の経過を発表し、その際に受け取ったコメントをふまえつつ、真に論じるべき問題を絞り込んでいきます。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　30%　　研究の途中経過についてのレポートを評価対象とします。
●**平常点**　70%　　発表（複数回）・ディスカッションへの参加度・レビューシートを評価対象とします。
●**その他**　0%

備考・関連URL

関連URL: http://www.tomohirosakai.com/

科 目 名	言語文化ゼミ（ことばの科学・ことばの哲学）（秋学期） B							
担当者名	酒井　智宏							
複合	2単位	秋学期	木曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

捉えどころのない言語という複雑な対象物を、それでもなんとか捉えてやろうと思う人たちのためのゼミです。現代の言語学は科学の一分野であるとされます。そのため、どんなテーマを選ぶにせよ、科学的な問いの立て方・科学的な議論の仕方をしっかりと身につける必要があります。そのうえで、異なるテーマを研究する人とでも科学的な議論を戦わせることのできる技術を身につけます。他方で、科学はときに暴走することがあります。それは、科学自体の問題である場合もあれば、科学を使う人の問題である場合もあるでしょう。いずれの場合も、科学の暴走を止めるのは広い意味での哲学です。このゼミでは、言語への科学的アプローチのほかに、近代ヨーロッパの哲学的言語論、20世紀以降の言語哲学、科学哲学の思考法も重視し、「科学としての言語学」を醒めた目で眺める視点を養成します。

授業の到達目標

このゼミでは、（1）どの言語の、（2）どんな側面を、（3）どんなアプローチで捉えるのか、各自の問題意識を明確にしたうえで、研究の経過を発表し、その際に受け取ったコメントをふまえつつ、真に論じるべき問題を絞り込んでいきます。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　30%　　研究の途中経過についてのレポートを評価対象とします。
●**平常点**　70%　　発表（複数回）・ディスカッションへの参加度・レビューシートを評価対象とします。
●**その他**　0%

備考・関連URL

関連URL: http://www.tomohirosakai.com/

科 目 名	人間文化ゼミ（文化ツーリズム論）（春学期） A							
担当者名	寺崎　秀一郎							
複合	2単位	春学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

本ゼミは文化ツーリズム論と銘打っているが、いわゆる観光学研究とは異なる。グローバリゼーションのもと、文化が越境し、文化の多様性が消失したり、混淆する今日的状況の最前線として文化ツーリズムを位置づけ、資源としての文化、という側面に重点を置く。受講生は学期開始前に配布する予定の文献リストを参照にしながら、各自の問題意識を実体化し、春学期中に具体的なフィールドを選定する。そのプロセスについては、研究報告という形で発表し、その内容について討議をおこなう。その結果に基づき、夏期休業期間を中心に各自でフィールドワークをおこなう。

なお、夏期休業中にゼミ合宿を予定している。詳細な日程等については、授業中に指示する。

授業の到達目標

ゼミ論文のテーマ設定、予備調査のための計画立案と実施。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　0%　　実施しない
●**平常点**　100%　　出席状況、研究報告の達成度、討議への参加状況などを総合的に評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	人間文化ゼミ（文化ツーリズム論）（春学期） B							
担当者名	寺崎　秀一郎							
複合	2単位	春学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

本ゼミは文化ツーリズム論と銘打っているが、いわゆる観光学研究とは異なる。グローバリゼーションのもと、文化が越境し、文化の多様性が消失したり、混淆する今日的状況の最前線として文化ツーリズムを位置づけ、資源としての文化、という側面に重点を置く。受講生は、3年次の研究計画に基づき、各自のフィールドワーク、文献調査を継続し、ゼミ論文の完成を目指す。途中経過については逐次研究報告をし、その内容についてはゼミ参加者による討議の上、修正等をおこなう。

授業の到達目標

ゼミ論文の完成。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　実施しない。
●**平常点**　100%　　出席状況、研究報告の達成度、討議への参加状況などを総合的に判断する。
●**その他**　0%

科 目 名	人間文化ゼミ（文化ツーリズム論）（秋学期） A							
担当者名	寺崎　秀一郎							
複合	2単位	秋学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

本ゼミは文化ツーリズム論と銘打っているが、いわゆる観光学研究とは異なる。グローバリゼーションのもと、文化が越境し、文化の多様性が消失したり、混淆する今日的状況の最前線として文化ツーリズムを位置づけ、資源としての文化、という側面に重点を置く。受講生は学期開始前に配布する予定の文献リストを参照にしながら、各自の問題意識を実体化し、各自の調査を継続するとともに、詳細かつ具体的な本調査に向けての研究計画書の作成に向けて準備を進め、1月末には、各自、研究計画書（レポート）を提出する。

授業の到達目標
各自の調査に基づく研究報告と討議を経て、ゼミ論文計画書としてのレポート（8000字）を提出。

成績評価方法
●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　0%　　実施しない
●**平常点**　100%　　出席状況、研究報告の達成度、討議への参加状況などを総合的に評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	人間文化ゼミ（文化ツーリズム論）（秋学期） B							
担当者名	寺崎　秀一郎							
複合	2単位	秋学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要
本ゼミは文化ツーリズム論と銘打っているが、いわゆる観光学研究とは異なる。グローバリゼーションのもと、文化が越境し、文化の多様性が消失したり、混淆する今日的状況の最前線として文化ツーリズムを位置づけ、資源としての文化、という側面に重点を置く。受講生は、3年次の研究計画に基づき、各自のフィールドワーク、文献調査を継続し、ゼミ論文の完成を目指す。途中経過については逐次研究報告をし、その内容についてはゼミ参加者による討議の上、修正等をおこなう。

授業の到達目標
ゼミ論文の完成。

成績評価方法
●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　0%　　実施しない
●**平常点**　100%　　出席状況、研究報告の達成度、討議への参加状況などを総合的に判断する。
●**その他**　0%

科 目 名	人間文化ゼミ（宗教への人類学的アプローチ）（春学期） A							
担当者名	國弘　暁子							
複合	2単位	春学期	月曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要
宗教をキーワードとするこのゼミでは、キリスト教やイスラームといった世界宗教のみを対象とするのではなく、祝祭、治癒、巡礼、呪い、弔いといった、人間の多様な営為に焦点をあてる。授業期間中はテキストの講読を通じて、宗教の人類学が射程とする問題群の理解に努め、さらにゼミ合宿では、テキストから得た知見を活用することを目的とした合同フィールドワークを実施する。そこから各自の関心を導き出して、最終的には、宗教なるものについての独自の考察を行うことを目的とする。

授業の到達目標
宗教をキーワードに人類学の射程をつかむと同時に、各自の研究テーマを絞り込み、ゼミ論文の完成を目指す。

成績評価方法
●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　50%　　フィールドワークの報告書を対象とする。
●**平常点**　50%　　発表内容とディスカッションへの参加度を対象とする。
●**その他**　0%

科 目 名	人間文化ゼミ（宗教への人類学的アプローチ）（春学期） B							
担当者名	國弘　暁子							
複合	2単位	春学期	月曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要
宗教をキーワードとするこのゼミでは、キリスト教やイスラームといった世界宗教のみを対象とするのではなく、祝祭、治癒、巡礼、呪い、弔いといった、人間の多様な営為に焦点をあてる。授業期間中はテキストの講読を通じて、宗教の人類学が射程とする問題群の理解に努め、さらにゼミ合宿では、テキストから得た知見を活用することを目的とした合同フィールドワークを実施する。そこから各自の関心を導き出して、最終的には、宗教なるものについての独自の考察を行うことを目的とする。

授業の到達目標
宗教をキーワードに人類学の射程をつかむと同時に、各自の研究テーマを絞り込み、ゼミ論文の完成を目指す。

成績評価方法
●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　50%　　研究計画レポートを対象とする。
●**平常点**　50%　　発表内容とディスカッションへの参加度を対象とする。
●**その他**　0%

科 目 名	人間文化ゼミ（宗教への人類学的アプローチ）（秋学期） A　Anthropology of Religion							
担当者名	國弘　暁子							
複合	2単位	秋学期	月曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要
宗教をキーワードとするこのゼミでは、キリスト教やイスラームといった世界宗教のみを対象とするのではなく、祝祭、治癒、巡礼、呪い、弔いといった、人間の多様な営為に焦点をあてる。授業期間中はテキストの講読を通じて、宗教の人類学が射程とする問題群の理解に努め、さらにゼミ合宿では、テキストから得た知見を活用することを目的とした合同フィールドワークを実施する。そこから各自の関心を導き出して、最終的には、宗教なるものについての独自の考察を行うことを目的とする。

授業の到達目標
宗教をキーワードに人類学の射程を把握すること、さらに、各自の研究テーマを設定することを到達目標とする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　50%　　研究計画レポートを対象とする。
●**平常点**　50%　　発表内容とディスカッションへの参加度を対象とする。
●**その他**　0%

科 目 名	人間文化ゼミ（宗教への人類学的アプローチ）（秋学期）　B　Anthropology of Religion							
担当者名	國弘　暁子							
複合	2単位	秋学期	月曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

宗教をキーワードとするこのゼミでは、キリスト教やイスラームといった世界宗教のみを対象とするのではなく、祝祭、治癒、巡礼、呪い、弔いといった、人間の多様な営為に焦点をあてる。テキストの講読や、各自のフィールドワークを踏まえて、宗教なるものについての独自の考察の成果を、ゼミ論文としてまとめ上げることを目的とする。

授業の到達目標

宗教をキーワードに人類学の射程をつかむと同時に、各自の研究テーマを絞り込み、ゼミ論文の完成を目指す。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。
●**レポート**　0%　　特になし。
●**平常点**　100%　　発表内容とディスカッションへの参加度を対象とする。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	人間文化ゼミ（移動・移住の人類学）（春学期）　A							
担当者名	松前　もゆる							
複合	2単位	春学期	木曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

移民や難民についての話題がしばしばニュースで取り上げられるなど、人の移動・移住は、現代世界において最も注目される社会現象のひとつと言えますが、難民の受け入れや移動する人々と受け入れる人々の摩擦など、社会的「問題」として捉えられる傾向にあります。しかし、人の移動・移住は現代に特有のことではなく、また、災害等によって移動・移住を余儀なくされる人は国内外で存在しています。こうしたことを背景に、本ゼミでは、移動・移住をキーワードとして私たちの暮らす日本を含む現代世界をとらえ直し、移動・移住がうつし出す文化や社会のありようと諸課題について、文献購読とフィールド調査から多角的・実証的に検討することを目指します。 春学期には、移動・移住に関する文化人類学および隣接分野の基礎研究を購読し、担当者に報告してもらった後、全員で討議を行います。そして、その過程で各自が研究テーマを絞り、学期後半には今後（ゼミ論文）の調査研究に向けた計画を立て、発表してもらう予定です。

授業の到達目標

①移動・移住という現象に関して、文化人類学や隣接領域でこれまでどのような議論がなされてきたのか文献から学び、基本的な知識を得る。
②関連するフィールド調査を通じて移動・移住の実証的な研究の可能性を探って、各自の研究テーマを絞り、研究計画を作成する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　20%　　学期末に、ゼミ論文に向けた調査計画を提出してもらいます。
●**平常点**　80%　　発表や報告の内容およびディスカッション等、授業への参加状況から評価します。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

参加者の希望により、予定を調整した上で、授業時間外（週末、休暇中など）にフィールドワークを実施することがあります。

科 目 名	人間文化ゼミ（移動・移住の人類学）（春学期）　B							
担当者名	松前　もゆる							
複合	2単位	春学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

移民や難民についての話題がしばしばニュースで取り上げられるなど、人の移動・移住は、現代世界において最も注目される社会現象のひとつと言えますが、難民の受け入れや移動する人々と受け入れる人々の摩擦など、社会的「問題」として捉えられる傾向にあります。しかし、人の移動・移住は現代に特有のことではなく、また、災害等によって移動・移住を余儀なくされる人は国内外で存在しています。こうしたことを背景に、本ゼミでは、移動・移住をキーワードとして私たちの暮らす日本を含む現代世界をとらえ直し、移動・移住がうつし出す文化や社会のありようと諸課題について、文献購読とフィールド調査から多角的・実証的に検討していきます。 春学期には、3年次に立てた研究計画にもとづき、フィールドワーク、文献調査、執筆を進めるとともに、進捗状況を報告してもらいます。そして、全員でのディスカッション等から、適宜内容を修正し、論文の完成を目指します。

授業の到達目標

①自身の設定したテーマにもとづき、必要な文献調査とフィールドワークを計画し、実施できる。
②調査内容を学術論文の形式にのっとってまとめ、論文を完成させる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　0%　　学期末のレポート課題はありません。
●**平常点**　100%　　発表や報告の内容、およびディスカッション等授業への参加状況、ゼミ論文への取り組みから評価します。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL
参加者の希望により、予定を調整した上で、授業時間外（週末、休暇中など）にフィールドワークを実施することがあります。

科 目 名	人間文化ゼミ（移動・移住の人類学）（秋学期） A							
担当者名	松前　もゆる							
複合	2単位	秋学期	木曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要
移民や難民についての話題がしばしばニュースで取り上げられるなど、人の移動・移住は、現代世界において最も注目される社会現象のひとつと言えますが、難民の受け入れや移動する人々と受け入れる人々の摩擦など、社会的「問題」として捉えられる傾向にあります。しかし、人の移動・移住は現代に特有のことではなく、また、災害等によって移動・移住を余儀なくされる人は国内外で存在しています。こうしたことを背景に、本ゼミでは、移動・移住をキーワードとして私たちの暮らす日本を含む現代世界をとらえ直し、移動・移住がうつし出す文化や社会のありようと諸課題について、文献購読とフィールド調査から多角的・実証的に検討することを目指します。 秋学期は、各自の関心にそってさらに関連文献を購読し、報告・討議を行うとともに、ゼミ論文完成に向けて研究テーマを絞り込み、各自の調査研究を開始する予定です。

授業の到達目標
①各自が選んだテーマについて、文化人類学や隣接領域でこれまでどのような議論がなされてきたのか文献を調べ、基本的な知識を得る。
②関連するフィールド調査を通じ、移動・移住の実証的な研究の可能性を探り、最終的には各自の関心を明確にして、ゼミ論文完成に向けた調査研究を開始する。

成績評価方法
●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　40%　　学期末に、ゼミ論文に向けた中間レポート（8000字程度）を提出してもらいます。正確で論理的な記述がなされているかを評価の対象とします。
●**平常点**　60%　　報告や発表の内容、およびディスカッション等、授業への参加状況によって評価します。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL
参加者の希望により、予定を調整の上、授業時間外（週末、休暇中など）にフィールドワークを実施することがあります。

科 目 名	人間文化ゼミ（移動・移住の人類学）（秋学期） B							
担当者名	松前　もゆる							
複合	2単位	秋学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要
移民や難民についての話題がしばしばニュースで取り上げられるなど、人の移動・移住は、現代世界において最も注目される社会現象のひとつと言えますが、難民の受け入れや移動する人々と受け入れる人々の摩擦など、社会的「問題」として捉えられる傾向にあります。しかし、人の移動・移住は現代に特有のことではなく、また、災害等によって移動・移住を余儀なくされる人は国内外で存在しています。こうしたことを背景に、本ゼミでは、移動・移住をキーワードとして私たちの暮らす日本を含む現代世界をとらえ直し、移動・移住がうつし出す文化や社会のありようと諸課題について、文献購読とフィールド調査から多角的・実証的に検討することを目指します。 秋学期は、各自、論文完成に向けて必要な補充調査（文献調査およびフィールドワーク）を実施したうえで論文を執筆し、ゼミでの報告とディスカッションを通じて内容を適宜修正しながら、論文を完成させます。

授業の到達目標
①自身の設定したテーマにもとづき、必要な文献調査とフィールドワークを計画し、実施できる。
②調査内容を学術論文の形式にのっとってまとめ、論文を完成させる。

成績評価方法
●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　0%　　学期末のレポート課題はありません。
●**平常点**　40%　　報告や発表の内容およびディスカッション等、授業への参加状況、ゼミ論文への取り組みによって評価します。
●**その他**　60%　　ゼミ論文によって評価します。

備考・関連URL
参加者の希望により、予定を調整の上、授業時間外（週末、休暇中など）にフィールドワークを実施することがあります。

科 目 名	超域文化ゼミ（都市と美術）（春学期） A							
担当者名	坂上　桂子							
複合	2単位	春学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要
都市と美術の諸問題を多角的に考えていきます。私たちの暮らす都市が、安全で便利であることは穏やかで安心できる暮らしを支える重要な要件です。しかし、質の高い、豊かな生活を実現するためには、ただ、安全で便利である、ということだけでは十分とはいえません。美術やアートの力は、美しい街並みや環境を創造し、私たちの暮らしや生活の質を高め、私たちの人生を豊かにしてくれる重大な要素です。都市のなかにおける美術や美的な力について、ここでは皆で一緒に見つけ、考察していきます。具体的には、都市のなかの街並み、建築、美術館、ギャラリー、パブリックアート、アートイベントなどを中心に、都市を総合的に俯瞰してみていきます。授業では、こうした問題を具体例に探るべく、見学会などを実施しつつ、グループ学習を中心に進めます。なお春学期には、韓国の大学（漢陽大学、慶熙大学、成均館大学）との交流授業をソウルで実施する予定です。そのため、前半はとくに、ソウルの各大学にて行う交流授業のための準備を中心に行います。

授業の到達目標
都市と美術を研究する基本的アプローチの手法を身につけることを目標とします。パワーポイントによる発表や、他の受講生の発表に対する質問、議論などができるようになることもここでの目的です。

成績評価方法

レポートおよび、授業に積極的に参加した度合いによる。

科 目 名	超域文化ゼミ（都市と美術）（春学期） B							
担当者名	坂上　桂子							
複合	2単位	春学期	火曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

都市と美術の諸問題を多角的に考えていきます。私たちの暮らす都市が、安全で便利であることは穏やかで安心できる暮らしを支える重要な要件です。しかし、質の高い、豊かな生活を実現するためには、ただ、安全で便利である、ということだけでは十分とはいえません。美術やアートの力は、美しい街並みや環境を創造し、私たちの暮らしや生活の質を高め、私たちの人生を豊かにしてくれる重大な要素です。都市のなかにおける美術や美的な力について、ここでは皆で一緒に見つけ、考察していきます。具体的には、都市のなかの街並み、建築、美術館、ギャラリー、パブリックアート、アートイベントなどを中心に、都市を総合的に俯瞰してみていきます。各自、こうした問題意識を養い、自身の研究テーマを見いだし、ゼミ論執筆に向けての準備を進めます。

授業の到達目標

ゼミ論執筆に向けてテーマの設定を行います。続いて、文献の準備、内容の構成、執筆へと、自身のテーマに基づき進め、ゼミ論が書けるようにします。

成績評価方法

レポートおよび授業に積極的に参加した度合いによる。

科 目 名	超域文化ゼミ（都市と美術）（秋学期） A							
担当者名	坂上　桂子							
複合	2単位	秋学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

春学期に引き続き、都市と美術の諸問題を考えます。展覧会見学のほか、秋学期には、国内の都市を数日間合宿で訪れ、美術館、および地域と美術の問題を考える授業を実施する予定です。グループごとに建築、現代アート、伝統美術、工芸など、アートかかわるテーマ設定を行い、それぞれその地域における特性について事前学習にて学んだのち、計画を立て、実見・調査します。また創造理工学部・建築学科の学生たちと進めているプロジェクトとして、丸の内地区に関わる調査・研究をさらに進めます。

授業の到達目標

日本の地方都市における美術館や街を訪問、調査することで、都市とアートの問題を東京、および春に訪れたソウルと比較検討することで、私たちの生活や社会におけるアートのあり方について問題意識をもち、考えることができるようにします。また、こうしたゼミの活動を通して、各個人のゼミ論のテーマについて設定ができるようにします。

成績評価方法

レポートおよび授業へ積極的に参加した度合いによる。

科 目 名	超域文化ゼミ（都市と美術）（秋学期） B							
担当者名	坂上　桂子							
複合	2単位	秋学期	火曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

展覧会見学を織り交ぜながら、その都度、現在のアートの状況に触れていくようにします。とくに、国内の地方都市を合宿にて数日訪れ、グループ学習します。建築、街並み、現代アート、美術館、伝統美術、工芸など、各グループごとにテーマを設定し、あらかじめ事前調査を行い、現地ではそれに沿って実見・調査します。また同時に、春学期に引き続き、ゼミ論の執筆を進め、完成を目的とします。創造理工学部・建築学科の学生たちと共同で行っているプロジェクトを進めます。

授業の到達目標

2年間ゼミで学んできたことを総合的にまとめ、それぞれのテーマに応じたゼミ論として完成します。

成績評価方法

授業への参加度、レポートに応じる。

科 目 名	超域文化ゼミ（文化変容論）（春学期） 文化の伝播、接触、変容、そして創造							
担当者名	宮城　徳也							
複合	2単位	春学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

過去と現在に接触を持ち、それによって相互または一方的な影響を通じて変容した文化の有り方について、多様な興味のメンバーによる発表と討議を通じて、様々な文化の変容について学んで行きたいと思います。担当教員の興味はヘレニズムとルネサンスにありますが、受講者の皆さんとともに、古今東西の文化、教養、芸術について考えながら、それぞれが興味を持っている文化のあり方の接点を探り、その関係性を考察し、論じ合い、それらについてまとめて行こうと考えています。「言語と文化」、「宗教と文化」、「絵画、彫刻、建築、音楽、映画、思想、文学に見られる文化の変容と影響」などをテーマとして授業を進めていきます。

授業の到達目標

異文化との接触と変容による創造行為を通して、比較文学を含む文化活動について広い視野から学んでいく。

成績評価方法

●**試験**　0%　　平常点で評価します。
●**レポート**　0%　　平常点で評価します。
●**平常点**　100%　　ゼミ発表と討論への参加度を平常点として評価します。
●**その他**　0%

備考・関連URL

http://www.f.waseda.jp/tokuyam/index.htm

科 目 名	超域文化ゼミ（文化変容論）（秋学期） 文化の伝播、接触、変容、そして創造							
担当者名	宮城　徳也							
複合	2単位	秋学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

過去と現在に接触を持ち、それによって相互または一方的な影響を通じて変容した文化の有り方について、多様な興味のメンバーによる発表と討議を通じて、様々な文化の変容について学んで行きたいと思います。担当教員の興味はヘレニズムとルネサンスにありますが、受講者の皆さんとともに、古今東西の文化、教養、芸術について考えながら、それぞれが興味を持っている文化のあり方の接点を探り、その関係性を考察し、論じ合い、それらについてまとめて行こうと考えています。「言語と文化」、「宗教と文化」、「絵画、彫刻、建築、音楽、映画、思想、文学に見られる文化の変容と影響」などをテーマとして授業を進めていきます。

授業の到達目標

異文化との接触と変容による創造行為を通して、比較文学を含む文化活動について広い視野から学んでいく。

成績評価方法

●**試験**　0%　　平常点で評価します。
●**レポート**　0%　　平常点で評価します。
●**平常点**　100%　　ゼミ発表と討論への参加度を平常点として評価するが、3年生はゼミ論の計画書を提出し、それも評価の対象とする。
●**その他**　0%

備考・関連URL

http://www.f.waseda.jp/tokuyam/index.htm

科 目 名	感性文化ゼミ（メディア・コミュニケーション論）（春学期） グローバリゼーションとメディア・AI(人工知能)							
担当者名	高橋　利枝							
複合	2単位	春学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

私たちはこれまで経験したことがないような変動する世界に生きています。加速するグローバル化とデジタル化、AI(人工知能)化によって、日常生活はチャンスとリスクに満ちています。このゼミでは、このような時代を生きるゼミ生のために、①グローバル化、デジタル化された現代社会におけるチャンスとリスクについて理解を深めるとともに、②コミュニケーション能力を身に付けることを目標としています。

現代社会においてメディア（ソーシャルメディアやAIを含む）は、ビジネス、政治、経済、教育、医療、スポーツなど至る所に入り込んでいます。携帯電話やインターネットは私たちの日常生活において様々な人や文化を結びつけ、グローバル化を推し進めています。このゼミでは共同プロジェクト（YMG: Youth, Media and Globalisation）を通じて、現代のグローバル社会における科学コミュニケーション技術の発展によって得られるチャンスとリスクについて明らかにしていきます。

授業ではまず、グローバル化された現代社会を理解するためにグローバリゼーションに関する文献、またデジタル化やAI化を理解するためにメディア・コミュニケーションやAIに関する主要な文献の講読やリサーチを行います。そしてゼミ生各々の関心分野によってグループにわかれ、プレゼンテーションを行います。この時、ゼミ生全員は積極的にディスカッションに参加することが期待されます。グループワークによって基礎的な知識を習得し共有すると同時に、スマートフォンやソーシャルメディア、AIやロボットの利用に関する街頭インタビューやビデオ製作、メディアやIT関係者とのディスカッション、企業とのコラボレーションや他大学との合同ゼミなど様々な実践的な活動も行なっていきたいと考えています。このように本ゼミでは理論的かつ実践的にグローバル社会におけるメディアやAIの社会・文化的役割について理解し、グループワークやプレゼンテーションを通じて各々のコミュニケーション能力に磨きをかけることを目標としています。

3年生はグループワークによる共同プロジェクトを行います。前期は文献講読やリサーチ、ビデオ製作などによって基礎的な知識の習得を目標とします。後期はフィールドワークなどの結果をゼミ生全員で一つの報告書にまとめていきます。共同プロジェクトに参加して知識や方法論を共有しながら、自分の関心にあったテーマを見つけ、来年度のゼミ論に備えましょう。　4年生は様々なゼミ活動や共同プロジェクトに参加しながら、それぞれが立ち上げた個人プロジェクトを積極的かつ自立した姿勢で遂行し、ゼミ論を完成させていきましょう。まず、4月に個人プロジェクトの研究プロポーザルの発表をします。前期の最後には序章、理論的枠組み、方法論に関する論文を提出するとともに、夏休み中のフィールドワークの計画について発表を行います。

授業の到達目標

1.「若者とメディア」に関する共同プロジェクトを通して、グローバル化、AI化された現代社会における好機とリスク、メディアの役割について理解を深めましょう。
2. 映像マテリアルの作成などデジタル・リテラシーを実践することによって、新たな文化を創造する力を培いましょう。
3. グローバル人材・AI人材に必要とされる「他者」への理解とコミュニケーション能力を身に付けることを目標としています。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—
●**レポート**　30%　　レポート内容で評価
●**平常点**　70%　　ゼミにおけるプレゼンテーション、ディスカッション、フィールドワークなどへの参加度と貢献度などの総合評価
●**その他**　0%　　—

科 目 名	感性文化ゼミ（メディア・コミュニケーション論）（秋学期） グローバリゼーションとメディア・AI(人工知能)							
担当者名	高橋　利枝							
複合	2単位	秋学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

後期は、前期並びに夏休み中に行った「若者とメディア」に関するフィールドワークの結果を参加者全員で共有し、分析し、プレゼンテーションやディスカッションを通して、最終的に一つの報告書の形にまとめていきます。報告書の作成を通して、テーマの設定、概念装置の抽出、調査項目の作成、フィールドワーク、データ分析、理論化など、ゼミ論執筆に必要な基礎能力を身につけましょう。一年間の共同プロジェクトに参加し知識や方法論を共有しながら、自分の関心にあったテーマを見つけ、ゼミ論に向けて個人プロジェクトを立ち上げます。学年末には参加者は全員、ゼミ論に関するテーマに関するプレゼンテーションを行い、プロポーザルを提出します。

4年生は、夏休み中に行ったフィールドワークの分析について、ゼミ論発表会を行います。個人プロジェクトの発表によって、プレゼンテーションスキルを磨くと共に、参加者から得られたフィールドワークをもとに論文の書き直しや推敲を行い、よりよいゼミ論を完成させていきましょう。

授業の到達目標

1.「若者とメディア」に関する共同プロジェクトを通して、グローバル化、AI化された現代社会における好機とリスク、メディアの役割について理解を深めましょう。

2. 報告書の作成を通して、テーマの設定、概念装置の抽出、調査項目の作成、フィールドワーク、データ分析、理論化など、ゼミ論執筆に必要な基礎能力を身につけましょう。

3. グローバル人材・AI人材に必要とされる「他者」への理解とコミュニケーション能力を身に付けることを目標としています。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—

●**レポート**　30%　　ゼミ論または報告書の担当章をレポートとして評価します。

●**平常点**　70%　　ゼミにおけるプレゼンテーション、ディスカッション、フィールドワークなどへの参加度と貢献度などの総合評価

●**その他**　0%　　—

科 目 名	感性文化ゼミ（現代の文化哲学）（春学期）							
担当者名	小林　信之							
複合	2単位	春学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

わたしたちは生身の身体をもち、衣服を身にまとい、生きとし生けるものを食し、この大地に住まいを定めます。わたしたちは、見、聴き、味わい、触れることによってこの世界を生きるのです。しかしそれは、わたしたち個人の閉ざされた身体の出来事ではありません。わたしたちは、他者と関わり「共生」することで初めてこの世界へと開かれた存在となります。他者を愛し憎み、共感しあい、やがて死にゆく存在、それがわたしたち人間です。このゼミでは、このように生身の身体とともに生き、この世界を他者と共有し、有限な存在であらざるをえないわたしたち自身の有り方を問題にします。具体的なテーマとしては、以下のテーマ系があげられます。いずれも哲学的な基本テーマですが、同時にわたしたち自身の身近な具体的問題にかかわっています。すなわち、「自己と他者」「時間と物語」「空間と身体」「エロスとタナトス」「美と創造性」「日本の美学」といったテーマ系です。

（授業計画はWebシラバスに記載した通りですが、順番と内容は随時変更されます。）

授業の到達目標

なにか実利的な到達目標が設定されているわけではありません。多様な表現にふれ、理論的・哲学的思考と感受性を鋭敏に働かせることによって、いっそう深くものごとを見つめるための訓練として考えてください。

成績評価方法

●**試験**　0%

●**レポート**　0%

●**平常点**　100%　　演習発表、出席状況、議論への参加度等より判断します。評価基準は、研究内容への習熟度、自己の見解の有無、論述の的確さ等です。

●**その他**　0%

備考・関連URL

哲学的思考によって深く考える力を養成すると同時に、具体的な芸術文化現象に触れることで、文字通り感性を研ぎ澄ますことをめざしています。なにより、「学ぶことの喜び」が感じられるようなゼミにしていきたいと思います。美術館やギャラリー、劇場などを実際に尋ねたり、また遠隔地へのゼミ旅行等も企画していく予定です。

関連URL:
http://www.f.waseda.jp/kobayashi

科 目 名	感性文化ゼミ（現代の文化哲学）（秋学期）							
担当者名	小林　信之							
複合	2単位	秋学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

わたしたちは生身の身体をもち、衣服を身にまとい、生きとし生けるものを食し、この大地に住まいを定めます。わたしたちは、見、聴き、味わい、触れることによってこの世界を生きるのです。しかしそれは、わたしたち個人の閉ざされた身体の出来事ではありません。わたしたちは、他者と関わり「共生」することで初めてこの世界へと開かれた存在となります。他者を愛し憎み、共感しあい、やがて死にゆく存在、それがわたしたち人間です。このゼミでは、このように生身の身体とともに生き、この世界を他者と共有し、有限な存在であらざるをえないわたしたち自身の有り方を問題にします。具体的なテーマとしては、以下のテーマ系があげられます。いずれも哲学的な基本テーマですが、同時にわたしたち自身の身近な具体的問題にかかわってい

ます。すなわち、「自己と他者」「時間と物語」「空間と身体」「エロスとタナトス」「美と創造性」「日本の美学」といったテーマ系です。
（授業計画はWebシラバスに記載した通りですが、順番と内容は随時変更されます。）

授業の到達目標

なにか実利的な到達目標が設定されているわけではありません。多様な表現にふれ、理論的・哲学的思考と感受性を鋭敏に働かせることによって、いっそう深くものごとを見つめるための訓練として考えてください。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　演習発表、出席状況、議論への参加度等より判断します。評価基準は、研究内容への習熟度、自己の見解の有無、論述の的確さ等です。
●**その他**　0%

備考・関連URL

哲学的思考によって深く考える力を養成すると同時に、具体的な芸術文化現象に触れることで、文字通り感性を研ぎ澄ますことをめざしています。なにより、「学ぶことの喜び」が感じられるようなゼミにしていきたいと思います。美術館やギャラリー、劇場などを実際に尋ねたり、また遠隔地へのゼミ旅行等も企画していく予定です。
関連URL:
http://www.f.waseda.jp/kobayashi

科 目 名	言語文化ゼミ（ことばと文学・ことばと美意識）（春学期）							
担当者名	陣野　英則							
複合	２単位	春学期	火曜日	３時限	３年以上	—	—	—

授業概要

このゼミは、昨年度までの「感性文化ゼミ（日本の美意識）」をひきつぐ。おもに日本のことばと文学を中心にとりあげるが、「日本の美意識」をあつかってきたこれまでのゼミの性格を継承すべく、美、日本文化の特質などについても考える。
考察の対象は、前近代から近現代にかけてのことば、文学、藝能、藝術、思想などはもとより、近年のサブカルチャーなどにまでわたることがありうるし、アプローチのしかたも多岐にわたってよいのだが、特に次の（1）～（3）の点を重視しながら、各人の研究テーマを明確なものにしてゆく。
（1）前近代のことば、文学、文化に留意する。
（2）近代以降において、西欧のことば、観念などとの接触がもたらしたものを意識する。
（3）日本のことば、文学、文化が海外でどのようにみられ、また受容されているのかをとらえる。
春学期は、特に（1）を重視して関係する文献をとりあげ、3年生に発表してもらう。また、4年生についてはゼミ論の構想発表、中間発表などが課される。

授業の到達目標

ステレオタイプな見方を排し、自分の頭と心を真にはたらかせるようになることと、煩をいとわずに参照すべき文献にあたる習慣をつけることをめざす。また4年生は、これらに加え、自身のテーマに基づいたゼミ論の構想を明確なものとし、12月の完成に向けて一部の章の内容をかためてゆくことをめざす。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　ゼミでの発表内容、討議の時間における発言内容、出席状況などによる。
●**その他**　0%

備考・関連URL

夏休み中（例年は9月中旬）にゼミ合宿を行う予定（日程などについては4月に相談する）。

科 目 名	言語文化ゼミ（ことばと文学・ことばと美意識）（秋学期）							
担当者名	陣野　英則							
複合	２単位	秋学期	火曜日	３時限	３年以上	—	—	—

授業概要

このゼミは、昨年度までの「感性文化ゼミ（日本の美意識）」をひきつぐ。おもに日本のことばと文学を中心にとりあげるが、「日本の美意識」をあつかってきたこれまでのゼミの性格を継承すべく、美、日本文化の特質などについても考える。
考察の対象は、前近代から近現代にかけてのことば、文学、藝能、藝術、思想などはもとより、近年のサブカルチャーなどにまでわたることがありうるし、アプローチのしかたも多岐にわたってよいのだが、特に次の（1）～（3）の点を重視しながら、各人の研究テーマを明確なものにしてゆく。
（1）前近代のことば、文学、文化に留意する。
（2）近代以降において、西欧のことば、観念などとの接触がもたらしたものを意識する。
（3）日本のことば、文学、文化が海外でどのようにみられ、また受容されているのかをとらえる。
秋学期は、特に（2）と（3）を重視して関係する文献をとりあげ、3年生に発表してもらう。また、4年生についてはゼミ論の中間発表と草稿（一部）の提出が課される。

授業の到達目標

ステレオタイプな見方を排し、自分の頭と心を真にはたらかせるようになることと、煩をいとわずに参照すべき文献にあたる習慣をつけることをめざす。また3年生は、次年度のゼミ論執筆に備え、自身の研究テーマを明確なものにしてゆくことをめざす。4年生は、質の高いゼミ論の完成をめざす。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　ゼミでの発表内容、討議の時間における発言内容、出席状況、ゼミ論の構想に関わる提出物（3年のみ）な

どによる。
●**その他**　0%

科 目 名	超域文化ゼミ（集合的アイデンティティの諸相）（春学期） A							
担当者名	山田　真茂留							
複合	2単位	春学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

近代化ならびに現代化が進展するにつれ、伝統的な共同体志向は次第に稀薄化し、一般に個人主義化ないし個人化の流れが浸透することになった。しかしながらその一方、一人ひとりの生は身の周りの文化や組織や集団の影響を強く受ける。そこでこのゼミでは文化の力、集合体の力を十二分に見据えつつ、現代社会における集合的アイデンティティについて多角的に探究していく。そこでは国民文化、地域文化、世代文化、性別文化、宗教文化、組織文化などさまざまな文化と、そしてそれにまつわる集合的アイデンティティの諸相が俎上に載せられよう。

集団、文化、アイデンティティをキーワードに現代社会の集合的諸現象に挑んでいくにあたって、このゼミで主として依拠する学問は社会学である。しかし本ゼミでは社会学に留まらず、他の学問領域との協働も図りながら学際的な視座をもって集団現象のはらむさまざまな側面にアプローチしていきたい。

演習形式で授業を進めるため、各回は、参加者各人による報告と討議が中心となる。グループ活動（サブゼミ活動）を併用する可能性もある。春期は主に文献講読を通じて学術的なアプローチの基礎を鍛錬していく予定。

科目の性質上、毎回の演習への出席が欠かせないのはもちろんのこと、教場を離れた独自の探究にそれなりの時間とエネルギーをつぎこむことになる。なお3年生は火曜日の3時限、4年生は火曜日の4時限に登録されるが、合同で授業を行う可能性があるので、3時限・4時限の時間帯を通しで空けておくことが望まれる。

授業の到達目標

社会学の基礎的な方法論ならびに方法を習得すること、学際的なアプローチの仕方の基礎を身につけること、集合的な諸現象に対して学問的に切り込む術を体得すること、文化現象・集団現象に関して知的理解とともに感性的洞察を深めること。

成績評価方法

ゼミへの参加状況を総合的に勘案して評価する。

備考・関連URL

ゼミ関連で意味のある履修を行うため、ゼミ教員担当の講義を半期2単位分×2つ、またそれとは別に誰の担当でもいいので（他学部等でも可）社会学的な演習ないし講義を半期2単位分×2つ、2年間のゼミ在籍中に必ず履修すること（3年次終了時までの履修完了を強く推奨する）。なお、この数の中には2年次までに履修済みのものを繰り入れることを可とする。

科 目 名	超域文化ゼミ（集合的アイデンティティの諸相）（春学期） B							
担当者名	山田　真茂留							
複合	2単位	春学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

近代化ならびに現代化が進展するにつれ、伝統的な共同体志向は次第に稀薄化し、一般に個人主義化ないし個人化の流れが浸透することになった。しかしながらその一方、一人ひとりの生は身の周りの文化や組織や集団の影響を強く受ける。そこでこのゼミでは文化の力、集合体の力を十二分に見据えつつ、現代社会における集合的アイデンティティについて多角的に探究していく。そこでは国民文化、地域文化、世代文化、性別文化、宗教文化、組織文化などさまざまな文化と、そしてそれにまつわる集合的アイデンティティの諸相が俎上に載せられよう。

集団、文化、アイデンティティをキーワードに現代社会の集合的諸現象に挑んでいくにあたって、このゼミで主として依拠する学問は社会学である。しかし本ゼミでは社会学に留まらず、他の学問領域との協働も図りながら学際的な視座をもって集団現象のはらむさまざまな側面にアプローチしていきたい。

演習形式で授業を進めるため、各回は、参加者各人による報告と討議が中心となる。グループ活動（サブゼミ活動）を併用する可能性もある。春期は主に文献講読を通じて学術的なアプローチの基礎を鍛錬していく予定。

科目の性質上、毎回の演習への出席が欠かせないのはもちろんのこと、教場を離れた独自の探究にそれなりの時間とエネルギーをつぎこむことになる。なお3年生は火曜日の3時限、4年生は火曜日の4時限に登録されるが、合同で授業を行う可能性があるので、3時限・4時限の時間帯を通しで空けておくことが望まれる。

授業の到達目標

社会学の基礎的な方法論ならびに方法を習得すること、学際的なアプローチの仕方の基礎を身につけること、集合的な諸現象に対して学問的に切り込む術を体得すること、文化現象・集団現象に関して知的理解とともに感性的洞察を深めること。

成績評価方法

ゼミへの参加状況を総合的に勘案して評価する。

備考・関連URL

ゼミ関連で意味のある履修を行うため、ゼミ教員担当の講義を半期2単位分×2つ、またそれとは別に誰の担当でもいいので（他学部等でも可）社会学的な演習ないし講義を半期2単位分×2つ、2年間のゼミ在籍中に必ず履修すること（3年次終了時までの履修完了を強く推奨する）。なお、この数の中には2年次までに履修済みのものを繰り入れることを可とする。

科 目 名	超域文化ゼミ（集合的アイデンティティの諸相）（秋学期） A							
担当者名	山田　真茂留							
複合	2単位	秋学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

近代化ならびに現代化が進展するにつれ、伝統的な共同体志向は次第に稀薄化し、一般に個人主義化ないし個人化の流れが浸透することになった。しかしながらその一方、一人ひとりの生は身の周りの文化や組織や集団の影響を強く受ける。そこでこのゼミでは文化の力、集合体の力を十二分に見据えつつ、現代社会における集合的アイデンティティについて多角的に探究していく。そこでは国民文化、地域文化、世代文化、性別文化、宗教文化、組織文化などさまざまな文化と、そしてそれにまつわる集合的アイデンティティの諸相が俎上に載せられよう。

集団、文化、アイデンティティをキーワードに現代社会の集合的諸現象に挑んでいくにあたって、このゼミで主として依拠す

る学問は社会学である。しかし本ゼミでは社会学に留まらず、他の学問領域との協働も図りながら学際的な視座をもって集団現象のはらむさまざまな側面にアプローチしていきたい。
演習形式で授業を進めるため、各回は、参加者各人による報告と討議が中心となる。グループ活動（サブゼミ活動）を併用する可能性もある。秋期は主に各人ないし各グループが独自に行った探究の成果を報告していく予定。
科目の性質上、毎回の演習への出席が欠かせないのはもちろんのこと、教場を離れた独自の探究にそれなりの時間とエネルギーをつぎこむことになる。なお3年生は火曜日の3時限、4年生は火曜日の4時限に登録されるが、合同で授業を行う可能性があるので、3時限・4時限の時間帯を通しで空けておくことが望まれる。

授業の到達目標

社会学の基礎的な方法論ならびに方法を習得すること、学際的なアプローチの仕方の基礎を身につけること、集合的な諸現象に対して学問的に切り込む術を体得すること、文化現象・集団現象に関して知的理解とともに感性的洞察を深めること。

成績評価方法

ゼミへの参加状況を総合的に勘案して評価する。

備考・関連ＵＲＬ

ゼミ関連で意味のある履修を行うため、ゼミ教員担当の講義を半期2単位分×2つ、またそれとは別に誰の担当でもいいので（他学部等でも可）社会学的な演習ないし講義を半期2単位分×2つを、2年間のゼミ在籍中に必ず履修すること（3年次までの履修完了を強く推奨する）。なお、この数の中には2年次までに履修済みのものを繰り入れることを可とする。

科 目 名	超域文化ゼミ（集合的アイデンティティの諸相）（秋学期） B							
担当者名	山田　真茂留							
複合	２単位	秋学期	火曜日	４時限	３年以上	—	—	—

授業概要

近代化ならびに現代化が進展するにつれ、伝統的な共同体志向は次第に稀薄化し、一般に個人主義化ないし個人化の流れが浸透することになった。しかしながらその一方、一人ひとりの生は身の周りの文化や組織や集団の影響を強く受ける。そこでこのゼミでは文化の力、集合体の力を十二分に見据えつつ、現代社会における集合的アイデンティティについて多角的に探究していく。そこでは国民文化、地域文化、世代文化、性別文化、宗教文化、組織文化などさまざまな文化と、そしてそれにまつわる集合的アイデンティティの諸相が俎上に載せられよう。
集団、文化、アイデンティティをキーワードに現代社会の集合的諸現象に挑んでいくにあたって、このゼミで主として依拠する学問は社会学である。しかし本ゼミでは社会学に留まらず、他の学問領域との協働も図りながら学際的な視座をもって集団現象のはらむさまざまな側面にアプローチしていきたい。
演習形式で授業を進めるため、各回は、参加者各人による報告と討議が中心となる。グループ活動（サブゼミ活動）を併用する可能性もある。秋期は主に各人ないし各グループが独自に行った探究の成果を報告していく予定。
科目の性質上、毎回の演習への出席が欠かせないのはもちろんのこと、教場を離れた独自の探究にそれなりの時間とエネルギーをつぎこむことになる。なお3年生は火曜日の3時限、4年生は火曜日の4時限に登録されるが、合同で授業を行う可能性があるので、3時限・4時限の時間帯を通しで空けておくことが望まれる。

授業の到達目標

社会学の基礎的な方法論ならびに方法を習得すること、学際的なアプローチの仕方の基礎を身につけること、集合的な諸現象に対して学問的に切り込む術を体得すること、文化現象・集団現象に関して知的理解とともに感性的洞察を深めること。

成績評価方法

ゼミへの参加状況を総合的に勘案して評価する。

備考・関連ＵＲＬ

ゼミ関連で意味のある履修を行うため、ゼミ教員担当の講義を半期2単位分×2つ、またそれとは別に誰の担当でもいいので（他学部等でも可）社会学的な演習ないし講義を半期2単位分×2つを、2年間のゼミ在籍中に必ず履修すること（3年次までの履修完了を強く推奨する）。なお、この数の中には2年次までに履修済みのものを繰り入れることを可とする。

論系ゼミ

科 目 名	感性文化ゼミ（現代文明への視座）（春学期）							
担当者名	高橋　透							
複合	２単位	春学期	金曜日	４時限	３年以上	—	—	—

授業概要

3年生へ：ゼミ論へ向けて最初の助走を開始します。したがって、基本的には春期と秋期を通じて、ゼミ参加学生に自分のテーマに関して発表をしてもらいます。ゼミ開始までに、自分の関心事を整理しておいてください。4年生へ：昨年度の発表を発展させて、ゼミ論へつなげていきます。

授業の到達目標

ゼミ論という最終目標のために、各自ゼミ論へ向けて準備をする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　授業時に発表のものを仕上げて提出
●**平常点**　50%　　各自のプレゼンをおこなう
●**その他**　0%

科 目 名	感性文化ゼミ（現代文明への視座）（秋学期）							
担当者名	高橋　透							
複合	２単位	秋学期	金曜日	４時限	３年以上	—	—	—

授業概要

3年生へ：各自の春期発表を発展させて、ゼミ論へつなげていきます。4年生へ：各自の春期発表を発展させて、最終的にゼミ論へつなげていきます。

授業の到達目標

ゼミ論という最終目標のために、各自ゼミ論へ向けて準備をする。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　授業時に発表のものを仕上げて提出
●**平常点**　50%　　各自のプレゼンをおこなう
●**その他**　0%

科 目 名	メディア社会論ゼミ （春学期） A							
担当者名	長谷　正人							
表象	2単位	春学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

写真、映画、テレビという視覚的なメディアを中心にして、メディアが「社会」にどのように影響を与えてきたのかを、メディア史・メディア論の文献を中心にして考察する。その後で、メディア研究に関する共通の研究目的をたてて、共同で調査・研究を行い、報告書を作成する。社会がメディアとして構成され、メディアが社会そのものと化すような事例を取り上げる予定である。

授業の到達目標

社会がメディア的に構成されていることを批判的に理解すること。

成績評価方法

ゼミへの出席と参加度などで総合的に評価する

科 目 名	メディア社会論ゼミ （春学期） B							
担当者名	長谷　正人							
表象	2単位	春学期	月曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

3年生で学んだメディア社会学的思考を自分で試すため、自ら決めた研究テーマに沿ってゼミ論を書く。したがってゼミは各自の中間報告と議論を中心に展開される。ただし、できる限りでゼミAにも出席して、3年生の研究をサポートすること。

授業の到達目標

各自がゼミ論を完成させること。

成績評価方法

授業への参加度で評価する。

科 目 名	メディア社会論ゼミ （秋学期） A							
担当者名	長谷　正人							
表象	2単位	秋学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

写真、映画、テレビという視覚的なメディアを中心にして、メディアが「社会」にどのように影響を与えてきたのかを、メディア史・メディア論の文脈から考える。メディア研究に関する共通の研究目的をたてて、共同で調査・研究を行い、報告書を作成する。

授業の到達目標

メディア研究のアイロニーを理解すること。

成績評価方法

授業への参加度で評価する。

科 目 名	メディア社会論ゼミ （秋学期） B							
担当者名	長谷　正人							
表象	2単位	秋学期	月曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

各自のゼミ論を報告して、議論する。

授業の到達目標

各自がゼミ論を完成させること。

成績評価方法

授業への参加度で評価する。

科 目 名	幻影論ゼミ （春学期） A　多様なメディアの作品を分析する							
担当者名	岡室　美奈子							
表象	2単位	春学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

幻影論ゼミでは、テレビドラマ、演劇、映画、小説、漫画等、広範なジャンルの作品を研究し、作品を鋭く考察する分析力、深く豊かに味わう想像力を養う。必要な文献を読み、知識を身につける。

対象とする作品は、教員とゼミ生が推薦するものから合議の上決定する。

尚、春期は4年生以上と合同で行う。

授業の到達目標

作品分析の技法を学び、知識と想像力を駆使して一つの作品を深く考察することの喜びを味わう。また、グループ発表とディスカッションを通じて、プレゼンテーション能力とディスカッション能力を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　50%　　作品の理解度に加えて、独自の視点と分析の緻密さ、論理性の有無等を判断材料とする。

●**平常点**　50%　　研究発表の内容、出席率、ディスカッションでの発言等、授業への貢献度を総合的に判断する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

■夏合宿で映像作品を制作する。春期の間に脚本を検討する。
■6限も2学年合同で行う場合もあるので、6限は原則として授業をとらず空けておくこと。
■上記の予定は変更の可能性があるので、必ず教室等で確認すること。

科 目 名	幻影論ゼミ　（春学期）　B　満足のいくゼミ論を目指して							
担当者名	岡室　美奈子							
表象	2単位	春学期	木曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

幻影論ゼミでは、テレビドラマ、演劇、映画、小説、漫画等、広範なジャンルの作品を研究し、作品を鋭く考察する分析力、深く豊かに味わう想像力を養う。必要な文献を読み、知識を身につける。
また、グループ発表とディスカッションを通じて、プレゼンテーション能力とディスカッション能力を養う。
幻影論ゼミBでは、満足のいくゼミ論の完成に向けて、経過発表を行ない、問題点を共有し、ディスカッションをとおして解決しながら進める。

授業の到達目標

内容・表現ともに充実したゼミ論を完成させる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　50%　　ゼミ論の計画と序論の内容を見る。
●**平常点**　50%　　発表の状況やゼミへの貢献度などを総合的に見る。
●**その他**　0%

備考・関連URL

春期は5限に3・4年生合同で作品研究ゼミを行ない、6限を4年生のみのゼミ論指導とする。

科 目 名	幻影論ゼミ　（秋学期）　A　多様なメディアの作品を分析する							
担当者名	岡室　美奈子							
表象	2単位	秋学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

幻影論ゼミでは、テレビドラマ、演劇、映画、小説、漫画等、広範なジャンルの作品を研究し、作品を鋭く考察する分析力、深く豊かに味わう想像力を養う。必要な文献を読み、知識を身につける。
また、グループ発表とディスカッションを通じて、プレゼンテーション能力とディスカッション能力を養う。
秋期は基本的に3年生のみで行う。

授業の到達目標

作品研究の技法を学び、知識と想像力を駆使して一つの作品を深く考察することの喜びを味わう。ゼミ論集に収録できるレベルの小ゼミ論を完成させる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　50%　　小ゼミ論として論集に掲載しうるレベルに達しているかどうかを問う。
●**平常点**　50%　　ディスカッションでの発言状況やゼミへの貢献度などを総合的に見る。
●**その他**　0%

備考・関連URL

■上記シラバスはあくまで予定であり、教室で話し合って決めるので、常に予定を確認すること。

科 目 名	幻影論ゼミ　（秋学期）　B　満足のいくゼミ論の完成に向けて							
担当者名	岡室　美奈子							
表象	2単位	秋学期	木曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

幻影論ゼミでは、テレビドラマ、演劇、映画、小説、漫画等、広範なジャンルの作品を研究し、作品を鋭く考察する分析力、深く豊かに味わう想像力を養う。必要な文献を読み、知識を身につける。
ゼミ論完成に向けて、指導を行う。ジャンルごとにグループに分かれ、ゼミの時間に各自がプレゼンテーションを行い、教員と他のメンバーによる批評を受けるほか、グループ間で相互批評を行ない、ブラッシュアップする。
また、提出後には3年生、4年生以上合同で合評会を行う。

授業の到達目標

密度が濃く、オリジナリティに富み、作品を深く考察したゼミ論を完成させる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　100%　　研究発表の内容、出席率、ディスカッションでの発言等、授業への貢献度を総合的に判断する。
●**その他**　0%

備考・関連URL

優れたゼミ論には、岡室賞、投票による幻影論ゼミ賞、デザイン賞等が授与される。

科 目 名	クリエイティブ・メディアR&Dゼミ （春学期） A							
担当者名	チェン　ドミニク							
表象	2単位	春学期	金曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

メディア技術（自然言語からテレビからインターネットまで）は、私たちの現実に対する解像度を高めるだけではなく、無数の人間によって構成される社会の動作システムを規定します。現代においては、ビッグデータ解析や人工知能といった情報技術の複雑さと影響が圧倒的に増した結果、一部の専門家によって社会の根本的な動作原理が定義され、多くの一般市民にとってはブラックボックスになっているという歪さが生まれ、機械vs人間という不毛な二項対立が生まれています。このゼミではこの二極化を乗り越えて、なだらかに人間的な価値と情報技術を融和するビジョンを育てていきます。そのためには、人間と技術両方への関心と理解を深めるために、コンピュータサイエンスやITビジネスの最新動向を社会学、経済、政治、哲学、宗教、芸術といった諸領域の議論と並行して把握することが必要です。

このゼミの全体的なコンセプトとしては、より社会全体に開かれ、人間の創造性を増幅するメディア技術の展望を切り開くためのリサーチとデザインを行っていきます。より具体的には、3年次には主に研究テーマの発掘、4年次には卒業研究制作に重点を置き、全体としては「最先端の方法論のリサーチ」と「クリエイティブ・メディアのデザイン」を行き来します。

方法論のリサーチ領域としては、広く情報技術を用いた芸術表現としての「メディアアート」の他にも、思索を目的とするデザイン手法「スペキュラティブ・デザイン」、サイエンス・フィクションを用いた技術設計の「デザイン・フィクション」、情報システムが人間に与える心理的フィードバックを考慮しながら設計を行う「ポジティブ・コンピューティング」、生物と情報技術を越境する表現形式としての「バイオアート」の動向などを、「人間的価値と情報技術の融和」という観点から参照します。

デザインの過程としては、プロトタイプの素描と精緻化、デモの制作と公開、フィードバックの集積と改善などを短いサイクルで実践していきます。なおプログラミングのスキルはあれば尚良しですが、基本的に不要です。IT企業の現場で使用されているSlackやGithubといった最新の情報共有ツールやProttのようなプロトタイピングツールの使い方をゼミのなかで習得していきます。

21世紀という時代に必要とされるメディア技術の在り方をゼミ生のみんなと一緒に考え、新しい価値を作り上げ、発信していきたいと思います。

授業の到達目標

3年次の春期には、「課題と方法論のリサーチ」に特化して、まずは情報のシャワーを浴びて吸収することに専念し、秋期からのアウトプット段階を準備していきます。なお、表メ演習「デザイン・フィクション・ワークショップ」はアウトプットの練習になるので、併せて受講できれば尚良し、です。

春期では具体的には以下の能力を鍛えることを目標にします：

・未知の情報とツールの学習
・当事者としての研究テーマの探求
・ゼミメンバーとのコミュニケーション
・課題のリサーチ

成績評価方法

ゼミ内容への主体性と当事者意識をもった参加を評価します

・講義時の自発的なコミュニケーション（発言、他のメンバーへのコメント）
・課題に対する取り組みの熱量（潜在能力の発揮の度合い）

科 目 名	クリエイティブ・メディアR&Dゼミ （春学期） B							
担当者名	チェン　ドミニク							
表象	2単位	春学期	金曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

メディア技術（自然言語からテレビからインターネットまで）は、私たちの現実に対する解像度を高めるだけではなく、無数の人間によって構成される社会の動作システムを規定します。現代においては、ビッグデータ解析や人工知能といった情報技術の複雑さと影響が圧倒的に増した結果、一部の専門家によって社会の根本的な動作原理が定義され、多くの一般市民にとってはブラックボックスになっているという歪さが生まれ、機械vs人間という不毛な二項対立が生まれています。このゼミではこの二極化を乗り越えて、なだらかに人間的な価値と情報技術を融和するビジョンを育てていきます。そのためには、人間と技術両方への関心と理解を深めるために、コンピュータサイエンスやITビジネスの最新動向を社会学、経済、政治、哲学、宗教、芸術といった諸領域の議論と並行して把握することが必要です。

このゼミの全体的なコンセプトとしては、より社会全体に開かれ、人間の創造性を増幅するメディア技術の展望を切り開くためのリサーチとデザインを行っていきます。より具体的には、3年次には主に研究テーマの発掘、4年次には卒業研究制作に重点を置き、全体としては「最先端の方法論のリサーチ」と「クリエイティブ・メディアのデザイン」を行き来します。

方法論のリサーチ領域としては、広く情報技術を用いた芸術表現としての「メディアアート」の他にも、思索を目的とするデザイン手法「スペキュラティブ・デザイン」、サイエンス・フィクションを用いた技術設計の「デザイン・フィクション」、情報システムが人間に与える心理的フィードバックを考慮しながら設計を行う「ポジティブ・コンピューティング」、生物と情報技術を越境する表現形式としての「バイオアート」の動向などを、「人間的価値と情報技術の融和」という観点から参照します。

デザインの過程としては、プロトタイプの素描と精緻化、デモの制作と公開、フィードバックの集積と改善などを短いサイクルで実践していきます。なおプログラミングのスキルはあれば尚良しですが、基本的に不要です。IT企業の現場で使用されているSlackやGithubといった最新の情報共有ツールやProttのようなプロトタイピングツールの使い方をゼミのなかで習得していきます。

21世紀という時代に必要とされるメディア技術の在り方をゼミ生のみんなと一緒に考え、新しい価値を作り上げ、発信していきたいと思います。

授業の到達目標

3年次の春期には、「課題と方法論のリサーチ」に特化して、まずは情報のシャワーを浴びて吸収することに専念し、秋期からのアウトプット段階を準備していきます。なお、表メ演習「デザイン・フィクション・ワークショップ」はアウトプットの練習になるので、併せて受講できれば尚良し、です。

春期では具体的には以下の能力を鍛えることを目標にします：

・未知の情報とツールの学習
・当事者としての研究テーマの探求
・ゼミメンバーとのコミュニケーション
・課題のリサーチ

成績評価方法

ゼミ内容への主体性と当事者意識をもった参加を評価します
・講義時の自発的なコミュニケーション（発言、他のメンバーへのコメント）
・課題に対する取り組みの熱量（潜在能力の発揮の度合い）

科 目 名	クリエイティブ・メディアR&Dゼミ （秋学期） A							
担当者名	チェン　ドミニク							
表象	２単位	秋学期	金曜日	３時限	３年以上	—	—	—

授業概要

メディア技術（自然言語からテレビからインターネットまで）は、私たちの現実に対する解像度を高めるだけではなく、無数の人間によって構成される社会の動作システムを規定します。現代においては、ビッグデータ解析や人工知能といった情報技術の複雑さと影響が圧倒的に増した結果、一部の専門家によって社会の根本的な動作原理が定義され、多くの一般市民にとってはブラックボックスになっているという歪さが生まれ、機械vs人間という不毛な二項対立が生まれています。このゼミではこの二極化を乗り越えて、なだらかに人間的な価値と情報技術を融和するビジョンを育てていきます。そのためには、人間と技術両方への関心と理解を深めるために、コンピュータサイエンスやITビジネスの最新動向を社会学、経済、政治、哲学、宗教、芸術といった諸領域の議論と並行して把握することが必要です。

このゼミの全体的なコンセプトとしては、より社会全体に開かれ、人間の創造性を増幅するメディア技術の展望を切り開くためのリサーチとデザインを行っていきます。より具体的には、3年次には主に研究テーマの発掘、4年次には卒業研究制作に重点を置き、全体としては「最先端の方法論のリサーチ」と「クリエイティブ・メディアのデザイン」を行き来します。

方法論のリサーチ領域としては、広く情報技術を用いた芸術表現としての「メディアアート」の他にも、思索を目的とするデザイン手法「スペキュラティブ・デザイン」、サイエンス・フィクションを用いた技術設計の「デザイン・フィクション」、情報システムが人間に与える心理的フィードバックを考慮しながら設計を行う「ポジティブ・コンピューティング」、生物と情報技術を越境する表現形式としての「バイオアート」の動向などを、「人間的価値と情報技術の融和」という観点から参照します。

デザインの過程としては、プロトタイプの素描と精緻化、デモの制作と公開、フィードバックの集積と改善などを短いサイクルで実践していきます。なおプログラミングのスキルはあれば尚良しですが、基本的に不要です。IT企業の現場で使用されているSlackやGithubといった最新の情報共有ツールやProttのようなプロトタイピングツールの使い方をゼミのなかで習得していきます。

21世紀という時代に必要とされるメディア技術の在り方をゼミ生のみんなと一緒に考え、新しい価値を作り上げ、発信していきたいと思います。

授業の到達目標

3年次の秋期には、「クリエイティブ・メディアのデザイン」に特化して、春期で摂取した情報を表現へと代謝していく過程に入ります。

秋期では具体的には以下の能力を鍛えることを目標にします：
・課題に基づいた表現全般
・文章表現
・ビジュアル／サウンド表現
・アーキテクチャ（構造）の表現
・アルゴリズム（論理）の表現
・ゼミメンバーとのコミュニケーション

論系ゼミ

成績評価方法

ゼミ内容への主体性と当事者意識をもった参加を評価します
・講義時の自発的なコミュニケーション（発言、他のメンバーへのコメント）
・課題に対する取り組みの熱量（潜在能力の発揮の度合い）

科 目 名	クリエイティブ・メディアR&Dゼミ （秋学期） B							
担当者名	チェン　ドミニク							
表象	２単位	秋学期	金曜日	４時限	３年以上	—	—	—

授業概要

メディア技術（自然言語からテレビからインターネットまで）は、私たちの現実に対する解像度を高めるだけではなく、無数の人間によって構成される社会の動作システムを規定します。現代においては、ビッグデータ解析や人工知能といった情報技術の複雑さと影響が圧倒的に増した結果、一部の専門家によって社会の根本的な動作原理が定義され、多くの一般市民にとってはブラックボックスになっているという歪さが生まれ、機械vs人間という不毛な二項対立が生まれています。このゼミではこの二極化を乗り越えて、なだらかに人間的な価値と情報技術を融和するビジョンを育てていきます。そのためには、人間と技術両方への関心と理解を深めるために、コンピュータサイエンスやITビジネスの最新動向を社会学、経済、政治、哲学、宗教、芸術といった諸領域の議論と並行して把握することが必要です。

このゼミの全体的なコンセプトとしては、より社会全体に開かれ、人間の創造性を増幅するメディア技術の展望を切り開くためのリサーチとデザインを行っていきます。より具体的には、3年次には主に研究テーマの発掘、4年次には卒業研究制作に重点を置き、全体としては「最先端の方法論のリサーチ」と「クリエイティブ・メディアのデザイン」を行き来します。

方法論のリサーチ領域としては、広く情報技術を用いた芸術表現としての「メディアアート」の他にも、思索を目的とするデザイン手法「スペキュラティブ・デザイン」、サイエンス・フィクションを用いた技術設計の「デザイン・フィクション」、情報システムが人間に与える心理的フィードバックを考慮しながら設計を行う「ポジティブ・コンピューティング」、生物と情報技術を越境する表現形式としての「バイオアート」の動向などを、「人間的価値と情報技術の融和」という観点から参照します。

デザインの過程としては、プロトタイプの素描と精緻化、デモの制作と公開、フィードバックの集積と改善などを短いサイク

ルで実践していきます。なおプログラミングのスキルはあれば尚良しですが、基本的に不要です。IT企業の現場で使用されているSlackやGithubといった最新の情報共有ツールやProttのようなプロトタイピングツールの使い方をゼミのなかで習得していきます。

21世紀という時代に必要とされるメディア技術の在り方をゼミ生のみんなと一緒に考え、新しい価値を作り上げ、発信していきたいと思います。

授業の到達目標

3年次の秋期には、「クリエイティブ・メディアのデザイン」に特化して、春期で摂取した情報を表現へと代謝していく過程に入ります。なお、表メ選択基礎演習「読むことは書くこと」は摂取した情報の表現の練習になるので、併せて受講できれば尚良し、です。

秋期では具体的には以下の能力を鍛えることを目標にします：

・課題に基づいた表現全般
・文章表現
・ビジュアル／サウンド表現
・アーキテクチャ（構造）の表現
・アルゴリズム（論理）の表現
・ゼミメンバーとのコミュニケーション

成績評価方法

ゼミ内容への主体性と当事者意識をもった参加を評価します

・講義時の自発的なコミュニケーション（発言、他のメンバーへのコメント）
・課題に対する取り組みの熱量（潜在能力の発揮の度合い）

科 目 名	身体表象論ゼミ （春学期） A							
担当者名	坂内 太							
表象	2単位	春学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

身体表象論ゼミでは、「身体」及び「身体の表象」をキーワードに、文学/演劇/パフォーマンス・スタディーズ/写真/映画/絵画/漫画/アニメ等々の多領域を横断しながら、様々な芸術作品を分析・考察する。扱う対象が表象・メディア論系の他のプログラムの内容とも密接に関わるため、身体論・メディア論・イメージ論の基本文献を読み進める作業をゼミ生共通の課題として掲げ、各自の特定テーマに関するリサーチ/発表と併せて毎回のゼミを展開する。

なお、文献購読に関して、英語圏の著作は全て原書を読み進める。毎週の文献購読が相当量に及ぶこと、また、最終的な成果として提出するゼミ論は、英語での執筆を義務づけることから、英語の読み書きに自信のない者の受講は勧めない。基本的に授業は日本語で行うが、必要に応じて英語で行うこともある。ゼミ論に対する評価は厳しいので、受講者は相応の覚悟をすること。斬新な視点と熱意とを併せ持つ学生を期待する。

授業の到達目標

上記の概要に沿って展開されるゼミの内容を十全に理解した上で、身体表象論の対象となりうる様々な作品・事象に関し、独自の観察・批評が出来るようになることを、ゼミ生の各々が目指して欲しい。

成績評価方法

●**試験** 0% なし
●**レポート** 0% なし
●**平常点** 0% なし
●**その他** 100% 100

備考・関連URL

ゼミ論の進行に合わせて個別にフィードバックを行う。

科 目 名	身体表象論ゼミ （春学期） B							
担当者名	坂内 太							
表象	2単位	春学期	火曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

身体表象論ゼミでは、「身体」及び「身体の表象」をキーワードに、文学/演劇/パフォーマンス・スタディーズ/写真/映画/絵画/漫画/アニメ等々の多領域を横断しながら、様々な芸術作品を分析・考察する。扱う対象が表象・メディア論系の他のプログラムの内容とも密接に関わるため、身体論・メディア論・イメージ論の基本文献を読み進める作業をゼミ生共通の課題として掲げ、各自の特定テーマに関するリサーチ/発表と併せて毎回のゼミを展開する。

なお、文献購読に関して、英語圏の著作は全て原書を読み進める。毎週の文献購読が相当量に及ぶこと、また、最終的な成果として提出するゼミ論は、英語での執筆を義務づけることから、英語の読み書きに自信のない者の受講は勧めない。基本的に授業は日本語で行うが、必要に応じて英語で行うこともある。ゼミ論に対する評価は厳しいので、受講者は相応の覚悟をすること。斬新な視点と熱意とを併せ持つ学生を期待する。

授業の到達目標

上記の概要に沿って展開されるゼミの内容を十全に理解した上で、身体表象論の対象となりうる様々な作品・事象に関し、独自の観察・批評が出来るようになることを、ゼミ生の各々が目指して欲しい。

成績評価方法

●**試験** 0% なし
●**レポート** 0% なし
●**平常点** 0% なし
●**その他** 100% 100

備考・関連URL

ゼミ論の進行に合わせて個別にフィードバックを行う。

科 目 名	身体表象論ゼミ （秋学期） A							
担当者名	坂内 太							
表象	2単位	秋学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

身体表象論ゼミでは、「身体」及び「身体の表象」をキーワードに、文学/演劇/パフォーマンス・スタディーズ/写真/映画/絵画/漫画/アニメ等々の多領域を横断しながら、様々な芸術作品を分析・考察する。扱う対象が表象・メディア論系の他のプログラムの内容とも密接に関わるため、身体論・メディア論・イメージ論の基本文献を読み進める作業をゼミ生共通の課題として掲げ、各自の特定テーマに関するリサーチ/発表と併せて毎回のゼミを展開する。

なお、文献購読に関して、英語圏の著作は全て原書を読み進める。毎週の文献購読が相当量に及ぶこと、また、最終的な成果として提出するゼミ論は、英語での執筆を義務づけることから、英語の読み書きに自信のない者の受講は勧めない。基本的に授業は日本語で行うが、必要に応じて英語で行うこともある。ゼミ論に対する評価は厳しいので、受講者は相応の覚悟をすること。斬新な視点と熱意とを併せ持つ学生を期待する。

授業の到達目標

上記の概要に沿って展開されるゼミの内容を十全に理解した上で、身体表象論の対象となりうる様々な作品・事象に関し、独自の観察・批評が出来るようになることを、ゼミ生の各々が目指して欲しい。

成績評価方法

●**試験** 0% なし
●**レポート** 0% なし
●**平常点** 0% なし
●**その他** 100% 100

備考・関連URL

ゼミ論の進行に合わせて個別にフィードバックを行う。

科 目 名	身体表象論ゼミ （秋学期） B							
担当者名	坂内 太							
表象	2単位	秋学期	火曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

身体表象論ゼミでは、「身体」及び「身体の表象」をキーワードに、文学/演劇/パフォーマンス・スタディーズ/写真/映画/絵画/漫画/アニメ等々の多領域を横断しながら、様々な芸術作品を分析・考察する。扱う対象が表象・メディア論系の他のプログラムの内容とも密接に関わるため、身体論・メディア論・イメージ論の基本文献を読み進める作業をゼミ生共通の課題として掲げ、各自の特定テーマに関するリサーチ/発表と併せて毎回のゼミを展開する。

なお、文献購読に関して、英語圏の著作は全て原書を読み進める。毎週の文献購読が相当量に及ぶこと、また、最終的な成果として提出するゼミ論は、英語での執筆を義務づけることから、英語の読み書きに自信のない者の受講は勧めない。基本的に授業は日本語で行うが、必要に応じて英語で行うこともある。ゼミ論に対する評価は厳しいので、受講者は相応の覚悟をすること。斬新な視点と熱意とを併せ持つ学生を期待する。

授業の到達目標

上記の概要に沿って展開されるゼミの内容を十全に理解した上で、身体表象論の対象となりうる様々な作品・事象に関し、独自の観察・批評が出来るようになることを、ゼミ生の各々が目指して欲しい。

成績評価方法

●**試験** 0% なし
●**レポート** 0% なし
●**平常点** 0% なし
●**その他** 100% 100

備考・関連URL

ゼミ論の進行に合わせて個別にフィードバックを行う。

科 目 名	文化身体論ゼミ （春学期） A 虚学							
担当者名	宮沢 章夫							
表象	2単位	春学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

混沌とした授業内容にしたいと考えている。というのも、文化のなかにおける「身体」はいま、さまざまなテクノロジーによってこわばっているのを感じるからだ。監視カメラは24時間、私たちを映し続けている。禁煙をはじめノイジーなものは排除されようとしている。合理が優先され、逸脱は認められない。けれどよくよく考えてみれば「身体」こそなによりノイジーだ。ニュータウンの美しさは否定できない。安全で、住みやすく、美しい土地だ。けれどどんなに美しくてもゴミはどこかに集められている。「身体」のぶれのようなもの、その魅力を、さまざまな例示（ストリートに出てフィールドワークをし、映画や演劇、美術など作品鑑賞）のなかから、まさに自身の「身体」を発見するためにこのゼミはある。

授業の到達目標

なにより、自分のからだが、ノイジーだということに気がつくことだ。あるいは社会的にどのように存在しているか、暴力や言葉は「わたし」をいかにして排除しているか。排除の論理を身をもって知ることだ。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 0%
●**平常点** 100% ゼミへの貢献度と、学習への姿勢。
●**その他** 0%

科 目 名	文化身体論ゼミ （春学期） B 虚学							
担当者名	宮沢 章夫							
表象	2単位	春学期	火曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

A（3年生中心）、B（4年生中心）同時に開講することもあれば、それぞれ、5限が3年生、6限が4年生と分けて授業する場合がある。ほとんど3年生、4年生合同により講義だと考えてほしい。

4年生は、すぐれたゼミ論の完成を到達目標にするが、Aと同様に、混沌とした授業内容にしたいと考えている。というのも、文化のなかにおける「身体」はいま、さまざまなテクノロジーによってこわばっているのを感じるからだ。監視カメラは24時間、私たちを映し続けている。禁煙をはじめノイジーなものは排除されようとしている。合理が優先され、逸脱は認められない。けれどよくよく考えてみれば「身体」こそなによりノイジーだ。ニュータウンの美しさは否定できない。安全で、住みやすく、美しい土地だ。けれどどんなに美しくてもゴミはどこかに集められている。「身体」のぶれのようなもの、その魅力を、さまざまな例示（ストリートに出てフィールドワークをし、映画や演劇、美術など作品鑑賞）のなかから、まさに自身の「身体」を発見するためにこのゼミはある。

授業の到達目標

なにより、自分のからだが、ノイジーだということに気がつくことだ。あるいは社会的にどのように存在しているか、暴力や言葉は「わたし」をいかにして排除しているか。排除の論理を身をもって知ることだ。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 0%
●**平常点** 100% ゼミへの貢献と、学習への姿勢。
●**その他** 0%

科 目 名	文化身体論ゼミ （秋学期） A							
担当者名	宮沢 章夫							
表象	2単位	秋学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

A（3年生中心）、B（4年生中心）同時に開講することもあれば、それぞれ、5限が3年生、6限が4年生と分けて授業する場合がある。

混沌とした授業内容にしたいと考えている。というのも、文化のなかにおける「身体」はいま、さまざまなテクノロジーによってこわばっているのを感じるからだ。監視カメラは24時間、私たちを映し続けている。禁煙をはじめノイジーなものは排除されようとしている。だが、「身体」こそなによりノイジーだ。ニュータウンの美しさは否定できない。安全で、住みやすく、美しい土地だ。けれどどんなに美しくてもゴミはどこかに集められている。「身体」のぶれのようなものを、さまざまな例示（フィールドワーク、映画、演劇など作品鑑賞）のなかから発見するためにこのゼミはある。

授業の到達目標

なにより、自分のからだが、ノイジーだということに気がつくことだ。あるいは社会的にどのように存在しているか、暴力や言葉は「わたし」をいかにして排除しているか。排除の論理を身をもって知ることだ。

成績評価方法

●**試験** 0% 実施しない。
●**レポート** 0% 実施しない。
●**平常点** 100% ゼミへの貢献度、出席。
●**その他** 0%

科 目 名	文化身体論ゼミ （秋学期） B 虚学への長く不合理な道							
担当者名	宮沢 章夫							
表象	2単位	秋学期	火曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

A（3年生中心）、B（4年生中心）同時に開講することもあれば、それぞれ、5限が3年生、6限が4年生と分けて授業する場合がある。

Aと同様に、混沌とした授業内容にしたいと考えているが、4年生は、すぐれたゼミ論の完成を到達目標にする。

文化のなかにおける「身体」はいま、さまざまなテクノロジーによってこわばっている。監視カメラは24時間、私たちを映し続けている。禁煙をはじめノイジーなものは排除されようとしている。だが、「身体」こそなによりノイジーだ。ニュータウンの美しさは否定できない。安全で、住みやすく、美しい土地だ。けれどどんなに美しくてもゴミはどこかに集められている。「身体」のぶれのようなものを、さまざまな例示（フィールドワーク、映画、演劇など作品鑑賞）のなかから発見するためにこのゼミはある。

授業の到達目標

なにより、自分のからだが、ノイジーだということに気がつくことだ。あるいは社会的にどのように存在しているか、暴力や言葉は「わたし」をいかにして排除しているか。排除の論理を身をもって知ることだ。

成績評価方法

●**試験** 0% 実施しない。
●**レポート** 0% 実施しない。
●**平常点** 100% 授業への貢献度、出席。
●**その他** 0%

科 目 名	身体行為論ゼミ （春学期） A マイクロ・コミュニケーション分析の基礎							
担当者名	細馬 宏通							
表象	2単位	春学期	木曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

日常生活で人と人が関わりあうとき、何気なくやりとりされる声や動作は当人も意識しないうちに巧妙にコントロールされている。こうした意識からこぼれ落ちる「マイクロ・コミュニケーション」がどのようなものかは、質問紙やインタビューを用いるだけでなく、そこで交わされている声や動作を直接観察し、精緻に分析することで初めて明らかになる。

このゼミではこのような日常観察のための基本的な方法と考え方を文献で学んだ上で、実際に日常のいくつかの場面を撮影し、共同で一つの場面について分析を行う。また、小説、マンガ、映画、音楽などさまざまな視聴覚メディアに描かれたやりとりの中に、日常のどのような声や身体が写し取られているか、それが作品に何をもたらすかについて考える。

授業の到達目標

・声と身体の観察に基づき、わたしたちの実際の生活で行われる行為について考察することができるようになる。
・メディア作品に表れる人の行為、人がメディアを扱う行為を、そこで交わされている声と身体を観察することで批評できるようになる。
・音声と動画を記録するための基本的な作業を行えるようになる。
・音声と動画を扱うための基本的な分析ツールを扱えるようになる。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 50% 随時、分析課題を課す。
●**平常点** 50%
●**その他** 0%

科 目 名	身体行為論ゼミ （春学期） B マイクロ・コミュニケーション分析の基礎							
担当者名	細馬 宏通							
表象	2単位	春学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

日常生活で人と人が関わりあうとき、何気なくやりとりされる声や動作は当人も意識しないうちに巧妙にコントロールされている。こうした意識からこぼれ落ちる「マイクロ・コミュニケーション」がどのようなものかは、質問紙やインタビューを用いるだけでなく、そこで交わされている声や動作を直接観察し、精緻に分析することで初めて明らかになる。

このゼミではこのような日常観察のための基本的な方法と考え方を文献で学んだ上で、実際に日常のいくつかの場面を撮影し、共同で一つの場面について分析を行う。また、小説、マンガ、映画、音楽などさまざまな視聴覚メディアに描かれたやりとりの中に、日常のどのような声や身体が写し取られているか、それが作品に何をもたらすかについて考える。

授業の到達目標

・声と身体の観察に基づき、わたしたちの実際の生活で行われる行為について考察することができるようになる。
・メディア作品に表れる人の行為、人がメディアを扱う行為を、そこで交わされている声と身体を観察することで批評できるようになる。
・音声と動画を記録するための基本的な作業を行えるようになる。
・音声と動画を扱うための基本的な分析ツールを扱えるようになる。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 50% 随時、分析課題を課す。
●**平常点** 50%
●**その他** 0%

科 目 名	身体行為論ゼミ （秋学期） A マイクロ・コミュニケーション分析の応用							
担当者名	細馬 宏通							
表象	2単位	秋学期	木曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

日常生活で人と人が関わりあうとき、何気なくやりとりされる声や動作は当人も意識しないうちに巧妙にコントロールされている。こうした意識からこぼれ落ちる「マイクロ・コミュニケーション」がどのようなものかは、質問紙やインタビューを用いるだけでなく、そこで交わされている声や動作を直接観察し、精緻に分析することで初めて明らかになる。

このゼミではこのような日常観察のための基本的な方法と考え方を文献で学んだ上で、実際に日常のいくつかの場面を撮影し、共同で一つの場面について分析を行う。また、小説、マンガ、映画、音楽などさまざまな視聴覚メディアに描かれたやりとりの中に、日常のどのような声や身体が写し取られているか、それが作品に何をもたらすかについて考える。

授業の到達目標

・声と身体の観察に基づき、わたしたちの実際の生活で行われる行為について考察することができるようになる。
・メディア作品に表れる人の行為、人がメディアを扱う行為を、そこで交わされている声と身体を観察することで批評できるようになる。
・音声と動画を記録するための基本的な作業を行えるようになる。
・音声と動画を扱うための基本的な分析ツールを扱えるようになる。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 50% ゼミ生全員がそれぞれ分析対象を決めて発表を行う。発表後にレポートを作成し、評価対象とする。
●**平常点** 50%
●**その他** 0%

科 目 名	身体行為論ゼミ （秋学期） B マイクロ・コミュニケーション分析の応用							
担当者名	細馬 宏通							
表象	2単位	秋学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

日常生活で人と人が関わりあうとき、何気なくやりとりされる声や動作は当人も意識しないうちに巧妙にコントロールされている。こうした意識からこぼれ落ちる「マイクロ・コミュニケーション」がどのようなものかは、質問紙やインタビューを用いるだけでなく、そこで交わされている声や動作を直接観察し、精緻に分析することで初めて明らかになる。

このゼミではこのような日常観察のための基本的な方法と考え方を文献で学んだ上で、実際に日常のいくつかの場面を撮影し、共同で一つの場面について分析を行う。また、小説、マンガ、映画、音楽などさまざまな視聴覚メディアに描かれたやりとりの中に、日常のどのような声や身体が写し取られているか、それが作品に何をもたらすかについて考える。

授業の到達目標

・声と身体の観察に基づき、わたしたちの実際の生活で行われる行為について考察することができるようになる。

・メディア作品に表れる人の行為、人がメディアを扱う行為を、そこで交わされている声と身体を観察することで批評できるようになる。

・音声と動画を記録するための基本的な作業を行えるようになる。

・音声と動画を扱うための基本的な分析ツールを扱えるようになる。

成績評価方法

●**試験** 0%

●**レポート** 50% ゼミ生全員がそれぞれ分析対象を決めて発表を行う。発表後にレポートを作成し、評価対象とする。

●**平常点** 50%

●**その他** 0%

科 目 名	イメージの記号論ゼミ （春学期） A 映画×美術+1							
担当者名	大石 雅彦							
表象	2単位	春学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

5限： 新学期までにゼミ論のテーマ（少なくともジャンル）を決定し、それに関係する本を一冊択んでおいて下さい
（4月の最初の授業で尋ねます）
自分が択んだ本について発表・一回につき一人ずつ50分程度・発表につての意見交換
／論文・本を輪読

6限：4年生の発表を聴く

7月初頭に2泊3日の合宿

＊5・6限はゼミ用に空けておいて下さい！

授業の到達目標

芸術文化の基本的理解

成績評価方法

●**試験** 0% 行わない

●**レポート** 50% 期末リポート

●**平常点** 50% 出席、発表

●**その他** 0% なし

科 目 名	イメージの記号論ゼミ （春学期） B 映画×美術+1							
担当者名	大石 雅彦							
表象	2単位	春学期	金曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

5限：自主ゼミ

6限：ゼミ論発表

7月初頭に2泊3日の合宿

＊5・6限はゼミ用に空けておいて下さい！

授業の到達目標

ゼミ論のさらなる深化

成績評価方法

●**試験** 0% 行わない

●**レポート** 50% 期末リポート

●**平常点** 50% 出席、発表

●**その他** 0% なし

科 目 名	イメージの記号論ゼミ （秋学期） A 映画×美術+1							
担当者名	大石 雅彦							
表象	2単位	秋学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

5限：ゼミ論発表、論文輪読

6限：自主ゼミ／プレゼミ論集制作

＊5・6限はゼミ用に空けておいて下さい！

授業の到達目標

ゼミ論のテーマをかためる

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　50%　　期末レポート
●**平常点**　50%　　出席、発表
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	イメージの記号論ゼミ （秋学期） B　映画×美術+1							
担当者名	大石　雅彦							
表象	2単位	秋学期	金曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

5限：自主ゼミ／ゼミ論集制作
6限：ゼミ論発表／ゼミ論執筆指導

＊5、6限はゼミ用に空けておいて下さい！

授業の到達目標

ゼミ論のさらなる深化

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない
●**レポート**　50%　　夏休みのレポート
●**平常点**　50%　　出席、発表
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	メディア思想ゼミ （春学期） A　メディアの文化と思想							
担当者名	藤本　一勇							
表象	2単位	春学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

現代の先端メディア・先端テクノロジー時代における社会や文化、人間や個人のあり方を考えるゼミです。そのために、人類が蓄積してきた言葉やアイディアのツールを縦横無尽に活用し、政治や経済、科学や芸術、歴史や倫理といった多種多様な視点から物事を複眼的に思考する術を学びます。

最終的には、表象・メディア論系の三つのプログラムである「メディア」「イメージ」「身体」を包括するような総合的なメディア文化論を構築することを目指します。

授業は教員がそのつど指示するテキストについての発表および討議を中心に進めますが、ゼミテーマに関連する映像作品の分析もおこないます。

多様なメディア文化とその社会的・思想的基盤に触れることで、ゼミ生が自分の問題意識や研究テーマを発見し、来たるべき先端メディア・先端テクノロジー時代を生き抜く力を身につけられるようにします。

授業の到達目標

メディア社会やメディア文化に関する多様な思考ツールを身につけ、今後到来する超情報メディア時代と先端テクノロジー時代を生き抜き、自己と他者や世界との新しい可能性を切り開く土台を構築すること。

3年生は自分の研究テーマを見つけ、ゼミ論の土台となるプレゼミ論を作成すること。

4年生はゼミ論を完成させること。

成績評価方法

ゼミへの出席・参加姿勢、課題の出来などから総合的に判断します。

科 目 名	メディア思想ゼミ （春学期） B　メディアの文化と思想							
担当者名	藤本　一勇							
表象	2単位	春学期	木曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

現代の先端メディア・先端テクノロジー時代における社会や文化、人間や個人のあり方を考えるゼミです。そのために、人類が蓄積してきた言葉やアイディアのツールを縦横無尽に活用し、政治や経済、科学や芸術、歴史や倫理といった多種多様な視点から物事を複眼的に思考する術を学びます。

最終的には、表象・メディア論系の三つのプログラムである「メディア」「イメージ」「身体」を包括するような総合的なメディア文化論を構築することを目指します。

授業は教員がそのつど指示するテキストについての発表および討議を中心に進めますが、ゼミテーマに関連する映像作品の分析もおこないます。

多様なメディア文化とその社会的・思想的基盤に触れることで、ゼミ生が自分の問題意識や研究テーマを発見し、来たるべき先端メディア・先端テクノロジー時代を生き抜く力を身につけられるようにします。

授業の到達目標

メディア社会やメディア文化に関する多様な思考ツールを身につけ、今後到来する超情報メディア時代と先端テクノロジー時代を生き抜き、自己と他者や世界との新しい可能性を切り開く土台を構築すること。

3年生は自分の研究テーマを見つけ、ゼミ論の土台となるプレゼミ論を作成すること。

4年生はゼミ論を完成させること。

成績評価方法

ゼミへの出席・参加姿勢、課題の出来などから総合的に判断します。

科 目 名	メディア思想ゼミ （秋学期） A メディアの文化と思想							
担当者名	藤本 一勇							
表象	2単位	秋学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

現代の先端メディア・先端テクノロジー時代における社会や文化、人間や個人のあり方を考えるゼミです。そのために、人類が蓄積してきた言葉やアイディアのツールを縦横無尽に活用し、政治や経済、科学や芸術、歴史や倫理といった多種多様な視点から物事を複眼的に思考する術を学びます。

最終的には、表象・メディア論系の三つのプログラムである「メディア」「イメージ」「身体」を包括するような総合的なメディア文化論を構築することを目指します。

授業は教員がそのつど指示するテキストについての発表および討議を中心に進めますが、ゼミテーマに関連する映像作品の分析もおこないます。

多様なメディア文化とその社会的・思想的基盤に触れることで、ゼミ生が自分の問題意識や研究テーマを発見し、来たるべき先端メディア・先端テクノロジー時代を生き抜く力を身につけられるようにします。

授業の到達目標

メディア社会やメディア文化に関する多様な思考ツールを身につけ、今後到来する超情報メディア時代と先端テクノロジー時代を生き抜き、自己と他者や世界との新しい可能性を切り開く土台を構築すること。

3年生は自分の研究テーマを見つけ、ゼミ論の土台となるプレゼミ論を作成すること。

4年生はゼミ論を完成させること。

成績評価方法

ゼミへの出席・参加姿勢、課題の出来などから総合的に判断します。

科 目 名	メディア思想ゼミ （秋学期） B メディアの文化と思想							
担当者名	藤本 一勇							
表象	2単位	秋学期	木曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

現代の先端メディア・先端テクノロジー時代における社会や文化、人間や個人のあり方を考えるゼミです。そのために、人類が蓄積してきた言葉やアイディアのツールを縦横無尽に活用し、政治や経済、科学や芸術、歴史や倫理といった多種多様な視点から物事を複眼的に思考する術を学びます。

最終的には、表象・メディア論系の三つのプログラムである「メディア」「イメージ」「身体」を包括するような総合的なメディア文化論を構築することを目指します。

授業は教員がそのつど指示するテキストについての発表および討議を中心に進めますが、ゼミテーマに関連する映像作品の分析もおこないます。

多様なメディア文化とその社会的・思想的基盤に触れることで、ゼミ生が自分の問題意識や研究テーマを発見し、来たるべき先端メディア・先端テクノロジー時代を生き抜く力を身につけられるようにします。

授業の到達目標

メディア社会やメディア文化に関する多様な思考ツールを身につけ、今後到来する超情報メディア時代と先端テクノロジー時代を生き抜き、自己と他者や世界との新しい可能性を切り開く土台を構築すること。

3年生は自分の研究テーマを見つけ、ゼミ論の土台となるプレゼミ論を作成すること。

4年生はゼミ論を完成させること。

成績評価方法

ゼミへの出席・参加姿勢、課題の出来などから総合的に判断します。

科 目 名	イメージ分析ゼミ （春学期） A 対決！イメージ分析							
担当者名	橋本 一径							
表象	2単位	春学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

「富士山」「ミッキー」「天使」「UFO」……。多くの人はこれらの言葉を聞いただけで、その姿形を思い浮かべることとができるはずです。本ゼミは、当たり前のように共有されているこれらの「イメージ」が、いつどこで生まれて、どのようにして私たちのもとにまでたどり着いたのかを、可能な限り解明することを目指します。たとえばミッキーマウスは、1928年に「オズワルド」というウサギのキャラクターが、ユニバーサル・ピクチャーズに権利を奪われてしまったため、その代わりにウォルト・ディズニー作り出したキャラクターであることが知られています。しかし動物を人間のような姿のように描くという、「動物形象（zoomorphism）」の伝統をさかのぼってみれば、18世紀末から19世紀初頭に描かれたとされる背広姿のネズミを、フランス国立図書館のデジタルアーカイブの中に見出すことができます（リンク先および以下の図参照：https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/btv1b69477402/f1.item）。本ゼミでは、このように私たちが当たり前のように共有していて、普段は疑問にすら思わないようなイメージの起源を、できる限り掘り下げることを試みます。言語や文化を超えて広まるイメージの「感染力」の謎に迫ることが目標です。

授業の到達目標

イメージの喚起力とその起源について、具体的に理解し、他人に説明できるようになる。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 0%
●**平常点** 100% 出席のほか、授業への貢献度を総合的に評価する。
●**その他** 0%

備考・関連URL

春学期は基本的に3年生と4年生の合同で行います。履修登録は5限（3年生）か6限（4年生）のいずれかに自動的になされますが、5限・6限を通じて行うこともありますので、どちらの時間もゼミに参加できるようにしておいてください。

科目名	イメージ分析ゼミ （春学期） B 対決！イメージ分析							
担当者名	橋本 一径							
表象	2単位	春学期	月曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

「富士山」「ミッキー」「天使」「UFO」……。多くの人はこれらの言葉を聞いただけで、その姿形を思い浮かべることとができるはずです。本ゼミは、当たり前のように共有されているこれらの「イメージ」が、いつどこで生まれて、どのようにして私たちのもとにまでたどり着いたのかを、可能な限り解明することを目指します。たとえばミッキーマウスは、1928年に「オズワルド」というウサギのキャラクターが、ユニバーサル・ピクチャーズに権利を奪われてしまったため、その代わりにウォルト・ディズニー作り出したキャラクターであることが知られています。しかし動物を人間のような姿のように描くという、「動物形象（zoomorphism）」の伝統をさかのぼってみれば、18世紀末から19世紀初頭に描かれたとされる背広姿のネズミを、フランス国立図書館のデジタルアーカイブの中に見出すことができます（リンク先および以下の図参照：https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/btv1b69477402/f1.item）。本ゼミでは、このように私たちが当たり前のように共有していて、普段は疑問にすら思わないようなイメージの起源を、できる限り掘り下げることを試みます。言語や文化を超えて広まるイメージの「感染力」の謎に迫ることが目標です。

授業の到達目標

イメージの喚起力とその起源について、具体的に理解し、他人に説明できるようになる。

成績評価方法

- **試験** 0%
- **レポート** 0%
- **平常点** 100% 出席のほか、授業への貢献度を総合的に評価する。
- **その他** 0%

備考・関連URL

春学期は基本的に3年生と4年生の合同で行います。履修登録は5限（3年生）か6限（4年生）のいずれかに自動的になされますが、5限・6限を通じて行うこともありますので、どちらの時間もゼミに参加できるようにしておいてください。

科目名	イメージ分析ゼミ （秋学期） A イメージ分析ゼミ論集作成							
担当者名	橋本 一径							
表象	2単位	秋学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

広く「イメージ」に関係するテーマを一つ定めて、各人がそのテーマに関連する発表を行い、レポートを執筆し、最終的には論集を刊行します。これまでのテーマは「ゾンビ」、「ピエロ」、「アイドル」、「模様」、「変身」、「モテとモエ」、「顔」、「魔女」です。いずれも、誰もが耳にしたことのある言葉で、何らかの共通するイメージを持っているのに、その歴史や意味については、深く考察されることがあまりないテーマでした。今学期もそのようなテーマを一つ選んで、卒論の準備となるようなゼミ論を執筆します。

授業の到達目標

「イメージ」とは何なのかを、具体的な例を通して考察し、説得力のあるレポートを執筆する。グループワークやディスカッションに積極的に参加し、共同作業により論文集を作成する。

成績評価方法

- **試験** 0%
- **レポート** 40% 学期末までにレポートを執筆し、小論文集として刊行する。
- **平常点** 60% 出席のほか、授業への貢献度を総合的に評価する。
- **その他** 0%

論系ゼミ

科目名	イメージ分析ゼミ （秋学期） B ゼミ論執筆：その方法と内容							
担当者名	橋本 一径							
表象	2単位	秋学期	月曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

3年次のゼミで執筆した論文を踏まえつつ、ゼミ論のテーマを決め、各自がそのテーマについてプレゼンテーションを行うとともに、論文の書き方の基礎を確認します。

授業の到達目標

「イメージ分析」の手法に則って、ゼミ論に相応しいテーマを決定し、その内容についてわかりやすいプレゼンテーションを行うとともに、4年間の学生生活の集大成としての卒業論文を完成させる。

成績評価方法

- **試験** 0%
- **レポート** 0%
- **平常点** 100% 出席や授業への貢献度などを総合的に評価します。
- **その他** 0%

科 目 名	イメージ批評ゼミ （春学期） A イメージ批評の基礎を学ぶ							
担当者名	石岡 良治							
表象	2単位	春学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

イメージ理論の古典を学びつつ、それらを具体的かつ個別作品の批評的分析と結びつけていく。
まず講師が実例として発表を行った後、ゼミ生の関心領域に応じた様々な領域の作品を、ミクロマクロ両面から分析していく技法を身につけるようつとめる。

授業の到達目標

個別作品のトータルな印象を、いったん微細な構成要素にまで解体することで捉え直し、作品が他の作品と取り結ぶ多様な文脈のうちに再配置していくことができるようになること。

成績評価方法

出席・レジュメの作成・演習への貢献を総合的に判断する。

科 目 名	イメージ批評ゼミ （春学期） B イメージ批評の基礎を学ぶ							
担当者名	石岡 良治							
表象	2単位	春学期	月曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

イメージ理論の古典を学びつつ、それらを具体的かつ個別作品の批評的分析と結びつけていく。
まず講師が実例として発表を行った後、ゼミ生の関心領域に応じた様々な領域の作品を、ミクロマクロ両面から分析していく技法を身につけるようつとめる。

授業の到達目標

個別作品のトータルな印象を、いったん微細な構成要素にまで解体することで捉え直し、作品が他の作品と取り結ぶ多様な文脈のうちに再配置していくことができるようになること。

成績評価方法

出席・レジュメの作成・演習への貢献を総合的に判断する。

科 目 名	イメージ批評ゼミ （秋学期） A イメージ批評の基礎を学ぶ							
担当者名	石岡 良治							
表象	2単位	秋学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

イメージ理論の古典を学びつつ、それらを具体的かつ個別作品の批評的分析と結びつけていく。
まず講師が実例として発表を行った後、ゼミ生の関心領域に応じた様々な領域の作品を、ミクロマクロ両面から分析していく技法を身につけるようつとめる。

授業の到達目標

個別作品のトータルな印象を、いったん微細な構成要素にまで解体することで捉え直し、作品が他の作品と取り結ぶ多様な文脈のうちに再配置していくことができるようになること。

成績評価方法

出席・レジュメの作成・演習への貢献を総合的に判断する。

科 目 名	イメージ批評ゼミ （秋学期） B イメージ批評の基礎を学ぶ							
担当者名	石岡 良治							
表象	2単位	秋学期	月曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

イメージ理論の古典を学びつつ、それらを具体的かつ個別作品の批評的分析と結びつけていく。
まず講師が実例として発表を行った後、ゼミ生の関心領域に応じた様々な領域の作品を、ミクロマクロ両面から分析していく技法を身につけるようつとめる。

授業の到達目標

個別作品のトータルな印象を、いったん微細な構成要素にまで解体することで捉え直し、作品が他の作品と取り結ぶ多様な文脈のうちに再配置していくことができるようになること。

成績評価方法

出席・レジュメの作成・演習への貢献を総合的に判断する。

科 目 名	視覚イメージ論ゼミ （春学期） ミュージアムをめぐって							
担当者名	関 直子							
表象	2単位	春学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

【3年生】
ミュージアムは西洋近代に成立し、近代の諸制度とともに非西洋においても様々な形で展開してきましたが、現在の創造活動を紹介し、文脈化する本格的な同時代美術館が登場してからは、まだ一世紀を経ていません。価値の共有されているものを保存公開するミュージアムの考え方と、未だ共有されていない現在の創造とは相容れない部分があるために、同時代美術館は社会の中で相対的な存在と言えるものですが、その揺れ動いていることこそ、実は可能性として捉えることもできるのです。
このゼミでは、草創期のミュージアムから、やがて同時代美術館が成立し展開していく過程で、そこに収集、展示されたものやイメージがどのように文脈づけられ、そして受容されてきたのかを考えます。授業では、多様なミュージアムのコレクションの展示、そして企画展を具体的に取り上げ、展示された時代や地域との関係、アーテイストや来館者の関係、批評などを通して、その意味を掘り下げていきます。授業内でもミュージアムの見学を行いますが、日頃から様々なミュージアムを訪ねて、展示されたもの、そこで展示していることを観察し、その意味を批評的に考えること、そして将来はミュージアムに関わる仕事を目指

す方を歓迎します。ミュージアムを対象として、多様なアプローチでイメージの問題に取り組んでいきましょう。

授業の到達目標

様々なミュージアムにおける展示を中心とした活動について、現在の社会の中でその意味を理解し、その課題と可能性を提示できるようにする。

成績評価方法

授業への参加度、口頭発表、レポートなどを総合的に評価します。

科 目 名	視覚イメージ論ゼミ （秋学期） ミュージアムをめぐって							
担当者名	関 直子							
表象	2単位	秋学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

ミュージアムは西洋近代に成立し、近代の諸制度とともに非西洋においても様々なかたちで展開してきましたが、現在の創造活動を紹介し、文脈化する本格的な同時代美術館が登場してからは、まだ一世紀を経ていません。価値の共有されているものを保存公開するミュージアムの考え方と、いまだ共有されていない現在の創造とは相容れない部分があるために、同時代美術館は社会のなかで相対的な存在と言えるものですが、その揺れ動いていることこそ、実は可能性として捉えることもできるのです。

このゼミでは、草創期のミュージアムから、やがて同時代美術館が成立し展開していく過程で、そこに収集、展示されたものやイメージがどのように文脈づけられ、そして受容されてきたのかを考えます。授業では、多様なミュージアムのコレクションの展示、そして企画展を具体的にとりあげ、展示された時代や地域との関係、アーティストや来館者の関係、批評などをとおして、その意味を掘り下げていきます。授業内でも、ミュージアムの見学を行いますが、日頃からさまざまなミュージアムを訪ねて、展示されたもの、そこで展開していることを観察し、その意味を批評的に考えること、そして将来はミュージアムに関わる仕事を目指す方を歓迎します。ミュージアムを対象として、多様なアプローチでイメージの問題に取り組んでいきましょう。

授業の到達目標

様々なミュージアムにおける展示を中心とした活動について、現在の社会の中でその意味を理解し、その課題と可能性を提案できるようにする。

成績評価方法

【3年生】

授業への参加度、口頭発表、レポートなどを総合的に評価します。

科 目 名	身体の精神分析ゼミ （春学期） 様々な視点から「身体」にアプローチする							
担当者名	村井 翔							
表象	2単位	春学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

春学期は予定通り、指定の書物を皆で分担発表しつつ読み進めます。その間には、この本で論じられている小説（『午後の曳航』『蠅の王』）を映画版で見てみることも考えています。

授業の到達目標

教科書は近代ヨーロッパにおける身体の改造やバレエに関するものですが、身体論全般について関心を持ち、知識を深めてもらえると思います。それがまさに授業の到達目標です。

成績評価方法

平常点評価（100%）：教科書の割り当て部分について発表することが単位取得の条件です。

科 目 名	身体の精神分析ゼミ （秋学期） 様々な視点から「身体」にアプローチする							
担当者名	村井 翔							
表象	2単位	秋学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

論系ゼミ

授業概要

秋学期、3年生は自分の興味あること、おそらくゼミ論のテーマになるであろうことについて発表（プレゼン）してもらい、最終的には1月末までに4000字ほどのプレゼミ論（ゼミ論のひな型）を書き上げることを目指します。4年生はゼミ論の最終プレゼンを行い、12月中旬までにゼミ論を書き上げる必要があります。

授業の到達目標

3年生に関しては、プレゼミ論の完成が目標です。4年生はもちろん、ゼミ論を書き上げること。

成績評価方法

●**試験** 0%

●**レポート** 50% 3年生はプレゼミ論、4年生はゼミ論（ゼミ論の評価は科目としては一応、別建てになりますが）の出来ばえによって評価します。

●**平常点** 50% 出席回数、議論参加率などによって評価します。

●**その他** 0%

科 目 名	批評・創作実践ゼミ1 （春学期） A 読み、書く。							
担当者名	堀江 敏幸							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

論系ゼミ要項に記した通り、ゆっくり、丁寧に読み、書くことを反復する。 前半にまず3年生のゼミ選考課題作品を全作合評し、後半に短篇小説・批評・エッセイを読んで、自由作品による応答を行う。

授業の到達目標

他者の言葉に耳を傾け、作品に対して作品で応える自由な発想を養う。また、秋学期の課題となるゼミ機関誌「L'Atelier304」に向けて創作を行う。

成績評価方法
平常点（出席、発言、発表）と、作品（自由レポート、創作作品）を総合的に評価する。

科 目 名	批評・創作実践ゼミ１ （春学期） B 読み、書く。							
担当者名	堀江 敏幸							
文ジャ	２単位	春学期	金曜日	６時限	３年以上	—	—	—

授業概要
論系ゼミ要項に記した通り、ゆっくり、丁寧に読み、書くことを反復する。 前半にまず3年生のゼミ選考課題作品を全作合評し、後半に短篇小説・批評・エッセイを読んで、自由作品による応答を行う。

授業の到達目標
他者の言葉に耳を傾け、作品に対して作品で応える自由な発想を養う。また、秋学期の課題となるゼミ機関誌「L'Atelier304」に向けて創作を行う。

成績評価方法
平常点（出席、発言、発表）と、作品（自由レポート、創作作品）を総合的に評価する。

科 目 名	批評・創作実践ゼミ１ （秋学期） A 読み、書く。							
担当者名	堀江 敏幸							
文ジャ	２単位	秋学期	金曜日	５時限	３年以上	—	—	—

授業概要
論系ゼミ要項に記した通り、ゆっくり、丁寧に読み、書くことを反復する。 短篇小説、随想、批評を合評したのち、次の回までに小文の課題を提出し、合評をする。

授業の到達目標
ゼミ機関誌「L'Atelier304」を刊行する。掲載作品を11月末までに仕上げ（400字詰め原稿用紙30枚程度）、12月から1月にかけて全作を合評する。

成績評価方法
平常点（出席、発言、発表）と、作品（自由レポート、創作作品）を総合的に評価する。

科 目 名	批評・創作実践ゼミ１ （秋学期） B 読み、書く。							
担当者名	堀江 敏幸							
文ジャ	２単位	秋学期	金曜日	６時限	３年以上	—	—	—

授業概要
論系ゼミ要項に記した通り、ゆっくり、丁寧に読み、書くことを反復する。 短篇小説、随想、批評を合評したのち、次の回までに小文の課題を提出し、合評をする。

授業の到達目標
ゼミ機関誌「L'Atelier304」を刊行する。掲載作品を11月末までに仕上げ（400字詰め原稿用紙30枚程度）、12月から1月にかけて全作を合評する。

成績評価方法
平常点（出席、発言、発表）と、作品（自由レポート、創作作品）を総合的に評価する。

科 目 名	現代文学のフィールドワークゼミ （春学期） A 創作・批評・理論							
担当者名	貝澤 哉							
文ジャ	２単位	春学期	火曜日	５時限	３年以上	—	—	—

授業概要
このゼミでは、現代文学の作品や、そのメディア、生産、流通、読者の置かれている状況を具体的に検討しながら、文学生産の場やそのなかに流通する言葉のあり方を考え、さらに、そうした言葉の交通・交換の場のなかに入って、みずから新しい言葉を産出し流通させるための準備運動やストレッチ、助走をおこなってゆきたい。このゼミを「現代文学のフィールドワーク」と名づけたのは、現代の文学が生産・流通されるまさに今・ここの現場のなかで、新しい言葉を生み出すための基礎的な反射神経や運動感覚、動体視力をやしなうことを目的としているからだ。

それゆえ、このゼミではジャンルの区別はせず、小説創作も、批評も、文学・文化理論その他もすべて取り扱う。受講生はそれぞれの関心に従って、小説や他の文学ジャンルを紡ぎだす言葉、批評や文学・文化理論などテクストを読み解くための言葉を追求してほしい。というのも、文学の現場（フィールド）では創作や批評、理論の言葉は、つねに互いに分かちがたく結びつき、刺激を与えあっているからだ。

そして、こうした生きた言葉の刺激や交歓が、ゼミ論（創作・批評・論文）へと結実し、さらに大学の外にあるより広い言葉の場へと拡がってゆくことを期待したい。

授業の到達目標
授業は、教員の講義および、受講生の発表、討議を中心におこなわれる。小説創作、読解や文章技術の習得をとおして、高校までの国語教育の洗脳から脱出して、「早く人間になる」(?!) ことが到達目標である。

職人技を修行しようというのだから、学校的な暗記物のお勉強ではない。修行の第一歩は、なにより自分の頭で考えることである。人と同じことを考えて同じ文章を書いても、だれもわざわざ読んでくれるはずがない。自分の頭で考えることが、ロボットから「真人間」になる第一歩なのだ。

成績評価方法
授業で書く文章および討論への参加度、出席を総合して評価する。

科 目 名	現代文学のフィールドワークゼミ （春学期） B 創作・批評・理論							
担当者名	貝澤 哉							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

このゼミでは、現代文学の作品や、そのメディア、生産、流通、読者の置かれている状況を具体的に検討しながら、文学生産の場やそのなかに流通する言葉のあり方を考え、さらに、そうした言葉の交通・交換の場のなかに入って、みずから新しい言葉を産出し流通させるための準備運動やストレッチ、助走をおこなってゆきたい。このゼミを「現代文学のフィールドワーク」と名づけたのは、現代の文学が生産・流通されるまさに今・ここの現場のなかで、新しい言葉を生み出すための基礎的な反射神経や運動感覚、動体視力をやしなうことを目的としているからだ。

それゆえ、このゼミではジャンルの区別はせず、小説創作も、批評も、文学・文化理論その他もすべて取り扱う。受講生はそれぞれの関心に従って、小説や他の文学ジャンルを紡ぎだす言葉、批評や文学・文化理論などテクストを読み解くための言葉を追求してほしい。というのも、文学の現場（フィールド）では創作や批評、理論の言葉は、つねに互いに分かちがたく結びつき、刺激を与えあっているからだ。

そして、こうした生きた言葉の刺激や交歓が、ゼミ論（創作・批評・論文）へと結実し、さらに大学の外にあるより広い言葉の場へと拡がってゆくことを期待したい。

授業の到達目標

授業の到達目標　授業は、教員の講義および、受講生の発表、討議を中心におこなわれる。小説創作、読解や文章技術の習得をとおして、高校までの国語教育の洗脳から脱出して、「早く人間になる」（?!）ことが到達目標である。

職人技を修行しようというのだから、学校的な暗記物のお勉強ではない。修行の第一歩は、なにより自分の頭で考えることである。人と同じことを考えて同じ文章を書いても、だれもわざわざ読んでくれるはずがない。自分の頭で考えることが、ロボットから「真人間」になる第一歩なのだ。

成績評価方法

授業で書く文章および討論への参加度、出席を総合して評価する。

科 目 名	現代文学のフィールドワークゼミ （秋学期） A 創作・批評・理論							
担当者名	貝澤 哉							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

このゼミでは、現代文学の作品や、そのメディア、生産、流通、読者の置かれている状況を具体的に検討しながら、文学生産の場やそのなかに流通する言葉のあり方を考え、さらに、そうした言葉の交通・交換の場のなかに入って、みずから新しい言葉を産出し流通させるための準備運動やストレッチ、助走をおこなってゆきたい。このゼミを「現代文学のフィールドワーク」と名づけたのは、現代の文学が生産・流通されるまさに今・ここの現場のなかで、新しい言葉を生み出すための基礎的な反射神経や運動感覚、動体視力をやしなうことを目的としているからだ。

それゆえ、このゼミではジャンルの区別はせず、小説創作も、批評も、文学・文化理論その他もすべて取り扱う。受講生はそれぞれの関心に従って、小説や他の文学ジャンルを紡ぎだす言葉、批評や文学・文化理論などテクストを読み解くための言葉を追求してほしい。というのも、文学の現場（フィールド）では創作や批評、理論の言葉は、つねに互いに分かちがたく結びつき、刺激を与えあっているからだ。

そして、こうした生きた言葉の刺激や交歓が、ゼミ論（創作・批評・論文）へと結実し、さらに大学の外にあるより広い言葉の場へと拡がってゆくことを期待したい。

授業の到達目標

授業は、教員の講義および、受講生の発表、討議を中心におこなわれる。小説創作、読解や文章技術の習得をとおして、高校までの国語教育の洗脳から脱出して、「早く人間になる」（?!）ことが到達目標である。

職人技を修行しようというのだから、学校的な暗記物のお勉強ではない。修行の第一歩は、なにより自分の頭で考えることである。人と同じことを考えて同じ文章を書いても、だれもわざわざ読んでくれるはずがない。自分の頭で考えることが、ロボットから「真人間」になる第一歩なのだ。

成績評価方法

授業で書く文章および討論への参加度、出席を総合して評価する。

科 目 名	現代文学のフィールドワークゼミ （秋学期） B 創作・批評・理論							
担当者名	貝澤 哉							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

このゼミでは、現代文学の作品や、そのメディア、生産、流通、読者の置かれている状況を具体的に検討しながら、文学生産の場やそのなかに流通する言葉のあり方を考え、さらに、そうした言葉の交通・交換の場のなかに入って、みずから新しい言葉を産出し流通させるための準備運動やストレッチ、助走をおこなってゆきたい。このゼミを「現代文学のフィールドワーク」と名づけたのは、現代の文学が生産・流通されるまさに今・ここの現場のなかで、新しい言葉を生み出すための基礎的な反射神経や運動感覚、動体視力をやしなうことを目的としているからだ。

それゆえ、このゼミではジャンルの区別はせず、小説創作も、批評も、文学・文化理論その他もすべて取り扱う。受講生はそれぞれの関心に従って、小説や他の文学ジャンルを紡ぎだす言葉、批評や文学・文化理論などテクストを読み解くための言葉を追求してほしい。というのも、文学の現場（フィールド）では創作や批評、理論の言葉は、つねに互いに分かちがたく結びつき、刺激を与えあっているからだ。

そして、こうした生きた言葉の刺激や交歓が、ゼミ論（創作・批評・論文）へと結実し、さらに大学の外にあるより広い言葉の場へと拡がってゆくことを期待したい。

授業の到達目標

授業の到達目標　授業は、教員の講義および、受講生の発表、討議を中心におこなわれる。小説創作、読解や文章技術の習得をとおして、高校までの国語教育の洗脳から脱出して、「早く人間になる」（?!）ことが到達目標である。

職人技を修行しようというのだから、学校的な暗記物のお勉強ではない。修行の第一歩は、なにより自分の頭で考えることである。人と同じことを考えて同じ文章を書いても、だれもわざわざ読んでくれるはずがない。自分の頭で考えることが、ロボットから「真人間」になる第一歩なのだ。

成績評価方法

授業で書く文章および討論への参加度、出席を総合して評価する。

科 目 名	テクスト読解・批評ゼミ2 （春学期） A							
担当者名	小沼　純一							
文ジャ	2単位	春学期	木曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

読む（聴く、や、観るも含む）こと、書くこと、語ること、それぞれを何らかの対象への自らのふるまいとして提出すること。
その実践の場として、ゼミを捉えたい。
さまざな表現のありようにふれ、自らを多様体とすること。
以下、3年生むけである。
☆
毎回、1人（もしくは複数）で発表をする。
自分の関心のあるものについて（あらかじめ、小沼に打診はしておく）。
たとえば、小説、映画、音楽、その他の「作品」を中心に据えつつ、
「批評」を文字で書いておく、と、口頭での「発表」をあわせておこなう。
↓
ほかの学生がわかるように、ネットなどにあるようなら、アドレスなどを知らせておく（数日前までに）。
「批評」はFacebookの「グループ」にupしておき、あらかじめ読んでもらう。
当日は、概略を発表し、そののち、「批評」を全員で検討する（「批評」の批評）。
「批評」はプリントアウトして、持ってくること。
最低限の「作品」や「つくり手」をめぐるバックグラウンド、先行研究、資料なども提示する。
☆
発表者がもし機材を用いる場合は、機材の鍵を教員ロビーから借りだし、準備をしておくこと。返却も同様。
☆
コントローラーは任意の4年生がおこなう。
自分の分を発表したら終わり、という意識は持たないように。
出席は重視する。

授業の到達目標

幅広い視野を持ち、「読む」「書く」「考える」ことのバランスをとりながら、生きる実践へとつなげられるようなものとする。

成績評価方法

そのときどきの参加度がそのまま評価につながります。

備考・関連URL

ゼミ生という生身が介在してこそゼミは成り立つため、毎回内容は微妙に変化する。基本、学生主体であることも強調しておきたい。

科 目 名	テクスト読解・批評ゼミ2 （春学期） B							
担当者名	小沼　純一							
文ジャ	2単位	春学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

読む（聴く、や、観るも含む）こと、書くこと、語ること、それぞれを何らかの対象への自らのふるまいとして提出すること。
その実践の場として、ゼミを捉えたい。
さまざな表現のありようにふれ、自らを多様体とすること。
以下、3年生むけである。
☆
毎回、1人（もしくは複数）で発表をする。
自分の関心のあるものについて（あらかじめ、小沼に打診はしておく）。
たとえば、小説、映画、音楽、その他の「作品」を中心に据えつつ、
「批評」を文字で書いておく、と、口頭での「発表」をあわせておこなう。
↓
ほかの学生がわかるように、ネットなどにあるようなら、アドレスなどを知らせておく（数日前までに）。
「批評」はFacebookの「グループ」にupしておき、あらかじめ読んでもらう。
当日は、概略を発表し、そののち、「批評」を全員で検討する（「批評」の批評）。
「批評」はプリントアウトして、持ってくること。
最低限の「作品」や「つくり手」をめぐるバックグラウンド、先行研究、資料なども提示する。
☆
発表者がもし機材を用いる場合は、機材の鍵を教員ロビーから借りだし、準備をしておくこと。返却も同様。
☆
コントローラーは任意の4年生がおこなう。
自分の分を発表したら終わり、という意識は持たないように。
出席は重視する。

授業の到達目標

幅広い視野を持ち、「読む」「書く」「考える」ことのバランスをとりながら、生きる実践へとつなげられるようなものとする。

成績評価方法
参加度が成績に反映します。
備考・関連URL
ゼミ生という生身が介在してこそゼミは成り立つため、毎回内容は微妙に変化する。基本、学生主体であることも強調しておきたい。

科 目 名	テクスト読解・批評ゼミ2 （秋学期） A							
担当者名	小沼　純一							
文ジャ	2単位	秋学期	木曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要
読む（聴く、や、観るも含む）こと、書くこと、語ること、それぞれを何らかの対象への自らのふるまいとして提出すること。
その実践の場として、ゼミを捉えたい。
さまざな表現のありようにふれ、自らを多様体とすること。
以下、3年生むけである。
☆
毎回、1人（もしくは複数）で発表をする。
自分の関心のあるものについて（あらかじめ、小沼に打診はしておく）。
たとえば、小説、映画、音楽、その他の「作品」を中心に据えつつ、
「批評」を文字で書いておく、と、口頭での「発表」をあわせておこなう。
↓
ほかの学生がわかるように、ネットなどにあるようなら、アドレスなどを知らせておく（数日前までに）。
「批評」はFacebookの「グループ」にupしておき、あらかじめ読んでもらう。
当日は、概略を発表し、そののち、「批評」を全員で検討する（「批評」の批評）。
「批評」はプリントアウトして、持ってくること。
最低限の「作品」や「つくり手」をめぐるバックグラウンド、先行研究、資料なども提示する。
☆
発表者がもし機材を用いる場合は、機材の鍵を教員ロビーから借りだし、準備をしておくこと。返却も同様。
☆
コントローラーは任意の4年生がおこなう。
自分の分を発表したら終わり、という意識は持たないように。
出席は重視する。
授業の到達目標
幅広い視野を持ち、「読む」「書く」「考える」ことのバランスをとりながら、生きる実践へとつなげられるようなものとする。
成績評価方法
参加度合いが成績に反映します。
備考・関連URL
ゼミ生という生身が介在してこそゼミは成り立つため、毎回内容は微妙に変化する。基本、学生主体であることも強調しておきたい。

科 目 名	テクスト読解・批評ゼミ2 （秋学期） B							
担当者名	小沼　純一							
文ジャ	2単位	秋学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要
読む（聴く、や、観るも含む）こと、書くこと、語ること、それぞれを何らかの対象への自らのふるまいとして提出すること。
その実践の場として、ゼミを捉えたい。
さまざな表現のありようにふれ、自らを多様体とすること。
以下、3年生むけである。
☆
毎回、1人（もしくは複数）で発表をする。
自分の関心のあるものについて（あらかじめ、小沼に打診はしておく）。
たとえば、小説、映画、音楽、その他の「作品」を中心に据えつつ、
「批評」を文字で書いておく、と、口頭での「発表」をあわせておこなう。
↓
ほかの学生がわかるように、ネットなどにあるようなら、アドレスなどを知らせておく（数日前までに）。
「批評」はFacebookの「グループ」にupしておき、あらかじめ読んでもらう。
当日は、概略を発表し、そののち、「批評」を全員で検討する（「批評」の批評）。
「批評」はプリントアウトして、持ってくること。
最低限の「作品」や「つくり手」をめぐるバックグラウンド、先行研究、資料なども提示する。
☆
発表者がもし機材を用いる場合は、機材の鍵を教員ロビーから借りだし、準備をしておくこと。返却も同様。
☆
コントローラーは任意の4年生がおこなう。
自分の分を発表したら終わり、という意識は持たないように。
出席は重視する。
授業の到達目標
幅広い視野を持ち、「読む」「書く」「考える」ことのバランスをとりながら、生きる実践へとつなげられるようなものとする。

成績評価方法
参加度が成績に反映します。
備考・関連URL
ゼミ生という生身が介在してこそゼミは成り立つため、毎回内容は微妙に変化する。基本、学生主体であることも強調しておきたい。

科 目 名	文芸研究・批評ゼミ2 （春学期） A 近代日本の文学・メディア・ジャーナリズム							
担当者名	塩野 加織							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要
この授業では、「近代日本の文学・メディア・ジャーナリズム」というテーマのもと、受講者が各自の問題意識に即した研究課題を設定し、ゼミ参加者とのあいだで議論を重ねながら、ゼミ論文を完成させることを目的とします。三年次のあいだに行って欲しいのは、授業内外の学習を通じて自らのゼミ論のテーマとなる対象を見出すことと、その対象に対する独自の問いを立てて検証してみることです。授業では、これらの成果をゼミのメンバーに向けて発表し、全員での議論を重ねながら、ゼミ論文の準備を段階的に進めていきます。なお、「文芸研究・批評ゼミ2B」と二時間続きで、三年生は五時間目のこの授業が登録されます。
授業の到達目標
受講生が、様々な研究方法を学びながら各自の研究テーマを定め、論文にまとめるスキルを身につけることを目的とする。
成績評価方法
●**試験** 0% －
●**レポート** 0% －
●**平常点** 100% ゼミ発表の内容と、授業への取り組みを重視します。
●**その他** 0%

科 目 名	文芸研究・批評ゼミ2 （春学期） B 近代日本の文学・メディア・ジャーナリズム							
担当者名	塩野 加織							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要
この授業では、「近代日本の文学・メディア・ジャーナリズム」というテーマのもと、受講者が各自の問題意識に即した研究課題を設定し、ゼミ参加者とのあいだで議論を重ねながら、ゼミ論文を完成させることを目的とします。四年次に行うべきことは、各自の研究テーマに関する問題設定を明確にし、収集した資料とその読解・分析を踏まえて考察を深めていくことです。授業では、この成果をゼミのメンバーに向けて発表し、全員での議論を重ねながら、ゼミ論文の完成を目指します。なお、「文芸研究・批評ゼミ2A」と二時間続きで、四年生は六時間目のこの授業が登録されます。
授業の到達目標
受講生が、様々な研究方法を学びながら各自の研究テーマを定め、論文にまとめるスキルを身につけることを目的とする。
成績評価方法
●**試験** 0% －
●**レポート** 0% －
●**平常点** 100% ゼミ発表の内容と、授業への取り組みを重視します。
●**その他** 0%

科 目 名	文芸研究・批評ゼミ2 （秋学期） A 近代日本の文学・メディア・ジャーナリズム							
担当者名	塩野 加織							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要
この授業では、「近代日本の文学・メディア・ジャーナリズム」というテーマのもと、受講者が各自の問題意識に即した研究課題を設定し、ゼミ参加者とのあいだで議論を重ねながら、ゼミ論文を完成させることを目的とします。三年次のあいだに行って欲しいのは、授業内外の学習を通じて自らのゼミ論のテーマとなる対象を見出すことと、その対象に対する独自の問いを立てて検証してみることです。授業では、これらの成果をゼミのメンバーに向けて発表し、全員での議論を重ねながら、ゼミ論文の準備を段階的に進めていきます。なお、「文芸研究・批評ゼミ2B」と二時間続きで、三年生は五時間目のこの授業が登録されます。
授業の到達目標
受講生が、様々な研究方法を学びながら各自の研究テーマを定め、論文にまとめるスキルを身につけることを目的とする。
成績評価方法
●**試験** 0% －
●**レポート** 0% －
●**平常点** 100% ゼミ発表の内容と、授業への取り組みを重視します。
●**その他** 0%

科 目 名	文芸研究・批評ゼミ2 （秋学期） B 近代日本の文学・メディア・ジャーナリズム							
担当者名	塩野 加織							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要
この授業では、「近代日本の文学・メディア・ジャーナリズム」というテーマのもと、受講者が各自の問題意識に即した研究課題を設定し、ゼミ参加者とのあいだで議論を重ねながら、ゼミ論文を完成させることを目的とします。四年次に行うべきことは、各自の研究テーマに関する問題設定を明確にし、収集した資料とその読解・分析を踏まえて考察を深めていくことです。授業では、この成果をゼミのメンバーに向けて発表し、全員での議論を重ねながら、ゼミ論文の完成を目指します。なお、「文芸

研究・批評ゼミ2A」と二時間続きで、四年生は六時間目のこの授業が登録されます。

授業の到達目標

この授業では、受講生が様々な研究方法を学びながら各自の研究テーマを定め、論文にまとめるスキルを身につけることを目的とする。

成績評価方法

●**試験** 0% －
●**レポート** 0% －
●**平常点** 100% ゼミ発表の内容と、授業への取り組みを重視します。
●**その他** 0%

科 目 名	翻訳・批評ゼミ1 （春学期） A 翻訳論を学ぶ							
担当者名	松永 美穂							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

前期のゼミでは、指定した題材を使って3年生に発表をしてもらい、翻訳とはどういう行為であるか、翻訳が与える社会的影響にはどのようなものがあるか、などのテーマについて考えます。また、3年生には夏休みに訳す絵本、4年生にはゼミ論で使う本を前期のあいだに選んでもらいます。ゲストの来訪も予定しています。（何回目の授業にゲストが来るかについては、ゲストの予定に合わせて変更になる可能性があります）

授業の到達目標

翻訳という概念への理解。どのような翻訳を「最適」と判断すべきかについて、さまざまな基準を学びます。さらに、書籍の翻訳出版の流れについて、ゲストの話などを聞いて理解を深めます。

成績評価方法

●**試験** 0% 試験は行いません。
●**レポート** 0% レポートの提出は必要ありませんが、自分の発表のときにはレジュメを作って下さい。
●**平常点** 100% 出席プラス授業への参加度（3年生の場合は課題発表を必ず行ってもらいますが、全体的な出席も重視します）
●**その他** 0%

科 目 名	翻訳・批評ゼミ1 （春学期） B 翻訳論を学ぶ							
担当者名	松永 美穂							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

前期のゼミでは、指定した題材を使って3年生に発表をしてもらい、翻訳とはどういう行為であるか、翻訳が与える社会的影響にはどのようなものがあるか、などのテーマについて考えます。また、3年生には夏休みに訳す絵本、4年生にはゼミ論で使う本を前期のあいだに選んでもらいます。ゲストの来訪も予定しています。（何回目の授業にゲストが来るかについては、ゲストの予定に合わせて変更になる可能性があります）

授業の到達目標

翻訳という概念への理解。どのような翻訳を「最適」と判断すべきかについて、さまざまな基準を学びます。さらに、書籍の翻訳出版の流れについて、ゲストの話などを聞いて理解を深めます。

成績評価方法

●**試験** 0% 試験は行いません。
●**レポート** 50% 4年生はゼミ論で扱う本についてのレポートと、試訳の提出をお願いします。
●**平常点** 50% 出席プラス授業への参加度。
●**その他** 0%

科 目 名	翻訳・批評ゼミ1 （秋学期） A 翻訳実践と、その批評							
担当者名	松永 美穂							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

後期のゼミは夏休みの成果発表が中心となります。絵本訳の完成に向けて、お互いの訳文について気づいたことを指摘しあいます。最終的には、出版社の方に絵本訳を見てもらいます。4年生はゼミ論として未邦訳のテクストの翻訳をするか、翻訳についての論文を執筆します。後期も出版について、講演会などを予定しています。なお、シラバスの予定は、ゲストの都合などにより変更の可能性があります。

授業の到達目標

お互いの訳文を検討しつつ、自分の翻訳作品を完成させる。

成績評価方法

●**試験** 0% 試験は行いません。
●**レポート** 0% レポートではありませんが、翻訳などの課題を提出してもらいます（3年は絵本の翻訳、4年生はゼミ論）。
●**平常点** 100% 出席プラス授業への参加度。
●**その他** 0%

科 目 名	翻訳・批評ゼミ1 （秋学期） B 翻訳実践と、その批評							
担当者名	松永 美穂							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

後期のゼミは夏休みの成果発表が中心となります。3年生は絵本訳の完成に向けて、お互いの訳文について気づいたことを指摘しあいます。最終的には、出版社の方に絵本訳を見てもらいます。4年生はゼミ論として未邦訳のテクストの翻訳をするか、

翻訳についての論文を執筆します。後期も出版について、講演会などを予定しています。なお、シラバスの予定は、ゲストの都合などにより変更の可能性があります。

授業の到達目標

お互いの訳文を検討しつつ、自分の翻訳作品を完成させる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行いません。
●**レポート**　0%　　4年生の場合はゼミ論を提出します。（ゼミ論の単位は別につきます。）
●**平常点**　100%　　出席プラス授業への参加度。（3年生への質問やコメントをお願いします！）
●**その他**　0%

科 目 名	戯曲研究・批評ゼミ1　（春学期）「ことば」と「からだ」が交わるところ　A−1							
担当者名	水谷　八也							
文ジャ	2単位	春学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

言葉を意図的に発することで成り立つ演劇、映画、落語、歌などで、言葉が果たす役割を考えていきます。役者、演者、歌手を通すことで、言葉は時に制約を受ける一方で、時に思わぬ次元へと観る者、聞く者を誘います。このゼミでは、「感動」などという少々古臭いこと見捨てずに、そこでどのようなことが生起しているのかを探る作業をしたいと思っています。また戯曲の「古典」を精読することにより、学生の若い息吹で「古さ」に新しい生命を吹き込める場を作れればと願っています。

今年度は古典の読解と並行して積極的に現代演劇や「演劇」そのものの意味を考える場にしていきたいと考えています。その中で、「時間・歴史」を一つのキーワードに、出口のない近代を検証できる視座を作れればと願っています。

最終的な目標は、4年次にゼミ論を完成することにありますが、春学期は戯曲を2編、精読し、ディスカッションを重ねることで、戯曲を研究する切り口を探ります。夏休みにはその成果を小論文としてまとめ、長い文章を書く訓練をします。

授業の到達目標

戯曲を読み、舞台空間を想像して、さらに実際の舞台に多く触れて、演劇の虚構世界と自分や現実世界をつなげられる脳回路を開発し、演劇脳を育て、良き観客・読者になることが目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　70%　　学期末に提出してもらうレポート。作品論になる予定。
●**平常点**　30%　　授業中の発表など、授業への貢献度。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

以上は2020年1月3日現在における〈予定〉にすぎません。

科 目 名	戯曲研究・批評ゼミ1　（秋学期）「ことば」と「からだ」が交わるところ　A−1							
担当者名	水谷　八也							
文ジャ	2単位	秋学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

言葉を意図的に発することで成り立つ演劇、映画、落語、歌などで、言葉が果たす役割を考えていきます。役者、演者、歌手を通すことで、言葉は時に制約を受ける一方で、時に思わぬ次元へと観る者、聞く者を誘います。このゼミでは、「感動」などという少々古臭いこと見捨てずに、そこでどのようなことが生起しているのかを探る作業をしたいと思っています。また戯曲の「古典」を精読することにより、学生の若い息吹で「古さ」に新しい生命を吹き込める場を作れればと願っています。

今年度は古典の読解と並行して積極的に現代演劇や「演劇」そのものの意味を考える場にしていきたいと考えています。その中で、「時間・歴史」を一つのキーワードに、出口のない近代を検証できる視座を作れればと願っています。

最終的な目標は、ゼミ論を完成することにあります。毎週、受講者の発表を中心に進めていきます。

授業の到達目標

戯曲を読み、舞台空間を想像して、さらに実際の舞台に多く触れて、演劇の虚構世界と自分や現実世界をつなげられる脳回路を開発し、演劇脳を育て、春学期以上に良き観客・読者になることが目標です。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし。
●**レポート**　70%　　学期末に提出してもらうレポート。作品論になる予定。
●**平常点**　30%　　授業中の発表など、授業への貢献度。
●**その他**　0%　　なし。

備考・関連URL

以上は2020年1月3日現在における〈予定〉にすぎません。

科 目 名	批評・創作実践ゼミ2　（春学期）　A　読み・書きのレッスン							
担当者名	芳川　泰久							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

受講者のみなさんが触れていないと思われる重要なテクストを読みながら、そのつどテーマを設定して、各自の物語の構想力・展開力を養い、文芸の創造を実践します。

小説に対する許容度を少しでも広げ、各自の嗜好の幅を広げることを目指す。

基本的に、文庫版になっているものは各自用意してもらい、それ以外はプリントで用意します。

授業の到達目標
読むこと、書くことへのさらなる習熟を目指す。少なくとも、短いものを読み手の視点から書けるようにする。

成績評価方法
出席と取り組みから総合評価する。

科 目 名	批評・創作実践ゼミ2 （春学期） B 読み・書きのレッスン							
担当者名	芳川 泰久							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要
受講者のみなさんが触れていないと思われる重要なテクストを読みながら、そのつどテーマを設定して、各自の物語の構想力・展開力を養い、文芸の創造に向き合う。
小説に対する許容度を少しでも広げ、各自の嗜好の幅を広げることを目指す。
基本的に、文庫版になっているものは各自用意してもらい、それ以外はプリントで用意します。

授業の到達目標
読むこと、書くことへのさらなる習熟を目指す。

成績評価方法
出席と取り組みから総合評価する。

科 目 名	批評・創作実践ゼミ2 （秋学期） A 読み・書きのレッスン							
担当者名	芳川 泰久							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要
受講者のみなさんが触れていないと思われる重要なテクストを読みながら、そのつどテーマを設定して、各自の物語の構想力・展開力を養い、文芸の創造を実践します。
小説に対する許容度を少しでも広げ、各自の嗜好の幅を広げることを目指す。
基本的に、文庫版になっているものは各自用意してもらい、それ以外はプリントで用意します。

授業の到達目標
読むこと、書くことへのさらなる習熟を目指す。少なくとも、短いものを読み手の視点から書けるようにする。

成績評価方法
出席と取り組みから総合評価する。

科 目 名	批評・創作実践ゼミ2 （秋学期） B 読み・書きのレッスン							
担当者名	芳川 泰久							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要
こちらの用意したテクストを読み、課題の短文を書く授業とは別に、夏休みにゼミ論のもとになるものを書いてもらい、それをもとに何回かの面談で、その当人のゼミ論について助言をし、次回の面談の前までに推敲し、それを読んだ上で次の面談でさらなるゼミ論の完成を目指し、文芸創造に向き合う。

授業の到達目標
読むこと、書くことへのさらなる習熟を目指しますが、今回は、小説を読むとき、いかに複数の異なる視点が必要なのかを学ぶ。
そして各自のゼミ論の完成につなげる。10000万字ていどの創作を書けるところまでもっていく。

成績評価方法
出席と課題の創作による総合評価。

論系ゼミ

科 目 名	テクスト読解・批評ゼミ3 （春学期） A イメージと批評							
担当者名	北村 陽子							
文ジャ	2単位	春学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要
絵画と映像の鑑賞、および批評の読解と研究を行う。美術館や映画館という現場での体験と、テキストを読み、書くという作業とをつなげてゆく。

授業の到達目標
自分なりの嗜好を持ち、しかも謙虚なひとりの観客になること。

成績評価方法
授業への参加度、自分で作品を鑑賞し、資料を探して読む姿勢、文章を書く上での取り組み、発表や課題の内容を総合的に勘案して評価する。

科 目 名	テクスト読解・批評ゼミ3 （春学期） B イメージと批評							
担当者名	北村 陽子							
文ジャ	2単位	春学期	木曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要
絵画と映像の鑑賞、および批評の読解と研究を行う。美術館や映画館という現場での体験と、テキストを読み、書くという作業とをつなげてゆく。

授業の到達目標
自分なりの嗜好を持ち、しかも謙虚なひとりの観客になること。

成績評価方法

授業への参加度、自分で作品を鑑賞し、資料を探して読む姿勢、文章を書く上での取り組み、発表や課題の内容を総合的に勘案して評価する。

科 目 名	テクスト読解・批評ゼミ3 （秋学期） A イメージと批評							
担当者名	北村 陽子							
文ジャ	2単位	秋学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

絵画と映像の鑑賞、および批評の読解と研究を行う。美術館や映画館という現場での体験と、テキストを読み、書くという作業とをつなげてゆく。

授業の到達目標

自分なりの嗜好を持ち、しかも謙虚なひとりの観客になること。

成績評価方法

授業への参加度、自分で作品を鑑賞し、資料を探して読む姿勢、文章を書く上での取り組み、発表や課題の内容を総合的に勘案して評価する。

科 目 名	テクスト読解・批評ゼミ3 （秋学期） B イメージと批評							
担当者名	北村 陽子							
文ジャ	2単位	秋学期	木曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

絵画と映像の鑑賞、および批評の読解と研究を行う。美術館や映画館という現場での体験と、テキストを読み、書くという作業とをつなげてゆく。

授業の到達目標

自分なりの嗜好を持ち、しかも謙虚なひとりの観客になること。

成績評価方法

授業への参加度、自分で作品を鑑賞し、資料を探して読む姿勢、文章を書く上での取り組み、発表や課題の内容を総合的に勘案して評価する。

科 目 名	編集と批評ゼミ （春学期） A							
担当者名	市川 真人							
文ジャ	2単位	春学期	土曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

「読むこと」が誰もに開かれたのが〝近代〟の特徴であったのに対し、「書くこと（作ること）」と「編むこと」が誰にも開かれつつあるのが「訪れつつある〝近代以後〟」の特徴であることは、みなさんも、実感していることでしょう。「書くこと（作ること）」も「編むこと」も単にそれ自体として特別なことではもはやありえず、構造的にあらゆる言説が短い期間で浮き沈みする――そのような環境下で、なお抜きんでた「書かれたもの（作られたもの）」と「編まれたもの」はいかにありうるのか、そのようなものがありうる環境はそもそも構築できるのか、できるとすればどのように、などについて考えるゼミです。

過去の価値観を検証し、それらの有意味な点をただしく受け継ぎながら、現在時に適合したかたちにリファインし新たなものを付け加えつつ、それが受容される環境じたいをつくりあげてゆくこと。そこにおいては「創作」と「批評」と「編集」とは分割不可能なもの、そのいずれでもあってどれでもないものとなります。

具体的には、批評理論を学び、それを援用して批評を書き、ときに先行して第一線で活躍する書き手／作り手／広げ手たちの話を聞き、ときにそれらの結果としての創作を行い、紙の、あるいは電子の媒体を作り、それを広めるための手段についてフィールドワーク的に街を、あるいは電子の世界を歩く……ということになります。

もちろん、二十歳そこそこのみなさんに、そのすべてが可能な予備条件を求めることなどできはしません（担当教員だってむろんすべてを持ってなどいませんし）。ゼミの二年間でそれらがすべて手に入り、達成されることも九分九厘ないでしょう。しかし／だからそれは、ゼミを終え、大学生活を終えても続く、十年単位の、あるいはみなさんの人生の全期間の、もしかするとそれぞれの人生ひとつでは収まらないスパンの歩みの、最初の一歩となる二年間だと捉え、そのつもりできてくれるひとを求めます。

4限配当のゼミAでは、主として現代思想を対象に、文学やメディアを通して人間と社会の本質を考えるための思考力や知識をつけてゆきます。

授業の到達目標

「思考」とはなにか、「編集」とはなにか、「批評」とはなにか、を理念と知識の両方の層において会得する。

成績評価方法

出席・発表と、それらをもとにしたレポートで評価。

科 目 名	編集と批評ゼミ （春学期） B							
担当者名	市川 真人							
文ジャ	2単位	春学期	土曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

5限配当のゼミAでの学習を踏まえ、「理想のメディア」とはなにかを考えることから、実際に手がけてゆくまでの流れを、長期計画で組み立ててゆきます。同時に、ゼミ論文の執筆にむけて、準備稿の執筆や発表、ディスカッションなどを行います。

授業の到達目標

「思考」とはなにか、「編集」とはなにか、「批評」とはなにか、を理念と知識の両方の層において会得する。

成績評価方法

出席・発表と、それらをもとにしたレポートで評価。

科 目 名	編集と批評ゼミ （秋学期） A							
担当者名	市川　真人							
文ジャ	2単位	秋学期	土曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

「読むこと」が誰もに開かれたのが〝近代〟の特徴であったのに対し、「書くこと（作ること）」と「編むこと」が誰もに開かれつつあるのが「訪れつつある〝近代以後〟」の特徴であることは、教える僕たち以上に教わるみなさんの方が、よく実感していることでしょう。「書くこと（作ること）」も「編むこと」も単にそれ自体として特別なことではもはやありえず、構造的にあらゆる言説が短い期間で浮き沈みする――そのような環境下で、なお抜きんでた「書かれたもの（作られたもの）」と「編まれたもの」はいかにありうるのか、そのようなものがありうる環境はそもそも構築できるのか、できるとすればどのように、などについて考えるゼミです。

過去の価値観を検証し、それらの有為の点をただしく受け継ぎながら、現在時に適合したかたちにリファインし新たなものを付け加えつつ、それが受容される環境じたいをつくりあげてゆくこと。そこにおいては「創作」と「批評」と「編集」とは分割不可能なもの、そのいずれでもあってどれでもないものとなります。

具体的には、「そこでなにが行われるべきなのか」「どうすることで目的が達成されるか」を探すこと自体がゼミの目的である、というトートロジーが出発点となり、そのために、過去の作品（あくまでも、広義の「テキスト」をフィールドとすることだけは決めておきます）を参照し、批評し、その先にある未到のテキストについて考え、ときに書き、そしてそれらが伝わり生きてゆくためのメディアや環境＝社会について考え、実際にそれをつくりだしてゆく（ためには何が必要かを議論する）、ためのあらゆることをする、ということになります。より具体的に言えば、批評理論を学び、それを援用して批評を書き、ときに先行して第一線で活躍する書き手／作り手／広げ手たちの話を聞き、ときにそれらの結果としての創作を行い、紙の、あるいは電子の媒体を作り、それを広めるための手段についてフィールドワーク的に街を、あるいは電子の世界を歩く……ということです。

もちろん、二十歳そこそこのみなさんに、そのすべてが可能な予備条件を求めることなどできはしません（担当教員だってむろんすべてを持ってなどいませんし）。ゼミの二年間でそれらがすべて手に入り、達成されることも九分九厘ないでしょう。しかし／だからそれは、ゼミを終え、大学生活を終えても続く、十年単位の、あるいはみなさんの人生の全期間の、もしかするとそれぞれの人生ひとつでは収まらないスパンの歩みの、最初の一歩となる二年間だと捉え、そのつもりできてくれるひとを求めます。

4限配当のゼミAでは、主として現代思想を対象に、文学やメディアを通して人間と社会の本質を考えるための思考力や知識をつけてゆきます。

授業の到達目標

「思考」とはなにか、「編集」とはなにか、「批評」とはなにか、を理念と知識の両方の層において会得する。

成績評価方法

出席・発表と、それらをもとにしたレポートで評価。

備考・関連URL

ゼミ志望者は、1・2年時に担当教員の「編集論」、「現代文学史」いずれかを受講ないしは聴講していることが望ましい。

科 目 名	編集と批評ゼミ （秋学期） B							
担当者名	市川　真人							
文ジャ	2単位	秋学期	土曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

同ゼミ春期を参照のこと。

授業の到達目標

同ゼミ春期を参照のこと。

成績評価方法

同ゼミ春期を参照のこと。

論系ゼミ

科 目 名	ノンフィクション・創作ゼミ （春学期） A　街を読み、街を歩き、街を描く							
担当者名	重松　清							
文ジャ	2単位	春学期	土曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

東京五輪が目前に迫った2020年上半期の東京を、さまざまなアプローチで描いていく。そのためには街をしっかり歩かなければならないし、過去の「東京本」――東京を描いた小説やノンフィクションの精読も欠かせない。副題どおり、「読む」「歩く」「描く」を組み合わせたゼミとなる。

授業の到達目標

東京や周辺の街を舞台に、「いま」がたちのぼる文芸作品（小説、ノンフィクション、シナリオ、エッセイなど）を仕上げる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこなわない

●**レポート**　50%　　期末にレポート（作品）を提出してもらう

●**平常点**　50%　　出席、教場での発表、授業への参加度などを総合的に評価する。なお、出席回数は三分の二が必要。就職活動も「欠席」として扱うので、ご注意を。

●**その他**　0%

科 目 名	ノンフィクション・創作ゼミ （春学期） B　街を読み、街を歩き、街を描く							
担当者名	重松　清							
文ジャ	2単位	春学期	土曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

東京五輪が目前に迫った2020年上半期の東京を、さまざまなアプローチで描いていく。そのためには街をしっかり歩かなければならないし、過去の「東京本」――東京を描いた小説やノンフィクションの精読も欠かせない。副題どおり、「読む」「歩く」

「描く」を組み合わせたゼミとなる。そして、4年生の諸君にとって、この春学期は、ゼミ論に向けて大きく歩を進めなくてはならない時期になる。
春学期前半はトライ＆エラーを繰り返していただきたい。後半からは焦点を絞っていってもらいたい。担当講師は、助言を惜しまない。

授業の到達目標

東京や周辺の街を舞台にして「いま」がたちのぼる文芸作品（小説、ノンフィクション、シナリオ、エッセイなど）を仕上げる。
ゼミ論のターゲットを絞る。

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこなわない
●**レポート**　50%　　期末にレポート（作品）を提出してもらう
●**平常点**　50%　　出席、教場での発表、授業への参加度などを総合的に評価する。なお、出席回数は三分の二が必要。就職活動も「欠席」として扱うので、ご注意を。
●**その他**　0%

科 目 名	ノンフィクション・創作ゼミ （秋学期） A 街を読み、街を歩き、街を描く							
担当者名	重松 清							
文ジャ	2単位	秋学期	土曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

東京五輪が終わったばかりの2020年下半期の東京を、さまざまなアプローチで描いていく。そのためには街をしっかり歩かなければならないし、過去の「東京本」――東京を描いた小説やノンフィクションの精読も欠かせない。副題どおり、「読む」「歩く」「描く」を組み合わせたゼミとなる。

授業の到達目標

東京や周辺の街を舞台にして、「いま」がたちのぼる文芸作品（小説、ノンフィクション、シナリオ、エッセイなど）を仕上げる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこなわない
●**レポート**　50%　　期末にレポート（作品）を提出してもらう
●**平常点**　50%　　出席、教場での発表、授業への参加度などを総合的に評価する。なお、出席回数は三分の二が必要。就職活動も斟酌なしの「欠席」として扱うので、ご注意を。
●**その他**　0%

科 目 名	ノンフィクション・創作ゼミ （秋学期） B 街を読み、街を歩き、街を描く							
担当者名	重松 清							
文ジャ	2単位	秋学期	土曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

東京五輪が終わったばかりの2020年下半期の東京を、さまざまなアプローチで描いていく。そのためには街をしっかり歩かなければならないし、過去の「東京本」――東京を描いた小説やノンフィクションの精読も欠かせない。副題どおり、「読む」「歩く」「描く」を組み合わせたゼミとなる。
そして、4年生の諸君にとって、この秋学期は、ゼミ論を仕上げる時期になる。
秋学期開始前の夏休み期間中も含めて、取材・執筆に励んでいただきたい。担当講師は、助言を惜しまない。

授業の到達目標

ゼミ論の完成。

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこなわない
●**レポート**　0%　　ゼミ論をもってレポートに替える
●**平常点**　100%　　出席、教場での発表、授業への参加度などを総合的に評価する。なお、出席回数は三分の二が必要。就職活動も斟酌なしの「欠席」として扱うので、ご注意を。
●**その他**　0%

科 目 名	翻訳・批評ゼミ2 （春学期） A 翻訳について考え、実践する。							
担当者名	小野 正嗣							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

指定したテクストの翻訳を受講生全員で行なう。担当者の翻訳を叩き台にして、よりよい翻訳とは何か、それを実現するには何が必要かを考える。

授業の到達目標

翻訳という概念の理解を深める。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席、課題への取り組み、発表内容、発言を総合的に判断する。
●**その他**　0%

科 目 名	翻訳・批評ゼミ2 （春学期） B 翻訳について考え、実践する。							
担当者名	小野 正嗣							
文ジャ	2単位	春学期	金曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

指定したテクストの翻訳を受講生全員で行なう。担当者の翻訳を叩き台にして、よりよい翻訳とは何か、それを実現するには何が必要かを考える。

授業の到達目標

翻訳という概念の理解を深める。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 0%
●**平常点** 100% 出席、課題への取り組み、発表内容、発言を総合的に判断する。
●**その他** 0%

科 目 名	翻訳・批評ゼミ2 （秋学期） A 翻訳について考え、実践する。							
担当者名	小野 正嗣							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

指定したテクストの翻訳を受講生全員で行なう。担当者の翻訳を叩き台にして、よりよい翻訳とは何か、それを実現するには何が必要かを考える。

授業の到達目標

翻訳という概念の理解を深める。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 0%
●**平常点** 100% 出席、課題への取り組み、発表内容、発言を総合的に判断する。
●**その他** 0%

科 目 名	翻訳・批評ゼミ2 （秋学期） B 翻訳について考え、実践する。							
担当者名	小野 正嗣							
文ジャ	2単位	秋学期	金曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

指定したテクストの翻訳を受講生全員で行なう。担当者の翻訳を叩き台にして、よりよい翻訳とは何か、それを実現するには何が必要かを考える。

授業の到達目標

翻訳という概念の理解を深める。

成績評価方法

●**試験** 0%
●**レポート** 0%
●**平常点** 100% 出席、課題への取り組み、発表内容、発言を総合的に判断する。
●**その他** 0%

論系ゼミ

科 目 名	「多様性を生きる人間」論ゼミ（ジェンダーとセクシュアリティの視座）（春学期） A							
担当者名	草野 慶子							
人間	2単位	春学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

春期3限・ゼミAは、3・4年生合同ゼミとし、主に文献講読、共通テーマに関する発表を行います。

2020年度も
現代文化のジェンダー表象分析、ジェンダー文化論（アート、文学、ファッション、美容等とジェンダー）、
性的表現の可能性、性的表現の規制、性差別等の問題、
生殖、ART，再生医療 その他の、性とユートピア／ディストピアにかかわる主題群、、

女性と男性のライフコースの諸問題、
性とアイデンティティ、性の多様性、
といったテーマに取り組んでいきます。

授業の到達目標

ゼミ共通のテーマにそくして文献を読み、学術調査を進めることで、アカデミックスキルの向上を達成し、さらに、テーマにそくした考察の深化を経験すること。

成績評価方法

●**試験** 0% 実施しません。
●**レポート** 30% 3年生には期末にレポートを課します。指定テキストの要約と考察です。
●**平常点** 70% 出席状況、各自の発表の内容、他の学生、グループの発表時のディスカッションへの取り組みから総合的に評価します。
●**その他** 0%

科 目 名	「多様性を生きる人間」論ゼミ（ジェンダーとセクシュアリティの視座）（春学期） B							
担当者名	草野　慶子							
人間	２単位	春学期	火曜日	４時限	３年以上	—	—	—

授業概要

4限のゼミBは原則として4年生のみとなりますが、3年生の参加はもちろん自由。
4年生それぞれのゼミ論指導を行います。

授業の到達目標

ゼミ論文完成に向けて豊かな時間を過ごすこと

成績評価方法

出席状況。各自の発表の内容。他の学生発表時のディスカッションへの取り組み。これらを総合的に評価する。

科 目 名	「多様性を生きる人間」論ゼミ（ジェンダーとセクシュアリティの視座）（秋学期） A							
担当者名	草野　慶子							
人間	２単位	秋学期	火曜日	３時限	３年以上	—	—	—

授業概要

秋期3限・ゼミAは、3年生主体によるゼミとし、主に文献講読、共通テーマに関する発表を行います。
4年生ももちろん自由に出席くださって結構ですが、出席は義務ではありません。

2020年度も

現代文化のジェンダー表象分析、ジェンダー文化論（アート、文学、ファッション、美容等とジェンダー）、
性的表現の可能性、性的表現の規制、性差別等の問題、
生殖、ART，再生医療　その他の、性とユートピア／ディストピアにかかわる主題群、、

女性と男性のライフコースの諸問題、
性とアイデンティティ、性の多様性、
といったテーマに取り組んでいきます。

授業の到達目標

ゼミ共通のテーマにそくして文献を読み、学術調査を進めることで、アカデミックスキルの向上を達成し、さらに、テーマにそくした考察の深化を経験すること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しません。
●**レポート**　0%　　実施しません。
●**平常点**　100%　　出席状況、各自の発表の内容、他の学生、グループの発表時のディスカッションへの取り組みから総合的に評価します。
●**その他**　0%

科 目 名	「多様性を生きる人間」論ゼミ（ジェンダーとセクシュアリティの視座）（秋学期） B							
担当者名	草野　慶子							
人間	２単位	秋学期	火曜日	４時限	３年以上	—	—	—

授業概要

4限のゼミBは原則として4年生のみとなりますが、3年生の参加ももちろん大歓迎です。
4年生それぞれのゼミ論指導を行います。

授業の到達目標

ゼミ論文完成に向けて豊かな時間を過ごすこと

成績評価方法

出席状況。各自の発表の内容。他の学生発表時のディスカッションへの取り組み。これらを総合的に評価する。

科 目 名	「多様性を生きる人間」論ゼミ（クィア・スタディーズ）（春学期） A							
担当者名	森山　至貴							
人間	２単位	春学期	木曜日	３時限	３年以上	—	—	—

授業概要

3限は3年生のみのゼミとなるので、文献講読を中心におこなう（ただし、春学期は3年生は4限にも参加してください）。
受講生の興味・関心に即して柔軟に文献は選定するが、基礎的な知識の取得のため、講読文献は「ジェンダー」「セクシュアリティ」「クィア」「差別」に関するものを担当教員が指定する。
また、受講生の希望に応じて、個人の研究発表も柔軟に設定することとする。
ゼミ全体を通じて、クィア・スタディーズが体現する広領域的・学融合的アプローチ（ディプロマポリシーより）を受講生が体得することを重視する。

授業の到達目標

・クィア・スタディーズに関する基礎的な知識を、議論やレポート作成で「使える」レベルで習得する。
・先行研究を批判的に読解し、自身の研究の足場にするテクニックを習得する。
・「（自称）論破」ではなく、互いの議論を高めるための生産的な議論のスタイルを習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　・指定された文献についての発表　・個人研究の発表　・ディスカッションへの積極的な参加　などポ

イントを通じて、各学生の授業貢献度・知識理解度を総合的に判断する。
●**その他**　0%

科 目 名	「多様性を生きる人間」論ゼミ（クィア・スタディーズ）（春学期）　B							
担当者名	森山　至貴							
人間	２単位	春学期	木曜日	４時限	３年以上	—	—	—

授業概要

4限は4年生対象のゼミとなる（ただし、春学期は3年生が4限にも出席する）。 ゼミ論執筆に向けての個人発表をおこなう。テーマは興味・関心に即して受講生自身が自由に内容を決定してよいが、必要に応じて他の受講生や教員と相談をおこなう。

ゼミ全体を通じて、クィア・スタディーズが体現する広領域的・学融合的アプローチ（ディプロマポリシーより）を受講生が体得することを重視する。

授業の到達目標

・クィア・スタディーズに関する知識を用いて、各自の研究をおこなう。
・先行研究を批判的に読解し、自身の研究の足場にするテクニックを習得する。
・「（自称）論破」ではなく、互いの議論を高めるための生産的な議論のスタイルを習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　・個人研究の発表　・ディスカッションへの積極的な参加　などポイントを通じて、各学生の授業貢献度・知識理解度を総合的に判断する。
●**その他**　0%

科 目 名	「多様性を生きる人間」論ゼミ（クィア・スタディーズ）（秋学期）　A							
担当者名	森山　至貴							
人間	２単位	秋学期	木曜日	３時限	３年以上	—	—	—

授業概要

3限は3年生対象のゼミとなる（ただし、秋学期は4年生が3限にも出席する）。 先行研究に関するレビュー（個人発表）をおこなう。各レビューは興味・関心に即して受講生自身が自由に内容を決定してよいが、必要に応じて他の受講生や教員と相談をおこなう。

また、学年末課題としてレビュー論文（ゼミ論の一部となる）の提出を課す。

ゼミ全体を通じて、クィア・スタディーズが体現する広領域的・学融合的アプローチ（ディプロマポリシーより）を受講生が体得することを重視する。

授業の到達目標

・クィア・スタディーズに関する知識を用いて、各自の研究をおこなう。
・先行研究を批判的に読解し、自身の研究の足場にするテクニックを習得する。
・「（自称）論破」ではなく、互いの議論を高めるための生産的な議論のスタイルを習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　授業中におこなった個人発表を、授業での議論を踏まえて改稿し期末課題として提出する。詳細については授業中に述べる。
●**平常点**　50%　　・個人研究の発表　・ディスカッションへの積極的な参加　などポイントを通じて、各学生の授業貢献度・知識理解度を総合的に判断する。
●**その他**　0%

科 目 名	「多様性を生きる人間」論ゼミ（クィア・スタディーズ）（秋学期）　B							
担当者名	森山　至貴							
人間	２単位	秋学期	木曜日	４時限	３年以上	—	—	—

授業概要

4限は4年生対象のゼミとなる（ただし、秋学期は4年生は3限にも積極的に出席すること）。 ゼミ論執筆に向けての個人発表をおこなう。テーマは興味・関心に即して受講生自身が自由に内容を決定してよいが、必要に応じて他の受講生や教員と相談をおこなう。

ゼミ全体を通じて、クィア・スタディーズが体現する広領域的・学融合的アプローチ（ディプロマポリシーより）を受講生が体得することを重視する。

授業の到達目標

・クィア・スタディーズに関する知識を用いて、各自の研究をおこなう。
・先行研究を批判的に読解し、自身の研究の足場にするテクニックを習得する。
・「（自称）論破」ではなく、互いの議論を高めるための生産的な議論のスタイルを習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　・個人研究の発表　・ディスカッションへの積極的な参加　などポイントを通じて、各学生の授業貢献度・知識理解度を総合的に判断する。
●**その他**　0%

科 目 名	「心身を生きる人間」論ゼミ（超越と人間）（春学期） 人間を超えたものと向き合う宗教哲学							
担当者名	小村　優太							
人間	2単位	春学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

現代において我々は、物質的な世界に生きていると言っても過言ではない。目で見て、手で触ることのできる、堅固な「モノ」に取り囲まれて日々暮らしている。自然科学や科学技術の発展に伴い、物質的な世界に収まり切らないものは迷信や不合理として切り捨てられてきた。しかし一方で、我々は人間を超えたもの、目に見えないものへの憧れをいまだにもち続けている（魂であったり、精神的（スピリチュアル）なものであったり、はたまた神であったり…）。このゼミでは、そういった「目に見える世界を超えたもの」にたいする人間の営みを幅広く取り扱う。

人間を超えた存在とどう向き合うかという問題は、宗教だけでなく哲学においても古くから大きな問題とされてきた。「善のイデア」、「不動の動者」、「一者」、「能動知性」、「世界の魂」等々。古来から人間は、自らを超えたものを何とかして言葉によって（ときには言葉を捨てて）表現しようと努力してきた。また一方で、物理学者や数学者のなかには、「普遍」や「数」や「無限」といった問題と取り組むうちに、人間を超えた存在を取り扱わざるを得なくなった者たちもいる。コペルニクスの地動説は彼の新プラトン主義的世界観に基づいており、ニュートンは錬金術を研究し、20世紀の数学者ゲーデルは「神の存在証明」に挑戦した。

以上のようなことを踏まえながら、このゼミでは「宗教と哲学」「超越と人間」「神秘思想」「スピリチュアリティ」「普遍者」といったテーマを参加者と共に学んでゆく予定である。

授業の到達目標

・四年次のゼミ論文を完成させる。
・文献、テクストに触れることにより、学問的文章の読解および執筆ができるようになる。
・物質的な世界のなかで生きる人間として、精神的な世界への眼差しを得る。
・世界における人間の立ち位置について考察する力を得る。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　普段のゼミへの参加によって評価する
●**その他**　0%

科 目 名	「心身を生きる人間」論ゼミ（超越と人間）（秋学期） 人間を超えたものと向き合う宗教哲学							
担当者名	小村　優太							
人間	2単位	秋学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

現代において我々は、物質的な世界に生きていると言っても過言ではない。目で見て、手で触ることのできる、堅固な「モノ」に取り囲まれて日々暮らしている。自然科学や科学技術の発展に伴い、物質的な世界に収まり切らないものは迷信や不合理として切り捨てられてきた。しかし一方で、我々は人間を超えたもの、目に見えないものへの憧れをいまだにもち続けている（魂であったり、精神的（スピリチュアル）なものであったり、はたまた神であったり…）。このゼミでは、そういった「目に見える世界を超えたもの」にたいする人間の営みを幅広く取り扱う。

人間を超えた存在とどう向き合うかという問題は、宗教だけでなく哲学においても古くから大きな問題とされてきた。「善のイデア」、「不動の動者」、「一者」、「能動知性」、「世界の魂」等々。古来から人間は、自らを超えたものを何とかして言葉によって（ときには言葉を捨てて）表現しようと努力してきた。また一方で、物理学者や数学者のなかには、「普遍」や「数」や「無限」といった問題と取り組むうちに、人間を超えた存在を取り扱わざるを得なくなった者たちもいる。コペルニクスの地動説は彼の新プラトン主義的世界観に基づいており、ニュートンは錬金術を研究し、20世紀の数学者ゲーデルは「神の存在証明」に挑戦した。

以上のようなことを踏まえながら、このゼミでは「宗教と哲学」「超越と人間」「神秘思想」「スピリチュアリティ」「普遍者」といったテーマを参加者と共に学んでゆく予定である。

授業の到達目標

・四年次のゼミ論文を完成させる。
・文献、テクストに触れることにより、学問的文章の読解および執筆ができるようになる。
・物質的な世界のなかで生きる人間として、精神的な世界への眼差しを得る。
・世界における人間の立ち位置について考察する力を得る。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　普段のゼミへの参加によって評価する
●**その他**　0%

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（プラクティカル・エシックス）（春学期） 現代社会問題の倫理的性格を把握する							
担当者名	御子柴　善之							
人間	2単位	春学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

私たちは、ともに生きている。すなわち、他の人間と関係をもち、関係を構成しながら生きている。そこに人間関係（自分自身への関係を含む）を規制する行為規範（「きまり」）が生まれ機能することになるが、この行為規範に対して問いを向け、その根拠に対して問い抜くのがこのゼミの内容である。

さて、行為規範は日常的には明確に意識されていない。それが意識されるのは、往々にして私たちが自分の生きる社会に道徳

的問題（環境問題、医療問題、介護問題など）を見出したときである。この観点から、行為規範への問いは、「私たちの社会はどうあるべきか」という問いを誘発するだろう。他方、道徳的問題の意識は、そもそも行為規範とは何で、その正当性・妥当性はどうやって保証できるのか、という問いをも生み出す。したがって、このゼミは、一方で、現代社会の固有の性格ならびにその道徳的問題を的確に把握し、その解決の方向性を目がけて考え抜く研究と、他方で、道徳的問題の抽象的な根拠を考え抜いて、哲学的思惟の蓄積に接続する研究の二面をもつことになる。春期は、一冊の著作を輪読するとともに、ゼミ生の要望があれば、いくつかのグループ研究を組織し、グループ発表を準備・実施する。（秋期も同様の作業を行う場合がある。）また、参加者が海外文献・新聞記事から見つけた倫理問題の紹介を紙面で行う。4年生には、授業時間外にゼミ論文指導を行う。全体として、学生相互の討論などを通じて、ゼミ生が自らの研究テーマを確立し、それを追及することを課題とする。

授業の到達目標

このゼミの到達目標に関しては、3年生は倫理学的「問い」をしっかり問えるようになること、4年生はそうした問いに基づいたゼミ論文の研究を前進させることである。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。

●**レポート**　50%　　三年生は春学期に扱ったテーマから一つを選んでレポートを作成する。四年生以上はゼミ論文を目掛けて、レポートを書く。

●**平常点**　50%　　授業回数の三分の二以上の出席を成績評価の条件とする。討議への積極的参加が求められる。また、毎回の討議を経てさらに考えたことを、Waseda Moodleに書き込む。

●**その他**　0%

備考・関連URL

各回90分では時間が不足する。そこで、参加者には6時限の前半程度までの時間延長を許容してもらいたい。また、サブ・ゼミを充実させることを心がけてもらいたい。そのためには、授業の空き時間にグループで集合し、研究を進めることが必要となる。 授業の枠外で、「関係を生きる人間」論プログラムの合同ゼミが開催される。それにも必ず出席すること。

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（プラクティカル・エシックス）（秋学期） 現代社会問題の倫理的性格を把握する							
担当者名	御子柴　善之							
人間	2単位	秋学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

私たちは、ともに生きている。すなわち、他の人間と関係をもち、関係を構成しながら生きている。そこに人間関係（自分自身への関係を含む）を規制する行為規範（「きまり」）が生まれ機能することになるが、この行為規範に対して問いを向け、その根拠に対して問い抜くのがこのゼミの内容である。

さて、行為規範は日常的には明確に意識されていない。それが意識されるのは、往々にして私たちが自分の生きる社会に道徳的問題（環境問題、医療問題、介護問題など）を見出したときである。この観点から、行為規範への問いは、「私たちの社会はどうあるべきか」という問いを誘発するだろう。他方、道徳的問題の意識は、そもそも行為規範とは何で、その正当性・妥当性はどうやって保証できるのか、という問いをも生み出す。したがって、このゼミは、一方で、現代社会の固有の性格ならびにその道徳的問題を適確に把握し、その解決の方向性を目がけて考え抜く研究と、他方で、道徳的問題の抽象的な根拠を考え抜いて、哲学的思惟の蓄積に接続する研究の二面をもつことになる。また、要望がある場合、いくつかのグループ研究を組織し、グループ発表を準備・実施・発表する。さらに、参加者が海外文献・新聞記事から見つけた倫理問題の紹介を紙面で行う。さらに、4年生に対してはゼミ論文執筆の指導が行われる。全体として、学生相互の討論などを通じて、ゼミ生が自らの研究テーマを確立し、それを追及することを課題とする。

授業の到達目標

このゼミの到達目標に関しては、3年生は倫理学的「問い」をしっかり問えるようになること、4年生はそうした問いに基づいたゼミ論文を完成させることである。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない。

●**レポート**　50%　　3年生のレポートは論文形式を採用します。4年生はゼミ論文をもって代替します。

●**平常点**　50%　　授業回数の三分の二以上の出席を成績評価の条件とする。討議への積極的参加が求められる。また、毎回の討議を経てさらに考えたことを、Waseda Moodleに書き込む。

●**その他**　0%

備考・関連URL

各回90分では時間が不足する。そこで、参加者には6時限の半ば程度までの時間延長を許容してもらいたい。また、3年生はサブ・ゼミを充実させることを心がけてもらいたい。そのためには、授業の空き時間にグループで集合し、研究を進めることが必要となる。 授業枠の外で、「関係を生きる人間」論プログラムの合同ゼミが開催される。それにも必ず出席して欲しい。

科 目 名	「心身を生きる人間」論ゼミ（生命と人格）（春学期） こころとからだを生きる人間を考える							
担当者名	村松　聡							
人間	2単位	春学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

現代人間論系、「心身を生きる人間」論プログラムの一つに位置づけられるゼミです。

人間の身体、コミュニケーションのあり方など現代の倫理が直面する具体的問題を取り上げながら、人間とはなにか、深く考えていくための倫理的、哲学的視点と方法を身につけます。

授業の到達目標

倫理学、思想についてのSpecialistとしての一面をもつとともに、Generalistとしての判断力、問題解決能力を身につけることが、このゼミの目的です。

とりわけ、理念的な観点と現実の問題解決の両面が要請されるGeneralistの育成を図ります。次の三点が目的です。

哲学的、倫理学的な基本的知識と視点、考え方を身につけることで深くものを考える姿勢を養うこと。

資料の収集の仕方を学ぶこと。

適切で効果的な発表とPresentationの能力を養うこと。

成績評価方法

レポート：60パーセント　学期末にそれまでの成果として、レポートを課します。

平常点評価：40パーセント　一学期に一度は、ゼミ生全員に口頭発表をしてもらいます。口頭発表と、日常の発言、議論を含めて総合的に評価します。

その他：試験は目下のところ考えていません。

備考・関連URL

とにかく、積極的に自ら取り組むこと。ゼミレベルでは、もはや「お勉強」ではなく、自分で情報を集めて自分で課題を見つけ、自分で解決していくことが求められています。

このゼミをとることを考えている学生は、できるだけ現代人間論系演習「道徳意識の研究」、「現代的人間観の論理と倫理」などをとってみてください。ゼミでの議論の仕方、雰囲気がわかると思います。また、講義の「応用倫理学」、「生命倫理」なども履修するようにしてください。

科 目 名	「心身を生きる人間」論ゼミ（生命と人格）（秋学期） こころとからだを生きる人間を考える							
担当者名	村松　聡							
人間	2単位	秋学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

現代人間論系「心身を生きる人間」論プログラムに属するゼミです。

人間の身体、コミュニケーションのあり方など現代の倫理が直面する具体的問題を取り上げながら、人間とはなにか、深く考えていくための倫理的、哲学的視点と方法を身につけます。

授業の到達目標

倫理学、思想についてのSpecialistとしての一面をもつとともに、Generalistとしての判断力、問題解決能力を身につけることが、このゼミの目的です。とりわけ、理念的な観点と現実の問題解決の両面が要請されるGeneralistの育成を図ります。次の三点が目的です。

哲学的、倫理学的な基本的知識と視点、考え方を身につけることで深くものを考える姿勢を養うこと。

資料の収集の仕方を学ぶこと。

適切で効果的な発表とPresentationの能力を養うこと。

成績評価方法

レポート：60パーセント　学期末にそれまでの成果として、レポートを課します。

平常点評価：40パーセント　一学期に一度は、ゼミ生全員に口頭発表をしてもらいます。口頭発表と、日常の発言、議論を含めて総合的に評価します。

その他：試験は目下のところ考えていません。

備考・関連URL

とにかく、積極的に自ら取り組むこと。ゼミレベルでは、もはや「お勉強」ではなく、自分で情報を集めて自分で課題を見つけ、自分で解決していくことが求められています。

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（社会の変化と人間関係）（春学期） A 社会の変化と人間関係							
担当者名	石田　光規							
人間	2単位	春学期	月曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

私たちの人間関係は社会の変化とともに大きく姿を変えてゆきます。戦後の高度経済成長とともに、その希薄化が長い間指摘されてきました。このゼミでは社会の変化と人間関係をテーマに、今後の関係構築、関係形成、善き社会のあり方について考察してゆきます。そのさい、特定の領域に絞り実証的に調査をしつつ、問題に迫るアプローチをとります。2017年度のテーマは授業のなかで検討してゆきます。

授業の到達目標

生活の個人化と関係の再生という社会に横たわる大きなテーマについて理解を深める。

成績評価方法

個別の報告、グループ課題、議論への参加、出席状況を総合的に評価する。

備考・関連URL

3、4限の時間を使って授業を実施することがあるので、両時間帯とも空けておいてください。

夏休みには合宿を行います。日程については授業の最初に調整します。

合同ゼミについては、関係を生きる人間論プログラムで実施する予定です。参考までに前年度は1月に実施しました。 授業の詳細はゼミ内で提示します。

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（社会の変化と人間関係）（春学期） B 社会の変化と人間関係							
担当者名	石田　光規							
人間	2単位	春学期	月曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

私たちの人間関係は社会の変化とともに大きく姿を変えてゆきます。戦後の高度経済成長とともに、その希薄化が長い間指摘されてきました。このゼミでは社会の変化と人間関係をテーマに、今後の関係構築、関係形成、善き社会のあり方について考察してゆきます。そのさい、特定の領域に絞り実証的に調査をしつつ、問題に迫るアプローチをとります。4年生中心の本講義はゼミ論文の歓声を目標とします。

授業の到達目標

生活の個人化と関係の再生という社会に横たわる大きなテーマについて理解を深める。

成績評価方法

個別の報告、グループ課題、議論への参加、出席状況を総合的に評価する。

備考・関連URL

3、4限の時間を使って授業を実施することがあるので、両時間帯とも空けておいてください。

夏休みには合宿を行います。日程については授業の最初に調整します。
4年生は5限まで指導を延長することがあります。なるべく当該の時間帯は空けてください。 詳細はゼミ内で説明します。

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（社会の変化と人間関係）（秋学期） A 社会の変化と人間関係							
担当者名	石田 光規							
人間	2単位	秋学期	月曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

私たちの人間関係は社会の変化とともに大きく姿を変えてゆきます。戦後の高度経済成長とともに、その希薄化が長い間指摘されてきました。このゼミでは社会の変化と人間関係をテーマに、今後の関係構築、関係形成、善き社会のあり方について考察してゆきます。そのさい、特定の領域に絞り実証的に調査をしつつ、問題に迫るアプローチをとります。なお、設定すべき課題、テーマの進行具合に応じて柔軟に計画を変更します。秋期は合同ゼミを実施する予定です。

授業の到達目標

生活の個人化と関係の再生という社会に横たわる大きなテーマについて理解を深める。

成績評価方法

グループ課題、討論、個別課題、出席状況などで総合的に評価します。

備考・関連URL

3、4限の時間を使って授業を実施することがあるので、両時間帯とも空けておいてください。
学内の他のゼミとの合同発表会を行う予定です。 詳細はゼミ内で説明します。

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（社会の変化と人間関係）（秋学期） B 社会の変化と人間関係							
担当者名	石田 光規							
人間	2単位	秋学期	月曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

私たちの人間関係は社会の変化とともに大きく姿を変えてゆきます。戦後の高度経済成長とともに、その希薄化が長い間指摘されてきました。このゼミでは社会の変化と人間関係をテーマに、今後の関係構築、関係形成、善き社会のあり方について考察してゆきます。そのさい、特定の領域に絞り実証的に調査をしつつ、問題に迫るアプローチをとります。

授業の到達目標

生活の個人化と関係の再生という社会に横たわる大きなテーマについて理解を深める。

成績評価方法

個別の報告、グループ課題、議論への参加、出席状況を総合的に評価する。

備考・関連URL

3、4限の時間を使って授業を実施することがあるので、両時間帯とも空けておいてください。
4年生は5限まで指導を延長することがあります。なるべく当該の時間帯は空けてください。関係を生きる人間論プログラムで合同ゼミを実施する予定です。 詳細はゼミ内で説明します。

科 目 名	「心身を生きる人間」論ゼミ（心身論）（春学期） A 心と身体の心理学と実践							
担当者名	宮田 裕光							
人間	2単位	春学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

（1）ゼミの概要

現代においては、SNSによるコミュニケーションやAI（人工知能）、ビッグデータ、ICT、IoT などの情報技術が発達し、私たちを取り巻く人間関係や社会との関わり方が多様な変容を遂げているが、私たちはやはり生身の身体を持ち、それに影響される存在である。健康や幸福感、マインドフルネスや心理療法などをめぐる心の問題への関心の高まりにもみられるように、心身から人間を捉える試みは、むしろますます重要性を増しているといえる。こうした観点からこのゼミでは、心理学や脳神経科学といった心を探求する学問を学び、人間の心身のさまざまなあり方を研究する。またそれらと並行して、主に東洋の身体的な実践や思想も参照し、統合的で調和した「心身一如」の人間理解について考察する。

（2）ゼミで扱うテーマ

現代の私たち自身の諸問題から、哲学的な人間の問題まで、幅広い内容が含まれる。これまでのゼミで扱ったテーマの具体例として、表情、幸福感、ストレス、笑い、SNS、読書、ヨガ、マインドフルネス、武道、禅などがある。これら以外にも、自分自身の生活体験や他者、社会との関わりを含めて、現代を生きる人間の心や身体の多様なあり方に興味がある人は、自身の関心を手掛かりに学びを進め、興味を拡げていくことができるだろう。

（3）ゼミ活動について

3年生では、基本となる文献を講読したうえで、グループで心理学の実際の研究を体験する。また、日本語ないし英語での論文講読や、表計算・統計ソフトなどの活用に馴染めるよう、基礎から要点を学習する。また授業内で、身体的実践のいくつかを、事前経験を問わず実際に体験する機会を設ける。それらを通して、心身に関する実践的理解を深めるとともに、ゼミ生相互の親睦を図る。

授業の到達目標

（1）心と身体に関する心理学や実践についての理解を深める。
（2）それらの主題についてのみずからの関心と着眼点を明確化し、調査、研究を計画立案できるようになる。
（3）研究に必要な論文、書籍等の文献を検索できるようになる。
（4）論文執筆と資料作成、プレゼンテーションにより、各自が学んだ内容とみずからの考えを的確に伝えられるようになる。

成績評価方法

各自の発表での作成資料とプレゼンテーション、およびゼミ参加と研究活動に対する受講態度を総合的に評価する（100％）。
授業実施回の2/3以上の出席を成績評価の前提とする。

備考・関連URL

本ゼミの履修希望者は、2年次までに講義「心身論」（春学期）、「生活世界と身体」（秋学期）、現代人間論系演習「生活世界・社会と身体」「他者と身体、身体から見た人間」「こころとからだの関係を考える」のなるべく多くを受講し、心身論の基本的な考え方を理解することが望ましい。また、心理学、脳神経科学をはじめとする関連分野の知識、技術を補完するため、以下の科目の履修を勧める。

ブリッジ科目：「現代人間論系総合講座1，2」「心理学概論1，2」「心理統計学1，2」「大人の発達心理学」「子どもの発達心理学」「認知科学」「神経心理学」「臨床心理学」「学習心理学」「霊性と身体」「生命倫理」

現代人間論系演習：「心をしらべる」「心をみる」「現代社会と心の機能」「自己形成と無我」「宗教と共同体」「道徳意識の研究」「実存と他者の倫理」

教員紹介：http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html
https://www.wasedapsychology.jp/teacher.html

科 目 名	「心身を生きる人間」論ゼミ（心身論）（春学期） B 心と身体の心理学と実践							
担当者名	宮田 裕光							
人間	2単位	春学期	月曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

（1）ゼミの概要

現代においては、SNSによるコミュニケーションやAI（人工知能）、ビッグデータ、ICT、IoT などの情報技術が発達し、私たちを取り巻く人間関係や社会との関わり方が多様な変容を遂げているが、私たちはやはり生身の身体を持ち、それに影響される存在である。健康や幸福感、マインドフルネスや心理療法などをめぐる心の問題への関心の高まりにもみられるように、心身から人間を捉える試みは、むしろますます重要性を増しているといえる。こうした観点からこのゼミでは、心理学や脳神経科学といった心を探求する学問を学び、人間の心身のさまざまなあり方を研究する。またそれらと並行して、主に東洋の身体的な実践や思想も参照し、統合的で調和した「心身一如」の人間理解について考察する。

（2）ゼミで扱うテーマ

現代の私たち自身の諸問題から、哲学的な人間の問題まで、幅広い内容が含まれる。これまでのゼミで扱ったテーマの具体例として、表情、幸福感、ストレス、笑い、SNS、読書、ヨガ、マインドフルネス、武道、禅などがある。これら以外にも、自分自身の生活体験や他者、社会との関わりを含めて、現代を生きる人間の心や身体の多様なあり方に興味がある人は、自身の関心を手掛かりに学びを進め、興味を拡げていくことができるだろう。

（3）ゼミ活動について

4年生では、3年生までの学習を踏まえて、各自のゼミ論文に取り組む。ゼミ論文は、心理学の調査、実験に基づくものや、ゼミでの学びのまとめや文献を踏まえた論考を含め、可能な限り各自の関心を反映させる。また授業内で、身体的実践のいくつかを、事前経験を問わず実際に体験する機会を設ける。それらを通して、心身に関する実践的理解を促すとともに、ゼミ生相互の親睦を図る。

授業の到達目標

（1）心と身体に関する心理学や実践についての理解を深める。
（2）それらの主題についてのみずからの関心と着眼点を明確化し、調査、研究を計画立案できるようになる。
（3）研究に必要な論文、書籍等の文献を検索できるようになる。
（4）論文執筆と資料作成、プレゼンテーションにより、各自が学んだ内容とみずからの考えを的確に伝えられるようになる。

成績評価方法

各自の発表での作成資料とプレゼンテーション、およびゼミ参加と研究活動に対する受講態度を総合的に評価する（100％）。
授業実施回の2/3以上の出席を成績評価の前提とする。

備考・関連URL

本ゼミの履修希望者は、2年次までに講義「心身論」（春学期）、「生活世界と身体」（秋学期）、現代人間論系演習「生活世界・社会と身体」「他者と身体、身体から見た人間」「こころとからだの関係を考える」のなるべく多くを受講し、心身論の基本的な考え方を理解することが望ましい。また、心理学、脳神経科学をはじめとする関連分野の知識、技術を補完するため、以下の科目の履修を勧める。

ブリッジ科目：「現代人間論系総合講座1，2」「心理学概論1，2」「心理統計学1，2」「大人の発達心理学」「子どもの発達心理学」「認知科学」「神経心理学」「臨床心理学」「学習心理学」「霊性と身体」「生命倫理」

現代人間論系演習：「心をしらべる」「心をみる」「現代社会と心の機能」「自己形成と無我」「宗教と共同体」「道徳意識の研究」「実存と他者の倫理」

教員紹介：http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html
https://www.wasedapsychology.jp/teacher.html

科 目 名	「心身を生きる人間」論ゼミ（心身論）（秋学期） A 心と身体の心理学と実践							
担当者名	宮田 裕光							
人間	2単位	秋学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

（1）ゼミの概要

現代においては、SNSによるコミュニケーションやAI（人工知能）、ビッグデータ、ICT、IoT などの情報技術が発達し、私たちを取り巻く人間関係や社会との関わり方が多様な変容を遂げているが、私たちはやはり生身の身体を持ち、それに影響される存在である。健康や幸福感、マインドフルネスや心理療法などをめぐる心の問題への関心の高まりにもみられるように、心身から人間を捉える試みは、むしろますます重要性を増しているといえる。こうした観点からこのゼミでは、心理学や脳神経科学といった心を探求する学問を学び、人間の心身のさまざまなあり方を研究する。またそれらと並行して、主に東洋の身体的な実践や思想も参照し、統合的で調和した「心身一如」の人間理解について考察する。

（2）ゼミで扱うテーマ
現代の私たち自身の諸問題から、哲学的な人間の問題まで、幅広い内容が含まれる。これまでのゼミで扱ったテーマの具体例として、表情、幸福感、ストレス、笑い、SNS、読書、ヨガ、マインドフルネス、武道、禅などがある。これら以外にも、自分自身の生活体験や他者、社会との関わりを含めて、現代を生きる人間の心や身体の多様なあり方に興味がある人は、自身の関心を手掛かりに学びを進め、興味を拡げていくことができるだろう。

（3）ゼミ活動について
3年生では、基本となる文献を講読したうえで、グループで心理学の実際の研究を体験する。また、日本語ないし英語での論文講読や、表計算・統計ソフトなどの活用に馴染めるよう、基礎から要点を学習する。また授業内で、身体的実践のいくつかを、事前経験を問わず実際に体験する機会を設ける。それらを通して、心身に関する実践的理解を深めるとともに、ゼミ生相互の親睦を図る。

授業の到達目標
（1）心と身体に関する心理学や実践についての理解を深める。
（2）それらの主題についてのみずからの関心と着眼点を明確化し、調査、研究を計画立案できるようになる。
（3）研究に必要な論文、書籍等の文献を検索できるようになる。
（4）論文執筆と資料作成、プレゼンテーションにより、各自が学んだ内容とみずからの考えを的確に伝えられるようになる。

成績評価方法
各自の発表での作成資料とプレゼンテーション、およびゼミ参加と研究活動に対する受講態度を総合的に評価する（100％）。
授業実施回の2/3以上の出席を成績評価の前提とする。

備考・関連URL
本ゼミの履修希望者は、2年次までに講義「心身論」（春学期）、「生活世界と身体」（秋学期）、現代人間論系演習「生活世界・社会と身体」「他者と身体、身体から見た人間」「こころとからだの関係を考える」のなるべく多くを受講し、心身論の基本的な考え方を理解することが望ましい。また、心理学、脳神経科学をはじめとする関連分野の知識、技術を補完するため、以下の科目の履修を勧める。
ブリッジ科目：「現代人間論系総合講座1, 2」「心理学概論1, 2」「心理統計学1, 2」「大人の発達心理学」「子どもの発達心理学」「認知科学」「神経心理学」「臨床心理学」「学習心理学」「霊性と身体」「生命倫理」
現代人間論系演習：「心をしらべる」「心をみる」「現代社会と心の機能」「自己形成と無我」「宗教と共同体」「道徳意識の研究」「実存と他者の倫理」
教員紹介：http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html
https://www.wasedapsychology.jp/teacher.html

科 目 名	「心身を生きる人間」論ゼミ（心身論）（秋学期） B 心と身体の心理学と実践							
担当者名	宮田 裕光							
人間	2単位	秋学期	月曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要
（1）ゼミの概要
現代においては、SNSによるコミュニケーションやAI（人工知能）、ビッグデータ、ICT、IoT などの情報技術が発達し、私たちを取り巻く人間関係や社会との関わり方が多様な変容を遂げているが、私たちはやはり生身の身体を持ち、それに影響される存在である。健康や幸福感、マインドフルネスや心理療法などをめぐる心の問題への関心の高まりにもみられるように、心身から人間を捉える試みは、むしろますます重要性を増しているといえる。こうした観点からこのゼミでは、心理学や脳神経科学といった心を探求する学問を学び、人間の心身のさまざまなあり方を研究する。またそれらと並行して、主に東洋の身体的な実践や思想も参照し、統合的で調和した「心身一如」の人間理解について考察する。

論系ゼミ

（2）ゼミで扱うテーマ
現代の私たち自身の諸問題から、哲学的な人間の問題まで、幅広い内容が含まれる。これまでのゼミで扱ったテーマの具体例として、表情、幸福感、ストレス、笑い、SNS、読書、ヨガ、マインドフルネス、武道、禅などがある。これら以外にも、自分自身の生活体験や他者、社会との関わりを含めて、現代を生きる人間の心や身体の多様なあり方に興味がある人は、自身の関心を手掛かりに学びを進め、興味を拡げていくことができるだろう。

（3）ゼミ活動について
4年生では、3年生までの学習を踏まえて、各自のゼミ論文に取り組む。ゼミ論文は、心理学の調査、実験に基づくものや、ゼミでの学びのまとめや文献を踏まえた論考を含め、可能な限り各自の関心を反映させる。また授業内で、身体的実践のいくつかを、事前経験を問わず実際に体験する機会を設ける。それらを通して、心身に関する実践的理解を促すとともに、ゼミ生相互の親睦を図る。

授業の到達目標
（1）心と身体に関する心理学や実践についての理解を深める。
（2）それらの主題についてのみずからの関心と着眼点を明確化し、調査、研究を計画立案できるようになる。
（3）研究に必要な論文、書籍等の文献を検索できるようになる。
（4）論文執筆と資料作成、プレゼンテーションにより、各自が学んだ内容とみずからの考えを的確に伝えられるようになる。

成績評価方法
各自の発表での作成資料とプレゼンテーション、およびゼミ参加と研究活動に対する受講態度を総合的に評価する（100％）。
授業実施回の2/3以上の出席を成績評価の前提とする。

備考・関連URL
本ゼミの履修希望者は、2年次までに講義「心身論」（春学期）、「生活世界と身体」（秋学期）、現代人間論系演習「生活世界・社会と身体」「他者と身体、身体から見た人間」「こころとからだの関係を考える」のなるべく多くを受講し、心身論の基本的な考え方を理解することが望ましい。また、心理学、脳神経科学をはじめとする関連分野の知識、技術を補完するため、以下の科目の履修を勧める。

ブリッジ科目：「現代人間論系総合講座1，2」「心理学概論1，2」「心理統計学1，2」「大人の発達心理学」「子どもの発達心理学」「認知科学」「神経心理学」「臨床心理学」「学習心理学」「霊性と身体」「生命倫理」
現代人間論系演習：「心をしらべる」「心をみる」「現代社会と心の機能」「自己形成と無我」「宗教と共同体」「道徳意識の研究」「実存と他者の倫理」
教員紹介：http://www.waseda.jp/gendainingen/miyata.html
https://www.wasedapsychology.jp/teacher.html

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（子ども文化と居場所）（春学期） A							
担当者名	阿比留　久美							
人間	2単位	春学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

このゼミでは、子ども・若者にかかわる社会の文化的状況やその状況に抗する文化がどのように生成し、展開していっているのかをとらえていきます。そして、多様な角度から子ども・若者の文化に焦点をあてつつ、現代を生きる子ども・若者の「育ち」や居場所、それを支える社会のあり方を考えていくのがこのゼミの内容です。

子ども・若者（にかぎらずあらゆる人々）は現代の社会状況・価値・規範の影響を受けつつ、現代社会の文化のなかを生き、文化をつくって生きています。たとえば「保活」「子どもの貧困」「ゆとり世代・さとり世代」などの子どもや若者を表象する言葉や、「格差社会」「自立」といった社会の規範や枠組みは、すべて現代社会の影響を受けて生み出された文化の一側面といえますし、その文化を規定し、強化する役割を果たしています。

たとえば、21世紀の現代では未就学児がひとりで家の外で遊ぶことなどは「常識」的に考えられませんが、数十年前までは家の前の路地で小さな子どもが遊ぶことはよくみられる光景でした。そのように、現在わたしたちが「あたりまえ」だと捉えていることは必ずしも普遍的な「あたりまえ」ではありません。また、子どもは秘密基地をつくったり、スマホゲームやyoutubeに熱中したり、LINEで友だちとつながったりと様々な文化のなかを生きており、子どもの文化的状況はけっして一面的に語ることはできず、多面的で、重層的なものです。子どもの文化を支える大人のありようも、テレビのキャラクターをもちいたおもちゃやお菓子といった消費社会的なものもあれば、それぞれの地域に根ざした文化をつくろうとするNPOや地域組織の活動もあります。

子ども・若者の文化の多面性・重層性に関心をもち、社会や自分のなかの「あたりまえ」を問い直しつつ、子ども・若者はどのような文化を生き、つくっているのか、そもそも子ども・若者が「育つ」ということはどういうことなのか、子ども・若者が生き、育つために社会のどのようなあり方が求められるのかを探求していきます。

そのため、授業では、子ども・若者の文化について①現状を文献によって幅広く把握する、②実際に現地におもむき子ども・若者の生きる場を体感する（フィールドワーク）、③現状を分析するための道具（理論）を身につける、④枠組みをもって分析・探求する、⑤3・4年生合同ゼミ、他ゼミとの合同ゼミによって多様なものの見方・考え方にふれていくことをおこなっていきます。方法論としては、教育学、福祉学、社会学、歴史学などの方法論を柔軟に採用しつつ授業を実施していきます。

3年生、4年生で共通テーマについて検討する合同授業も予定していますので、3、4時間目の両方をあけておくようにしてください。

授業の到達目標

①子ども・若者の文化の多面性・重層性への関心を高める。
②子ども・若者はどのような文化を生き、つくっているのか、実際の状況を把握する。
③そもそも子ども・若者が「育つ」、「生きる」ということはどういうことなのかといった根源的問題を深く考えられるようになる。
④社会や自分のなかの「あたりまえ」を問い直し、求められる社会のあり方を自分なりに構想できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこないません
●**レポート**　0%　　レポートは課しませんが、授業で報告をしていただきます
●**平常点**　100%　　授業への参加度、文献講読やグループ報告、研究（計画）報告での内容をもとに評価します
●**その他**　0%　　ありません

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（子ども文化と居場所）（春学期） B							
担当者名	阿比留　久美							
人間	2単位	春学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

このゼミでは、子ども・若者にかかわる社会の文化的状況やその状況に抗する文化がどのように生成し、展開していっているのかをとらえていきます。そして、多様な角度から子ども・若者の文化に焦点をあてつつ、現代を生きる子ども・若者の「育ち」や居場所、それを支える社会のあり方を考えていくのがこのゼミの内容です。

子ども・若者（にかぎらずあらゆる人々）は現代の社会状況・価値・規範の影響を受けつつ、現代社会の文化のなかを生き、文化をつくって生きています。たとえば「保活」「子どもの貧困」「ゆとり世代・さとり世代」などの子どもや若者を表象する言葉や、「格差社会」「自立」といった社会の規範や枠組みは、すべて現代社会の影響を受けて生み出された文化の一側面といえますし、その文化を規定し、強化する役割を果たしています。

たとえば、21世紀の現代では未就学児がひとりで家の外で遊ぶことなどは「常識」的に考えられませんが、数十年前までは家の前の路地で小さな子どもが遊ぶことはよくみられる光景でした。そのように、現在わたしたちが「あたりまえ」だと捉えていることは必ずしも普遍的な「あたりまえ」ではありません。また、子どもは秘密基地をつくったり、スマホゲームやyoutubeに熱中したり、LINEで友だちとつながったりと様々な文化のなかを生きており、子どもの文化的状況はけっして一面的に語ることはできず、多面的で、重層的なものです。子どもの文化を支える大人のありようも、テレビのキャラクターをもちいたおもちゃやお菓子といった消費社会を強化するものもあれば、それぞれの地域に根ざした文化をつくろうとするNPOや地域組織の活動もあります。

子ども・若者の文化の多面性・重層性に関心をもち、社会や自分のなかの「あたりまえ」を問い直しつつ、子ども・若者はどのような文化を生き、つくっているのか、そもそも子ども・若者が「育つ」ということはどういうことなのか、子ども・若者が生き、育つために社会のどのようなあり方が求められるのかを探求していきます。

そのため、授業では、子ども・若者の文化について①現状を文献によって幅広く把握する、②実際に現地におもむき子ども・若者の生きる場を体感する（フィールドワーク）、③現状を分析するための道具（理論）を身につける、④枠組みをもって分析・探求する、⑤3・4年生合同ゼミ、他ゼミとの合同ゼミによって多様なものの見方・考え方にふれていくことをおこなっていきます。方法論としては、教育学、福祉学、社会学、歴史学などの方法論を柔軟に採用しつつ授業を実施していきます。

3年生、4年生合同での授業も予定していますので、3、4時間目の両方をあけておくようにしてください。

授業の到達目標

①子ども・若者の文化の多面性・重層性への関心を高める。

②子ども・若者はどのような文化を生き、つくっているのか、実際の状況を把握する。

③そもそも子ども・若者が「育つ」、「生きる」ということはどういうことなのかといった根源的問題を深く考えられるようになる。

④社会や自分のなかの「あたりまえ」を問い直し、求められる社会のあり方を自分なりに構想できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　おこないません

●**レポート**　0%　　レポートは課しませんが、授業で報告をしていただきます

●**平常点**　100%　　授業への参加度、文献講読や研究（計画）報告での内容をもとに評価します

●**その他**　0%　　ありません

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（子ども文化と居場所）（秋学期） A 文化・教育・福祉を架橋して子ども・若者の「育ち」を考える							
担当者名	阿比留　久美							
人間	2単位	秋学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

このゼミでは、子ども・若者にかかわる社会の文化的状況やその状況に抗する文化がどのように生成し、展開していっているのかをとらえていきます。そして、多様な角度から子ども・若者の文化に焦点をあてつつ、現代を生きる子ども・若者の「育ち」や居場所、それを支える社会のあり方を考えていくのがこのゼミの内容です。

子ども・若者（にかぎらずあらゆる人々）は現代の社会状況・価値・規範の影響を受けつつ、現代社会の文化のなかを生き、文化をつくって生きています。たとえば「保活」「子どもの貧困」「ゆとり世代・さとり世代」などの子どもや若者を表象する言葉や、「格差社会」「自立」といった社会の規範や枠組みは、すべて現代社会の影響を受けて生み出された文化の一側面といえますし、その文化を規定し、強化する役割を果たしています。

たとえば、21世紀の現代では未就学児がひとりで家の外で遊ぶことなどは「常識」的に考えられませんが、数十年前までは家の前の路地で小さな子どもが遊ぶことはよくみられる光景でした。そのように、現在わたしたちが「あたりまえ」だと捉えていることは必ずしも普遍的な「あたりまえ」ではありません。また、子どもは秘密基地をつくったり、スマホゲームやyoutubeに熱中したり、LINEで友だちとつながったりと様々な文化のなかを生きており、子どもの文化的状況はけっして一面的に語ることはできず、多面的で、重層的なものです。子どもの文化を支える大人のありようも、テレビのキャラクターをもちいたおもちゃやお菓子といった消費社会を強化するものもあれば、それぞれの地域に根ざした文化をつくろうとするNPOや地域組織の活動もあります。

子ども・若者の文化の多面性・重層性に関心をもち、社会や自分のなかの「あたりまえ」を問い直しつつ、子ども・若者はどのような文化を生き、つくっているのか、そもそも子ども・若者が「育つ」ということはどういうことなのか、子ども・若者が生き、育つために社会のどのようなあり方が求められるのかを探求していきます。

そのため、授業では、子ども・若者の文化について①現状を文献によって幅広く把握する、②実際に現地におもむき子ども・若者の生きる場を体感する（フィールドワーク）、③現状を分析するための道具（理論）を身につける、④枠組みをもって分析・探求する、⑤合同ゼミによって多様なものの見方・考え方にふれていくことをおこなっていきます。方法論としては、教育学、福祉学、社会学、歴史学などの方法論を柔軟に採用しつつ授業を実施していきます。

3・4年生合同ゼミを実施予定ですので、3・4時間目をともにあけておくようにしてください。

論系ゼミ

授業の到達目標

①子ども・若者の文化の多面性・重層性への関心を高める。

②子ども・若者はどのような文化を生き、つくっているのか、実際の状況を把握する。

③そもそも子ども・若者が「育つ」、「生きる」ということはどういうことなのかといった根源的問題を深く考えられるようになる。

④社会や自分のなかの「あたりまえ」を問い直し、求められる社会のあり方を自分なりに構想できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません

●**レポート**　30%　　個人レポートは課しませんが、グループ論文を執筆していただきます

●**平常点**　70%　　授業への参加度、個人発表での内容をもとに評価します。

●**その他**　0%　　特にありません

科 目 名	「関係を生きる人間」論ゼミ（子ども文化と居場所）（秋学期） B 文化・教育・福祉を架橋して子ども・若者の「育ち」を考える							
担当者名	阿比留　久美							
人間	2単位	秋学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

このゼミでは、子ども・若者にかかわる社会の文化的状況やその状況に抗する文化がどのように生成し、展開していっているのかをとらえていきます。そして、多様な角度から子ども・若者の文化に焦点をあてつつ、現代を生きる子ども・若者の「育ち」や居場所、それを支える社会のあり方を考えていくのがこのゼミの内容です。

子ども・若者（にかぎらずあらゆる人々）は現代の社会状況・価値・規範の影響を受けつつ、現代社会の文化のなかを生き、文化をつくって生きています。たとえば「保活」「子どもの貧困」「ゆとり世代・さとり世代」などの子どもや若者を表象する言葉や、「格差社会」「自立」といった社会の規範や枠組みは、すべて現代社会の影響を受けて生み出された文化の一側面といえますし、その文化を規定し、強化する役割を果たしています。

たとえば、21世紀の現代では未就学児がひとりで家の外で遊ぶことなどは「常識」的に考えられませんが、数十年前までは

家の前の路地で小さな子どもが遊ぶことはよくみられる光景でした。そのように、現在わたしたちが「あたりまえ」だと捉えていることは必ずしも普遍的な「あたりまえ」ではありません。また、子どもは秘密基地をつくったり、スマホゲームやyoutubeに熱中したり、LINEで友だちとつながったりと様々な文化のなかを生きており、子どもの文化的状況はけっして一面的に語ることはできず、多面的で、重層的なものです。子どもの文化を支える大人のありようも、テレビのキャラクターをもちいたおもちゃやお菓子といった消費社会を強化するものもあれば、それぞれの地域に根ざした文化をつくろうとするNPOや地域組織の活動もあります。

子ども・若者の文化の多面性・重層性に関心をもち、社会や自分のなかの「あたりまえ」を問い直しつつ、子ども・若者はどのような文化を生き、つくっているのか、そもそも子ども・若者が「育つ」ということはどういうことなのか、子ども・若者が生き、育つために社会のどのようなあり方が求められるのかを探求していきます。

そのため、授業では、子ども・若者の文化について①現状を文献によって幅広く把握する、②実際に現地におもむき子ども・若者の生きる場を体感する（フィールドワーク）、③現状を分析するための道具（理論）を身につける、④枠組みをもって分析・探求する、⑤合同ゼミによって多様なものの見方・考え方にふれていくことをおこなっていきます。方法論としては、教育学、福祉学、社会学、歴史学などの方法論を柔軟に採用しつつ授業を実施していきます。

3・4年生合同ゼミを実施予定ですので、3・4時間目をともにあけておくようにしてください。

授業の到達目標

①子ども・若者の文化の多面性・重層性への関心を高める。

②子ども・若者はどのような文化を生き、つくっているのか、実際の状況を把握する。

③そもそも子ども・若者が「育つ」、「生きる」ということはどういうことなのかといった根源的問題を深く考えられるようになる。

④社会や自分のなかの「あたりまえ」を問い直し、求められる社会のあり方を自分なりに構想できるようになる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は実施しません
●**レポート**　50%　　ゼミ論を執筆していただきます
●**平常点**　50%　　授業への参加度、個人発表での内容をもとに評価します。
●**その他**　0%　　特にありません

科目名	「発達を生きる人間」論ゼミ（現代人のライフストーリー）（春学期） A							
担当者名	大久保　孝治							
人間	2単位	春学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

ゼミのテーマである「ライフストーリー」には2つの意味がある。1つは、個人が語る（書く）自分自身の人生の物語であり、もう1つは、ポピュラーカルチャー（小説、映画、TVドラマ、アニメ、漫画、歌曲、CMなど）の中に遍在するさまざまなタイプの人生の物語である。個人は自分自身の人生の物語を語る（書く）ときに、後者をモデルとして利用している（あるいは無意識のうちに影響を受けている）。授業では、両者をともに研究の対象とする。現代という状況の中で、人々はどのように自分の人生を語っているのか、意味づけているのか、その意味付けに根拠を与えているものは何なのか、そうした問いをめぐって、現代人の人生の困難と希望について考えていきたい。研究に必要な方法論として、社会学と心理学（とくに自己心理学・発達心理学）に重点を置いて勉強していく。

言うまでもないことだが、ゼミは協働作業の場である。「現代人のライフストーリー」というテーマや、社会学や心理学に関心があるというのは、ゼミ生の最低限の共通事項で、関心の具体的な広がり方はさまざまであろう。性格が十人十色であることはいうまでもない。そういう学生たちがゼミという公共圏を形成・維持していくためには、ゼミというプロジェクトを推進していくためには、協調性やコミュニケーション能力が必要とされる。ゼミでの2年間の活動は、最終的には、ゼミ論としてまとめられる。ゼミで鍛え上げた「読む」「語る」「聴く」「議論する」「書く」という一連の知的能力は、卒業後どのような進路に進むのであれ、必ず役に立つはずである。

授業の到達目標

「ライフストーリー」というキーワードを通して、われわれが生きている現代という状況を分析し、理解する。

3年春学期の目標は社会学的思考になれること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　毎回のゼミに積極的に参加しているどうか。
●**その他**　0%　　なし

科目名	「発達を生きる人間」論ゼミ（現代人のライフストーリー）（春学期） B							
担当者名	大久保　孝治							
人間	2単位	春学期	金曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

ゼミのテーマである「ライフストーリー」には2つの意味がある。1つは、個人が語る（書く）自分自身の人生の物語であり、もう1つは、ポピュラーカルチャー（小説、映画、TVドラマ、アニメ、漫画、歌曲、CMなど）の中に遍在するさまざまなタイプの人生の物語である。個人は自分自身の人生の物語を語る（書く）ときに、後者をモデルとして利用している（あるいは無意識のうちに影響を受けている）。授業では、両者をともに研究の対象とする。現代という状況の中で、人々はどのように自分の人生を語っているのか、意味づけているのか、その意味付けに根拠を与えているものは何なのか、そうした問いをめぐって、現代人の人生の困難と希望について考えていきたい。研究に必要な方法論として、社会学と心理学（とくに自己心理学・発達心理学）に重点を置いて勉強していく。

言うまでもないことだが、ゼミは協働作業の場である。「現代人のライフストーリー」というテーマや、社会学や心理学に関心があるというのは、ゼミ生の最低限の共通事項で、関心の具体的な広がり方はさまざまであろう。性格が十人十色であることはいうまでもない。そういう学生たちがゼミという公共圏を形成・維持していくためには、ゼミというプロジェクトを推進していくためには、協調性やコミュニケーション能力が必要とされる。ゼミでの2年間の活動は、最終的には、ゼミ論としてまとめ

られる。ゼミで鍛え上げた「読む」「語る」「聴く」「議論する」「書く」という一連の知的能力は、卒業後どのような進路に進むのであれ、必ず役に立つはずである。

授業の到達目標

「ライフストーリー」というキーワードを通して、われわれが生きている現代という状況を分析し、理解する。
4年春学期の目標は、インタビュー調査（2回目）を通して、各自のゼミ論のテーマを確定すること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　毎回のゼミに積極的に参加しているどうか。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	「発達を生きる人間」論ゼミ（現代人のライフストーリー）（秋学期） A							
担当者名	大久保　孝治							
人間	2単位	秋学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

ゼミのテーマである「ライフストーリー」には2つの意味がある。1つは、個人が語る（書く）自分自身の人生の物語であり、もう1つは、ポピュラーカルチャー（小説、映画、TVドラマ、アニメ、漫画、歌曲、CMなど）の中に遍在するさまざまなタイプの人生の物語である。個人は自分自身の人生の物語を語る（書く）ときに、後者をモデルとして利用している（あるいは無意識のうちに影響を受けている）。授業では、両者をともに研究の対象とする。現代という状況の中で、人々はどのように自分の人生を語っているのか、意味づけているのか、その意味付けに根拠を与えているものは何なのか、そうした問いをめぐって、現代人の人生の困難と希望について考えていきたい。研究に必要な方法論として、社会学と心理学（とくに自己心理学・発達心理学）に重点を置いて勉強していく。

言うまでもないことだが、ゼミは協働作業の場である。「現代人のライフストーリー」というテーマや、社会学や心理学に関心があるというのは、ゼミ生の最低限の共通事項で、関心の具体的な広がり方はさまざまであろう。性格が十人十色であることはいうまでもない。そういう学生たちがゼミという公共圏を形成・維持していくためには、ゼミというプロジェクトを推進していくためには、協調性やコミュニケーション能力が必要とされる。ゼミでの2年間の活動は、最終的には、ゼミ論としてまとめられる。ゼミで鍛え上げた「読む」「語る」「聴く」「議論する」「書く」という一連の知的能力は、卒業後どのような進路に進むのであれ、必ず役に立つはずである。

授業の到達目標

「ライフストーリー」というキーワードを通して、われわれが生きている現代という状況を分析し、理解する。
3年秋学期の目標はライフストーリー・インタビュー調査をやりとげること。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　毎回のゼミに積極的に参加しているどうか。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	「発達を生きる人間」論ゼミ（現代人のライフストーリー）（秋学期） B							
担当者名	大久保　孝治							
人間	2単位	秋学期	金曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

ゼミのテーマである「ライフストーリー」には2つの意味がある。1つは、個人が語る（書く）自分自身の人生の物語であり、もう1つは、ポピュラーカルチャー（小説、映画、TVドラマ、アニメ、漫画、歌曲、CMなど）の中に遍在するさまざまなタイプの人生の物語である。個人は自分自身の人生の物語を語る（書く）ときに、後者をモデルとして利用している（あるいは無意識のうちに影響を受けている）。授業では、両者をともに研究の対象とする。現代という状況の中で、人々はどのように自分の人生を語っているのか、意味づけているのか、その意味付けに根拠を与えているものは何なのか、そうした問いをめぐって、現代人の人生の困難と希望について考えていきたい。研究に必要な方法論として、社会学と心理学（とくに自己心理学・発達心理学）に重点を置いて勉強していく。

言うまでもないことだが、ゼミは協働作業の場である。「現代人のライフストーリー」というテーマや、社会学や心理学に関心があるというのは、ゼミ生の最低限の共通事項で、関心の具体的な広がり方はさまざまであろう。性格が十人十色であることはいうまでもない。そういう学生たちがゼミという公共圏を形成・維持していくためには、ゼミというプロジェクトを推進していくためには、協調性やコミュニケーション能力が必要とされる。ゼミでの2年間の活動は、最終的には、ゼミ論としてまとめられる。ゼミで鍛え上げた「読む」「語る」「聴く」「議論する」「書く」という一連の知的能力は、卒業後どのような進路に進むのであれ、必ず役に立つはずである。

授業の到達目標

「ライフストーリー」というキーワードを通して、われわれが生きている現代という状況を分析し、理解する。
4年秋学期の目標はゼミ論の完成。

成績評価方法

●**試験**　0%　　なし
●**レポート**　0%　　なし
●**平常点**　100%　　毎回のゼミに積極的に参加しているどうか。
●**その他**　0%　　なし

科 目 名	「発達を生きる人間」論ゼミ（現代人の心理）（春学期） 現代の様々な課題に対し心理学からアプローチする							
担当者名	小塩　真司							
人間	2単位	春学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

現代人特有の心理的発達とはどのようなものなのだろうか。このゼミでは人びとの心理的個人差（性格・パーソナリティ的側面や認知的側面）を重視しつつ，現代社会を生きる人びとに共通する発達的変化について検討する。発達時期に関しては青年期以降の時期に注目する。

人間の性格にはどのような次元があるのか，どのように把握されるのか，どこにその起源があるのか，どのように変化していくのか，なぜ特定の性格の持ち主が適応・不適応状態に陥るのか。ゼミでは大きくこのような問題意識を持ちつつ，より詳細な個別の問題に取り組みたい。

授業の到達目標

本授業の到達目標は，(1)人間の発達に関して理解を深めること，(2)必要な文献を検索することができるようになること，(3)適切に各種資料をまとめることができるようになること，(4)調査を計画し実施・分析することができるようになることである。

成績評価方法

授業内での課題の取り組み方を総合的に判断する（100%）

備考・関連URL

小塩研究室：http://www.f.waseda.jp/oshio.at/

科 目 名	「発達を生きる人間」論ゼミ（現代人の心理）（秋学期） 現代の様々な課題に対し心理学的にアプローチする							
担当者名	小塩　真司							
人間	2単位	秋学期	火曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

現代人特有の心理的発達とはどのようなものなのだろうか。このゼミでは人びとの心理的個人差（性格・パーソナリティ的側面や認知的側面）を重視しつつ，現代社会を生きる人びとに共通する発達的変化について検討する。発達時期に関しては青年期以降の時期に注目する。

人間の性格にはどのような次元があるのか，どのように把握されるのか，どこにその起源があるのか，どのように変化していくのか，なぜ特定の性格の持ち主が適応・不適応状態に陥るのか。ゼミでは大きくこのような問題意識を持ちつつ，より詳細な個別の問題に取り組みたい。

秋期ではそれぞれの問題意識に基づき，研究プロジェクトを進めることで人間の発達と個人差を理解する。

授業の到達目標

本授業の到達目標は、(1)人間の発達に関して理解を深めること、(2)必要な文献を検索することができるようになること、(3)適切に各種資料をまとめることができるようになること、(4)調査を計画し、実施・分析することができるようになることである。

成績評価方法

●**試験**　0%　　試験は行わない

●**レポート**　50%　　各自の問題意識に基づき、調査・考察をまとめたレポートを提出する。適切にまとめられているかどうかを評価の対象とする。

●**平常点**　50%　　各個人やグループに割り当てられたテーマに関する発表姿勢やその内容を評価の対象とする。また、授業への積極的態度も評価の対象とする。

●**その他**　0%

備考・関連URL

早稲田大学　小塩真司研究室：http://www.f.waseda.jp/oshio.at/index.html
心理データ解析Basic：http://www.f.waseda.jp/oshio.at/edu/data_b/top.html
心理データ解析Case Study：http://www.f.waseda.jp/oshio.at/edu/data_c/top.html

科 目 名	「発達を生きる人間」論ゼミ（現代人の心の発達）（春学期） 他者とかかわる心の発達科学							
担当者名	清水　由紀							
人間	2単位	春学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

自分自身の子ども時代を，どこまでさかのぼって思い出すことができるでしょうか。またこれまで育ってきた過程の中で，どんな人とのどんな関わりが，今の自分に影響を与えてきたと感じるでしょうか。

このゼミでは，特に「他者とかかわる心」という，最も人間らしい発達の側面を取り上げます。子どもは他者とかかわる中で育ちます。生後間もなくから他者からの働きかけに驚くほど敏感な反応を示し，わずか数年で大人をも凌駕する能力を見せるようになります。子どもの自己や他者についての認知の仕方や，他者とのコミュニケーションの取り方は，発達とともにどのように変化するのか，また子どもの様々な能力をどのように可視化することができるのかについて，発達心理学の観点から考えていきます。

このゼミのもう一つのテーマは，心の発達と文化の関係性を探ることです。コミュニケーション様式がより多様化し，文化間の流動性が高まっている現代社会において，人々の発達の多様性を理解することは喫緊の課題であると言えるでしょう。文化心理学の最新知見を学びながら，私たちの知覚，認知，思考の在り方や，対人関係，特に親子関係に，文化がどのように意識的・無意識的な影響を及ぼしているのかについて議論します。

授業の到達目標

1.子どもの発達や心と文化の関係について，心理学の観点から考えられるようになる。
2.心理学の文献を読み，それをもとにディスカッションを行えるようになる。
3.実験法と観察法を中心に，子どもや大人の認知・対人コミュニケーションを捉える方法を体験的に学ぶ。

成績評価方法

演習への参加，ディスカッションやグループ・プレゼンテーションへの貢献などをもとに，総合的に評価します。

科 目 名	「発達を生きる人間」論ゼミ（現代人の心の発達）（秋学期） 他者とかかわる心の発達科学							
担当者名	清水　由紀							
人間	２単位	秋学期	木曜日	５時限	３年以上	—	—	—

授業概要

自分自身の子ども時代を，どこまでさかのぼって思い出すことができるでしょうか。またこれまで育ってきた過程の中で，どんな人とのどんな関わりが，今の自分に影響を与えてきたと感じるでしょうか。

このゼミでは，特に「他者とかかわる心」という，最も人間らしい発達の側面を取り上げます。子どもは他者とかかわる中で育ちます。生後間もなくから他者からの働きかけに驚くほど敏感な反応を示し，わずか数年で大人をも凌駕する能力を見せるようになります。子どもの自己や他者についての認知の仕方や，他者とのコミュニケーションの取り方は，発達とともにどのように変化するのか，また子どもの様々な能力をどのように可視化することができるのかについて，発達心理学の観点から考えていきます。

このゼミのもう一つのテーマは，心の発達と文化の関係性を探ることです。コミュニケーション様式がより多様化し，文化間の流動性が高まっている現代社会において，人々の発達の多様性を理解することは喫緊の課題であると言えるでしょう。文化心理学の最新知見を学びながら，私たちの知覚，認知，思考の在り方や，対人関係，特に親子関係に，文化がどのように意識的・無意識的な影響を及ぼしているのかについて議論します。

秋学期では，心理学の様々な研究法を学びスキルを習得します。その上でグループごとに研究テーマに沿って研究を進め，発表していただきます。

授業の到達目標

1.子どもの発達や心と文化の関係について，心理学の観点から考えられるようになる。
2.心理学の文献を読み，それをもとにディスカッションを行えるようになる。
3.実験法と観察法を中心に，子どもや大人の認知・対人コミュニケーションを捉える方法を体験的に学ぶ。

成績評価方法

演習への参加，ディスカッションやグループ・プレゼンテーションへの貢献を基に総合的に評価します。

科 目 名	「多様性を生きる人間」論ゼミ（ディスアビリティと現代）（春学期） A							
担当者名	岡部　耕典							
人間	２単位	春学期	金曜日	３時限	３年以上	—	—	—

授業概要

異なる心身と文化をもつ人々が、その差異を毀損されずに生きて働く／参加することのできる社会を構想することがこのゼミのテーマです。障害（インペアメント／ディスアビリティ）だけでなく、ジェンダーやセクシュアリティ、エスニシティなどの多元的・複合的な差異を切り口としつつ、読み／調べ／考え、その実現のために必要なシステム（政策・制度）、家族やコミュニティ、人々の営みや想い（運動・思想・規範）の在り方を検討します。

3年春学期には、文献講読や映像の視聴とディスカッションを通じて、研究をすすめるうえで必要な概念やパースペクティブを身につけます。そこで獲得された問題意識に基づき各人が夏休みに自由研究を行い、秋学期の報告とディスカッションを通じて互いの問題意識と関心領域を交差させることで、領域横断／重層的に学習を進めます。

4年進級前の春休みにゼミ論文の研究・執筆計画案を作成し、4年春学期に練り上げていきます。秋期に執筆したゼミ論文を合評会において吟味し、ゼミ論集及び研究室ホームページに掲載する最終稿を作成します。2年間のゼミでの学びを通じて、まなざすことなく聴き発する問いが〈自足する明晰の世界〉を突き崩し、自らの〈生き方の窓〉をひらくことを期待しています。

キーワード：分配する最少国家と福祉社会、非差別アプローチと障害の社会モデル、ケアの社会化と再分配、依存の絆と自由の平等　など

授業の到達目標

【3年生】
春期：文献講読や映像の視聴、ディスカッション等を通じて研究を進めるうえで必要な基本概念や理論を理解する。
秋期：夏休みの自由研究によって問題意識を掘り下げ、それを秋期に報告しディスカッションを重ねることによって、領域横断／重層的な学びを深める。

【4年生】
春期：3年次に醸成した各人の問題意識に基づきゼミ論執筆の予備的研究を進め、研究計画を完成させる。
秋期：研究計画に基づき着実に研究を進め、ゼミ論を執筆／完成させる。合評会を開催し、ゼミ論集及び研究室ホームページ掲載稿を作成し、2年間のゼミでの学びを完成させる。

成績評価方法

【3年生】平常点（出席、報告、参画姿勢、レビュー）により総合的に評価する。
【4年生】平常点（出席、報告、参画姿勢、レビュー）及びゼミ論文への取り組みにより総合的に評価する。

備考・関連ＵＲＬ

科目登録上はAクラス（3限）が3年生、Bクラス（4限）が4年生となっていますが、3・4限連続して合同ゼミやゼミ論文合評会等を行うことがあるので、原則として、3・4限に他の授業を入れないようにしてください。（教職科目履修等でやむを得ない場合は御相談ください）

岡部耕典研究室　http://www.f.waseda.jp/k_okabe/

※LMSはコースナビを使用する予定（Bクラス所属者もAクラスに登録しAクラスを合同クラスとして使用

科 目 名	「多様性を生きる人間」論ゼミ（ディスアビリティと現代）（春学期） B							
担当者名	岡部　耕典							
人間	2単位	春学期	金曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

異なる心身と文化をもつ人々が、その差異を毀損されずに生きて働く／参加することのできる社会を構想することがこのゼミのテーマです。障害（インペアメント／ディスアビリティ）だけでなく、ジェンダーやセクシュアリティ、エスニシティなどの多元的・複合的な差異を切り口としつつ、読み／調べ／考え、その実現のために必要なシステム（政策・制度）、家族やコミュニティ、人々の営みや想い（運動・思想・規範）の在り方を検討します。

3年春学期には、文献講読や映像の視聴とディスカッションを通じて、研究をすすめるうえで必要な概念やパースペクティブを身につけます。そこで獲得された問題意識に基づき各人が夏休みに自由研究を行い、秋学期の報告とディスカッションを通じて互いの問題意識と関心領域を交差させることで、領域横断／重層的に学習を進めます。

4年進級前の春休みにゼミ論文の研究・執筆計画案を作成し、4年春学期に練り上げていきます。秋期に執筆したゼミ論文を合評会において吟味し、ゼミ論集及び研究室ホームページに掲載する最終稿を作成します。2年間のゼミでの学びを通じて、まなざすことなく聴き発する問いが〈自足する明晰の世界〉を突き崩し、自らの〈生き方の窓〉をひらくことを期待しています。

キーワード：分配する最少国家と福祉社会、非差別アプローチと障害の社会モデル、ケアの社会化と再分配、依存の絆と自由の平等　など

授業の到達目標

【3年生】

春期：文献講読や映像の視聴、ディスカッション等を通じて研究を進めるうえで必要な基本概念や理論を理解する。

秋期：夏休みの自由研究によって問題意識を掘り下げ、それを秋期に報告しディスカッションを重ねることによって、領域横断／重層的な学びを深める。

【4年生】

春期：3年次に醸成した各人の問題意識に基づきゼミ論執筆の予備的研究を進め、研究計画を完成させる。

秋期：研究計画に基づき着実に研究を進め、ゼミ論を執筆／完成させる。合評会を開催し、ゼミ論集及び研究室ホームページ掲載稿を作成し、2年間のゼミでの学びを完成させる。

成績評価方法

【3年生】平常点（出席、報告、参画姿勢、レビュー）により総合的に評価する。

【4年生】平常点（出席、報告、参画姿勢、レビュー）及びゼミ論文への取り組みにより総合的に評価する。

備考・関連URL

科目登録上はAクラス（3限）が3年生、Bクラス（4限）が4年生となっていますが、3・4限連続して合同ゼミやゼミ論文合評会等を行うことがあるので、原則として、3・4限に他の授業を入れないようにしてください。（教職科目履修等でやむを得ない場合は御相談ください）

岡部耕典研究室　http://www.f.waseda.jp/k_okabe/

※LMSはコースナビを使用する予定（Bクラス所属者もAクラスに登録しAクラスを合同クラスとして使用

科 目 名	「多様性を生きる人間」論ゼミ（ディスアビリティと現代）（秋学期） A							
担当者名	岡部　耕典							
人間	2単位	秋学期	金曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

異なる心身と文化をもつ人々が、その差異を毀損されずに生きて働く／参加することのできる社会を構想することがこのゼミのテーマです。障害（インペアメント／ディスアビリティ）だけでなく、ジェンダーやセクシュアリティ、エスニシティなどの多元的・複合的な差異を切り口としつつ、読み／調べ／考え、その実現のために必要なシステム（政策・制度）、家族やコミュニティ、人々の営みや想い（運動・思想・規範）の在り方を検討します。

3年春学期には、文献講読や映像の視聴とディスカッションを通じて、研究をすすめるうえで必要な概念やパースペクティブを身につけます。そこで獲得された問題意識に基づき各人が夏休みに自由研究を行い、秋学期の報告とディスカッションを通じて互いの問題意識と関心領域を交差させることで、領域横断／重層的に学習を進めます。

4年進級前の春休みにゼミ論文の研究・執筆計画案を作成し、4年春学期に練り上げていきます。秋期に執筆したゼミ論文を合評会において吟味し、ゼミ論集及び研究室ホームページに掲載する最終稿を作成します。2年間のゼミでの学びを通じて、まなざすことなく聴き発する問いが〈自足する明晰の世界〉を突き崩し、自らの〈生き方の窓〉をひらくことを期待しています。

キーワード：分配する最少国家と福祉社会、非差別アプローチと障害の社会モデル、ケアの社会化と再分配、依存の絆と自由の平等　など

授業の到達目標

【3年生】

春期：文献講読や映像の視聴、ディスカッション等を通じて研究を進めるうえで必要な基本概念や理論を理解する。

秋期：夏休みの自由研究によって問題意識を掘り下げ、それを秋期に報告しディスカッションを重ねることによって、領域横断／重層的な学びを深める。

【4年生】

春期：3年次に醸成した各人の問題意識に基づきゼミ論執筆の予備的研究を進め、研究計画を完成させる。

秋期：研究計画に基づき着実に研究を進め、ゼミ論を執筆／完成させる。合評会を開催し、ゼミ論集及び研究室ホームページ掲載稿を作成し、2年間のゼミでの学びを完成させる。

成績評価方法

【3年生】平常点（出席、報告、参画姿勢、レビュー）により総合的に評価する。
【4年生】平常点（出席、報告、参画姿勢、レビュー）及びゼミ論文への取り組みにより総合的に評価する。

備考・関連URL

科目登録上はAクラス（3限）が3年生、Bクラス（4限）が4年生となっていますが、3・4限連続して合同ゼミやゼミ論文合評会等を行うことがあるので、原則として、3・4限に他の授業を入れないようにしてください。（教職科目履修等でやむを得ない場合は御相談ください）
岡部耕典研究室　http://www.f.waseda.jp/k_okabe/

※LMSはコースナビを使用する予定（Bクラス所属者もAクラスに登録しAクラスを合同クラスとして使用

科 目 名	「多様性を生きる人間」論ゼミ（ディスアビリティと現代）（秋学期） B							
担当者名	岡部　耕典							
人間	2単位	秋学期	金曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

異なる心身と文化をもつ人々が、その差異を毀損されずに生きて働く／参加することのできる社会を構想することがこのゼミのテーマです。障害（インペアメント／ディスアビリティ）だけでなく、ジェンダーやセクシュアリティ、エスニシティなどの多元的・複合的な差異を切り口としつつ、読み／調べ／考え、その実現のために必要なシステム（政策・制度）、家族やコミュニティ、人々の営みや想い（運動・思想・規範）の在り方を検討します。
3年春学期には、文献講読や映像の視聴とディスカッションを通じて、研究をすすめるうえで必要な概念やパースペクティブを身につけます。そこで獲得された問題意識に基づき各人が夏休みに自由研究を行い、秋学期の報告とディスカッションを通じて互いの問題意識と関心領域を交差させることで、領域横断／重層的に学習を進めます。

4年進級前の春休みにゼミ論文の研究・執筆計画案を作成し、4年春学期に練り上げていきます。秋期に執筆したゼミ論文を合評会において吟味し、ゼミ論集及び研究室ホームページに掲載する最終稿を作成します。2年間のゼミでの学びを通じて、まなざすことなく聴き発する問いが〈自足する明晰の世界〉を突き崩し、自らの〈生き方の窓〉をひらくことを期待しています。

キーワード：分配する最少国家と福祉社会、非差別アプローチと障害の社会モデル、ケアの社会化と再分配、依存の絆と自由の平等　など

授業の到達目標

【3年生】
春期：文献講読や映像の視聴、ディスカッション等を通じて研究を進めるうえで必要な基本概念や理論を理解する。
秋期：夏休みの自由研究によって問題意識を掘り下げ、それを秋期に報告しディスカッションを重ねることによって、領域横断／重層的な学びを深める。

【4年生】
春期：3年次に醸成した各人の問題意識に基づきゼミ論執筆の予備的研究を進め、研究計画を完成させる。
秋期：研究計画に基づき着実に研究を進め、ゼミ論を執筆／完成させる。合評会を開催し、ゼミ論集及び研究室ホームページ掲載稿を作成し、2年間のゼミでの学びを完成させる。

成績評価方法

【3年生】平常点（出席、報告、参画姿勢、レビュー）により総合的に評価する。
【4年生】平常点（出席、報告、参画姿勢、レビュー）及びゼミ論文への取り組みにより総合的に評価する。

備考・関連URL

科目登録上はAクラス（3限）が3年生、Bクラス（4限）が4年生となっていますが、3・4限連続して合同ゼミやゼミ論文合評会等を行うことがあるので、原則として、3・4限に他の授業を入れないようにしてください。（教職科目履修等でやむを得ない場合は御相談ください）

期末にゼミ論文集の作成及びフルペーパーのHP掲載を行います。
岡部耕典研究室　http://www.f.waseda.jp/k_okabe/

※LMSはコースナビを使用する予定（Bクラス所属者もAクラスに登録しAクラスを合同クラスとして使用

科 目 名	社会構造論ゼミ1（日本社会の成り立ちを考える）（春学期） 歴史学から見た日本社会							
担当者名	久保　健一郎／川尻　秋生							
構築	2単位	春学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

歴史学的方法を基軸に据えて、日本社会の成り立ち、そしてその特質について、検討すること目的とします。本年度のテーマ（大テーマ）については、ゼミ員との話し合いによって、設定する予定です。手順としては、本年度のゼミの共通テーマを決めてからゼミ員の班分けを行い、各班が大テーマに沿った小テーマを設定します。そして、班ごとに報告していただき、教員・ゼミ員相互が討論を行い、大テーマの理解を深めます。 なお、4年生についてはゼミ論の準備報告をし、3年生も報告を聞き討論に参加して、ゼミ論に備えていただきます。

授業の到達目標

日本の歴史を通史的にとらえるとともに、各自の関心ある時代・分野についての基本的知識を身につけた上で、さらにゼミ論文に仕上げるための専門的技術・知識を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%

●**平常点**　100%　　出席・発表による
●**その他**　0%

科 目 名	社会構造論ゼミ1（日本社会の成り立ちを考える）（秋学期）　歴史学から見た日本社会							
担当者名	久保　健一郎／川尻　秋生							
構築	2単位	秋学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

歴史学的方法を基軸に据えて、日本社会の成り立ち、そしてその特質について、検討すること目的とします。本年度のテーマ（大テーマ）については、ゼミ員との話し合いによって、設定する予定です。手順としては、本年度のゼミの共通テーマを決めてからゼミ員の班分けを行い、各班が大テーマに沿った小テーマを設定します。そして、班ごとに報告していただき、教員・ゼミ員相互が討論を行い、大テーマの理解を深めます。 なお、4年生についてはゼミ論の準備報告をし、3年生も報告を聞き討論に参加して、ゼミ論に備えていただきます。

授業の到達目標

日本の歴史を通史的にとらえるとともに、各自の関心ある時代・分野についての基本的知識を身につけた上で、さらにゼミ論文に仕上げるための専門的技術・知識を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　出席・発表による
●**その他**　0%

科 目 名	社会構造論ゼミ4（近現代日本経済史）（春学期）　A　近現代日本経済史							
担当者名	森田　貴子							
構築	2単位	春学期	月曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

近現代日本の社会構造について、歴史学と経済学の観点から研究することを目標とする。
テキスト講読と共同研究を行う。各自、担当部分に関連する代表的な文献を読み、資料を用いつつ、その時代の社会を理解し、研究史を正確に把握した発表を行う。発表に基づき、参加者全員で討議を行う。

授業の到達目標

①テキスト講読を行い、関連する文献を読み、文献の趣旨を正確に読みとり、研究史を理解する能力、②資料を自力で収集し、論点を構成する能力、③発表能力、を習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—
●**レポート**　0%　　—
●**平常点**　100%　　ゼミ活動への参加度と報告内容
●**その他**　0%　　—

科 目 名	社会構造論ゼミ4（近現代日本経済史）（春学期）　B　近現代日本経済史							
担当者名	森田　貴子							
構築	2単位	春学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

近現代日本の社会構造について、歴史学と経済学の観点から研究することを目標とする。
ゼミ論文執筆に向けて、研究発表を行う。研究テーマに関連する代表的な文献を読み、資料を用いつつ、その時代の社会を理解し、研究史を正確に把握した発表を行う。発表に基づき、参加者全員で討議を行う。

授業の到達目標

①研究テーマに関連する文献を読み、文献の趣旨を正確に読みとり、研究史を理解する能力、②資料を自力で収集し、論点を構成する能力、③発表能力、を習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—
●**レポート**　0%　　—
●**平常点**　100%　　ゼミ活動への参加度と報告内容
●**その他**　0%　　—

科 目 名	社会構造論ゼミ4（近現代日本経済史）（秋学期）　A　近現代日本経済史							
担当者名	森田　貴子							
構築	2単位	秋学期	月曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

近現代日本の社会構造について、歴史学と経済学の観点から研究することを目標とする。テキスト講読と、日本経済に関する共通テーマに関連した参加者の研究発表を行う。

授業の到達目標

①テキスト講読を行い、関連する文献を読み、文献の趣旨を正確に読みとり、研究史を理解する能力、②資料を自力で収集し、論点を構成する能力、③発表能力、を習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—
●**レポート**　30%　　学期末のレポート
●**平常点**　70%　　ゼミ活動への参加度と報告内容

●**その他**　0%　　—

科 目 名	社会構造論ゼミ4（近現代日本経済史）（秋学期）　B　近現代日本経済史							
担当者名	森田　貴子							
構築	2単位	秋学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

近現代日本の社会構造について、歴史学と経済学の観点から研究することを目標とする。
ゼミ論文の完成に向けて、研究発表を行う。

授業の到達目標

①研究テーマに関連する文献を読み、文献の趣旨を正確に読みとり、研究史を理解する能力、②資料を自力で収集し、論点を構成する能力、③発表能力、を習得する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　—
●**レポート**　30%　　学期末のレポート
●**平常点**　70%　　ゼミ活動への参加度と報告内容
●**その他**　0%　　—

科 目 名	社会構造論ゼミ2（近代アジア社会の形成）（春学期）							
担当者名	柳澤　明							
構築	2単位	春学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

このゼミでは、アジアの伝統社会が「近代的」に再編されていく過程と、そこに見られる諸特徴を、歴史的に検討することを目標とする。

アジアの近代は、それぞれの国・地域の内発的な発展の結果ではなく、西洋によって他律的にもたらされた面が大きいことは、否定できない。ヨーロッパにおける近代への移行が長期にわたる漸進的な変化であったのに対して、アジア諸地域の近代化は、おおむね19世紀後半から比較的急速に進行した。そこで生じた大きな変化は、政治制度・法律・経済・社会慣習・教育・芸術などさまざまな面で、現代に大きな影響を及ぼしている。したがって、現代アジア社会の成り立ちを理解するためには、近代直前の時期（近世）を起点として、その後の変化の実相を歴史的にあとづけていく必要がある。

もちろん、アジア諸地域の近代化のプロセスは、それぞれの伝統社会のありかたや、近代化の過程での諸条件（植民地支配を受けたかどうかなど）によって、一律ではない。そうした地域固有の特徴や、各地域の相互関係を視野に入れることも重要である。

このゼミで扱う地域は、日本以外の東アジア――中国とその周辺――が主となるが、ゼミ生の関心によっては、他の地域を取り上げてもかまわない。また、日本自体は基本的に対象外だが、アジアの他地域と日本との比較という視点での取り組みは妨げない。時代の範囲も明確には定めがたいが、だいたい17世紀頃から20世紀前半までが中心となるだろう。

本科目は、「ディプロマポリシー」および「カリキュラムポリシー」にいう「論系ゼミ」に該当する。

授業の到達目標

【3年生】ゼミ生各自の関心に応じた調査・発表と質疑応答・討論を通じて、近代アジア社会の形成過程に関する理解を深め、ゼミ論文執筆へ向けての基礎知識と視座を獲得することを目標とする。

【4年生以上】

春学期：前学期までの調査・発表内容を踏まえて、ゼミ論文の問題設定を確立する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　期末レポート等は特に課さない。
●**平常点**　100%　　授業時の発表内容、討論への参加度などによる。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

日程は状況に応じて随時調整します。各自の発表に対する他の学生や教員からの質問・コメントを次のステップに生かせるよう、留意してください。

論系ゼミ

科 目 名	社会構造論ゼミ2（近代アジア社会の形成）（秋学期）							
担当者名	柳澤　明							
構築	2単位	秋学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

このゼミでは、アジアの伝統社会が「近代的」に再編されていく過程と、そこに見られる諸特徴を、歴史的に検討することを目標とする。

アジアの近代は、それぞれの国・地域の内発的な発展の結果ではなく、西洋によって他律的にもたらされた面が大きいことは、否定できない。ヨーロッパにおける近代への移行が長期にわたる漸進的な変化であったのに対して、アジア諸地域の近代化は、おおむね19世紀後半から比較的急速に進行した。そこで生じた大きな変化は、政治制度・法律・経済・社会慣習・教育・芸術などさまざまな面で、現代に大きな影響を及ぼしている。したがって、現代アジア社会の成り立ちを理解するためには、近代直前の時期（近世）を起点として、その後の変化の実相を歴史的にあとづけていく必要がある。

もちろん、アジア諸地域の近代化のプロセスは、それぞれの伝統社会のありかたや、近代化の過程での諸条件（植民地支配を受けたかどうかなど）によって、一律ではない。そうした地域固有の特徴や、各地域の相互関係を視野に入れることも重要である。

このゼミで扱う地域は、日本以外の東アジア――中国とその周辺――が主となるが、ゼミ生の関心によっては、他の地域を取り上げてもかまわない。また、日本自体は基本的に対象外だが、アジアの他地域と日本との比較という視点での取り組みは妨げない。時代の範囲も明確には定めがたいが、だいたい17世紀頃から20世紀前半までが中心となるだろう。

本科目は、「ディプロマポリシー」および「カリキュラムポリシー」にいう「論系ゼミ」に該当する。

授業の到達目標

【3年生】ゼミ生各自の関心に応じた調査・発表と質疑応答・討論を通じて、近代アジア社会の形成過程に関する理解を深め、ゼミ論文執筆へ向けての基礎知識と視座を獲得することを目標とする。

【4年生以上】

秋学期：前学期までに収集した資料に基づく分析・論証を進め、ゼミ論文を完成させる。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない。
●**レポート**　0%　　期末レポート等は特に課さない。
●**平常点**　100%　　授業時の発表内容、討論への参加度などによる。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連URL

日程は状況に応じて随時調整します。各自の発表に対する他の学生や教員からの質問・コメントを次のステップに生かせるよう、留意してください。

科目名	社会構造論ゼミ3（国際移民とヨーロッパの比較社会分析）（春学期）　A							
担当者名	樽本　英樹							
構築	2単位	春学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

グローバル化という世界的な社会変動の中、社会現象が国境を超えることは当然となった。その結果、難民志願者の殺到、極右・ポピュリズムの台頭、テロリズムの頻発、移民・外国人をめぐる不平等や格差の拡大など様々な問題が世界各地で噴出している。それらに伴い、これまでの国民国家的枠組みは変容を余儀なくされている。すなわち、分析視点や理論、手法などが国民国家を超えたものが必要とされてきた。本ゼミではヨーロッパ社会を中心に取りあげ、他の社会と比較しつつ1990年代以降急速に発展してきた脱国境・超国家的な社会現象を対象として社会学など社会科学的な分析法を学ぶ。特に国境を越える人々の移動と、それに伴う社会問題を理解することを糸口にしたい。討論の時間を中心に据え、受講生の学修意欲を刺激するゼミを目指す。

授業の到達目標

最終目標は、ゼミ論文などの形で自らの興味ある社会現象を自由に分析できるようになることである。またその過程で、受講生は英語の文献を読みこなすスキルを身につけることであろう。

成績評価方法

ゼミへの参加状況を総合的に勘案して評価する。

科目名	社会構造論ゼミ3（国際移民とヨーロッパの比較社会分析）（春学期）　B							
担当者名	樽本　英樹							
構築	2単位	春学期	木曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

グローバル化という世界的な社会変動の中、社会現象が国境を超えることは当然となった。その結果、難民志願者の殺到、極右・ポピュリズムの台頭、テロリズムの頻発、移民・外国人をめぐる不平等や格差の拡大など様々な問題が世界各地で噴出している。それらに伴い、これまでの国民国家的枠組みは変容を余儀なくされている。すなわち、分析視点や理論、手法などが国民国家を超えたものが必要とされてきた。本ゼミではヨーロッパ社会を中心に取りあげ、他の社会と比較しつつ1990年代以降急速に発展してきた脱国境・超国家的な社会現象を対象として社会学など社会科学的な分析法を学ぶ。特に国境を越える人々の移動と、それに伴う社会問題を理解することを糸口にしたつつ、論文執筆の方法を中心に学ぶ。討論の時間を中心に据え、受講生の学修意欲を刺激するゼミを目指す。

授業の到達目標

最終目標は、自らの興味ある社会現象を自由に分析できるようにな、ゼミ論文を完成に近づけることである。

成績評価方法

ゼミへの参加状況を総合的に勘案して評価する。

科目名	社会構造論ゼミ3（国際移民とヨーロッパの比較社会分析）（秋学期）　A							
担当者名	樽本　英樹							
構築	2単位	秋学期	木曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

グローバル化という世界的な社会変動の中、社会現象が国境を超えることは当然となった。その結果、難民志願者の殺到、極右・ポピュリズムの台頭、テロリズムの頻発、移民・外国人をめぐる不平等や格差の拡大など様々な問題が世界各地で噴出している。それらに伴い、これまでの国民国家的枠組みは変容を余儀なくされている。すなわち、分析視点や理論、手法などが国民国家を超えたものが必要とされてきた。本ゼミではヨーロッパ社会を中心に取りあげ、他の社会と比較しつつ1990年代以降急速に発展してきた脱国境・超国家的な社会現象を対象として社会学など社会科学的な分析法を学ぶ。特に国境を越える人々の移動と、それに伴う社会問題を理解することを糸口にしたい。討論の時間を中心に据え、受講生の学修意欲を刺激するゼミを目指す。

授業の到達目標

最終目標は、ゼミ論文などの形で自らの興味ある社会現象を自由に分析できるようになることである。またその過程で、受講生は英語の文献を読みこなすスキルを身につけることであろう。

成績評価方法

樽本英樹編著 2018『排外主義の国際比較－先進諸国における外国人移民の実態』ミネルヴァ書房.
樽本英樹 2016『よくわかる国際社会学』（第2版）ミネルヴァ書房.
樽本英樹 2012『国際移民と市民権ガバナンス－日英比較の国際社会学』ミネルヴァ書房.
西原和久・樽本英樹編 2016『現代人の国際社会学・入門 －トランスナショナリズムという視点』有斐閣.
John Rex and Gurharpal Singh（eds.）Governance in Multicultural Societies, Aldershot: Avebury.

Thomas Lacroix and Amandine Desille (eds) 2017 International Migrations and Local Governance: A Global Perspective, Basingstoke: Palgrave Macmillan.

科 目 名	社会構造論ゼミ3（国際移民とヨーロッパの比較社会分析）（秋学期） B							
担当者名	樽本　英樹							
構築	2単位	秋学期	木曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

グローバル化という世界的な社会変動の中、社会現象が国境を超えることは当然となった。その結果、難民志願者の殺到、極右・ポピュリズムの台頭、テロリズムの頻発、移民・外国人をめぐる不平等や格差の拡大など様々な問題が世界各地で噴出している。それらに伴い、これまでの国民国家的枠組みは変容を余儀なくされている。すなわち、分析視点や理論、手法などが国民国家を超えたものが必要とされてきた。本ゼミではヨーロッパ社会を中心に取りあげ、他の社会と比較しつつ1990年代以降急速に発展してきた脱国境・超国家的な社会現象を対象として社会学など社会科学的な分析法を学ぶ。特に国境を越える人々の移動と、それに伴う社会問題を理解することを糸口にしつつ、ゼミ論文集の執筆を学ぶ。討論の時間を中心に据え、受講生の学修意欲を刺激するゼミを目指す。

授業の到達目標

最終目標は、自らの興味ある社会現象を自由に分析できるようになり、ゼミ論文を完成させることである。

成績評価方法

通常授業と課題の成果により総合的に判断する。

科 目 名	地域・都市論ゼミ1（地域・都市社会史）（春学期） 地域・都市社会の歴史的形成を考える							
担当者名	大日方　純夫							
構築	2単位	春学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

学生同士が互いに刺激しあい、切磋琢磨する環境を通じて、柔軟で豊かな発想力を養い、社会の本質に迫ります。そのため、直面している課題は何なのか、それを解決するためには何が必要なのかを、生活の場＝拠点である地域、とくに都市の歴史に即して考えます。具体的には、日本の近現代都市に照準を定めて調査・分析を重ね、その歴史と問題点・課題を照射します。授業では、具体的なテーマ群を設定して調査を重ねながら、互に発表しあい、討論しあいます。また、授業とは別に、随時、フィールドワークなどを実施し、さらに合宿などを活用して集中的に調査・討論を行ないます。また、こうした過程を通じて自らの研究テーマを発見し、確立した研究テーマに即してゼミ論文執筆のための調査・研究を重ねます。

授業の到達目標

近現代の都市史に関する基本的な文献や資料などを集団的に読み込みながら、問題意識を鮮明にし、追究すべき全体課題と個別課題を発見することをめざします。また、グループを編成して調査・分析しながら、歴史的な調査・分析の方法や手続きを学びます。さらに、現地での見学・調査なども組み込んで、集中的に報告・討論する機会を設定します。これらを通じて、発想力・調査力・分析力を磨くことを目標とします。

成績評価方法

- **試験**　0%　　実施しない
- **レポート**　0%　　実施しない
- **平常点**　100%　　ゼミ運営・グループワークへの参加状況、報告・討論等への参加状況
- **その他**　0%

備考・関連URL

現実的な感覚を磨くこと、能動的・行動的であること、学究的な態度を大切にすることが求められます。また、徹底的に調査にこだわる執着力、問題提起的な発表をめざす挑戦力と、本音をぶつけ合う真摯な討論に期待します。

論文指導などを含め時間を延長することが多々ありますので、6時限も出席可能な態勢をとってください。

論系ゼミ

科 目 名	地域・都市論ゼミ1（地域・都市社会史）（秋学期） 地域・都市社会の歴史的形成を考える							
担当者名	大日方　純夫							
構築	2単位	秋学期	月曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

学生同士が互いに刺激しあい、切磋琢磨する環境を通じて、柔軟で豊かな発想力を養い、社会の本質に迫ります。そのため、直面している課題は何なのか、それを解決するためには何が必要なのかを、生活の場＝拠点である地域、とくに都市の歴史に即して考えます。具体的には、日本の近現代都市に照準を定めて調査・分析を重ね、その歴史と問題点・課題を照射します。授業では、春期に確定したそれぞれの研究テーマに即して発表・討論を重ねながら、ゼミ論文執筆のための調査・研究に取り組み、執筆を進めて学修の集大成としてゼミ論文を完成させます。論文完成後は、それぞれの成果を発表し合って達成点を共有し、また、相互に今後の課題を指摘し合います。

授業の到達目標

春期に獲得した基礎力をふまえ、それぞれの問題意識・課題意識を尊重しながら集中的に調査・分析する体制を構築し、歴史的な調査・分析の方法や手続きを鍛えます。豊かな発想力と確かな調査力・分析力を獲得して、年度末にゼミ論文を完成させることを目標とします。

成績評価方法

- **試験**　0%　　実施しない
- **レポート**　40%　　ゼミ論文の準備報告
- **平常点**　60%　　ゼミ運営・グループワークへの参加状況、報告・討論等への参加状況
- **その他**　0%

備考・関連URL

現実的な感覚を磨くこと、能動的・行動的であること、学究的な態度を大切にすることが求められます。また、徹底的に調査にこだわる執着力、問題提起的な発表をめざす挑戦力と、本音をぶつけ合う真摯な討論に期待します。

論文指導などを含め時間を延長することが多々ありますので、6時限も出席可能な態勢をとってください。

科 目 名	地域・都市論ゼミ2（コミュニティ論）（春学期） コミュニティ---現代の地域・都市とローカル・ガバナンス							
担当者名	浦野　正樹							
構築	2単位	春学期	木曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

このゼミでは、わたしたちが現実に生活している都市や地域社会を対象にして、人々の生活の実相と動態的に変化していく地域社会の姿を解読し、現代の地域や都市が抱えるさまざまな課題を探求していきます。文献研究に加えてインタビュー調査などを含むフィールド・ワーク、統計データの収集・分析・解読などを通じて実地に地域生活の課題に触れ、地域住民が自ら活動を構築しながら、ボランティア・NPO活動、市場セクターや公共セクターとさまざまな連携をとりつつ対応していこうとするすがたを考え学んでいきます。

授業の到達目標

到達目標は、上記の関連文献を渉猟し正確にかつ批判的に読解する力、実地の社会調査を進めて地域の実態を把握し分析していく力、一定の問題意識に沿いながら説得的なプレゼンテーションや論文にまとめていく力をつけていくことです。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　ゼミへの出席、社会調査などのゼミ活動、ゼミでの日常的な課題への対応など
●**その他**　0%

備考・関連URL

本ゼミナールは、ゼミナール参加者の自発的な発案で企画し、文献の読解と運営企画、実地調査などを含めた形式で授業を進めていく予定なので、ゼミナール参加者はこうした過程全般への積極的な参加が要求されます。本ゼミナール参加者は、地域に関して自ら問題を設定して考え、かつじっくりとまとめてある程度の内容と長さの論文にしていくことが要求されるので、そうした意欲のある学生を期待しています。履修する学生と相談しながら、授業日以外に適宜集中授業を行うことがあります。授業計画はおよその目安で、学生との相談のうえ適宜進めていきます。

科 目 名	地域・都市論ゼミ2（コミュニティ論）（秋学期） コミュニティ---現代の地域・都市とローカル・ガバナンス							
担当者名	浦野　正樹							
構築	2単位	秋学期	木曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

このゼミでは、わたしたちが現実に生活している都市や地域社会を対象にして、人々の生活の実相と動態的に変化していく地域社会の姿を解読し、現代の地域や都市が抱えるさまざまな課題を探求していきます。文献研究に加えてインタビュー調査などを含むフィールド・ワーク、統計データの収集・分析・解読などを通じて実地に地域生活の課題に触れ、地域住民が自ら活動を構築しながら、ボランティア・NPO活動、市場セクターや公共セクターとさまざまな連携をとりつつ対応していこうとするすがたを考え学んでいきます。

授業の到達目標

到達目標は、上記の関連文献を渉猟し正確にかつ批判的に読解する力、実地の社会調査を進めて地域の実態を把握し分析していく力、一定の問題意識に沿いながら説得的なプレゼンテーションや論文にまとめていく力をつけていくことです。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　0%
●**平常点**　100%　　ゼミへの出席、社会調査などのゼミ活動、ゼミでの日常的な課題への対応など
●**その他**　0%

備考・関連URL

本ゼミナールは、ゼミナール参加者の自発的な発案で企画し、文献の読解と運営企画、実地調査などを含めた形式で授業を進めていく予定なので、ゼミナール参加者はこうした過程全般への積極的な参加が要求されます。本ゼミナール参加者は、地域に関して自ら問題を設定して考え、かつじっくりとまとめてある程度の内容と長さの論文にしていくことが要求されるので、そうした意欲のある学生を期待しています。履修する学生と相談しながら、授業日以外に適宜集中授業を行うことがあります。授業計画はおよその目安で、学生との相談のうえ適宜進めていきます。

科 目 名	地域・都市論ゼミ3（文化遺産論）（春学期） 文化遺産論ゼミ（保存と活用をめぐって）							
担当者名	佐藤　桂							
構築	2単位	春学期	月曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

ユネスコの世界遺産が一種のブームとなり、歴史的な町歩きや建築の保存・再生といったテーマへの関心が高まっている。外国人旅行者も増えるなか、文化遺産は文化資源とも呼ばれ、地域・都市を活性化させる一つの重要なコンテンツと考えられるようになってきた。だが、それを単なる観光資源としてのみ捉えることは、文化をいわば商品のように消費することに繋がり、いきすぎた活用が、ときにその価値を損なうことにもなりかねないという危険性を孕んでいる。 本ゼミでは、文化遺産とは何かという基本から、文化財行政の歴史、文化遺産の保存と活用の諸問題等について、各自がテーマを見つけて取り組んでもらう。

授業の到達目標

・文化遺産という概念の形成史や概要を理解する。
・文化財保護制度の歴史を理解する。
・世界遺産の現状と課題について考える視点を得る。
・文化遺産の保存と活用の現状と、今後のあり方について自分なりの意見を持つ。

成績評価方法

ゼミへの参加、発言、積極性、受講態度等から総合的に評価する。

科 目 名	地域・都市論ゼミ3（文化遺産論）（秋学期） 文化遺産論ゼミ（保存と活用をめぐって）							
担当者名	佐藤　桂							
構築	2単位	秋学期	月曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

ユネスコの世界遺産が一種のブームとなり、歴史的な町歩きや建築の保存・再生といったテーマへの関心が高まっている。外国人旅行者も増えるなか、文化遺産は文化資源とも呼ばれ、地域・都市を活性化させる一つの重要なコンテンツと考えられるようになってきた。だが、それを単なる観光資源としてのみ捉えることは、文化をいわば商品のように消費することに繋がり、いきすぎた活用が、ときにその価値を損なうことにもなりかねないという危険性を孕んでいる。 本ゼミでは、文化遺産とは何かという基本から、文化財行政の歴史、文化遺産の保存と活用の諸問題等について、各自がテーマを見つけて取り組んでもらう。

授業の到達目標

・文化遺産という概念の形成史や概要を理解する。
・文化財保護制度の歴史を理解する。
・世界遺産の現状と課題について考える視点を得る。
・文化遺産の保存と活用の現状と、今後のあり方について自分なりの意見を持つ。

成績評価方法

ゼミへの参加、発言、積極性、受講態度等から総合的に評価する。

科 目 名	共生社会論ゼミ2（現代共生理論）（春学期） A 理論社会学から未来社会学へ							
担当者名	森　元孝							
構築	2単位	春学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

最新の理論社会学の基本を学び、未来社会を構想していくための準備演習である。

今、そしてこれから生きていく社会が、どんな形をしていて、どんな形になっていくのかについて、透徹した眼を養っていくために、課題を11回提供し、それに対してグループで各回、研究報告をしていく形式で進めていく。それらの一連のプロセスをもとにして、発展課題を6月に提示する。7月初旬の夏合宿（3年生は全員参加）に、それについてグループ報告を行い、全体で深い議論をする。さらに7月、夏休み前までに、一連の活動を、プロシーディングスの形としてまとめ、pdf版を公表する。

授業の到達目標

変貌する社会を精確に捉える視点を身につけることが到達目標である。そのためには最新の理論社会学を身につけることが必要であり、それは、社会学の基本思考を徹底的に学び取るということである。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　プロシーディングスの制作と完成。
●**平常点**　50%　　各回のゼミへの積極性。
●**その他**　0%

備考・関連URL

森　元孝のウェブページ　http://www.f.waseda.jp/wienmoto/
森ゼミのウェブページ　http://www.f.waseda.jp/wienmoto/Japanese/Lesson/KouchikuMorisemi/MC05.html

科 目 名	共生社会論ゼミ2（現代共生理論）（春学期） B 理論社会学から未来社会学へ							
担当者名	森　元孝							
構築	2単位	春学期	金曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

最新の理論社会学の基本を学び、未来社会を構想していくための準備演習である。

今、そしてこれから生きていく社会が、どんな形をしていて、どんな形になっていくのかについて、透徹した眼を養っていくために、課題を11回提供し、それに対してグループで各回、研究報告をしていく形式で進めていく。それらの一連のプロセスをもとにして、発展課題を6月に提示する。7月初旬の夏合宿（3年生は全員参加）に、それについてグループ報告を行い、全体で深い議論をする。さらに7月、夏休み前までに、一連の活動を、プロシーディングスの形としてまとめ、pdf版を公表する。

授業の到達目標

変貌する社会を精確に捉える視点を身につけることが到達目標である。そのためには最新の理論社会学を身につけることが必要であり、それは、社会学の基本思考を徹底的に学び取るということである。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　プロシーディングスの制作と完成。
●**平常点**　50%　　各回のゼミへの積極性。
●**その他**　0%

備考・関連URL

森　元孝のウェブページ　http://www.f.waseda.jp/wienmoto/
森ゼミのウェブページ　http://www.f.waseda.jp/wienmoto/Japanese/Lesson/KouchikuMorisemi/MC05.html

科 目 名	共生社会論ゼミ2（現代共生理論）（秋学期） A 未来社会学の応用展開							
担当者名	森　元孝							
構築	2単位	秋学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

最新の理論社会学の基本をもとに、未来社会について構想していく演習である。

今、そしてこれから生きていく社会が、どんな形をしていて、どんな形になっていくのかについて、透徹した眼を養っていくために、春学期に習得した基礎知識をもとに、理論的に、また経験的、実験的に構想をしていく。、それらの一連のプロセスをもとにして、発展課題を11月に提示する。12月中旬の冬合宿（3年生は全員参加）に、それについてグループ報告を行い、全体で深い議論をする。そして1月、学期終了までに、一連の活動を、プロシーディングスの形としてまとめ、pdf版を公表する。

授業の到達目標

理論的・論理的思考を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　プロシーディングスの作成と、その内容。
●**平常点**　50%　　各回のグループワークによるレポートと議論の状況。
●**その他**　0%

備考・関連URL

森　元孝のウェブページ　http://www.f.waseda.jp/wienmoto/
森ゼミのウェブページ　http://www.f.waseda.jp/wienmoto/Japanese/Lesson/KouchikuMorisemi/MC05.html

科 目 名	共生社会論ゼミ2（現代共生理論）（秋学期）　B　未来社会学の応用展開							
担当者名	森　元孝							
構築	2単位	秋学期	金曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

最新の理論社会学の基本をもとに、未来社会について構想していく演習である。

今、そしてこれから生きていく社会が、どんな形をしていて、どんな形になっていくのかについて、透徹した眼を養っていくために、春学期に習得した基礎知識をもとに、理論的に、また経験的、実験的に構想をしていく。それらの一連のプロセスをもとにして、発展課題を11月に提示する。12月中旬の冬合宿（3年生は全員参加）に、それについてグループ報告を行い、全体で深い議論をする。そして1月、学期終了までに、一連の活動を、プロシーディングスの形としてまとめ、pdf版を公表する。

授業の到達目標

理論的・論理的思考を養う。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　50%　　プロシーディングスの作成と、その内容。
●**平常点**　50%　　各回のグループワークによるレポートと議論の状況。
●**その他**　0%

備考・関連URL

森　元孝のウェブページ　http://www.f.waseda.jp/wienmoto/
森ゼミのウェブページ　http://www.f.waseda.jp/wienmoto/Japanese/Lesson/KouchikuMorisemi/MC05.html

科 目 名	共生社会論ゼミ3（地域・文化・学びと平和構築）（春学期）　A　文化・地域・学びと平和構築							
担当者名	山西　優二							
構築	2単位	春学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

文化構想学部でのゼミの12年目を迎える。新たな4年生・3年生そして教員が協働する中で、これまでのゼミ活動を踏まえつつ、さらに新しいゼミの可能性を模索する年にしたい。

このゼミのテーマは「文化・地域・学びと平和構築」である。グローバル化の進展に伴い、地域レベル、地球レベルで顕在化し、深刻化する貧困、経済格差、環境破壊、人権侵害、文化間・民族間の対立などの諸問題を見据えつつ、それらの問題解決を通しての平和構築に向けての課題や方策を、「文化」「地域」「学び」という視点から検討することを目的としている。

ゼミ研究の過程として、基礎研究では文献研究を丁寧に行い、グループ研究では、サブテーマに沿ってグループごとに現場に入り、当事者とのコミュニケーションを大切にするなど、理念的に深めつつ、実感のある学びと研究を心がけたいと思う。

ゼミ合宿は、1年に2回ほどを予定している。

授業の到達目標

ゼミでの協働研究・協働実践を通して、平和の文化構築、共生社会実現に向けての課題や方策を、「文化」「地域」「学び」という視点から検討することを基本目標とする。また年度末にはゼミ報告書を作成する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　50%　　ゼミ協働研究発表・報告書作成
●**平常点**　50%　　ゼミ参加
●**その他**　0%

備考・関連URL

3年生・4年生が協働し、5時限・6時限を活用してゼミを運営する。
ゼミは学生の主体的な参加を前提としている。
ゼミという場を使って、協働の中で、学び尽くしてほしいと思う。

科 目 名	共生社会論ゼミ3（地域・文化・学びと平和構築）（春学期） B 文化・地域・学びと平和構築							
担当者名	山西 優二							
構築	2単位	春学期	金曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

文化構想学部でのゼミの12年目を迎える。新たな4年生・3年生そして教員が協働する中で、これまでのゼミ活動を踏まえつつ、さらに新しいゼミの可能性を模索する年にしたい。

このゼミのテーマは「文化・地域・学びと平和構築」である。グローバル化の進展に伴い、地域レベル、地球レベルで顕在化し、深刻化する貧困、経済格差、環境破壊、人権侵害、文化間・民族間の対立などの諸問題を見据えつつ、それらの問題解決を通しての平和構築に向けての課題や方策を、「文化」「地域」「学び」という視点から検討することを目的としている。

ゼミ研究の過程として、基礎研究では文献研究を丁寧に行い、グループ研究では、サブテーマに沿ってグループごとに現場に入り、当事者とのコミュニケーションを大切にするなど、理念的に深めつつ、実感のある学びと研究を心がけたいと思う。

ゼミ合宿は、1年に2回ほどを予定している。

授業の到達目標

ゼミでの協働研究・協働実践を通して、平和の文化構築、共生社会実現に向けての課題や方策を、「文化」「地域」「学び」という視点から検討することを基本目標とする。また年度末にはゼミ報告書を作成する。

成績評価方法

●**試験** 0% 実施しない
●**レポート** 50% ゼミ協働研究発表・報告書作成
●**平常点** 50% ゼミ参加
●**その他** 0%

備考・関連URL

3年生・4年生が協働し、5時限・6時限を活用してゼミを運営する。
ゼミは学生の主体的な参加を前提としている。
ゼミという場を使って、協働の中で、学び尽くしてほしいと思う。

科 目 名	共生社会論ゼミ3（地域・文化・学びと平和構築）（秋学期） A 文化・地域・学びと平和構築							
担当者名	山西 優二							
構築	2単位	秋学期	金曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

文化構想学部でのゼミの12年目を迎える。新たな4年生・3年生そして教員が協働する中で、これまでのゼミ活動を踏まえつつ、新たなゼミの可能性を模索する年にしたい。

このゼミのテーマは「文化・地域・学びと平和構築」である。グローバル化の進展に伴い、地域レベル、地球レベルで顕在化し、深刻化する貧困、経済格差、環境破壊、人権侵害、文化間・民族間の対立などの諸問題を見据えつつ、それらの問題解決を通しての平和構築に向けての課題や方策を、「文化」「地域」「学び」という視点から検討することを目的としている。

ゼミ研究の過程として、基礎研究では文献研究を丁寧に行い、グループ研究では、サブテーマに沿ってグループごとに現場に入り、当事者とのコミュニケーションを大切にするなど、理念的に深めつつ、実感のある学びと研究を心がけたいと思う。

ゼミ合宿は、1年に2回ほどを予定している。

授業の到達目標

ゼミでの協働研究・協働実践を通して、平和の文化構築、共生社会の実現に向けての課題や方策を、「文化」「地域」「学び」という視点から検討することを基本目標とする。また年度末にはゼミ報告書を作成する。

成績評価方法

●**試験** 0% 実施しない
●**レポート** 50% ゼミ協働研究発表・報告書作成
●**平常点** 50% ゼミ参加
●**その他** 0%

備考・関連URL

3年生・4年生が協働し、5時限・6時限を活用してゼミを運営する。
ゼミは学生の主体的な参加を前提としている。
ゼミという場を使って、協働の中で、学び尽くしてほしいと思う。

科 目 名	共生社会論ゼミ3（地域・文化・学びと平和構築）（秋学期） B 文化・地域・学びと平和構築							
担当者名	山西 優二							
構築	2単位	秋学期	金曜日	6時限	3年以上	—	—	—

授業概要

文化構想学部でのゼミの12年目を迎える。新たな4年生・3年生そして教員が協働する中で、これまでのゼミ活動を踏まえつつ、新たなゼミの可能性を模索する年にしたい。

このゼミのテーマは「文化・地域・学びと平和構築」である。グローバル化の進展に伴い、地域レベル、地球レベルで顕在化し、深刻化する貧困、経済格差、環境破壊、人権侵害、文化間・民族間の対立などの諸問題を見据えつつ、それらの問題解決を通しての平和構築に向けての課題や方策を、「文化」「地域」「学び」という視点から検討することを目的としている。

ゼミ研究の過程として、基礎研究では文献研究を丁寧に行い、グループ研究では、サブテーマに沿ってグループごとに現場に入り、当事者とのコミュニケーションを大切にするなど、理念的に深めつつ、実感のある学びと研究を心がけたいと思う。

ゼミ合宿は、1年に2回ほどを予定している。

授業の到達目標

ゼミでの協働研究・協働実践を通して、平和の文化構築、共生社会の実現に向けての課題や方策を、「文化」「地域」「学び」という視点から検討することを基本目標とする。また年度末にはゼミ報告書を作成する。

成績評価方法

●**試験**　0%　　実施しない
●**レポート**　50%　　ゼミ協働研究発表・報告書作成
●**平常点**　50%　　ゼミ参加
●**その他**　0%

備考・関連URL

3年生・4年生が協働し、5時限・6時限を活用してゼミを運営する。
ゼミは学生の主体的な参加を前提としている。
ゼミという場を使って、協働の中で、学び尽くしてほしいと思う。

科 目 名	共生社会論ゼミ1（優生思想とジェンダー）（春学期） A							
担当者名	豊田　真穂							
構築	2単位	春学期	火曜日	2時限	3年以上	—	—	—

授業概要

優生思想とは、(1)優れた形質をもつ者／適者と、(2)劣った形質を持つ者／不適者を選別する、20世紀初頭に世界を席巻したイデオロギーです。しかし果たして、優生思想とは、ナチス・ドイツの「安楽死」計画に代表されるように、戦時の狂気の沙汰なのでしょうか。

このゼミでは、優生思想は、現在のわたしたちがいまなお抱えている問題であり、現代の日本社会において、例えば出生前診断やマッチングアプリなど、個々人のレベルにおいても生き続けているということを考えます。その際、特に、優生思想の歴史をひもときながらジェンダーの視点から考察します。最終的には、現代社会をいきるわたしたちひとりひとりが抱える問題を、歴史的な経緯を知った上で理解すること、その上で、自分のなかにある優生思想に気づくこと、そしてそこから「共生社会」を展望することを目指します。

授業の到達目標

現代社会をいきるわたしたちひとりひとりが抱える問題を歴史的な経緯を知った上で理解すること、その上で、自分のなかにある優生思想に気づくこと、そしてそこから「共生社会」を展望できるようになること。

成績評価方法

レポート内容、グループワーク／ディスカッションへの貢献度、ゼミ論文に関するプレゼンテーション内容等により、総合的に判断する。

科 目 名	共生社会論ゼミ1（優生思想とジェンダー）（春学期） B							
担当者名	豊田　真穂							
構築	2単位	春学期	火曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

このゼミでは、優生思想は、現在のわたしたちがいまなお抱えている問題であり、現代の日本社会において、例えば出生前診断やゲノム編集、婚活ビジネスやマッチングアプリなど、個々人のレベルにおいても生き続けているということを考えます。その際、特に、優生思想の歴史をひもときながらジェンダーの視点から考察します。最終的には、現代社会をいきるわたしたちひとりひとりが抱える問題を、歴史的な経緯を知った上で理解すること、その上で、自分のなかにある優生思想に気づくこと、そしてそこから「共生社会」を展望することを目指します。

授業の到達目標

現代社会をいきるわたしたちひとりひとりが抱える問題を歴史的な経緯を知った上で理解すること、その上で、自分のなかにある優生思想に気づくこと、そしてそこから「共生社会」を展望できるようになること。

成績評価方法

レポート内容、グループワーク／ディスカッションへの貢献度、ゼミ論文に関するプレゼンテーション内容等により、総合的に判断する。

科 目 名	共生社会論ゼミ1（優生思想とジェンダー）（秋学期） A							
担当者名	豊田　真穂							
構築	2単位	秋学期	火曜日	2時限	3年以上	—	—	—

授業概要

秋学期は、ゼミ論文執筆のためのレッスンを中心にゼミ活動を行います。文献検索実習や文献リスト、引用方法を修得しつう、論理的な思考力や相手に正確に伝わる表現力などを学びます。最終的には書評を書くことを論文執筆の第一ステップと位置づけます。

授業の到達目標

現代社会をいきるわたしたちひとりひとりが抱える問題を歴史的な経緯を知った上で理解すること、その上で、自分のなかにある優生思想に気づくこと、そしてそこから「共生社会」を展望できるようになること。

成績評価方法

レポート内容、グループワーク／ディスカッションへの貢献度、ゼミ論文に関するプレゼンテーション内容等により、総合的に判断する。

科 目 名	共生社会論ゼミ1（優生思想とジェンダー）（秋学期） B							
担当者名	豊田　真穂							
構築	2単位	秋学期	火曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

秋学期は、ゼミ活動のほとんどの部分をゼミ論文執筆にむけて注力します。各自が執筆をすすめつつ、相互添削をすすめていきます。

授業の到達目標

現代社会をいきるわたしたちひとりひとりが抱える問題を歴史的な経緯を知った上で理解すること、その上で、自分のなかにある優生思想に気づくこと、そしてそこから「共生社会」を展望できるようになること。

成績評価方法

レポート内容、グループワーク／ディスカッションへの貢献度、ゼミ論文に関するプレゼンテーション内容等により、総合的に判断する。

科 目 名	共生社会論ゼミ4（グローバル・アジア研究）（春学期） A　グローバル化時代におけるアジアの役割と課題							
担当者名	金　敬黙							
構築	2単位	春学期	木曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

このゼミは現代アジアに関する諸事象についてグローバルな視点、地域研究の視点、さらに日本との関係性から多角的、総合的に探求する複合的なアプローチを導入します。そのため、グローバル・アジア・研究という三つの概念が用いられています。

授業の到達目標

ゼミは、ゼミ生主体のコンセンサスづくりが何よりも大切です。春学期には必要な文献講読、ディスカッション、フィールド選びなどについての問題意識を徹底的に共有します。秋学期には、徐々に個人の研究テーマを見つけ、そのための先行研究や事例選びなどに力を入れます。アジアの特定国家や地域のことや、宗教や伝統、社会制度、文化事象、日本や私とのつながり、日本で再発見するアジア（人）などもテーマに含まれます。

学生の自主性を尊重しつつも、研究成果としてまとめられる実現性も考慮し、アドバイスします。ゼミ教員が担当する他の講義科目、演習科目などの履修が参考（または必要）になるでしょう。

成績評価方法

出席とゼミへの参加（50%）
レポートなど（50%）

科 目 名	共生社会論ゼミ4（グローバル・アジア研究）（春学期） B　グローバル化時代におけるアジアの役割と課題							
担当者名	金　敬黙							
構築	2単位	春学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

このゼミは現代アジアに関する諸事象についてグローバルな視点、地域研究の視点、さらに日本との関係性から多角的、総合的に探求する複合的なアプローチを導入します。そのため、グローバル・アジア・研究という三つの概念が用いられています。

授業の到達目標

ゼミは、ゼミ生主体のコンセンサスづくりが何よりも大切です。春学期には必要な文献講読、ディスカッション、フィールド選びなどについての問題意識を徹底的に共有します。秋学期には、徐々に個人の研究テーマを見つけ、そのための先行研究や事例選びなどに力を入れます。アジアの特定国家や地域のことや、宗教や伝統、社会制度、文化事象、日本や私とのつながり、日本で再発見するアジア（人）などもテーマに含まれます。

学生の自主性を尊重しつつも、研究成果としてまとめられる実現性も考慮し、アドバイスします。ゼミ教員が担当する他の講義科目、演習科目などの履修が参考（または必要）になるでしょう。

成績評価方法

出席とゼミへの参加（50%）
レポートなど（50%）

科 目 名	共生社会論ゼミ4（グローバル・アジア研究）（秋学期） A　グローバル化時代におけるアジアの役割と課題							
担当者名	金　敬黙							
構築	2単位	秋学期	木曜日	3時限	3年以上	—	—	—

授業概要

このゼミは現代アジアに関する諸事象についてグローバルな視点、地域研究の視点、さらに日本との関係性から多角的、総合的に探求する複合的なアプローチを導入します。そのため、グローバル・アジア・研究という三つの概念が用いられています。

授業の到達目標

ゼミは、ゼミ生主体のコンセンサスづくりが何よりも大切です。春学期には必要な文献講読、ディスカッション、フィールド選びなどについての問題意識を徹底的に共有します。秋学期には、徐々に個人の研究テーマを見つけ、そのための先行研究や事例選びなどに力を入れます。アジアの特定国家や地域のことや、宗教や伝統、社会制度、文化事象、日本や私とのつながり、日本で再発見するアジア（人）などもテーマに含まれます。

学生の自主性を尊重しつつも、研究成果としてまとめられる実現性も考慮し、アドバイスします。ゼミ教員が担当する他の講義科目、演習科目などの履修が参考（または必要）になるでしょう。

成績評価方法

出席とゼミへの参加（50%）
レポートなど（50%）

科 目 名	共生社会論ゼミ4（グローバル・アジア研究）（秋学期） B　グローバル化時代におけるアジアの役割と課題							
担当者名	金　敬黙							
構築	2単位	秋学期	木曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

このゼミは現代アジアに関する諸事象についてグローバルな視点、地域研究の視点、さらに日本との関係性から多角的、総合的に探求する複合的なアプローチを導入します。そのため、グローバル・アジア・研究という三つの概念が用いられています。

授業の到達目標

ゼミは、ゼミ生主体のコンセンサスづくりが何よりも大切です。春学期には必要な文献講読、ディスカッション、フィールド選びなどについての問題意識を徹底的に共有します。秋学期には、徐々に個人の研究テーマを見つけ、そのための先行研究や事

例選びなどに力を入れます。アジアの特定国家や地域のことや、宗教や伝統、社会制度、文化事象、日本や私とのつながり、日本で再発見するアジア（人）などもテーマに含まれます。
学生の自主性を尊重しつつも、研究成果としてまとめられる実現性も考慮し、アドバイスします。ゼミ教員が担当する他の講義科目、演習科目などの履修が参考（または必要）になるでしょう。

成績評価方法

出席とゼミへの参加（50%）
レポートなど（50%）

科 目 名	共生社会論ゼミ5（サステナビリティを目指して）（春学期） A サステナビリティを目指して							
担当者名	高野　孝子							
構築	2単位	春学期	水曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

世界共通の最大の課題である「サステナビリティ」を理解し、体験的に考察していきます。持続可能な社会とはどのようなもので、そのために何が必要で、かつ私たちひとりひとりに何ができるかを考えるゼミです。おぼろげながらも姿が見えるよう、個人ではなくグループで掘り下げ、全員で議論していきます。幸福とは、豊かさとは、生き方、共同体といった、哲学、思想、世界観に触れていくことになるでしょう。
「サステナビリティ」はある意味で当たり前な、基本的な考え方であり、コンテンツとしてはなんでも含まれる極めて広範な概念です。テーマは多岐に渡りますが、その中で何かに絞って探求することで、個々人の価値観を問い直す作業にもなります。
春期は基礎研究とし、後期のアクションにつながるテーマを決定します。後期は、ゼミ論につながる個々人のテーマ設定と計画立ても考えます。
変化の激しい時代です。身につけておくべきものは知識そのものよりも、何を知るべきかを知る力であり、その知識や技術を獲得する力です。本質を見抜く力や多角的に捉える力も必要です。それらは経験を通して獲得することができ、観察力と想像力が土台にあります。よって、このゼミは体験を重視します。
高野の春学期の講義・演習科目は基礎的なものとなるので、履修することを薦めます。特に「サステナビリティ論」は全体を網羅するのでできるだけ履修してください。サステナビリティ以外の演習科目も関係づけられ、新しい視点と知識を取り込むことにつながるので、自分の興味関心が動くものを取ってください。

授業の到達目標

サステナビリティの基本的な理解と、多様な要素の素材の獲得。同時に核となる事柄についての体験的理解。どのような社会を目指すのか、どうやって近づくのかについて、少しでも明確なビジョン。多様な人たちとの共同作業の進め方や相互理解、自分を見つめ直す機会とすること。社会に生きる人としての成長。

成績評価方法

授業内外や実習中の活動状況、グループワーク／ディスカッション、レポート内容などにより、総合的に判断します。

備考・関連URL

2−3年生で、高野が担当する「サステナビリティ論」と「演習　地域・都市論7」を履修していることが望ましいです。

科 目 名	共生社会論ゼミ5（サステナビリティを目指して）（春学期） B サステナビリティを目指して							
担当者名	高野　孝子							
構築	2単位	春学期	水曜日	5時限	3年以上	—	—	—

授業概要

世界共通の最大の課題である「サステナビリティ」を理解し、体験的に考察していきます。持続可能な社会とはどのようなもので、そのために何が必要で、かつ私たちひとりひとりに何ができるかを考えるゼミです。おぼろげながらも姿が見えるよう、小グループで掘り下げ、全員で議論して考えたいと思います。幸福とは、豊かさとは、生き方、共同体といった、哲学、思想、世界観に触れていくことになるでしょう。
「サステナビリティ」はある意味で当たり前な、基本的な考え方であり、極めて広範な概念です。テーマは多岐に渡りますが、その中で何かに絞って探求することで、個々人の価値観を問い直す作業にもなります。
春秋学期を通して、個人としてはゼミ論に取り組みます。ゼミ全体としては、春期は3年生の基礎研究を組み立て必要なことを教示。後期は共同研究として、アクションにつながるテーマを探究します。常に3年生のサポートを意識することで、自分の学びと成長につなげます。
変化の激しい時代です。身につけておくべきものは知識そのものよりも、何を知るべきかを知る力であり、その知識や技術を獲得する力です。本質を見抜く力や多角的に捉える力も必要です。それらは経験を通して獲得することができ、観察力と想像力が土台にあります。よって、このゼミは体験を重視します。授業内外において、やったことがないこと、自信がないことに意欲的に取り組んで欲しいと思います。

授業の到達目標

サステナビリティの基本的な理解と、多様な要素の素材の獲得。同時に核となる事柄についての体験的理解。どのような社会を目指すのか、どうやって近づくのかについて、少しでも明確なビジョン。

成績評価方法

授業内外や実習中の活動状況、グループワーク／ディスカッション、レポート内容などにより、総合的に判断します。

備考・関連URL

＊高野が担当する「サステナビリティ論」や「演習　地域・都市論7」は2−3年生で履修していることが望ましいですが、これまで履修していない場合、基礎的な理解を振り返りたいようであれば登録してください。

科 目 名	共生社会論ゼミ5（サステナビリティを目指して）（秋学期） A サステナビリティを目指して							
担当者名	高野　孝子							
構築	2単位	秋学期	水曜日	4時限	3年以上	—	—	—

授業概要

世界共通の最大の課題である「サステナビリティ」を理解し、体験的に考察した春学期を受け、秋学期は共同研究に重きを置きます。小グループでテーマに沿って、多角的に検討し掘り下げ、より良い状況のためのアクションを検討します。同時に、ゼ

ミ論につながる個々人のテーマ設定と計画立ても考えます。 高野の秋学期の講義・演習科目は、いずれもサステナビリティと関係していますが、基盤科目は春学期に終えています。応用的なものとなるので、履修すればゼミ論や共同研究の参考にはなるかもしれませんが、他の科目で新しい視点と知識を取り込み、ゼミで活かしてもらうのも歓迎です。

授業の到達目標

サステナビリティの核となる事柄や関連するテーマについて、掘り下げた深い理解。どのような社会を目指すのか、どうやって近づくのかについて、少しでも明確なビジョン。社会の理解と個人としての成長。

成績評価方法

授業内外や実習中の活動状況、グループワーク／ディスカッション、レポート内容などにより、総合的に判断します。

科 目 名	共生社会論ゼミ5（サステナビリティを目指して）（秋学期） B サステナビリティを目指して							
担当者名	高野　孝子							
構築	２単位	秋学期	水曜日	５時限	３年以上	—	—	—

授業概要

世界共通の最大の課題である「サステナビリティ」を理解し、体験的に考察していきます。持続可能な社会とはどのようなもので、そのために何が必要で、かつ私たちひとりひとりに何ができるかを、他との共同学習によって考えるゼミです。春秋学期を通して、個人研究に取り組み、ゼミ論文として完成させます。ゼミ全体としては、春期の基礎研究を踏まえて後期は共同研究の一環として、アクションにつながるテーマを決定します。常に3年生のサポートを意識することで、自分の学びと成長につなげます。

変化の激しい時代です。身につけておくべきものは知識そのものよりも、何を知るべきかを知る力であり、その知識や技術を獲得する力です。本質を見抜く力や多角的に捉える力も必要です。それらは経験を通して獲得することができ、観察力と想像力が土台にあります。よって、このゼミは体験を重視します。

授業の到達目標

サステナビリティの基本的な理解と、多様な要素の素材の獲得。同時に核となる事柄についての体験的理解。どのような社会を目指すのか、どうやって近づくのかについて、少しでも明確なビジョン。個人研究を深め、論文を完成させる。社会に生きる人としての成長。

成績評価方法

授業内外や実習中の活動状況、グループワーク／ディスカッション、レポート内容などにより、総合的に判断します。

講 義 内 容

卒　業　研　究

科目名	卒業研究	曜日時限	無
コーディネーター	卒業研究指導教員		

授　業　概　要

卒業研究は、2年次秋学期において、卒業研究を選択した学生が、4年次に履修する科目です。卒業研究では、各自が研究テーマを設定し、担当教員の指導のもと、計画的に論文を完成させます。ゼミなどとは異なり、毎週授業があるわけではないので、Waseda Moodle（あるいはCourse N@vi）などを活用しながら、定期的に教員と連絡を取るようにしてください。なお、論系や指導教員が認めた場合は、論文ではなく作品などを卒業研究として提出することもできます。

授業の到達目標

担当教員の指導を受けながら、個別に研究テーマを設定し、専門演習や論系ゼミなどで深めた専門的な学修の成果としての卒業研究を作成・提出します。

教　科　書

指導教員の指示に従ってください。

参　考　文　献

指導教員の指示に従ってください。

成績評価方法

卒業研究完成までの指導状況、完成した卒業研究の内容、口述試験を行う場合にはその結果などが、総合的に評価されます。

備考・関連ＵＲＬ

以上のシラバスはあくまで一般的な卒業研究の進め方を記したものです。それぞれの指導教員と連絡を取り、進め方を各自で確認してください。

講 義 内 容

自由科目（講義算入可）

科 目 名	憲法　A　さまざまな社会問題から《憲法の基本のルール》を学ぶ							
担当者名	志田　陽子							
共通	2単位	春学期	水曜日	3時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

憲法上保障されている「人権」と「統治（国の仕組み）」について総合的に学ぶ、講義形式の授業です。

日本国憲法の中でも人権に関する内容は、将来、各人が社会や教育現場に立ったときに実際に直面する問題を多々含んでいます。また、「統治（国の仕組み）」について基礎知識をもっておくことは、教員や公務員を目指す人にとっては必ず必要になることです。この講義では、社会の中で発生する憲法問題をできるだけ具体的に取り上げながら、常に「見失ってはならない基本」に立ち返る、という授業を行います。

授業の到達目標

① これから社会人となる学生に考えてほしい憲法テーマについて、まず問題への気づきを目標として、講義や映画・文献の紹介をします。

② 問題の法的構成と解決思考の実践。各自が関心を持った問題についてエッセイを作成します。（中間レポート課題）

③ 解決のための《論》を組む。各人が問題解決思考をもって課題に接し、論説のルールを実践して、自分の論説を組むことを課題とします。

成績評価方法

●**試験**　50%
●**レポート**　30%
●**平常点**　20%
●**その他**　0%

科 目 名	憲法　B　さまざまな社会問題から《憲法の基本のルール》を学ぶ							
担当者名	志田　陽子							
共通	2単位	秋学期	水曜日	4時限	2年以上	—	合併科目	—

授業概要

憲法上保障されている「人権」と「統治（国の仕組み）」について総合的に学ぶ、講義形式の授業です。

日本国憲法の中でも人権に関する内容は、将来、各人が社会や教育現場に立ったときに実際に直面する問題を多々含んでいます。また、「統治（国の仕組み）」について基礎知識をもっておくことは、教員や公務員を目指す人にとっては必ず必要になることです。この講義では、社会の中で発生する憲法問題をできるだけ具体的に取り上げながら、常に「見失ってはならない基本」に立ち返る、という授業を行います。

授業の到達目標

① これから社会人となる学生に考えてほしい憲法テーマについて、まず問題への気づきを目標として、講義や映画・文献の紹介をします。

② 問題の法的構成と解決思考の実践。各自が関心を持った問題についてエッセイを作成します。（中間レポート課題）

③ 解決のための《論》を組む。各人が問題解決思考をもって課題に接し、論説のルールを実践して、自分の論説を組むことを課題とします。

成績評価方法

●**試験**　50%
●**レポート**　30%
●**平常点**　20%
●**その他**　0%

科 目 名	書道（書写）1　A							
担当者名	橋本　栄一							
共通	2単位	春学期	金曜日	5時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業は、主として教育職員免許法に対応するものである。現在の学校教育において、書道に関する内容の学習としては、小学校、中学校が国語科「書写」、高等学校が芸術科「書道」として実施されている。

また、書道は、生涯学習においても多くの人々に愛好され、学ばれている。

それらを踏まえた上で、まず、書道とはどのようなものかについて考え、それが学ばれてきた歴史を知る。その後、毎時の授業内で、講義と実技を並行して行い、書道や書写に関する知識を理解し、技能を身につけていく。さらに、近年重要視されてきた書道の古典作品等を中心とする「鑑賞」についても適宜触れ、東アジアの伝統的な文化として捉える視点を養っていく。

授業の到達目標

生涯学習及び学校教育における書道、書写に関する基礎的な知識や技能を修得する。

成績評価方法

●**試験**　20%　　適宜小テストを行い、基礎的な知識の確認を行う。
●**レポート**　40%　　指示された作品、レポート等について評価をする。
●**平常点**　40%　　出席および授業への取り組み方等を総合的に評価する。
●**その他**　0%

科 目 名	書道（書写）1　B							
担当者名	橋本　栄一							
共通	2単位	春学期	金曜日	6時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

この授業は、主として教育職員免許法に対応するものである。現在の学校教育において、書道に関する内容の学習としては、小学校、中学校が国語科「書写」、高等学校が芸術科「書道」として実施されている。

また、書道は、生涯学習においても多くの人々に愛好され、学ばれている。
それらを踏まえた上で、まず、書道とはどのようなものかについて考え、それが学ばれてきた歴史を知る。その後、毎時の授業内で、講義と実技を並行して行い、書道や書写に関する知識を理解し、技能を身につけていく。さらに、近年重要視されてきた書道の古典作品等を中心とする「鑑賞」についても適宜触れ、東アジアの伝統的な文化として捉える視点を養っていく。

授業の到達目標

生涯学習及び学校教育における書道、書写に関する基礎的な知識や技能を修得する。

成績評価方法

●**試験**　20%　　適宜小テストを行い、基礎的な知識の確認を行う。
●**レポート**　40%　　指示された作品、レポート等について評価をする。
●**平常点**　40%　　出席および授業への取り組み方等を総合的に評価する。
●**その他**　0%

科目名	書道（書写）２　A							
担当者名	宮崎　肇							
共通	２単位	秋学期	土曜日	３時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

書は、美と実用の一致する文字の芸術であると同時に、日常生活に欠くことの出来ない技術である。今日まで日本の文化を下支えしてきた「文字を書く」という行為について、実習と講義を通して考察する。
毎回の授業ごとに実習を行う。また、適宜講義も行う。
実習では、日本・中国の古典の臨書を中心に、書道の基礎的技術の修養を目指したい。またそれを通じて、自分なりに書を学び楽しむ方途を追求していきたい。
講義では、書の歴史的変遷について概観する。学書においては、とかく名筆・優品ばかりに目が行きがちだが、その背後にある社会、無名の数多の書の存在を意識し、その文字・書風のもつ意味についても考察する。
書は手習いと同時に目習いも重要である。時に展覧会見学を課し、大学所蔵古典籍の鑑賞も併せて行う。
古典の学書を通じて、ひとくちに楷書・行書・草書とはいっても、それぞれの書体の中には書き手によって或いは遺品によってさまざまな書風があり、それぞれ特有の魅力をもっていることに気付かされるだろう。つまり、書の“お手本”は一様ではないのである。本授業において最も重視したいのがこの点であり、書字に対する受講者個々人の意識である。“お手本”は与えられるものではなく、自らが選びとるものだという意識をもつことが大切である。

授業の到達目標

吉田兼好は『徒然草』の中で「古人の書に接することは見ぬ世の人を友とする思いがする」と述べているが（第13段）、本授業を通して、そうした古人との出会いを楽しみ、それぞれの感性に任せて、書の古典の豊かな世界を追体験してほしい。そして、自分の好きな書跡を見つけるきっかけ、文字を書くことを好きになるきっかけ、自分自身の手跡を見つめ直すきっかけを得てほしい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　20%　　学期末のレポート。
●**平常点**　80%　　各回課題への取り組み状況。提出された臨書作の巧拙にはよらない。
●**その他**　0%　　特になし。

備考・関連ＵＲＬ

書道具を用意のこと。道具は手持ちのもので構わない。持っていない人については、初回の授業時に指示する。

科目名	書道（書写）２　B							
担当者名	宮崎　肇							
共通	２単位	秋学期	土曜日	４時限	１年以上	—	合併科目	—

授業概要

書は、美と実用の一致する文字の芸術であると同時に、日常生活に欠くことの出来ない技術である。今日まで日本の文化を下支えしてきた「文字を書く」という行為について、実習と講義を通して考察する。
毎回の授業ごとに実習を行う。また、適宜講義も行う。
実習では、日本・中国の古典の臨書を中心に、書道の基礎的技術の修養を目指したい。またそれを通じて、自分なりに書を学び楽しむ方途を追求していきたい。
講義では、書の歴史的変遷について概観する。学書においては、とかく名筆・優品ばかりに目が行きがちだが、その背後にある社会、無名の数多の書の存在を意識し、その文字・書風のもつ意味についても考察する。
書は手習いと同時に目習いも重要である。時に展覧会見学を課し、大学所蔵古典籍の鑑賞も併せて行う。
古典の学書を通じて、ひとくちに楷書・行書・草書とはいっても、それぞれの書体の中には書き手によって或いは遺品によってさまざまな書風があり、それぞれ特有の魅力をもっていることに気付かされるだろう。つまり、書の“お手本”は一様ではないのである。本授業において最も重視したいのがこの点であり、書字に対する受講者個々人の意識である。“お手本”は与えられるものではなく、自らが選びとるものだという意識をもつことが大切である。

授業の到達目標

吉田兼好は『徒然草』の中で「古人の書に接することは見ぬ世の人を友とする思いがする」と述べているが（第13段）、本授業を通して、そうした古人との出会いを楽しみ、それぞれの感性に任せて、書の古典の豊かな世界を追体験してほしい。そして、自分の好きな書跡を見つけるきっかけ、文字を書くことを好きになるきっかけ、自分自身の手跡を見つめ直すきっかけを得てほしい。

成績評価方法

●**試験**　0%　　行わない。
●**レポート**　20%　　学期末のレポート。
●**平常点**　80%　　各回課題への取り組み状況。提出された臨書作の巧拙にはよらない。
●**その他**　0%　　特になし。

〜自由科目／講義／算入可〜

備考・関連URL

書道具を用意のこと。道具は手持ちのもので構わない。持っていない人については、初回の授業時に指示する。

科 目 名	自然地理学1 ― 地球表層部の成立ちと地震被害 ―							
担当者名	渡辺　満久							
共通	2単位	春学期	木曜日	1時限	1年以上	―	合併科目	―

授業概要

我々が生活の場としている、地球表層部の成立ちを解説し、日本列島の特徴を明確にします。まず、宇宙を概観して地球の特徴を明らかにし、地球の歴史の視点から現在の気候環境を解説します。次いで、地球表層部では大規模な水平移動が起こっており、そのことによって地震が発生していることを紹介します。地球における日本列島の位置や特徴を明らかにし、日本で地震が多い理由を解説します。最後に、地震被害を軽減するための基礎的な資料を提示します。日本の原子力関連施設の安全性評価に関わる問題にも言及する予定です。いずれの講義においても、多数の具体的な事例をスライド等で提示します。

授業の到達目標

（1）地球表層部の特徴を説明できる。
（2）日本列島の特徴を述べることができる。
（3）活断層の性質・地震被害発生の要因を説明できる。
（4）地震被害軽減策を説明することができる。

成績評価方法

●**試験**　100%　　試験（理解度の確認）は3回（いずれも持ち込み不可）行います。それらの採点結果を総合（第1回目：30%、第2回目：30%、第3回目：40%）して評価します。いずれも、選択問題と論述問題から構成されます。選択問題では60%以上の正解率が必要です。論述問題では、暗記してきた内容を箇条書きにしたような答案や、数行程度の答案は評価対象とはなりません。何故そう考えるのかを丁寧に記述する必要があります。
●**レポート**　0%　　－
●**平常点**　0%　　－
●**その他**　0%　　－

備考・関連URL

私語を繰り返す学生は、単位を取得できません。

科 目 名	自然地理学2 ― 土砂災害、自然環境変化と人類の活動・地形形成 ―							
担当者名	渡辺　満久							
共通	2単位	秋学期	木曜日	1時限	1年以上	―	合併科目	―

授業概要

地形形成と土砂災害などの自然災害、自然環境変化と地形形成との関係などを解説します。まず、地形の特徴と概要を解説します。その上で、山の浸蝕・土砂の運搬がどのように起こり、その結果としてどのような地形が形成されるかを解説します。地形形成過程をもとに、自然災害は普遍的な現象であることを述べ、どこにどのような自然災害が発生するのか、その予測についても紹介します。次に、現在の気候環境の特徴とその成因を明らかにしたうえで、過去から現在までの環境変遷の様子を紹介し、環境変化と人類との関係を考察します。最後に、気候環境の変化の様子は、土地の起伏に記録されていることを述べます。いずれの講義においても、多数の具体的な事例をスライドなどで紹介するほか、講義と作業を組み合わせて解説します。

授業の到達目標

（1）地形形成と自然災害の関係を説明できる。
（2）現在の自然環境の地域性を説明できる。
（3）自然環境変化と人類の活動を述べることができる。
（4）自然環境変化と地形形成の関係を説明できる。

成績評価方法

●**試験**　100%　　試験（理解度の確認）は3回（いずれも持ち込み不可）行います。それらの採点結果を総合して（第1回目：30%、第2回目：30%、第3回目：40%）評価します。いずれも、選択問題・作業問題・論述問題から構成されます。選択問題では60%以上の正解率が必要です。作業問題では、判読結果が正確に図示されてない場合などは評価対象とはなりません。論述問題では、何故そう考えるのかを丁寧に記述する必要があり、暗記してきた内容を箇条書きにしたような答案や数行程度の答案は評価対象とはなりません。
●**レポート**　0%　　－
●**平常点**　0%　　－
●**その他**　0%　　－

備考・関連URL

私語を繰り返す学生は、単位を取得できません。

科 目 名	人文地理学1 日本の都市問題							
担当者名	高柳　長直							
共通	2単位	春学期	木曜日	5時限	1年以上	―	合併科目	―

授業概要

我々の社会や経済は，国境の垣根を越えて，ますますグローバル化しようとしている。その結果，地球は相対的にますます小さくなり，地理の終焉といったことも言われている。しかし，果たしてそうであろうか。人文地理学は、位置・場所・地域・空間など土地に関する知識の体系化を行なってきた学問分野である。本講義では最初に，地理学の基礎的な考え方を提示する。それをふまえ，都市をテーマに具体的な課題を考察していく。

授業の到達目標

日本の都市問題をみていく場合の視点を理解する。
論理的な思考を醸成する。
地理学的方法論の基礎を理解する。

成績評価方法

●**試験**　70%　　授業内容に即して理解しているか。論理的な説明であるか。一定以上のボリュームがあるか。
●**レポート**　30%　　課題に即しているか。テーマの設定が妥当であるか。論理的な説明であるか。自分で調査したものであるか。
●**平常点**　0%　　とくになし。
●**その他**　0%　　とくになし。

備考・関連URL

教職科目の一つとして履修する場合は、3年次までに行うことが望ましい。

科 目 名	人文地理学2　アメリカ合衆国の人文地理							
担当者名	高柳　長直							
共通	2単位	秋学期	火曜日	1時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本で最もよく知られている外国の一つはアメリカであるが，意外と誤解していることも少なくない。日本に伝えられるアメリカ像は画一的なものが多いが，実は地域に多様性をもっている。本講義では，人間の諸活動の場所的差違形成の論理や地域問題に対する視点をアメリカ合衆国を事例に提示していくことにする。具体的には，自然環境と人間生活，人口と民族問題，都市問題，政治と地理との関係，食料と健康などのサブテーマに関して人文地理学的考察を行なっていく。

授業の到達目標

世界の中のアメリカ合衆国の位置づけを理解する。
日本（日本人）とアメリカ合衆国（アメリカ人）の相違を理解する。
アメリカ合衆国の地域的多様性を理解する。
地理学的方法論を理解する。

成績評価方法

●**試験**　70%　　授業内容に即して理解しているか。論理的な説明であるか。一定以上のボリュームがあるか。
●**レポート**　30%　　課題に即しているか。テーマが妥当であるか。論理的な説明であるか。自分で調査したものであるか。
●**平常点**　0%　　なし
●**その他**　0%　　なし

備考・関連URL

アメリカ合衆国に興味のある方や将来留学等を考えている方の受講も歓迎する。
教職科目の一つとして履修する場合は、3年次までに行うことが望ましい。
本年度はアメリカ大統領選挙の時期に合わせて、授業を入れ替えて政治地理の授業を先に行う予定である。

科 目 名	地誌1							
担当者名	本木　弘悌							
共通	2単位	春学期	水曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

日本や世界には様々な地域が存在しており、二つとして同じ地域は存在せず、それは諸地域が多様な風土と諸条件の上に特色ある展開を示しているからである。本講義では各地域の特色について事例を通して考察しながら、地域を総合的に把握するという地誌学のアプローチを学び、地域的視点を養う。

授業の到達目標

1）日本と世界の諸地域の理解を深めること。
2）地誌的アプローチについて考察できるようにすること。
3）中学校や高校で学んだ地理の意義を再認識すること。

成績評価方法

●**試験**　30%　　15回目の授業時間内に実施する
●**レポート**　10%　　授業を踏まえて、教科書の内容に関連するテーマについてレポートを作成する
●**平常点**　30%　　通常講義に関連したテーマ記述を提出
●**その他**　30%　　中間時点において、それまでの授業のまとめを記述して提出する

科 目 名	地誌2　熱くて冷たいアジア							
担当者名	齋藤　正憲							
共通	2単位	秋学期	金曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

ひとは環境と向き合い、その強い規制を受けつつも、独自の生活文化を築き、固有の歴史を紡いできた。環境との関わりのなかで醸成される「風土」はだから、地域ごとにじつにさまざまな相貌をみせる。そのような地域性／地域らしさを、自然地理学と人文地理学の両面から読み解こうとするのが、世界地誌というアプローチとなる。気候や農業、食文化、産業、社会といった地理的諸事象を整理・概観しつつ、目下、担当者が強い関心を寄せる文化人類学的な考察も交えたい。それぞれの地域文化の特性（歴史的背景を含む）にも配慮し、相互に比較・検討することで、地域性を踏まえた異文化理解への道筋が示されよう。一定の文化観（アジア観や日本文化観など）が受講生の裡に像を結ぶことを期待してやまない。

授業の到達目標

自然環境との関わりのなかでひとはどのように暮らしているのか。そこにはどのような固有の戦略が見出されるのか。社会の変化は地域の文化伝統にどのような変容を強いるのか。さまざまなアジアについて、その素顔に迫りたい。その際には、各地の呪術実践事例を取り上げつつ、宗教／信仰文化にも注目したいと考えている。この試みを通じて、目まぐるしく変化する世界情勢を理解するための怜悧な観点を培ってもらいえれば幸いである。なお、本講義ではとくにアジアに焦点をあてる。受講生諸君の裡に、日本文化をも視野におさめた、それぞれの「アジア観」が涵養されることを期待する。

成績評価方法

●**試験**　80%　　「理解度の確認」を重要視する。講義内容を踏まえ、自身の地誌観を論述で説明する形式を考えている。

〜自由入科目〜

●**レポート**　0%　　レポートを課すことは考えていない。
●**平常点**　20%　　授業への積極的参加を勘案する。
●**その他**　0%　　とくになし。

科 目 名	法学原論　A							
担当者名	橋爪　英輔							
共通	2単位	春学期	月曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本科目は「法学」，特に「憲法学」の視点から社会や政治の仕組みについて学習する科目になります。講義は主に4つの内容から構成されています。【1】法学の基礎や裁判の仕組みについて学びます。法学の全体像や法の分類，民事裁判や刑事裁判の比較など法学入門に位置づけられる基本的内容について扱います（第1回～第3回）。

【2】憲法の「総論」的事項について学びます。憲法の意味や立憲主義の歴史的な展開について扱います（第4回）。

【3】憲法の「統治機構論」について学びます。選挙制度や国会・内閣・司法の仕組みについて扱います（第5回～第8回）。

【4】憲法の「人権論」について学びます。人権の分類や保障のあり方，それぞれの人権の保障や重要判例について扱います（第9回～第15回）。上記の項目では，日本法・日本国憲法の基本事項を中心に解説していきますが，グローバル化・多様化した社会のもとでは他国との比較や国際情勢についても理解していくことが必要になります。必要に応じて，比較憲法的，国際法的内容にも触れる予定です。

授業の到達目標

1．民事法・刑事法における思考方法や基本原則を理解し，それぞれの裁判手続の仕組みを理解する。
2．憲法の学習を通じて，統治機構と人権保障における国家と国民の関係性について理解する。
3．法学的・憲法的観点から問題を分析する視点を身につける。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　80%　　40点分は形式的評価（レポートとして必要な形式・作法で書かれているかどうか），残りの40点は実質的評価（レポートの構成や内容）になります。課題内容は授業内で発表します。
●**平常点**　20%　　不定期で出席管理を兼ねた小テストを行う可能性があります。
●**その他**　0%

備考・関連URL

《受講上の注意》六法の購入は不要です。初回にスマートフォンのアプリやブラウザで条文を確認する方法を紹介します。授業概要中の【2】～【4】の憲法学の内容は，高等学校までの公民科目の学習内容を発展させて，重要部分を重点的に解説します。憲法学全体を網羅的に解説しないため，自学習等で補うようにしてください。

科 目 名	法学原論　B							
担当者名	菅谷　麻衣							
共通	2単位	秋学期	火曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

本授業では前半に法学の考え方や基本的な知識を扱い、後半で憲法の基本原理や論点を取り上げる予定である。授業の内容は入門程度を予定しているが、受講者に高校程度の政治・経済の知識があることが望ましい。授業では毎回レジュメを配布し、基本的にはレジュメに沿って授業を進める。詳しい授業の受け方（ノートのとり方・教科書の使い方等）については初回の授業で説明する。なお、以下の授業計画は暫定的なものであり、時事問題を取り上げるために順序や項目を変更することもある。

授業の到達目標

①法学の基本的な知識について習得すること。
②日本国憲法の基本原理と各条文の関係・内容を理解すること。
③日本国憲法に関わる諸問題について知識を深め、自分なりの見解を持てること。

成績評価方法

●**試験**　80%　　第15回目の授業時間中に試験を行い、理解度を確認する。
●**レポート**　0%　　なし。
●**平常点**　20%　　授業内での発言、授業内レポート等から授業への積極性を評価する。
●**その他**　0%　　なし。

科 目 名	政治学原論　A　現代政治理論入門							
担当者名	金田　耕一							
共通	2単位	春学期	月曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

一般に、政治学では各国政治の権力構造や行政組織、その国の政治の歴史、あるいは国家間の政治外交関係の問題などが扱われます。これらは、いうなれば「政治という現象」に関する研究です。これに対してこの講義では、暴力と権力とは何か、自由や平等は何を意味しているのか、公正な社会とはどのような社会かなどをめぐる「規範や理念」を主題としています。前者の「現象」に関する研究を「経験的・実証的研究」とすれば、「原論」では「規範的・原理的研究」をおこなうことになります。

現在、私たちはさまざまな政策課題に直面しています。それらはいずれも、たんに権力構造の秘密を知ったり、歴史的背景を理解したからといって、簡単に解決できるような問題ではありません。もっとも、いずれにしても簡単に解決できるような問題はないのですが。

しかし、具体的な政策課題（たとえば年金制度や税制といった）はいずれもその根底に規範的・理念的問題を抱えています。たとえば、なぜ私たちは、一方では激しく対立・競争しながら他方では協力し、助け合わなければならないのでしょうか。デモクラシーはこのような人と人のあいだの問題を解決する最善の方法なのでしょうか。あるいは、かりにそうであるとして、なぜデモクラシーはつねにうまく機能していないように見えるのでしょうか。ただ事実を列挙したところで、このような問題の本質・原理を理解することはできません。一見するところ抽象的な規範や理念がどれほど私たちの目の前の問題を規定しているかを理解できるよう、現代の政治理論の諸成果について学びます。

授業の到達目標

暴力と権力とは何か、自由や平等は何を意味しているのかなどについて、現代の政治理論の諸主題の概要を理解し、それをつかって現代の政治的問題について規範的に考えることhができるようにする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　100%　　講義を基にして、政治的理解が進んでいるかどうかを確認する。
●**平常点**　0%　　出席はとらない。
●**その他**　0%

科 目 名	政治学原論　B　現代政治理論入門							
担当者名	金田　耕一							
共通	2単位	秋学期	月曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

一般に、政治学では各国政治の権力構造や行政組織、その国の政治の歴史、あるいは国家間の政治外交関係の問題などが扱われます。これらは、いうなれば「政治という現象」に関する研究です。これに対してこの講義では、暴力と権力とは何か、自由や平等は何を意味しているのか、公正な社会とはどのような社会かなどをめぐる「規範や理念」を主題としています。前者の「現象」に関する研究を「経験的・実証的研究」とすれば、「原論」では「規範的・原理的研究」をおこなうことになります。

現在、私たちはさまざまな政策課題に直面しています。それらはいずれも、たんに権力構造の秘密を知ったり、歴史的背景を理解したからといって、簡単に解決できるような問題ではありません。もっとも、いずれにしても簡単に解決できるような問題はないのですが。

しかし、具体的な政策課題（たとえば年金制度や税制といった）はいずれもその根底に規範的・理念的問題を抱えています。たとえば、なぜ私たちは、一方では激しく対立・競争しながら他方では協力し、助け合わなければならないのでしょうか。デモクラシーはこのような人と人のあいだの問題を解決する最善の方法なのでしょうか。あるいは、かりにそうであるとして、なぜデモクラシーはつねにうまく機能していないように見えるのでしょうか。ただ事実を列挙したところで、このような問題の本質・原理を理解することはできません。一見するところ抽象的な規範や理念がどれほど私たちの目の前の問題を規定しているかを理解できるよう、現代の政治理論の諸成果について学びます。

授業の到達目標

暴力と権力とは何か、自由や平等は何を意味しているのかなどについて、現代の政治理論の諸主題の概要を理解し、それをつかって現代の政治的問題について規範的に考えることhができるようにする。

成績評価方法

●**試験**　0%
●**レポート**　100%　　講義を基にして、政治的理解が進んでいるかどうかを確認する。
●**平常点**　0%　　出席はとらない。
●**その他**　0%

科 目 名	経済学原論　ミクロ経済学とマクロ経済学の初歩							
担当者名	熊谷　善彰							
共通	2単位	秋学期	金曜日	4時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

経済学の体系の概要を説明するとともに、我々が日常接する経済の現実問題について経済学的理解を深める。経済問題が、我々の日常生活にいかに密接に結びついているか、そしてそれらを理解するための道具として経済学がいかに有効か、いかなる制約の下にあるかについて明らかにする。ミクロ経済学、マクロ経済学のそれぞれについての基礎的な部分を扱う。

授業の到達目標

ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎的な部分を理解する

成績評価方法

●**試験**　100%　　試験により授業内容の理解度を評価
●**レポート**　0%
●**平常点**　0%
●**その他**　0%

科 目 名	生涯学習支援論1　参加体験型学習と支援者の役割							
担当者名	新井　浩子							
共通	2単位	春学期	金曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

近年、学校教育では、対話や問題発見、問題解決型の教育が注目され、学習者が主体的にテーマについて探求する学習や主体的な学習能力の育成を目的とするアクティブラーニングが導入されるようになりました。一方、生涯学習・社会教育では以前から「学習者が主人公となる学び」が重視されており、そのための学習支援の方法が開発されてきました。この授業ではそうした学習方法の一つである、参加体験型学習（ワークショップ）を取り上げ、その構造や支援者（ファシリテーター）の役割について学びます。 授業では、生涯学習・社会教育で実施されているワークショップを体験してもらい、それをもとに、学習としての構造や支援の在り方について考えていきます。また、学習者の多様な特性に応じた学習のデザインや学習支援（ファシリテーション）技法についても学びます。

当事者同士が互いに学びあう生涯学習・社会教育には、学校教育のような"教師"はおらず、"正解"もありません。「学習者が主人公となる学び」とはどのようなものか、どうしたら実現するのか、支援者はどのような役割をはたすのか、一緒に考えましょう。

授業の到達目標

1. 参加体験型学習の学習構造および理論を理解する。
2. 参加体験型学習における支援者の役割を理解する。

〜自由入科目／講義／算可〜

3. 基礎的な学習プログラム編成とファシリテーションができる。
4. 生涯学習とその支援について自分なりの考えをもつ。

成績評価方法

・授業で学んだことをふり返り、学ぶ人が主人公となる学習のデザインについて考察するレポート（評価割合70%）。
・ワークショップ企画（評価割合20%）。
・グループワークや授業への参加・貢献度（評価割合10%）

科 目 名	生涯学習支援論2　学習支援の方法と支援者の役割							
担当者名	新井　浩子							
共通	2単位	秋学期	金曜日	2時限	1年以上	—	合併科目	—

授業概要

近年では、学校を卒業しても学び続ける人が多くなっています。地域には、図書館・博物館・公民館・青少年施設・大学やNPOの公開講座など様々な学習の場があり、子どもから高齢者まで多様な年齢の人が生涯学習を実践しており、学習者が主人公となる学習の場づくりが行われています。 この授業では、そうした学習の場をつくる人＝学習支援者、に焦点をあて、学ぶ人自身が主人公になれる学習の場づくりについて、講義だけでなく、現場訪問、支援者へのインタビュー等のフィールドワークを通じて考察します。

当事者同士が互いに学びあう生涯学習・社会教育には、学校教育のような“教師”はおらず、“正解”もありません。生涯学習の内容や方法は地域や時代によって変化しますが、現在は大きな転換期にあります。今人びとは何をどのように学ぼうとしているのか、生涯学習の現場はどのような課題に直面しているのかを具体的に理解し、生涯学習の発展のためにどのような支援が必要なのか一緒に考えましょう。

授業の到達目標

自治体やNPO、関係団体等による多様な学習の場づくりの実際を知り、
1、生涯学習支援の実際と課題を具体的に理解できるようになる。
2. 学習ニーズの把握、地域の学習資源の活用など、学習支援者の多様な役割を具体的に理解できるようになる。
3、現代における生涯学習支援の重要性と課題、学習支援者の役割について、自分なりの考えを述べることができるようになる。

成績評価方法

・授業で学んだことをふり返り、生涯学習支援の方法と支援者の役割について考察するレポート（評価割合70%）
・フィールドワークの成果発表（評価割合20%）
・話し合いやグループワークへの参加・貢献度（評価割合10%）